芳賀団地遺跡群 第3巻

芳賀東部団地遺跡III

―― 縄文・中近世編 ――

序

前橋市は関東平野の北西端部にあたり、市域西寄りを北から南東に貫流する利根川の、東は赤城山の南麓裾野に、西は榛名山東麓裾野にそれぞれあたります。これを標高でみると市街地から南東部にかけては100m前後の平坦地ですが、本遺跡の所在する赤城山南麓は北に向って著しく高度を増し、最北端では600mを超えます。

芳賀団地遺跡群は、前橋市工業団地造成組合による工業団地・住宅団地造成に先立ち明らかになったもので、昭和48年度から８年の期間をかけ約40haを対象に調査が実施されたものです。48・49年度には北部団地遺跡が、50年度には西部団地遺跡が、そして51～55年度に東部団地遺跡がそれぞれ調査されました。開発に伴うこうした大規模な埋蔵文化財調査は本市にとって初めての経験であり、調査にあたっては芳賀団地遺跡発掘調査団が組織され、各遺跡からは古代から中近世までの膨大な量の遺構・遺物が検出されました。そして引き続き56年度から報告書刊行に向けて整理作業が始まり、全５巻刊行計画のうち59年度に第１巻が、63年度に第２巻が、さらに今年度第３巻が上梓の運びとなりました。本報告書刊行ができますことは関係各位の長年の御尽力のたまものであることは申すまでもなく、ここに深く感謝の意を表す次第です。

平成２年３月31日

前橋市教育委員会

教育長　岡　本　信　正

例　　言

1．本書は、前橋工業団地造成組合による、工業及び住宅団地の造成に伴い事前調査された、前橋市嶺町・勝沢町・小坂子町・鳥取町・小神明町・五代町の計約40haに及ぶ、芳賀団地遺跡の発掘調査報告書第３巻である。
2．芳賀団地遺跡群は、北部団地遺跡（嶺・勝沢・小坂子町。昭和48・49年度調査。約3.6ha）、西部団地遺跡（鳥取・小神明・五代町。昭和50年度調査。約2.5ha）、東部団地遺跡（鳥取・小坂子・五代町。昭和51～55年度調査32.78ha）の３遺跡から成り立つ。
3．調査の実施は、前橋工業団地造成組合の委託を受けて、芳賀団地造成地内埋蔵文化財発掘調査団が行なった。
4．芳賀団地遺跡群の報告書は全５巻を予定しており、その内訳は、東部団地遺跡３巻、西部団地遺跡１巻、北部団地遺跡１巻で、記述の順に刊行を予定している。
5．芳賀東部団地遺跡は、東西を谷地にはさまれた２つの台地と、両台地間の谷地の北寄りに南端をのぞかせる台地の計３つの台地から成り立つ。本書は、東部団地遺跡全体の縄文時代と中・近世の遺構・遺物を収録したものである。なお１、２巻（昭和59・63年に刊行）は、芳賀東部団地遺跡の古墳時代～平安時代の遺構・遺物を、東側台地と中央台地・西側台地にわけて収録してある。
6．調査の組織及び調査担当者、調査員については、第１巻を参照いただきたい。
7．本書に係わる遺物の整理は、井野誠一（担当者）、綿貫綾子（調査員）が中心となって行なった。
8．本書の作成に係わる整理作業は、昭和62年度から実施している。
9．芳賀団地遺跡群の整理作業では、昭和58年度から発掘調査に直接携わった者を中心に作成委員会を組織し、編集委員・執筆委員を委嘱し、報告書の整理・刊行のための組織化を計った。

〔昭和63年度組織〕

編集委員

松　島　栄　治	（県立前橋第二高等学校教諭）	松　本　浩　一	（県埋蔵文化財調査センター所長）
相　澤　貞　順	（前橋市立女子高等学校教諭）	中　澤　充　裕	（前橋市立芳賀中学校教諭）
中　村　富　夫	（月夜野町立月夜野中学校教諭）	前　原　照　子	（勢多郡東村立杲小学校教諭）
富　澤　敏　弘	（北橘村教育委員会文化財保護係長）	唐　沢　保　之	（群馬県立歴史博物館教育普及課主任）
福　田　紀　雄	（前橋市教育委員会文化財保護課長）	浜　田　博　一	（同　埋蔵文化財係長）
井　野　誠　一	（同　埋蔵文化財係主任）		

執筆委員

川　合　　功	（利根教育事務所学校教育課指導主事）	木　部　日出雄	（前橋市教育委員会学校教育課指導主事）
石　川　克　博	（前橋市立箱田中学校教諭）	白　石　凌　海	（東福寺）
飯　塚　　誠	（県埋蔵文化財調査センター指導主事）	川　崎　　始	（伊勢崎市立第二中学校教諭）
田　口　正　美	（県埋蔵文化財調査センター指導主事）	杉　浦　つや子	（前橋市立下川淵小学校教諭）
鵜　木　晋　一	（前橋市立第二中学校教諭）	唐　沢　裕　美	（渋川市立古巻小学校教諭）
江　原　　清	（前橋市南橘公民館主任）	松　村　親　樹	（前橋市企画調整課主任）
近　藤　昭　一	（前橋市立図書館主事）		

9．本書の編集は上記編集委員による。事務局側の編集は井野誠一が担当した。執筆は編集委員と執筆委員で行なった。
10．石器について、整理・分類・実測トレース指導・考察の執筆は白石典之（筑波大学大学院生）が担当した。
11．土器について、分類･考察執筆は前原豊（文化財保護課埋蔵文化財係主任）、富沢敏弘（前出）が担当した。縄文時代全体の考察は相澤貞順（前出）が担当した。
12．中・近世遺物について、分類・考察執筆は大西雅広（県埋蔵文化財調査事業団）が担当した。中・近世の考察は唐沢保之（前出）が担当した。
13．本書を作成するのにあたり、遺物・図面整理・図版作成等に対し、下記の方々の手をわずらわした。記して感謝の意を表するものである。

綿貫綾子（調査員）、粟岡エミ子、阿部栄恵、大塚美智子、竹内敏江、塚越則子、神保千代子、渡辺良子
松田富美子、戸丸澄江、鬼塚成子、柴崎まさ子、田野井和江、川端久子、湯浅たま江、湯浅道子、白井和子
渋川則子、岩田年代、小林美香代、生形かほる、大澤まさ江

14．関係図面及び出土遺物の整理・保管は、前橋市教育委員会文化財保護課で行なっている。

凡　　例

1．本書における遺構記号は次のように表わす。（　）は略称

Ｊ……縄文土器を伴う遺構

例　Ｊ１号住居跡（Ｊ１）、Ｊ１号土坑（ＪＰ１）、ＪＳ１号配石遺構（ＪＳ１）

Ｈ……土師器を伴う遺構

例　Ｈ１号住居跡（Ｈ１）、Ｈ１号土坑（ＨＰ１）、大Ｈ１号土坑（Ｈ大Ｐ１）

Ｋ……掘立柱建物跡

例　Ｋ１号掘立柱建物跡（Ｋ１）

Ｔ……鍛冶跡・製錬炉址

例　Ｔ１号鍛冶址（Ｔ１）

Ｆ……Ｂ軽石降下後の土坑

例　Ｆ１号土坑（Ｆ１）

Ｎ……用途・性格不明遺構

例　Ｎ１号遺構（Ｎ１）

Ｉ……井戸跡

例　Ｉ１号井戸跡（Ｉ１）

Ｗ……溝跡

例　Ｗ１号溝跡（Ｗ１）

Ａ……地下式土坑

例　ＡＩ号地下式土坑（Ａ１）

2．芳賀東部団地遺跡では、西台地から調査をはじめている。遺構番号は西台地よりはじまる。また昭和55年度調査分については、各遺構の通算番号の後に、55年度遺構番号を（　）で表わした。

3．遺構挿図中のセクション・エレベーションの基準線標高は、基準線下の数値である。

4．本書における遺構の実測図は、竪穴住居跡1/60、土坑・配石遺構等が1/60を原則とする。遺物の実測図は遺物により異なる。付図は1/800である。

5．本書で使用している竪穴住居跡の部位名称は第２巻に準じ、スクリーントーン及び記号は、以下の内容を示している。

焼土　炭化物　種子　ＪＳ遺構

Ｎ遺構　土器　●　礫・石器　▲

6．遺物実測図の表現方法は、土器については断面実測図に残存部の拓本を組み合わせるものとした。

7．遺構の記述は、原則として下記の竪穴住居跡の記述方法に準じた。用語・表記は事務局の責任で本書として統一をはかった。

位置　調査区域及びグリッド上での位置。位置する場所の地形、周囲の遺構との関係。

形状　形・規模・壁・隅角・周溝・方位・張り出し等の施設。面積は1/20図上で、プラニメーターにより３回計測し、その平均値。方位は長軸方向で測定。

床面　踏み固め部分、床面の起伏具合、貼床、焼土の散布状況等。

ピット　位置・形状・傾き・柱痕の有無及び柱痕径・規模・その他。

炉　位置・形態・規模・構造・焼土の厚さ等。

貯蔵穴　位置・形状・規模。

遺物　種類・出土位置・出土状況・床面とのレベル差等。

重複　重複している遺構名・重複箇所・新旧関係等。

その他　遺構の性格に係わること、または特記事項。

8．遺構挿図中の方位は、磁北を表わす。

9．ピット番号は原則として、北東隅を P_1 として反時計回りに番号をつけている。

10．遺物の記述は、観察表にまとめてある。

11．遺物写真中の遺物番号は遺物挿図の番号と対応している。

12．遺構は、遺構番号順に掲載してあるが、重複している場合には若い遺構番号の所で扱っている。

13．巻末の遺構一覧表のデータは、１～２巻のデータを修正、補正、再計測したものである。遺構のデータとしてはこの一覧表のものを使用されたい。

石器の分類と分析の基準

ここでは、本報文中で用いる石器分類上の用語の定義と、属性表で用いた諸属性について解説する。

まず、第一に石器器種の分類基準と各器種の内容について述べたい。ここでは「石器」という用語は、遺跡より出土した石器の遺物すべてを対象として用いることとする。石器は本遺跡では、住居跡から3,499点、土坑から201点、配石から39点、遺構外から1,754点の合計5,493点が出土している。これらについては各遺構ごとに器種と石材を明示して、全点その組成を表に示してある。石器は次には高位レベルの分類基準であるところの「調整加工および使用痕の認められる石器」と「調整加工および使用痕の認められない石器」の二者に大別できる。そのなかで「調整加工および使用痕の認められるもの」は住居跡で916点、土坑で41点、配石で12点が検出されているが、これらすべては本書中に図示されている。中位レベルの分類としては、前者は「定形石器」・「不定形石器」に二分でき、後者は、この段階に対応するものは存在しない。下位のレベルの分類として、定形石器・不定形石器ともに「調整加工のあるもの」・「使用痕のあるもの」にそれぞれ分類できる。さらに、それらの下位に器種レベルの分類がくる。(別表参照)。

次に前述の基準に従い、個々の器種について解説したい。その中で、定形石器に属する石鏃、石匙、石錐、打製石斧、磨製石斧、石棒に関しては、従来の慣習的に広く用いられている定義（鈴木　1981等）を踏襲することにしたい。そこでここではそれら以外のものについて触れたい。

掻器　撥形を呈するように形状を調整し、刃部は片面からの急角度（45度以上の角度）の剝離により作出されているもの。

背付き石器　剝片を素材とし、その一辺に刃潰し加工を施し、それに相応する辺を刃部としているもの。

尖頭器　調整加工によって二側縁の交刃からなる尖頭部を作出し、器長の長軸と短軸の比率が３対１よりも大きくなるもの。

楔形石器　方形を呈し、相対し平行する二辺に、平担剝離状の調整加工の施されたものや、潰れ等の使用痕が観察されるもの。

削器　剝片素材で、各辺長あるいは器長の½以上にわたって刃部が作出されているもの。刃部の形状により直刃、凸刃、凹刃、交刃、複刃の五形態に細分する（白石　1987・1989参照)。

抉入石器　剝片素材で、辺の一部に一ないし複数の抉入が不連続に施されたもの。

鋸歯縁石器　剝片素材で、辺の一部に複数の抉入が連続的に施されたもの。

加工痕のある剝片（ＲＦ）　剝片素材で、調整加工が施されていて、器種分類のいずれにも該当しないもの。

使用痕のある剝片（ＵＦ）　剝片素材で、使用痕が観察できるが調整加工の施されていないもの。

円礫石器　円・楕円形を呈する河原の転礫を用い、擦り、敲き等の作業によるとみられる擦痕、磨痕、敲打痕、凹みが表面に観察できるもの。長径20cm未満のものを対象とする。

敲石・磨石・凹石　礫素材で、それぞれ敲痕、擦（磨）痕、凹みを有するもの。

石皿・台石　長径20cm以上の礫を用い、平面的に擦（磨）痕が認められるものを石皿、敲痕の認められるものを台石と呼ぶ。

多凹石　長径20cm以上の礫を用い、複数の凹みを表面に残すもの。

棒状石器　棒状あるいは偏平な礫を用いて、その端部および側縁に敲打痕が認められるもの。多くの場合、片岩などの変成岩を用いている。

第二に、属性表について解説する。

表の番号で、左側のNo.は図版中の石器番号と共通、右側の遺物番号は元番号であり、この番号で遺物台帳に登録され、収蔵庫に保管されている。

表－166　出土石器遺構別一覧表

器種／遺構	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
住居跡	12	148	19	13	14	19	24	4	40	63	17	36	35	15	11	11	6	14	58	8	27	220	10	18	48	13	10	6	2268	13	293	14	3507
土坑		13	1						1	1	1	3	2	1			1				2	9		1	1	4			107	1	54		203
配石		4	1								1					1				2	1				2				18		5		35
遺構外	10	230	9	5	6	7	13		46	34	28	23	13	26	9	8	13	49	70	5	22	57	1	2	14	7	6	1	1009	21	4	6	1754
計	22	395	30	18	20	26	37	4	87	98	47	62	50	42	20	20	20	63	128	15	52	286	11	21	65	24	16	7	3402	35	356	20	5499

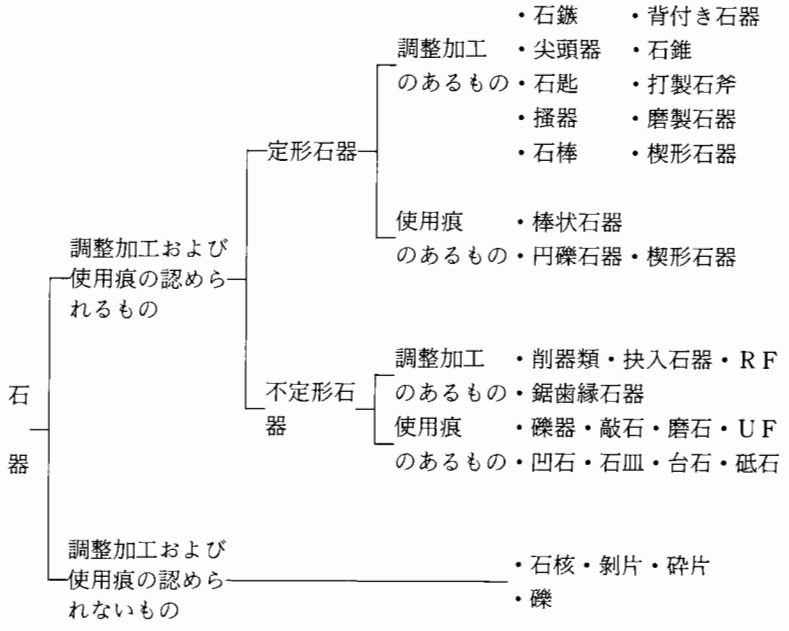
石器計測値は、原則的には加藤晋平・鶴丸俊明両氏の方法（加藤・鶴丸　1980）に従う。また、刃部角は各刃部の中心を計測する。

石材は略号で示す。頁：頁岩、黒頁：黒色頁岩、珪頁：珪質頁岩、砂：砂岩、花：花崗岩、閃：閃緑岩、安：安山岩、黒安：黒色安山岩、浮安：浮石質安山岩、石安：石英安山岩、黒：黒曜石、珪：珪岩、赤珪：赤色珪質岩、流：流紋岩、斑：斑岩、ヒ：ヒン岩、蛇：蛇紋岩、輝：輝緑岩、片：片岩、緑片：緑泥片岩、結片：結晶片岩、黒片：黒色片岩、点片：点紋緑色片岩、凝：凝灰岩、珪凝：珪質凝灰岩を用い、その他についてはできるだけ元のまま使用する。

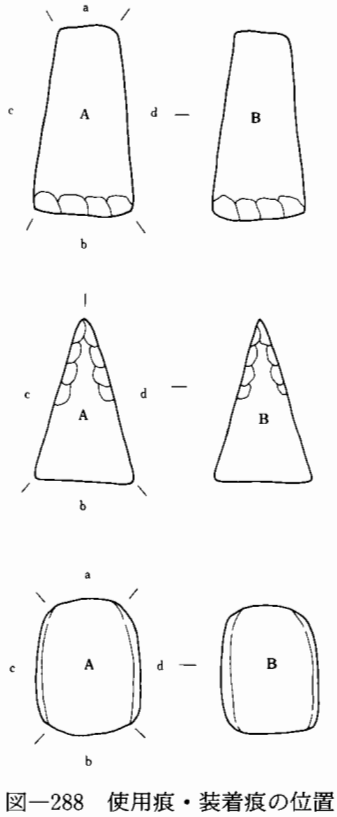
使用痕・装着痕の位置・程度では、図示したようにA～dの各部位に分けて示すことにする。A、Bが表裏それぞれの面、a～dが上下左右の側面を示す。使用痕・装着痕の内容の略号と数字は、敲：敲打痕で、1：かろうじて観察できる、2：明瞭に観察できる、3：割れて剝離痕状になるものと三段階に細分する。擦：擦りまたは磨き痕で、1：かろうじて観察できる、2：明瞭に観察できるが粒子による凹凸が残る、3：粒子の凹凸は認められない、の三段階に細分する。凹：凹みで、0：明瞭な凹みを成さない、1～3：凹みの数、多：凹み数四ケ所以上を表わす。滅：磨滅痕で、1：若干観察できる、2：稜が明瞭でなくなる、3：磨かれたようになるものに細分する。潰：稜線または側縁の稜部が潰れているもので、1：若干観察できる、2：稜が明瞭でなくなる、3、敲き潰されたようになるものに細分する。刃：刃部の刃こぼれ。火：火受けによる赤化あるいは黒ずみ。欠：欠損を示す。また、「→」は前後関係を示す。

出土位置は床面よりの位置を示す。

実測図での縮尺は、石鏃などの比較的小さなものは2分の1、打製石斧などは3分の1、礫石器は6分の1、大きな石器は8分の1で原則的には図示されているが、便宜的に異なったものも存在することから、それぞれにスケールを付した。



図－287　石器の分類樹状図



図—288　使用痕・装着痕の位置

参考文献

加藤晋平・鶴丸俊明　1980　『図録　石器の基礎知識』　II　柏書房
白石典之　1987　「縄文中期的石器に関する一試論」　『行幸田山遺跡』　PP.631～651　群馬県渋川市教育委員会
〃　1989　「石器の分類と分析の基準」『城山遺跡』PP.15～16　群馬県北橘村教育委員会
鈴木道之助　1981　『図録　石器の基礎知識』　III　柏書房

目　　次

序
例　　言
凡　　例
石器の分類と分析の基準
目　　次
　本文目次
　挿図目次
　表　目　次
　図版目次
Ⅰ　調査及び整理の経過 …… 1
Ⅱ　基　本　層　序 …… 3
Ⅲ　遺　構　と　遺　物 …… 3
　1　概　　要 …… 3
　―縄　文　時　代―
　2　竪穴式住居跡 …… 4
　3　土　　坑 …… 285
　4　配　石　遺　構 …… 340
　―中・近　世―
　5　遺　構　と　遺　物 …… 344
　6　中近世遺物について …… 345
Ⅳ　遺　構　一　覧 …… 375
結　　語 …… 435

挿 図 目 次

図－ 1　地層対照図…… 3
図－ 2　Ｊ１号住居跡…… 4
図－ 3　Ｊ２号住居跡…… 5
図－ 4　Ｊ３号住居跡…… 6
図－ 5　Ｊ４号住居跡…… 7
図－ 6　Ｊ５号住居跡…… 8
図－ 7　Ｊ６号住居跡…… 9
図－ 8　Ｊ６号住居跡遺物分布図……10
図－ 9　Ｊ７号住居跡……11
図－ 10　Ｊ８号住居跡……12
図－ 11　Ｊ８号住居跡遺物分布図……13
図－ 12　Ｊ９号住居跡……14
図－ 13　Ｊ10号住居跡……15
図－ 14　Ｊ10号住居跡遺物分布図……16
図－ 15　Ｊ11号住居跡……17
図－ 16　Ｊ11号住居跡遺物分布図……18
図－ 17　Ｊ12号住居跡……19
図－ 18　Ｊ13号住居跡……20
図－ 19　Ｊ13号住居跡遺物分布図……21
図－ 20　Ｊ14号住居跡……23
図－ 21　Ｊ15号住居跡……24
図－ 22　Ｊ16号住居跡……25
図－ 23　Ｊ17号住居跡……26
図－ 24　Ｊ17号住居跡遺物分布図……27
図－ 25　Ｊ18号住居跡……29
図－ 26　Ｊ19・23号住居跡……30
図－ 27　Ｊ20号住居跡……31
図－ 28　Ｊ21号住居跡……32
図－ 29　Ｊ22号住居跡……34
図－ 30　Ｊ24号住居跡……35
図－ 31　Ｊ25号住居跡……36
図－ 32　Ｊ26号住居跡……37
図－ 33　Ｊ27・30号住居跡……38
図－ 34　Ｊ29・59号住居跡・ＪＰ111号土坑 ……40
図－ 35　Ｊ31・32号住居跡……41
図－ 36　Ｊ33・60号住居跡……42
図－ 37　Ｊ34号住居跡……43
図－ 38　Ｊ35号住居跡……44
図－ 39　Ｊ36号住居跡……46
図－ 40　Ｊ37号住居跡……47
図－ 41　Ｊ38号住居跡……48
図－ 42　Ｊ39・61号住居跡……49
図－ 43　Ｊ40・41号住居跡……51
図－ 44　Ｊ42号住居跡……52
図－ 45　Ｊ43号住居跡……53
図－ 46　Ｊ44号住居跡……54
図－ 47　Ｊ46号住居跡……55
図－ 48　Ｊ47号住居跡……56
図－ 49　Ｊ48号住居跡……57
図－ 50　Ｊ49号住居跡……58
図－ 51　Ｊ50号住居跡……59
図－ 52　Ｊ51号住居跡……60
図－ 53　Ｊ52号住居跡……61
図－ 54　Ｊ53号住居跡……62
図－ 55　Ｊ54号住居跡……63
図－ 56　Ｊ55号住居跡……64
図－ 57　Ｊ56号住居跡……65
図－ 58　Ｊ57号住居跡……65
図－ 59　Ｊ58号住居跡……66
図－ 60　Ｊ１号住居跡出土土器……67
図－ 61　Ｊ１号住居跡出土石器……68
図－ 62　Ｊ２号住居跡出土土器(1)……69
図－ 63　Ｊ２号住居跡出土土器(2)……70
図－ 64　Ｊ２号住居跡出土石器……71
図－ 65　Ｊ３号住居跡出土土器(1)……72
図－ 66　Ｊ３号住居跡出土土器(2)……73
図－ 67　Ｊ３号住居跡出土石器(1)……74
図－ 68　Ｊ３号住居跡出土石器(2)……75
図－ 69　Ｊ４号住居跡出土土器……76
図－ 70　Ｊ４号住居跡出土石器(1)……77
図－ 71　Ｊ４号住居跡出土石器(2)……78
図－ 72　Ｊ５号住居跡出土土器(1)……79
図－ 73　Ｊ５号住居跡出土土器(2)……80
図－ 74　Ｊ５号住居跡出土石器……81
図－ 75　Ｊ６号住居跡出土土器(1)……82
図－ 76　Ｊ６号住居跡出土土器(2)……83
図－ 77　Ｊ６号住居跡出土石器(1)……85
図－ 78　Ｊ６号住居跡出土石器(2)……86
図－ 79　Ｊ７号住居跡出土土器(1)……87
図－ 80　Ｊ７号住居跡出土土器(2)……88
図－ 81　Ｊ７号住居跡出土石器……89
図－ 82　Ｊ８号住居跡出土土器(1)……91
図－ 83　Ｊ８号住居跡出土土器(2)……92
図－ 84　Ｊ８号住居跡出土石器(1)……94
図－ 85　Ｊ８号住居跡出土石器(2)……95
図－ 86　Ｊ９号住居跡出土土器(1)……97
図－ 87　Ｊ９号住居跡出土土器(2)……98
図－ 88　Ｊ９号住居跡出土石器(1)……99
図－ 89　Ｊ９号住居跡出土石器(2)…… 100
図－ 90　Ｊ９号住居跡出土石器(3)…… 101
図－ 91　Ｊ10号住居跡出土土器(1)…… 102
図－ 92　Ｊ10号住居跡出土土器(2)…… 103
図－ 93　Ｊ10号住居跡出土石器(1)…… 105
図－ 94　Ｊ10号住居跡出土石器(2)…… 106
図－ 95　Ｊ10号住居跡出土石器(3)…… 107
図－ 96　Ｊ11号住居跡出土土器…… 109
図－ 97　Ｊ11号住居跡出土石器(1)…… 111
図－ 98　Ｊ11号住居跡出土石器(2)…… 112
図－ 99　Ｊ12号住居跡出土土器…… 113
図－100　Ｊ12号住居跡出土石器…… 115
図－101　Ｊ13号住居跡出土土器(1)…… 116
図－102　Ｊ13号住居跡出土土器(2)…… 117

図－103　J 13号住居跡出土石器…… 118
図－104　J 14号住居跡出土土器…… 119
図－105　J 14号住居跡出土石器…… 120
図－106　J 15号住居跡出土土器…… 121
図－107　J 15号住居跡出土石器…… 122
図－108　J 16号住居跡出土土器…… 123
図－109　J 16号住居跡出土石器…… 124
図－110　J 17号住居跡出土土器(1)…… 125
図－111　J 17号住居跡出土土器(2)…… 126
図－112　J 17号住居跡出土土器(3)…… 127
図－113　J 17号住居跡出土石器(1)…… 131
図－114　J 17号住居跡出土石器(2)…… 132
図－115　J 17号住居跡出土石器(3)…… 133
図－116　J 18号住居跡出土土器(1)…… 134
図－117　J 18号住居跡出土土器(2)…… 135
図－118　J 18号住居跡出土石器…… 137
図－119　J 19・23号住居跡出土土器(1)…… 138
図－120　J 19・23号住居跡出土土器(2)…… 139
図－121　J 19・23号住居跡出土土器(3)…… 140
図－122　J 19・23号住居跡出土石器(1)…… 142
図－123　J 19・23号住居跡出土石器(2)…… 143
図－124　J 19・23号住居跡出土石器(3)…… 144
図－125　J 20号住居跡出土土器(1)…… 146
図－126　J 20号住居跡出土土器(2)…… 147
図－127　J 20号住居跡出土石器(1)…… 148
図－128　J 20号住居跡出土石器(2)…… 149
図－129　J 20号住居跡出土石器(3)…… 150
図－130　J 21号住居跡出土土器(1)…… 151
図－131　J 21号住居跡出土土器(2)…… 152
図－132　J 21号住居跡出土石器…… 154
図－133　J 22号住居跡出土土器(1)…… 155
図－134　J 22号住居跡出土土器(2)…… 156
図－135　J 22号住居跡出土土器(3)…… 157
図－136　J 22号住居跡出土石器(1)…… 159
図－137　J 22号住居跡出土石器(2)…… 160
図－138　J 24号住居跡出土土器(1)…… 162
図－139　J 24号住居跡出土土器(2)…… 163
図－140　J 24号住居跡出土石器(1)…… 165
図－141　J 24号住居跡出土石器(2)…… 166
図－142　J 25号住居跡出土土器(1)…… 168
図－143　J 25号住居跡出土土器(2)…… 169
図－144　J 25号住居跡出土石器(1)…… 172
図－145　J 25号住居跡出土石器(2)…… 173
図－146　J 25号住居跡出土石器(3)…… 174
図－147　J 26号住居跡出土土器(1)…… 174
図－148　J 26号住居跡出土土器(2)…… 175
図－149　J 26号住居跡出土石器…… 177
図－150　J 27・30号住居跡出土土器(1)…… 179
図－151　J 27・30号住居跡出土土器(2)…… 180
図－152　J 27・30号住居跡出土土器(3)…… 181
図－153　J 27・30号住居跡出土土器(4)…… 182
図－154　J 27・30号住居跡出土石器(1)…… 186
図－155　J 27・30号住居跡出土石器(2)…… 187
図－156　J 27・30号住居跡出土石器(3)…… 188
図－157　J 29・59号住居跡出土土器(1)…… 189
図－158　J 29・59号住居跡出土土器(2)…… 190
図－159　J 29・59号住居跡出土石器(1)…… 192
図－160　J 29・59号住居跡出土石器(2)…… 193
図－161　J 31・32号住居跡出土土器(1)…… 194
図－162　J 31・32号住居跡出土土器(2)…… 195
図－163　J 31・32号住居跡出土石器(1)…… 197
図－164　J 31・32号住居跡出土石器(2)…… 198
図－165　J 33・60号住居跡出土土器…… 199
図－166　J 33・60号住居跡出土石器…… 201
図－167　J 34号住居跡出土土器・石器…… 202
図－168　J 35号住居跡出土土器…… 203
図－169　J 35号住居跡出土石器(1)…… 203
図－170　J 35号住居跡出土石器(2)…… 204
図－171　J 36号住居跡出土土器(1)…… 206
図－172　J 36号住居跡出土土器(2)…… 207
図－173　J 36号住居跡出土石器(1)…… 208
図－174　J 36号住居跡出土石器(2)…… 209
図－175　J 36号住居跡出土石器(3)…… 210
図－176　J 37号住居跡出土土器…… 213
図－177　J 37号住居跡出土石器…… 214
図－178　J 38号住居跡出土土器(1)…… 215
図－179　J 38号住居跡出土土器(2)…… 216
図－180　J 38号住居跡出土石器(1)…… 217
図－181　J 38号住居跡出土石器(2)…… 218
図－182　J 38号住居跡出土石器(3)…… 219
図－183　J 39・61号住居跡出土土器(1)…… 220
図－184　J 39・61号住居跡出土土器(2)…… 221
図－185　J 39・61号住居跡出土土器(3)…… 222
図－186　J 39・61号住居跡出土石器…… 224
図－187　J 40・41号住居跡出土土器(1)…… 226
図－188　J 40・41号住居跡出土土器(2)…… 227
図－189　J 40・41号住居跡出土石器(1)…… 228
図－190　J 40・41号住居跡出土石器(2)…… 229
図－191　J 42号住居跡出土土器…… 231
図－192　J 42号住居跡出土石器…… 233
図－193　J 43号住居跡出土土器…… 234
図－194　J 43号住居跡出土石器…… 235
図－195　J 44号住居跡出土土器(1)…… 237
図－196　J 44号住居跡出土土器(2)…… 238
図－197　J 44号住居跡出土石器(1)…… 239
図－198　J 44号住居跡出土石器(2)…… 240
図－199　J 44号住居跡出土石器(3)…… 241
図－200　J 46号住居跡出土土器(1)…… 243
図－201　J 46号住居跡出土土器(2)…… 244
図－202　J 46号住居跡出土石器…… 245
図－203　J 47号住居跡出土土器…… 246
図－204　J 47号住居跡出土石器(1)…… 248
図－205　J 47号住居跡出土石器(2)…… 249
図－206　J 48号住居跡出土土器…… 250
図－207　J 48号住居跡出土石器(1)…… 252
図－208　J 48号住居跡出土石器(2)…… 253
図－209　J 48号住居跡出土石器(3)…… 254
図－210　J 48号住居跡出土石器(4)…… 255

図－211　Ｊ49号住居跡出土土器…… 257
図－212　Ｊ49号住居跡出土石器(1)…… 259
図－213　Ｊ49号住居跡出土石器(2)…… 260
図－214　Ｊ50号住居跡出土土器(1)…… 262
図－215　Ｊ50号住居跡出土土器(2)…… 263
図－216　Ｊ50号住居跡出土石器(1)…… 264
図－217　Ｊ50号住居跡出土石器(2)…… 265
図－218　Ｊ51号住居跡（５Ｊ－１）出土土器…… 267
図－219　Ｊ51号住居跡（５Ｊ－１）出土石器…… 268
図－220　Ｊ52号住居跡（５Ｊ－２）出土土器(1)…… 270
図－221　Ｊ52号住居跡（５Ｊ－２）出土土器(2)…… 271
図－222　Ｊ52号住居跡（５Ｊ－２）出土石器(1)…… 273
図－223　Ｊ52号住居跡（５Ｊ－２）出土石器(2)…… 274
図－224　Ｊ53号住居跡（５Ｊ－３）出土土器…… 275
図－225　Ｊ53号住居跡（５Ｊ－３）出土石器…… 276
図－226　Ｊ54号住居跡（５Ｊ－４）出土土器…… 278
図－227　Ｊ54号住居跡（５Ｊ－４）出土石器…… 279
図－228　Ｊ55号住居跡（５Ｊ－５）出土土器…… 280
図－229　Ｊ55号住居跡（５Ｊ－５）出土石器…… 281
図－230　Ｊ56号住居跡（５Ｊ－６）
　　出土土器・石器…… 282
図－231　Ｊ57号住居跡（５Ｊ－７）出土土器…… 283
図－232　Ｊ57号住居跡（５Ｊ－７）出土石器…… 283
図－233　Ｊ58号住居跡（５Ｊ－８）出土土器…… 284
図－234　Ｊ58号住居跡（５Ｊ－８）出土石器…… 284
図－235　ＪＰ群－Ⅰ（Ｊ28号住居跡）…… 285
図－236　ＪＰ群－Ⅰ出土土器(1)…… 287
図－237　ＪＰ群－Ⅰ出土土器(2)…… 288
図－238　ＪＰ群－Ⅰ出土土器(3)…… 289
図－239　ＪＰ群－Ⅰ出土石器…… 290
図－240　ＪＰ１～10号土坑…… 292
図－241　ＪＰ11～20号土坑…… 294
図－242　ＪＰ21～30号土坑…… 296
図－243　ＪＰ31～40号土坑…… 298
図－244　ＪＰ41～52号土坑…… 300
図－245　ＪＰ53～64号土坑…… 302
図－246　ＪＰ65～75号土坑…… 304
図－247　ＪＰ76～85号土坑…… 306
図－248　ＪＰ86～98号土坑…… 308
図－249　ＪＰ99～107号土坑 …… 310
図－250　ＪＰ108～120・125～128号土坑…… 312
図－251　ＪＰ129～140号土坑…… 314
図－252　ＪＰ土坑出土土器(1)…… 315
図－253　ＪＰ土坑出土土器(2)…… 316
図－254　ＪＰ土坑出土土器(3)…… 317
図－255　ＪＰ土坑出土土器(4)…… 318
図－256　ＪＰ土坑出土土器(5)…… 319
図－257　ＪＰ土坑出土土器(6)…… 320
図－258　ＪＰ土坑出土土器(7)…… 321
図－259　ＪＰ土坑出土土器(8)…… 322
図－260　ＪＰ土坑出土土器(9)…… 323
図－261　ＪＰ土坑出土土器(10)…… 324
図－262　ＪＰ土坑出土石器(1)…… 333
図－263　ＪＰ土坑出土石器(2)…… 334
図－264　ＪＰ土坑出土石器(3)…… 335
図－265　ＪＰ土坑出土石器(4)…… 336
図－266　ＪＳ配石遺構…… 341
図－267　ＪＳ配石遺構出土石器…… 343
図－268　中央台地出土陶磁器(1)…… 347
図－269　中央台地出土陶磁器(2)…… 348
図－270　中央台地出土陶磁器(3)…… 349
図－271　中央台地出土陶磁器(4)…… 350
図－272　中央台地出土陶磁器(5)…… 351
図－273　中央台地出土陶磁器(6)…… 352
図－274　中央台地出土陶磁器(7)…… 353
図－275　中央台地出土陶磁器(8)…… 354
図－276　中央台地・西側台地出土陶磁器(9)…… 355
図－277　西側台地出土陶磁器(10)…… 356
図－278　西側台地出土陶磁器(11)…… 357
図－279　西側台地出土陶磁器(12)…… 358
図－280　西側台地出土陶磁器(13)…… 359
図－281　西側台地出土陶磁器(14)…… 360
図－282　東側台地出土陶磁器(15)…… 361
図－283　東側台地出土・表採陶磁器、中央台地出土石製品(1) 362
図－284　中央・西側台地出土石製品(2)…… 363
図－285　中央・西側台地出土石製品(3)、中央台地出土古銭(1)… 364
図－286　中央・西側台地出土古銭(2)…… 365
図－287　石器の分類樹状図……石器凡例
図－288　使用痕・装着痕の位置…… 〃

付図－１　芳賀東部団地遺跡遺構全体図
付図－２　芳賀東部団地遺跡縄文遺構全体図
付図－３　芳賀東部団地遺跡中・近世遺構全体図
付図－４　芳賀東部団地遺跡中央台地（９区）遺構図

表　目　次

表一 1　J 1 号住居跡出土土器観察表……67
表一 2　J 1 号住居跡出土石器属性表……67
表一 3　J 1 号住居跡石器器種・石材別一覧表……69
表一 4　J 2号住居跡出土土器観察表 ……70
表一 5　J 2 号住居跡出土石器属性表……72
表一 6　J 2 号住居跡石器器種・石材別一覧表……72
表一 7　J 3 号住居跡出土土器観察表……73
表一 8　J 3 号住居跡出土石器属性表……75
表一 9　J 3 号住居跡石器器種・石材別一覧表……75
表一 10　J 4 号住居跡出土土器観察表……76
表一 11　J 4 号住居跡出土石器属性表……78
表一 12　J 4 号住居跡石器器種・石材別一覧表……79
表一 13　J 5 号住居跡出土土器観察表……80
表一 14　J 5 号住居跡出土石器属性表……81
表一 15　J 5 号住居跡石器器種・石材別一覧表……81
表一 16　J 6 号住居跡出土土器観察表……83
表一 17　J 6 号住居跡出土石器属性表……86
表一 18　J 6 号住居跡石器器種・石材別一覧表……86
表一 19　J 7 号住居跡出土土器観察表……88
表一 20　J 7 号住居跡出土石器属性表……90
表一 21　J 7 号住居跡石器器種・石材別一覧表……90
表一 22　J 8 号住居跡出土土器観察表……92
表一 23　J 8 号住居跡出土石器属性表……96
表一 24　J 8 号住居跡石器器種・石材別一覧表……96
表一 25　J 9 号住居跡出土土器観察表……98
表一 26　J 9 号住居跡出土石器属性表…… 101
表一 27　J 9 号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 102
表一 28　J10号住居跡出土土器観察表…… 104
表一 29　J10号住居跡出土石器属性表…… 107
表一 30　J10号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 108
表一 31　J11号住居跡出土土器観察表…… 110
表一 32　J11号住居跡出土石器属性表…… 112
表一 33　J11号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 112
表一 34　J12号住居跡出土土器観察表…… 114
表一 35　J12号住居跡出土石器属性表…… 116
表一 36　J12号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 116
表一 37　J13号住居跡出土土器観察表…… 117
表一 38　J13号住居跡出土石器属性表…… 118
表一 39　J13号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 119
表一 40　J14号住居跡出土土器観察表…… 119
表一 41　J14号住居跡出土石器属性表…… 120
表一 42　J14号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 121
表一 43　J15号住居跡出土土器観察表…… 121
表一 44　J15号住居跡出土石器属性表…… 121
表一 45　J15号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 122
表一 46　J16号住居跡出土土器観察表…… 123
表一 47　J16号住居跡出土石器属性表…… 123
表一 48　J16号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 123
表一 49　J17号住居跡出土土器観察表…… 128
表一 50　J17号住居跡出土石器属性表…… 129
表一 51　J17号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 130
表一 52　J18号住居跡出土土器観察表…… 135
表一 53　J18号住居跡出土石器属性表…… 136
表一 54　J18号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 137
表一 55　J19・23号住居跡出土土器観察表…… 140
表一 56　J19・23号住居跡出土石器属性表…… 145
表一 57　J19・23号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 146
表一 58　J20号住居跡出土土器観察表…… 147
表一 59　J20号住居跡出土石器属性表…… 150
表一 60　J20号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 151
表一 61　J21号住居跡出土土器観察表…… 152
表一 62　J21号住居跡出土石器属性表…… 154
表一 63　J21号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 155
表一 64　J22号住居跡出土土器観察表…… 155
表一 65　J22号住居跡出土石器属性表…… 161
表一 66　J22号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 162
表一 67　J24号住居跡出土土器観察表…… 163
表一 68　J24号住居跡出土石器属性表…… 164
表一 69　J24号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 167
表一 70　J25号住居跡出土土器観察表…… 167
表一 71　J25号住居跡出土石器属性表…… 170
表一 72　J25号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 171
表一 73　J26号住居跡出土土器観察表…… 175
表一 74　J26号住居跡出土石器属性表…… 176
表一 75　J26号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 178
表一 76　J27・30号住居跡出土土器観察表…… 178
表一 77　J27・30号住居跡出土石器属性表…… 184
表一 78　J27・30号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 185
表一 79　J29・59号住居跡出土土器観察表…… 191
表一 80　J29・59号住居跡出土石器属性表…… 193
表一 81　J29・59号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 194
表一 82　J31・32号住居跡出土土器観察表…… 195
表一 83　J31・32号住居跡出土石器属性表…… 196
表一 84　J31・32号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 198
表一 85　J33・60号住居跡出土土器観察表…… 200
表一 86　J33・60号住居跡出土石器属性表…… 200
表一 87　J33・60号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 201
表一 88　J34号住居跡出土土器観察表…… 201
表一 89　J34号住居跡出土石器属性表…… 201
表一 90　J34号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 202
表一 91　J35号住居跡出土土器観察表…… 202
表一 92　J35号住居跡出土石器属性表…… 205
表一 93　J35号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 205
表一 94　J36号住居跡出土土器観察表…… 205
表一 95　J36号住居跡出土石器属性表…… 211
表一 96　J36号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 212
表一 97　J37号住居跡出土土器観察表…… 212
表一 98　J37号住居跡出土石器属性表…… 214
表一 99　J37号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 214
表一100　J38号住居跡出土土器観察表…… 216
表一101　J38号住居跡出土石器属性表…… 219
表一102　J38号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 220

表－103　J39・61号住居跡出土土器観察表…… 222
表－104　J39・61号住居跡出土石器属性表…… 223
表－105　J39・61号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 225
表－106　J40・41号住居跡出土土器観察表…… 225
表－107　J40・41号住居跡出土石器属性表…… 230
表－108　J40・41号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 230
表－109　J42号住居跡出土土器観察表…… 230
表－110　J42号住居跡出土石器属性表…… 232
表－111　J42号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 234
表－112　J43号住居跡出土土器観察表…… 234
表－113　J43号住居跡出土石器属性表…… 236
表－114　J43号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 236
表－115　J44号住居跡出土土器観察表…… 236
表－116　J44号住居跡出土石器属性表…… 242
表－117　J44号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 243
表－118　J46号住居跡出土土器観察表…… 244
表－119　J46号住居跡出土石器属性表…… 246
表－120　J46号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 246
表－121　J47号住居跡出土土器観察表…… 247
表－122　J47号住居跡出土石器属性表…… 247
表－123　J47号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 250
表－124　J48号住居跡出土土器観察表…… 251
表－125　J48号住居跡出土石器属性表…… 251
表－126　J48号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 257
表－127　J49号住居跡出土土器観察表…… 258
表－128　J49号住居跡出土石器属性表…… 258
表－129　J49号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 261
表－130　J50号住居跡出土土器観察表…… 263
表－131　J50号住居跡出土石器属性表…… 265
表－132　J50号住居跡石器器種・石材別一覧表…… 266
表－133　J51号住居跡（5J－1）出土土器観察表…… 267
表－134　J51号住居跡（5J－1）出土石器属性表…… 267
表－135　J51号住居跡（5J－1）石器器種・
石材別一覧表…… 269
表－136　J52号住居跡（5J－2）出土土器観察表…… 269
表－137　J52号住居跡（5J－2）出土石器属性表…… 272
表－138　J52号住居跡（5J－2）石器器種・
石材別一覧表…… 274
表－139　J53号住居跡（5J－3）出土土器観察表…… 274
表－140　J53号住居跡（5J－3）出土石器属性表…… 275
表－141　J53号住居跡（5J－3）石器器種・
石材別一覧表…… 277
表－142　J54号住居跡（5J－4）出土土器観察表…… 277
表－143　J54号住居跡（5J－4）出土石器属性表…… 279
表－144　J54号住居跡（5J－4）石器器種・
石材別一覧表…… 279
表－145　J55号住居跡（5J－5）出土土器観察表…… 279
表－146　J55号住居跡（5J－5）出土石器属性表…… 280
表－147　J55号住居跡（5J－5）石器器種・
石材別一覧表…… 282
表－148　J56号住居跡（5J－6）出土土器観察表…… 282
表－149　J56号住居跡（5J－6）出土石器属性表…… 282
表－150　J56号住居跡（5J－6）石器器種・
石材別一覧表…… 282
表－151　J57号住居跡（5J－7）出土土器観察表…… 282
表－152　J57号住居跡（5J－7）出土石器属性表…… 283
表－153　J57号住居跡（5J－7）石器器種・
石材別一覧表…… 283
表－154　J58号住居跡（5J－8）出土土器観察表…… 284
表－155　J58号住居跡（5J－8）出土石器属性表…… 284
表－156　J58号住居跡（5J－8）石器器種・
石材別一覧表…… 284
表－157　JP群－I（J28）出土土器観察表…… 286
表－158　JP群－I（J28）出土石器属性表…… 290
表－159　JP群－I（J28）石器器種・石材別一覧表…… 291
表－160　JP土坑出土土器観察表…… 324
表－161　JP土坑出土石器属性表…… 336
表－162　JP土坑石器器種・石材別一覧表…… 337
表－163　JS配石遺構出土石器属性表…… 342
表－164　JS配石遺構石器器種・石材別一覧表…… 344
表－165　中近世遺物観察表…… 366
表－166　出土石器遺構別一覧表……石器凡例
表－167　古墳一覧表…… 376
表－168　H竪穴住居跡一覧表…… 376
表－169　鍛冶跡・鍛冶関連遺構一覧表…… 393
表－170　掘立柱建物跡一覧表…… 394
表－171　竪穴遺構一覧表…… 401
表－172　HP土坑・大HP土坑一覧表…… 402
表－173　J竪穴住居跡一覧表…… 407
表－174　JP土坑一覧表…… 409
表－175　JS配石遺構・JN遺構一覧表…… 415
表－176　F土坑一覧表…… 415
表－177　I井戸跡一覧表…… 426
表－178　W溝跡一覧表…… 427
表－179　A地下式土坑一覧表…… 432
表－180　N性格不明遺構一覧表…… 432

図 版 目 次

図版— 1 Ｊ１号住居跡（南より）
同遺物出土状態（北西より）
同炉跡
図版— 2 Ｊ２号住居跡（東より）
同遺物出土状態（南より）
図版— 3 Ｊ３号住居跡・ＪＰ122～124・Ｆ279号土坑（北東より）
南西隅出土炭化材
同炉跡
図版— 4 Ｊ４号住居跡（北東より）
同遺物出土状態
図版— 5 Ｊ５号住居跡（南西より）
同炉跡１（東側）
同炉跡２（西側）
図版— 6 Ｊ６号住居跡（西より）
同炉跡
図版— 7 Ｊ７号住居跡（北東より）
同遺物出土状態
同出土埋設土器
図版— 8 Ｊ８号住居跡（北西より）
同出土埋設土器
図版— 9 Ｊ９号住居跡（北東より）
同炉跡
図版— 10 Ｊ10号住居跡（南西より）
同炉跡・土坑
同炉跡
図版— 11 Ｊ11号住居跡（北東より）
同遺物出土状態
同炉跡
図版— 12 Ｊ12号住居跡（西より）
同遺物出土状態
図版— 13 Ｊ13号住居跡（北西より）
同炉跡
図版— 14 Ｊ14号住居跡（西より）
Ｊ15号住居跡（北より）
図版— 15 Ｊ16号住居跡（北西より）
Ｊ17号住居跡（南より）
図版— 16 Ｊ18号住居跡（西より）
Ｊ19号住居跡（北より）
図版— 17 Ｊ20号住居跡（北より）
同遺物出土状態
Ｊ21号住居跡（北より）
図版— 18 Ｊ22号住居跡（東より）
Ｊ23号住居跡（外側竪穴）（北より）
Ｊ24号住居跡（北より）
図版— 19 Ｊ25号住居跡（北より）
同遺物出土状態
同炉跡
図版— 20 Ｊ26号住居跡（南より）
住居土層断面（東西面）
住居土層断面（南北面）
図版— 21 Ｊ27（外）・30号（内）住居・ＪＰ107号土坑（東より）
同遺物出土状態
Ｊ27号住居炉跡
図版— 22 ＪＰ群—Ｉ（Ｊ28号住）（東より）
同遺物出土状態
Ｊ29・59号住居跡（南東より）・ＪＰ111号土坑（左上）
図版— 23 Ｊ31・32号住居跡（北より）
同遺物出土状態
同炉跡
図版— 24 Ｊ33（中央）・60号（外）住居跡・ＪＰ118号土坑（左下）（東北より）
Ｊ34号住居跡（北より）
図版— 25 Ｊ35号住居跡（西より）
住居東側遺物出土状態
同炉跡
図版— 26 Ｊ36号住居跡（東より）
同遺物出土状態
図版— 27 Ｊ37号住居跡（西南より）
同遺物出土状態
図版— 28 Ｊ38号住居跡（南東より）
同遺物出土状態
図版— 29 Ｊ39・61号住居跡・ＪＰ60・112号土坑（東より）
同遺物出土状態
図版— 30 Ｊ40（手前）・41号（奥）住居跡（北より）
Ｊ40号住居炉跡
Ｊ41号住居炉跡
図版— 31 Ｊ42号住居跡（南より）
同遺物出土状態
図版— 32 Ｊ43号住居跡（東より）
同焼土分布状態
図版— 33 Ｊ44号住居跡（西より）
Ｊ46号住居跡（西より）
図版— 34 Ｊ47号住居跡（北より）
同遺物出土状態
同炉跡
図版— 35 Ｊ48号住居跡（西より）
同出土種子
同炉跡
図版— 36 Ｊ49号住居跡（東より）
同炉跡１（奥側）
同炉跡２（手前側）
図版— 37 Ｊ50号住居跡（西より）
同遺物出土状態
同土器出土状態
図版— 38 Ｊ51号住居跡（南より）
同遺物出土状態
同炉跡
図版— 39 Ｊ52号住居跡・ＪＰ138・139号土坑（北西より）
同遺物出土状態

図版一 40　J53号住居跡（北より）
同炉跡
図版一 41　J54号住居跡（東より）
同炉跡
図版一 42　J55号住居跡（西より）
同遺物出土状態
同炉跡
図版一 43　J56号住居跡（西北より）
J57号住居跡（西より）
図版一 44　J58号住居跡（西より）
JS1号配石遺構（北より）
図版一 45　JS2号配石遺構上面（北より）
JS3号配石遺構下面（東より）
JS7号配石遺構（南東より）
図版一 46　JP1号土坑
JP2号土坑
JP3号土坑
JP4号土坑
JP5号土坑
JP6号土坑
JP7号土坑
JP8号土坑
図版一 47　JP9（左）・117（右）号土坑
JP10（左）・11（右）号土坑
JP12号土坑
JP13号土坑
JP14号土坑
JP15号土坑
JP16—1号土坑
JP17号土坑
図版一 48　JP18（下）・108（上）号土坑
JP19号土坑
JP20号土坑
JP21号土坑
JP22号土坑
JP23号土坑
JP24号土坑
JP25号土坑
図版一 49　JP26号土坑
JP27号土坑
JP28号土坑
JP29号土坑
JP30号土坑
JP31号土坑
JP32号土坑
JP33号土坑
図版一 50　JP34号土坑
JP35（中央）・109（下）号土坑
JP36号土坑
JP37号土坑
JP38号土坑
JP39号土坑
図版一 50　JP40号土坑
JP41号土坑
図版一 51　JP42号土坑
JP43号土坑
JP44号土坑
JP45号土坑
JP46（上）・110（下）号土坑
JP47号土坑
JP48号土坑
JP49号土坑
図版一 52　JP50号土坑
JP51号土坑
JP52号土坑
JP53号土坑
JP54号土坑
JP55号土坑
JP56号土坑
JP57号土坑
図版一 53　JP59号土坑
JP60号土坑
JP61号土坑
JP58（下）・62（上）号土坑
JP63号土坑
JP64号土坑
JP65（中内）・104（中外）・105（右）号土坑
JP66号土坑
図版一 54　JP67号土坑
JP69号土坑
JP70号土坑
JP71号土坑
JP72号土坑
JP73号土坑
JP74号土坑
JP75号土坑
図版一 55　JP76号土坑
JP77号土坑
JP78号土坑
同遺物出土状態
JP79号土坑
JP80号土坑
JP81号土坑
JP82（右）・83（左）号土坑
図版一 56　JP84号土坑
JP85号土坑
JP86号土坑
JP87号土坑
JP88号土坑
JP89号土坑
JP91号土坑
JP93号土坑
図版一 57　JP94号土坑
JP99号土坑
JP100号土坑
JP101号土坑
JP113号土坑
JP114号土坑

F13（中央）・14（左）号土坑
F16（手前）・17（奥）号土坑
図版一 58 F21（右）・22（左）号土坑
F23（左）・24（右）号土坑
F27（右）号土坑・I22（左）号井戸跡
同遺物出土状態
F30（右手前）・31（右奥）・32（左奥）号土坑
F33（左）・37（右奥）号土坑
F40（右奥）・41（左手前）号土坑
F42号土坑
図版一 59 F43号土坑
F44（奥）号土坑
F45（奥断面）号土坑
F46号土坑
F47号土坑
F48号土坑
F49（中央）・50（左）号土坑
F51（左奥）・52（右手前）号土坑
図版一 60 F53号土坑
F54（左）・55（中央）・56（右）号土坑
F57（左手前）・58（左奥）・59（右）号土坑
F60号土坑
F61号土坑
F62号土坑
F63号土坑
F64号土坑
図版一 61 F60・61（左）・62（左奥）・63・64（右）号土坑
F65号土坑
F65（中央左）・66（右手前）号土坑
W15（中央）号溝跡
同遺物出土状態
F66号土坑
F67号土坑
F68（右）・69（左）号土坑
F70号土坑
図版一 62 F71号土坑
F72号土坑
F39（左）・73（右）号土坑
F75号土坑
F76号土壙（人骨出土）
F77号土壙（人骨出土）
同出土古銭
F80号土坑
図版一 63 F81号土坑
F81号土坑土層断面
F83号土壙
F85号土坑
F86号土坑
F87号土坑
F93号土坑
F94号土坑
図版一 64 F95号土坑
F96（右）・97（左）号土坑
F98号土坑
F109号土坑
F112号土坑
F116号土坑
F117号土坑
F118号土坑
図版一 65 F121号土坑
F123号土坑
F134号土坑
F135号土坑
F137号土坑
F140号土坑
F141号土坑
F142号土坑
図版一 66 F143号土坑
F144号土坑
F147号土坑
F148号土坑
F149号土坑
F150号土坑
F152号土坑
F157号土坑
図版一 67 F162号土坑
F163号土坑
F168号土坑
F185号土坑
F187号土坑
F195号土坑
F200（右）・201（左）号土坑
F202号土坑
図版一 68 F205号土坑
F208号土坑
F215号土坑
F222号土坑
F224（左）・225（右）号土坑
F226号土坑
F231号土坑
F233号土坑
図版一 69 F234号土坑
F235号土坑
F236号土坑
F241号土坑
F244号土坑
F245号土坑
F246号土坑
F247号土坑
図版一 70 F248号土坑
F251号土坑
F252号土坑
F253号土坑
F254（上）・255（左）号土坑
F256号土坑
F257号土坑
F258号土坑
図版一 71 F259号土坑

Ⅰ22号井戸跡
Ⅰ５（奥）・11（手前）号井戸跡
Ⅰ６号井戸跡
Ⅰ７号井戸跡
Ⅰ10号井戸跡
Ⅰ11号井戸跡
Ⅰ13号井戸跡
図版一 72 Ⅰ14号井戸跡
Ⅰ16号井戸跡
Ⅰ18号井戸跡
Ⅰ19号井戸跡
Ⅰ19号井戸跡遺物出土状態
W75号溝跡（犬走り）（ト一26区）
W75号溝跡（ト一26区南より）
同土層断面
図版一 73 W75号溝跡遺物出土状態
W76号溝跡・ＡⅠ号地下式土坑
（ニ一25区南より）
W一76号溝跡（へ一26区東より）
W一75号溝跡（ホ一25区東より）
W一77号溝跡（リ一29区南より）
ＡⅡ号地下式土坑
ＡⅢ号地下式土坑
図版一 74 ７一３区北半部（東より）
７一３区南半部（東より）
７一３区南半部（西より）
７一３区北半部（北より）
７一３区北半部（東より）
７一３区北半部（東より）
13区（北より）
14一２区（北より）
図版一 75 14一３区（南より）
14一４区（西より）
14一５区（西より）
14一５区（南東より）
19区調査風景
19区Ｗ２・３・４号溝跡（南より）
20一１区Ｍ１号墳周濠（北より）
調査風景
図版一 76 Ｊ１・２・３号住居跡出土土器
Ｊ２・３・４号住居跡出土土器
図版一 77 Ｊ４・５号住居跡出土土器
Ｊ５・６号住居跡出土土器
図版一 78 Ｊ６号住居跡出土土器
Ｊ６・７号住居跡出土土器
図版一 79 Ｊ７・８号住居跡出土土器
Ｊ８・９号住居跡出土土器
図版一 80 Ｊ９号住居跡出土土器
Ｊ10号住居跡出土土器
図版一 81 Ｊ10・11号住居跡出土土器
Ｊ11・12号住居跡出土土器
図版一 82 Ｊ12・14号住居跡出土土器
Ｊ13・15号住居跡出土土器
図版一 83 Ｊ13・15号住居跡出土土器
Ｊ13・16・17号住居跡出土土器
図版一 84 Ｊ17号住居跡出土土器
Ｊ17号住居跡出土土器
図版一 85 Ｊ17・18号住居跡出土土器
Ｊ17・18号住居跡出土土器
図版一 86 Ｊ18号住居跡出土土器
Ｊ18・19・23号住居跡出土土器
図版一 87 Ｊ19・23号住居跡出土土器
Ｊ19・23号住居跡出土土器
図版一 88 Ｊ19・23・20号住居跡出土土器
Ｊ20・21号住居跡出土土器
図版一 89 Ｊ21・22号住居跡出土土器
Ｊ22号住居跡出土土器
図版一 90 Ｊ22号住居跡出土土器
Ｊ22・24号住居跡出土土器
図版一 91 Ｊ24・25号住居跡出土土器
Ｊ25号住居跡出土土器
図版一 92 Ｊ25号住居跡出土土器
Ｊ25号住居跡出土土器
図版一 93 Ｊ25・26号住居跡出土土器
Ｊ26・27・30号住居跡出土土器
図版一 94 Ｊ27・30号住居跡出土土器
Ｊ27・30号住居跡出土土器
図版一 95 Ｊ27・30号住居跡出土土器
Ｊ27・30号住居跡出土土器
図版一 96 Ｊ27・30号住居跡出土土器
ＪＰ群一Ⅰ（Ｊ28）出土土器
図版一 97 ＪＰ群一Ⅰ（Ｊ28）出土土器
Ｊ29号住居跡出土土器
図版一 98 Ｊ29号住居跡出土土器
Ｊ28・29号住居跡出土土器
図版一 99 Ｊ28・29号住居跡出土土器
Ｊ31号住居跡出土土器
図版一100 Ｊ33号住居跡出土土器
Ｊ34・35・36号住居跡出土土器
図版一101 Ｊ36号住居跡出土土器
Ｊ36・37号住居跡出土土器
図版一102 Ｊ37・38号住居跡出土土器
Ｊ38・39号住居跡出土土器
図版一103 Ｊ39号住居跡出土土器
Ｊ39号住居跡出土土器
図版一104 Ｊ40・41号住居跡出土土器
Ｊ40・41号住居跡出土土器
図版一105 Ｊ42号住居跡出土土器
Ｊ43・44号住居跡出土土器
図版一106 Ｊ44号住居跡出土土器
Ｊ44・46号住居跡出土土器
図版一107 Ｊ46・47号住居跡出土土器
Ｊ48・49号住居跡出土土器
図版一108 Ｊ49・50号住居跡出土土器
Ｊ50号住居跡出土土器
図版一109 Ｊ50・51・52号住居跡出土土器
Ｊ52号住居跡出土土器
図版一110 Ｊ52号住居跡出土土器

Ｊ53・54号住居跡出土土器
図版―111　Ｊ53・54号住居跡出土土器
Ｊ54号住居跡出土土器
図版―112　Ｊ34・55号住居跡出土土器
Ｊ57・58号住居跡・ＪＰ土坑出土土器
図版―113　ＪＰ土坑出土土器
ＪＰ土坑出土土器
図版―114　ＪＰ土坑出土土器
ＪＰ土坑出土土器
図版―115　ＪＰ土坑出土土器
ＪＰ土坑出土土器
図版―116　ＪＰ土坑出土土器
ＪＰ土坑出土土器
図版―117　ＪＰ土坑出土土器
ＪＰ土坑出土土器
図版―118　ＪＰ土坑出土土器
ＪＰ土坑出土土器
図版―119　Ｊ１・２号住居跡出土石器
Ｊ３・４号住居跡出土石器
図版―120　Ｊ４号住居跡出土石器
Ｊ５・６号住居跡出土石器
図版―121　Ｊ６・７号住居跡出土石器
Ｊ７・８号住居跡出土石器
図版―122　Ｊ８・９号住居跡出土石器
Ｊ９号住居跡出土石器
図版―123　Ｊ10号住居跡出土石器
Ｊ10号住居跡出土石器
図版―124　Ｊ11・12号住居跡出土石器
Ｊ12・13号住居跡出土石器
図版―125　Ｊ14・15号住居跡出土石器
Ｊ15・16号住居跡出土石器
図版―126　Ｊ17号住居跡出土石器
Ｊ17号住居跡出土石器
図版―127　Ｊ17・18・19・23号住居跡出土石器
Ｊ19・23号住居跡出土石器
図版―128　Ｊ19・23・20号住居跡出土石器
Ｊ20号住居跡出土石器
図版―129　Ｊ21・22号住居跡出土石器
Ｊ22号住居跡出土石器
図版―130　Ｊ24号住居跡出土石器
Ｊ25号住居跡出土石器
図版―131　Ｊ25・26号住居跡出土石器
Ｊ26・27号住居跡出土石器
図版―132　Ｊ27号住居跡出土石器
Ｊ27号住居跡出土石器
図版―133　ＪＰ群―Ⅰ（Ｊ28）・29・59号住居跡出土石器
Ｊ29・59・31・32号住居跡出土石器
図版―134　Ｊ31・32・33号住居跡出土石器
Ｊ34・35・37号住居跡出土石器
図版―135　Ｊ36号住居跡出土石器
Ｊ36号住居跡出土石器
図版―136　Ｊ36・38号住居跡出土石器
Ｊ38・39号住居跡出土石器
図版―137　Ｊ39・40・41号住居跡出土石器
Ｊ40・41・42号住居跡出土石器
図版―138　Ｊ43・44号住居跡出土石器
Ｊ44号住居跡出土石器
図版―139　Ｊ44号住居跡出土石器
Ｊ46号住居跡出土石器
図版―140　Ｊ47号住居跡出土石器
Ｊ47・48号住居跡出土石器
図版―141　Ｊ48号住居跡出土石器
Ｊ48号住居跡出土石器
図版―142　Ｊ48号住居跡出土石器
Ｊ48・49号住居跡出土石器
図版―143　Ｊ49号住居跡出土石器
Ｊ50号住居跡出土石器
図版―144　Ｊ50・51・56号住居跡出土石器
Ｊ52号住居跡出土石器
図版―145　Ｊ53・54・55号住居跡出土石器
Ｊ55・58号住居跡・ＪＰ土坑出土石器
図版―146　ＪＰ土坑出土石器
ＪＰ土坑・ＪＳ配石遺構出土石器
図版―147　住居跡・土坑出土石鏃・石錐・石匙・削器
楔形石器・棒状石器・垂飾品・玦状耳飾り
Ｊ４～８号住居跡出土石器
図版―148　Ｊ９～11号住居跡出土石器
Ｊ13・17・19～24・27号住居跡出土石器
図版―149　ＪＰ群―Ⅰ（Ｊ28）・31・32・35・36・42・43号住居跡出土石器
Ｊ37・43・44・49・50号住居跡・ＪＳ配石遺構出土石器
図版―150　Ｊ34・35・39号住居跡・ＪＰ土坑出土石器
Ｊ37・53・55号住居跡出土石器

図版―151　陶磁器（１）内面
陶磁器（１）外面
図版―152　陶磁器（２）
陶磁器（３）
図版―153　陶磁器（４）
陶磁器（５）
図版―151　陶磁器（６）

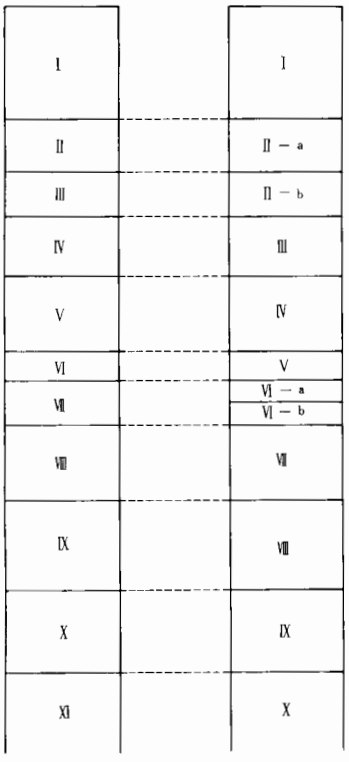
Ⅰ　調査及び整理の経過

芳賀東部団地遺跡は、昭和51年から昭和56年まで長期間の調査を行なってきた。調査の詳細な経過については１・２巻を参照されたい。第３巻で扱う縄文時代・中・近世は調査期間が１・２巻と重なるので、以下調査の簡単な経過と、３巻刊行までの整理の経過を記す。

昭和51年６月　７日。発掘調査事務所の整備と調査区のグリッド設定と試掘をはじめる。雨が多い。
７月　遺構（Ｈ－２・３、Ｊ－１など）の検出が続く。
８月　山王廃寺調査のため、トレンチ設定と写真・図版整理を主として行う。
９月　鍛冶址検出。台風。
10月　土師器を伴う竪穴住居跡の検出が続く。（Ｈ－13～28）
11月　10月に同じく検出が続く。（Ｈ－29～53）
12月　住居跡はＨ－79・Ｊ－５まで検出される。27日に本年度の調査を終了し、整理作業に入る。
昭和52年５月　９日。本年度の調査開始。Ｔ－２検出。
６月　Ｈ－88、Ｊ－７まで検出。見学・視察が続く。
７月　中旬より山王廃寺調査で休み。
８月　下旬より調査再開。ＮＨＫ取材。
９月　Ｈ－91、Ｊ－12まで検出。排土・精査を行う。
10月　縄文時代の遺構の検出が続く。
11月　試掘と遺構の検出が多い。
12月　23日まで調査を続ける。以後整理作業に入る。
昭和53年４月　24日より調査を開始。研修を実施する。調査区に地区名をつける。
５月　８日より本格的調査を開始する。
６月　相沢忠祥氏調査員に依嘱。下旬より雨が多い。
７月　暑さきびしい。表土排土に機械力導入検討。
８月　９区の表土除去に機械力導入。９区で墓壙の検出が多い。
９月　グランド区に入る。遺構の検出が多い。
10月　カマド内焼土の熱残留磁気測定行なわれる。
11月　７－３区に入るが、ここも遺構の検出が多い。見学・視察が多い。
12月　引き続き７－３区の調査。28日に現地調査終了整理に入る。
昭和54年４月　23日。調査開始。研修実施。
５月　53年度に続き７－３区より本格的調査に入る。
６月　土器盗難。下旬より雨が多い。
７月　13区で掘立柱建物跡多く検出される。
８月　中学生体験学習を行う。
９月　作業員研修実施。
10月　標高点の再計測を実施。
11月　遺構の磁気探査実施。東側台地の調査に入る。
12月　東側台地にグリッド設定。28日現地調査終了。
昭和55年１月～３月　次年度予定区の表土除去を行う。
４月21日。現地調査開始。遺構番号を５Ｈ－１、５Ｊ－１のように55年度分についてつけることとする。
５月　現地調査に併行して遺物の接合、復元作業もはじめる。
６月　古墳。石田川期住居跡群調査。航空写真撮影。強風の日が多い。
７月　雨が多い。土層鑑定。見学・視察が多い。
８月　親子体験発掘を実施する。作業員研修。
９月　航空写真撮影実施。見学・視察が多い。
10月　強風や雨が多い。今後の整理計画について検討はじまる。
11月　航空写真撮影実施。撤収にそなえ器材の整理を行う。
12月　２日。現地より撤収。元総社の分室にて整理作業に入る。発掘成果説明会。
昭和56年２月　出土鉄製品の保存処理依託。
３月　調査団の解団式を行う。報告書の整理・刊行計画と写真集の刊行決定。
４月～12月　土器の復元を中心とする整理作業を続ける。

昭和57年１月～６月　第１巻収録分の土器の復元を終了する。
７月～12月　遺物実測及び遺構図面の検討・トレース・版組。
10月　調査報告書作成のための作成委員会・編集委員会の発足にむけて準備会を開く。
昭和58年１月～５月　遺構図版作成を続ける。
４月　第２回の準備会を開く。
５月　作成委員会発足。委員の委嘱を行う。執筆委員会開催。執筆を依頼する。
６月～12月　原稿依頼に伴う遺構データ一覧表の作成を行う。
10月　編集委員会開催。
11月　原稿完成。編集委員会開催、用語等の検討を行う。
12月　土器の胎土分析を行う。図版ほぼ完成する。
昭和59年１月～12月　第２巻に収録の遺物の接合・復元を行う。
１月　遺物の化学分析を実施する。
３月　第１巻を刊行する。
昭和60年１月～12月　第２巻に収録する遺物の接合・復元を行う。
６月　考察について編集委員会開催。
７月　執筆委員会。図面整理作業を実施。
昭和61年１月～12月　第２巻に収録の遺物の実測と遺構のデータ表作成を行う。図版作成。
９月　編集委員会。考察について検討。
10月　執筆委員会。図面整理作業・原稿依頼。
昭和62年１月～12月　第２巻に収録の図版作成。第３巻の遺構図面検討。
11月　編集委員会開催。整理・刊行計画について。
昭和63年１月～３月　第２巻の校正と刊行。第３巻に収録の遺物の接合・復元。
４月～９月　第３巻に収録の遺構のデータ一覧表作成。遺物の実測・トレース。拓本作成。
９月　執筆委員会開催。第３巻の原稿依頼。
９月～12月　第３巻に収録の遺構のトレース、遺物のトレース。
12月　編集委員会開催。第３巻の考察について検討。
昭和64年１月～平成元年３月　第３巻用図版作成。遺物写真撮影準備。
平成元年１月　編集委員会開催。第４巻以降の委員会の体制について検討。
５月　作成委員会開催。編集委員の委嘱を行う。
６月　編集委員会開催。第３巻の考察について検討。
７月～　考察の執筆作業、編集作業。第４巻の遺物整理に入る。
平成２年３月　編集委員会開催。第４巻の刊行計画について。
３月　第３巻刊行。

II 基本層序



図－1　地層対照図

基本層序は第2巻と基本的に同じである。土層断面図中に表記されている土層の記号は、基本層序の記号と対応する。

第Ⅰ層　耕作土・表土。粒子が荒く、さらさらしている。厚さ30cm前後。
第Ⅱ－a層　B軽石を多量に含む砂質土。厚さ10cm前後。
第Ⅱ－b層　B軽石純層。厚さ10cm前後。
第Ⅲ層　黒褐色土。黒色土と褐色土がブロック状にまじりさらさらしている。ＦＰ・Ｃ軽石を含む。厚さ20cm前後。
第Ⅳ層　黒色土。ＦＰ・Ｃ軽石を含む。厚さ10～20cm前後。
第Ⅴ層　ＦＡの純層かＦＡブロック層。厚さ5cm前後。
第Ⅵ－a層　Ｃ軽石を多量に含む黒色土。厚さ2～4cm前後。
第Ⅵ－b層　Ｃ軽石純層。厚さ2～4cm前後。
第Ⅶ層　黒色土。浮石をふくまない。粘性がある。厚さ10cm前後。
第Ⅷ層　漸移層Ⅰ。黒褐色土。粘性がある。厚さ20cm前後。
第Ⅸ層　漸移層Ⅱ。褐色土。厚さ10～15cm前後。
第Ⅹ層　ローム層。

基本層序にあてはまらない土層については個々に説明を付している。

III 遺構と遺物

1．概　要

芳賀東部団地遺跡は、昭和51年から昭和55年にかけて、前橋市鳥取町、小坂子町、五代町にわたる32.78haの調査を行なってきている。遺跡内には、東と西の大きな台地と、その中間の小さな台地の大部分が含まれる。

各地の調査例をみても、台地のほとんどを調査した例は少なく、貴重な調査例となるものである。

芳賀東部団地遺跡は、全体で1500に近い遺構とパン箱670箱の遺物が検出・出土している。

縄文時代　竪穴式住居跡　60　土坑　140　配石遺構など　7　遺物　パン箱約130
古墳時代　古墳　4　竪穴式住居跡　75
奈良・平安時代　竪穴式住居跡　411　竪穴遺構　10　掘立柱建物跡　206　鍛冶址・製錬址　5
溝　83　土坑　125　井戸　3　遺物　パン箱約630
中・近世　地下式土坑　4　土坑　293　井戸　20　溝　23　遺物　パン箱約10
性格不明　37

第3巻では縄文時代と中・近世を扱うが、概要は以下の通りである。

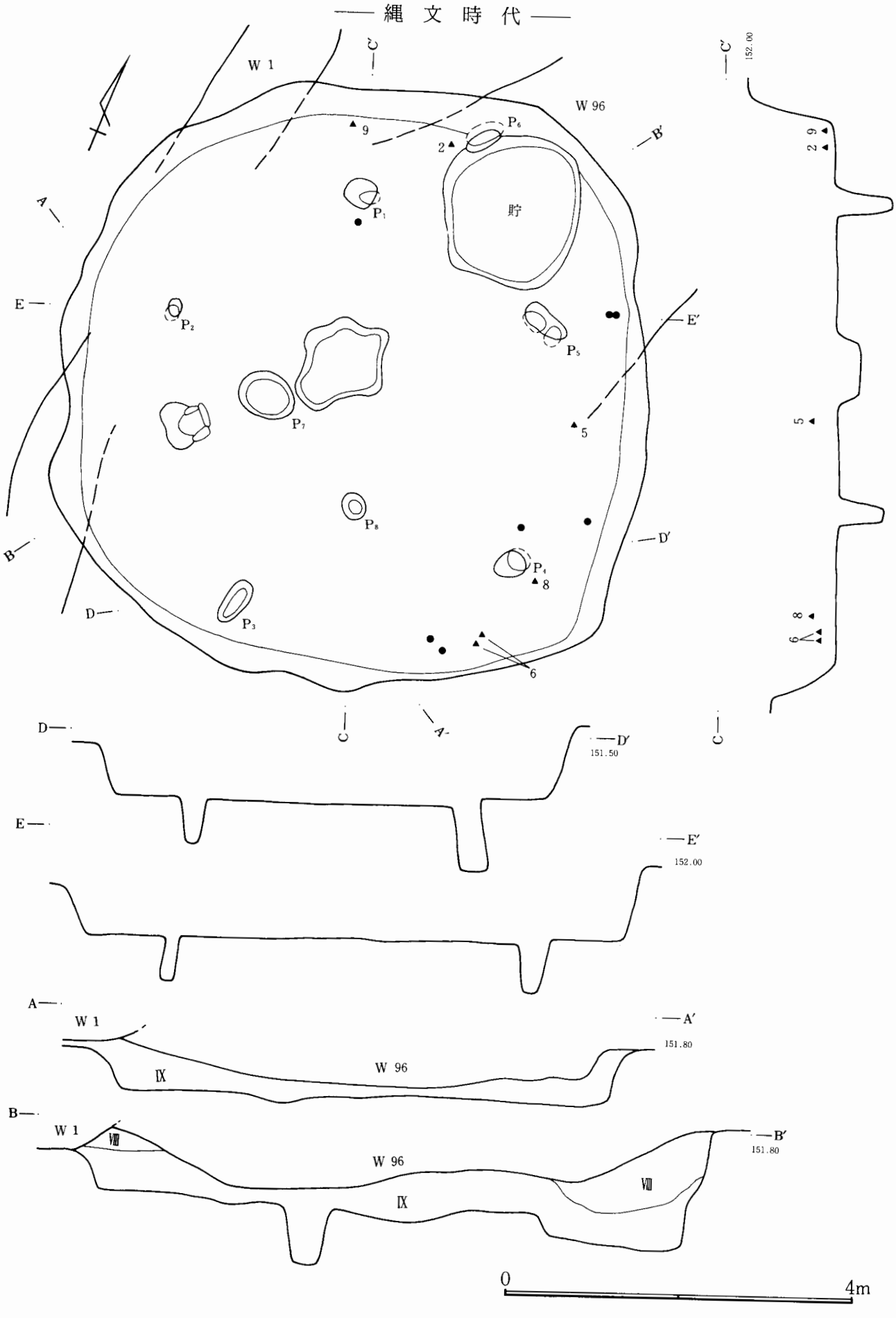
縄文時代の住居跡は、台地の全域に分布をしているが、その分布は奈良・平安時代の住居跡と同様の傾向があり、東側台地の調査区では全域に散在する。中央台地ではその南端。西側台地では南半に集中している。これは古代からの住居跡の適地を示すものである。中期の敷石住居跡が一群として西側台地の南西端で検出されている。住居跡の占地については考察の項をみられたい。

縄文時代の土坑は140が住居跡と同様の傾向で分布が認められる。また、140の土坑には形態その他で、いくつかに分類ができる。用途ともあわせて考えられるものである。詳細は土坑の項を参照のこと。

その他の縄文時代の遺構には配石遺構などがあるが、その様相はさまざまである。

出土遺物は、土器は主たる文様を拓本で掲載し、石器のほとんどは実測図で掲載した。これらのほとんどは写真図版としても掲載したので、それぞれ資料として活用されたい。

中・近世の遺構は、台地全域から検出された土坑と、中央台地（9区）より検出された中世の地下式土坑と、方形に区画される溝・近世の墓域群から成る。墓壙は、他にも土葬のもの火葬と推定されるものがある。全体図と中央台地の図遺構一覧表、写真図版、考察の項を参照されたい。　（井野）


縄 文 時 代
W 1
W 96
貯
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
E
E′
152.00
151.50
151.80
Ⅸ
Ⅷ
0
4m

図－2　Ｊ１号住居跡

2．竪穴式住居跡

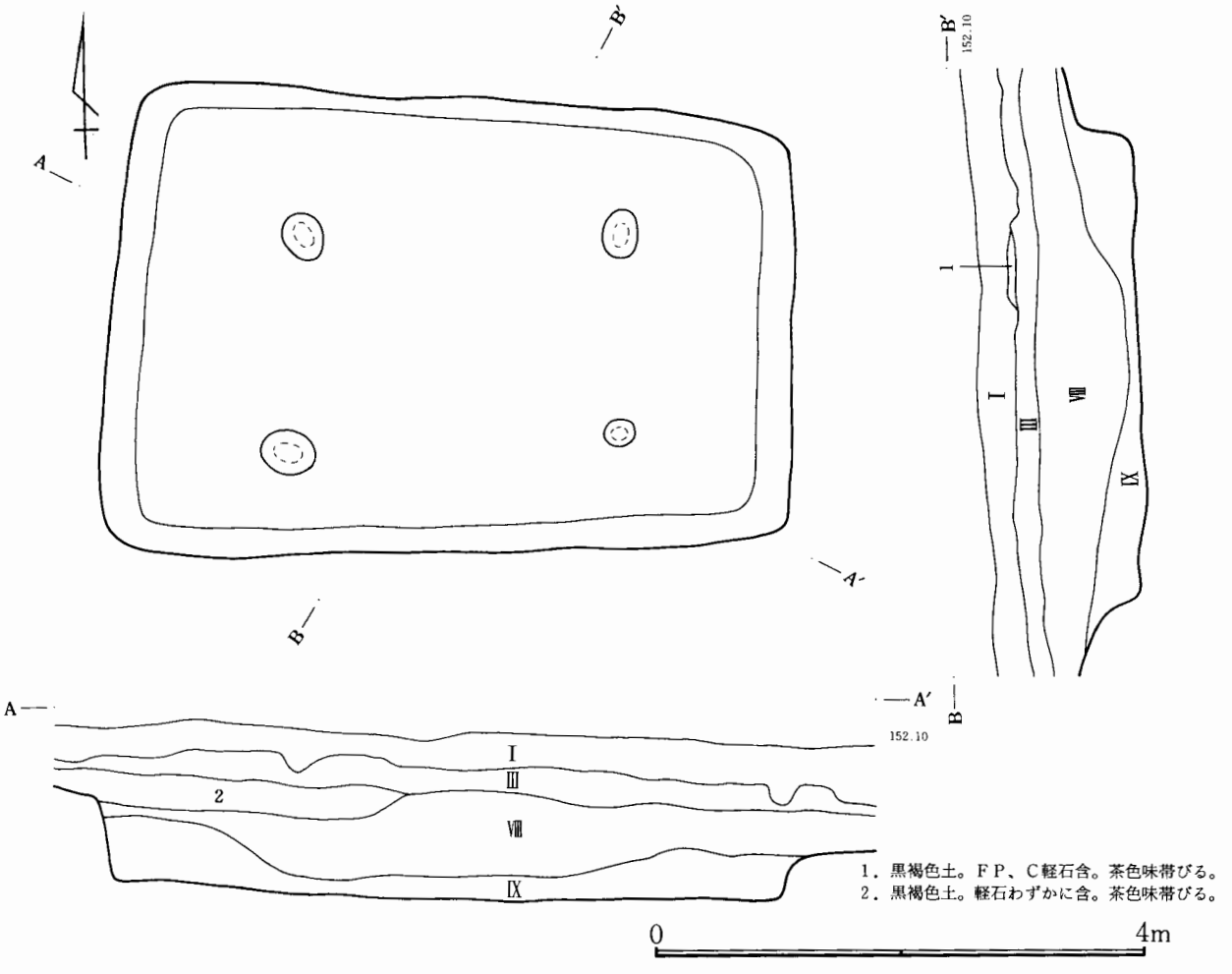
Ｊ１号住居跡　（図－２・60・61、表－１～３、図版－１・76・119）

位置　西台地の東南寄りＣ－４区に位置する。　**形状**　隅丸方形で、東壁側は直線的だが、西壁周辺は円形にちかい。主軸方位はＮ－24°－Ｗである。規模は南北6.30m、東西6.26m、面積34.6㎡である。壁高は東99cm、西56cmで、周溝はない。　**ピット**　主柱穴とみられるピットは５つある。P_5 は下部で２つに分れ、P_3 も２つ分の長楕円形であるが、基本的には径20～30cm、深さ53～85cmあり、全体的に内側へ傾斜している。　**炉**　炉は P_2 と P_3 の中間地点、西壁から1.3m離れてある石囲い炉で、細長い石で三辺を囲み、西南辺は石がなくゆるく傾斜する。炉内は全体に赤く焼けている。規模は38×27cm、深さ15cmである。東北隅の壁下には略円形の貯蔵穴とみられるピットがある。規模は155×175cm、深さ40cm前後である。住居の約中央で、炉と貯蔵穴との中間点に浅いピットがある。126×99cm、深さ20cmの不整形で、位置と大きさから推定すれば炉跡であったとも考えられる。他に、この浅いピットと炉との間には68×55cm、深さ54cmのしっかりしたピット P_7 がある。　**重複**　溝Ｗ１とW96とが重複し、西南隅ちかくにＷ２がある。　**遺物**　土器は諸磯ｂ式が主体で、石器は石斧、削器、石核、石錐、凹石がある。　（相沢）

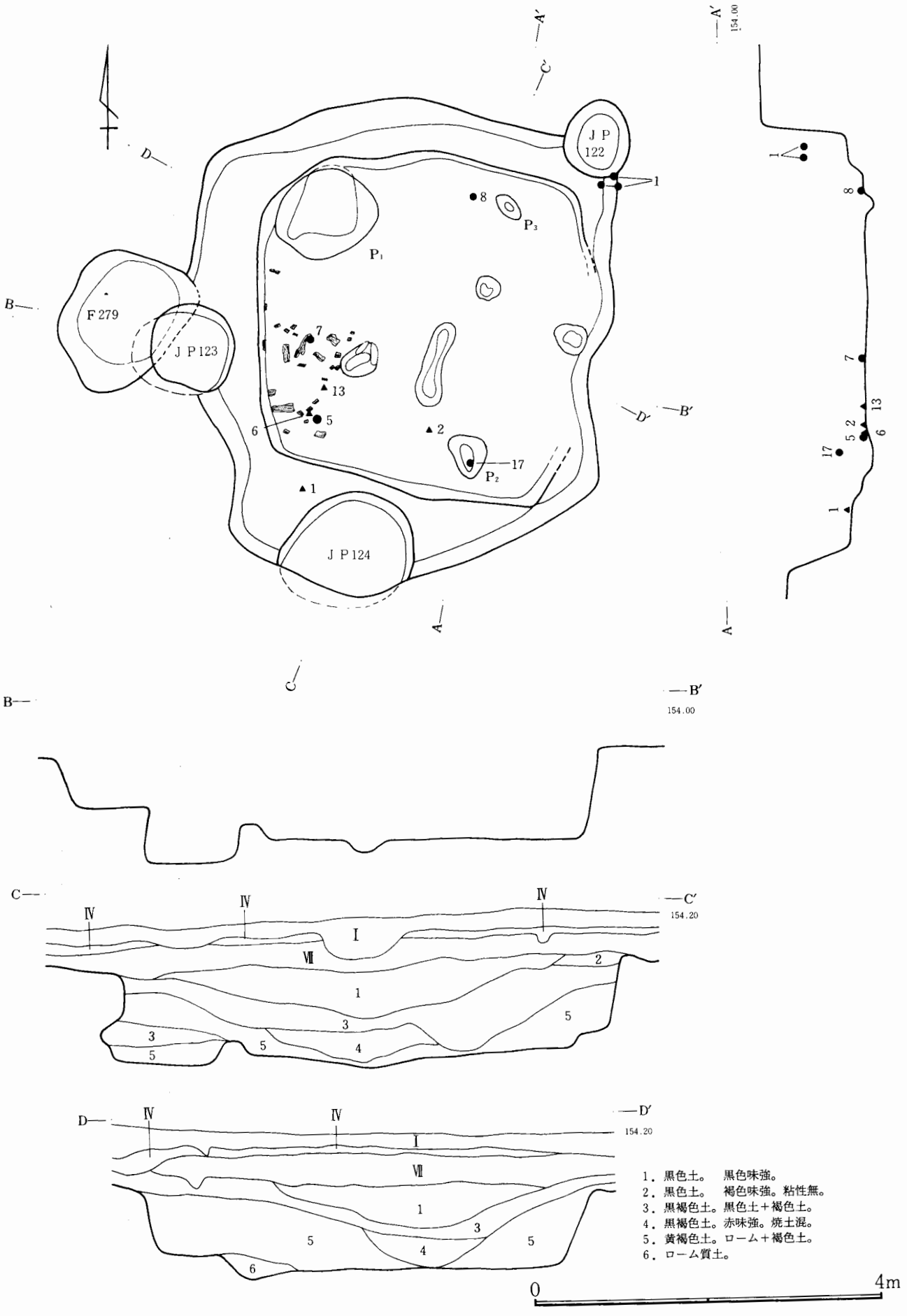
Ｊ２号住居跡　（図－３・62～64、表４～６、図版－２・76・119）

位置　西台地南端近く、南への緩斜面のＥ・Ｆ－４区に位置する。40m北にＪ３号住、東40mにＪ１号住が位置するが、他の遺構とは離れている。　**形状**　長方形。長軸・短軸は5.0×3.3mで、面積は16.2㎡である。壁高は40～76cmを測る。ロームに掘り込まれ、立ち上がりは鋭角である。周溝・張り出し等の施設はない。長軸方向は推定でＮ－88°－Ｗである。床面はローム層でほぼ平坦であるが、西側はわずかに高くなっている。　**ピット**　方形に配されたピット４基が確認される。径は30～40cm。深さの資料はない。　**炉**　写真等では存在が確認されない。　**遺物**　土器は諸磯ｂ式が主体で、石器は黒色頁岩製の打製石斧、複刃削器、抉入石器や黒色安山岩の打製石斧などが出土している。

（井野）



図－３　Ｊ２号住居跡


J P 122
F 279
J P 123
J P 124
P1
P2
P3
154.00
154.20
1. 黒色土。 黒色味強。
2. 黒色土。 褐色味強。粘性無。
3. 黒褐色土。黒色土＋褐色土。
4. 黒褐色土。赤味強。焼土混。
5. 黄褐色土。ローム＋褐色土。
6. ローム質土。
0
4m

図－4　Ｊ３号住居跡

Ｊ３号住居跡　（図－４・65～68、表７～９、図版－３・76・119）

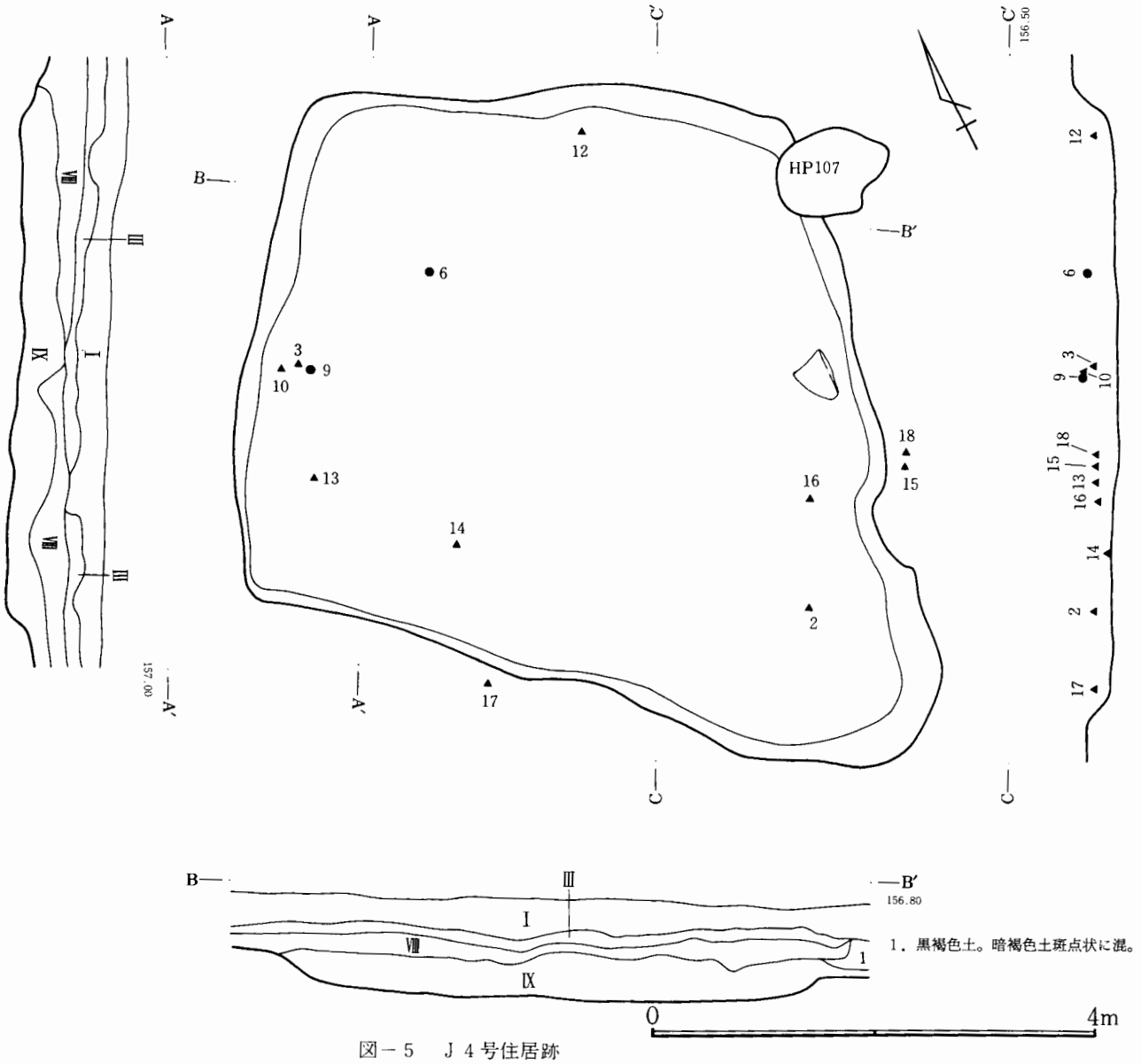
位置　西台地上Ｆ－５・６区に位置する。西60ｍにＪ１号住、北40ｍにＪ２号住がある。　**形状**　平面は矩形で南北5.0ｍ、東西は推定4.5ｍ、面積は推定19.6㎡である。主軸はＮ－３°－Ｅを示す。壁高は88～106cmで、周溝は認められない。東壁に寄って方形の落ち込みがみられ、東壁を除く三方が14～29cmの段状をなす。この段差は、地層断面で時間的差が認められないことから同時期と推定される。　**ピット**　柱穴状のものが東壁際と、それに平行して数ケ所みられるが、いずれも浅い。P_1 は96×69cm、深さ25cm、断面袋状をなす。P_2 は53×42cm、深さ17cm、P_3 は31×15cm、深さ17cmである。　**炉**　住居南西隅近くに２石をＬ字状に配し中が落ち込む形状で、周囲に炭化物が多く散布していた。規模は46×29cmである。又、地層断面で覆土中に焼土や炭化物の混入が多くみられ、焼失家屋の可能性がある。　**重複**　住居北東隅でＪＰ122、南壁でＪＰ124、西壁でＪＰ123、Ｆ279と重複する。前後関係は不明である。　**遺物**　土器は諸磯ｂ式が主体で、石器は掻器、石斧、石錐、敲き石が出土している。

（中村）

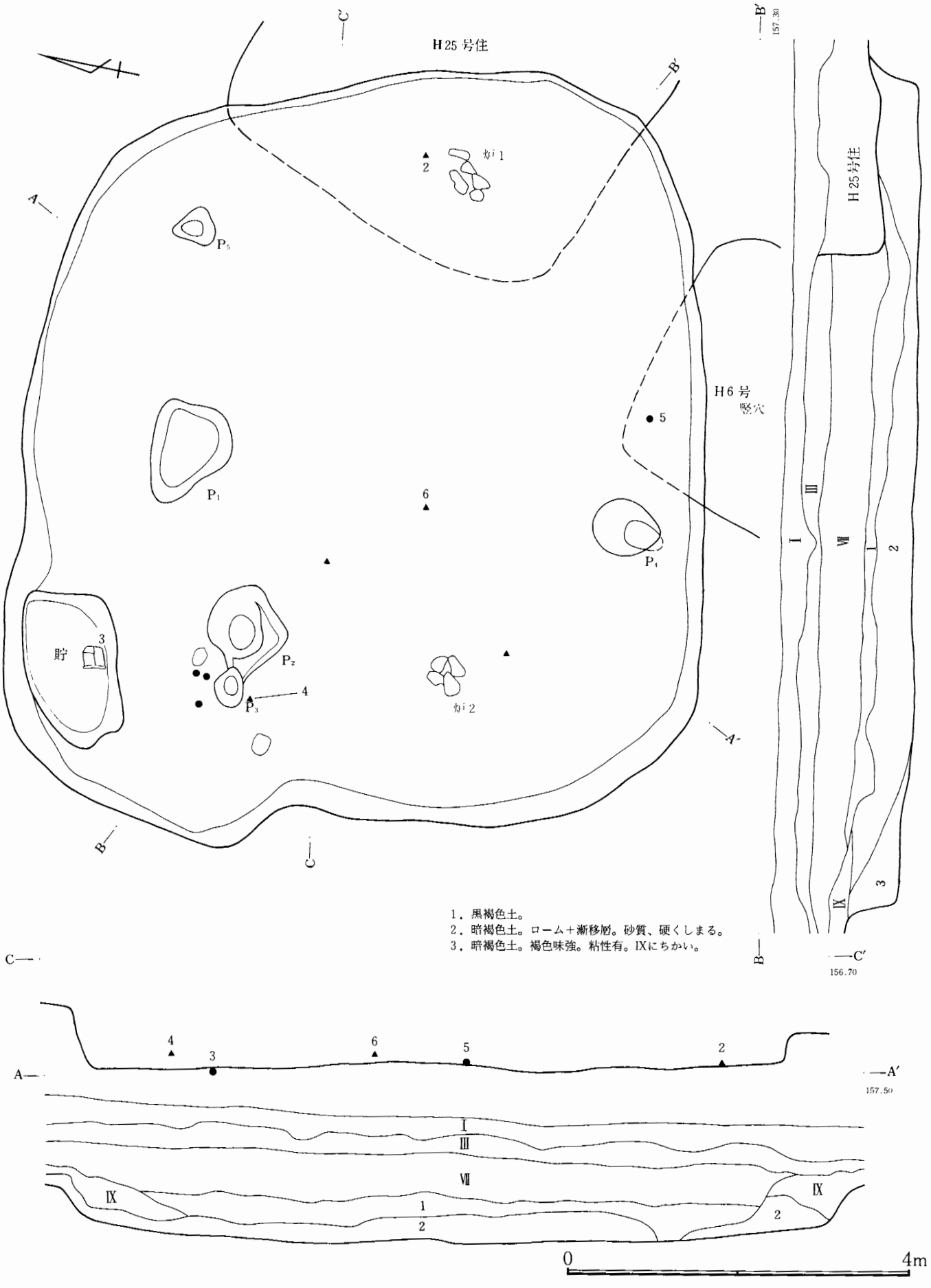
Ｊ４号住居跡　（図－５・69～71、表－10～12、図版－４・77・119・120・147）

位置　西台地のほぼ中央部で、やや東に寄ったＤ－９区に位置する。北東へ14ｍ離れてＪ５号住が、また南東へ28ｍ離れてＪ34･35号住がある。さらにその中間には土坑４基が存在する。　**形状**　南隅が飛び出した不整の台形を呈する。床面上の中央付近で南北長5.1ｍ、東西長5.5ｍを測る。面積は25.3㎡である。周溝は存在せず、低い壁が緩い傾斜で立つ。壁高は確認面まで41cm残る。主軸はＮ－53°－Ｗに取る。　**ピット**　床面上には径10～20cm、床面よりの深さが10cm前後のくぼみが不規則に存在するが、柱穴とみられるものは確認されない。　**炉**　存在しない。　**重複**　北東隅でＨＰ107と重複する。　**遺物**　土器は前期初頭の縄文尖底が主体で、石器は石斧、削器、抉入石器が出土している。

（富沢）



図－５　Ｊ４号住居跡

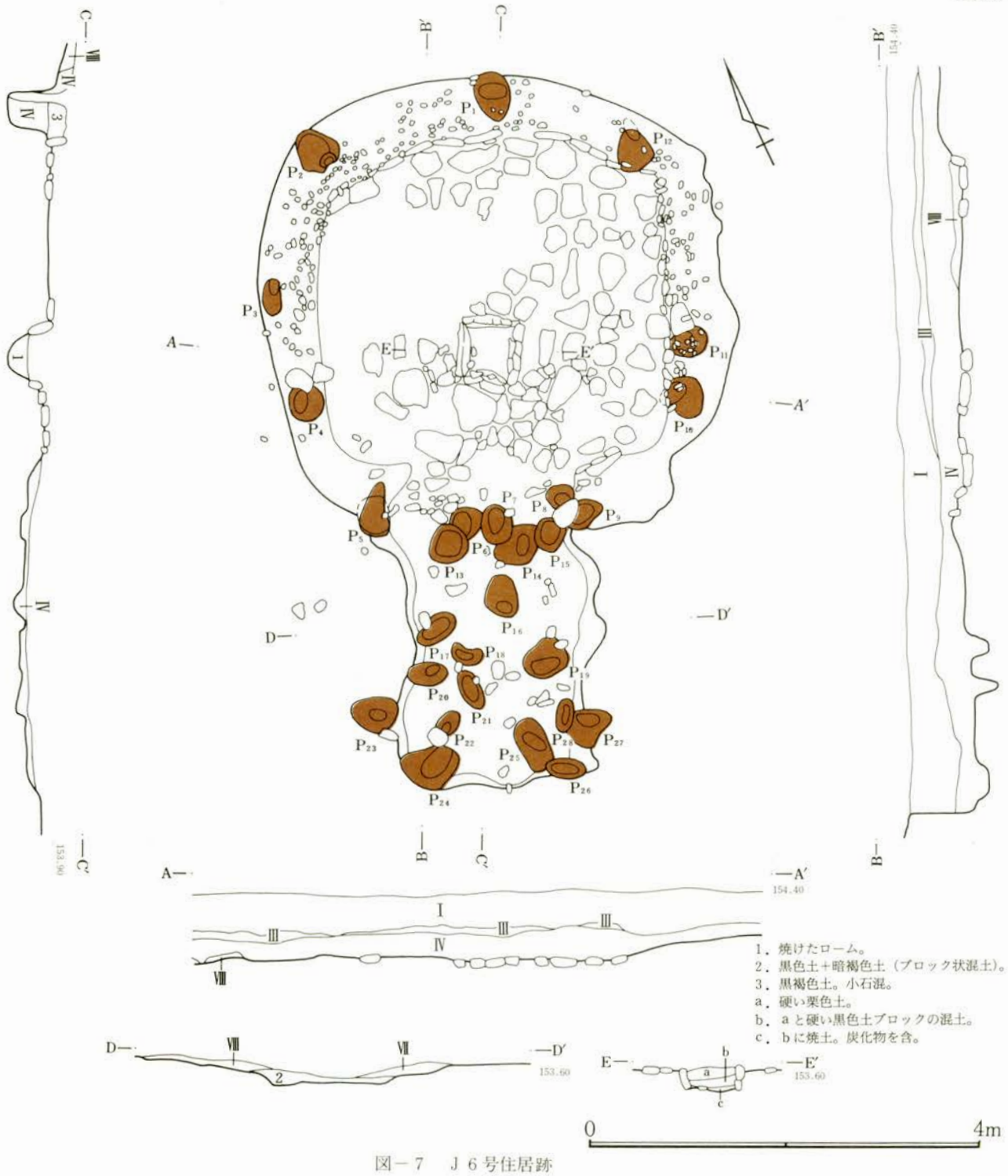

H25号住
H6号
竪穴
貯
炉1
炉2
P1
P2
P3
P4
P5
1．黒褐色土。
2．暗褐色土。ローム＋漸移層。砂質、硬くしまる。
3．暗褐色土。褐色味強。粘性有。IXにちかい。
157.30
156.70
157.50
0
4m

図－6　J 5号住居跡

Ｊ５号住居跡　（図－６・72～74、表－13～15、図版－５・77・120・147）

位置　西台地の中央部やや東寄りＣ－10区に位置する。南・南西方向25～30mにＪ４、34、35号住及びＪＰ44～46、110号土坑がある。　**形状**　主軸をＮ－77°－Ｅに取る。隅丸長方形で、北西隅がやや張り出しぎみを呈す。規模は床面上で南北7.7m、東西8.2mを測る。面積は張り出し部を含め57.5㎡である。壁は直に立ち、壁高は北側で84cm、南側で64cmある。周溝はない。　**ピット**　北壁より1.2m内側に、P_1～P_3、P_5のピットが約2.40mの間隔で、主軸と並行するように並ぶ。P_1が123×102cm、P_2が96×90cm、P_3が40×35cm、P_5が43×42cmを測る。柱穴とみられる。またP_2と対応する位置にP_4が認められるが、他に柱穴とみられるピットはない。この他、北西隅に床面上で360×150cmの長楕円形を呈すピットがある。貯蔵穴であろう。　**炉**　南壁より2.60m内側で、主軸にほぼ平行して２つの石囲い炉がある。5.2mの間隔で、それぞれ４～５石の山石を斜めに差し込み、炉としている。　**重複**　東壁及び南壁寄りでH25号住、Ｈ６号竪穴と重複し、本跡より新しい。　**遺物**　土器は諸磯ｂ・ｃ式が主に出土している。石器は片刃礫器、砥石、円礫石器が出土している。

（富沢）

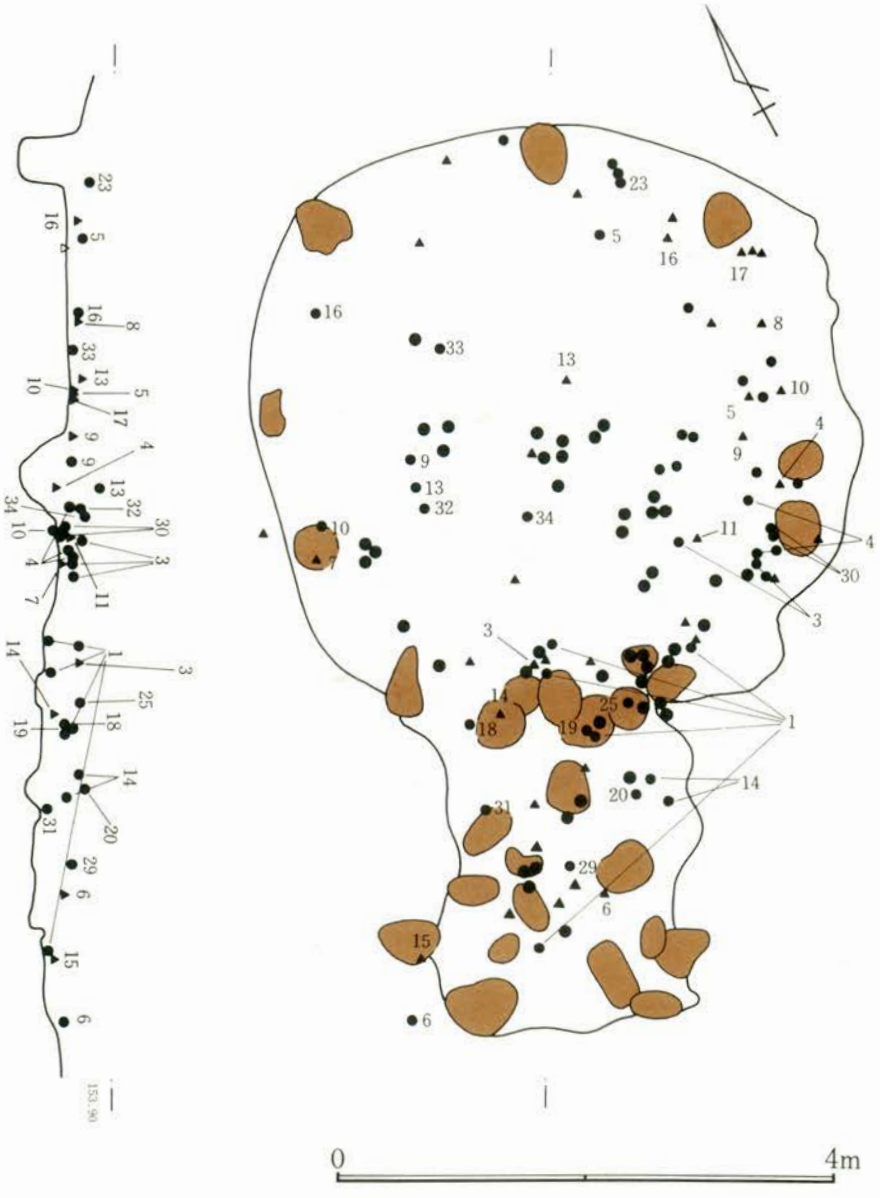


図－７　Ｊ６号住居跡

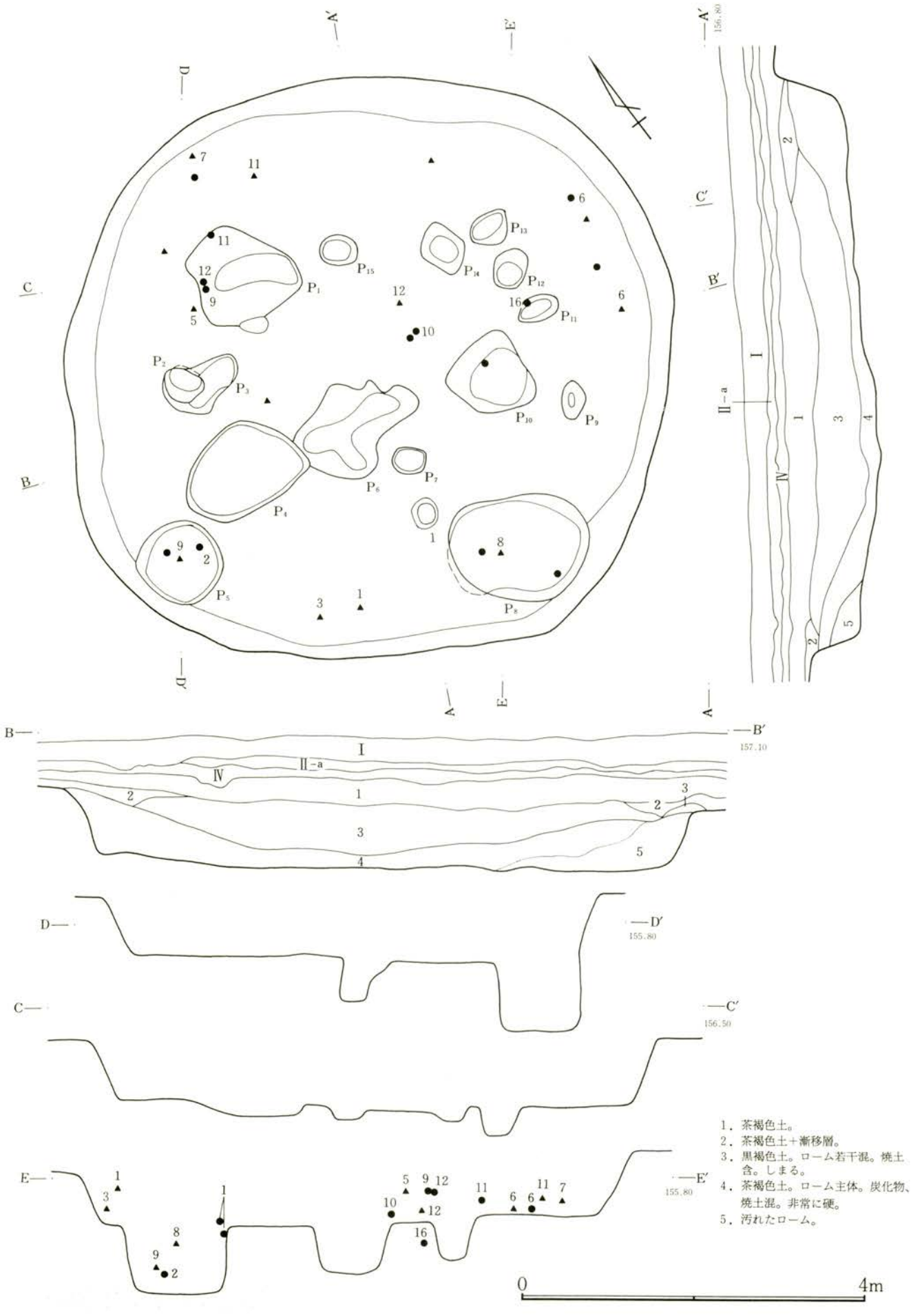
Ｊ６号住居跡　（図－７・８・75～78、表－16～18、図版－６・77・78・120・121・147）

位置　西台地の南西端Ｐ－４区に位置する。南西方向への緩い傾斜地形で、西20ｍにＪ10号住がある。　**形状**　南西方向に張り出しをもつ柄鏡型（敷石）住居跡で、主軸をＮ－25°－Ｅに取る。主体部は南、北壁が弧を描いて張り出し、東西壁が直線的な方形を呈する。規模は、東西3.50ｍ、南北も最大で6.50ｍを測る。面積は張り出し部を含め16.1㎡を測る。床面は扁平な転石をまばらに敷いているが、西側半分の範囲は敷石の無い部分が認められる。敷石の周囲には範囲を区画するよう転石が一列並ぶ。特に奥壁は長さ30～40cm、径10cmの棒状の転石を並べ、高さ10cm程の低い壁を形造っている。東西壁もやや大振りの転石が一列並べられ、これらの石列の外側に径５cm前後の小石を主とした黒褐色土が帯状に囲んでいる。この周礫は、厚さ20cm・40～50cmの幅で、張り出し部分を除いた三壁の外側に認められる。住居は敷石の外側170cmの所より全体的に約30cm掘り込み、さらに周礫部は溝状に掘り込まれている。張り出し部は５～10cm全体的に掘り込み、幅1.5ｍ、長さ2.5ｍの長方形を呈す。中には多数のピットが不規則に存在し、敷石はない。　**炉**　住居主軸線上にあり、主体部中心よりやや張り出し方向に寄った地点に、方形石囲い炉がある。細長い山石を１～２段積み囲んだもので、石の表面は熱を受け脆くなり、剝がれたり、割れたりしている。石の外法で南北72cm、東西64cmを測る。主体部と張り出し部の接続付近は浅く掘り込まれピットが存在するが、埋甕はない。　**ピット**　周礫と重複して、主体部の周囲に８個（P_1～P_5、P_9～P_{12}）の柱穴とみられるピットが存在する。いずれも径30～40cm、深さ50～70cmを測る。張り出し部には径20～30cm、深さ10～20cmの浅いピットがやや不規則に存在する。P_{13}、P_{17}、P_{20}、P_{24}とP_{15}、P_{19}、P_{25}は直線的に並ぶ傾向にある。　**遺物**　土器は加曽利Ｅ４式が主体で、称名寺１・２、堀之内式も出土する。石器は石鏃、削器、礫石、凹石、石棒が出土している。

（富沢）



図－８　Ｊ６号住居跡遺跡分布図

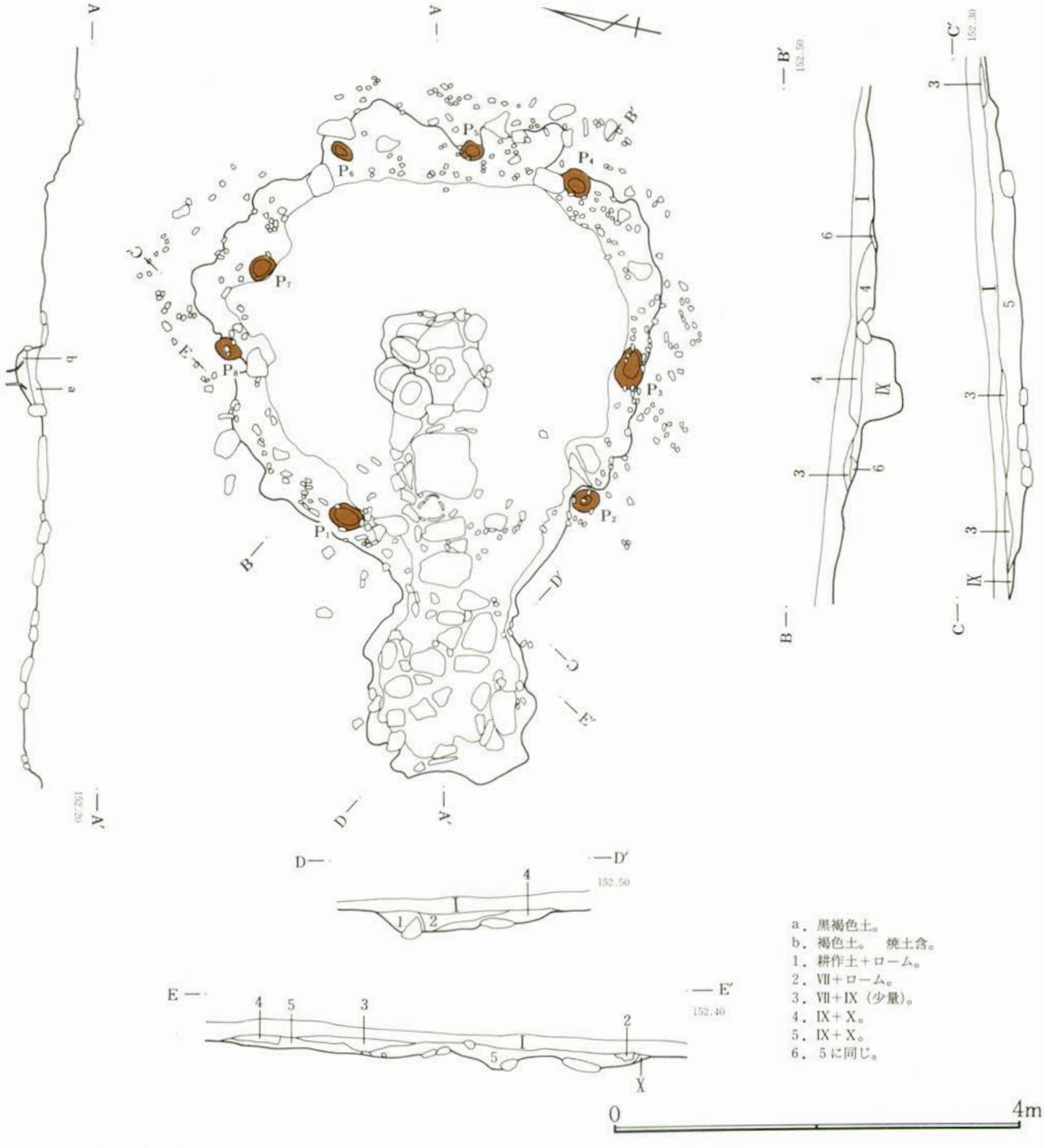

A
A′
156.80
B
B′
157.10
C
C′
156.50
D
D′
155.80
E
E′
155.80
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
P14
P15
I
II-a
III
IV
1．茶褐色土。
2．茶褐色土＋漸移層。
3．黒褐色土。ローム若干混。焼土含。しまる。
4．茶褐色土。ローム主体。炭化物、焼土混。非常に硬。
5．汚れたローム。
0
4m

図－9　J 7号住居跡

Ｊ７号住居跡　（図―９・79～81、表―19～21、図版―７・78・79・121・147）

位置　台地の西、等高線上で西への傾斜転換点あたりのＰ―８区に位置する。Ｊ６号住居跡の北約70mに所在する。**形状**　平面は隅丸方形で、南北6.1m、東西6.4m、面積32.9㎡を測る。壁高は52～84cmで、壁下周溝は認められない。住居の中央は９～26cm凹んでいるが、段になる程明瞭なものではない。　**ピット**　住居内に15ケ所認められるが、P_2・P_5・P_4 の西隅ピット、P_{10}・P_{12} が径40～108cm、深さ50cm前後であることから主柱穴と考えられる。また、その位置もほぼ壁に平行している。　**炉**　炉は明瞭でないが、住居の南寄り P_8 近くに埋設土器があり、また、住居中央南寄りに平面不整形の落ち込み P_6 があり、さらに、P_2 の近くで P_1 に接し石が認められた。いずれも焼土や炭化物は認められず炉と断定しがたい。　**遺物**　土器は諸磯ｂ式で、石器は黒色頁岩の石斧、削器や、結晶片岩の棒状石器、緑泥片岩製の敲き石、安山岩の円礫石器、凹石、多凹石、浮石質安山岩の石皿などが出土している。

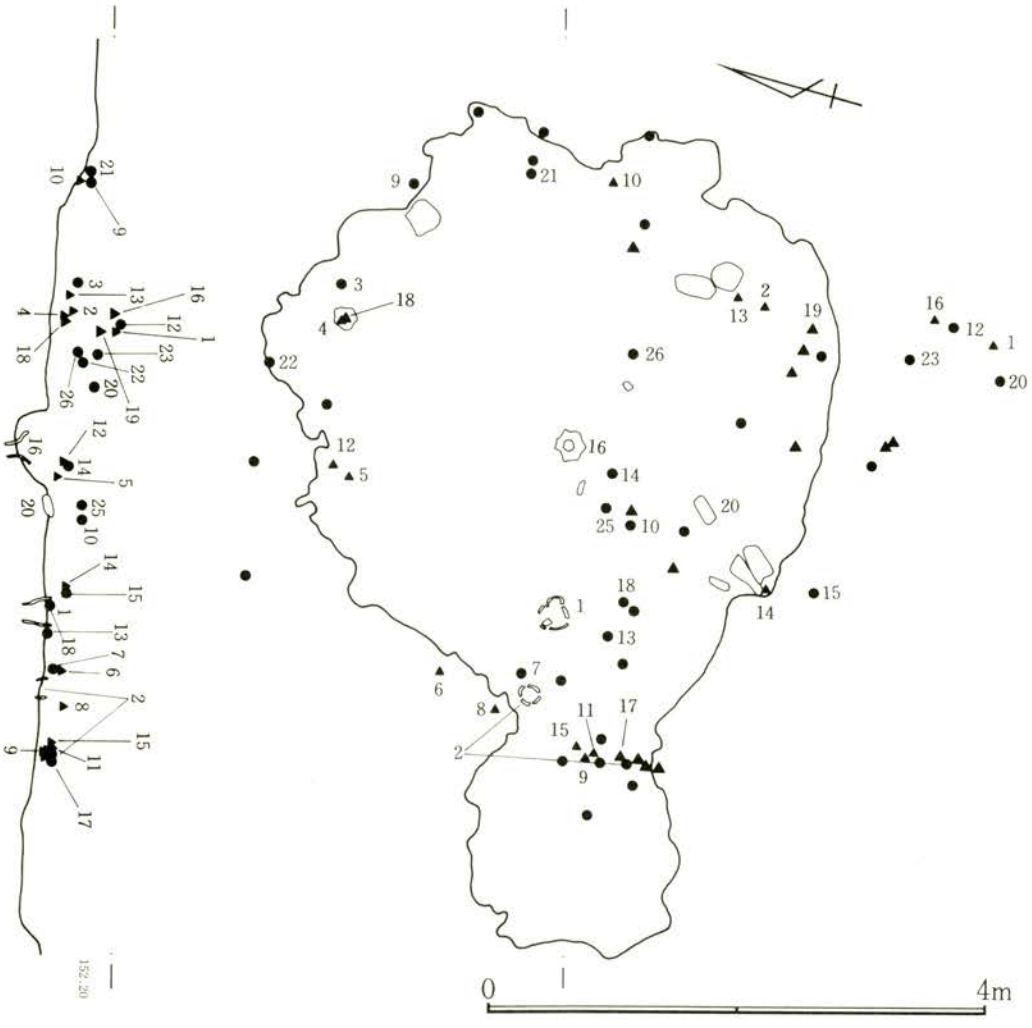
（中村）



図―10　Ｊ８号住居跡

Ｊ８号住居跡　（図―10・11・82～85、表―22～24、図版―８・79・80・121・122・147）

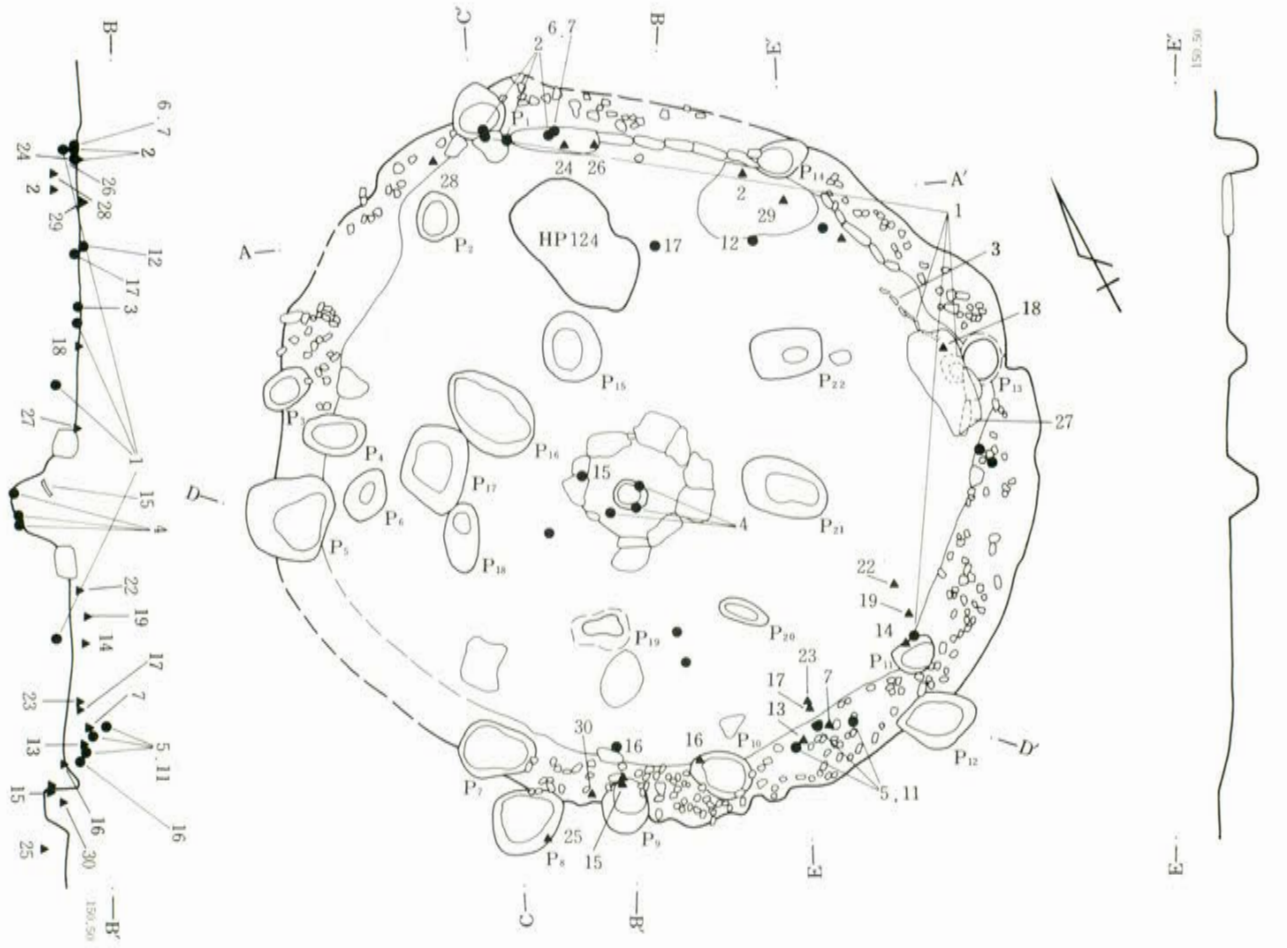
位置　西台地の西南端に寄ったＲ－３区に位置している。　**形状**　住居は柄鏡型をなし、西やや南の傾斜の低い方へ張り出し部がある。住居のほぼ中央に石囲い炉があり、炉の周辺から張り出し部にかけて石敷がある。敷石は炉の北側にも敷かれていた可能性もあるが、床面の状態から全面に敷石があったとはみられない。住居は東やや北の傾斜の高い方を掘りさげ半竪穴状に構築され、周縁部には礫がある。周縁部には25×30cm程の大きさの石が６個、周礫にたてかける状態で点在していた。床面の規模は南北3.75m、東西3.30m、面積10.4㎡。周礫を含む壁高は13～22cmである。張り出しは先端へゆるく傾斜し、幅は接合部接近が狭く、先端部が広い。長さ1.80m、最大幅1.50m、面積2.4㎡である。敷石本体と張り出しとの接合部には埋甕がある。　**ピット**　ピットは炉の近くに３つあるが柱穴とは考えられない。周礫内あるいはそれに接して、８つのピットがある。位置的にはよいが、やや浅く多少疑問が残る。　**炉**　炉は偏平な石で円形に近く囲い、現状で６石あり、北側は何石か失なわれたようにみえる。炉内には埋設土器がある。　**遺物**　遺物は土器と石器である。土器は称名寺１・２式が主体である。石器は打製石斧３、磨製石斧１があり、他に円礫８、敲石２、石棒１、石皿１、等あり豊富である。　（相沢）



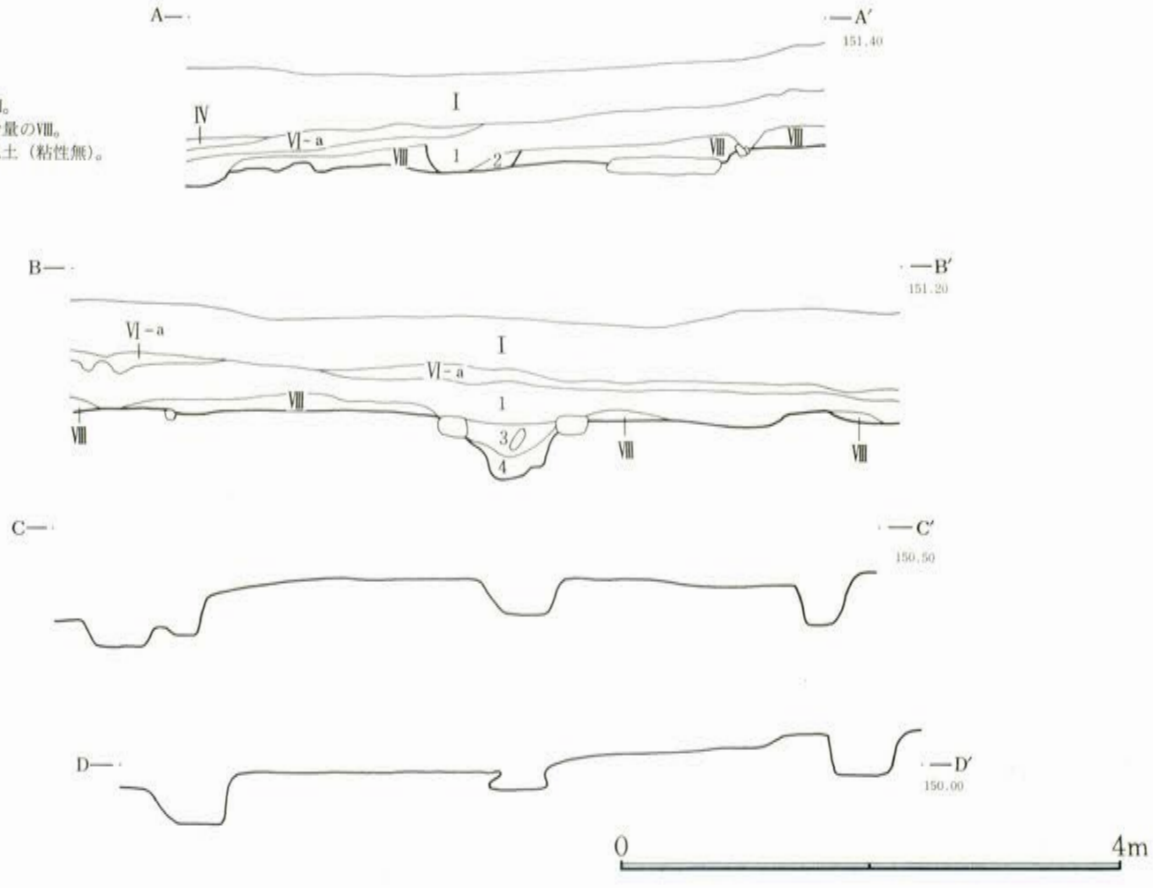
図－11　Ｊ８号住居跡遺物分布図

Ｊ９号住居跡　（図―12・86～90、表―25～27、図版―９・79・80・122・148）

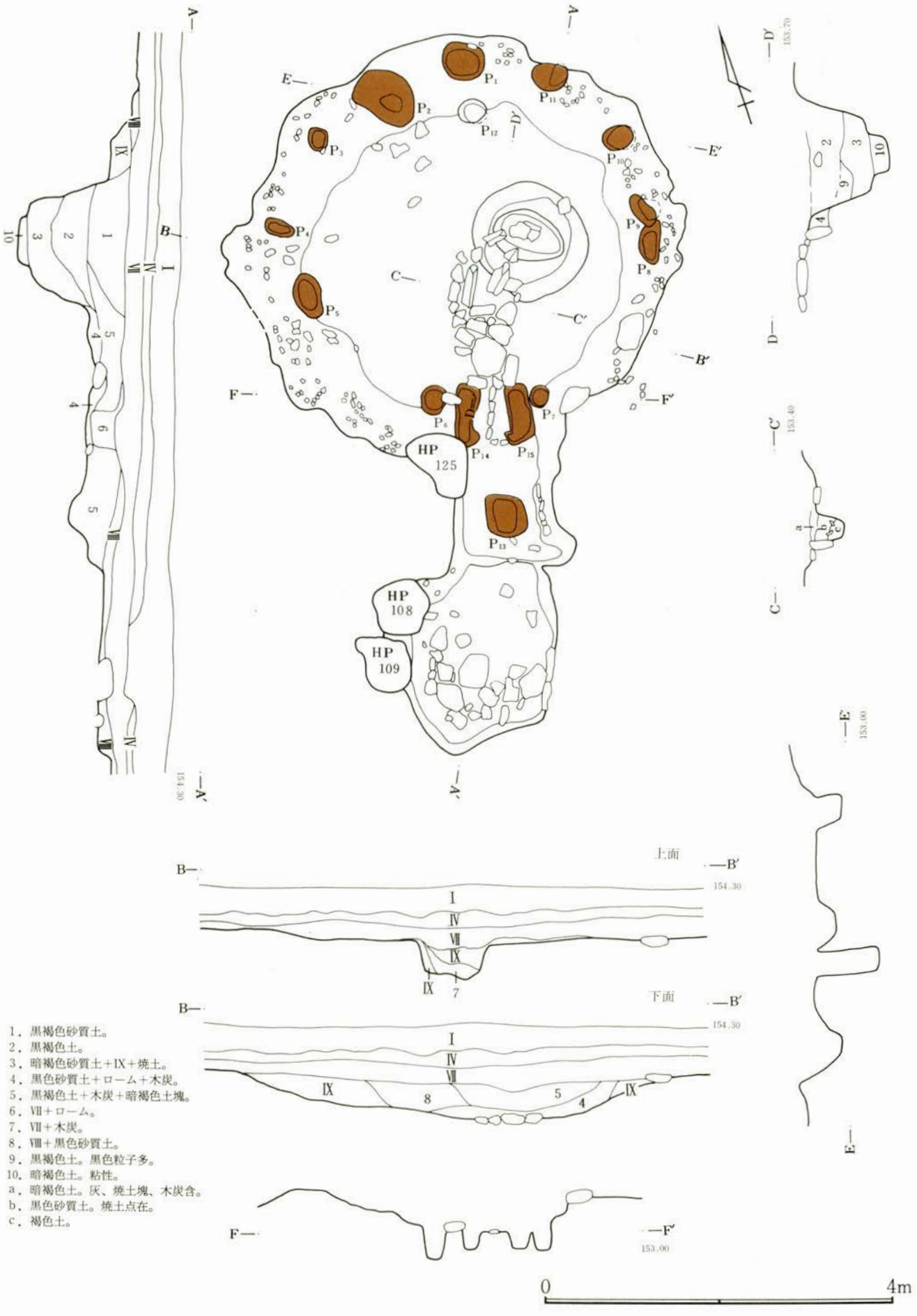
位置　台地の西縁付近、Ｓ－２区に位置する。西20mにＪ８号住がある。　**形状**　幅20～75cm、厚さ10～15cmの周礫帯の内側に、平板な石が数石敷かれている。敷石と周礫帯との接点は、細長い石を横に使い区画している。南西部は周礫を欠いている。平面形は、円形とも隅丸方形ともとれ、周礫帯の内側で南北5.0m、東西5.2m、面積は推定で20.3㎡を測る。壁高は15～33cmである。また南、南北方向に張り出しがあったかどうかは不明である。　**ピット**　柱穴と推定されるのは、床面周辺に接し周礫帯内にあるものと、炉周辺にあるものとがある。前者は径30～85cm、深さ25～57cmの大きさである。後者もほぼ同様か平面規模がやや大きい。　**炉**　住居中心からやや南西にあり、山石10石が残存する石囲い炉である。内法は1.20×1.06mで、炉内には厚さ17cmの焼土が認められた。　**重複**　本住居より新しいＨＰ124が炉の北にある。さらに、住居北の周礫帯に接してＪＰ120がある。新旧関係は不明である。　**遺物**　土器は称名寺２式が主である。石器は石斧、削器、円礫石器、石棒等が多く出土している。　（中村）



1．Ⅶ＋Ⅷ。
2．Ⅶ＋少量のⅧ。
3．暗褐色土（粘性無）。
4．焼土。



図－12　Ｊ９号住居跡

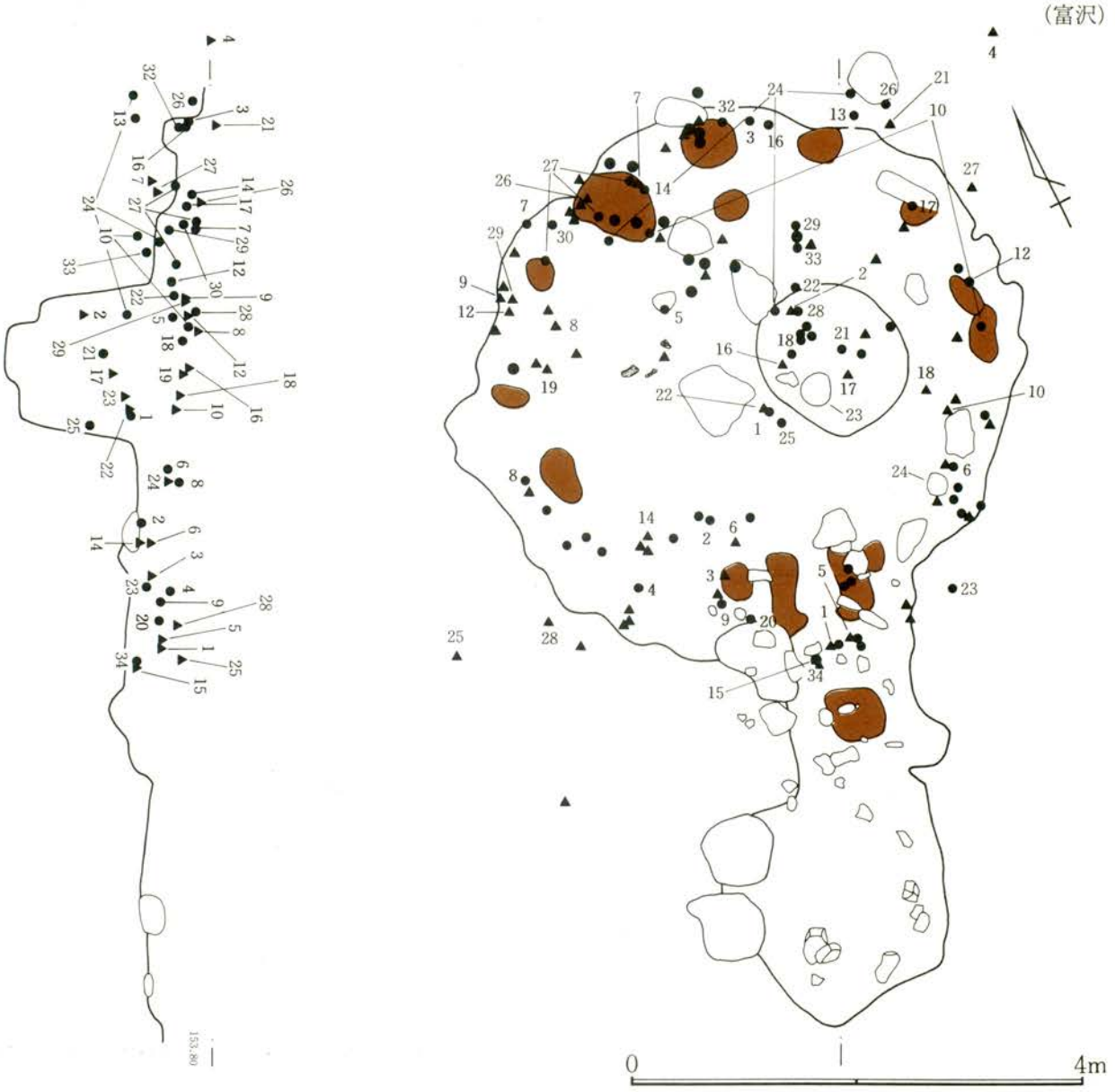

A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
E
E′
F
F′
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
P14
P15
HP 125
HP 108
HP 109
154.30
153.70
153.40
153.00
上面
下面
1．黒褐色砂質土。
2．黒褐色土。
3．暗褐色砂質土＋Ⅸ＋焼土。
4．黒色砂質土＋ローム＋木炭。
5．黒褐色土＋木炭＋暗褐色土塊。
6．Ⅶ＋ローム。
7．Ⅶ＋木炭。
8．Ⅷ＋黒色砂質土。
9．黒褐色土。黒色粒子多。
10．暗褐色土。粘性。
a．暗褐色土。灰、焼土塊、木炭含。
b．黒色砂質土。焼土点在。
c．褐色土。
0
4m

図－13　J 10号住居跡

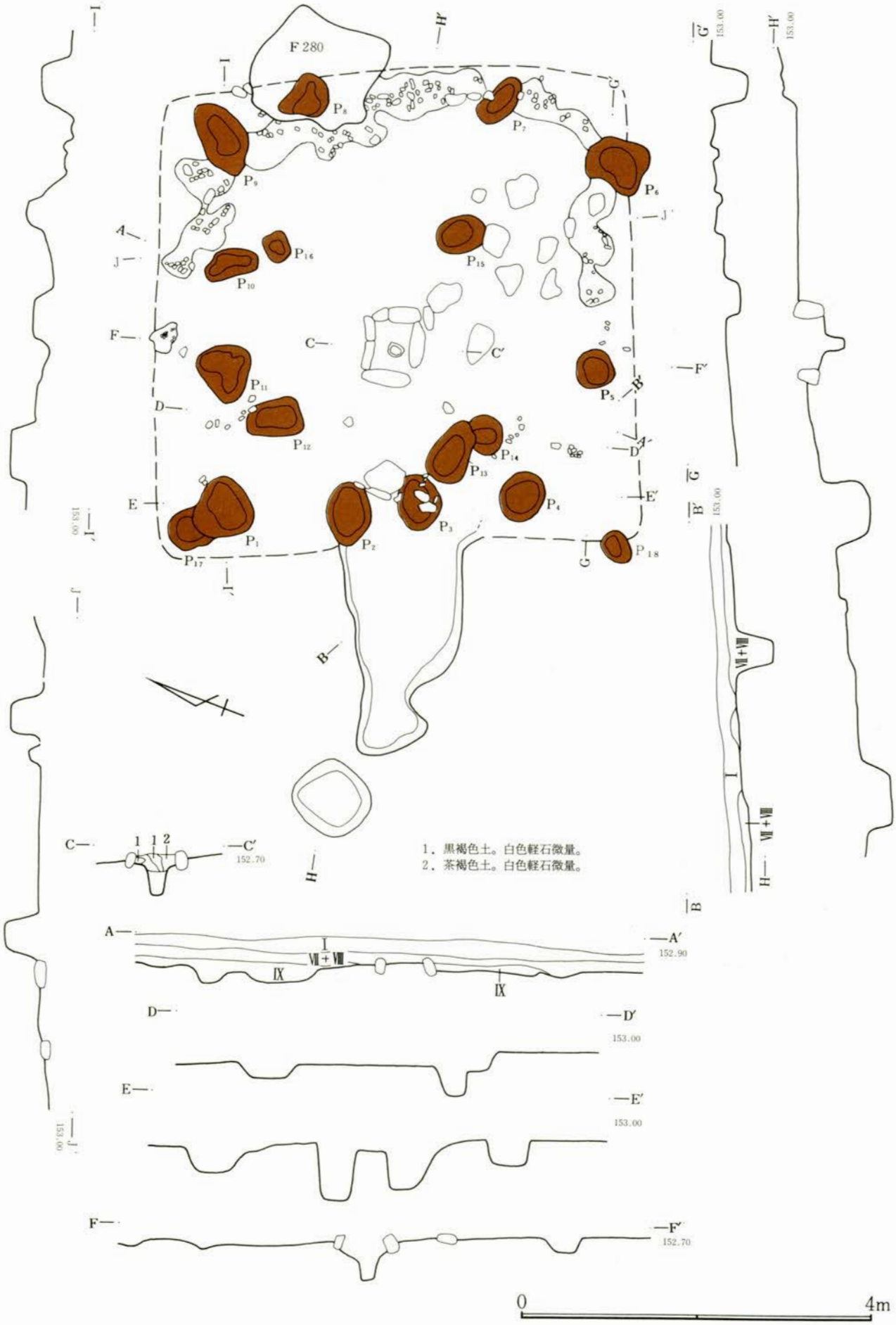
Ｊ10号住居跡　（図―13・14・91～95、表―28～30、図版―10・80・81・123・148）

位置　西台地の西側部分Ｒ－４区に位置する。西40ｍで崖際となる。東・西20ｍにＪ６・11号住、南10ｍにＪ53号住がある。　**形状**　南側に張り出しをもつ柄鏡型（敷石）住居跡である。主体部は幅40㎝程の周礫と重なるよう柱穴が巡る。この様子から主体部の平面形は円形を呈していると考えられる。主体部は周礫から40～50㎝内側より一段低くなっており、この面は張り出し部まで続く。主体部の規模は、柱穴間で東西3.6ｍ、南北7.0ｍ、面積は張り出し部を含め20.6㎡を測る。主軸はＮ―18°―Ｅに取る。敷石は炉の周囲より張り出し部にかけて幅60㎝、長さ160㎝の範囲に認められる。さらに張り出し部との接続付近には、60㎝伸びた後東へ直角に曲がる石列がある。この石列は張り出し部東壁ぞいの石列へ繋る。張り出し部は幅1.6ｍ、長さ4.0ｍで、途中幅が狭くなるが、中間で20㎝の段差があり、先端部分が高くなっている。　**ピット**　主体部の周礫と重なるよう11個のピットがある。径20～50㎝、深さ20～77㎝とばらつきがあるが、1.0ｍ前後の間隔で囲んでいる。主柱穴とみられる。張り出し部との接続部には、張り出し部に向かって「ハ」字形に開く深さ10㎝程の長方形ピット（P_{14}、P_{15}）があり、その間隔は30㎝と狭い。張り出し部中央には46×50㎝、深さ22㎝の方形ピット（P_{13}）があり、その他柱穴とみられるものは無い。また主体部中央には径1.34ｍ、深さ1.2ｍで円形の土坑がある。埋土上部に、炉石とみられる石があり、土坑南縁が炉の下に入ることから、炉を築く以前に埋められた土坑と考えられる。　**炉**　住居主軸線上に乗り、主体部中央からやや南寄りに位置する。大振りの転石の、側面を出して囲んだ石囲い炉で、北側の石は土坑の中に崩れ落ちている。規模は石の内法で東西20㎝、南北60㎝以上の細長い形をなす。内部上面に灰が残り、その表面は良く焼け、底面より土器片が出土している。　**重複**　張り出し部西壁際でＨＰ108・109・125と重複し、本跡より新しい。　**遺物**　土器は称名寺２式が主で、他に１式、堀之内式も出土する。石器は、石斧、削器、円礫、石皿、凹石、石棒等が多種で多量に出土している。

（富沢）



図－14　Ｊ10号住居跡遺物分布図

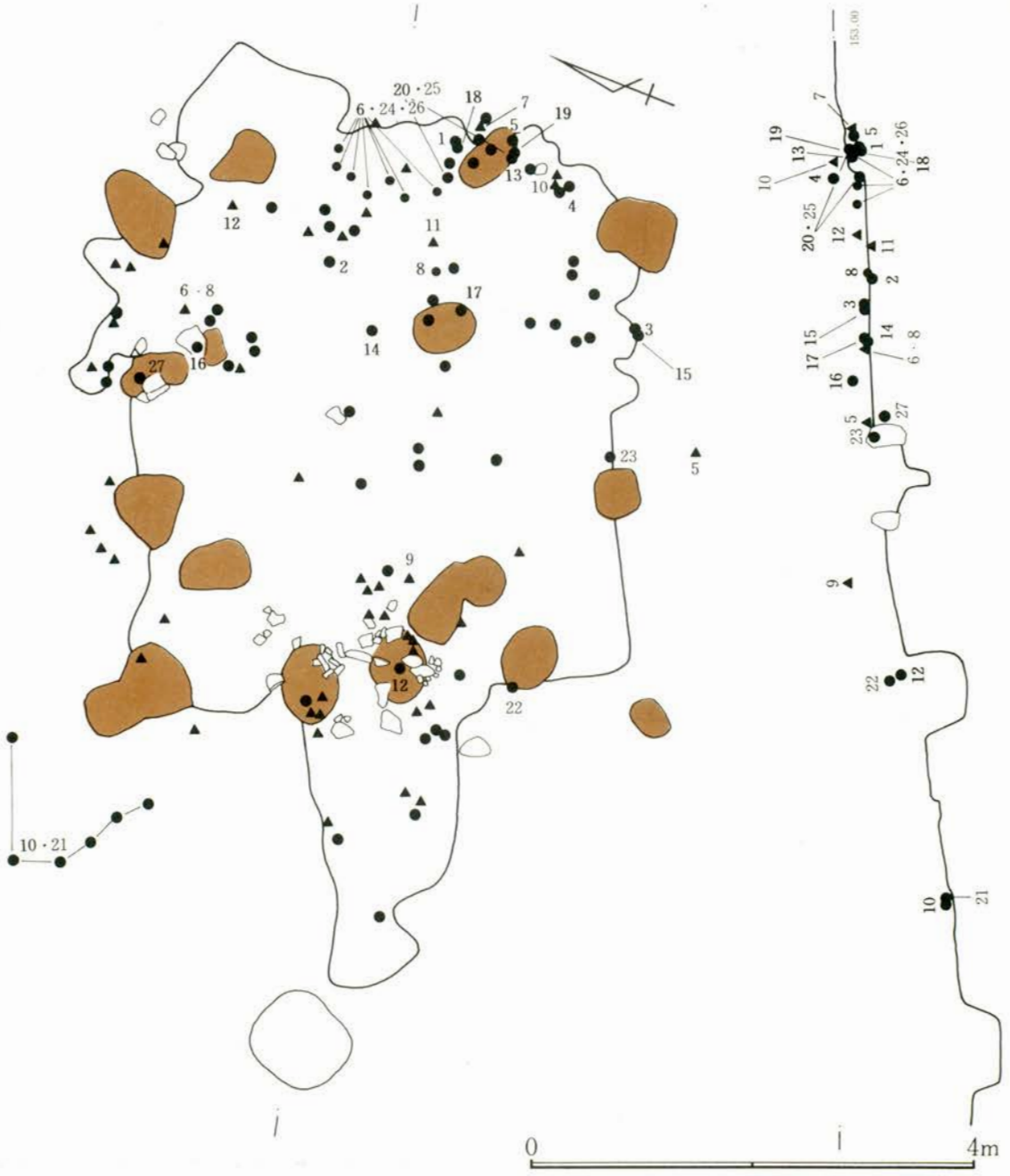

F 280
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
P14
P15
P16
P17
P18
1．黒褐色土。白色軽石微量。
2．茶褐色土。白色軽石微量。
152.70
152.90
153.00
0
4m

図－15　J 11号住居跡

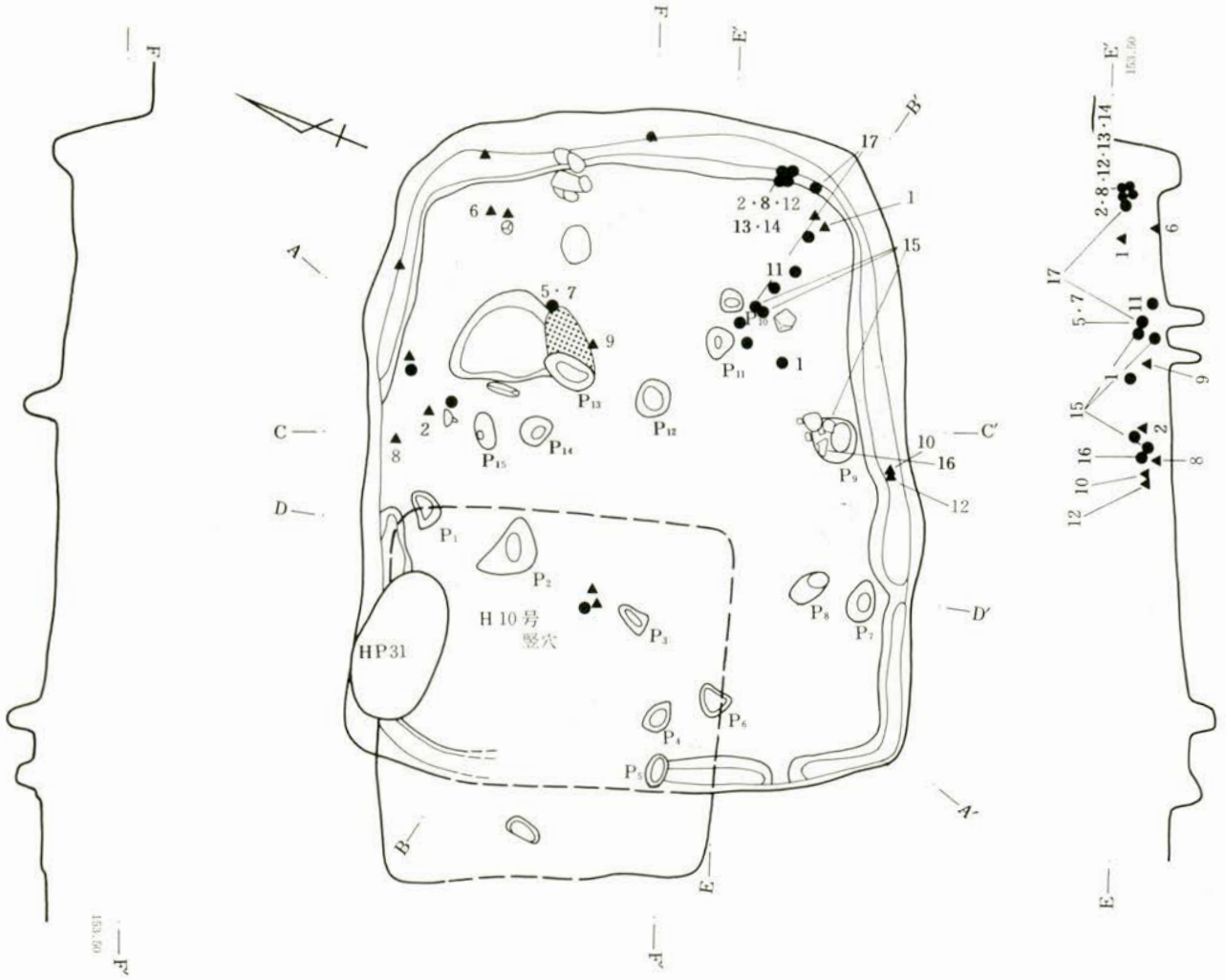
Ｊ11号住居跡　（図―15・16・96～98、表―31～33、図版―11・81・124・148）

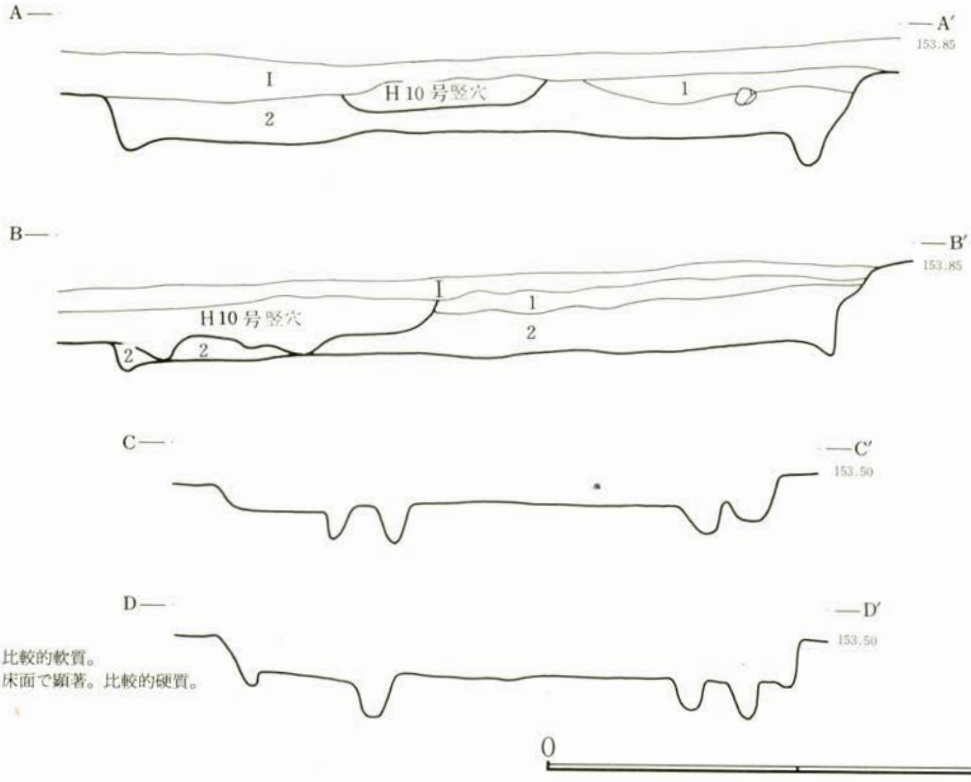
位置　西台地の南西隅Ｓ―４区に位置する。西側25ｍで崖線となる。本跡南西側には住居跡、土坑が多く、東側20～40ｍで同時期と考えられるＪ６、10号住居跡が並列する。　**形状**　南西側に張り出し部をもつ柄鏡型（敷石）住居跡である。奥壁及び左右両壁寄りに残る周礫の状況から、主体部は方形を呈していたとみられる。規模は床面上で南北4.26ｍ、東西4.4ｍ、面積は張り出し部を含め推定で20.6㎡である。床面は西側部分が攪乱を受け、全体的に残りが良くない。東側床面に扁平な石が散在する。全面に敷石されていたか判然としないが、あったとしてもまばらに存在していただけと考えられる。周礫は幅30～40㎝で認められ、この部分は浅い溝となっている。住居主軸はＮ―67°―Ｅに取る。張り出し部は幅11.2ｍ、長さ2.6ｍの範囲が30㎝程掘り込まれ、先端に行くにつれ幅狭となる。　**炉**　主体部中央で、転石からなる石囲い炉が存在する。外法で、南北93㎝、東西68㎝を測る。石表面は強く焼けている。また張り出し部との接続部分に扁平な石が置かれているが、埋甕はない。　**ピット**　周礫と重なる部分を中心に12個のピットがある。深さ20～40㎝で、柱穴とみられる。この他石囲い炉を囲む形でP_{12}～P_{16}の５個のピットがあり、15～39㎝の深さでやや浅いが、主柱穴と考えられる。張り出し部には浅いピットが多数検出されたが、柱穴とは考えがたい。　**重複**　奥壁北寄りでＦ280号土坑と重複する。新旧関係は、Ｊ11号住→Ｆ280号土坑の順で新しい。　**遺物**　土器は加曽利Ｅ４式が主であるが、他に称名寺１・２式が出土する。石器は石斧、楔形石器、石核、円礫、多凹石、石棒が出土している。

（富沢）



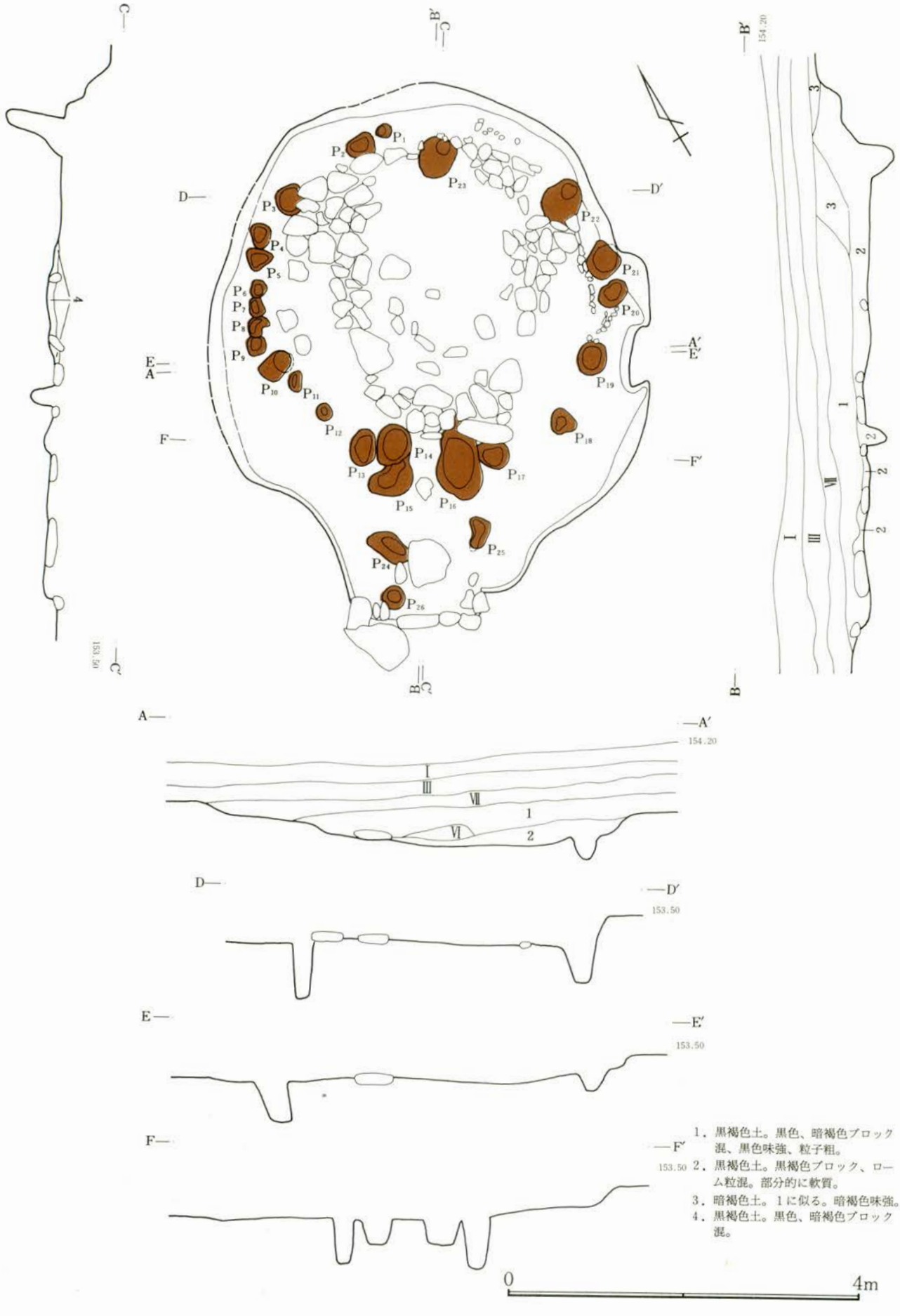
図―16　Ｊ11号住居跡遺物分布図





1．黒褐色土。ローム粒混。比較的軟質。
2．黒褐色土。ローム粒混。床面で顕著。比較的硬質。

図－17　J12号住居跡



1．黒褐色土。黒色、暗褐色ブロック混、黒色味強、粒子粗。
2．黒褐色土。黒褐色ブロック、ローム粒混。部分的に軟質。
3．暗褐色土。1に似る。暗褐色味強。
4．黒褐色土。黒色、暗褐色ブロック混。

図－18　J 13号住居跡

図－19　J13号住居跡遺物分布図

J12号住居跡

（図－17・99～100、表－34～36、図版－12・81・82・124）

位置　西台地の西南端に近いS－5区にあり、J11号住の北に位置している。　**形状**　住居の平面形はほぼ長方形で西南辺が少し広い。主軸方位はN－68°－Eで、規模は床面で長辺5.4m、短辺、3.60～4.40m、面積は推定で21.6㎡である。壁は北東が高く63cm、南西は自然傾斜でも低いのに、遺構の重複があり、20cmの高さである。周溝はほぼ全周しているが、北西壁の中央と南西壁の西半分では確認されなかった。周溝の幅は15～45cm、深さは7～17cmある。　**ピット**　床面と周溝内には径20～50cm、深さ13cm以上のピットが15あるが、位置的に対をなすのはなく、主柱穴と認める状態ではなかった。　**炉**　炉は北東壁から1.16m、北壁から1.28mの位置にあり、地床炉である。焼土は76×40cm、厚さ8cmである。この焼土に接して北西壁との間に80×80cm、深さ6cmの浅い凹みがあり、この凹みの西端には26×6cmの細長い石が据えてあり、炉に関係する遺構のようにみえる。　**重複**　この住居の南西隅付近ではHP31とH10号竪穴とが重複している。これらは地層より、J12→H10号竪穴→HP31の順で新しくなる。　**遺物**　土器は縄文を中心とする文様構成で黒浜式が主体である。石器は打製石斧、円礫石器、削器、尖頭器等が出土している。　（相沢）

J13号住居跡　（図－18・19・101～103、表－37～39、図版－13・82・83・124・148）

位置　西台地先端、U・V－8区に位置する。北東30mにJ14号住、南100mにJ6・10・11号住居跡が存在する。　**形状**　南西側に張り出しを持つ柄鏡型（敷石）住居跡である。主体部は周辺が攪乱を受け残存状態が良くないが、敷石、柱穴の状態から西壁の一部が直線的に伸び、東、北、南壁が弧を描く方形を呈するものとみられる。敷石の外側に巡る柱穴間で、東西4.7m、南北5.7m以上、面積は張り出し部も含め推定20.3㎡以上であろうか。敷石は主体部中央、西端部、及び東端部を除く範囲に認められる。扁平な転石・亜角礫を敷いており、張り出し部との接続付近には大振りな石が敷かれている。敷石の外側には幅20～30cmで周礫が巡っていたとみられ、北、東壁にその一部が残存する。張り出し部は幅1.2m、長さ2.0mの長方形を呈し、先端付近には大振りの扁平な石を敷き、緑泥片岩等の棒状の転石で縁を造っている。尚、周囲の地面（確認面）と敷石面との比高差は10～60cmある。張り出し部を含め南北6.20m、東西4.80mの卵状に南西斜面を掘り込み、住居を構築している。従って北東部では高さ40～60cmの壁が周礫の外側に認められるが、南西側では段差はごくわずかである。　**ピット**　周礫と重なって23個のピットがある。この内P_4～P_9を除いたP_1～P_3、P_{10}～P_{23}の各ピットは径20～50cm、深さ30cmで80～100cmの間隔で並ぶ。主柱穴と考えられる。P_4～P_9は、P_3とP_{10}の間に接するよう直線的に並び、径20～30cm、深さ15cm前後と浅い。この付近は住居の掘り込みが浅く、ほとんど壁がなく、丸太等を接する形で立て、壁としたことも考えられる。張り出し部はP_{14}とP_{16}、P_{24}とP_{25}が対応する位置にあり、先端にはP_{26}がある。これらはいずれも深さ10cm前後と浅いが、柱穴とみられる。　**炉**　主体部の中央より南寄りで住居の主軸線上に造られている。かなり攪乱を受けているが、残存する縁石から一辺が50cm程の方形石囲い炉であったことが分かる。25cm掘り込み、中には焼土、焼けたロームが厚く堆積していた。また主軸線に乗り、主体部と張り出し部の接続部に埋甕があり、周囲に大振りの転石が土器を囲むように敷かれている。　**遺物**　土器は加曽利E4式が主である。石器は石斧、削器、円礫、石棒が出土している。　（富沢）

J14号住居跡　(図—20・104・105、表—40～42、図版—14・82・125)

位置　台地の西縁近くのU－9区に位置する。J13号住の北東約28mに所在する。　**形状**　平面は方形で南北5.0m、東西4.9mあるが、南壁がやや短い。面積は24.3㎡である。壁高は地層断面図から55～70cmで、西、南壁が低い。壁下には周溝が深さ6～17cm、幅8～25cmの規模で全周している。床面はほぼ水平である。　**ピット**　住居内に8ケ所ある。西壁から1.3mの位置に壁と平行して4本並んでいる。P_4、P_5の間隔はP_1、P_7の間隔にくらべて狭く、P_1、P_4、P_5、P_7は台形を呈す。P_6、P_8は中央に寄っている。　**炉**　P_1とP_7の中間に川原石が南北に壁と平行して存在する。焼土、ピットは認められないが、炉の可能性もある。その他、住居内の北東及び東側に炭化物の出土があることから、焼失家屋の可能性もある。

遺物　土器片は少数で形態の判明するのはなく、文様は羽状縄文を主体として、黒浜式に比定される。石器は打製と磨製の石斧が2個づつ出土している。他に削器、円礫、敲き石が出土している。　(中村)

J15号住居跡　(図—21・106・107、表—43～45、図版—14・82・83・125)

位置　西台地の西端縁際にあたるV－9区に位置する。付近には30m東に離れてJ13・14・16号の各住居跡が存在する。　**形状**　2軒の住居跡が重複する。規模が小さく、深く掘り込まれた住居をJ15A号住居跡とし、規模が大きく、浅く掘り込まれている住居をJ15B号住居跡と呼ぶこととする。平面的にはJ15A号住居跡が、J15B号住居跡の南西部分に重なっている。

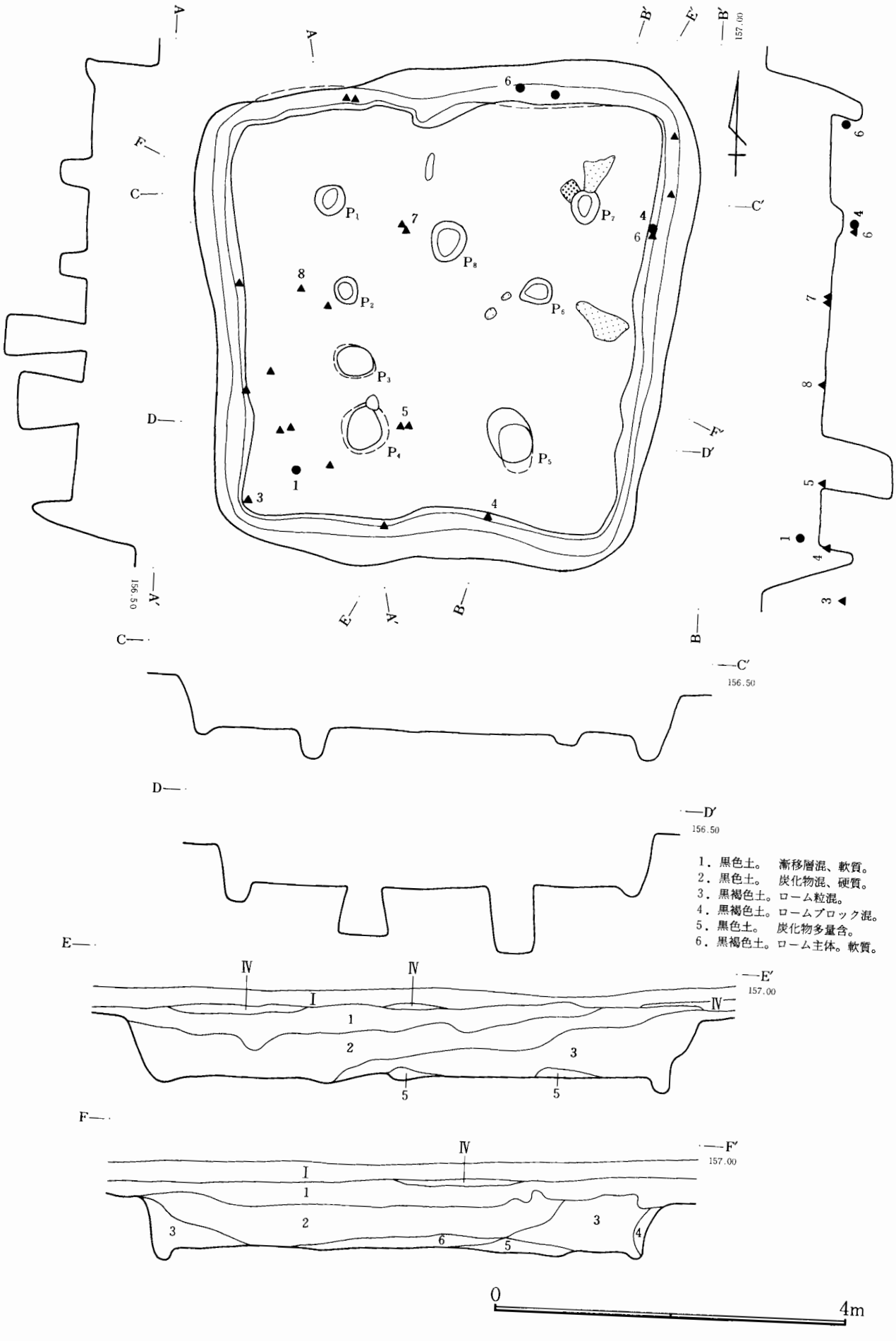
J15A号住居跡は、床面上で南北2.50m、東西2.30mの方形を呈し、面積5.6㎡を測る。主軸はN—30°—Eに取る。壁は直に立ち、西及び南壁で42cm程ある。東及び北壁はJ15B号住居跡と重複し、6～8cmと低くなっている。周溝は存在しない。また壁際には深さ10～20cm前後のピットP_1～P_5があるが、柱穴と考えられるものは見当たらない。北壁より内側に入った地点に埋甕がある。明確な炉跡は存在しないが、この埋甕付近が炉であった可能性がある。

J15B号住居跡は、床面上で南北3.54m、東西3.50mの方形を呈し、面積10.0㎡を測る。住居の主軸はN—55°—Wに取る。12～24cmの壁高が残り、壁は直に立っている。周溝は存在しない。また床面上には小ピットが存在するが、柱穴とみられるものは無い。　**重複**　埋土の様子から、J15A→J15Bの前後関係が知れる。またHP37がその後掘られ、その上をW5号溝が東西方向に走行する。さらに北西壁上端で、N40号遺構に重複する。　**遺物**　土器は黒浜式を主とする。石器は尖頭器、掻器、凸刃削器が出土している。

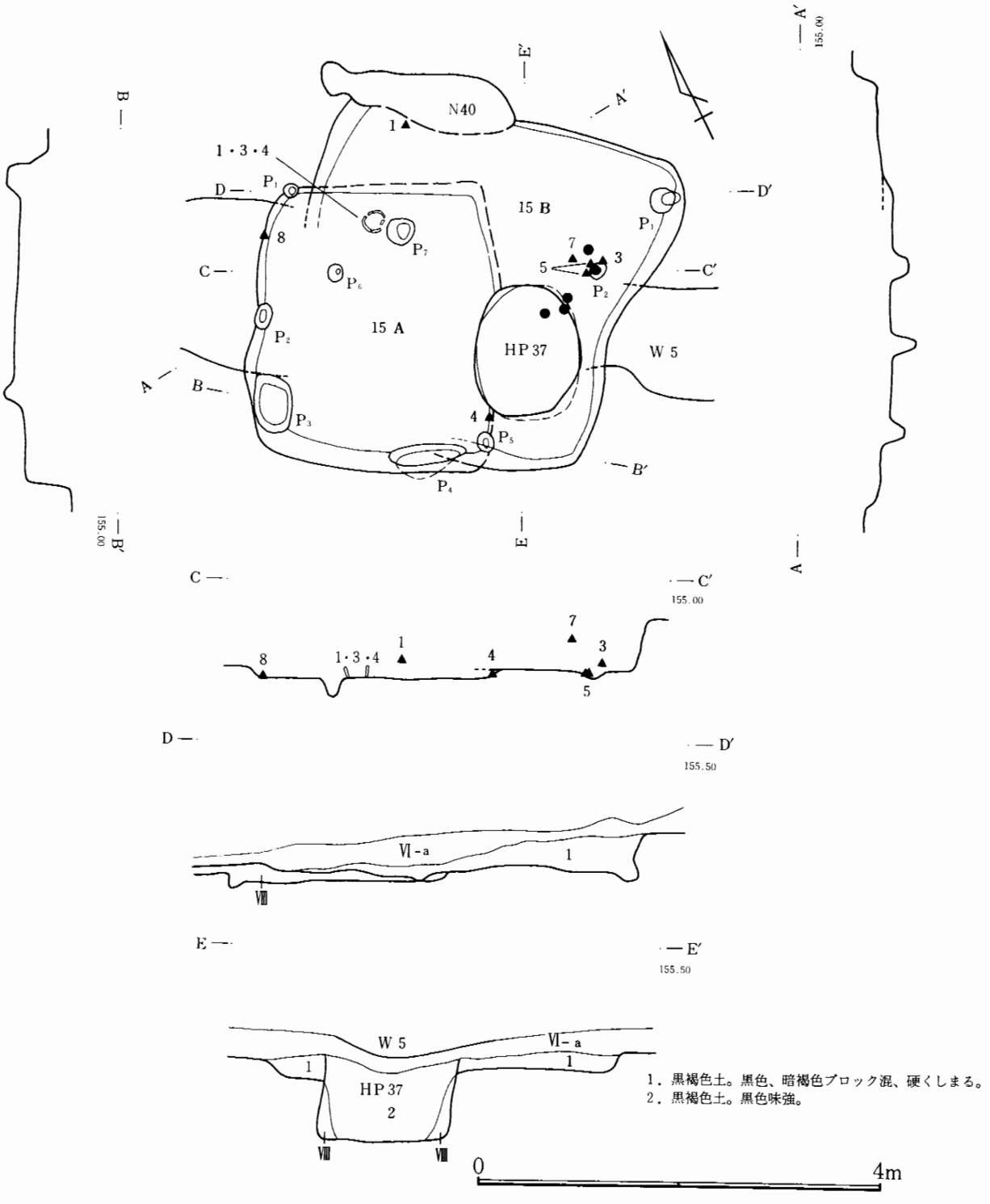
(富沢)

J16号住居跡　(図—22・108・109、表—46～48、図版—15・83・125・147)

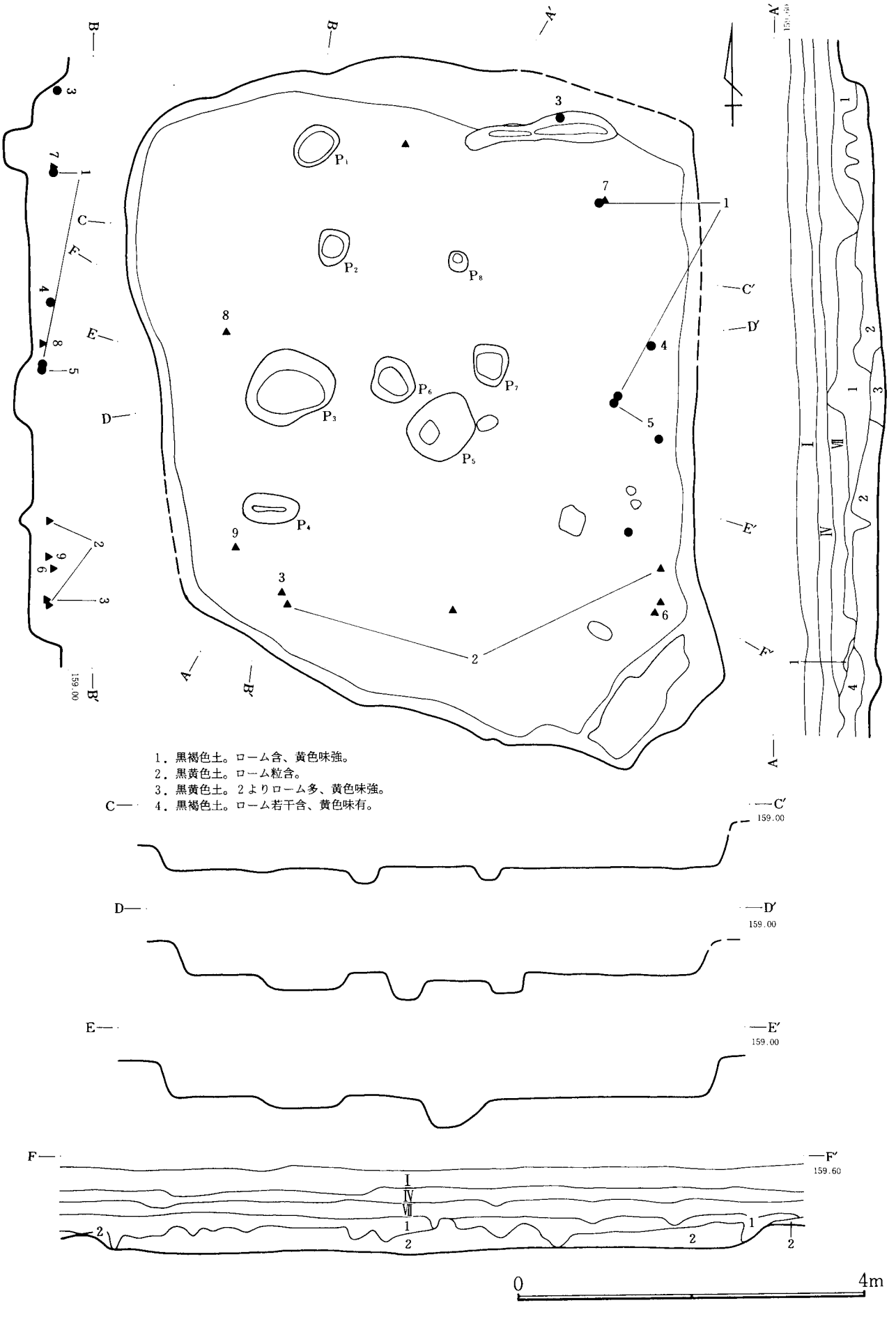
位置　西台地の西端で、南北では中央からやや北寄りのR—11・12区に位置している。　**形状**　住居の平面形はやや菱形状の長方形で、主軸方位はN—3°—Wである。北東隅と南西隅が鋭角であるが、南東隅は隅が切られたような隅丸を呈している。規模は西辺5.60m、東辺6.80m、北辺6.17m、南辺5.55m、面積37.5㎡である。壁は地層の状態から確定しにくい部分があり、全体に凹凸があり、急傾斜部分と緩傾斜部分とがみられた。壁高は自然地形に添って、東側が高く48cm、西側が低く23cmであった。南壁下東寄りには一部周溝状の凹みがあるが、浅くて部分的であり、周溝か否か疑問である。　**ピット**　ピットは直径20～100cm、深さ13～31cmの規模のが8つあるが、位置的にみて対をなすものはみあたらず、骨格となるような主柱穴は確認されなかった。　**炉**　床面中央付近には浅い凹みはあるが、焼土はなく、炉と認められるものは見い出せなかった。主柱穴、炉を欠くこの竪穴は住居か否かの疑問もあるが、遺物の出土状態、竪穴の状態はこの時期の住居と共通しており、炉の施設のない点がやや特異ではあるが、竪穴住居と推定される。　**遺物**　遺物は土器と石器が出土している。土器の文様は縄文が中心であり、黒浜式である。石器には石錐、石匙、円礫石器、掻器がある。　(相沢)


A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
E
E′
F
F′
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
156.50
157.00
1．黒色土。　漸移層混、軟質。
2．黒色土。　炭化物混、硬質。
3．黒褐色土。ローム粒混。
4．黒褐色土。ロームブロック混。
5．黒色土。　炭化物多量含。
6．黒褐色土。ローム主体。軟質。
Ⅰ
Ⅳ
0
4m

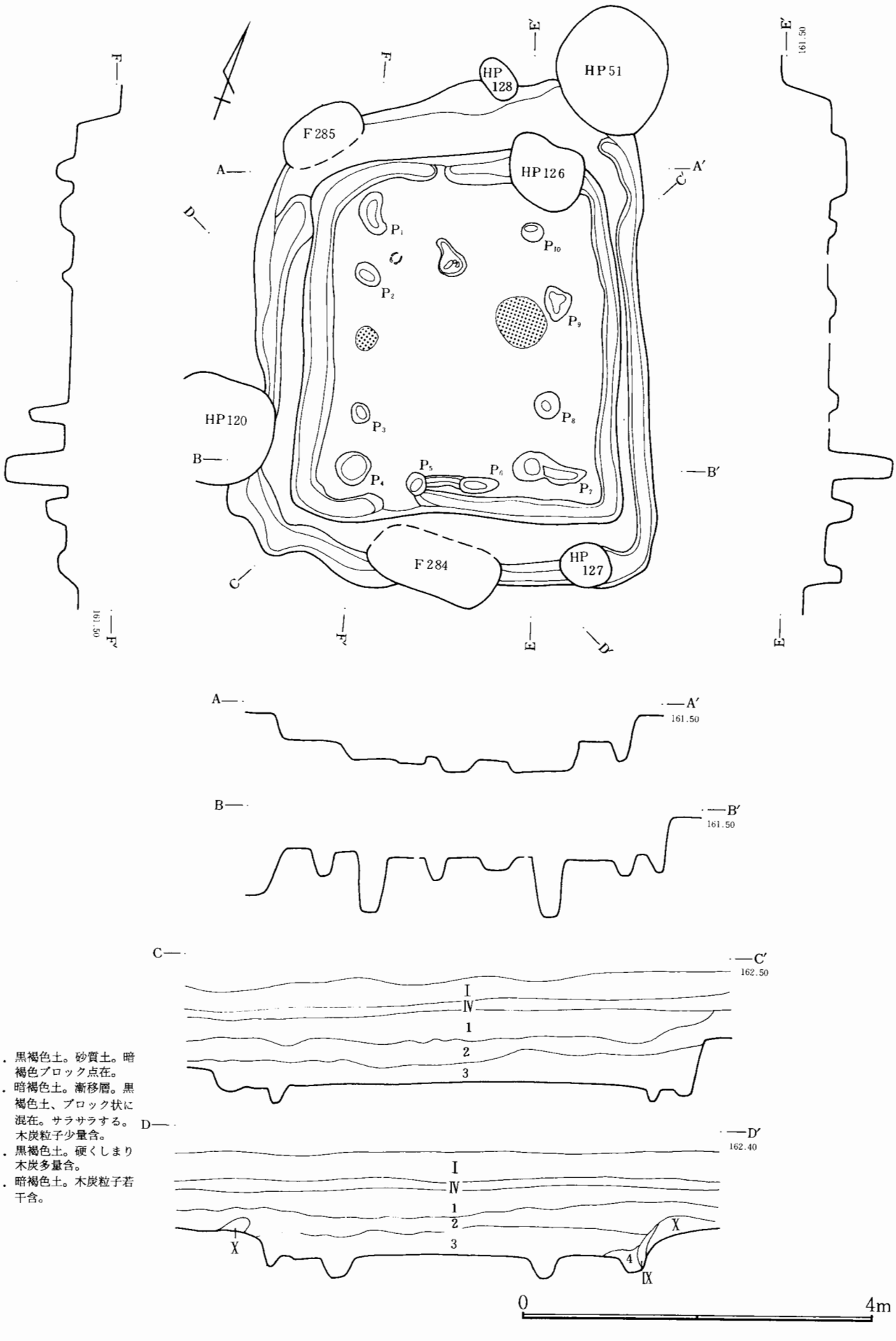
図－20　J 14号住居跡


N40
15 A
15 B
HP 37
W 5
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
1・3・4
1
2
3
4
5
7
8
A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
E
E′
155.00
155.50
Ⅵ-a
Ⅷ
1. 黒褐色土。黒色、暗褐色ブロック混、硬くしまる。
2. 黒褐色土。黒色味強。
0
4m

図－21　J 15号住居跡


1．黒褐色土。ローム含、黄色味強。
2．黒黄色土。ローム粒含。
3．黒黄色土。2よりローム多、黄色味強。
4．黒褐色土。ローム若干含、黄色味有。
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
159.00
159.60
0
4m

図－22　J 16号住居跡

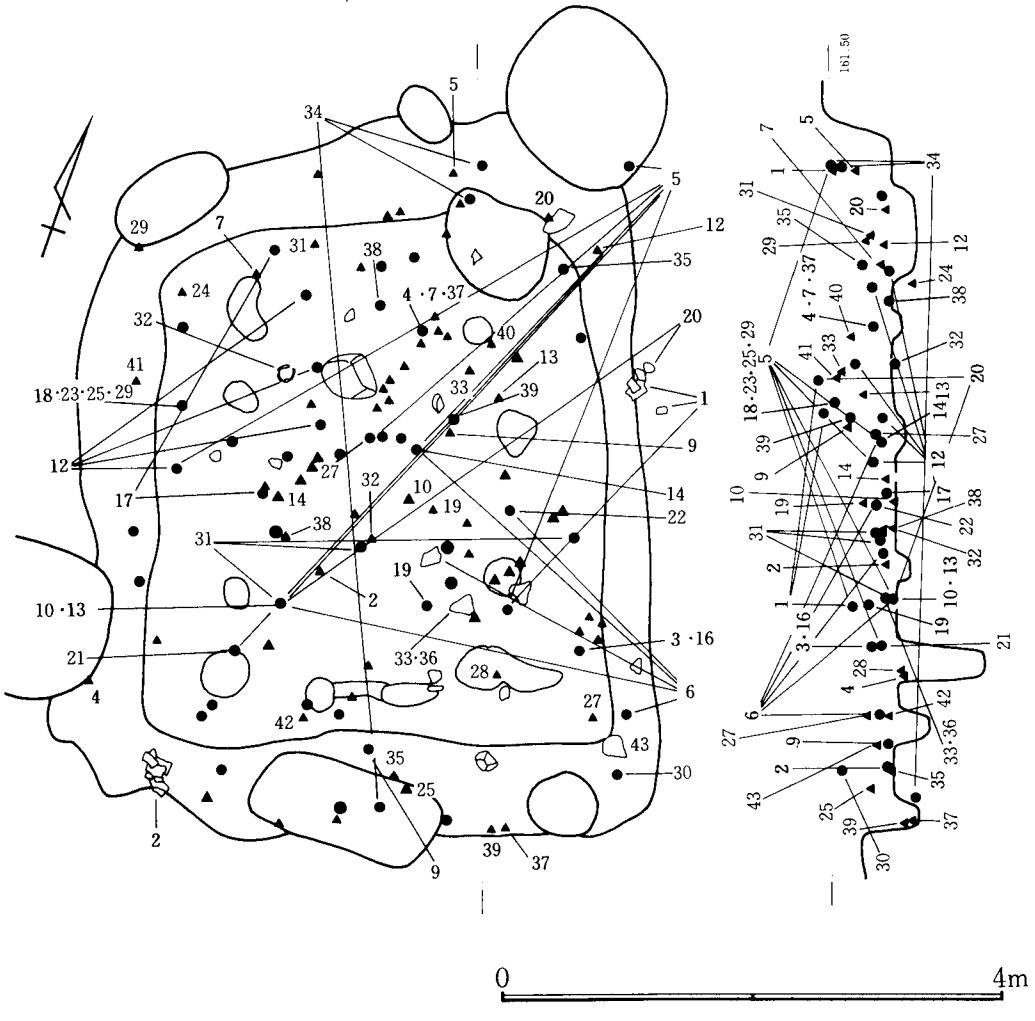

HP 128
HP 51
F 285
HP 126
HP 120
F 284
HP 127
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
E
E′
F
F′
161.50
162.50
162.40
1. 黒褐色土。砂質土。暗褐色ブロック点在。
2. 暗褐色土。漸移層。黒褐色土、ブロック状に混在。サラサラする。木炭粒子少量含。
3. 黒褐色土。硬くしまり木炭多量含。
4. 暗褐色土。木炭粒子若干含。
0
4m

図－23　J 17号住居跡

Ｊ17号住居跡　（図—23・24・110～115、表—49～51、図版—15・83～85・126・127・147・148）

位置　西台地の北北西端付近T・U—16区に位置する。西側40mで崖となる。東側12mにＪ18号住がある。 **形状**　N—22.5°—Wに主軸を取る台形を呈する。周溝が二重に囲んでいる。周溝は北壁部で切れる。住居の規模は内側周溝の外法で南北4.06m、東西は北壁寄りで3.40m、南壁寄りで3.74mある。また外側周溝では、南北5.20m、東西は北壁寄りで3.84m、南壁寄りで4.46m、面積は推定21.5㎡である。地層断面の観察から、内側周溝部から外側周溝部の範囲まで住居を拡張したと考えられ、両段階においても南側がやや広がる台形状の平面形であったとみられる。壁は直に立ち、北壁及び東壁部分で24cm前後、南・西壁部分では10～20cmと浅くなっている。このことは付近の地形が南西斜面になっていることに起因している。 **炉**　床面には3ケ所の炉が存在する。炉1は住居中央より東へ1.0mの位置にあり、径54cmの円形に焼土が存在する。地床炉である。炉2は北西隅にあり、埋甕炉である。炉3は住居中央より西へ1.0mの地点にある。炉1と対応するようにあり、30×25cmの範囲が若干焼けている。この他炉2の東側50cm、住居主軸線上に40×30cmの浅い落ち込みがある。中より3個の石が出土している。明確な焼土等は認められなかったが、その位置から炉として使われた可能性も考えられる。 **ピット**　床面上から10個のピットが検出された。P_1～P_4、P_7～P_{10}が2.7～3.0mの間隔をあけ、住居主軸に沿って並列し、P_4とP_7の中間にP_5、P_6が各80cmの間隔で存在する。しかし床面からの深さについてみると主柱穴と考えられるものは、深さ40cmのP_3、63cmのＰ4、68cmのP_7のみであり、他のピットはいずれも深さ10cm前後の浅いものであった。尚、これらのピットが拡張前後の何れの住居に伴うものか判然としなかった。ただP_5、P_6は拡張前の住居の出入口に関係する支柱穴とみることもできそうである。 **重複**　ＨＰ51、120、126、127、128及びＦ284、285と重複し、いずれも本跡より新しい。 **遺物**　土器は黒浜式を主とする。石器は多様で、垂飾品、石錐、尖頭器、石斧、石匙、削器、円礫などが出土している。

（富沢）



図—24　Ｊ17号住居跡遺物分布図

J18号住居跡　(図—25・116～118、表—52～54、図版—16・85・86・127)

位置　西台地の北西隅、T—16区に位置する。　**形状**　住居の平面形は南北に少し長い長方形で、周溝部分を除く床面での規模は南北3.7m、東西3.3m、面積10.8㎡である。主軸方位はN—7°—Eである。壁高は自然地形にしたがい東が高く49cm、西が低く33cmである。壁下には幅の広い周溝が、北壁の東3分の2を除いて全周している。　**ピット**　住居床面には柱穴らしいピットはなく、周溝内にピットがある。ピットは南辺、東辺にそれぞれ2つ穿たれている。西辺の溝は深く、全体がピットと見られる状態である。周溝の幅は上幅35～75cm、下幅20～40cm、深さは8～16cmである。周溝内のピットは床面より13cmのが1つあるが、他は26cm、29cm以上の深さであり、西側の周溝は深さ38～43cmである。**炉**　炉は埋設土器炉である。北壁中央から70cm南に埋設土器があり、この土器を中心として直径50cmが浅く凹んで焼け込んでいる。またこの土器より住居の中央にかけて、90cmの範囲に焼土がブロック状に混入する土が厚さ24cmで堆積していた。特に下部7cm前後では炭化物も混入していた。　**重複**　この住居に接して西側にH92号住居が、西南隅にはF286がある。　**遺物**　遺物は土器と石器があり、土器は黒浜式が主体であり、土製円盤も出土した。石器は打製石斧、石匙、磨石、尖頭器、掻器等がある。　(相沢)

J19・23号住居跡　(図—26・119～124、表—55～57、図版—16・18・86～88・127・128・147・148)

〔J19〕　**位置**　西側台地の南西端R—1区に位置する。周辺は台地内でも竪穴住居跡・土坑の多いところであるが、その西端に所在する。　**形状**　円形に近い隅丸方形。規模は、南北3.6m、東西3.7m、面積11.3㎡を測る。壁現高は13～25cmで、地層断面では64cmを測る。長軸方向はN—88°—E。周溝が全周する。幅は22～36cmで深さは4～9cmである。　**ピット**　床面6ケ所。うち2ケ所は周溝内(P_4、P_5)。P_3 がややずれているが、P_1、P_2、P_3、P_6 が主柱穴で、P_4、P_5 は出入口に係わるものか。径は P_1、P_2、P_6 が40～60cm、P_3 が一回り小さい。深さは25～47cm。P_4、P_5 は長円形でやや浅い。　**炉**　床面中央部やや南に焼土の分布がみられた。やや掘りすぎてはいるが、円形ピット状の掘り形をなす。径約40cm。　**重複**　J23号住(旧)、W88(新)と重複する。

〔J23〕　**形状**　不整方形。規模は南北4.5m、東西4.8m、面積19.3㎡を測る。壁現高は25～52cm。周溝はない。長軸方向はN—88°—E。　**ピット**　壁際、壁下、周囲に16のピット。J19・23に係わるピットのうち位置と、底面レベルがJ19床面上より高いことでJ23のピットとした。しかし、P_2、P_5、P_7、P_9、P_{14}、P_{15}、P_{16} についてはJ19に係わるとみることもできる。径20～30cmで深さ10cm程度のもの、径70～40cmで深さ20cm程度のものとがある。壁内のピット(P_1、P_3、P_4、P_6、P_{10}、P_{11}、P_{13})は径が60～70cmと大きく、深さも40～60cmと深い。地層断面からJ23に伴うピットである。柱居内施設はJ19との重複で失なわれ不明である。　**遺物**　平面的にはJ23住とみられるものもあるが、レベルでみるとJ19住とみられる。土器は黒浜式を主とする。石器は石鏃、削器、石匙、棒状石器、石斧、掻器、石核、円礫、多凹石が出土している。

(井野)

J20号住居跡　(図—27・125～129、表—58～60、図版—17・88・128・147・148)

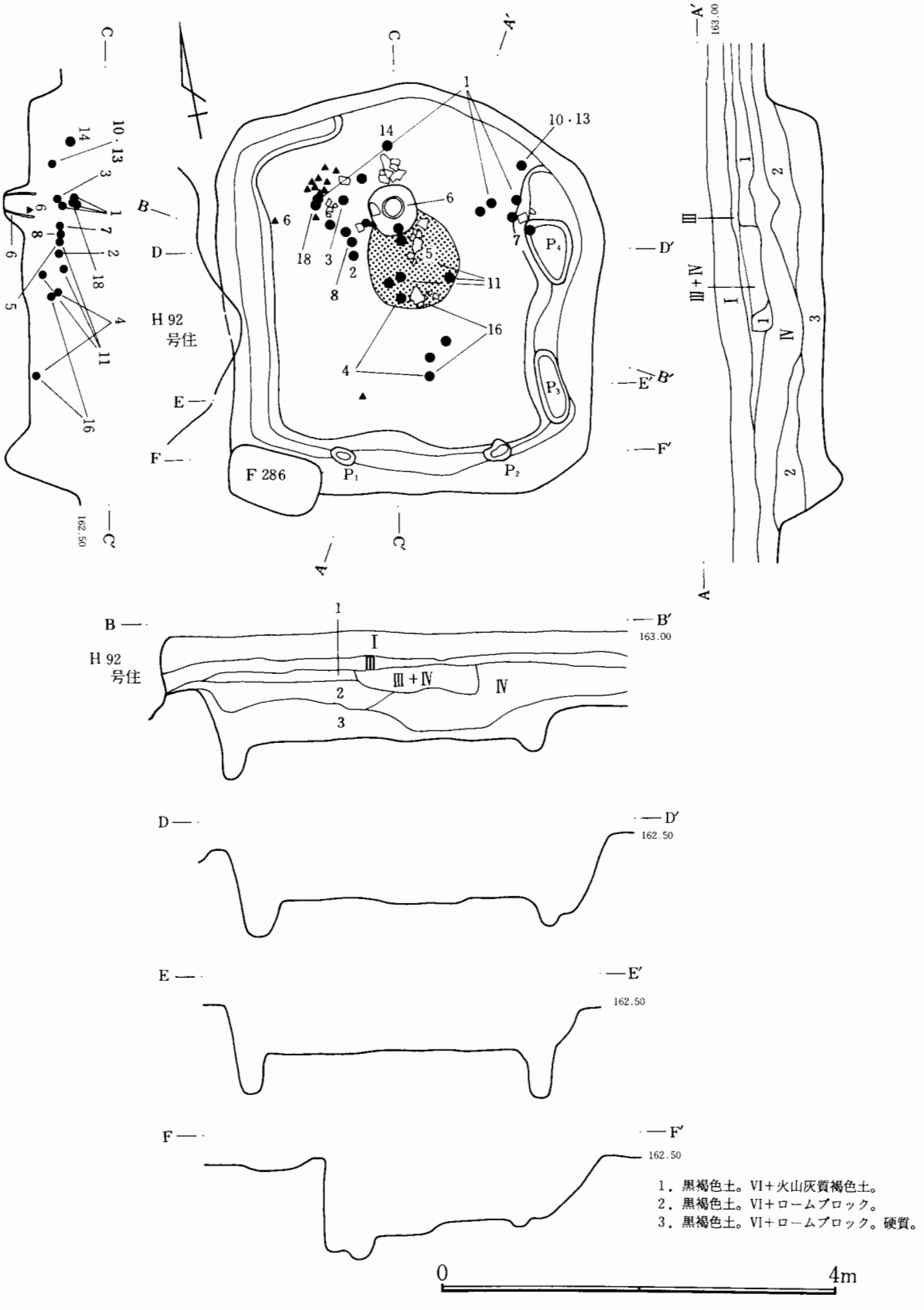
位置　西側台地南西端のR—1・101区に位置する。　**形状**　長方形。北辺に比べ南辺が長く台形に近い。規模は南北4.6m、東西3.8m、面積は16.4㎡。壁現高は13～40cm、地層断面からは40cmを測る。長軸方向はN—12°—W。周溝が全周する。幅20～39cmで、深さは9～26cmあり、しっかり掘られている。　**ピット**　床面3ケ所。P_1、P_2 は北辺周溝内にある。径は25～28cmで深さ40～48cm。柱穴と考えられる。P_3 は床面中央に近く、径47～67cm、深さ23cmで周囲より焼土が検出されている。　**炉**　P_3 のやや東より焼土面が検出されている。80×45cm。厚さ4cm。また、P_3の北より埋設土器が検出されている。　**重複**　JP140と重複する。地層断面よりJP140が新しい。また壁際上面でF287、288と重複する。　**遺物**　土器は黒浜式が主とする。石器は石錐、尖頭器、石斧、削器、円礫などが出土している。

(井野)

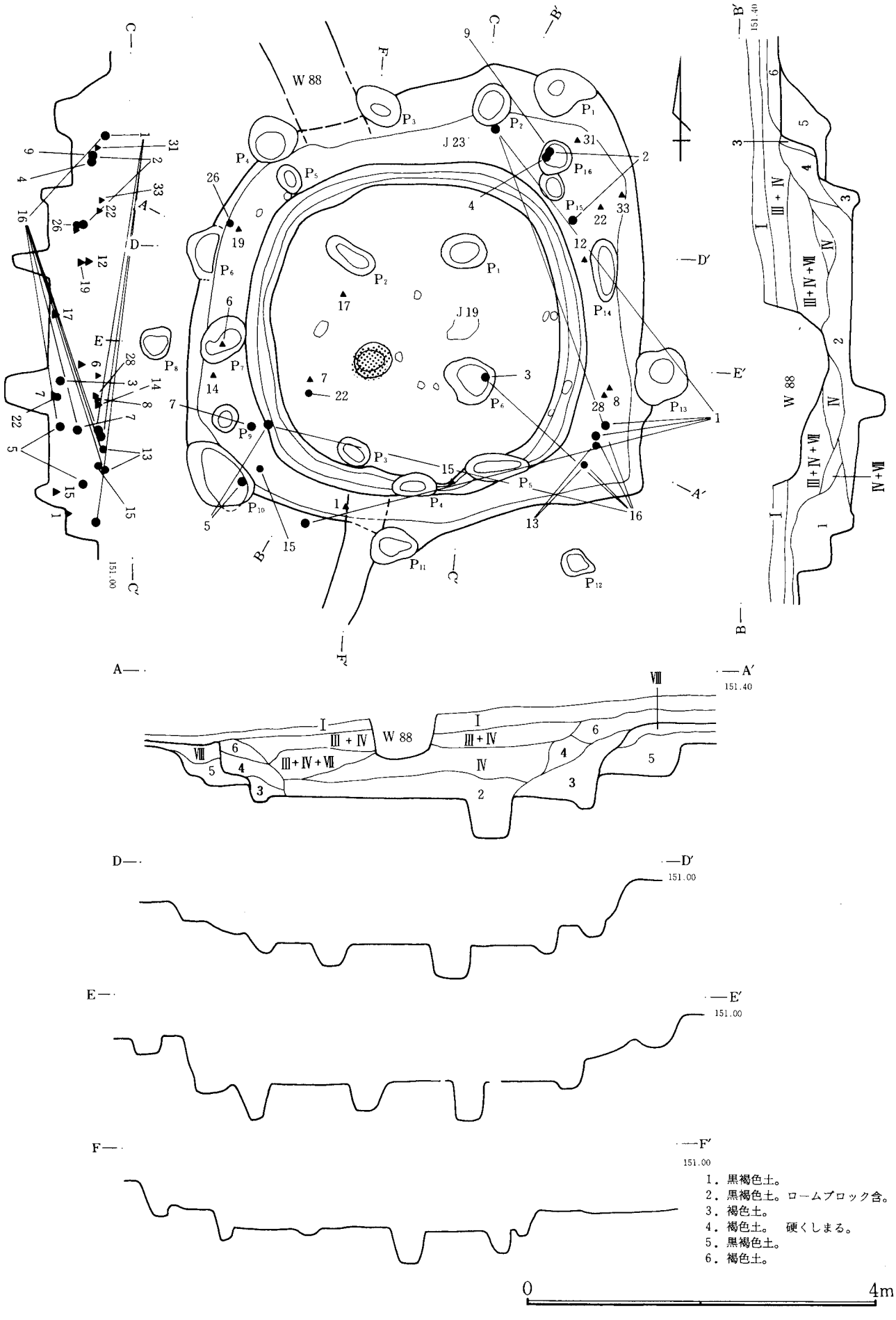
J21号住居跡　(図—28・130～132、表—61～63、図版—17・88・89・129・148)

位置　西台地の南西端にあたるQ—1区に位置する。付近にはJ19・23号住を初めとして20軒程の住居跡と多数の土坑が存在する。　**形状**　N—20°—Eに主軸を取る方形である。東西幅は北壁側に比べ南壁側の方が40cm程広くなっている。規模は壁下端間で、東西は北壁寄りで3.6m、南壁寄りで4.0m、南北4.0mを測り、面積は15.4㎡である。壁下には上幅20cm、床面よりの深さ10cm程の周溝が巡る。しかし、北東隅及び北壁東側半分の範囲には、周溝は存在しなかった。**炉**　住居中央 P_1 付近においても焼土等の痕跡は認められなかった。　**ピット**　床面上には径40～80cm、床面よりの深さ18～30cmの隅丸方形のピットが4個(P_1～P_4)存在するが、柱穴とみられるものはない。　**重複**　北壁上半部でHP53号土坑と重複する。　**遺物**　土器は諸磯a式を主とする。石器は石斧、削器、円礫、磨石、石皿が出土している。

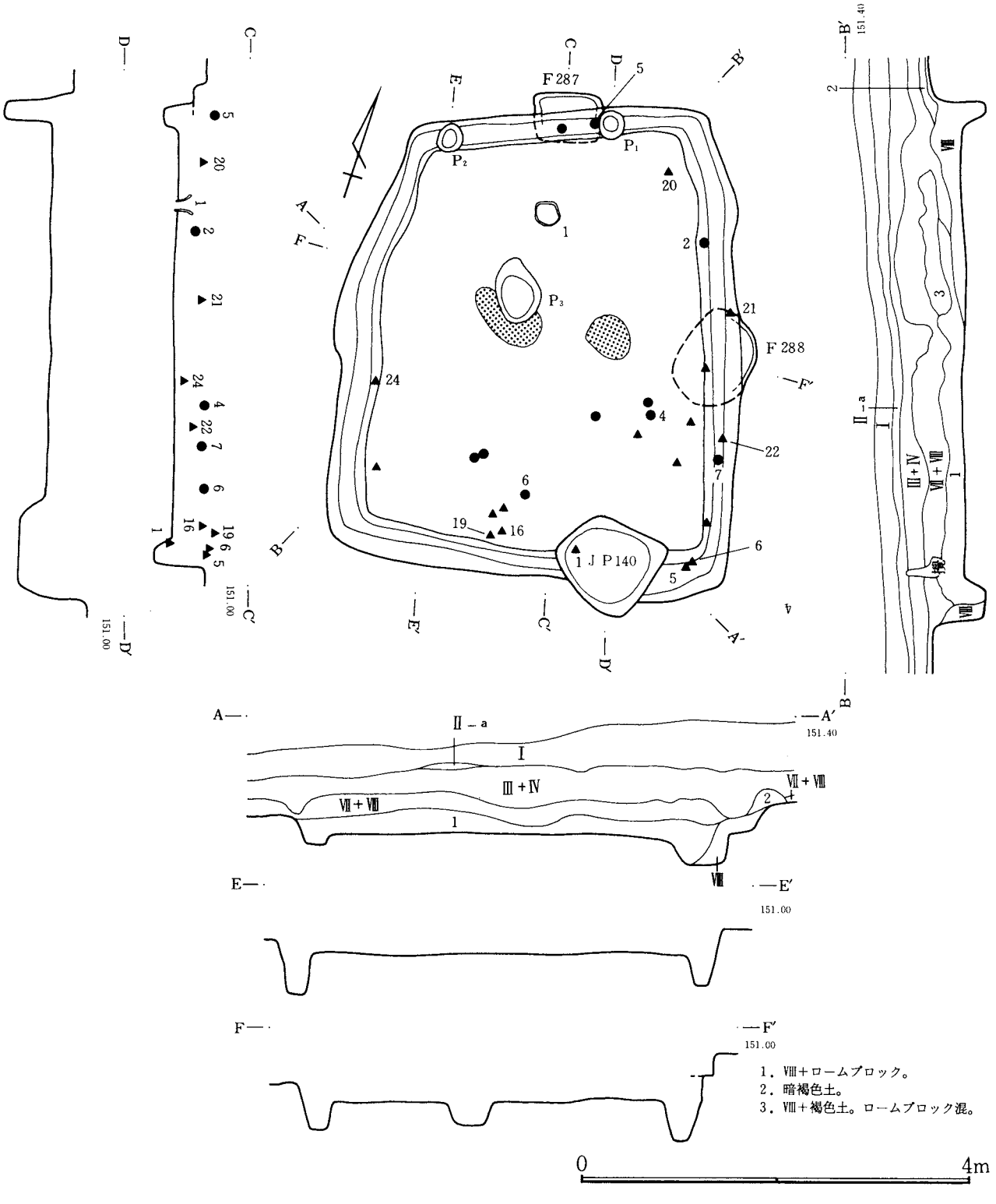
(富沢)


H 92
号住
F 286
P1
P2
P3
P4
I
Ⅲ
Ⅲ+Ⅳ
Ⅳ
163.00
162.50
1．黒褐色土。Ⅵ+火山灰質褐色土。
2．黒褐色土。Ⅵ+ローム ブロック。
3．黒褐色土。Ⅵ+ローム ブロック。硬質。
0
4m

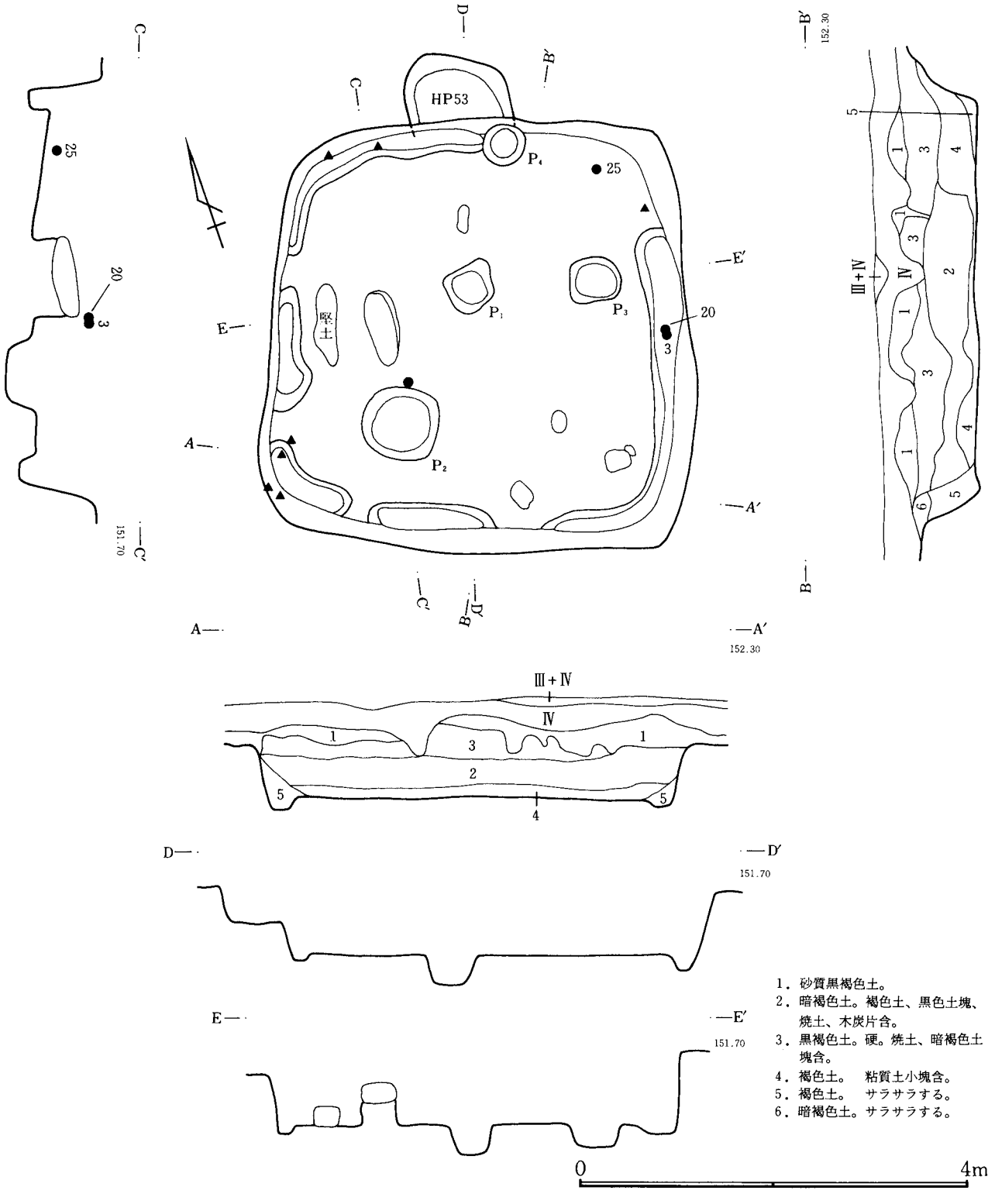
図－25　J 18号住居跡



図－26　J 19･23号住居跡


F 287
F 288
P1
P2
P3
1 J P140
II－a
I
III＋IV
VII＋VIII
VIII
151.40
151.00
1．VIII＋ロームブロック。
2．暗褐色土。
3．VIII＋褐色土。ロームブロック混。
0
4m

図－27　J 20号住居跡


HP53
P1
P2
P3
P4
25
20
3
堅土
A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
E
E′
152.30
151.70
Ⅲ+Ⅳ
Ⅳ
1．砂質黒褐色土。
2．暗褐色土。褐色土、黒色土塊、焼土、木炭片含。
3．黒褐色土。硬。焼土、暗褐色土塊含。
4．褐色土。　粘質土小塊含。
5．褐色土。　サラサラする。
6．暗褐色土。サラサラする。
0
4m

図－28　J 21号住居跡

J22号住居跡　(図—29・133～137、表—64～66、図版—18・89・90・129・147・148)

位置　西側台地南西端のQ—101、102区に位置する。台地西縁近くで南西への緩傾斜面にあたる。付近は住居跡、土坑の多いところで、南にJ25号住、北にJ20・21号住が所在する。奈良、平安期の住居跡の多いところでもある。　**形状**　北壁がやや張り出し、東壁にくらべ西壁の長い不整方形である。各壁とも削平、攪乱をうけている。規模は南北5.2m、東西4.7m、面積22.4㎡である。壁現高は最大で54cmを測る。周溝は確認されなかった。長軸方向は真北をさす。　**ピット**　床面に6個確認されている。P_1～P_4が柱穴と考えられる。P_2、P_4は二重のピットとなっている。内側のピットは小さく深い。方形に配置されている。中央のP_5、P_6も柱穴ともみられるが、P_1～P_4より小さく浅い。　**炉**　床面北側に長円形の焼土があり、中央に埋設土器があった。焼土下には3個のピットが検出されている。A(26×24×17cm) B (73×46×7cm) C (56×53×24cm)　**遺物**　土器は諸磯a式を主とする。石器は石鏃、石錐、石匙、石斧、削器、敲き石、棒状石器、石皿、多凹石などが出土している。

(井野)

J24号住居跡　(図—30・138～141、表—67～69、図版—18・90・91・130・148)

位置　西側台地の南端中央部M、L—1区に位置する。南への緩斜面である。本跡西側は縄文住居跡が多く構築され、十数軒が検出されている。また東側は奈良、平安時代の遺構が多く検出されているが、縄文時代の遺構はほとんど検出されていない。　**形状**　大型の方形住居跡である。壁は削平をうけているところが多く、北東隅が比較的のこりが良い。規模は南北7.2m、東西8.0mを測る。面積は53.0㎡である。壁現高は18～62cmである。長軸方向はN—78°—Eである。周溝・各種施設は検出されなかった。　**ピット**　柱穴は7個検出され、ほぼ方形に配されている。P_1～P_5が柱穴で、P_6は炉の掘り形、P_7は住居内施設と考えられる。またP_7は上面に焼土があり、埋土中に若干土器片を含んでいた。一部さらに深くなっている。　**炉**　P_6の位置と考えられる。中より土器片が検出されている。　**重複**　HP3・4と重複する。　**遺物**　土器は諸磯a式を主とする。石器は石鏃、石斧、楔形石器、削器、円礫が出土している。

(井野)

J25号住居跡　(図—31・142～146、表—70～72、図版—19・91～93・130・131・147)

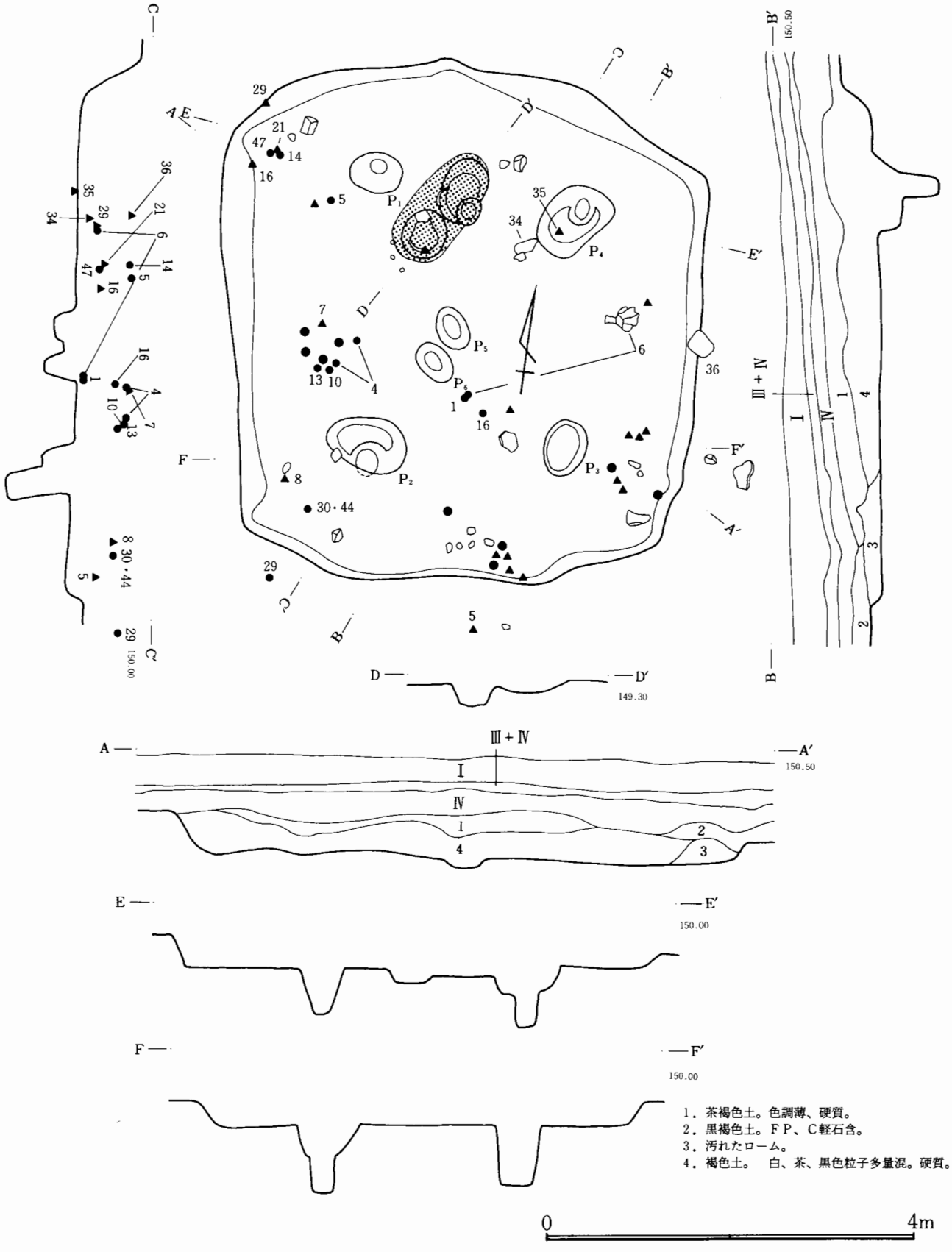
位置　調査区域南西部、R—102区に位置する。西台地南西部の住居群のうち最も南西隅に所在する。　**形状**　南北4.8m、東西3.7m、面積は推定で14,8㎡を測り、南北が少し長い楕円形である。主軸方位はN—12°—Eである。壁高は自然地形にしたがい北が高く南が低い。最高50cm、最低18cmである。周溝は認められない。　**ピット**　中央部に比較的小規模なものが重なって2つ、さらに中央より北寄り80cm、北東寄り80cmと計4つ確認されるが主住穴とは考えにくい。　**炉**　中央より北西寄り80cmの床面上に、およそ25×35cmの長円形の範囲に焼土が認められる。また床面上埋土には、全体的に炭化物が混入する。中央部の重複するピットの南側床面下に土器片が埋設されているが炉であったとは考えがたい。中央北寄りのピット北側にほぼ完形の埋設土器がある。土器西側に半壊した石(10×25cm)が接して置かれており、炉であった可能性が考えられる。埋設土器と石との位置関係及び住居内の存在は、J26号住の場合と類似している。　**重複**　住居西壁内側を南北にW88が通過する。またJP39が住居西壁北側の一部で重複する。地層断面から住居との前後関係を判断できないが、住居に付属する施設とは思われない。　**遺物**　遺物は中央部から南半部に集中して散布する。土器は黒浜式が主である。石器は石鏃、楔形石器、尖頭器、石匙、石斧、棒状石器が出土している。

(白石)

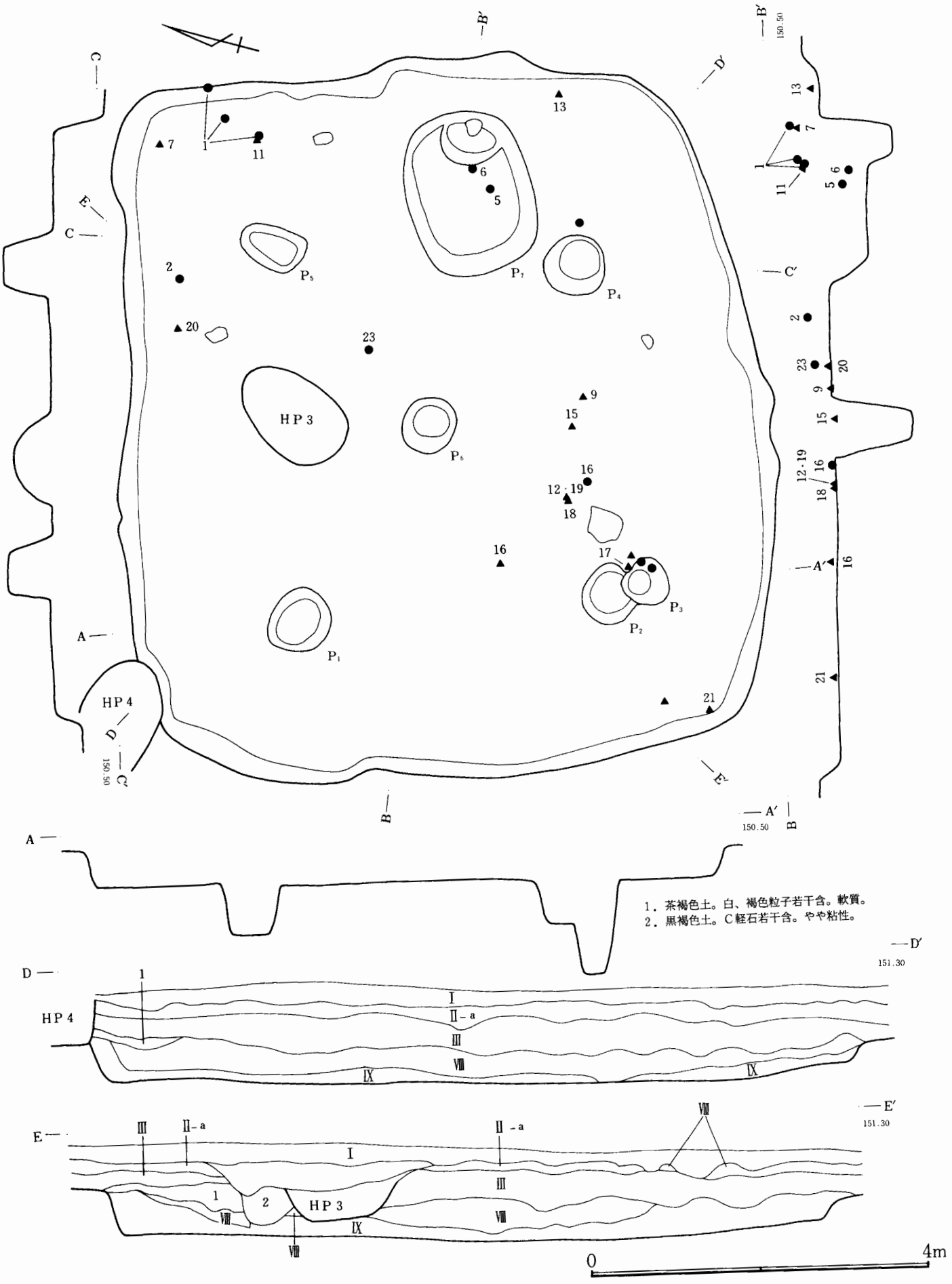
J26号住居跡　(図—32・147～149、表—73～75、図版—20・93・131)

位置　調査区域南西部、Q—102区に位置する。西台地の南西最末端部の緩傾斜面上に所在する。　**形状**　遺物の散布状態から住居跡のおおよその形状が推定されるだけで四方向とも壁は確認されない。南北5m、東西4.5m、面積は推定で19.0㎡と南北が少し長い円形あるいは、隅丸方形と思われる。主軸方位は、N—3°—Wである。張り出し等の施設はない。床面と推定される面は、北東から南西に傾斜する自然地形にしたがい北東部が高く南西部との比高差はおよそ20cmである。ピット、周溝は認められない。　**炉**　埋設土器炉と推定される。位置は南北軸上で住居の中心より北寄り約1mである。南北に横たわる長石(およそ10×50cm)の下に甕が埋設されている。その位置は長石の中央部よりやや住居の中心寄りで甕の西半部を覆う。甕は口縁の一部を残すが底部を欠く。また長石下に隠れる部分の多くを欠損している。甕が埋設されているのにもかかわらず、全形をとどめず、周囲に焼土も確認されないこと等から炉として機能していたかどうか不明である。埋設土器と長石との位置関係及び住居内の所在は、J25号住の場合と類似している。　**重複**　H109、110号住がJ26号住上面に重なって検出された。(全体図参照)　**遺物**　遺物の出土状態は、住居中央部に集中し、炉と推定される場所より北側にはほとんどみられない。土器は黒浜式が主である。石器は黒色頁岩の背付き石器、打製石斧、交刃削器、石核、複刃削器、安山岩の円礫、線刻礫が出土している。

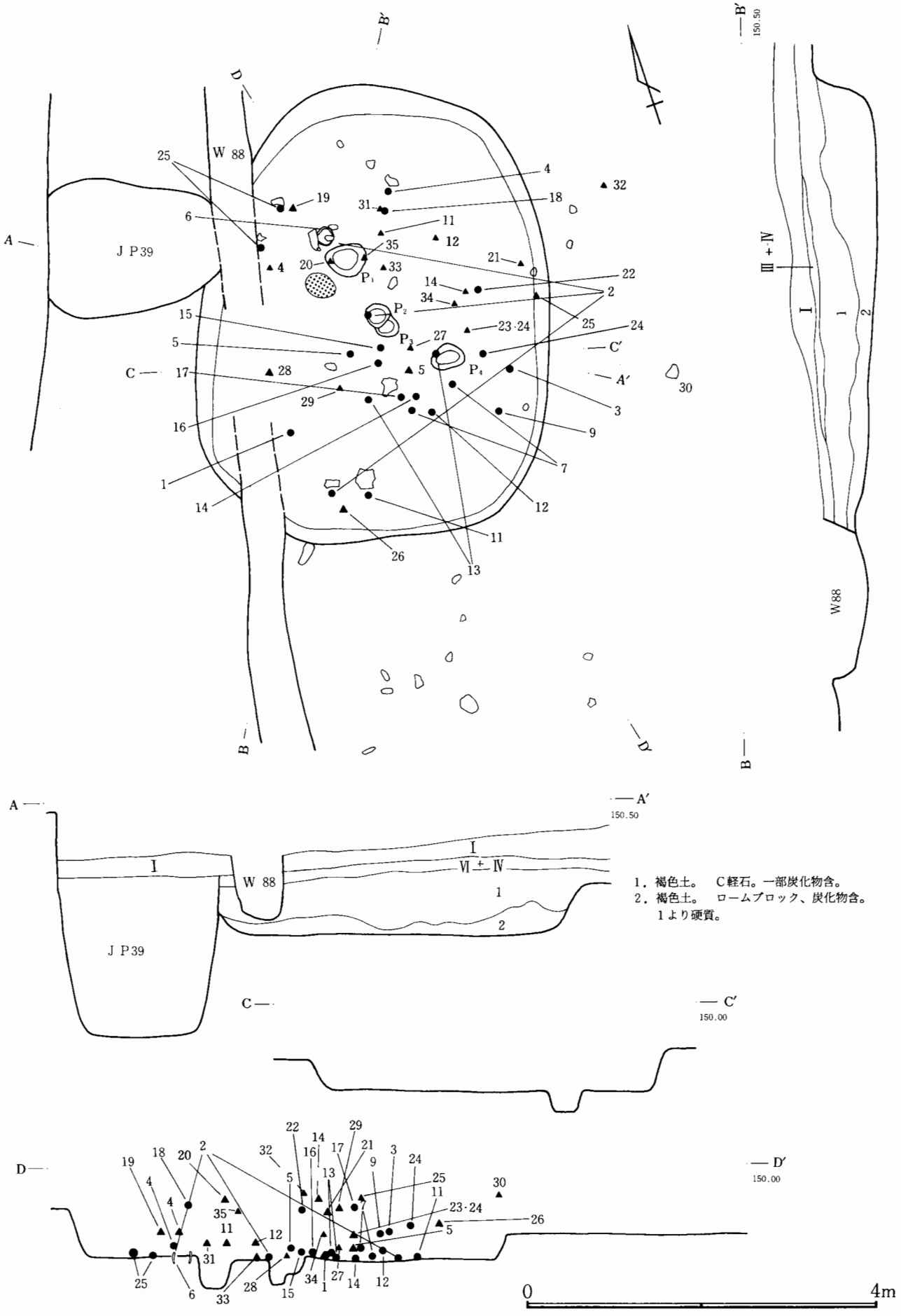
(白石)



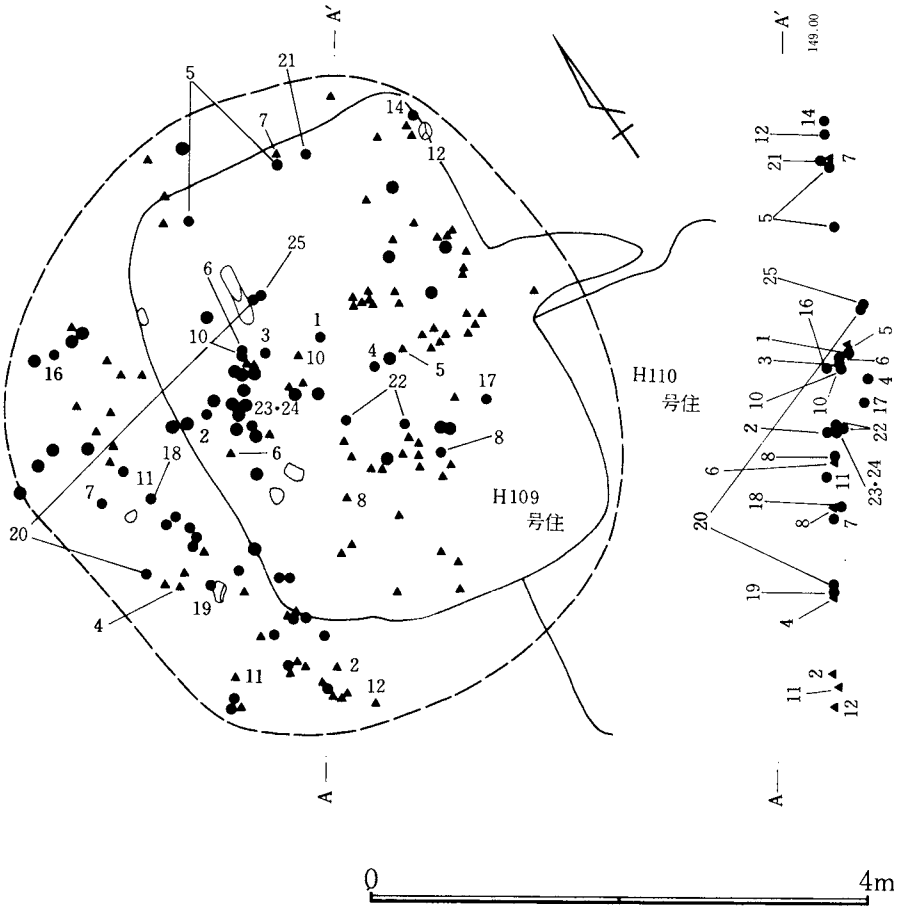
図－29　Ｊ22号住居跡


HP 3
HP 4
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
1．茶褐色土。白、褐色粒子若干含。軟質。
2．黒褐色土。C軽石若干含。やや粘性。
0
4m

図－30　J 24号住居跡


W 88
J P39
P1
P2
P3
P4
A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
150.50
150.00
W88
Ⅲ+Ⅳ
Ⅰ
Ⅵ+Ⅳ
1
2
1．褐色土。　C軽石。一部炭化物含。
2．褐色土。　ロームブロック、炭化物含。
1より硬質。
0
4m

図－31　J 25号住居跡



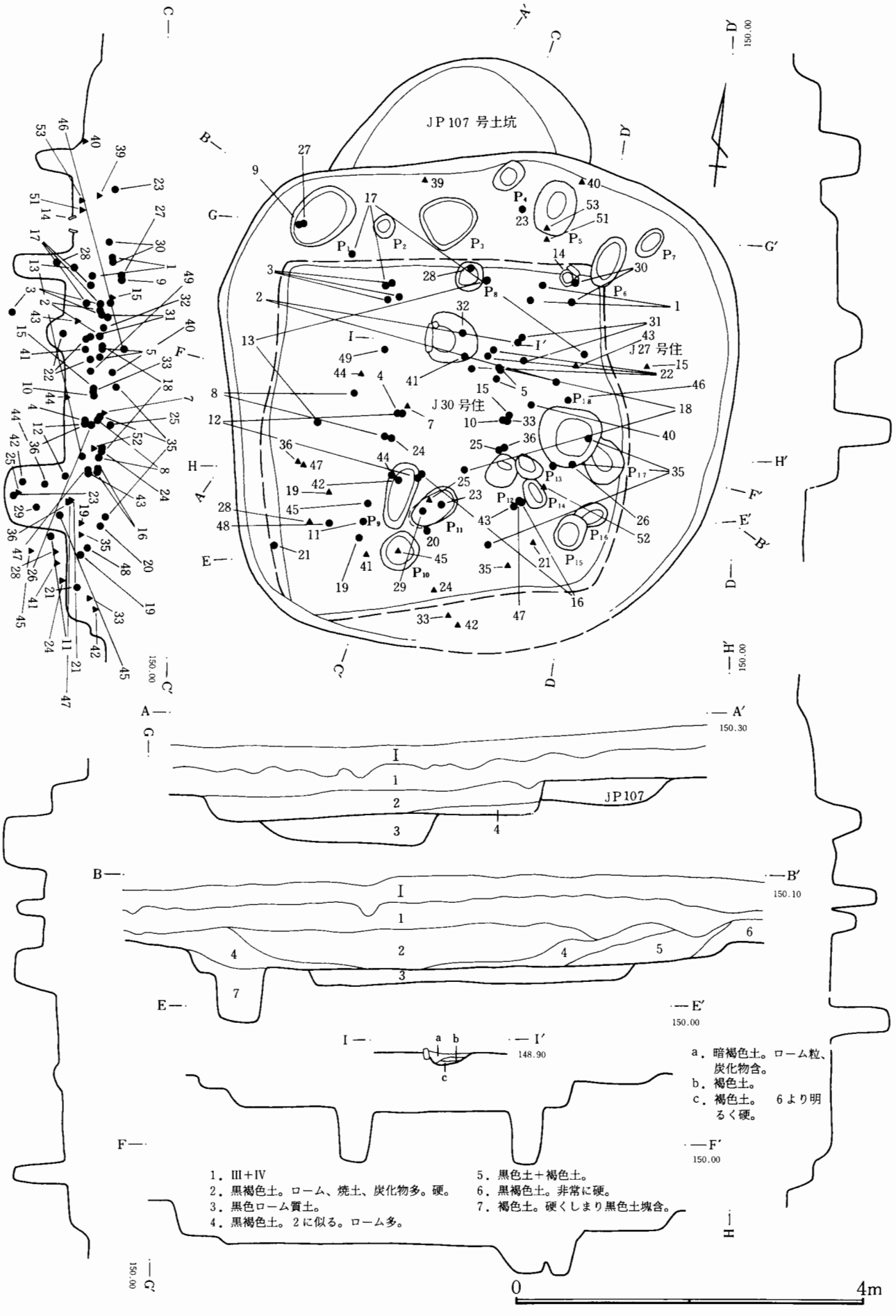
図－32　J 26号住居跡

J 27・30号住居跡　(図—33・150～156、表—76～78、図版—21・93～96・131・132・147・148)

〔J 27〕 **位置**　西側台地南西部N—102区に位置する。縄文時代の竪穴住居跡、土坑が多く検出されるところである。**形状**　やや円形に近く、西壁が直線的な隅丸方形。南辺は残存状態が悪い。規模は、南北推定5.5m、東西5.6m、面積は推定で26.4㎡である。周溝はない。長軸方向はN—83°—Eである。壁現高は17～43cmで、地層断面からは44cmを測る。床面はJ 30号住上にJ 27号住の床面が作られており、J 30号住との重複部は貼床となっている。地層断面および、遺物の出土レベルからも同様に床面が確認される。　**ピット**　J 27・30号住で18ケ所検出されている。地層断面から P_1 はJ 27号住に属する。位置よりみて、P_1～P_7 がJ 27号住のものと思われるが、他の P_{10}～P_{18} にも同様の可能性がある。P_1～P_7 は径40～70cmで深さ20～50cmのものが多い。　**炉**　J 30号住との北東隅の重複部に埋設土器と2石があり炉と想定される。　**重複**　J 30号住とJ P107はJ 27号住より旧い。

〔J 30〕　**形状**　方形で南半分はややひろがっている。規模は南北3.8m、東西4.1m、面積は14.1㎡である。壁現高は14～31cmである。周溝はない。長軸方向はN—81°—Eである。　**ピット**　床面に11ケ所(P_8～P_{18})ある。規模はまちまちであり、柱穴と確定しがたい。　**炉**　北辺やや南にある。2石が方形を想定して配され、焼土がみられた。掘り形は凹んでおり、径30cm、深さ14cmである。　**遺物**　土器は諸磯a式を主とする。遺物中には黒浜式のものもまじるが出土レベルからみるとJ 30号住の遺物と考えられるものは検出されなかった。ほとんどがJ 27号住の床面より上のレベルで出土している。土製円盤が出土している。石器は多種多量に出土している。石鏃、楔形石器、石匙、石斧、削器、石核、円礫、棒状石器、軽石製石器、石皿などが出土している。黒色頁岩製が多いが、安山岩製のものも出土している。

(井野)



図－33　J 27･30号住居跡

J29・59号住居跡　(図—34・157～160、表—79～81、図版—22・97～99・133)

〔J29〕 **位置**　西側台地南西のM—102区に位置する。近接して竪穴住居跡、土坑が多く検出されている。 **形状**　J29号住は上半部を耕作等で削平を受けており、確認できないところがある。南北にやや長い方形と推定され、北西、北東隅はやや鈍角で、東壁南隅近くには張り出しがある。規模は南北3.9m、東西3.8m、面積は14.0㎡を測る。壁現高は14～37cmであるが、地層断面では52cmを測る。長軸方向はN—10°—W。周溝はない。張り出しは120×30cmで床面とのレベル差はない。 **ピット**　確認されていない。 **炉**　不明。 **重複**　J59号住、JP111と重複する。J59号住とは地層断面より本跡が旧い。又JP111に関しては同時期の可能性が強い。

〔J59〕 **形状**　J29号住との重複その他の削平により不明な部分があるが、長円形と推定される。規模は、南北推定5.0m、東西6.8m、面積は28.4㎡である。壁現高は22～27cmである。地層断面からは30cmを測る。周溝はない。主軸方位はN—69°—W。床面中央にあたるところが、J29号住と重複するため不明のところが多い。 **ピット**　確認されていない。 **炉**　不明。 **遺物**　土器は黒浜式と諸磯a式に分けられるが、J29号住は諸磯a式が主で、J59号住は黒浜式が主である。JP111は諸磯a式が出土している。石器は尖頭器、石斧、削器、抉入石器、楔形石器、円礫が出土している。ほとんどが黒色頁岩製である。

(井野)

J31・32号住居跡　(図—35・161～164、表—82～84、図版—23・99・133・134・149)

位置　中央台地の南端ニ・ホ—23区に位置する。中央台地では南端に住居跡5軒と土坑が検出されたのみで、台地の北は中・近世の遺構・遺物が占めている。J31号住はJ32号住との重複である。

〔J31〕 **形状**　楕円形を呈す。H152号住との重複で東壁が失なわれている。南北6.9m、東西は現状で6.1m、面積は現状で34.9㎡である。壁高は23～55cmを測る。周溝、張り出し等の施設は認められない。 **ピット**　J31号住のピットとして検出されたものはなかった。 **炉**　南西隅に焼土域（径80cm）と炉が検出されたが、焼土面のレベルが床面レベルより上であることと、焼土域の範囲が石囲い炉の焼土域に重なりレベルが上であるので、焼土域がJ31号住の炉であると考えられる。

〔J32〕 **形状**　やや東壁にむかいひろがる方形をしている。東壁はH152号住により半ば失なわれている。規模は南北5.2m、東西4.8m、面積は現状で23.5㎡である。周溝や施設は認められない。壁現高は6～22cmである。J31号住より旧いので壁全体が削平をうけている。 **ピット**　床面に1個(P_1)。157×156×20cmで住居施設の一部であろうか。 **炉**　南西隅に石囲い炉がのこる。2石がのこり、方形と推定できる。規模は28×24cmで石の南に焼土域（94×72cm）がひろがる。炉の地層断面からは、石の内側から南40cmの範囲に焼土域があった。 **重複**　J31・32号住は重複するが、遺物のレベル、地層断面、焼土域、炉のレベルによりJ31号住が新しいとした。さらにJ31・32号住をH152号住が切り、またJ31・32号住をW10号溝が切っている。 **遺物**　土器は黒浜式と諸磯b・c式が主として出土している。位置レベルよりJ31号住は諸磯b・c式が主で、J32号住は黒浜式が主と考えられる。J32号住内のP_1内の土器は黒浜式であり、同住居に伴うものと考えられる。石器は石斧、削器、円礫、石皿などが出土している。

(井野)

J33・60号住居跡　(図—36・165～166、表—85～87、図版—24・100・134)

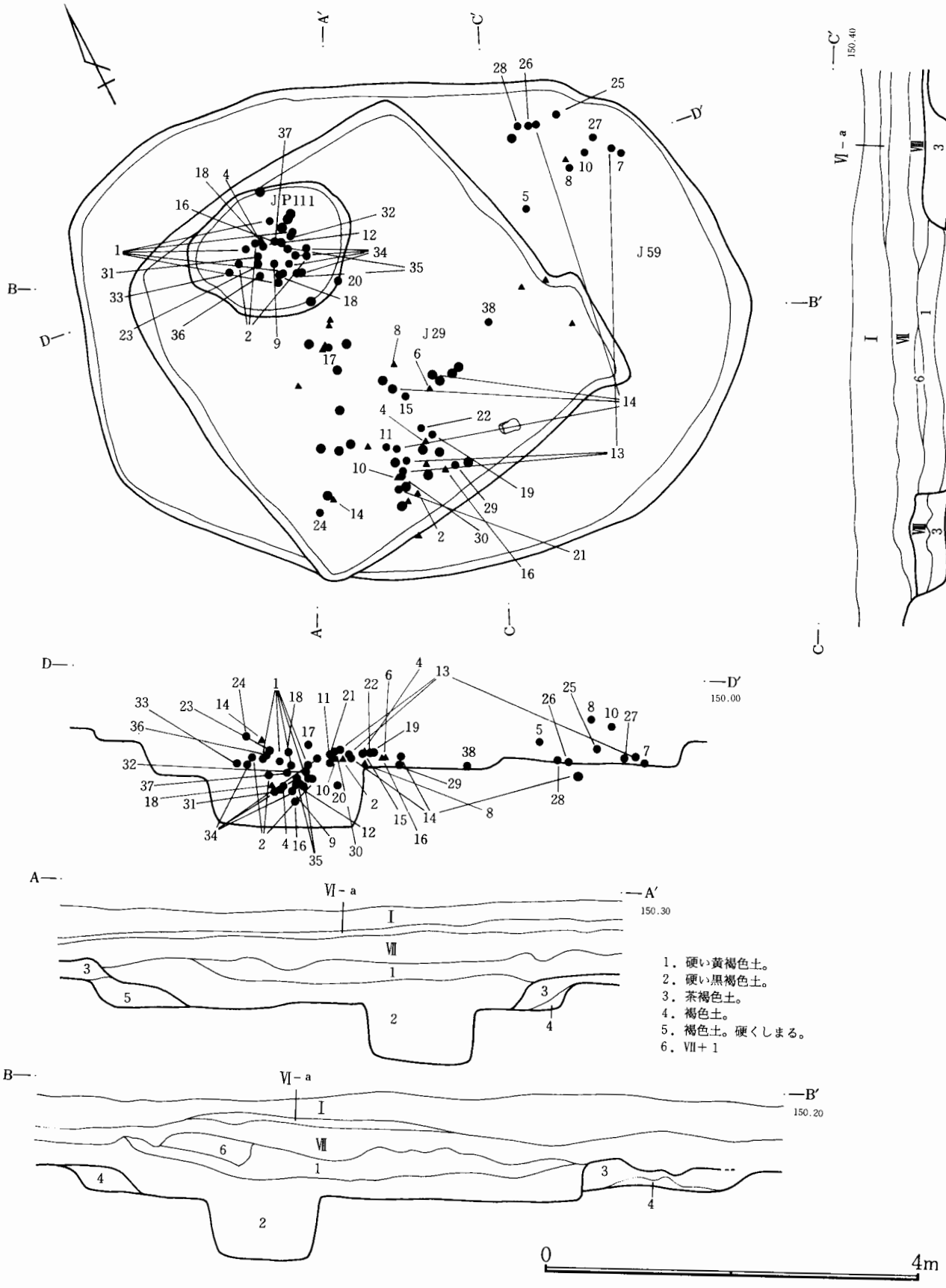
位置　中央台地南端、ホ—23区に位置する。中央台地での縄文時代の遺構は南端に限られ数も少ない。J33号住とJ60号住は重複している。

〔J33〕 **形状**　やや南北に長い楕円形である。規模は南北3.3m、東西2.8m、面積は推定で7.5㎡である。J60号住と重なり上半を削平されている。壁高は地層断面で32cmを測る。周溝はない。長軸方向はN—5°—Wである。

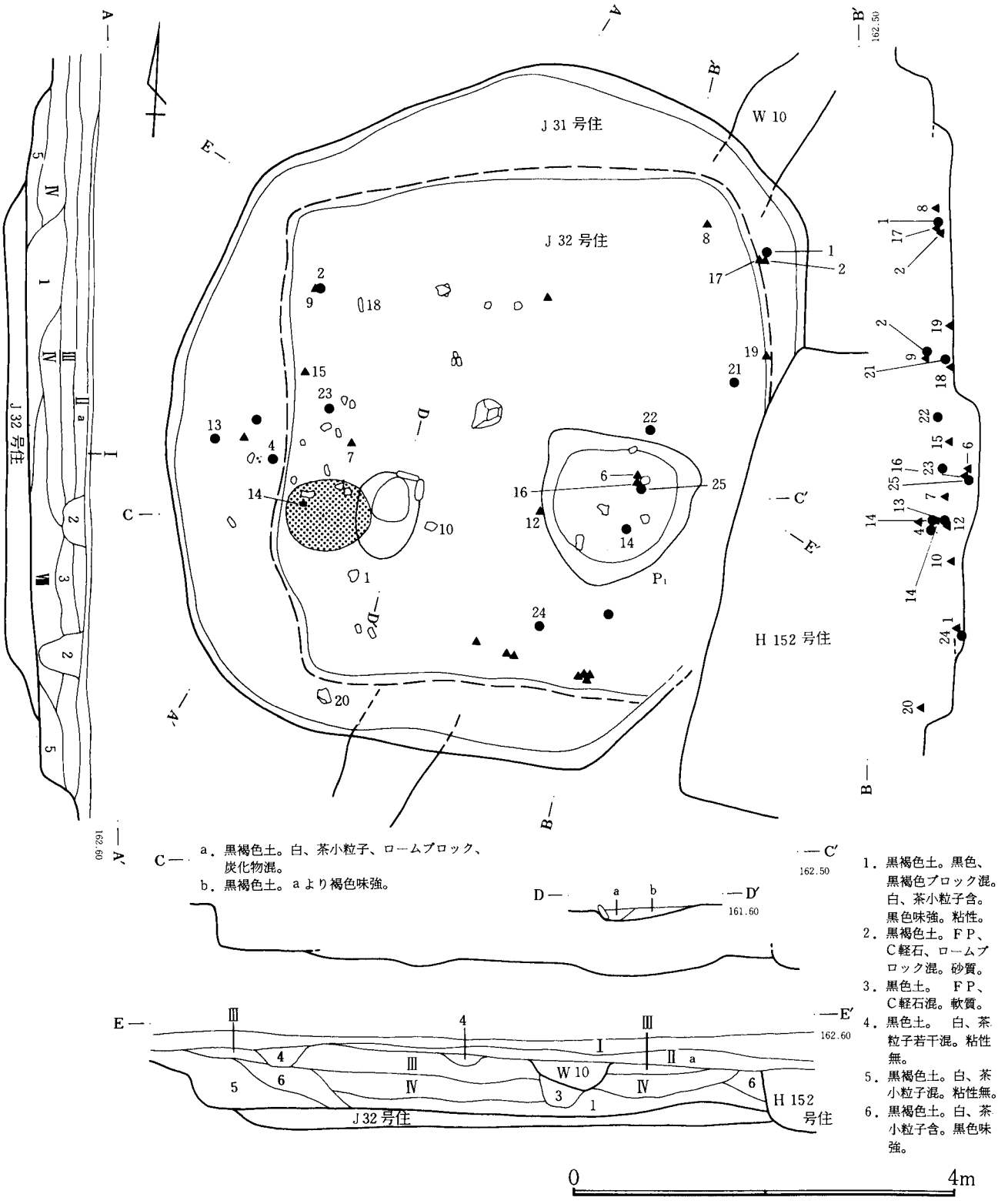
ピット　J33号住と考えられるピットはない。 **炉**　床面中央部にあるJP118の北縁と重なるように焼土域（120×25cm）がある。JP118はJ33号住よりも新しいので、焼土域のほとんどはJP118に削平されたと推定される。

〔J60〕 **形状**　J33号住の上に作られている。西半及び東半の一部が検出されており、楕円形の住居跡と推定される。西壁はH152号住と重複して削平されている。規模は現状で南北5.9m、東西5.2mであるが、推定で径約6m、面積は現状で21.2㎡である。壁高は21～44cmを測る。周溝は検出されていない。長軸方向はN—3°—Eである。 **ピット**　J60号住と考えられるピットはないが、JP118がJ60号住に付く施設の可能性がある。 **炉**　ほぼ中央に円形の焼土面があり、その広さは90×80cmである。 **重複**　地層断面からの判断で、一番旧いのがJ33号住、次にJP118とJP115ができ、さらにJ60号住、それをH152号住が切り、その上をW11が南北に通っている。台地南端であり、覆土が厚くおおっていた。 **遺物**　土器は諸磯a・b式が主であるが、JP118・J60号住に属すると考えられる。J33号住に伴うものはない。石器は削器、敲き石、円礫、石皿が出土している。

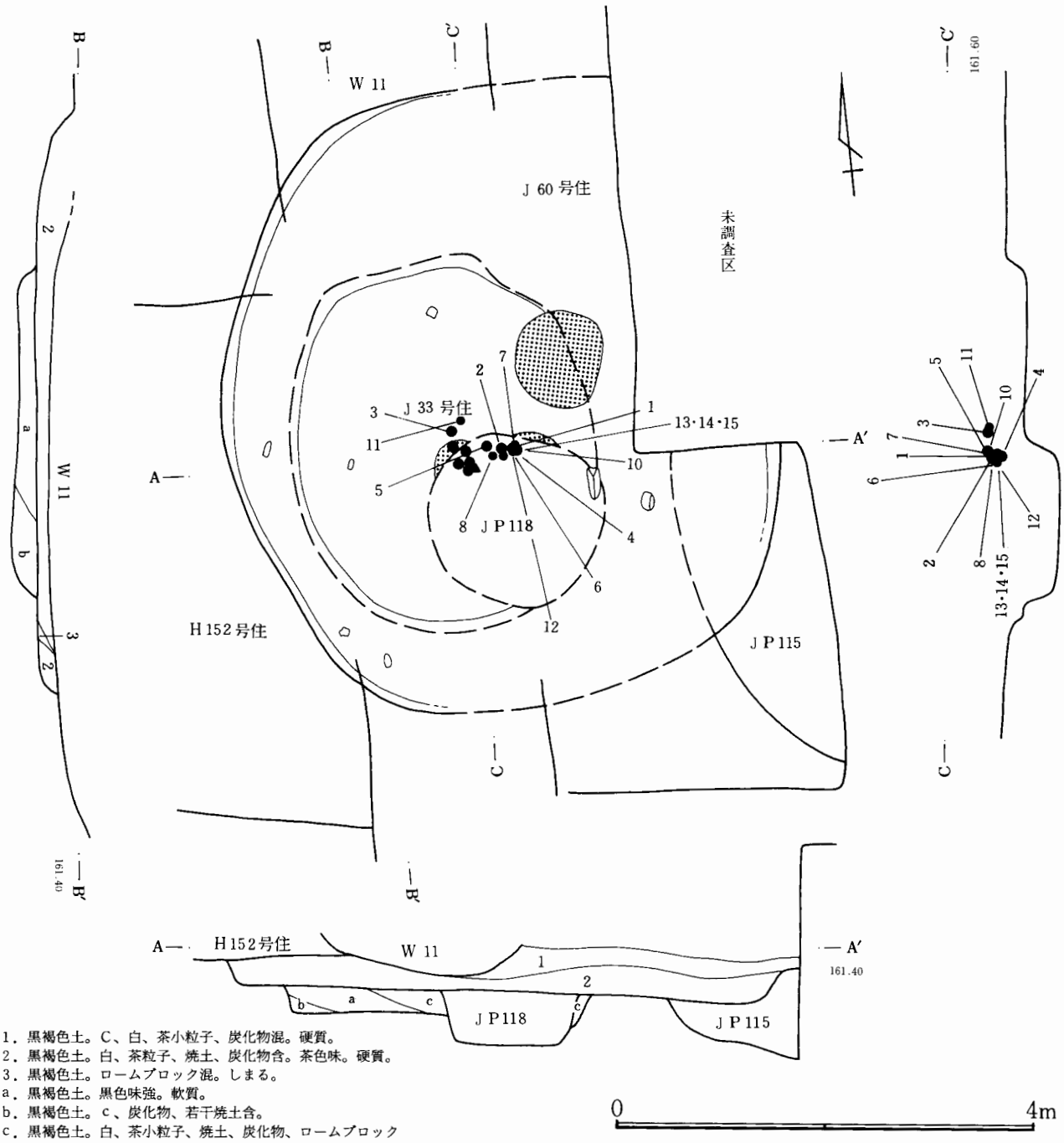
(井野)



図－34　Ｊ29･59号住居跡・ＪＰ111号土坑



図－35　J 31･32号住居跡

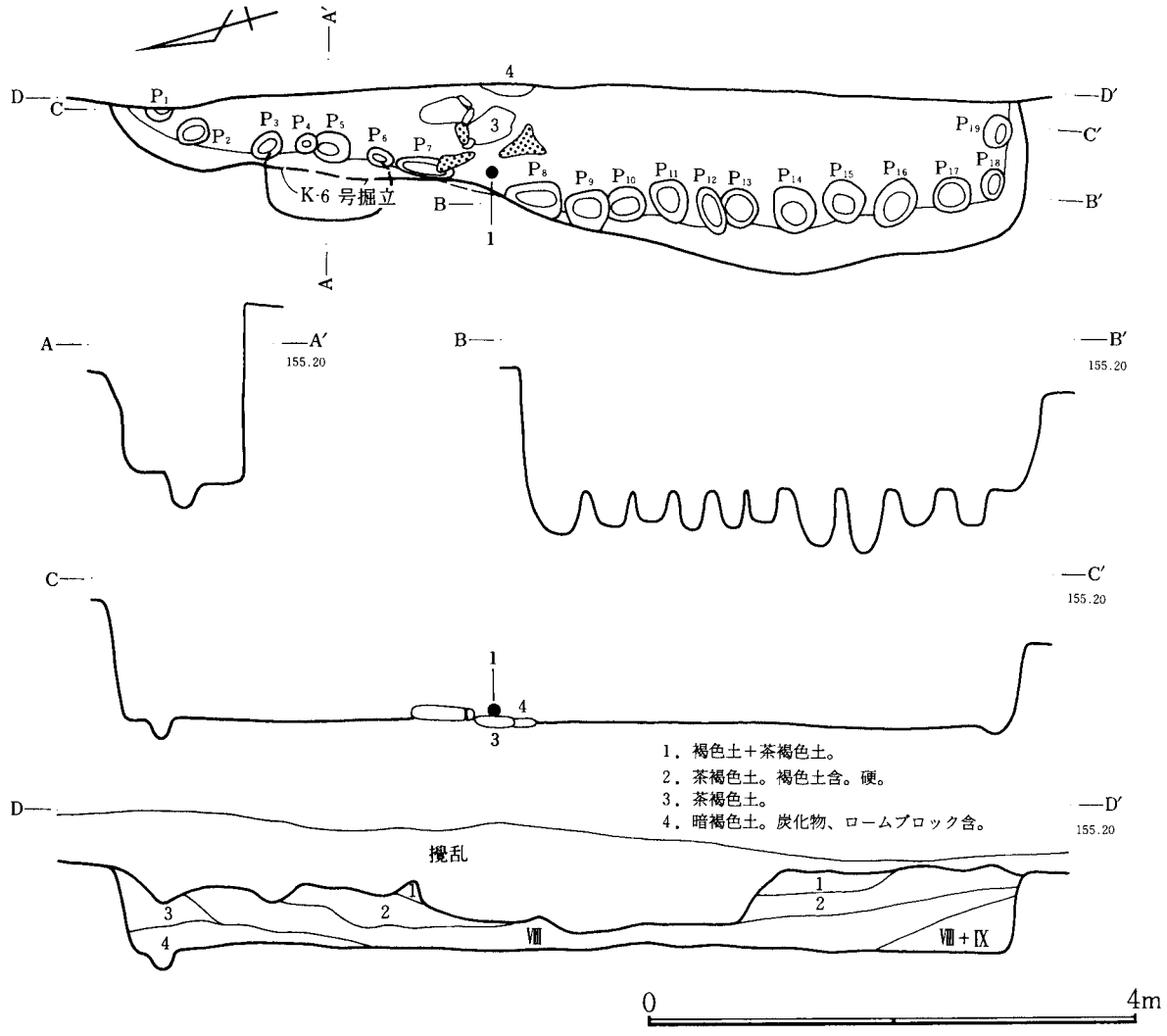


図－36　J 33・60号住居跡

J 34号住居跡　（図－37・167、表－88～90、図版－24・100・134・150）

位置　西台地のやや中央より東側の平坦地B・C－8、C－9区に位置する。地形は南へ緩やかな傾斜をし、住居は西側一部を除いて南北に走る舗装道路により切り取られている。　**形状**　現存するのは住居跡の一部のみであるが、一辺7.1m以上の方形住居跡と推定される。現存する規模は南北7.1m、東西1.0m、面積は現状で5.7m²である。住居の主軸方位はN－18°－Eを。壁高は87～96cmで、壁下にピット列が並ぶ。ピットの大きさは20～30cmで、30～40cm程の間隔で規則的に壁下に並んでいる。ピットは壁に付く型式の壁柱穴と考えられる。住居の床面は純粋なローム層ではないが、硬くしまっている。又西壁下中央に3ケ所焼土が存在した。　**炉**　炉の施設等は現状では確認できなかった。　**重複**　K 6号掘立と重複。　**遺物**　土器は黒浜式。石器は削器と石皿が出土している。

（江原）

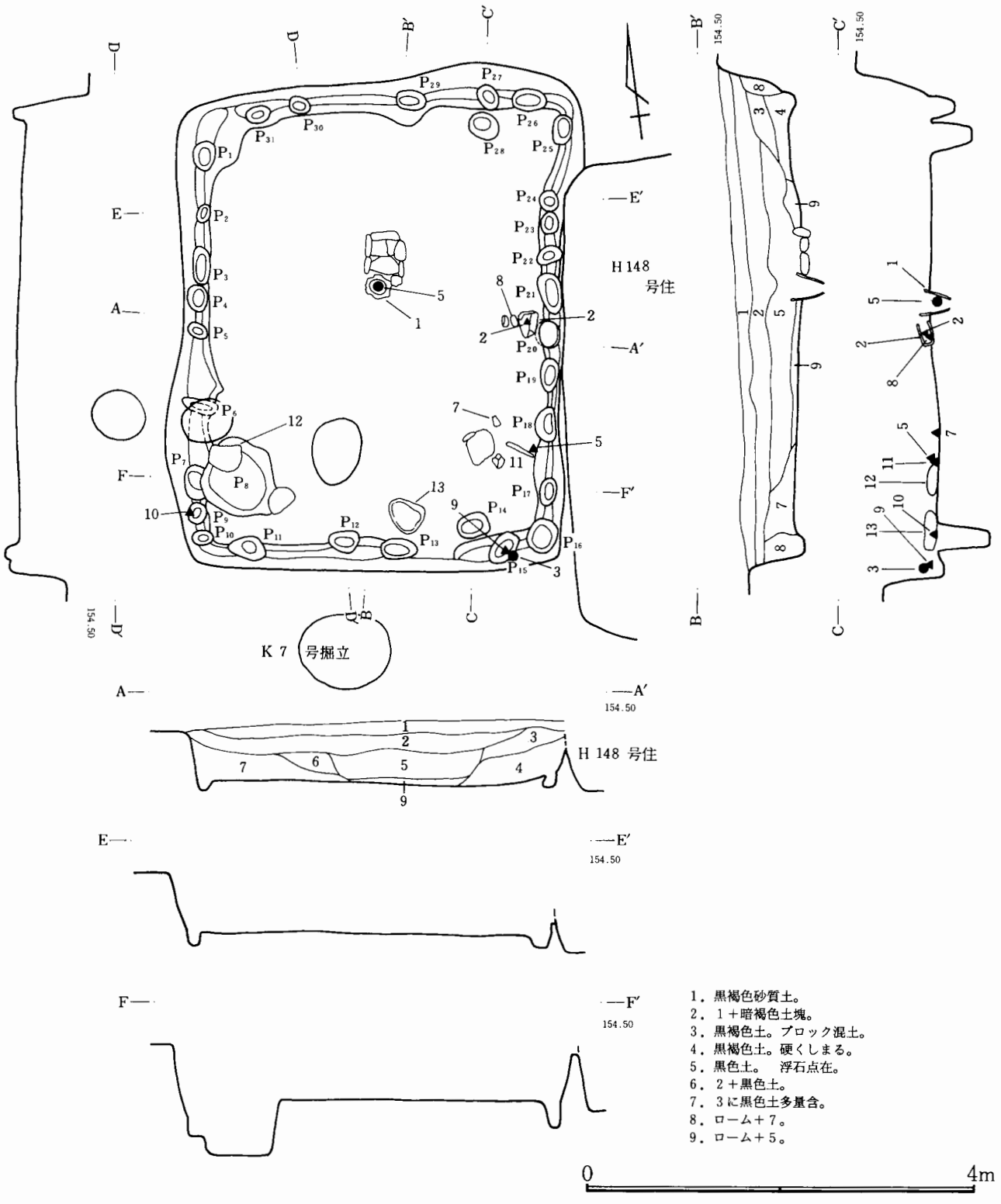


図－37　J 34号住居跡

J 35号住居跡　（図—38・169・170、表—91～93、図版—25・100・134・149・150）

位置　西台地の中央から東へやや寄った、B・C－7・8区に位置する。北側30cmほど離れた所に、土坑群をはさんでJ 4号住がある。　**形状**　N—8.5°—Eに主軸を取る長方形を呈する。壁下端間で南北4.74m、東西3.8m、面積17.5㎡を測る。壁は直に立ち、壁高は北壁・南壁・東壁部分で40cm前後ある。壁に沿って周溝が全周する。また、周溝内には径20～30cm、深さ5～30cmの小ピットが、20～100cmの範囲で不規則な間隔で掘られている（P_1～P_{28}）。壁柱穴と考えられる。　**ピット**　東壁より80cm内側に入った地点で、南、北壁の周溝に接するようP_{29}・P_{30}がある。4.8mの間隔で、住居の主軸に並行するようにあり、主柱穴とみられる。P_{29}が床面上で34×26cm、床面よりの深さ44cm、P_{30}が同じく径33×24cm、深さ55cmとなる。他に主住穴とみられるものは無い。この他南西隅に径80×68cm、深さ60cmのピットP_8があり、貯蔵穴と推定される。　**炉**　住居主軸上で、住居中央よりやや北へ寄った地点に、埋甕を伴う石囲い炉がある。住居中央部側に土器（No.1）を埋め、その北側に山石を3石敷き、その周囲に5石側面を立てて囲んでいる。炉の周辺は床面と比較して10cm前後くぼんでいる。炉の西側の床面には焼けている所がみられる。　**重複**　住居の東側にH148号住居跡が接しており、東壁の一部が削られている。また南西部上半でK 7号掘立と重複する。　**遺物**　土器は黒浜式。石器は削器と石皿が出土している。

（富沢）


H 148 号住
K 7 号掘立
H 148 号住
1．黒褐色砂質土。
2．1＋暗褐色土塊。
3．黒褐色土。ブロック混土。
4．黒褐色土。硬くしまる。
5．黒色土。　浮石点在。
6．2＋黒色土。
7．3に黒色土多量含。
8．ローム＋7。
9．ローム＋5。
0
4m

図－38　J 35号住居跡

J36号住居跡　(図—39・171～175、表—94～96、図版—26・100・101・135・136・149)

位置　西側台地南西端のN—102区に位置する。　**形状**　東西に長い長方形で、北辺・南辺はやや内にはらむ。東辺は西辺にくらべやや狭い。規模は拡張前で南北4.3m、東西4.7m、面積19.0m²で、拡張径は南北で4.8m、東西5.7m、面積23.7m²となっている。壁現高は20～49cmで、地層断面からは52cmを測る。周囲にしっかりした周溝が全周するが、H126号住との重複部分では削平をうけている。幅は27～54cmで、深さは19～44cmで、拡張後も周溝が認められる。地層断面より、東・西辺の周溝の埋土が同じで、西辺の東よりの周溝の埋土は異なっており、貼床状をなし、西に拡張したものと考えられる。　**ピット**　床面10ケ所に検出された。P_1、P_2、P_5、P_6が当初の住居跡の主柱穴と考えられる。西辺の周溝内の2つのピットは拡張後の施設に係わるものであろうか。当初の主柱穴は径20～40cmで深さは14～35cm、西辺周溝内のピットは径20～30cmで深さは50cm前後と深い。　**炉**　東壁際より埋設土器が検出されており、炉の一部と考えられる。　**重複**　東辺がH126号住と、西辺がH159号住と重複し、一部削平をうけている。　**遺物**　土器は黒浜式を主とする。石器は石匙、耳飾、石斧、削器、円礫、敲き石、石皿、棒状石器、多凹石等が多量に出土している。

(井野)

J37号住居跡　(図—40・176・177、表—97～99、図版—27・101・102・149・150)

位置　西側台地南西端に近いP・N—1・2区に位置する。傾斜はほぼ平坦な地である。周囲には住居跡が十数軒と多数の土坑が存在する。台地のなかでも遺構の多いところである。　**形状**　隅丸の方形であるが、東辺は凹凸がある。規模は南北5.1m、東西5.2m、面積は23.4m²を測る。壁現高は24～45cmである。地層断面からは44cmを測る。周溝・張り出し等はない。長軸方向はN—30°—W。　**ピット**　床面5ケ所。P_1～P_4が主柱穴と考えられるが、P_1は他のピットに比して小形で径約30cm。P_3は他のピットにくらべ浅く、深さ9cm。他は径が50～70cmで、深さ20～60cmである。　**炉**　炉は確認されなかった。　その他　柱穴の内側がやや落ち込むが、段差をなすほどではない。　**遺物**　土器は称名寺2式が主である。石器は円礫、多凹石、台石等が出土している。

(井野)

J38号住居跡　(図—41・178～182、表—100～102、図版—28・102・136)

位置　調査区域の南西端、西台地の緩く南へ傾斜するN—101区に位置する。　**形状**　住居は南北4.2m、東西4.3m、面積は推定で18.5m²を測り、隅丸方形である。北壁と東壁および住居の半分程は重複し、破壊されていた。壁高は20cmから48cmで壁下に周溝等は存在しなかった。主軸方位はN—69°—Eを示す。　**ピット**　5個検出された。住居の三隅に径38～54cmのピット3個があり、主柱穴の一部と推定される。他に住居南西側に径82×68cm、深さ45cmのP_4、90×87cm、深さ46cmの$P_3$2個があり、貯蔵穴とみられる。　**炉**　H156号住と重複の為破壊されたと考えられ、不明である。　**遺物**　土器は諸磯a式を主とする。石器は石錐、石匙、石斧、掻器、削器が出土している。

(江原)

J39・61号住居跡　(図—42・183～186、表—103～105、図版—29・102・103・136・137・150)

位置　西側台地の西南に近いN—101・102区に位置する。周囲には竪穴住居跡14～5軒の他、土坑も多い。台地内では住居跡が多く検出されているところである。

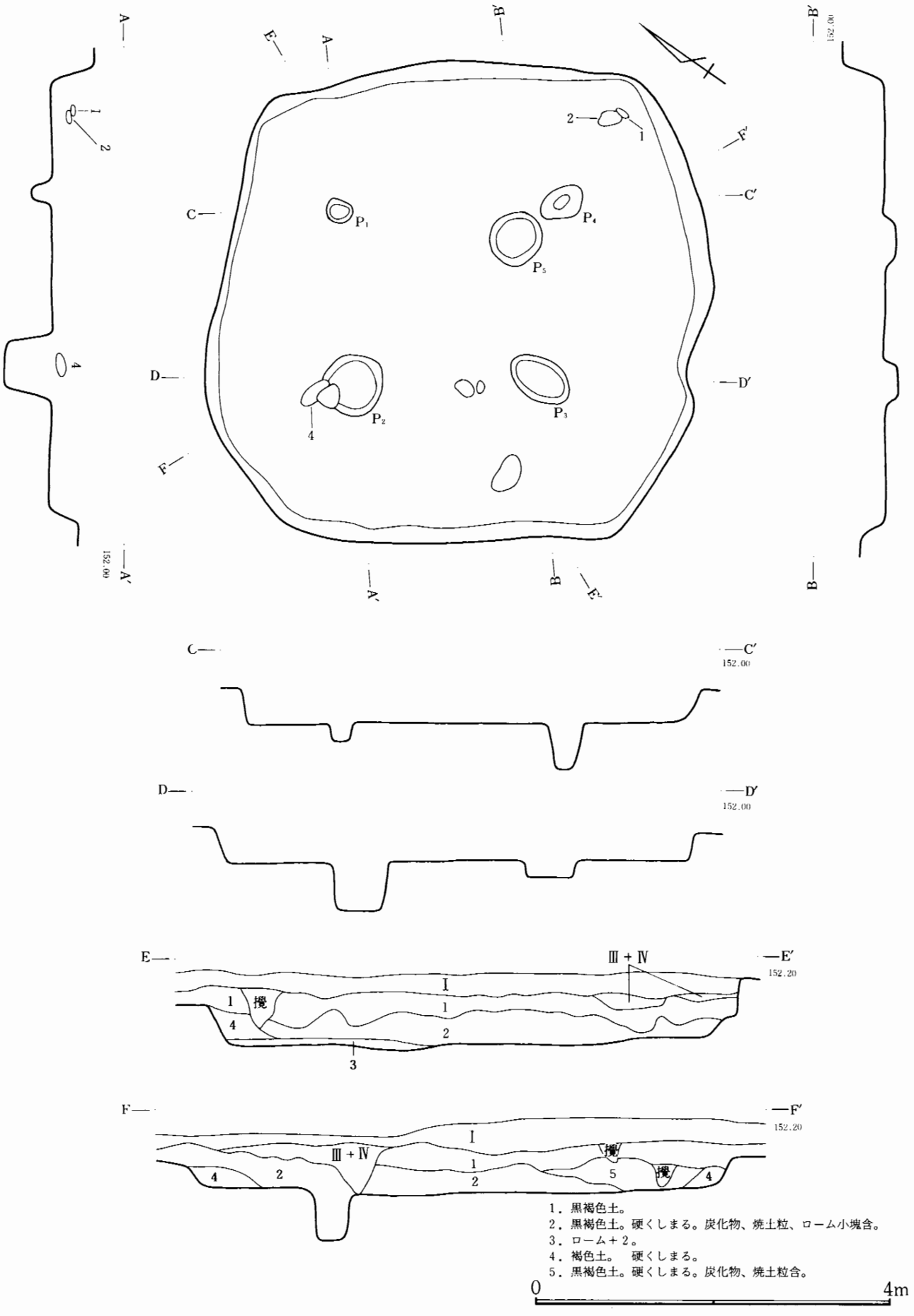
〔J39〕　**形状**　やや南北が長い方形であるが、J61号住と重複している為不明な部分が多い。規模は南北推定5.1m、東西4.6m、面積は22.3m²を測る。壁現高は37～45cm、地層断面からは48cmである。周溝・張り出し施設は確認されない。主軸方位はN—13°—W。　**ピット**　床面15ケ所。その形状と床面よりの深さにより、J39号住の拡張前・後とJ61号住の柱穴とした。J39(拡張前)のピットはP_{11}、P_1、P_{14}、P_8で径が50～90cmと大きく、深さは30cm前後が多い。拡張後は柱穴の配置の様子と柱穴ののこりの様子から前記4ピットのやや南に柱穴が位置する。P_{10}、P_3、P_{15}、P_7。径は30～50cm、深さは50～100cmである。いずれも柱穴4個は方形に組まれ、P_{14}とP_{15}が重複している。　**炉**　P_{13}の北に50×80cmの焼土域があり、石が出土していることからこの付近と考えられる。

〔J61〕　J39号住と重複する。地層断面図等よりJ61号住が旧いと推定される。　**形状**　推定円形。規模はH127号住とも重複しており不明な点が多いが、現状南北4.8m、東西4.0m、面積は推定5.2m²。壁高は南、西壁で9～29cmを測る。周溝・施設は検出されていない。長軸方位はN—13°—Wである。　**ピット**　円形に配されたP_2、P_4、P_5、P_6、P8内のP_9、P_{12}が主柱穴と考えられる。径30～40cmで、深さは20～60cmである。　**炉**　不明であるが、J61号住の柱穴のほぼ中央にP_{13}が位置し、炉跡とも考えられる。　**重複**　J39号住にはJ61(旧)、JP112(旧)、H127(新)、HP129(新)が、J61号住にはJP60(不明)、HP129(新)が重複する。　**遺物**　土器は諸磯a式が主である。J61号住に属すると考えられる土器は出土しなかった。石器は打製と磨製の石斧、削器、楔形石器、円礫、多凹石が出土している。

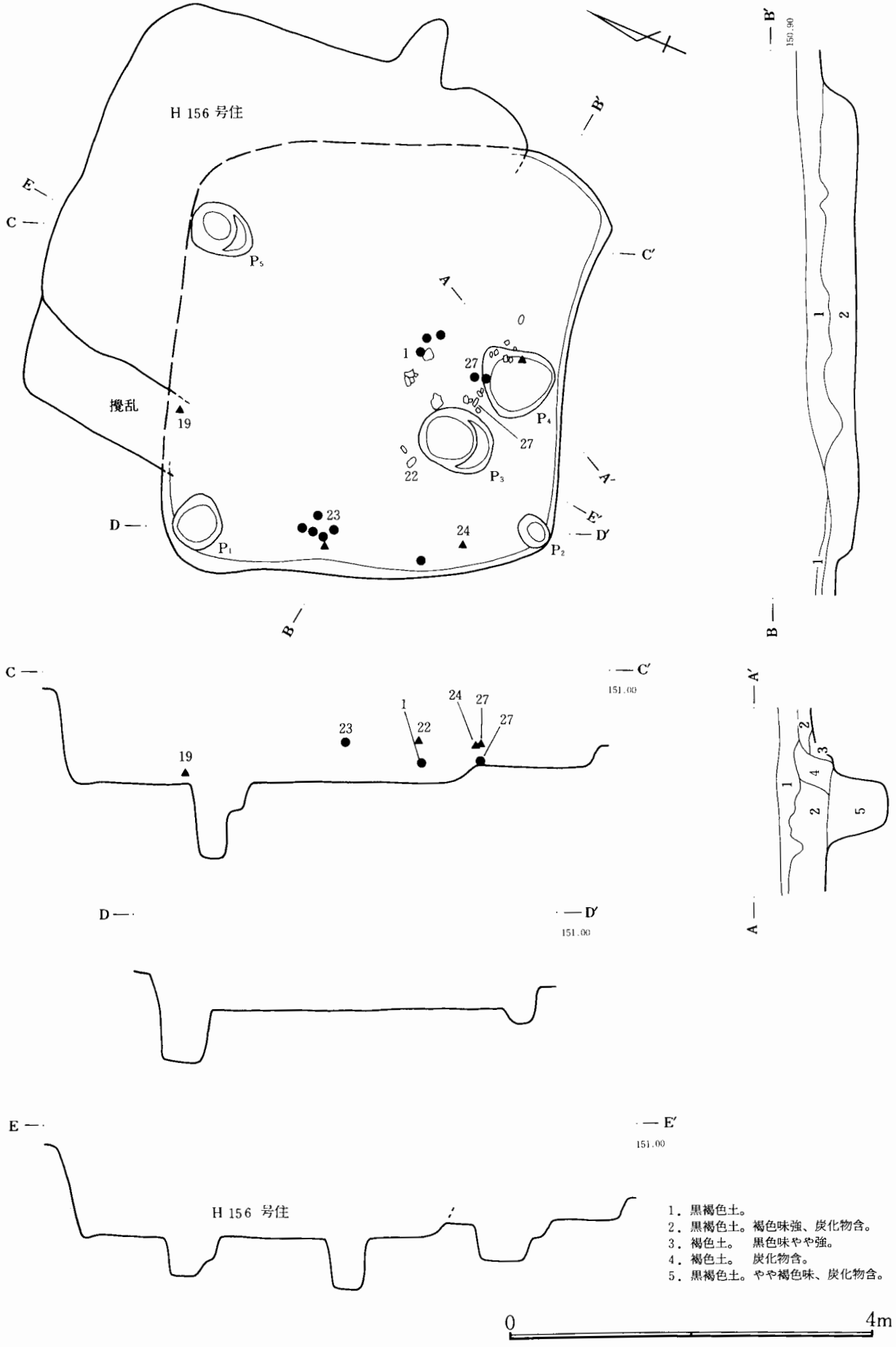
(井野)

H159
号住
H126 号住
149.60
149.00
148.70
1．黒褐色土。
2．黒褐色土。硬くしまる。
炭化物多。
3．暗褐色土。ローム質土。
4．黒褐色土。ローム多量。
5．黒褐色土。
a．黒褐色土。小粒子含。
0
4m

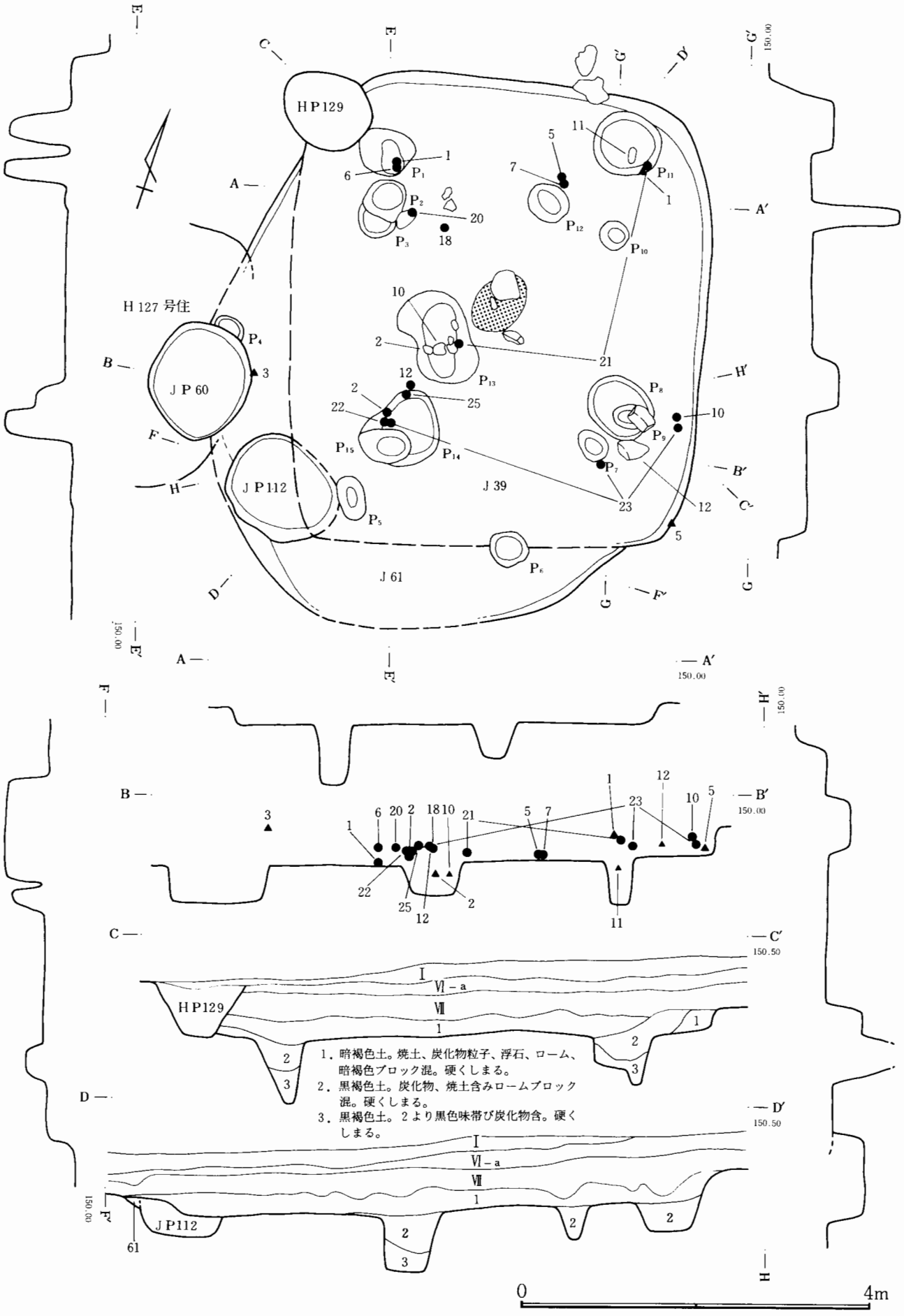
図－39　J 36号住居跡


A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
E
E′
F
F′
152.00
152.20
P1
P2
P3
P4
P5
Ⅲ＋Ⅳ
撹
1．黒褐色土。
2．黒褐色土。硬くしまる。炭化物、焼土粒、ローム小塊含。
3．ローム＋2。
4．褐色土。 硬くしまる。
5．黒褐色土。硬くしまる。炭化物、焼土粒含。
0
4m

図－40　J 37号住居跡


H 156 号住
撹乱
P1
P2
P3
P4
P5
1
19
22
23
24
27
150.90
151.00
1．黒褐色土。
2．黒褐色土。褐色味強、炭化物含。
3．褐色土。　黒色味やや強。
4．褐色土。　炭化物含。
5．黒褐色土。やや褐色味、炭化物含。
0
4m

図－41　J 38号住居跡



図－42　J 39･61号住居跡

Ｊ40・41号住居跡　（図―43・187～190、表―106～108、図版―30・104・137）

位置　西側台地、東縁の中央部南ロ・ハ―７区に位置する。芳賀東部団地遺跡では縄文住居跡が西側台地の南西と東縁の中央部やや南に集中して検出されており、Ｊ40・41は後のグループの南東に所在している。Ｊ40・41号住は重複している。

〔Ｊ40〕　**形状**　西壁がやや直線を呈する円形である。規模は土層図より推定で南北4.5m、東西4.8m、面積は推定17.2㎡である。壁高は34～52cmを測る。周溝は検出されなかった。長軸方向はＮ―83°―Ｗである。　**ピット**　床面７個検出されている。P_1、P_2、P_4、P_6、P_7 は円形に配され、主柱穴と考えられる。P_3 は床面南端にあり、柱穴もしくは出入口の施設に係わるものと考えられる。P_5 は不明である。柱穴の径は40～50cmである。深さは記録がなく不明であるが、径もしくはそれ以上の深さがあるとみられる。　**炉**　P_1 と P_2 の間に92×84cmのピットがあり、礫の散布ともあわせて炉の跡と考えられる。また P_6 の西床面にも多数の石と土器片が散布していた。

〔Ｊ41〕　南壁が北壁よりやや長い長方形をしている。新しいＪ40号住に切られている。規模は現状で南北4.3m、東西3.3m、面積は現状で14.1㎡である。壁は28～38cmを測る。周溝・張り出し等の施設はないとみられる。　**ピット**　Ｊ41号住に附随するとみられるものは検出されなかった。　**炉**　床面中央やや北。平面は方形で48×48cmの規模である。掘り形は80×69cmである。礫８石で囲み、底面敷石される。　**重複**　Ｊ40号住の南壁とＪ41号住の北壁が重複するが、地層断面図によりＪ40号住が新しい。　**遺物**　土器は花積下層と諸磯ｂ・ｃ式が主である。出土位置よりＪ41号住が花積下層で、Ｊ40号住が諸磯ｂ・ｃ式とする。石器は石斧、削器、敲き石、凹石、円礫が出土している。

（井野）

Ｊ42号住居跡　（図―44・191・192、表―109～111、図版―31・105・137・149）

位置　西側台地東縁中央部やや南のイ―８区に位置する。この付近は遺構の検出数が多いところである。　**形状**　ほぼ正方形に近い方形の住居跡である。壁はしっかりと掘り込まれている。四隅はほぼ直である。規模は南北4.6m、東西4.8m、面積は20.4㎡。壁高は73～92cmを測る。周溝や張り出し等の施設は検出されなかった。主軸方位はＮ―84°―Ｅである。床面はよくしまった硬いローム面である。床面北東部より炭化物を検出している。土層にも炭化物が含まれている。　**ピット**　床面に４個検出されており、いずれも主柱穴である。径は30～70cm、深さは P_4 を除くと30～50cmである。ほぼ方形に配されている。　**炉**　床面中央部の方形ピット。規模は33×33cmである。　**重複**　Ｈ237号住、ＨＰ55と重複している。Ｈ237号住はＪ42号住の北壁上半で重複し、ＨＰ55は南東隅で壁と重複している。　**遺物**　土器は諸磯ｃ式が主である。石器は石斧、削器、敲き石、円礫、石皿が出土している。

（井野）

Ｊ43号住居跡　（図―45・193・194、表―112～114、図版―32・105・138・147・149）

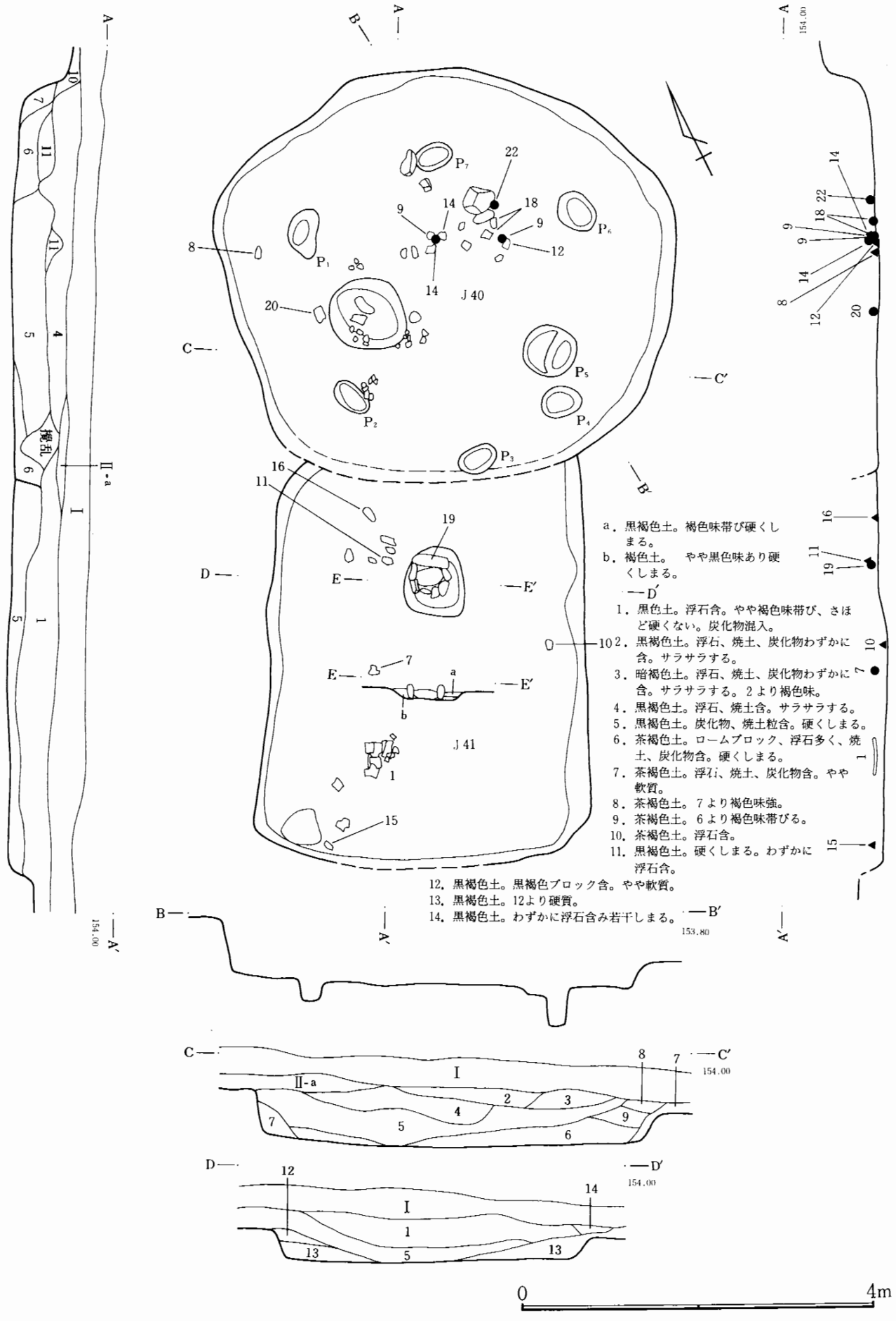
位置　西側台地東縁南のハ―６区に位置する。当初は２住居跡の重複と考えたが、検討の結果Ｊ43号住一軒のみで、ＪＰ129・130・131との重複と判断した。　**形状**　南北に長い長方形の住居跡である。北壁にくらべ南壁がやや長い。規模は南北が土層断面からの復元で5.1m、東西4.1m、面積は19.5㎡である。主軸方位はＮ―11°―Ｅ。壁は住居北半ではロームをしっかり掘り込んでいてわかりやすいが、南半では自然地形のロームがさがっているので壁は、はっきりしない。壁高は43～76cmで、地層断面図からは82cmを測る。周溝・張り出し等の施設および柱穴は確認されなかった。床面はＪＰ129・130・131の上にある。床面凹凸があるのは精査時にＪＰの覆土を掘ったためである。　**炉**　床面北に焼土域がある。規模は150×146cm。また南壁近くに石囲い炉がある。２石がのこり、規模は27×23cmである。北壁際より石が多く検出された。　**遺物**　北東隅より炭化物が検出された。状況からみて住居構築材・施設のものと考えられる。土器は黒浜式を主とする。石器は石匙、石斧、削器、石皿、台石が出土している。

（井野）

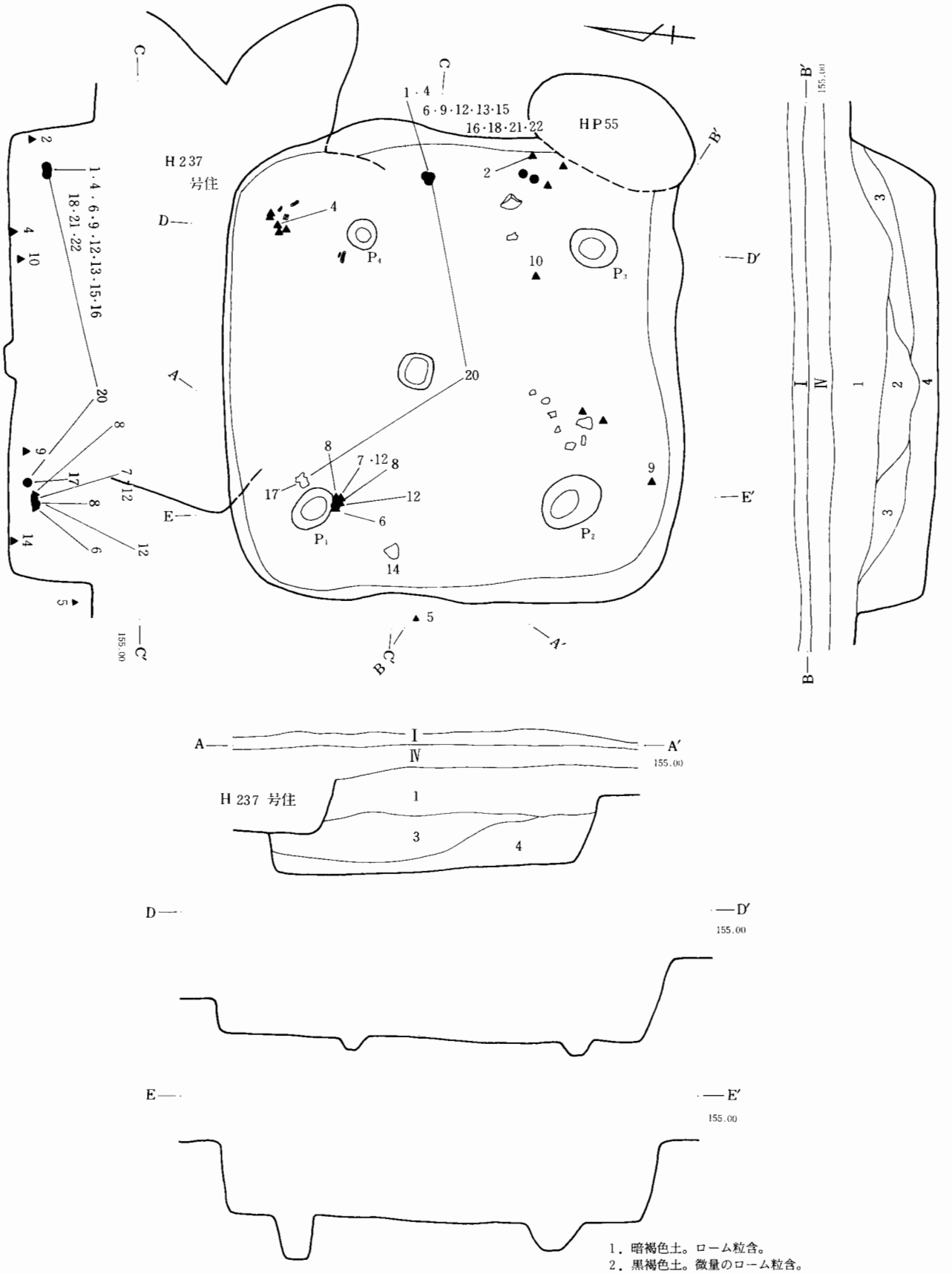
Ｊ44号住居跡　（図―46・195～199、表―115～117、図版―33・106・107・138・139・147・149）

位置　谷西の台地東縁に近くＡ―８区に位置する。　**形状**　平面形は、東西方向が長い均整のとれた隅丸方形を呈する。規模は、東西4.1m、南北5.3m、面積は21.8㎡を測る。主軸方位はＮ―41°―Ｗである。壁はほぼ垂直に掘りこまれており、現存高46～54cmのローム層の壁面を確認した。また、覆土中には焼土及び炭化物の小粒が含まれていた。床面には小さな凹凸が認められたが比較的平坦で、全面に亙って強く踏みしめられていた。　**ピット**　南壁下に３個（P_3～P_5）、北壁際に２個の攪乱によるピット（P_1～P_2）が有ったが、柱穴は検出されなかった。　**炉**　炉は中央から1.6m西よりの位置に地床炉が設けられていた。径1.5m程の範囲に亙って弱い焼け込みが認められ、床面下には長径81cm、短径71cm、深さ10cmの長円形の窪みが穿たれており、内部から焼けた河原石２個が出土したが特別な施設は検出されなかった。　**遺物**　土器は黒浜式を主とする。石器は石錐、石匙、石斧、掻器、磨石、円礫、棒状石器、敲き石、砥石などが多量に出土している。

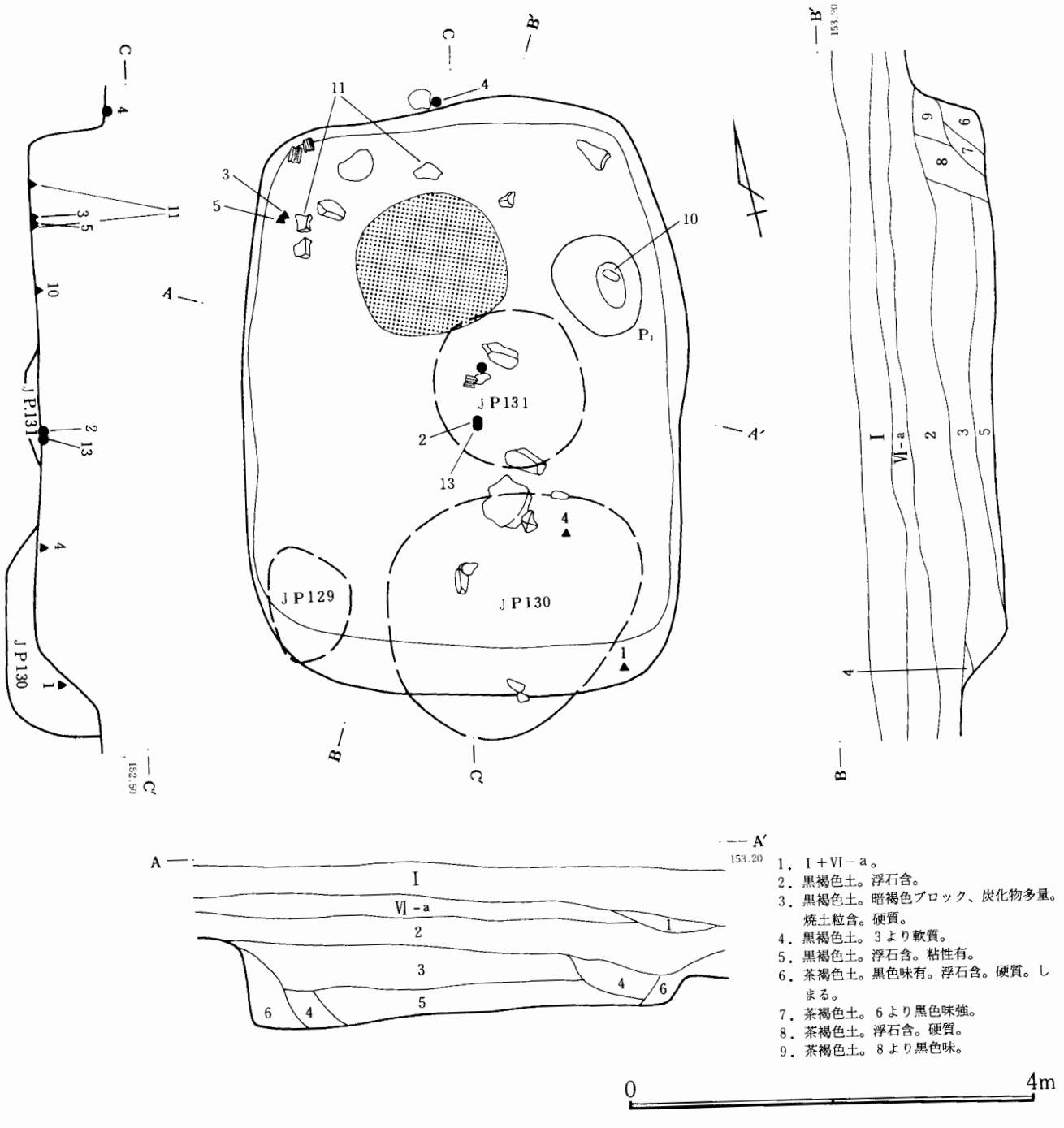
（飯塚）



図－43　J 40･41号住居跡

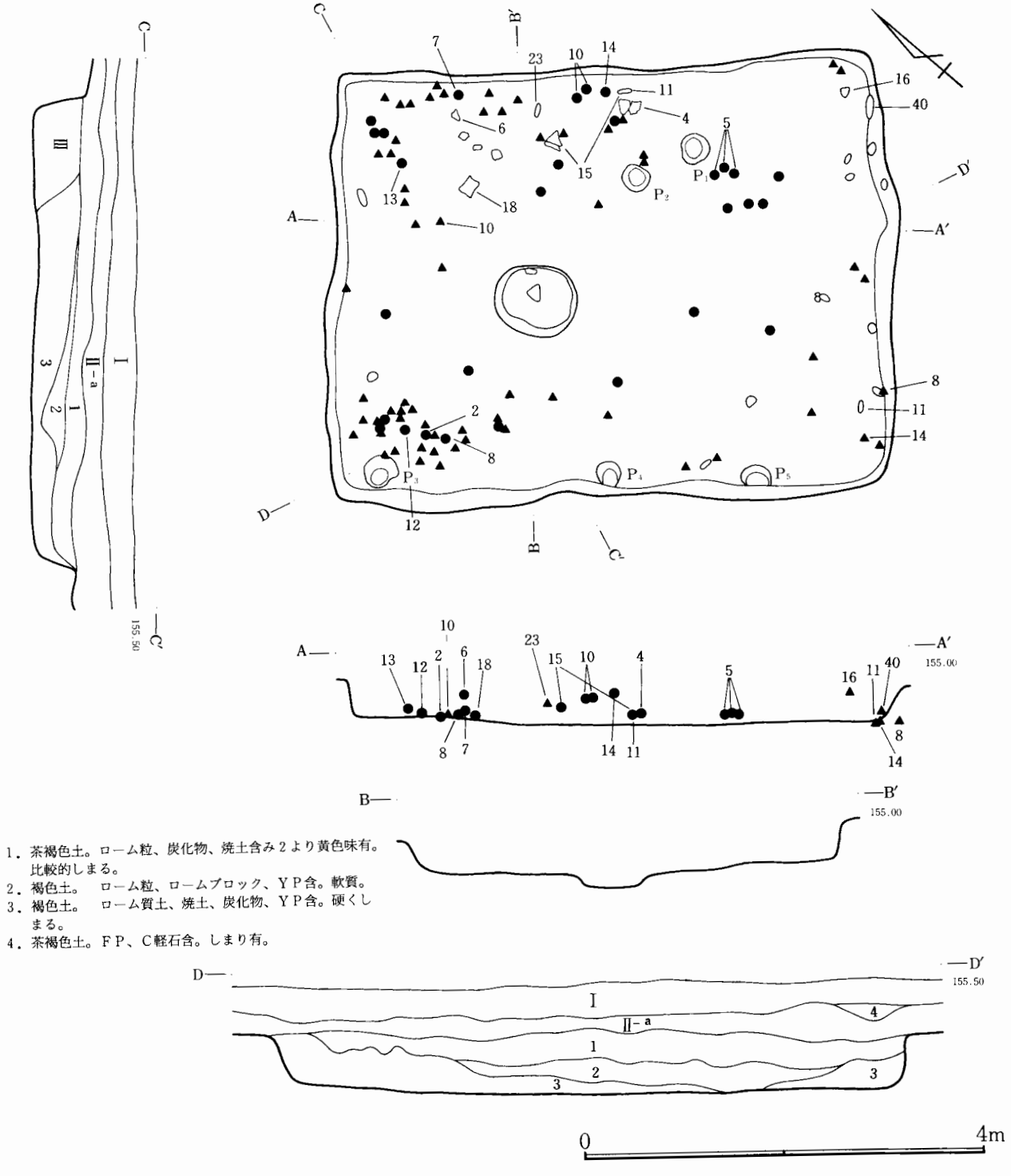

H 237
号住
HP55
1・4
6・9・12・13・15
16・18・21・22
1・4・6・9・12・13・15・16
18・21・22
P1
P2
P3
P4
155.00
H 237 号住
1．暗褐色土。ローム粒含。
2．黒褐色土。微量のローム粒含。
3．暗褐色土。ロームブロック主体。微量の白色スコーリア含。
4．黄褐色土。汚れたローム質土。
0
4m

図－44　J 42号住居跡



JP131
JP129
JP130
P1
A
A′
B
B′
C
C′
153.20
152.50
I
VI-a
1. I＋VI－a。
2. 黒褐色土。浮石含。
3. 黒褐色土。暗褐色ブロック、炭化物多量。焼土粒含。硬質。
4. 黒褐色土。3より軟質。
5. 黒褐色土。浮石含。粘性有。
6. 茶褐色土。黒色味有。浮石含。硬質。しまる。
7. 茶褐色土。6より黒色味強。
8. 茶褐色土。浮石含。硬質。
9. 茶褐色土。8より黒色味。
0
4m

図－45　J 43号住居跡



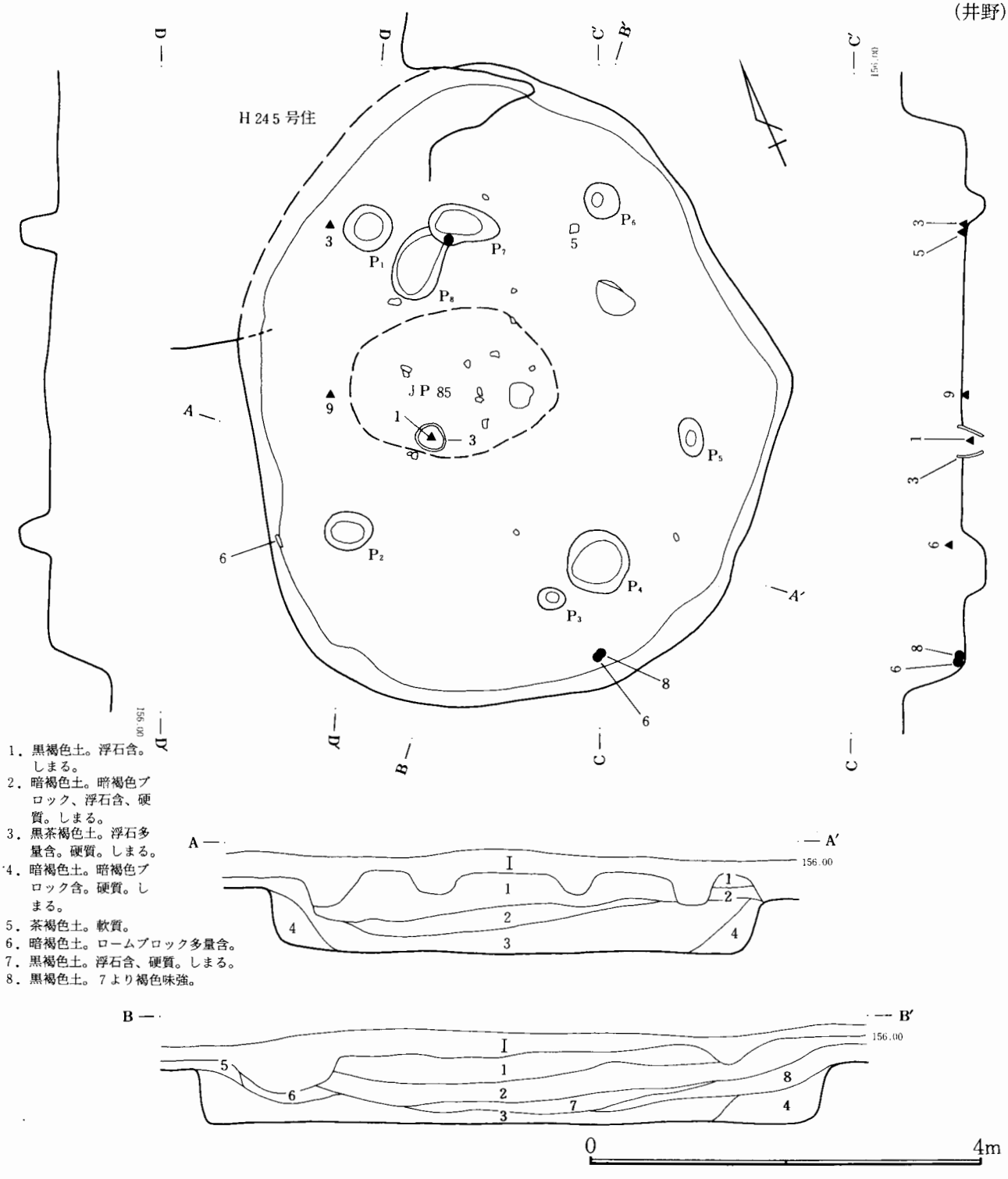
1．茶褐色土。ローム粒、炭化物、焼土含み２より黄色味有。比較的しまる。
2．褐色土。　ローム粒、ロームブロック、ＹＰ含。軟質。
3．褐色土。　ローム質土、焼土、炭化物、ＹＰ含。硬くしまる。
4．茶褐色土。ＦＰ、Ｃ軽石含。しまり有。

図－46　Ｊ44号住居跡

Ｊ46号住居跡　（図―47・200～202、表―118～120、図版―33・106・107・139・147）

位置　西側台地東縁の中央部南、ロ－９区に位置する。南への緩斜面にあたり、台地内では住居跡が多く検出されているところである。　**形状**　やや南北に長い楕円形の住居跡である。北西でH245号住と重複する。各壁ともにしっかりと掘り込まれている。規模は南北が6.1m、東西5.1m、面積は24.3㎡である。壁高は60～66cmを測る。周溝や、張り出し等の施設はないとみられる。主軸方位はN―20°―Eである。　**ピット**　床面に８個検出されている。P_1～P_3、P_5、P_6が主柱穴で円形に配されている。P_1 はH245号住貯蔵穴と重複する。一部データの不明なものもあるが、柱穴は径が、30～60cmで、深さは15～30cm前後である。　**炉**　明瞭ではないが、床面中央に礫と埋設土器があり、炉跡と考えられる。　**重複**　ＪＰ85は遺物の出土状況からＪ46号住床面下である。又、前記したごとく北西部でH245号住と重複し、立ち上り部を欠損する。　**遺物**　土器は諸磯ｃ式を主とする。石器は石鏃、削器、礫器、磨石、円礫が出土している。黒色頁岩製が多い。

（井野）

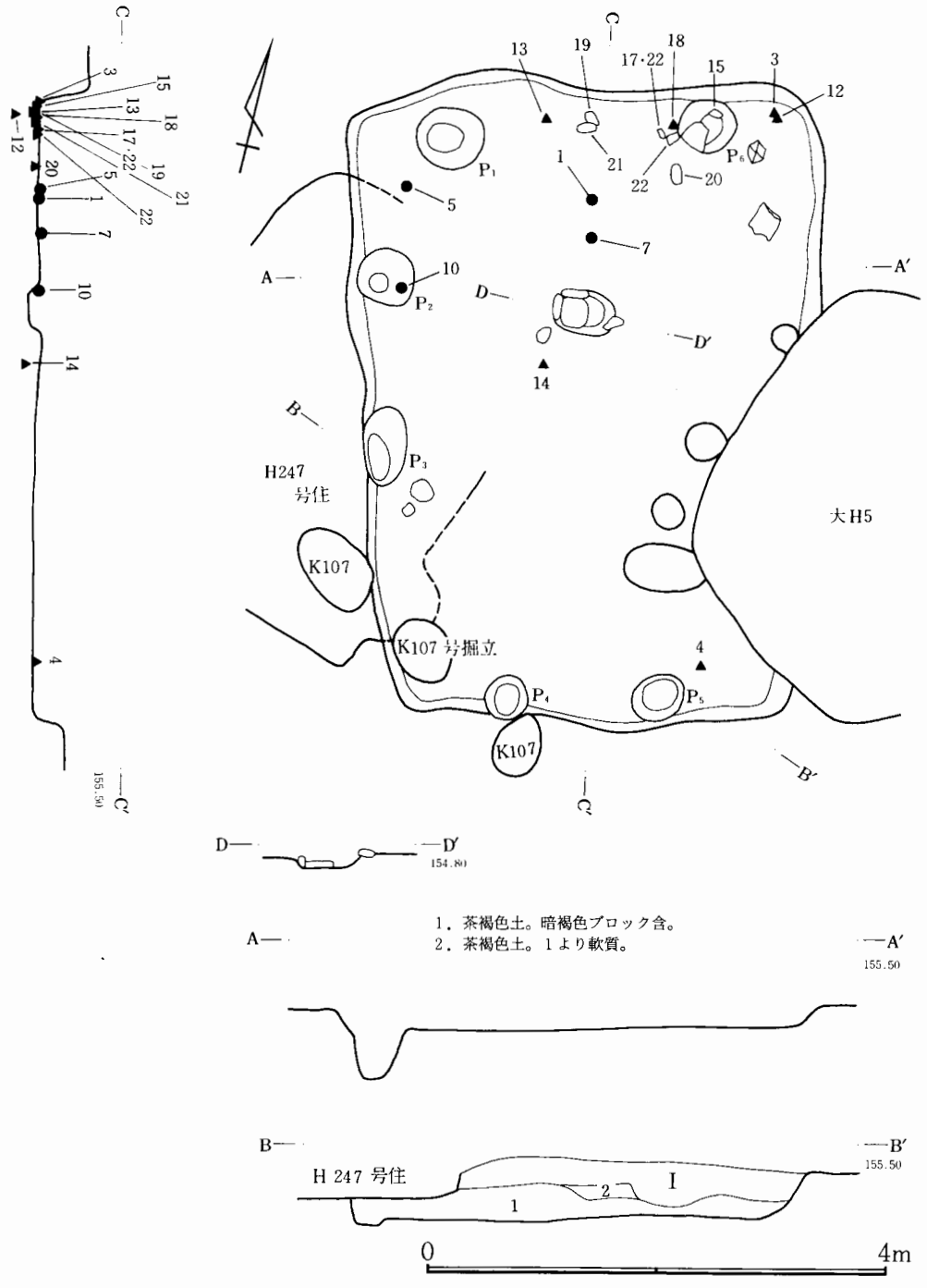


図―47　Ｊ46号住居跡

Ｊ47号住居跡　（図―48・203～205、表―121～123、図版―34・107・140）

位置　西側台地東縁の中央南、ロ－８区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形の住居跡である。カマ掘り等の攪乱により、壁の残りは良くない。南壁にくらべ北壁が長くなっている。規模は、南北が5.4m、東西が3.8m、面積は推定19.0㎡である。壁高は地層断面から17cmを測る。周溝や張り出し等の施設は検出されなかった。長軸方向はＮ―11°―Ｗである。　**ピット**　壁にそって６個の柱穴が検出されている。南西で重複するピットはK107号掘立の柱穴である。大ＨＰ５の縁にそっているピットは、大ＨＰ５の関連のピットとみられる。本跡に伴うピットは、深さのデータがないが、径は40～60cmである。　**炉**　中央やや北に位置し、石囲い炉で、規模は42×34cmである。方形に３石が配され、中央に一石が敷かれている。掘り形は106×82cmである。　**重複**　大ＨＰ５、K107、H247号住と重複する。　**遺物**　土器は黒浜式を主とする。石器は石斧、掻器、削器、ＵＦ、磨石、円礫、敲き石等が出土している。

（井野）

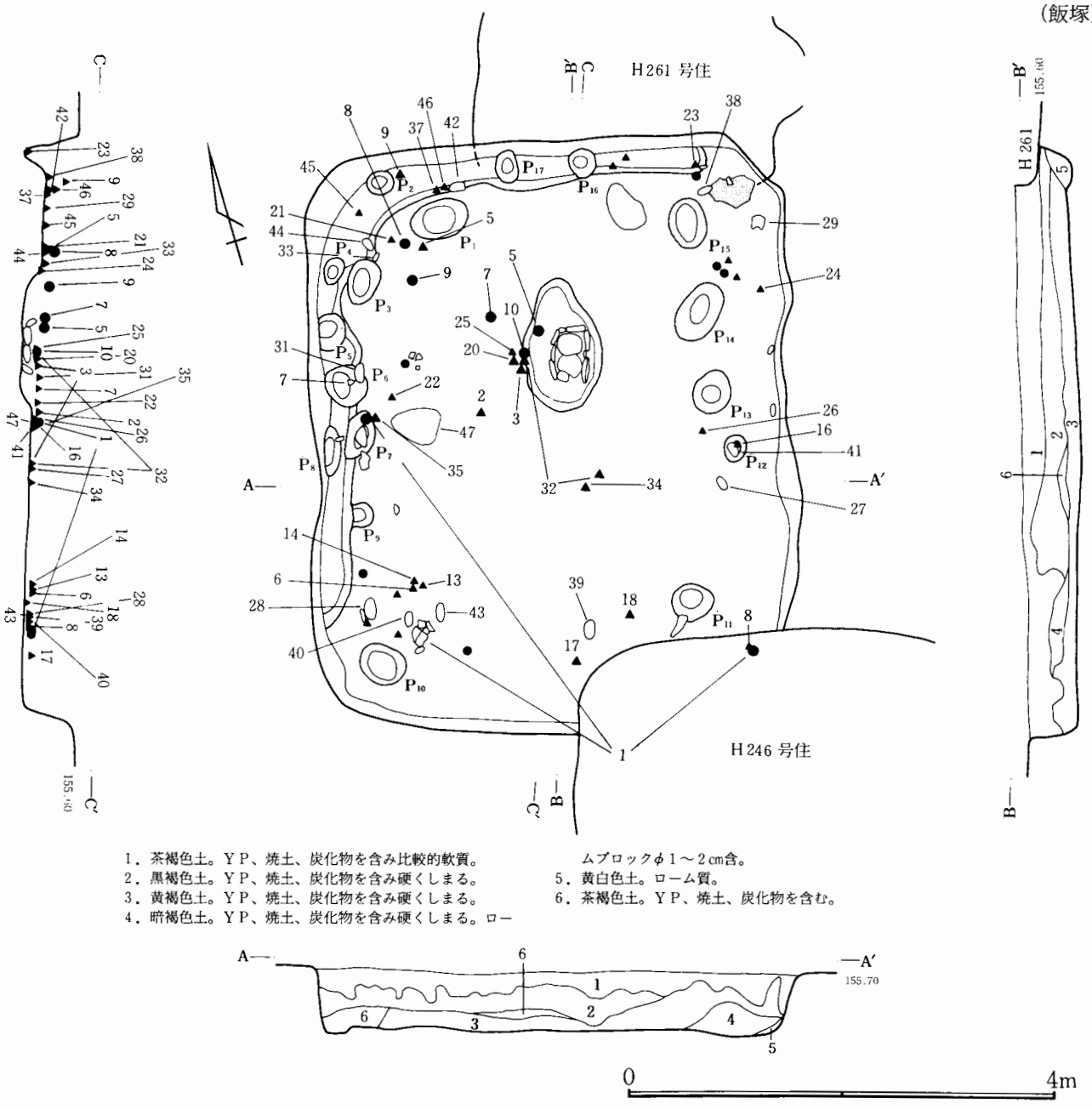


図－48　Ｊ47号住居跡

Ｊ48号住居跡　（図—49・206～210、表—124～126、図版—35・107・140～142）

位置　ロ－９区に位置する。　**形状**　平面形は、南北方向が長い隅丸方形を呈する。規模は東西4.4m、南北5.3m、面積は推定21.6㎡である。主軸方位はＮ—17°—Ｅである。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、現存高62cmのローム層の壁面を確認した。覆土中にはＹ.Ｐ、焼土、炭化物が含まれ、硬く締まっていた。床面には小さな凹凸が認められたが比較的平坦で、全面に亙って強く踏み締められていた。北、西壁際には幅20～42cm、深さ４～６cmの周溝が検出された。**ピット**　東西及び北壁際に径20～58cmの大小17個のピットが穿たれていた。　**炉**　中央から1.2m北寄りの位置に板状の礫岩を使用した方形の石囲い炉がある。規模は東西39cm、南北53cmで、南側は開放されていたが、底面には河原石が３個敷かれていた。掘り形は長径123cm、短径76cmの不整長円形を呈する。　**重複**　Ｈ246、261号住が重複しており、南東隅及び北東壁上半部を壊されていた。　**遺物**　ほぼ全域に散在していたが、北東隅から炭化した橡の実がまとまって出土した。土器は関山式を主とする。石器は石鏃、石匙、石斧、掻器、削器、ＵＦ、石核、円礫、敲き石、台石等が多量に出土した。特に円礫が19個と多かった。

（飯塚）

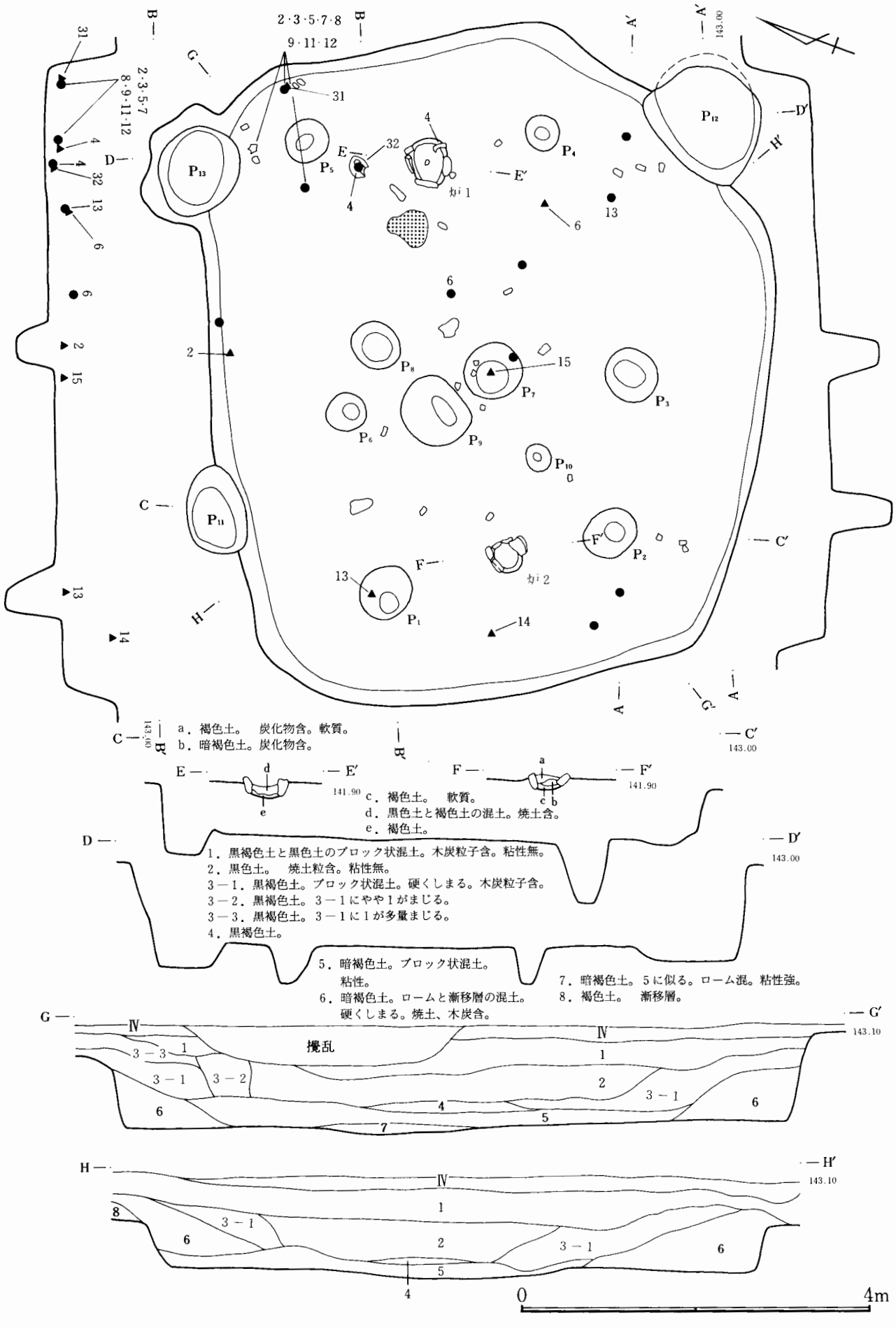


1．茶褐色土。ＹＰ、焼土、炭化物を含み比較的軟質。
2．黒褐色土。ＹＰ、焼土、炭化物を含み硬くしまる。
3．黄褐色土。ＹＰ、焼土、炭化物を含み硬くしまる。
4．暗褐色土。ＹＰ、焼土、炭化物を含み硬くしまる。ローム ブロックφ１～２cm含。
5．黄白色土。ローム質。
6．茶褐色土。ＹＰ、焼土、炭化物を含む。

図—49　Ｊ48号住居跡

Ｊ49号住居跡　（図—50・211～213、表—127～129、図版—36・107・108・142・143・149）

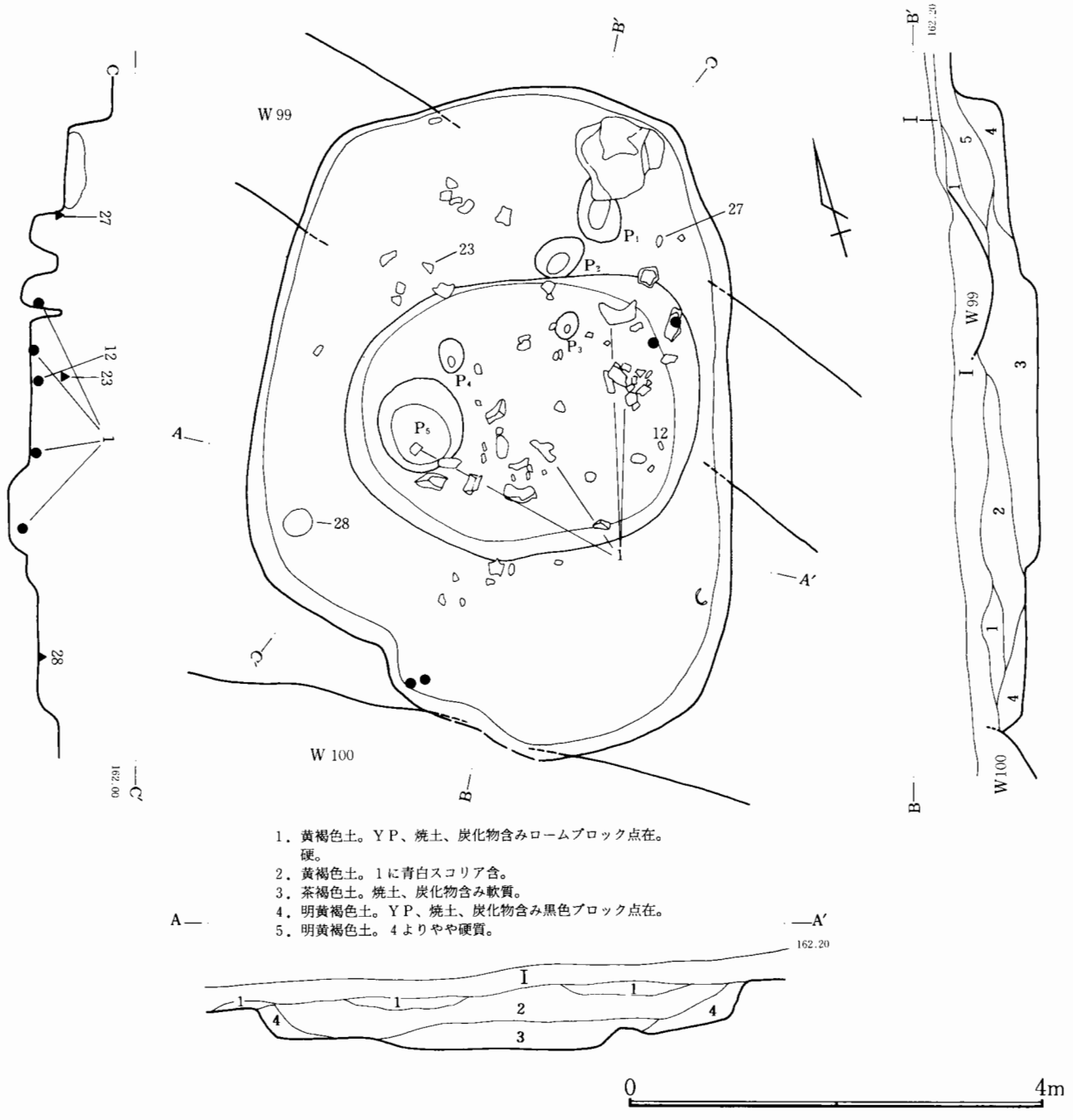
位置　東台地の最南端にあたるワ・カ—110・111区に位置する。付近には住居跡は無く、土坑が散在するのみである。**形状**　主軸をＮ—62°—Ｅに取る。東壁が広がる五角形を呈し、壁下端間で南北6.2m、東西は最も広い部分で7.1m、面


P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
炉1
炉2
a．褐色土。　炭化物含。軟質。
b．暗褐色土。炭化物含。
c．褐色土。　軟質。
d．黒色土と褐色土の混土。焼土含。
e．褐色土。
1．黒褐色土と黒色土のブロック状混土。木炭粒子含。粘性無。
2．黒色土。　焼土粒含。粘性無。
3－1．黒褐色土。ブロック状混土。硬くしまる。木炭粒子含。
3－2．黒褐色土。3－1にやや1がまじる。
3－3．黒褐色土。3－1に1が多量まじる。
4．黒褐色土。
5．暗褐色土。ブロック状混土。粘性。
6．暗褐色土。ロームと漸移層の混土。硬くしまる。焼土、木炭含。
7．暗褐色土。5に似る。ローム混。粘性強。
8．褐色土。　漸移層。
攪乱
143.00
141.90
143.10
0
4m

図－50　J 49号住居跡

積は37•9㎡である。壁は直に立ち、40～55cmの壁高が残る。掘り込み面から推定すれば、当初は85cm程の壁高があったとみられる。周溝はない。　**ピット**　床面より10個のピットが検出された。いずれも床面上で径50～60cm、床面よりの深さ35～70cmの規模をもつ。平面的には P_1、P_6、P_5 が住居の主軸と並行に並び、P_2、P_4 が2.7mの間隔をあけて先の P_1、P_5 の東側に存在する。しかし P_6 と P_3 の間隔は3.3mとなり、住居の東壁が広くなっている分だけ柱間も広がっている。また、P_6 と P_3 の中間には P_7 があり、これらの P_1～P_7 が主住穴とみられる。この他、壁際には張り出すよう P_{11}～P_{13} のピットがある。径66～116×80～139cm、深さ60～132cmで P_1～P_{10} と比較して大きく、P_{12} は袋状土坑をなし、本住居に伴う貯蔵穴と考えられる。　**炉**　住居の中軸線に乗る位置に、2つの石囲い炉が造られている。炉1は P_4 と P_5 の中間にあり、4個の山石で囲んでいる。石の内法で34×40cmを測る。径50×70cm、深さ20cmのすり鉢状に掘り込み、石を据えたもので、北側に石は存在しない。中には焼土混じりの黒褐色土が埋まっている。炉2は P_1 と P_2 の中間にある。炉1と同様に南側を除いた3方向に5石の山石を据えている。中には炭化物、焼土を混ぜる暗褐色土が埋まっている。　**遺物**　土器は諸磯c式を主とする。石器は石斧、削器、UF、石核、円礫、凹石、敲き石、棒状石器、砥石、石皿等が出土している。

（富沢）



図－51　Ｊ50住居跡

J50号住居跡　(図—51・214～217、表—130～132、図版—37・108・109・143・144・149)

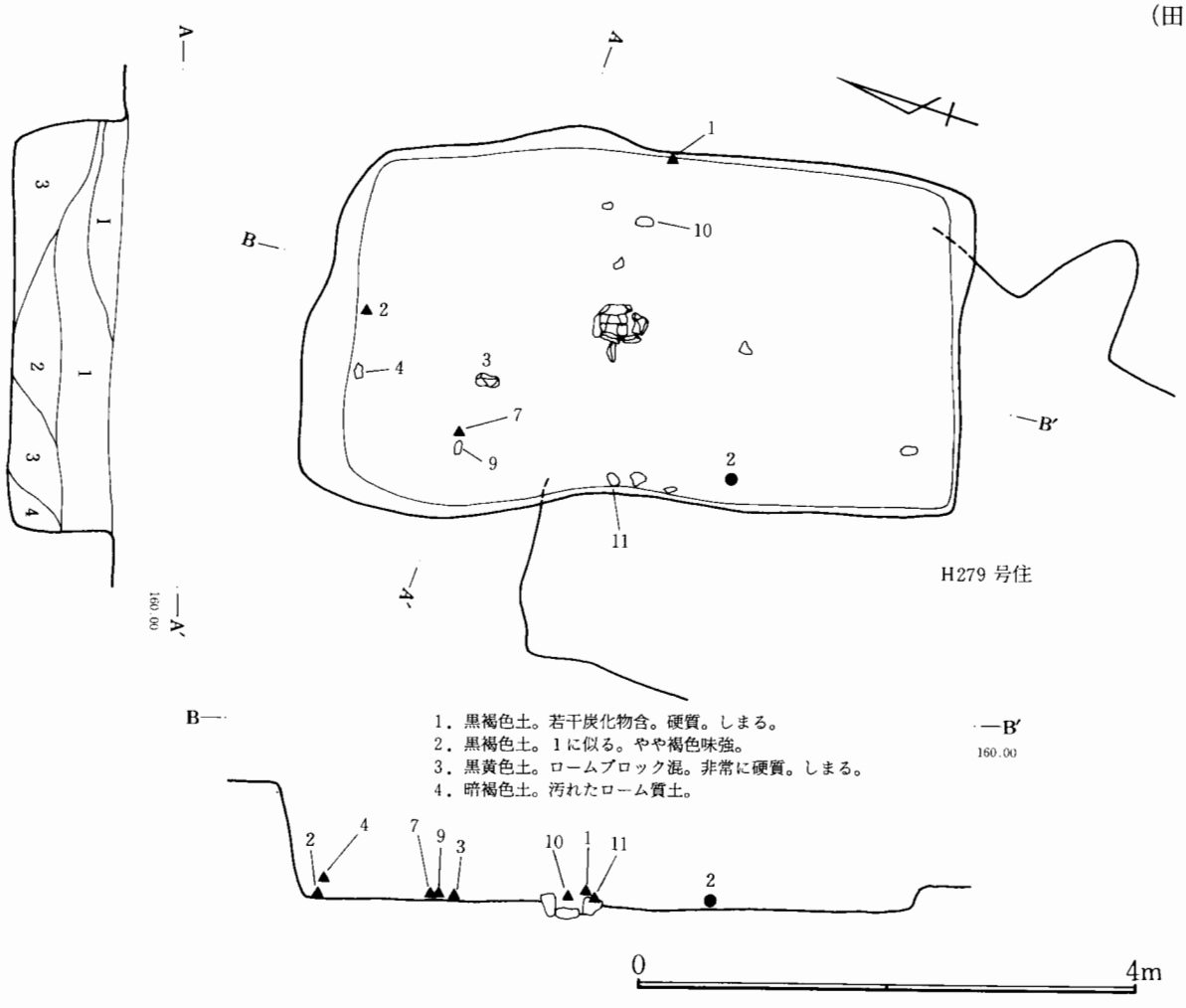
位置　東西に丘を二分する谷に北から南へ伸びる小丘上の南端ハ—22区に位置する。　**形状**　平面はほぼ方形で、南北6.1m、東西4.2mで南に3.8×0.8mのやや半円形の張り出しがみられる。面積は21.8㎡である。主軸方位はN—24°—Wを示す。壁高は19～46cmで、南側が地形的に低い。また、住居の中央に東西に長い楕円形の落ち込みがある。これは地層断面からすると住居より新しい時期の遺構と解釈できる部分もある。規模は3.4×2.7m、周囲より12cm低い。その中央の低い所から遺物が集中的に出土している。　**ピット**　5ケ所に認められるが、最も深いピットでも他の住居のそれに比較すると浅い。　**炉**　埋土中には炭化物・焼土がみられるが床面上では明瞭でない。また住居の北に大石があるが、床面を掘って設置されたとは考えがたい。　**重複**　W99とW100が住居の南と北を東西に切っている。地層断面から溝が新しい。　**遺物**　土器は中央の落ち込み内より諸磯c式が出土し、他に諸磯b式、黒浜式も出土しており、中央の落ち込みが新しい可能性もある。石器は石錐、尖頭器、打斧、礫器、削器、円礫、台石等が出土した。

(中村)

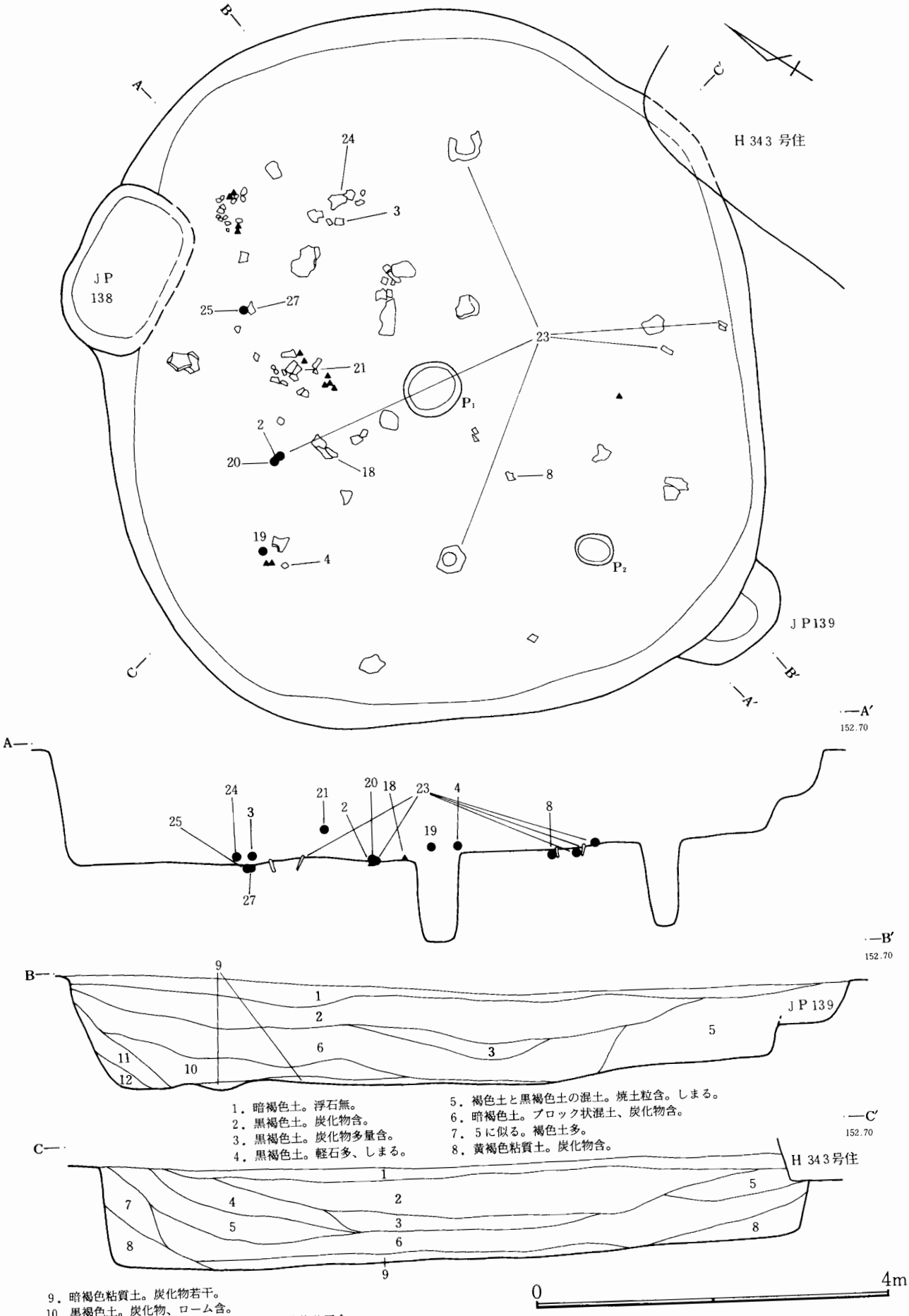
J51号住居跡　(5J—1)　(図—52・218・219、表—133～135、図版—38・109・144・147)

位置　東台地の北縁、カ—13・14区に位置する。周辺には遺構がみあたらない。　**形状**　南北4.8m、東西2.65mの矩形プランをもち、面積は12.7㎡である。南半は重複するH279号住により壁高は計測不能であるが、残存した北半より86～96cmを測る。長軸方向はN—17°—W。　**炉**　床面中央部よりやや北に偏して、石囲い炉がある。長辺44cm、短辺34cmの長方形プランをもち、長円形の礫を6個体使用して、構築されている。構築にあたっては、まず深さ20cmのピットを穿ち、長円形の礫を敷き、これに乗せるか、あるいは接する形で礫を立てて築いたものと考えられる。南辺が開放されており、ここより火入れを行なったものであろう。底部の礫は強く火を受けた痕跡をとどめている。　**重複**　南半をH279号住によって切られている。　**遺物**　土器は関山式を主とする。石器は抉状耳飾、掻器、石斧、削器、円礫等が出土している。

(田口)



図—52　J51号住居跡



1．暗褐色土。浮石無。
2．黒褐色土。炭化物含。
3．黒褐色土。炭化物多量含。
4．黒褐色土。軽石多、しまる。
5．褐色土と黒褐色土の混土。焼土粒含。しまる。
6．暗褐色土。ブロック状混土、炭化物含。
7．5に似る。褐色土多。
8．黄褐色粘質土。炭化物含。
9．暗褐色粘質土。炭化物若干。
10．黒褐色土。炭化物、ローム含。
11．褐色土と暗褐色土の混土。やや粘性、炭化物若干含。
12．暗褐色粘質土。炭化物含。

図－53　J 52号住居跡

J52号住居跡　（5 J－2）　（図―53・220～223、表―136～138、図版―39・109・110・144）

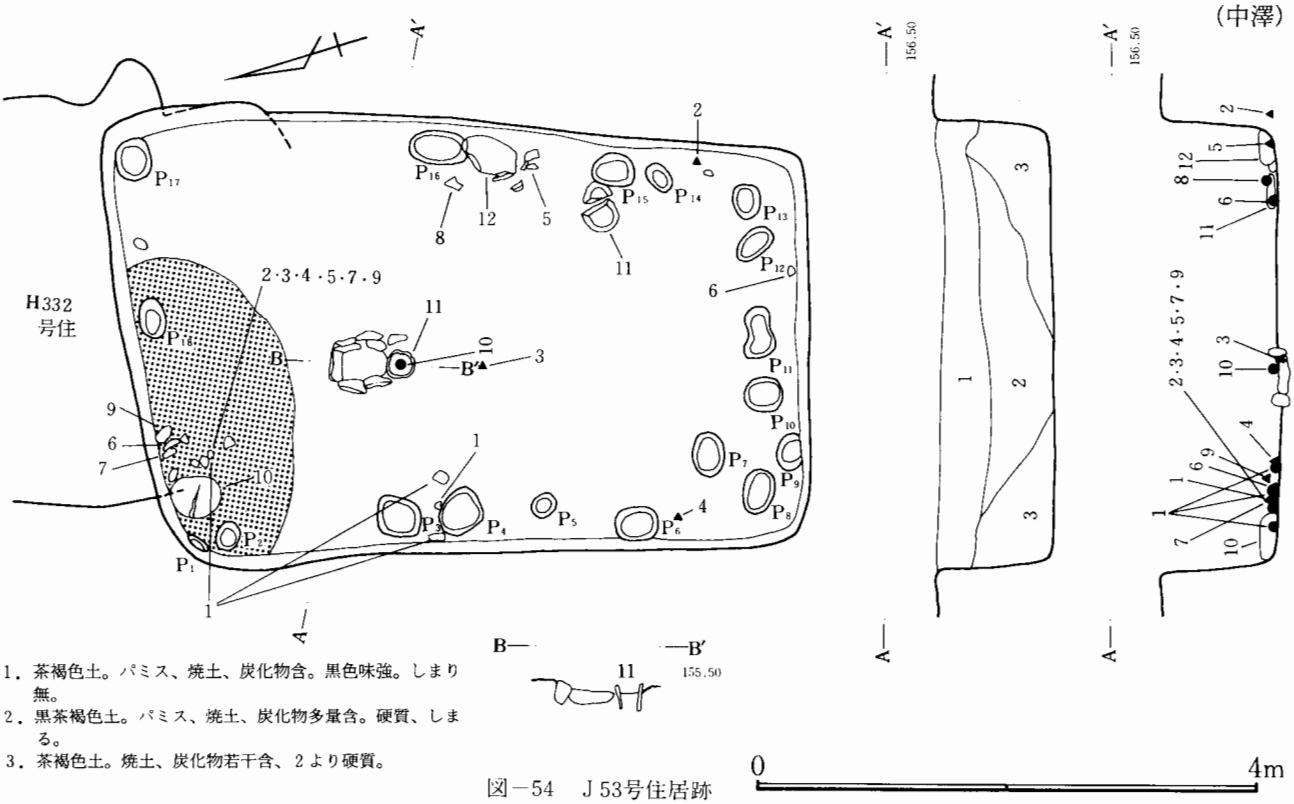
位置　谷西の台地上にあって、台地の東端近く、イ－5区に位置する。　**形状**　ほぼ円形に近い。規模は南北6.8m、東西7.4mで、面積は約43.3㎡。壁の高さは最高132cm、最低57cmである。壁は垂直ではなく、やや傾斜をもつ。主軸方位はN―38°―Wで、周溝はみられない。　**ピット**　床面ほぼ中央部（P_1）と南壁近く（P_2）の2つが認められた。P_1は66×61cm、深さ91cm。P_2は45×37cm、深さ87cm。ともに性格は不明。　**炉**　床面には明確な炉跡と思われる焼け跡は確認できなかった。　**重複**　J P138・139と重複する。断面図より、J P139は住居より旧く、J P138は新しい。又、北東壁上半でH343号住と重複する。　**遺物**　床面に埋設された状態で甕が2個出土している。1個は北東壁近く、他は南西壁近くで、P_1を中心にして対になるような格好で埋設されている。両甕とも底部は抜けていて、炉の一部として使用されていたと推定される。土器は諸磯b式を主とする。石器は打製石斧、磨製石斧、削器、石核、円礫、敲き石、砥石、石皿等が出土している。

（中澤）

J53号住居跡　（5 J－3）　（図―54・224・225、表―139～141、図版―40・110・111・145・150）

位置　谷西の台地上にあって、台地の東端に近いAイ―10区に位置する。　**形状**　ほぼ長方形をしている。しかし、東壁が西壁よりも長く、北壁は南壁と平行でない。規模は最大で南北5.4m、東西3.5m、面積は約16.8㎡。周溝はない。壁の高さは平均して80cmほどである。主軸方位はN－16°－E。　**ピット**　壁面下から都合18個のピットが確認されている。住居の隅角にあるピットを除くと、北壁下に6、南壁下に5、東壁下に3を数えることができる。ピットの規模は10～30cm程である。18個のうち住居の中心部にやや内傾するピットは10個（P_1、P_2、P_4、P_6、P_{10}、P_{13}、P_{15}、P_{16}、P_{17}、P_{18}）ほどある。性格としては柱穴と考えられる。　**炉**　住居内やや北寄りに石囲いとそれに接する埋甕の炉が認められている。石皿を敷きその周辺に石のコバを表面にして9石並べて作っている。炉の南側には甕が1個埋設されている。また、北西隅を中心に、床面の焼け跡が認められる。　**重複**　北壁部上半でH332号住居跡と重複。　**遺物**　本住居跡から炉に使用された石皿を含め、合計4個の石皿が出土している。他に石器では削器、棒状石器、円礫が出土している。土器は関山式である。

（中澤）



1．茶褐色土。パミス、焼土、炭化物含。黒色味強。しまり無。
2．黒茶褐色土。パミス、焼土、炭化物多量含。硬質、しまる。
3．茶褐色土。焼土、炭化物若干含、2より硬質。

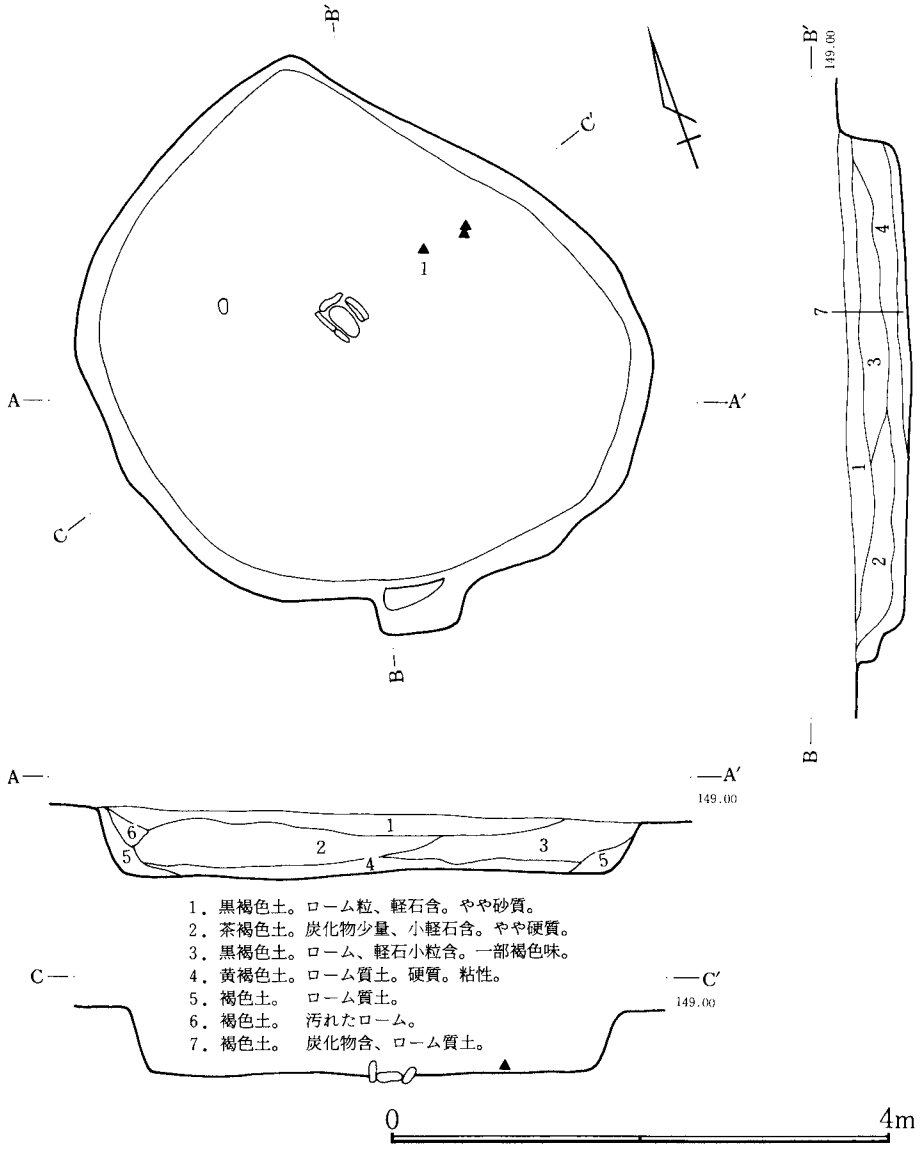
図－54　J53号住居跡

J54号住居跡　（5 J－4）　（図―55・226・227、表―142～144、図版―41・110・111・145）

位置　東側台地南東端の、谷地に近いツ―101区に位置する。南への緩傾斜地である。　**形状**　円形であるが北壁と東壁は北端で直に交わっている。規模は南北が4.0m、東西3.5m、面積は12.1㎡である。壁高は38～63cmで地層断面からは54cmを測る。平坦な床面で、周溝はみられない。長軸方向はN―33°―Wである。南側に、方形の張り出しがある。規模は46×78cm。出入口の施設に係わるものと考えられる。床面に柱穴と考えられるものはない。

炉　床面ほぼ中央にある。方形に4石を配し、中央に平石を置く。規模は現状で34×39cmである。　**遺物**　土器は堀之内2式を主とする。石器は凸刃削器とＵＦ、ＲＦが出土している。いずれも黒色頁岩製である。

（井野）

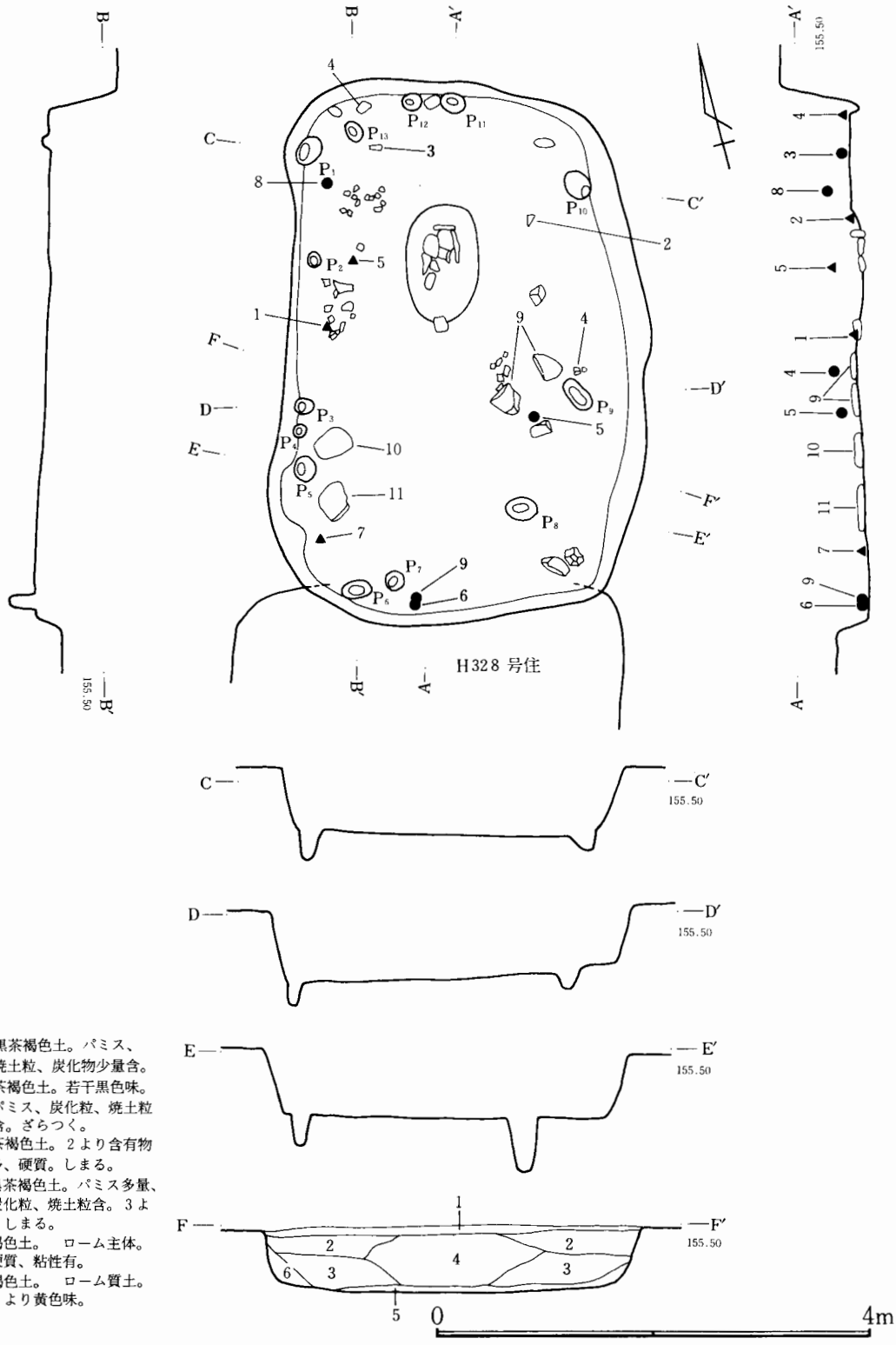


図－55　Ｊ54号住居跡

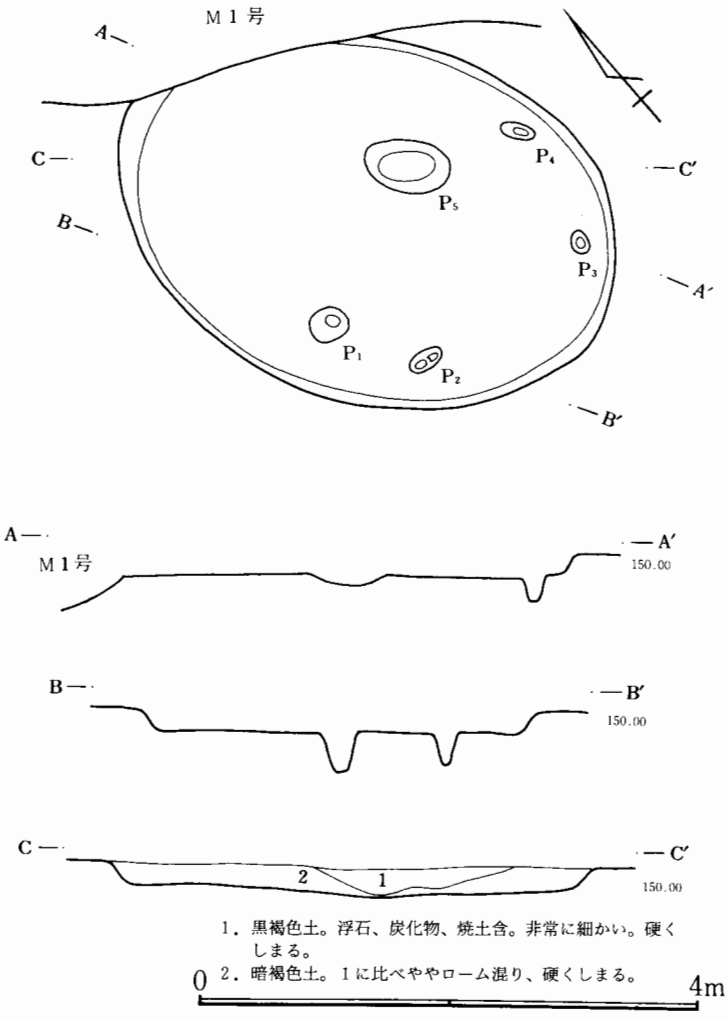
Ｊ55号住居跡　（５Ｊ－５）　（図―56・228・229、表―145～147、図版―42・112・145・150）

位置　谷西の台地上でＡ－９区に位置する。台地の東側で、近くにはＪ53号住居跡がある。　**形状**　ほぼ長方形を示す。東壁がやや外側に湾曲している。規模は南北4.7m、東西3.05m、面積約13.0㎡である。壁の高さは最高65cm～最低41cmを測る。周溝は認められない。主軸の方位はＮ―12°―Ｅ。　**ピット**　壁面下を中心に合計３個確認されている。ピットの径は10～30cm程にわたっている。深さも10～40cm程にかけて測ることができる。しかし、P_{11}～P_{13}は深さが10cmないしそれ以下である。ピットの分布をみると北壁下から西壁下にかけて多く認められるが、P_1、P_3、P_9、P_{10}は主柱穴と推定される。　**炉**　住居中央より北寄りで石で造った炉が見つかっている。炉の底部は自然石の面を三石並べ、その周辺に石のコバを使ったり面を使ったりして８石ほど置いている。石の表面には焼け跡が認められる。また、P_8あたりから北にかけて床全体に焼け跡がみられる。　**重複**　南壁側でＨ328号住と重複する。　**遺物**　土器は関山式を主とする。石器は掻器、削器、ＵＦ、円礫、石皿等が出土している。

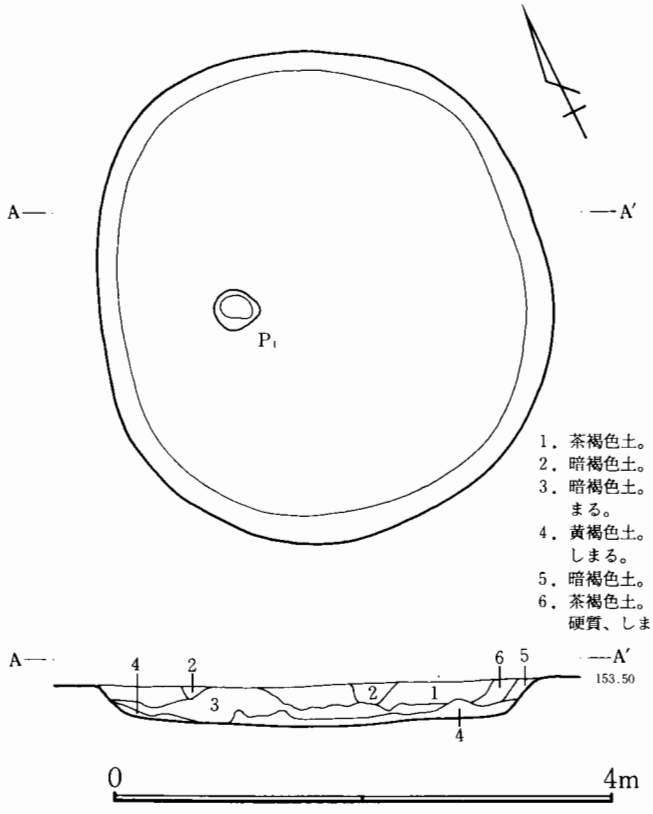
（中澤）


H328 号住
1．黒茶褐色土。パミス、焼土粒、炭化物少量含。
2．茶褐色土。若干黒色味。パミス、炭化粒、焼土粒含。ざらつく。
3．茶褐色土。2より含有物多、硬質。しまる。
4．黒茶褐色土。パミス多量、炭化粒、焼土粒含。3よりしまる。
5．褐色土。　ローム主体。硬質、粘性有。
6．褐色土。　ローム質土。5より黄色味。
0
4m

図－56　J 55号住居跡



図－57　Ｊ56号住居跡



図－58　Ｊ57号住居跡

J56号住居跡　（5 J－6）　（図－57・230、表－148～150、図版－43・144）

位置　ル・ヲ－2区にかけて位置する。M1号古墳主体部から北東10m程の所にあり、古墳周堀に一部かかっている。**形状**　古墳周堀により住居東側から北側にかけての壁面が削られていて確認できないが、南北方向に長軸をもつ楕円形とみられる。南北3.85m、東西2.7m、面積8.2㎡である。長軸方向はN－25°－Wo。壁高は20cm前後である。**ピット**　西壁沿い南寄りに2個（P_1、P_2）、東壁沿い南寄りに2個（P_3、P_4）、住居中央付近に1個（P_5）を検出。P_1は30×24cm、深さ29cmo。P_2 は26×13cm、深さ28cmo。P_3 は17×11cm、深さ19cm、P_4 は27×10cmである。P_5 は66×44cm、深さ7cmで断面が鍋底型をしており、位置からも炉であった可能性が強い。**重複**　M1号古墳の墳丘下より検出され、古墳構築時に削平をうけたものと思われる。**遺物**　石器でUF（珪質頁岩製）が出土している。土器の出土はなかった。

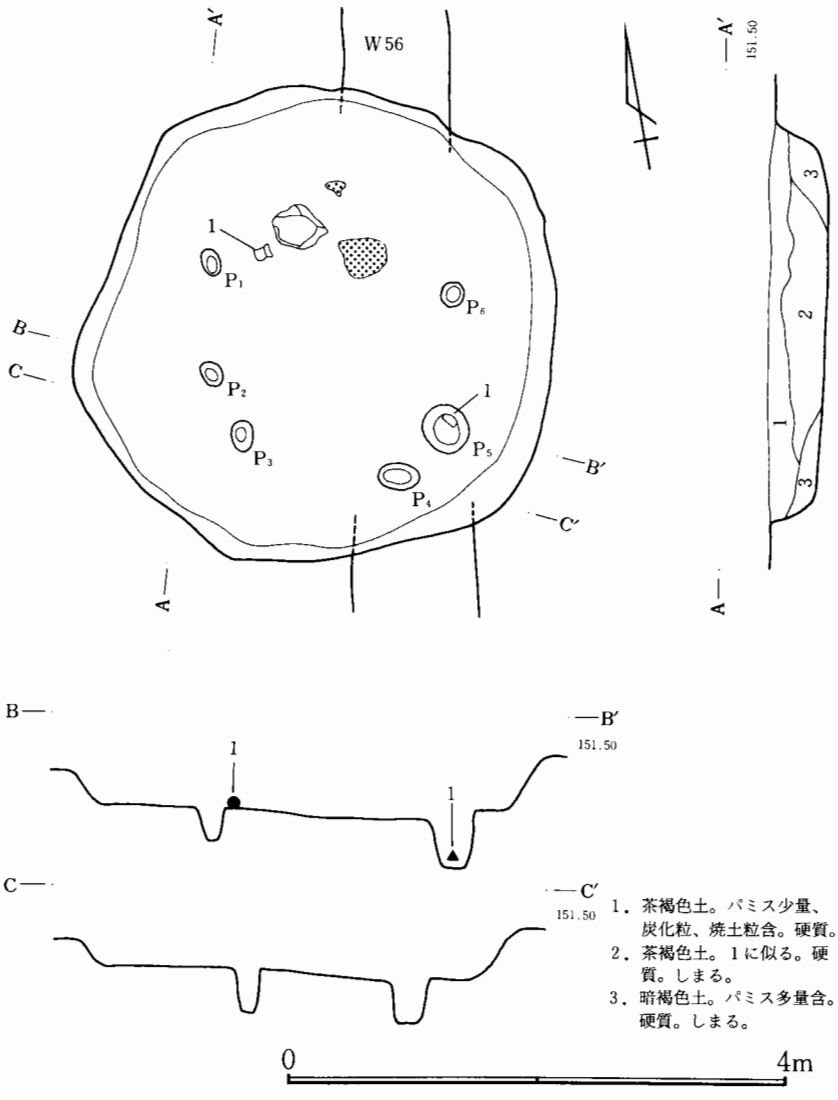
（松村）

J57号住居跡　（5 J－7）　（図－58・231・232、表－151～153、図版－43・112）

位置　東側台地ほぼ中央のワ－7区に位置する。周辺には縄文時代の遺構はほとんどない。**形状**　やや南北に長い円形である。規模は南北3.5mで、東西3.3m、面積は9.5㎡である。壁は傾きがやや強く、壁現高は33cmである。現状では周溝はみられない。長軸方向はN－22°－Eである。柱穴や施設はみられない。**ピット**　床面ほぼ中央にP_1（38×35×－）がある。位置からみると炉とも考えられる。**遺物**　土器は関山式である。石器は複刃削器、楔形石器、交刃削器が出土している。

（井野）

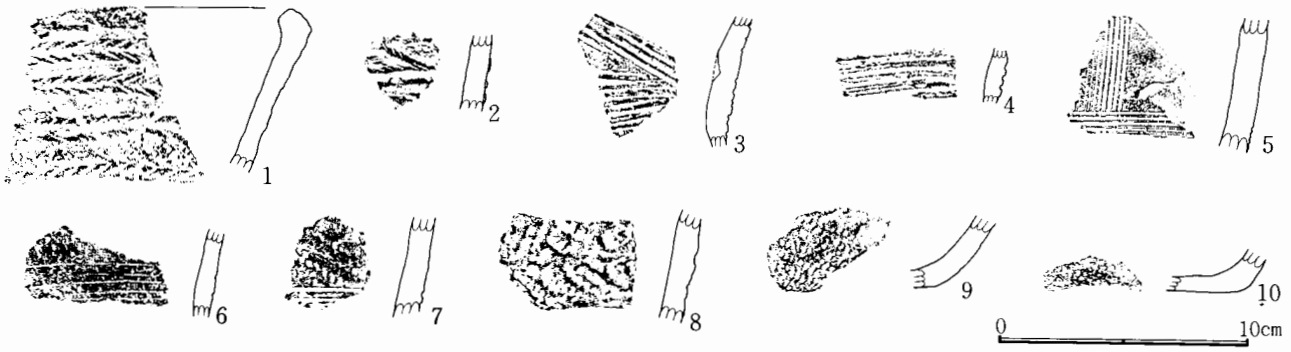
J58号住居跡　（5 J－8）　（図－59・233・234、表－154～156、図版－44・112・145）



図－59　J58号住居跡

位置　ト・チ－4区にかけて位置する。谷東の台地上にあって、本住居跡は台地の西端に位置する。**形状**　ほぼ円形をしていて、その規模は南北3.6m、東西3.4m、面積は約9.6㎡である。壁の高さは最高52cm、最低22cm、（西側の壁）で、周溝はない。主軸の方位はN－11°－E。**ピット**　都合6個認められている。6個とも壁面のすぐ下でなく、やや壁から離れて住居中心部寄りに位置する。径の最大ピットはP_5で38×38cm、深さ42cmである。最低はP_2 で19×14cm、深さ19cmo。なお、P_5の埋土の中からは石器が出土している。ピットの性格は不明。**炉**　石組み等の炉はみつかっていないが、住居中心より、やや北寄りで40×30cmの範囲で焼け跡を確認している。その焼土域の西側に40×30cmほどの自然石がみつかっている。石の表面には焼けを認めることはできない。**重複**　本住居跡を北から南にかけてほぼ中央をW56号溝が走っている。本住居跡が旧。**遺物**　土器は諸磯b式が主である。石器は打製石斧とUF（いずれも異色頁岩製）が出土している。

（中澤）



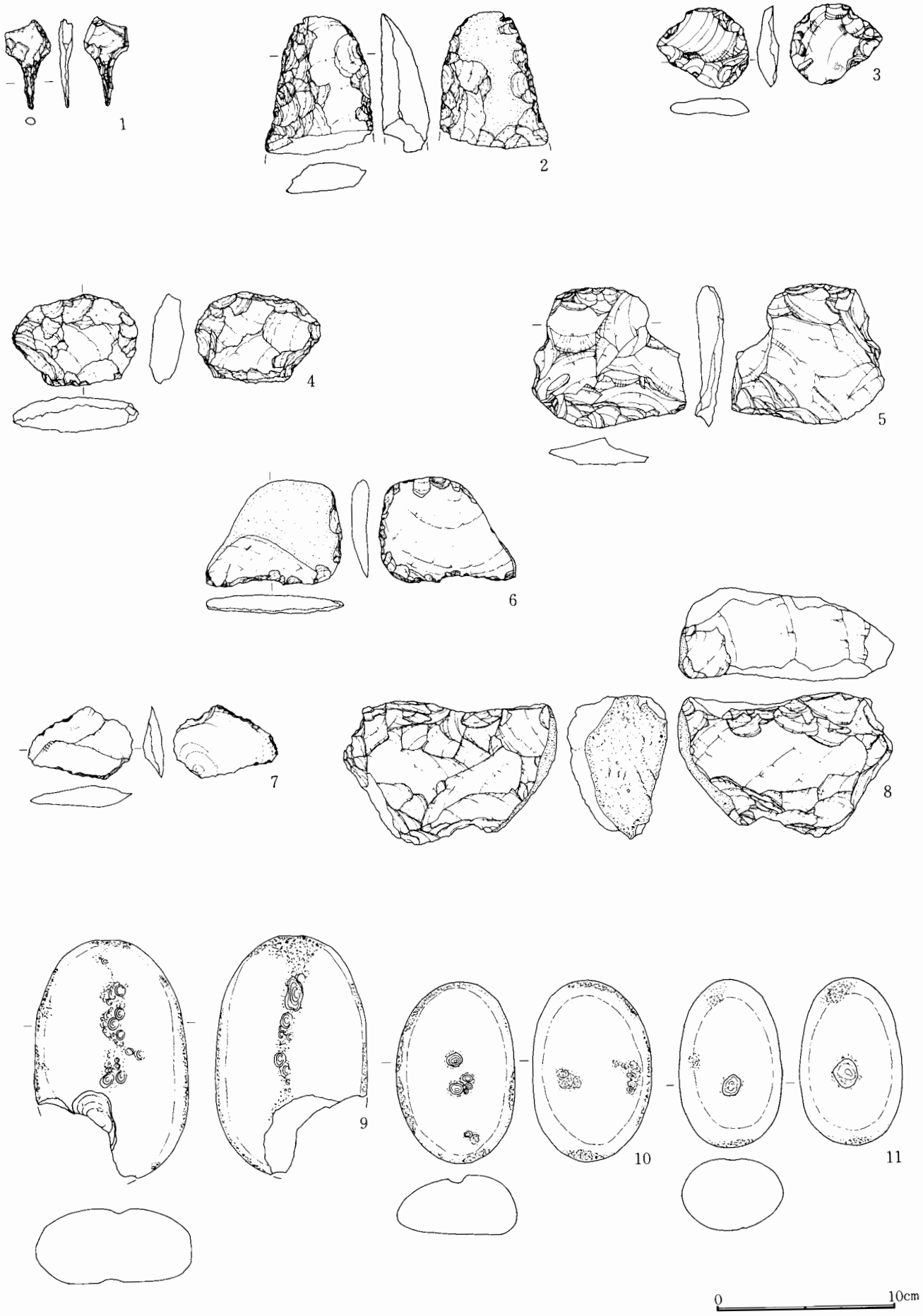
図－60　Ｊ１号住居跡出土土器

表－１　Ｊ１号住居跡出土土器観察表（図－60、図版－76）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	雑	矢羽根刻み浮線。ＲＬの地文。	①砂粒②にぶい黄橙色③口縁部	諸磯ｂ	—	
2	雑	矢羽根刻み浮線。ＲＬの地文。	①砂粒②明黄褐色③胴部	諸磯ｂ	—	
3	雑	平行沈線。ＲＬの地文。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯ｂ	—	
4	雑	平行沈線。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯ｂ	—	
5	雑	櫛歯の平行沈線。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯ｃ	—	
6	雑	細い平行沈線。	①砂粒②黄橙色③胴部	諸磯ｂ	—	
7	雑	平行沈線。ＲＬの地文。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯ｂ	—	
8	雑	ＲＬ・ＬＲループ？の横位施文。	①繊維②橙色③胴部	関山	—	
9	雑	ＲＬの地文。	①砂粒②橙色③底部	諸磯ｂ	—	
10	雑	ＲＬ？の地文。	①砂粒②橙色③底部	諸磯ｂ	—	

表－２　Ｊ１号住居跡出土石器属性表

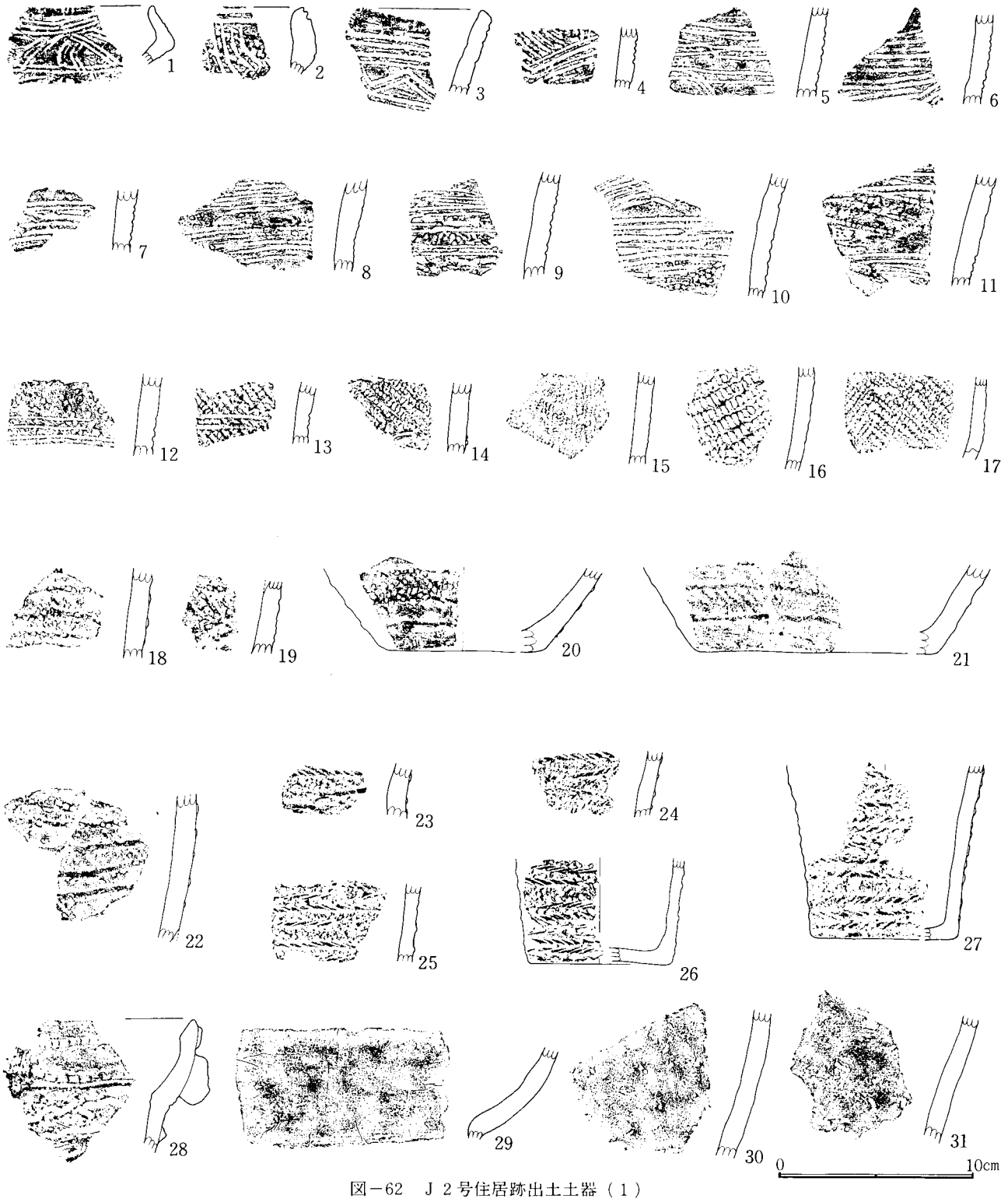
No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	雑	石錐	5.0	2.6	0.7	6	黒頁	—	—	—	—	—	—	—	覆
2	13	打製石斧	(7.7)	6.0	2.7	115	〃	—	—	—	—	—	—	—	刃部欠＋9
3	雑	交刃削器	5.1	5.2	1.2	20	珪頁	45	—	—	—	—	—	—	覆
4	雑	打製石斧	7.0	5.1	1.9	85	黒頁	70	—	—	—	潰2	—	—	覆
5	2	複刃削器	7.9	(8.6)	1.7	80	〃	30 45	—	—	—	潰1	—	—	半欠＋16
6	7	〃	5.9	7.7	1.0	52	〃	30 40	—	—	—	潰1	—	—	直＋凹刃＋8
7	雑	U F	4.1	5.2	1.2	20	珪頁	40	—	—	—	刃	—	—	刃部交刃覆
8	6	石核	12.0	8.0	5.7	575	黒安	—	—	—	—	—	—	—	＋14
9	11	円礫石器	13.5	8.7	3.7	610	安	—	凹1・擦2→敲2	擦2→敲2	敲2	敲2	敲2	敲2	使用→火→欠＋8
10	雑	〃	10.2	6.8	3.3	300	〃	—	凹3→擦1	敲1→擦1	敲1	敲1	敲1	敲1	使用→火覆
11	雑	〃	9.5	5.8	4.0	340	〃	—	擦1→凹1	擦1→凹1	敲1	敲1	—	—	覆



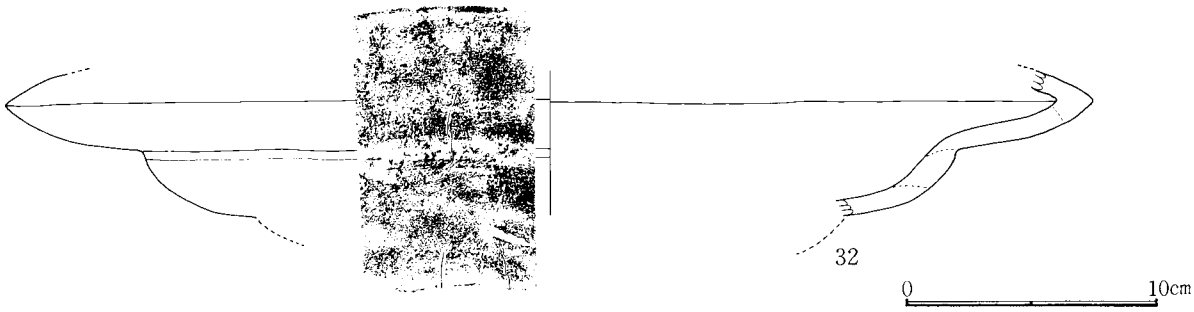
図－61　Ｊ１号住居跡出土石器

表－3　Ｊ１号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		2		1									2																9				14
珪質頁岩												1							1														2
黒色安山岩																													6	1			7
安山岩																						3									2		5
計		2		1								1	2						1			3							15	1	2		28



図－62　Ｊ２号住居跡出土土器（１）

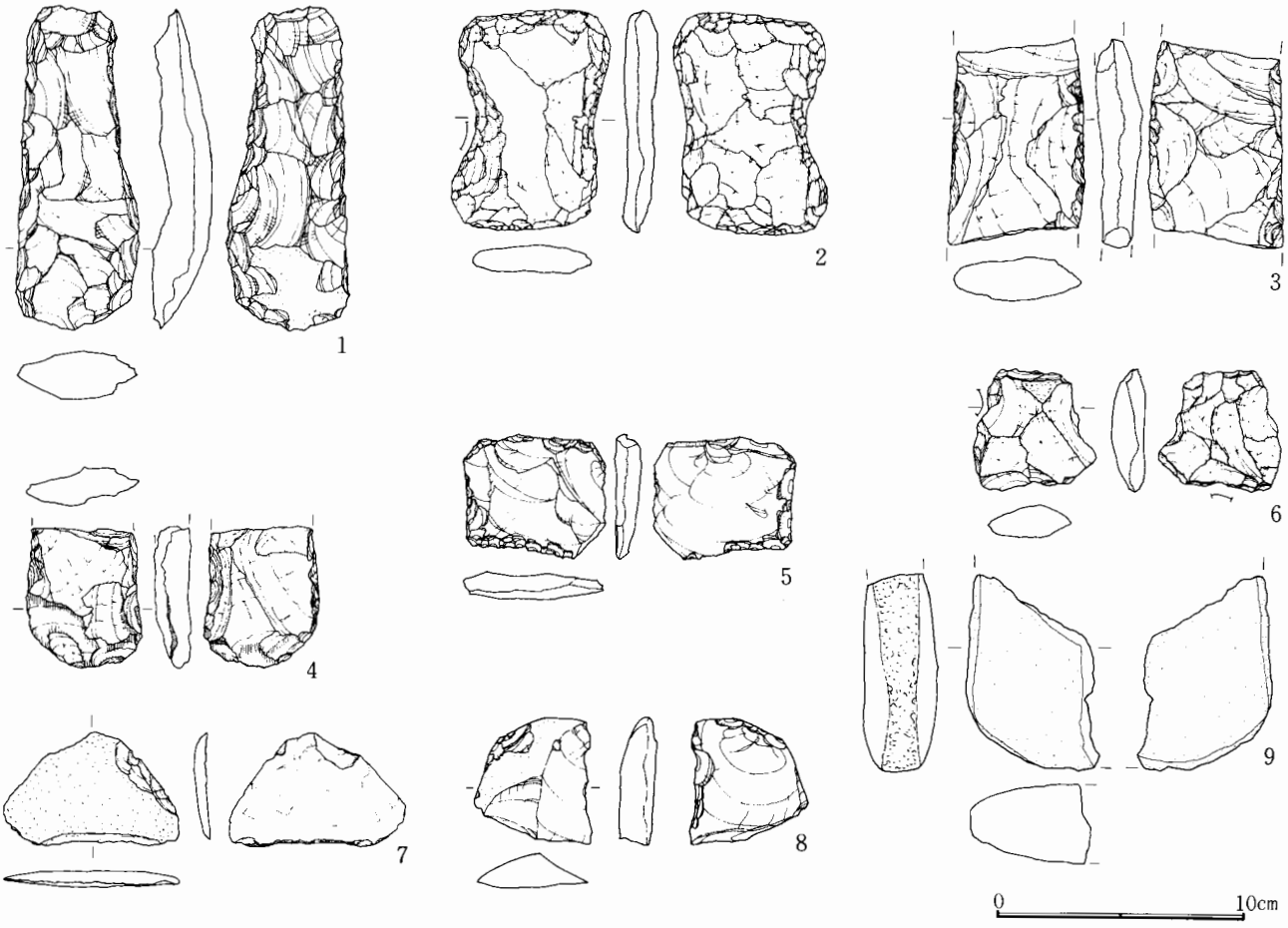


図－63　Ｊ２号住居跡出土土器（２）

表－４　Ｊ２号住居跡出土土器観察表（図－62・63　図版－76）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　　考
1	雑	平行沈線。深鉢。平口縁。内傾。	①砂粒②浅い黄橙色③口縁部	諸磯ｂ	—	
2	雑	平行沈線。深鉢。平口縁。内傾。	①砂粒②橙色③口縁部	諸磯ｂ	—	
3	雑	平行沈線。深鉢。緩い波状口縁。	①砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯ｂ	—	
4	雑	平行沈線。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯ｂ	—	
5	雑	平行沈線。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯ｂ	—	
6	雑	平行沈線。	①粗砂粒②にぶい褐色③胴部	諸磯ｂ	—	
7	雑	平行沈線。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯ｂ	—	
8	雑	平行沈線。ＲＬの地文。	①砂粒②灰褐色③胴部	諸磯ｂ	—	
9	雑	平行沈線。ＲＬの地文。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯ｂ	—	
10	雑	平行沈線。ＲＬの地文。	①粗砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯ｂ	—	
11	雑	平行沈線。ＲＬの地文。	①粗砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯ｂ	—	
12	雑	平行沈線。ＲＬの地文。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯ｂ	—	
13	雑	平行沈線。ＲＬの地文。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯ｂ	—	
14	雑	ＲＬの地文。浮線。	①粗砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯ｂ	—	
15	雑	縄文ＲＬ。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯ｂ	—	
16	雑	縄文ＲＬ。	①繊維②にぶい黄橙色③胴部	黒浜	—	
17	雑	羽状縄文。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	—	
18	雑	ＲＬの地文。浮線。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯ｂ	—	
19	雑	ＲＬの地文。浮線。	①砂粒②にぶい赤褐色③底部	諸磯ｂ	—	
20	雑	ＲＬの地文。浮線。	①砂粒②にぶい橙色③底部	諸磯ｂ	—	
21	雑	ＲＬの地文。浮線。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯ｂ	—	
22	雑	ＲＬの地文。浮線。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯ｂ	—	
23	雑	ＲＬの地文。矢羽根状刻み浮線。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯ｂ	—	

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時 期	出土位置	備 考
24	雑	ＲＬの地文。矢羽根状刻み浮線。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯ｂ	—	
25	雑	ＲＬの地文。矢羽根状刻み浮線。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯ｂ	—	
26	4	矢羽根状刻み浮線。	①砂粒②にぶい黄橙色③底部	諸磯ｂ	位置不	
27	雑	矢羽根状刻み浮線。	①砂粒②橙色③底部	諸磯ｂ	—	
28	雑	有節沈線、波状沈線、隆帯によって構成される。口唇部は尖っており、口唇下にも有節沈線がみられる。	①中粒、砂粒を多く混入②赤褐色③口縁部	阿玉台	—	
29	2	無文部。横方向の撫で。	①中粒、白色鉱物②橙色③胴部	前期？	位置不	32と同一個体
30	東北部	無文部。梨地のザラツキ。	①中粒、白色鉱物②橙色③胴部	前期？	標高不	
31	雑	無文部。横方向の削りの後、縦方向の磨き。	①中粒、黒色鉱物②橙色③胴部	前期	—	
32	1・2	内外横撫で。２～３段の浅鉢。	①微砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯ｂ	位置不	



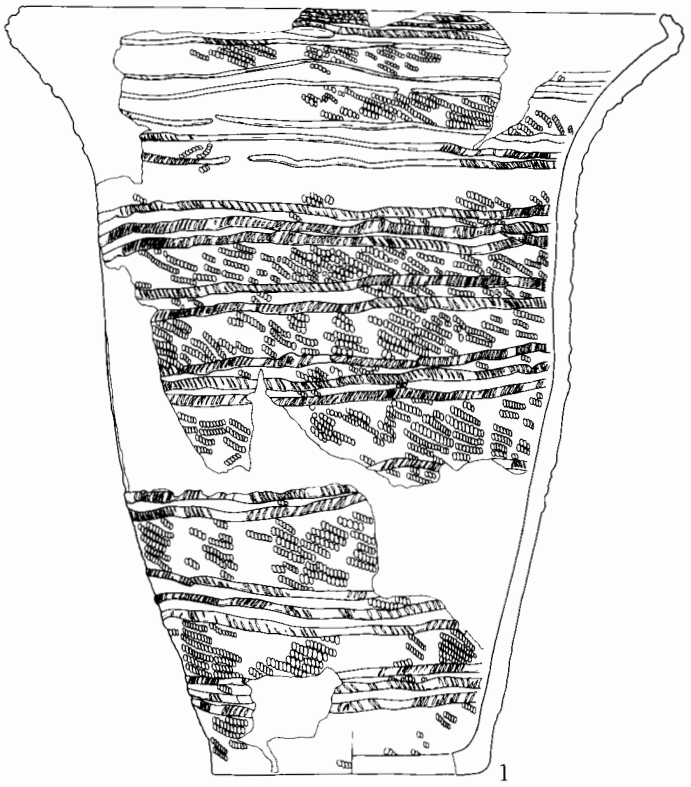
図－64　Ｊ２号住居跡出土石器

表－５　Ｊ２号住居跡出土石器属性表

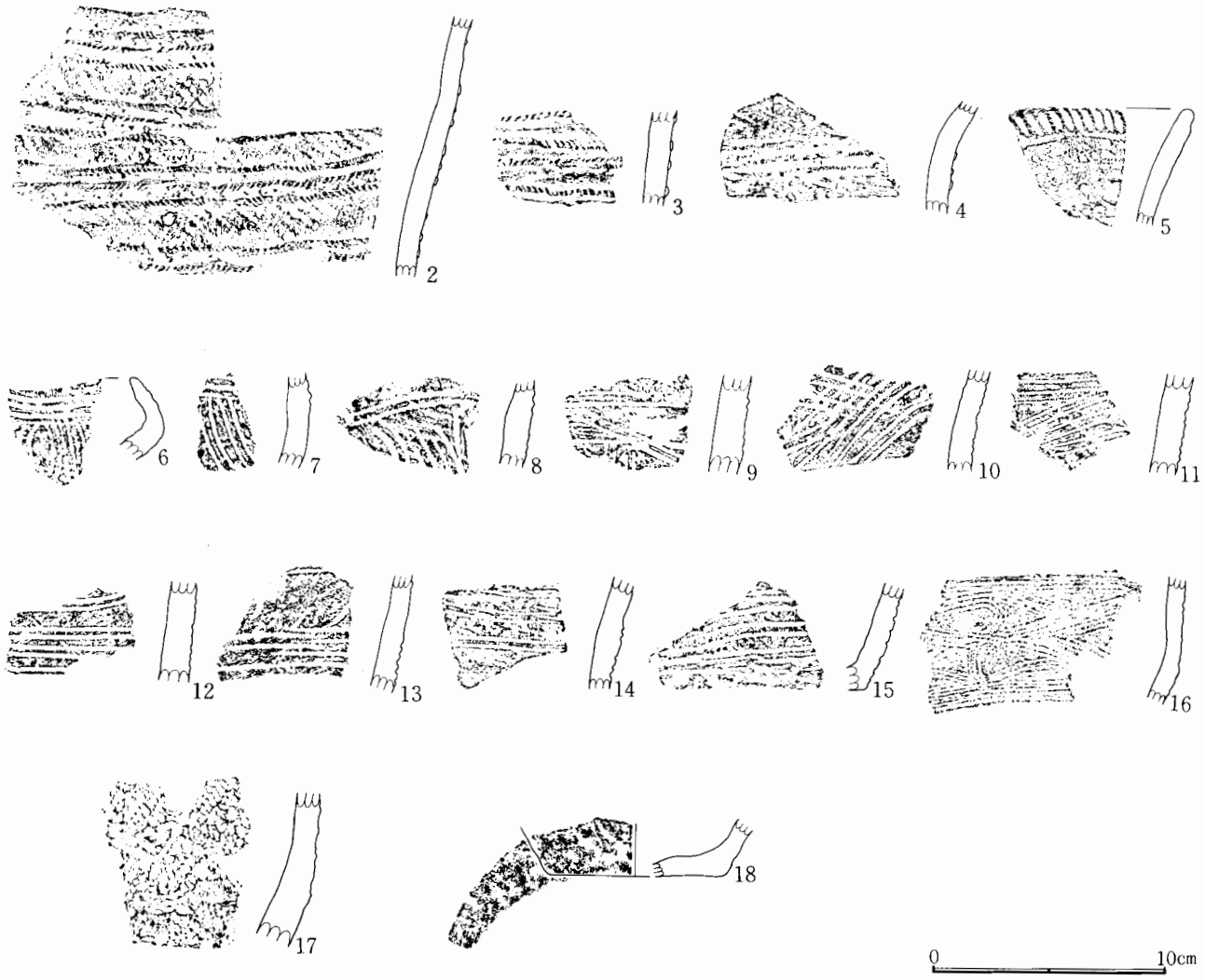
No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	雑	打製石斧	13.0	4.8	2.4	140	黒頁	40	—	—	—	刃	—	—	覆
2	雑	〃	8.8	6.2	1.4	100	黒安	25	—	—	—	刃	滅2	—	覆
3	雑	〃	(8.2)	5.5	1.8	105	〃	—	—	—	—	—	潰	—	刃基部欠 覆
4	雑	〃	(5.5)	4.3	1.4	50	〃	35	—	—	—	滅2	—	—	基部欠 覆
5	雑	複刃削器	4.9	5.5	1.1	32	黒頁	備	—	—	—	潰	—	—	刃角30、30、30 覆
6	雑	抉入石器	4.7	4.8	1.4	35	〃	60 60	—	—	—	—	—	—	2刃 覆
7	雑	U　F	5.5	5.7	0.5	18	〃	20	—	—	—	潰	—	—	直刃 覆
8	雑	鋸歯縁石器	5.5	5.5	1.2	35	〃	60	—	—	—	—	—	—	覆
9	雑	円礫石器	(7.7)	(5.2)	3.0	135	浮安	—	擦2	擦2	—	敲2	敲2	—	欠 覆

表－６　Ｊ２号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種／石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		1											1	1	1				1										11				16
黒色安山岩		3																											6	1			10
浮石質安山岩																						1											1
黒曜石																													1				1
ホルンフェルス																													1				1
計		4											1	1	1				1			1							19	1			29



図－65　Ｊ３号住居跡出土土器（１）

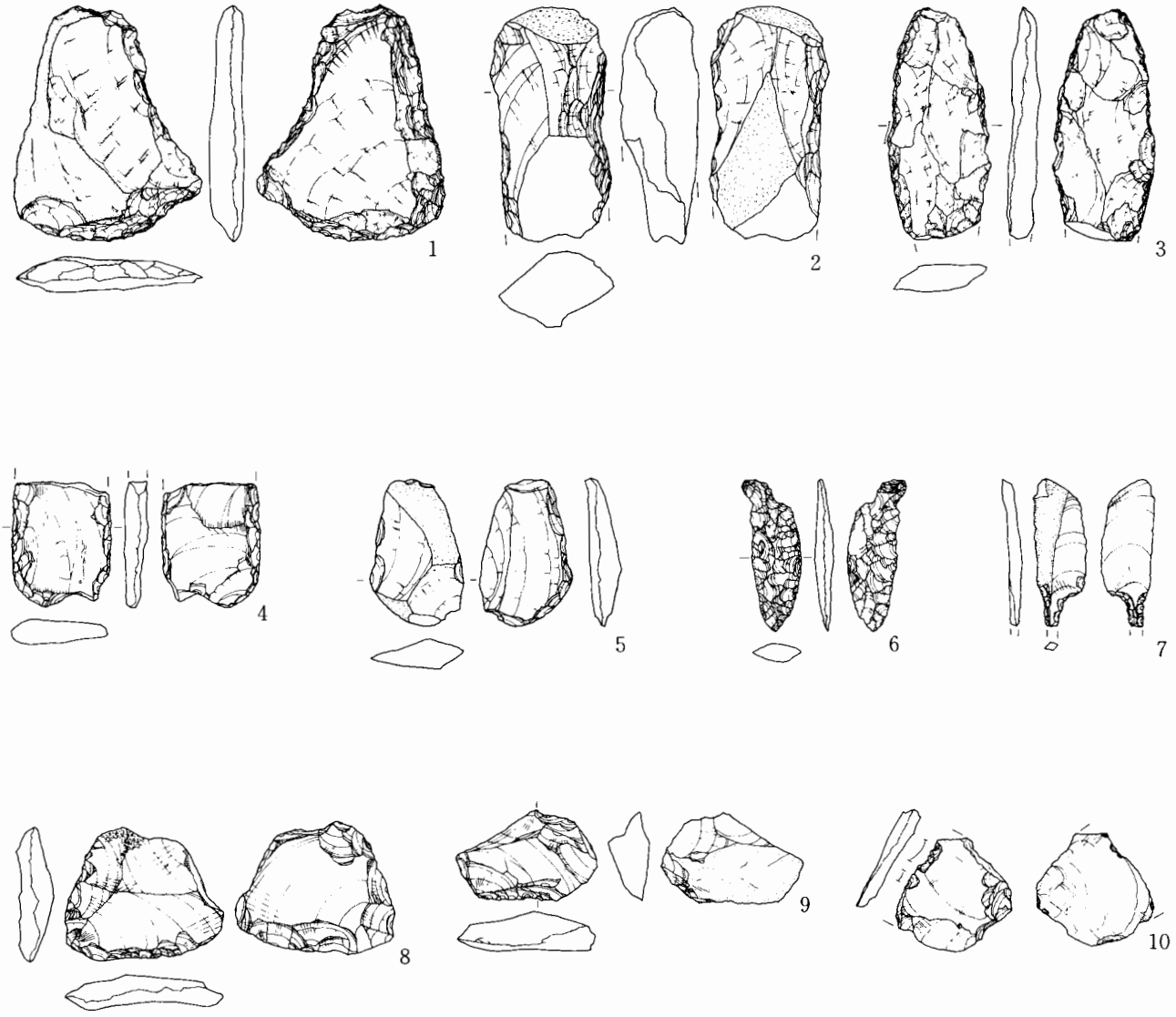


図－66　Ｊ３号住居跡出土土器（２）

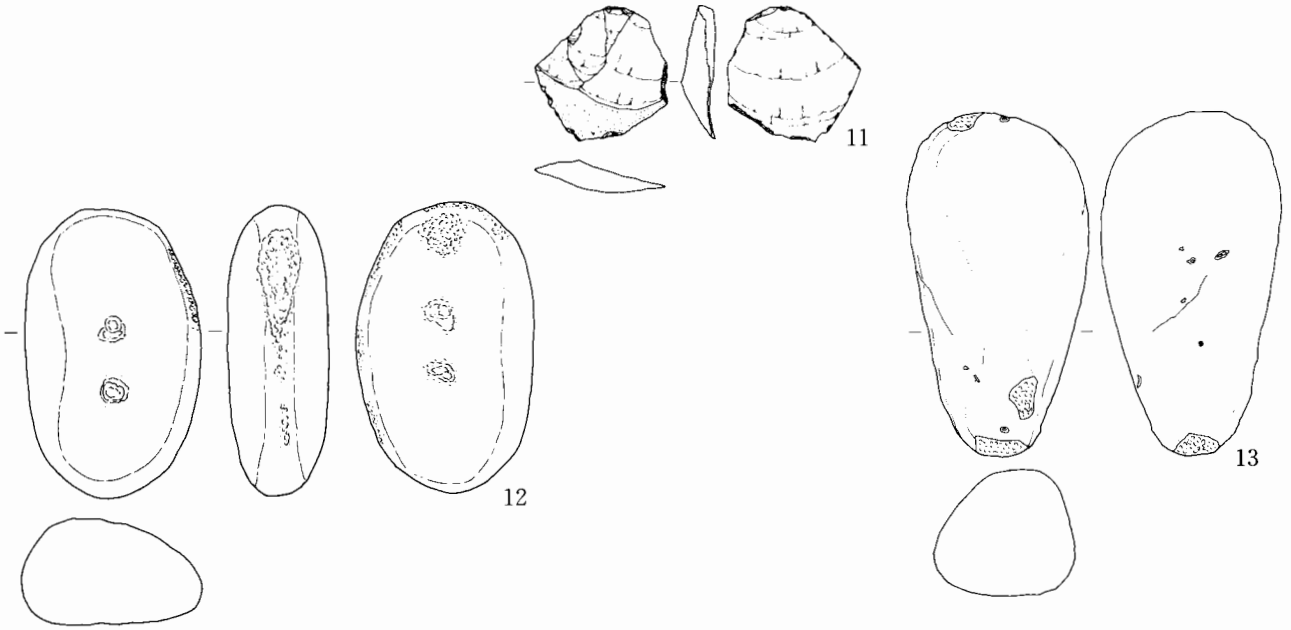
表－７　Ｊ３号住居跡出土土器観察表（図―65・66　図版－76）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　　考
1	1	ＲＬの地文。爪の刻み浮線。平口縁。	①微細粒②浅黄色③完形	諸磯ｂ	壁面	
2	雑	ＲＬの地文。爪の刻み浮線。	①白色粒②浅黄橙色③胴部	諸磯ｂ	―	
3	雑	ＲＬの地文。爪の刻み浮線。	①白色粒②にぶい黄橙色③胴部	諸磯ｂ	―	
4	雑	ＲＬの地文（浅い）。浮線。	①白色粒②黄橙色③胴部	諸磯ｂ	―	
5	6	貝殻腹縁刺突列。口縁端側面刺突。	①微砂粒②橙色③口縁部	浮島	床面	
6	雑	平行沈線。口縁端付近内傾。	①砂粒②にぶい橙色③口縁部	諸磯ｂ	―	
7	8	平行沈線。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯ｂ	床面	
8	2	平行沈線。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯ｂ	床面	
9	雑	平行沈線。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯ｂ	―	

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
10	雑	平行沈線。	①白色粒②にぶい橙色 ③胴部	諸磯b	—	
11	雑	平行沈線。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯b	—	
12	雑	平行沈線。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯b	—	
13	雑	ＬＲの地文。平行沈線。	①微砂粒②橙色③胴部	諸磯b	—	
14	雑	平行沈線。	①砂粒②にぶい赤褐色 ③胴部	諸磯b	—	
15	雑	平行沈線。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯b	—	
16	雑	集合沈線。	①砂粒②明黄褐色③胴部	諸磯b	—	
17	3	ＲＬ・ＬＲ交互施文の羽状縄文。	①繊維②にぶい黄橙色 ③胴部	関山	+29	
18	雑	撫で。	①微砂粒②浅黄橙色③底部	諸磯b	—	



図－67　Ｊ３号住居跡出土石器（１）　　0　10cm



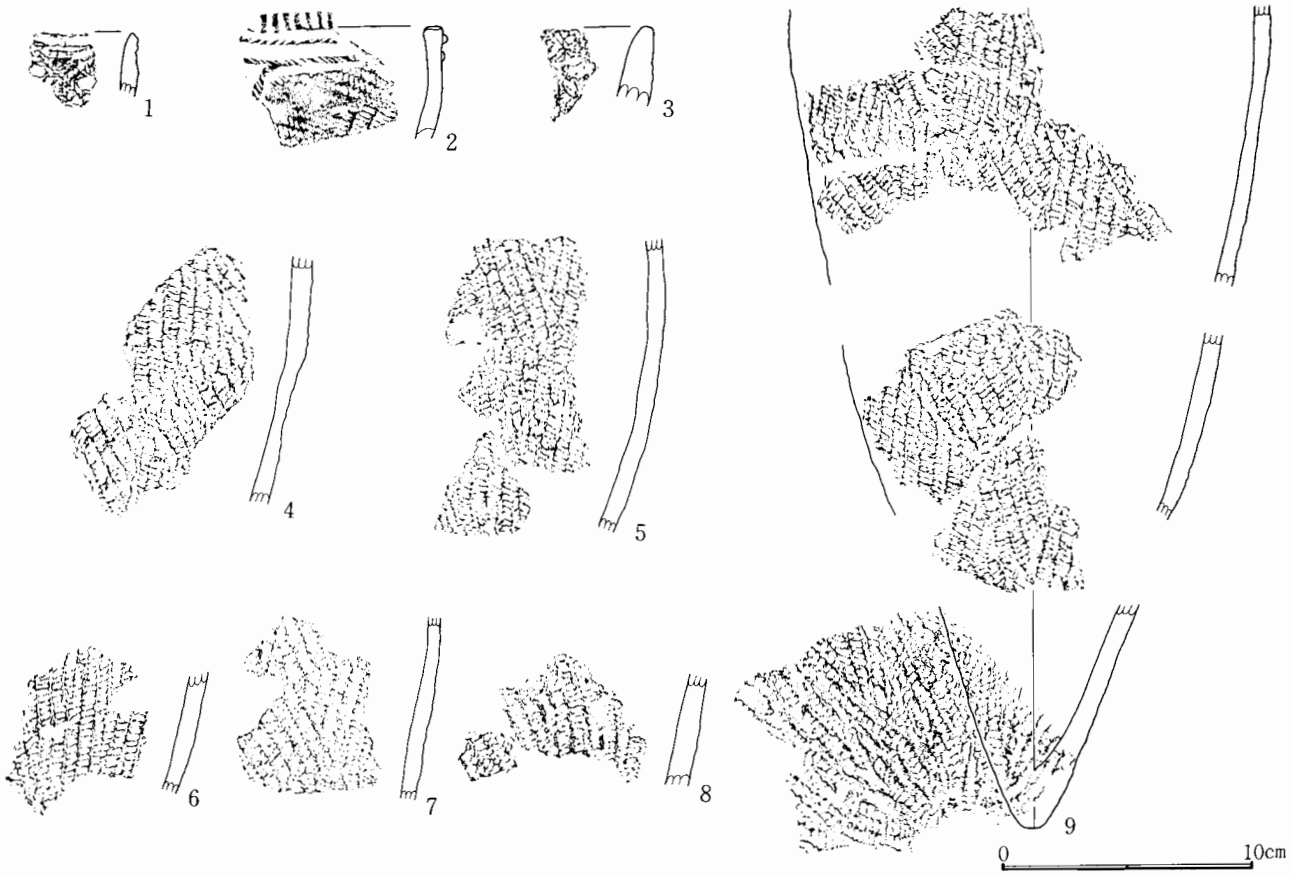
図－68　Ｊ３号住居跡出土石器（２）

表－８　Ｊ３号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	5	複刃削器	10.3	8.2	1.6	130	黒頁	60 45	—	—	—	—	—	—	＋3
2	4	打製石斧	(10.2)	5.3	3.5	200	〃	—	—	—	—	—	—	—	刃部欠 －3
3	雑	〃	(10.1)	4.3	1.2	70	黒安	—	—	—	—	—	潰	—	刃部欠 覆
4	雑	〃	(5.2)	4.3	1.1	35	黒頁	15	—	—	—	滅1	—	—	覆
5	雑	凸刃削器	4.0	6.4	1.3	32	〃	30	—	—	—	—	—	—	覆
6	6	石匙	6.6	2.2	0.8	10	珪頁	45	—	—	—	—	—	—	－3
7	雑	石錐	6.5	2.3	0.6	7	黒頁	—	—	—	—	—	潰	—	覆
8	雑	交刃削器	6.6	6.6	1.5	50	珪頁	30 40	—	—	—	—	—	—	覆
9	雑	直刃削器	6.0	4.0	1.7	40	黒頁	60	—	—	—	—	—	—	覆
10	雑	U　F	5.0	5.0	0.9	20	珪凝	30	—	—	—	刃	—	—	刃部凹状 覆
11	雑	〃	5.5	5.4	1.2	25	黒頁	30	—	—	—	—	—	—	覆
12	雑	円礫石器	11.5	7.0	4.1	525	安	—	凹2→擦1	凹2→擦1	敲1	—	—	敲2	覆
13	7	敲き石	13.7	7.2	5.0	600	頁	—	—	—	敲1	敲1	—	—	－3

表－９　Ｊ３号住居跡石器器種・石材別一覧表

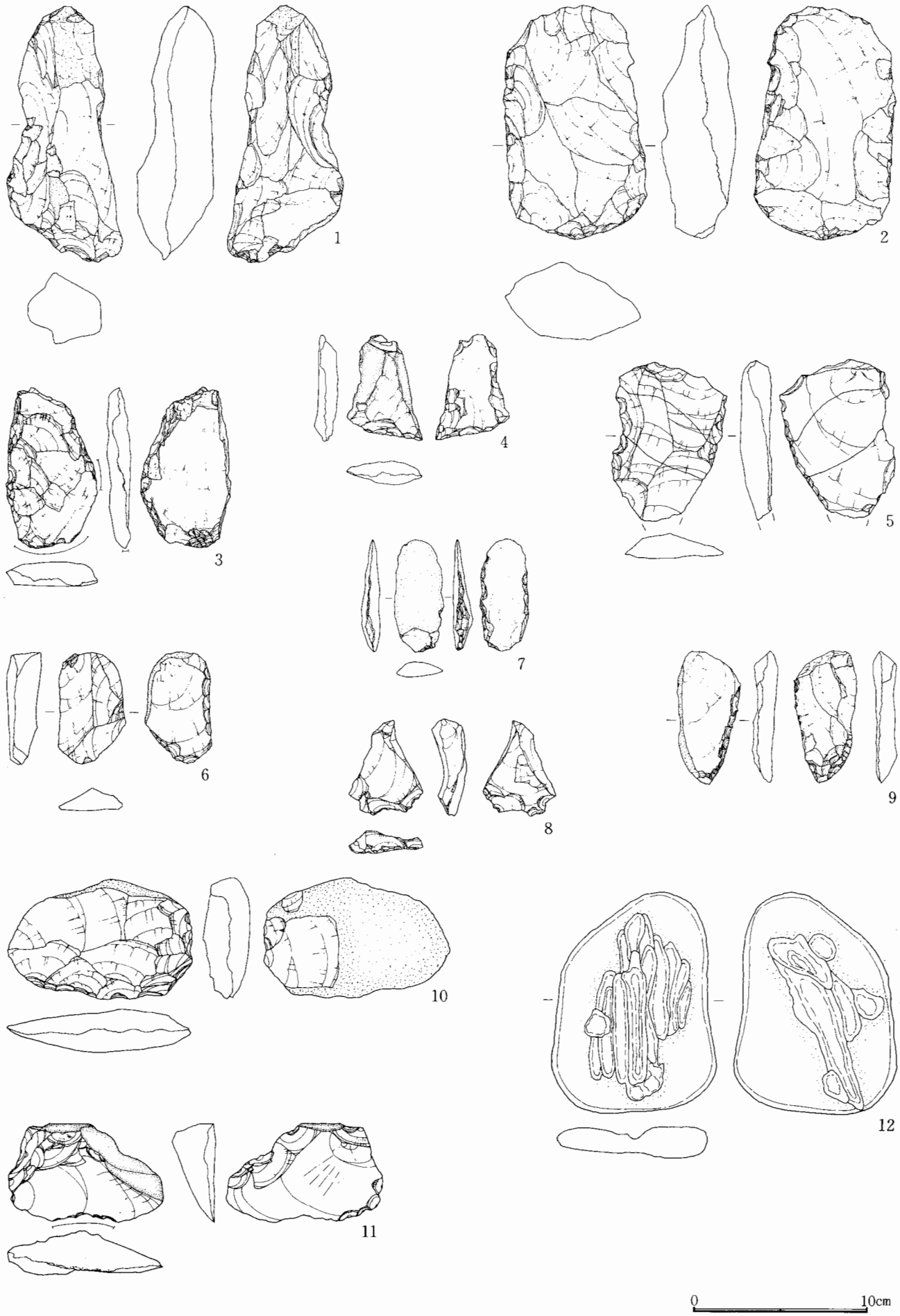
石材＼器種	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		2		1					1	1			1						1										13				20
珪質頁岩						1						1																					2
頁岩																					1												1
黒色安山岩		1																											8				9
安山岩																						1									1		2
黒曜石																													4				4
珪質凝灰岩																			1														1
珪岩																													8				8
計		3		1		1			1	1		1	1						2		1	1							33		1		47



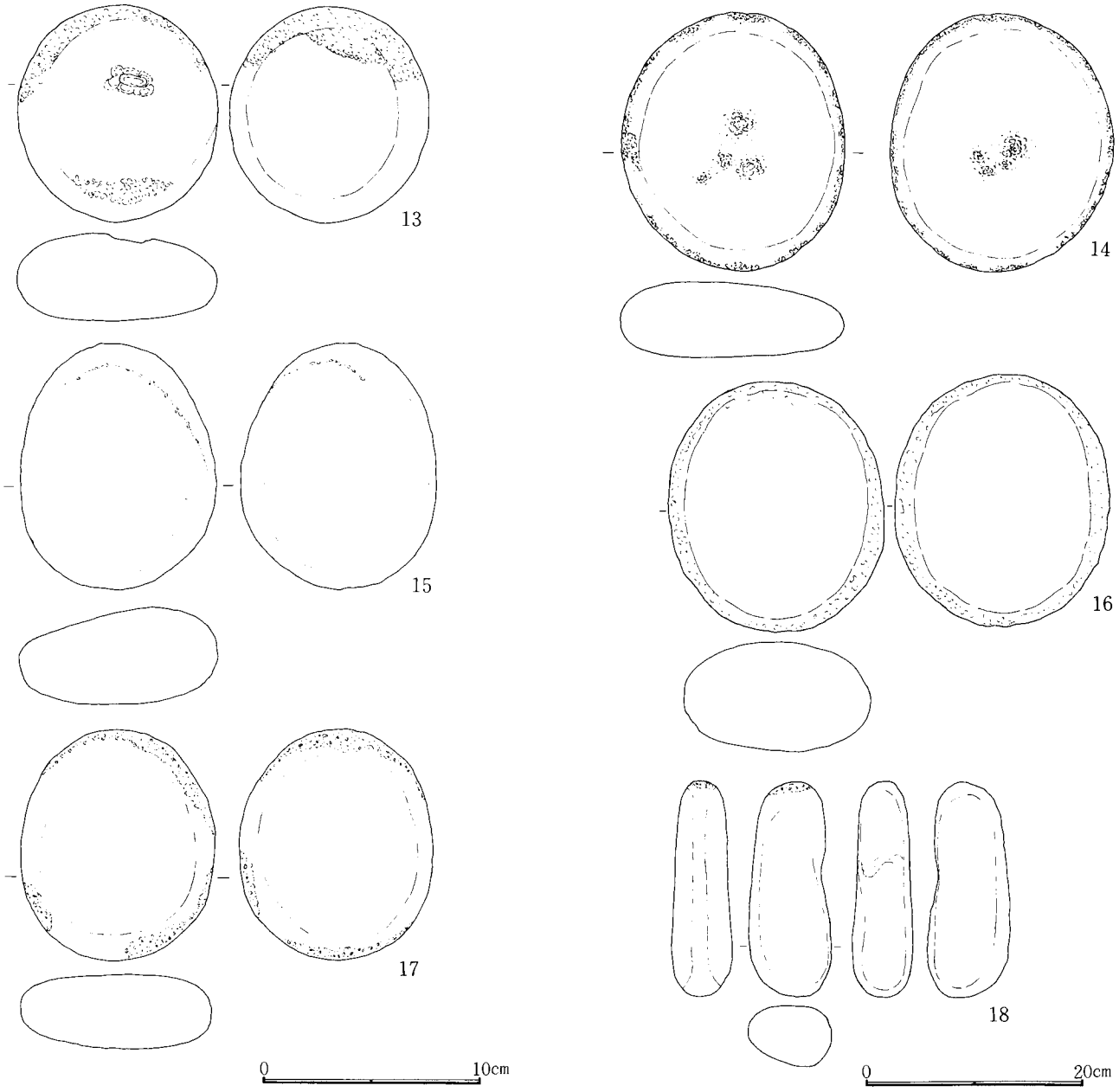
図－69　Ｊ４号住居跡出土土器

表－10　Ｊ４号住居跡出土土器観察表（図－69　図版－76・77）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　　考
1	雑	Ｒ・Ｌ１組の撚糸側面圧痕。刺突。	①繊維②暗灰黄色③口縁部	花積下層	—	
2	69	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。刻み入浮線。	①繊維②浅黄橙色③口縁部	諸磯ｂ	位置不	
3	雑	Ｏ段多条ＲＬ・ＬＲ（不規則に施文）。	①繊維②黒褐色③口縁部	縄文尖底	—	９と同一個体
4	雑	Ｏ段多条ＲＬ・ＬＲ（不規則に施文）。	①繊維②にぶい褐色③胴部	縄文尖底	—	９と同一個体
5	雑	Ｏ段多条ＲＬ・ＬＲ（不規則に施文）。	①繊維②明黄褐色③胴部	縄文尖底	—	９と同一個体
6	4	Ｏ段多条ＲＬ・ＬＲ（不規則に施文）。	①繊維②にぶい橙色③胴部	縄文尖底	＋16	９と同一個体
7	雑	Ｏ段多条ＲＬ・ＬＲ（不規則に施文）。	①繊維②にぶい黄橙色 ③胴部	縄文尖底	—	９と同一個体
8	雑	Ｏ段多条ＲＬ・ＬＲ（不規則に施文）。	①繊維②橙色③胴部	縄文尖底	—	９と同一個体
9	3・雑	Ｏ段多条ＲＬ・ＬＲを重なるよう深く全面施文。内面横撫で。	①繊維②にぶい黄橙色 ③胴部～底部	縄文尖底	＋19	



図－70　Ｊ４号住居跡出土石器（１）



図－71　Ｊ４号住居跡出土石器（２）

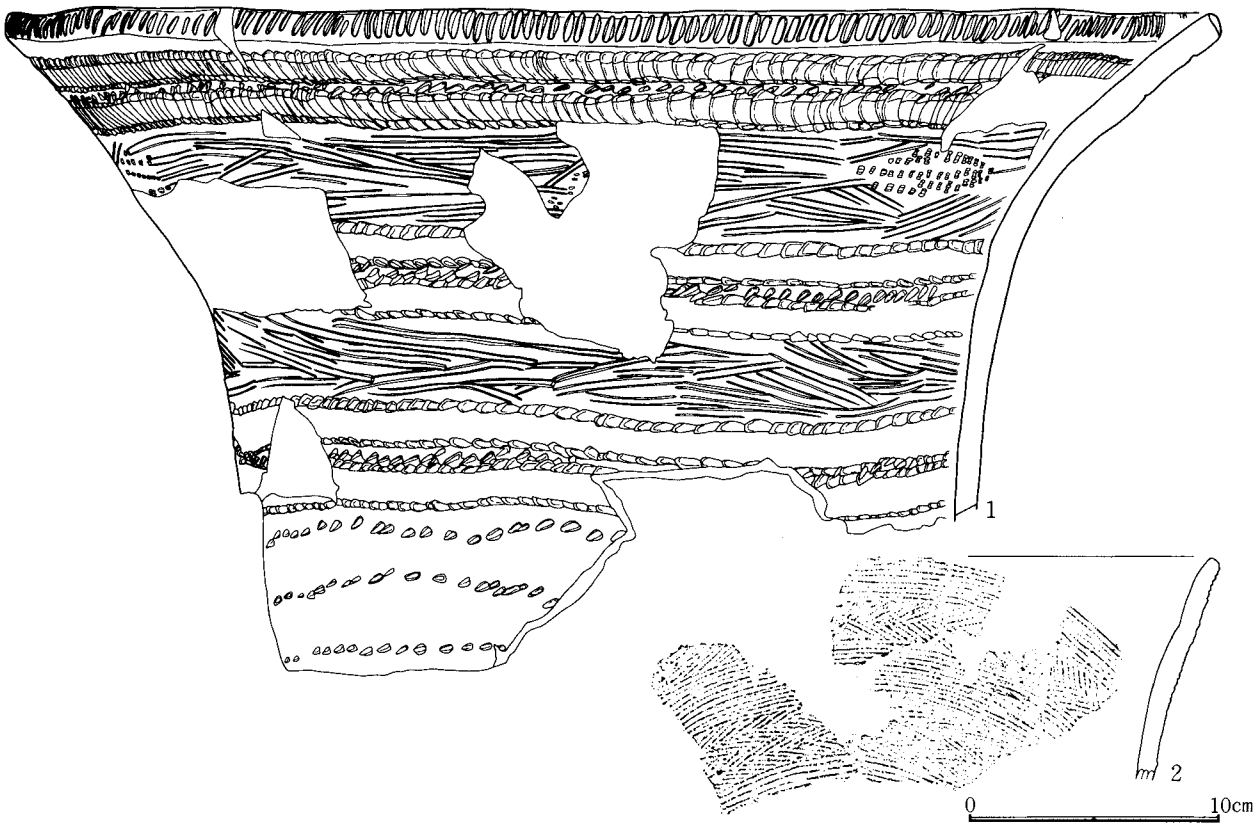
表－11　Ｊ４号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	雑	打製石斧	14.8	6.7	4.4	340	黒頁	70	—	—	—	—	—	—	火 覆
2	9	〃	13.5	8.0	4.2	510	〃	80	—	—	—	潰	—	—	＋18
3	2	〃	9.3	5.2	1.3	75	〃	30	—	—	—	滅1	滅1	—	＋15
4	雑	複刃削器	6.5	5.0	1.3	30	〃	50 ～60	—	—	—	—	—	—	3刃 覆
5	雑	〃	(9.0)	6.5	1.8	98	〃	凸45 凹50	—	—	—	—	—	—	覆
6	雑	直刃削器	6.4	3.8	1.9	50	〃	45	—	—	—	—	—	—	覆
7	61	背付き石器	6.3	2.8	0.9	20	〃	20	—	—	—	—	—	—	位置不
8	雑	抉入石器	5.5	4.2	1.9	30	〃	70	—	—	—	刃	—	—	覆
9	雑	交刃削器	7.5	3.5	1.3	30	黒安	45	—	—	—	—	—	—	覆

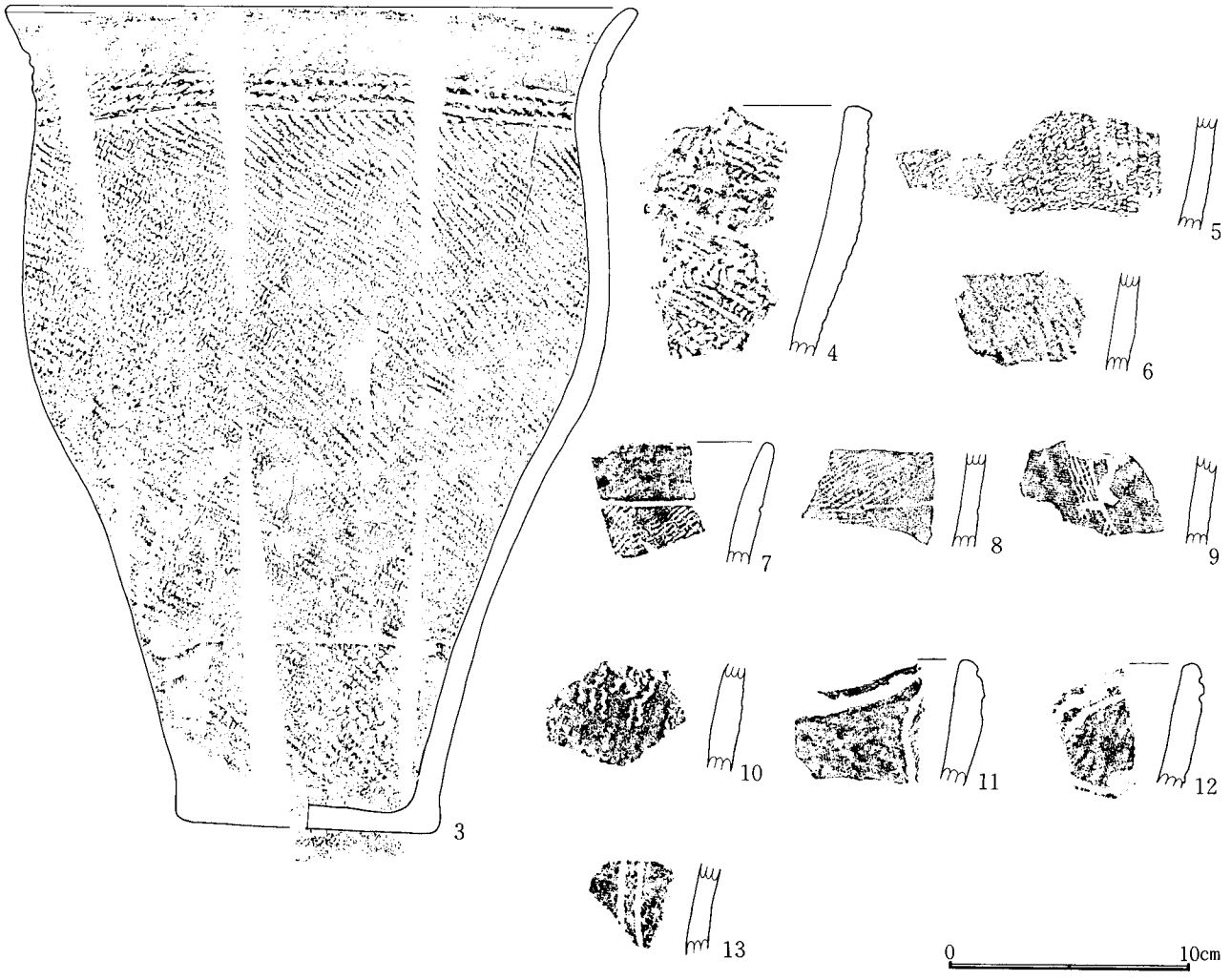
No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
10	1	片刃礫器	6.8	10.5	2.6	190	黒頁	50	—	—	—	—	—	—	+20
11	雑	U F	7.2	7.2	2.8	100	頁	30	—	—	—	刃・潰1	—	—	刃部凹状覆
12	5	砥石	12.5	9.4	1.8	250	砂	—	擦3	擦3	擦2	擦2	擦2	擦2	+13
13	12	円礫石器	10.0	9.1	4.0	480	安	—	凹1・敲1	擦1・火	擦2火	火	火	火	使用→火 +10
14	11	〃	11.8	10.2	3.5	575	〃	—	敲1	敲1	敲1	敲1	敲1	敲1	−2
15	7	〃	11.3	9.6	4.4	545	〃	—	擦1	擦1	擦1	擦1	擦1	擦1	住外
16	8	〃	11.5	9.9	5.0	800	〃	—	擦2	擦2	敲1	敲1	敲1	敲1	+12
17	10	〃	10.5	8.9	3.4	450	〃	—	擦1	擦1	敲1	火・敲1	火・敲1	敲1	使用→火 住外
18	6	〃	19.7	7.7	5.5	1,250	〃	—	擦1	擦1	敲1	擦1	擦2	擦1	住外

表−12　J 4号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		3						1	1				2		1		1												25				34
頁岩																			1										1				2
黒色安山岩												1																	2				3
安山岩																						6											6
砂石																												1			1		2
計		3						1	1			1	2		1		1		1			6						1	28		1		47



図−72　J 5号住居跡出土土器（1）

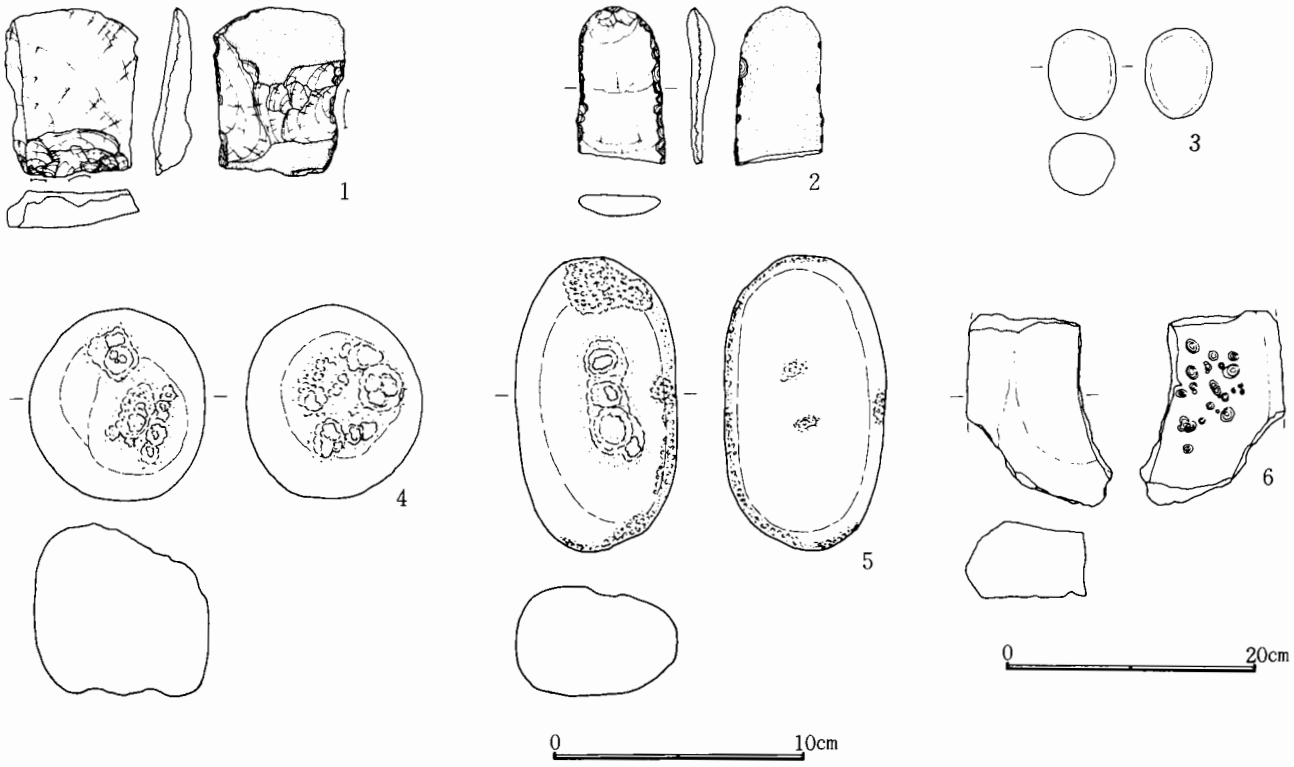


図－73　Ｊ５号住居跡出土土器（２）

表－13　Ｊ５号住居跡出土土器観察表（図－72・73　図版－77）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　　考
1	雑	貝殻腹縁刺突列。平行沈線の菱形。口縁端に縦位刻み列外反平口縁。	①砂粒②橙色③口縁～胴部中位	浮島	—	
2	雑	集合沈線。緩く外反。平口縁。	①砂粒②黄橙色③口縁部	諸磯ｃ	—	
3	1	ＲＬ全面施文。口縁下にＲＬの側面圧痕３条。口縁付近撫で。肩を張り一旦すぼまった後外反。平口縁。	①砂礫②にぶい橙色③完形	—	貯蔵穴内	上⅓にススが付着
4	雑	異状のＲＬ・ＬＲの第一種結束羽状縄文。波状口縁。口縁端若干内傾。	①繊維②浅黄橙色③口縁部	黒浜	—	
5	5	ＲＬの斜縄文。	①砂礫②橙色③胴部	諸磯ｂ	床面	
6	雑	ＲＬの斜縄文。	①砂礫②浅黄橙色③胴部	諸磯ｂ	—	
7	雑	口縁に平行する細い横位沈線。細縄文ＲＬが充填施文。	①細粒②黄橙色③口縁部	称名寺１	—	７～９は同一個体
8	雑	口縁に平行する横位沈線と斜位の沈線。	①細粒②黄橙色③胴部	称名寺１	—	
9	雑	２本の沈線で曲線が描出。片方は研磨によって消される。	①細粒②黄橙色③胴部	称名寺１	—	
10	雑	縦位貝殻腹縁刺突。	①細粒②浅黄橙色③胴部	浮島	—	

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
11	雑	波状口縁。口縁部に沿って深く太い沈線が入る。さらに2本1組の曲線が描出。	①細粒②赤褐色③口縁部	加曽利E	—	11・12・13は同一個体
12	雑	2本1組の沈線で曲線が描出。	①細粒②赤褐色③口縁部	加曽利E	—	
13	雑	2本1組の沈線が垂下する。	①細粒②赤褐色③胴部	加曽利E	—	



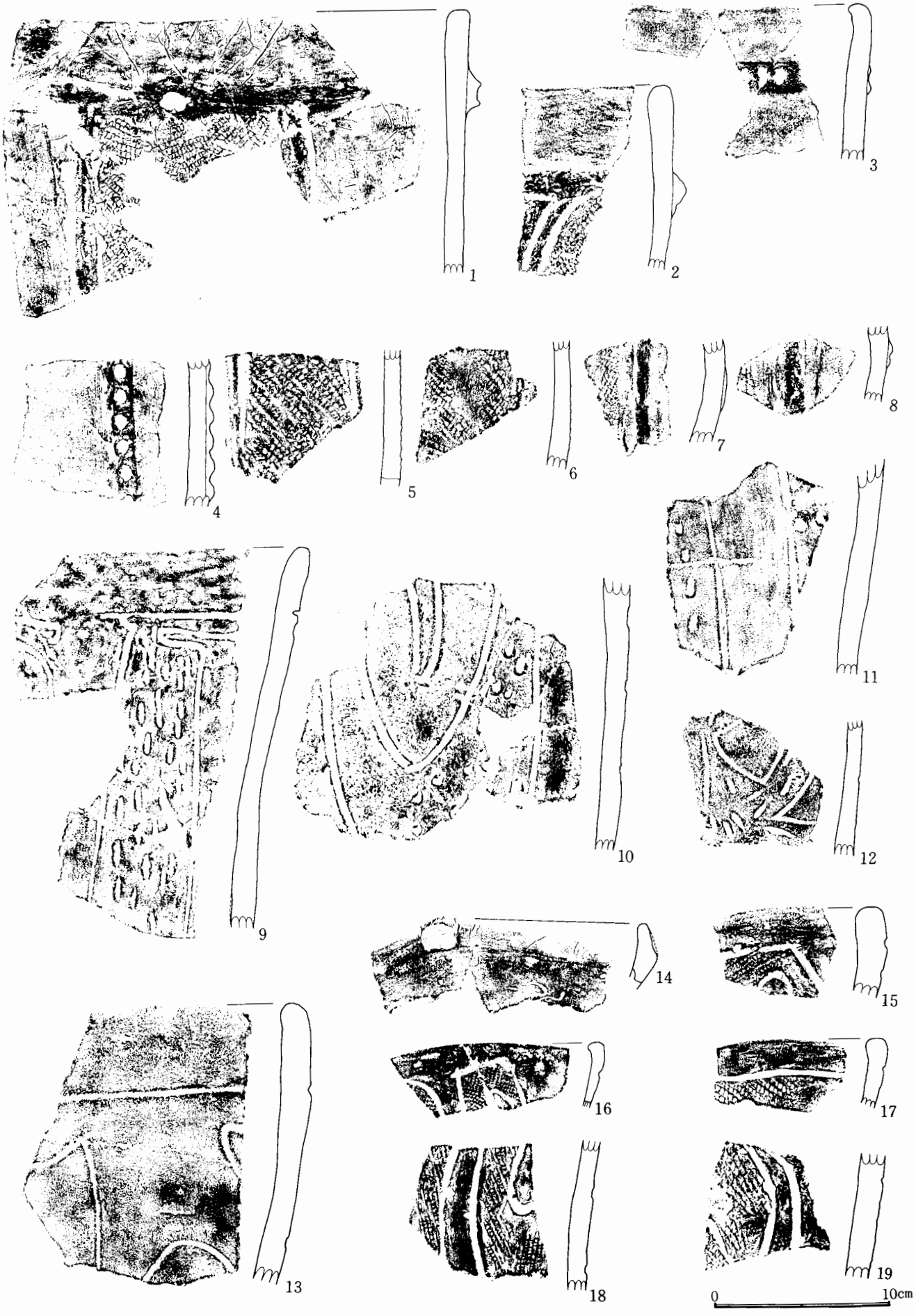
図－74　Ｊ５号住居跡出土石器

表－14　Ｊ５号住居跡出土石器属性表

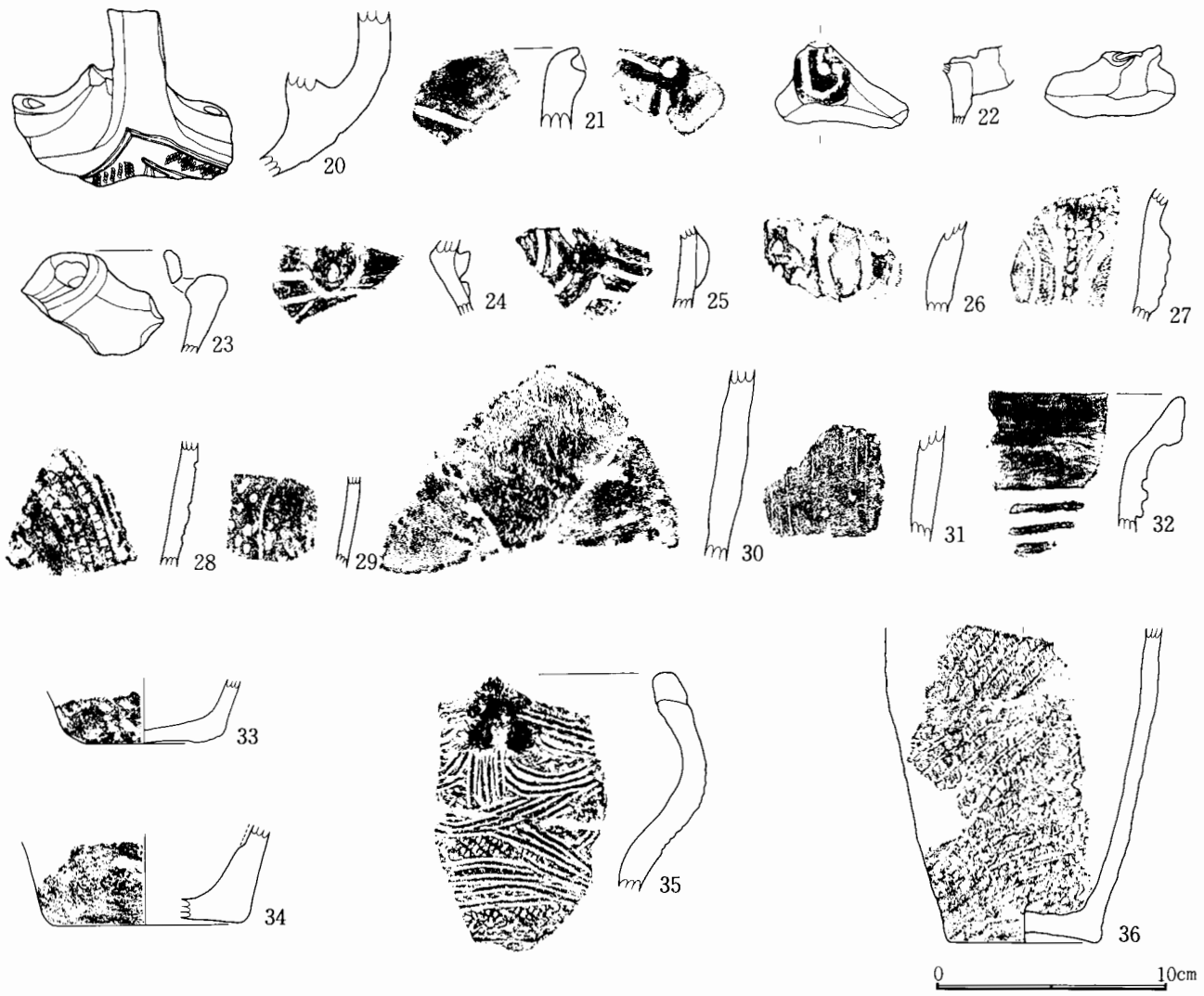
No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	雑	抉入石器	6.7	5.2	1.7	60	黒頁	70	—	—	—	潰	—	—	抉入部3覆
2	4	複刃削器	6.2	4.5	1.1	25	〃	45	—	—	—	—	—	—	床面
3	雑	磨石	3.6	2.7	2.4	30	石安	—	滅2	滅2	—	—	—	—	覆
4	15	敲き石	7.7	7.0	7.0	530	安	—	敲2	敲2	—	—	—	—	+19
5	雑	円礫石器	11.7	6.4	4.3	500	花	—	凹3	敲1→擦2	敲3	敲2	—	敲2	覆
6	10	石皿＋多凹石	(15.3)	(11.5)	6.0	1,360	安	—	滅1・火	凹3	—	—	—	—	使用→火→欠+16

表－15　Ｊ５号住居跡石器器種・石材別一覧表

石材＼器種	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩													1		1														11				13
石英安山岩																				1													1
安山岩																					1				1						3		5
花崗岩																						1											1
黒曜石																													3				3
計													1		1					1	1	1			1				14		3		23



図－75　Ｊ６号住居跡出土土器（１）



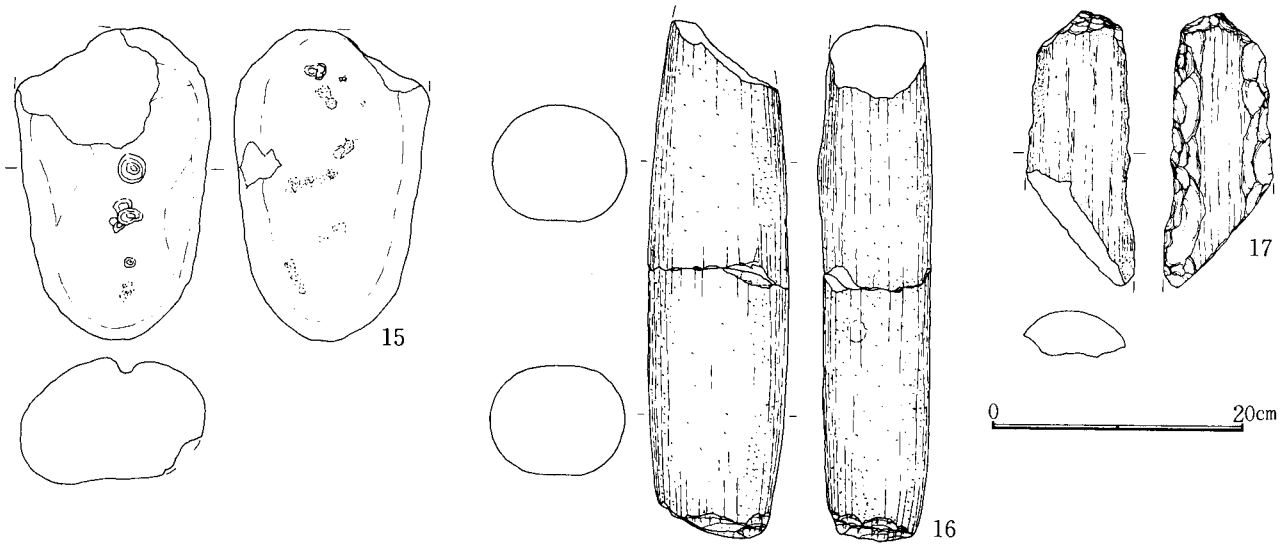
図－76　Ｊ６号住居跡出土土器（２）

表－16　Ｊ６号住居跡出土土器観察表（図－75.76　図版－77・78）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　　考
1	7・148	平口縁。口縁部は隆帯による無文帯。隆帯状には瘤が貼付。縦位区画内には縄文ＲＬが施文。最上部は羽状。	①細粒・白色鉱物②黄橙色③口縁部	加曽利Ｅ４	＋９ 床直	
2	雑	平口縁。口縁部は隆帯による無文帯。隆帯には瘤。斜行する隆帯。縄文ＬＲが施文。	①細粒・砂粒②明赤褐色③口縁部	加曽利Ｅ４	－	
3	24・30・31	平口縁。口縁に平行して１条の隆帯。隆帯には刻み。口縁内面には５～６条の撫でが顕著。	①細粒・砂粒②橙色③口縁部	中～後期	＋17 床直＋６	
4	29・115・146	垂下する隆帯には円形の刺突。縄文Ｌ。無文帯には浅い磨き状の沈線が入る。	①細粒・砂粒②橙色③胴部	中～後期	＋８ ＋５ ＋３	３と同一個体
5	9	微隆起にナゾリ。縄文ＲＬ。内面は丁寧な撫で。	①細粒②浅黄色③胴部	加曽利Ｅ４	＋16	
6	77	微隆起。縄文ＬＲ。	①細粒②浅黄色③胴部	加曽利Ｅ４	住外	
7	炉内	微隆起。縄文ＬＲが羽状に施文。	①細粒②灰黄褐色③胴部	加曽利Ｅ４	炉内	
8	180	微隆起。	①細粒②浅黄色③胴部	加曽利Ｅ４	標高不	
9	57	太く深い沈線。沈線内には列点。	①細粒②橙色③口縁部	称名寺２	＋８	

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
10	126	太く深い沈線。列点。	①粗粒・砂粒が多い。②暗赤色③胴部	称名寺2	−12	
11	雑	沈線、列点。	①細粒②にぶい黄橙色③胴部	称名寺2	−	
12	雑	沈線。長めの列点。	①粗粒・砂粒多い②黄橙色③胴部	称名寺2	−	
13	54	平口縁。口縁に平行した1条の沈線。その下部に文様が展開される。	①粗粒・砂粒多い②明黄褐色③口縁部	称名寺2	+31	
14	117・118	波状口縁。波頂部にC字状貼付。内面は丁寧な撫で。	①細粒・やや砂粒②にぶい黄色③口縁部	称名寺	+31 +23	
15	雑	平口縁。口縁部に平行する1条の沈線。その下に縄文RL。	①細粒②にぶい黄色③口縁部	称名寺1	−	
16	65	平口縁。沈線区画内に細縄文LRが充填される。	①細粒②橙色③口縁部	称名寺1	+8	
17	雑	平口縁。太く深い沈線。縄文LRが充填される。	①細粒②橙色③口縁部	称名寺1	−	
18	74	太く深い沈線。縄文LRが充填される。	①細粒・砂粒が多い②黒褐色③胴部	称名寺1	+19	
19	81	太く深い沈線。撚の粗い縄文RLが区画内に充填される。	①粗粒②にぶい橙色③胴部	称名寺1	+27	
20	87	大形の把手。口唇部には刺突。文様は太く深い沈線により区画され縄文LRが充填される。	①細粒②橙色③把手	称名寺1	+42	
21	雑	把手。口縁に平行する1条の沈線。刺突。内面に円形刺突と沈線。	①細粒・砂粒が多い②橙色③突起	称名寺2	−	
22	雑	突起。内面にC字状の沈線と刺突。口縁内面に縁が付けられる。	①細粒②橙色③突起	称名寺	−	
23	106	C字状隆起突起。円形の貫通孔あり。	①粗粒・砂粒多い②橙色③突起	称名寺	+22	
24	雑	8字状貼付文。沈線。	①細粒②にぶい橙色③胴部	堀之内	−	
25	41	沈線。隆帯上に沈線が入る。交点はやや高まり刺突が入る。	①細粒②にぶい黄橙色③胴部	堀之内1	+35	
26	雑	楕円形の区画が沈線と隆線で構成される。沈線区画内に列点が入る。	①細粒②橙色③胴部	称名寺2	−	
27	雑	隆帯状に円形刺突。円形区画をなす。沈線による曲線が描かれ、細縄文LRが施文される。	①細粒②にぶい黄橙色③胴部	堀之内1	−	
28	雑	沈線3条と連続する円形刺突で曲線が描出。沈線文。	①細粒②淡黄色③胴部	後期	−	
29	120	沈線区画と列点。列点は円形刺突具を斜めに使用。	①細粒②橙色③胴部	称名寺2	+29	
30	102・145	無文部。	①細粒・白色鉱物②明褐灰色③胴部	後期	+2 −4	
31	75	縦方向の条線。条線は非常に浅い。	①中粒・白色鉱物②黄橙色③胴部	中〜後期	+9	
32	55	鉢形土器。内外面とも丁寧な研磨がなされ、沈線によって浮き出された横方向の隆線が3条。	①細粒②褐灰色③口縁部	堀之内1	+10	
33	61	無文部。縦方向の撫で。	①中粒・白色鉱物②褐灰色③底部	後期	+9	
34	4	無文部。	①中粒②浅黄橙色③底部	中〜後期	+20	
35	雑	RL地文。平行沈線。口縁部内傾し、口縁端に突起と粘土瘤貼付。	①中粒②灰黄褐色③口縁部	諸磯b	−	
36	—	付加条（LR＋？）？。上げ底ぎみの平底。	①砂粒②にぶい橙色③胴〜底部	—		

図－77　Ｊ６号住居跡出土石器（１）



図－78　Ｊ６号住居跡出土石器（２）

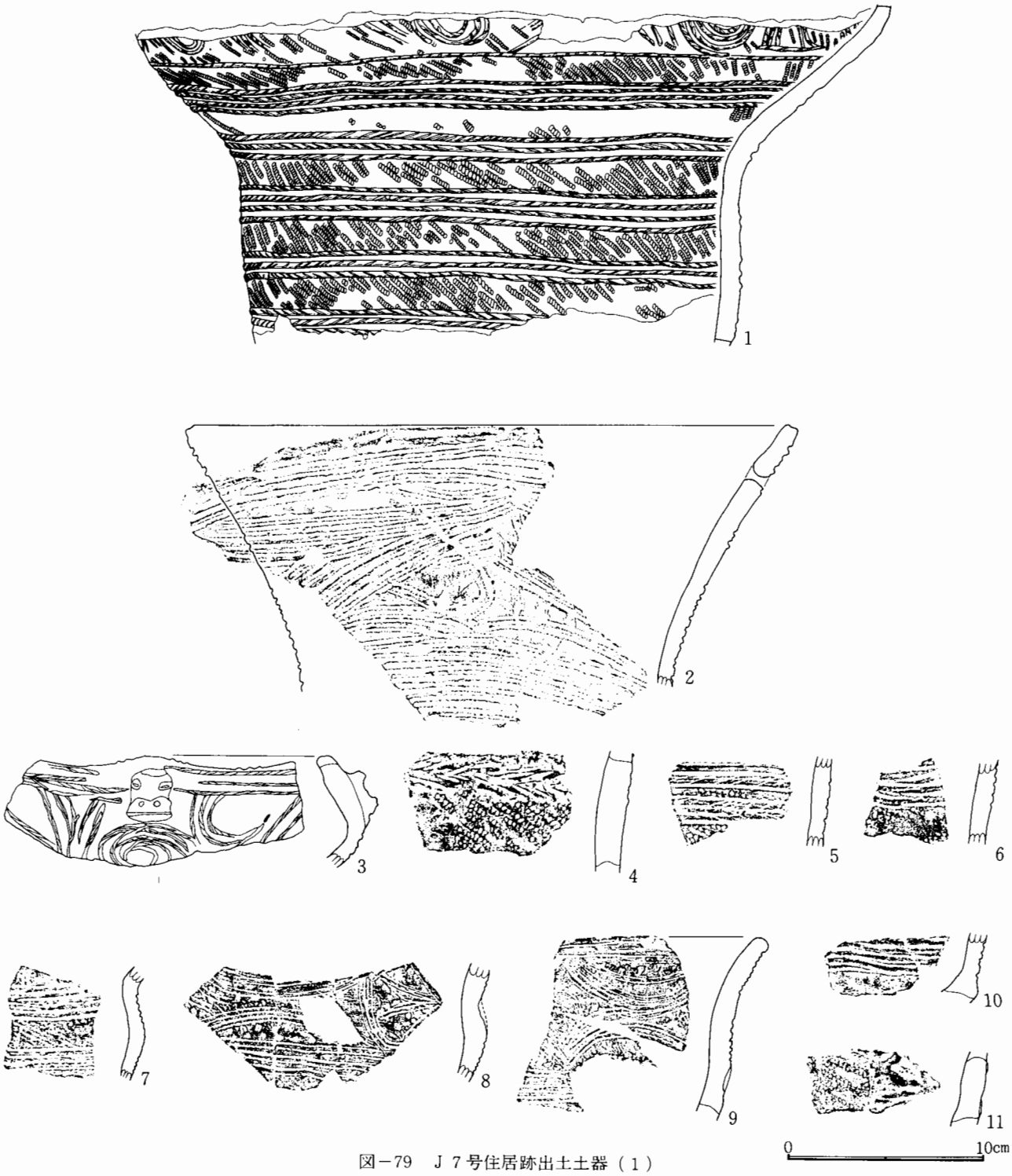
表－17　Ｊ６号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	雑	石鏃	3.0	2.2	0.4	5	黒頁	—	—	—	—	—	—	—	覆
2	101	直刃削器	5.5	3.5	0.8	19	〃	50	—	—	—	—	—	—	位置不
3	51	棒状石器	8.0	3.3	0.9	33	黒片	—	擦1	—	—	敲1	—	敲1	+30
4	143	礫器	16.6	8.3	4.0	800	ヒ	90	敲2	敲2	—	研磨	—	—	鋭刃による敲－4
5	13	円礫石器	13.9	8.5	4.5	900	安	—	擦2→敲1	擦2→敲1	敲1	敲1	敲1→擦2	敲1→擦2	＋9
6	96	〃	7.8	6.2	3.8	195	浮安	—	敲2・変色	敲2・変色	—	—	—	—	赤く変色＋24
7	68	〃	13.3	7.0	4.1	520	不明	—	敲1→擦2	敲1→擦2	—	—	—	—	擦→火－3
8	19	〃	10.6	8.5	4.7	670	花	—	擦2→敲2	擦2→敲2	敲1	敲1	敲1	敲1	＋12
9	2	〃	11.4	8.3	4.3	590	安	—	凹2	凹2	敲1	敲1	敲1	敲1	＋3
10	17	〃	10.6	6.5	4.0	435	〃	—	擦1→敲2・凹2	擦1→敲2・凹2	敲2	敲2	敲2	—	敲→火＋9
11	25	〃	12.5	8.3	4.0	720	〃	—	擦2→凹1・敲1	擦2→敲1→火	敲1	敲1	敲1	敲1	＋7
12	雑	凹石	11.5	9.0	5.0	630	〃	—	火→凹3	火→凹3	火	火	火	火	火→敲→凹覆
13	1	〃	8.5	7.2	5.7	350	〃	—	火→凹1	火→凹1	火	火	火	火	火→凹→欠＋9
14	53	〃	10.7	7.8	1.2	96	結片	—	凹1	—	—	—	—	—	＋13
15	76	多凹石	24.7	15.4	10.0	3,650	安	—	凹3	凹3	—	—	—	—	一部欠＋15
16	104	石棒	40.8	11.0	9.1	7,200	緑片	—	敲	擦2	—	敲	敲	敲	頭部欠＋6
17	103	石棒欠損品を利用した石器	21.1	8.7	3.7	930	〃	85	敲	—	敲	—	—	—	＋8

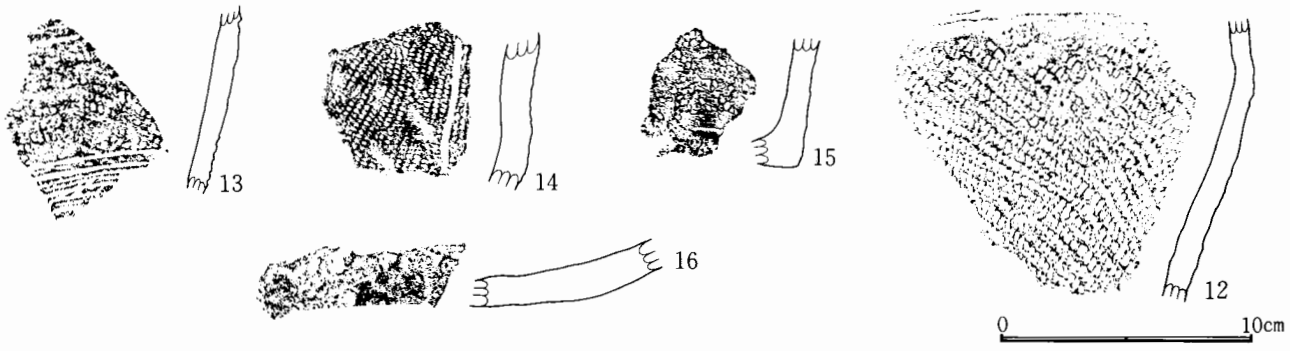
表－18　Ｊ６号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種／石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩	1								1																				49				51
頁岩																													1				1
黒色安山岩																													5			1	6
浮石質安山岩																						1											1
安山岩																						4				1	2		1		6		14

器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
花崗岩																						1									1		2
ヒン岩																	1															1
珪岩																													1				1
緑泥片岩																							1						50			1	52
黒色片岩																								1									1
結晶片岩																											1						1
その他																						1									2		3
計	1								1								1					7	1	1		1	3		107		9	2	134



図－79　Ｊ７号住居跡出土土器（１）



図－80　Ｊ７号住居跡出土土器（２）

表－19　Ｊ７号住居跡出土土器観察表（図－79・80　図版－78・79）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　　考
1	14・15	ＲＬの地文。矢羽根状刻み浮線を頸部以下を横位に、口縁付近で渦巻き状に巡らす。頸部より口縁にかけて強く外反。 ①砂粒②黄橙色③胴部上半。諸磯ｂ。＋３・埋甕。３と同一個体。				
2	24	平行沈線。緩く外反。平口縁。	①砂粒②にぶい橙色③口縁部	諸磯ｂ	P_5内	円孔あり
3	雑	ＲＬの地文。矢羽根状刻み浮線。獣面。緩い波状口縁。口縁端刻み列。	①砂粒②浅黄橙色③口縁部	諸磯ｂ	—	
4	雑	ＲＬの地文。矢羽根状刻み浮線。	①砂粒②にぶい黄橙色③胴部	諸磯ｂ	—	
5	雑	ＲＬの地文。矢羽根状刻み平行沈線。	①白色粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯ｂ	—	6・13と同一個体
6	1	ＲＬの地文。平行沈線。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯ｂ	＋３	5・13と同一個体
7	雑	細いＲＬの地文。平行沈線。	①砂粒②にぶい褐色③胴部	諸磯ｂ	—	
8	雑	ＲＬの地文。平行沈線。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯ｂ	—	９と同一個体
9	20	ＲＬの地文。平行沈線。平口縁外反。	①砂粒・白色粒②にぶい橙色③口縁部	諸磯ｂ	＋22	
10	11	平行沈線。	①砂粒②明黄褐色③胴部	諸磯ｂ	＋18	
11	19	ＲＬの地文。浮線。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯ｂ	＋13	
12	20	ＲＬの地文。平行沈線。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯ｂ	＋22	
13	雑	ＲＬの地文。平行沈線。	①砂粒・片岩粒②にぶい褐色③胴部	諸磯ｂ	—	
14	雑	ＬＲの地文。沈線。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯？	—	
15	雑	間隔をあけたＲＬの地文。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯？	—	
16	29	縦方向撫で。	①砂粒②にぶい橙色③底部	—	P_{11}内	

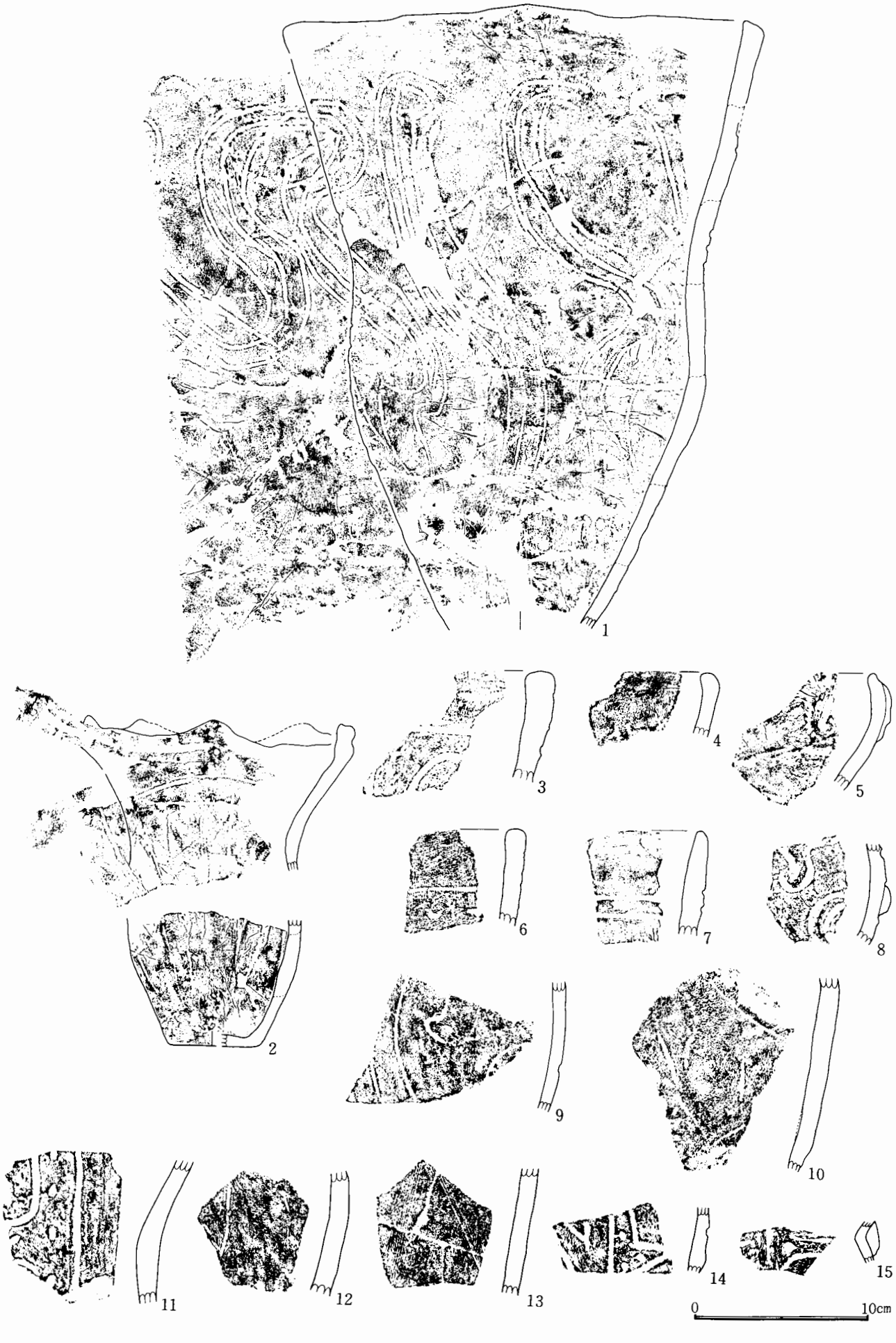
図－81　Ｊ７号住居跡出土石器

表—20　J 7号住居跡出土石器属性表

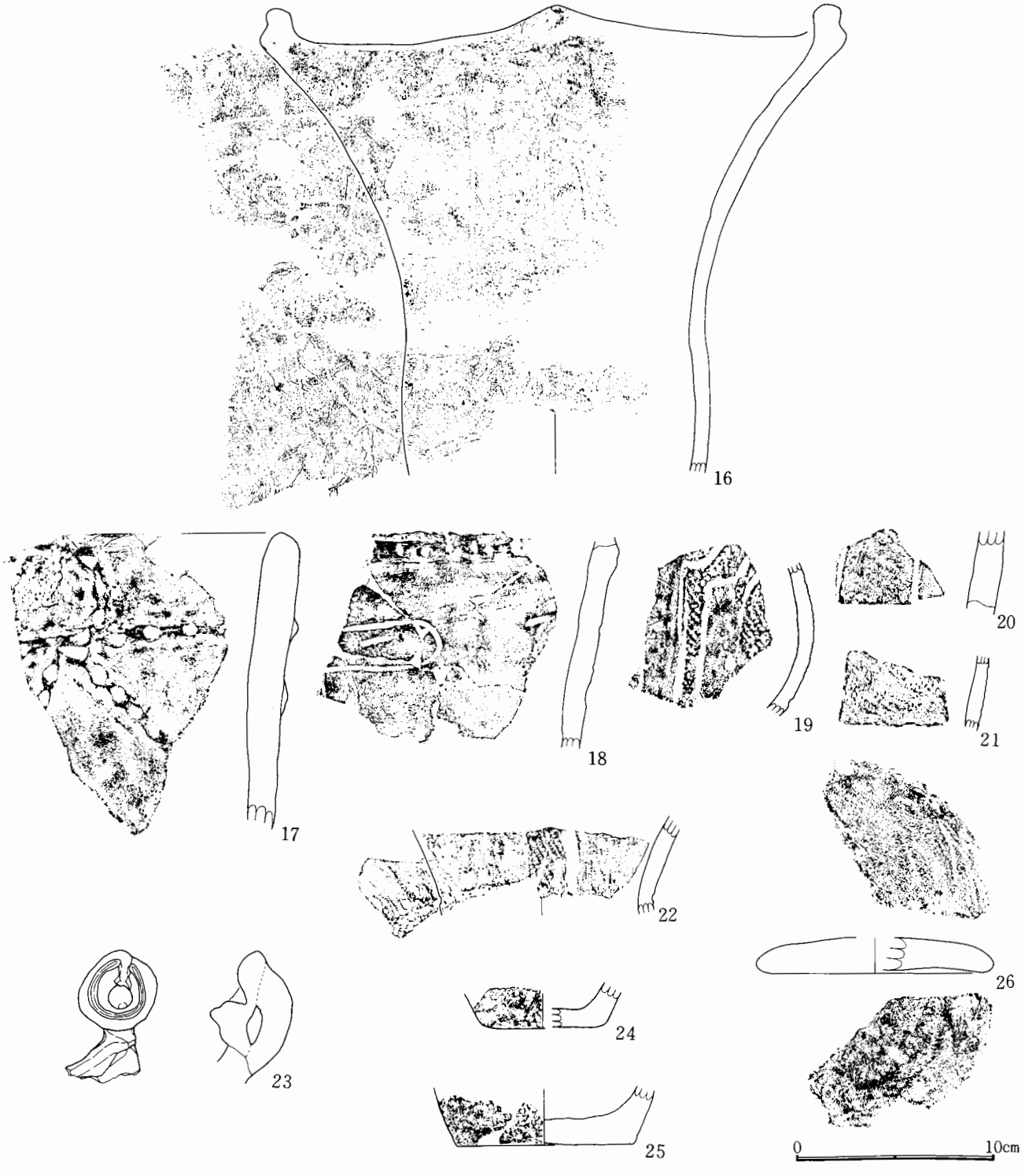
No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	28	打製石斧	10.6	6.2	1.4	122	黒頁	30	—	—	—	滅2	潰	—	+39
2	雑	〃	(4.9)	(7.1)	1.6	67	〃	—	—	—	—	—	—	—	刃・基部欠損
3	16	凸刃削器	4.8	7.1	1.8	48	〃	60	—	—	—	—	—	—	+13
4	雑	複刃削器	5.8	7.2	2.0	85	〃	45	—	—	—	—	—	—	3刃
5	21	交刃削器	6.3	7.9	1.9	85	〃	45～60	—	—	—	—	—	—	+22
6	2	棒状石器	17.2	9.7	1.5	396	結片	—	擦2	擦2	敲1	敲1	敲2	敲2	+6
7	27	敲き石	14.7	2.9	2.2	140	緑片	—	—	—	敲1	敲1	—	—	+10
8	5	円礫石器	10.9	7.8	4.9	511	安	—	擦1→敲2	擦1→敲2・凹2	敲1	敲1	敲1	敲1	縦断面は紡錘状・P_8内
9	26	〃	9.9	7.5	4.9	526	花	—	擦2→凹2	擦2→敲1	敲1	敲1	敲1	敲1	P_5内
10	雑	凹石	12.0	8.7	5.1	627	安	—	凹2	凹3	—	—	—	—	覆
11	18	多凹石	19.7	14.2	5.8	2,350	〃	—	凹3	凹3	—	—	—	—	+16
12	10	石皿	(17.8)	(10.9)	5.6	405	浮安	—	敲	敲	敲	—	—	敲	+10

表—21　J 7号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		2								1		1	1																12				17
頁岩																													1				1
黒色安山岩																													2				2
浮石質安山岩																									1								1
安山岩																						1				1	1				2		5
花崗岩																						1											1
緑泥片岩																					1								1				2
結晶片岩																								1									1
計		2								1		1	1								1	2		1	1	1	1		16		2		30



図－82　Ｊ８号住居跡出土土器（１）

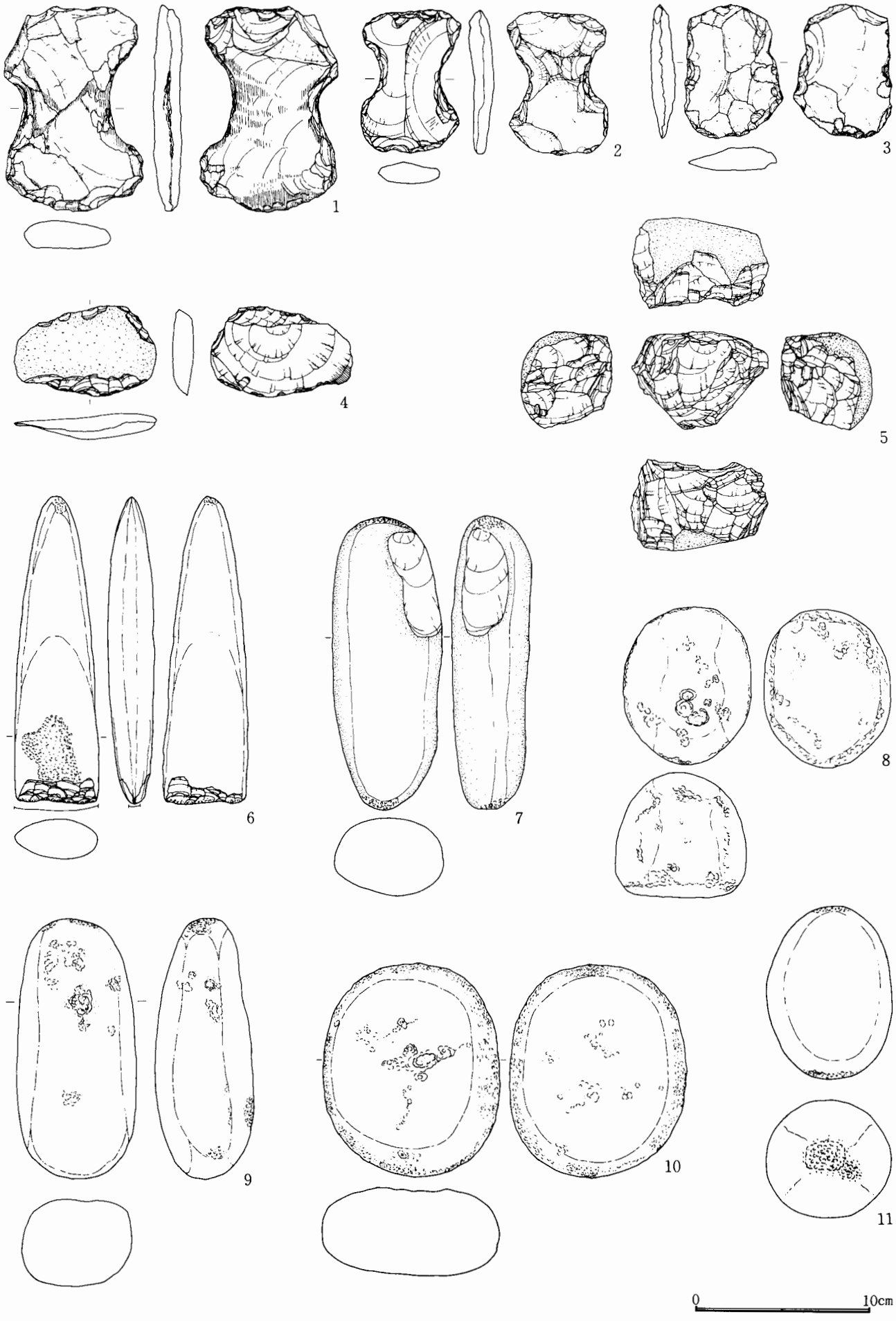


図—83　J 8 号住居跡出土土器（2）

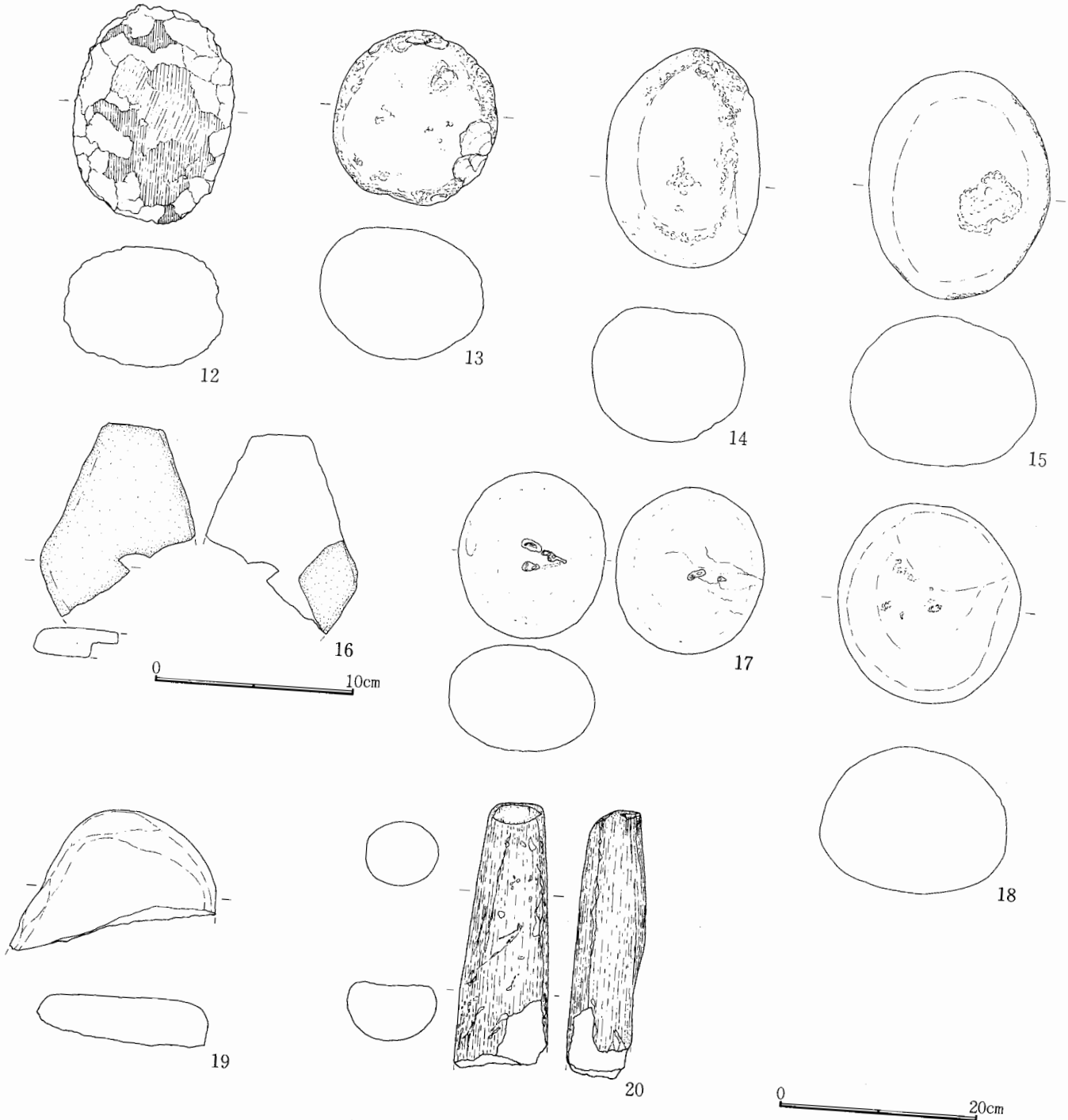
表—22　J 8 号住居跡出土土器観察表（図—82・83　図版—79）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　　考
1	40	4 単位の突起が考えられる。文様は 3 本 1 組の曲線文で描出される。4 組とも文様構成が異なる。	①中粒・黒色鉱物②にぶい黄橙色③底部を欠損する。	称名寺 2	埋甕	
2	13・16・18・19	小形の胴部がくびれる深鉢。口唇突起は 5 単位（8 字状・刺突・こぶ）。2 単位の乱れた沈線区画。	①中粒・砂粒を含む②橙色③一部胴部を欠損する。	称名寺 2	埋甕	
3	4	太い沈線区画によって文様が描出。	①中粒・白色鉱物②灰黄褐色③口縁部	称名寺 2	周礫部	

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
4	雑	口唇部に刺突。文様は沈線区画がなされる。	①中粒②にぶい黄橙色③口縁部	称名寺2	—	
5	雑	鉢形。突起は円形状になると思われる。刺突と連結する沈線によって構成。文様は沈線区画。	①細粒②淡黄色③口縁部	称名寺2	—	
6	雑	沈線と列点。列点は細長く浅い。	①中粒②浅黄橙色③口縁部	称名寺2	—	
7	12	口縁に平行する2条の沈線と垂下する条線。	①細粒②橙色③口縁部	中～後期	＋8	
8	雑	沈線区画された隆線で構成。J字文の構成や刺突連結沈線で構成される。	①細粒②黒褐色③胴部	堀之内1	—	
9	5	沈線区画。	①中粒②浅黄橙色③胴部	称名寺2	同礫部	
10	23	沈線区画。	①中粒②淡黄色③胴部	称名寺2	＋28	
11	雑	太く浅い沈線と竹管状工具による列点。工具は斜めに使用。	①中粒②淡黄色③胴部	称名寺2	—	
12	51	浅い沈線。	①中粒②黄橙色③胴部	称名寺2	住外	
13	39・55	4本単位の浅い条線。	①中粒②灰黄褐色③胴部	中～後期	－5 位置不	
14	27	沈線区画がなされ、列点が付される。	①中粒②黄橙色③胴部	称名寺2	＋14	
15	70	鉢。8字状貼付文。沈線区画と細縄文LR。	①細粒②にぶい赤褐色。③胴部	堀之内1	周礫部	
16	71・79・91	胴部がすぼまり、口縁が大きく開く深鉢。4単位の小波状口縁には突起が付される。文様は沈線区画。	①粗粒・砂粒多い②黄橙色③½	称名寺2	炉内	
17	—	口縁に平行して1条、斜行して2条の隆帯。隆帯には刻み。口縁部に弧線が描出。	①中粒②黄橙色③口縁部	中～後期	—	
18	41	隆帯上に列点状の刻みが入る。弧線内には細長い列点が施される。	①中粒②橙色③胴部	称名寺2	＋2	
19	雑	胴下半部。沈線区画内に縄文LRが施文される。	①中粒②橙色③胴下半	称名寺2	—	
20	37	沈線。	①細粒②淡黄色③胴部	称名寺2	住外	
21	8	縄文RL。	①中粒②白色鉱物②黄橙色③胴部	諸磯	周礫部	
22	3	胴部屈曲部に1条の沈線。4単位の沈線区画に充填縄文LR。	①中粒②橙色③胴部	称名寺	周礫部	
23	36	把手。C字状の沈線と円孔。	①中粒②橙色③把手	称名寺2	住外	
24	40	無文部。横方向の撫で。	①中粒②橙色③底部	後期	標高不	
25	25	無文部。	①中粒②淡黄色③底部	後期	＋28	
26	29	蓋。上面は丁寧な磨き。下面はややザラつく。	①中粒・黒色鉱物②橙色③蓋	堀之内？	＋22	



図－84　Ｊ８号住居跡出土石器（１）



図－85　Ｊ８号住居跡出土石器（２）

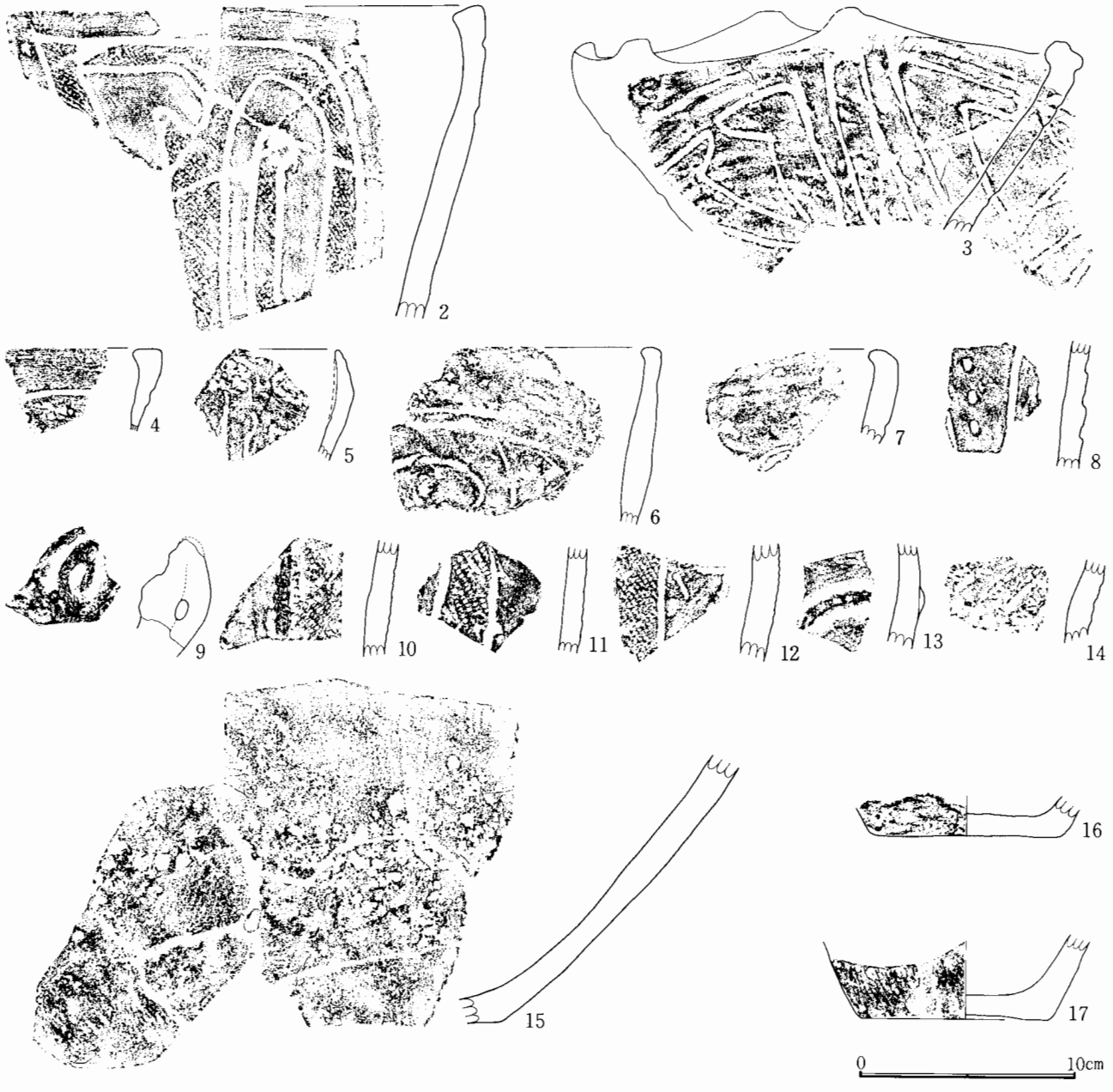
表－23　Ｊ８号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	52	打製石斧	11.7	7.8	1.6	175	黒頁	50	—	—	—	滅3	滅3	—	住外
2	33	〃	8.2	5.7	1.5	61	〃	35	—	—	—	滅1	—	—	+11
3	71	〃	7.6	5.6	1.4	63	〃	30	—	—	—	—	—	—	位置不
4	75	凸刃削器	5.1	8.1	1.5	64	〃	60	—	—	—	—	—	—	+8
5	66	石核	5.6	7.8	5.2	200	黒安	—	—	—	—	—	—	—	+6
6	11	磨製石斧	17.5	4.8	2.7	345	緑片	40	敲2	—	—	潰3	—	—	周礫部
7	74	敲き石	16.7	6.3	4.5	762	安	—	—	火	火→敲2	敲1	—	—	火→敲 位置不
8	15	円礫石器	9.1	7.3	7.2	740	〃	—	敲2	敲→擦1	敲2	敲2	敲・擦1	敲・擦1	周礫部
9	34	〃	14.9	6.8	5.7	1,000	花	—	擦1・敲1～2	擦1・敲1～2	敲1	—	敲1→擦1	敲1→擦1	+3
10	65	〃	12.3	10.2	5.2	950	安	—	擦1→敲1	擦1→敲1	敲1	敲1	敲1	敲1	周礫部
11	61	敲き石	9.9	7.2	6.8	700	〃	—	—	—	敲1	敲2	—	—	+3
12	67	円礫石器	10.8	8.0	6.0	748	花	—	擦2→敲3	擦2→敲3	敲3	敲3	敲3	敲3	周礫部
13	32	〃	8.7	8.1	6.5	700	〃	—	敲1→擦2	敲1→擦2	敲3	敲3→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	+13
14	35	〃	10.9	7.7	6.7	920	安	—	敲1→擦1	擦1→敲2	敲2	—	擦1	擦1	周礫部
15	62	〃	11.4	9.2	7.4	1,200	花	—	擦1・敲2	擦1	擦1	敲1	擦1・敲1	敲1	+2
16	50	砥石	(9.7)	(7.7)	1.3	60	砂	—	擦2	擦2	擦2	—	擦2	擦2	住外
17	60	円礫石器	16.3	14.8	10.3	3,500	花	—	擦1・凹3	擦1・凹2	擦1	擦1	擦1	敲1	床直
18	63	凹石	19.8	18.5	14.6	7,600	安	—	凹3	—	—	—	—	—	+8
19	69	石皿	(14.5)	(20.5)	4.7	1,780	〃	—	変色・擦2	—	—	—	—	—	+37
20	73	石棒	(26.8)	(9.1)	6.5	2,700	緑片	—	擦3	擦2	擦3	—	擦3	擦3	床直

表－24　Ｊ８号住居跡石器器種・石材別一覧表

石材＼器種	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		3								1																			16				20
黒色安山岩																													5	1			6
安山岩																					2	3			1		1		8				15
花崗岩																						5											5
珪岩																													1				1
緑泥片岩			1																				1										2
砂石																												1					1
計		3	1							1											2	8	1		1		1	1	30	1			50

図－86　Ｊ９号住居跡出土土器（１）

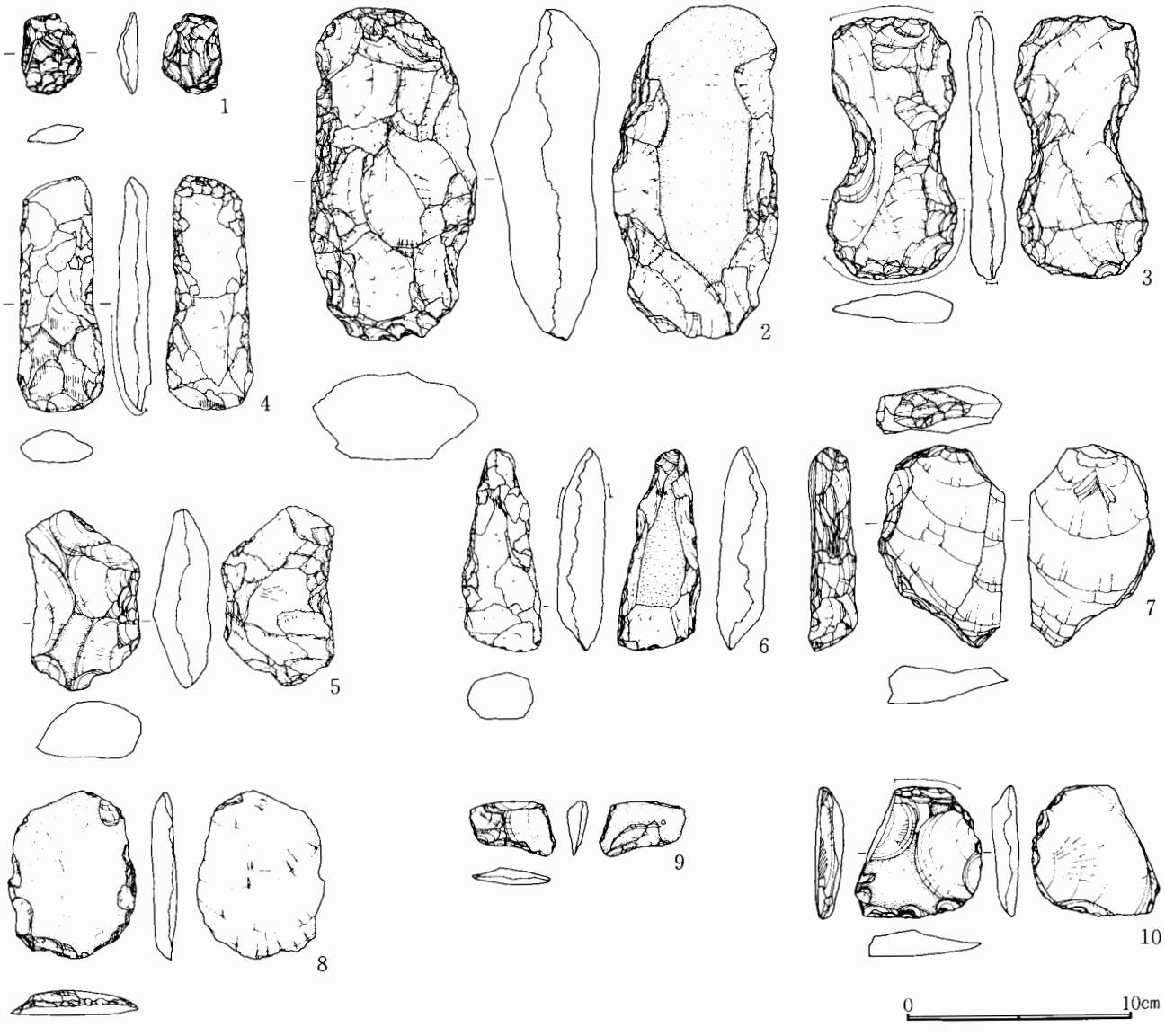


図－87　Ｊ９号住居跡出土土器（２）

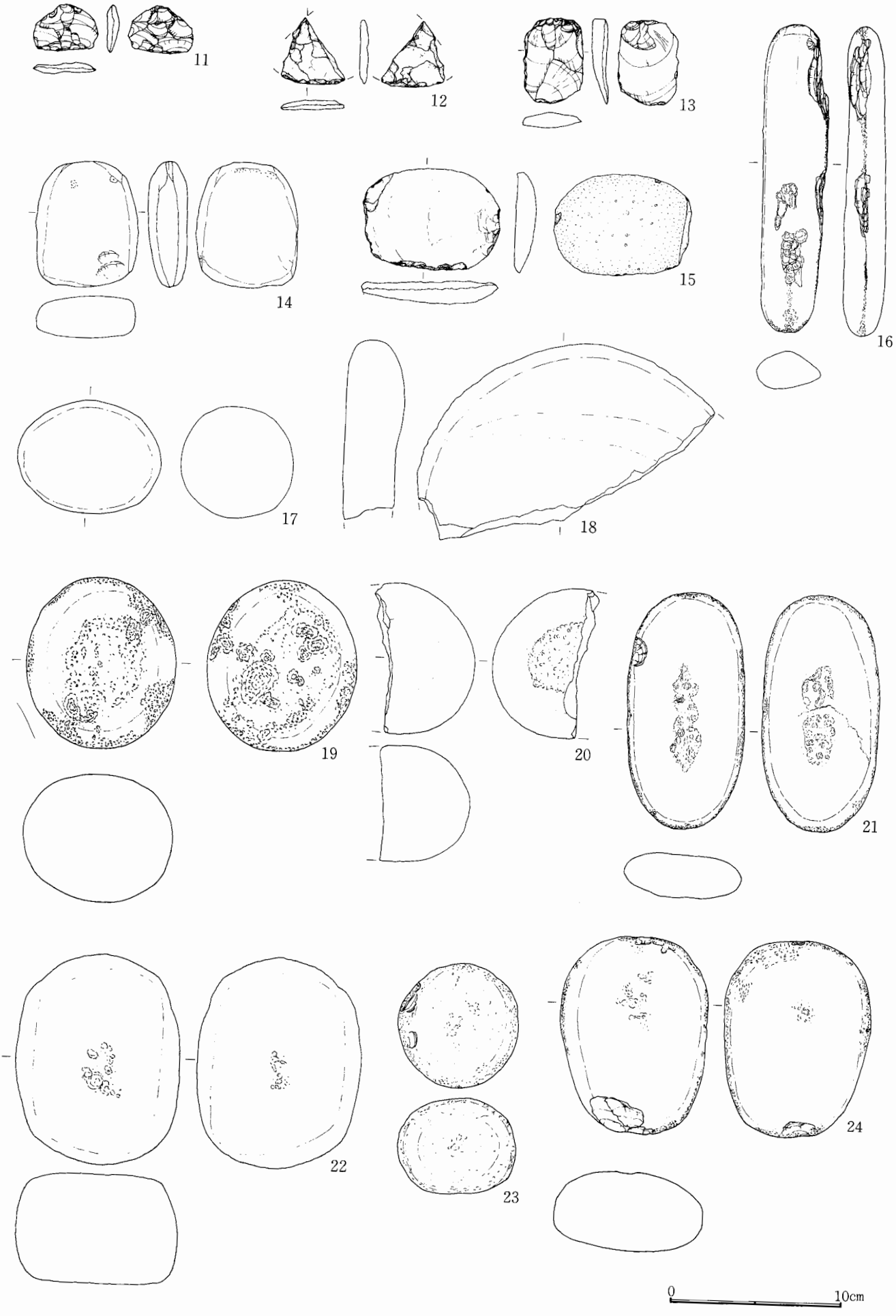
表－25　Ｊ９号住居跡出土土器観察表（図－86・87　図版－79・80）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　　考
1	7・38・42・44	底部が小さくすぼまり、胴部にくびれを持つ平口縁の深鉢。文様４単位。沈線区画と充塡縄文ＬＲが施文。	①中粒・砂粒②淡黄色③½	称名寺１	床直－５ 埋甕－３	
2	2・38・39	小波状口縁。文様単位不明。文様区画の間に列点。沈線区画内には縄文ＬＲが充塡。	①細粒②黄橙色③口縁部	称名寺１	－２、－５ 床直	
3	7・46	大きく開く小波状口縁の深鉢。波頂部に突起。文様は太めの深い沈線でＹ字文が４単位に描出。	①細粒②黄橙色③½	称名寺２	－３	
4	45	沈線区画。円形刺突による列点。内面に縁を有する。	①細粒②黄橙色③口縁部	称名寺２	炉内	
5	33	沈線区画。	①中粒②黄橙色③口縁部	称名寺２	＋24＋23 ＋36	
6	2	沈線区画。	①粗粒②浅黄橙色③口縁部	称名寺２	＋２	
7	2	沈線区画。	①中粒・白色鉱物②灰黄褐色③口縁部	称名寺２	＋２	

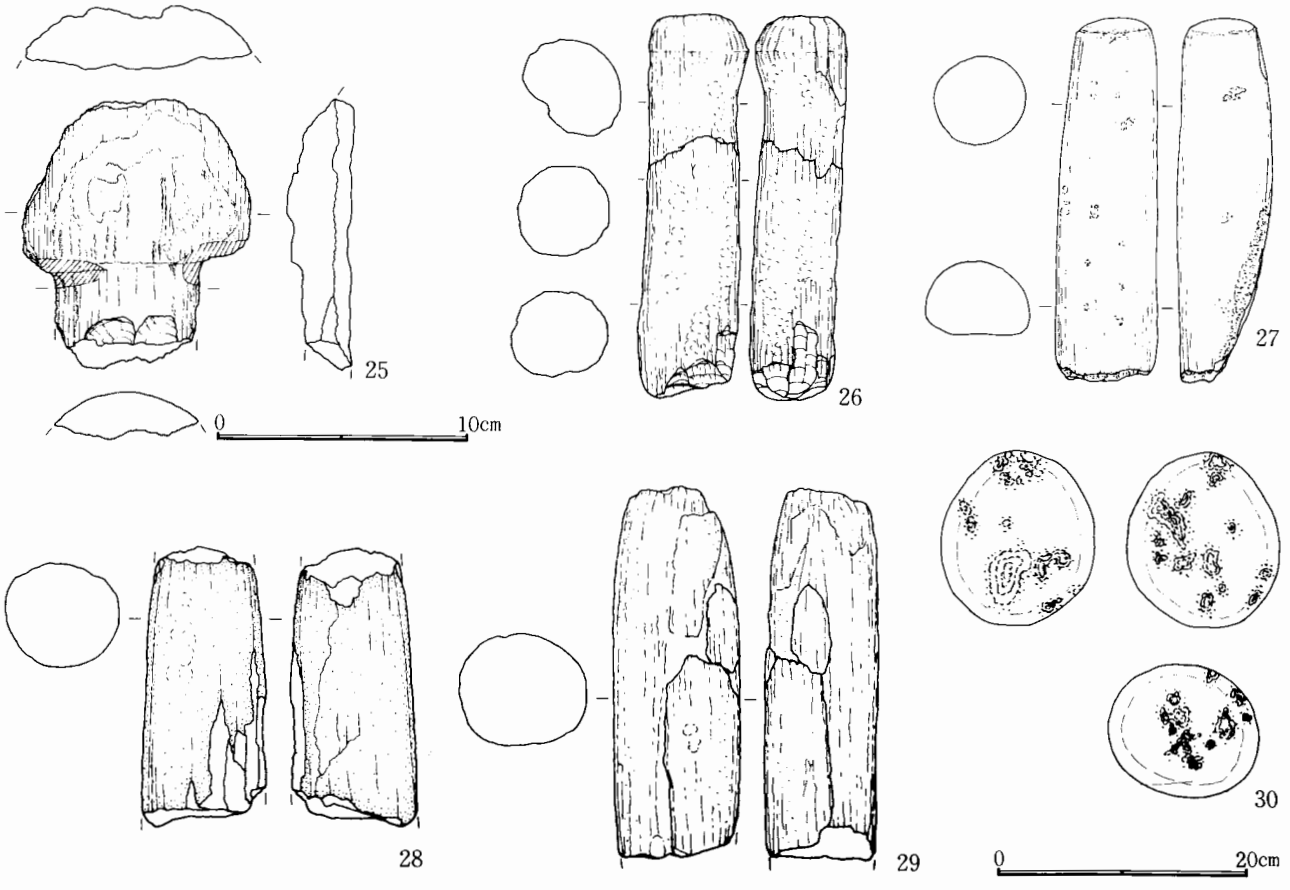
番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
8	炉内	沈線。列点。	①中粒②淡黄色③胴部	称名寺2	炉内	
9	雑	把手。円孔。内側に刺突と渦巻き沈線。	①中粒②淡黄色③把手	称名寺2	—	
10	雑	隆線。縄文LR。	①中粒②にぶい黄橙色③胴部	加曽利E4	—	
11	33	沈線。縄文LR。	①中粒②浅黄橙色③胴部	称名寺1	+24+23+36	
12	6	沈線。縄文LR。	①細粒②黄橙色③胴部	称名寺1	+2	
13	炉内	微隆起。	①細粒②浅黄橙色③胴部	加曽利E4	炉内	
14	炉内	縄文R？。	①繊維②浅黄橙色③胴部	—	炉内	
15	31・36	無文部。縦方向の磨き。	①中粒②淡黄色③底部	—	炉内	
16	25	無文部。	①中粒②淡黄色③底部	称名寺	+14	
17	5	無文部。	①中粒②浅黄橙色③底部	称名寺	床直	



図－88　Ｊ９号住居跡出土石器（１）



図－89　Ｊ９号住居跡出土石器（２）



図－90　Ｊ９号住居跡出土石器（３）

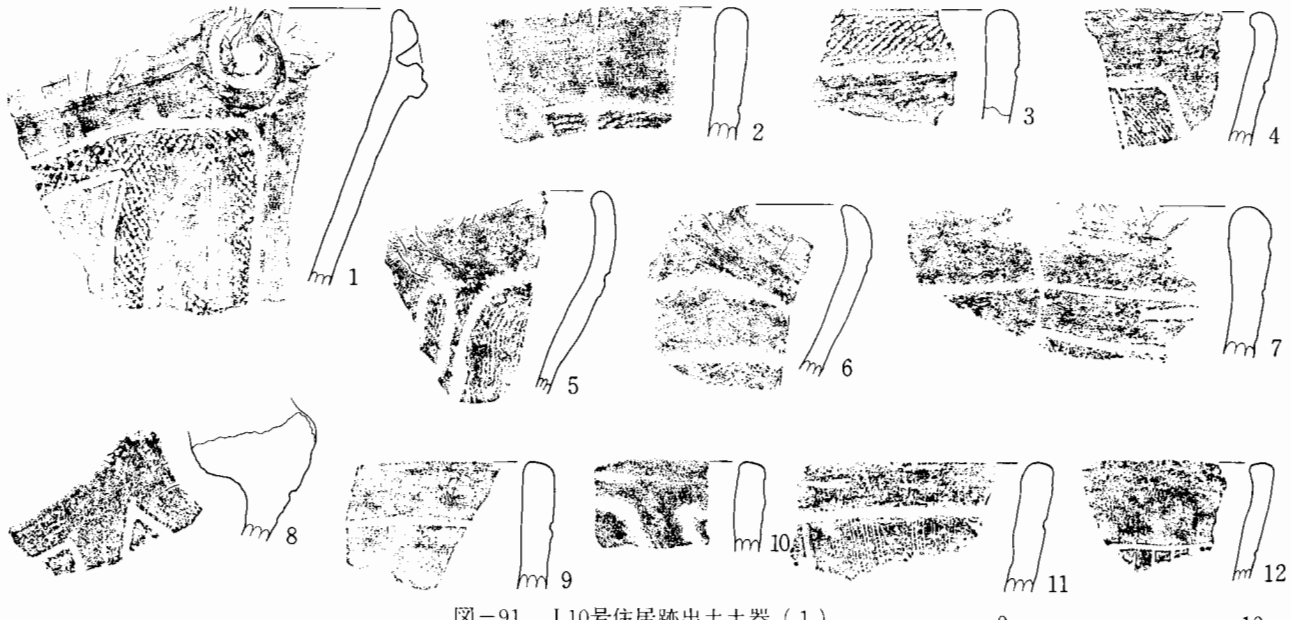
表－26　Ｊ９号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	雑	楔形石器	3.5	2.6	0.9	8	珪	30 45	—	—	—	刃	—	—	覆
2	40	打製石斧	14.5	7.2	4.9	590	黒頁	90	—	—	—	—	—	—	－14
3	雑	〃	11.5	5.7	1.5	110	黒安	30 50	—	—	—	滅1	—	—	分銅形 覆
4	雑	〃	10.3	3.7	1.5	72	〃	50	—	—	—	滅2	—	—	短冊形 覆
5	雑	〃	8.0	4.9	2.5	100	黒頁	60	—	—	—	—	—	—	分銅形 覆
6	雑	〃	9.0	3.5	2.1	73	〃	70	滅1	滅1	—	—	滅1	—	撥形 覆
7	33	背付き石器	9.0	5.6	1.9	112	頁	50	—	—	—	—	—	—	＋20
8	雑	掻器	7.5	5.7	1.1	60	黒頁	60	—	—	—	—	—	—	覆
9	雑	凹刃削器	3.9	3.5	0.9	9	〃	35	—	—	—	—	—	—	覆
10	雑	複刃削器	5.7	5.7	1.2	46	〃	45	—	—	—	滅2	滅2	滅2	3刃 覆
11	雑	R F	3.7	2.6	0.7	7	〃	40	—	—	—	—	—	—	覆
12	雑	凸刃削器	(3.7)	(3.6)	0.5	10	黒頁	35	—	—	—	—	—	—	欠 覆
13	33	U F	4.9	3.5	0.9	19	〃	備	—	—	—	刃	刃	刃	刃角30、60、70 ＋23
14	13	軽石製石器	7.3	6.0	2.4	72	浮安	—	擦2	擦2	擦2	擦2	擦2	擦2	＋20
15	27	U F	8.0	5.7	1.0	75	黒安	60	—	—	—	刃	刃	—	P_9内
16	19	敲き石	17.8	3.6	2.4	270	緑片	—	敲2	—	敲1	敲1	敲1	敲3	床直

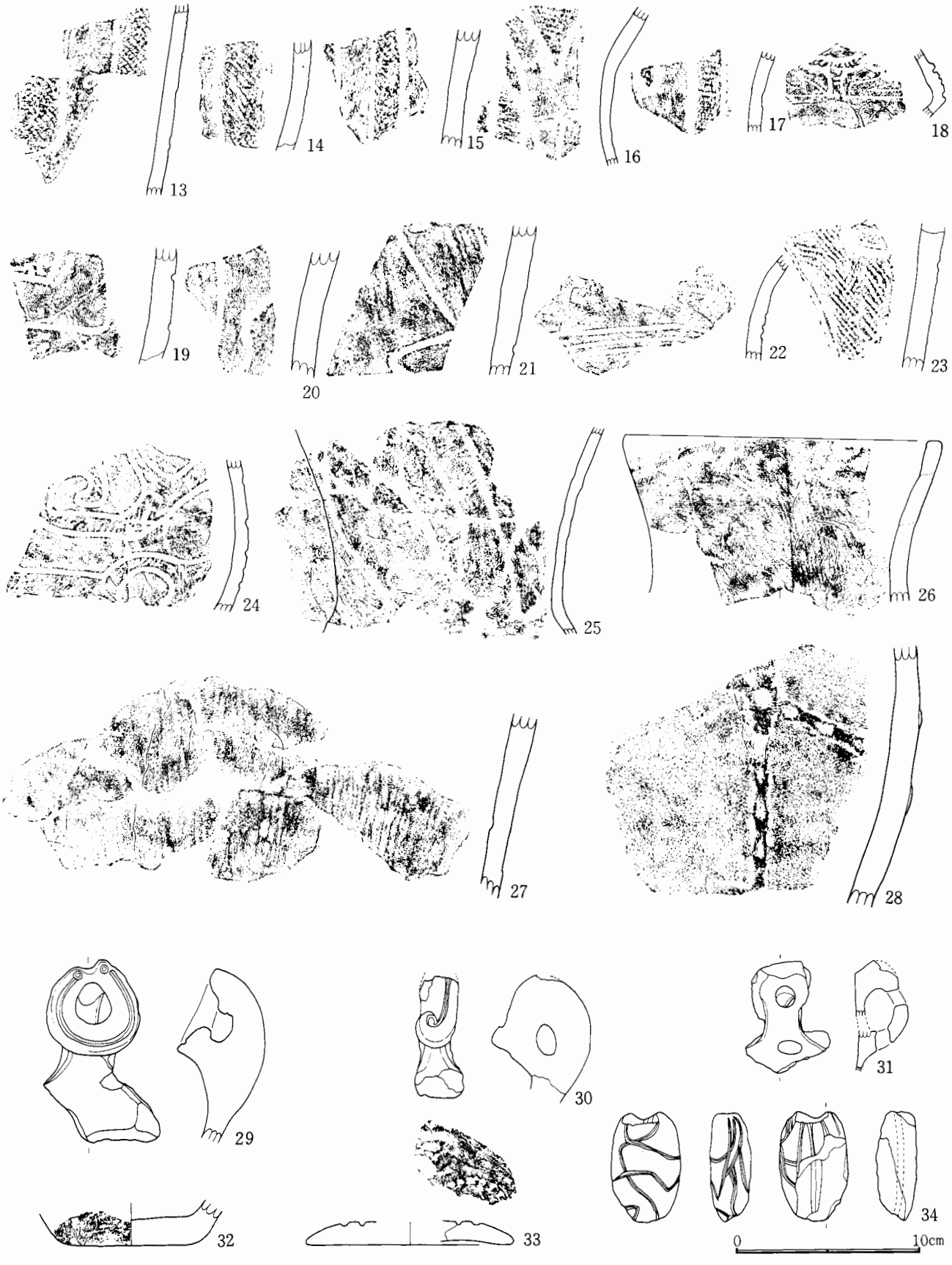
No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
17	17	円礫石器	8.3	6.5	6.5	472	安	—	敲1→擦1	敲2→擦1	擦1	敲1→擦1	擦2	敲1→擦1	擦→火 +16
18	9	石皿	(17.2)	(11.5)	3.5	730	〃	—	擦1	—	—	—	—	—	欠 +3
19	14	円礫石器	10.0	8.7	7.4	800	〃	—	敲2	敲2	敲2	敲2	敲2	敲2	+22
20	103	〃	8.7	(5.9)	6.7	450	〃	—	擦2	敲1→擦1	擦1	擦1	擦1	擦1	位置不
21	104	〃	13.7	6.8	2.6	375	花	—	敲2	敲2	敲1	敲1	敲1	敲1	位置不
22	12	〃	12.2	9.6	6.5	1,300	安	—	擦1→敲1	擦1→敲1	擦1	擦1	擦1	擦1	+16
23	17	〃	7.2	7.1	5.6	320	〃	—	敲2→火	敲2→火	敲2→火	敲2→火	敲3→火	敲2→火	敲2→火 +16
24	3	〃	11.5	8.5	4.6	740	〃	—	敲1→擦1	敲1→擦1	敲3	敲3	敲2→擦1	敲2→擦1	+2
25	29	石棒	(10.6)	(9.1)	(2.6)	250	緑片	—	敲2	—	—	—	擦2	擦2	欠 P_8内
26	4	〃	30.4	8.5	7.8	2,500	〃	—	敲2	敲2	敲2	敲2	敲2	敲2	表面風化 −2
27	10	〃	28.7	8.2	7.0	3,150	〃	—	敲2→擦3	敲2→擦3 敲2	敲2→擦3	敲2	敲2→擦3	敲2→擦3	床直
28	1	〃	(22.0)	10.0	9.8	3,350	〃	—	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	欠 −11
29	37	〃	(29.5)	10.2	9.0	4,300	〃	—	敲	敲	敲	敲	敲	敲	表面風化強・欠 +3
30	26	円礫石器	13.8	12.3	10.5	2,370	安	—	敲2→擦2	敲2→擦2	敲2→擦2	敲2→擦2	敲2→擦2	敲2→擦2	周礫内

表−27　J 9号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		3					1			1	1		1					1	1												2		11
頁岩								1																								1
黒色安山岩		2																	1													3
浮石質安山岩																															1	1
安山岩																						7			1					5		13
花崗岩																						1								1		2
閃緑岩																														1		1
珪岩																1																1
緑泥片岩																				1			5						1			7
結晶片岩																													2			2
計		5					1	1		1	1		1			1		1	2		1	8	5		1				3		9	1	42



図−91　J 10号住居跡出土土器（1）

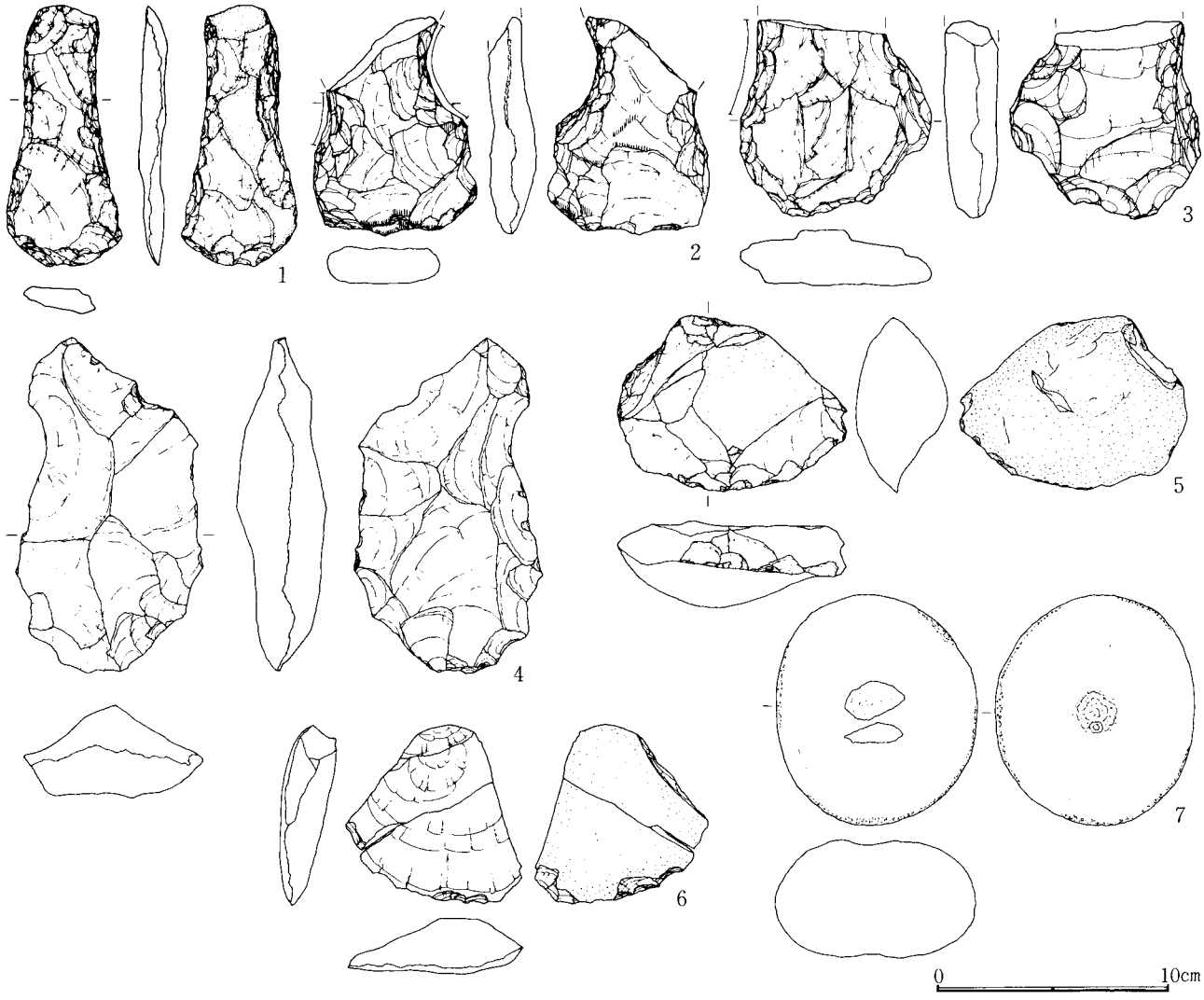


図－92　J10号住居跡出土土器（２）

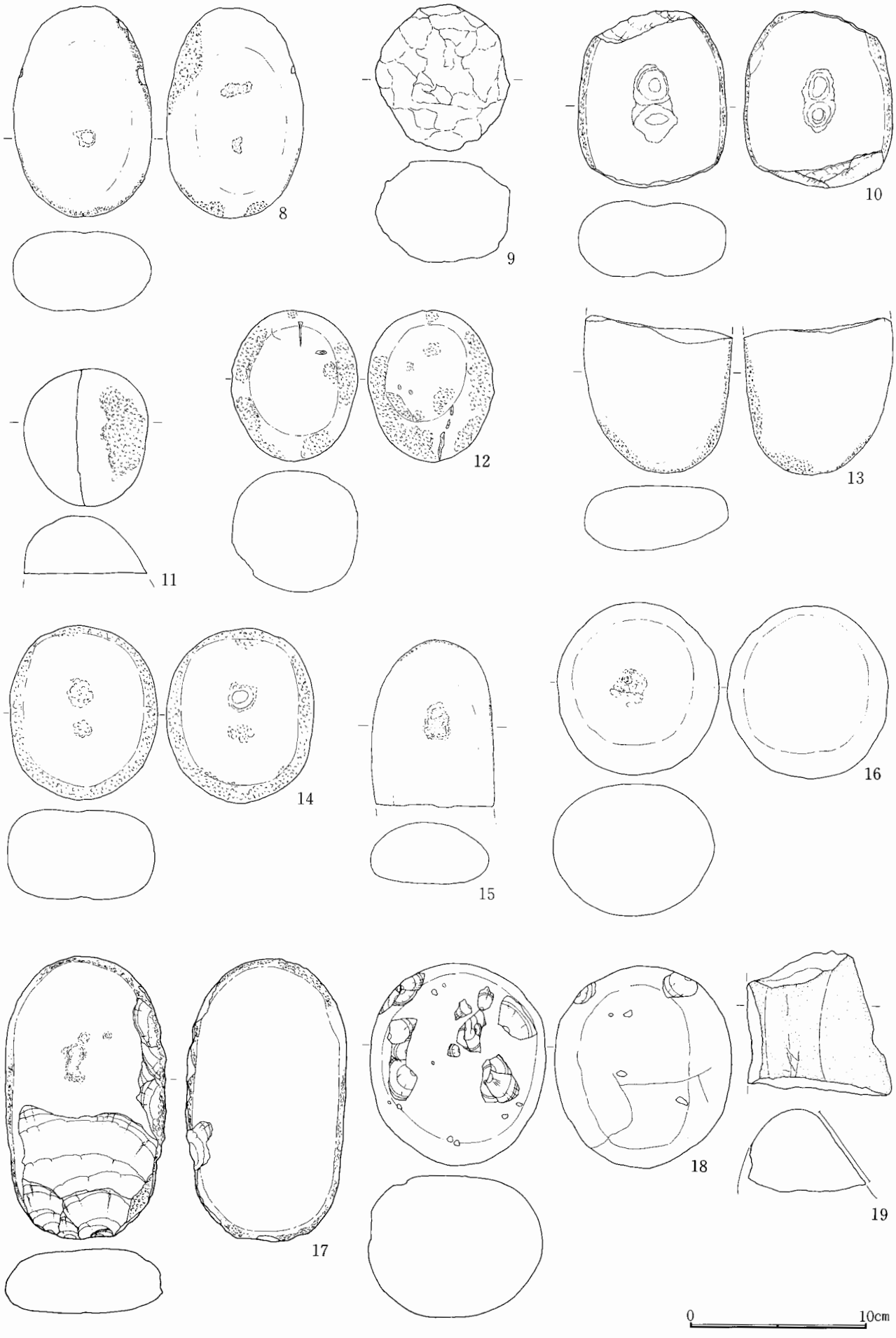
表—28　J10号住居跡出土土器観察表（図—91・92　図版—80・81）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　　考
1	33	小波状口縁。C字状沈線と円形刺突。沈線区画による文様で縄文LRが充填される。	①細粒②浅黄色③口縁部	称名寺1	炉内	
2	20	沈線。縄文LR。	①中粒②にぶい褐色③口縁部	称名寺1	＋6	
3	47	沈線区画。縄文LR。	①中粒・白色鉱物②にぶい橙色③口縁部	称名寺1	周礫部	
4	79	沈線。縄文LR。口縁部内側に縁。	①細粒②淡黄色③口縁部	称名寺1	周礫部	
5	26	沈線。縄文LR。口縁部内側に縁。	①細粒②浅黄橙色③口縁部	称名寺1	＋26	
6	63	小波状口縁。沈線区画。	①細粒②淡黄色③口縁部	称名寺2	周礫部	
7	105	沈線。	①粗粒②淡黄色③口縁部	称名寺2	周礫部	
8	90	大波状口縁。沈線。列点。	①細粒②にぶい黄色③口縁部	称名寺2	周礫部	
9	75	沈線。	①中粒・白色鉱物②にぶい黄褐色③口縁部	称名寺2	周礫部	
10	54・119	沈線。	①中粒②にぶい黄褐色③口縁部	称名寺2	周礫部	
11	雑	横位の沈線。5～6本単位の条線。	①中粒②淡黄色③口縁部	称名寺？	—	
12	162	細い平行沈線と垂下する4本以上の沈線。	①細粒②にぶい褐色③口縁部	堀之内1	周礫部	
13	131	沈線。縄文LR。	①細粒②黒色③胴部	称名寺1	住外	
14	110	横方向の沈線。縄文LR。	①細粒②にぶい黄橙色③胴部	称名寺1	周礫部	
15	雑	沈線区画。縄文LR。	①中粒②橙色③胴部	称名寺	—	
16	113	沈線区画。縄文RL。	①細粒②淡黄色③胴部	称名寺1	周礫部	
17	52	沈線区画。縄文LR。	①細粒②淡黄色③胴部	称名寺1	周礫部	
18	10	隆帯と刻み。円形刺突。細く浅い沈線と縄文LR。	①細粒②にぶい黄橙色③胴部	堀之内1	＋20	
19	雑	太い沈線と列点。	①中粒②淡黄色③胴部	称名寺2	—	
20	16	沈線。	①中粒②浅黄橙色③胴部	称名寺2	周礫部	
21	116	太い沈線。	①中粒②浅黄橙色③胴部	称名寺2	土坑内	
22	5	胴部のくびれた横方向の3条の沈線。その上下に沈線文。	①細粒②浅黄橙色③胴部	称名寺2	＋12	
23	140	沈線。縄文LR。縄文地が主体で、施文方向が不規則。	①中粒②淡黄色③胴部	称名寺1加E4	住外	
24	120・127・129	沈線による文様構成。縄文LRが充填される。	①細粒②橙色③胴部	堀之内1	住外・周礫部・土坑内	
25	149	不規則な太さの沈線によってJ字文を基調とする。文様構成は不規則。	①中粒②黄橙色③½	称名寺2	炉内	
26	49	無文部。斜め方向の磨き。口縁内側に縁がつく。	①中粒②橙色③口縁部	称名寺2	住居北側	
27	38・102・152	無文部。縦方向の磨き。	①中粒②橙色③胴部	称名寺2	北西周礫部	
28	117	隆帯と太い刻み。	①粗粒②橙色③胴部	中～後期	＋58	
29	2	C字状の沈線と刺突。2方向からの円孔。口縁内側に縁がつく。	①細粒②淡黄色③把手	称名寺2	＋7	
30	160	把手。内側にC字文。円孔。	①細粒②浅黄色③把手	称名寺2	周礫部	
31	雑	円孔を2つ有する把手。沈線。	①中粒②にぶい橙色③把手	称名寺2	—	
32	45	遺物不明			周礫部	

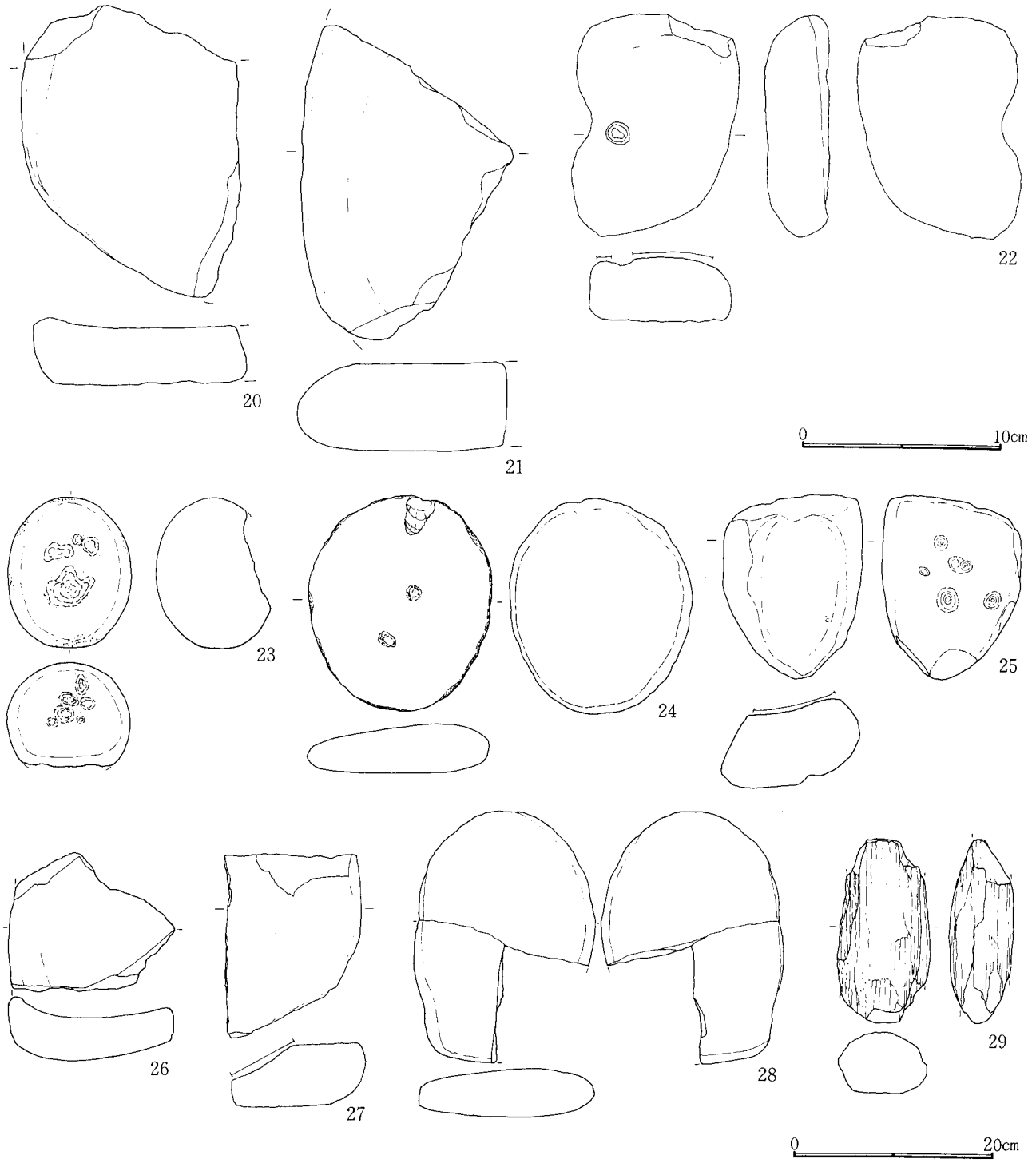
番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
33	3	沈線内に円形刺突。	①細粒②灰黄色③蓋	後期	−13	
34	126	土版あるいは土錘か。4面に沈線による文様。	①細粒②橙色③土版あるいは土錘	後期	+15	



図−93　J10号住居跡出土石器（1）



図－94　J10号住居跡出土石器（2）



図－95　J10号住居跡出土石器（３）

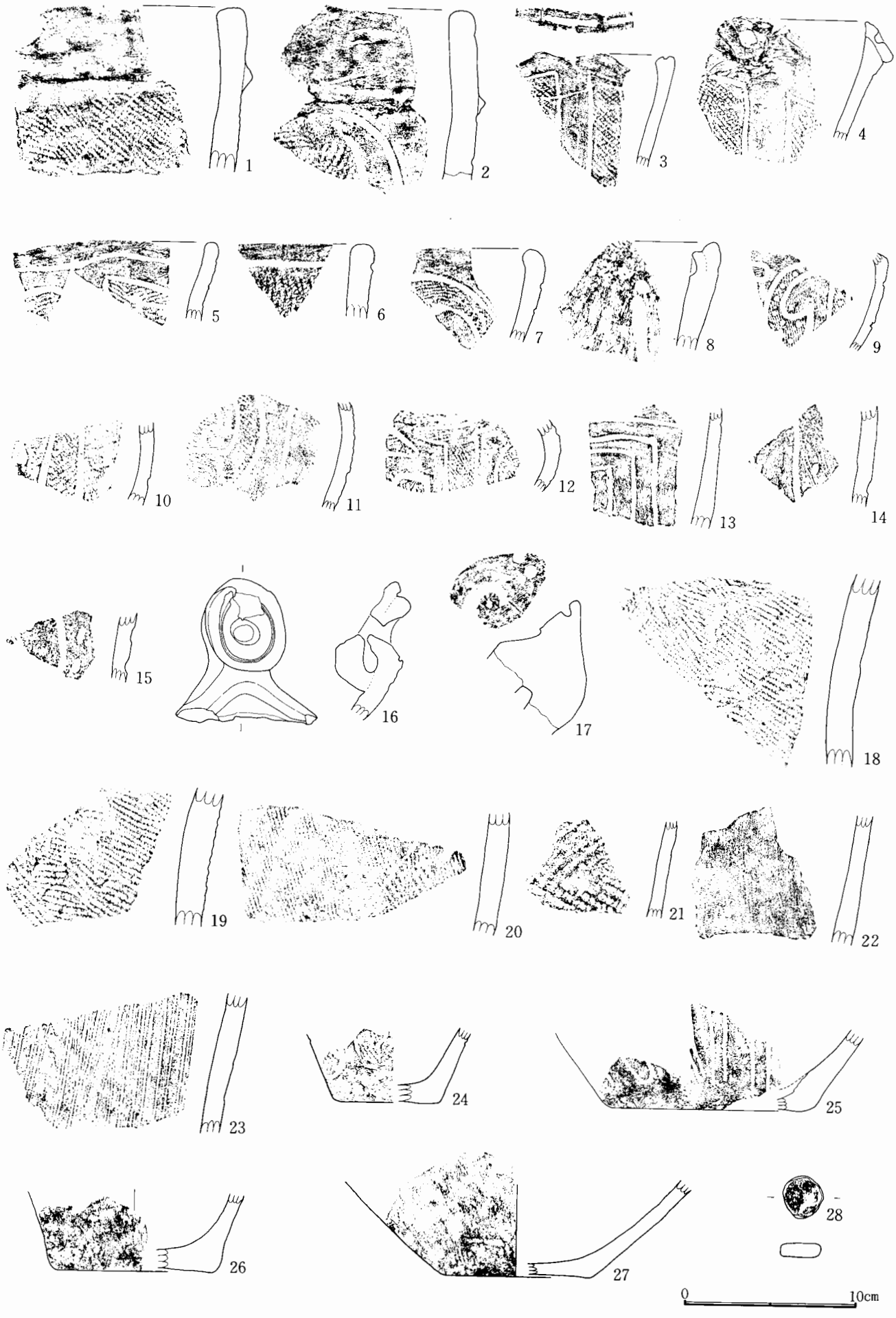
表－29　J10号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	32	打製石斧	11.0	5.0	1.2	61	黒頁	45	—	—	—	—	—	—	撥形 +35
2	8	〃	(9.2)	6.9	2.0	130	黒安	45	—	—	欠	滅2	潰	潰	分銅形・基部欠・土抗内
3	74	〃	(8.3)	8.1	2.3	179	〃	70	—	—	欠	—	潰	—	分銅形・基部欠 +16
4	51	〃	14.2	8.0	3.8	340	黒頁	70	—	—	—	—	—	—	住外
5	31	凸刃削器	7.5	9.6	3.9	240	〃	75	—	—	—	—	—	—	+36
6	28	凸刃石器	7.6	7.5	2.4	120	〃	60	—	—	—	—	—	—	+19

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
7	144	円礫石器	9.7	8.5	5.0	635	安	—	凹→擦2	凹→擦2	敲1→擦2	敲1→擦2	敲1→擦2	敲1→擦2	火→凹・敲→擦 P_2内
8	96	〃	11.8	7.7	4.5	625	〃	—	凹→擦1	凹→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	周礫部
9	99	〃	8.3	7.7	5.7	455	花	—	擦3→敲3	敲3	敲3	敲3	敲3	敲3	周礫部
10	61	〃	10.0	8.4	4.3	550	安	—	凹→擦2	凹→擦2	敲3	敲3→擦1	敲1	敲1	周礫部
11	雑	〃	(7.8)	(7.0)	(3.2)	248	頁	—	敲2	欠	—	—	—	—	覆
12	157	〃	8.5	7.2	6.8	542	花	—	擦3	擦2→敲2	擦2→敲2	擦2→敲2	擦2→敲2	擦2→敲2	周礫部
13	30	〃	(8.9)	8.4	3.7	394	〃	—	擦2	—	欠	敲2	敲1	敲1	位置不
14	124	〃	9.8	8.3	5.0	636	安	—	凹→擦1	凹→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	＋7
15	126	円礫石器	(9.5)	7.1	3.5	370	安	—	敲2	—	敲1	欠	—	敲1	＋15
16	12	〃	9.8	9.2	7.4	900	花	—	敲2→擦2	擦2	擦2	擦2	擦2	擦2	＋51
17	138	〃	16.0	9.0	3.8	745	安	—	敲2	—	敲1	敲3	敲3	敲3	土抗内
18	57	〃	11.5	10.0	8.2	1,260	〃	—	擦2→敲3	擦2	擦2→敲3	擦2→敲3	擦2→敲3	擦2→敲3	擦→火→敲＋42
19	95	石皿	(8.2)	(8.2)	(4.8)	365	〃	—	擦2	欠	欠	欠	擦2	欠	若干火→破損・周礫部
20	—	〃	(14.6)	(10.8)	3.6	650	〃	—	擦2	—	—	—	—	—	位置不
21	50	〃	(15.5)	10.5	4.5	785	〃	—	擦1	—	—	—	—	—	住外
22	33	凹石	11.0	8.2	3.2	360	〃	—	凹1→擦1	—	—	—	—	—	炉内
23	137	円礫石器	14.8	12.3	11.5	2,900	〃	—	敲2→擦1	欠	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	土抗内
24	70	〃	20.9	18.1	4.8	2,450	〃	—	凹2	—	—	—	—	—	周礫部
25	85	石皿＋多凹石	18.2	14.0	8.2	2,100	〃	—	擦1	凹3	—	—	—	—	住外
26	107	石皿	(13.8)	(16.5)	6.4	1,260	〃	—	擦1	—	欠	欠	—	欠	周礫部
27	143	〃	(18.3)	(13.6)	6.3	2,100	〃	—	擦1	—	—	—	—	—	住外
28	83	〃	24.9	18.2	4.8	2,240	〃	—	擦1	擦1	—	—	—	—	欠 住外
29	100	石棒	(18.3)	9.2	6.4	1,500	緑片	—	敲	敲	欠	欠	敲	敲	周礫部

表－30　J 10号住居跡石器器種・石材別一覧表

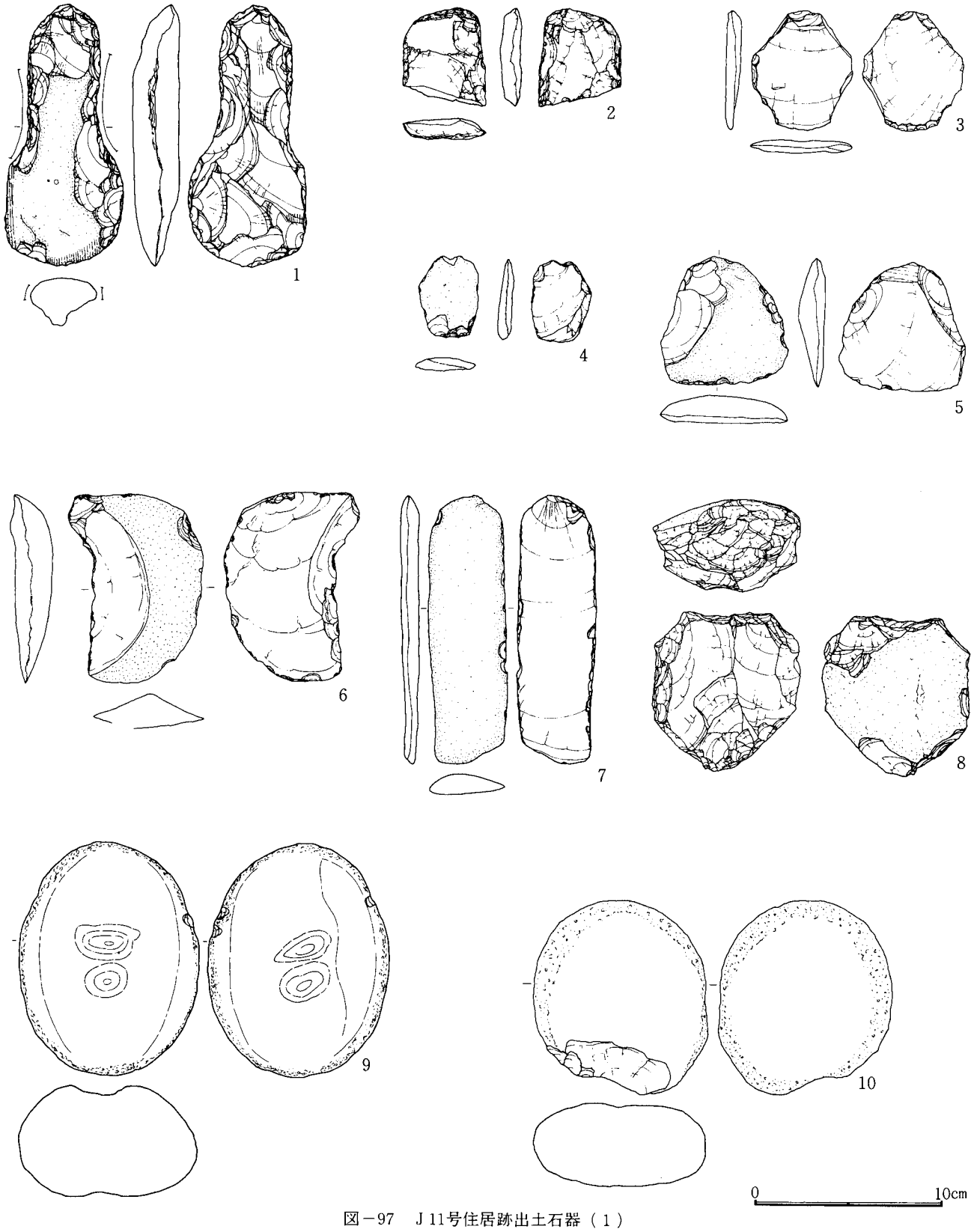
器種／石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		2								2																			35		1		40
頁岩																						1											1
黒色安山岩		2																											11				13
石英安山岩																															1		1
安山岩																						9			7		1				11		28
花崗岩																						4											4
緑泥片岩																							1						1				2
計		4								2												14	1		7		1		47		13		89



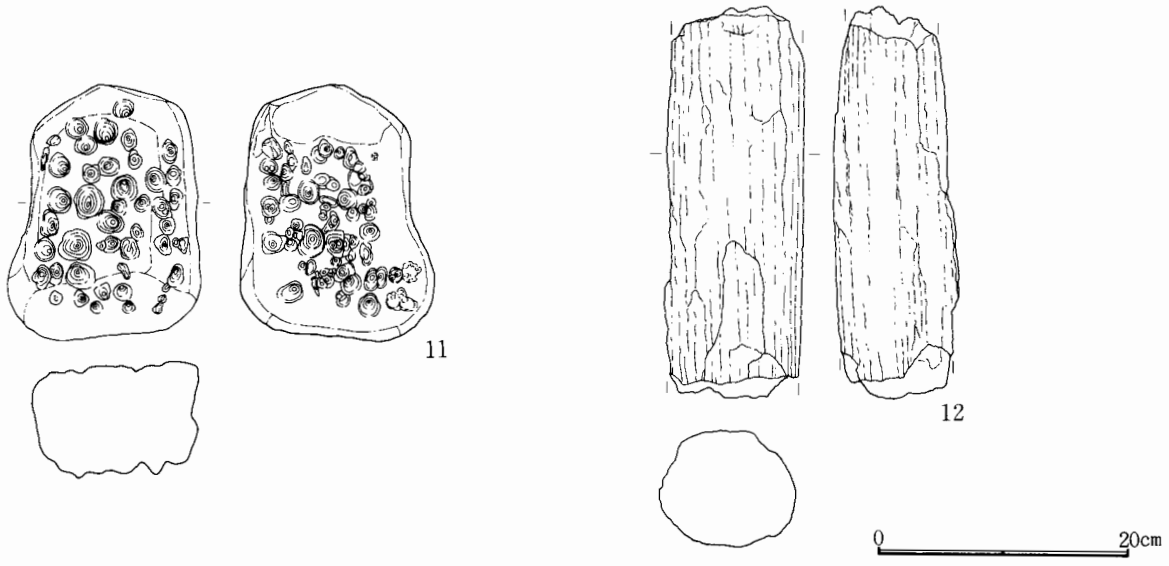
図－96　J 11号住居跡出土土器

表－31　J11号住居跡出土土器観察表（図－96　図版－81）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　　考
1	44	横方向の微隆起。縄文ＬＲ。	①中粒②浅黄橙色③口縁部	加曽利Ｅ4	東周礫内	
2	2	微隆起により口縁部無文帯が形成。縄文ＲＬを貫入して沈線区画の文様が入る。	①中粒②にぶい黄橙色③口縁部	加曽利Ｅ4	＋9	
3	17	口唇部に刺突の連結沈線。沈線区画と縄文ＬＲ。	①細粒②にぶい黄橙色③口縁部	称名寺1	南東周礫内	
4	15	円形刺突とＣ字状の突起。沈線区画と縄文ＬＲ。	①細粒②淡黄色③口縁部	称名寺1	東南周礫内	
5	10・11	沈線区画によりＹ字文と縄文Ｌ。	①細粒②淡黄色③口縁部	称名寺1	東南周礫内	
6	13	沈線区画。縄文ＲＬ。	①中粒②浅黄橙色③口縁部	称名寺1	＋5	
7	雑	沈線区画による縄文ＲＬ。	①細粒②黒褐色③口縁部	称名寺1	—	
8	5	大波状口縁。隆帯上にはＣ字状の連結刺突の沈線。内側にも円形刺突がつく。	①中粒②橙色③口縁部	称名寺	床直	
9	雑	沈線区画。縄文ＬＲ。施文後、円形刺突。	①細粒②浅黄色③口縁部	称名寺1	—	
10	29	刻みのある隆帯。沈線区画。縄文ＲＬ。	①中粒②橙色③胴部	称名寺1	住外	
11	雑	沈線区画。縄文ＬＲ。	①中粒②灰褐色③胴部	称名寺1	—	
12	9	沈線区画。縄文ＬＲ。	①中粒・白色鉱物②にぶい黄橙色③胴部	称名寺1	P_3内	
13	14	沈線。沈線重ね。	①細粒②にぶい黄橙色③胴部	堀之内1	東南周礫内	
14	16	沈線区画をし、擦痕と磨きを交互に配する。擦痕部に列点。	①中粒・白色鉱物②褐灰色③胴部	称名寺2	＋8	
15	17	沈線。列点。	①中粒・白色鉱物②浅黄色③胴部	称名寺2	南東周礫内	
16	51	大波状口縁。把手。円孔の回りに刺突と沈線。胴部は沈線区画。	①中粒②淡黄色③把手	称名寺2	＋22	
17	6	把手。刺突が2ケ所に付けられる。渦巻きの沈線。	①細粒②浅黄色③把手	称名寺	床直	
18	44	縄文ＬＲ。	①中粒②にぶい黄橙色③胴部	加曽利Ｅ4	東周礫内	
19	13・14	縄文ＬＲ。	①中粒②にぶい黄橙色③胴部	加曽利Ｅ4	東周礫上	
20	14・45	縄文ＬＲ。	①中粒②浅黄橙色③胴部	加曽利Ｅ4	東周礫内	
21	29	羽状縄文。縄文ＬＲ。	①繊維・砂粒②にぶい橙色③胴部	黒浜	住外	
22	19	無文部。縦方向の磨き。	①中粒②明黄褐色③胴部	—	標高不	
23	7	縦方向の条線。	①中粒・白色鉱物②にぶい黄橙色③胴部	加曽利Ｅ4	南東周礫内	
24	13	沈線。縄文ＬＲ。	①中粒・白色鉱物②橙色③底部	称名寺1	東周礫内	
25	44・54	沈線区画。	①中粒②浅黄色③底部	称名寺2	東周礫内北周礫内	
26	45	無文部。	①粗粒②浅黄色③底部		東周礫内	
27	56	細い沈線。	①中粒・白色鉱物②にぶい黄色③底部	称名寺	＋8	
28	雑	土製円盤。沈線。側面研磨が行き届いている。	①中粒②明赤褐色③土製円盤。	称名寺2	—	



図－97　J 11号住居跡出土石器（１）



図－98　Ｊ11号住居跡出土石器（２）

表－32　Ｊ11号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	雑	打製石斧	13.8	6.2	2.5	230	黒頁	45	—	—	—	滅3	潰	潰	覆
2	雑	〃	(5.3)	4.4	1.2	31	〃	—	—	—	欠	—	—	—	刃部欠 覆
3	20	楔形石器	6.4	5.4	0.8	32	黒安	20	—	—	—	—	—	—	標高不
4	雑	〃	4.2	3.2	0.8	11	黒頁	60	—	—	—	—	—	—	覆
5	18	U F	6.9	7.0	1.4	65	〃	30	—	—	—	刃・滅1	—	—	住外
6	21	〃	10.0	7.1	1.8	140	〃	45	—	—	—	—	—	—	+11
7	14	〃	14.2	4.2	1.0	85	黒安	30 50	—	—	—	刃・滅1	刃・滅1	刃・滅1	東側周礫内
8	21	石核	8.5	7.8	4.9	400	黒頁	—	—	—	—	—	—	—	+11
9	8	円礫石器	12.4	9.5	5.7	850	安	—	凹2	凹2	敲1	敲1	敲2	敲2	敲→火→凹 +10
10	4	〃	10.3	9.3	4.4	500	〃	—	擦1	擦1	敲1 →擦1	擦1 →敲3	敲1 →擦1	敲1 →擦1	敲1→擦1→敲3　周礫上
11	3	多凹石	19.8	15.6	9.0	3,800	〃	—	凹3	凹3	—	—	—	—	－5
12	1	石棒	(30.8)	10.8	10.0	5,550	緑片	—	—	—	欠	欠	—	—	欠 東側周礫上

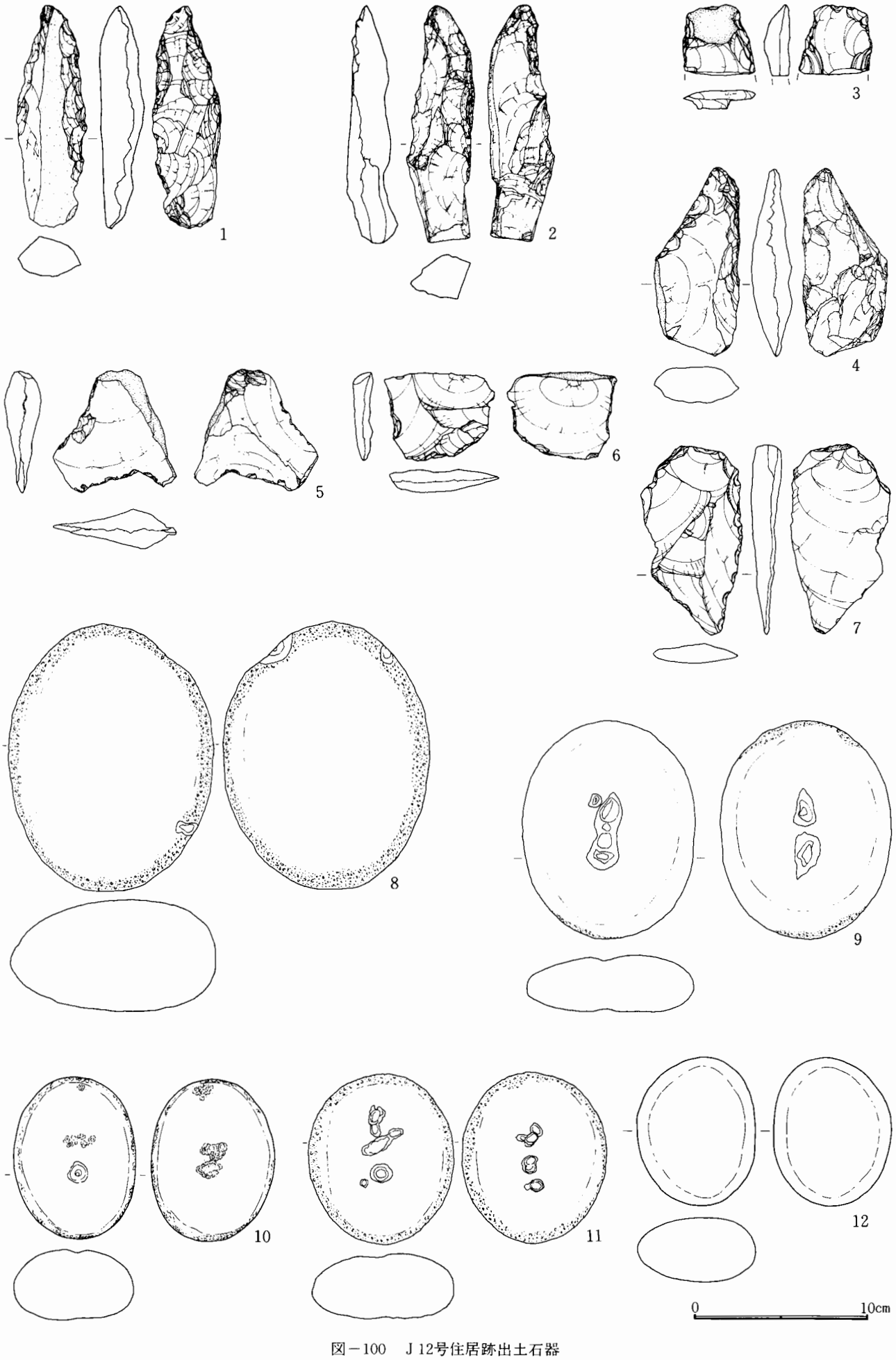
表－33　Ｊ11号住居跡石器器種・石材別一覧表

石材＼器種	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		2														1			2										28	1			34
黒色安山岩																1			1										10				12
安山岩																						2				1					4		7
黒曜石																													1				1
緑泥片岩																							1						5				6
その他																															1		1
計		2														2			3			2	1			1			44	1	5		61

図－99　J12号住居跡出土土器

表—34　J12号住居跡出土土器観察表（図—99　図版—81・82）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　　考
1	7	全面太いＲの斜縄文。緩い波状口縁。口縁端内削。	①繊維②にぶい橙色③口縁部	黒浜	＋31	
2	17	全面Ｌの斜縄文。開きぎみに立つ平口縁、口縁端内削。	①繊維②にぶい橙色③ほぼ完形	黒浜	＋25	
3	雑	Ｒ・Ｌの羽状縄文。	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	—	
4	雑	Ｌの斜縄文。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	—	
5	22	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	＋23	
6	雑	ＲＬの斜縄文。平口縁。口縁端刻列。	①繊維②浅黄橙色③口縁部	黒浜	—	
7	22	ＬＲの斜縄文。	①繊維②にぶい黄橙色③胴部	黒浜	＋23	
8	17	ＲＬの斜縄文。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	＋31	
9	雑	ＲＬの斜縄文。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	—	
10	雑	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。	①繊維②浅黄橙色③胴部	黒浜	—	
11	11	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文（不鮮明）。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	＋11	
12	17	ＲＬの斜縄文。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	＋34	
13	17	ＬＲの斜縄文。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	＋25	
14	17	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。	①繊維②明赤褐色③胴部	黒浜	＋30	
15	5・10	Ｒ・Ｌの羽状縄文。平行沈線による菱形構成。波状口縁。口縁端内削。	①繊維②橙色③口縁部	黒浜	＋13 ＋14	16・17と同一個体
16	5	Ｒ・Ｌの羽状縄文。平行沈線による菱形構成。波状口縁。口縁端内削。	①繊維②にぶい橙色③口縁部	黒浜	＋25	
17	1・10	Ｒ・Ｌの羽状縄文。平行沈線。	①繊維②にぶい褐色③胴部	黒浜	＋33 ＋14	
18	雑	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	—	
19	雑	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。若干上げ底。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	—	
20	雑	大波状口縁。口唇部に刺突、沈線。胴部には沈線、縄文ＬＲ。口縁部内側に縁が付く。	①細粒②淡黄色③口縁部	称名寺1	—	
21	雑	沈線。縄文ＲＬ。口縁部内側に縁が付く。	①細粒②淡黄色③口縁部	称名寺1	—	
22	雑	沈線。縄文ＬＲ。口縁部内側に縁が付く。	①中粒②橙色③口縁部	称名寺1	—	
23	雑	Ｃ字形爪形刺突列入り平行沈線。	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	—	



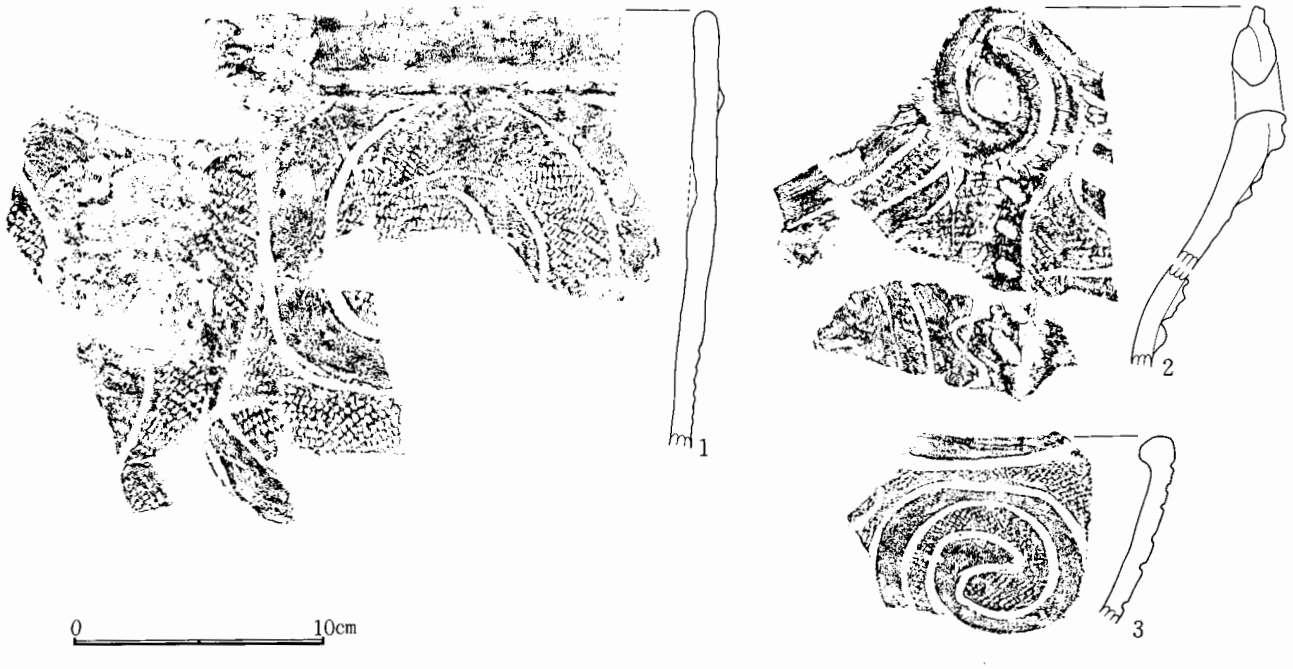
図－100　J 12号住居跡出土石器

表－35　J12号住居跡出土石器属性表

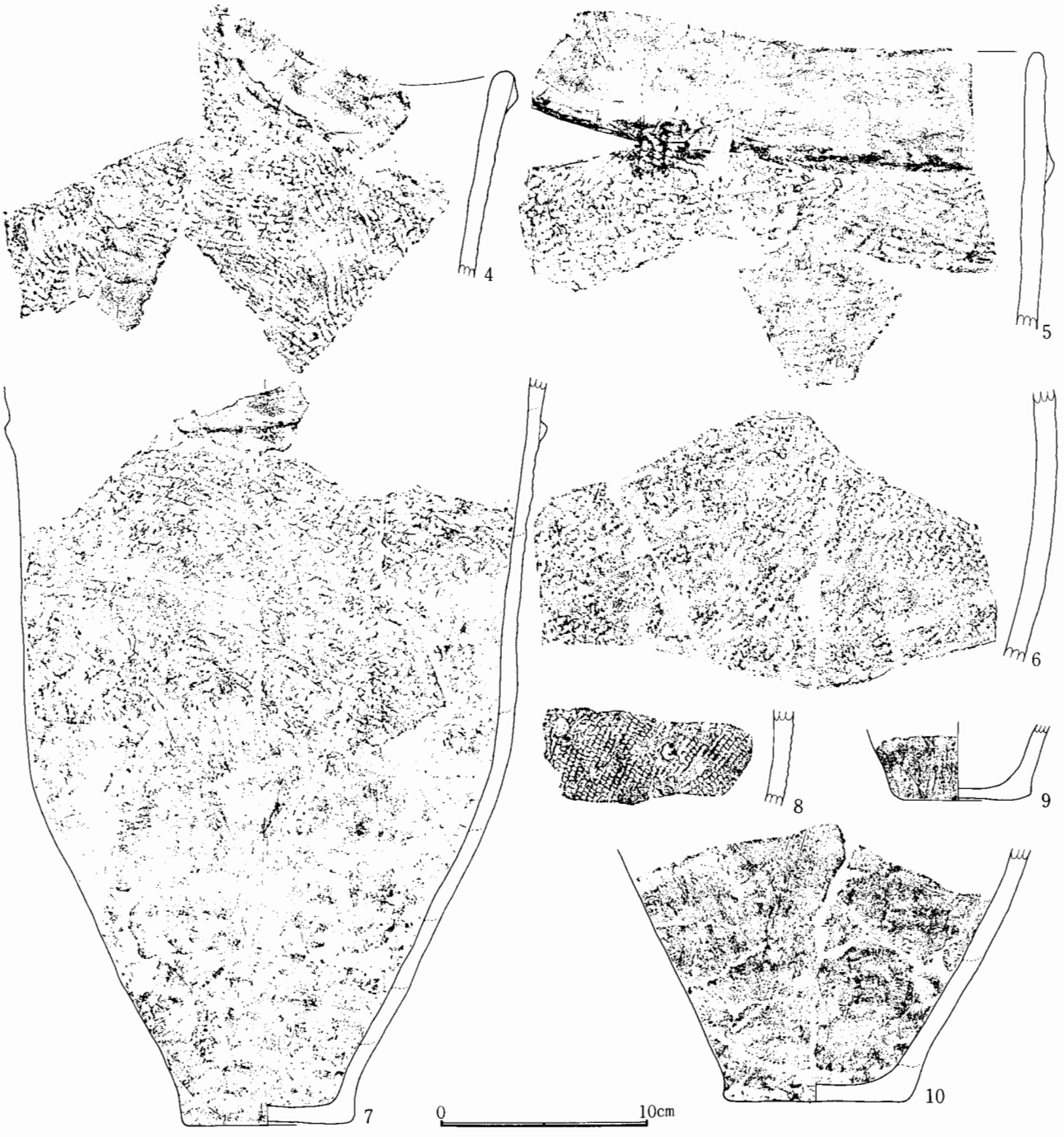
No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	3	尖頭器	12.6	4.0	2.7	125	黒頁	—	—	—	—	—	—	—	+24
2	24	〃	13.4	3.9	3.0	138	〃	—	—	—	—	滅1	—	—	+36
3	雑	打製石斧	(4.0)	4.2	1.5	29	〃	—	—	—	—	—	—	—	刃部欠 覆
4	雑	交刃削器	10.7	4.9	2.3	117	黒頁	—	—	—	—	滅1	—	—	覆
5	雑	U F	6.8	7.1	2.2	70	〃	30	—	—	—	滅1	—	—	覆
6	19	〃	4.9	6.3	1.2	35	〃	30	—	—	—	—	—	—	+7
7	雑	凸刃削器	10.8	5.7	1.7	89	〃	40	—	—	—	—	—	—	覆
8	27	円礫石器	15.2	11.8	6.4	1,550	花	—	擦2	擦2	敲2	敲2	敲2	敲2 →擦2	敲→擦 +27
9	23	〃	12.4	9.7	3.2	595	安	—	火→凹2→ 擦2	火→凹2→ 擦2	火 →敲1	火 →敲1	火	火	火→凹→敲・擦 +21
10	6	〃	9.2	7.0	4.1	350	〃	—	擦1→凹1 ・敲1	擦1→凹2	—	敲1	擦1	擦1	+26
11	雑	〃	9.8	8.3	3.8	408	〃	—	擦1→凹3	擦1→凹3	敲1	敲1	敲1	敲1	擦→敲・凹 覆
12	6	〃	8.5	6.8	3.7	320	〃	—	擦2	擦1	—	—	—	—	+26

表－36　J12号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		1			2					1		1							2										21				28
黒色安山岩																													4				4
安山岩																						4											4
花崗岩																						1											1
計		1			2					1		1							2			5							25				37



図－101　J13号住居跡出土土器（1）

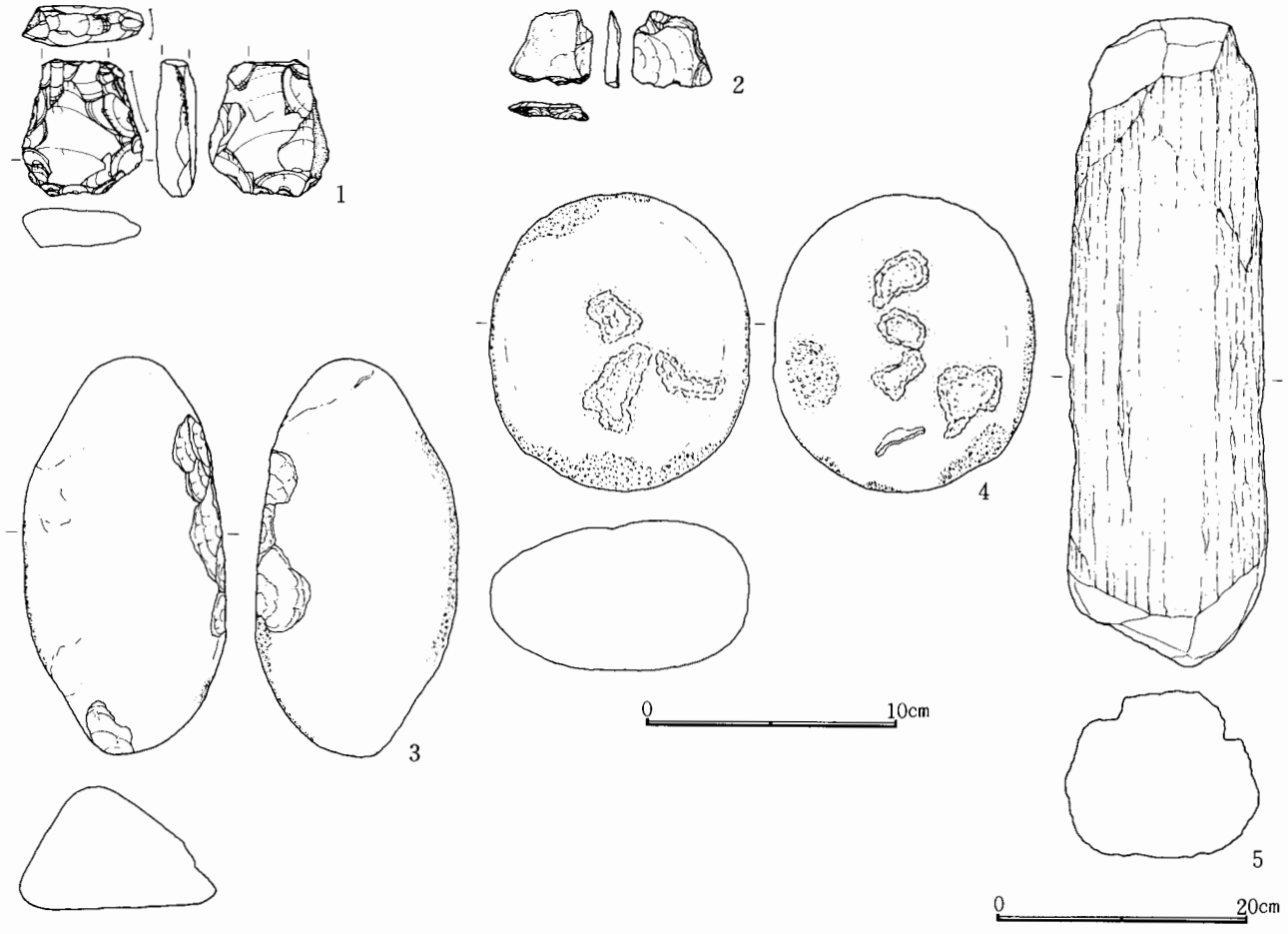


図－102　J13号住居跡出土土器（２）

表－37　J13号住居跡出土土器観察表（図－101・102　図版－82・83）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　　考
1	3	微隆起区画による口縁部無文帯。胴部には沈線区画の渦巻き状Ｊ字文が縄文ＬＲを貫入する形で形成。	①中粒②浅黄橙色③口縁部	加曽利Ｅ４	＋８	
2	3・8	大波状口縁。突起にはＣ字状や円孔が施文。隆帯には刻みが入り、文様は沈線区画で描出。縄文ＬＲが施文。	①中粒②にぶい橙色③口縁部	称名寺１	＋26 ＋27	
3	5	小波状口縁。Ｓ字文。沈線区画。縄文ＬＲ。口縁部内面に縁が付く。	①中粒②灰黄褐色③口縁部	称名寺１	＋３	
4	1・8・9	微隆起区画によってやや波状をなす口縁部無文帯。縄文ＬＲは上部では異方向の施文。	①中粒②にぶい黄褐色③口縁部	加曽利Ｅ４	＋７＋17 ＋12	

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
5	3・7	微隆起区画による口縁部無文帯。微隆起には瘤。縄文LRは上部で異方向施文。	①中粒②淡黄色③口縁部	加曽利E4	＋8 ＋17	
6	5・6	5と同一個体。縄文LR。	①中粒②淡黄色③胴部	加曽利E4	＋3 ＋35	5と同一個体
7	11	隆帯によって口縁部無文帯構成。胴部には縄文LRが施文。	①中粒・白色鉱物②灰白色 ⅕	加曽利E4	埋甕	
8	3	縄文LR。	①中粒②灰黄褐色③胴部	加曽利E4	＋18	
9	16	無文部。	①中粒②橙色③底部	—	＋26	
10	13	無文部。	①中粒②にぶい橙色③底部	—	＋21	



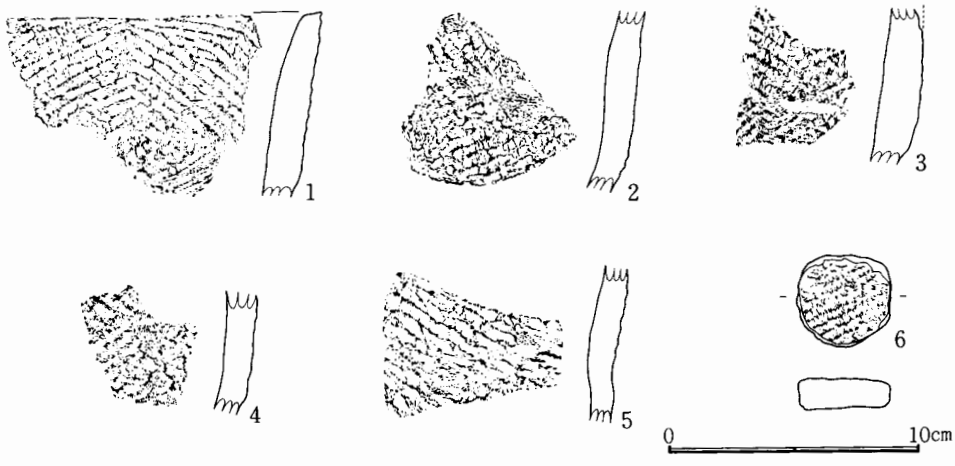
図－103　J13号住居跡出土石器

表－38　J13号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	雑	打製石斧	5.5	4.7	1.6	55	黒頁	50	—	—	—	潰	潰	潰	覆
2	22	鋸歯縁石器	3.2	3.6	0.7	7	〃	70	—	—	—	—	—	—	北東壁立上り
3	10	両刃礫器	8.0	15.7	4.8	850	安	55	—	—	敲1	潰	—	—	＋12
4	21	円礫石器	11.7	10.4	16.9	1,150	〃	—	凹3→擦2	凹3→擦2	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	P_{22}内
5	4	石棒	(51.4)	(16.2)	(13.4)	1,350	緑片	—	—	—	—	—	—	—	全体風化強 ＋28

表－39　J13号住居跡石器器種・石材別一覧表

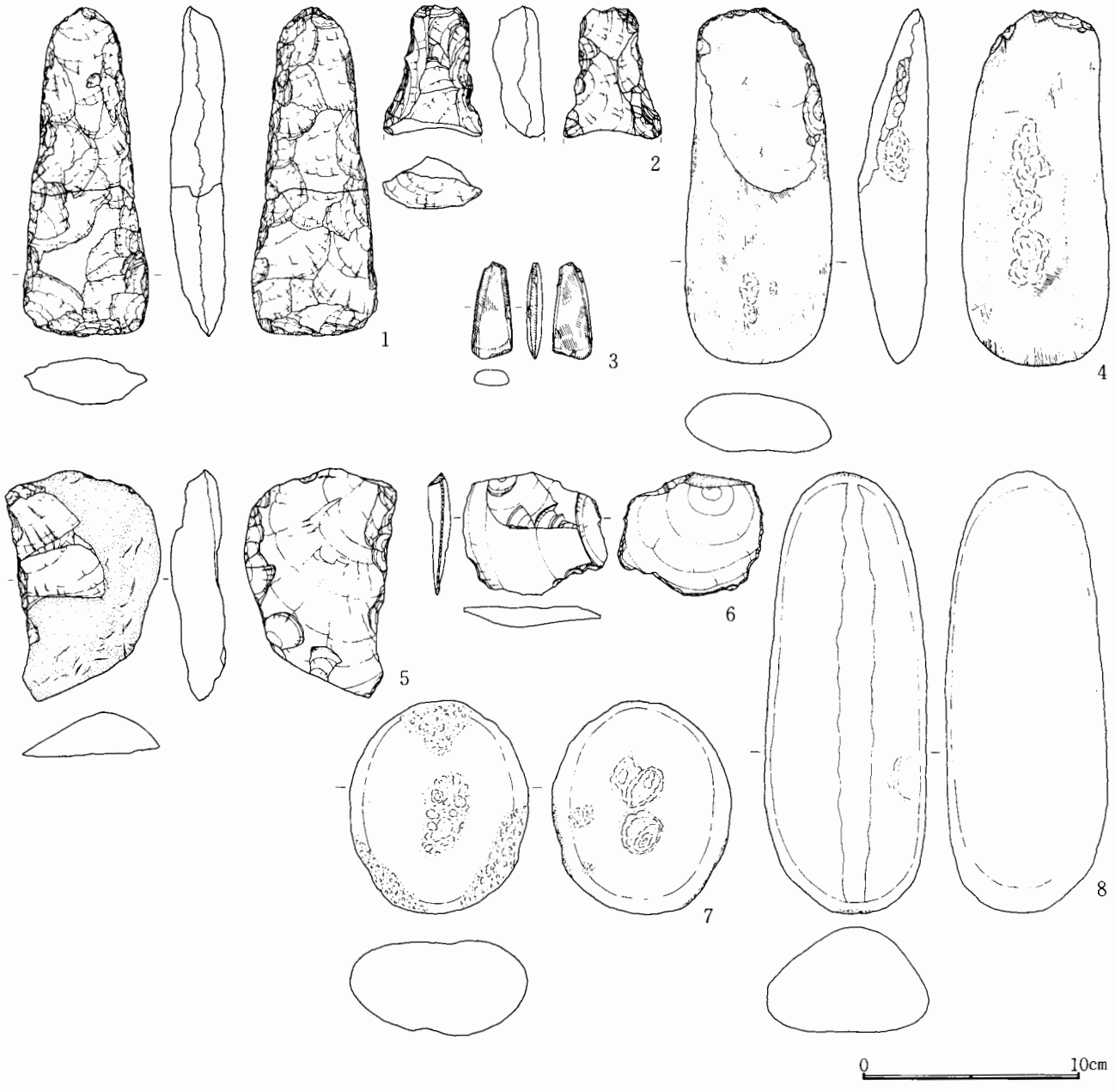
器種／石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		1												1															7				9
黒色安山岩																													2				2
安山岩																	1					1									4		6
黒曜石																													1				1
珪　岩																													1				1
緑泥片岩																							1										1
結晶片岩																															1		1
砂　岩																															1		1
計		1												1			1					1	1						11		6		22



図－104　J14号住居跡出土土器

表－40　J14号住居跡出土土器観察表（図－104　図版－82）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	4	R・L羽状縄文。平口縁。口縁端内削。	①繊維②明黄褐色③口縁部	黒浜	+32	
2	雑	RL・LRの羽状縄文。	①繊維②明赤褐色③胴部	黒浜	—	
3	雑	R・Lの羽状縄文。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	—	
4	19	RL・LR（?）の羽状縄文。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	周溝内	
5	21	Rの斜縄文。	①繊維②明黄褐色③胴部	黒浜	位置不	
6	15	Rの斜縄文。土器片転用円盤。	①繊維②にぶい黄橙色③完形	黒浜	周溝内	



図－105　Ｊ14号住居跡出土石器

表－41　Ｊ14号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	雑	打製石斧	15.2	5.7	2.5	245	安	60	—	—	—	滅・刃	—	—	覆
2	雑	〃	(6.0)	4.5	2.4	52	黒頁	—	—	—	—	—	—	—	覆
3	3	磨製石斧	4.5	1.8	0.7	10	蛇	45	擦3	擦3	—	刃・滅	擦3	擦3	－7
4	1	〃	16.4	6.7	3.2	545	緑色準片	65	敲2→擦3	敲2→擦3	擦3	擦3	擦3	擦3→敲2	周溝内
5	9	複刃削器	9.6	8.5	2.5	172	黒頁	45 60	—	—	—	—	—	—	＋2
6	19	U　F	5.7	6.7	1.0	30	〃	25	—	—	—	刃	刃	刃	周溝内
7	14	円礫石器	9.7	8.3	4.3	750	安	—	凹2→擦1	凹2→擦1	擦1	擦1	擦1→敲3	擦1→敲3	凹→擦→敲＋6
8	11	敲き石	20.3	7.4	4.7	1,150	〃	—	—	—	敲1	敲1	—	—	＋2

表－42　J14号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種／石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		1											1						1										20		1		24
安山岩		1																			1	1									3		6
蛇紋岩			1																														1
黒色片岩																													1				1
その他			1																														1
計		2	2										1						1		1	1							21		4		33

図－106　J15号住居跡出土土器

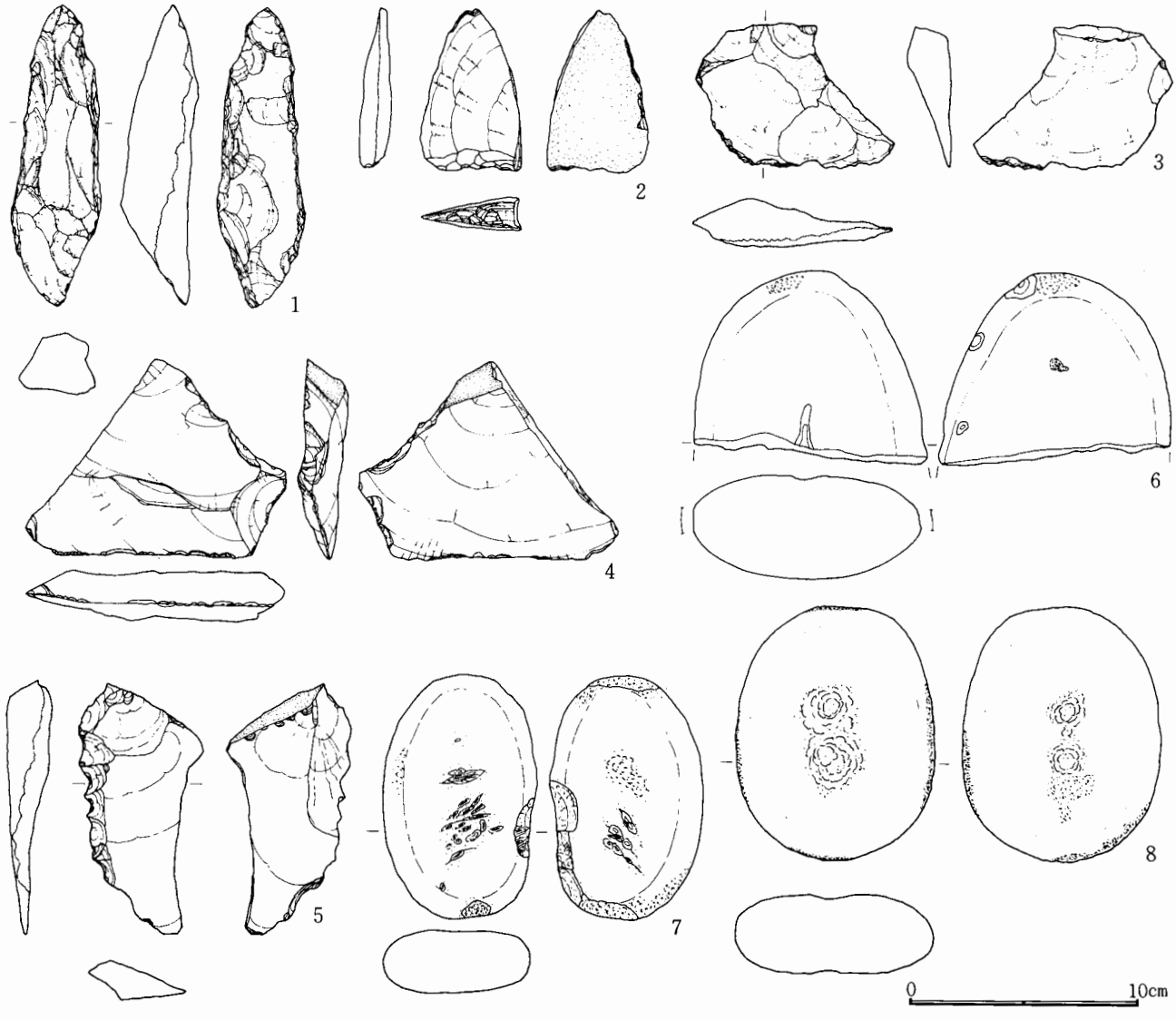
表－43　J15号住居跡出土土器観察表（図－106　図版－82・83）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	1	全面ＬＲの斜縄文。直線的に開く。平口縁。内面上位横、下位縦撫で。	①繊維②にぶい赤褐色③底部欠損	黒浜	埋甕	
2	雑	ＲＬ・ＬＲ羽状縄文。緩い波状口縁。	①繊維②明赤褐色③口縁部	黒浜	—	
3	1	横位平行沈線。棒状工具の刺突列。	①繊維②明赤褐色③口縁部	黒浜	埋甕	
4	1	全面撫で。土偶の一部？	①微細粒②にぶい橙色③土偶？	—	埋甕	

表－44　J15号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	3	尖頭器	13.1	3.9	3.3	158	黒頁	—	—	—	潰	—	潰	潰	＋6
2	雑	掻器	4.4	7.0	1.4	42.5	〃	60	—	—	—	—	—	—	覆
3	6	凸刃削器	6.3	8.7	2.1	69	〃	25	—	—	—	刃	—	—	＋9

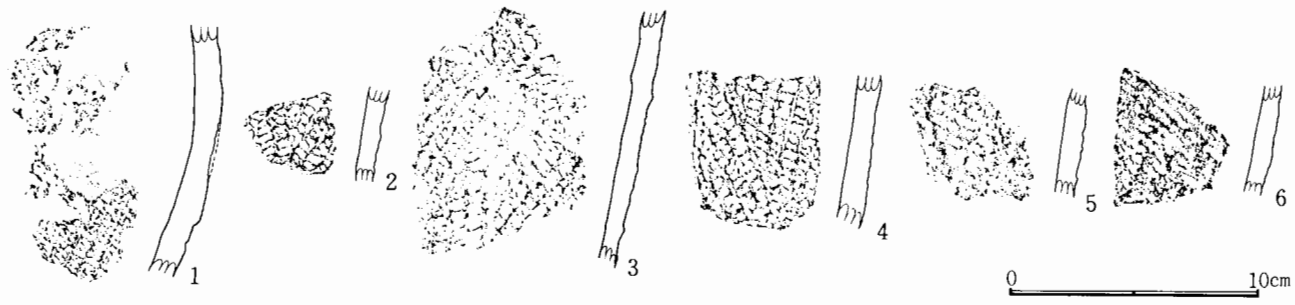
No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
4	10	U F	8.6	11.4	2.3	150	〃	35	—	—	—	—	—	—	+5
5	8	鋸歯縁石器	10.8	5.4	2.0	75	〃	70	—	—	—	—	—	—	床直
6	雑	円礫石器	(8.4)	10.2	4.5	535	安	—	凹1	敲1	敲1	欠	敲2	敲2	覆
7	4	円礫石器	10.6	6.8	2.8	305	安	—	敲3	敲3	敲2	敲2	—	敲3	+33
8	2	〃	11.1	8.7	3.4	597	〃	—	凹2→擦2	凹2→擦2	敲2	敲2	敲2	敲2	凹→擦→敲 床直



図－107　J15号住居跡出土石器

表－45　J15号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種／石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩					1		1			1				1					1														5
安山岩																						3										3
計					1		1			1				1					1			3										8



図－108　J16号住居跡出土土器

表－46　J16号住居跡出土土器観察表（図－108　図版－83）

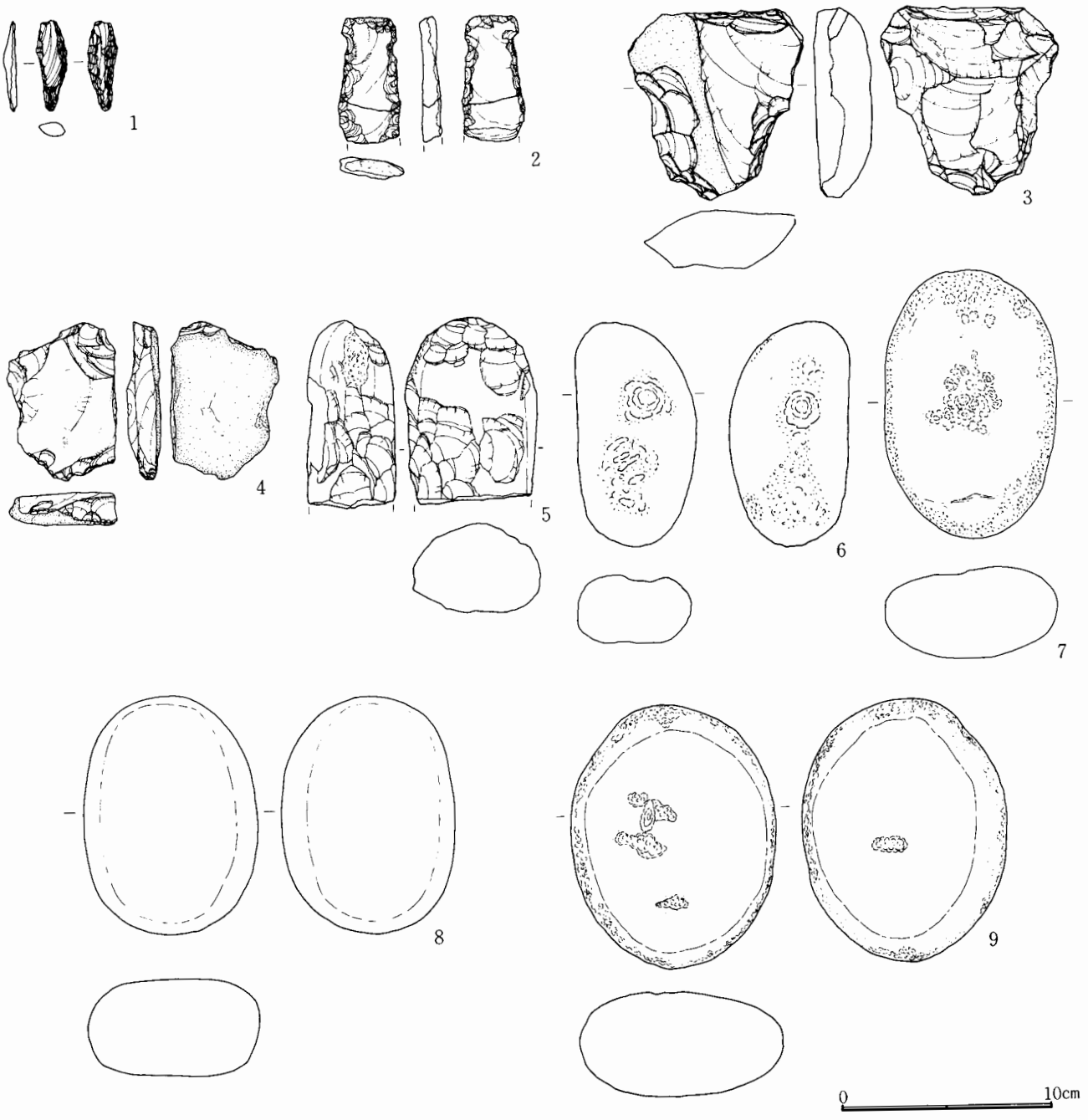
番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	3・6	LR（現状）荒れて不明確。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	+12 床直	
2	雑	RL・LRの不規則な羽状縄文。	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	—	
3	1	RL・LRの不規則な羽状縄文。	①繊維②褐色③胴部	黒浜	北壁面	
4	4	RL・LRの不規則な羽状縄文。	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	+9	
5	6	Lの斜縄文。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	床直	
6	雑	Lの斜縄文。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	—	

表－47　J16号住居跡出土石器属性表

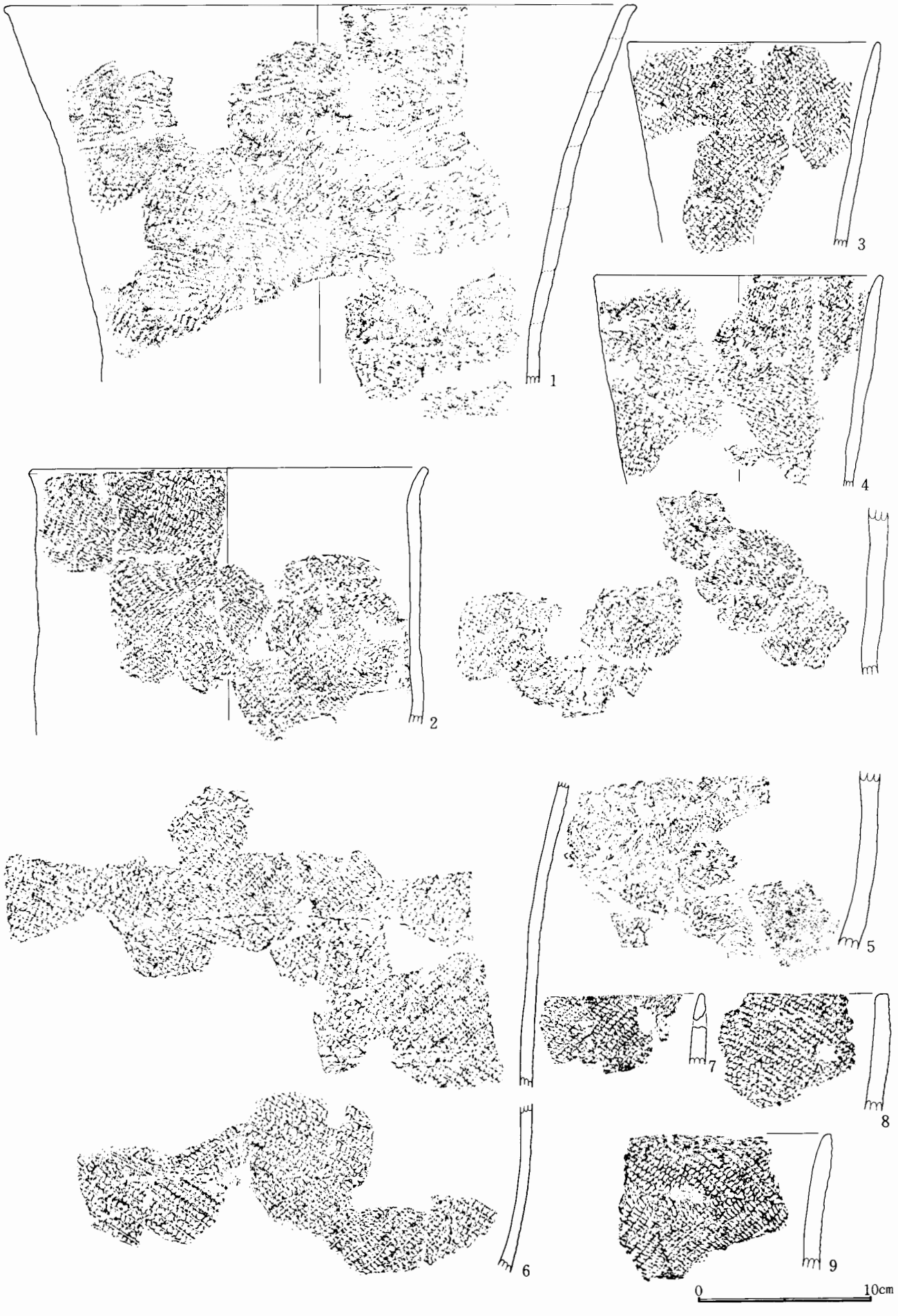
No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	雑	石錐	4.2	1.4	0.6	3.1	安	—	—	—	—	—	—	—	覆
2	8•11	石匙	(5.8)	3.0	0.9	19.5	黒頁	40	滅1	—	—	—	—	—	+10
3	11	R F	9.0	8.3	2.7	212	〃	—	—	—	—	—	—	—	+10
4	雑	掻器	5.3	7.5	1.6	85	〃	60	—	—	—	—	—	—	覆
5	雑	円礫石器	8.8	6.3	4.1	380	安	—	擦2→敲3	擦2→敲3	擦2→敲3	欠	擦2→敲3	擦2→敲3	覆
6	9	〃	10.3	5.6	3.3	254	〃	—	火→凹→擦1	凹→擦1	火→擦1	火→擦1	火→擦1	火→擦1	火→凹→擦+14
7	3	〃	12.6	8.2	4.3	700	〃	—	擦2→敲3	擦2→敲2	敲2	敲2	敲2	敲2	+10
8	13	〃	11.3	8.3	4.5	710	花	—	擦1	擦1	—	—	—	—	床直
9	12	〃	12.5	9.7	4.9	794	安	—	敲3→擦2	—	敲2	敲2	敲2	敲2	+10

表－48　J16号住居跡石器器種・石材別一覧表

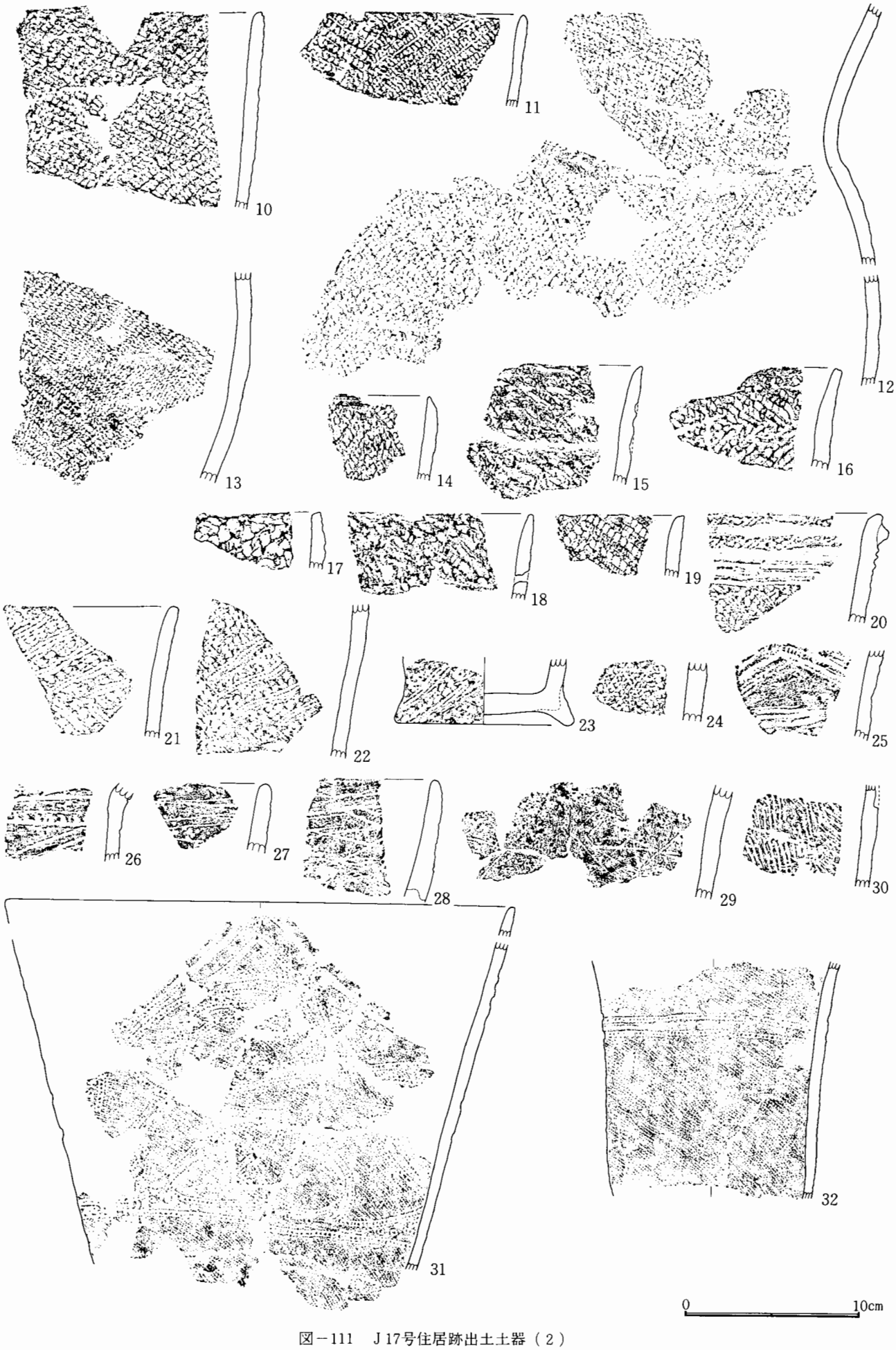
石材＼器種	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩						1	1											1											10				13
黒色安山岩																													3				3
安山岩				1																		4											5
花崗岩																						1											1
計				1		1	1											1				5							13				22



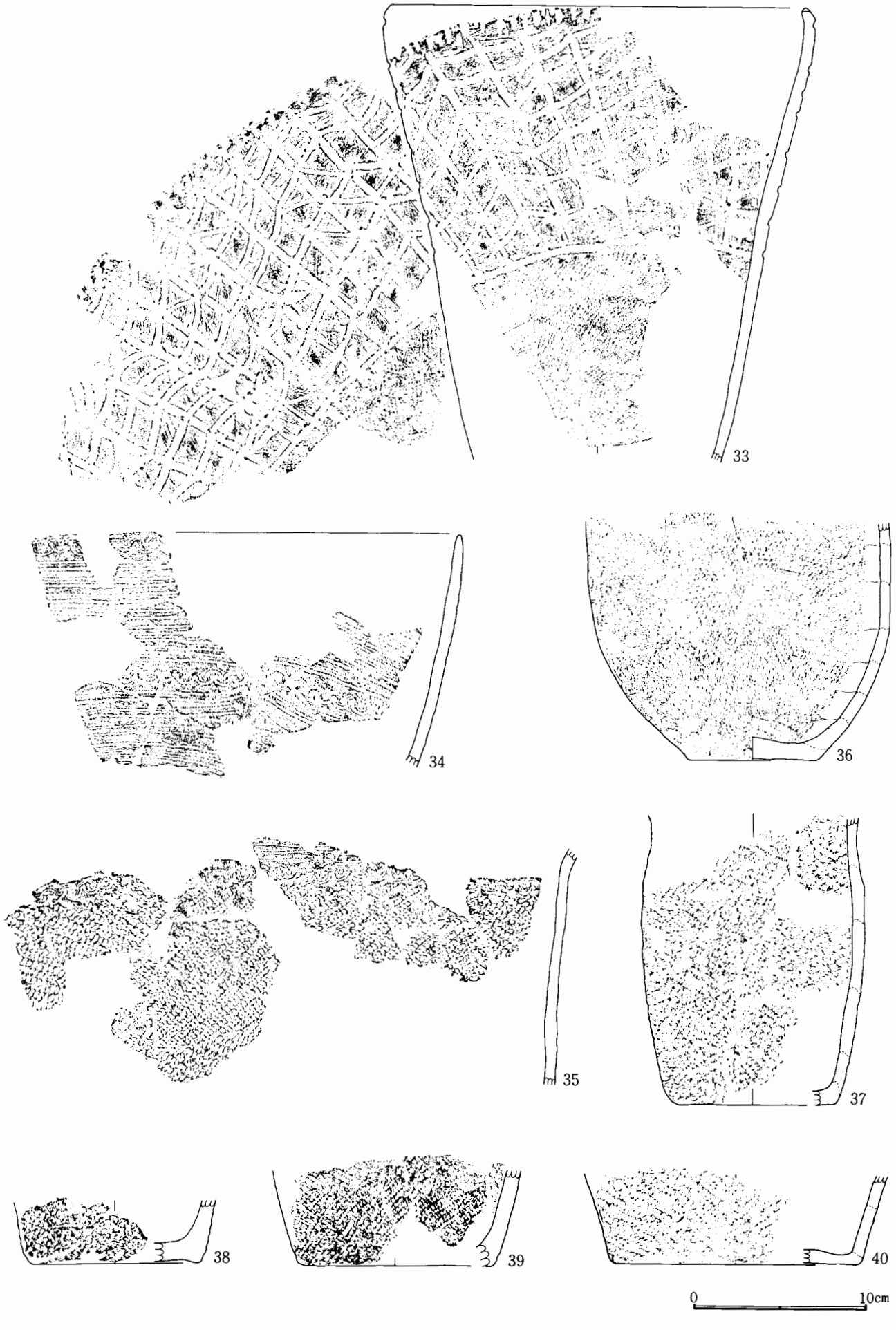
図－109　J 16号住居跡出土石器



図－110　J 17号住居跡出土土器（１）



図－111　J 17号住居跡出土土器（２）



図－112　J 17号住居跡出土土器（３）

表—49　J17号住居跡出土土器観察表（図—110・111・112　図版—83・84・85）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　　考
1	5・6・28	全面R・Lの羽状縄文。開きぎみに立つ。平口縁。口縁端内削ぎみ平。	①繊維②にぶい褐色③口縁部	黒浜	＋33 東壁上面	
2	70	全面RL・LRの羽状縄文。平口縁。	①繊維多②にぶい褐色 ③口縁部	黒浜	＋6	
3	32	全面RL・LRの羽状縄文（縦位方向施文）。平口縁。	①繊維多②にぶい橙色③口縁部	黒浜	＋20～ ＋26	
4	47	全面RL・LRの羽状縄文。平口縁。	①繊維②にぶい橙色③口縁部	黒浜	＋5	
5	28・40・50 76・96・98	付加条LR＋R・RL＋R（？）の羽状縄文。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	＋33　住外 ＋5＋11	床直
6	29・35・50 52・98	付加条LR＋L・RL＋Rの羽状縄文。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	東壁面＋13 床直　床直	
7	47	全面LRの斜縄文。平口縁。	①繊維②橙色③口縁部	黒浜	＋15	穿孔
8	雑	全面RLの斜縄文。平口縁。	①繊維②橙色③口縁部	黒浜	—	
9	61	全面RL・LRの羽状縄文。平口縁。	①繊維②にぶい橙色③口縁部	黒浜	＋15	
10	98	全面RL・LRの羽状縄文。平口縁。	①繊維②橙色③口縁部	黒浜	＋2～ ＋35	
11	ピット2	付加条LR＋R・RL＋Lの羽状縄文。平口縁。	①繊維②橙色③口縁部	黒浜	P_2内	
12	76・82・89・ 90	付加条LR＋R・RL＋Rの羽状縄文。	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	＋15＋17 ＋34	
13	98	O段多条RL・LRの羽状縄文。	①繊維②明黄褐色③胴部	黒浜	標高不	
14	50	全面LR（？）の斜縄文。口縁端外削。	①繊維②にぶい黄橙色③口縁部	黒浜	床直～ ＋7	
15	雑	全面Lの斜縄文。口縁端内削。	①繊維②にぶい橙色③口縁部	黒浜	—	
16	32	全面RL・LRの羽状縄文。	①繊維②にぶい黄橙色③口縁部	黒浜	＋20～ ＋26	
17	94・99	ループ（？）。平口縁。	①繊維②橙色③口縁部		＋7 ＋4	
18	77	RL（？）の斜縄文。平口縁。	①繊維②にぶい黄橙色③口縁部		＋41	
19	53	正反の合。平口縁。口縁端内削。	①繊維②浅黄橙色③口縁部		＋27～ ＋39	
20	6・98	口縁下に隆帯、さらにその下に平行沈線。正反の合。隆帯、口縁端にも施文。平口縁。口縁端内削。	①繊維②明黄褐色③口縁部		東壁上面	
21	96	正反の合。平口縁。	①繊維②橙色③口縁部		＋11	
22	35	正反の合。	①繊維②明黄褐色③胴部		＋13～ ＋23	
23	77	正反の合。上げ底。	①繊維②にぶい橙色 ③底部		＋41	
24	雑	RLの地文。平行沈線。	①繊維②にぶい橙色③胴部		—	
25	77	C字形刺突列入り平行沈線による菱形構成。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	＋41	
26	雑	C字形刺突列入り平行沈線による菱形構成。	①繊維②橙色③胴部		—	
27	92	細沈線による雑な斜格子。	①繊維②褐色③口縁部		＋15～ ＋17	
28	雑	細沈線による雑な斜格子。平口縁。口縁端丸。	①繊維②にぶい褐色③口縁部		—	
29	77	細沈線による雑な斜格子。	①繊維②にぶい橙色③胴部		＋41	
30	28	撚糸Rの斜方向施文。	①繊維②にぶい橙色③胴部		＋33	
31	33・98・105	幅狭なC字形爪形文による入組文と円形竹管刺突。胴部下半RL斜縄文。直線的に開く。波状口縁。	①砂粒②にぶい赤褐色③口縁～胴部中位。	諸磯a	＋2～＋35 ＋18＋7	
32	88	細いRLの斜縄文。胴部中位に間を摩り消したC字形刺突列2条。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯a	床直～ ＋32	

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
33	55	棒状工具の沈線による斜格子。胴部中位横線→縦線→斜線の施文。口縁端に刻列。胴部下半ＬＲ斜縄文。直線的に立ち口縁下で若干内湾。①砂粒②明赤褐色③口縁～胴部中位。諸磯ａ。床直				
34	42・44・115	横方向の平行沈線。コンパス文。口縁付近若干内湾。緩い波状口縁。	①繊維②橙色③口縁部	黒浜	+35 +10 F284内	35と同一個体
35	38	胴部ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。コンパス文。平行沈線。	①繊維②明赤褐色③胴部	黒浜	+27	
36	55	ＲＬの斜縄文。内面に輪積み痕あり。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯ａ	床直	
37	47	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。原体の境に縦位の粘土隆起あり。	①繊維②橙色③胴部下半	黒浜	+15	
38	87	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。上げ底ぎみ。	①繊維②橙色③底部	黒浜	+7～+20	
39	15	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。上げ底ぎみ。	①繊維少②明赤褐色③底部	黒浜	+36	
40	56	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。上げ底ぎみ。	①繊維②明赤褐色③底部	黒浜	+7～+17	

表—50　Ｊ17号住居跡出土石器属性表

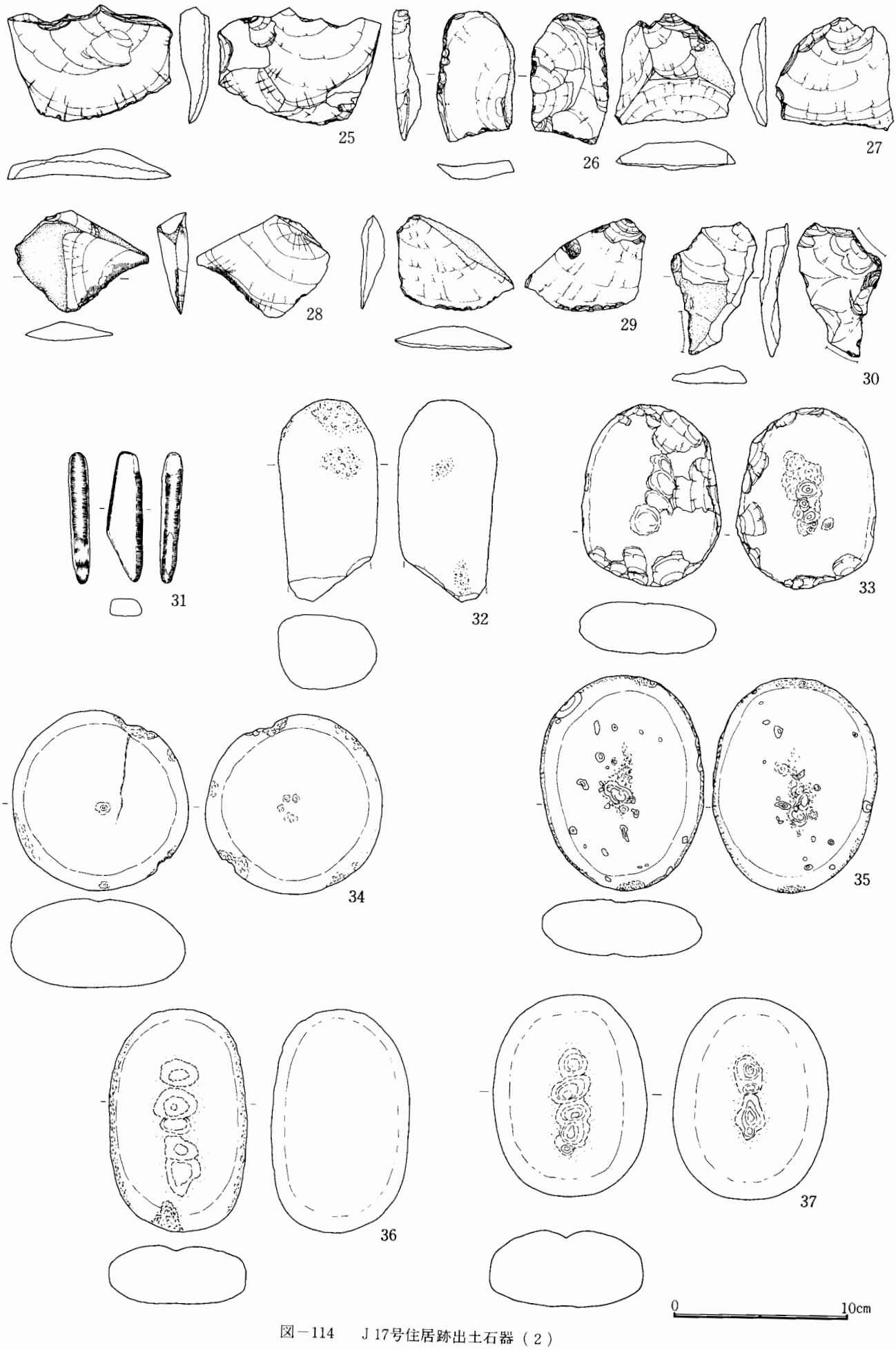
No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	1	垂飾品	(2.5)	(1.5)	0.7	3.2	蛇	—	—	—	欠	—	欠	—	未製品 +38
2	110	石錐	(3.5)	1.2	0.6	2.1	黒安	—	—	—	—	欠	—	—	先端欠 +6
3	雑	〃	3.4	5.8	1.2	14	黒頁	—	—	—	—	—	—	—	覆
4	73	尖頭器	12.7	3.5	3.3	135	〃	—	—	—	—	—	潰	潰	床直
5	42	磨製石斧	(6.7)	4.4	2.4	128	不明	60	—	—	欠	刃	—	—	+35
6	雑	〃	(7.0)	(4.5)	(1.8)	35	輝	60	—	—	—	—	—	—	刃部のみ 覆
7	81	打製石斧	9.6	6.0	1.6	94	黒頁	30	滅2	滅2	—	滅2	潰	潰	+10
8	雑	〃	9.1	4.8	1.2	52	黒安	25	滅2	滅2	滅2	滅1・滅2	滅1	滅1	刃部使用→変形・覆
9	51	〃	11.7	6.2	1.6	167	黒頁	45	—	滅1	—	滅	潰	潰	+39
10	98	打製石斧	(3.8)	3.9	1.0	15	黒安	20	—	—	欠	—	—	—	基部欠 床直
11	雑	〃	(8.3)	5.4	1.8	75	〃	—	—	—	欠	欠	—	—	覆
12	101	〃	7.3	3.7	0.8	25	黒頁	35	—	—	—	—	—	—	床直
13	14	鋸歯縁石器	7.0	5.7	1.5	41	〃	45	—	—	—	—	—	—	+37
14	94	石匙	4.8	3.2	1.1	16	〃	70	—	—	—	—	—	—	+7
15	雑	〃	5.7	3.6	1.2	21.5	〃	25	—	—	—	刃	—	—	覆
16	雑	抉入石器	3.9	5.0	1.5	25	〃	60	—	—	—	—	—	—	位置不
17	雑	直刃削器	3.5	5.8	1.2	24	〃	30	—	—	—	—	—	—	刃部交互・剝離・位置不
18	雑	〃	(3.2)	5.7	1.1	15	〃	50	—	—	—	—	—	—	欠 位置不
19	19	〃	3.5	4.5	0.7	85	〃	20	—	—	—	—	—	—	欠 +18
20	102	凸刃削器	5.6	6.2	1.8	50	〃	25	—	—	—	—	—	—	床直
21	雑	凸刃削器	5.0	3.5	1.1	19	黒頁	30	—	—	—	—	—	—	覆
22	雑	〃	9.2	4.6	1.6	57	〃	45	—	—	—	滅	—	—	覆
23	雑	R F	5.8	6.8	2.8	114	〃	60	—	滅1	—	—	—	—	覆

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
24	79	U F	8.2	4.0	1.5	44	〃	45	—	—	—	—	—	—	直刃 床直
25	59	〃	6.6	9.5	1.7	85	〃	20	—	—	—	滅	—	—	凸刃 ＋20
26	雑	〃	4.6	7.5	1.5	45	〃	45	—	—	—	—	—	—	複刃・直刃 覆
27	108	〃	6.3	6.9	1.6	68	〃	30	—	—	—	—	—	—	直刃 ＋26
28	107	〃	5.9	6.2	1.8	50	輝	30	—	—	—	滅2	—	—	凹刃 床直
29	80	〃	7.0	5.1	1.3	36	黒頁	25	—	—	—	刃	—	—	凸刃 ＋14
30	雑	〃	7.7	4.9	1.5	39	〃	40	—	—	—	—	—	—	覆
31	83	棒状石器	7.5	2.0	1.1	30	頁	—	—	—	擦	—	擦	擦	＋19
32	106	敲き石	(11.3)	5.7	4.3	462	斑	—	敲1	敲1	敲2	欠	—	—	＋11
33	13	円礫石器	10.4	8.0	3.3	379	安	—	擦1→凹3	擦1→凹3	敲3	敲3	—	敲3	擦→凹→敲 ＋41
34	雑	〃	10.4	10.1	5.1	809	〃	—	擦1→敲1	擦1→敲1	敲3	敲3	敲1	敲1	擦→敲 覆
35	58	〃	12.3	9.4	3.2	524	〃	—	敲2	敲2	敲2	敲2	火 →敲2	敲2	火→敲 ＋4
36	雑	〃	12.8	7.9	3.3	535	〃	—	凹3	—	—	—	敲2	敲2	覆
37	113	〃	11.6	8.8	4.4	612	〃	—	凹3	凹3	擦2	—	擦2	擦2	－12
38	95	〃	14.9	10.4	8.5	1,740	〃	—	敲2	敲2→擦2	敲2	敲2	敲2	敲2	敲→擦 床直
39	112	〃	11.7	9.5	4.2	635	〃	—	凹2→擦1	凹2→擦1	敲2 →擦1	敲2 →擦1	敲1 →擦1	敲1 →擦1	凹→敲→擦 －9
40	10	〃	12.5	8.7	4.3	704	花	—	擦1	敲1	敲1	敲1	—	—	＋37
41	100	石皿	7.4	10.0	7.8	482	安	—	—	—	欠	欠	欠	欠	欠 ＋56
42	67	〃	8.5	11.4	5.6	426	〃	—	—	—	欠	欠	—	欠	欠 ＋7
43	109	〃	25.3	(19.0)	6.0	2,400	〃	—	擦1	—	欠	—	—	—	欠 ＋13

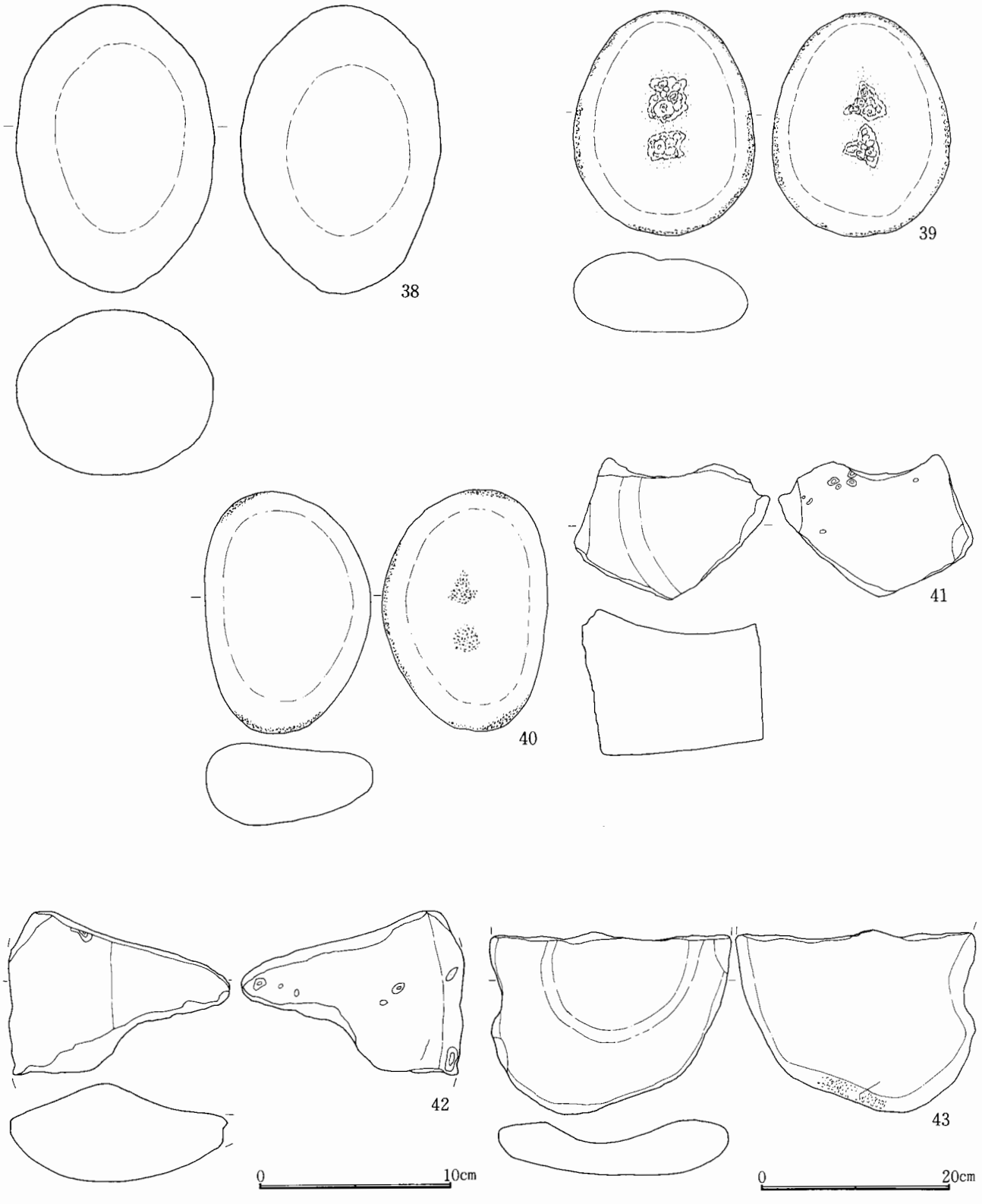
表—51　J17号住居跡石器器種・石材別一覧表

石材＼器種	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		3		1	1	2			3	3				1	1			1	6										78				100
頁岩																								1									1
黒色安山岩		3		1																									15				19
安山岩																						7			3				8				18
花崗岩																						1											1
蛇紋岩																																1	1
斑岩																					1												1
輝緑岩			1																1														2
赤色珪質岩																													1				1
黒色片岩																													1				1
その他			1																														1
計		6	2	2	1	2			3	3				1	1			1	7		1	8		1	3				103			1	146

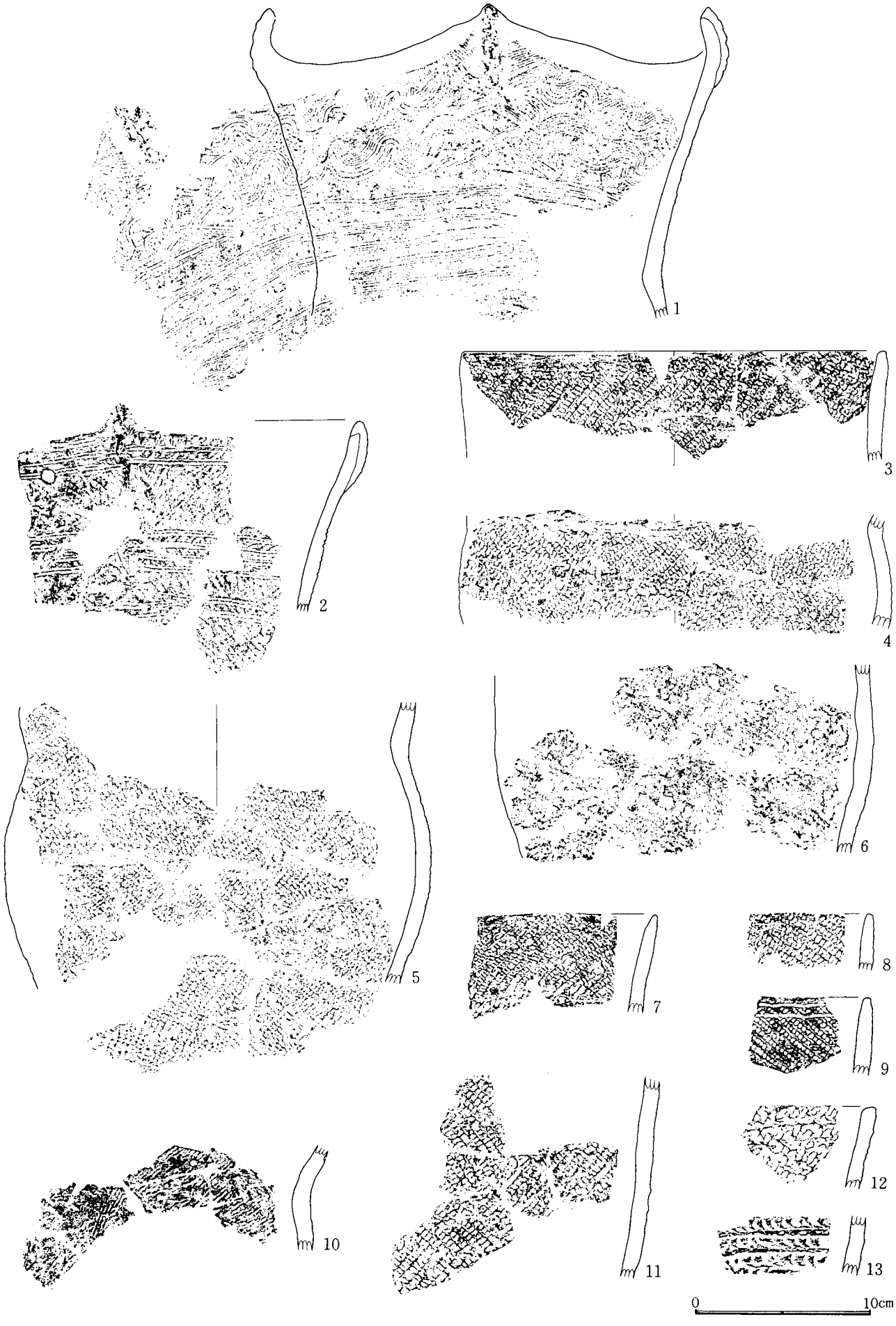
図－113　J 17号住居跡出土石器（１）



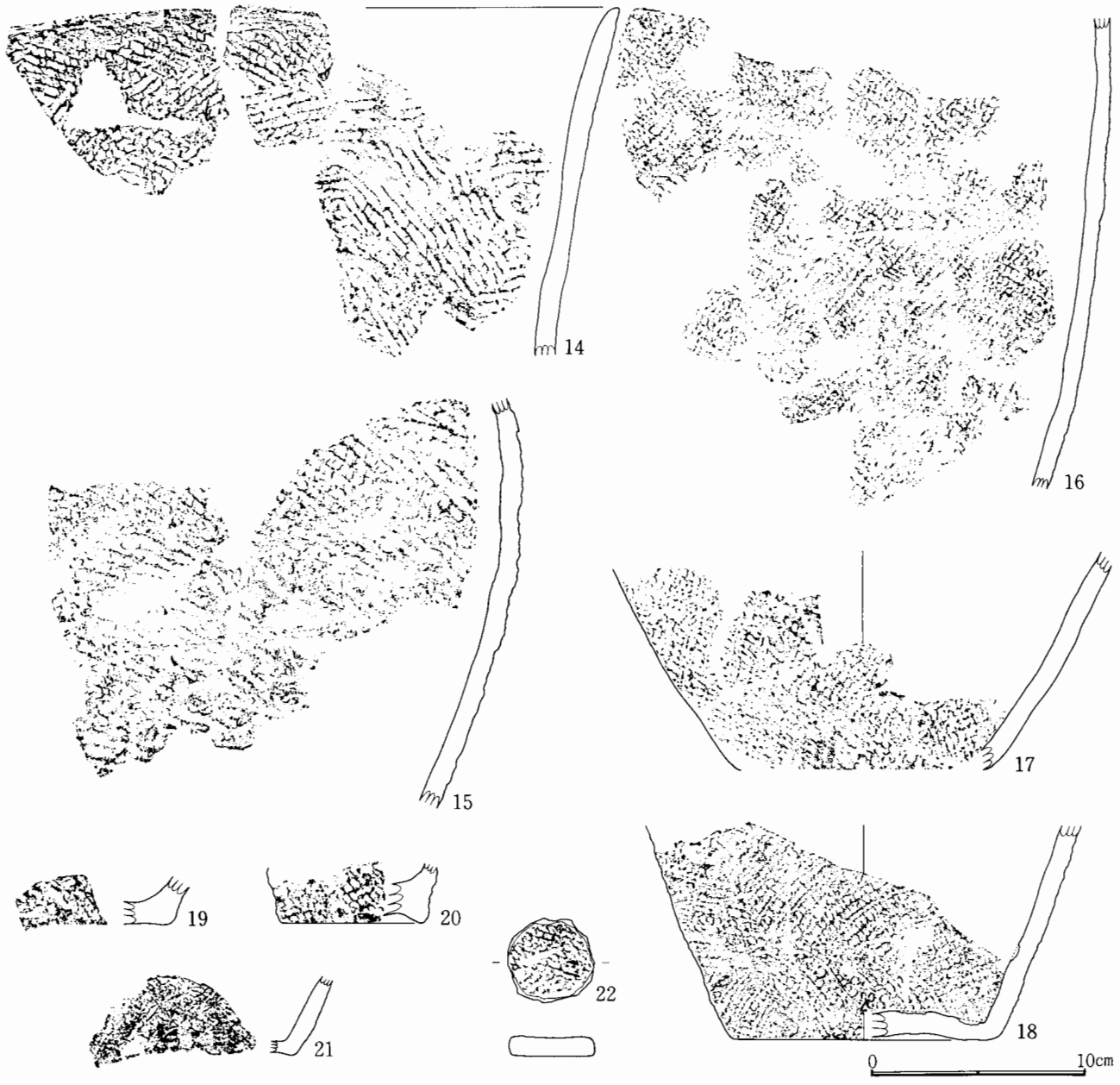
図－114　J 17号住居跡出土石器（２）



図－115　J 17号住居跡出土石器（３）



図－116　J 18号住居跡出土土器（１）



図－117　Ｊ18号住居跡出土土器（２）

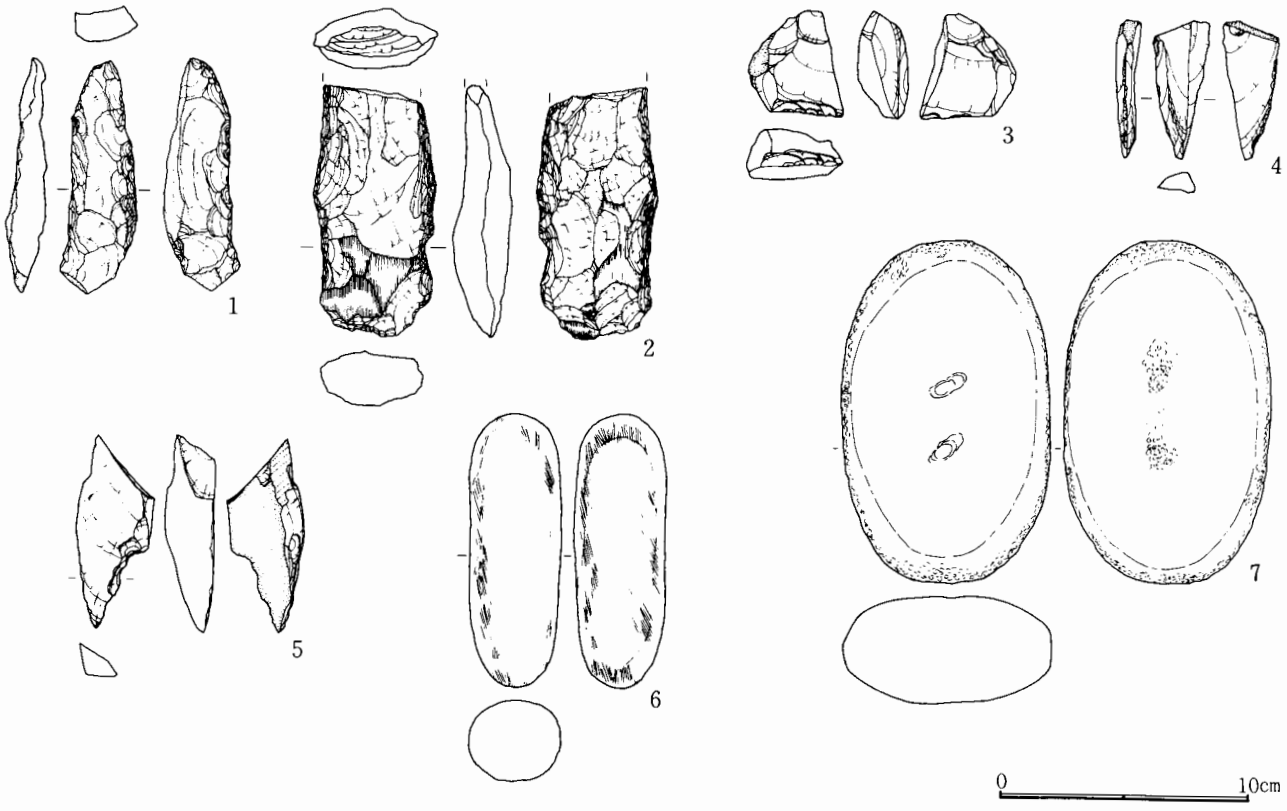
表－52　Ｊ18号住居跡出土土器観察表（図－116・117　図版－85・86）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　　考
1	1・27・29	５本１組の櫛状工具による胴部下半への平行沈線と上半のだれたコンパス文。波頂下に縦位の貼付文とＶ字形の沈線。波状口縁。波頂部内湾。①繊維②赤褐色③口縁～胴部中位。黒浜。＋43　＋30　＋39				
2	11	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。横方向の幅狭の平行沈線。平口縁。突起あり。	①繊維②橙色③口縁～胴部中位	黒浜	＋25	
3	3	全面付加条ＲＬ＋Ｒ・ＬＲ＋Ｒの羽状縄文。平口縁。	①繊維②明赤褐色③口縁部	黒浜	＋29	
4	19・25	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。平行沈線。	①繊維②にぶい黄橙色 ③胴部	黒浜	＋30 ＋５	
5	15	ＬＲ・付加条ＲＬ＋Ｒの羽状縄文。	①繊維②にぶい黄橙色 ③胴部	黒浜	＋32	
6	13	ＲＬ（荒れて不鮮明）。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	埋甕	

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
7	28	全面ＬＲの斜縄文。平口縁。	①繊維②浅黄橙色③口縁部	黒浜	+34	
8	10	ＲＬの斜縄文。平口縁。	①繊維②にぶい黄橙色③口縁部	黒浜	+28	
9	雑	ＲＬの斜縄文。平行沈線。	①繊維②にぶい橙色③口縁部	黒浜	—	
10	30	Ｌの斜縄文。頸部より外反。	①繊維②灰黄褐色③口縁部	黒浜	+22	
11	15・16・22	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	+32+37 +14	
12	雑	多段ループ文。口縁端内削。	①繊維②にぶい黄橙色③口縁部	黒浜	—	
13	30	やや幅広の爪形文。	①繊維②橙色③口縁部	黒浜	+22	
14	6	全面ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。平口縁。口縁端内削。	①繊維多②明黄褐色③口縁部	黒浜	+40	
15	雑	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。	①繊維多②にぶい黄橙色③胴部	黒浜	—	
16	20・25	ＲＬの斜縄文。	①繊維②にぶい黄橙色③胴部	黒浜	+23 +5	
17	雑	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。	①繊維②橙色③底部付近	黒浜	—	
18	1	付加条ＲＬ＋ｒ・ＬＲ＋Ｌの羽状縄文。	①繊維②明赤褐色③底部	黒浜	+43	
19	雑	ＲＬの縄文（現状）。	①繊維②にぶい橙色③底部	黒浜	—	
20	雑	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。上げ底。	①繊維②にぶい黄橙色③底部	黒浜	—	
21	雑	ＬＲ（浅く不鮮明）。	①繊維②にぶい赤褐色③底部	黒浜	—	
22	雑	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。転用土製円盤。	①繊維②にぶい黄橙色③完形	黒浜	—	

表—53　Ｊ18号住居跡出土石器属性表

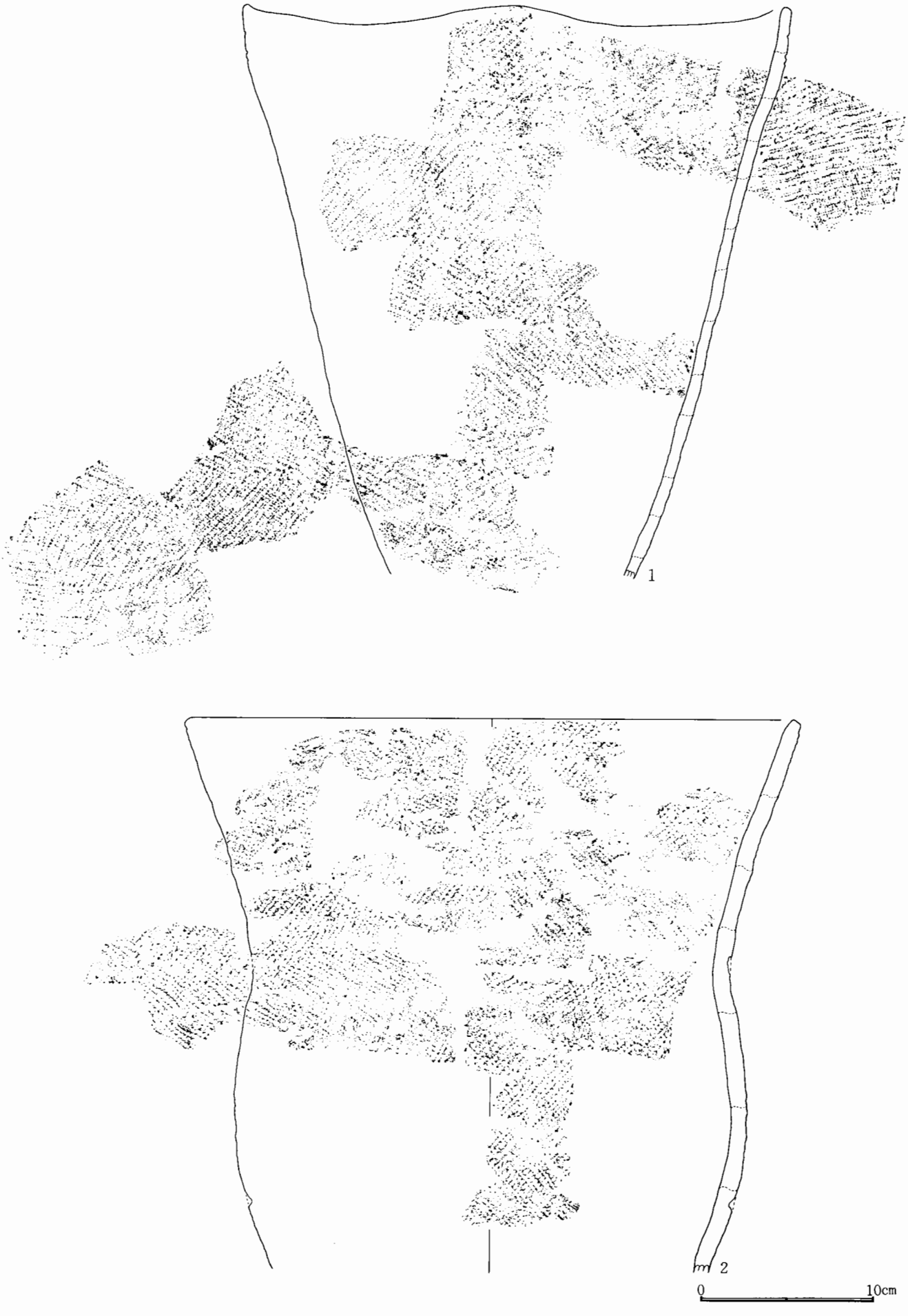
No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	雑	尖頭器	9.3	3.0	1.5	36	黒頁	—	—	—	—	—	—	—	覆
2	雑	打製石斧	(10.0)	4.8	2.4	124	〃	50	—	—	欠	滅3 →刃	抉入	—	両側縁→抉入 覆
3	雑	掻器	4.2	3.8	2.1	32	安	70	—	—	—	—	—	—	覆
4	雑	直刃削器	5.4	2.2	1.0	8	黒頁	45	—	—	—	滅	—	—	覆
5	雑	抉入石器	7.7	3.2	2.0	30	安	55	—	—	—	—	—	—	覆
6	34	磨石	10.8	3.6	3.2	196	黒安	—	擦2	擦2	擦2	擦2	擦2	擦2	−4
7	雑	円礫石器	13.4	8.3	4.2	774	安	—	擦2→凹2	擦2→敲1	敲2	敲2	敲2	敲2	覆



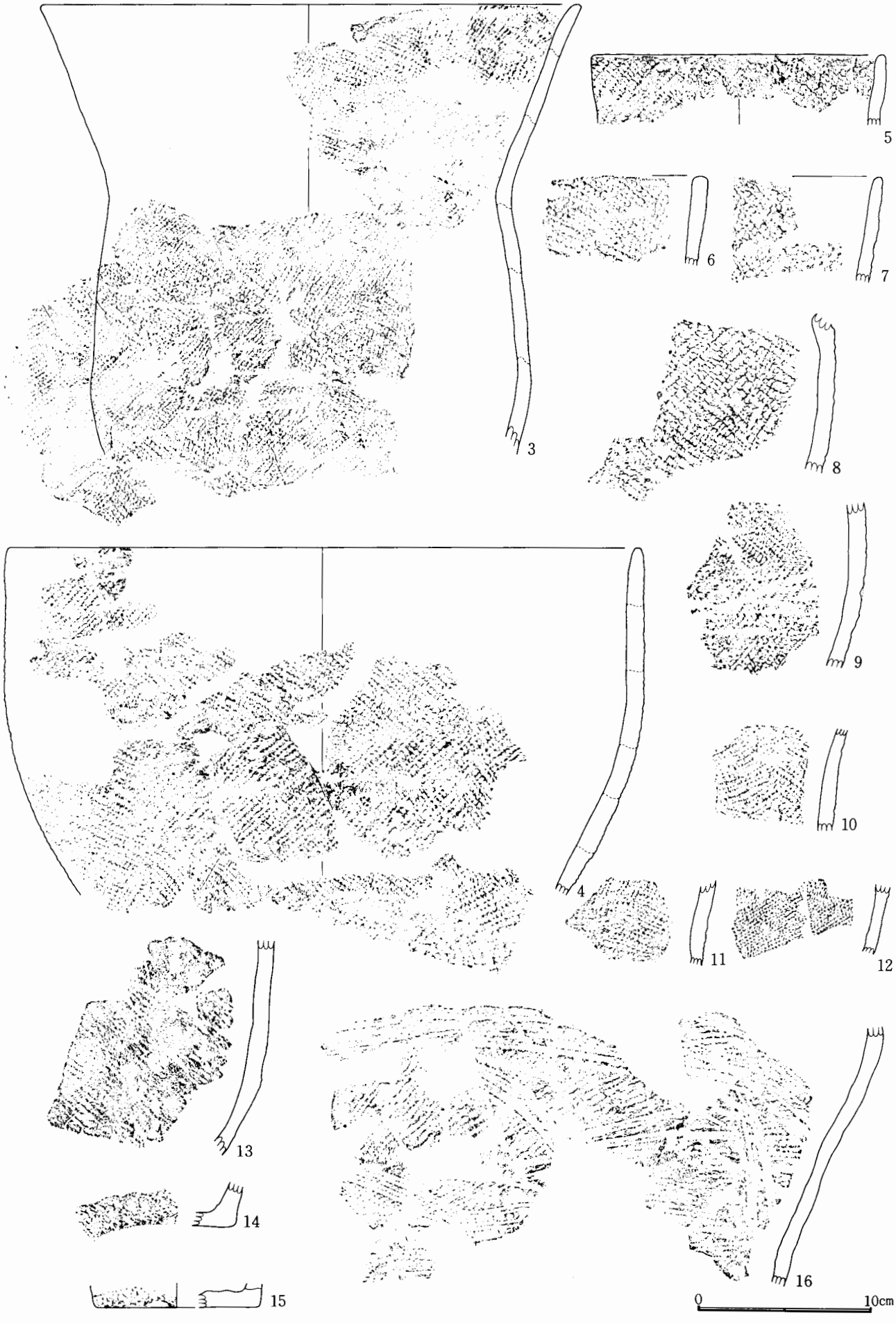
図－118　J 18号住居跡出土石器

表－54　J 18号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		1			1				1																				16				19
黒色安山岩																				1													1
安山岩							1								1							1											3
斑岩																															1		1
砂岩																													1				1
計		1			1		1		1						1					1		1							17		1		25



図－119　J 19･23号住居跡出土土器（１）



図－120　J 19･23号住居跡出土土器（２）

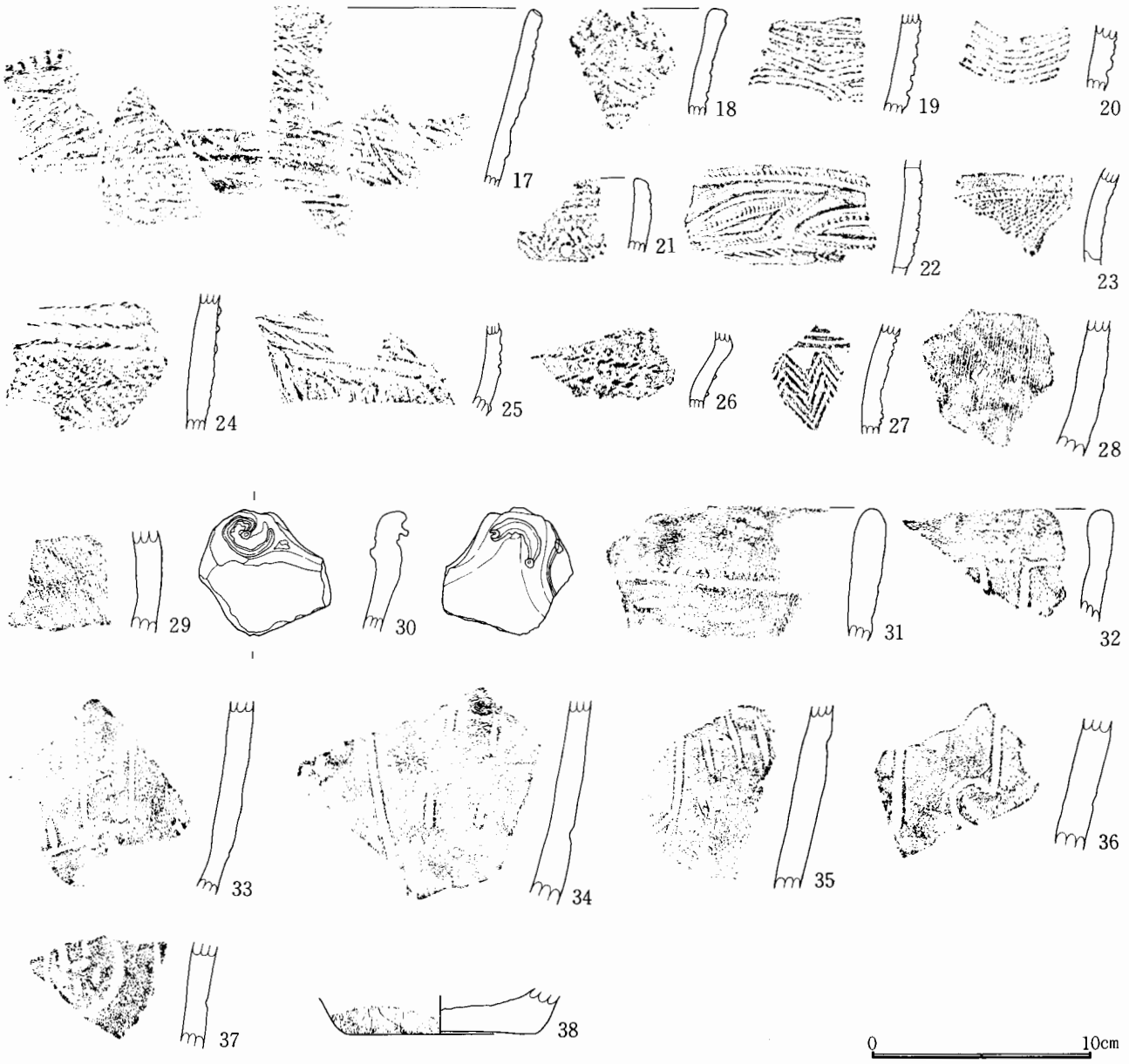
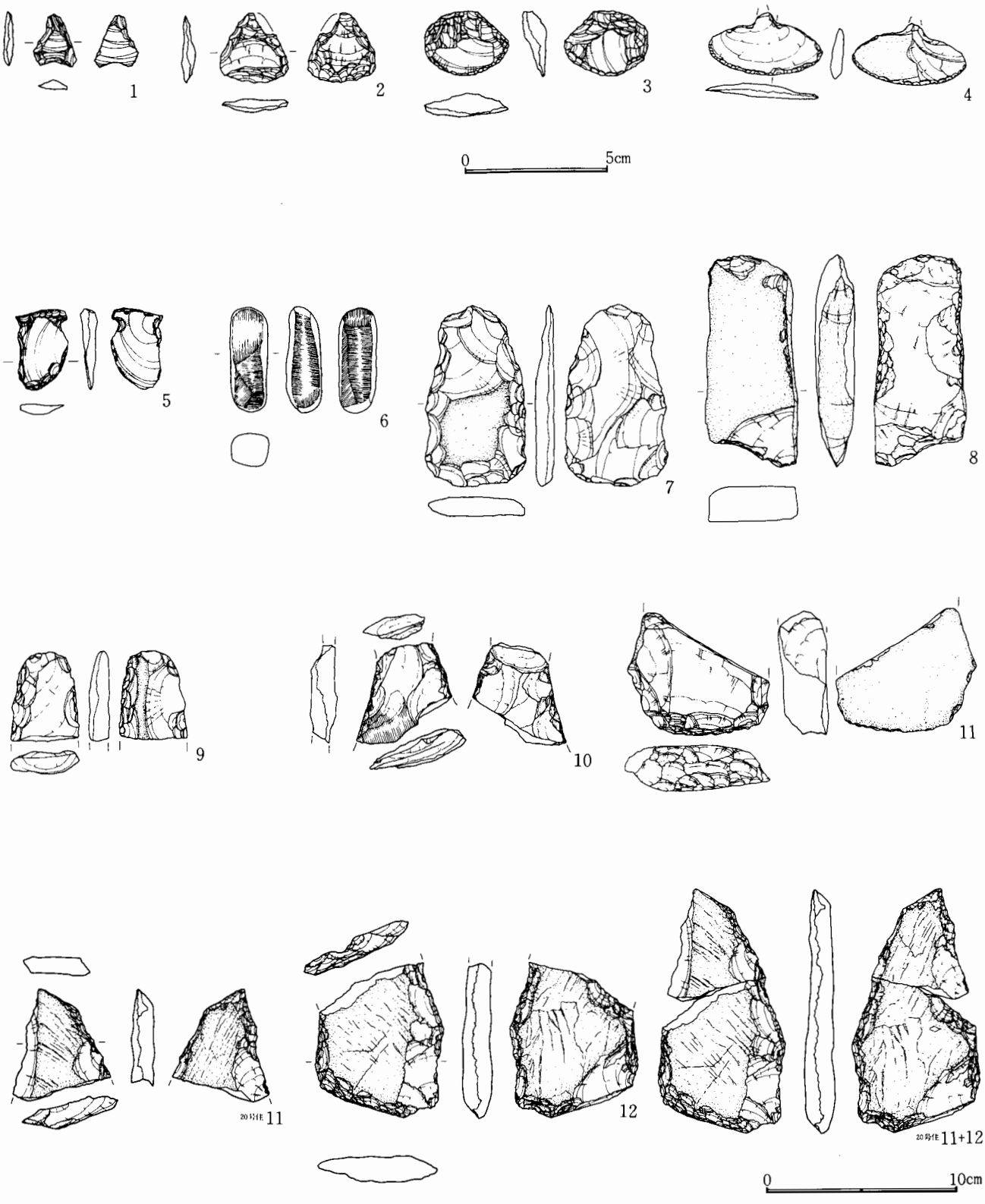


図121　J19·23号住居跡出土土器（3）

表—55　J19・23号住居跡出土土器観察表（図—119・120・121　図版—86・87・88）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	1·2·9·11	全面付加状ＲＬ＋ｒ・ＬＲ＋ｒ（？）の羽状縄文。直線的に開く。緩い波状口縁。	①繊維②にぶい橙色③口縁～胴部下半	黒浜	＋31＋33 ＋34　住外	
2	18・19	全面付加条ＲＬ＋ｒ・ＬＲ＋ｒの羽状縄文。頸部ですぼまり口縁にかけて外反。平口縁。	①繊維②にぶい黄橙色③胴部下半	黒浜	＋22 床直	
3	7・雑	付加条ＲＬ＋ｒ・Ｌ｛Ｒ／Ｒの羽状縄文。／Ｒ｝平口縁。頸部ですぼまり口縁にかけて外反。①繊維②橙色③口縁～胴部下半。黒浜。＋12				
4	18	全面付加条ＲＬ＋Ｒ・ＬＲ＋Ｒの羽状縄文。内湾ぎみに開く。平口縁。	①繊維②橙色③口縁部	黒浜	＋22	
5	11・15	全面ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。平口縁。	①繊維②赤褐色③口縁部	黒浜	＋11 ＋17	
6	雑	ＲＬの斜縄文。平口縁。	①繊維②赤褐色③口縁部	黒浜	—	
7	12	ＲＬの斜縄文。緩い波状口縁。	①繊維②赤褐色③口縁部	黒浜	＋29	

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
8	雑	RL・LRの羽状縄文。	①繊維②にぶい赤褐色 ③胴部	黒浜	—	
9	18	付加条RL＋？・LR＋？の羽状縄文。	①繊維②明黄褐色③胴部	黒浜	＋22	
10	雑	付加条RL＋？・LR＋？の羽状縄文。	①繊維②にぶい黄橙色 ③胴部	黒浜	—	
11	雑	付加条RL＋？・LR＋？の羽状縄文。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	—	
12	雑	LRの斜縄文。平行沈線。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯	—	
13	3・4	L（？）	①繊維②橙色③胴部	黒浜	＋32 ＋35	
14	雑	RLの斜縄文。	①砂粒②にぶい黄橙色 ③底部	諸磯	—	
15	14	RL・LRの羽状縄文。	①繊維②明赤褐色③底部	黒浜	＋28	
16	2•3•4•7	LRの斜縄文。2～3本1組の平行沈線で菱形を構成。	①繊維②にぶい赤褐色 ③口縁部下半	黒浜	＋35＋32 ＋35＋12	
17	雑	平行沈線。ゆるい波状口縁。口縁端c字形刺突。	①砂粒②浅黄橙色③胴部	諸磯b	—	
18	雑	平行沈線。	①砂粒②浅黄橙色③口縁部	諸磯b	—	
19	雑	平行沈線。	①砂粒②にぶい赤褐色 ③胴部	諸磯b	—	
20	雑	平行沈線。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯b	—	
21	雑	幅狭c字形刺突列。円形竹管刺突。	①粗砂粒②明赤褐色③口縁部	諸磯b	—	
22	10	幅広c字形刺突列入り平行沈線の入組み文。	①砂粒②にぶい黄橙色 ③胴部	諸磯b	＋15	
23	雑	幅狭c字形刺突の弧線入組み文。LR斜縄文。円形竹管刺突。	砂粒・白色粒②橙色 ③胴部	諸磯b	—	
24	雑	矢羽根状刻み入浮線。RL斜縄文。	①砂粒②にぶい赤褐色 ③胴部	諸磯b	—	
25	雑	矢羽根状刻み入浮線。RL斜縄文。	①砂粒②にぶい褐色③胴部	諸磯b	—	
26	17	矢羽根状刻み入浮線。RL斜縄文。	①砂粒②明黄褐色③胴部	諸磯b	＋13	
27	雑	三角印刻。平行沈線による山形構成。	①砂粒②にぶい黄橙色 ③胴部	十三菩提	—	
28	雑	細かい条線。	①粗粒・白色鉱物②にぶい 黄橙色③胴部	中～後期	—	
29	雑	28と同一個体。細かい条線。	①粗粒・白色鉱物②にぶい 黄橙色③胴部	中～後期	—	28と同一個体
30	雑	大波状。突起には刺突連結によるC字文。口唇部に沈線突起内側に渦巻きの沈線。口縁部内側に縁。	①中粒②淡黄色③口縁部	堀之内1	—	
31	雑	沈線。長く延びる列点。	①中粒②淡黄色③口縁部	称名寺2	—	
32	雑	沈線。	①中粒②浅黄色③口縁部	称名寺2	—	
33	雑	沈線。長い列点。	①細粒②淡黄色③口縁部	称名寺2	—	
34	雑	沈線。列点。	①細粒・白色鉱物②淡黄色 ③胴部	称名寺2	—	
35	雑	沈線。列点。	①細粒②淡黄色③胴部	称名寺2	—	
36	雑	沈線。	①中粒②灰黄褐色③胴部	称名寺2	—	
37	雑	沈線。列点。	①中粒②淡黄色③胴部	称名寺2	—	
38	雑	無文部。	①中粒②淡黄色③底部	称名寺2	—	



図－122　J 19･23住居跡出土石器（１）

図－123　J 19･23号住居跡出土石器（２）

図－124　J 19･23号住居跡出土石器（３）

表—56　J19・23号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	10	石鏃	1.9	1.5	0.3	1	黒安	—	—	—	—	—	—	—	−6・J23
2	雑	〃	2.5	2.3	0.5	4	安	—	—	—	欠	—	—	—	欠 覆
3	雑	凸刃削器	2.2	2.9	0.8	4	珪	30	—	—	—	—	—	—	覆
4	雑	石匙	3.2	5.9	0.6	21	黒頁	60	—	—	—	—	—	—	覆
5	雑	〃	4.2	2.7	0.9	8	珪	30	—	—	—	—	—	—	覆・J19
6	31	棒状石器	5.5	2.0	1.9	34	安	—	擦2	擦2	—	—	擦2	擦2	+11
7	27	打製石斧	9.5	5.3	1.0	57	黒頁	50	—	—	—	—	—	—	+12
8	1	〃	11.1	4.8	2.0	172	〃	40	—	—	—	—	—	—	+30・J23
9	雑	〃	4.7	3.5	1.1	24	安	—	—	—	—	欠	—	—	刃部欠 覆
10	雑	〃	(5.2)	(4.9)	1.3	35	黒頁	—	—	—	欠	欠	—	—	胴部のみ 覆
11	雑	掻器	(6.2)	7.4	2.5	148	〃	85	—	—	欠	—	—	—	欠 覆
12	22	直刃削器	8.1	6.7	1.5	104	珪	60	—	—	欠	—	—	—	20住11と接 +12
13	雑	背付き石器	8.2	4.2	1.5	49	黒頁	30	—	—	—	—	—	—	覆
14	30	直刃削器	6.2	10.7	1.5	97	〃	50	—	—	—	—	—	—	+31
15	26	〃	11.8	7.2	1.8	148	〃	35	—	—	—	—	—	—	+13
16	雑	〃	5.7	7.2	2.2	81	〃	40	—	—	—	—	—	—	覆・J23
17	35	交刃削器	4.0	7.0	1.0	28	黒安	50	—	—	—	—	—	—	+13
18	雑	〃	5.3	5.1	0.9	27	珪	45	—	—	—	潰	—	—	欠 覆
19	17	〃	6.2	4.9	1.6	42	黒頁	40	—	—	—	—	—	—	+9・J23
20	雑	凸刃削器	5.0	7.7	1.3	52	〃	60	—	—	—	—	—	—	覆・J23
21	雑	U F	10.8	7.1	2.3	195	〃	60 35	—	—	—	刃	—	—	直刃・2刃 覆・J23
22	20	凸刃削器	4.3	8.9	1.0	41	〃	55	—	—	—	—	—	—	+33
23	雑	U F	8.2	3.6	1.8	39	珪	凹45 凸60	—	—	—	—	—	—	凸・凹2刃 覆
24	雑	凹刃削器	6.5	9.2	2.0	92	黒頁	35	—	—	—	—	—	—	覆
25	雑	複刃削器	16.9	7.4	3.4	520	〃	60 60	—	—	—	—	—	—	凸刃・直刃 覆
26	雑	凹刃削器	6.7	4.7	1.5	46	〃	45	—	—	—	—	—	—	覆
27	雑	石核	5.1	7.6	4.5	211	〃	—	—	—	—	—	—	—	覆
28	2	円礫石器	10.2	9.3	5.2	708	安	—	擦1→敲1	擦1→敲1	敲2	敲2	敲2	敲2	+29・J23
29	雑	〃	11.5	8.3	3.9	506	〃	—	敲2→擦2	敲2→擦2	敲2 →擦2	敲2 →擦2	敲2 →擦2	敲2 →擦2	覆
30	雑	〃	10.7	8.1	4.5	454	〃	—	凹3	凹3	敲2	敲2	敲2	敲2	覆
31	6	〃	10.0	7.4	4.4	470	〃	—	凹2	凹2	敲1	敲1	敲1	敲1	+27・J23
32	雑	〃	9.9	7.9	5.8	545	〃	—	火	敲1→火	火	火	火	火	敲→火→剝落 覆
33	3	〃	10.6	6.4	4.7	484	花	—	擦1	敲1→擦1	—	—	—	—	敲→擦 +35・J23
34	雑	円礫石器	9.5	8.6	3.8	468	安	—	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2	敲2	敲2	敲2	覆

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
35	雑	〃	9.8	8.0	5.0	536	〃	—	敲2	敲2	敲3	敲2	敲3	敲2	覆
36	雑	円礫石器	(10.2)	9.5	4.3	500	安	—	敲2	—	敲2	欠	敲1	敲1	欠 覆
37	雑	多凹石	19.3	13.9	9.4	3,160	〃	—	赤化→敲・凹	赤化→敲・凹	—	—	—	—	赤化→火ではない。覆

表—57　J 19・23号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		3				1	1	1	3	2	2	1	1						1										44	1	1		62
黒色安山岩	1											1																	5				7
安山岩	1	1																				8		1		1					12		24
花崗岩																						1											1
珪岩						1			1	1		1							1										3				8
計	2	4				2	1	1	4	3	2	3	1						2			9		1		1			52	1	13		102

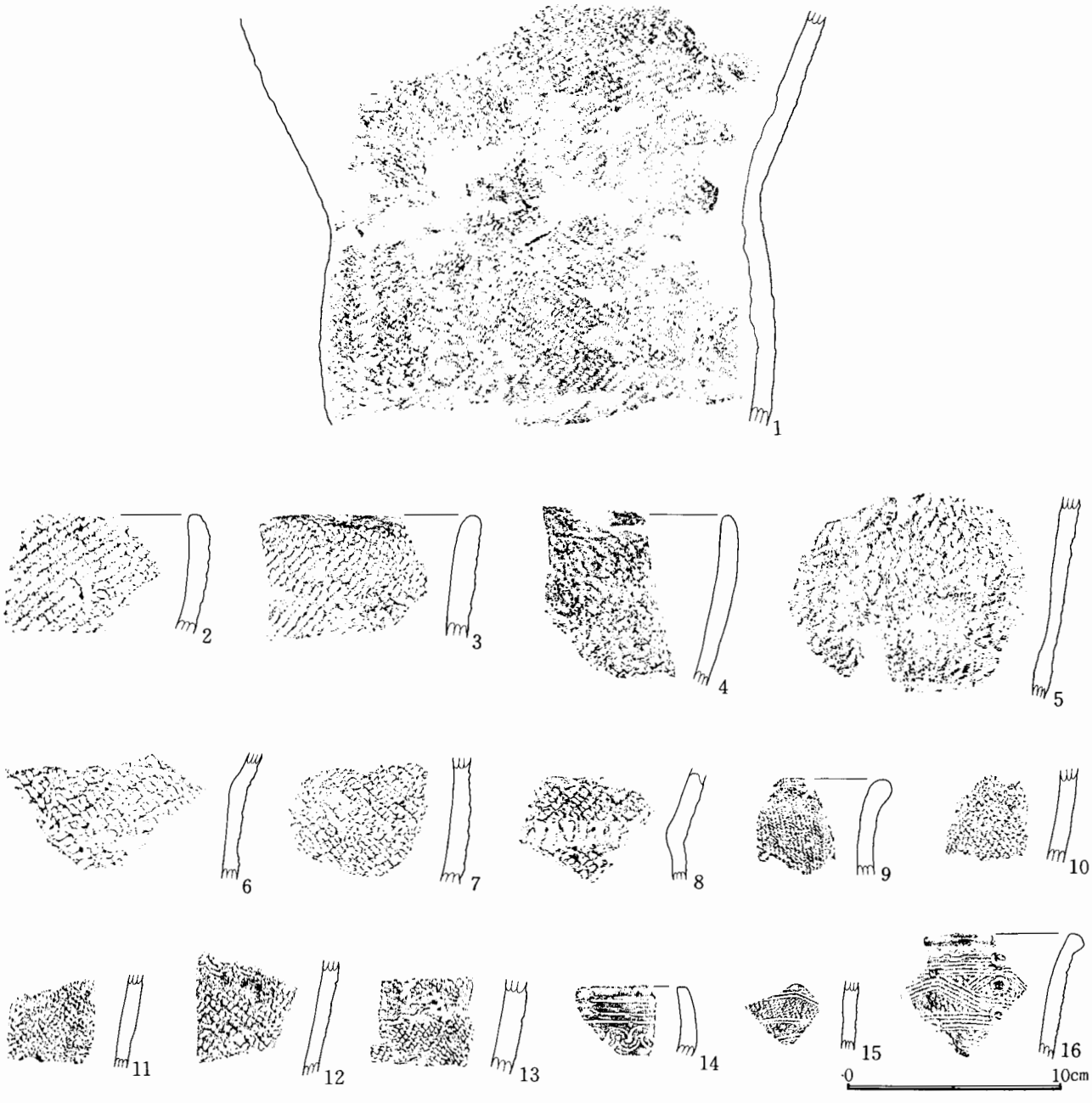
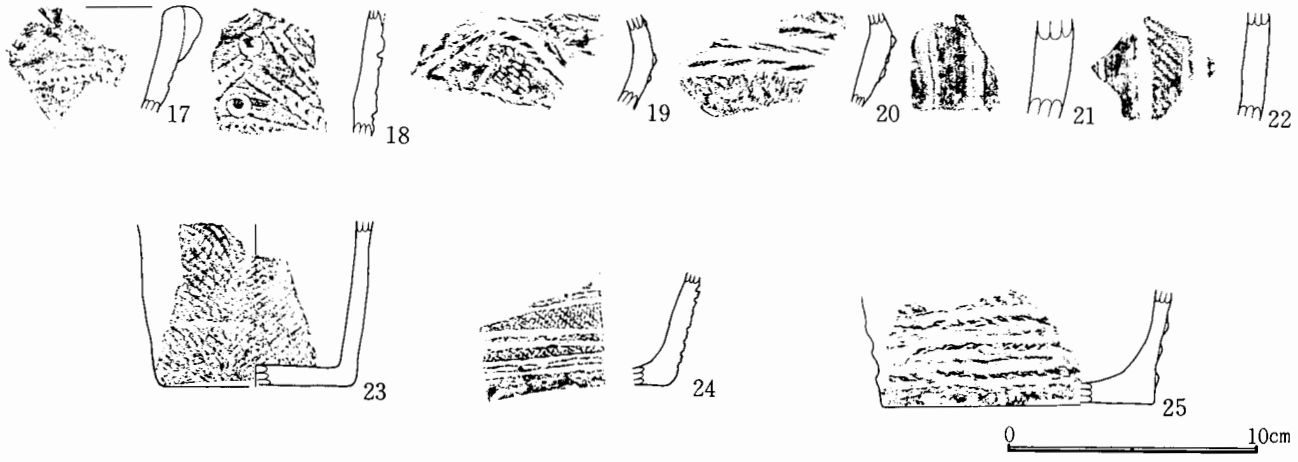


図125　J 20号住居跡出土土器（1）

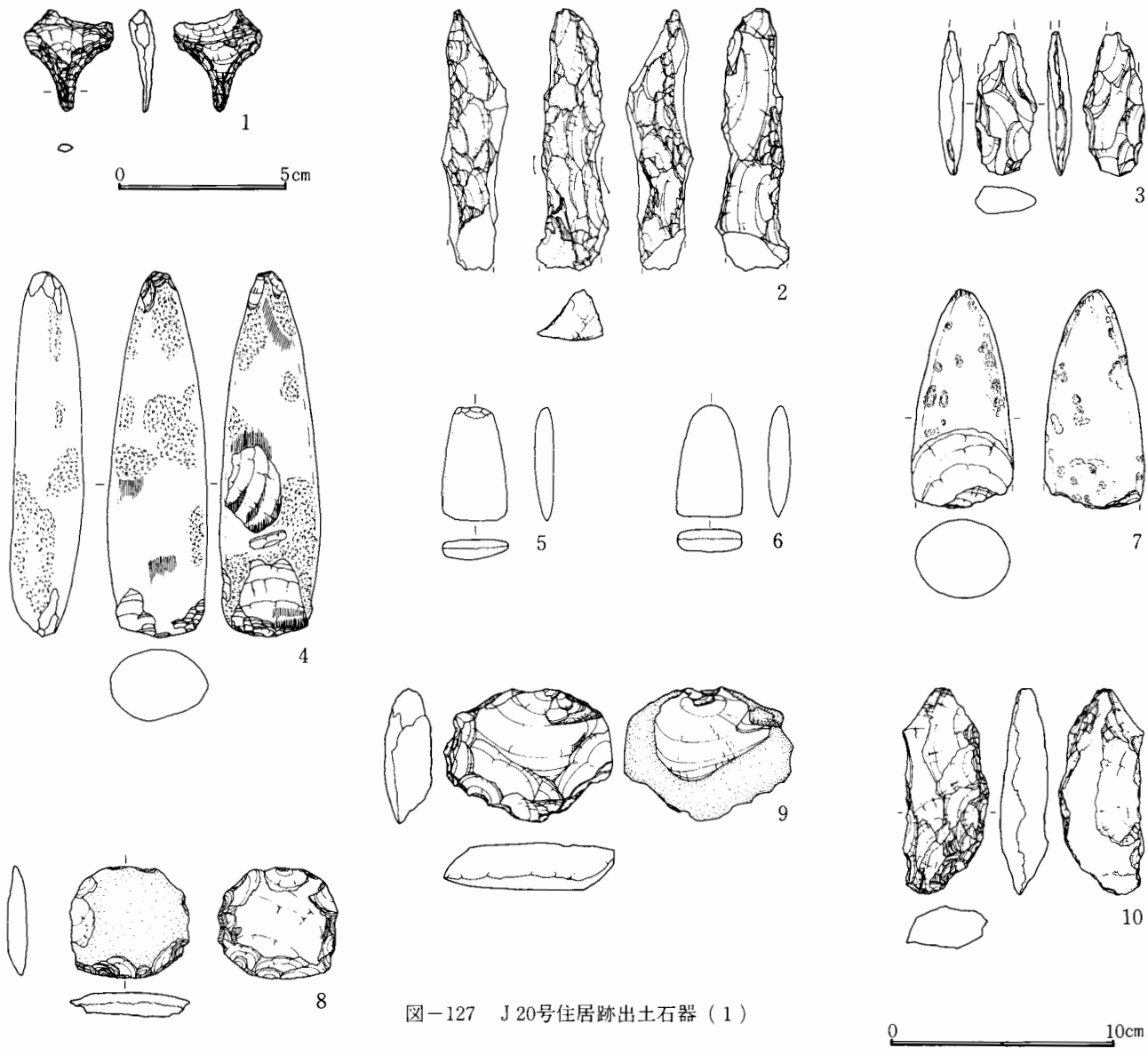


図－126　Ｊ20号住居跡出土土器（２）

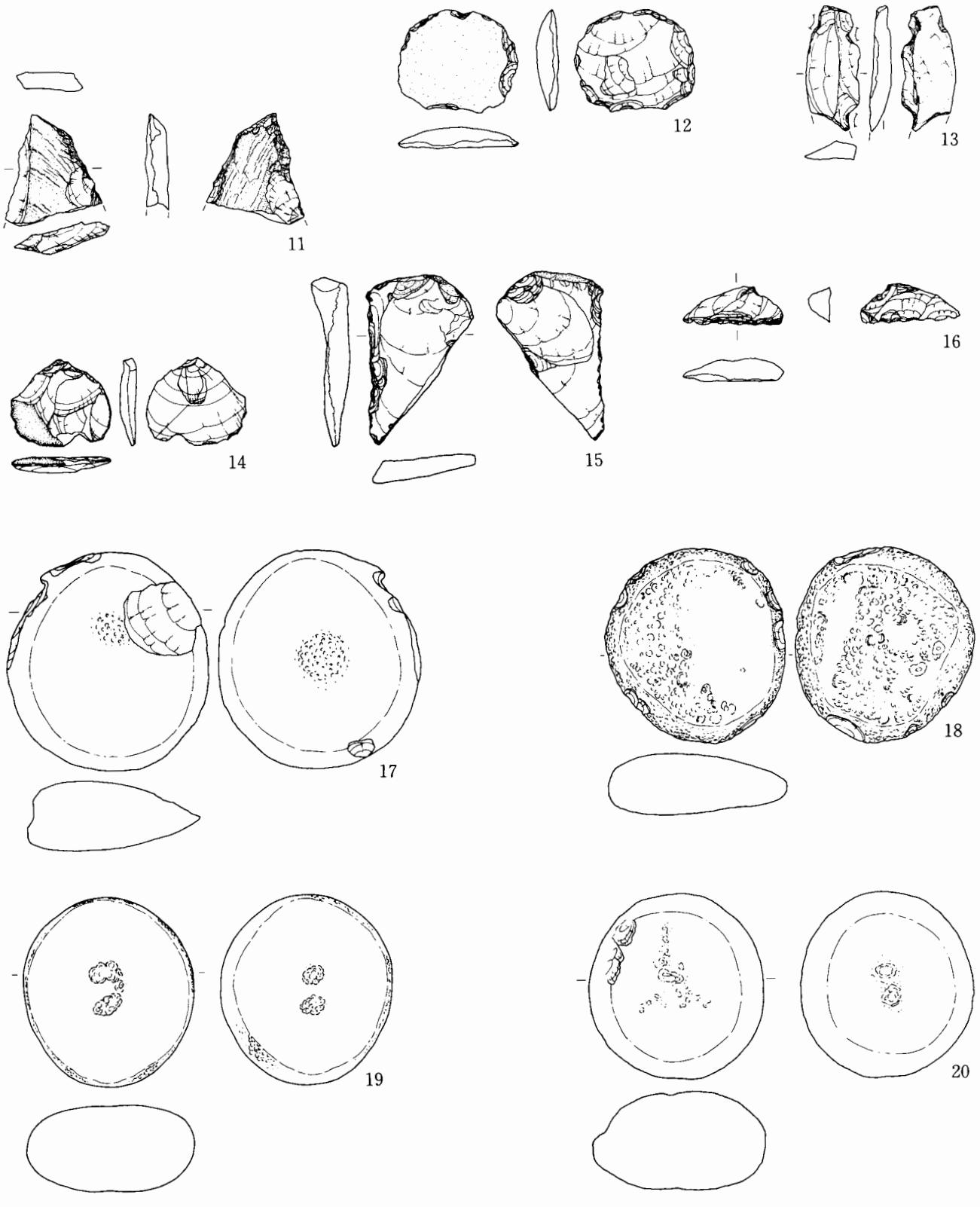
表－58　Ｊ20号住居跡出土土器観察表（図－125・126　図版－88）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　　考
1	27	全面ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。施文の際の縦位の粘土隆起あり。くびれ。	①繊維②橙色③胴部中位	黒浜	埋甕	
2	23	ＬＲの斜縄文。平口縁。内湾ぎみ。	①繊維②にぶい赤褐色③口縁部	黒浜	＋24	
3	雑	全面ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。平口縁。	①繊維②明黄褐色③口縁部	黒浜	－	
4	6	全面ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。平口縁。内湾ぎみ。	①繊維②明赤褐色③口縁部	黒浜	＋32	
5	20	ＲＬの斜縄文。	①雲母②にぶい褐色③胴部	諸磯	＋40	
6	12	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。口縁にかけ外反。	①繊維②淡黄色③胴部	黒浜	＋37	
7	3	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。内湾ぎみ。	①繊維②明赤褐色③胴部	黒浜	＋27	
8	雑	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。頸部に横位の刺突列。	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	－	
9	雑	細いＲを密に深く施文。口縁端にも横位に４条施文。口縁端肥厚。	①微砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	大丸	－	
10	雑	ＲＬの斜縄文。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯	－	
11	雑	ＲＬの斜縄文。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯	－	
12	雑	末端結束ＲＬの斜縄文。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯	－	
13	雑	末端結束ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。	①繊維②灰黄褐色③胴部	黒浜	－	
14	雑	口縁下に平行沈線とコンパス文。	①繊維②にぶい赤褐色③口縁部	黒浜	－	
15	雑	ＲＬの斜縄文。平行沈線。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯ａ	－	
16	雑	ＲＬの斜縄文。５本１組の櫛状工具による平行沈線と波状文。口縁端外反。	①砂粒②にぶい黄橙色③口縁部	諸磯ａ	－	
17	雑	Ｃ字形刺突列。円形竹管刺突。	①砂粒②にぶい褐色③口縁部	諸磯ａ	－	
18	雑	Ｃ字形刺突列。円形竹管刺突。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯ａ	－	
19	雑	ＬＲの斜縄文。矢羽根状刻み入浮線。	①砂粒②にぶい黄橙色③胴部	諸磯ｂ	－	
20	雑	ＬＲの斜縄文。矢羽根状刻み入浮線。	①砂粒②明褐色③胴部	諸磯ｂ	－	
21	雑	隆帯。	①中粒②浅黄橙色③胴部	加曽利Ｅ４	－	
22	雑	沈線。縄文ＬＲ。	①中粒②浅黄色③胴部	称名寺１	－	

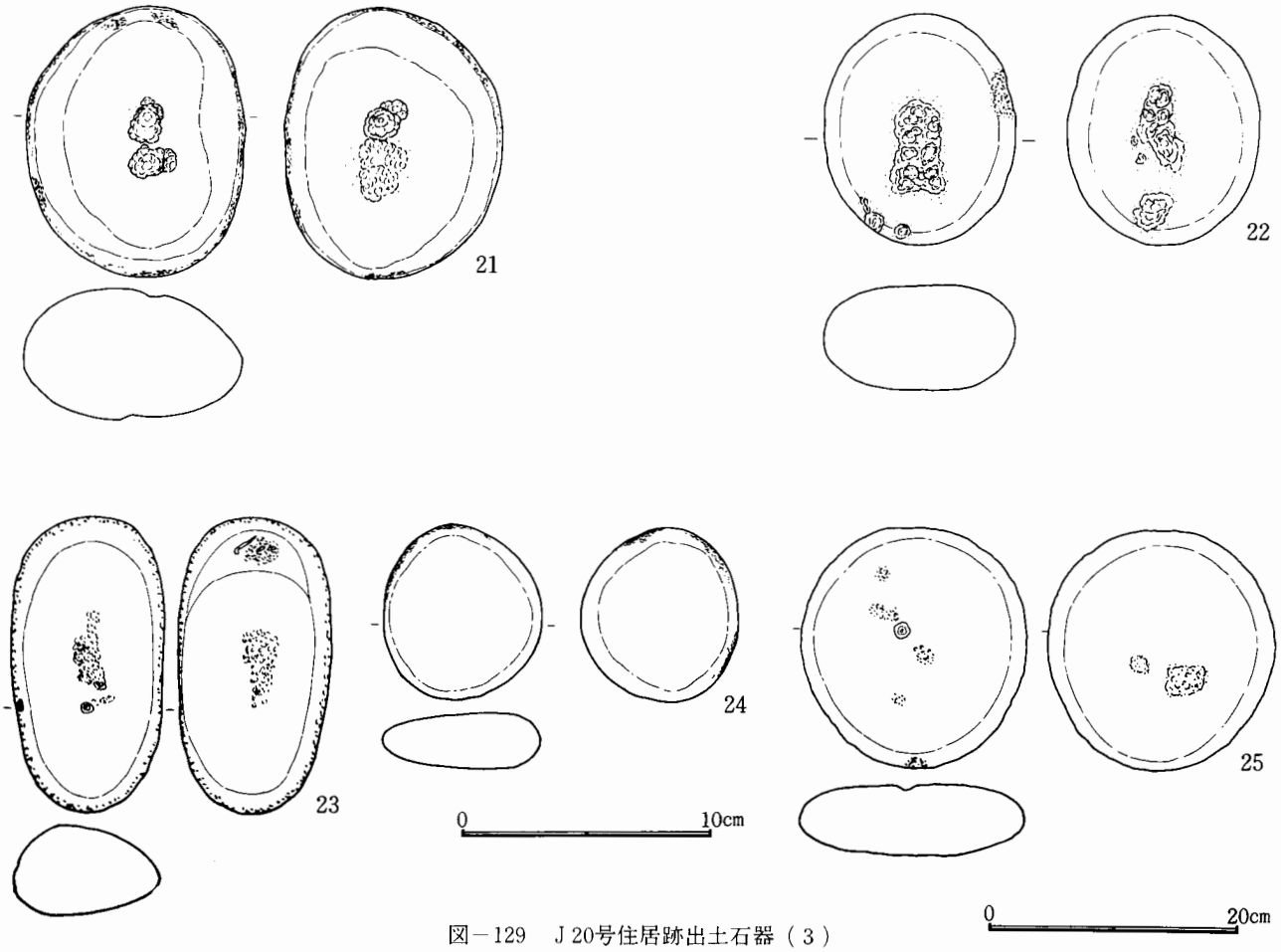
番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
23	雑	縦位のＲＬ・ＬＲの羽状縄文。平底。	①繊維②にぶい赤褐色③底部	黒浜	—	
24	雑	ＲＬの斜縄文。平行沈線。	①砂粒②にぶい黄橙色③底部	諸磯ｂ	—	
25	雑	矢羽根状刻み入浮線。	①砂粒②明赤褐色③底部	諸磯ｂ	—	ＪＰ31・103と接



図－127　Ｊ20号住居跡出土石器（１）



図－128　J 20号住居跡出土石器（２）　0　10cm



図－129　J20号住居跡出土石器（３）

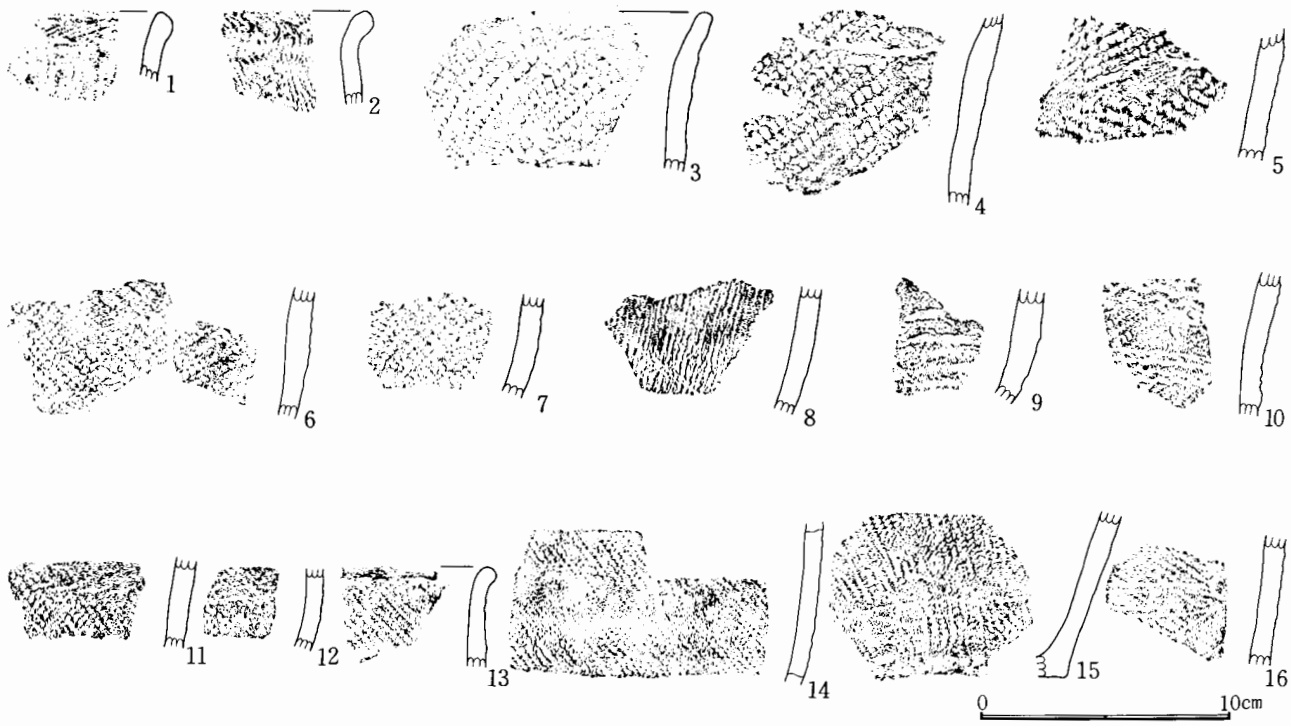
表－59　J20号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	11	石錐	3.1	2.6	0.8	4.5	黒安	—	—	—	—	—	—	—	周溝内
2	雑	尖頭器	(11.5)	3.2	3.0	115	黒頁	—	—	—	—	欠	滅	—	覆
3	雑	〃	(6.4)	2.8	1.1	21	〃	—	—	—	欠	—	—	—	欠 覆
4	雑	磨製石斧	16.3	4.4	3.2	338	緑片	50	敲→擦	敲→擦	敲→擦	滅 敲→擦	敲→擦	敲→擦	敲→擦 覆
5	26	〃	5.0	2.9	0.9	26	蛇	40	—	—	—	滅	—	—	南東壁上面
6	1	〃	4.9	2.9	0.9	28	〃	50	—	—	—	滅	—	—	南東壁上画
7	雑	〃	(9.6)	4.5	3.5	196	不明	—	敲→擦	敲→擦	敲→擦	欠	敲→擦	敲→擦	敲→擦 覆
8	雑	凸刃削器	5.0	5.3	0.9	35	黒頁	40	—	—	—	滅	—	—	覆
9	雑	〃	5.9	7.6	2.1	117	〃	60	—	—	—	—	—	—	覆
10	雑	〃	9.0	4.0	2.0	82	黒安	70	—	—	—	—	—	—	覆
11	雑	直刃削器	5.7	5.2	1.2	35	珪	60	—	—	—	欠	—	—	19、23住12と接 覆
12	雑	複刃削器	5.4	6.3	1.2	47	安	50	—	—	—	—	—	—	覆
13	雑	抉入石器	4.0	(6.5)	1.2	19	黒頁	—	—	—	—	—	—	—	抉入３ケ所 覆
14	雑	U F	4.6	5.2	0.9	19	〃	30	—	—	—	—	—	—	覆
15	雑	直刃削器	8.8	5.7	2.0	73	〃	50	—	—	—	—	—	—	覆

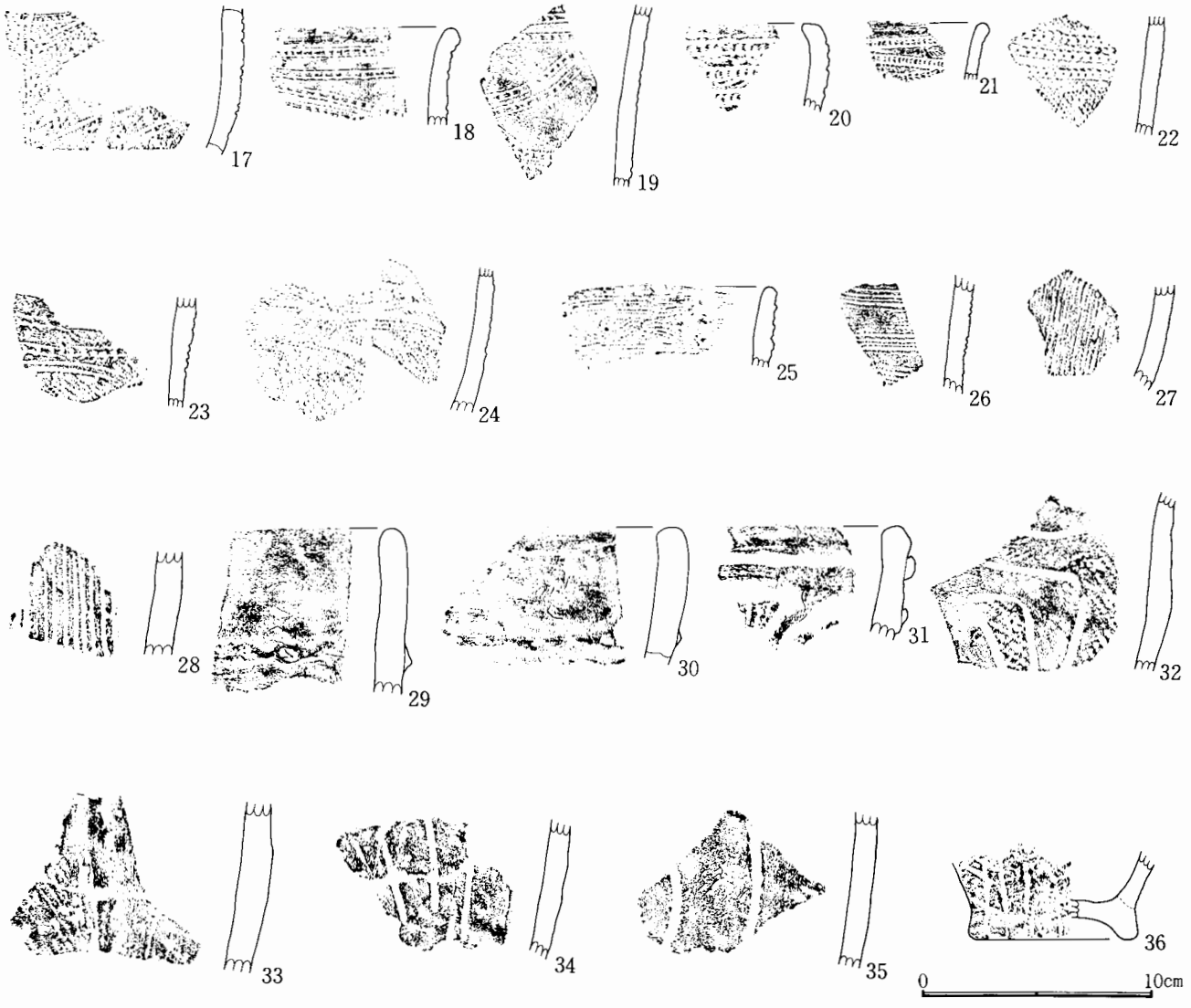
No	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
16	16	直刃削器	5.2	2.1	1.2	9	〃	60	—	—	—	—	—	—	位置不
17	住外	円礫石器	11.4	10.6	3.7	660	安	—	敲1	敲1	—	—	敲3	敲3	住外
18	雑	〃	10.2	9.2	3.2	453	〃	—	擦2→敲3	擦2→敲3	擦2→敲3	擦2→敲3	擦2→敲3	擦2→敲3	擦→敲 覆
19	15	〃	10.0	9.0	4.9	660	〃	—	凹2→擦2	凹2→擦2	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	凹・敲→擦 +44
20	22	〃	9.5	9.2	5.2	615	〃	—	敲2	敲2	—	—	—	—	+33
21	24	〃	10.8	8.7	5.3	599	〃	—	凹2	凹1・敲2	敲1	敲1	敲1	敲1	東壁上面
22	2	〃	9.2	7.6	4.2	440	〃	—	擦2→敲2	擦2→敲2	敲1→擦1	敲1→擦1	敲1→擦1	敲1→擦1	擦→敲 +16
23	雑	〃	11.8	6.5	3.6	428	〃	—	敲2→擦1	敲2→擦1	敲1	敲1	敲1	敲1	敲→擦 覆
24	19	〃	6.9	6.3	2.2	153	〃	—	擦1	擦1	擦1	擦1	擦1	擦1	+11
25	雑	〃	19.0	18.2	5.7	2,580	〃	—	凹1・敲1	敲1	—	—	—	—	覆

表－60　J 20号住居跡石器器種・石材別一覧表

石材＼器種	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩					2				2	2					1				1										48				56
頁岩																															2		2
黒色安山岩				1						1																							2
安山岩													1									9							1		4		15
蛇紋岩			2																														2
珪岩									1																				2				3
黒色片岩																													1				1
砂岩																													2				2
その他			2																														2
計			4	1	2				3	3			1		1				1			9							54		6		85



図－130　J 21号住居跡出土土器（1）

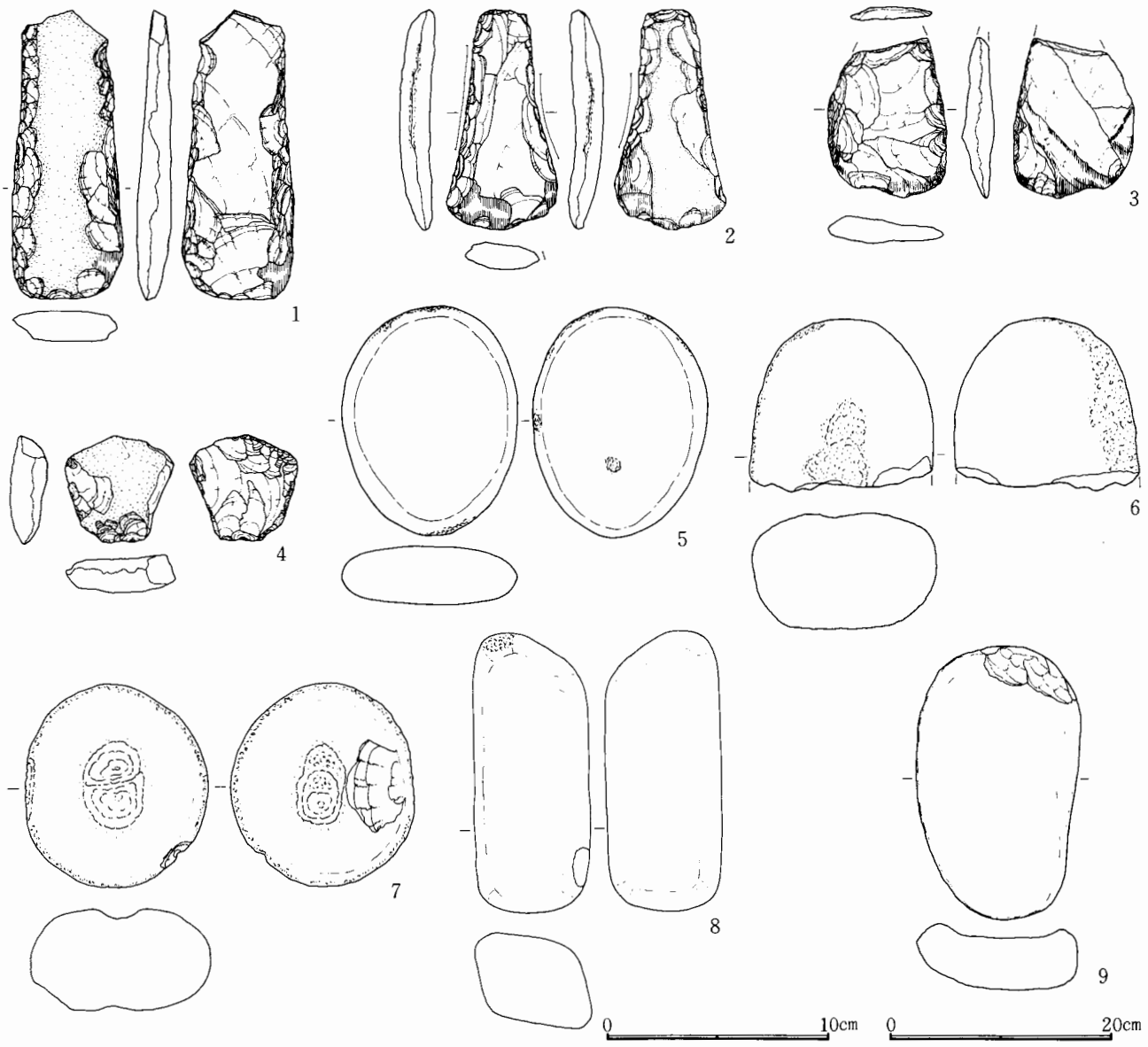


図－131　J21号住居跡出土土器（２）

表－61　J21号住居跡出土土器観察表（図－130・131　図版－88・89）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	雑	Ｌの密な縦位の撚糸。口縁端及び内面に横位施文。口縁端若干外反。	①輝石含み砂粒混入②明赤褐色③口縁部	大丸	—	
2	雑	Ｒの密な縦位の撚糸。口縁端にも施文。口縁端外反肥厚。	①輝石含み砂粒②明赤褐色③口縁部	大丸	—	
3	10	全面ＬＲの斜縄文。口縁端外反。	①繊維②にぶい橙色③口縁部	黒浜	＋30	
4	雑	ＬＲの斜縄文。	①繊維②にぶい黄橙色③胴部	黒浜	—	
5	Ｑ－１－45	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	—	
6	Ｑ－１－45	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。内面撫で。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	—	
7	Ｑ－１－45	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	—	
8	雑	Ｒの密な縦位の撚糸。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴部	大丸	—	

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
9	雑	Lの斜縄文（横方向施文）。	①繊維②明赤褐色③胴部	黒浜	—	
10	Q－1－45	LRの斜縄文。だれたコンパス文。	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	—	
11	Q－1－45	末端結節のRLの斜縄文。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯	—	
12	Q－1－45	RLの斜縄文。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯	—	
13	Q－1－45	RLの斜縄文。平口縁。口縁端外反。	①砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯	—	
14	雑	RLの斜縄文。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯	—	
15	雑	RLの斜縄文。	①砂粒②橙色③底部	諸磯	—	
16	雑	RLの斜縄文。平行沈線。円形竹管刺突。	①砂粒②にぶい黄橙色③胴部	諸磯a	—	
17	雑	平行沈線による肋骨文。円形竹管刺突。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯a	—	
18	雑	C字形刺突列。平口縁。地文撫で。	①砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯a	—	
19	雑	C字形刺突列の弧線入組文。地文撫で。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯a	—	
20	10	幅広C字形刺突列。矢羽根状刻み入平行沈線。平口縁。口縁付近内湾。	①砂粒②にぶい黄橙色③口縁部	諸磯b	+30	
21	雑	幅狭C字形刺突列。緩い波状口縁。	①砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯a	—	
22	雑	幅狭C字形刺突列。RLの斜縄文。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯a	—	
23	Q－1－45	幅狭C字形刺突列。RLの斜縄文。平行沈線。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯a	—	
24	雑	幅狭C字形刺突列による木の葉文。内部にRLの斜縄文を残す。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯a	—	
25	8	平行沈線の波状文。円形竹管の刺突。平口縁。	①砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯a	+25	
26	雑	5本1組の櫛状工具の平行沈線。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯b	—	
27	雑	密な撚糸の押引き条線。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴部	大丸	—	
28	雑	条線。	①中粒・白色鉱物②浅黄色③胴部	中～後期	—	
29	雑	微隆起に刺突が入り、口縁部無文帯が形成。	①中粒②にぶい橙色③口縁部	中～後期	—	
30	雑	微隆起に刺突が入り、口縁部無文帯を形成。	①中粒②淡黄色③口縁部	中～後期	—	
31	雑	隆帯で文様構成され、沈線が充填される。	①中粒・白色鉱物②にぶい橙色③口縁部	加曽利E3	—	
32	雑	沈線による区画で、縄文LRが充填される。	①細粒②浅黄色③胴部	称名寺1	—	
33	雑	微隆起区画。縄文LRが施文される。	①中粒②淡黄色③胴部	加曽利E4	—	
34	雑	沈線。	①中粒②明黄褐色③胴部	称名寺2	—	
35	雑	太い沈線。	①中粒・黒色鉱物②浅黄色③胴部	称名寺2	—	
36	雑	沈線による斜格子。上げ底。	①繊維②にぶい橙色③底部	黒浜	—	



図－132　J 21号住居跡出土石器

表－62　J 21号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	雑	打製石斧	12.9	5.0	1.6	138	安	35	—	—	—	滅1	—	—	覆
2	雑	〃	9.7	5.0	1.2	74	黒頁	50	—	—	—	滅2	潰	潰	覆
3	雑	打製石斧	(7.2)	5.3	1.5	53	黒頁	35	—	—	欠	滅2	—	—	欠 覆
4	雑	凸刃削器	4.8	4.8	1.6	44	〃	60	—	—	—	—	—	—	覆
5	雑	円礫石器	10.3	7.9	2.6	314	安	—	擦1	擦1	—	—	—	—	覆
6	雑	〃	(7.4)	8.2	5.1	469	〃	—	凹1→擦1	擦1	擦1	擦1	敲2→擦1	擦1	凹・敲→擦 覆
7	雑	〃	9.1	8.2	4.8	437	〃	—	凹2	凹2	敲2	敲2	敲2	敲2	覆
8	雑	磨石	12.5	5.2	3.2	508	〃	—	擦2	擦2	敲1→擦2	擦2	擦2	擦2	敲→擦 覆
9	雑	石皿	24.8	14.8	6.0	2,420	〃	—	—	—	—	—	—	—	覆

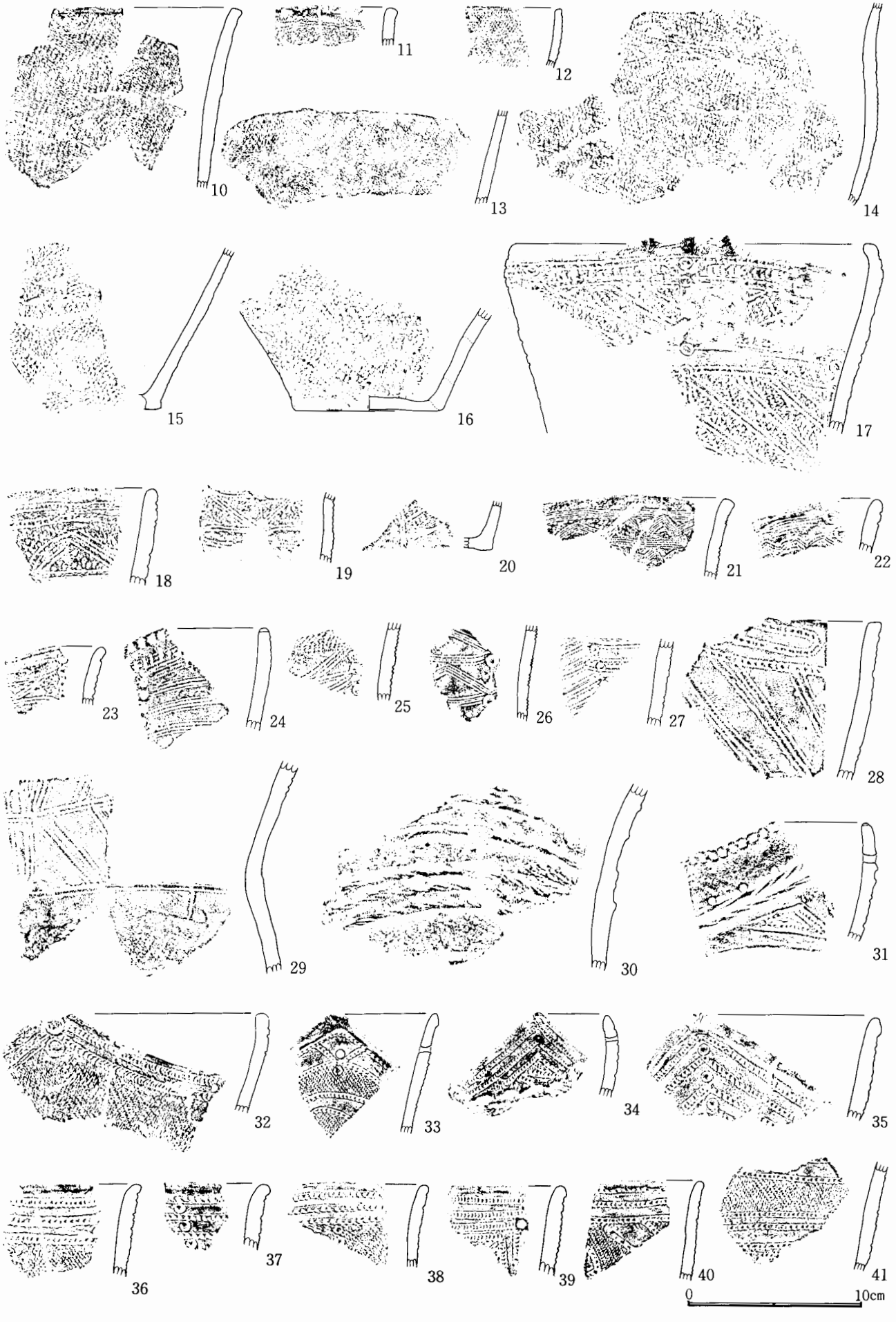
表—63　J 21号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		2								1																			21				24
安山岩		1																		1		3			1						3		9
計		3								1										1		3			1				21		3		33

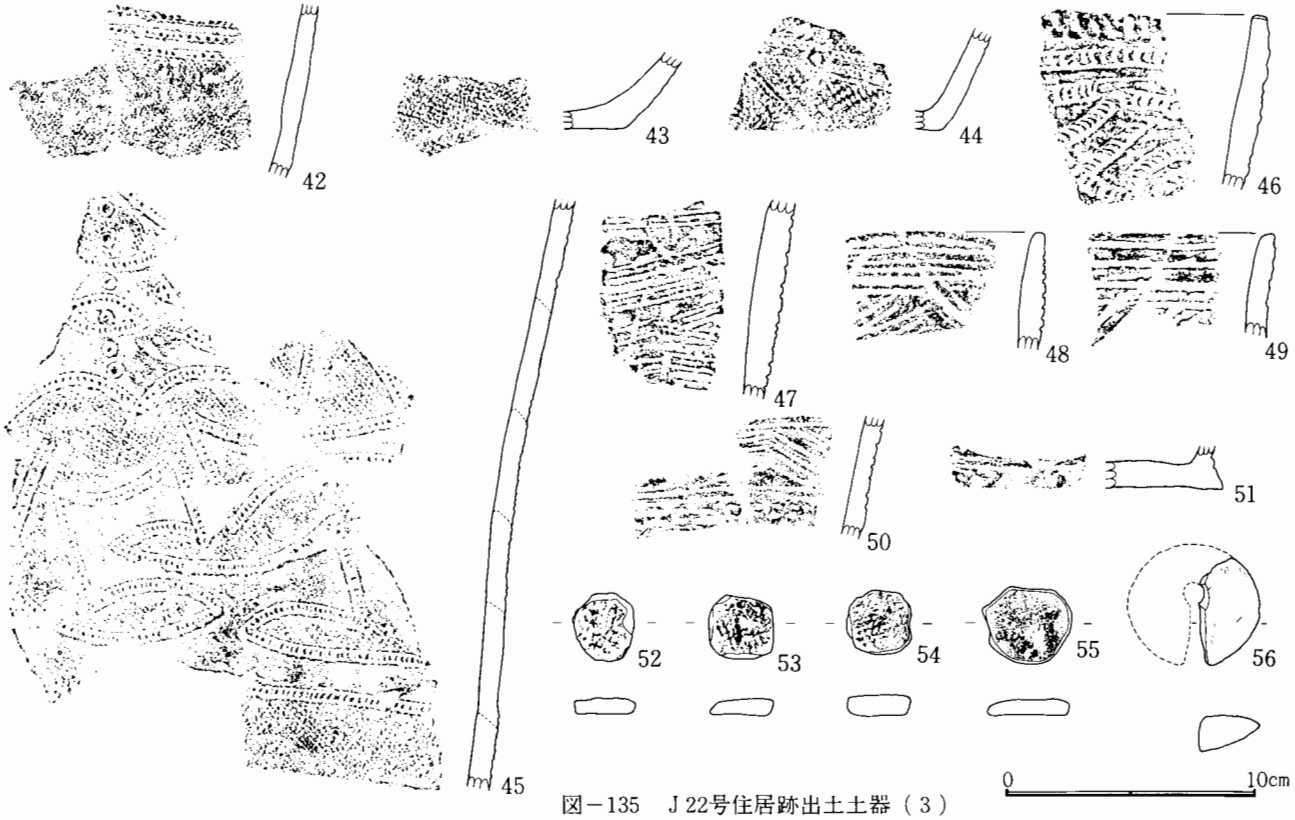
図－133　J 22号住居跡出土土器（1）

表—64　J 22号住居跡出土土器観察表（図—133・134・135　図版—89・90）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	9	口縁下C字形刺突列。波頂部下に円形竹管縦位刺突列。RLの斜縄文。折り返し口縁。波状口縁。	①砂粒②にぶい橙色③口縁部	諸磯a	＋8	
2	雑	円形竹管縦位刺突列。RLの斜縄文。口縁付近外反。波状口縁。	①砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯a	—	
3	雑	RLの斜縄文。円形竹管縦位刺突列。口縁付近外反。波状口縁。	①砂粒②橙色③口縁部	諸磯a	—	
4	33・35	RLの斜縄文。円形竹管縦位刺突列。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯a	＋57 ＋54	
5	21	LRの斜縄文。円形竹管縦位刺突列。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯a	＋51	



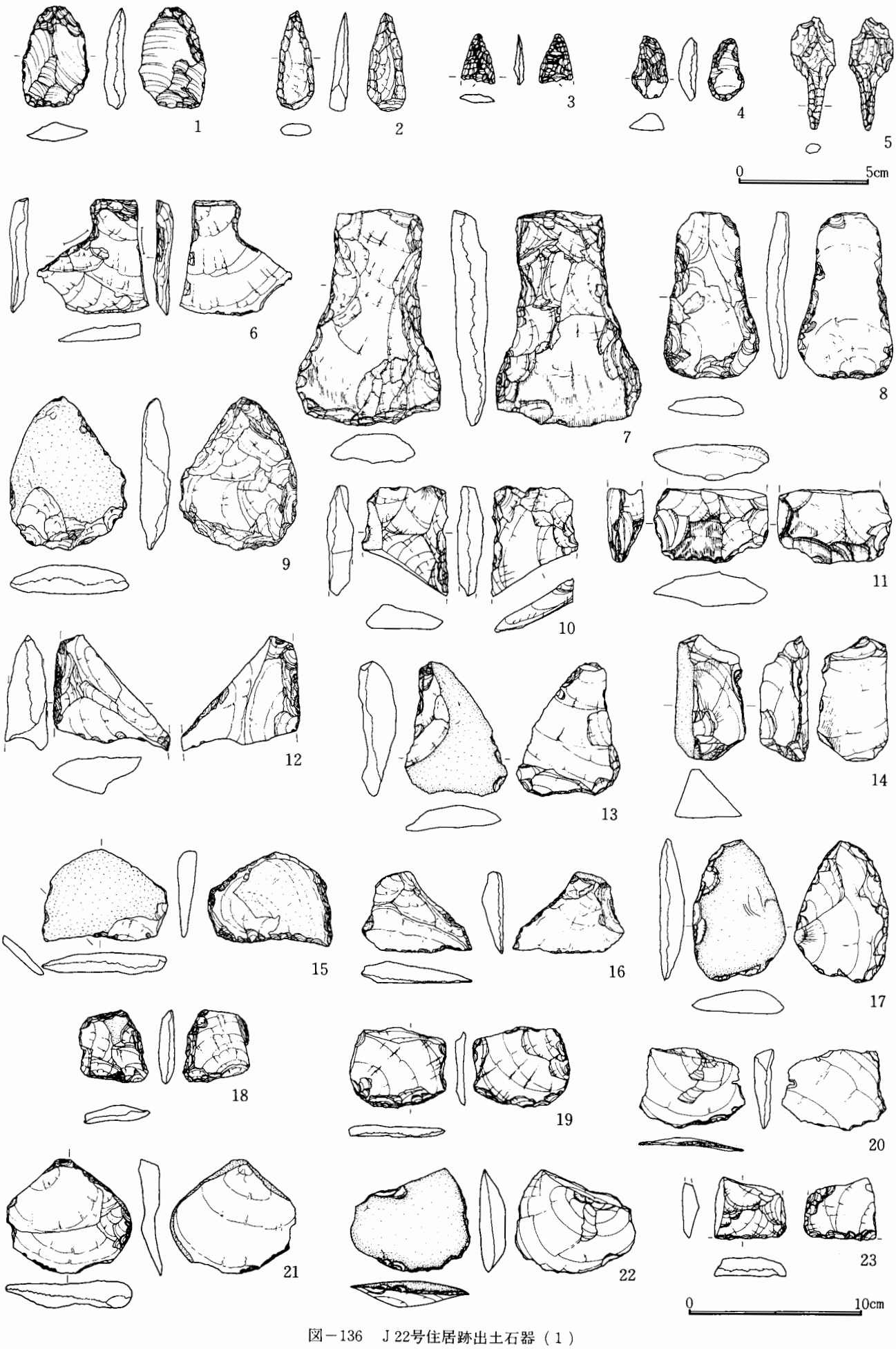
図－134　J 22号住居跡出土土器（２）



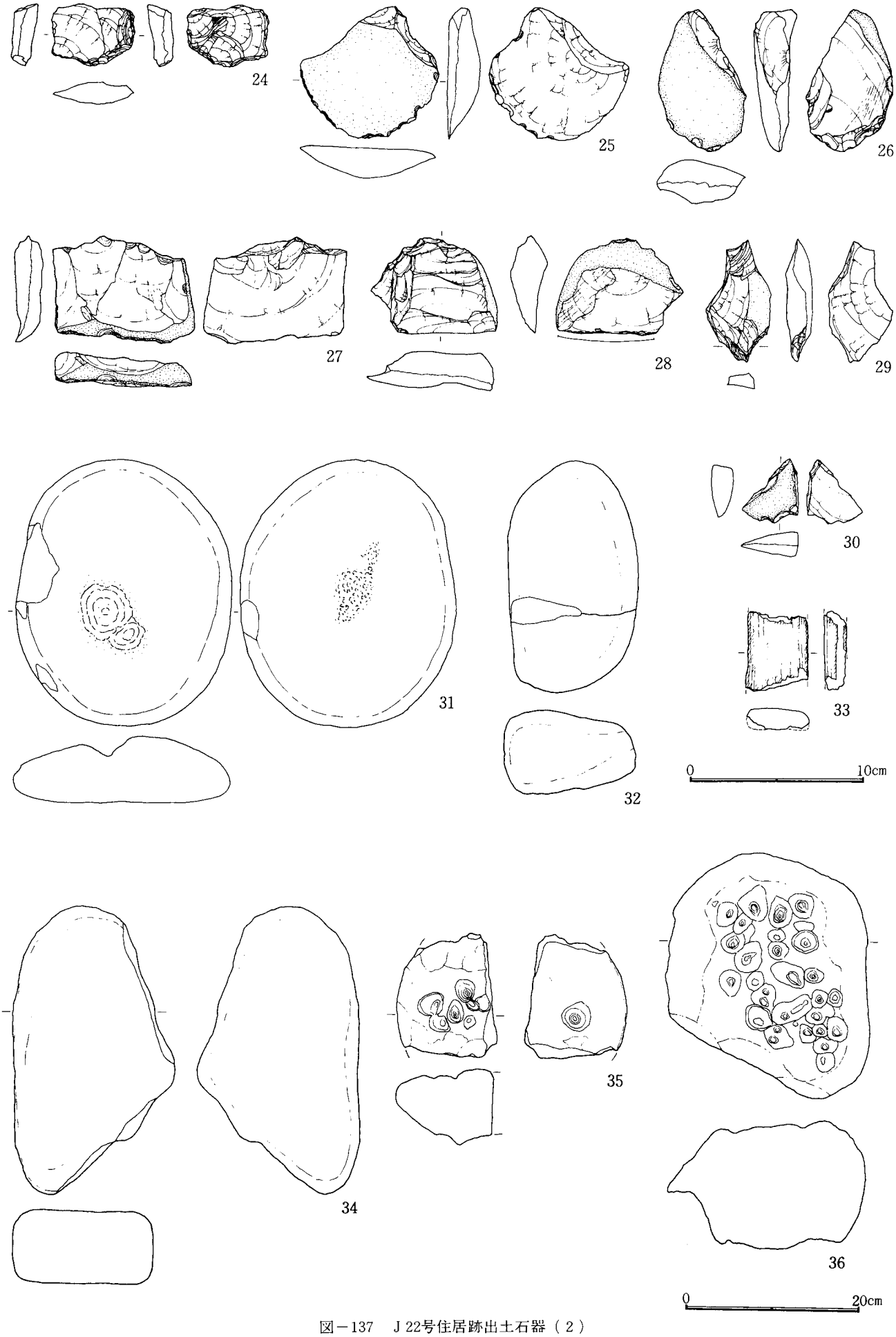
図－135　J22号住居跡出土土器（３）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　　考
6	9・14	ＲＬの斜縄文。円形竹管縦位刺突列。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯ａ	＋８ ＋９	
7	雑	細いＲＬの斜縄文。平口縁。穿孔。	①砂粒②にぶい橙色③口縁部	諸磯ａ	—	
8	雑	ＲＬの斜縄文(縦方向施文)。平口縁。口縁端縦位刻み列。	①砂粒②橙色③口縁部	諸磯ａ	—	
9	雑	細いＲＬの斜縄文。平口縁。	①砂粒②橙色③口縁部	諸磯ａ	—	
10	38	ＬＲの斜縄文。平口縁。外反。	①砂粒②明赤褐色③口縁部	諸磯ａ	＋56	
11	雑	末端結節の細いＲＬの斜縄文。平口縁。	①砂粒②明赤褐色③口縁部	諸磯ａ	—	
12	雑	口縁下に幅狭のＣ字形刺突列。細いＲＬの斜縄文。平口縁。若干内湾。	①砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯ａ	—	
13	39	ＲＬ・ＬＲの雑な羽状縄文。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯	＋46	
14	24	ＲＬの斜縄文。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯ａ	＋48	
15	雑	ＲＬの斜縄文。	①砂粒②明赤褐色③底部	諸磯ａ	—	
16	8	ＲＬの斜縄文（やや太め）。平底。	①砂粒②明赤褐色③底部	諸磯ａ	＋43	
17	雑	口縁下に３条のＣ字形刺突列。その下方は平行沈線による直線的な肋骨文。縦線上に円形竹管刺突列。ＲＬの斜縄文。平口縁。口縁付近で内湾。口縁端に３個一対の小突起。①砂粒②明赤褐色③口縁部　諸磯ａ　—				
18	雑	口縁下に２条の幅狭Ｃ字形刺突列。曲線的な平行沈線。ＲＬの斜縄文。	①砂粒②にぶい橙色③口縁部	諸磯ａ	—	
19	雑	曲線的な平行沈線。ＲＬの斜縄文。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯ａ	—	
20	雑	平行沈線の斜格子。ＲＬの斜縄文。	①砂粒②明赤褐色③底部	諸磯ａ	—	
21	雑	４本１組の櫛状工具による平行沈線と波状文。平口縁。	①砂粒②橙色③口縁部	諸磯ａ	—	
22	雑	４本１組の櫛状工具による平行沈線と波状文。平口縁。	①砂粒②橙色③口縁部	諸磯ａ	—	
23	雑	平行沈線の肋骨文。縦位の円形竹管刺突列。ＲＬの斜縄文。平口縁。	①砂粒②明赤褐色③口縁部	諸磯ａ	—	

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
24	雑	4本1組の櫛状工具による平行沈線の肋骨文。縦位の円形竹管刺突列。波状口縁。口縁下櫛状工具の刺突列。口縁端刻み列。①砂粒②橙色③口縁部 諸磯a —				
25	雑	4本1組の櫛状工具による平行沈線の肋骨文。縦位の円形竹管刺突列。波状口縁。口縁下櫛状工具の刺突列。口縁端刻み列。①砂粒②にぶい赤褐色③胴部 諸磯a —				
26	雑	4本1組の櫛状工具による平行沈線の肋骨文。縦位円形竹管刺突列。	①砂粒②にぶい黄橙色③胴部	諸磯a	—	
27	雑	4本1組の櫛状工具による平行沈線の肋骨文。縦位円形竹管刺突列。	①砂粒②にぶい褐色③胴部	諸磯a	—	
28	雑	口縁下C字形刺突列。撫でた胴部。	①砂粒混入②明褐色③口縁部	黒浜	—	
29	43	上半に平行沈線の直線的な肋骨文。胴部下半にLRの斜縄文。緩い波状口縁。緩く開き口縁に続く。	①繊維②明褐色③口縁～胴部	黒浜	住外	
30	41	RLの斜縄文。矢羽根状刻み入浮線。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯b	+44	
31	雑	矢羽根状刻み入浮線。C字形刺突列に囲まれた入組み文。口縁端刻み列。波状口縁。内湾。穿孔あり。	①砂粒②明赤褐色③口縁部	諸磯b	—	
32	雑	口縁下に2条のC字形刺突列。波頂部に円形竹管刺突。細いRLの斜縄文。波状口縁。	①繊維②にぶい橙色③口縁部	黒浜	—	
33	雑	幅狭C字形刺突列の弧線入組み文中に細いRL斜縄文。波状口縁。波頂下に穿孔と円形竹管刺突。	①砂粒②にぶい黄橙色③口縁部	諸磯a	—	
34	雑	口縁に添った幅狭C字形刺突列。波状口縁。波頂下に穿孔。	①砂粒②にぶい黄橙色③口縁部	諸磯a	—	
35	雑	口縁に添った幅狭C字形刺突列。波頂下に円形竹管刺突列。	①砂粒②赤褐色③口縁部	諸磯a	—	
36	雑	口縁下に4条の幅狭C字形刺突列。	①砂粒②明赤褐色③口縁部	諸磯a	—	
37	雑	口縁下に幅狭C字形刺突列。縦位円形竹管刺突列。	①砂粒②赤褐色③口縁部	諸磯a	—	
38	雑	口縁下に幅狭C字形刺突列。縦位円形竹管刺突列。RLの斜縄文。	①砂粒②にぶい黄橙色③口縁部	諸磯a	—	
39	雑	口縁下に逆C字形刺突列。穿孔。	①砂粒②赤褐色③口縁部	諸磯a	—	
40	雑	幅狭C字形刺突列の弧線入組み文中に細いRL斜縄文。外側は撫で。	①砂粒②橙色③口縁部	諸磯a	—	
41	雑	幅狭C字形刺突列の弧線入組み文中に細いRL斜縄文。外側は撫で。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯a	—	
42	雑	口縁下に2条の幅狭C字形刺突列RLの斜縄文。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯a	—	
43	雑	RLの斜縄文。平底。	①砂粒②橙色③底部	諸磯a	—	
44	38	縦方向施文のRL・LRの羽状縄文。C字形刺突列。棒状工具小口刺突。	①繊維②にぶい橙色③底部	黒浜	+52	
45	雑	C字形刺突列の弧線入組み文。内部に付加条RL+Lの斜縄文。外側は撫で。縦位円形竹管刺突列。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯a	—	
46	雑	幅広C字形刺突列。口縁端刻み列。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯b	—	
47	26	平行沈線による菱形構成。	①繊維②明赤褐色③胴部	黒浜	+12	49と同一個体
48	雑	口縁下に平行沈線。平口縁。	①砂粒②橙色③口縁部	諸磯b	—	
49	雑	口縁下に平行沈線。平口縁。	①繊維②にぶい橙色③口縁部	黒浜	—	
50	雑	横位の平行沈線とその刺突列。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯b	—	
51	雑	平行沈線。	①砂粒②にぶい赤褐色③底部	諸磯b	—	
52	雑	土製円盤。RLの斜縄文。	①砂粒②橙色③完形	諸磯	—	
53	雑	土製円盤。RLの斜縄文。	①砂粒②橙色③完形	諸磯	—	
54	雑	土製円盤。LRの斜縄文。	①砂粒②橙色③完形	諸磯	—	
55	雑	土製円盤。	①砂粒②明黄褐色③完形	諸磯	—	
56	雑	土製耳飾り。全面撫で。	①砂粒②赤褐色③½残	諸磯	—	



図－136　J 22号住居跡出土石器（１）



図－137　J 22号住居跡出土石器（２）

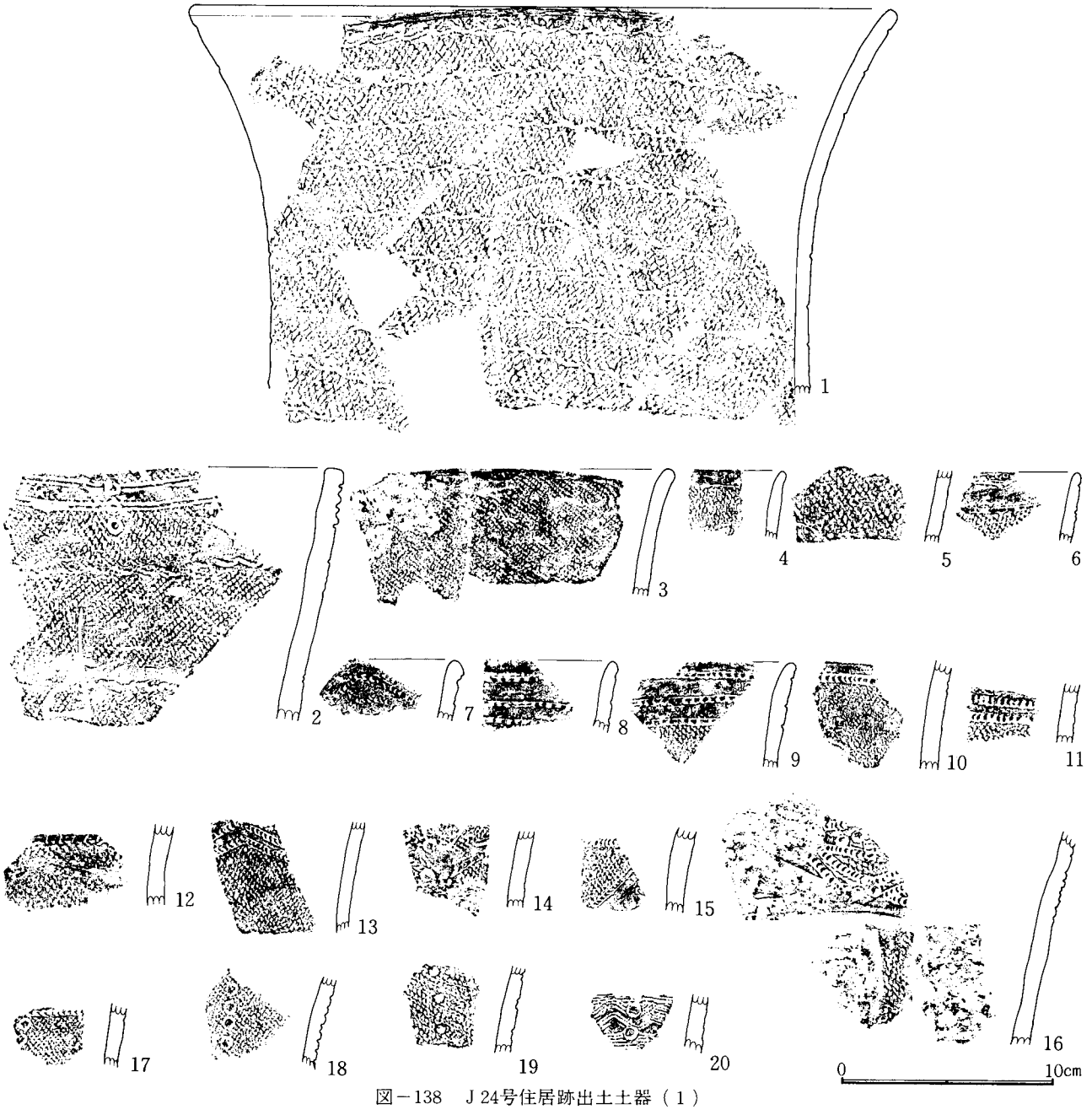
表－65　J 22号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	雑	石鏃	3.9	3.1	0.9	8	珪	—	—	—	—	—	—	—	覆
2	雑	〃	3.8	1.5	0.7	4	安	—	—	—	—	—	—	—	覆
3	雑	〃	1.9	1.3	0.4	2	珪	—	—	—	—	—	—	—	欠 覆
4	雑	〃	2.4	1.4	0.7	3	〃	—	—	—	—	—	—	—	覆
5	3	石錐	4.3	1.7	0.6	4	〃	—	—	—	—	—	—	—	住外
6	雑	石匙	6.6	6.4	1.2	39	黒頁	40	—	—	—	—	滅	—	覆
7	29	打製石斧	12.4	8.3	2.1	197	〃	50	—	—	—	滅	—	—	+61
8	40	〃	9.4	5.4	1.2	70	〃	30	—	—	—	—	—	—	+50
9	雑	〃	9.0	6.7	1.7	114	〃	60	—	—	—	—	—	—	覆
10	雑	〃	(6.3)	4.9	1.4	44	〃	—	—	—	欠	—	—	—	欠 覆
11	雑	〃	(4.2)	6.7	2.1	64	〃	50	—	—	—	滅・欠	—	—	欠 覆
12	雑	〃	(6.6)	6.8	2.4	60	〃	—	—	—	欠	欠	—	—	欠 覆
13	雑	交刃削器	7.6	5.9	2.6	82	〃	50	—	—	—	—	—	—	覆
14	雑	直刃削器	7.5	4.1	3.0	86	〃	50	—	—	—	—	—	—	覆
15	雑	交刃削器	6.9	5.0	1.1	45	〃	35	—	—	—	—	—	—	覆
16	27	〃	4.7	6.4	1.2	28	〃	45	—	—	—	—	—	—	+17
17	雑	凸刃削器	8.5	5.4	1.3	68	〃	30	—	—	—	—	—	—	覆
18	雑	交刃削器	4.3	3.9	0.9	18	〃	45	—	—	—	—	—	—	覆
19	雑	凸刃削器	5.5	4.6	0.7	20	〃	30	—	—	—	—	—	—	覆
20	雑	〃	4.6	6.5	1.1	25	〃	25	—	—	—	—	—	—	覆
21	23	U F	6.7	7.2	1.6	55	〃	25	—	—	—	—	—	—	凸刃 +19
22	雑	凸刃削器	6.0	6.8	1.5	58	〃	35	—	—	—	—	—	—	覆
23	雑	直刃削器	(3.7)	(4.1)	1.1	18	〃	35	—	—	—	—	—	—	欠 覆
24	雑	R F	4.7	3.6	1.5	28	頁	40 70	—	—	—	—	—	—	直刃・2刃 覆
25	雑	U F	7.5	8.0	1.7	96	黒頁	35	—	—	—	—	—	—	凸刃 覆
26	雑	〃	8.1	5.5	2.4	76	〃	45	—	—	—	—	—	—	凸刃 覆
27	雑	U F	6.1	8.1	2.0	79	黒頁	30	—	—	—	—	—	—	直刃 覆
28	雑	〃	5.4	7.2	2.1	85	〃	40	—	—	—	滅	—	—	直刃 覆
29	25	R F	7.0	3.8	1.6	35	〃	60	—	—	—	—	—	—	凹刃 北壁面
30	雑	鋸歯縁石器	3.1	3.2	1.4	13	〃	60	—	—	—	—	—	—	覆
31	雑	円礫石器	15.3	12.3	3.8	870	安	—	凹1	敲1→擦1	—	—	—	—	覆
32	雑	敲き石	13.2	7.4	4.8	580	〃	—	—	—	—	敲2	—	—	覆
33	雑	棒状石器	(4.5)	3.5	1.2	31	黒片	—	擦1	擦1	欠	欠	擦1	擦1	欠 覆
34	47	石皿	32.2	18.3	8.4	8,200	安	—	擦1	擦1	—	—	—	—	+2

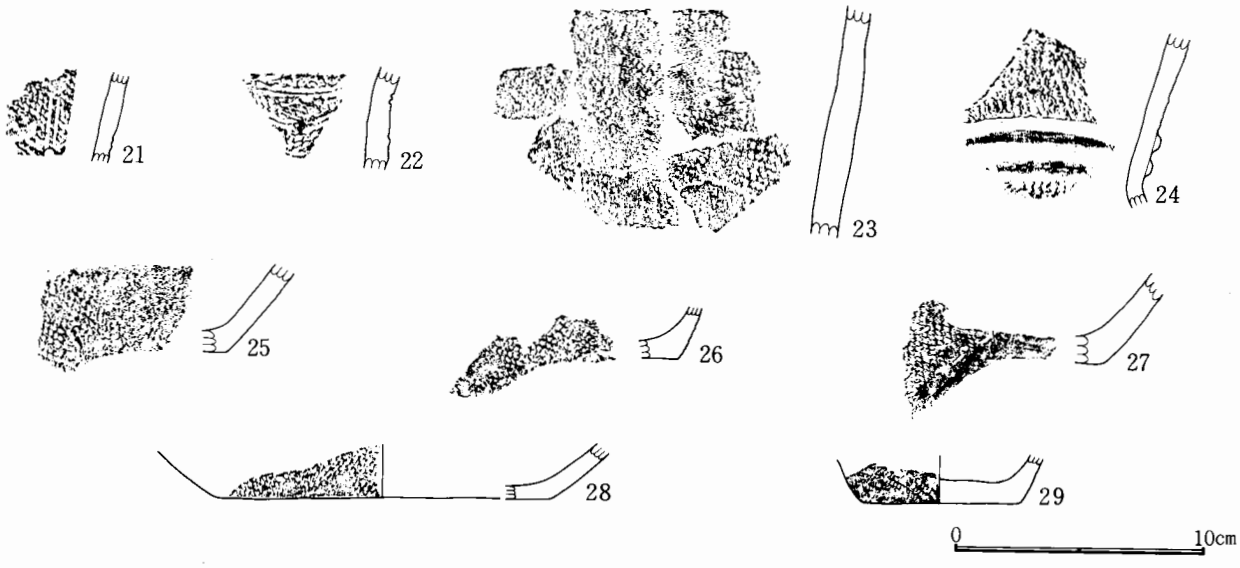
No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
35	48	多凹石＋石皿	(14.2)	(11.4)	8.4	1,620	〃	—	凹7	凹1・皿	—	—	—	—	欠 P_4内
36	49	多凹石	28.3	23.0	15.9	12,500	〃	—	凹	—	—	—	—	—	赤化→凹・敲 東壁上面

表－66　J 22号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種／石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		6				1			2	4		4		1				1	5										109				133
頁岩																		1															1
黒色安山岩																													37				37
安山岩	1																				1	1			2	1			1		10		17
黒曜石																													3				3
珪岩	3			1																									24				28
黒色片岩																								1									1
結晶片岩																													2				2
計	4	6		1		1			2	4		4		1				2	5		1	1		1	2	1			176		10		222



図－138　J 24号住居跡出土土器（1）



図－139　Ｊ24号住居跡出土土器（２）

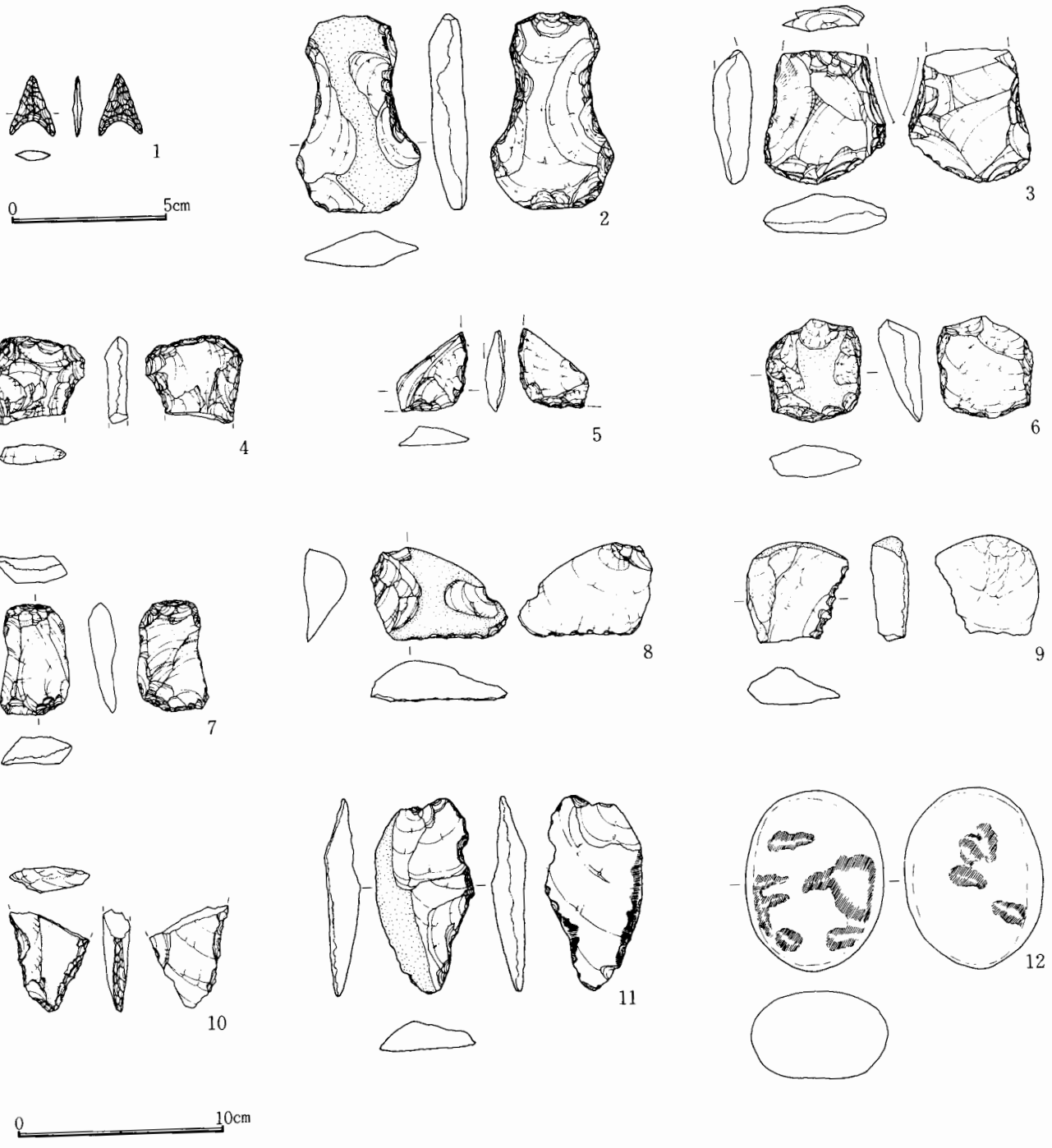
表－67　Ｊ24号住居跡出土土器観察表（図－138・139　図版－90・91）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	12・13・14・表	Ｌの結節Ｒ－ＬＬＬの斜縄文を全面施文。緩く外反。平口縁。	①砂粒②明赤褐③口縁～胴部中位	諸磯ａ	＋13 ＋19＋25	
2	16	Ｌの結節で付加条ＲＬ＋Ｌ・ＬＲ＋Ｒの羽状縄文。口縁下に幅狭の平行沈線２条。縦位円形竹管刺突列。緩い波状口縁。直線的に開く。①砂粒混入②にぶい黄橙色③口縁部　黒浜　＋９				
3	雑	全面細いＲＬの斜縄文。平口縁。	①砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯ａ	－	
4	雑	口縁下撫で。全面細いＲＬの斜縄文。	①砂粒②明赤褐色③口縁部	諸磯ａ	－	
5	9	異条ＲＬの斜縄文。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯ａ	P_7内	
6	10	口縁下幅狭Ｃ字形刺突列。	①砂粒②明赤褐色③口縁部	諸磯ａ	P_7内	
7	雑	口縁下幅狭Ｃ字形刺突列。	①砂粒②赤褐色③口縁部	諸磯ａ	－	
8	雑	口縁下幅狭Ｃ字形刺突列。	①砂粒②にぶい黄橙色③口縁部	諸磯ａ	－	
9	雑	口縁下幅狭Ｃ字形刺突列（３条）。ＲＬの斜縄文。	①砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯ａ	－	
10	雑	幅狭Ｃ字形刺突列。Ｌ－ＲＲＲ斜縄文。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯ａ	－	
11	雑	幅狭Ｃ字形刺突列。ＲＬの斜縄文。	①砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯ａ	－	
12	雑	幅狭Ｃ字形刺突列。ＲＬの斜縄文。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯ａ	－	
13	雑	幅狭Ｃ字形刺突列。ＲＬの斜縄文。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯ａ	－	
14	雑	幅狭Ｃ字形刺突の弧線入組み文。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯ａ	－	
15	雑	円形竹管刺突列。ＲＬの斜縄文。区画外撫で。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯ａ	－	
16	5	幅狭Ｃ字形刺突列の弧線入組み文。胴部下半ＲＬの斜縄文。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯ａ	＋５	
17	雑	円形竹管刺突列。幅狭Ｃ字形刺突列。ＲＬの斜縄文。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯ａ	－	
18	雑	円形竹管刺突列。ＲＬの斜縄文。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯ａ	－	
19	雑	円形竹管刺突列。付加条ＲＬ＋Ｌの斜縄文。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯ａ	－	
20	雑	４本１組の櫛状工具の波状文と平行沈線。円形竹管刺突列。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯ａ	－	

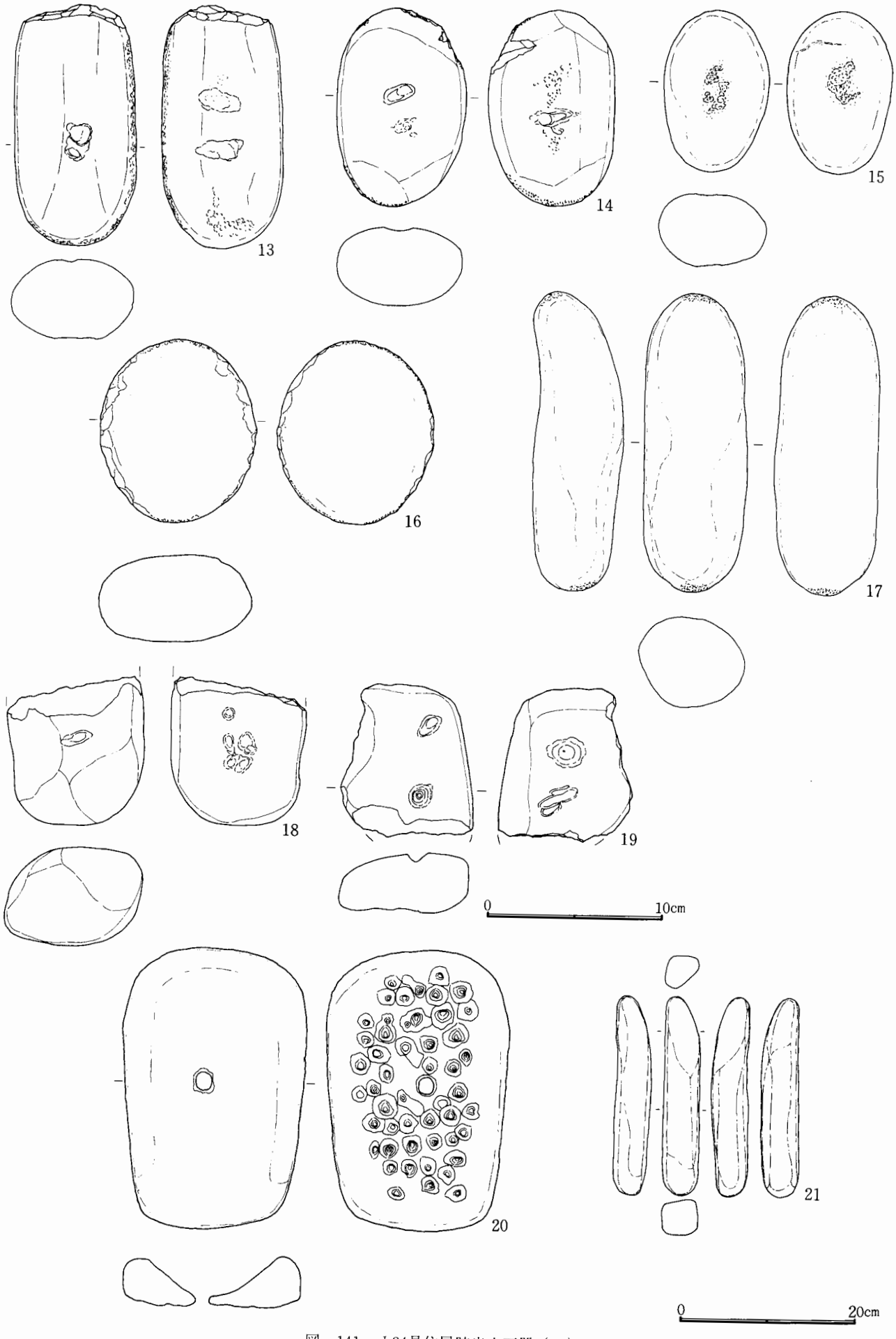
番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
21	雑	平行沈線。円形竹管刺突列。RLの斜縄文。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯a	—	
22	雑	平行沈線。RLの斜縄文。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯a	—	
23	11	RLの斜縄文（全面荒れ）	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯	+20	
24	雑	RLの斜縄文。隆帯。沈線。	①片岩②明赤褐色③胴部	諸磯	—	
25	雑	RLの斜縄文。	①砂粒②橙色③底部	諸磯a	—	
26	雑	RLの斜縄文。	①砂粒②橙色③底部	諸磯a	—	
27	雑	RLの斜縄文。	①砂粒②橙色③底部	諸磯a	—	
28	雑	RLの斜縄文。	①砂粒②明赤褐色③底部	諸磯a	—	
29	雑	RLの斜縄文。	①砂粒②にぶい橙色③底部	諸磯a		

表—68　J24号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	雑	石鏃	1.9	1.4	0.3	3	珪	—	—	—	—	—	—	—	覆
2	雑	打製石斧	9.5	6.0	1.6	111	黒頁	30	—	—	—	—	—	—	覆
3	雑	〃	(6.4)	5.9	1.9	80	〃	70	—	—	欠	—	潰	潰	基部欠 覆
4	雑	〃	(4.2)	4.7	1.1	25	〃	—	—	—	—	欠	—	—	刃部欠 覆
5	雑	〃	(3.9)	(3.4)	(1.0)	10	〃	35	—	—	欠	滅1	欠	—	刃部のみ 覆
6	雑	〃	5.0	4.6	2.0	48	〃	40	—	—	—	—	—	—	覆
7	15	楔形石器	5.4	3.4	1.4	28	赤珪	50 40	—	—	—	潰	—	—	+20
8	雑	直刃削器	6.7	5.2	2.0	46	黒頁	35	—	—	—	—	—	—	覆
9	7	〃	4.8	5.0	1.7	46	〃	40	—	—	—	—	—	—	+3
10	雑	交刃削器	(5.0)	(3.8)	(1.2)	22	〃	40 75	—	—	—	—	—	—	欠 覆
11	12	UF	9.4	4.7	1.7	58	〃	30 50	—	—	—	滅3	—	—	+13
12	19	円礫石器	8.7	6.7	4.2	389	安	—	擦1	擦1→火	—	—	—	—	床直
13	18	〃	13.7	6.9	4.5	783	〃	—	敲2→擦2	敲2→擦2	敲3	敲1	—	敲2 →擦1	+8
14	雑	円礫石器	11.3	7.3	4.4	562	〃	—	凹1・敲1	凹1・敲1	敲3	敲2	敲1 →擦1	敲1 →擦1	覆
15	22	〃	9.2	6.0	4.1	334	〃	—	敲2→擦1	敲2→擦1	敲1	敲1	—	—	+3
16	20	〃	10.3	9.0	5.0	647	〃	—	擦1	擦1	敲2	敲2	敲2	敲2	+12
17	21	〃	16.8	5.9	5.0	785	〃	—	擦1	擦1	敲1	敲1	擦1	—	標高不
18	19	多凹石	(8.5)	7.8	5.6	453	〃	—	凹1→擦1	凹4→擦1	擦2	欠	—	擦2	欠 床直
19	19	〃	(8.7)	7.6	3.4	330	〃	—	凹2	凹2	—	欠	—	—	欠 床面
20	30	石皿＋多凹石	32.3	21.0	6.0	5,050	〃	—	擦1	凹3	敲2	敲2	敲2	敲2	+7
21	1	磨石	22.8	4.0	4.1	688	斑	—	擦1	擦1	—	—	擦1	擦1	+5



図－140　J 24号住居跡出土石器（１）



図－141　J 24号住居跡出土石器（２）

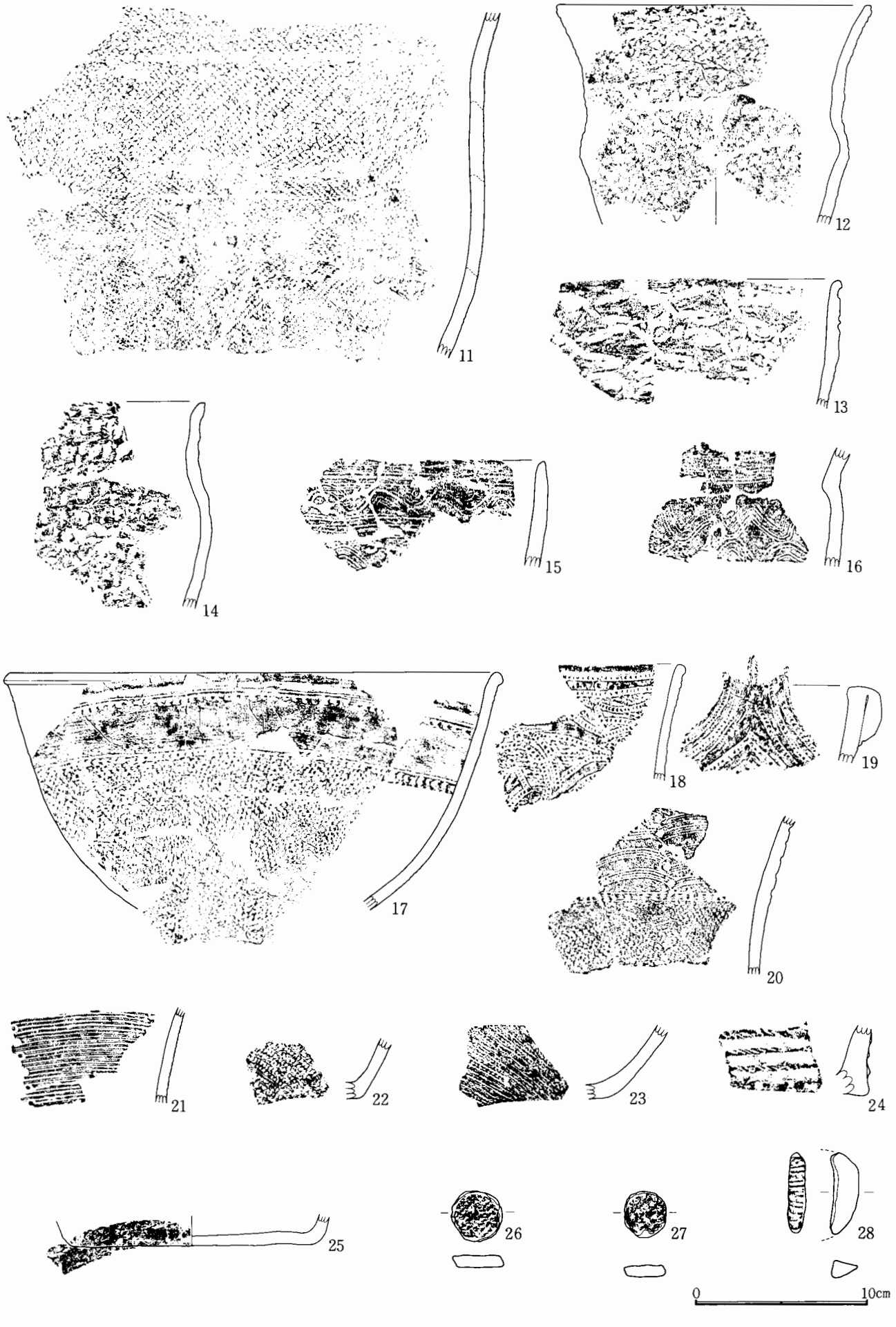
表—69　J24号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		5							2			1							1										20				29
黒色安山岩																													6				6
安山岩																					6			1	2			3				12
斑岩																				1													1
赤色珪質岩																1												4				5
珪岩	1																											2				3
結晶片岩																												1				1
計	1	5							2			1				1			1	1	6			1	2			36				57

表—70　J25号住居跡出土土器観察表（図—142・143　図版—91・92・93）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	9	全面Lの斜縄文。平口縁。	①繊維②にぶい橙色③口縁部	黒浜	－4	
2	10・17・28	全面RL・LRの羽状縄文。平口縁。	①繊維②橙色③口縁～胴部	黒浜	＋4＋9 床直	
3	50	全面RL・LRの羽状縄文。平口縁。	①繊維②にぶい褐色③口縁～胴部	黒浜	＋26	
4	31	付加条RL＋L・LR＋Lの羽状縄文。	①繊維②明赤褐色③胴部	黒浜	＋19	
5	15	全面RL・LRの羽状縄文。平口縁。	①繊維②明黄褐色③口縁部	黒浜	＋3	
6	28	RL・LRの羽状縄文。脆い。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	埋甕	
7	59・63・78	全面RL・LRの羽状縄文。	①繊維②明赤褐色③胴部	黒浜	＋8 ＋18	
8	雑	全面RL・LRの羽状縄文（器面荒れ）。平口縁。	①繊維②明黄褐色③胴部	黒浜	—	
9	49	RL・LRの羽状縄文。平底。	①繊維②橙色③底部	黒浜	＋36	
10	—	LR？（施文後撫で）。上げ底。	①繊維②橙色③底部	黒浜	—	
11	11	付加条LR＋R・結節のRLの羽状縄文。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	＋4	
12	65	RL？（器面荒れ）。平口縁。	①繊維②明赤褐色③口縁部	黒浜	＋14	
13	12・60	ループ？（繊維が器面にでる）。	①繊維②橙色③口縁部	黒浜	床直 ＋7	
14	63	多段ループ？。頸部でくびれる。	①繊維②にぶい黄橙色③口縁部	黒浜	＋10	
15	16	平行沈線。波状文。平口縁。	①繊維②明黄褐色③口縁部	黒浜	＋7	
16	16	2本1組の平行沈線。波状文。	①繊維②にぶい黄褐色③胴部	黒浜	＋7	
17	R102—123拡	口縁下2条のC字形刺突列（その間は撫で）。RL斜縄文。浅鉢。	①砂粒②明赤褐色③口縁～胴部	諸磯a	＋68	J38・27と接
18	R102—89 35・90・拡	幅狭C字形刺突列の弧線入組み文。区画内RL斜縄文。円形竹管刺突。	①砂粒②明赤褐色③口縁部	諸磯a	＋65	
19	R102—87拡	幅狭C字形刺突列。円形竹管刺突。大波状口縁。波頂部貼付文。	①砂粒②にぶい橙色③口縁部	諸磯b	—	
20	雑	4本1組の櫛状工具の肋骨文。円形竹管刺突。RLの斜縄文。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯a	—	
21	R102—87拡	櫛状工具の横位平行沈線。縦位円形竹管刺突列。	①砂粒②にぶい黄橙色③胴部	諸磯a	—	
22	R102—87 拡・150	付加条RL＋Rの斜縄文。	①繊維②明黄褐色③底部	黒浜	＋59	
23	R102 拡	L（細い）の斜縄文。	①砂粒②明赤褐色③底部	諸磯a	—	
24	R102—87 拡・8	刻み入り浮線。	①砂粒②橙色③底部	諸磯b	＋38	
25	4・5	撫で。平底。	①繊維②橙色③底部	黒浜	＋8 ＋5	

図－142　J 25号住居跡出土土器（１）



図－143　J 25号住居跡出土土器（２）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
26	R102—87 拡	RLの斜縄文。土製円盤。	①砂粒②明赤褐色③完形	諸磯a	—	
27	R102—87 拡	撫で。土製円盤。	①砂粒②橙色③完形	諸磯	—	
28	R102—87 拡	撫で。貝殻状貼付文（剝れた物）。	①砂粒②にぶい黄橙色 ③完形	諸磯c	—	

表—71　J25号住居跡出土石器属性表

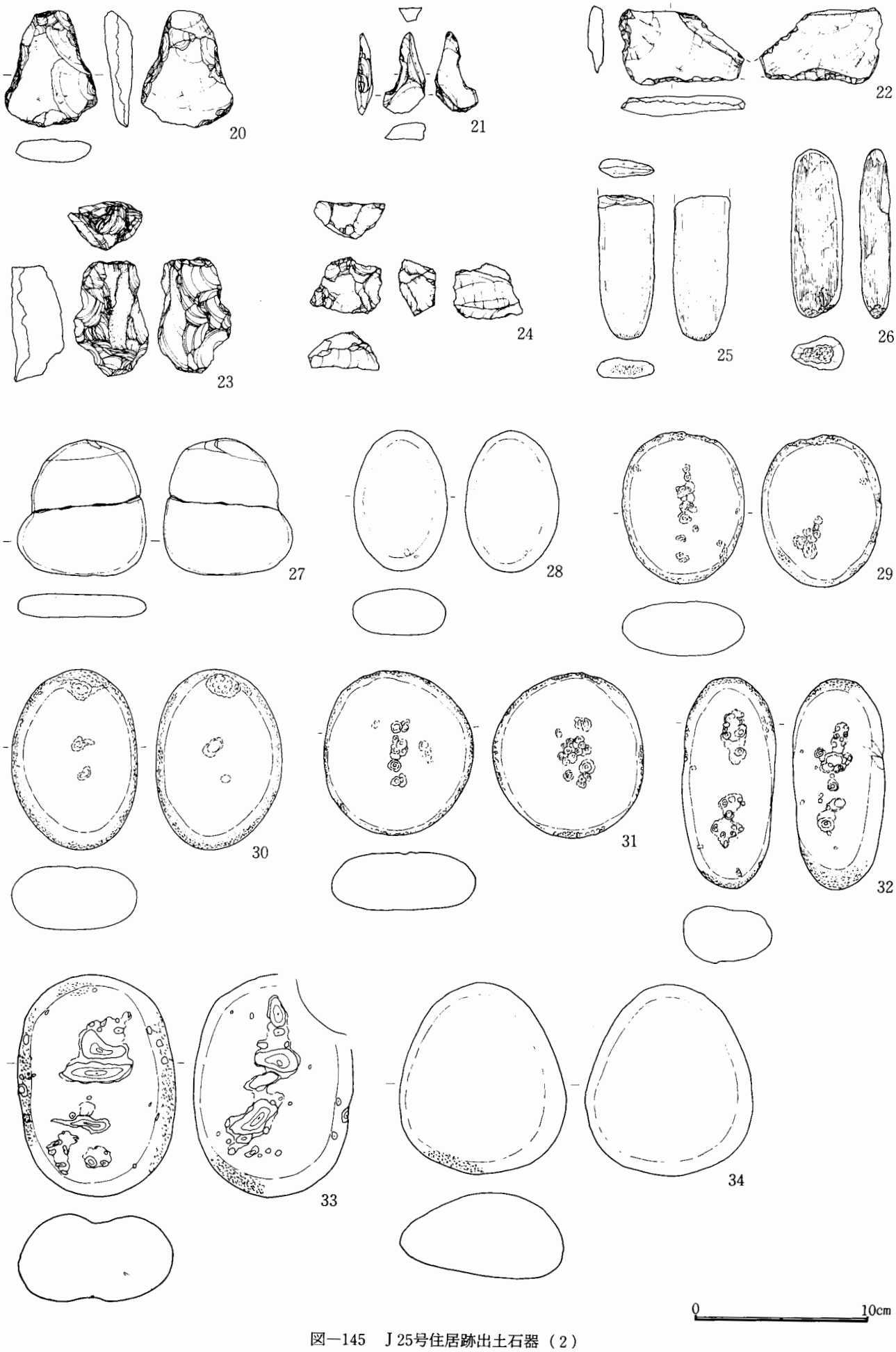
No	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	雑	石鏃	(1.7)	1.6	0.4	2	珪	—	—	—	欠	—	—	—	欠 覆
2	雑	楔形石器	2.6	3.5	0.9	10	〃	50 60	—	—	—	—	—	—	覆
3	拡	〃	2.8	1.5	0.9	45	〃	50 65	—	—	—	—	—	—	一括
4	2	棒状石器	2.1	1.2	0.7	31	蛇	—	擦2	擦2	欠	擦2	擦2	擦2	欠 +30
5	62	尖頭器	17.2	5.1	1.5	190	片	—	—	—	—	—	—	—	+16
6	拡	〃	8.2	4.7	2.9	111	黒頁	—	—	—	欠	—	—	—	一括
7	拡	石匙	4.6	5.5	1.1	19	〃	40	—	—	—	—	—	—	一括
8	拡	〃	4.8	2.7	0.8	11	〃	40	—	—	—	—	—	—	一括
9	拡	〃	3.4	3.6	5.0	7	〃	50	—	—	—	—	—	—	一括
10	拡	〃	7.9	3.8	1.3	28	〃	20	—	—	—	—	—	—	一括
11	24	打製石斧	11.9	3.3	1.3	75	〃	60	—	—	—	—	—	—	+19
12	34	〃	6.0	5.3	2.4	78	〃	60	—	—	—	—	—	—	+15
13	51	〃	18.9	10.4	5.0	850	〃	35	—	—	—	—	—	—	標高不
14	151	〃	(7.3)	6.1	1.5	52	〃	35	—	—	欠	—	—	—	欠 +72
15	拡	〃	(3.0)	4.5	1.1	25	〃	60	—	—	—	—	—	—	一括
16	拡	〃	(4.0)	4.1	9.0	23	〃	70	—	滅	欠	滅	—	—	基部欠 一括
17	拡	〃	(4.5)	4.8	2.0	53	〃	—	—	—	—	欠	—	—	一括
18	拡	〃	(5.6)	5.1	1.6	51	〃	—	—	—	—	欠	—	—	刃部欠 一括
19	1	磨製石斧	(10.9)	6.2	3.2	342	蛇	80	敲→擦	敲→擦	欠	刃 敲→擦	敲→擦	敲→擦	欠 +31
20	137	掻器	6.7	5.2	1.7	54	黒頁	60	—	—	—	—	—	—	+72
21	156	抉入石器	4.6	2.4	0.9	8	〃	60	—	—	—	—	—	—	+52
22	拡	交刃削器	4.3	(7.1)	1.2	36	〃	60 40	—	—	—	—	—	欠	欠 一括
23	46	石核	6.6	4.1	2.9	79	珪	—	—	—	—	—	—	—	+32
24	46	〃	4.0	3.1	2.1	31	〃	—	—	—	—	—	—	—	+32
25	158	棒状石器	(8.2)	3.2	1.2	49	黒片	—	—	—	欠	敲	—	—	+75
26	29	〃	9.5	3.0	1.9	85	〃	—	—	—	—	敲	—	—	+43
27	61	砥石	7.8	7.3	1.4	88	砂	—	擦1	擦1	—	—	—	—	+17
28	8	円礫石器	8.0	5.3	2.6	175	安	—	擦1	擦1	—	—	—	—	+3
29	125	〃	8.6	7.0	3.1	246	〃	—	敲2	敲2	敲3	敲2	敲2	敲2	+63

No	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
30	55	〃	10.3	7.2	3.5	416	斑	—	凹2→擦2	凹2→擦2	敲2	敲2	敲1	敲1	住外
31	30	〃	9.4	8.5	3.4	419	安	—	敲2→擦2	敲2→擦2	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	+16
32	72	〃	11.9	5.3	3.7	317	〃	—	凹3	凹3	敲1	敲1	—	—	住外
33	22	〃	12.8	10.5	5.0	886	〃	—	凹3	凹3	敲2	敲2	敲2	敲2	+5
34	43	〃	11.0	9.5	4.9	739	〃	—	擦1	擦2	敲1	敲1	敲1	敲1	+27
35	137	円礫石器	13.2	7.8	4.0	717	安	—	凹2	凹3	敲2	敲2	敲2	敲2	+54
36	雑	多凹石	12.6	9.0	7.3	1,045	〃	—	凹3	凹3	敲1→擦1	敲1→擦1	敲1→擦1	敲1→擦1	覆

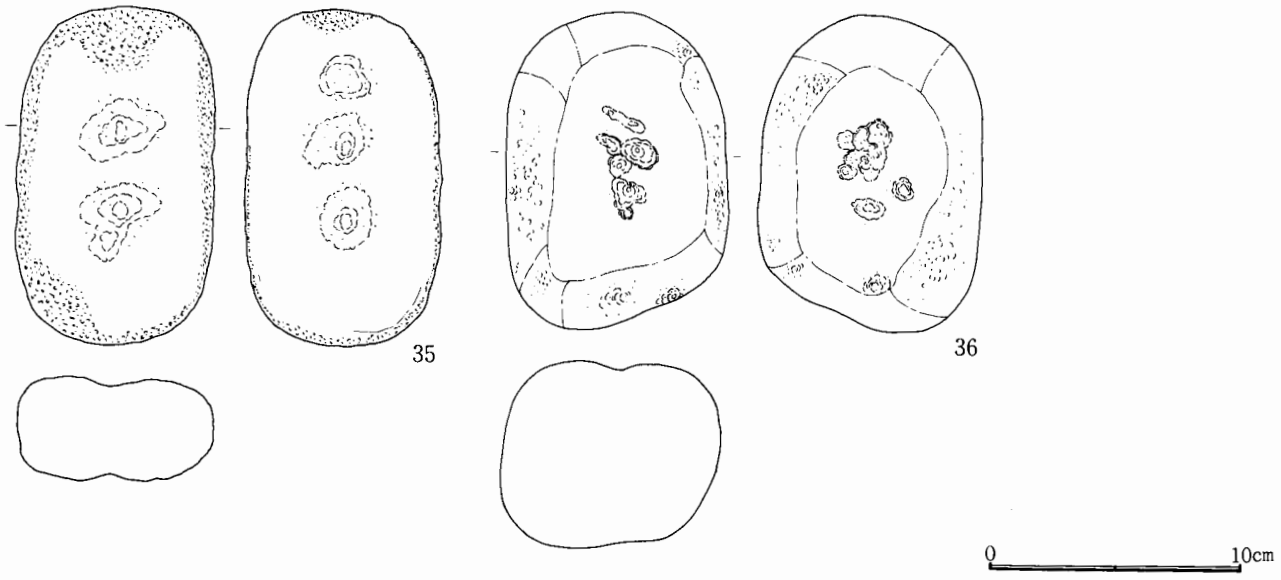
表—72　J25号住居跡石器器種・石材別一覧表

石材＼器種	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		8			1	4	1					1			1													142				158
黒色安山岩																												23				23
石英安山岩																												1				1
安山岩																						7				1				5		13
蛇紋岩			1																					1								2
斑岩																						1										1
ヒン岩																												2				2
輝緑岩																												1				1
黒曜石																												2				2
赤色珪質岩																												3				3
珪岩	1															2												27	2			32
黒色片岩					1																			2				2				5
結晶片岩																												2				2
砂岩																											1					1
計	1	8	1		2	4	1					1			1	2						8		3		1		1	205	2	5		246

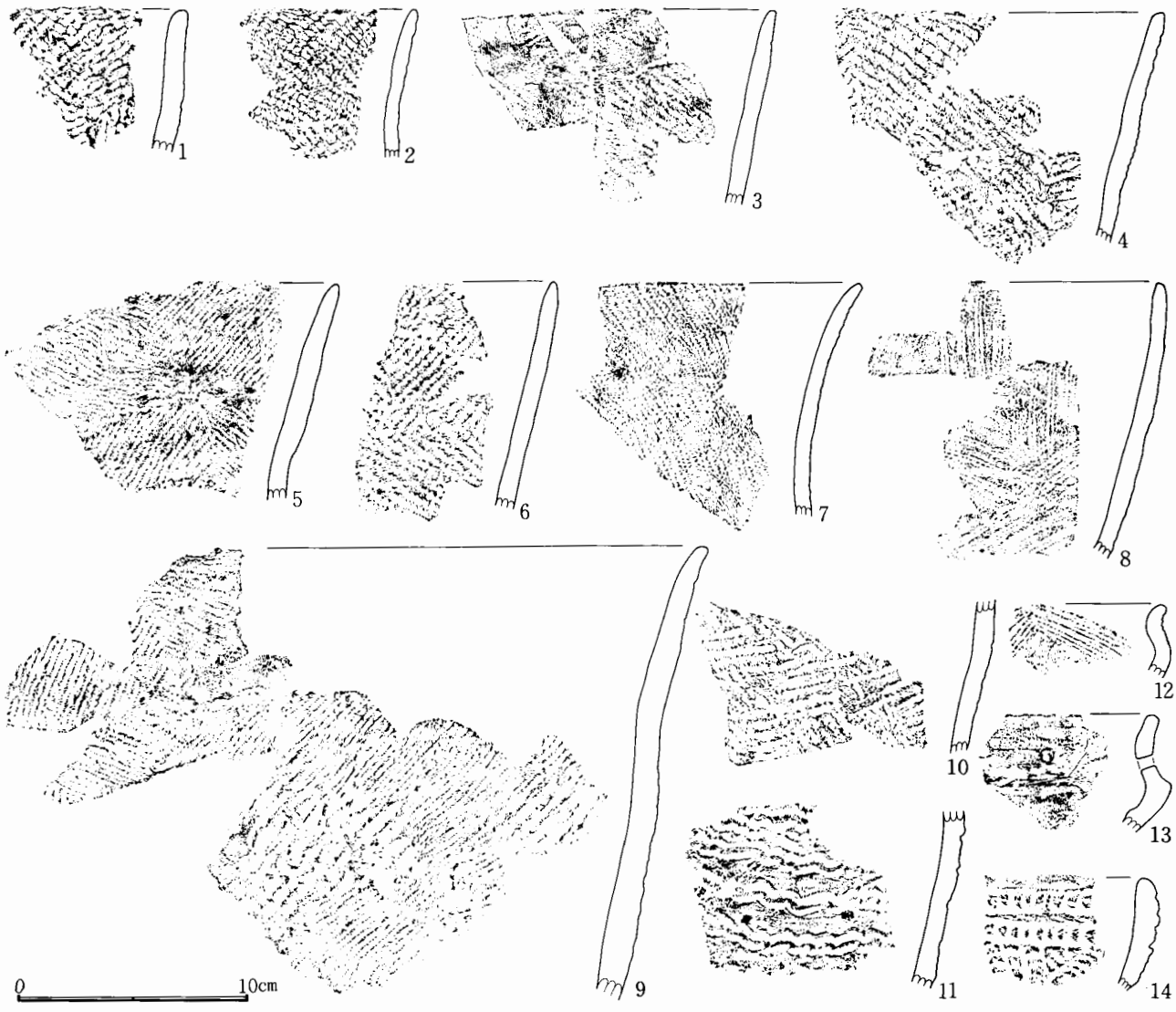
図―144　J 25号住居跡出土石器（1）



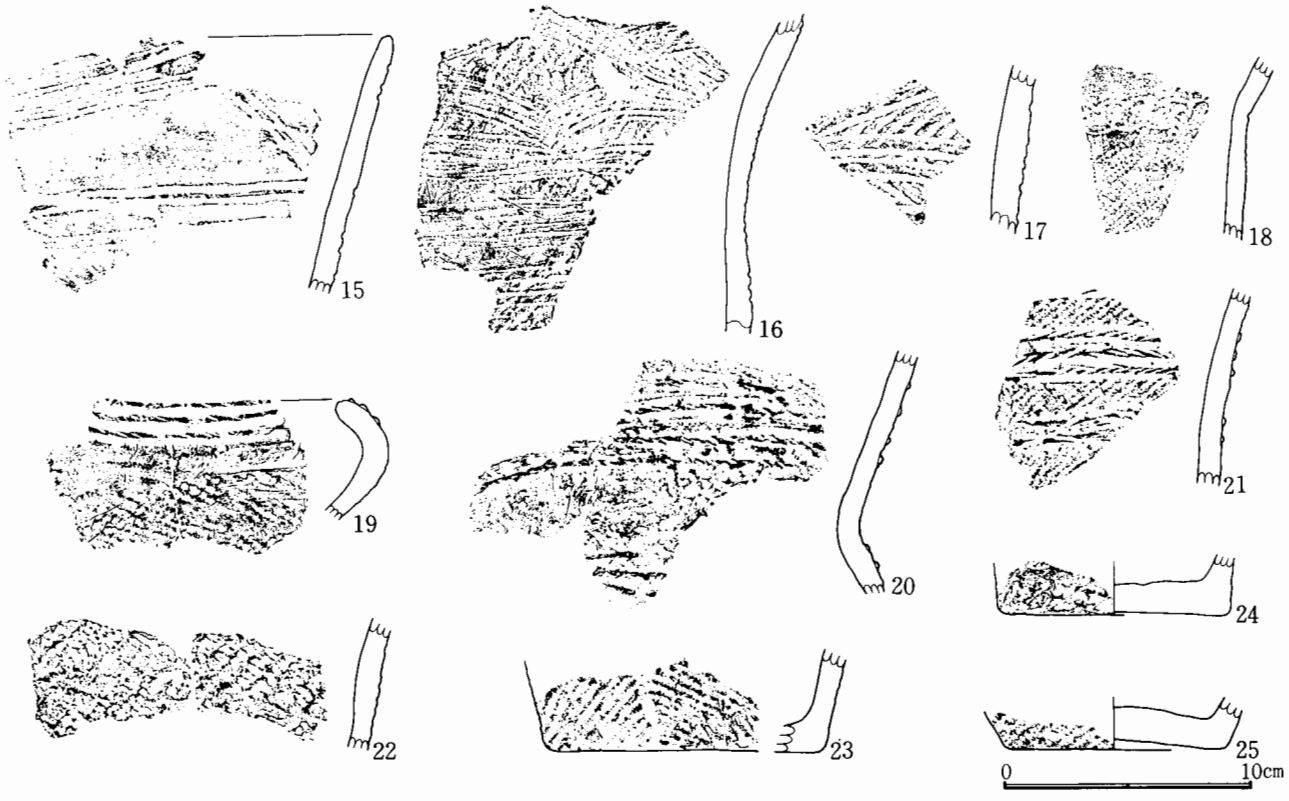
図—145　J 25号住居跡出土石器（2）



図－146　J 25号住居跡出土石器（３）



図－147　J 26号住居跡出土土器（１）



図－148　J 26号住居跡出土土器（２）

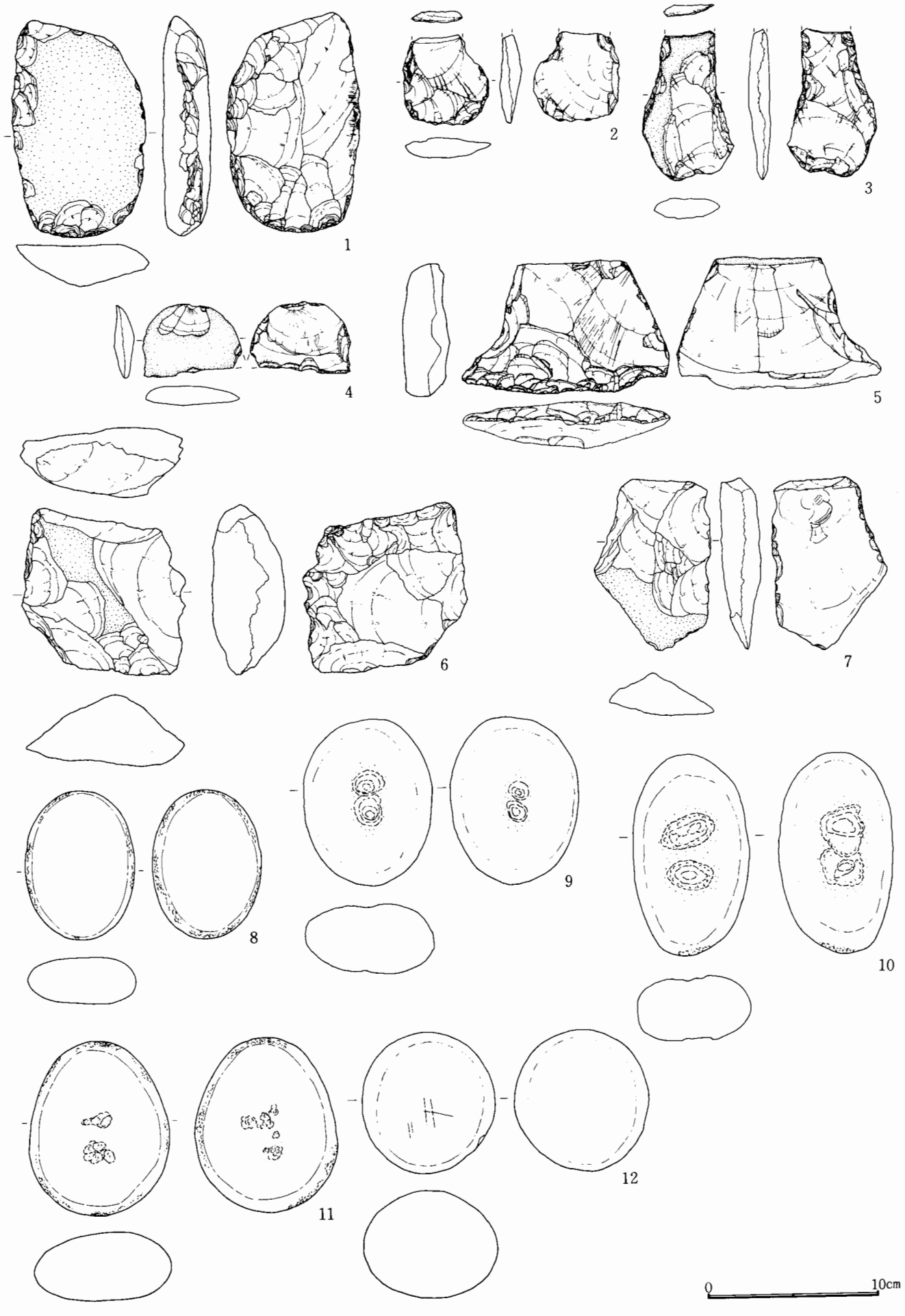
表－73　J 26号住居跡出土土器観察表（図－147・148　図版－93）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	28	ＬＲの斜縄文。口縁端内削。平口縁。	①繊維②にぶい黄橙色③口縁部	黒浜	148、48	
2	55	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。平口縁。	①繊維②にぶい褐色③口縁部	黒浜	148、63	
3	54	Ｒの斜縄文。口縁下斜格子沈線。	①繊維②にぶい褐色③口縁部	黒浜	148、52	
4	16	Ｌ・Ｒの羽状縄文。平口縁。	①繊維②にぶい橙色③口縁部	黒浜	148、31	
5	23・24・雑	Ｌ・Ｒの羽状縄文。平口縁。	①繊維②にぶい褐色③口縁部	黒浜	148、64 148、57	
6	54	Ｌ・ＲＬの羽状縄文。	①繊維②にぶい橙色③口縁部	黒浜	148、52	
7	44	付加条ＲＬ＋Ｌの斜縄文。平口縁。	①砂粒②橙色③口縁部	諸磯ａ	148、58	
8	31・雑	Ｒ・Ｌの絡条体の縦位羽状施文。	①繊維②橙色③口縁部	黒浜	148、56	
9	№Ａ－５ 59	Ｌ・Ｒの羽状縄文。平口縁。	①繊維②にぶい黄橙色③口縁部	黒浜	148、30	
10	54・雑	間隔あくＬの横位施文。	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	148、52	
11	47	だれた横位のコンパス文。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	148、62	
12	20	７本１組の櫛状沈線。波状口縁。	①砂粒②にぶい黄橙色③口縁部	諸磯ｃ	148、69	
13	雑	有孔浅鉢。口縁下刻み。	①砂粒②にぶい橙色③口縁部	諸磯ｂ	—	
14	20	幅広Ｃ字形刺突列。	①砂粒②にぶい黄橙色③口縁部	諸磯ｂ	148、69	
15	雑	平行沈線の菱形構成。波状口縁	①繊維②にぶい赤褐色③口縁部	黒浜	—	
16	49	Ｌ地文。２～４本１組の平行沈線。	①砂粒②にぶい黄橙色③胴部	諸磯ｂ	148、65	

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
17	13	L・Rの羽状縄文。平行沈線。	①繊維②にぶい赤褐色 ③胴部	黒浜	148、36	
18	43	LRの地文。横位のコンパス文。	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	148、50	
19	38	口縁下矢羽根状浮線。RLの地文。	①砂粒②にぶい褐色③口縁部	諸磯b	148、54	
20	40・59	矢羽根状浮線。	①砂礫②にぶい赤褐色 ③胴部	諸磯b	148、58 148、30	
21	22	LRの地文。矢羽根状浮線。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯b	148、70	
22	29・58	LRの斜縄文。	①繊維②明黄橙色③胴部	黒浜	148、54 148、54	
23	56	L・Rの羽状縄文。	①繊維②橙色③底部	黒浜	148、54	
24	56	文様不鮮明。平底。	①繊維②橙色③底部	黒浜	148、54	
25	59	LRの斜縄文。平底。	①繊維②橙色③底部	黒浜	148、30	

表—74　J26号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	雑	背付き石器	12.7	7.7	2.9	341	黒頁	45	—	—	—	滅	—	—	直刃 覆
2	3	打製石斧	(5.2)	5.0	1.3	38	〃	20	—	—	欠	—	—	—	基部欠 148.58
3	雑	〃	(8.6)	5.8	1.3	60	〃	25	—	—	欠	滅	—	—	基部欠 覆
4	40	交刃削器	4.2	5.7	1.1	31	〃	40	—	—	—	—	—	—	148.58
5	15	〃	7.6	12.0	2.7	255	〃	50	—	—	—	—	—	—	148.50
6	56	石核	9.8	9.5	4.2	455	〃	—	—	—	—	—	—	—	148.59
7	23	複刃削器	9.9	6.7	2.5	140	〃	40 70	—	—	—	—	—	—	直刃 148.64
8	35	円礫石器	8.6	6.3	2.7	176	安	—	擦1	擦1	擦1	擦1	擦1	擦1	148.58
9	雑	〃	9.6	7.4	4.5	397	〃	—	凹2	擦1→凹2	—	—	—	—	覆
10	28	〃	11.6	6.1	3.4	448	〃	—	凹2	擦1→凹2	敲1	敲1	擦1	擦1	148.60
11	A-6	〃	10.2	8.7	4.1	465	〃	—	敲2	敲1	敲1	敲1	敲1	敲1	148.54
12	109•1	線刻礫	8.2	7.7	6.3	493	〃	—	—	—	—	—	—	—	148.56



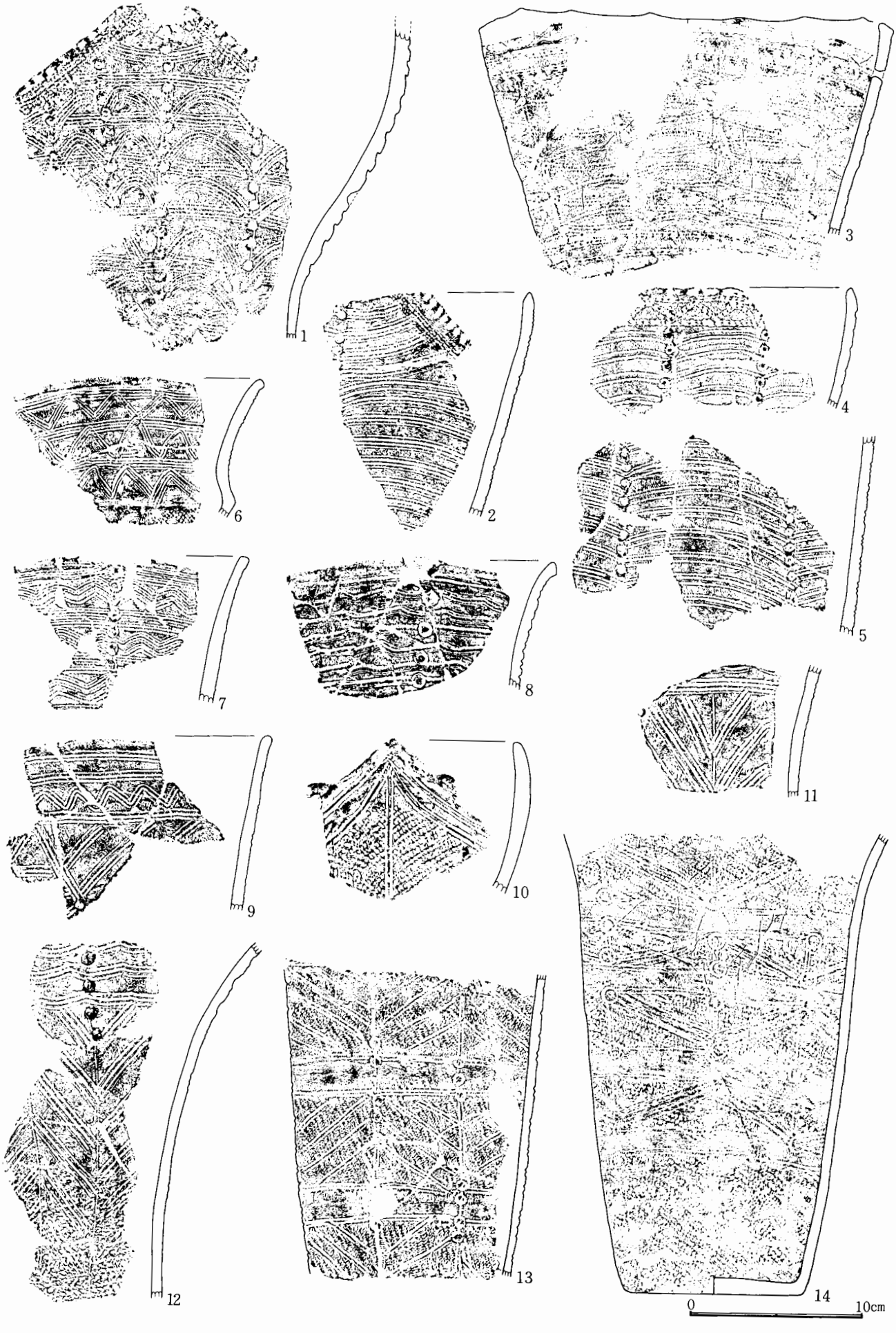
図－149　J 26号住居跡出土石器

表—75　J 26号住居跡石器器種・石材別一覧表

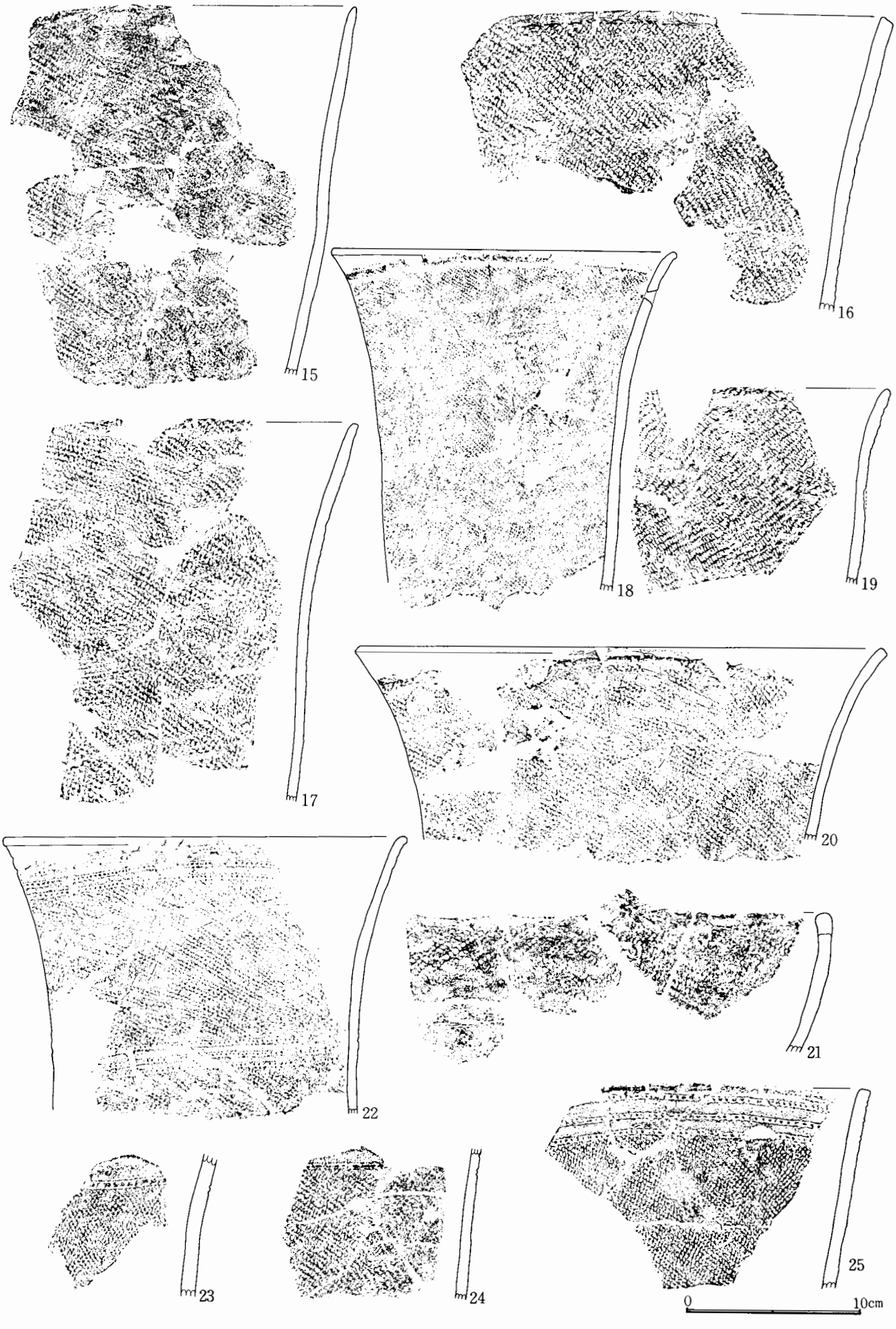
器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		2						1				2	1																26	1			33
黒色安山岩																													1				1
安山岩																						4									12	1	17
珪　岩																													5				5
計		2						1				2	1									4							32	1	12	1	56

表—76　J 27・30号住居跡出土土器観察表（図—150・151・152・153　図版—93・94・95・96）

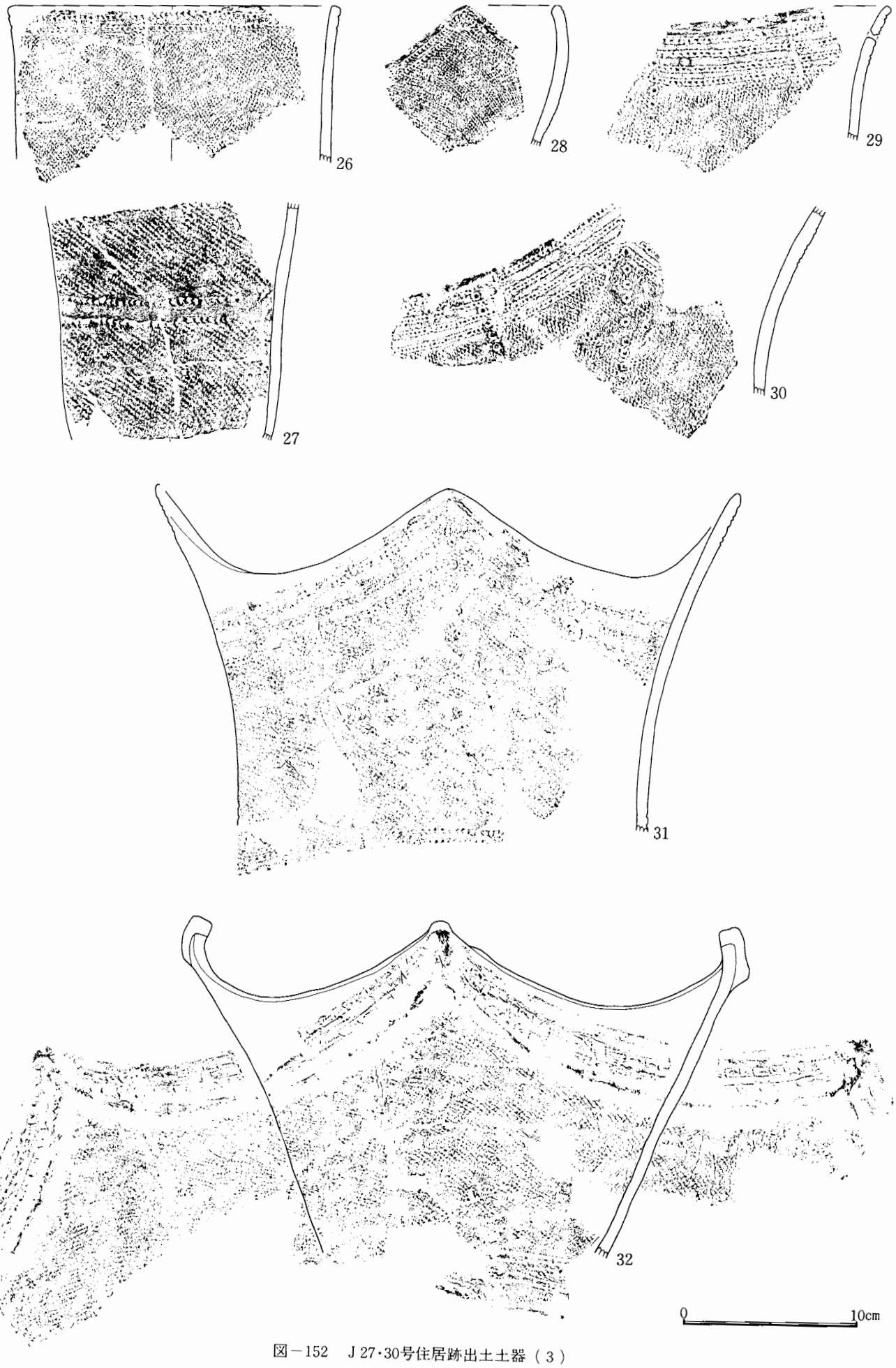
番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1 27住	85・86	5本1組の櫛状工具の平行沈線と曲線の肋骨文。縦位の円形竹管刺突列。口縁端下櫛状工具の刺突列。大波状口縁。波頂部内湾。内面横磨き。①細砂粒②明赤褐色③口縁～胴部　諸磯a　+12　+35				
2 27住	78・83	4本1組の櫛状工具の肋骨文。縦位の円形竹管刺突列。口縁下櫛状工具の刺突列。口縁端刻み。大波状口縁。	①細砂粒②橙色③口縁部	諸磯a	+22 +23	5と同一個体
3 27・30住	32・33・34	平行沈線の曲線的な肋骨文。口縁下と胴部との境にC字形刺突列2条。縦区画線との交点に円形竹管刺突。	①粗砂粒②明赤褐色③口縁部	諸磯a	+31+37 −57	
4 27住	18	口縁下幅狭C字形刺突列の鋸歯状文。曲線的な肋骨文。縦位円形刺突列。口縁端刻み列。平口縁。	①細砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯a	+7	
5 27住	43・44	4本1組の櫛歯の肋骨文。縦位の円形竹管刺突列。	①細砂粒②橙色③胴部	諸磯a	+27 +22	2と同一個体
6	雑	4本1組櫛状工具の鋸歯状文と横線。浅鉢。口縁下より外反平口縁。	①砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯a	—	
7	雑	6本1組櫛状工具の鋸歯状文と横線。縦位円形竹管刺突列。平口縁。	①細砂粒②明赤褐色③口縁部	諸磯a	—	
8 27住	17・20	3本1組櫛状工具の波状文。円形竹管刺突列。平口縁。	①細砂粒②橙色③口縁部	諸磯a	+22 +20	
9 27住	29	3本1組櫛状工具の波状文と横線。鋸歯状文と肋骨文。平口縁。	①細砂粒②橙色③口縁部	諸磯a	+48	
10 27住	113	RL・LRの羽状縄文。平行沈線。大波状口縁。口縁端小突起。	①繊維②橙色③口縁部	黒浜	+15	
11 30住	7	胴部下半に縦線の区画。4本1組櫛状工具の直線的な肋骨文。	①細砂粒②橙色③胴部	諸磯a	−10	
12 27・30住	15・18	胴部下半に縦線の区画。4本1組櫛状工具の直線的な肋骨文。縦位の小口刺突列。胴部中位より外反。	①細砂粒②橙色③胴部	諸磯a	+15 +7	
13 27・30住	22・89	RLの斜縄文。平行沈線で縦横区画。区画内肋骨文。交点円形竹管刺突。横線内撫で消し。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯a	+2 +13	
14 27住	22	口縁及び胴部中位に3条のC字形刺突列。RL斜縄文。平口縁。口縁付近ゆるく外反。	①細砂粒②橙色③口縁欠	諸磯a	埋甕	
15 27住	113	全面RLの斜縄文。平口縁。	①砂粒②明赤褐色③口縁部	諸磯a	+15	
16 27住	15・68	全面RLの斜縄文。平口縁。	①砂粒②明赤褐色③口縁部	諸磯a	+18 +15	
17 27住	30・35・80	全面RLの斜縄文。平口縁。	①砂粒②橙色③口縁部	諸磯a	+10+22 +4	
18 27住	43・56	全面R−LLLの斜縄文。口縁下穿孔あり。平口縁。	①砂粒②明赤褐色③口縁部	諸磯a	+27 +21	
19 27住	101	全面LRの斜縄文。平口縁。	①砂粒②橙色③口縁部	諸磯a	床直	
20 27住	5	全面付加条RL+Lの斜縄文。平口縁。	①砂粒②明赤褐色③口縁部	諸磯a	+23	
21 30住	102	RL・LRの羽状縄文。口縁端に突起。口縁付近内湾ぎみに開く。	①繊維②橙色③口縁部	黒浜	+16	
22 27・30住	42・105・106	口縁下及び胴部中位に3条の幅狭C字形刺突列。RLの斜縄文。平口縁。口縁付近緩く外反。	①砂粒②浅黄橙色③口縁部	諸磯a	床面 +10 +7	
23	38	RLの斜縄文。横位幅狭C字形刺突列。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯a	P_{11}内	
24 27住	17	RLの斜縄文。横位幅狭C字形刺突列。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯a	+22	
25 27住	49	口縁下3条の幅狭C字形刺突列。RLの斜縄文。平口縁。	①砂粒②橙色③口縁部	諸磯a	+36	



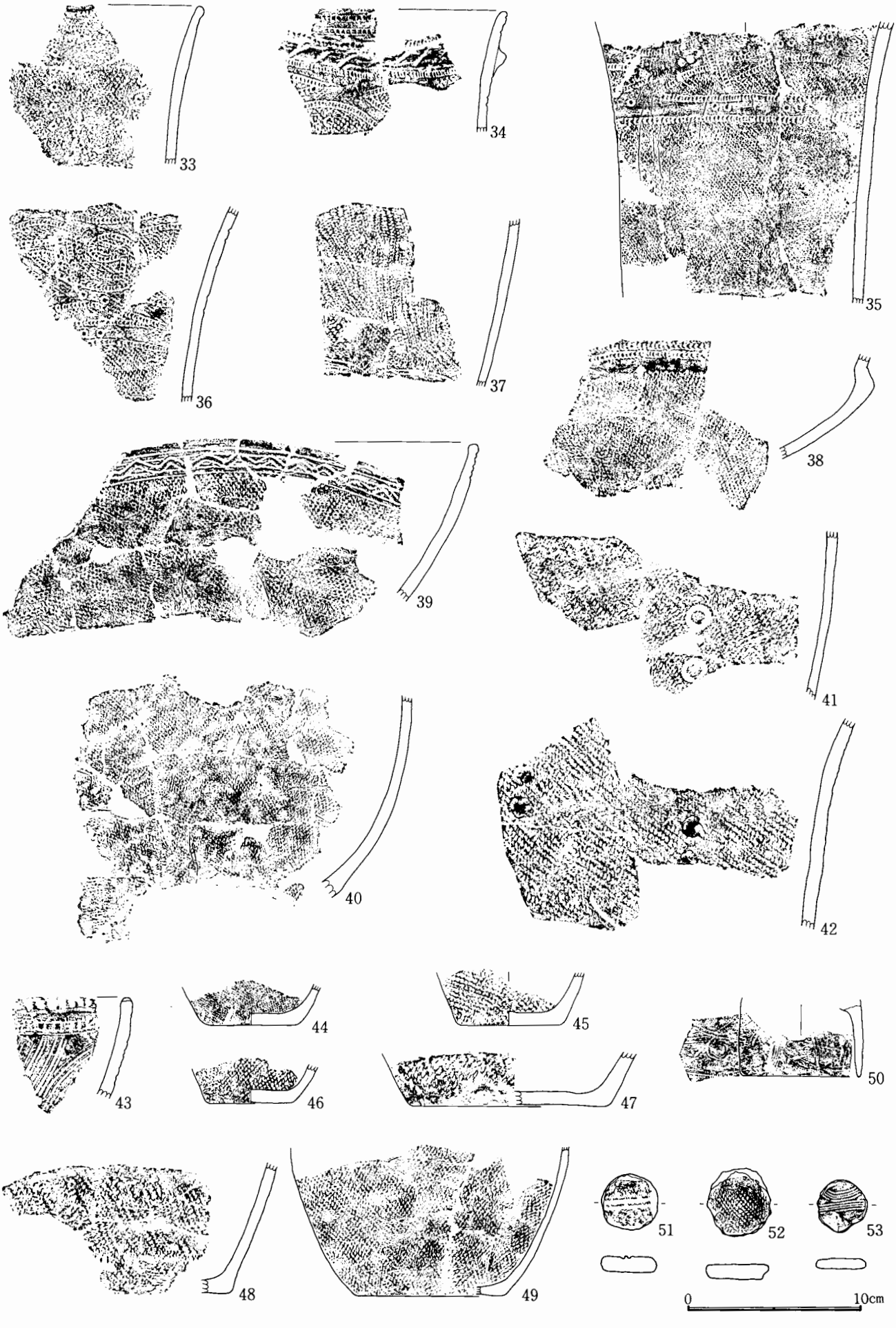
図－150　J 27･30号住居跡出土土器（１）



図－151　J 27･30号住居跡出土土器（２）



図－152　J 27･30号住居跡出土土器（３）



図－153　J 27･30号住居跡出土土器（４）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
26 27住	114	口縁下2条の幅狭C字形刺突列。RLの斜縄文。平口縁。	①砂粒②にぶい橙色③口縁部	諸磯a	+13	
27 27住	29・120	胴部中位に2条の幅狭C字形刺突列。条間撫で。RLの斜縄文。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯a	+48	
28 30住	25	胴部中位及び口縁に沿い2条の幅狭C字形刺突。棒状工具の刺突列。R－LLLの斜縄文。波状口縁。	①砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯a	床直	
29	40	口縁下4条のC字形刺突列。縦位の円形竹管刺突列。RLの斜縄文。大波状口縁。緩く外反。	①砂粒②橙色③口縁部	諸磯a	P_{11}内	30と同一個体
30 27住	82・87	口縁下4条のC字形刺突列。縦位の円形竹管刺突列。RLの斜縄文。大波状口縁。緩く外反。	①砂粒②橙色③口縁部	諸磯a	+35 +32	
31 27住	83・119	口縁下3条のC字形刺突列。胴部中位にもあり。R－LLLの斜縄文。大波状口縁。緩く外反。	①砂粒②橙色③口縁～胴部	諸磯a	+23 +14	
32 27住	40	全面R－LLLの斜縄文。口縁下隆帯。その間にC字形刺突列。胴部中位にもC字形刺突列。大波状口縁。波頂部に貼付文。①繊維②橙色③口縁～胴部　黒浜　+28				
33 27住	113	口縁下2条の幅狭C字形刺突列。縦位円形竹管刺突列。RL斜縄文。	①砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯a	+15	
34	雑	口縁下幅狭C字形刺突列。斜刻み入隆帯。弧線入組み文。2個一対円形竹管刺突。弧線内RL斜縄文。	①砂粒②灰褐色③口縁部	諸磯a	—	
35 27住	4・70・71	幅狭C字形刺突列。弧線入組み文。2個一対円形竹管刺突。RL斜縄文。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯a	+30+24 +41	
36 27住	62	弧線入組み文。2個一対円形竹管刺突。R－LLL斜縄文。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯a	+16	
37 27住	92	平行沈線。RL斜縄文。	①砂粒②浅い黄橙色③胴部	諸磯a	+39	
38	162	C字形刺突列。RLの斜縄文。浅鉢。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯a	位置不	
39	雑	口縁下平行沈線と鋸歯状文。RL斜縄文。浅鉢。	①砂粒②浅い黄橙色③口縁部	諸磯a	—	
40 27住	48	細いRL斜縄文。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯a	+39	
41 27住	26	結節RL斜縄文。縦位円形竹管刺突。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯a	+ 6	
42 27住	35	異節RL斜縄文。縦位の指頭圧痕列。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯a	+36	
43 27住	125	口縁下櫛歯の刺突列。櫛歯の平行沈線。口縁端刻み列。	①砂粒②にぶい橙色③口縁部	諸磯a	+ 9	
44	36	細いRL斜縄文。平底。	①砂粒②橙色③底部	諸磯a	P_9内	
45 30住	14	RL斜縄文。平底。	①砂粒②橙色③底部	諸磯a	床直	
46 27住	75	RL斜縄文。平底。	①砂粒②明赤褐色③底部	諸磯a	+48	
47 27住	125	RL斜縄文。平底。	①砂粒②黄橙色③底部	諸磯a	+ 9	
48 27住	10	RL斜縄文。	①砂粒②黄橙色③胴部	諸磯a	+ 9	
49 27住	23	RL斜縄文。平底。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯a	+14	
50	雑	平行沈線。撫で。平底。	①砂粒②にぶい橙色③底部	諸磯a	—	
51	雑	RL斜縄文。平行沈線。土製円盤。	①砂粒②にぶい橙色③完形	諸磯a	—	
52	雑	RL斜縄文。土製円盤。	①砂粒②橙色③完形	諸磯a	—	
53	雑	4本1組の櫛歯による平行沈線。土製円盤	①砂粒②にぶい橙色③完形	諸磯a	—	

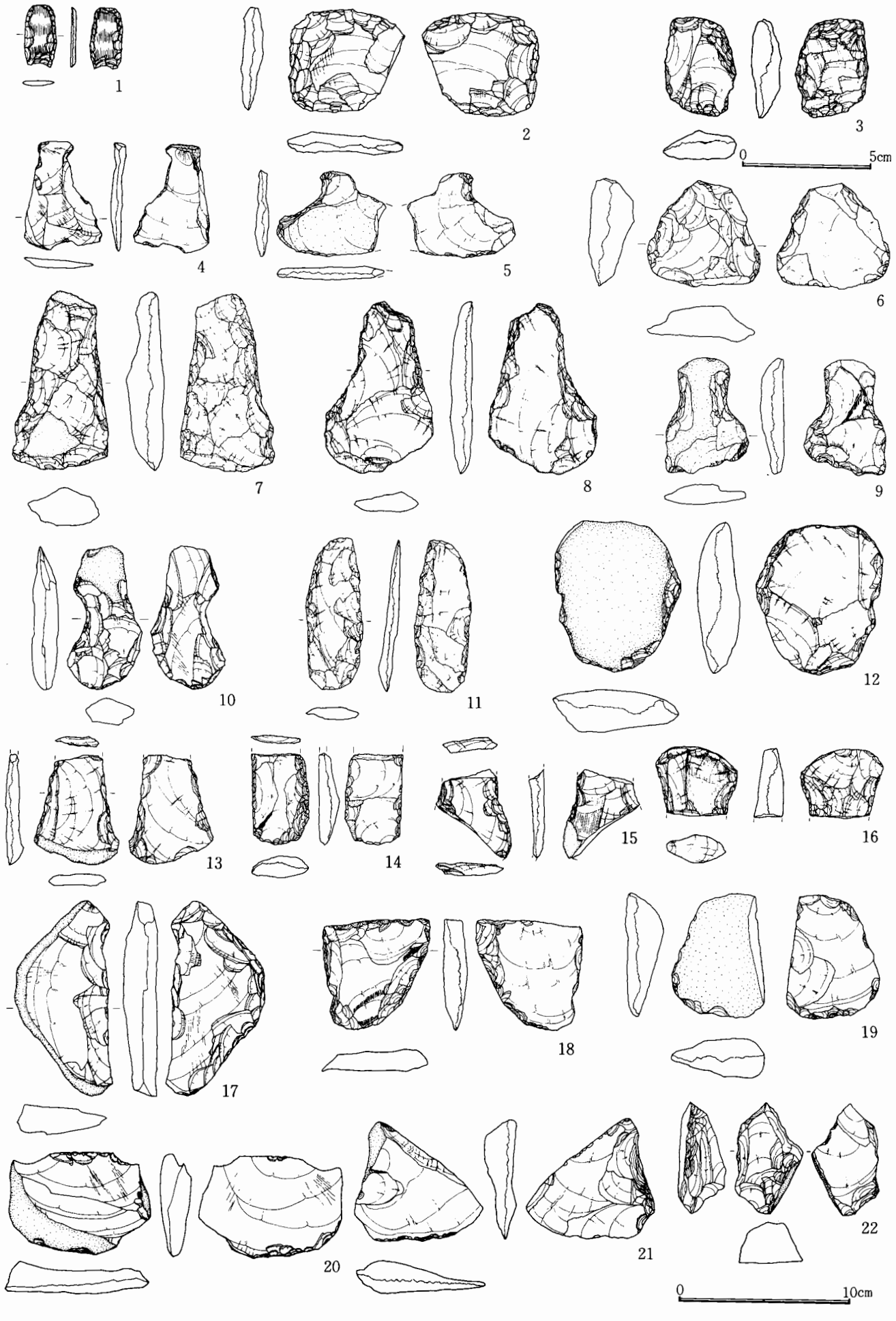
表—77　J 27・30号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	雑	石鏃	2.4	1.2	1.0	1	頁	—	擦2	擦2	—	—	—	—	局部磨製 覆
2	52	楔形石器	3.9	4.5	0.8	20	黒頁	30	—	—	—	—	—	—	位置不明
3	雑	〃	3.8	2.8	1.1	13	〃	40 45	—	—	—	—	—	—	覆
4	雑	石匙	6.3	4.4	0.8	16	〃	20	—	—	—	—	—	—	覆
5	雑	〃	4.9	(6.3)	0.8	20	〃	30	—	—	—	—	—	欠	欠 覆
6	雑	打製石斧	6.2	6.1	2.6	89	〃	60	—	—	—	—	—	—	覆
7	19・雑	〃	10.3	5.5	2.2	115	〃	60	—	—	—	—	—	—	+26・J 27
8	雑	〃	9.9	6.3	1.3	76	〃	25	—	—	—	滅	—	—	覆
9	雑	打製石斧	6.7	4.3	1.4	93	〃	45	—	—	—	—	—	—	覆
10	雑	〃	8.2	4.3	1.6	46	〃	50	—	—	—	—	—	—	覆
11	雑	〃	8.8	3.8	1.1	25	〃	30	—	—	—	—	—	—	覆
12	雑	〃	8.7	7.4	2.5	70	〃	70	—	—	—	—	—	—	覆
13	雑	〃	6.3	4.8	1.0	32	〃	55	—	—	—	滅	—	—	刃部のみ 覆
14	雑	〃	(5.3)	3.3	1.2	21	〃	30	滅	—	欠	滅	—	—	基部欠 覆
15	81	〃	(5.2)	(4.4)	0.9	16	〃	25	—	滅	欠	滅・欠	—	—	+38・J 27
16	雑	〃	(4.1)	4.4	1.7	35	安	—	滅	—	—	—	—	—	基部のみ 覆
17	雑	直刃削器	11.3	5.2	2.0	125	黒頁	60	—	—	—	—	—	—	覆
18	雑	凸刃削器	6.5	6.2	1.4	65	〃	50	—	—	—	—	—	—	覆
19	103	〃	7.3	5.4	2.3	85	〃	60	—	—	—	—	—	—	+2・J 27
20	雑	〃	6.0	8.3	1.7	82	〃	40	—	—	—	—	—	—	覆
21	99	直刃削器	7.5	7.0	2.0	60	〃	40	—	—	—	—	—	—	+5・J 27
22	雑	凸刃削器	6.6	3.9	2.3	68	〃	80	—	—	—	—	—	—	覆
23	雑	凹刃削器	6.0	5.0	1.5	40	黒安	50	—	—	—	—	—	—	覆
24	100	〃	3.9	5.2	1.5	29	黒頁	50	—	—	—	—	—	—	床直・J 30
25	39	〃	3.9	8.0	0.9	25	〃	20	—	—	—	—	—	—	P_{11}内
26	雑	〃	4.1	5.3	1.3	35	〃	30	—	—	—	—	—	—	覆
27	雑	抉入石器	3.2	6.1	1.4	29	珪頁	60	—	—	—	—	—	—	覆
28	1	鋸歯縁石器	4.0	6.7	1.5	44	黒頁	60	滅	—	—	—	—	—	−5・J 30
29	雑	交刃削器	6.7	4.9	0.9	32	黒安	30 30	—	—	—	—	—	—	覆
30	雑	〃	5.4	8.2	1.2	65	黒頁	25 30	—	—	—	—	—	—	覆
31	雑	複刃削器	9.2	7.3	2.1	171	安	50	—	—	—	—	—	—	覆
32	雑	交刃削器	3.7	6.1	2.1	32	黒頁	30	—	—	—	—	—	—	覆
33	4	〃	4.9	6.4	0.9	31	〃	35	—	—	—	滅	—	—	+14・J 27
34	雑	複刃削器	(6.0)	7.7	1.9	65	〃	25 50	—	—	—	—	—	—	欠 覆

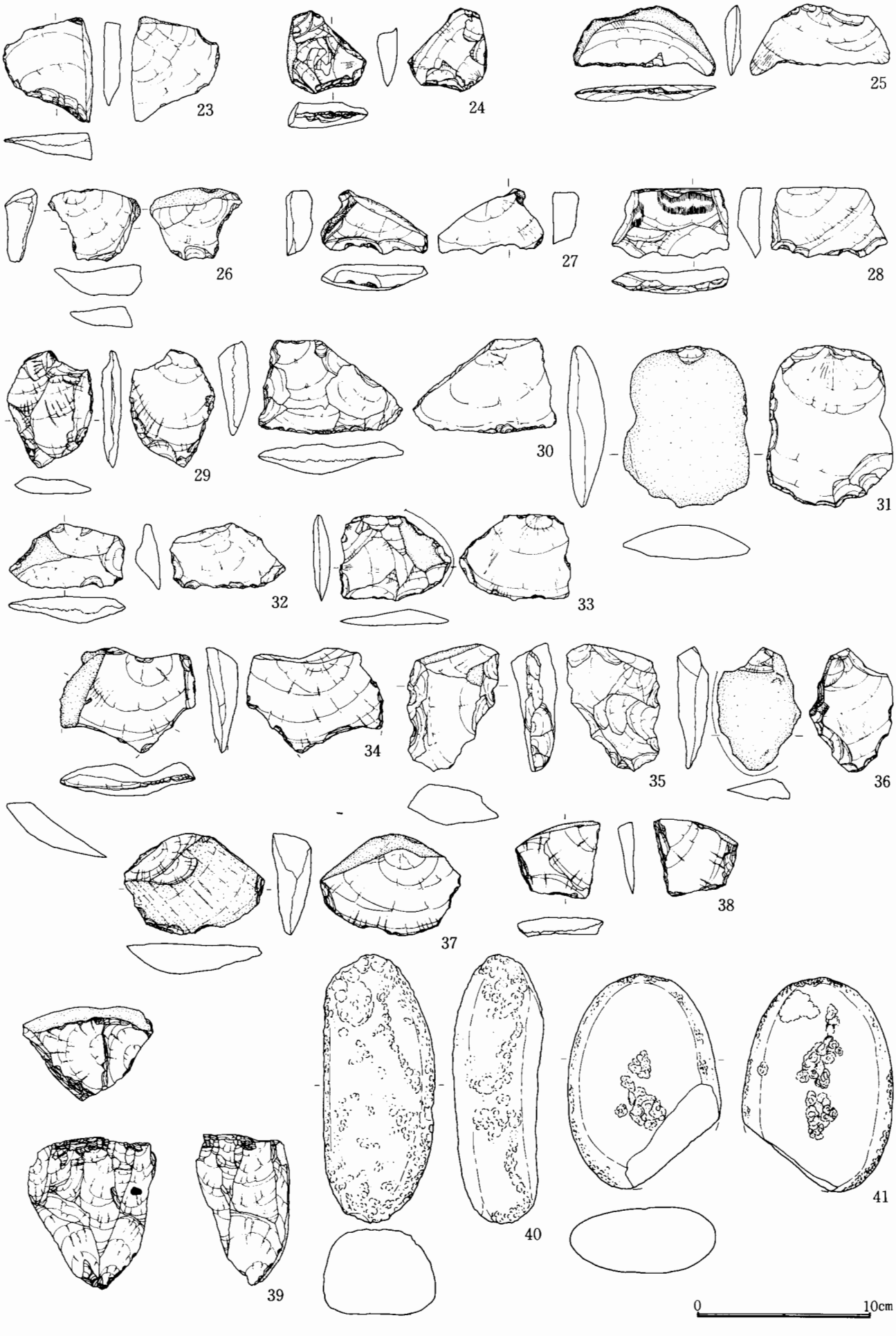
No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
35	98	R F	7.3	5.3	2.6	94	〃	—	—	—	—	—	—	—	+2・J27
36	9	U F	7.0	4.8	1.8	55	〃	30	—	—	—	潰・刃	—	—	凸刃 +8・J30
37	雑	〃	5.8	8.0	2.2	98	安	40	—	—	—	刃	—	—	凸刃 覆
38	雑	〃	4.9	4.4	1.1	22	黒頁	20	—	—	—	—	—	—	覆
39	45	石核	8.7	7.4	5.2	315	黒安	—	—	—	—	—	—	—	+22・J27
40	19	円礫石器	15.3	6.4	4.9	755	安	—	擦2→敲3	擦2→敲3	敲3	敲3	敲3	敲3	+7・J27
41	2	〃	(12.4)	8.8	4.1	605	〃	—	凹多→擦	凹多→擦	敲1	敲1	敲1	敲1	−5・J30
42	5	〃	13.5	8.4	3.1	538	〃	—	敲1→擦1	敲1→擦1	敲3	敲2	敲2	敲1	+20・J27
43	79	〃	13.2	8.6	3.8	586	〃	—	凹多→火	凹多→擦2	敲1	敲1	敲1	敲1	−5・J27
44	13	〃	7.9	6.0	2.1	142	〃	—	—	—	敲1	敲1	敲1	敲1	+3・J30
45	37	〃	7.5	5.2	2.9	137	〃	—	敲2	敲2	敲2	敲2	敲2	敲2	P_{10}内
46	雑	棒状石器	10.5	3.6	1.7	74	黒片	—	—	—	敲1	敲1	—	—	覆
47	7	軽石製石器	8.7	4.4	2.8	26	浮安	—	擦1	擦1	擦1	擦1	擦1	擦1	+8・J30
48	雑	石皿	(10.8)	(11.8)	3.8	481	安	—	皿面	—	—	—	—	—	覆
49	雑	〃	(19.0)	(8.7)	6.0	786	〃	—	皿面	—	—	—	—	—	覆
50	雑	〃	(9.7)	(11.9)	6.2	631	〃	—	皿面	—	—	—	—	—	覆
51	18	凹石+砥石	11.2	9.2	6.3	860	〃	—	凹2	砥石溝3	—	—	—	—	+4・J27
52	121	石皿+多凹石	(13.4)	20.6	6.7	1,680	安	—	皿面→敲2	敲3・凹	欠	敲1	敲1	敲1	+17・J27
53	18	〃	(22.2)	21.4	10.5	5,800	〃	—	赤化→擦2	赤→敲・凹	欠	欠	—	欠	+4・J27

表−78　J27・30号住居跡石器器種・石材別一覧表

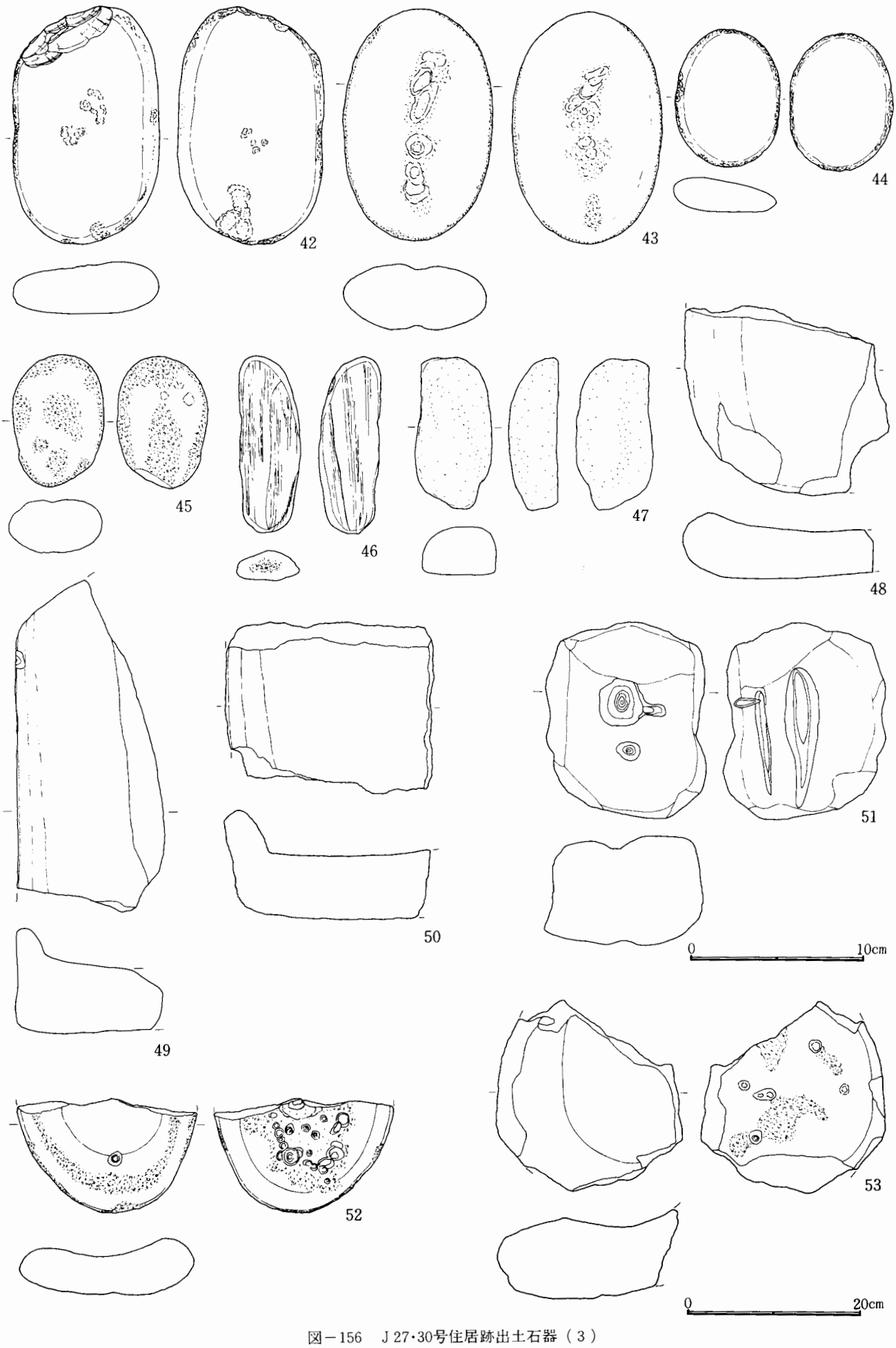
石材＼器種	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		10				2			2	4	3	3	1	1		2		1	2										123		4		158
珪質頁岩															1																		1
頁岩	1																																1
黒色安山岩											1	1																	21	1			24
浮石質安山岩																																1	1
安山岩		1											1						1			6			5		1		7		52		74
黒曜石																													2				2
珪岩																													30				30
黒色片岩																								1									1
結晶片岩																													1				1
計	1	11				2			2	4	4	4	2	1	1	2		1	3			6		1	5		1		184	1	56	1	293



図－154　J 27･30号住居跡出土石器（１）

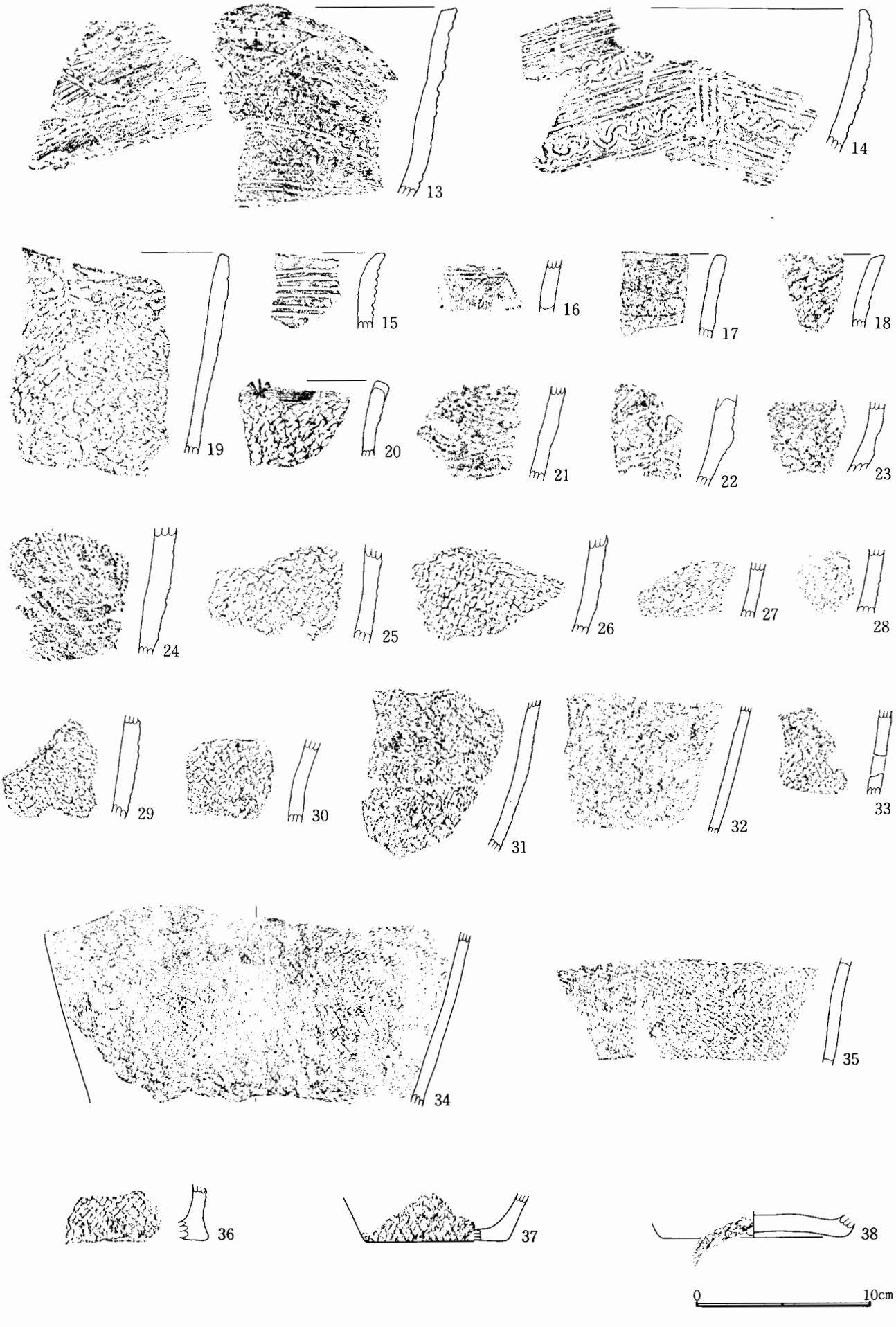


図－155　J 27･30号住居跡出土石器（２）



図－156　J 27·30号住居跡出土石器（３）

図－157　J 29･59号住居跡出土土器（1）

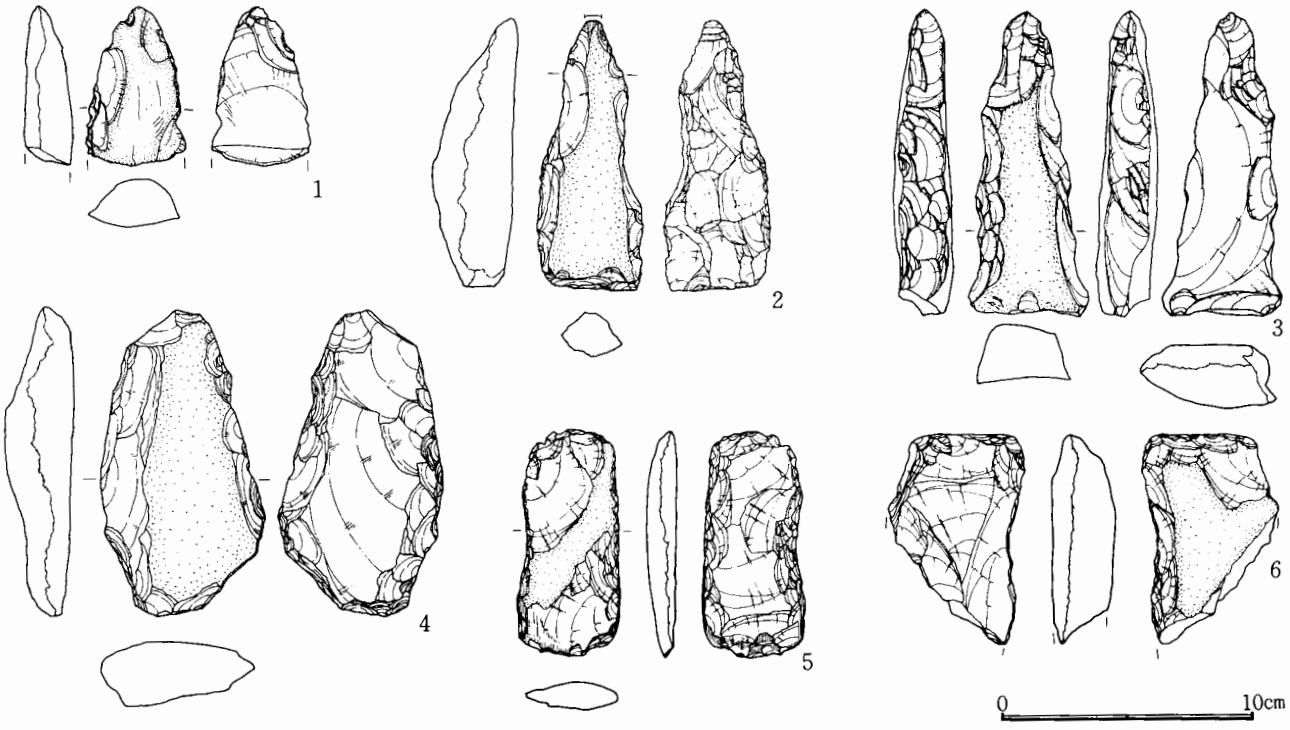


図－158　J 29･59号住居跡出土土器（２）

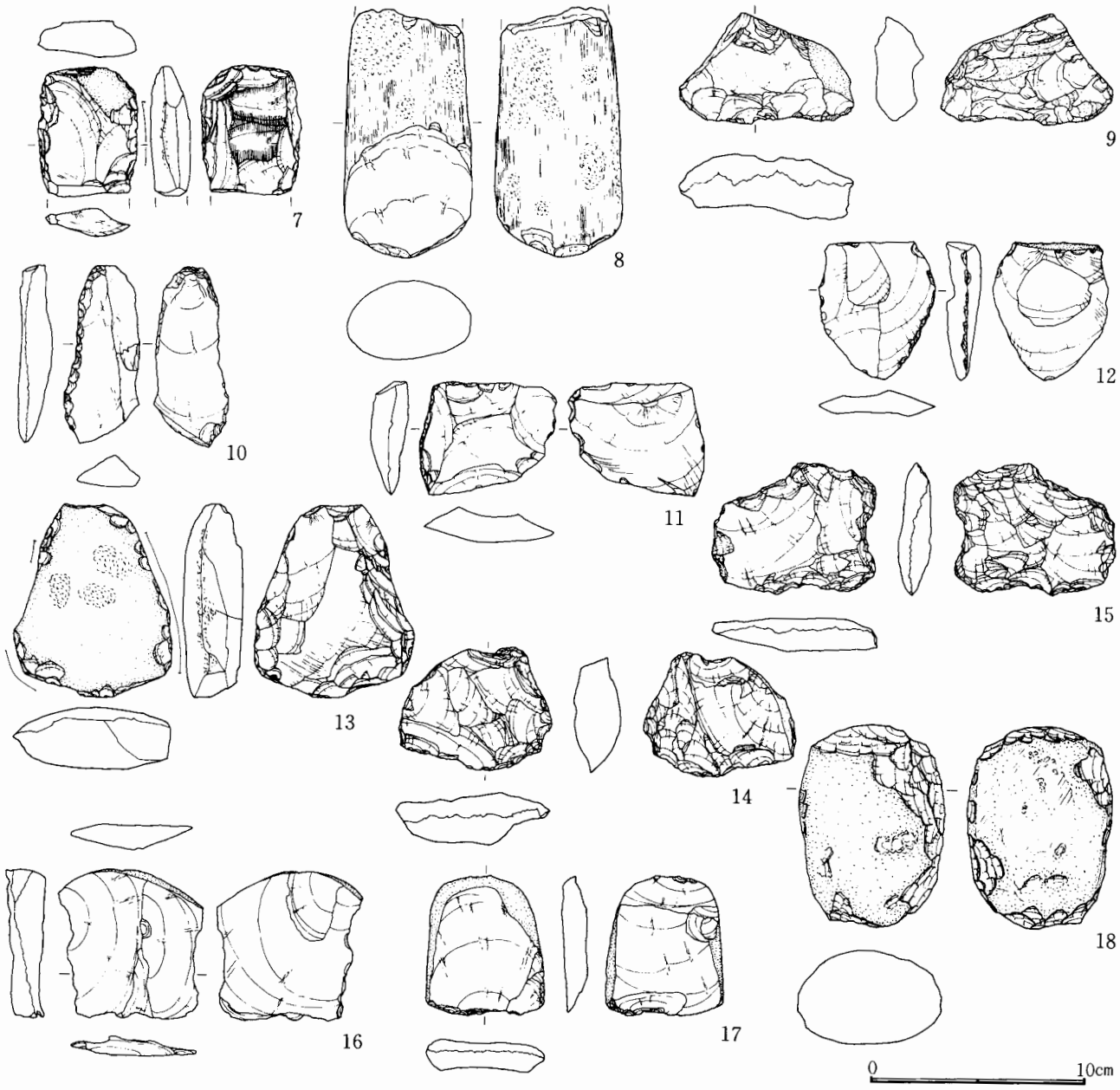
表—79　J29・59号住居跡出土土器観察表（図—157・158　図版—97・98・99）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	90・91・97 101・110	全面ＲＬ斜縄文。同部上半平行沈線の縦横区画と対角線上の平行沈線。各交点に指頭圧痕。波状口縁。	①細砂粒②にぶい黄橙色 ③口縁～胴部中位	諸磯ａ	＋17＋７ ＋４＋２ 床直	
2	106・111・ 117	口縁下及び胴部中位にＣ字形刺突列。その間５本１組の櫛歯の曲線的な肋骨文。胴部下半櫛状工具の横位沈線充填。交点に円形竹管刺突。①中砂粒②橙色③口縁～胴部中位。諸磯ａ。＋６＋２－12				
3	雑	逆Ｃ字形刺突列。縦横と対角線上の刺突列。胴部下半横位平行沈線。	①中砂粒②褐色③胴部中位	諸磯ａ	—	
4	115	胴部下半縦横と対角線上の２条平行沈線。４花弁描出。各交点円形竹管刺突。地文撫で消し。平底。	①中砂粒②にぶい橙色胴部下半	諸磯ａ	－24	
5	80・雑	４本１組の櫛状工具の曲線的な肋骨文。口縁下櫛歯の縦位刺突列。円形竹管刺突。波状口縁。	①細砂粒②明赤褐色③口縁部	諸磯ａ	＋22	
6	ピット内	Ｃ字形刺突列の直線的な肋骨文。	①繊維②にぶい赤褐色③口縁部	黒浜	ピット内	７と同一個体
7	75	Ｃ字形刺突列の直線的な肋骨文。	①繊維②にぶい赤褐色③口縁部	黒浜	床直	
8	76	ＲＬ斜縄文。縦位円形竹管刺突列。	①細砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯ａ	＋46	
9	113	ＲＬ斜縄文。縦位円形竹管刺突列。	①砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯ａ	－21	
10	71	浅鉢。平行沈線の弧線入組み文。中に異節ＲＬ斜縄文。内部に成形痕。	①細砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯ａ	＋40	
11	25	付加状ＬＲ＋Ｌ斜縄文。平行沈線。	①繊維②にぶい黄橙色③口縁部	黒浜	＋６	
12	128	ＲＬ斜縄文。横位平行沈線。	①細砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯ａ	－21	
13	21・22・74	Ｃ字形刺突列の鋸歯状文と横線。緩い大波状口縁。	①繊維②にぶい黄橙色③口縁部	黒浜	＋18＋20 ＋７	
14	24・44・49 69	平行沈線の縦横区画。その間コンパス文。撫で。緩い波状口縁。	①繊維②橙色③口縁部	黒浜	＋20＋16 ＋10－３	
15	50	横位平行沈線。波状口縁。	①繊維②橙色③口縁部	黒浜	＋14	
16	130	横位及び斜位平行沈線。	①細砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯ａ	－39	
17	55	横位平行沈線。波状口縁？	①繊維②灰黄褐色③口縁部	黒浜	＋22	
18	90	Ｌ—ＲＬ？　不鮮明。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	＋17	
19	35	ＲＬの羽状縄文。口縁下だれた２条のコンパス文。波状口縁。	①繊維（不透明石英）②橙色③口縁部	黒浜	＋18	
20	134	Ｒ—ＲＬ・ＬＲ？斜縄文。口縁端小突起。	①砂粒②にぶい褐色③口縁部	諸磯ａ	－16	
21	15	ＲＬ斜縄文。施文後撫で。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	＋16	
22	32	波状口縁波頂部に上向きＣ字形刺突列入り縦位隆線。横位平行沈線。	①繊維②にぶい橙色③口縁部	黒浜	＋17	
23	104	ＬＲ斜縄文。施文後撫で。	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	＋15	
24	2	間隔あいたＲ２本の絡条体。	①繊維②にぶい褐色③胴部	黒浜	＋31	
25	66	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文	①繊維②灰黄褐色③胴部	黒浜	＋13	
26	68	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文	①繊維②明赤褐色③胴部	黒浜	－４	
27	72	異節ＬＲ斜縄文。	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	＋５	
28	70	ＲＬ斜縄文。	①繊維②明赤褐色③胴部	黒浜	床直	
29	39	ＬＲ斜縄文。	①繊維②灰褐色③胴部	黒浜	＋５	
30	21	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文	①繊維②明赤褐色③胴部	黒浜	＋18	
31	112	ＲＬ斜縄文。	①細砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯ａ	－22	
32	123	ＲＬ斜縄文。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯ａ	－５	

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
33	108	RL斜縄文。	①砂粒②にぶい赤褐色 ③胴部	諸磯a	床直	
34	92・96・98 99・107・119	RL斜縄文。	①中砂粒②にぶい黄橙色 ③胴部	諸磯a	−12+11 +15−8 +3+3	
35	127・132	異節RL斜縄文。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯a	−16 −20	
36	105	付加状RL+L。平底。	①繊維②橙色③底部	黒浜	+9	
37	103	RL斜縄文。	①細砂粒②にぶい赤褐色 ③底部	諸磯a	−5	
38	85	RL斜縄文？	①繊維②橙色③底部	黒浜	+4	



図−159　J29・59号住居跡出土石器（1）



図－160　J 29･59号住居跡出土石器（２）

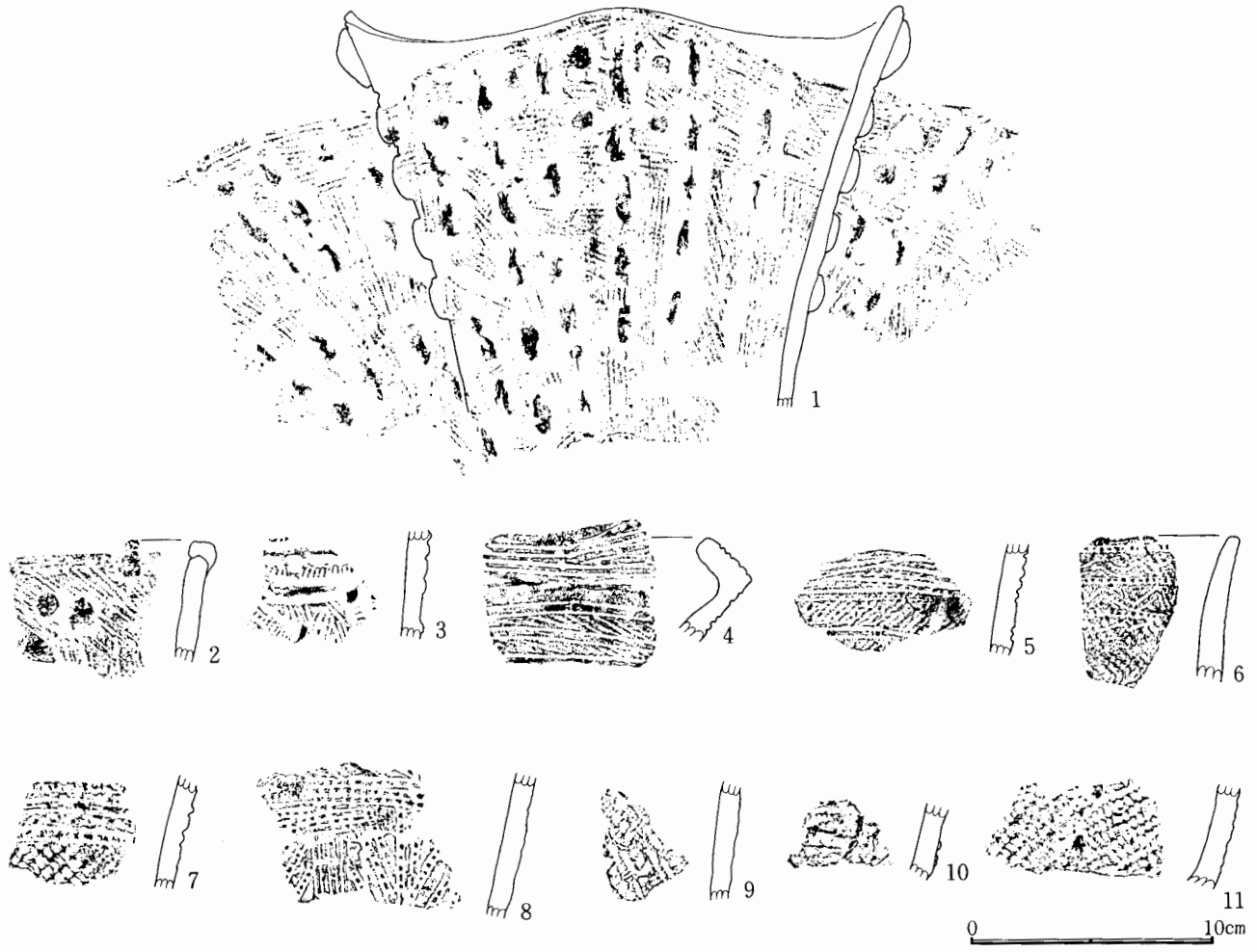
表－80　J 29・59号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	雑	尖頭器	(6.3)	4.9	1.9	45	黒頁	—	—	—	—	欠	—	—	欠 覆
2	26	〃	10.6	4.2	3.3	145	〃	—	—	—	滅	滅	—	—	＋13
3	雑	〃	11.9	4.8	2.3	135	〃	—	—	—	—	—	—	—	覆
4	29	打製石斧	12.0	6.6	2.2	231	〃	60	—	—	—	—	—	—	片刃 ＋17
5	雑	〃	9.0	4.1	1.2	51	〃	20	滅	滅	滅	滅	滅	滅	覆
6	45	〃	(8.3)	5.4	2.5	120	〃	—	—	—	潰	欠	潰	—	刃部欠 ＋14
7	雑	〃	(5.9)	4.5	1.8	68	〃	—	—	—	—	欠	滅2	—	刃部欠 覆
8	47	磨製石斧	(11.4)	5.8	3.6	341	点片	20	—	—	潰	潰	潰	—	基部欠 ＋6
9	雑	直刃削器	5.1	7.9	3.0	102	黒頁	70	—	—	—	—	—	—	覆

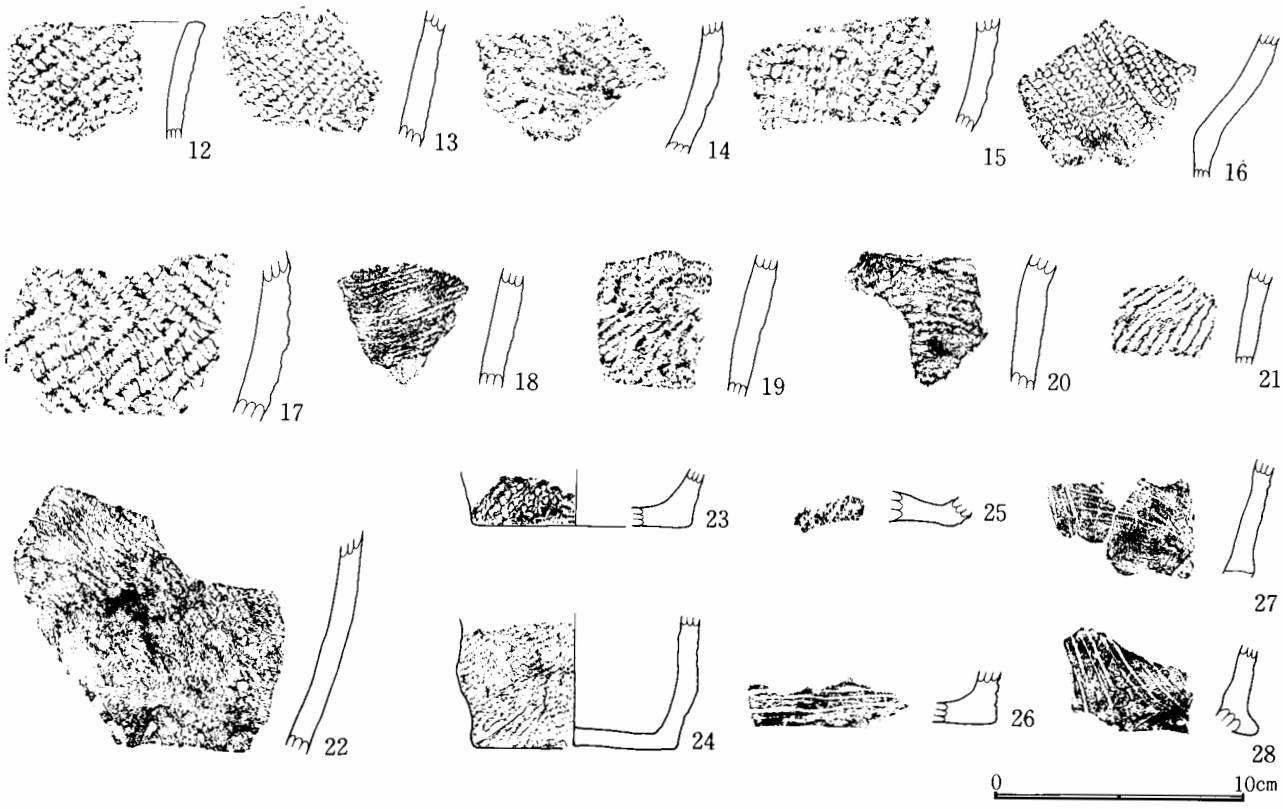
No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
10	20	〃	8.2	3.5	1.5	41	〃	60	—	—	—	—	—	—	+12
11	雑	凸刃削器	5.1	6.2	1.7	52	〃	50	—	—	—	—	—	—	覆
12	雑	〃	6.3	5.4	1.6	45	〃	40	—	—	—	—	—	—	覆
13	雑	複刃削器	8.9	7.2	3.0	238	〃	70 80	—	—	—	潰	潰	潰	礫器状 覆
14	6	交刃削器	8.0	5.7	2.4	88	〃	70	—	—	—	—	—	—	+28
15	雑	抉入石器	7.5	6.0	1.5	61	〃	備	—	—	—	—	—	—	3刃・刃角45、35、45・覆
16	38	U F	6.8	6.6	1.8	73	〃	20	—	—	—	刃	—	—	複刃・凹状 +22
17	雑	楔形石器	6.2	5.4	1.5	65	〃	40	—	—	潰	潰	—	—	覆
18	112	円礫石器	9.2	6.7	4.3	382	安	—	敲1	敲1→擦2	敲3	敲3	敲3	敲3	敲1→擦2→敲3・−22

表−81　J29・59号住居跡石器器種・石材別一覧表

石材＼器種	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		4			3				2	2		1	1		1	1			1									74		2		92
黒色安山岩																												7				7
安山岩																						1						2		17		20
珪岩																												21				21
黒色片岩																												1				1
点紋緑色片岩			1																													1
砂石																												3				3
計		4	1		3				2	2		1	1		1	1			1			1						108		19		145



図−161　J31・32号住居跡出土土器（1）



図－162　J 31･32号住居跡出土土器（２）

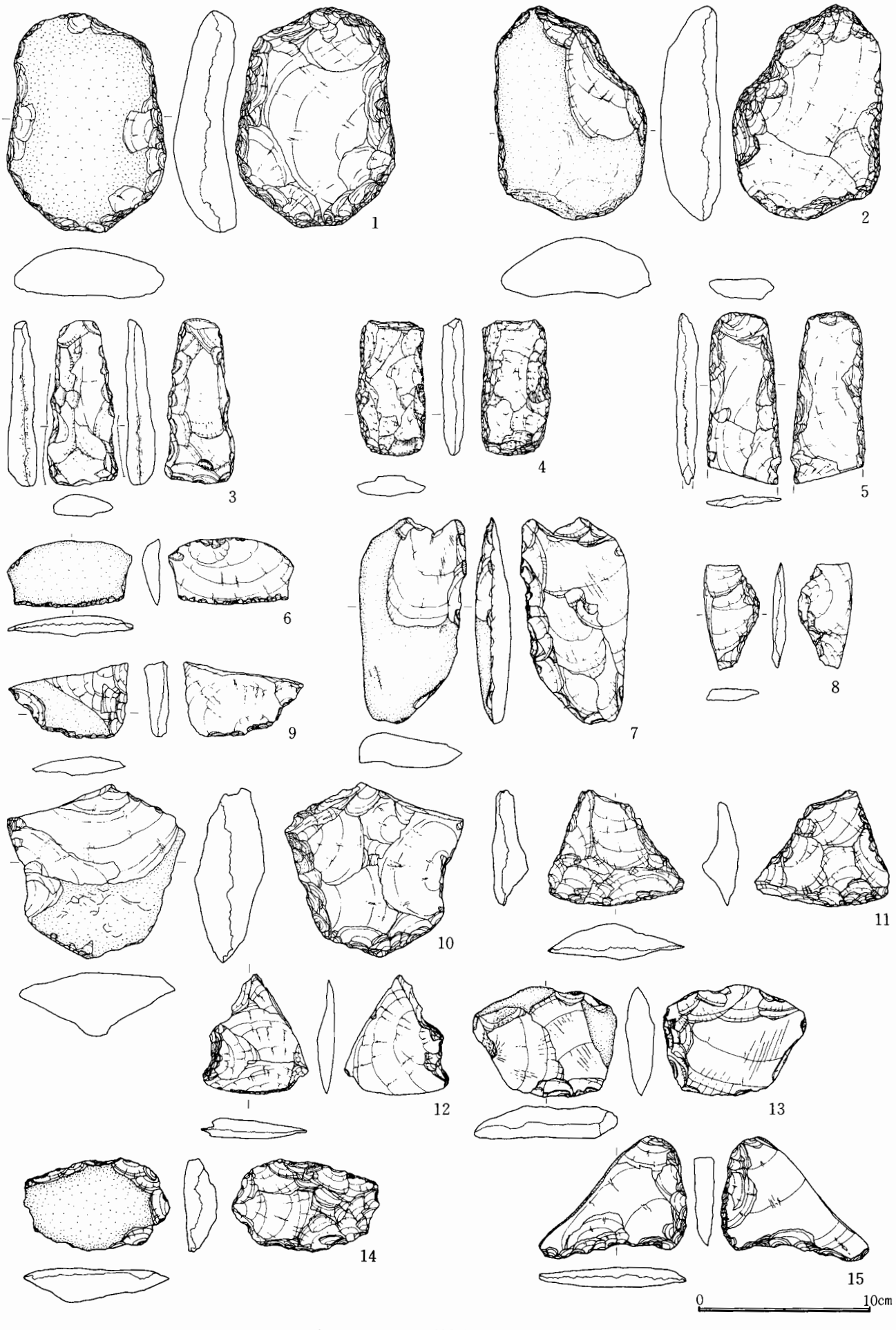
表－82　J 31・32号住居跡出土土器観察表（図－161・162　図版－99）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　　考
1 31住	1	口縁下に５～６条横位平行沈線。胴部縦位及び矢羽根状平行沈線。貝殻・ボタン状貼付文。波状口縁。	①砂粒②にぶい褐色③口縁～胴部中位	諸磯Ｃ	床直	
2 31住	31	口縁下斜線。下位縦線。ボタン状貼付文。平口縁。口縁端内削。	①砂粒（石英）②にぶい褐色③口縁部	諸磯Ｃ	＋13	
3	雑	梯子状平行沈線。刺突入粘土こぶ。	①繊維②にぶい黄橙色③胴部	関山	—	
4 31住	27	ＲＬ斜縄文。横位の平行沈線。口縁下内傾。緩い波状口縁。	①砂粒②橙色③口縁部	諸磯ｂ	＋20	
5	雑	ＬＲ斜縄文。横位平行沈線。	①砂粒②にぶい褐色③胴部	諸磯ｂ	—	
6	H152雑	Ｌの結節ＲＬ斜縄文。口縁下Ｃ字形刺突列と波状文。緩い波状口縁。	①細砂粒②明赤褐色③口縁部	諸磯ａ	—	
7	H152雑	ＬＲ斜縄文。横位平行沈線。Ｃ字形刺突列。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	—	
8	H152雑	横位その下方縦斜位Ｃ字形刺突列。	①中砂粒②橙色③胴部	諸磯Ｃ	—	
9	雑	直前段合撚りＲ－ＲＬ・ＬＲ。	①繊維②にぶい橙色③胴部	関山	—	
10	H152雑	ＲＬ斜縄文。刻み入り浮線。	①細砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯ｂ	—	
11	H152雑	ＬＲ斜縄文。縦位粘土しわ。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	—	
12	雑	ＬＲ斜縄文。平口縁。	①繊維②にぶい黄橙色③口縁部	黒浜	—	
13 31住	29	ＬＲ斜縄文。	①繊維②橙色③胴部		＋７	
14 31住	9	ＲＬ・ＬＲ羽状縄文。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	＋20	
15	H152雑	ＲＬ・ＬＲ羽状縄文。	①繊維②にぶい黄橙色③胴部	黒浜	—	
16	H152雑	ＲＬ斜縄文。頸部より内湾ぎみ外反。	①繊維②にぶい黄橙色③胴部	黒浜	—	

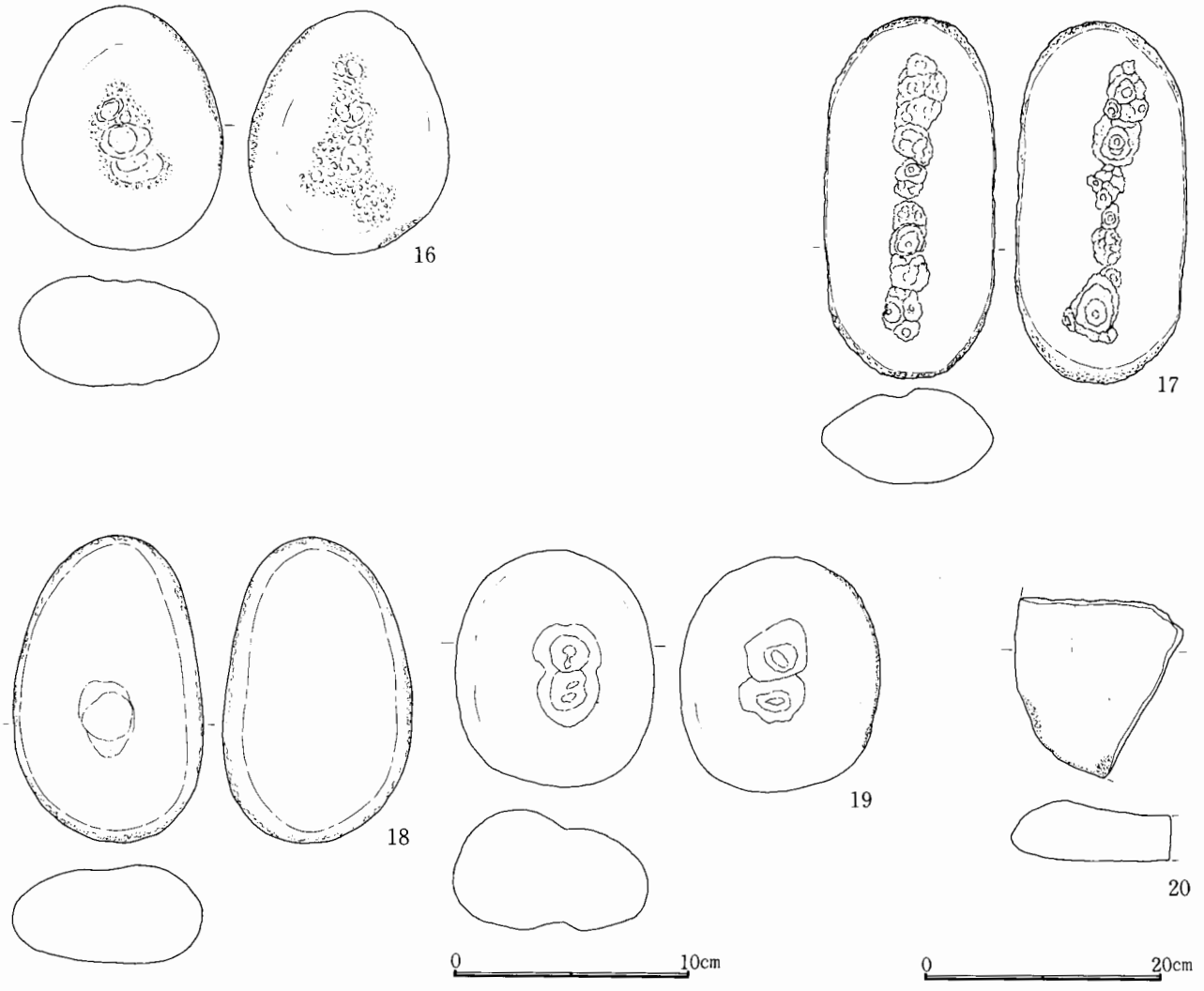
番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
17	雑	RL・LR羽状縄文。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	—	
18	49	L－r r r 斜縄文。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯	位置不	
19	雑	L斜縄文	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	—	
20	H152雑	横位L斜縄文。	①繊維②にぶい褐色③胴部	黒浜	—	
21 32住	3	L斜縄文。	①繊維②にぶい褐色③胴部	黒浜	＋9	
22 31住	5	RL斜縄文。器面荒れ。	①砂粒②にぶい黄橙色 ③胴部	諸磯	＋19	
23 31住	24	LR斜縄文。	①細砂粒②橙色③底部	諸磯b	床面	
24 32住	10	LR斜縄文。平底。	①粗砂粒②にぶい橙色 ③底部	諸磯b	＋4	
25	7	LR斜縄文（現状）。	①繊維②橙色③底部	黒浜	P_1内	
26	雑	横位平行沈線。	①細砂粒②にぶい橙色 ③底部	諸磯b	—	
27	雑	縦位斜位沈線。撫で。	①細砂粒②にぶい橙色 ③底部	諸磯b	—	
28	H152雑	斜位沈線。撫で。	①細砂粒②にぶい橙色 ③底部	諸磯b	—	

表—83　J31・32号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	13	打製石斧	12.6	9.0	3.6	468	黒頁	—	—	—	潰	潰	潰	潰	周囲に潰 ＋7・J32
2	1	〃	12.3	8.7	3.4	441	〃	—	—	—	—	—	—	—	周囲に潰 床直・J31
3	雑	〃	9.5	4.5	1.8	71	〃	30	—	—	—	潰	—	—	覆
4	雑	〃	7.8	4.0	1.3	50	〃	50	—	—	—	滅	—	—	覆
5	雑	〃	(9.7)	4.3	1.3	61	〃	—	—	—	—	—	—	—	刃部欠 覆
6	6	直刃削器	3.9	7.2	1.2	31	〃	35	—	—	—	—	—	—	P_1内
7	20	凸刃削器	11.8	6.2	2.0	159	〃	30	—	—	—	—	—	—	＋4・J31
8	39	〃	3.2	6.1	0.8	16	〃	40	—	—	—	—	—	—	床直・J31
9	31	〃	4.3	6.8	1.4	36	頁	40	—	—	—	—	—	—	＋13・J31
10	34	〃	9.9	10.2	4.0	325	黒頁	20	—	—	—	—	—	—	床直・J31
11	雑	交刃削器	6.6	7.8	2.1	68	〃	35	—	—	—	—	—	—	覆
12	51	〃	6.8	6.0	1.1	34	〃	40	—	—	—	—	—	—	床直・J31
13	雑	複刃削器	6.3	8.2	1.9	109	〃	50	—	—	—	—	—	—	3刃 覆
14	17	〃	8.4	5.4	2.0	78	〃	40 50	—	—	—	—	—	—	2刃 ＋15・J31
15	26	〃	7.2	8.5	1.1	64	〃	45	—	—	—	—	—	—	床直・J31
16	6	円礫石器	10.2	8.5	4.5	517	安	—	敲3→擦1	敲3	—	—	敲1	敲1	敲→擦 P_1内
17	1	〃	15.3	7.2	4.3	639	〃	—	凹多	凹多	敲2	敲2	敲2	敲2	床直・J31
18	32	〃	12.9	8.0	4.1	643	〃	—	凹1→擦1	擦1	—	—	—	—	＋2・J32
19	50	〃	10.0	8.4	5.1	527	〃	—	凹2	凹2	敲1	敲1	敲1	敲1	床直・J32
20	12	石皿	(15.5)	(14.2)	5.0	1,160	〃	—	擦1	—	—	—	—	—	欠 ＋34・J31



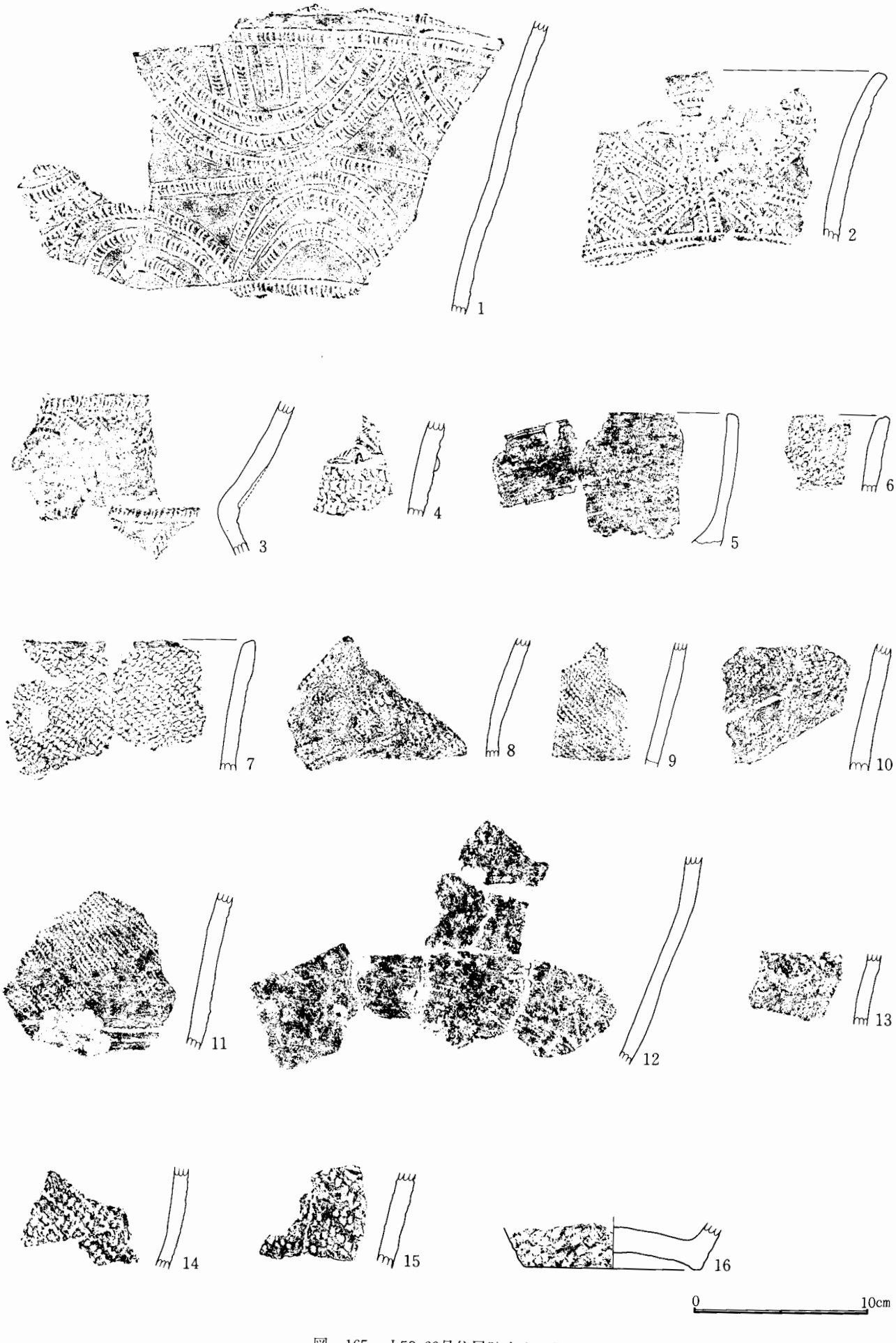
図－163　J 31･32号住居跡出土石器（１）



図－164　J 31･32号住居跡出土石器（２）

表－84　J 31・32号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		5							1	3		2	3									4			1				24				38
頁　岩										1																							1
黒色安山岩																													2				2
安山岩																						4			1						26		31
黒曜石																													4				4
珪　岩																													1				1
砂　岩																													1				1
計		5							1	4		2	3									4			1				32		26		78



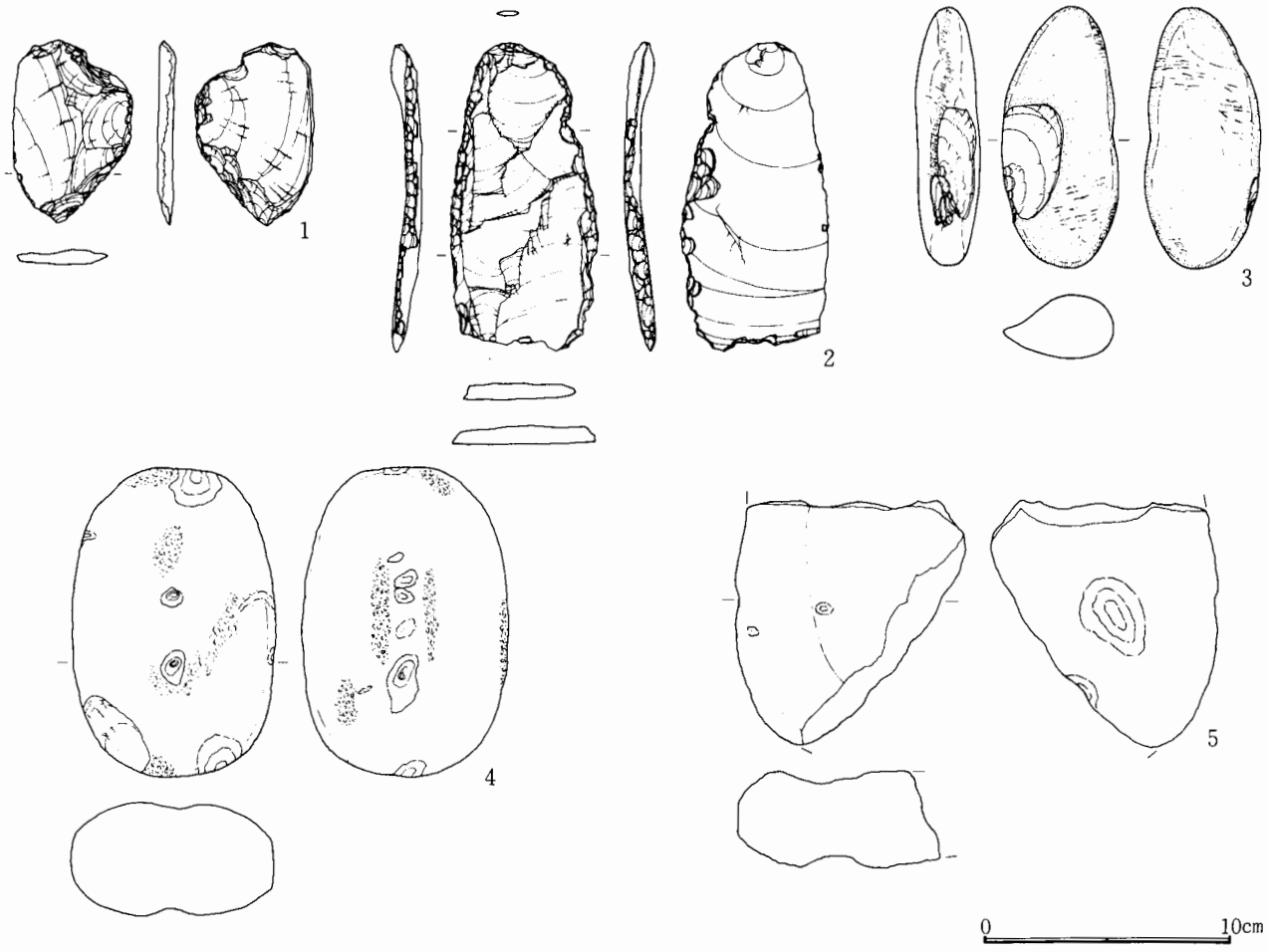
図－165　J 53·60号住居跡出土土器

表—85　J 33・60号住居跡出土土器観察表（図—165　図版—100）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1 60住	4	幅広C字形爪形刺突列による横区画中に3条の連弧状刺突列。	①砂粒②にぶい黄橙色③胴部	諸磯b	＋2	
2 60住	14	幅広C字形爪形刺突列の縦横斜区画。平口縁。緩く外反。	①砂粒②黒褐色③口縁部	諸磯b	＋6	
3 60住	9・11	幅広C字形爪形刺突列。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯b	＋11 位置不	
4 60住	4	ループ。梯子状平行沈線。貼付文。	①繊維②橙色③胴部	関山	＋2	
5 60住	10	全面横撫で。浅鉢。	①中砂粒②暗赤灰色③胴部	諸磯	＋10	
6 60住	4	RL斜縄文。	①繊維②褐灰色③口縁部	黒浜	＋2	
7 60住	13・雑	全面RL斜縄文。平口縁。口縁端内削。	①繊維②にぶい黄褐色③口縁部	黒浜	＋9	
8 60住	25	RL・LR羽状縄文。器面荒れ。	①砂粒②赤色③胴部	諸磯a	＋5	
9	11	RL斜縄文。	①砂粒②赤褐色③胴部	諸磯a	位置不	
10 60住	3	RL・LR羽状縄文。器面荒れ。	①細砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯a	＋14	
11 60住	9	細いRL斜縄文。	①細砂粒②灰白色③胴部	諸磯a	＋11	
12 60住	13・21	全面横位撫で。	①細砂粒②灰白色③胴部	不明	＋9 ＋6	
13 60住	4	RL斜縄文？荒れ。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯	＋2	
14 60住	4・雑	異節RL斜縄文。	①細砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯	＋2	
15 60住	4	太いRL斜縄文。	①砂粒②赤褐色③胴部	諸磯	＋2	
16	雑	RL・LR羽状縄文。上げ底。	①繊維②浅黄橙色③底部	黒浜	—	

表—86　J 33・60号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	雑	交刃削器	4.7	7.3	1.7	29	黒頁	35	—	—	—	—	—	—	覆
2	雑	複刃削器	12.8	5.9	1.2	75	珪頁	60 60	—	—	—	—	—	—	覆
3	雑	敲き石	10.3	4.6	2.4	160	黒頁	—	敲2	敲2	—	—	敲2	敲2	覆
4	雑	円礫石器	12.3	8.1	4.4	676	安	—	凹2	凹2	敲3	敲3	敲3	敲3	覆
5	雑	石Ⅲ	(9.7)	(9.1)	4.6	363	〃	—	擦1	凹	欠	欠	—	欠	覆



図－166　J 33･60号住居跡出土石器

表－87　J 33・60号住居跡石器器種・石材別一覧表

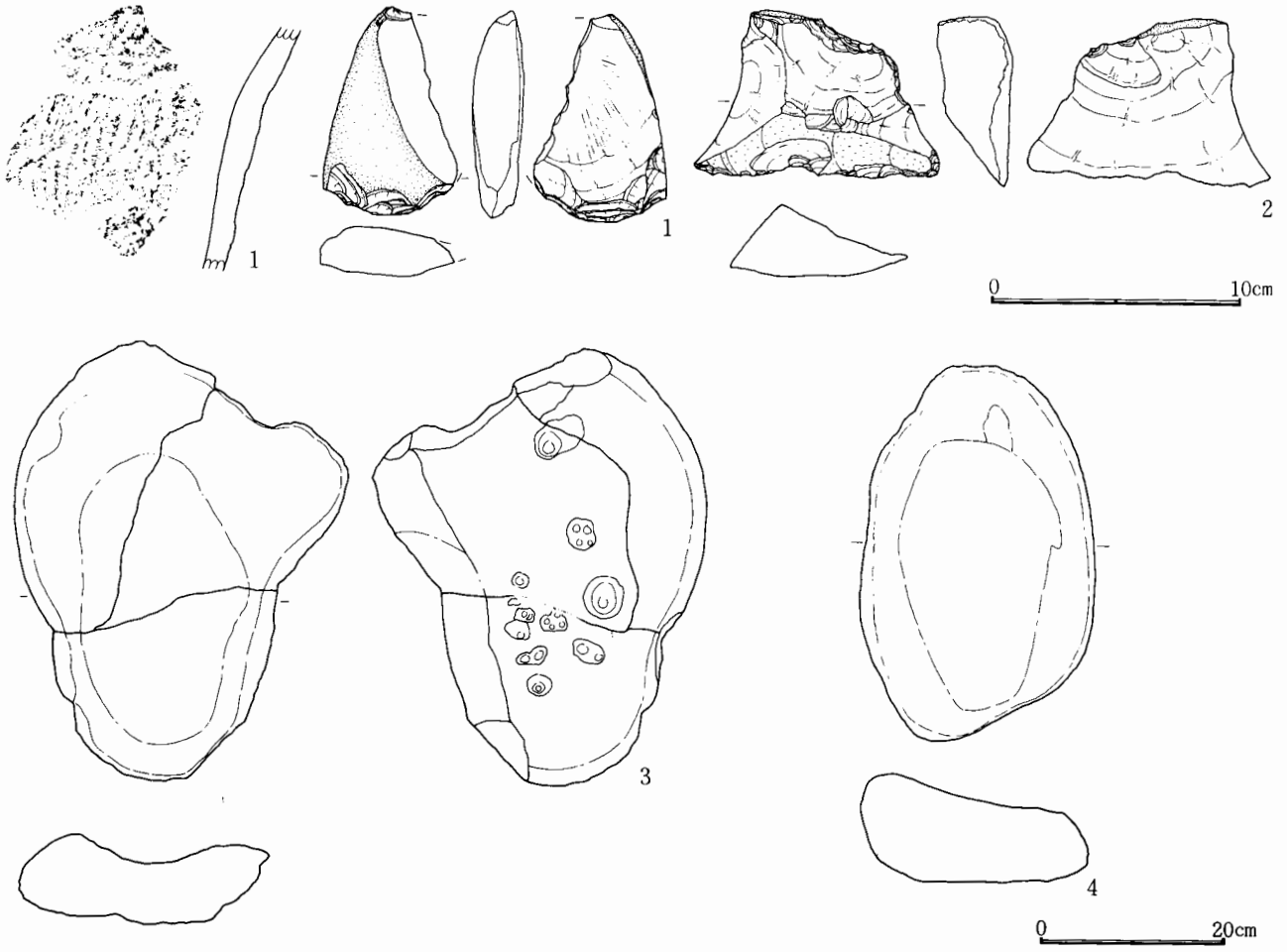
器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩												1									1								7				9
珪質頁岩													1																1				2
黒色安山岩																													3				3
安山岩																						1			1						4		6
砂石																													1				1
計												1	1								1	1			1				12		4		21

表－88　J 34号住居跡出土土器観察表（図－167　図版－100）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	1	RL・LR羽状縄文。	①繊維②にぶい赤褐色③胴部	黒浜	+13	

表－89　J 34号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	K 6内	凸刃削器	(8.3)	(5.3)	1.9	91	黒頁	70	—	—	—	—	—	欠	欠 覆
2	K 6内	直刃削器	6.7	9.3	3.1	142	〃	35	—	—	—	—	—	—	覆
3	4	石皿	47.2	36.0	9.5	10,700	安	—	擦1	凹多	—	—	—	—	+2
4	2	〃	41.2	25.0	11.6	13,200	〃	—	擦1	—	—	—	—	—	+4



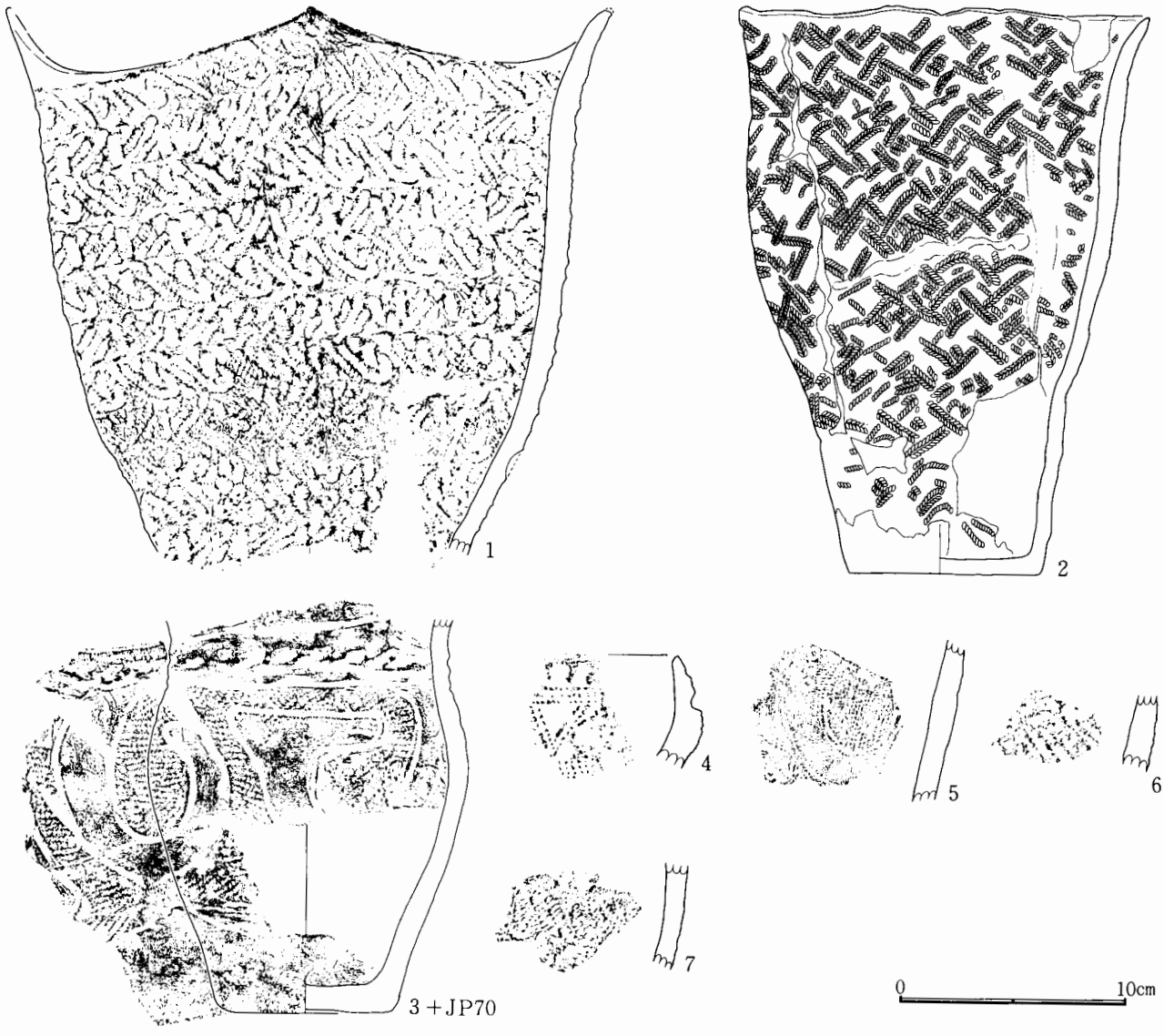
図－167　Ｊ34号住居跡出土土器・石器

表－90　Ｊ34号住居跡石器器種・石材別一覧表

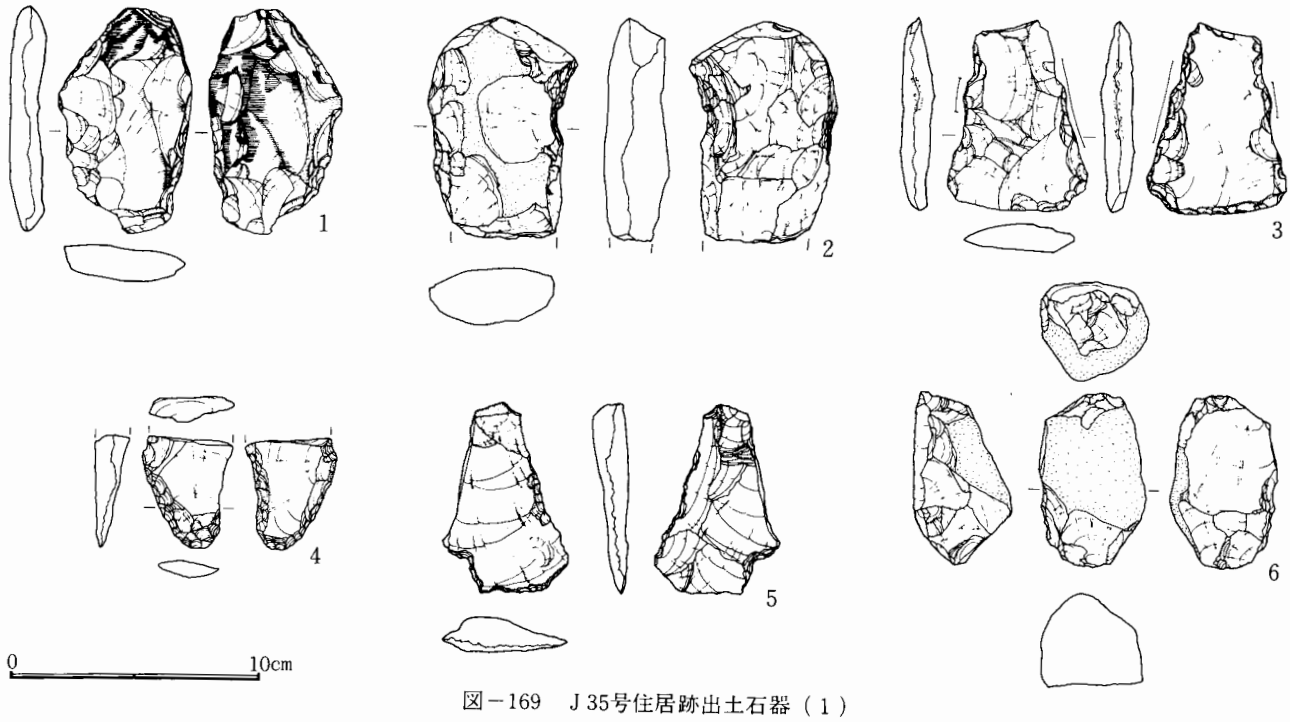
器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩									1	1																			1				3
安山岩																									2						1		3
計									1	1															2				1		1		6

表－91　Ｊ35号住居跡出土土器観察表（図－168　図版－100）

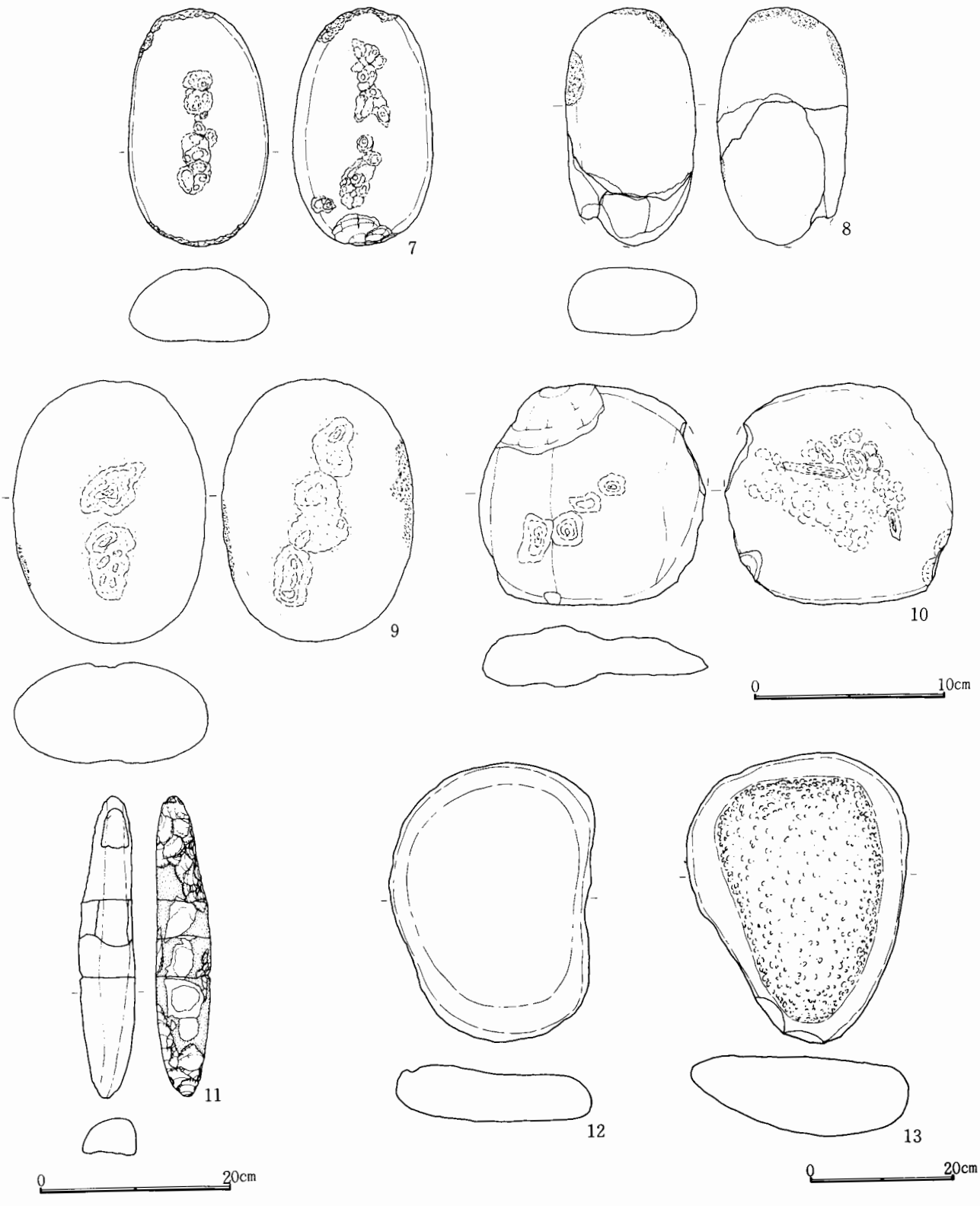
番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	1・埋甕	長さ1.8cmのループ文を横位に全面施文。4波頂部の波状口縁。	①繊維②黒褐色③底部欠	関山	埋甕	
2	2	Ｒ・Ｌ２本の交差する絡条体縄文。平口縁。	①繊維②黄橙色③完形	関山	＋6	
3	8	上半部を大きく欠損。胴部のくびれに刺突のある隆帯。浅い沈線でＪ字を基調とした沈線区画。縄文ＬＲ充塡。	①細粒②黄橙色③½	称名寺1	＋12	ＪＰ214と接
4	H148内	口縁端外縁三角形印刻列。幅狭Ｃ字形刺突列。三角形印刻。	①細砂粒②黒褐色③口縁部	十三菩提	－	
5	1内	平行沈線の弧線入組み文。内部にＲＬ斜縄文。円形竹管刺突。	①砂粒②浅黄橙色③胴部	諸磯a	＋2	
6	H148内	ＲＬ・ＬＲ羽状縄文。	①繊維②にぶい赤褐色③胴部	黒浜	—	
7	雑	ＲＬループ。	①繊維②浅黄橙色③胴部	関山	—	



図－168　J 35号住居跡出土土器



図－169　J 35号住居跡出土石器（1）



図－170　J 35号住居跡出土石器（２）

表－92　J35号住居跡出土石器属性表

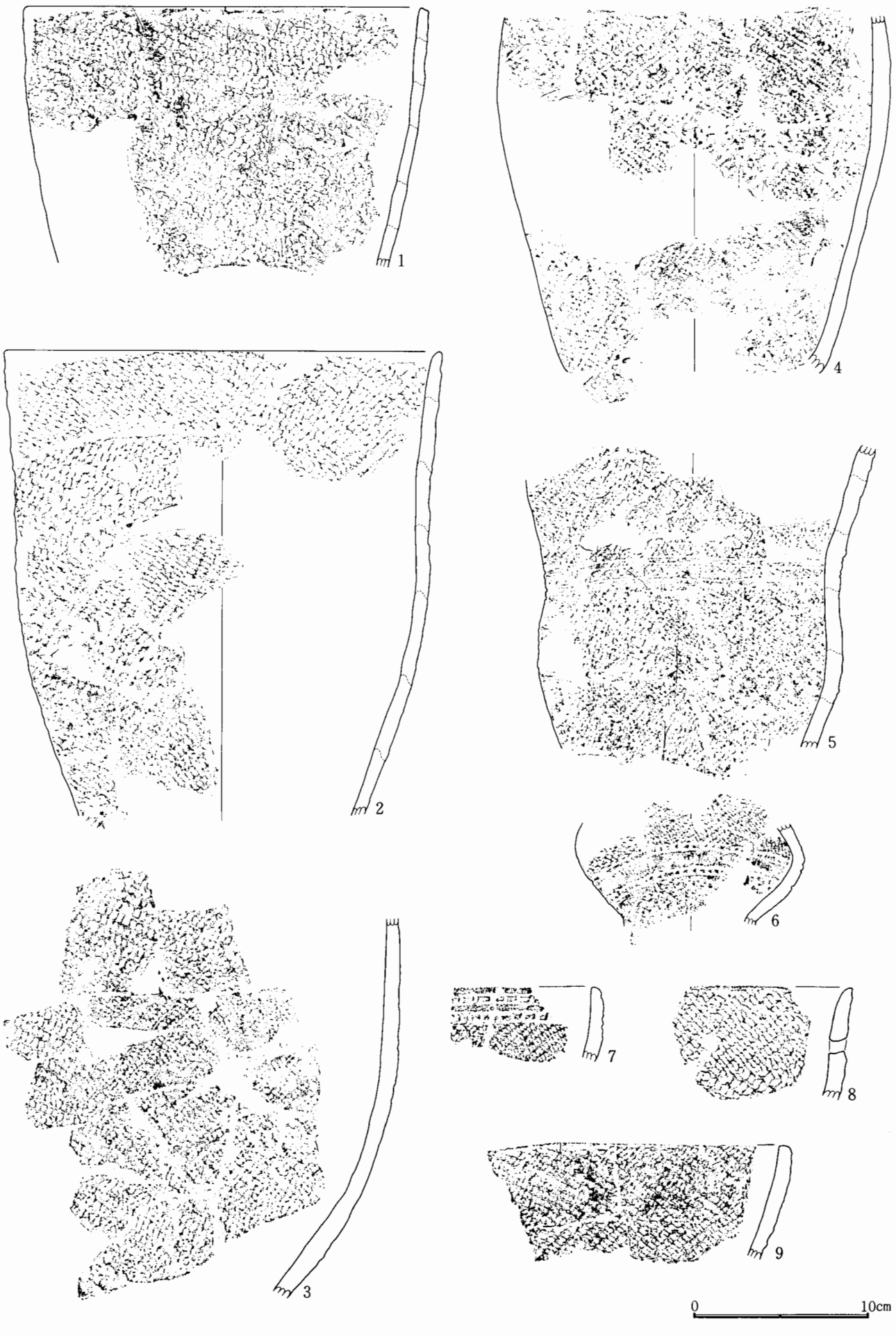
No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	雑	打製 石斧	8.9	5.3	1.4	78	黒頁	30	—	—	—	滅	滅	—	覆
2	1内	〃	(8.8)	5.9	2.6	164	〃	—	—	—	—	—	—	—	刃部欠 2内
3	雑	掻器	7.6	5.6	1.3	51	〃	70	—	—	—	—	—	—	覆
4	雑	交歯削器	4.5	3.7	1.4	16	〃	40	—	—	—	—	—	—	覆
5	6	複歯削器	7.7	5.0	1.4	36	〃	30 30	—	—	—	—	—	—	＋9
6	雑	石核	7.0	4.3	3.9	122	黒安	—	—	—	—	—	—	—	覆
7	4	円礫石器	12.3	7.3	4.0	505	安	—	凹多	凹多	敲3	敲3	敲1	敲1	＋8
8	3	〃	12.4	7.8	3.8	480	〃	—	擦2	擦2	擦 →敲3	擦 →敲3	擦 →敲1	擦 →敲2	擦→敲 ＋3
9	7	〃	13.5	10.0	5.2	930	〃	—	凹2	凹多	敲1	敲1	敲1	敲1	＋6
10	12	台石	11.4	11.8	3.4	439	砂	—	敲3	敲3	—	—	—	—	床面
11	5	敲き石	31.5	5.8	4.2	910	負	—	火	火 →敲3	敲3	敲3	敲3	—	火→敲 ＋6
12	11	石皿	39.0	29.3	8.8	12,200	安	—	擦1	—	—	—	—	—	床面
13	10	〃	40.6	31.1	11.4	12,600	〃	—	敲2	—	—	—	—	—	製作途中 ＋5

表－93　J35号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種／石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		2					1					1	1																24				29
頁岩																					1												1
黒色安山岩																														1			1
安山岩																						3			2						4		9
緑泥片岩																															1		1
砂岩																																1	1
計		2					1					1	1								1	3			2				24	1	5	1	42

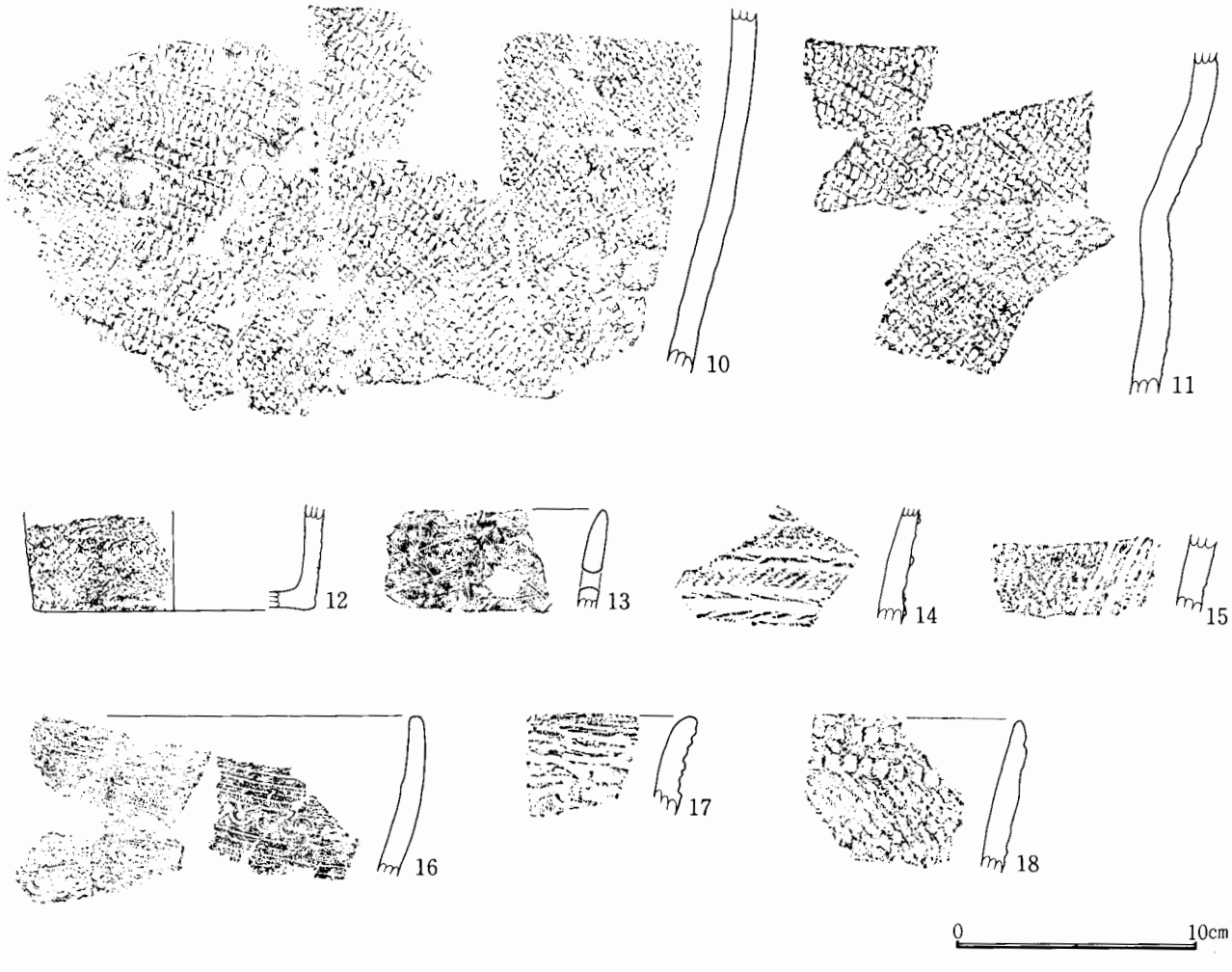
表－94　J36号住居跡出土土器観察表（図－171・172　図版－100・101）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	33・41	全面ＲＬ斜縄文。口縁端刻。平口縁。	①繊維②灰褐色③口縁部	黒浜	＋38 ＋11	
2	31	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。平口縁。	①繊維②暗褐色③口縁～胴部下半	黒浜	＋15	8と同一個体
3	47	付加条ＲＬ＋Ｌ・ＬＲ＋ｒの羽状縄文。	①繊維②黒褐色③胴部	黒浜	＋24	10と同一個体
4	H126・6	付加条ＲＬ＋Ｌ・ＬＲ＋Ｒの羽状縄文。	①繊維②浅黄橙色③胴部	黒浜	148、58	
5	95	付加条ＲＬ＋Ｌ・ＬＲ＋Ｒの羽状縄文。頸部二条の平行沈線。口縁にかけて外反。	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	埋甕	
6	雑	浅鉢。ＬＲの斜縄文。胴部中央に２条のＣ字形刺突列。	①繊維②黒色③口縁～胴部下半	黒浜	—	
7	雑	付加条ＬＲ＋Ｌの羽状縄文。口縁下Ｃ字形刺突列２条。	①繊維②灰白色③口縁部	黒浜	—	
8	76	ＲＬ・ＬＲの羽状縄文。平口縁。	①繊維②黒色③口縁部	黒浜	＋15	
9	46	全面付加条ＬＲ＋Ｌ・ＲＬ＋？の羽状縄文。	①繊維②灰赤色③口縁部	黒浜	＋22	
10	47	付加条ＲＬ＋ｒ・ＬＲ＋ｒの羽状縄文。	①繊維②黒褐色③胴部	黒浜	＋24	
11	47・70・雑	付加条ＲＬ＋ｒ・ＬＲ＋ｒの羽状縄文。	①繊維②黒褐色③胴部	黒浜	＋24 ＋16	

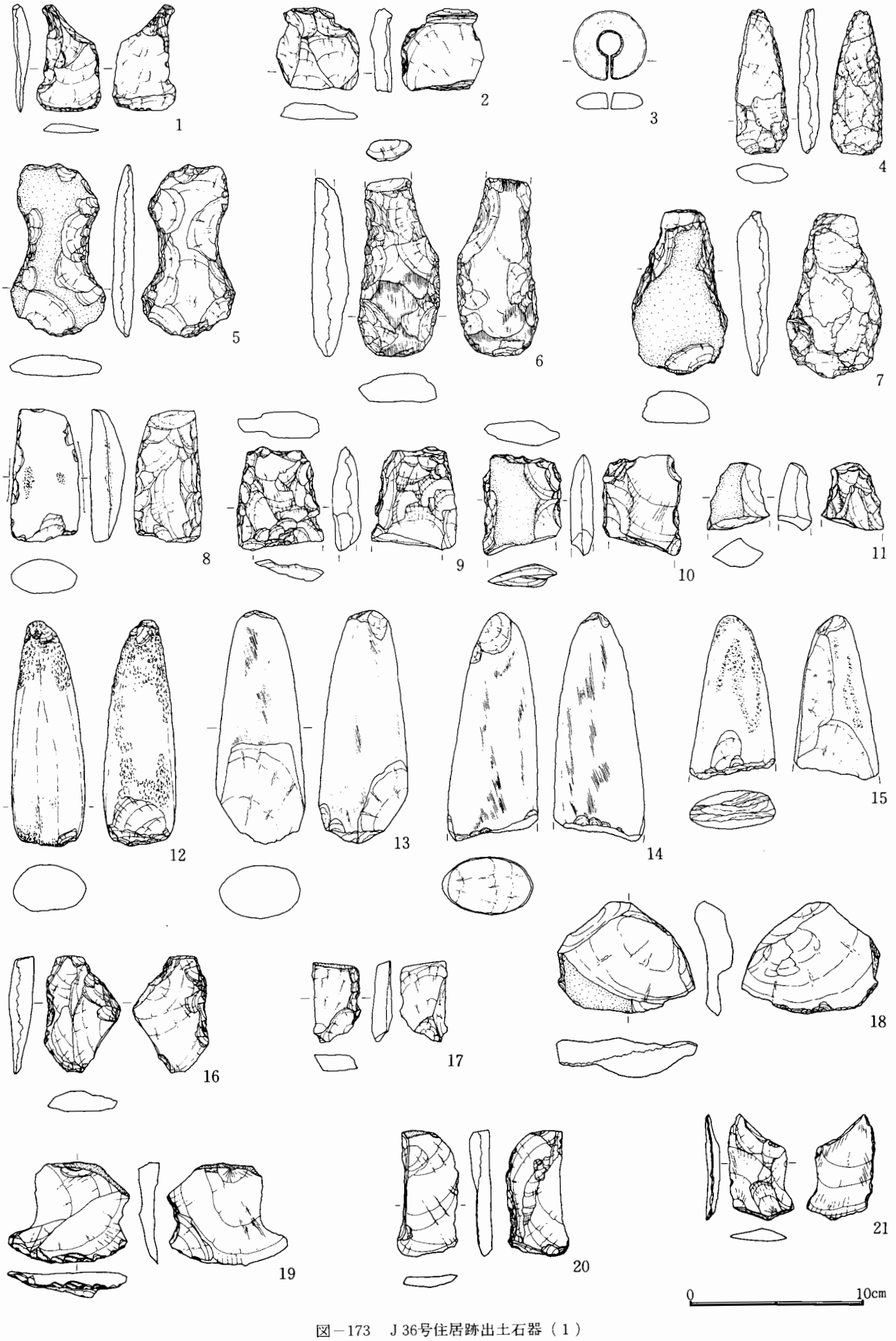


図－171　J 36号住居跡出土土器（１）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
12	42	付加条ＬＲ＋Ｒの斜縄文（現状）。	①繊維②にぶい橙色③底部	黒浜	＋28	
13	H126雑	不規則な細い斜格子。平口縁。口縁端尖る。穿孔。	①繊維②黒色③口縁部	黒浜	—	
14	雑	ＬＲ斜縄文。横位矢羽根状刻み浮線。	①中砂粒②赤褐色③胴部	諸磯ｂ	—	
15	15	Ｌ斜縄文。沈線が斜めに入る。	①繊維②明褐灰色③胴部	黒浜	＋20	
16	90・91	横位平行沈線とコンパス文。波状口縁。内湾ぎみに開く。	①繊維②黒色③口縁部	黒浜	＋10 ＋13	
17	H126	不規則な横位平行沈線。平口縁。	①繊維②にぶい赤褐色③口縁部	黒浜	—	
18	雑	Ｒ斜縄文。口縁下２条の逆Ｃ字形刺突列。平口縁。口縁端内削。	①繊維②にぶい褐色③口縁部	黒浜	—	

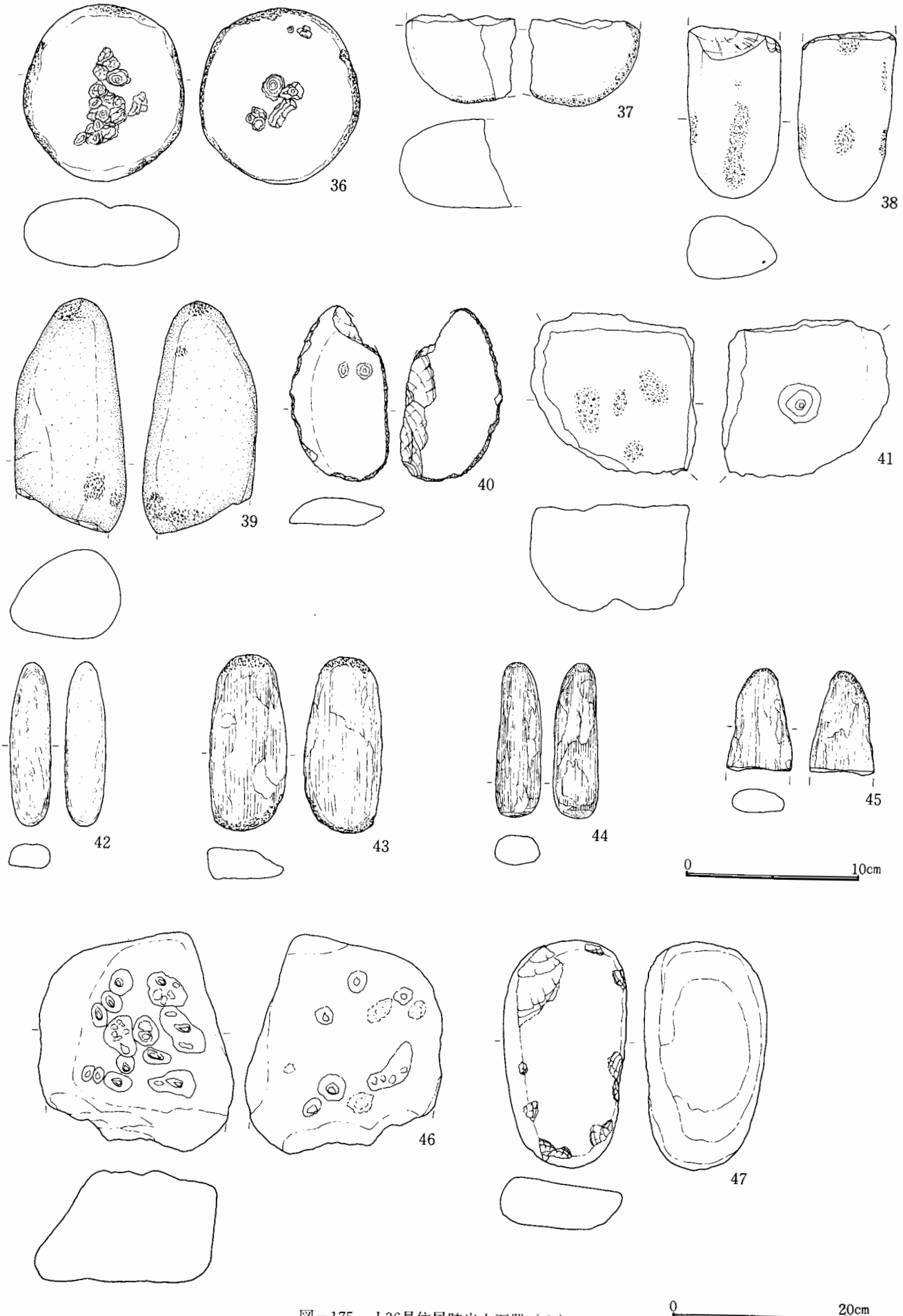


図－172　Ｊ36号住居跡出土土器（２）



図－173　J 36号住居跡出土石器（１）

図－174　J 36号住居跡出土石器（２）



図－175　J 36号住居跡出土石器（３）

表－95　J 36号住居跡出土石器属性表

No	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	1	石匙	6.1	3.6	0.9	13	黒頁	20	—	—	—	—	—	—	+14
2	雑	〃	4.7	4.7	1.3	30	〃	45	—	—	—	—	—	—	覆
3	床面	玦状耳飾	4.0	4.2	1.0	25	蛇	—	—	—	—	—	—	—	位置不
4	雑	打製石斧	8.3	3.0	1.3	40	緑片	65	—	—	—	—	—	擦2	磨斧転用 覆
5	雑	〃	9.8	5.4	1.2	73.5	不明	50	—	—	—	—	—	—	覆
6	雑	〃	10.3	4.7	2.1	118	黒頁	55	—	—	欠	滅2	—	—	覆
7	60	〃	9.4	5.5	1.9	95	〃	45	—	—	—	—	—	—	+18
8	34	〃	7.5	3.9	2.2	85	点片	—	擦2	—	—	—	—	—	磨斧再加工 +13
9	雑	〃	(5.9)	4.9	1.7	48	黒頁	—	—	—	—	欠	—	—	覆
10	19	〃	(5.8)	4.5	1.4	38	〃	—	—	—	—	欠	—	—	+12
11	雑	〃	(3.8)	3.6	1.9	21	〃	—	—	—	—	欠	—	—	覆
12	5	磨製石斧	12.9	4.2	2.8	231	点片	60	擦2	擦2	擦2→敲2	—	擦2	擦2	+4
13	雑	〃	(13.3)	5.2	3.2	301	〃	—	—	—	潰1	欠	—	—	覆
14	71	〃	(13.2)	5.3	3.3	341	閃	—	—	—	—	欠	—	—	+15
15	雑	〃	(9.4)	4.9	2.2	139	点片	—	—	—	潰1	欠	—	—	覆
16	21	直刃削器	6.7	4.4	2.5	36	黒頁	70	—	—	—	—	—	—	+11
17	雑	〃	4.6	2.8	1.1	17	〃	60	—	—	—	—	—	—	覆
18	雑	凸刃削器	6.5	7.9	2.2	82	〃	70	—	—	—	—	—	—	覆
19	12	〃	5.8	6.9	1.5	38	〃	40	—	—	—	—	滅1	—	+13
20	26	〃	7.3	3.0	1.2	30	〃	50	—	—	—	—	—	—	+10
21	74	凸刃削器	6.2	3.7	0.8	12	黒頁	25	—	—	—	—	—	—	+17
22	雑	凹刃削器	4.0	6.8	1.0	26	〃	40	—	—	—	—	—	—	覆
23	雑	〃	7.9	7.1	2.1	98	〃	75	—	—	—	—	—	—	覆
24	99	交刃削器	8.9	4.6	4.3	39	〃	55 50	—	—	—	—	—	—	周溝内
25	雑	〃	7.3	6.0	2.4	94	〃	55	—	—	—	—	—	—	覆
26	雑	複刃削器	4.5	5.7	1.4	44	〃	70	—	—	—	—	—	—	3刃 覆
27	雑	抉入石器	4.0	6.5	1.6	39	〃	70	—	—	—	—	—	—	覆
28	36	円礫石器	8.9	7.8	3.1	276	安	—	凹1	凹1	敲3	敲3	敲3	敲3	+8
29	雑	〃	10.5	6.4	4.1	413	斑	—	擦2	擦2	敲1	敲1	—	—	擦→敲 覆
30	雑	〃	9.3	7.5	3.3	325	安	—	凹2	凹2	敲1	敲1	敲2	敲2	覆
31	雑	〃	9.6	6.8	4.8	462	〃	—	敲1	敲1	敲3	敲3	—	—	覆
32	81	〃	8.9	8.1	3.7	351	〃	—	凹1	凹1	敲1	敲1	敲1	敲1	使用→火 +23
33	23	〃	9.3	7.3	4.4	448	〃	—	敲2→擦2	敲2→擦2	敲1→擦2	敲1→擦2	敲1→擦2	敲1→擦2	+16
34	51	円礫石器	10.6	10.3	5.3	684	〃	—	凹1	凹1	—	—	—	—	+9

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
35	雑	〃	10.5	8.1	4.3	422	斑	—	擦1→凹1	擦1→凹1	擦1→敲2	擦1→敲2	擦1→敲2	擦1→敲2	覆
36	雑	〃	10.1	9.2	4.9	475	安	—	凹2→擦1	凹1→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	覆
37	雑	〃	(5.0)	(6.4)	5.1	190	〃	—	擦2	擦2	欠	敲2	敲2	欠	擦→敲覆
38	72	敲き石	(9.8)	5.4	3.5	302	〃	—	敲3	敲3	欠	敲1	敲2	敲2	+14
39	35	〃	(13.3)	6.4	5.1	598	〃	—	敲1	敲1	敲1	欠	敲1	敲1	+3
40	58	石皿	10.0	5.8	1.7	91	浮安	—	擦1→敲1	擦1	—	—	—	—	+34
41	100	凹石	9.4	9.1	6.5	694	安	—	凹1	—	—	—	—	—	+39
42	83	棒状石器	9.4	2.3	1.3	53	黒片	—	—	—	敲1	敲1	—	—	+20
43	55	〃	10.1	4.4	1.8	132	〃	—	—	—	敲1	敲1	—	—	+27
44	66	〃	8.9	2.6	1.7	62	〃	—	—	—	敲1	敲1	—	—	+11
45	71	〃	(5.9)	3.7	1.3	40	結片	—	—	—	—	欠	—	—	+15
46	96	多凹石	(25.4)	(22.3)	13.8	8,500	安	—	凹3	擦→凹3	—	—	—	—	床直
47	雑	石皿	26.6	14.1	6.6	2,680	〃	—	擦2	擦2	—	—	—	—	覆

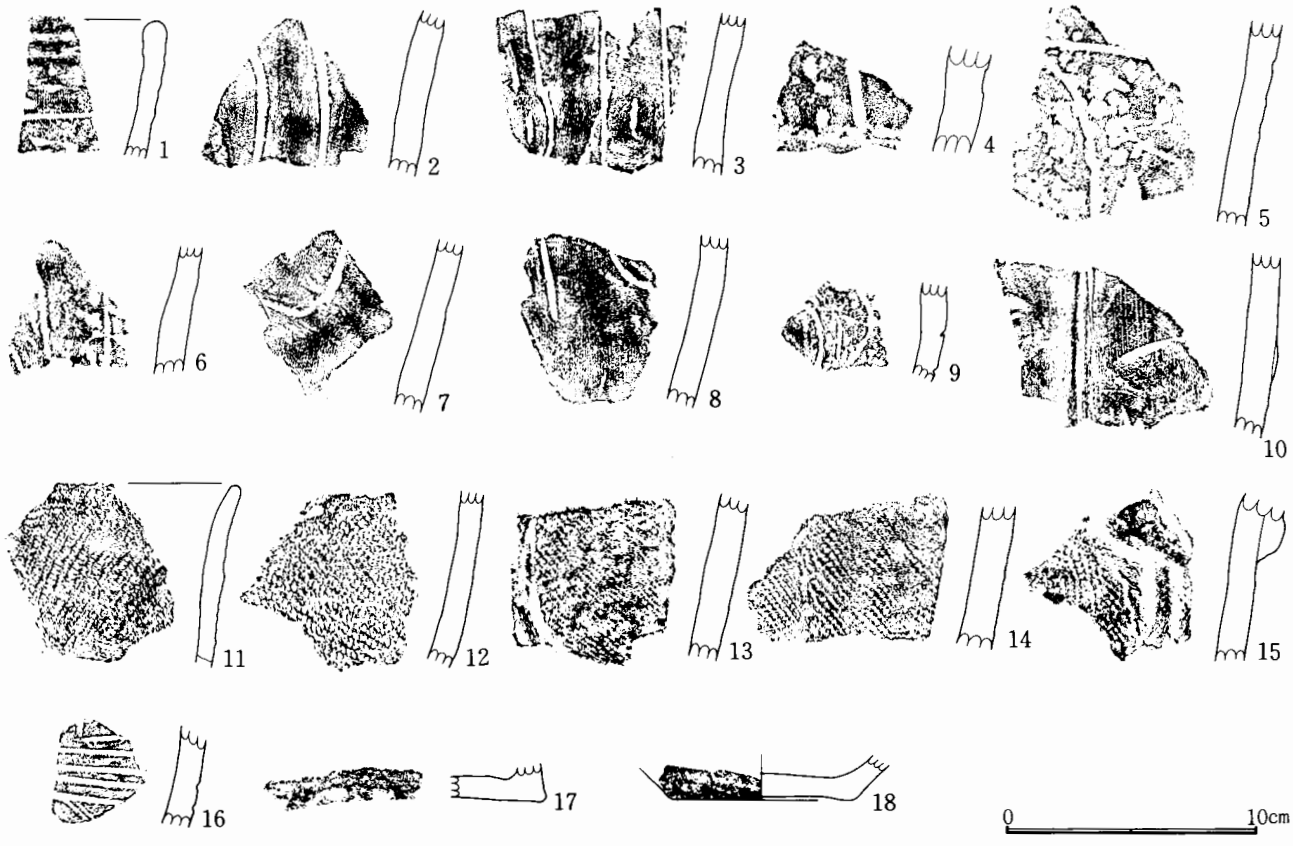
表—96　J 36号住居跡石器器種・石材別一覧表

石材＼器種	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		5				2			2	4	2	2	1		1														156				175
頁岩																															1		1
黒色安山岩																													3				3
浮石質安山岩																								1									1
安山岩																					2	8			1	1	1		5		13		31
閃緑岩			1																														1
蛇紋岩																																1	1
斑岩																						2									1		3
赤色珪質岩																													3				3
珪岩																													10				10
緑泥片岩		1																															1
黒色片岩																								3									3
結晶片岩																								1									1
点紋緑色片岩		1	3																														4
その他		1																															1
計		8	4			2			2	4	2	2	1		1						2	10		4	2	1	1		177		15	1	239

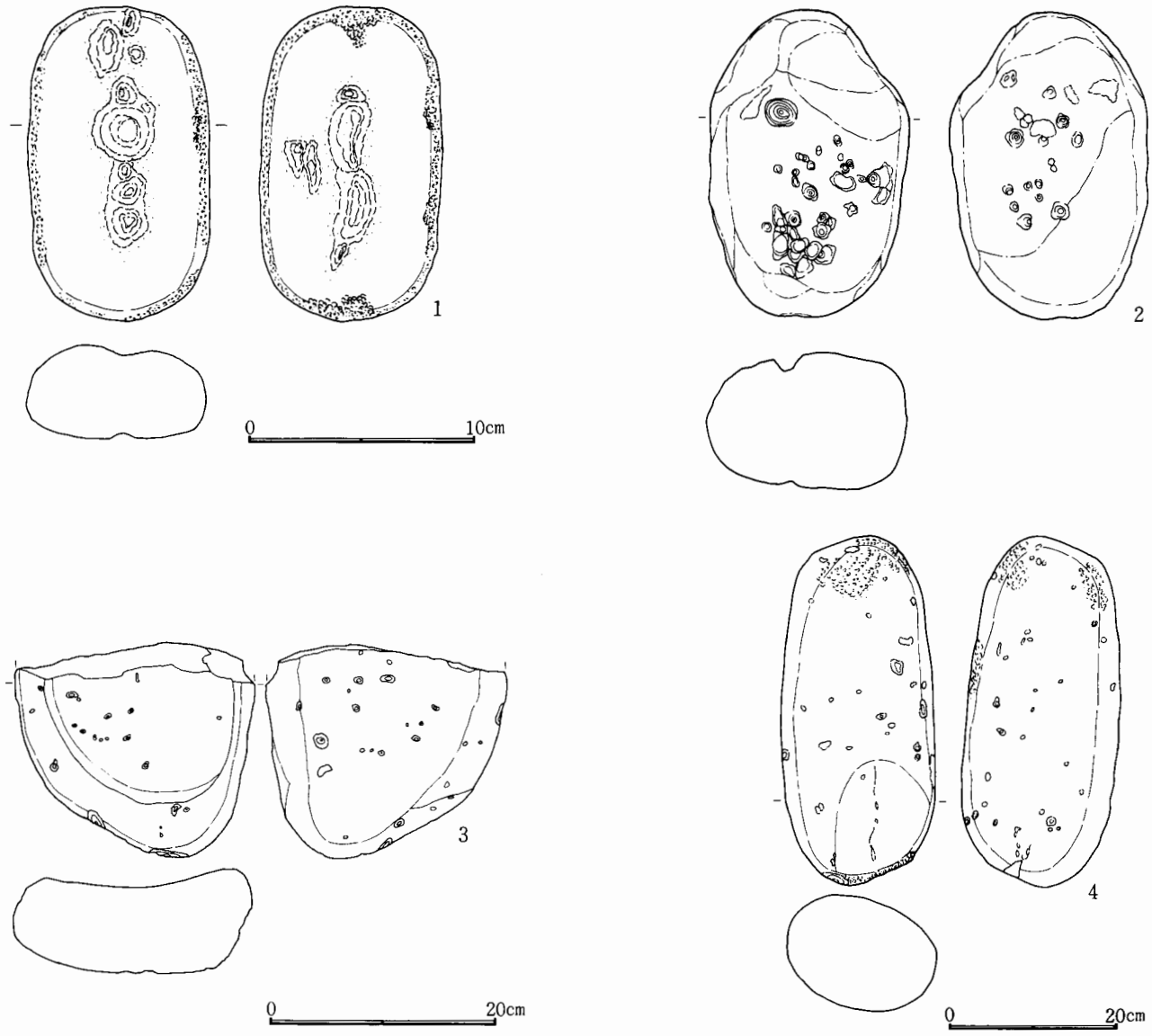
表—97　J 37号住居跡出土土器観察表（図—176　図版—101）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	雑	沈線。列点。	①中粒・白色鉱物②浅黄色③口縁部	称名寺2	—	
2	雑	沈線。	①中粒②浅黄色③胴部	称名寺2	—	
3	雑	細く鋭い沈線と細長い列点。	①中粒②淡黄色③胴部	称名寺2	—	
4	雑	沈線。列点。	①中粒②淡黄色③胴部	称名寺2	—	
5	雑	沈線。列点。	①中粒②浅黄橙色③胴部	称名寺2	—	

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
6	H178雑	沈線。	①中粒②淡黄色③胴部	称名寺2	—	
7	H178雑	沈線。	①中粒②淡黄色③胴部	称名寺2	—	
8	H178雑	沈線。	①中粒②橙色③胴部	称名寺2	—	
9	雑	細く鋭い沈線と列点。	①中粒②にぶい黄橙色③胴部	称名寺2	—	3と同一個体
10	雑	微隆起。条線。	①中粒②淡黄色③胴部	加曽利E4	—	
11	雑	縄文RL。	①細粒②にぶい橙色③口縁部	諸磯	—	
12	雑	縄文RL。	①中粒②にぶい黄橙色③胴部	諸磯	—	
13	雑	微隆起と細縄文LR。	①中粒・白色鉱物②灰黄褐色③胴部	加曽利E4	—	
14	雑	縄文LR。	①中粒②淡黄色③胴部	称名寺？	—	
15	雑	口縁部無文帯が微隆起によって形成。胴部は縄文LR地を貫入し無文部が入る。	①中粒②淡黄色③口縁部	加曽利E4	—	
16	雑	横走する半截竹管。	①中粒②橙色③胴部	諸磯b	—	
17	雑	無文部。	①中粒・白色鉱物②橙色③底部	諸磯	—	
18	雑	無文部。	①中粒②にぶい黄橙色③底部	—	—	



図－176　J37号住居跡出土土器



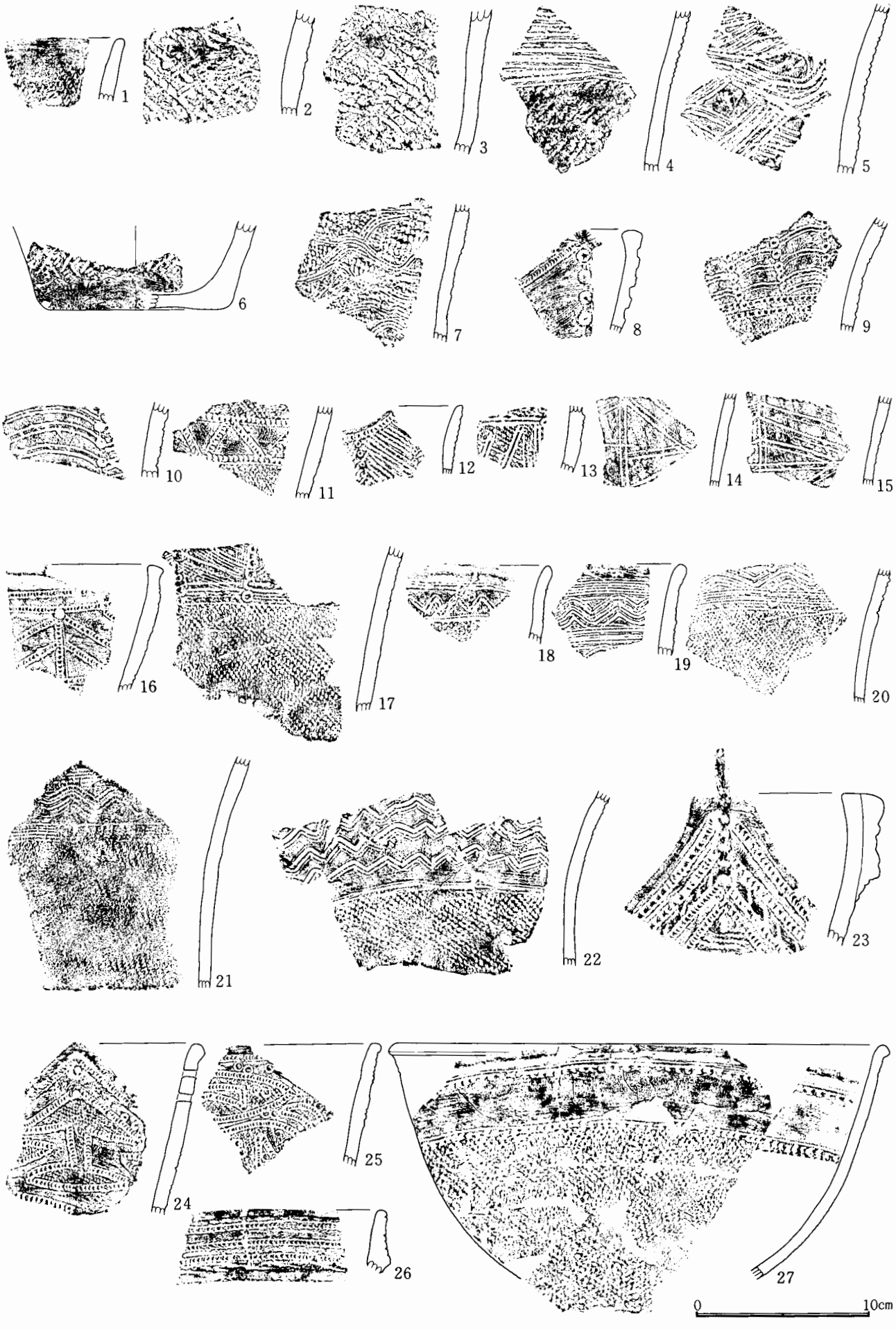
図－177　J 37号住居跡出土石器

表－98　J 37号住居跡出土石器属性表

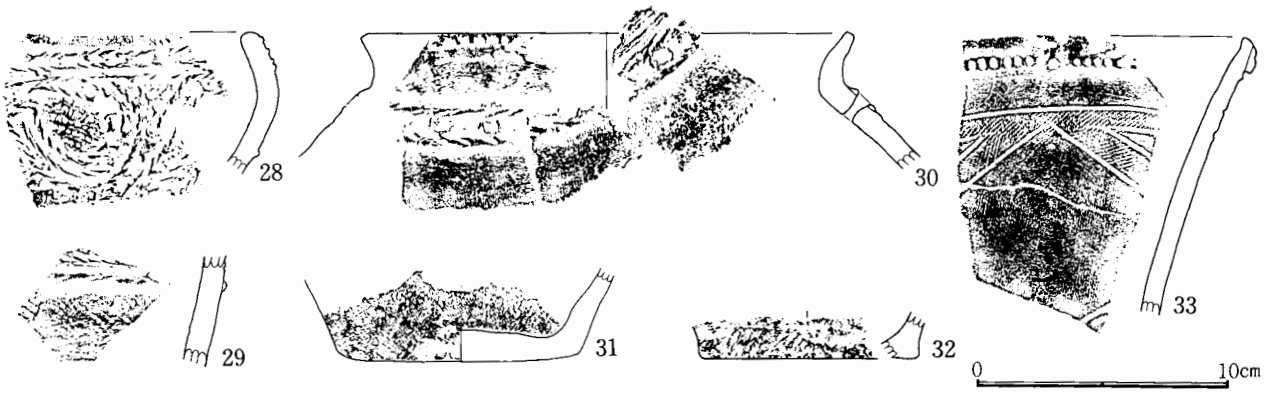
No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	1	円礫石器	13.8	8.1	4.2	761	安	—	凹2・敲3→擦1	凹2・敲3→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	＋9
2	2	多凹石	27.0	17.7	12.1	7,530	〃	—	凹3	凹3	—	—	—	—	＋5
3	雑	石皿＋多凹石	19.0	21.1	9.9	4,840	〃	—	擦2	凹3	—	—	—	—	覆
4	5	台石	42.2	18.3	14.2	15,700	〃	—	敲2	敲2	—	—	—	—	＋6

表－99　J 37号住居跡石器器種・石材別一覧表

石材＼器種	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
安山岩																						1			1	1						1	4
計																						1			1	1						1	4



図－178　J 38号住居跡出土土器（１）

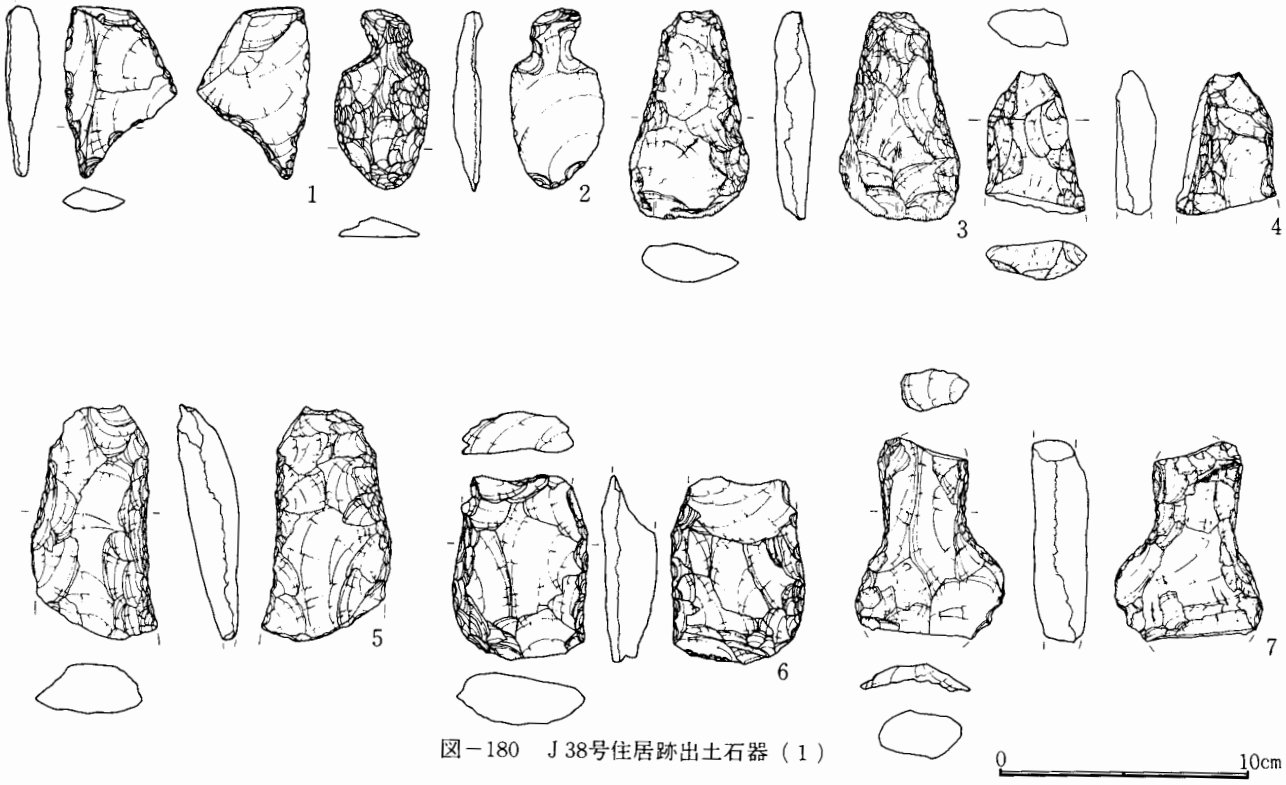


図－179　J 38号住居跡出土土器（２）

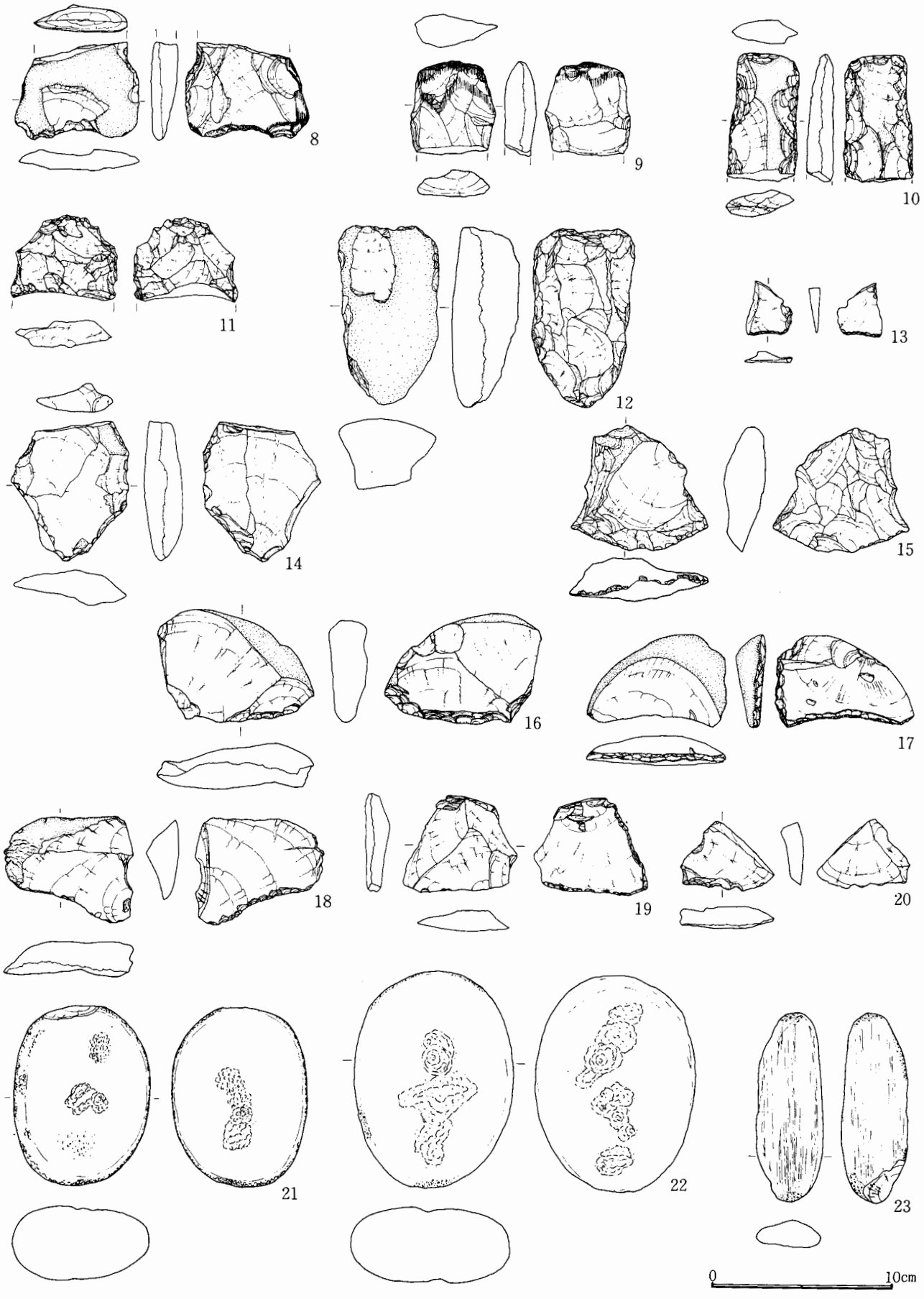
表－100　J 38号住居跡出土土器観察表（図－178・179　図版－102）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	8	間隔のあいたＲ斜縄文。平口縁。	①細砂粒②淡褐色③口縁部	諸磯ａ	床直	
2	雑	Ｒ斜縄文。	①繊維②暗淡褐色③胴部	黒浜	—	
3	雑	Ｒ斜縄文。	①繊維②暗褐色③胴部	黒浜	—	
4	雑	ＲＬ斜縄文。横位平行沈線の集合。	①砂粒（石英）②黒褐色③胴部	諸磯ｂ	—	
5	雑	３本１組の櫛状工具の渦巻及び斜線。	①砂粒②黒褐色③胴部	諸磯ｂ	—	
6	雑	ＬＲ斜縄文。平底。	①砂粒②赤褐色③底部	諸磯	—	
7	雑	ＲＬ斜縄文。交叉したり波状に入る横位の４本１組の櫛状工具の平行沈線。	①砂粒②黒褐色③胴部	諸磯ａ	—	
8	雑	口縁下に逆Ｃ字形刺突列と平行沈線。曲線的な肋骨文。縦位円形竹管刺突列。波状口縁。	①細砂粒②暗褐色③口縁部	諸磯ａ	—	
9	雑	胴部下半ＲＬ斜縄文。Ｃ字形刺突列の境、縦位円形竹管刺突列。曲線的な肋骨文。	①細砂粒②暗茶褐色③胴部	諸磯ａ	—	
10	雑	曲線的な肋骨文。縦位円形竹管刺突列。	①細砂粒②黒色③胴部	諸磯ａ	—	
11	雑	ＲＬ斜縄文。Ｃ字形刺突列の横線と鋸歯状文。	①細砂粒②暗褐色③胴部	諸磯ａ	—	
12	雑	口縁下Ｃ字形刺突列。縦位円形竹管刺突列。密な直線的肋骨文。	①細砂粒②黒茶褐色③口縁部	諸磯ａ	—	
13	雑	ＲＬ斜縄文。平行沈線の縦横区画と直線的肋骨文。交点円形竹管刺突。	①繊維少量②暗褐色③胴部	黒浜	—	
14	雑	撫で。平行沈線。縦横区画と直線的な肋骨文。	①細砂粒②暗淡褐色③胴部	諸磯ａ	—	15と同一個体
15	雑	撫で。平行沈線の縦横区画と直線的な肋骨文。	①細砂粒②暗淡褐色③胴部	諸磯ａ	—	
16	雑	Ｃ字形刺突列の縦横区画と直線的な肋骨文。交点に棒の小口刺突。	①細砂粒②黒色③口縁部	諸磯ａ	—	
17	雑	ＲＬ斜縄文。５本１組櫛状工具の平行沈線の肋骨文と円形竹管刺突。	①細砂粒②淡灰褐色③胴部	諸磯ａ	—	
18	雑	口縁下鋸歯状文を挟んだ２条の平行沈線。ＲＬ斜縄文。平口縁。	①細砂粒②黒色③口縁部	諸磯ａ	—	
19	雑	３本１組の横位平行沈線と鋸歯状文の段構成。緩い波状口縁。	①細砂粒②暗茶褐色③口縁部	諸磯ａ	—	
20	雑	ＲＬ斜縄文。４～５本１組の横位集合沈線と波状沈線。	①砂粒②暗赤褐色③胴部	諸磯ａ	—	
21	雑	ＲＬ？斜縄文。櫛状工具の縦位刺突列の境、横位波状文と集合沈線の段構成。	①砂粒（片岩）②橙色③胴部	諸磯ａ	—	
22	雑	ＲＬ斜縄文。４本１組櫛状工具の横位鋸歯状文段構成。横線で地文との境。	①細砂粒②黒褐色③胴部	諸磯ａ	—	
23	5	大波状口縁。波頂部に縦位貼付文。口縁下Ｃ字形刺突列と刻み入隆線。横位ＬＲ斜縄文。	①細砂粒②にぶい橙色③口縁部	諸磯ａ	＋26	

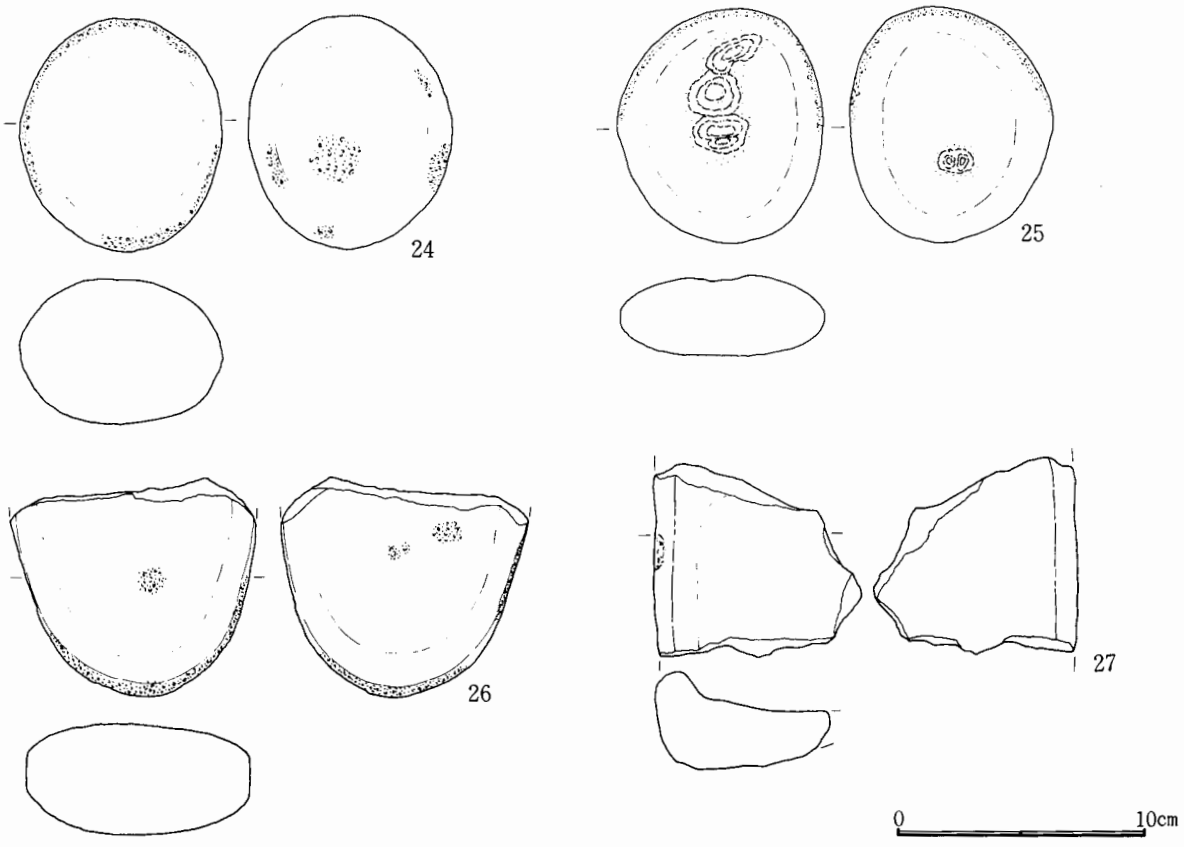
番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
24	雑	波状口縁。口縁下C字形刺突列。弧線入組み文。内部にRL斜縄文。	①砂粒②暗赤褐色③口縁部	諸磯a	—	
25	雑	口縁下C字形刺突列。弧線入組み文。内部にRL斜縄文。2個1対の円形竹管刺突。	①砂粒②極暗赤褐色③口縁部	諸磯a	—	
26	雑	口縁下3条のC字形刺突列と刻み入隆帯。平口縁。	①砂粒②暗赤褐色③口縁部	諸磯a	—	
27	17	浅鉢。結節のRL斜縄文。口縁下間を撫でたC字形刺突列。平口縁。	①細砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯a	＋2	J25・17と接
28	雑	RL斜縄文。渦巻状矢羽根状刻み浮線。口縁部内湾。	①中砂粒②赤褐色③口縁部	諸磯b	—	
29	H156雑	末端をLで結んだRL斜縄文。矢羽根状刻み浮線。	①中砂粒②明灰褐色③胴部	諸磯b	—	
30	雑	有孔浅鉢。頸部に間に穿孔列を入れた矢羽根状刻み浮線。口縁端刻み列。口縁部直立。	①砂粒②橙色③口縁部	諸磯b	—	
31	雑	RL斜縄文。平底。	①砂粒②赤色③底部	諸磯	—	
32	雑	RL斜縄文（？）	①砂粒②橙色③底部	諸磯	—	
33	雑	口縁に平行する隆帯。隆帯には刻み。8字状貼付文。胴部には三角と菱形の沈線。縄文LRが充填される。	①細粒②浅黄色③口縁部	堀之内2	—	



図－180　J38号住居跡出土石器（1）



図－181　J 38号住居跡出土石器（２）



図－182　J 38号住居跡出土石器（３）

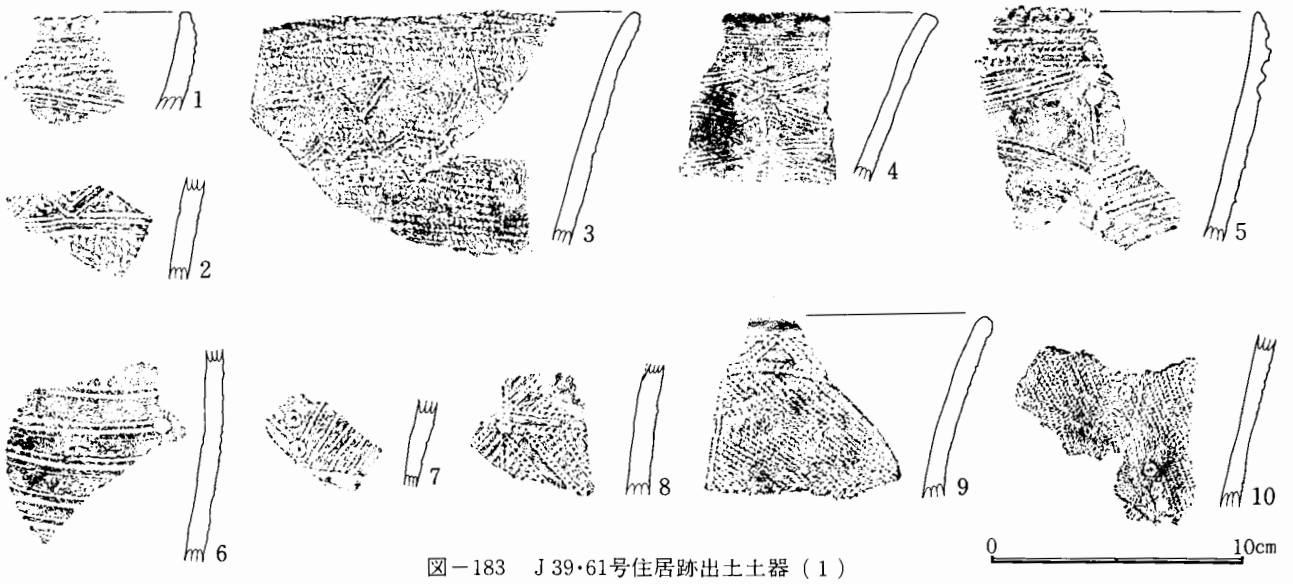
表－101　J 38号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	雑	石錐	4.5	6.8	1.3	36	黒頁	50	—	—	—	—	—	—	覆
2	雑	石匙	6.6	3.8	1.1	24	黒安	25	—	—	—	—	—	—	覆
3	雑	打製石斧	8.2	4.7	1.6	63	黒頁	60	—	—	—	減1	—	—	覆
4	雑	〃	(5.6)	4.0	1.6	45	〃	—	—	—	—	欠	—	—	覆
5	雑	〃	(9.3)	5.1	2.5	97	〃	—	—	—	—	欠	—	—	覆
6	雑	〃	(7.3)	5.3	2.1	87	〃	30	—	—	欠	—	—	—	覆
7	雑	〃	(7.9)	5.9	2.3	102	〃	—	—	—	欠	欠	—	—	覆
8	雑	〃	(5.4)	6.8	1.5	56	〃	25	—	—	欠	刃	—	—	覆
9	雑	〃	(5.1)	4.7	1.8	50	〃	35	減2	—	欠	減2	—	—	覆
10	雑	〃	(7.0)	3.8	1.5	50	〃	—	—	—	—	欠	—	—	覆
11	雑	〃	(6.0)	5.7	1.8	47	黒安	—	—	—	—	欠	—	—	覆
12	雑	掻器	9.8	5.6	3.7	252	黒頁	80	—	—	—	—	—	—	覆
13	雑	直刃削器	2.5	(2.5)	0.7	4	〃	15	—	—	—	—	—	—	覆
14	雑	凸刃削器	7.6	6.4	2.1	113	〃	60	—	—	—	—	—	—	覆
15	雑	〃	6.9	7.6	2.3	102	〃	60	—	—	—	—	—	—	覆
16	雑	〃	6.3	8.6	2.4	140	〃	70	—	—	—	—	—	—	覆
17	雑	複刃削器	5.1	7.2	1.6	52	〃	45	—	—	—	—	—	—	覆

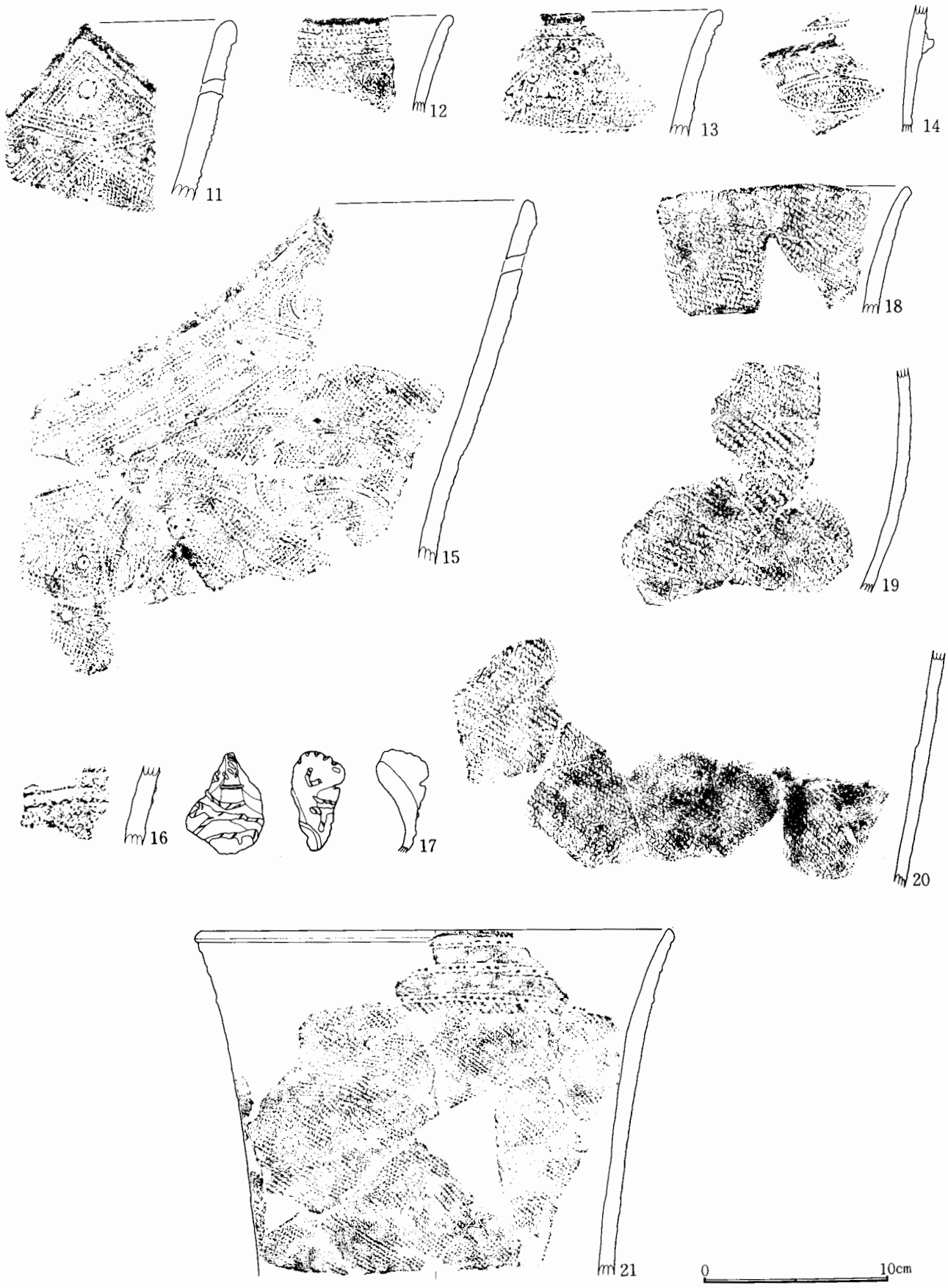
No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
18	雑	凹刃削器	7.1	5.9	1.9	69	〃	30	—	—	—	—	—	—	覆
19	4	交刃削器	5.4	6.3	1.4	39	〃	40	—	—	—	—	—	—	交点欠−5
20	雑	鋸歯縁石器	3.8	5.1	1.2	20	〃	55	—	—	—	—	—	—	覆
21	雑	円礫石器	9.9	7.5	4.2	504	安	—	敲2→擦1	敲2→擦1	敲1→擦1	敲1→擦1	敲1→擦1	敲1→擦1	覆
22	3	〃	12.0	8.9	4.3	699	〃	—	凹2→擦2	凹1・敲2→擦2	敲1→擦1	敲1→擦1	敲1→擦1	敲1→擦1	+27
23	雑	棒状石器	10.5	3.7	1.5	79	黒片	—	—	—	敲1	敲1	—	—	覆
24	1	円礫石器	9.2	8.1	5.8	602	安	—	敲1→擦1	敲1→擦1	敲1→擦1	敲1→擦1	敲1→擦1	敲1→擦1	+23
25	雑	〃	9.4	8.1	3.2	370	〃	—	凹1・滅2	敲2	敲3→擦1	敲1	敲1	敲1	覆
26	雑	〃	(8.2)	9.8	4.5	553	〃	—	敲1→擦2	敲1→擦2	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	覆
27	12	石皿	(7.7)	(8.2)	4.1	208	〃	—	擦1	敲2	欠	欠	—	欠	+25

表−102　J38号住居跡石器器種・石材別一覧表

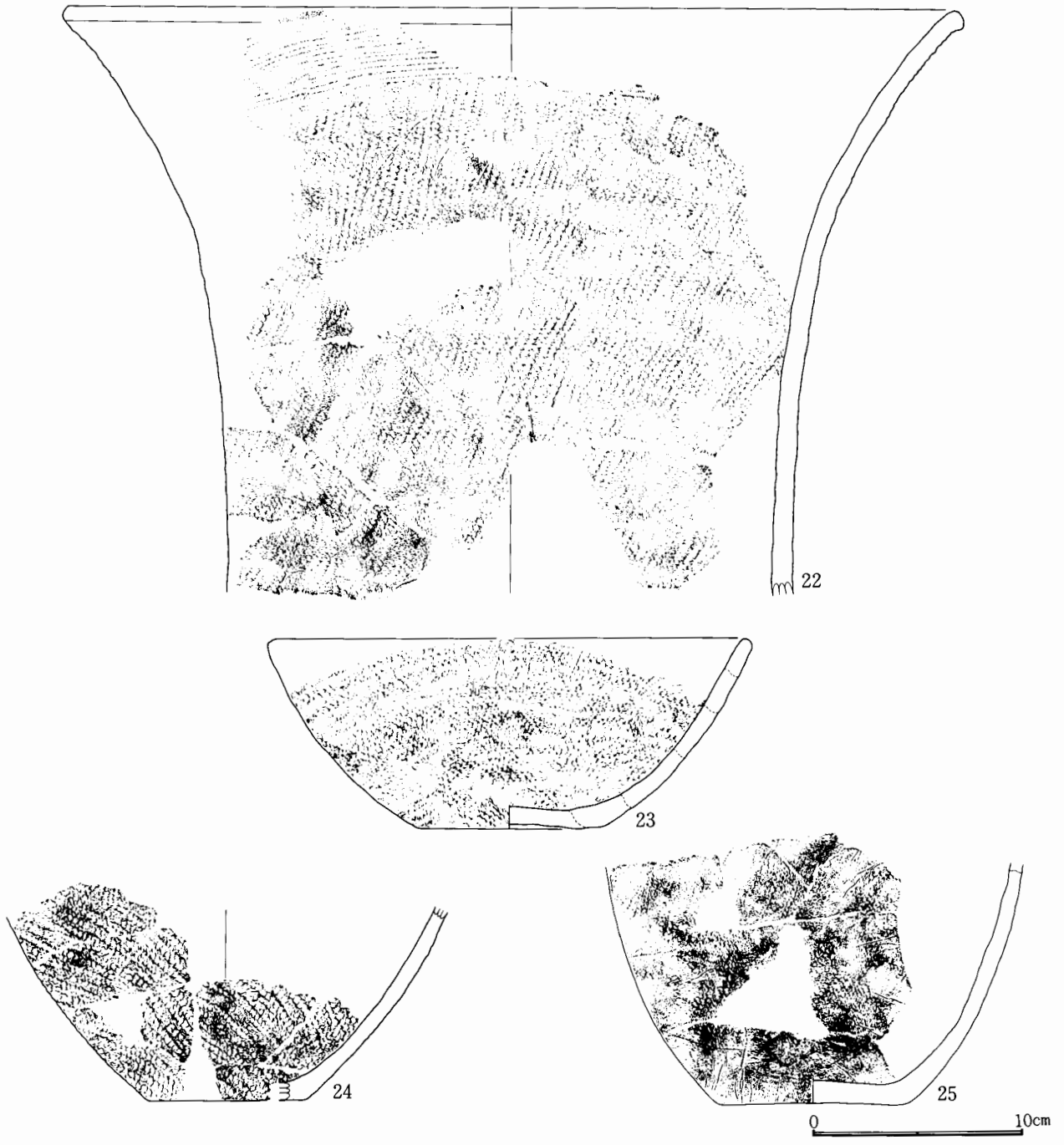
器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		8		1			1		1	3	1	1	1	1															50				68
黒色安山岩		1				1																							12				14
安山岩																						5			1						4		10
蛇紋岩																													1				1
黒曜石																													3				3
赤色珪質岩																													4				4
珪岩																													13				13
黒色片岩																								1					2				3
結晶片岩																													1				1
計		9		1		1	1		1	3	1	1	1	1								5		1	1				86		4		117



図−183　J39・61号住居跡出土土器（1）



図－184　J 39·61号住居跡出土土器（２）



図－185　J 39･61号住居跡出土土器（３）

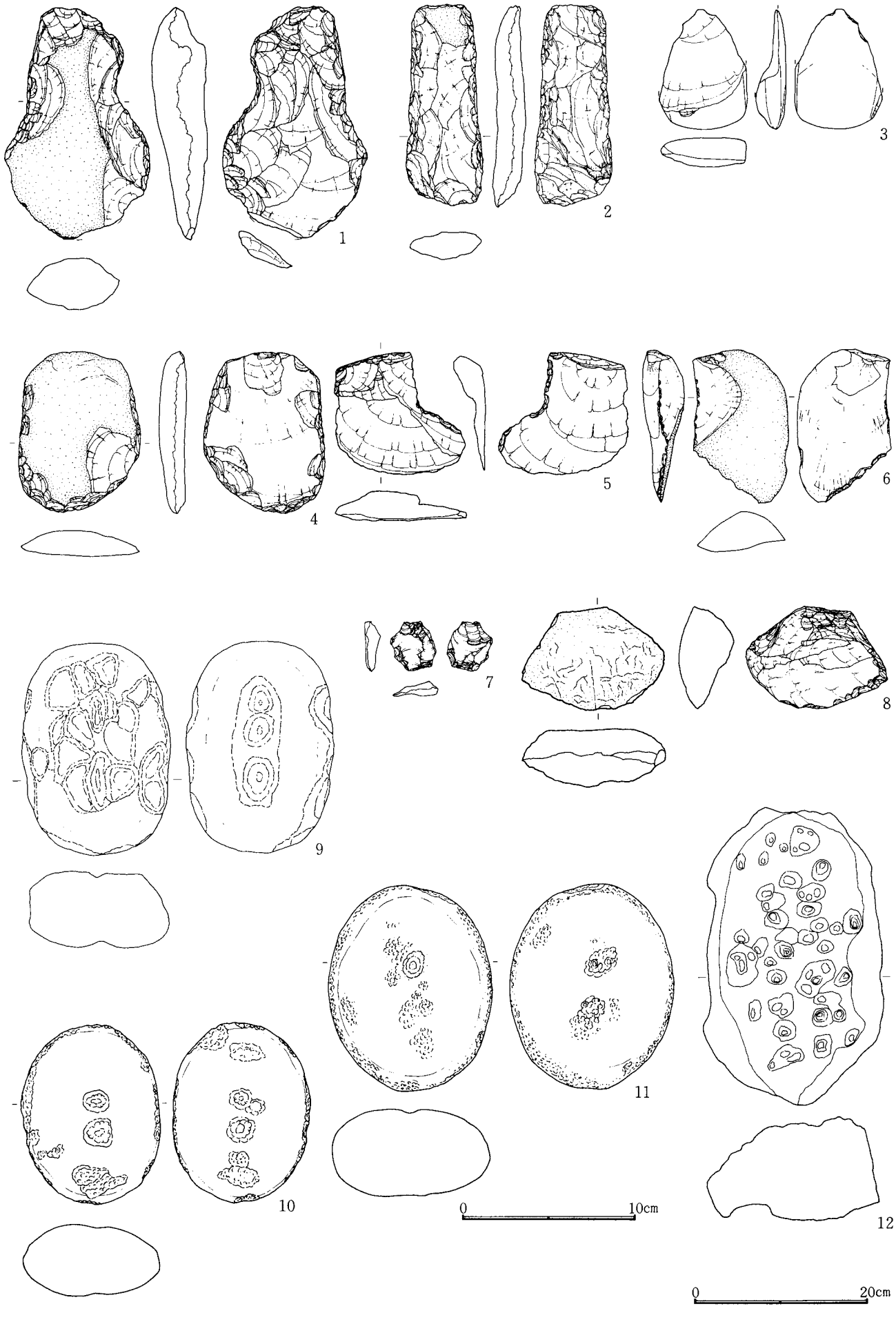
表－103　J 39・61号住居跡出土土器観察表（図－183・184・185　図版－102・103）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　　考
1	21	口縁下２条のＣ字形刺突列。曲線的な肋骨文。	①砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯ａ	P_1内	
2	12	ＲＬ斜縄文。３本１組櫛状工具の横位鋸歯状文と横線。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯ａ	＋15	
3	雑	異条ＲＬ斜縄文。口縁下と地文との境に２条のＣ字形刺突列。平行沈線の鋸歯状文。平口縁。	①細砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯ａ	－	
4	雑	４本１組櫛状工具の横線と波状文。円形竹管刺突。平口縁。	①砂粒②暗褐色③口縁部	諸磯ａ	－	
5	4	口縁下２条のＣ字形刺突列。曲線的な肋骨文。縦線と棒の小口刺突。口縁端刻み列。平口縁。	①砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯ａ	＋５	

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
6	21	2条1組平行沈線の肋骨文。縦線と円形竹管刺突。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯a	標高不	
7	4	横位C字形刺突列。直線的な肋骨文。縦線と円形竹管刺突。	①砂粒②明赤褐色③胴部	諸磯a	＋5	
8	雑	O段多条RL斜縄文。幅狭C字形刺突列の縦横区画と直線的な肋骨文。	①砂粒②暗赤灰色③胴部	諸磯a	—	
9	雑	口縁下幅狭C字形刺突列の鋸歯状文と縦線。RL斜縄文。	①細砂粒②赤褐色③口縁部	諸磯a	—	
10	16	RL斜縄文。縦位C字形刺突列と円形竹管刺突列。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯a	＋12	
11	雑	大波状口縁。C字形刺突列の弧線入組み文。2個1対の円形竹管刺突。波頂部下穿孔。LR斜縄文。	①砂粒②暗赤色③口縁部	諸磯a	—	
12	11	口縁下3条のC字形刺突列。縦位円形竹管刺突。RL斜縄文。	①砂粒②暗赤色③口縁部	諸磯a	＋23	
13	雑	C字形刺突列の弧線入組み文。2個1対の円形竹管刺突列。LR斜縄文。波状口縁。口縁端外縁肥厚。	①砂粒②暗赤色③口縁部	諸磯a	—	
14	雑	C字形刺突列の横線と弧線入組み文。斜め刻み入隆帯。RL斜縄文。	①細砂粒②にぶい褐色③胴部	諸磯a	—	
15	雑	大波状口縁。C字形刺突列の弧線入組み文。2個1対の円形竹管刺突。波頂部下穿孔。	①細砂粒②暗褐色③口縁部	諸磯a	—	
16	雑	浮線貼付け後R—LR・LR斜縄文施文。	①砂粒（石英）②にぶい橙色③胴部	諸磯b	—	
17	雑	獣面把手。刻み入り浮線。	①砂粒②浅黄橙色③把手	諸磯b	—	
18	7	全面RL斜縄文。平口縁。	①砂粒②褐灰色③口縁部	諸磯a	＋12	
19	雑	LR斜縄文。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯a	—	20と同一個体
20	8	RL斜縄文。	①砂粒（石英）②黒褐色③胴部	諸磯a	＋10	
21	1・10	口縁下間を撫でた3条のC字形刺突列。細いRL斜縄文。平口縁。	①砂粒②にぶい赤褐色③口縁～胴部	諸磯a	＋20 ＋6	
22	12	口縁下15本の集合条線。LR斜縄文。	①砂粒②にぶい褐色③口縁～胴部	諸磯a	＋15	
23	12・13・15・雑	全面RL斜縄文。浅鉢。	①砂粒②黒～淡褐色③完形	諸磯a	＋15＋13 ＋9	
24	雑	R—LLL斜縄文。	①砂粒②暗赤褐色③底部	諸磯a	—	
25	11	LR斜縄文。	①砂粒②暗淡褐色③底部	諸磯a	＋23	

表—104　J39・61号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	1	打製石斧	13.3	7.3	3.2	331	安	30	—	—	—	—	—	—	＋30
2	17	〃	11.6	4.4	1.9	111	黒頁	25	—	—	—	—	—	—	P_{13}内
3	12	磨製石斧	(6.8)	5.5	1.7	52	凝	40	—	—	欠	—	—	—	＋45
4	雑	打製石斧	9.2	7.0	1.6	127	黒頁	15	—	—	—	—	—	—	覆
5	14	凹刃削器	7.0	7.6	1.8	48	黒頁	35	—	—	—	—	—	—	＋14
6	雑	鋸歯縁石器	8.7	5.4	2.1	94	〃	40	—	—	—	—	—	—	覆
7	雑	楔形石器	2.9	2.7	0.8	10	赤珪	20	—	—	—	—	—	—	覆
8	雑	R F	5.9	8.2	3.3	148	黒頁	50	—	—	—	—	—	—	覆
9	雑	円礫石器	12.1	8.7	3.8	640	安	—	擦2→凹3	擦2→凹3	敲2	敲2	敲2	敲2	擦→敲・凹 覆
10	17	〃	10.5	7.9	4.2	450	〃	—	凹2→擦1	凹2→擦1	敲2	敲2	敲2	敲2	擦→敲 P_{13}内
11	2	〃	11.8	10.1	5.3	774	〃	—	敲2	敲2	敲2	敲2	敲2	敲2	P_{11}内



図－186　J 39･61号住居跡出土石器

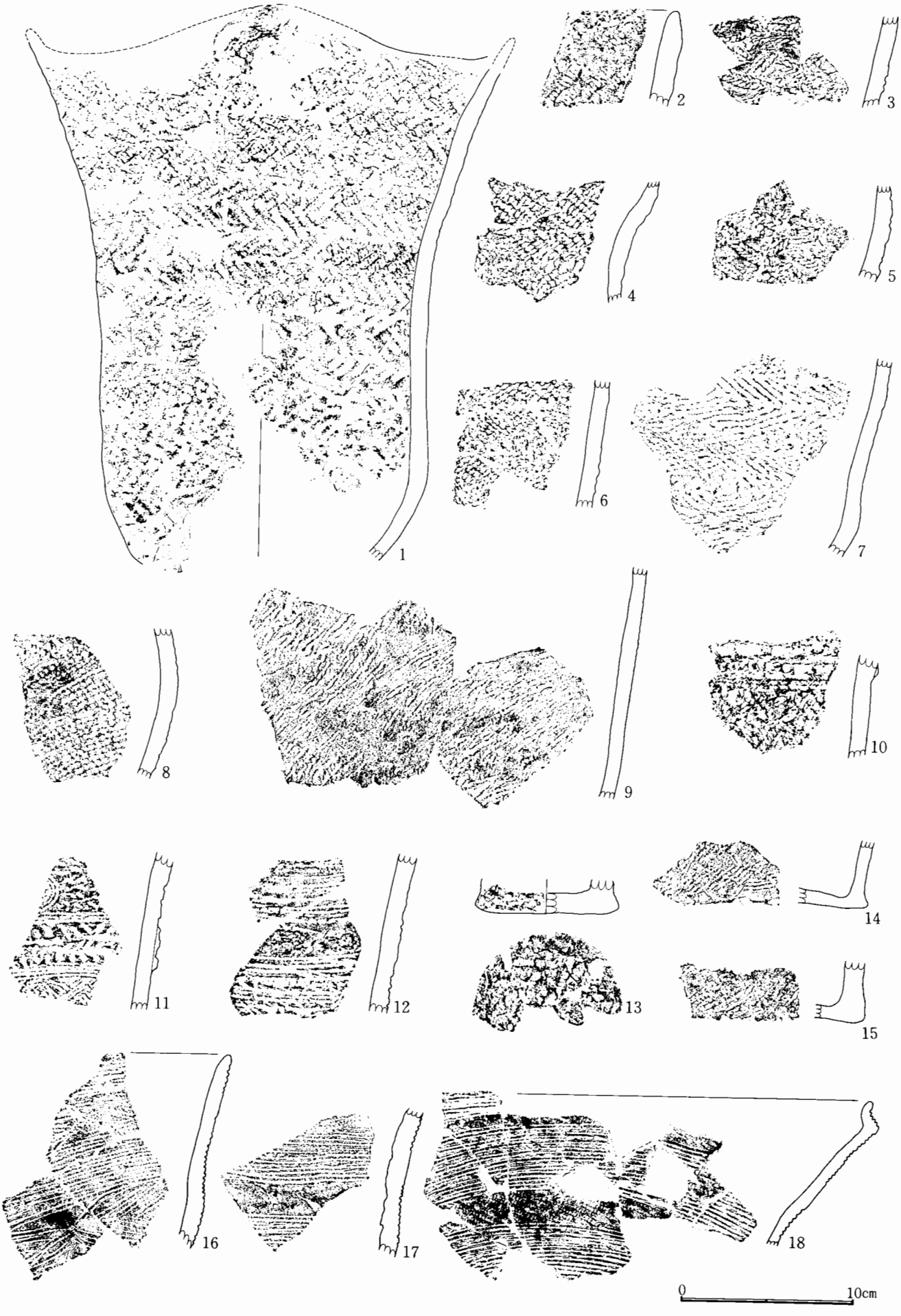
No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
12	18	多凹石	34.6	(20.8)	17.8	13,200	〃	—	凹3	凹3	—	—	—	—	+15

表—105　J 39・61号住居跡石器器種・石材別一覧表

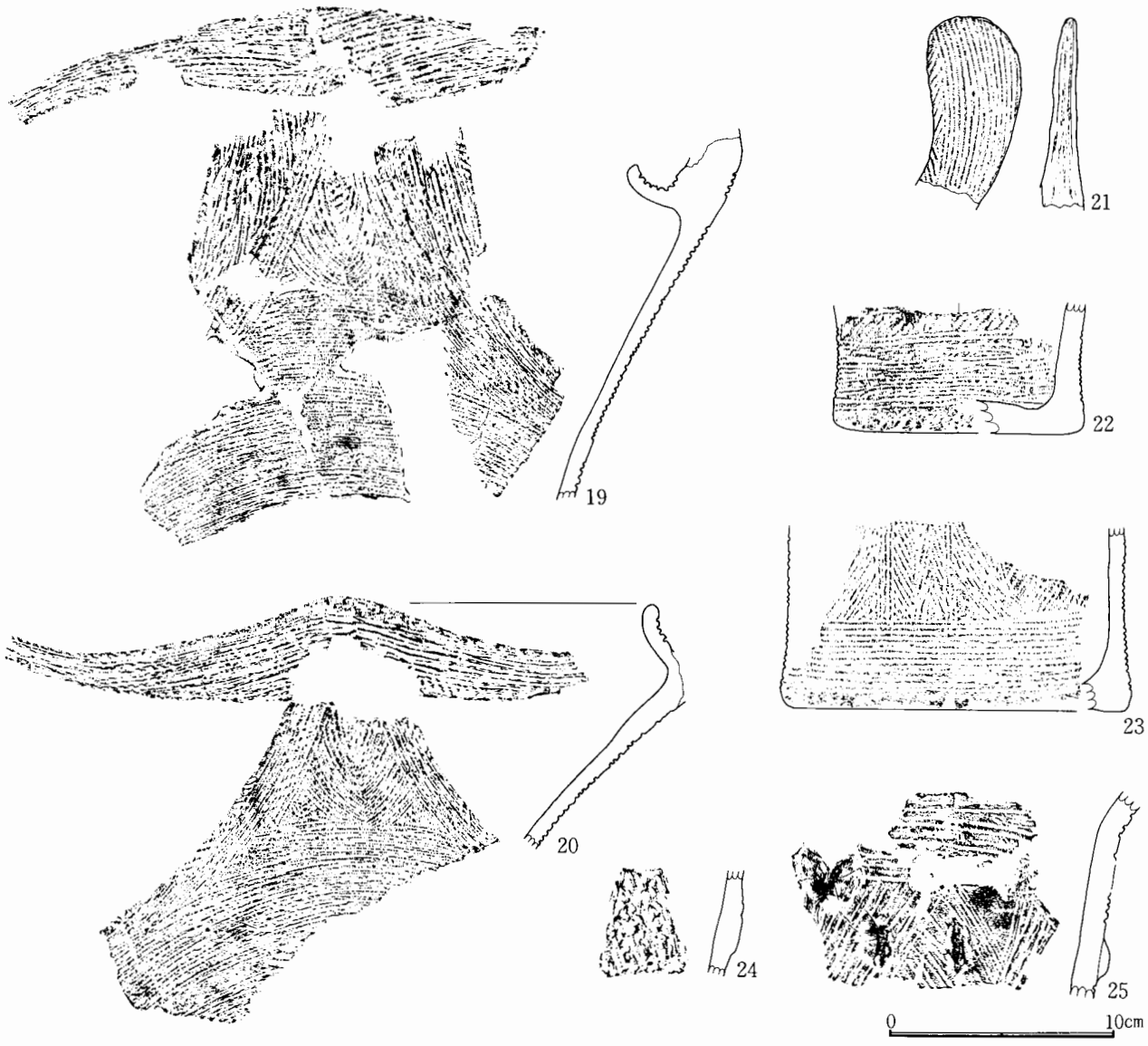
器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		2									1			1				1														5
安山岩		1																				3				1						5
赤色珪質岩																1																1
その他			1																													1
計		3	1								1			1		1		1				3				1						12

表—106　J 40・41号住居跡出土土器観察表（図—187・188　図版—104）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	5	長さ1.5cmのRL・LRを交互に段状に全面巡らす羽状構成。緩い4波状口縁で胴部下半でやや張る。	①繊維②橙色③底部欠	花積下層？	+16	
2	雑	結束RL・LR羽状縄文。口縁端尖る。	①繊維②黒色③口縁部	関山？	—	
3	雑	斜位のR・L2本の側面圧痕。	①繊維②にぶい橙色③胴部	花積下層	—	
4	雑	結束RL・LR羽状縄文。	①繊維②黒褐色③胴部	関山？	—	
5	雑	斜位のR・L2本の側面圧痕。	①繊維②にぶい橙色③胴部	花積下層	—	
6	雑	横位回転RL・LR羽状縄文。	①繊維②黒褐色③胴部	関山？	—	
7	6	結束R・L羽状縄文。	①繊維②橙色③胴部	関山？	+16	
8	雑	異条LR斜縄文。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯	—	
9	24	緩いL斜縄文。	①中砂粒②浅黄橙色③胴部	諸磯	+5	
10	雑	C字形刺突列を入れた隆帯の下にL・R・Lの撚系圧痕。O段多条RL・LR羽状縄文。	①繊維②橙色③胴部	花積下層	—	
11	雑	刻み入り横位隆帯の上下にR・L・Lの撚系圧痕。隆帯上方に撚系圧痕の渦巻きと横位刺切文。	①繊維②にぶい橙色③胴部	花積下層	—	
12	雑	RL斜縄文。横位平行沈線。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯b	—	
13	雑	底面にRLのループ	①繊維②黒褐色③底部	関山？	—	
14	30	L斜縄文。胴部との接続部突出。	①砂粒②にぶい橙色③底部	諸磯b	+3	
15	雑	浅いL斜縄文。	①中砂粒②にぶい赤褐色③底部	諸磯b	—	
16	雑	横位平行沈線間に矢羽根状施文の平行沈線。平口縁。	①中砂粒②暗赤灰色③口縁部	諸磯b	—	
17	雑	横位平行沈線。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯b	—	
18	21・22	RL斜縄文。横位平行沈線。口縁下内傾。緩い波状口縁。	①砂粒②にぶい橙色③口縁部	諸磯b	床面+3	
19	10	幅狭集合平行沈線。口縁下内傾。靴先状に突出。大波状口縁。	①砂粒②暗赤褐色③口縁部	諸磯c	炉内	20と同一
20	13	幅狭集合平行沈線。口縁下内傾。靴先状に突出。大波状口縁。	①砂粒②暗赤褐色③口縁部	諸磯c	+5	
21	雑	9本1組櫛状工具の縦位及び矢羽根状集合沈線。口縁部突起部分。	①砂粒②浅黄橙色③口縁部	諸磯c	—	
22	23	L斜縄文。横位集合平行沈線。	①砂粒②にぶい赤褐色③底部	諸磯c	床面	



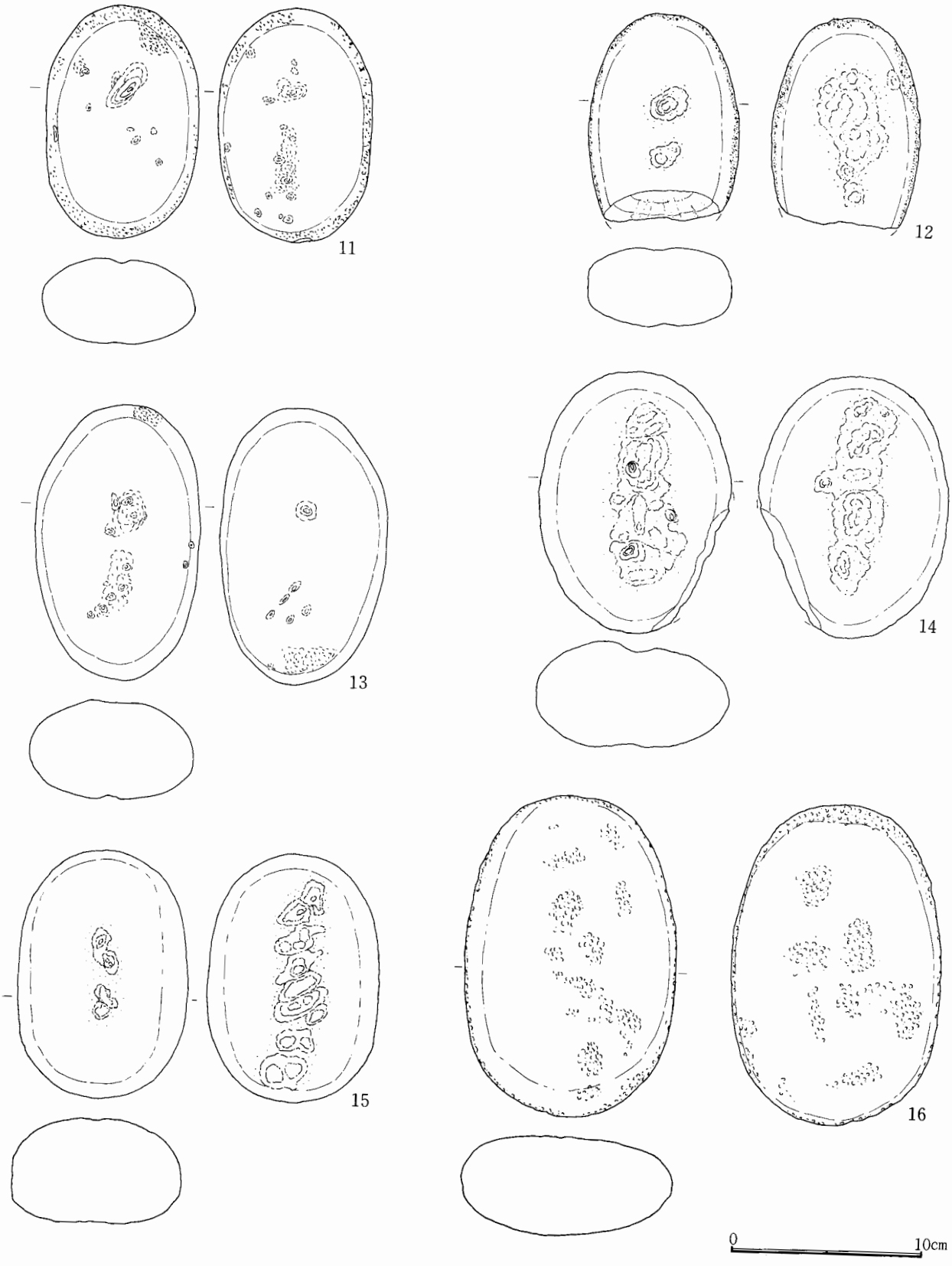
図－187　J 40･41号住居跡出土土器（1）



図－188　J 40･41号住居跡出土土器（２）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　　考
23	雑	底部付近横位集合平行沈線。上方は縦位及び矢羽根状集合沈線。	①砂粒②にぶい橙色③底部	諸磯ｃ	—	
24	雑	縦位上向Ｃ字形刺突列入り隆帯。	①砂粒②褐灰色③胴部	諸磯	—	
25	雑	横位集合平行沈線。縦位及び矢羽根状集合沈線。縦位貝殻状貼付文。	①砂粒②暗赤灰色③胴部	諸磯ｃ	—	

図－189　J 40･41号住居跡出土石器（１）



図－190　J 40･41号住居跡出土石器（２）

表－107　J 40・41号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	雑	打製石斧	8.1	5.5	1.9	96	黒頁	30	—	—	—	—	潰1	潰1	覆
2	雑	〃	(6.3)	(3.8)	1.6	38	〃	—	—	—	—	欠	—	欠	覆
3	雑	直刃削器	9.5	7.2	1.4	103	〃	30	—	—	—	—	—	—	覆
4	雑	〃	6.2	11.3	3.2	209	〃	70	—	—	—	—	—	—	覆
5	雑	鋸歯縁石器	6.7	7.1	3.3	117	〃	60	—	—	—	—	—	—	覆
6	雑	〃	9.2	9.5	3.8	338	〃	55	—	—	—	—	—	—	覆
7	雑	U F	13.9	9.0	3.4	374	〃	25	—	—	—	刃	刃	—	覆
8	15	敲き石	(12.3)	5.0	4.6	406	安	—	敲3	—	—	欠	敲3	—	床面
9	31	凹石	7.8	5.9	5.6	391	〃	—	凹1	敲	—	—	—	—	使用→火 ＋5
10	27	円礫石器	10.2	6.7	4.6	473	斑	—	擦1	擦1	火	—	—	—	擦→火 床面
11	9	〃	12.1	8.0	4.4	628	安	—	凹1・敲 →擦2	凹3・敲 →擦2	敲1 →擦1	敲1 →擦1	敲1 →擦1	敲1 →擦1	＋17
12	25	〃	(10.8)	7.8	4.4	522	〃	—	擦2→凹3	擦2→凹2	敲1	敲1	敲1	敲1	擦→敲 ＋3
13	雑	〃	14.3	8.6	5.5	860	〃	—	凹2→擦1	凹2→擦1	—	—	—	—	覆
14	29	〃	13.6	9.9	5.4	776	〃	—	凹3	凹3	—	—	—	半欠	＋8
15	1	〃	12.9	8.9	5.5	810	〃	—	敲2→擦1	凹3→擦1	敲1 →擦1	敲1 →擦1	敲1 →擦1	敲1 →擦1	使用→火 ＋20
16	8	〃	16.6	11.0	5.3	1,330	〃	—	擦1	擦1	敲1 →擦1	敲1 →擦1	敲1 →擦1	敲1 →擦1	＋4

表－108　J 40・41号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種／石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		2							2					2					1									24				31
珪質頁岩																													1				1
頁岩																													1				1
黒色安山岩																													13				13
安山岩																					1	6				1					11		19
斑岩																						1											1
黒曜石																													2				2
珪岩																													1				1
その他																															1		1
計		2							2					2					1		1	7				1		42		12		70

表－109　J 42号住居跡出土土器観察表（図－191　図版－105）

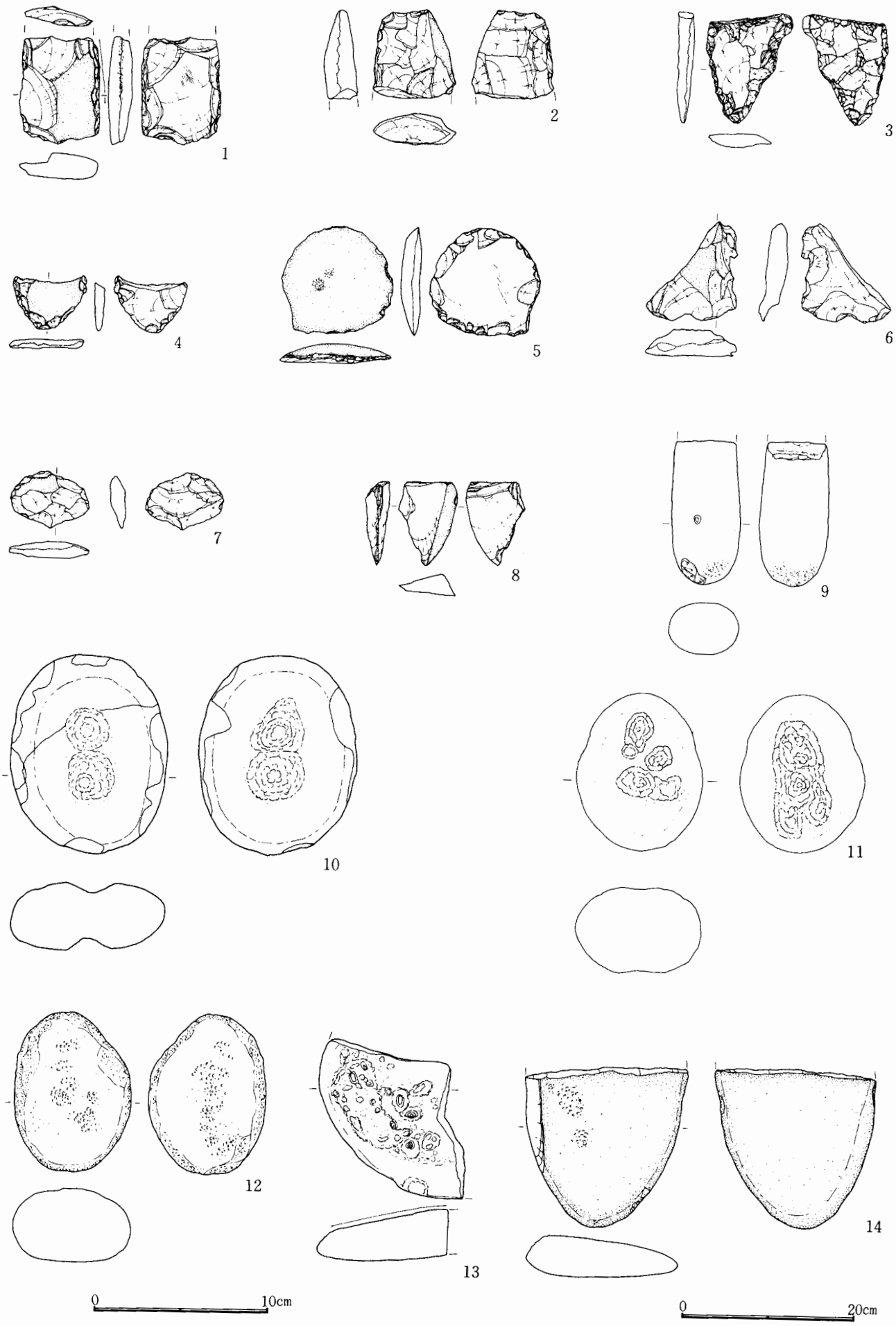
番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	11	口縁下に縦位刻列入り隆帯2条。R・L 2本1組の蕨手状撚糸圧痕。円形竹管刺突。斜位刺切文。	①繊維をサンドイッチ状に混入②にぶい黄橙色③口縁部	花積下層	＋44	
2	雑	口縁下に縦位貝殻腹縁刺突列が数段めぐる。口縁端刻列。	①細砂粒②にぶい橙色③口縁部	興津	—	
3	雑	口縁下横位胴部斜位の集合平行沈線。口縁付近外反。	①石英入り砂粒②黒褐色③口縁部	諸磯c	—	
4	11	平行沈線の斜格子。器面撫で。	①砂粒②黒褐色③胴部	諸磯	＋44	
5	雑	RL斜縄文。平行沈線と波状沈線。	①砂粒②黒褐色③胴部	諸磯c	—	
6	11	土器胎土と異なる胎土の細い刻入り浮線。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯b	＋44	

図－191　J 42号住居跡出土土器

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
7	雑	浅く不鮮明なＬＲ斜縄文（？）	①砂粒②暗赤褐色③口縁部	諸磯	—	
8	3	口縁下で横位胴部に縦位の集合沈線。口縁に貝殻状貼付文。	①細砂粒②浅黄色③口縁部	諸磯c	＋30	
9	11	口縁部横位矢羽根状集合沈線と貝殻状貼付文。胴部ボタン状貼付文。	①砂粒②にぶい橙色③口縁部	諸磯c	＋44	
10	雑	口縁部斜集合沈線。貝殻状貼付文。平口縁。口縁端内傾。	①中砂粒②赤褐色③口縁部	諸磯c	—	
11	雑	口縁部横位集合沈線。口縁端矢羽根状集合沈線。口縁部に刺突入ボタン状貼付文と貝殻状貼付文。	①細砂粒②浅黄橙色③口縁部	諸磯c	—	
12	11	口縁部横位集合沈線。口縁端矢羽根状集合沈線。口縁部に刺突入ボタン状貼付文と貝殻状貼付文。	①細砂粒②浅黄色③口縁部	諸磯c	＋44	
13	11	口縁部横位集合沈線。口縁端矢羽根状集合沈線。口縁部に刺突入ボタン状貼付文と貝殻状貼付文。	①細砂粒②浅黄色③口縁部	諸磯c	＋44	
14	雑	縦位の６本１組の集合沈線。	①中砂粒②淡橙色③口縁突起部	諸磯c	—	
15	11	横位斜位の集合沈線。	①中砂粒②灰白色③胴部	諸磯c	＋44	
16	11	横位縦位の集合沈線。	①細砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯c	＋44	
17	2	縦位及び矢羽根状集合沈線。	①細砂粒②黒褐色③胴部	諸磯c	＋20	
18	11	縦位集合沈線。	①石英砂粒②赤褐色③胴部	諸磯c	＋44	
19	雑	縦位斜位集合沈線。指押圧痕。	①中砂粒②暗赤褐色③胴部	諸磯c	—	
20	2・11	縦位及び矢羽根状集合沈線。	①細砂粒②黒褐色③胴部	諸磯c	＋20 ＋44	
21	11	縦位及び矢羽根状集合沈線。底部付近横位集合沈線。	①砂粒②黒色③胴部～底部	諸磯c	＋44	
22	11	横位集合沈線。	①砂粒②にぶい黄橙色③底部	諸磯c	＋44	
23	雑	横位及び矢羽根状集合沈線。胴部中位よりやや下で広がる。平底。	①粗砂粒②にぶい黄橙色③胴部下半	諸磯c	—	Ｊ52・26と接

表－110　Ｊ42号住居跡出土石器属性表

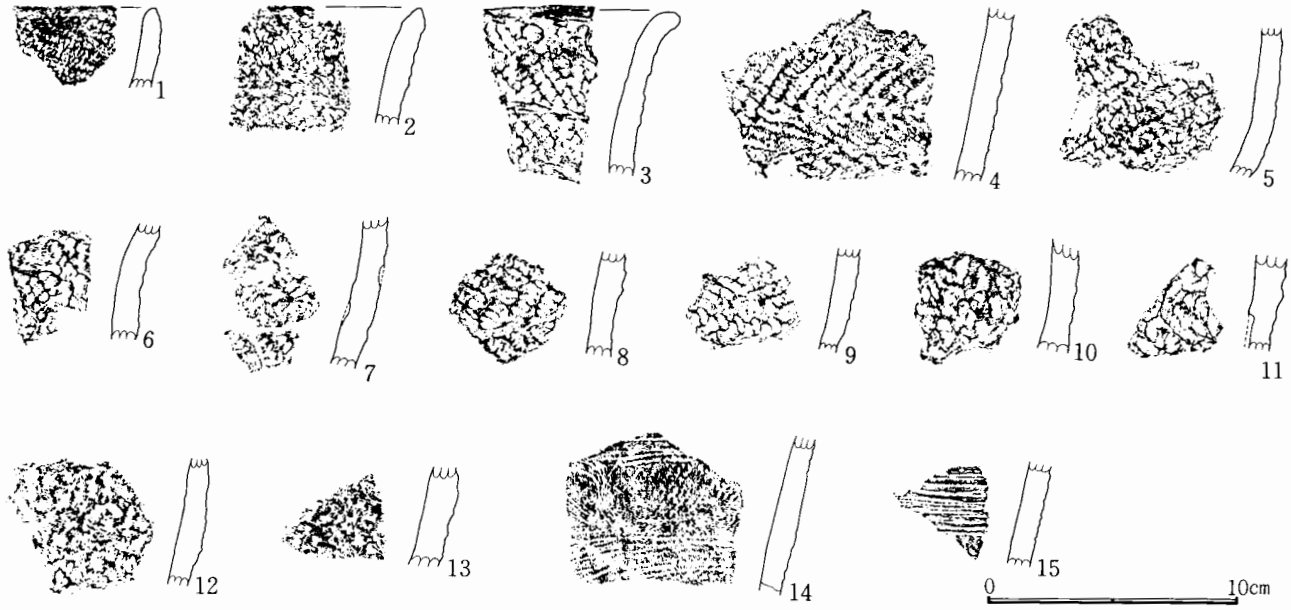
No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	雑	打製石斧	(6.1)	4.6	1.4	54	黒安	20	—	—	欠	—	—	—	覆
2	16	〃	(5.1)	4.7	1.8	48	黒頁	—	—	—	—	欠	—	—	＋30
3	雑	交刃削器	6.3	5.0	0.9	26	珪	30	—	—	—	—	—	—	覆
4	14	〃	3.0	4.2	6.0	7.5	黒頁	20	—	—	—	—	—	—	床直
5	5	凸刃削器	6.1	6.3	1.1	47	〃	30	—	—	—	滅1	—	—	住居外
6	3	抉入石器	5.7	5.1	1.5	32	〃	40	—	—	—	—	—	—	＋30
7	3	R F	3.3	4.6	1.0	13	黒頁	30	—	—	—	—	—	—	＋30
8	3	U F	4.8	3.3	1.3	15	〃	30	—	—	—	—	—	—	＋30
9	6	敲き石	8.2	4.0	3.0	152	安	—	—	—	欠	敲3	—	—	＋10
10	7	円礫石器	11.4	9.0	3.9	518	〃	—	凹2	凹2	敲2	敲2	敲2	敲2	＋16
11	雑	〃	9.0	7.2	4.9	420	〃	—	凹2→擦1	凹1	—	—	—	—	覆
12	3	〃	9.2	6.7	4.2	287	〃	—	敲1	敲1	敲1	敲1	敲1	敲1	＋30
13	表採	石皿	(21.0)	(15.8)	5.8	1,600	〃	—	敲2	—	欠	—	—	欠	製作途中表採
14	4	〃	(18.6)	18.5	5.1	2,340	〃	—	擦1	擦1	欠	擦1	擦1	擦1	＋8



図－192　J42号住居跡出土石器

表—111　J 42号住居跡石器器種・石材別一覧表

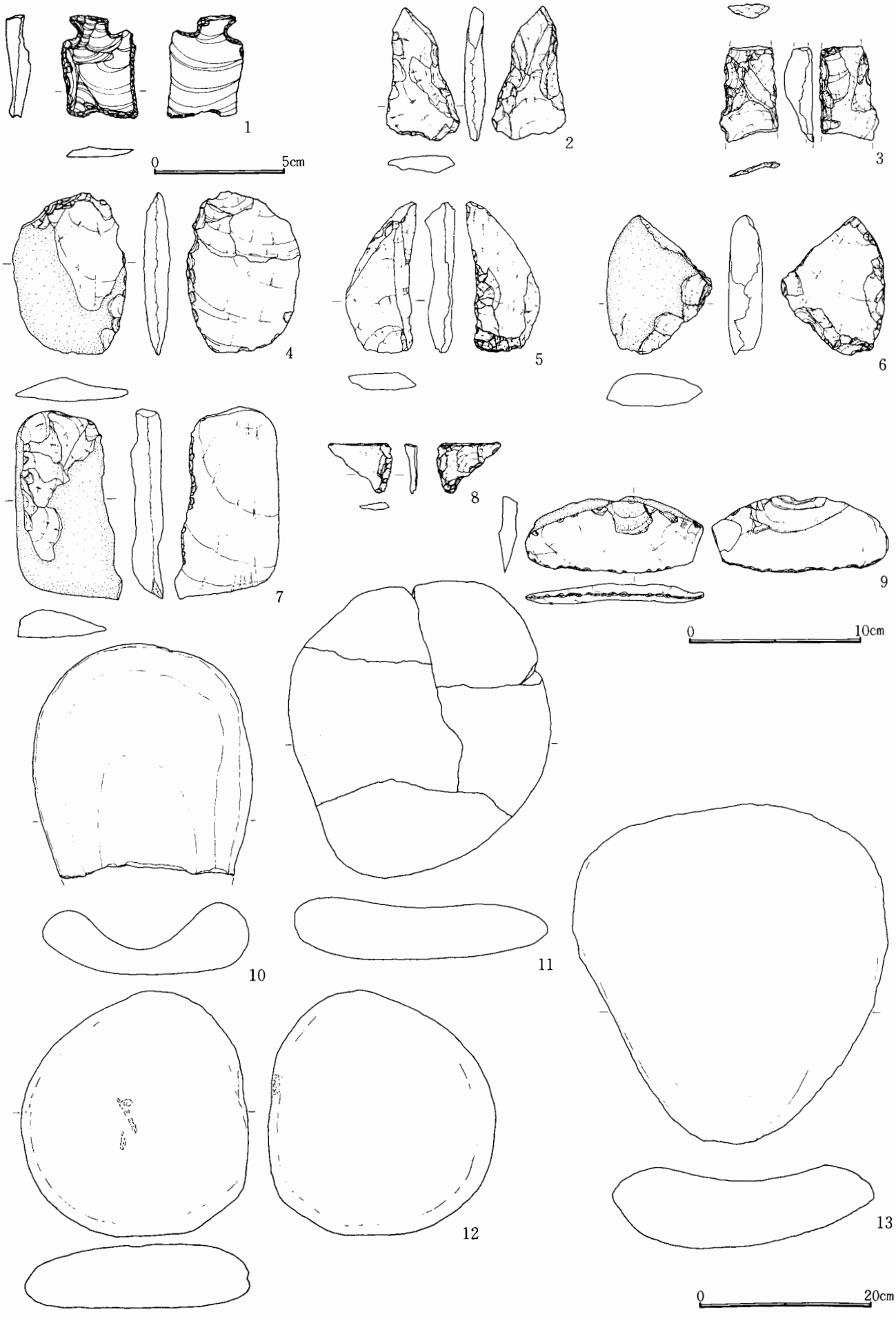
器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		1								1		1			1			1	1									16				22
黒色安山岩		1																			1	3			2			3				9
安山岩																												17				18
黒曜石																												1				1
珪岩												1																3				4
計		2								1		2			1			1	1		1	3			2			40				54



図—193　J 43号住居跡出土土器

表—112　J 43号住居跡出土土器観察表（図—193　図版—105）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	雑	異条ＲＬ斜縄文。平口縁。	①繊維細砂粒②にぶい橙色③口縁部	黒浜	—	
2	5	ＲＬ・ＬＲ羽状縄文。平口縁。	①繊維細砂粒②灰黄色③口縁部	黒浜	床面	
3	雑	ＲＬ（現状）。平口縁。口縁外反。	①繊維中砂粒②暗灰黄色③口縁部	黒浜	—	
4	15	O段３条ＲＬ・ＬＲの上下交互施文羽状縄文。内面横撫で研磨。	①繊維細砂粒②にぶい橙色③胴部	関山	北壁外面	
5	雑	ＲＬ（？）を方向を変えて２度施文。	①繊維細砂粒②にぶい黄橙色③胴部	黒浜	—	
6	雑	ＲＬ斜縄文。刺切文。	①繊維細砂粒②にぶい黄橙色③胴部	花積下層	—	
7	雑	ＲＬ（現状）器面荒れる。	①繊維細砂粒②浅黄色③胴部	黒浜	—	
8	雑	O段多条ＲＬ・ＬＲの上下交互施文羽状縄文。	①繊維中砂粒②黒色③胴部	黒浜	—	
9	雑	O段多条ＬＲ・ＲＬループ。	①繊維中砂粒②にぶい黄橙色③胴部	関山	—	
10	雑	O段３条ＲＬ・ＬＲ不規則な羽状縄文。	①繊維細砂粒②黒色③胴部	黒浜	—	
11	雑	O段３条ＲＬ・ＬＲループ羽状縄文。	①繊維②黒色③胴部	関山	—	
12	雑	O段３条ＲＬ・ＬＲループ羽状縄文（荒れている）。	①繊維細砂粒②明褐灰色③胴部	関山	—	
13	5	器面荒れ不明。	①繊維②灰黄褐色③胴部	黒浜？	床面	
14	雑	ＬＲ斜縄文。横位集合平行沈線。	①細砂粒②にぶい黄橙色③胴部	諸磯ｂ	—	
15	雑	横位集合平行沈線。	①砂粒②黒色③胴部	諸磯ｂ	—	



図－194　J 43号住居跡出土石器

表－113　J43号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	4	石匙	3.9	2.9	0.9	6.5	珪頁	15	—	—	—	—	—	—	南壁面
2	雑	打製石斧	7.7	4.2	1.2	36	黒頁	30	—	—	—	—	—	—	覆
3	1	〃	(5.4)	3.4	1.6	27	〃	—	—	—	—	—	—	—	火＋4
4	4	凸刃削器	9.2	6.5	1.5	89	〃	35	—	—	—	—	—	—	＋9
5	1	交刃削器	8.6	4.1	1.7	40	〃	50	—	—	—	—	—	—	＋4
6	雑	RF	8.0	6.0	1.9	116	安	—	—	—	—	—	—	—	覆
7	雑	UF	10.9	6.0	1.8	138	黒頁	25	—	—	—	—	—	—	覆
8	雑	RF	2.7	3.7	0.7	7	〃	50	—	—	—	—	—	—	覆
9	雑	UF	4.5	10.2	1.2	42	〃	20	—	—	—	滅1	—	—	火覆
10	5	石皿	(26.8)	25.7	8.9	6,610	安	—	擦1	—	欠	—	—	—	＋2
11	7・10	〃	33.9	30.2	7.1	7,000	〃	—	擦1	—	—	—	—	—	＋6・＋4
12	雑	台石	28.4	26.0	7.8	7,900	〃	—	敲2	敲2	—	—	—	—	覆
13	雑	石皿	39.1	36.6	10.8	14,200	〃	—	擦1	—	—	—	—	—	覆

表－114　J43号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種／石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
珪質頁岩						1																											1
黒色頁岩		2								1		1						1	2										7				14
安山岩																		1							3						7	1	12
計		2				1				1		1						2	2						3				7		7	1	27

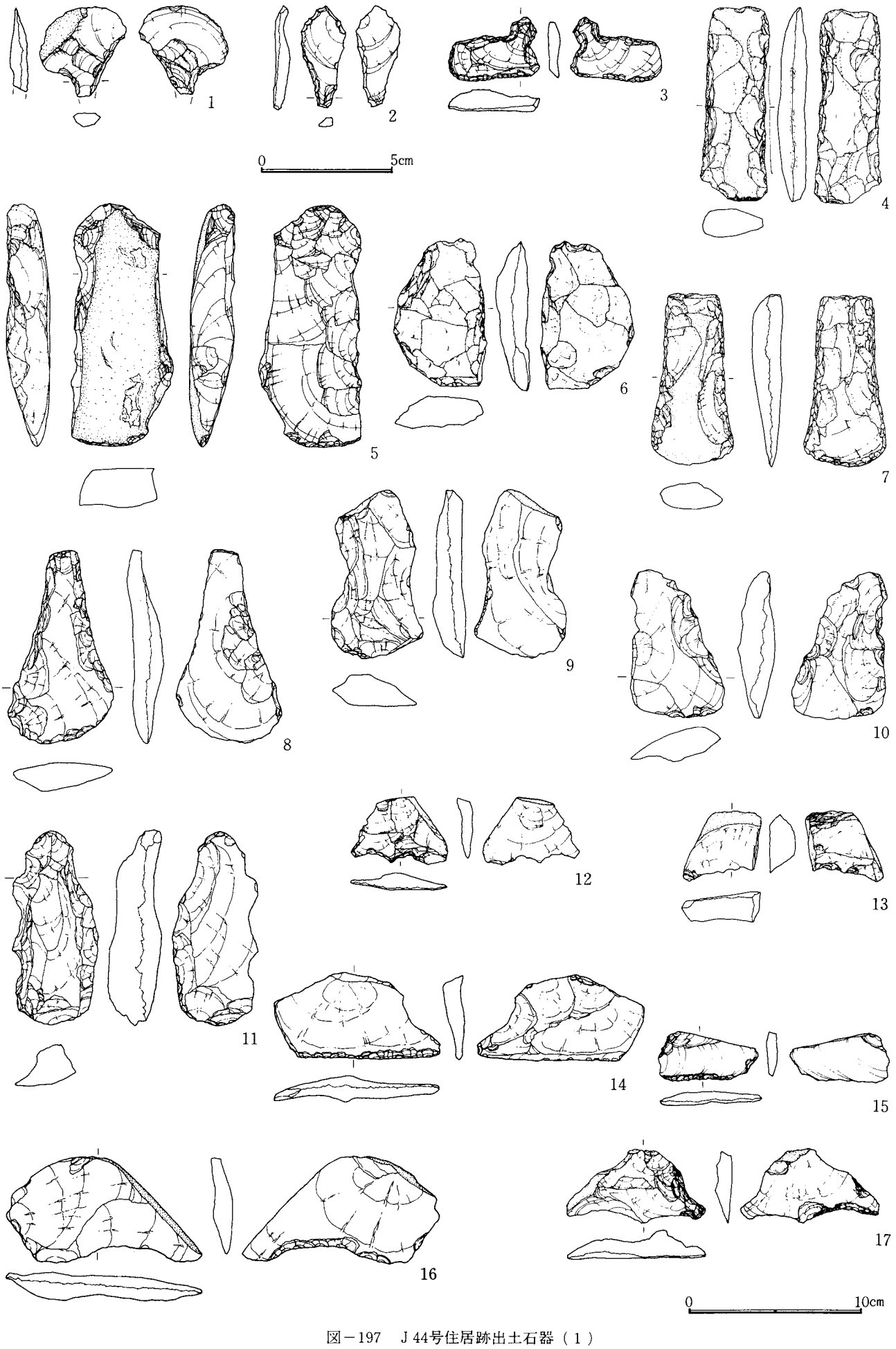
表－115　J44号住居跡出土土器観察表（図－195・196　図版－105・106）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
1	雑	結束（第2種）RL・LR羽状縄文。	①繊維②にぶい橙色③口縁部	黒浜	—	
2	24	太いRL・LR羽状縄文。平口縁。	①繊維②浅黄色③口縁部	黒浜	床面	
3	雑	付加条RL＋L・LR＋r・r羽状縄文。	①繊維②黒褐色③口縁部	黒浜	—	
4	7	RL・LR羽状縄文（荒れて不鮮明）。	①繊維②にぶい褐色③口縁部	黒浜	＋5	
5	6	現状でLR斜縄文。緩い波状口縁。	①繊維②にぶい黄橙色③口縁部	黒浜	＋3	
6	15	不規則なRL・LR羽状縄文。	①繊維②浅黄色③口縁部	黒浜	＋28	
7	17	O段多条RL・LRの横位羽状縄文。	①繊維②灰白色③口縁部	黒浜	＋4	
8	24	現状でO段多条LR斜縄文。	①繊維②灰褐色③口縁部	黒浜	床面	
9	雑	RL・LR羽状縄文。外反。	①繊維②黒褐色③胴部	黒浜	—	
10	8	全面及び口縁端にR・R　L・Lの4本組紐。平口縁。外反。	①繊維②にぶい橙色③口縁部	関山	＋22	
11	7	O段多条結束RL・LR羽状縄文。	①繊維②黒褐色③胴部	黒浜	床直下	
12	24	R・R　L・Lの組紐。	①繊維②黒褐色③胴部	黒浜	床面	
13	19	羽状縄文（不鮮明）。	①繊維②にぶい黄褐色③胴部	黒浜	＋5	
14	8	結節縄文。内面に炭化物。	①繊維②黄橙色③胴部下半	関山	＋24	

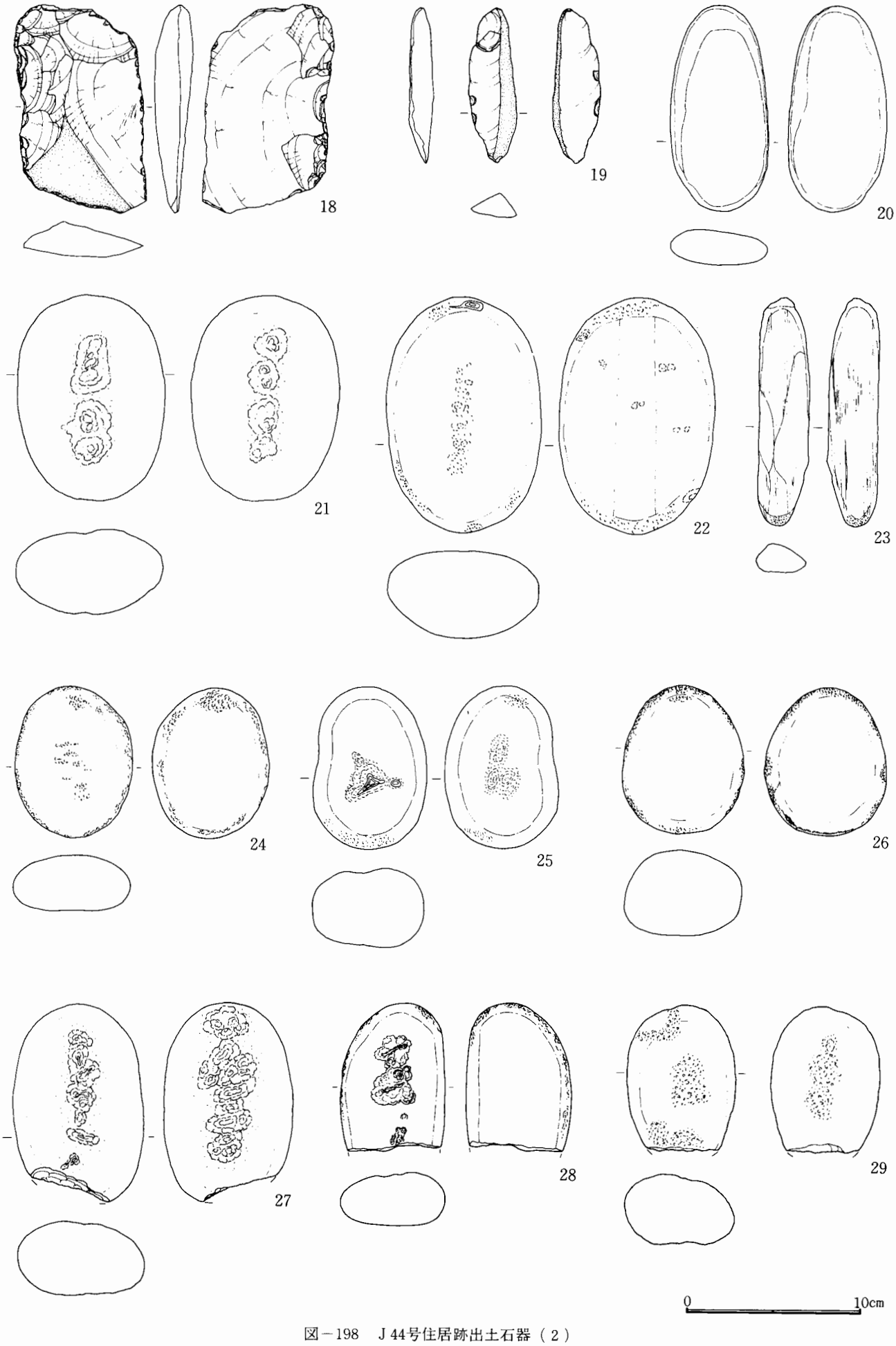
図－195　J 44号住居跡出土土器（1）

図－196　J 44号住居跡出土土器（２）

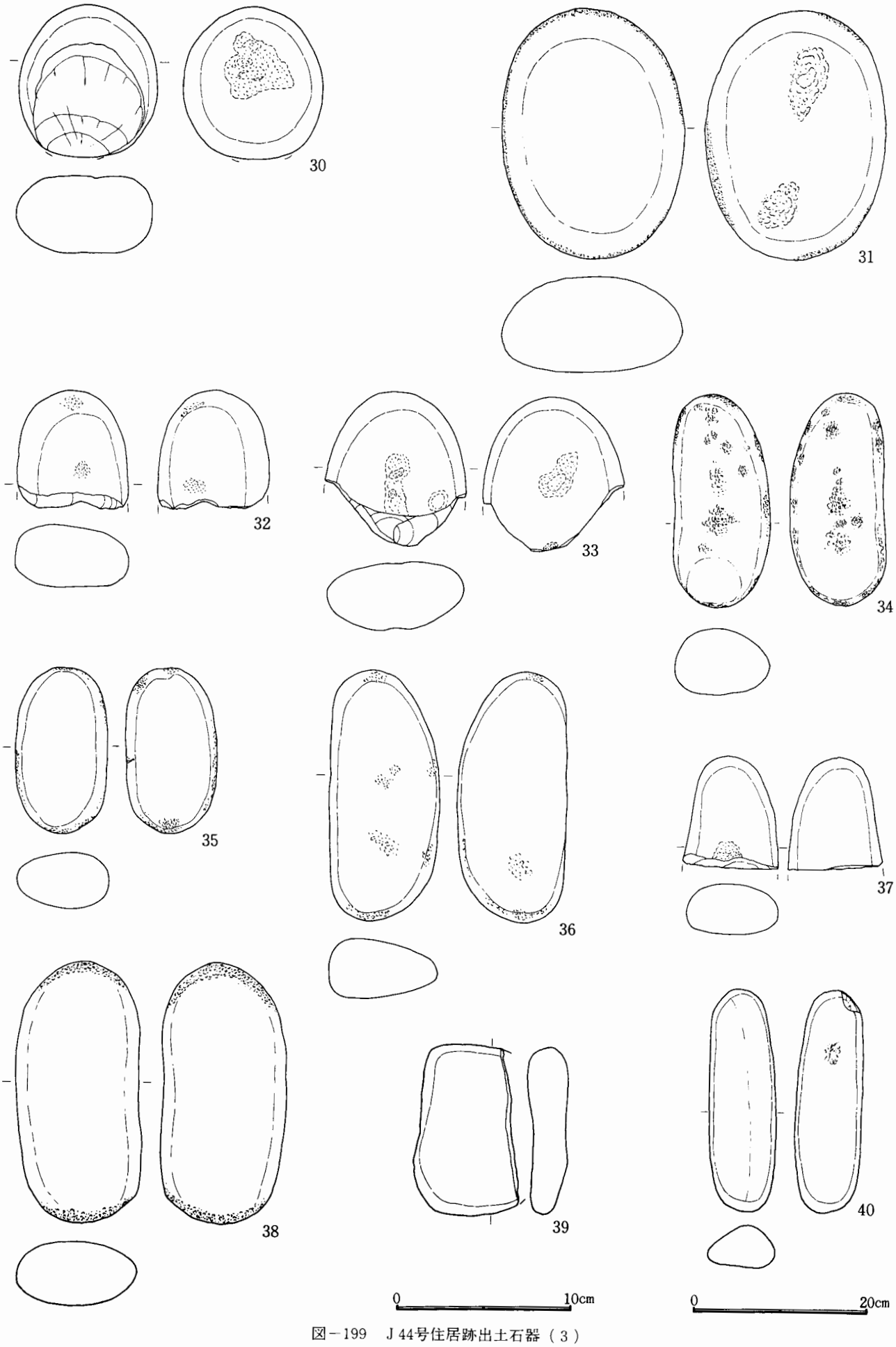
番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　　考
15	7・12・雑	結節縄文。口縁下に円形竹管刺突列。底面施文。頸部より外反。波状口縁。	①繊維②灰褐色③完形	関山	＋8 ＋12	
16	雑	R・R　L・Lの組紐。底面施文。	①繊維②にぶい褐色③底部	関山	—	
17	雑	不明。底面施文。	①繊維②浅横橙色③底部	関山	—	
18	18	口縁下の撫でた文様帯に刺切文を充塡。横位結束（第１種）RL・LR羽状縄文。緩く外反。波状口縁。	①繊維②明黄褐色黒斑あり③口縁～胴部中位	花積下層	床面	
19	雑	口縁部Ｌ２条の撚系圧痕。胴部縦位削り後Ｌ斜縄文。平口縁。	①砂粒②褐灰色③口縁部	大木系？	—	
20	雑	口縁下に縦位刻列入り隆線２条。横８字状Ｒ・Ｌの撚系圧痕。円形竹管刺突。刺切文。緩い波状口縁。	①サンドイッチ状繊維・中砂粒②赤褐色③口縁部	花積下層	—	21と同一
21	雑	Ｒ・ＬＲ・Ｌ・ＲＬ羽状縄文。縦位刻列入り隆線２条で文様帯を区画。Ｒ・Ｒの撚系圧痕。円形竹管刺突。	①サンドイッチ状繊維②赤褐色③胴部上半部	花積下層	—	
22	雑	６本１組櫛状工具の押止め刺突列。口縁下に三角形印刻列。口縁部内傾。	①砂粒②浅黄橙色③口縁部	十三菩提	—	
23	雑	口縁下横位、胴部縦位集合沈線。口縁端貝殻状及び中央刺突入りボタン状貼付文。口縁端内傾。	①砂粒②灰黄橙色③口縁部	諸磯ｃ	—	
24	雑	口縁下斜位、胴部縦位矢羽根状集合沈線。貝殻状及び中央刺突入りボタン状貼付文。	①砂粒②暗褐色③口縁部	諸磯ｃ	—	25と同一
25	雑	口縁下斜位、胴部縦位矢羽根状集合沈線。貝殻状及び中央刺突入りボタン状貼付文。	①中砂粒②にぶい褐色③胴部	諸磯ｃ	—	



図－197　J 44号住居跡出土石器（１）



図－198　J 44号住居跡出土石器（２）



図－199　J 44号住居跡出土石器（３）

表－116　J 44号住居跡出土石器属性表

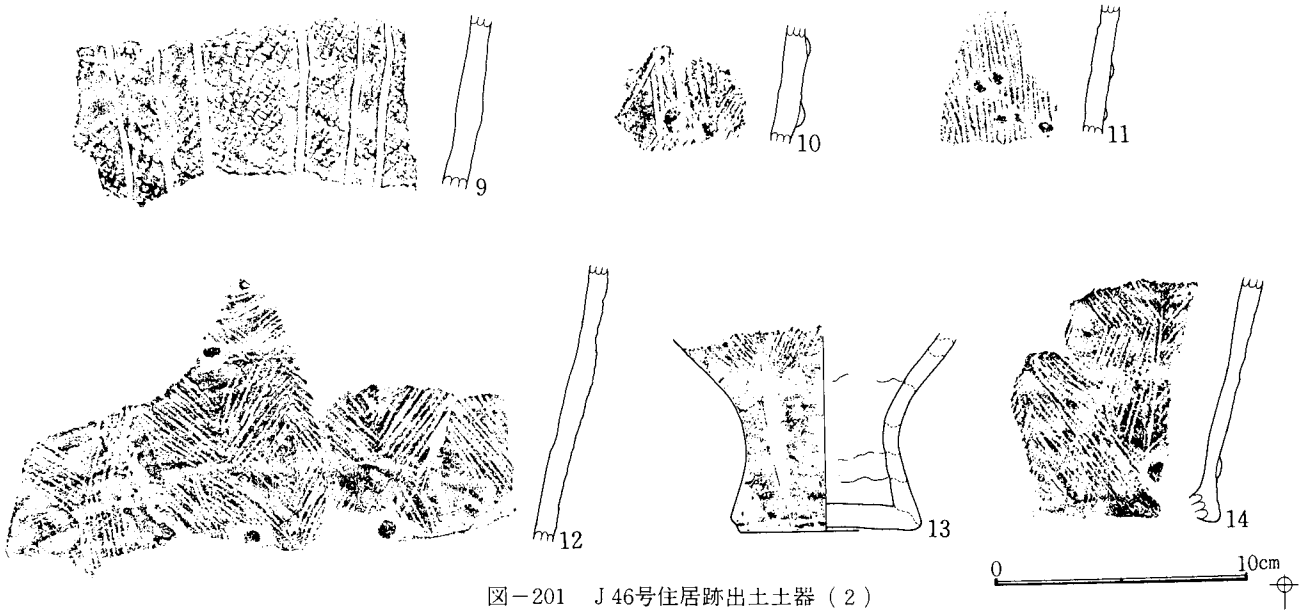
No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	雑	石錐	(3.3)	3.5	0.7	6	黒頁	30	—	—	—	欠	—	—	覆
2	雑	〃	(3.9)	1.7	0.6	8	〃	—	—	—	—	欠	—	—	覆
3	雑	石匙	3.7	5.2	1.2	15	〃	40	—	—	—	—	—	—	覆
4	雑	打製石斧	11.1	3.8	1.7	92	〃	40	—	—	—	減1	—	—	覆
5	雑	〃	13.8	5.8	2.5	265	〃	30	—	—	—	—	—	—	覆
6	雑	〃	8.5	5.4	1.8	85	〃	55	—	—	—	減1	—	—	覆
7	雑	〃	9.8	4.7	1.7	86	〃	25	—	—	—	減1	—	—	覆
8	33	掻器	11.0	6.1	2.1	93	〃	40	—	—	—	—	—	—	床直
9	雑	〃	9.2	5.3	1.9	84	〃	60	—	—	—	—	—	—	覆
10	21	〃	8.4	5.4	2.1	84	〃	70	—	—	—	—	—	—	＋5
11	31	鋸歯縁石器	11.1	4.9	3.1	154	黒頁	60	—	—	—	—	—	—	床直
12	雑	〃	3.9	5.5	1.0	12.5	〃	40	—	—	—	—	—	—	覆
13	雑	〃	4.0	4.5	1.7	31	〃	50	—	—	—	—	—	—	覆
14	30	直刃削器	4.9	9.4	1.5	40	〃	40	—	—	—	—	—	—	床直下
15	雑	〃	2.9	5.8	0.8	11	〃	60	—	—	—	—	—	—	覆
16	1	凹刃削器	6.2	11.3	1.7	79	〃	40	—	—	—	—	—	—	＋26
17	雑	〃	4.3	7.9	1.6	31	〃	65	—	—	—	—	—	—	覆
18	雑	U F	11.9	7.6	2.1	186	〃	40	—	—	—	—	—	—	覆
19	雑	〃	8.9	2.7	1.4	30	〃	60	—	—	—	—	—	—	覆
20	雑	磨石	11.7	5.6	2.3	202	安	—	擦1	擦1	—	—	—	—	覆
21	北東隅	円礫石器	11.3	9.5	4.9	695	〃	—	凹3	凹3	—	—	—	—	位置不
22	雑	〃	13.5	8.9	5.1	880	〃	—	擦2→敲1	擦2	敲1	敲1	敲1	敲1	覆
23	14	棒状石器	13.0	2.9	1.6	95	黒片	—	—	—	敲1	敲1	—	—	＋17
24	雑	円礫石器	8.7	6.7	3.3	267	安	—	擦1	擦1	—	—	敲1	敲1	覆
25	雑	〃	9.3	6.4	4.5	393	〃	—	凹1→擦1	敲2→擦1	擦1	擦1	擦1	擦1	覆
26	雑	〃	8.5	7.0	5.0	410	斑	—	擦2	擦2	敲1	敲1	敲1	敲1	覆
27	雑	〃	(11.4)	7.5	4.3	480	安	—	凹3	凹3	—	欠	—	—	覆
28	雑	〃	(7.5)	6.0	3.0	267	斑	—	凹2	擦1	—	—	—	—	37と接合 覆
29	雑	〃	(8.4)	6.3	4.0	316	安	—	凹3	凹3	敲2	欠	—	—	覆
30	雑	〃	(8.7)	7.9	4.4	361	〃	—	半欠	凹1	—	欠	—	—	覆
31	雑	〃	14.3	10.4	5.4	1,020	〃	—	敲1	敲1	—	—	—	—	覆
32	雑	〃	(6.7)	6.4	3.6	239	〃	—	擦1	擦1	—	欠	—	—	覆
33	雑	〃	(8.8)	8.1	3.9	327	〃	—	火→凹1	敲2	—	—	—	—	覆
34	雑	敲き石	12.1	5.6	3.8	409	〃	—	敲1	敲1	—	—	—	敲2	覆

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
35	雑	磨石	9.5	5.3	3.2	261	〃	—	擦1	擦1	—	—	—	—	覆
36	雑	敲き石	14.3	6.3	3.7	489	斑	—	—	—	敲1	敲1	—	—	覆
37	雑	〃	(6.4)	5.4	2.9	155	ヒ	—	凹1	—	敲1	欠	—	—	28と接合 覆
38	雑	〃	15.0	7.2	3.8	640	〃	—	—	—	敲2	敲2	—	—	覆
39	雑	砥石	9.8	(6.1)	2.3	172	砂	—	擦1	擦1	—	—	—	—	覆
40	2	敲き石	25.7	7.7	4.9	1,490	凝	—	—	敲1	—	—	—	—	赤化 ＋5

表－117　J44号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種／石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		4		2		1	3		2		2			3					2									105				124
黒色安山岩																													3				3
安山岩																				2	1	10							1		11		25
斑岩																					1	2											3
ヒン岩																					2												2
黒曜石																													1				1
赤色珪質岩																													1				1
珪岩																													3				3
黒色片岩																								1									1
砂岩																												1					1
その他																					1												1
計		4		2		1	3		2		2			3					2	2	5	12		1				1	114		11		165

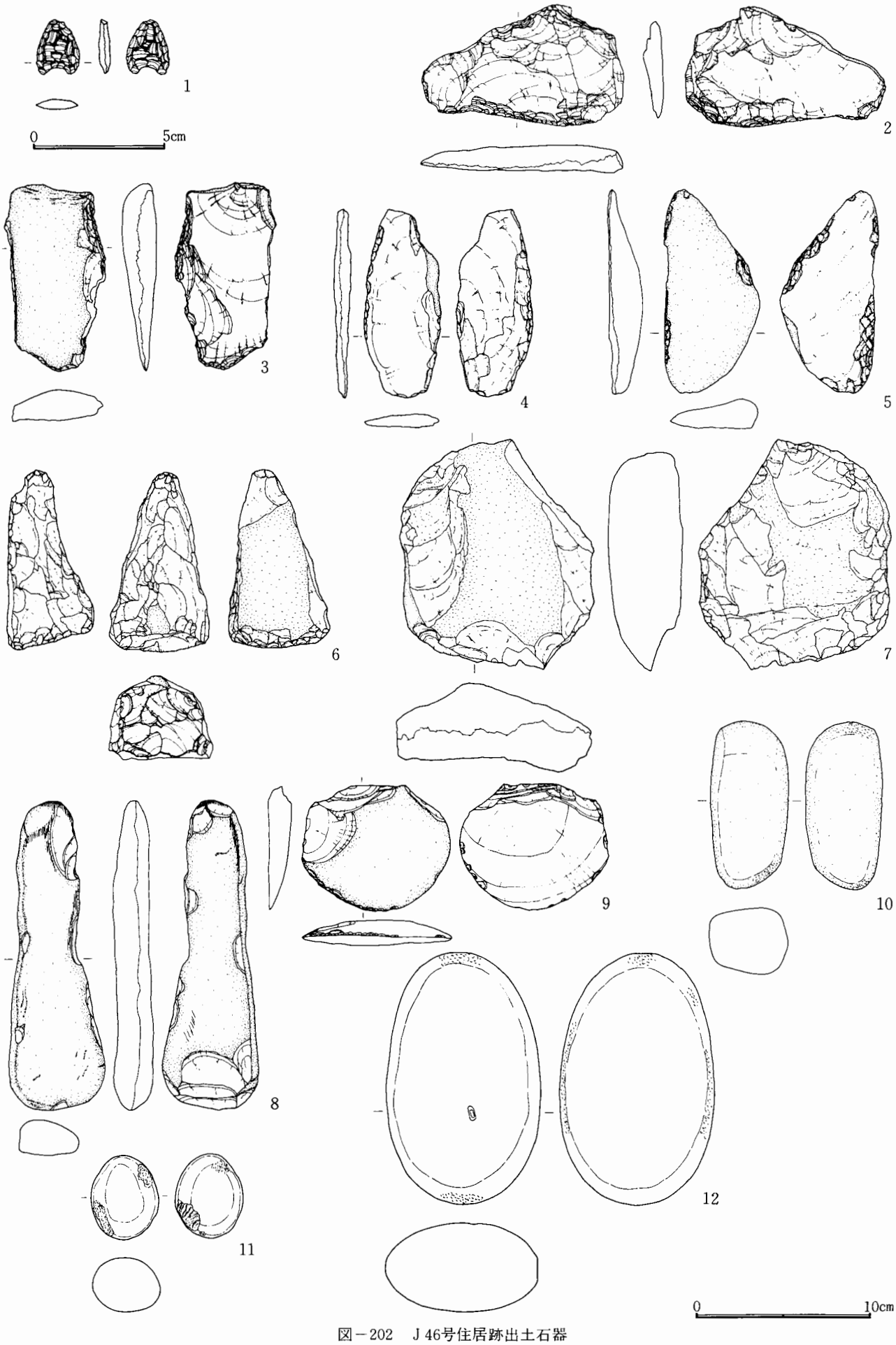
図－200　J46号住居跡出土土器（1）



図－201　Ｊ46号住居跡出土土器（２）

表－118　Ｊ46号住居跡出土土器観察表（図－200・201　図版－106・107）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	雑	器面全面アナダラ属貝殻腹縁の縦位刺突列。平口縁。口縁部外反。	①中砂粒②灰白色③口縁部	興津	—	
2	雑	口縁下２条のＣ字形刺突列。胴部縦方向の不規則な平行沈線。	①砂粒②明赤褐色③口縁部	諸磯ｃ	—	
3	1	全面末端Ｒ結束のＬ斜縄文。緩い波状口縁。緩く開く。	①細砂粒②橙色③口縁～胴部中位	諸磯ｃ	埋甕	
4	雑	口縁下にＲ・Ｌの撚系圧痕。ＬＲ斜縄文。緩い波状口縁。	①繊維②橙～褐灰色③口縁部	花積下層	—	
5	雑	小波状口縁。沈線により文様構成され縄文ＲＬが充填。口縁部直下には円形刺突が連続して押印される。	①細粒②黄橙色③口縁部	称名寺	—	
6	11	２列の列点が施文。	①細粒②黄橙色③胴部	？	＋２	
7	雑	横位及び波状櫛状工具の沈線。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯ａ	—	
8	11	斜位集合沈線。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯ｃ	＋２	
9	雑	縦位の沈線により区画され、縄文ＲＬが粗く施文。	①中粒②浅黄橙色③胴部	称名寺１	—	
10	雑	縦位斜位集合沈線。ボタン状貼付。	①砂粒②にぶい黄褐色③胴部	諸磯ｃ	—	
11	雑	縦位斜位集合沈線。ボタン状貼付。	①砂粒②橙色③胴部	諸磯ｃ	—	
12	雑	多段状の集合沈線の鋸歯状文。ボタン状貼付文。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯ｃ	—	
13	雑	縦位斜位集合沈線。平底。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴部～底部	諸磯ｃ	—	
14	雑	縦位斜位集合沈線。ボタン状貼付。	①砂粒②にぶい赤褐色③底部	諸磯ｃ	—	



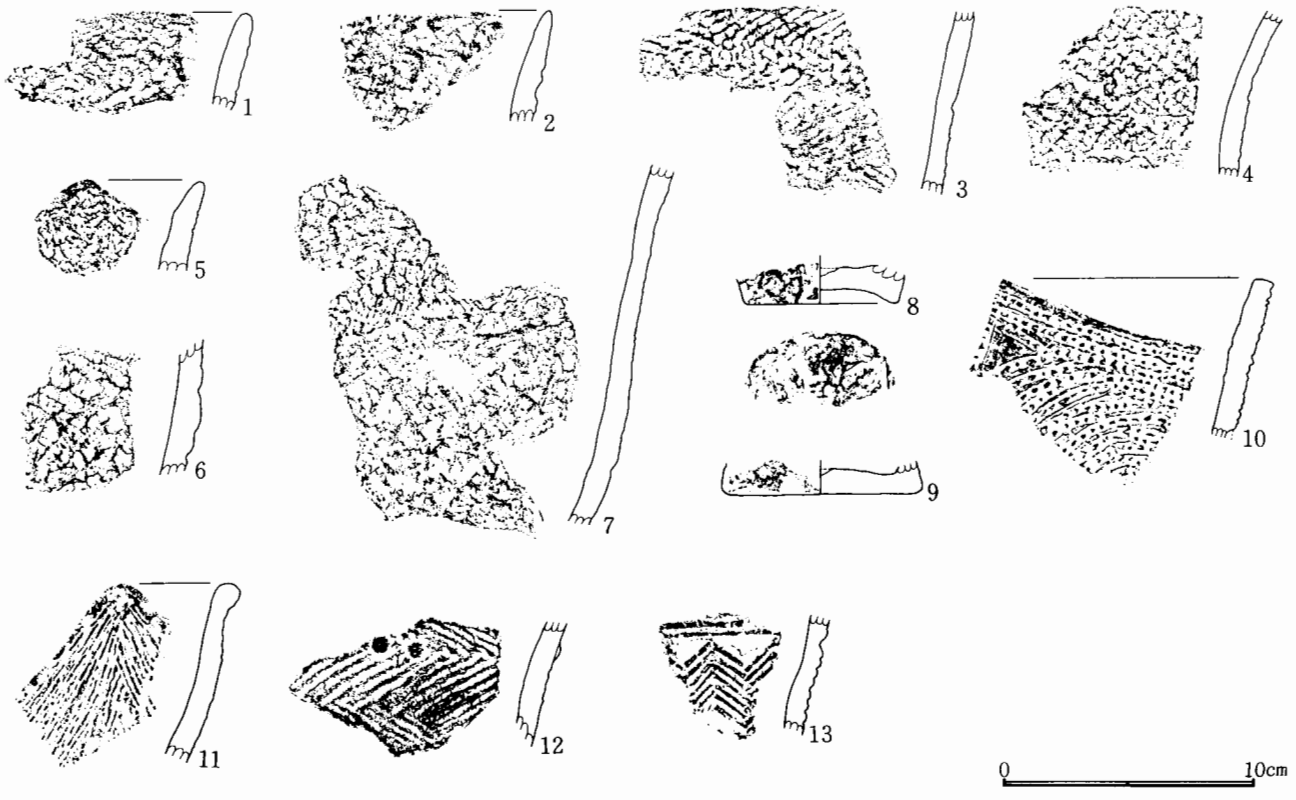
図－202　J 46号住居跡出土石器

表－119　J46号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	JP 85 内1	石鏃	2.0	1.7	0.4	3	黒安	—	—	—	—	—	—	—	3内
2	雑	直刃削器	7.0	11.4	1.2	118	黒頁	30	—	—	—	—	—	—	覆
3	15	凸刃削器	10.5	5.7	1.9	120	〃	50	—	—	—	—	—	—	床面
4	雑	凸刃削器	4.4	10.7	1.0	45	黒頁	25	—	—	—	—	—	—	覆
5	9	交刃削器	5.5	11.6	2.0	102	〃	30	—	—	—	—	—	—	床直
6	13	三角錐状石器	10.2	5.7	4.9	264	〃	—	—	—	—	潰1	—	—	+14
7	雑	両刃礫器	13.2	11.0	4.9	770	〃	55	—	—	—	—	—	—	覆
8	雑	礫器	17.6	5.4	2.3	255	〃	60	—	—	潰2	潰2	—	潰2	覆
9	2	U F	7.1	8.4	1.4	96	〃	25	—	—	—	—	—	—	床直下
10	雑	磨石	9.5	4.4	3.8	267	斑	—	擦1	擦1	—	—	擦1	擦1	覆
11	雑	円礫石器	4.9	3.9	3.1	78	安	—	擦2	擦2	擦2	擦2	敲2	敲2	覆
12	雑	〃	14.4	8.8	5.1	860	〃	—	擦1	擦1	—	—	—	—	覆

表－120　J46号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種／石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩									1	2		1					2		1													1	8
黒色安山岩	1																																1
安山岩																						2											2
斑岩																				1													1
計	1								1	2		1					2		1	1		2										1	12



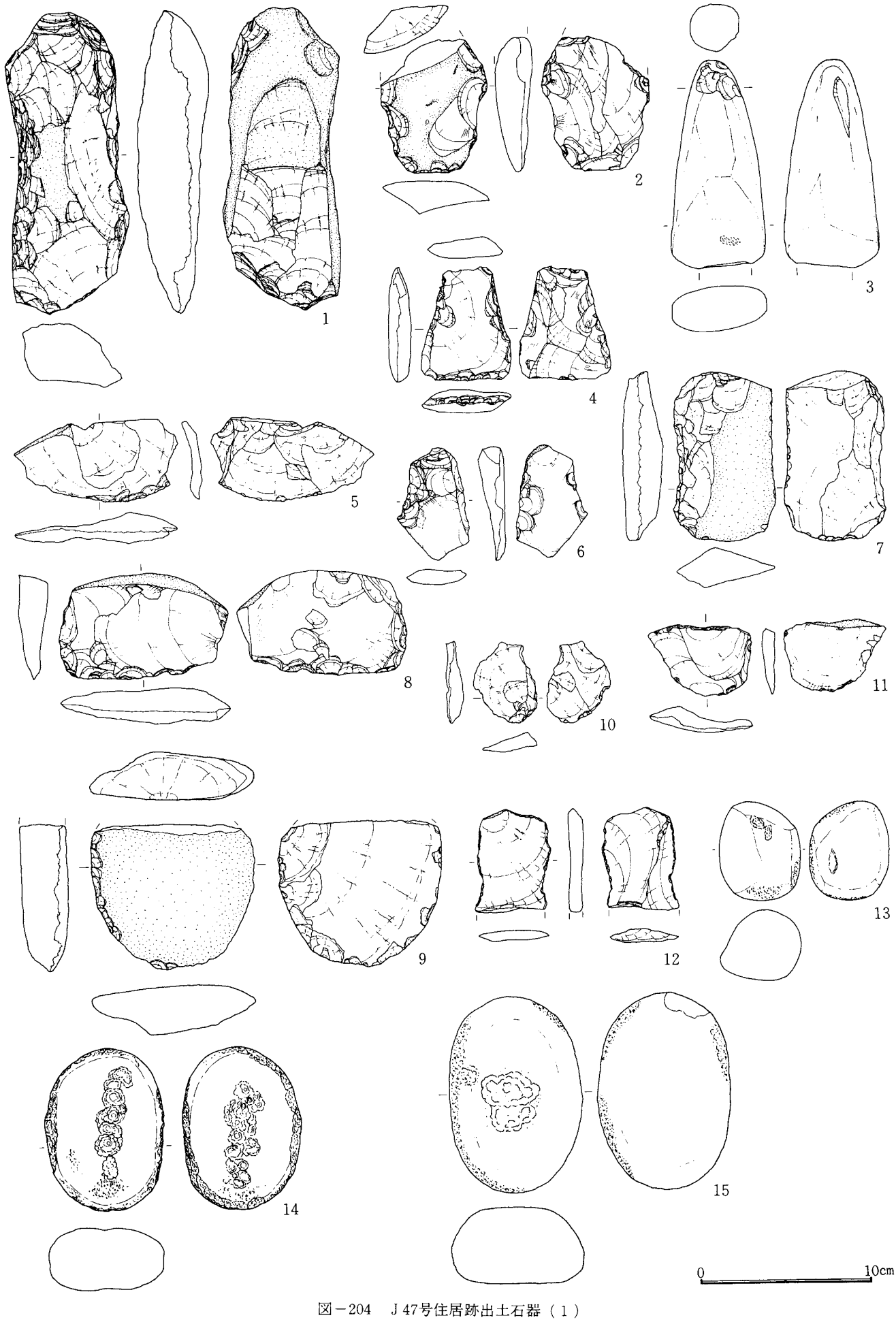
図－203　J47号住居跡出土土器

表—121　J47号住居跡出土土器観察表（図—203　図版—107）

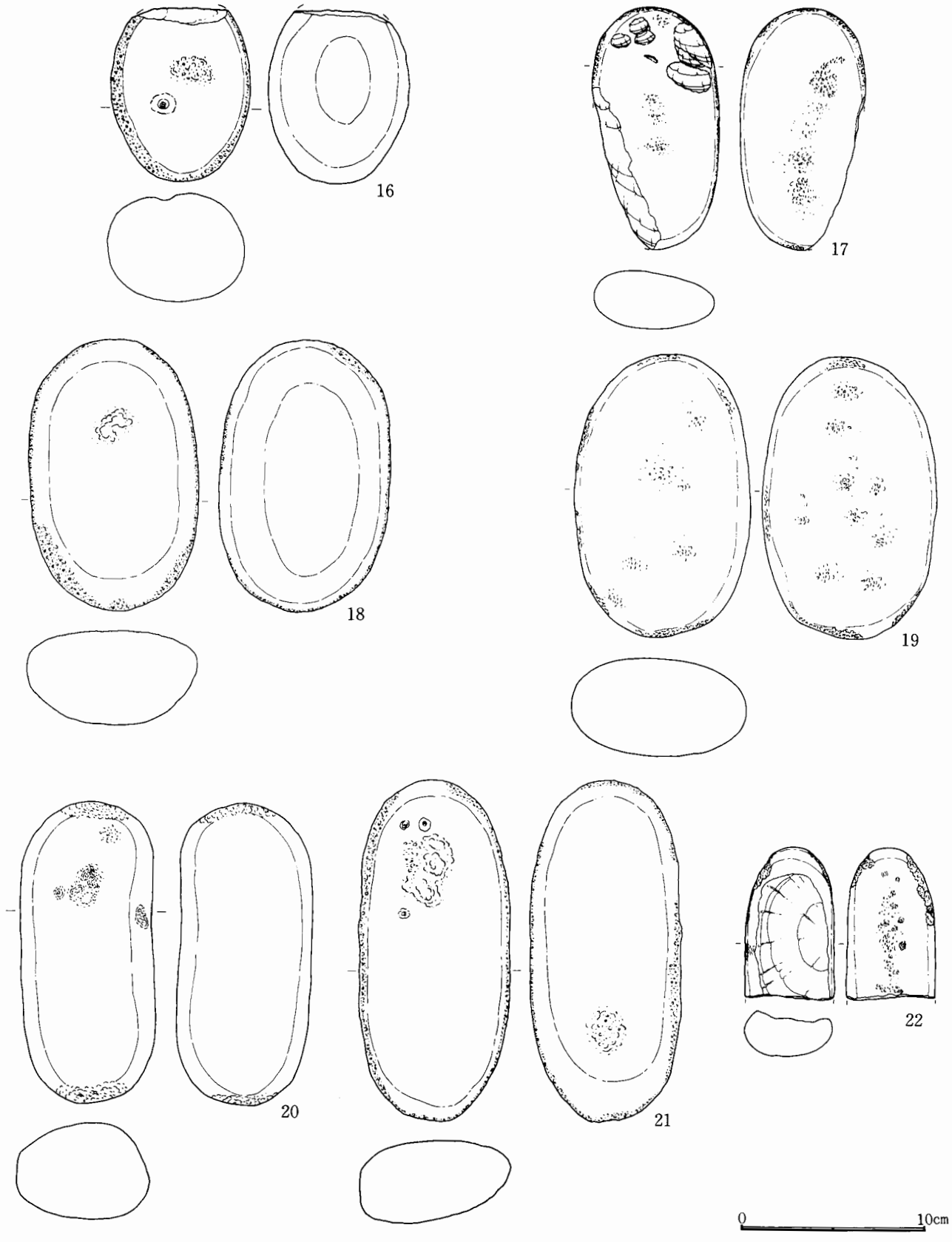
番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	2	全面ＲＬ斜縄文（現状）。	①繊維②浅黄橙色③口縁部	黒浜	床面	
2	雑	ＬＲ（？）荒れて不明確。平口縁。	①繊維②灰白色③口縁部	黒浜	—	
3	雑	Ｌ斜縄文。	①繊維②橙色③口縁部	黒浜	—	
4	雑	ＲＬ・ＬＲ羽状縄文。	①繊維②黒褐色③胴部	黒浜	—	
5	13	ＲＬ斜縄文の縦位施文。	①繊維②にぶい褐色③口縁部	黒浜	＋6	
6	雑	O段多条ＲＬ・ＬＲ羽状縄文。	①繊維②にぶい赤褐色③胴部	黒浜	—	
7	1	結束ＲＬ・ＬＲ羽状縄文。	①繊維②灰白色③胴部	黒浜	床面	
8	雑	Ｌ斜縄文。上げ底。	①繊維②灰褐色③底部	黒浜	—	
9	雑	平底。底面撫で。	①中砂粒②にぶい橙色③底部	諸磯	—	
10	3	Ｃ字形刺突列の密接施文。口縁下３条。波頂部下渦巻き状。波頂部縦位。波状口縁。	①中砂粒②黒褐色③口縁部	諸磯ｂ	＋6	
11	雑	櫛状工具集合沈線。波状口縁。波頂部付近外反。	①雲母入り砂粒②にぶい赤褐色③口縁波頂部	諸磯ｃ	—	
12	雑	Ｒ・Ｌ羽状縄文。ボタン状貼付文。	①砂粒②灰褐色③胴部	諸磯ｃ	—	
13	雑	平行沈線からなる鋸歯状集合沈線。三角形印刻。	①砂粒②灰褐色③胴部	十三菩提	—	

表—122　J47号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	H大P5	打製石斧	17.7	7.1	4.3	618	黒頁	55	—	—	—	—	—	—	覆
2	雑	〃	(7.7)	6.2	2.1	100	〃	45	—	—	—	—	—	—	覆
3	4	磨製石斧	12.1	5.5	3.1	300	斑	65	擦3	擦3	敲2	擦3	擦3	擦3	－2
4	6	掻器	6.6	5.3	1.8	48	黒頁	60	—	—	—	—	—	—	床面
5	雑	凸刃削器	4.8	9.6	1.8	52	〃	45	—	—	—	—	—	—	覆
6	雑	複刃削器	6.6	4.2	1.0	33	〃	70	—	—	—	—	—	—	覆
7	P7内	〃	5.9	9.9	2.3	145	〃	35 60	—	—	—	—	—	—	床下
8	雑	〃	6.2	9.9	2.1	137	〃	30	—	—	—	—	—	—	覆
9	雑	R　F	9.5	(8.4)	2.8	308	安	—	—	—	—	—	—	—	周辺から敲打整形・覆
10	雑	U　F	3.8	4.9	1.1	13	黒頁	20	—	—	—	—	—	—	覆
11	雑	〃	4.2	6.1	1.6	24	〃	25	—	—	—	—	—	—	覆
12	14	〃	6.0	4.4	0.9	26	〃	30	—	—	—	—	—	—	－24
13	10	磨石	5.8	4.7	4.2	122	安	—	擦1	擦1	擦1	擦1	擦1	擦1	赤化 －2
14	11	円礫石器	9.6	7.0	3.8	358	〃	—	凹3	凹3	—	—	敲2	敲2	－11
15	5	〃	11.5	7.8	4.5	610	〃	—	敲2	擦1	敲2	敲2	敲2	敲2	P6内
16	雑	円礫石器	(9.2)	7.5	5.9	609	安	—	擦2→凹2	擦2	擦2 →敲2	欠	擦2 →敲2	擦2 →敲2	覆
17	7	〃	13.1	(6.8)	3.3	401	〃	—	擦1	敲3	敲3	欠	—	欠	－2



図－204　J 47号住居跡出土石器（1）

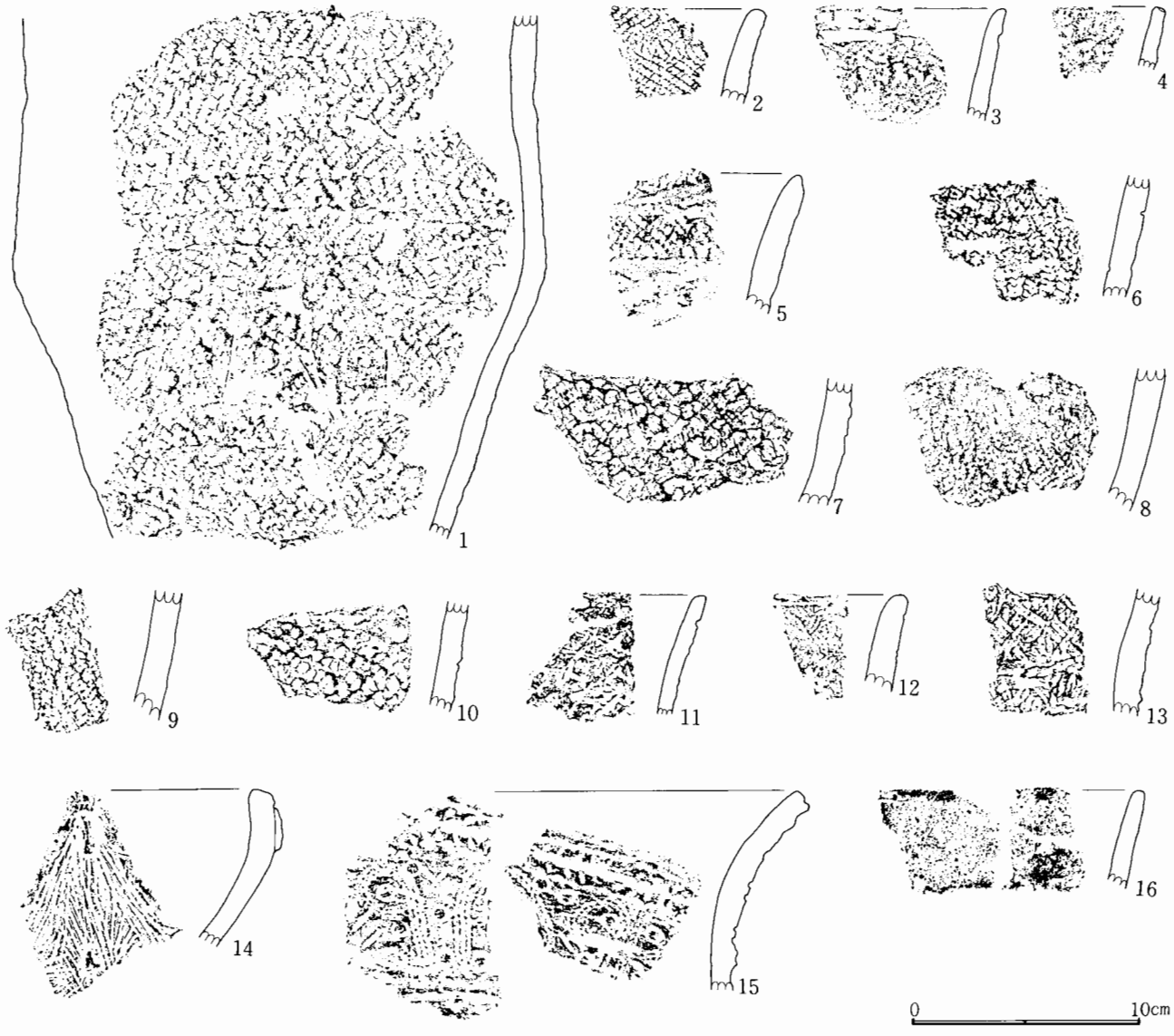


図－205　J 47号住居跡出土石器（２）

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
18	7	〃	14.6	9.2	5.1	950	〃	—	擦1	擦1	敲1	敲1	敲1	敲1	敲→擦 −4
19	15	〃	15.3	9.5	5.3	1,000	〃	—	擦1	擦1	敲1	—	—	—	擦・敲→火 −8
20	8	敲き石	16.4	6.8	5.2	860	〃	—	敲1	敲1	敲1	敲1	—	—	敲→火 −6
21	9	〃	18.3	8.1	4.4	910	〃	—	敲2	擦1	—	—	敲1	敲1	−5
22	7	〃	(8.2)	4.9	2.7	155	〃	—	—	欠	敲2	欠	敲2	敲2	−2

表−123　J47号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		2					1			1			3						3													10
安山岩																		1		1	3	6										11
斑岩			1																													1
計		2	1				1			1			3					1	3	1	3	6											22



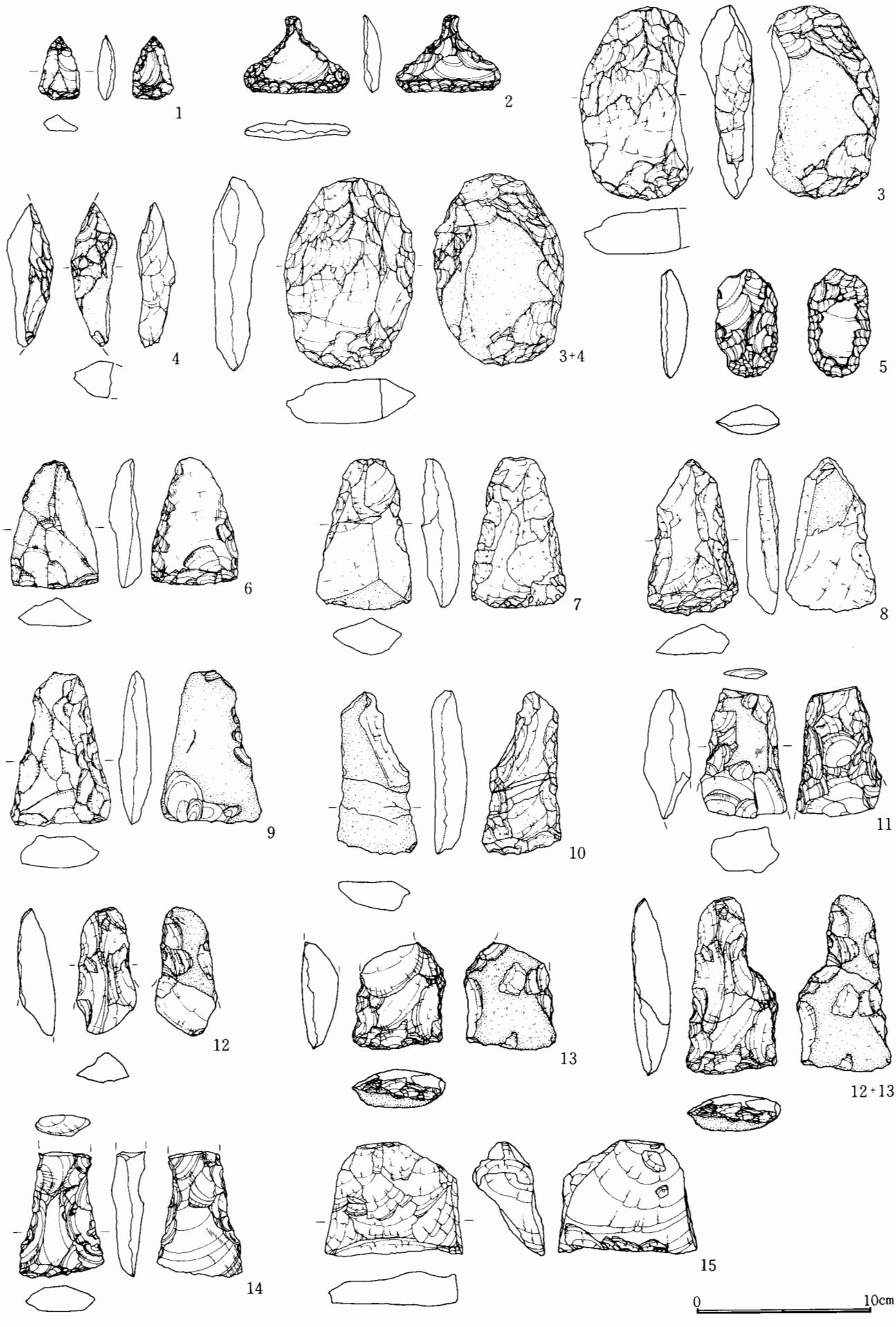
図−206　J48号住居跡出土土器

表—124　J48号住居跡出土土器観察表（図—206　図版—107）

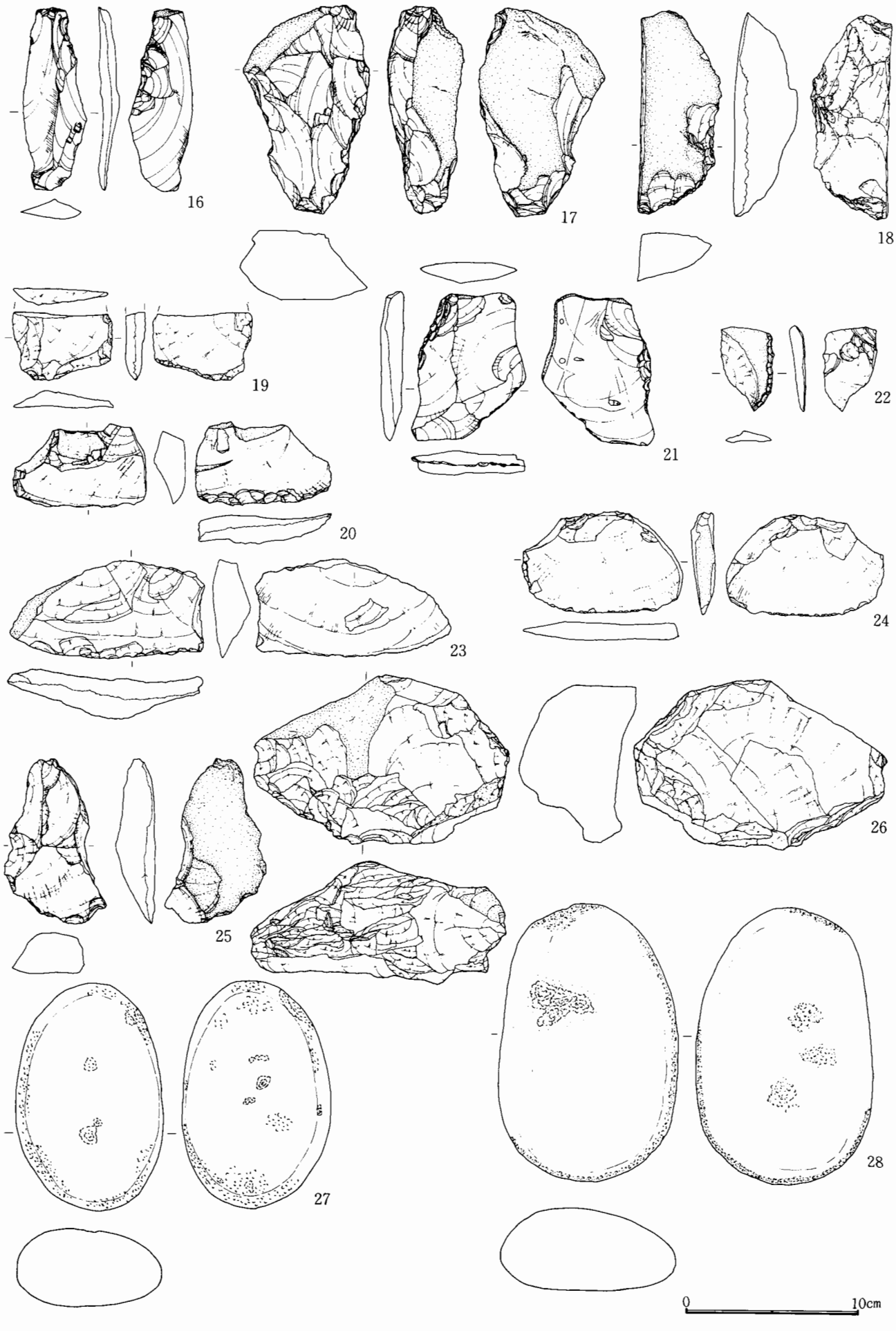
番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	14・19・41	原体長1.5cmのＲＬ・ＬＲを交互に１周する羽状縄文。胴部中位で張り若干窪んだ後口縁にかけて外反。	①繊維②橙色③胴部中位	関山	＋８＋２床直	
2	雑	結束（第１種）ＲＬ・ＬＲ羽状縄文。	①繊維②にぶい黄橙色③口縁部	関山	—	
3	雑	結束（第１種）ＲＬ・ＬＲ羽状縄文（浅く不鮮明）。	①繊維②浅黄橙色③口縁部	関山	—	
4	雑	右傾するＲ・Ｌ２本１対の撚系圧痕。	①繊維②浅黄橙色③口縁部	花積下層	—	
5	28	ＲＬループの横位施文。波状口縁。	①繊維②浅黄橙色③口縁部	関山	＋７	
6	雑	Ｏ段３条ＲＬ斜縄文。	①繊維②にぶい黄橙色③胴部	関山	—	
7	26	結節縄文。	①繊維②明褐色③胴部	関山	＋７	
8	5	ＲＬの異条斜縄文を浅く施文。	①繊維（少量）②橙色③胴部	関山	＋９	
9	10	ＲＬの異条斜縄文を浅く施文。	①繊維②橙色③胴部	関山	＋８	
10	27	結束ＲＬ・ＬＲ羽状縄文。	①繊維②にぶい橙色③胴部	関山	＋７	
11	雑	Ｒ・Ｌ２本１組の網目状絡条体。	①繊維②にぶい橙色③口縁部	関山	—	
12	雑	ＲＬ・ＬＲの不規則な羽状縄文。	①繊維②黒褐色③口縁部	関山	—	
13	雑	Ｒ・Ｌの不規則な網目状絡条体。	①繊維②灰黄色③胴部	関山	—	
14	雑	縦位集合沈線。大波状口縁。縦位貝殻状貼付文。	①砂粒②赤褐色③口縁部	諸磯ｃ	—	
15	雑	口縁下と地文との境に２条の刻み入隆線。撫でた文様帯にＲ・Ｒ・Ｌ３本１組の縦位蕨手状の撚系圧痕。円形竹管刺突と刺切文。波状口縁外反。①繊維②浅黄橙～黒褐色③口縁部　花積下層				
16	雑	全面撫で	①砂粒②橙色③口縁部	諸磯	—	

表—125　J48号住居跡出土石器属性表

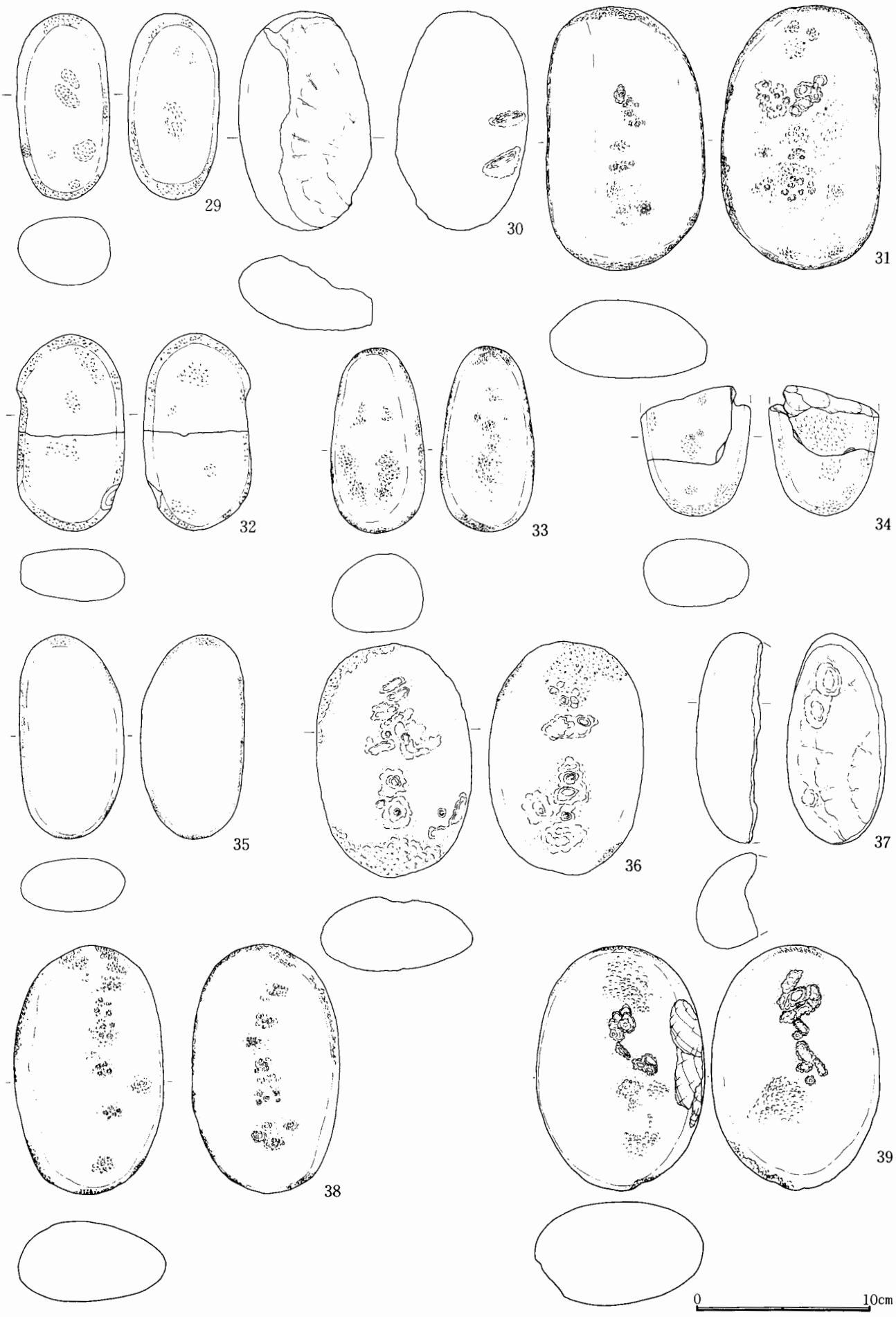
No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	雑	石鏃	3.7	2.3	1.0	6	流	—	—	—	—	—	—	—	火 覆
2	25	石匙	4.4	6.0	1.2	21	黒安	65	—	—	—	—	—	—	＋７
3	27	打製石斧	11.1	6.1	3.0	211	黒頁	50	—	—	—	—	—	—	４と接合・＋７ 挿３＋４
4	雑	〃	(8.3)	(2.7)	2.2	34	〃	—	—	—	—	—	—	欠	３と接合・覆 挿３＋４
5	9	掻器	6.2	3.6	1.5	34	珪	55	—	—	—	—	—	—	床直
6	18	〃	7.3	5.0	1.7	59	黒頁	55	—	—	—	—	—	—	＋４
7	13	〃	8.6	5.4	1.9	85	〃	60	—	—	—	—	—	—	＋９
8	41	〃	8.9	5.2	1.9	89	〃	60	—	—	—	—	—	—	床直
9	6	掻器	8.8	5.8	1.8	95	〃	45	—	—	—	—	—	—	＋19
10	雑	〃	9.3	4.1	2.1	83	〃	60	—	—	—	—	—	—	覆
11	雑	〃	7.4	4.9	2.7	88	〃	—	—	—	—	欠	—	—	覆
12	雑	〃	(7.4)	3.7	1.7	39	〃	—	—	—	—	欠	—	—	13と接合・覆 挿12＋13
13	18	〃	(6.3)	5.4	2.1	75	〃	60	—	—	欠	—	—	—	12と接合・＋４ 挿12＋13
14	18	〃	7.3	4.9	1.8	63	〃	75	—	—	—	—	—	—	＋４



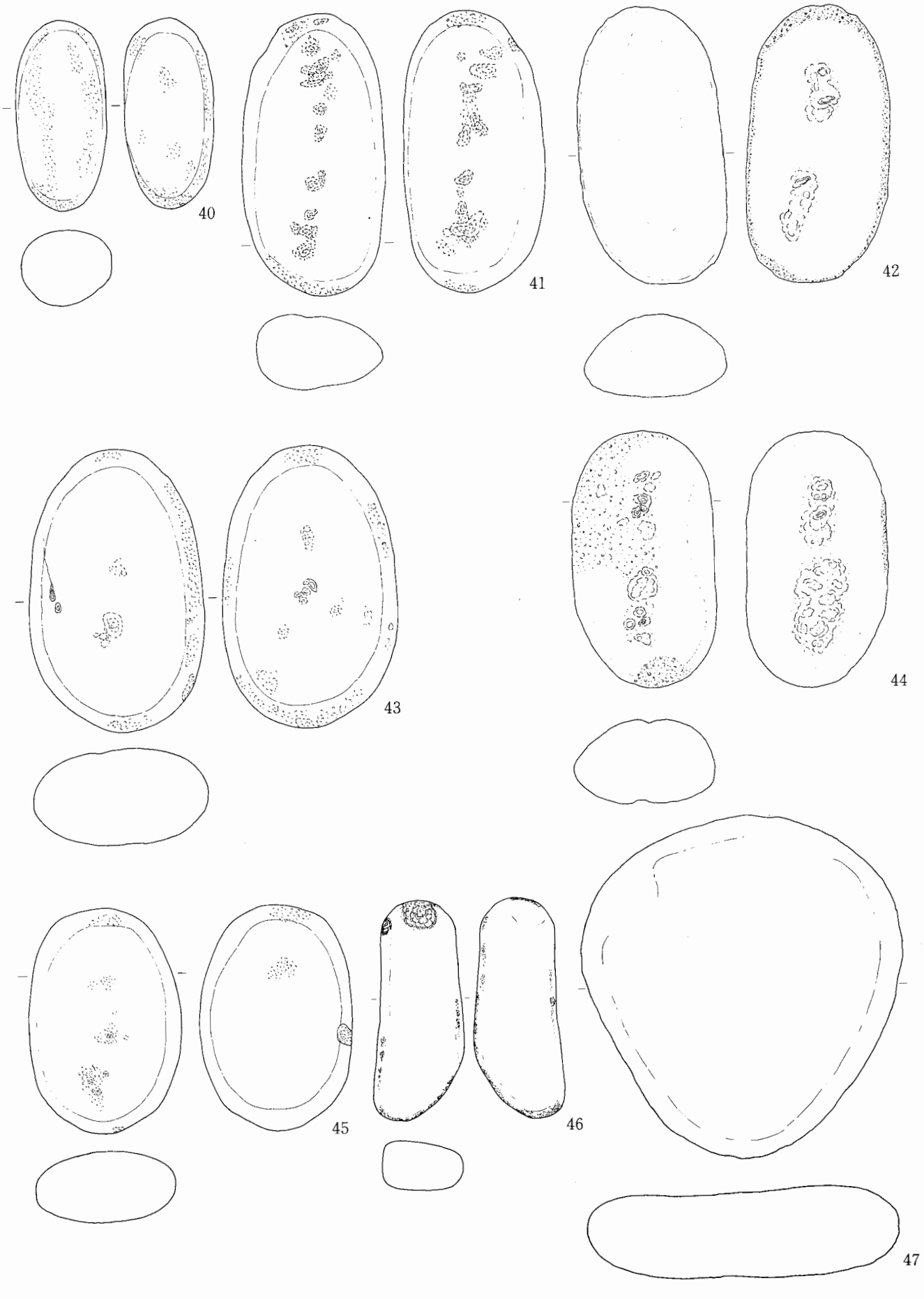
図－207　J 48号住居跡出土石器（１）



図－208　J 48号住居跡出土石器（２）



図－209　J 48号住居跡出土石器（３）



図－210　J 48号住居跡出土石器（４）

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
15	雑	直刃削器	6.6	7.9	3.2	129	〃	60	—	—	—	—	—	—	覆
16	38	凹刃削器	10.5	3.5	1.5	36	〃	55	—	—	—	—	—	—	＋3
17	21	凸刃削器	11.9	7.2	4.1	307	〃	60	—	—	—	—	—	—	＋6
18	23	〃	11.7	4.6	3.7	215	〃	55	—	—	—	—	—	—	床直
19	雑	複刃削器	(3.9)	5.7	1.1	25	〃	40	—	—	欠	—	—	—	2刃 覆
20	27	凸刃削器	4.3	7.7	1.6	55	〃	60	—	—	—	—	—	—	＋7
21	9	〃	8.6	6.5	1.3	66	〃	30	—	—	—	—	—	—	床直
22	48	〃	3.1	4.9	0.7	8	〃	40	—	—	—	—	—	—	＋8
23	31	〃	11.2	5.6	2.1	130	〃	45	—	—	—	—	—	—	周溝内
24	35	U F	5.9	9.2	1.4	30	〃	30	—	—	—	—	—	—	床直下
25	27	〃	9.3	5.8	2.4	110	〃	35	—	—	—	—	—	—	床直
26	39	石核	9.7	14.7	7.0	953	〃	—	—	—	—	—	—	—	床直
27	40	円礫石器	13.1	8.5	4.5	674	安	—	敲1	敲1	敲2	敲2	敲2	敲2	床直
28	17	〃	16.0	10.3	4.7	1,090	〃	—	擦1→火	擦1	敲1	敲1	敲1	敲1	擦・敲→火＋2
29	33	〃	10.6	5.3	3.8	357	〃	—	火→擦2	擦2	擦2	擦2	擦2	擦2	火→擦 床直
30	雑	〃	12.6	7.1	4.3	458	〃	—	敲3	—	—	—	—	敲3	覆
31	12	〃	15.0	9.1	4.5	880	〃	—	擦2	敲1→擦1	敲2	敲2	敲2	敲2	擦→敲→火 ＋8
32	24＋27	〃	(6.0)	6.0	2.9	180	〃	—	擦1	擦1	—	欠	敲3	敲2	敲→擦→敲 同一個体・床直
32	24＋27	〃	5.6	6.0	3.0	180	〃	—	擦1	擦2	欠	—	敲3	敲2	敲→擦→敲 同一個体＋7
33	4	円礫石器	10.6	5.4	4.5	367	安	—	火→擦1	火→擦1	—	—	火→擦1	火→擦1	火→擦 ＋2
34	24	〃	(7.4)	6.3	3.8	230	〃	—	敲1	敲1	欠	—	—	—	床直
35	14	〃	12.7	6.0	3.6	359	〃	—	擦1→火	擦1	—	—	—	—	擦→火 ＋8
36	雑	〃	13.4	8.9	4.5	700	〃	—	凹3	凹3	敲2	敲2	敲2	敲2	覆
37	8	〃	(12.0)	(3.2)	5.5	295	〃	—	擦1→火	擦1→火	擦1→火	擦1→火	擦1→火	欠	＋3
38	32	〃	14.3	8.6	4.9	850	〃	—	擦1	擦1	敲1	敲1	—	—	擦→火 ＋3
39	22	〃	14.1	9.7	6.1	1,100	〃	—	火→敲1	火→敲1	—	敲1	—	敲3	火→敲 床直
40	44	〃	10.8	5.1	4.2	352	〃	—	擦1→火	擦1	擦1	擦1	擦1	擦1	擦→火 ＋2
41	38	〃	16.0	8.1	4.5	778	〃	—	凹3→擦1	凹3→擦1	擦1	擦1	擦1	擦1	凹→擦 ＋3
42	8	〃	15.8	8.4	4.7	750	〃	—	敲2	敲2	敲2	敲2	敲2	敲2	敲→火 ＋3
43	44	〃	16.0	9.9	5.5	1,190	〃	—	凹1	凹1	敲1	敲1	敲1	敲1	凹→火 床直
44	3	〃	14.6	8.1	5.0	840	〃	—	凹3	凹3	敲1	—	—	—	凹→火 ＋2
45	1	〃	12.8	8.7	4.2	749	〃	—	擦2	擦2	敲1	敲1	敲1	敲1	敲→擦 ＋2
46	7	敲き石	12.5	5.2	3.1	305	〃	—	擦1	擦1	敲3	敲1	擦2	擦1	擦→敲 ＋12
47	16	台石	19.9	18.3	5.3	2,580	〃	—	擦1→敲1	擦1→敲1	—	—	—	—	＋8

表－126　J 48号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		2					9		1	6	1		1						2									124	1			147
黒色安山岩						1																						5				6
安山岩																					1	19								7	1	28
流紋岩	1																															1
珪　岩							1																					8				9
その他																												1				1
計	1	2				1	10		1	6	1		1						2		1	19						138	1	7	1	192

図－211　J 49号住居跡出土土器

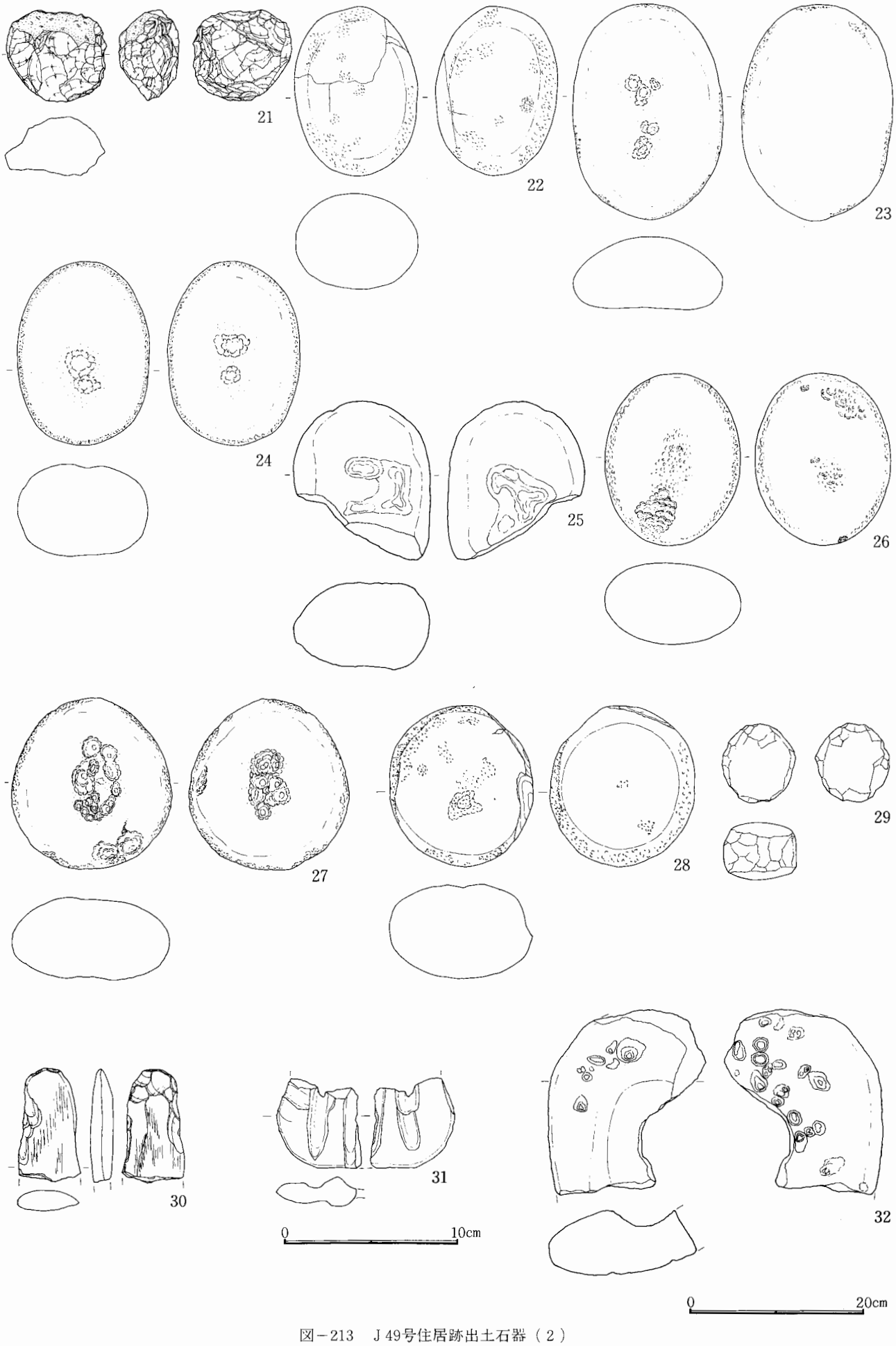
表—127　J49号住居跡出土土器観察表（図—211　図版—107・108）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	雑	口縁下7cmまで横位、胴部縦位又は斜位の集合する平行沈線。口縁端外縁逆C字形刺突列。緩い波状口縁。外反。	①細砂粒②赤褐色③口縁部	諸磯c	—	興津の影響。J50・1と同一
2	1・2・15	RL斜縄文。口縁下に7条の平行沈線からなる集合沈線を入れ、その下は縦位横位に入れる。波頂部下に縦位貝殻状貼付文。波状口縁。①細砂粒②極暗赤褐色③口縁部　諸磯c　+16　床面　+15				
3	1	口縁下横位胴部は縦位及び矢羽根状の集合沈線。内傾する口縁端にも横位矢羽根状集合沈線。貝殻状・ボタン状貼付文。平口縁。①中砂粒②明赤褐色③口縁部　諸磯c　+16				
4	3	口縁下横位胴部は縦位及び斜位の集合沈線。口縁部に縦位貝殻状貼付文。平口縁。口縁部内傾。	①砂粒②暗赤灰色③口縁部	諸磯c	+7	
5	1	口縁下3段の刺突列。胴部は平行沈線。口縁端にも斜位の刻列。	①砂粒②暗赤灰色③口縁部	諸磯c？	+16	
6	8	横位斜位の集合沈線。	①細砂粒②灰白色③胴部	諸磯c	+32	
7	1	縦位集合沈線。	①細砂粒②黒褐色③胴部	諸磯c	+16	
8	1	斜位集合沈線とそれを挟む横位集合沈線。	①細砂粒②灰褐色③胴部	諸磯c	+16	
9	1	曲線的な集合沈線。	①細砂粒②灰白色③胴部	諸磯c	+16	
10	雑	支点をずらせた平貝の縦位腹縁刺突列。内面撫で研磨。	①細砂粒②灰黄色③胴部	諸磯c	—	
11	1	O段多条の斜縄文。	①繊維少量②にぶい橙色③胴部	黒浜	+16	
12	1	RL縦位施文。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯	+16	
13	6	突き出た底部から一旦すぼまった後、外反ぎみに立つ。	①粗砂粒②にぶい黄色③底部	諸磯c	+18	

表—128　J49号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	雑	打製石斧	11.7	4.7	1.9	119	輝	20	—	—	—	滅1	—	—	覆
2	14	〃	10.3	5.5	1.3	76	黒頁	30	—	—	—	滅1	—	—	+16
3	雑	〃	11.9	6.0	2.7	205	〃	50	—	—	—	—	—	—	覆
4	4	〃	10.2	5.6	1.6	131	安	50	—	—	—	—	潰1	潰1	+19
5	雑	〃	8.8	4.9	1.7	66	黒頁	40	滅1	—	—	滅1	—	—	覆
6	7	打製石斧	(7.1)	5.3	1.9	81	頁	—	—	—	—	欠	—	—	+28
7	雑	〃	(4.2)	6.7	1.6	47	黒安	—	—	—	—	欠	—	—	覆
8	雑	〃	(6.2)	4.8	1.2	37	黒頁	—	—	—	—	欠	—	—	覆
9	雑	〃	(7.2)	8.4	2.0	127	〃	40	—	—	欠	欠	—	欠	覆
10	雑	直刃削器	4.3	2.6	0.5	6	〃	15	—	—	—	—	—	—	覆
11	雑	凸刃削器	10.7	7.1	1.4	112	〃	20	—	—	—	—	—	—	覆
12	雑	〃	4.7	4.0	1.2	25	〃	70	—	—	—	—	—	—	覆
13	13	〃	10.7	4.5	1.5	66	〃	40	—	—	—	—	—	—	+8
14	12	複刃削器	3.7	3.8	0.7	12	〃	40 60	—	—	—	—	—	—	2刃 +57
15	10	〃	6.1	5.5	6.2	43	〃	35 45	—	—	—	—	—	—	4刃 +17
16	雑	鋸歯縁石器	7.9	4.2	1.3	34	〃	30	—	—	—	—	—	—	覆
17	雑	〃	(4.5)	4.5	2.3	37	黒安	60	—	—	—	—	—	—	覆

図－212　J 49号住居跡出土石器（１）

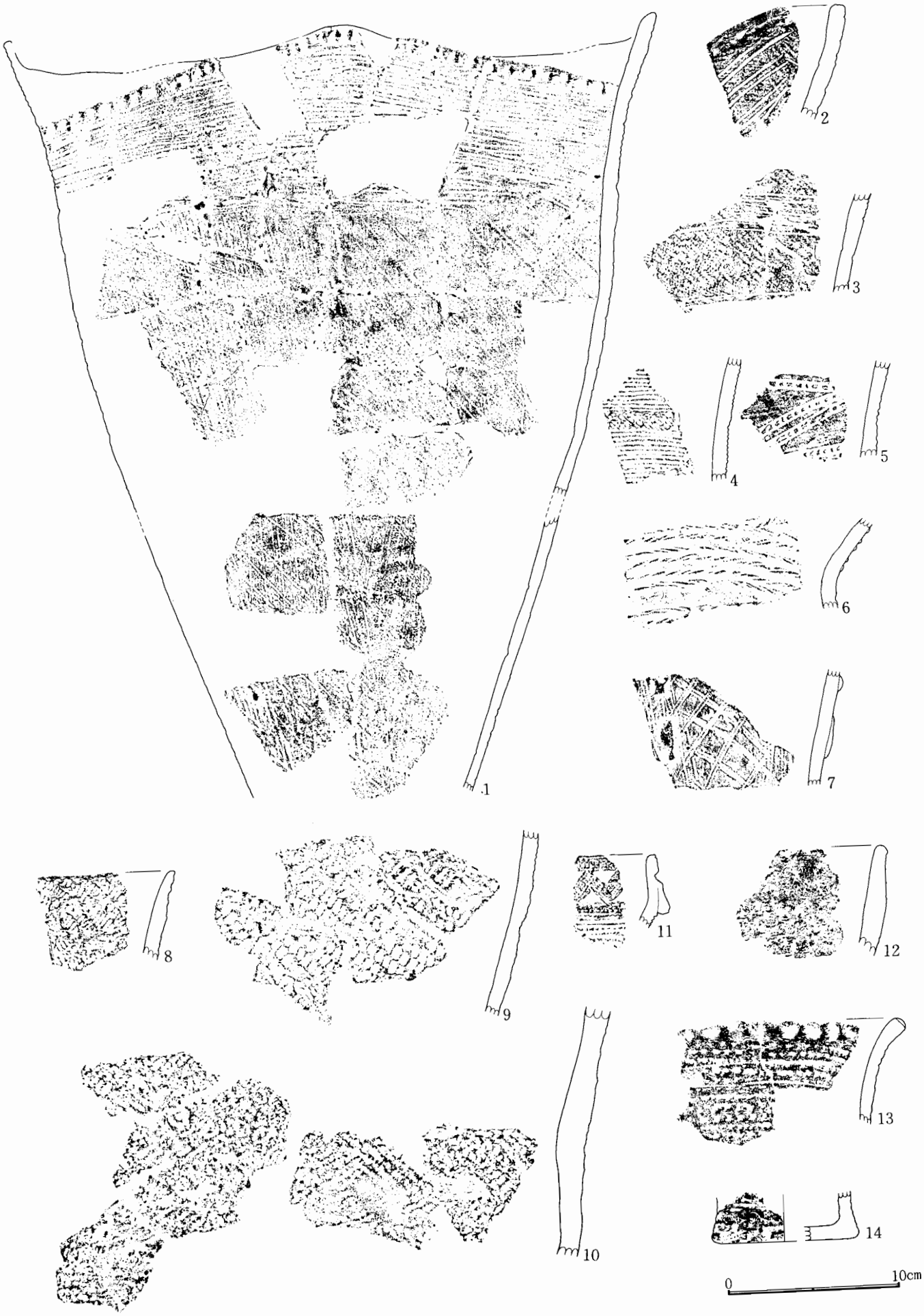


図－213　J 49号住居跡出土石器（２）

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
18	雑	U F	10.7	3.9	2.3	74	黒頁	30	—	—	—	—	—	—	交刃 覆
19	雑	〃	8.6	3.7	1.1	34	〃	25	—	—	—	—	—	—	複刃 覆
20	雑	〃	3.4	5.9	0.8	23	黒安	35	—	—	—	—	—	—	覆
21	雑	石核	5.3	5.2	3.4	115	〃	—	—	—	—	—	—	—	覆
22	雑	円礫石器	9.6	7.0	5.3	524	斑	—	—	—	敲1	敲1	敲1	敲1	覆
23	雑	〃	12.4	8.5	4.2	695	安	—	敲1	擦1	敲1	敲1	敲1	敲1	覆
24	雑	〃	10.5	7.5	7.3	597	〃	—	擦2→凹2	擦1→凹2	敲1	敲1	敲1	敲1	覆
25	雑	凹石	9.0	7.8	4.9	410	〃	—	凹2	凹2	—	—	—	—	赤化 覆
26	雑	円礫石器	9.8	7.8	4.7	541	斑	—	敲1	—	擦1	—	敲1	敲1	覆
27	雑	〃	9.8	9.3	4.8	552	安	—	敲2	敲2	敲1	敲1	敲1	敲1	覆
28	雑	〃	9.2	8.2	5.3	554	斑	—	凹1	—	敲3	敲3	敲3	敲3	覆
29	雑	敲き石	4.5	4.3	3.4	86	安	—	—	—	敲3	敲3	敲3	敲3	覆
30	雑	棒状石器	(6.5)	3.6	1.3	45	黒片	—	—	—	敲3	欠	敲3	敲3	覆
31	1	砥石	(5.2)	(4.8)	1.6	38	砂	—	擦1	擦1	欠	擦1	擦1	欠	+16
32	3	石皿	(21.2)	(18.1)	9.0	2,450	安	—	擦1・凹3	凹3	—	欠	—	欠	+7

表－129　J 49号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種／石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		5							1	3			2	1					2										23				37
頁岩		1																															1
黒色安山岩		1												1					1										14	1			18
安山岩		1																			1	3			1		1				3		10
斑岩																						3											3
輝緑岩		1																															1
珪岩																													4				4
黒色片岩																								1									1
砂岩																												1					1
計		9							1	3			2	2					3		1	6		1	1		1	1	41	1	3		76



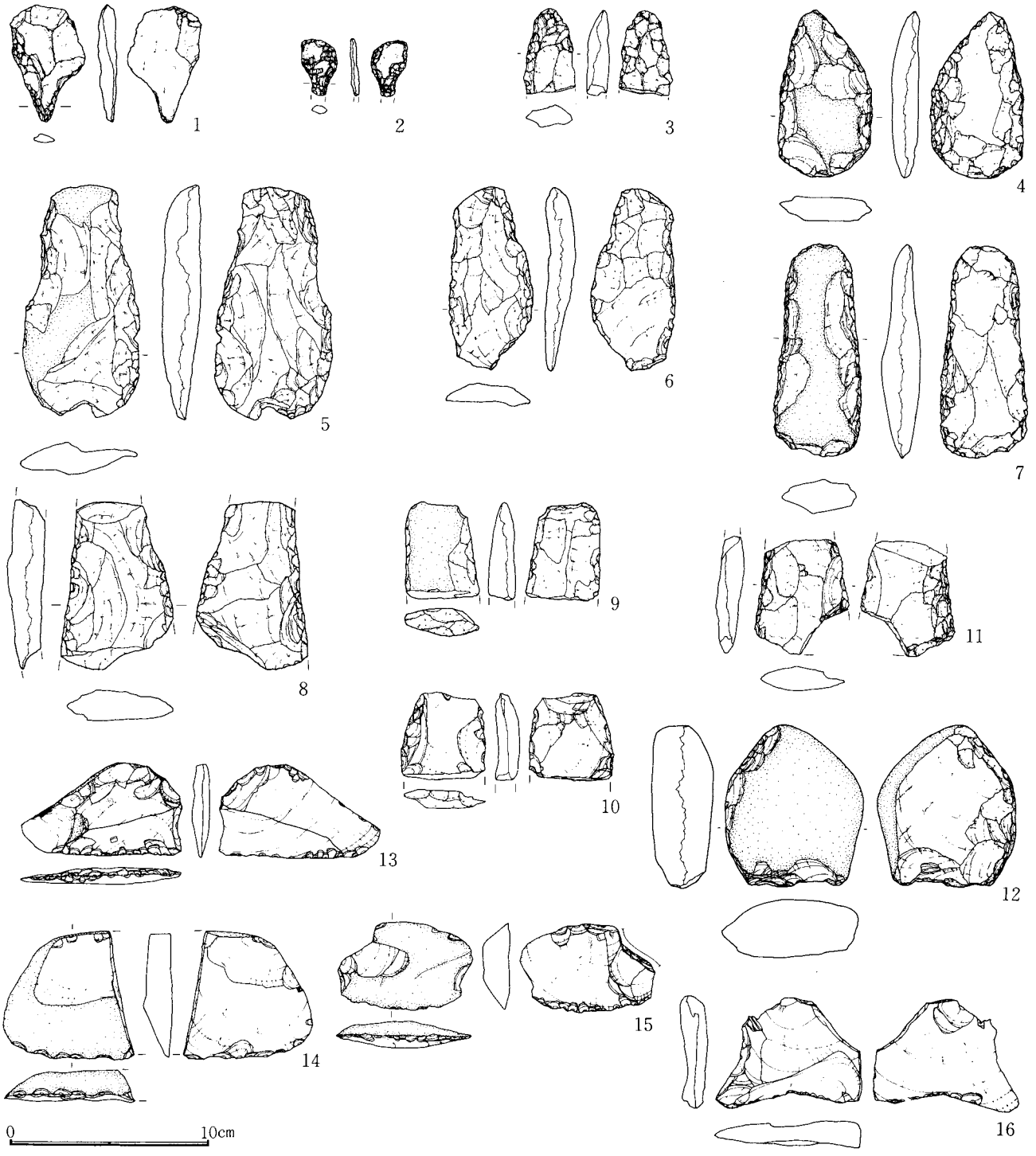
図－214　J 50号住居跡出土土器（１）

図－215　J 50号住居跡出土土器（２）

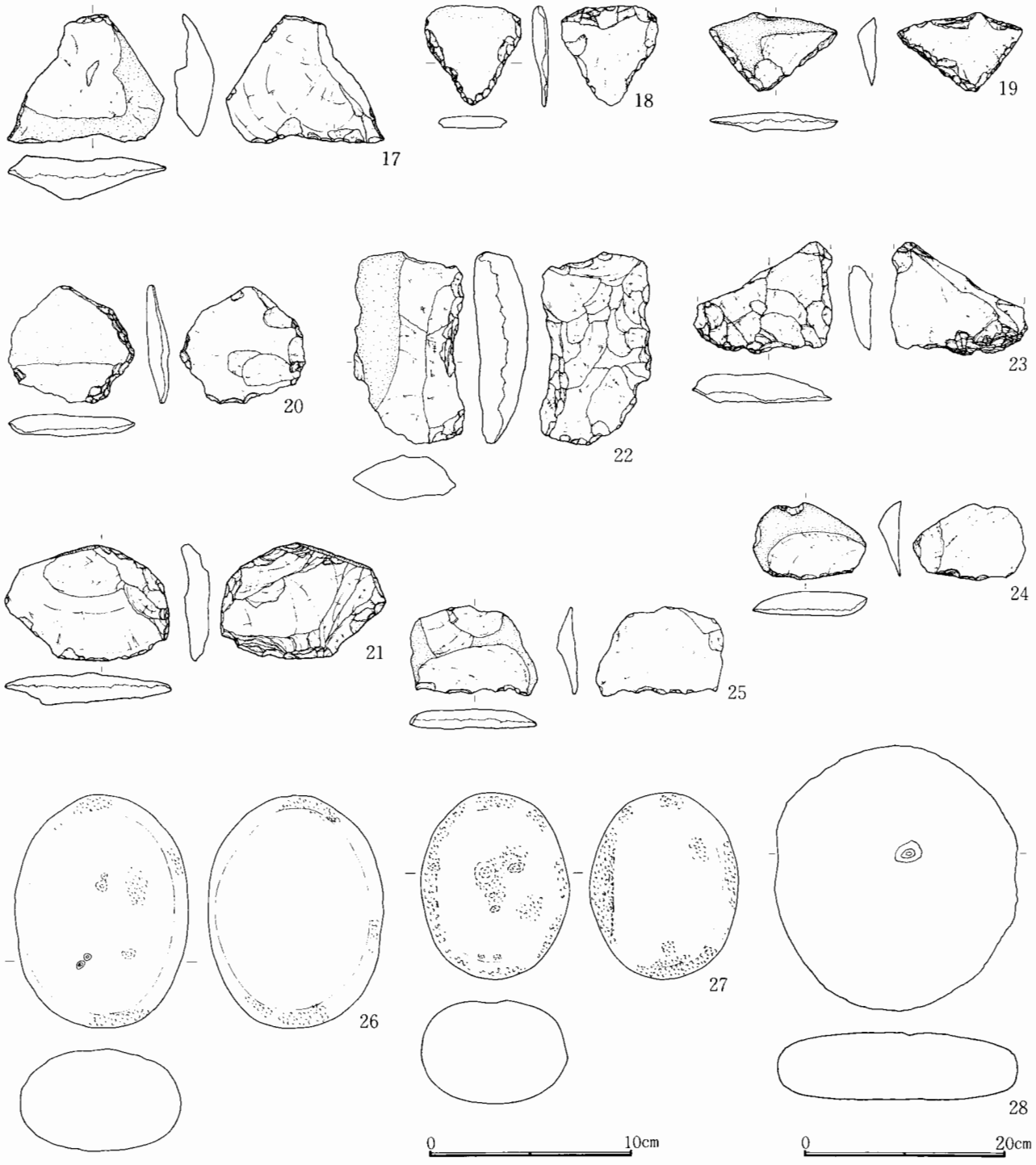
表－130　J 50号住居跡出土土器観察表（図－214・215　図版－108・109）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	16・18・19 21・雑	口縁下横位の平行沈線。胴部は縦位平行沈線の後斜位平行沈線。口縁端外縁逆Ｃ字形刺突列。開きぎみに立つ。波状口縁。	①中砂粒 ②にぶい赤褐色③口縁～胴部下位　諸磯ｃ　＋５　床直　＋11　中央落ち込み。興津の影響Ｊ49・１と同一。			
2	雑	複節ＲＬＲ斜縄文。口縁に沿う平行沈線。緩い波状口縁。	①砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯ｂ	—	
3	雑	ＲＬ斜縄文。４条の横位平行沈線。	①砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯ｂ	—	
4	雑	ＬＲ斜縄文。横位集合沈線。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯ｂ	—	
5	雑	撫でた器面にＣ字形刺突列。	①繊維②浅黄橙色③胴部	黒浜	—	
6	雑	異条ＲＬ。矢羽根状刻み浮線。	①中砂粒②橙色③胴部	諸磯ｂ	—	
7	雑	縦位平行沈線に挟まれた斜格子。縦位貝殻状貼付文。	①中砂粒②浅黄橙色③胴部	諸磯ｂ	—	
8	雑	Ｏ段多条ＲＬ・ＬＲ羽状縄文。平口縁。	①繊維②暗褐色③口縁部	黒浜	—	
9	雑	ＲＬ。直前段合撚の２種類施文。	①繊維②にぶい黄橙色③胴部	黒浜	—	
10	雑	結束（第１種）ＲＬ・ＬＲ羽状縄文。	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	—	
11	雑	口縁下に粘土紐を貼付け肥厚。５本１組の櫛状工具の縦位刺突列。三角形印刻列。Ｃ字形刺突列。	①砂粒②にぶい橙色③口縁部	十三菩提	—	
12	20	全面撫で。平口縁。	①繊維②浅黄橙色③口縁部	黒浜	＋10	
13	雑	縦位貝殻腹縁刺突列。横位沈線。口縁端外縁側面刺突列。平口縁。	①細砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	興津	—	
14	雑	文様不鮮明。平底。	①砂粒②にぶい橙色③底部	諸磯	—	
15	雑	集合沈線で胴部上半は同心円文。胴部下半は縦位の曲線的な文様。波状口縁。外反。	①砂粒②にぶい赤褐色③口縁～胴部	諸磯ｃ	—	

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
16	雑	同心円状の集合沈線。	①中砂粒②浅黄橙色③胴部	諸磯c	—	
17	雑	横位平行沈線を入れ、その間に羽状の平行沈線。胴部下半は撫で。	①砂粒②暗赤褐色③胴部	諸磯c	—	



図－216　J50号住居跡出土石器（1）



図－217　J50号住居跡出土石器（２）

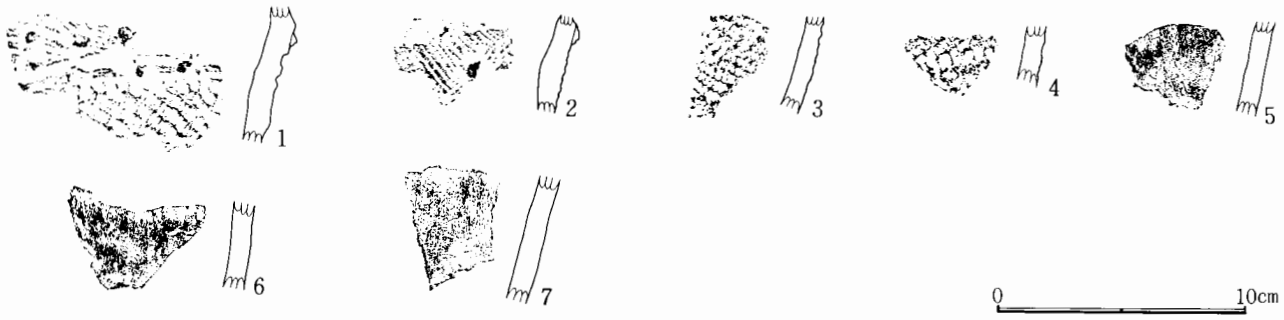
表－131　J50号住居跡出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	雑	石錐	5.8	3.7	0.5	12	黒頁	—	—	—	—	—	—	—	覆
2	雑	〃	(2.8)	1.8	0.4	8	赤珪	—	—	—	—	—	—	—	覆
3	雑	尖頭器	(4.2)	2.7	1.1	13	黒頁	—	—	—	—	欠	—	—	覆
4	雑	〃	8.3	4.7	1.3	56	〃	—	—	—	—	—	—	—	覆
5	雑	打製石斧	11.6	5.8	1.9	120	〃	25	—	—	—	—	滅1	—	覆

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
6	住外	打製石斧	9.1	4.2	1.5	51	黒頁	15	—	—	—	—	—	—	住外
7	雑	〃	10.6	4.4	1.9	90	〃	30	—	—	—	—	—	—	覆
8	雑	〃	(8.3)	5.5	1.9	86	〃	—	—	—	欠	欠	—	—	覆
9	雑	〃	(4.8)	3.7	1.4	30	黒安	—	—	—	—	欠	—	—	覆
10	雑	〃	(4.3)	4.2	1.2	24	〃	—	—	—	—	欠	—	—	覆
11	雑	〃	(4.7)	4.6	1.2	38	黒頁	15	—	—	欠	—	—	—	覆
12	雑	礫器	8.1	6.9	3.1	242	〃	70	—	—	—	—	—	—	覆
13	雑	直刃削器	4.6	7.9	0.8	27	〃	15	—	—	—	—	—	—	覆
14	雑	〃	6.4	(6.4)	1.6	75	〃	25	—	—	—	—	—	欠	覆
15	雑	凸刃削器	4.4	6.7	1.4	43	〃	35	—	—	—	—	—	—	覆
16	雑	凹刃削器	5.6	7.2	1.3	33	〃	15	—	—	—	—	—	—	覆
17	雑	〃	6.3	7.2	2.2	67	〃	50	—	—	—	—	—	—	覆
18	雑	交刃削器	4.9	4.7	0.6	20	〃	15	—	—	—	—	—	—	覆
19	雑	交刃削器	6.3	3.9	0.9	18	黒頁	20	—	—	—	—	—	—	覆
20	雑	複刃削器	6.3	5.1	1.2	37	〃	20	—	—	—	—	—	—	3刃 覆
21	雑	〃	5.7	8.1	1.1	65	〃	30	—	—	—	—	—	—	覆
22	雑	〃	9.4	5.4	2.7	134	〃	60	—	—	—	—	—	—	覆
23	6	RF	(5.5)	6.9	1.5	40	〃	—	—	—	—	—	—	—	+12
24	雑	UF	3.8	5.6	1.2	21	〃	25	—	—	—	—	—	—	覆
25	雑	〃	4.4	6.2	1.0	27	〃	20	—	—	—	—	—	—	覆
26	雑	円礫石器	11.4	8.5	5.0	687	安	—	敲1	敲1	敲1	敲1	敲1	敲1	覆
27	25	〃	9.1	7.3	4.9	470	斑	—	凹2	擦2	敲1	敲1	敲1	敲1	擦→敲 +6
28	24	台石	26.3	24.0	6.9	6,100	安	—	凹1	—	—	—	—	—	床直

表—132　J50号住居跡石器器種・石材別一覧表

器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		5		1	2				2	1	2	2	3				1	1	2														22
黒色安山岩		2																															2
安山岩																						1										1	2
斑岩																						1											1
赤色珪質岩				1																													1
計		7		2	2				2	1	2	2	3				1	1	2			2										1	28



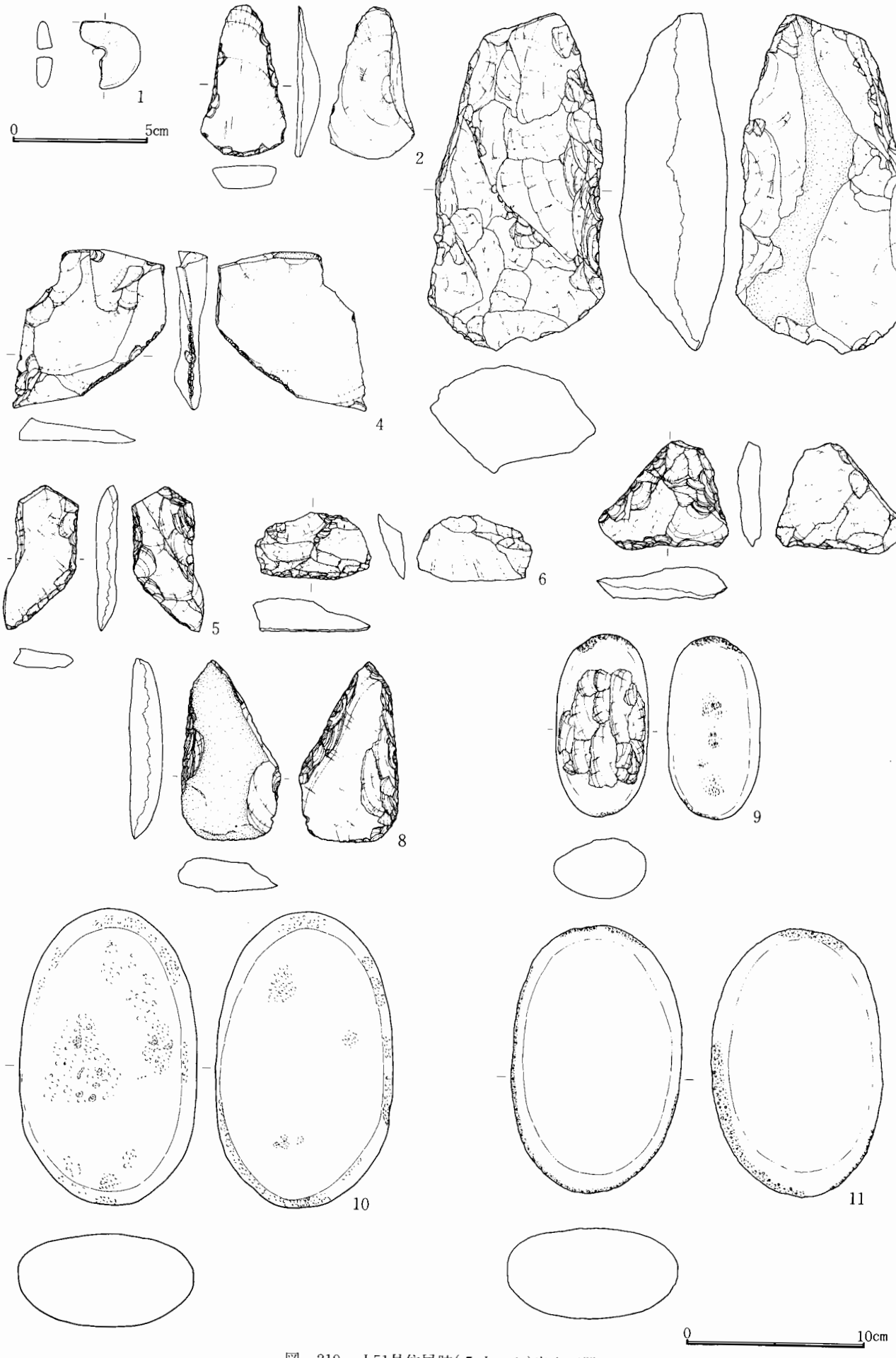
図—218　J58号住居跡（5 J－1）出土石器

表—133　J51号（5 J－1）住居跡出土土器観察表（図—218　図版—109）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	雑	O段多条RL（現状）。平行沈線。貼付文。内面撫で。	①繊維細砂粒②にぶい黄橙色③胴部	関山	—	
2	9	交互の斜位集合沈線。貼付文。	①繊維細砂粒②灰褐色③胴部	関山	＋7	
3	雑	O段多条RL（現状）。内面撫で。	①繊維細砂粒②黒褐色③胴部	関山	—	
4	雑	O段多条ループRL・LR羽状縄文。	①繊維②にぶい黄橙色③胴部	関山	—	
5	雑	全面縦位撫で。	①細砂粒②にぶい橙色③胴部	後期	—	
6	雑	全面縦位撫で。	①細砂粒②にぶい橙色③胴部	後期	—	
7	雑	全面縦位撫で。	①細砂粒②にぶい橙色③胴部	後期	—	

表—134　J51号住居跡（5 J－1）出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	1	抉状耳飾	2.5	(2.2)	0.6	7	蛇	—	—	—	—	—	—	—	半欠 ＋14
2	5	掻器	8.5	4.8	1.3	47	黒頁	65	—	—	—	—	—	—	＋4
3	2	打製石斧	19.0	9.9	6.0	1,110	〃	—	—	—	—	—	—	—	未製品 床直
4	6	凸刃削器	8.9	8.5	1.8	91	〃	35	—	—	—	—	—	—	＋23
5	雑	〃	4.1	8.1	1.2	39	〃	50	—	—	—	—	—	—	覆
6	雑	直刃削器	3.7	6.5	1.9	35	〃	40	—	—	—	—	—	—	覆
7	3	交刃削器	5.8	7.3	1.9	65	〃	35	—	—	—	—	—	—	床直下
8	雑	R F	10.1	5.6	1.9	120	〃	—	—	—	—	—	—	—	覆
9	3	円礫石器	10.3	5.2	3.5	285	安	—	敲3	火	敲1	敲1	—	—	＋3
10	4	〃	16.6	9.9	5.5	1,150	〃	—	敲1	敲1	敲1	敲1	敲1	敲1	＋8
11	7	〃	15.1	9.5	5.2	1,010	〃	—	敲1	敲1→擦1	敲1	敲1	敲1	敲1	＋9



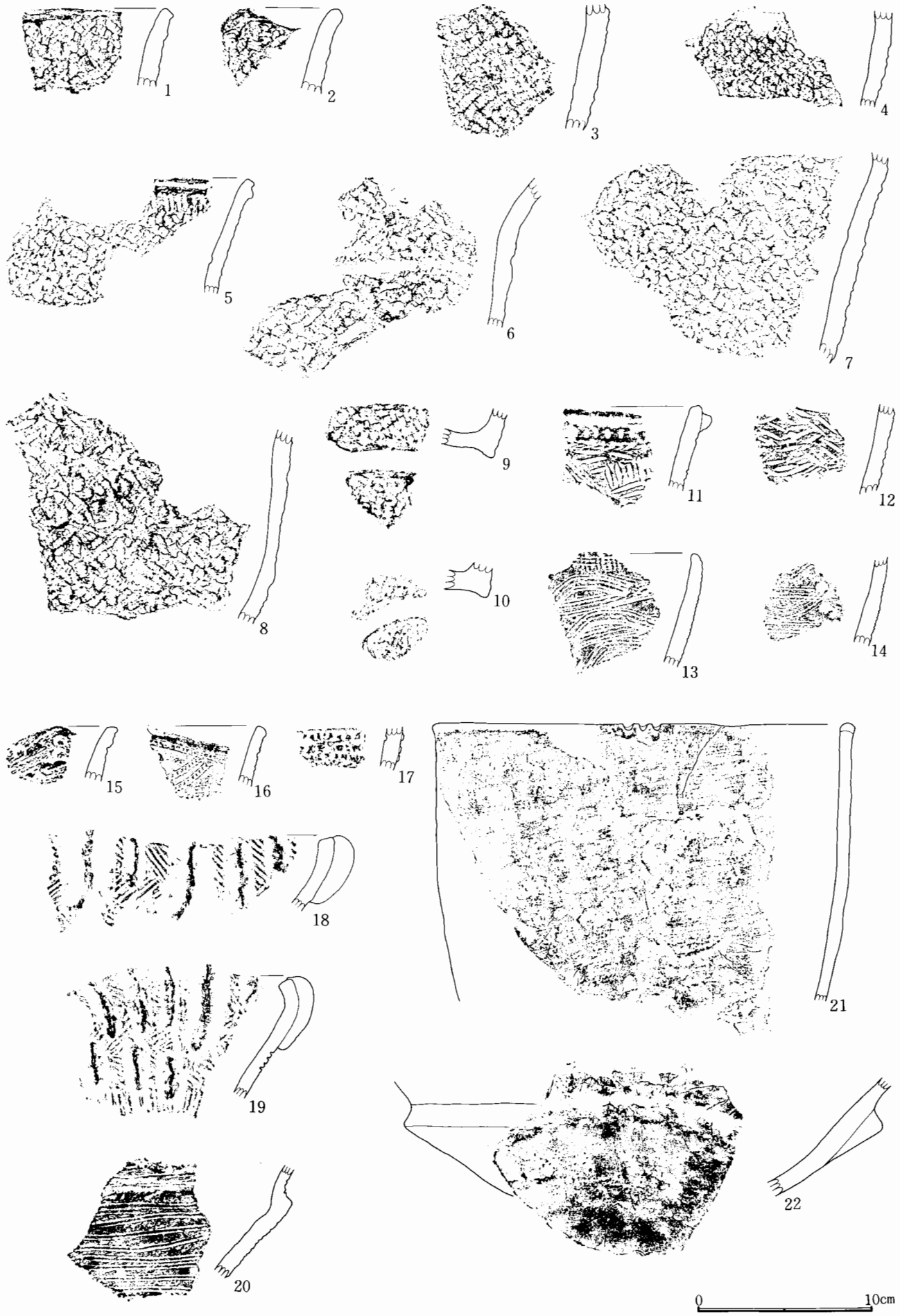
図－219　J51号住居跡(５Ｊ－１)出土石器

表—135　J51号住居跡（5 J — 1）石器器種・石材別一覧表

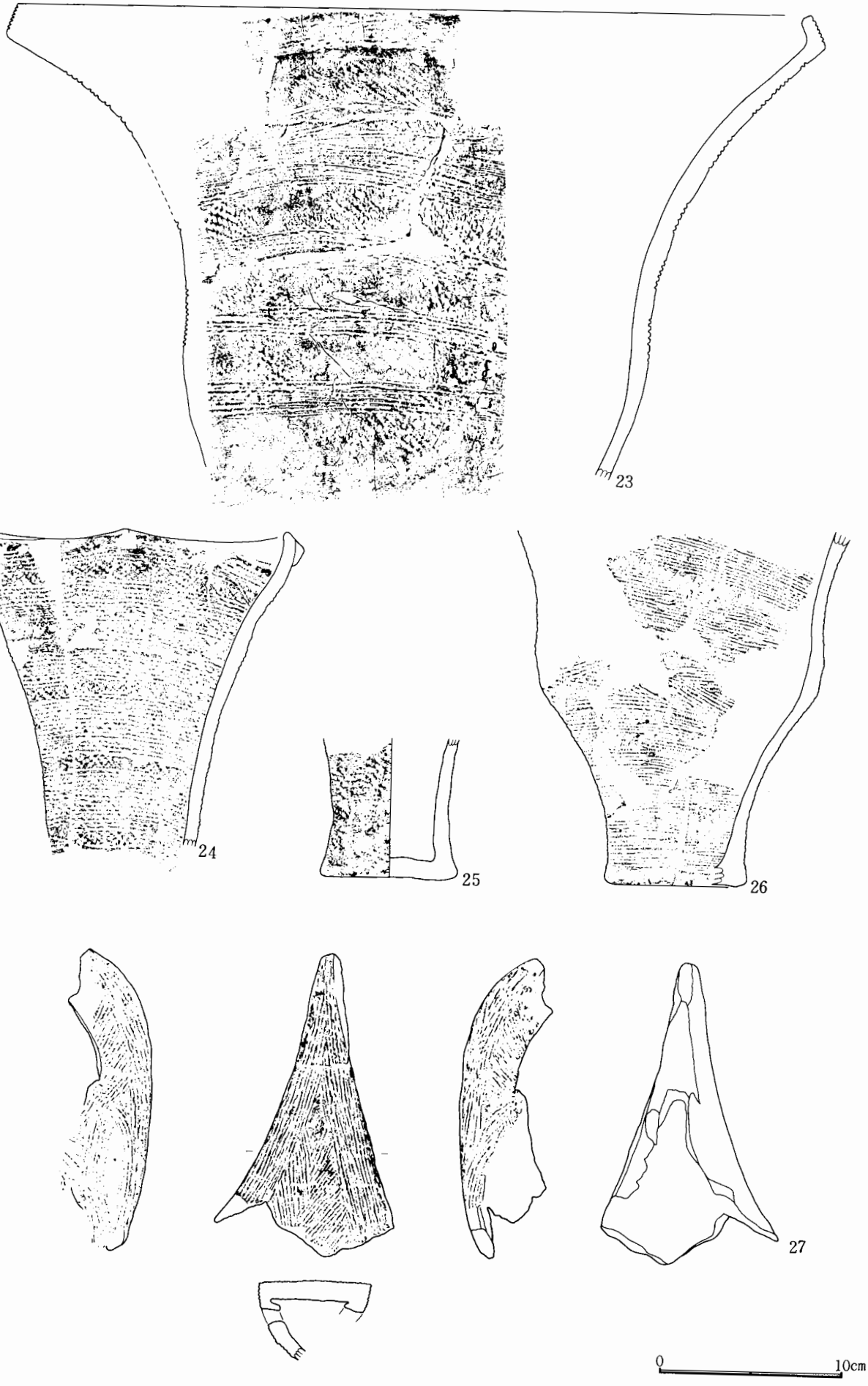
器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		1					1		1	2		1						1															7
安山岩																						3											3
蛇紋岩																																1	1
珪　岩																													1				1
計		1					1		1	2		1						1				3							1			1	12

表—136　J52号（5 J — 2）住居跡出土土器観察表（図—220・221　図版—109・110）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　考
1	雑	O段3条結束（第一種）RL・LR羽状縄文。平口縁。	①繊維②にぶい赤褐色③口縁部	黒浜	—	
2	雑	O段多条LR（現状）。口縁端突起。	①繊維中砂粒②黒色③口縁部	黒浜	—	
3	1	O段3条結束（第1種）RL・LR羽状縄文。内面横撫で。	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	+19	
4	5	O段3条結束（第1種）RL・LR羽状縄文。内面横撫で。	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	+17	
5	雑	口縁下低い隆帯。その下に縦位刺切文列。結束(第一種)RL・LR羽状縄文。平口縁。	①繊維②橙色③口縁部	黒浜	—	
6	雑	O段多条RL・LR羽状縄文。幅広横位沈線。内面横撫で。	①繊維②にぶい褐色③胴部	黒浜	—	
7	雑	O段多条RL・LRの結束部分の横位回転施文。内面横撫で。	①繊維②赤褐色③胴部	関山	—	
8	10・21	O段多条RL・LRの結束部分の横位回転施文。内面横撫で。	①繊維②黒褐色③胴部	関山	−10	
9	雑	LR斜縄文（現状）。底面にも施文。	①繊維②にぶい橙色③底部	関山？	—	
10	雑	LR斜縄文（現状）。底面にも施文。	①繊維②にぶい橙色③底部	関山	—	
11	雑	口縁下に縦位の刻列を入れた隆帯。隆帯直下にR・Lの側面圧痕。撚系圧痕の間に刺切文。平口縁。	①繊維②橙色③口縁部	花積下層	—	
12	雑	撫でた器面に斜位の刺切文。	①繊維②暗赤色③胴部	花積下層	—	
13	雑	5本1組櫛状工具の曲線と直線からなる肋骨文。口縁端同種刺突列。	①細砂粒②橙色③口縁部	諸磯a	—	
14	雑	5本1組櫛状工具の肋骨文。縦位刺突列。	①細砂粒②橙色③胴部	諸磯a	—	
15	雑	口縁に沿うR・R・L・Lの撚系圧痕。円形竹管の刺突。波状口縁。	①繊維②橙色③口縁部	花積下層	—	
16	雑	幅狭C字形刺突列の木葉状弧線入組み文。波頂下に穿孔。波状口縁。	①細砂粒②暗赤色③口縁部	諸磯a	—	
17	土坑2	縦位刻み列入り隆帯。刺切文。	①繊維②暗赤灰色③口縁部	花積下層	J P139内	
18	雑	口縁部横位矢羽根状集合沈線。縦位貝殻状貼付文。平口縁。内湾。	①細砂粒②にぶい黄橙色③口縁部	諸磯c	—	19と同一
19	5	口縁部横位矢羽根状集合沈線。縦位貝殻状貼付文。平口縁。内湾。胴部縦位集合沈線。	①細砂粒②にぶい黄橙色③口縁部	諸磯c	+17	
20	6	横位平行沈線。口縁下屈折。	①細砂粒②暗赤褐色③胴部	諸磯b	+2	
21	8	全面横撫で。平口縁。口縁端の4個所に3個1組の棒状工具の側面圧痕。	①砂粒②にぶい黄褐色③口縁〜胴部中位		+30	
22	雑	全面横位撫で研磨。浅鉢。	①砂粒②暗赤褐色③底部	諸磯b	—	
23	6・12・14・15・17	RL斜縄文。間隔を開けて多段状に巡らす平行沈線の集合沈線。緩い平口縁。口縁部内傾。	①砂粒②にぶい赤褐色③口縁〜胴部中位	諸磯b	埋甕	
24	1	RL斜縄文。間隔を開けて多段状に巡らす10本1組の横位集合沈線。緩い波状口縁。波頂部内傾しそこにボタン状貼付文。①砂粒②にぶい赤褐色③口縁〜胴部下半　諸磯b　+9				
25	3	RL斜縄文。外縁の広がる平底。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴〜低部	諸磯b	−11	
26	雑	多段状櫛状工具の横位集合沈線。胴部中位に横位矢羽根状集合沈線。外縁の広がる平底。	①砂粒②にぶい黄橙色③胴部下半	諸磯c	—	J 42・23と接



図－220　J52号住居跡(５Ｊ－２)出土土器（１）

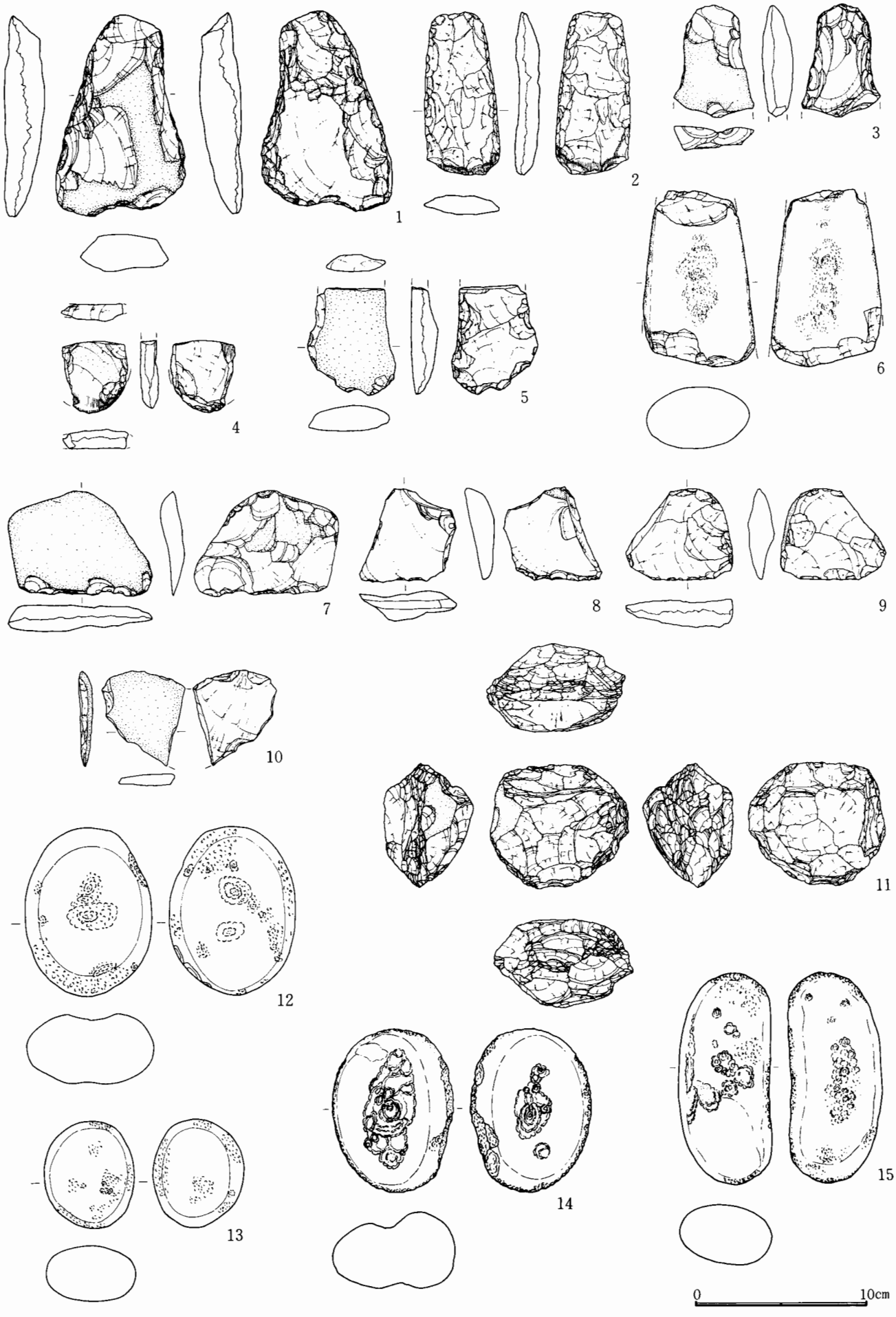


図－221　Ｊ52号住居跡(５Ｊ－２)出土土器（２）

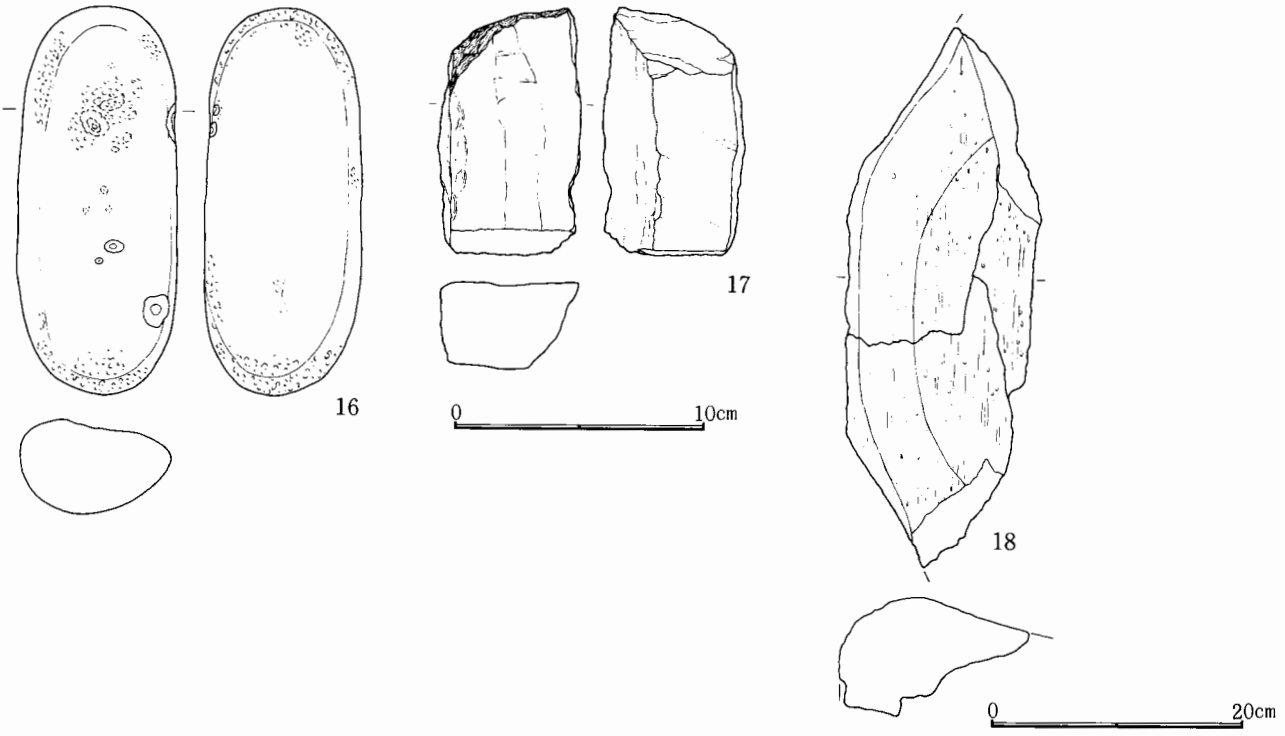
番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
27	3	5本1組櫛状工具の縦位及び矢羽根状集合沈線。大波状口縁突起。	①砂粒②にぶい黄橙色③口縁部突起。	諸磯c	−11	

表−137　J52号住居跡（5J−2）出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	雑	打製石斧	11.6	7.5	2.3	196	黒安	25	—	—	—	—	潰1	—	覆
2	6	〃	9.4	4.3	1.4	66	黒頁	20	—	—	—	滅1	—	—	+2
3	雑	〃	(6.4)	4.7	1.8	60	〃	—	—	—	—	欠	—	—	覆
4	雑	〃	(4.1)	3.2	1.1	25.5	〃	60	—	—	欠	滅2	欠	欠	覆
5	雑	〃	(6.2)	5.0	1.6	54	〃	30	—	—	欠	—	—	—	覆
6	雑	磨製石斧	(10.2)	6.5	3.8	413	点片	—	敲1	敲1	欠	欠	敲1	敲1	覆
7	雑	直刃削器	8.1	8.3	1.5	83	黒頁	25	—	—	—	—	—	—	覆
8	雑	凸刃削器	5.4	5.6	1.7	44	〃	70	—	—	—	—	—	—	覆
9	雑	複刃削器	(6.1)	5.2	1.6	50	〃	35	—	—	—	—	—	—	直刃 覆
10	雑	〃	(5.4)	(4.8)	0.7	23	〃	15	—	—	—	—	—	—	凸・直刃 覆
11	雑	石核	7.1	8.0	5.3	315	黒安	—	—	—	—	—	—	—	覆
12	雑	円礫石器	9.8	7.3	4.1	344	安	—	凹2	凹2	敲1	敲1	敲2	敲1	覆
13	雑	〃	6.2	5.2	3.3	149	〃	—	擦1	擦1	敲1	敲1	—	—	覆
14	雑	〃	9.5	7.0	4.4	376	〃	—	凹1	凹1	—	—	敲2	敲2	覆
15	雑	敲き石	12.2	5.4	4.2	395	斑	—	敲1	敲1	敲1	敲1	—	—	覆
16	雑	〃	15.3	6.2	3.7	581	安	—	敲2	火	—	—	—	敲1	覆
17	雑	砥石	9.8	5.7	3.6	316	結片	—	擦2	—	—	—	欠	欠	覆
18	9	石皿	(21.4)	(7.7)	5.3	890	黒片	—	擦1	—	欠	欠	—	欠	+5



図－222　J52号住居跡(５J－２)出土石器（１）



図－223　J52号住居跡(５Ｊ－２)出土石器（２）

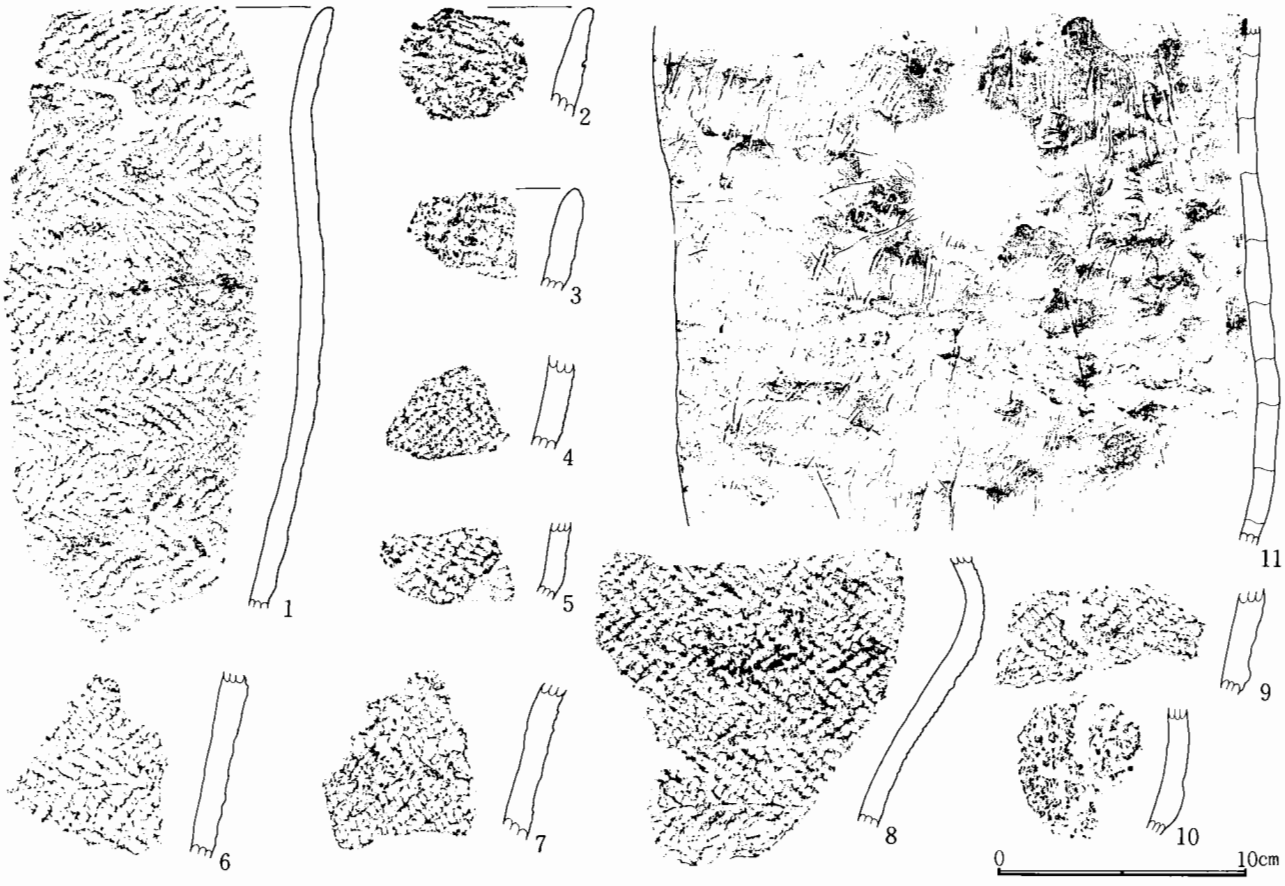
表－138　J52号住居跡（５Ｊ－２）石器器種・石材別一覧表

器種／石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		4							1	1			2																42				50
頁　岩																															2		2
黒色安山岩		1																											36	1			38
安山岩																					1	3									6		10
斑　岩																					1												1
黒曜石																													4				4
黒色片岩																									1						2		3
結晶片岩																												1	1				2
点紋緑色片岩			1																														1
計		5	1						1	1			2								2	3			1			1	83	1	10		111

表－139　J53号（５Ｊ－３）住居跡出土土器観察表（図－224　図版－110・111）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　考
1	1・3・4	O段３条ＲＬ・ＬＲを上下交互に施文する羽状縄文。口縁端縄文施文。平口縁。口縁下で若干くびれ外反。①繊維、石英含み中砂粒②黒褐色～にぶい黄橙色③口縁～胴部中位　関山？　床直　＋４				
2	1	ＲＬ？。器面荒れ。緩い波状口縁。	①繊維中砂粒②黄灰色③口縁部	関山？	＋４	
3	1	ＲＬ？。器面荒れ。緩い波状口縁。	①繊維中砂粒②浅黄色③口縁部	関山？	＋４	
4	1	O段多条ＬＲループ。	①繊維細砂粒②黒色③胴部	関山	＋４	
5	1	ＬＲ（現状）	①繊維②黒褐色③胴部	関山？	＋４	
6	12	閉端結節O段３条ＲＬ・ＬＲ羽状縄文。	①繊維細砂粒②褐灰色③胴部	関山？	＋３	
7	1	結束（第１種）ＲＬ・ＬＲ羽状縄文。	①繊維②にぶい黄橙色③胴部	関山？	＋４	
8	7	ＲＬ・ＬＲ上下交互施文の羽状縄文。	①繊維②にぶい黄橙色③胴部	関山？	＋８	
9	1	ＲＬ・ＬＲ上下交互施文の羽状縄文。	①繊維②にぶい黄橙色③胴部	関山？	＋４	

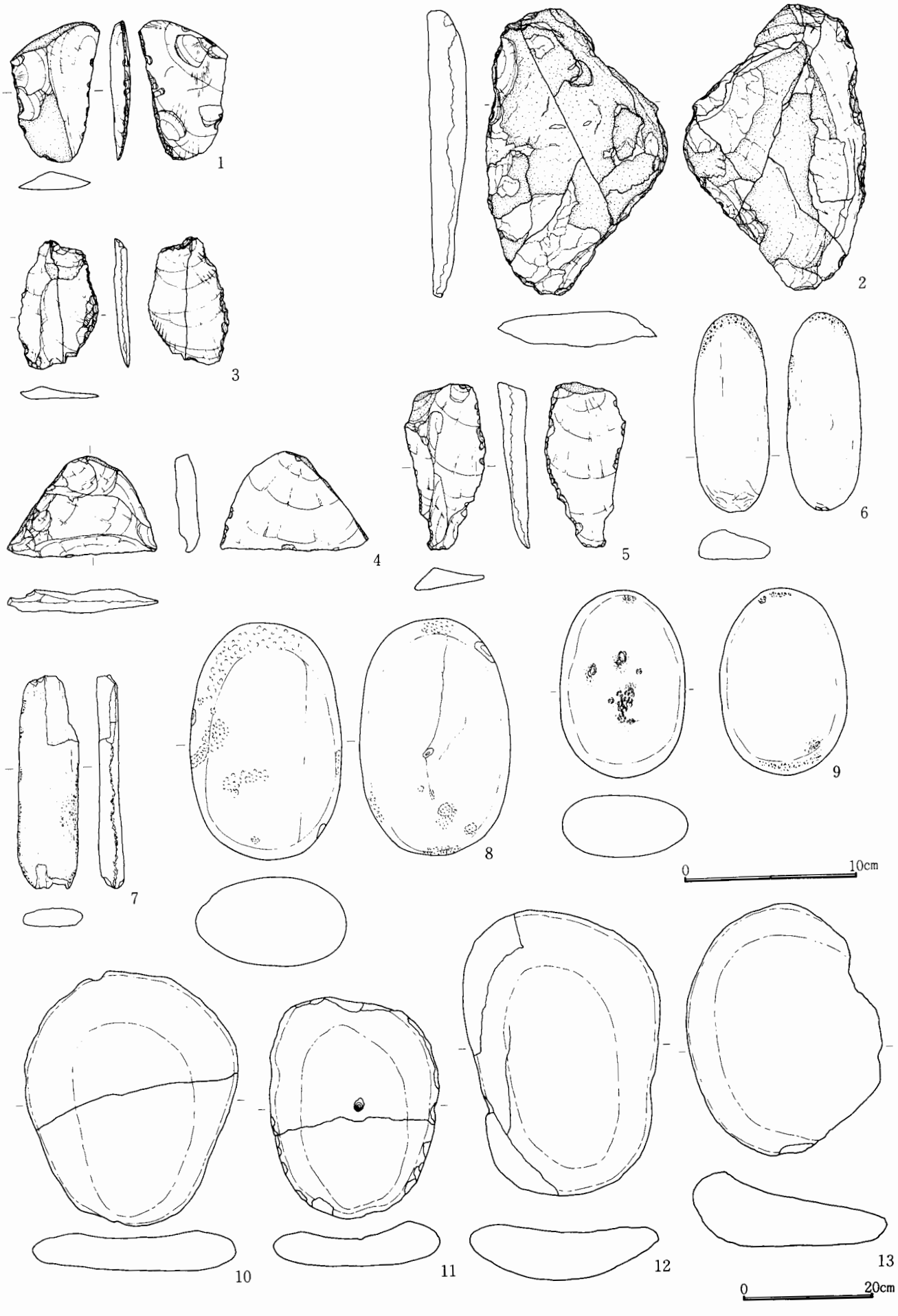
番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
10	5	縦位撫で。内湾ぎみ。	①繊維②にぶい黄橙色③胴部	関山？	＋2	
11	5	全面横撫で。全面縦位の不規則な刺切文。	①繊維②にぶい黄色～黒褐色③口縁～同部	関山	床直	



図－224　J53号住居跡(５J－３)出土土器

表－140　J53号住居跡（５J－３）出土石器属性表

No	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	2	直刃削器	7.9	5.1	1.2	41	黒頁	25	—	—	—	—	—	—	火＋2
2	2•10	凸刃削器	16.5	10.5	2.0	362	〃	45	—	—	—	—	—	—	火＋4
3	6	〃	7.4	4.5	0.7	21	〃	20	—	—	—	—	—	—	床直下
4	14	U F	5.7	8.6	1.4	62	〃	40	—	—	—	—	—	—	交刃＋3
5	8	〃	9.5	4.7	1.7	52	〃	30	—	—	—	—	—	—	複刃＋5
6	1	棒状石器	11.4	4.3	1.8	118	黒片	—	—	—	敲1	敲1	—	—	＋4
7	1	〃	12.3	3.7	1.4	89	〃	—	—	—	敲1	敲1	—	敲1	＋6
8	雑	円礫石器	13.6	8.7	5.1	880	安	—	擦1	擦1	敲1	敲1	敲1	敲1	敲→擦覆
9	1	〃	10.8	7.3	3.7	427	〃	—	擦1	擦1	—	—	—	—	＋7
10	1	石皿	40.3	33.0	6.8	10,400	〃	—	擦1	—	—	—	—	—	＋12



図－225　J53号住居跡(５Ｊ－３)出土石器

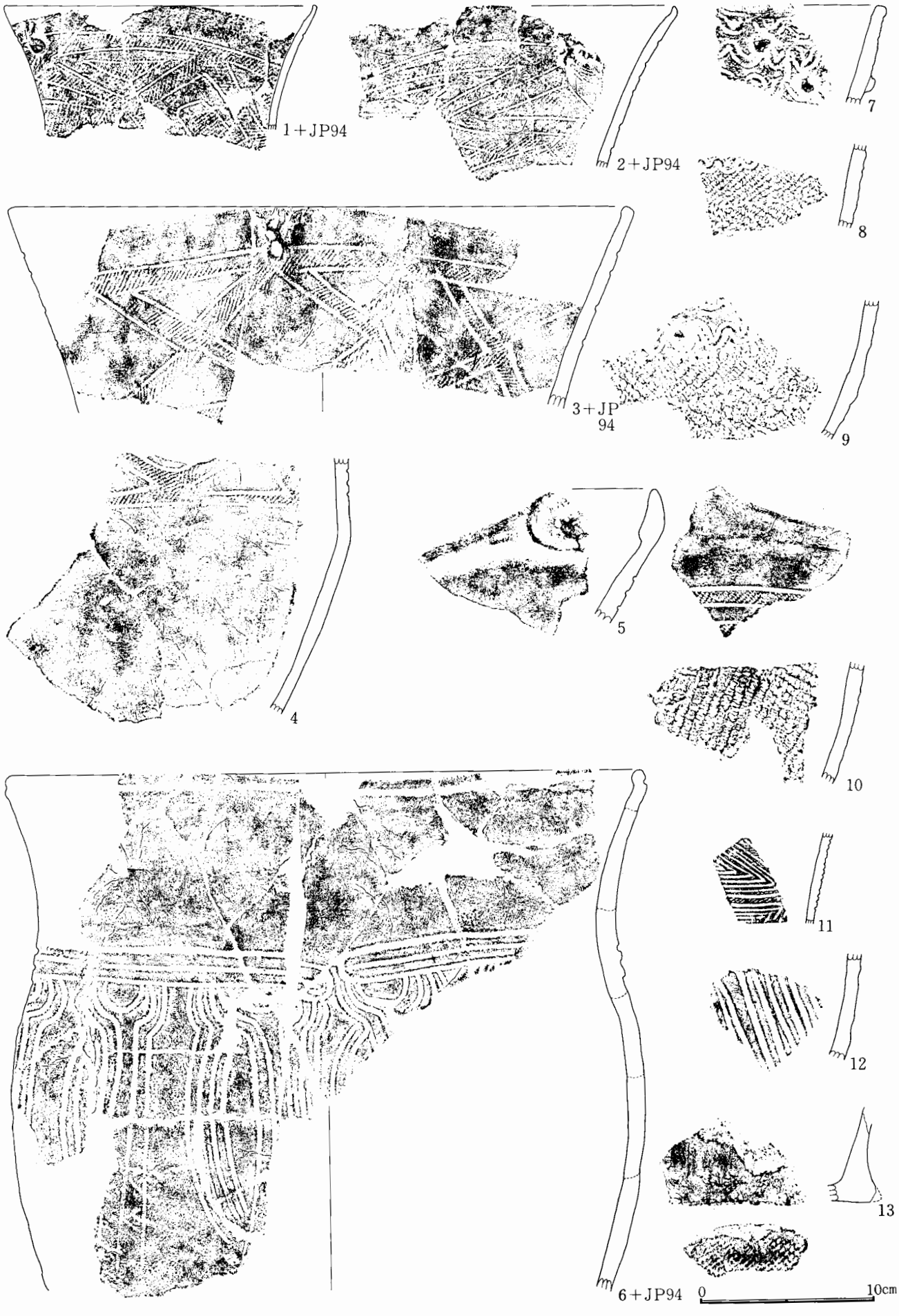
No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
11	9	石皿	35.0	26.2	7.0	7,600	〃	—	擦1・凸1	—	—	—	—	—	+2
12	8	〃	44.7	30.5	9.3	14,800	〃	—	擦1	—	—	—	—	—	床直
13	雑	〃	39.1	30.2	12.0	9,800	〃	—	擦1	—	—	—	—	—	覆

表—141　J53号住居跡（5J—3）石器器種・石材別一覧表

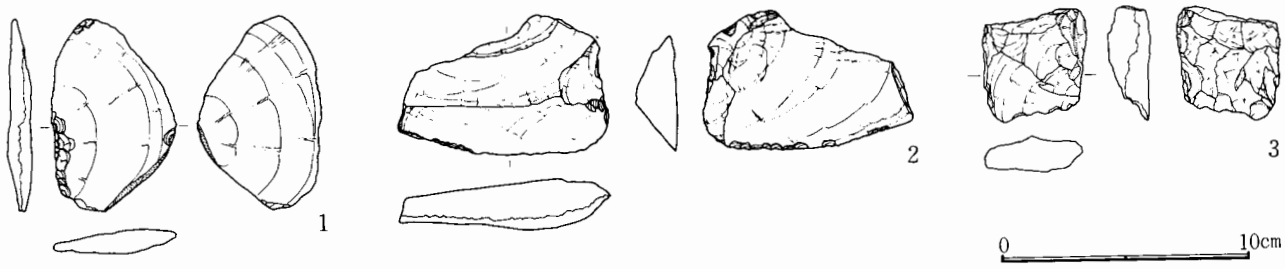
石材＼器種	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩									1	2									2										3				8
安山岩																						2			4						4		10
黒色片岩																								2									2
計									1	2									2			2		2	4				3		4		20

表—142　J54号（5J—4）住居跡出土土器観察表（図—226　図版—110・111）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
1	雑	細く浅い沈線によって三角の沈線重ね。8字状貼付文。細縄文LRが充填される。	①細粒②黒褐色③¼	堀之内2	—	JP94・228と接
2	雑	隆帯には細かな刻みと8字状貼付文。三角や菱形を基調とする沈線重ね。縄文LRが充填される。	①中粒②灰黄褐色③口縁部	堀之内2	—	JP94・229と接
3	雑	沈線と充填縄文LRで文様構成。三角と菱形の沈線が重ねられる。8字状貼付文。	①中粒②灰黄褐色③口縁部	堀之内2	—	JP94・235と接
4	雑	沈線と充填縄文LRで文様構成。三角と菱形の沈線が重ねられる。8字状貼付文。	①中粒②灰黄褐色③口縁部	堀之内2	—	3と同一個体
5	雑	小波状口縁。横位の平行沈線と縄文LRが充填。突起には円孔。	①細粒②褐灰色③口縁部	加曽利B	—	JP94の可能性
6	雑	口縁に1条の平行沈線。胴部に横方向の3条の沈線。それ以下にY字文が12単位で施文。	①中粒②灰黄褐色③⅙	堀之内1	—	JP94・256と接
7	雑	コンパス文と円形の貼付。	①繊維②浅黄橙色③口縁部	関山	—	
8	雑	コンパス文と羽状縄文で構成。羽状縄文はLRとRL。	①繊維②浅黄橙色③胴部	関山	—	
9	雑	コンパス文と円形突起。O段多条LRで羽状構成。	①繊維②黄橙色③胴部	関山	—	
10	雑	O段多条RLで羽状・菱形構成。	①繊維②灰黄褐色③胴部	関山	—	
11	雑	三角形を重ねた沈線。細縄文RLの充填施文。	①細粒②にぶい黄橙色③胴部	堀之内2	—	JP94の可能性
12	雑	縦位の沈線。	①中粒・白色鉱物②にぶい黄橙色③胴部	堀之内1	—	JP94の可能性
13	雑	無文部。底部には網代痕。	①中粒②橙色③底部	堀之内	—	JP94の可能性



図－226　J 54号住居跡(5 J － 4)出土土器



図－227　J54号住居跡(５Ｊ－４)出土石器

表－143　J54号住居跡（５Ｊ－４）出土石器属性表

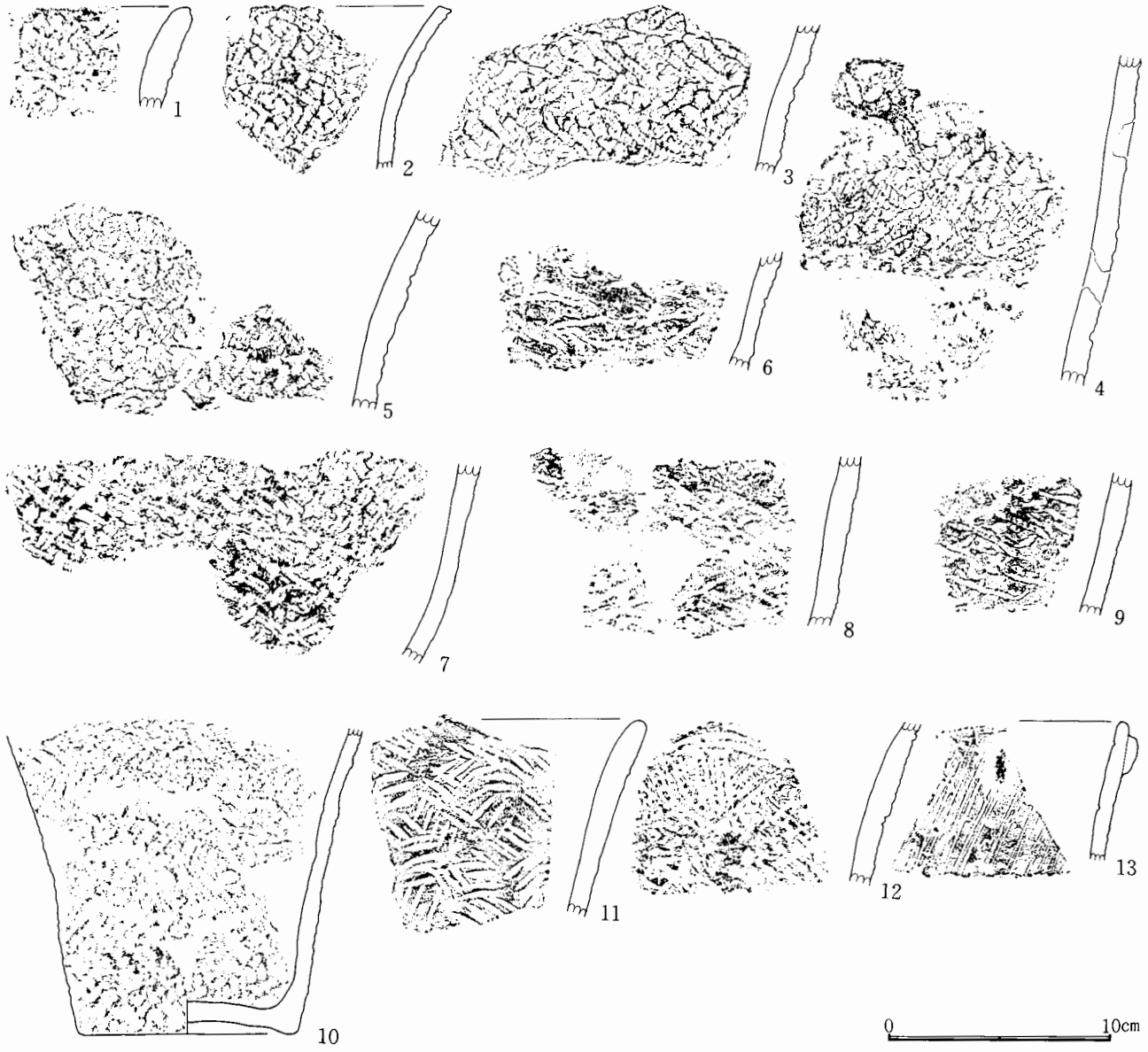
No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	2	凸刃削器	(4.9)	7.6	1.0	35	黒頁	20	—	—	—	—	—	—	＋6
2	雑	U F	8.3	5.5	1.7	80	〃	35	—	—	—	—	—	—	覆
3	雑	R F	4.4	4.1	1.7	36	〃	—	—	—	—	—	—	—	覆

表－144　J54号住居跡（５Ｊ－４）石器器種・石材別一覧表

器種／石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩										1								1	1														3
計										1								1	1														3

表－145　J55号（５Ｊ－５）住居跡出土土器観察表（図－228　図版－112）

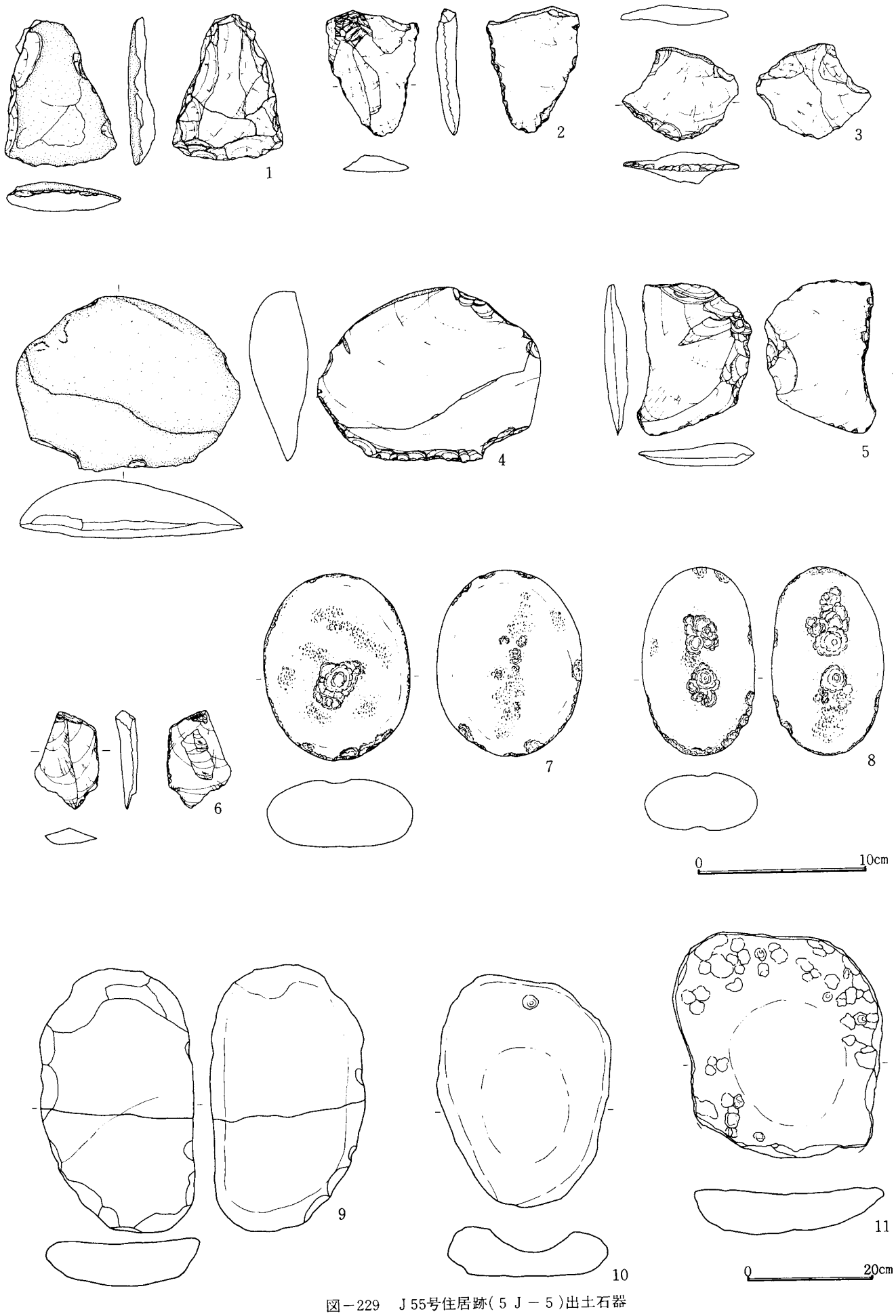
番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
1	雑	口縁下よりＲＬループ。平口縁。	①繊維②にぶい橙色③口縁部	関山	—	
2	雑	ＲＬ・ＬＲループの羽状縄文。平口縁。外反。内面横位磨き。薄手。	①繊維②にぶい褐色③口縁部	関山	—	
3	8	ＲＬ・ＬＲ羽状縄文。ＲＬのループ。	①繊維②にぶい橙色③胴部	関山	床面	
4	4	ＲＬ・ＬＲループの羽状縄文。	①繊維②にぶい黄橙色③胴部	関山	＋28	
5	2	O段３条ループの横位施文。	①繊維②褐色③胴部	関山	＋20	
6	1	撫でた器面にＲまたはＬが入る。	①繊維②にぶい黄橙色③胴部	関山	＋6	
7	雑	不明確なO段２本の交差する付加状	①繊維②褐灰色③胴部	関山	—	
8	9	Ｌの間隔を開けた絡条体。	①繊維②にぶい赤褐色③胴部	関山	＋22	
9	1	Ｌの間隔を開けた絡状体？	①繊維②浅黄橙色③胴部	関山	＋6	
10	雑	O段多条のＲＬ・ＬＲ羽状縄文。底面にも施文。上げ底ぎみ。	①繊維②橙色③底部～胴部	関山	—	
11	雑	口縁下撫で。斜格子状に入れた刺切文。緩い波状口縁。外反。	①繊維②にぶい褐色③口縁部	花積下層	—	
12	雑	Ｃ字形刺突列の菱形文。円形竹管刺突。緩い波状口縁。結節縄文。	①繊維②にぶい褐色③口縁部	関山	—	
13	雑	斜位平行沈線。貝殻状貼付文。口縁端刻み列。平口縁。	①砂粒②にぶい橙色③口縁部	諸磯ｃ	—	



図－228　J55号住居跡(５Ｊ－５)出土土器

表－146　J55号住居跡（５Ｊ－５）出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	12•3	掻器	8.5	6.5	1.5	66	黒安	45	—	—	—	—	—	—	火・同一個体＋11
1	12•3	〃	4.5	3.2	0.6	10	〃	—	—	—	—	—	—	—	火・同一個体＋11
1	雑	〃	6.0	4.5	0.8	25	〃	—	—	—	—	—	—	—	火・同一個体覆
2	6	直刃削器	7.3	5.4	1.3	47	黒頁	30	—	—	—	—	—	—	床直下
3	雑	凸刃削器	5.5	6.3	1.9	47	〃	50	—	—	—	—	—	—	覆
4	16	〃	10.1	13.1	3.4	488	〃	60	—	—	—	—	—	—	＋13
5	11	凹刃削器	6.8	8.8	1.3	67	黒頁	25	—	—	—	—	—	—	＋10
6	雑	U F	5.8	3.8	1.3	21	〃	40	—	—	—	—	—	—	覆
7	17	円礫石器	10.9	8.5	4.0	569	安	—	擦1→凹1	擦1→敲2	敲1	敲1	敲1	敲1	＋7
8	雑	〃	11.0	6.7	3.5	389	〃	—	凹2	凹2	敲1	敲1	敲1	敲1	覆
9	3•2	石皿	42.2	24.3	9.3	1,660	〃	—	擦2	—	—	—	—	—	床直

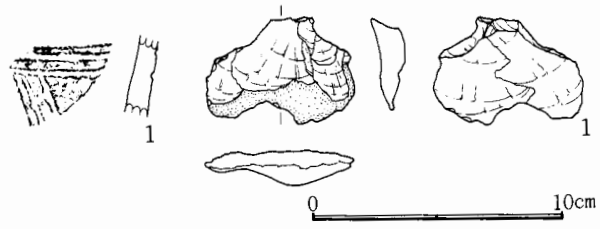


図－229　J55号住居跡(５Ｊ－５)出土石器

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
10	14	石皿	37.0	27.2	8.1	5,300	安	—	擦2	—	—	—	—	—	+5
11	15	〃	36.0	33.2	7.6	12,500	〃	—	擦2	—	—	—	—	—	床直

表—147　J55号住居跡（5 J－5）石器器種・石材別一覧表

器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩									1	2	1								1										18				23
黒色安山岩							1																						1				2
安山岩																						2			3						1		6
黒曜石																													1				1
珪質凝灰岩																													1				1
珪岩																													1				1
計							1		1	2	1								1			2			3				22		1		34



図－230　J56号住居跡(５Ｊ－６)出土土器・石器

表—148　J56号（5 J－6）住居跡出土土器観察表（図—230）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
1	雑	撫で。平行沈線。	①及粒②にぶい褐色③胴部	諸磯b	—	

表—149　J56号住居跡（5 J－6）出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	雑	UF	4.2	5.9	1.4	25	珪頁	40	—	—	—	—	—	—	覆

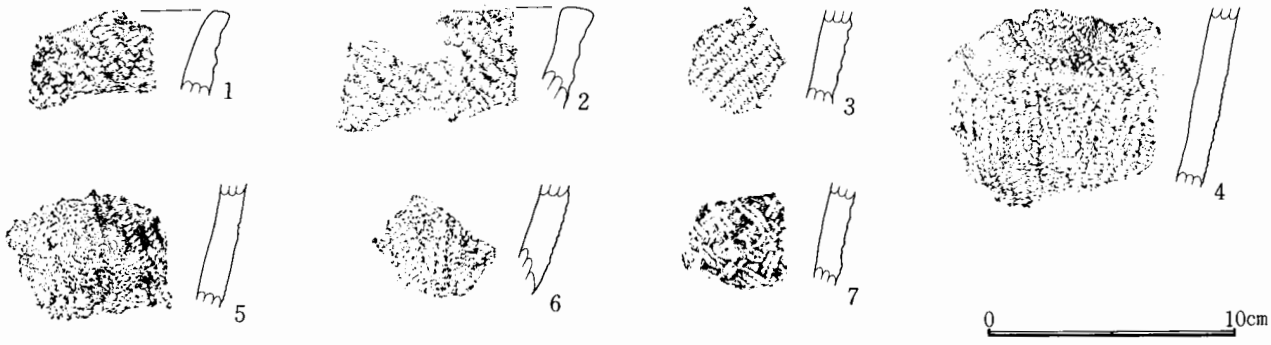
表—150　J56号住居跡（5J－6）石器器種・石材別一覧表

器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
珪質頁岩																			1														1
計																			1														1

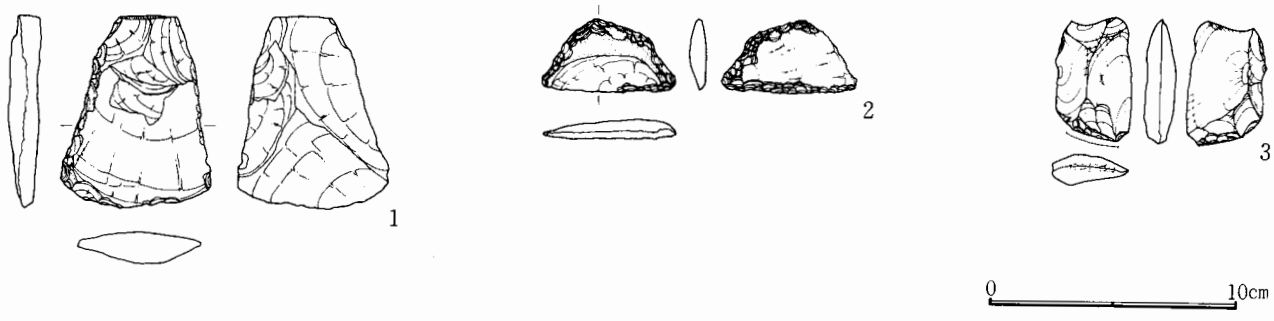
表—151　J57号（5 J－7）住居跡出土土器観察表（図—231　図版—112）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
1	雑	O段多条RL。緩い波状口縁。口縁端に刻み列。	①繊維細砂粒②灰黄褐色③口縁部	関山	—	
2	雑	RL・LR羽状縄文。平口縁。口縁端内外縁若干肥厚。	①繊維中砂粒②にぶい黄橙色③口縁部	関山？	—	
3	雑	O段3条LR。	①繊維細砂粒②灰褐色③口縁部	関山？	—	

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
4	雑	O段3条RL・LR羽状縄文。RL疎間隔。	①繊維細砂粒②にぶい黄橙色③胴部	関山？	—	5と同一
5	雑	疎間隔O段3条RL。内面横撫で。	①繊維細砂粒②にぶい橙色③胴部	関山？	—	
6	雑	O段多条RL。尖底土器とみられる。	①繊維細砂粒②灰黄褐色③底部	関山？	—	
7	雑	L・L・L・Lの組紐。内面横撫で。	①繊維細砂粒②にぶい橙色③底部	関山？	—	



図－231　J57号住居跡(5J－7)出土土器



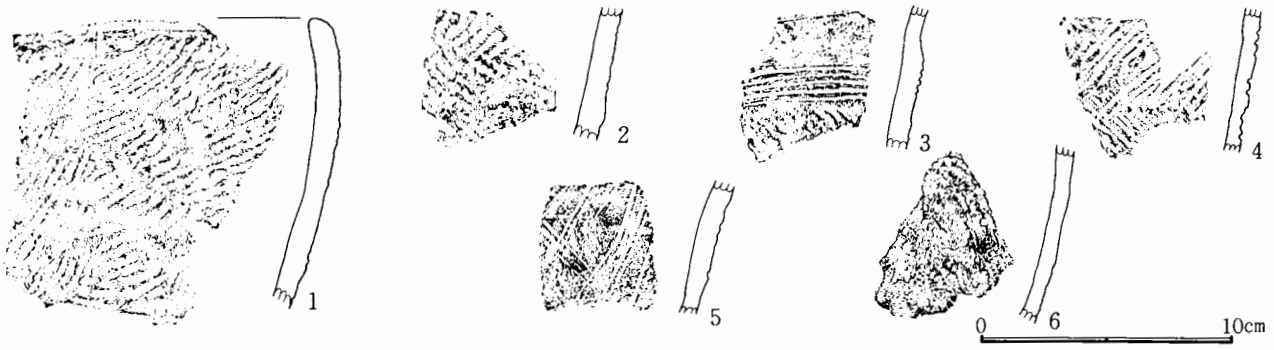
図－232　J57号住居跡(5J－7)出土石器

表－152　J57号住居跡（5J－7）出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	雑	複刃削器	7.6	6.0	1.2	52	不明	40	—	—	—	—	—	—	覆
2	雑	楔形石器	5.3	2.8	0.8	12	〃	—	—	—	—	潰	—	—	覆
3	雑	交刃削器	4.9	3.1	1.2	19	〃	60	—	—	—	—	—	—	覆

表－153　J57号住居跡（5J－7）石器器種・石材別一覧表

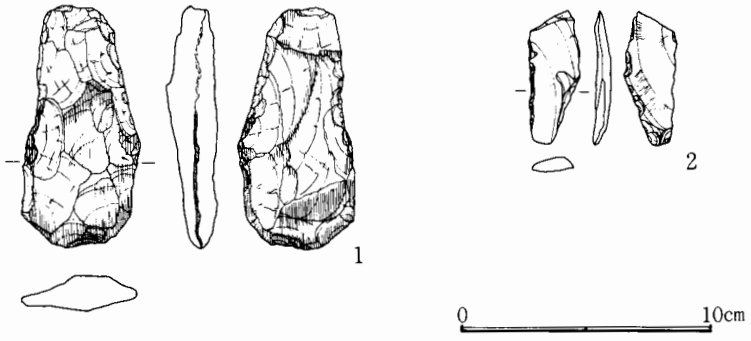
石材＼器種	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
その他												1	1			1																	3
計												1	1			1																	3



図－233　Ｊ58号住居跡(５Ｊ－８)出土土器

表－154　Ｊ58号（５Ｊ－８）住居跡出土土器観察表（図－233　図版－112）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時期	出土位置	備考
1	1	全面Ｌ斜縄文。平口縁。内湾。	①中砂粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯ｂ	＋6	
2	雑	Ｏ段３条ＲＬ・ＬＲ羽状縄文。	①少量繊維②にぶい褐色③胴部	黒浜	—	
3	雑	Ｒ斜縄文。横位集合沈線。	①細砂粒②にぶい橙色③胴部	諸磯ｂ	—	
4	雑	平行沈線の矢羽根状集合沈線。	①中砂粒②にぶい黄色③胴部	諸磯ｃ	—	
5	雑	斜位交差する平行沈線。	①中砂粒②にぶい褐色③胴部	諸磯ｂ	—	
6	雑	Ｒ斜縄文（間隔開く）。	①砂粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯ｂ	—	



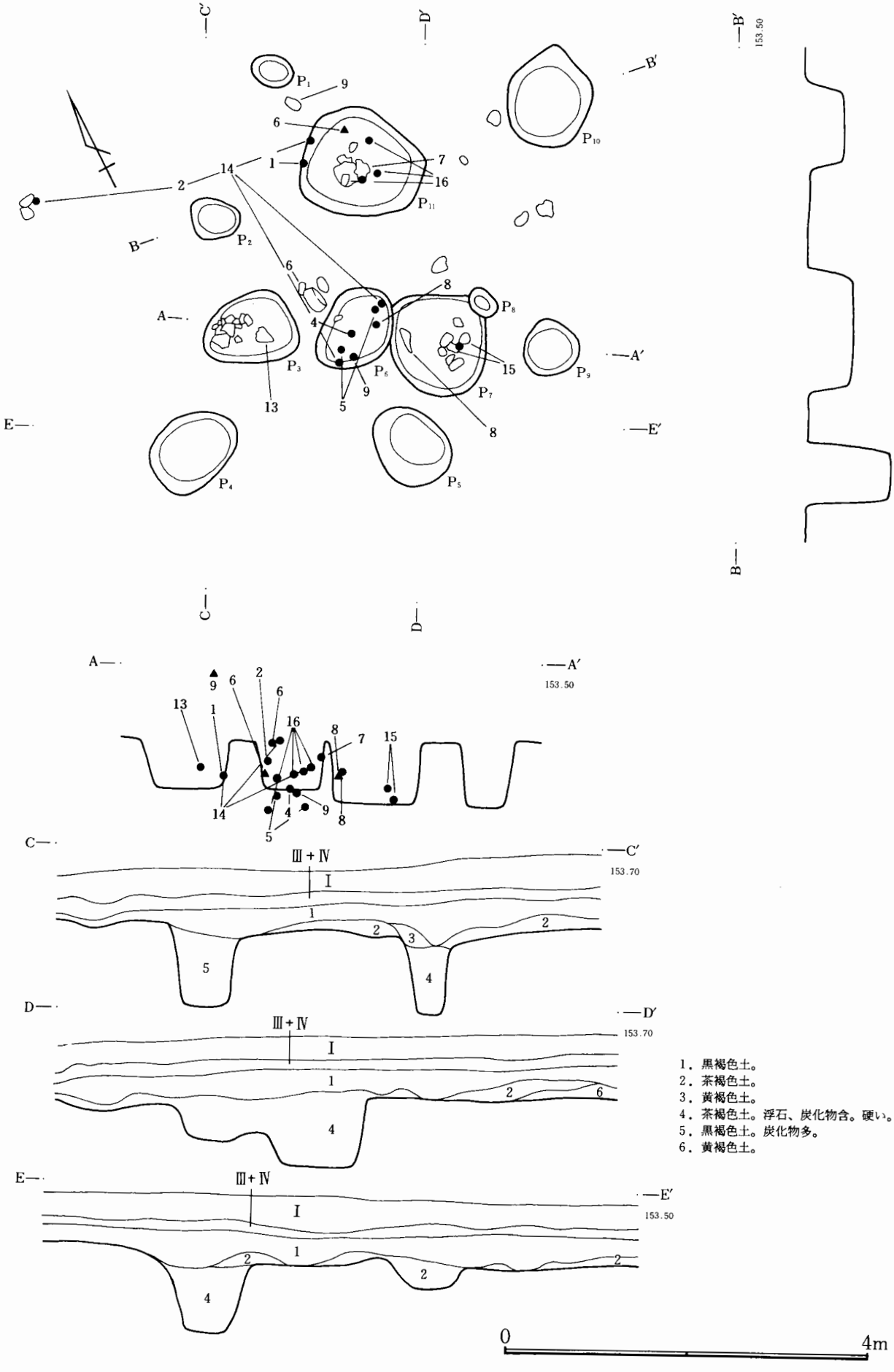
図－234　Ｊ58号住居跡(５Ｊ－８)出土石器

表－155　Ｊ58号住居跡（５Ｊ－８）出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
1	2	打製石斧	9.6	4.6	2.0	75	黒頁	45	滅3	滅3	—	滅3	滅2	滅2	P_5内
2	雑	U　F	5.3	2.1	0.7	6	〃	25	—	—	—	—	—	—	覆

表－156　Ｊ58号住居跡（５Ｊ－８）石器器種・石材別一覧表

石材＼器種	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩		1																	1														2
計		1																	1														2



図－235　ＪＰ群－Ⅰ（Ｊ28号住居跡）

3．土　　坑

ＪＰ群－１　（Ｊ28号住居跡）　（図－235～239、表157～159、図版－22・96・97・133・149）

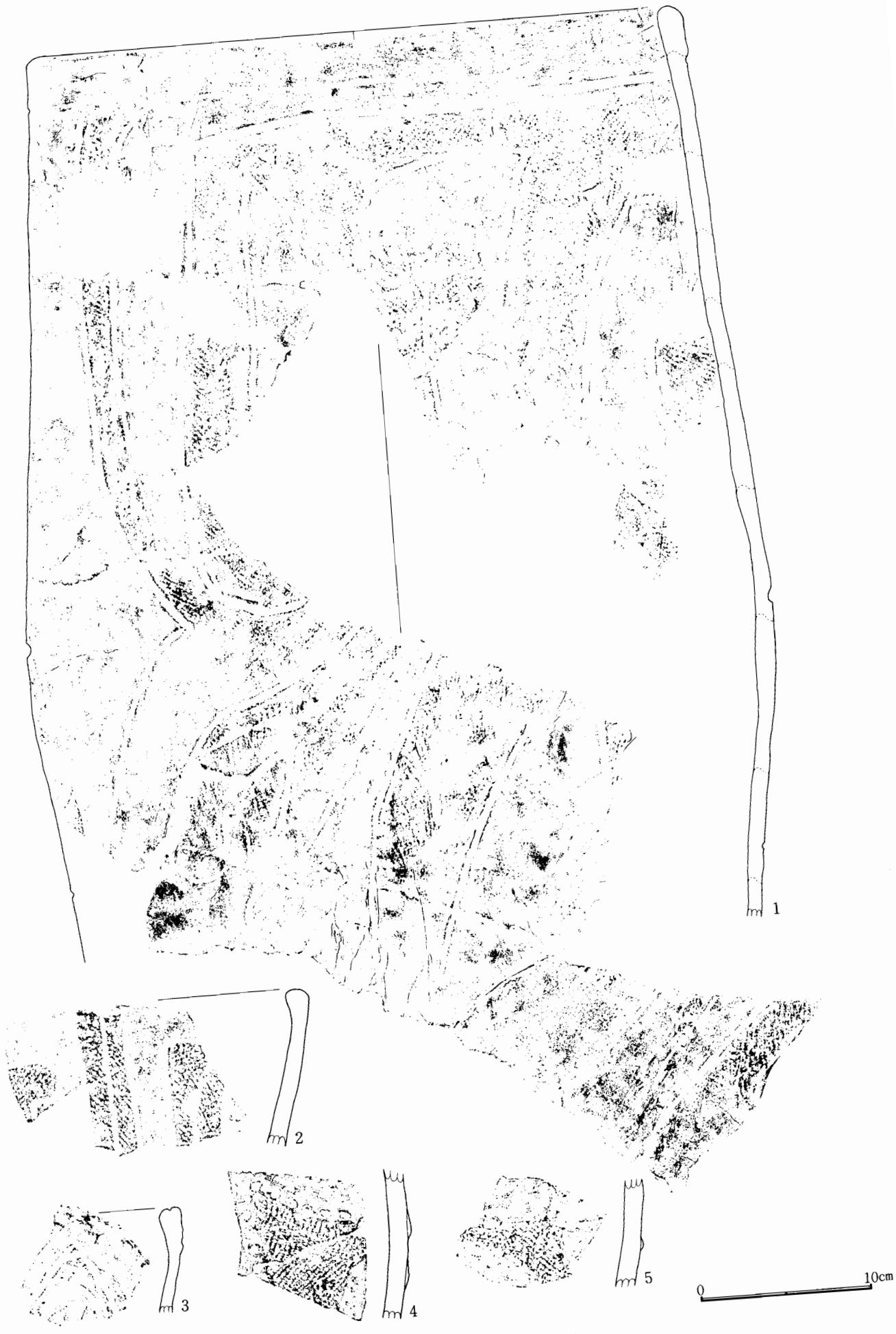
位置　西側台地南西部のＰ－３区に位置する。南には住居跡が多く検出されており、本跡の西には敷石住居跡が５軒検出されている。本跡は当初Ｊ28号住として扱った遺構であるが、立ち上り等の検出に至らなかった。このことから今後の検討を要するが、ここでは土坑群扱いとして記述する。

形状　計11個のピットから成る。P_1 は径43×32cm、深さ49cm。P_2 は径53×45cm、深さ95cm。P_3 は径99×78cm、深さ55cm。P_4 は径102×78cm、深さ95cm。P_5 は径94×76cm、深さ35cm。P_6 は径90×69cm、深さ53cm。P_7 は径109×105cm、深さ80cm。P_8 は径35×24cm、深さ70cm。P_9 は径63×61cm、深さ73cm。P_{10} は径113×95cm、深さ45cm。P_{11} は径130×120cm、深さ53cmである。中央のピットが大きく、周囲のピットが小さい傾向にあるが、配置にさ特別の規格は認められない。遺物出土は中央の P_3、P_6、P_7、P_{11} に認められた。ピットは円筒形の断面である。　**遺物**　土器は称名寺１・２式を主とする。いずれも原個体は大きいものが多い。石器は石錐、磨製石斧、打製石斧、ＵＦ、円礫石器等が出土している。

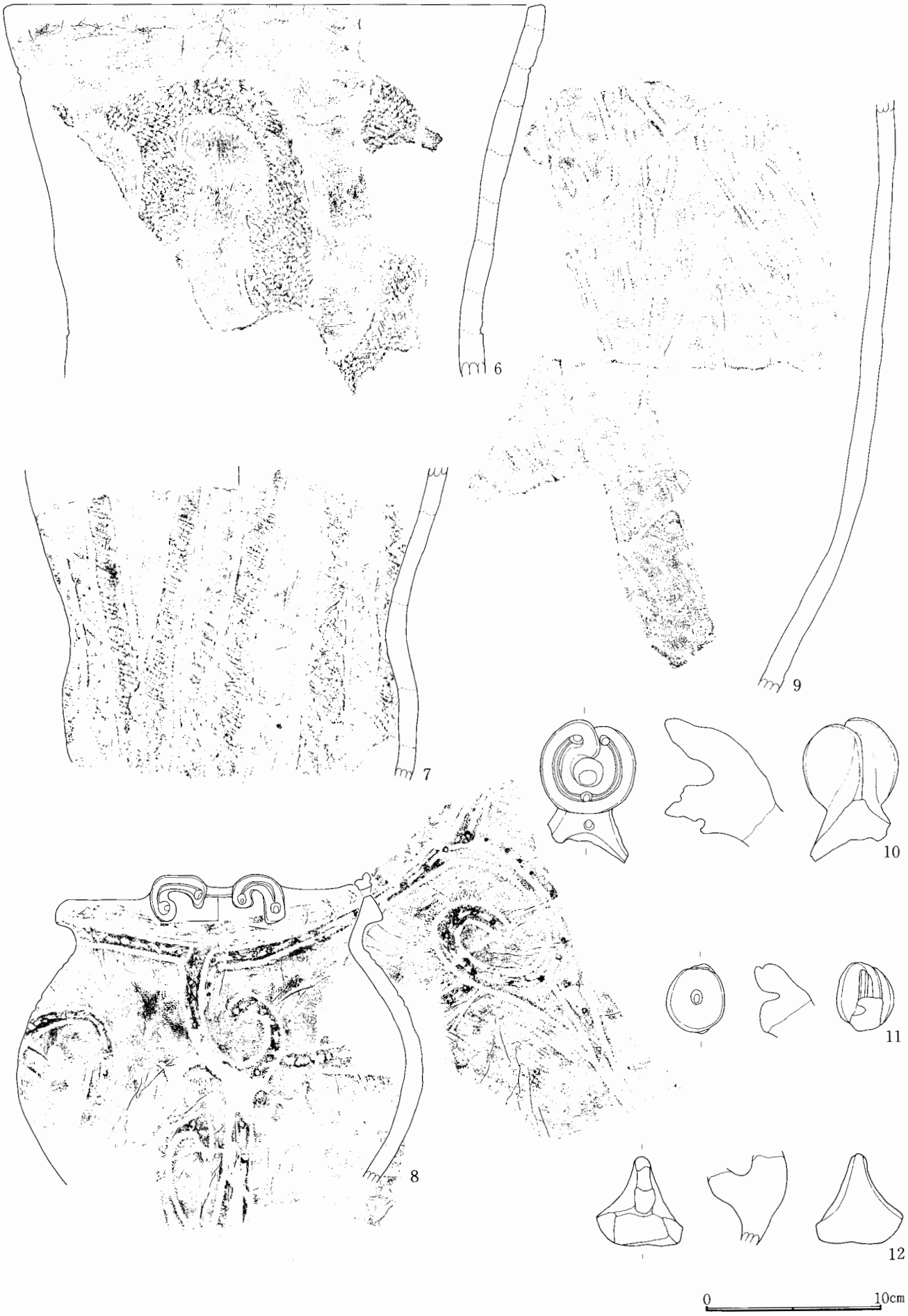
（井野）

表－157　ＪＰ群－１号土坑出土土器観察表（図－236・237・238　図版98・99）

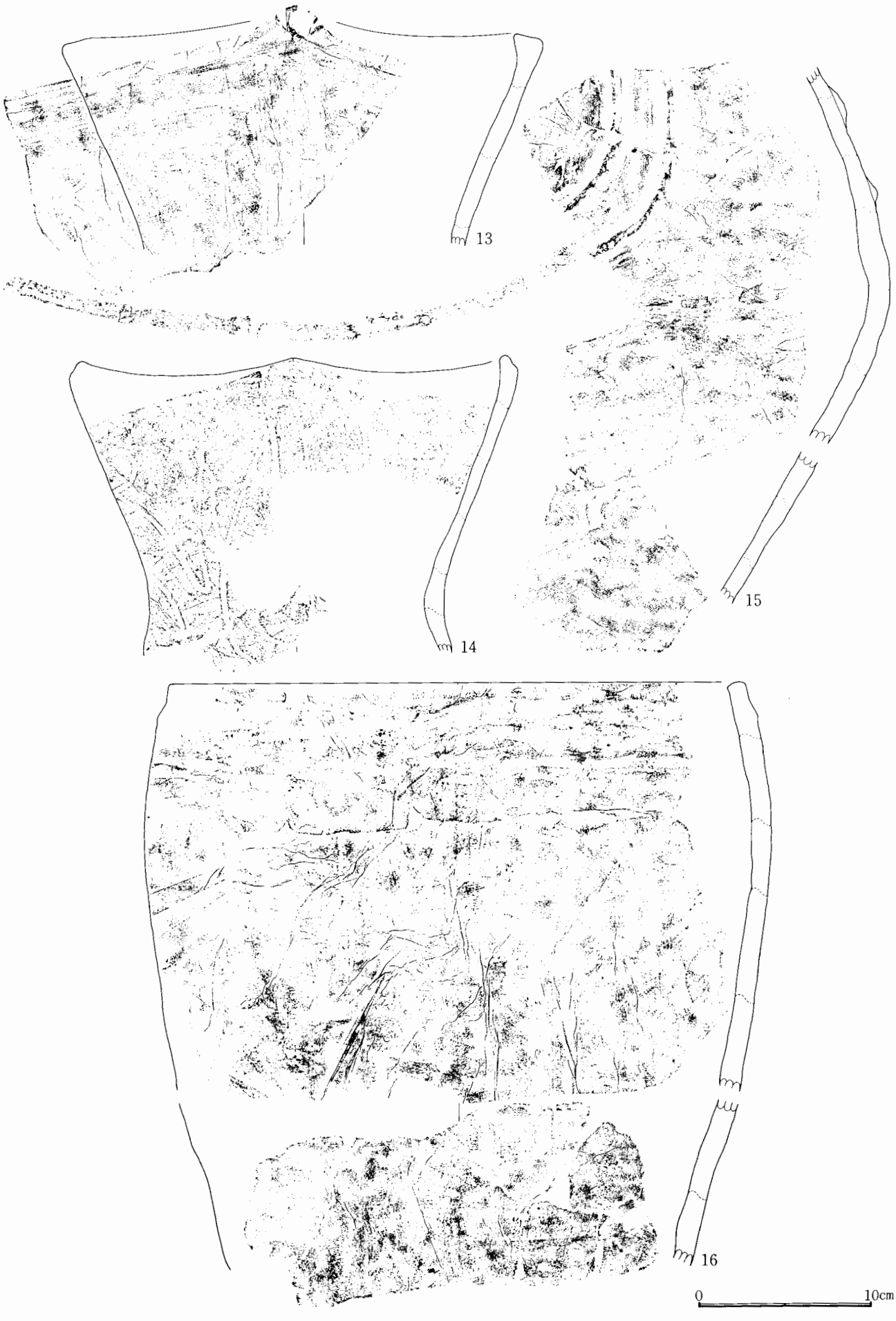
番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　　考
1	40	やや胴部がふくれる平口縁の深鉢。４単位？に幅広工具で沈線で画される。縄文ＬＲを縦位に施文。	①細粒②黄橙色③¼	称名寺１	P_{11}内	
2	25・42	２単位の突起を中心にして文様区画がなされる。縄文ＬＲが充填される。	①中粒②淡黄色③口縁部	称名寺１	P_{11}内 P_2西側	
3	H113雑	突起を有し口唇部には沈線。胴部は沈線による文様が描かれ、列点が付される。	①中粒・白色鉱物②淡黄色③口縁部	称名寺２	—	
4	28	微隆起と円形刺突で文様構成。Ｊ字文やＯ字文が縄文ＬＲを貫入する形で配される。	①中粒②淡黄色③胴部	称名寺１	P_6内	
5	31・35	微隆起区画で２段のＪ字文が配される。Ｊ字文に沿って円形刺突が連続して施文。	①中粒②淡黄色③胴部	称名寺１	P_6内	４と同一個体
6	４・雑	沈線区画による縄文ＬＲ。	①中粒・白色鉱物②浅黄色③口縁部	称名寺１	P_3北東側	
7	19	胴部中位がくびれる深鉢。沈線と充填縄文ＬＲ。縄文の充填は交互を基調。	①中粒・砂粒②橙色③¼	称名寺１	P_{11}内	
8	11・雑	４単位。口縁部がすぼまる深鉢。口縁部にＣ字状貼付。３本の沈線で向かい合うＪ字文。中の沈線に沿って刺突。	①中粒・砂粒②灰黄色③⅓	堀之内１	P_6内	
9	32・雑	沈線と細長い列点。	①中粒②淡黄色③胴部	称名寺２	P_6内	
10	雑	把手。内側には円孔を中心に刺突と連結沈線が描出。	①中粒②橙色③把手	称名寺	—	
11	雑	把手。内側に円孔。外側には隆帯と沈線。	①中粒②淡黄色③把手	称名寺	—	
12	雑	把手。円孔を有する。文様は沈線と刺突による列点で構成される。	①中粒②淡黄色③把手	称名寺	—	
13	2	小波状口縁。突起はＣ字状の盛り上がり。沈線区画は４単位のＹ字文で構成。	①細粒②淡黄色③口縁部	称名寺２	P_3内	
14	6・12・42 雑	４単位の波状で口縁が大きく開く深鉢。波頂部の口唇にＣ字状の沈線。Ｙ字文が４単位で描出。	①粗粒②黒褐色③¼	称名寺２	P_6内	
15	16・27	壺形土器。微隆起区画の弧線。	①弧線②橙色③胴部	加曽利Ｅ４？	P_7内	
16	21・22・36 38・44	無文土器。口縁が内傾する深鉢。口縁部に横方向の撫でが３～４条。胴部以下は部分的に研磨。	①中粒・砂粒②橙色③⅓	堀之内？	P_{11}内	



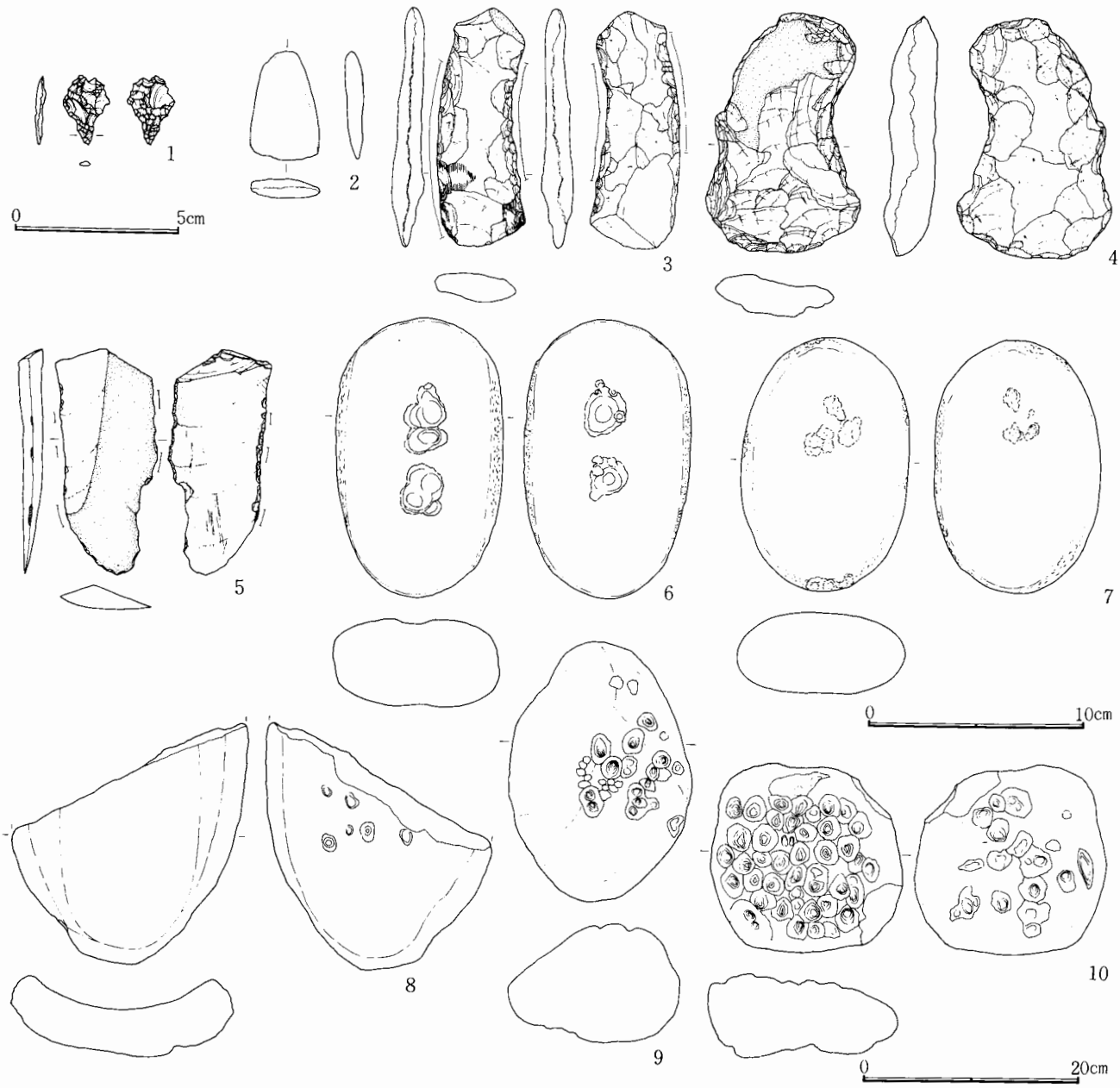
図－236　ＪＰ群－Ⅰ出土土器（１）



図－237　ＪＰ群－Ⅰ出土土器（２）



図－238　ＪＰ群－Ｉ出土土器（３）



図－239　ＪＰ群－Ｉ出土石器

表－158　ＪＰ群－１（Ｊ28）出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	雑	石錐	2.1	1.4	0.3	0.6	黒	—	—	—	—	—	—	—	覆
2	雑	磨製石斧	4.9	3.2	0.9	25	蛇	40	—	—	—	滅・刃	—	—	覆
3	雑	打製石斧	11.0	4.1	1.5	64	黒安	35	—	—	—	—	潰	潰	覆
4	雑	〃	11.1	7.1	2.3	202	〃	50	—	—	—	—	—	—	覆
5	雑	U F	10.3	4.7	1.0	46	珪頁	25 45	—	—	—	滅・刃	滅・刃	滅・刃	直刃・複刃 覆
6	24	円礫石器	12.8	7.7	4.0	608	安	—	擦２→凹２	擦２→凹２	敲２	敲２	敲２	敲２	擦→凹 P_{11}内
7	雑	〃	11.7	7.7	3.8	535	〃	—	敲１→擦１	敲１→擦１	敲１	敲１	敲１	敲１	敲→擦 覆
8	13	石皿＋多凹石	(22.4)	(21.5)	9.6	2,200	〃	—	擦２	凹多	欠	—	—	—	欠 P_7内

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
9	26	多凹石	24.0	17.0	11.0	4,970	〃	—	凹多	敲3	—	—	—	—	P11北側
10	雑	〃	17.5	17.2	8.2	3,000	〃	—	火→凹多	火→凹多	火	火	火	火	火→凹覆

表—159　ＪＰ群—Ⅰ（Ｊ28）石器器種・石材別一覧表

器種／石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
黒色頁岩																													22				22
珪質頁岩																			1														1
頁岩																															1		1
黒色安山岩		2																											6				8
安山岩																						2			1	2					2		7
蛇紋岩			1																														1
黒曜石				1																													1
砂岩																													3				3
計		2	1	1															1			2			1	2			31		3		44

ＪＰ１号土坑　（図—240、図版—46）

Ｂ—３区—３・４・13・14。円形で袋状の断面を呈す。方位はＮ—17°—Ｅ。規模は、上面が長径×短径×深さ（以下同じ）が150×126×110cm、下面が98×72cm。重複はない。埋土は暗褐色土で、焼土、木炭の小粒を含む。

ＪＰ２号土坑　（図—240、図版—46）

Ｆ—４区—３・13。上面は隅丸の方形だが、底は２つに分かれる。方位はＮ—94°—Ｅ。規模は212×122×124cm、底面（西）は90×90cm、（東）は90×70cm、２つのピットの重複とも考えられる。新旧は不明。

ＪＰ３号土坑　（図—240、図版—46）

Ｆ—６区—38・39・48・49。上面は円形であるが、底は長円形を呈す。方位はＮ—67°—Ｅ。規模は216×200×150cm、底面が174×50cm。重複はない。埋土は砂質の黒褐色土で、木炭、焼土を含む。周囲に小ピット５個を配する。

ＪＰ４号土坑　（図—240・252、表—160、図版112）

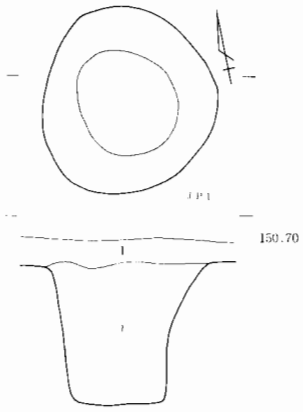
Ｋ—６区—42・52。上面は不整円形で底部は斜めに掘り込まれている。方位はＮ—15°—Ｗ。規模は284×118×86cm、中段は147×35cm、底が77×27cm。Ｈ77号住の西壁に重複する。埋土はローム混りの暗褐色土。垂直の土層堆積であり、自然のものか。黒浜？期の土器片が出土している。

ＪＰ５号土坑　（図—240、図版—46）

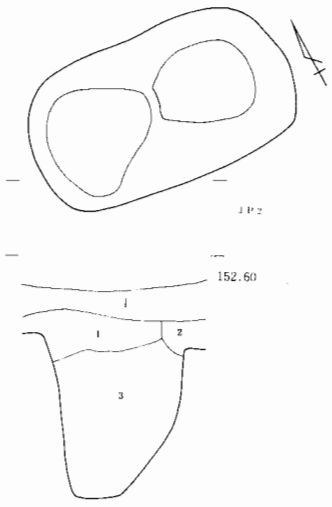
Ｋ—７区—58・59・69。上面は長円形に近いが、底面は円形。摺鉢状の断面を呈す。方位はＮ—29°—Ｗ。規模は358×224×116cm、底面は51×47cm。Ｈ65号住、Ｗ92と重複。上面内側に小ピットを伴う。黒色土にローム塊混りの埋土。

ＪＰ６号土坑　（図—240・252、表—160、図版—112）

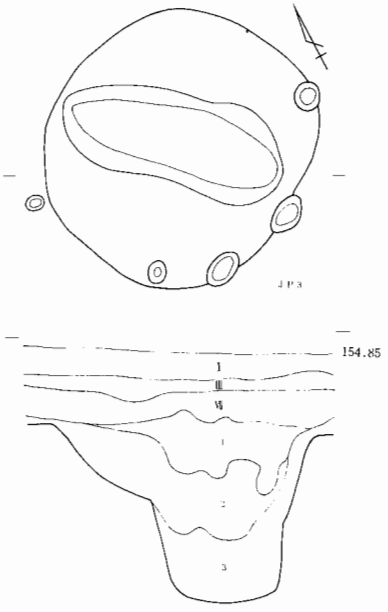
Ｐ—３区—99、Ｎ—３区—９。隅丸方形に近い平面で、直に掘り込まれている。方位はＮ—28°—Ｅ。規模は135×118×94cm、底面は115×101cm。重複はない。円筒形の凹面をもつ。称名寺１・２式の土器片が出土している。



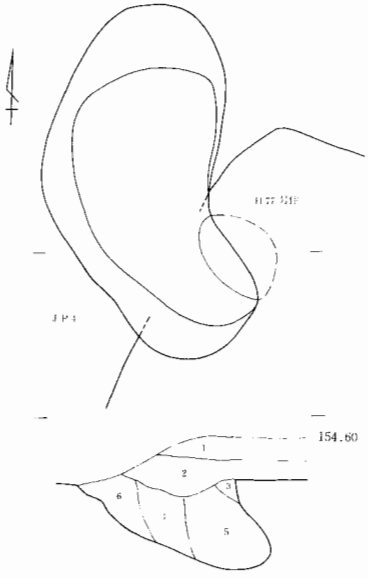
1．暗褐色土。炭化物、浮石混。



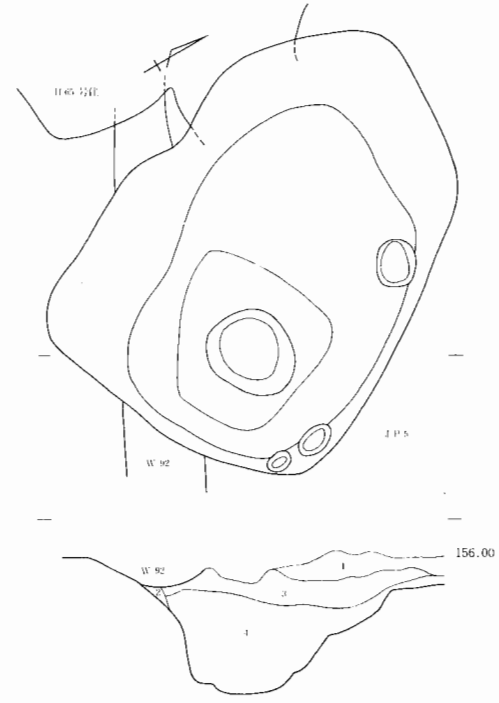
1．黒褐色土。ローム混、黄色味強。2．黒褐色土。軽石少量混。3．黒褐色土。ローム混、やや黒色味強。



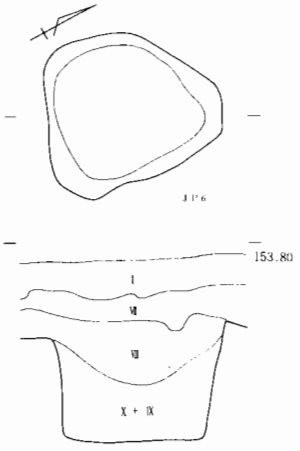
1．黒褐色土。炭化物含、Ⅶより明るい。軟質。2．黒褐色土。炭化物、焼土、浮石小粒含。砂質、均質、硬。1に似る。3．黒褐色土。2に似、やや明るい。

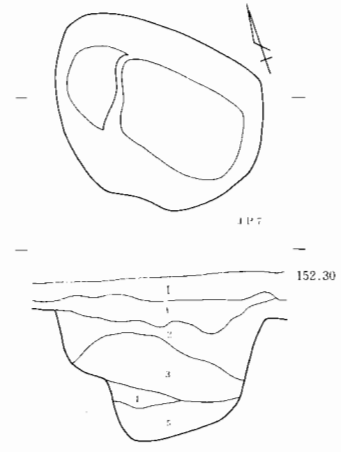


1．褐色土。ロームブロック含。2．暗褐色土。微浮石粒含。3．褐色土。黄色味有。4．褐色土。黒色味強。5．暗黒色土。ロームブロック混。6．ローム質土。

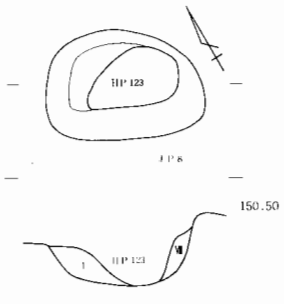


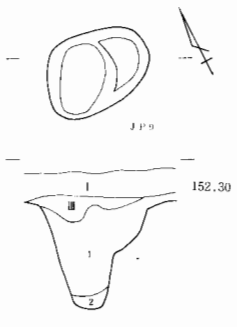
1．黒褐色土。軟質。2．黒褐色土。1より黒色味強。3．黒褐色土。漸移層主体。4．黒褐色土。浮石、ロームブロック混。



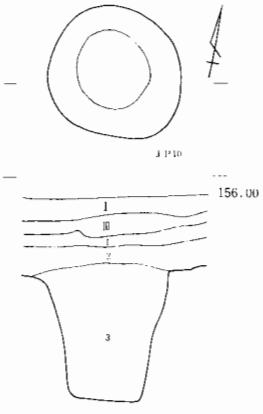


1．黒色土。2．黒褐色土。やや明るい。3．黒褐色土。炭化物含。4．黒褐色土。やや明るい。5．黒褐色土。炭化物含。





1．黒褐色土。2．黒褐色土。ローム含。



1．褐色土。2．黄褐色土。3．黄褐色土。炭化物、黒色ブロック混。硬質。

0 2m

図240　ＪＰ１～10号土坑

ＪＰ７号土坑　（図―240・252・262、表―160～162、図版―46・112・113・114・145）
Ｒ－２区―63。平面は長円形であるが、底面は二段となり、一部袋状。底面は長方形。方位はＮ―38°―Ｗ。規模は186×135×131cm、底面は112×44cm。断面図は完掘状態ではない。炭化物を含む黒褐色土がうめる。根の痕跡か。称名寺２式を主とする土器と打製石斧、円礫が出土している。

ＪＰ８号土坑　（図―240・252・262、表―160～162、図版―46・113・114・145）
Ｓ－１区―49。長円形の平面で浅い。方位はＮ―59°―Ｗ。規模は127×86×37cm、底面は87×50cm。ＨＰ123と重複する。称名寺１・２式の土器を主として出土。打製石斧３個が出土する。

ＪＰ９号土坑　（図―240・252・253・262、表―160～162、図版―47・113・145）
Ｒ－２区－63・64。方形に近い平面をもつ。方位はＮ―82°―Ｗ。規模は76×66×68cm、底面は54×30cm。ＪＰ117と重複する。ＪＰ９が新しい。円筒形に近い断面。称名寺１式と加曽利Ｅ４式の土器が出土。他に打製石斧が出土した。

ＪＰ10号土坑　（図―240・253・262、表―160～162、図版―47・113・145）
Ｒ－７区―62。円形。円筒形の断面を呈す。方位はＮ―36°―Ｗ。規模は118×104×102cm、底面は63×57cm。ＪＰ11に接する。加曽利Ｅ４式の土器片と打製石斧が出土している。

ＪＰ11号土坑　（図―241、図版47）
Ｒ－７区―52。円形。円筒形の断面。方位はＮ―44°―Ｗ。規模は120×120×57cm、底面は108×86cm。重複はない。ＪＰ10に接し、土層でみるとＪＰ11の埋土がＪＰ10の上層の埋土となっており、ＪＰ11が新しい。

ＪＰ12号土坑　（図―241、図版47）
Ｒ－８区―33・34。半円形で大きい。方位はＮ―３°―Ｗ。規模は376×176×139cm。底面には小ピットや段差がある。断面は摺鉢状で深い。埋土に炭化物を含む。

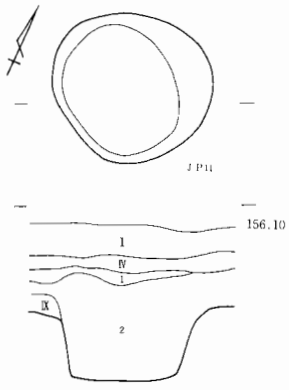
ＪＰ13号土坑　（図―241、図版47）
Ｒ－８区―74・75。不整形。方位はＮ―32°―Ｗ。規模は上面が224×198×36cm。浅く、底面には凹凸が多い。中央部が高いようにみえる。土層とも合わせてみると、自然の根跡とも考えられる。

ＪＰ14号土坑　（図―241・253、表―160、図版―47・113）
Ｕ―11区―88・89。円形。方位はＮ―12°―Ｅ。規模は104×96×54cm、底面は91×85cm。円筒形に近い断面であるが、一部袋状を呈す。埋土は木炭を含む黒褐色土。磨石、凹石が出土している。

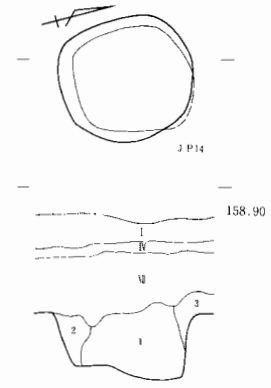
ＪＰ15号土坑　（図―241、図版―47）
Ｓ―11区―41。推定円形。グリッドの試掘で掘り抜かれており規模等は推定。断面は浅く、掘り込み面に17石を検出する。大小あるが、レベルはほぼそろっている。黒浜式の土器片が出土している。配石遺構とも考えられる。

ＪＰ16①号土坑　（図―241、図版―47）
Ｕ―11区―27・28。円形。方位はＮ―59°―Ｅ。規模は127×100×46cm、底面は112×84cm。小粒の炭化物が混入。一部袋状の断面をなす。

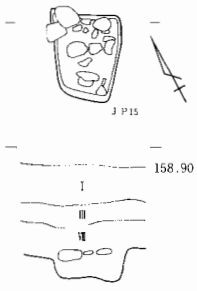
ＪＰ16②号土坑　（図―241）
Ｔ―15区―21。円形。方位はＮ―２°―Ｗ。規模は129×117×50cm、底面は80×62cm。浅く広い底部。炭化物を含む。

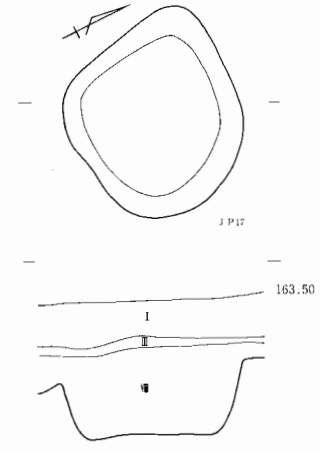


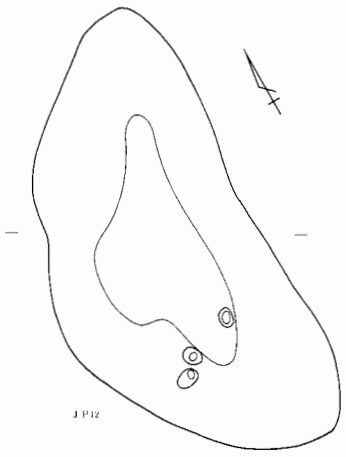
1．黒褐色土。2．暗褐色土。
1＋IX層。黒色味強、しまる。



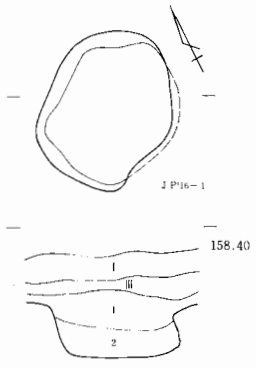
1．黒褐色土。炭化物含。黒褐色ローム、ブロック状混。2．暗褐色土。
3．褐色土。ロームブロック混。



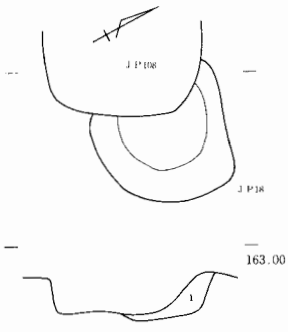




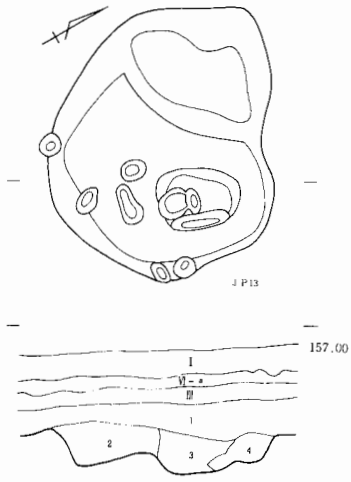
1．黒褐色土。2．茶褐色土。3．黄褐色土。
4．暗褐色土。炭化物、軽石含。5．黒褐色土。ローム含。



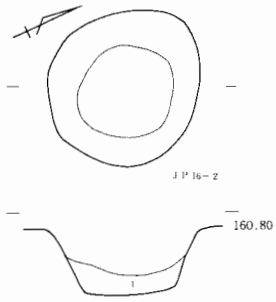
1．褐色土。2．黄褐色土。ブロック質土。炭化物粒含。硬質。



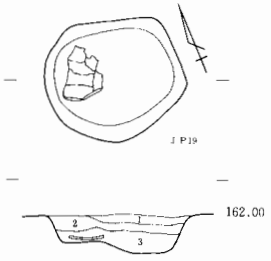
1．黄褐色土。ローム混。



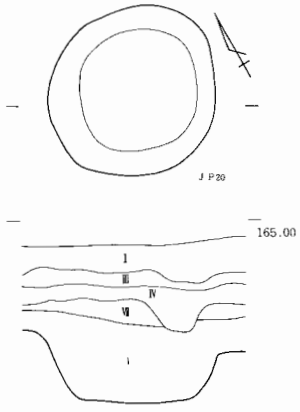
1．黒褐色土。2．黒褐色土。褐色粒含。3．黒褐色土。若干褐色粒含。4．黄褐色土。



1．黒褐色土。炭化物、浮石、若干褐色粒含。



1．黒褐色土。ロームブロック混。2．黒色土。若干ロームブロック混。3．黒褐色土。ローム混。粘性有。硬質。



1．黒褐色土。若干炭化物粒含。非常に硬質。

図－241　ＪＰ11～20号土坑

ＪＰ17号土坑　（図―241・253、表―160、図版―113）
Ｓ―16区―49。円形。方位はＮ―52°―Ｗ。規模は171×145×61cm、底面は127×112cm。やや深く広い。黒浜式の土器片が出土している。

ＪＰ18号土坑　（図―241、図版48）
Ｓ―16区―50。円形。方位はＮ―69°―Ｗ。規模は124×108×35cm、底面は78×72cm。ＪＰ108と重複。ＪＰ18が新しい。浅い皿状の底を呈す。

ＪＰ19号土坑　（図―241・253・262、表―160～162、図版―113・145）
Ｒ―17区―72•82。円形。方位はＮ―68°―Ｗ。規模は112×98×32cm、底面は94×78cm。Ｈ98号住の床面下で検出。現状は浅い皿型。諸磯ａ式と黒浜？式の土器片が出土している。石器は打製石斧が出土している。

ＪＰ20号土坑　（図―241、図版―48）
Ｑ―19区―76。円形。方位はＮ―67°―Ｅ。規模は144×129×64cm、底面は104×97cm。浅く広い皿状の断面。底面は平坦。埋土中に小粒の炭化物を含む。

ＪＰ21号土坑　（図―242、図版―48）
Ｒ―15区―59•68•69。長円形。方位はＮ―31°―Ｗ。規模は264×114×39cm、底面は203×56cm。やや摺鉢型に近い断面。あまり深くはない。埋土は黒褐色土である。

ＪＰ22号土坑　（図―242、図版―48）
Ｕ―17区―85。長円形。方位はＮ―74°―Ｗ。規模は155×116×35cm、底面は144×110cm。断面は一部袋状を呈す。埋土は上部に炭化物を含む。

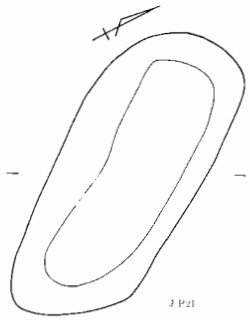
ＪＰ23号土坑　（図―242、図版―48）
Ｑ―16区―99、Ｐ―16区―８・９。不整長円形。方位はＮ―23°―Ｗ。規模は上面が240×166×63cm、中段が136×113cm、底面が125×108cm。広く浅く皿状の断面。二段底でレベル差は20cm。炭化物が混じる。

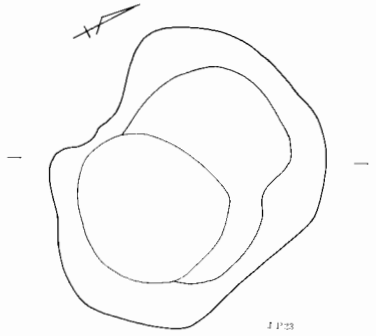
ＪＰ24号土坑　（図―242・253・263、表―160～162、図版―48・113・146）
Ｒ―101区―67。円形。方位はＮ―22°―Ｅ。規模は120×106×86cm、底面は84×61cm。やや深い摺鉢状の断面。埋土中に炭化物、浮石含む。諸磯ａ式の土器片出土。石器は円礫と敲き石が出土している。

ＪＰ25号土坑　（図―242・253、表―160、図版―48・113）
Ｑ―101区―７。円形。方位はＮ―31°―Ｗ。規模は131×118×71cm、底面は107×106cm。円筒形に近い断面を呈す。埋土には炭化物と焼土を多く含む。黒浜式を主とし、諸磯ａ式の土器も出土している。

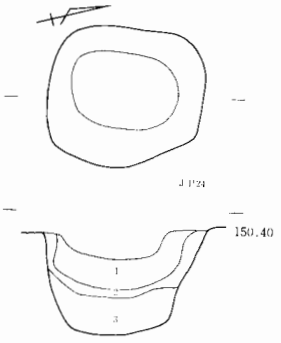
ＪＰ26号土坑　（図―242・253、表―160、図版―49・113・114）
Ｑ―１区―63•64。円形。方位はＮ―21°―Ｗ。規模は204×172×114cmで、底面は166×159cm。断面は袋状を呈す。２・３層は根の攪乱によるものか。諸磯ａ式と関山？式の土器片が出土している。

ＪＰ27号土坑　（図―242、図版―49）
Ｒ―101区―49。長円形。方位はＮ―69°―Ｗ。規模は140×110×44cmで、底面は135×91cm。一部袋状断面で、浅く広い。Ｗ88とＨＰ112が重複する。

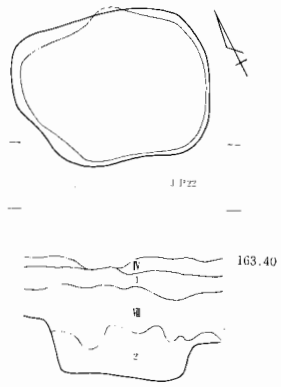




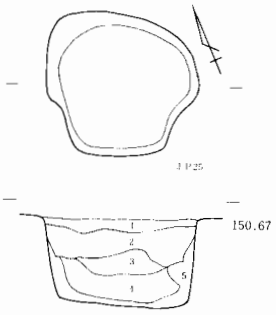
1．黒褐色土。粒子多、軟質。2．黄色土。黒色粒含。3．黒褐色土。白茶粒含、硬質。4．黒色土。Ⅶ＋漸移層。



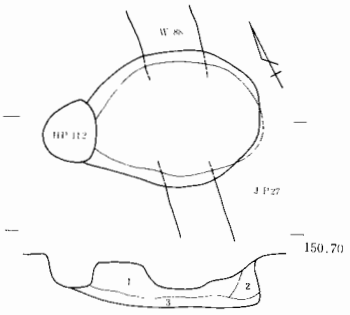
1．暗褐色土。炭化物粒含、褐色味強。2．濃茶褐色土。浮石粒含。3．褐色土。若干炭化物、浮石含。



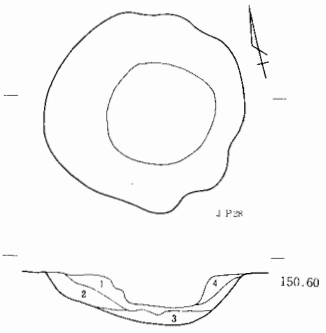
1．暗褐色土。C軽石含、やや粘性。2．暗褐色土。炭化物含、硬質。しまり有。



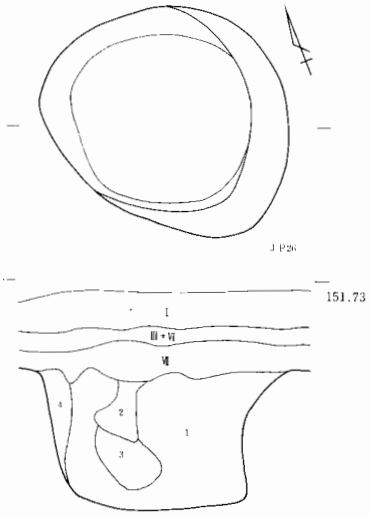
1．黒褐色土。ローム粒含。2．褐色土。ロームブロック、炭化物、浮石含。3．黒色土。炭化物、C軽石、焼土多量含。硬質。しまる。4．黒色土。3層より暗褐色気味。5．褐色土。炭化物、YP 含。しまり有。



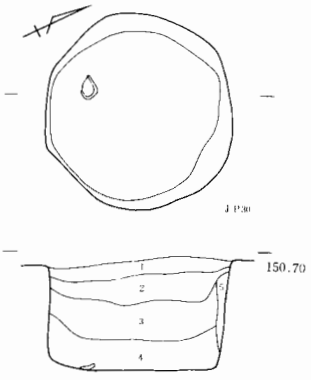
1．暗褐色土。黒色味強。2．暗褐色土。3．暗褐色土、褐色味強。



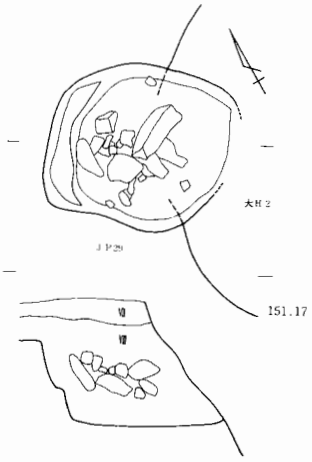
1．暗褐色土。2．褐色土。一部暗褐色。白色軽石含。3．褐色土。白色軽石含。4．褐色土。汚れたローム混、1に似る。



1．黒褐色土。非常に硬質。2．黒褐色土。1より暗い。3．黄褐色土。褐色味強。1、2よりしまり無。4．黄褐色土。硬質。



1．黒褐色土。炭化物少量、軽石含。2．黒褐色土。若干褐色ブロック混、硬質。3．黒褐色土。炭化物、浮石含。砂質。4．褐色土。黒色味有。炭化物、浮石含。5．ローム質土。



図－242　ＪＰ21～30号土坑

ＪＰ28号土坑　（図―242・253・254・262、表―160～162、図版―49・114・145）
Ｑ―101区―25。円形。方位はＮ―41°―Ｅ。規模は153×148×41cmで、底面は86×78cm。浅い皿状の断面を呈す。諸磯ａ式を主とし、黒浜式の土器も出土。石器は打製石斧が出土している。

ＪＰ29号土坑　（図―242・254・262、表―160～162、図版―49・114・150）
Ｑ―101区―76・77。方形。方位はＮ―42°―Ｗ。規模は141×126×68cm（現状）。底面は115×113cm。埋土中に多量の石材を含む。Ｈ大Ｐ２号土坑と重複する。円筒形に近い断面。諸磯式を主とし、黒浜式、称名寺２式の土器片が出土。石器は打製石斧が出土している。

ＪＰ30号土坑　（図―242・254・265、表―160～162、図版―49・114・150）
Ｒ―１区―52。円形。方位はＮ―61°―Ｗ。規模は158×145×89cm、底面は134×133cm。断面は円筒形。土層はやや砂質で、炭化物を含む。底面より石皿が出土。諸磯ａ式を主とする土器片が出土している。

ＪＰ31号土坑　（図―243・254・263、表―160～162、図版―49・114・145）
Ｒ―１区―12・22。円形。方位はＮ―33°―Ｗ。規模は141×137×87cm、底面は124×113cm。円筒形の断面を呈す。埋土に炭化物粒を含む。土器は諸磯ａ、ｂ式。獣面把手（猪）の他、石器は打製石斧、凸刃削器が出土している。

ＪＰ32号土坑　（図―243・254、表―160、図版―49・114）
Ｑ―101区―67。円形。方位はＮ―３°―Ｗ。規模は115×112×75cmで、底面は128×125cm。断面はやや深く袋状を呈す。炭化物が多く含まれている。土器は黒浜式。

ＪＰ33号土坑　（図―243・254、表―160、図版―49・114）
Ｎ―１区―89。円形。方位はＮ―41°―Ｗ。規模は170×159×93cmで、底面は154×131cm。円筒形の断面。土器は黒浜式を主とし、諸磯式も出土している。底面近くより石材を検出。

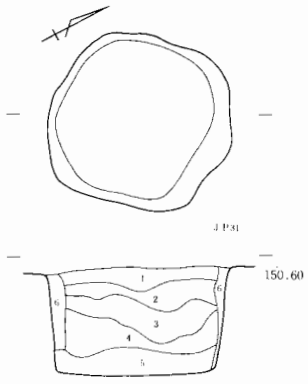
ＪＰ34号土坑　（図―243・254、表―160、図版―50・114）
Ｎ―１区―９、Ｐ―１区―99。円形。方位はＮ―88°―Ｗ。規模は134×121×68cmで、底面は101×98cm。円筒形に近い断面を呈す。埋土中に炭化物を少し含む。土器は諸磯ａ式。

ＪＰ35号土坑　（図―243・254、表―160、図版―50・114）
Ｎ―１区―８。不整形。方位はＮ―０°。規模は148×137×40cmで、底面は73×69cm。浅く広い。地層断面からみると、西の小ピットは本跡に付属する。東の小ピットはＪＰ109である。西の小ピットは深さ30cm。土器は称名寺１式と２？式。

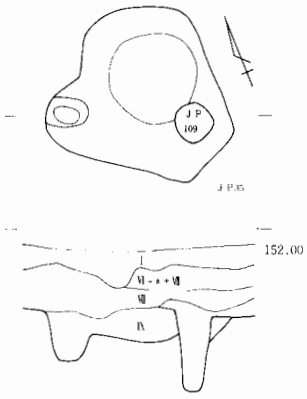
ＪＰ36号土坑　（図―243・254・255・262・263、表―160～162、図版―50・114・115・145）
Ｎ―１区―１。円形。方位はＮ―27°―Ｅ。規模は208×162×90cmで、底面は128×123cm。円筒形に近い断面である。埋土中に炭化物と浮石を含む。土器は黒浜式。諸磯ａ式の他、阿玉台式が出土した。石器は打製石斧、円礫出土。

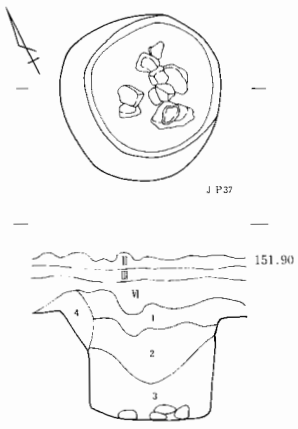
ＪＰ37号土坑　（図―243・265、表―161～162、図版―50・150）
Ｌ―２区―14・24。円形。方位はＮ―53°―Ｅ。規模は132×125×83cmで、底面は106×98cm。円筒形の断面で、底面より焼石が多く出土している。石器は多凹石が出土している。

ＪＰ38号土坑　（図―243・255、表―160、図版―50・115）
Ｌ―101区―24・25。半円形。方位はＮ―６°―Ｅ。規模は266×154×102cmで、底面は73×27cm。底面は二方向にひろがる。袋状になる部分もあり、底面は不整形。埋土に炭化物と焼土粒子を含む。土器は諸磯ａ式が出土している。

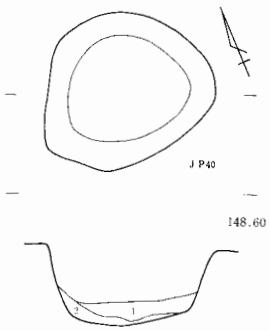


1．灰褐色土。黄色味強。2．茶褐色土。硬質。3．黒褐色土。炭化物多量含。4．黒褐色土。炭化物含。5．褐色土。炭化物含。6．褐色土。

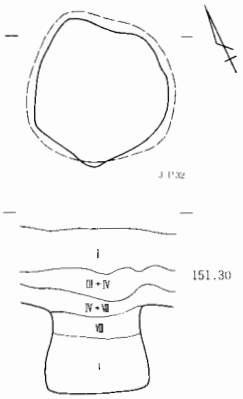




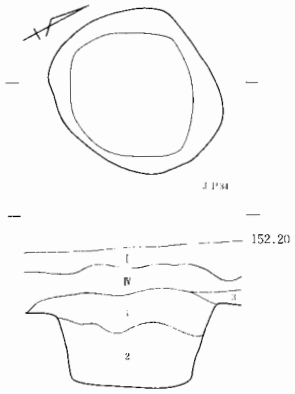
1．暗褐色土。浮石、焼土粒含。2．黒褐色土。浮石微量。3．黄褐色土。ローム、浮石含。4．黄褐色土。



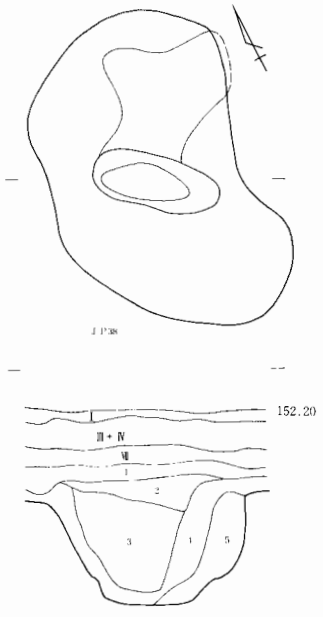
1．黒褐色土。ブロック状。炭化物少量。硬質。2．黄褐色土。ローム主体。硬質。



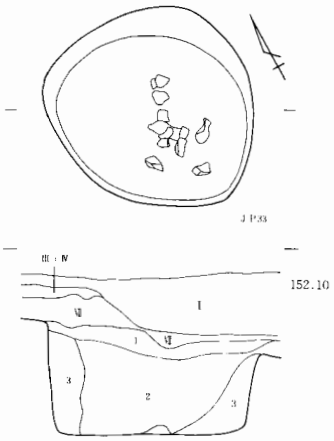
1．黒色土。炭化物含、硬質、しまる。



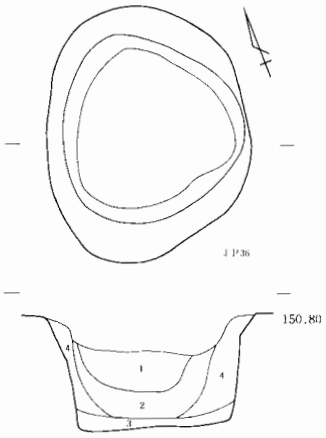
1．黄褐色土。2．茶褐色土。炭化物、褐色粒含。硬質。3．褐色土。



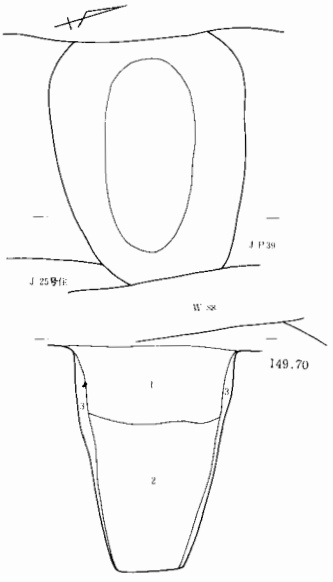
1．黒褐色土。2．茶褐色土。浮石、焼土含。3．茶褐色土。浮石、炭化物、焼土含。4．黄褐色土。炭化物、浮石含。5．黄褐色土。浮石、炭化物若干含。



1．黒色土。2．黒褐色土。褐色味強。硬質。3．褐色土。ローム塊多量混。



1．黒褐色土。炭化物、浮石含。2．茶褐色土。炭化物、浮石含。硬質。3．黄褐色土。軽石含。砂質。4．褐色土。粘質。



1．黄褐色土。軟質。2．黒褐色土。ブロック状。黄色味。炭化物少量。硬質。3．黄褐色土。ローム主体。

0　2m

図－243　ＪＰ31～40号土坑

ＪＰ39号土坑　(図―243・255・263・264、表―160～162、図版―50・115・145・146)

R―102区―68。長円形。方位はN―71°―W。規模は204×154×158cm、底面は152×70cm。Ｊ25号住、W88と重複する。Ｊ25とは新旧不明。陥穴状の深い土坑。埋土に少し炭化物を含む。土器は黒浜式と諸磯ａ式が出土。石器は直刃削器と円礫が出土している。

ＪＰ40号土坑　(図―243、図版―50)

L―103区―７。円形。方位はN―68°―W。規模は135×128×70cm、底面は101×84cm。椀状の断面をもつ。

ＪＰ41号土坑　(図―244、図版―50)

C―23区―９・10。半円に近い不整形。方位はN―29°―E。規模は262×142×98cm、底面は174×102cm。W89、ＨＰ113と重複する。西壁は緩い傾斜であるが、東壁は直に近い。

ＪＰ42号土坑　(図―244・263、表―161～162、図版―51・146)

ハ―14区―61・71。円形。方位はN―57°―E。規模は123×104×64cm、底面は109×91cm。上面でW66が走行。円筒形に近い断面で、埋土中には炭化物を多く含む。土器は諸磯ｂ式。石器は複刃削器が出土している。

ＪＰ43号土坑　(図―244、図版―51)

D―23区―36。円形。方位はN―61°―W。規模は95×71×61cm、底面は68×16cm。底部は長円形で、東壁は直におちこむ。

ＪＰ44号土坑　(図―244、図版―51)

C―８区―39。長円形。方位はN―77°―W。規模は264×168×72cm、底面は174×91cm。摺鉢状の断面をもち、特異な土層をもつ。底面には細かい凹凸がある。根跡か。

ＪＰ45号土坑　(図―244、図版―51)

D―８区―89・90・99・100。方位はN―13°―E。規模は218×196×138cm、底面は114×53cm。摺鉢状断面で深く、底は長方形に近い。埋土に焼土、炭化物を含む。

ＪＰ46号土坑　(図―244・255、表―160、図版―51・115)

C―８区―79。長方形。方位はN―２°―E。規模は169×87×36cm、底面は137×67cm。H147号住の床面下であり、上部は削平をうけているものと考えられる。平坦な底面をもつ。土器は黒浜式が出土。

ＪＰ47号土坑　(図―244、図版―51)

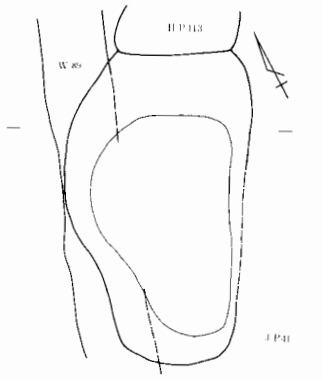
ニ―24区―21。円形。方位はN―65°―W。規模は122×117×44cm、底面は103×97cm。円筒形に近い断面をもつ。

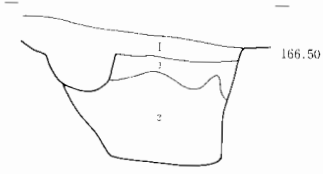
ＪＰ48号土坑　(図―244・264、表―161・162、図版―51・146)

M―20区―57。円形。N―55°―W。規模は104×93×54cm、底面は54×47cm。やや円筒形に近い断面を呈すが、壁は緩やかなところが多い。多凹石が出土している。

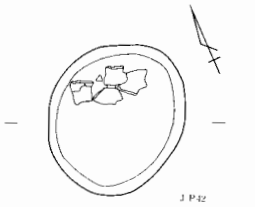
ＪＰ49号土坑　(図―244、図版―51)

M―20区―75・85。円形。方位はN―２°―E。規模は140×135×75cm、底面は58×32cm。椀形の断面を呈す。埋土に炭化物・焼土を含む。

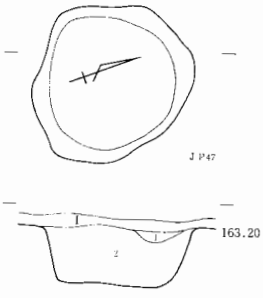




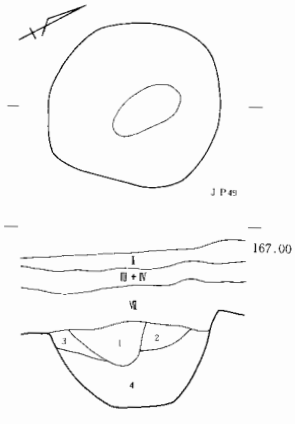
1．黒褐色土。浮石含、軟質。
2．黒褐色土。浮石含、硬質。



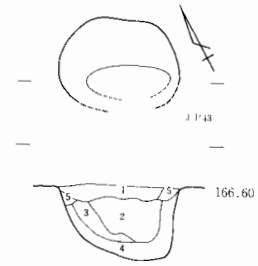
1．黒褐色土。炭化物含、硬質。しまる。
2．褐色土。軟質。3．褐色土。炭化物含、軟質。



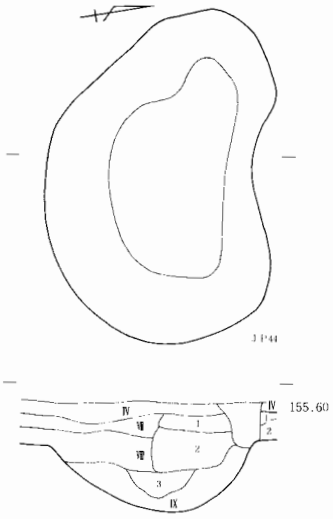
1．ローム。2．黒褐色土。ローム、白色粒含。



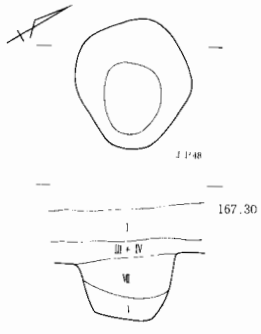
1．褐色土。ローム塊φ1cm混、硬質。2．褐色土。3．褐色土。浮石含、硬質。4．黒褐色土。炭化物、焼土粒、ローム塊含。硬質。



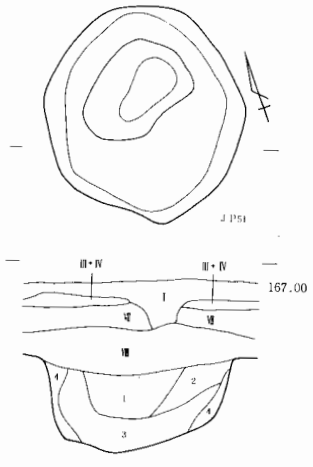
1．黒褐色土。浮石含、軟質。粘性有。2．黒色土。炭化物、浮石含、硬質。粘性無。3．黒褐色土。浮石含。しまり、粘性有。4．黒褐色土。浮石多量含。粘性、しまり有。5．茶褐色土。ロームブロック含、粘性。



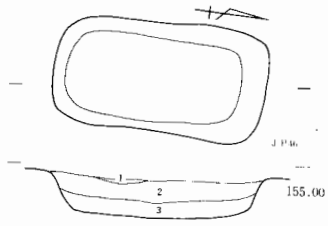
1．茶褐色土。2．暗褐色土。
3．黒色土。ブロック状。硬質。



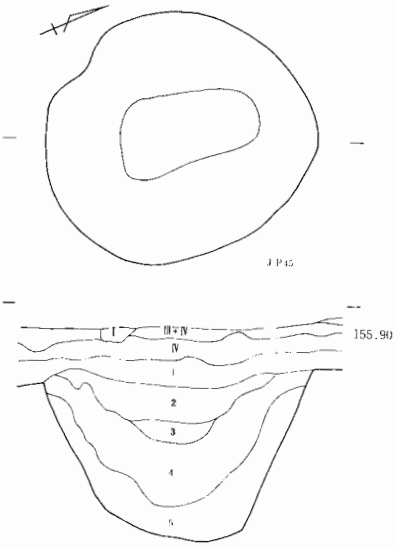
1．黒褐色土。ローム塊（φ2cm）混。



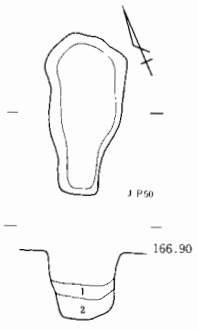
1．黒褐色土。浮石含、硬質。2．黒褐色土。ローム粒含、硬質。3．黒褐色土。浮石多量。炭化物含。硬質。4．黄褐色土。



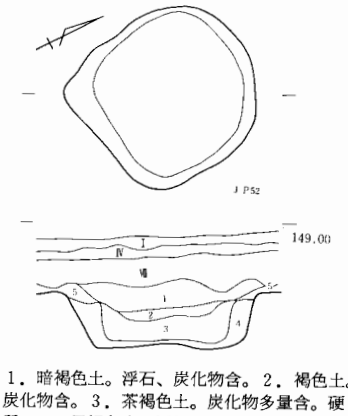
1．焼土。2．黒褐色土。褐色味強。ローム塊混。3．黒褐色土。ローム粒含。



1．茶褐色土。焼土粒、炭化物含。2．暗褐色土。黄色粒、浮石含。硬質。3．黄褐色土。浮石含、硬質。4．黒褐色土。炭化物、浮石、焼土含。硬質。5．黒褐色土。炭化物、ローム含。



1．黒色土＋漸移層。浮石含。2．黒褐色土。ローム塊多量混。



1．暗褐色土。浮石、炭化物含。2．褐色土。炭化物含。3．茶褐色土。炭化物多量含。硬質。4．黒褐色土。汚れたローム粒、炭化物含。5．黒褐色土。

0 2m

図－244　ＪＰ41～52号土坑

ＪＰ50号土坑　（図―244、図版―52）
M―20区―67。長方形。方位はN―27°―E。規模は126×58×53cm、底面は116×42cm。平面は長方形で、底面に凹凸がある。

ＪＰ51号土坑　（図―244、図版―52）
K―21区―２・３、L―21区―92。円形。方位はN―10°―E。規模は176×158×80cm、底面は92×60cm。断面は椀形に近いが、途中に段をもつ。下層に炭化物を少し含む。

ＪＰ52号土坑　（図―244、図版―52）
P―102区―64。円形。方位はN―６°―W。規模は136×133×46cm、底面は116×112cm。浅く広い。断面は円筒形に近い。埋土中には炭化物を多く含む。

ＪＰ53号土坑　（図―245・256、表―160、図版―52・115）
P―103区―73。円形。方位はN―21°―E。規模は208×159×61cm、底面は189×148cm。円筒形の断面をもち、広く浅い。埋土中に炭化物を含む。土器は黒浜式、諸磯ａ式、花積下層式が出土している。

ＪＰ54号土坑　（図―245・256、表―160、図版―52・115）
P―102区―53。円形。方位はN―27°―E。規模は120×114×49cm、底面は100×94cm。椀形の断面をもつ。ＪＰ52と隣接して位置する。炭化物を少し含む。土器は黒浜式が出土。

ＪＰ55号土坑　（図―245・256・262、表―160～162、図版―52・115・145）
P―101区―67。円形。方位はN―16°―W。規模は133×113×104cm、底面は111×83cm。椀形の断面。埋土中に焼石をもつ。土器は黒浜式と諸磯ａ式が出土。石器は磨製石斧が出土している。

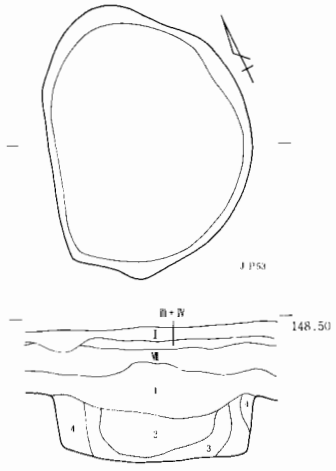
ＪＰ56号土坑　（図―245・256・264、表―160～162、図版―52・115・146）
P―１区―62・72。円形。方位はN―27°―W。規模は158×158×69cm、底面は82×80cm。円筒形に近い断面を呈す。埋土中に焼土粒や炭化物を多く含む。土器は黒浜、諸磯ａ、称名寺２、加曽利Ｅ４？、花積下層式が出土。石器は円礫２個が出土している。

ＪＰ57号土坑　（図―245・256・257・264、表―160～162、図版―52・115・116・146）
N―103区―29。円形。方位はN―52°―W。規模は119×115×55cm、底面は106×104cm。円筒形の断面。広く浅い。埋土の上層には炭化物が多く含まれる。土器は黒浜式を主とし、諸磯ａ式も下層より多く出土。石器は円礫石器が出土している。

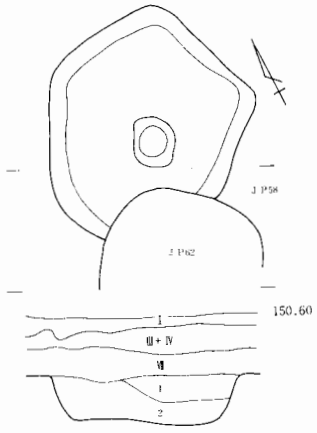
ＪＰ58号土坑　（図―245・257、表―160、図版―53・116）
P―101区―44・45。円形。方位はN―25°―E。規模は188×150×37cm、底面は162×125cm。円筒形に近い断面をもつ。底面の中央に上面径38×33×33cm、底面径23×22cmの小ピットをもつ。埋土に炭化物を少し含む。ＪＰ62と重複する。ＪＰ62が新しい。土器は諸磯ａ式を主とし、黒浜式が出土している。

ＪＰ59号土坑　（図―245・257・263、表―160～162、図版―53・116・145）
P―１区―３。円形。方位はN―20°―E。規模は96×94×37cm、底面は79×70cm。円筒形に近い断面をもつ。土器は黒浜式と加曽利Ｅ４～称名寺式のものが出土。石器は鋸歯縁石器が出土している。

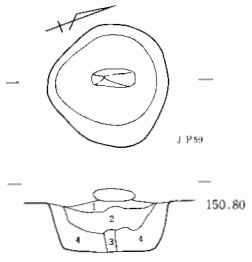
ＪＰ60号土坑　（図―245・257、表―160、図版―53・116）
N―102区―48。円形。方位はN―20°―W。規模は131×113×35cm、底面は119×105cm。Ｊ39・61号住、Ｈ127号住と重複する。Ｊ39とは新旧不明。円筒形に近い断面で、炭化物、焼土を埋土に多く含んでいる。土器は黒浜式が出土。



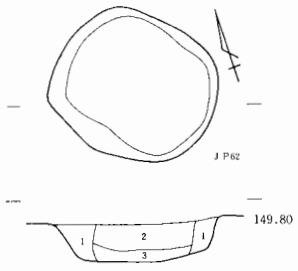
1．黄褐色土。炭化物、浮石含。2．暗褐色土。炭化物、浮石多量含。硬質。3．黒褐色土。ローム、炭化物含。硬質。4．茶褐色土。汚れたローム、炭化物含。



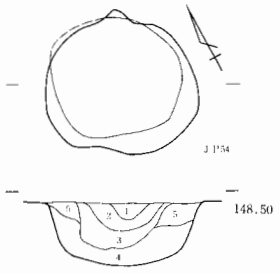
1．黒褐色土。炭化物含。2．黒褐色土。浮石多、炭化物少。硬質。



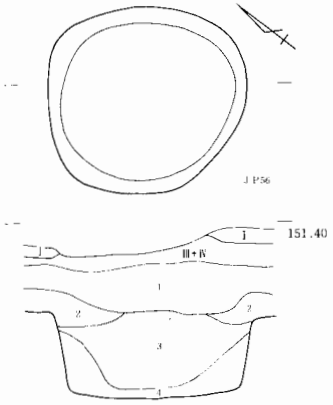
1．黄褐色土。炭化物含、硬質。2．黒褐色土。炭化物含、硬質。3．黒褐色土。硬質。4．褐色土。



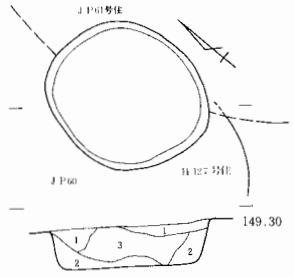
1．黒褐色土。2．黒褐色土。硬質。3．褐色土。



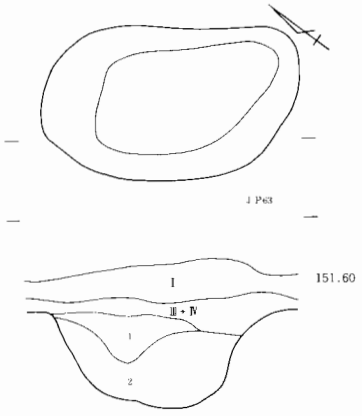
1．暗褐色土。2．暗褐色土。浮石、炭化物含。3．茶褐色土。炭化物含。4．黄褐色土。炭化物含。5．黄褐色土。黄色味強。



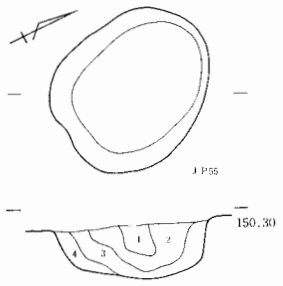
1．黒褐色土。褐色塊、浮石含。軟質。2．黒褐色土。炭化物、浮石含。硬質。3．黒褐色土。浮石多量、炭化物、焼土粒含。硬質。4．暗褐色土。やや軟質。



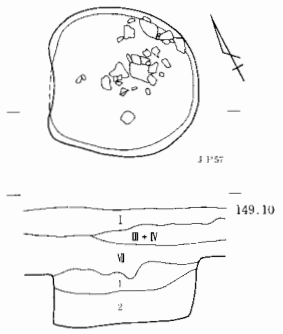
1．黒褐色土。浮石、炭化物多、焼土少。2．褐色土。浮石、炭化物含。3．黒色土。浮石、炭化物多、焼土少含。硬質。



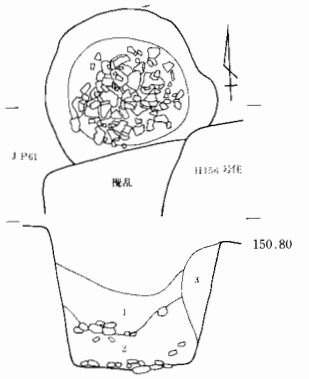
1．茶褐色土。小浮石含。2．黒褐色土。



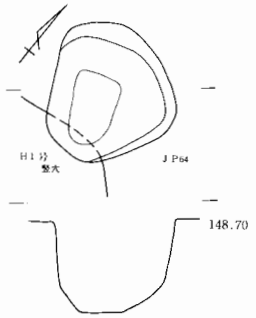
1．黒褐色土。砂質。2．黒褐色土。砂質。3．茶褐色土。4．暗褐色土。

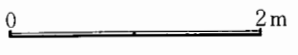


1．褐色土。黒色味強。炭化物多、浮石少。硬質。2．黒褐色土。炭化物、浮石含。硬質。



1．黒色土。浮石、炭化物多、焼土粒少。硬質。2．黒色土。浮石、炭化物少含。軟質。3．汚れたローム。





図－245　ＪＰ53～64号土坑

ＪＰ61号土坑　（図―245・257・265、表―160～162、図版―53・116・150）

Ｎ―101区―20。円形。方位はＮ―89°―Ｗ。規模は135×130×114cm、底面は96×86cm。円筒形に近い深い掘り込み。埋土中層と底面に多くの礫検出。埋土に炭化物多く含む。Ｈ156号住と重複。土器は諸磯ａ式が主として出土。石器は多凹石が出土している。

ＪＰ62号土坑　（図―245、図版―53）

Ｐ―101区―44。円形。方位はＮ―47°―Ｗ。規模は130×115×33cm、底面は112×93cm。円筒形に近い断面で広く浅い。ＪＰ58号土坑と重複。本跡が新しい。

ＪＰ63号土坑　（図―245、図版―53）

Ｎ―１区―32・42。長円形。方位はＮ―37°―Ｗ。規模は205×116×81cm、底面は156×82cm。椀形の断面をもつ。

ＪＰ64号土坑　（図―245、図版―53）

Ｊ―101区―13。円形。方位はＮ―23°―Ｗ。規模は108×98×74cm、底面は56×34cm。摺鉢状の断面を呈す。Ｈ１号竪穴と重複する。

ＪＰ65号土坑　（図―246、図版―53）

Ｈ―101区―23。円形。方位はＮ―６°―Ｅ。規模は86×79×98cm、底面は61×48cm。円筒形に近く深い。Ｈ189号住、ＪＰ104、105号土坑と重複している。ＪＰ65→104→105の順で新しい。

ＪＰ66号土坑　（図―246、図版―53）

Ｆ―１区―99、Ｅ―１区―９。円形。方位はＮ―31°―Ｗ。規模は上面が290×280×152cm、中面が211×192cm、底面が136×118cm。井戸状のピットで、埋土中には焼土粒が少しまじっている。

ＪＰ67号土坑　（図―246・257、表―160、図版―54・116）

Ａ―17区―49・50。円形。方位はＮ―６°―Ｅ。規模は214×188×108cm、底面は210×200cm。Ｋ60号掘立の柱穴と重複している。椀形に近い断面で、炭化物や焼土粒を埋土に含んでいる。加曽利Ｅ４式と堀之内式の土器片が出土。

ＪＰ68号土坑　（図―246）

Ｂ―17区―43。円形。方位はＮ―０°。規模は288×236×136cm、中段が192×80cm、底面が182×63cm。断面は摺鉢状だが、底面は細長く平坦。埋土中に炭化物が混じる。

ＪＰ69号土坑　（図―246、図版―54）

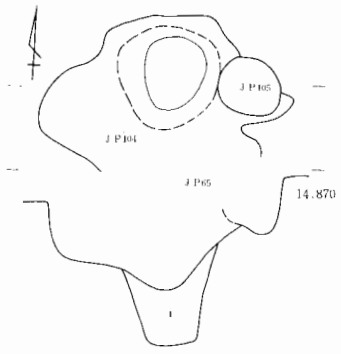
Ｇ―101区―７、Ｈ―101区―97。円形。方位はＮ―25°―Ｗ。規模は126×91×60cm、底面は115×70cm。Ｋ39号掘立P_6、Ｗ18と重複する。椀形に近い断面。焼土と炭化物を埋土に含む。

ＪＰ70号土坑　（図―246・257、表―160、図版―54・116）

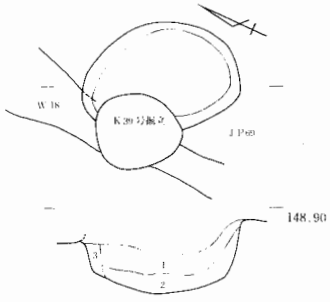
Ｇ―101区―14・15。円形。方位はＮ―48°―Ｅ。規模は130×124×70cm、底面は99×58cm。Ｗ17・18と重複する。断面は円筒形に近い。土層状態や底面の様子から根跡の可能性がある。称名寺１式の土器片が出土。Ｊ35住の土器に接合。

ＪＰ71号土坑　（図―246、図版―54）

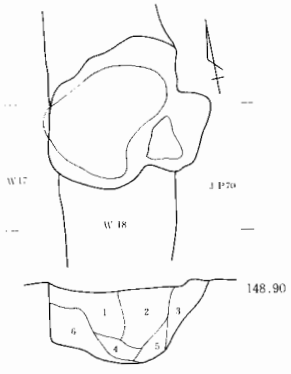
Ｇ―24区―51。長円形。方位はＮ―30°―Ｗ。規模は146×79×84cm、底面は153×66cm。椀形の断面であるが、一部は袋状に、一部は壁内横穴となる。埋土中に炭化物を焼土粒を含む。



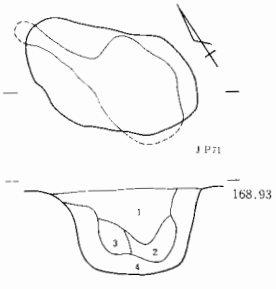
1．暗黒色土。若干ローム粒含。軟質。



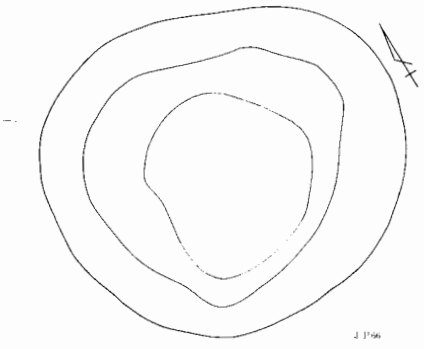
1．黒褐色土。焼土、炭化物、浮石含。2．黒褐色土。浮石含。3．黄褐色土。

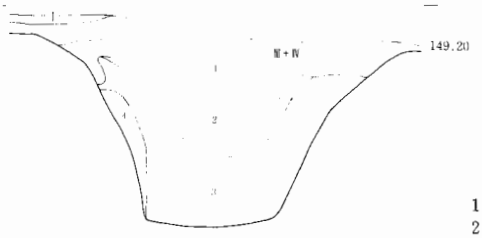


1．黒褐色土。ローム塊、黄色粒含。硬質。2．黒褐色土。浮石、焼土粒、炭化物含。3．黒褐色土。炭化物、浮石、ローム塊含。硬質。4．黒褐色土。5．黒褐色土。硬質。6．黒褐色土。ローム塊φ8cm含。硬質。

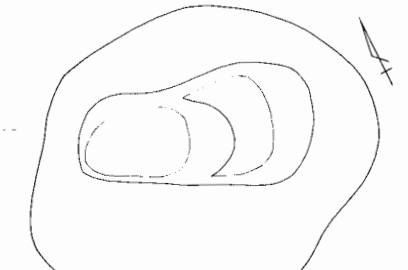


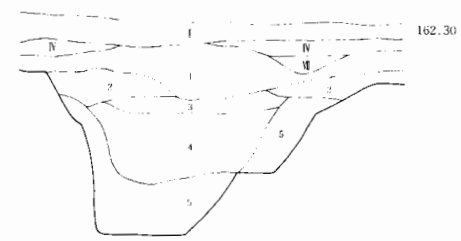
1．茶褐色土。炭化物、焼土粒、パミス含。硬質。2．茶褐色土。ローム塊φ2cm含。3．茶褐色土。炭化物、焼土粒、ローム塊φ4cm含。しまり強。硬質。4．茶褐色土。ローム粒、ローム塊多。しまり有。粘性。



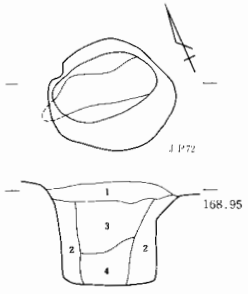


1．黒褐色土。C軽石若干含。2．黒褐色土。焼土粒、浮石含。硬質。3．黒褐色土。2より褐色味強。均質。4．黄褐色土。ローム粒多量含。

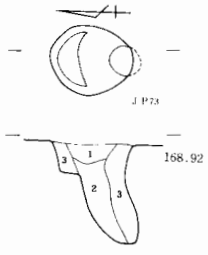




1．黒褐色土。2．茶褐色土。ローム、パミス含。軟質。3．黒褐色土。炭化物、パミス含。粘性無。4．黒褐色土。炭化物、パミス含。粘性有。5．茶褐色土。パミス含。

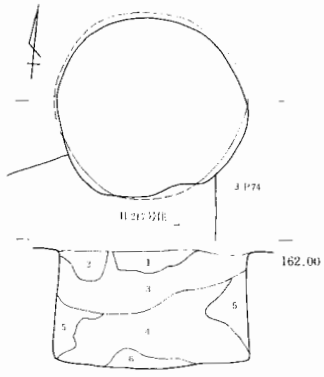


1．茶褐色土。炭化物、焼土粒、パミス、ローム粒含。しまり強。硬質。2．暗褐色土。ローム塊多。パミス含。しまる。粘性。3．茶褐色土。焼土粒、炭化物含。しまる。4．茶褐色土。ローム粒散在。しまり強。

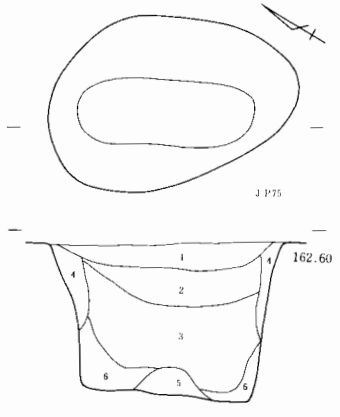


1．茶褐色土。炭化物、焼土粒、パミス含。しまり強。粘性。2．茶褐色土。パミス含、軟質。粘性。3．汚れたローム。

1．黒褐色土。FP、C 軽石、炭化物含。しまる。2．茶褐色土。ローム粒主体。パミス、炭化物含。1より軟質、粘性。3．黒色土。パミス、ローム粒、炭化物、焼土塊φ0.5cm含。2より軟質。4．茶褐色土。ローム粒主体。パミス、炭化物、ローム塊φ3cm含。軟質、粘性無。5．褐色土。ローム塊φ6cm、ローム粒、パミス、炭化物混。6．茶褐色土。ローム主体。軟質。



1．黒褐色土。ローム粒、炭化物、焼土粒、C軽石少量含。しまる。2．暗褐色土。ローム粒主体。パミス含。3．黒褐色土。炭化物焼土粒、パミス少量含。軟質。4．黒褐色土。炭化物、焼土粒、パミス、ローム塊含。5．暗褐色土。パミス含。6．暗褐色土。ローム塊、パミス、炭化物含。



1．褐色土。焼土粒、炭化物、白色軽石含。若干軟質。2．黒褐色土。焼土粒、炭化物、白色軽石含。硬質。3．褐色土。焼土粒、炭化物φ1cm、白色軽石、黒褐色土塊混。硬質。4．汚れたローム。白色軽石、焼土粒、炭化物混。硬質。5．汚れたローム。白色粒混。6．黄褐色土。焼土粒、炭化物含。軟質。

0 2m

図－246　ＪＰ65～75号土坑

ＪＰ72号土坑　（図―246、図版―54）

Ｇ―23区―80、Ｇ―24区―71。円形。方位はＮ―85°―Ｗ。規模は98×88×74cm、底面は78×48cm。断面は円筒形に近い。底面は図示してないが一部壁内横穴となり、ＪＰ73へ繋がる。埋土中に炭化物、焼土粒を含む。

ＪＰ73号土坑　（図―246、図版―54）

Ｇ―24区―83。円形。方位はＮ―５°―Ｗ。規模は65×56×82cm、底面は50×48cm。埋土中に炭化物、焼土粒を含む。ＪＰ72とは幅15cm、高さ20cmの穴で繋がる。

ＪＰ74号土坑　（図―246・258、表―160、図版―54・116）

Ａ―18区―26。円形。方位はＮ―85°―Ｅ。規模は150×144×93cm、底面は154×151cm。円筒形の断面で、わずかに袋状に内側へ入る。埋土中に炭化物、焼土粒が入る。Ｈ217号住と重複する。土器は黒浜式、関山式、堀之内２式が出土している。

ＪＰ75号土坑　（図―246・258・263・264、表―160～162、図版―54・116・146）

Ｂ―18区―66。長円形。方位はＮ―30°―Ｗ。規模は200×136×127cm、底面は140×51cm。断面は円筒形であるが、底面は長円形。陥穴状。土器は関山式。石器は交刃削器が出土している。

ＪＰ76号土坑　（図―247、図版―55）

Ｂ―18区―99、Ａ―18区―９。長円形。方位はＮ―１°―Ｗ。規模は262×161×138cm、底面は158×24cm。断面は摺鉢状だが、底面は長円形で平坦であり、陥穴に近いものか。埋土中に焼土粒、炭化物を含む。Ｋ81号掘立と重複する。

ＪＰ77号土坑　（図―247・258・262・263、表―160～162、図版―55・117・146）

Ｂ―19区―92。円形。方位はＮ―63°―Ｅ。規模は182×132×58cm、底面は69×35cm。摺鉢形の断面をもつ。埋土に焼土、炭化物を含む。ＪＮ１・ＨＰ121と重複。花積下層式の土器片出土。打製石斧、交刃削器が出土している。

ＪＰ78号土坑　（図―247・258・259、表―160、図版―55・117・118）

Ｇ―103区―85。円形。方位はＮ―14°―Ｗ。規模は156×154×62cm、底面は124×124cm。やや円筒形の断面をもち、底面は平坦。下層には炭化物が非常に多い。Ｗ72と重複。諸磯ａ？・ｂ式の土器出土。いずれも大型の深鉢。

ＪＰ79号土坑　（図―247、図版―55）

Ｅ―１区―17・27。長円形。方位はＮ―28°―Ｗ。規模は204×157×142cm、底面は140×60cm。断面は摺鉢形に近いが深く、底面は長円形で、ほぼ平坦。陥穴状のものか。埋土中に焼土と炭化物を含む。

ＪＰ80号土坑　（図―247、図版―55）

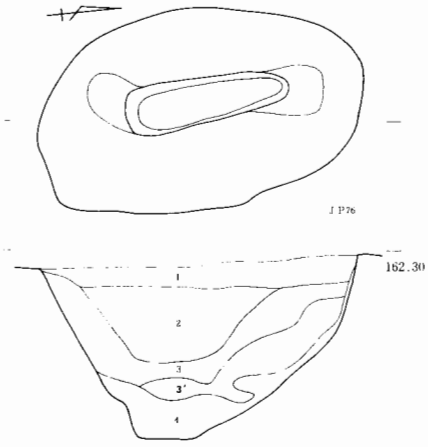
Ｆ―１区―75・85。長円形。方位はＮ―６°―Ｗ。規模は201×162×152cm、底面は123×50cm。円筒形に近い断面だが、底面は長円形で、一部分がさらに深い。陥穴状のものか。炭化物を多く含み、焼土も含む。

ＪＰ81号土坑　（図―247、図版―55）

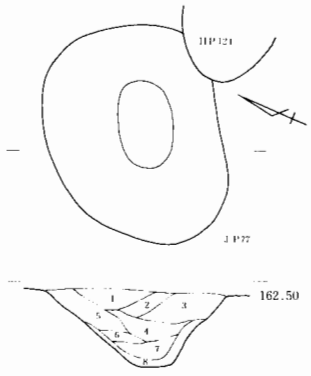
Ｆ―１区―８・９。円形。方位はＮ―２°―Ｅ。規模は256×256×49cm、底面は230×220cm。皿状の断面で、浅く広い。

ＪＰ82号土坑　（図―247、図版―55）

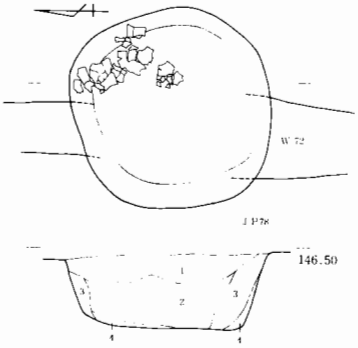
Ｂ―17区―20、Ｂ―18区―11。方円形。方位はＮ―62°―Ｗ。規模は現状で146×76×98cm、底面は60×34cm。ＪＰ83、ＪＰ116と重複する。ＪＰ83→ＪＰ82→ＪＰ116の順に新しい。



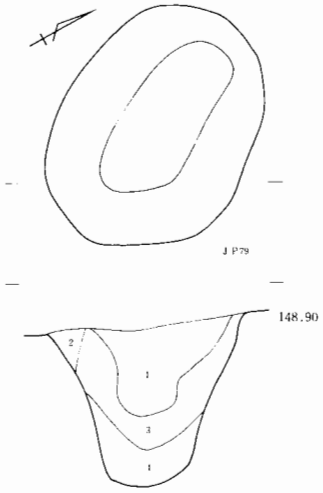
1．褐色土。焼土粒、炭化物、白色軽石混。若干軟質。2．黒褐色土。炭化物、焼土粒、白色軽石混。硬質。3．褐色土。焼土粒、炭化物、白色軽石混。硬質。3′．褐色土。4．汚れたローム。



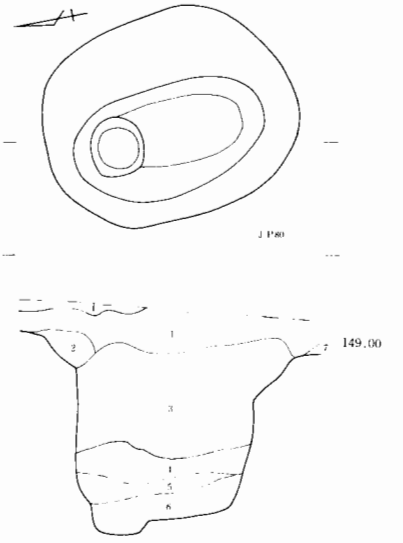
1．褐色土。白色微軽石混。2．褐色土。白色軽石、炭化物混。3．黄褐色土。白色軽石、焼土粒、炭化物、ローム塊含。4．褐色土。白色軽石、焼土粒、炭化物混。汚れたローム塊含。5．褐色土。2に似る。若干黄色味。6．黒褐色土。焼土粒、炭化物混。やや軟質。7．褐色土。ローム塊、焼土粒、炭化物含。8．黄褐色土。ローム＋褐色土。



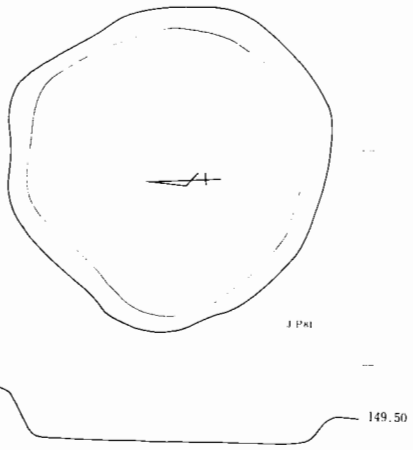
1．黒褐色土。軟質。2．黒褐色土。炭化物多、褐色土塊、白色粒少含。硬質。3．黒褐色土。炭化物少、褐色土塊多含。硬質。4．黒褐色土。軟質。やや粘性。

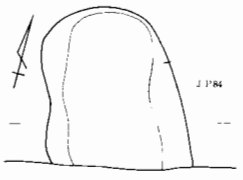


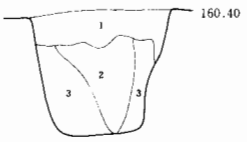
1．黒褐色土。白色軽石、焼土粒、炭化物含。非常に硬質。2．暗褐色土。黒褐色土塊含。3．暗褐色土。白色軽石、焼土粒、炭化物含。硬質。4．褐色土。黄色味有。白色軽石、焼土粒、炭化物、砂質ローム粒含。硬質。



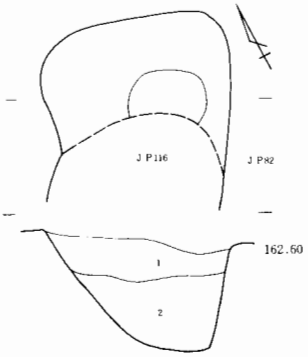
1．黒褐色土。焼土、炭化物少量含。2．暗褐色土。炭化物少、黒色土塊含。3．黒褐色土。炭化物、白色軽石、焼土、ローム塊φ0.5～2cm含。硬質。4．黒褐色土。ローム塊多量含。5．褐色土。炭化物、焼土含。粘性。しまる。6．灰褐色土。ローム塊φ0.5～2cm含。しまる。粘性。7．褐色土褐色土塊含。しまる。



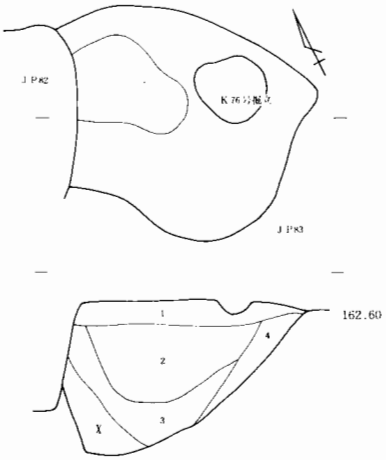




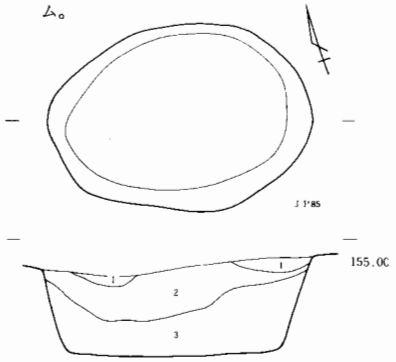
1．黒褐色土。ローム主体。黒色粒微量混。しまり無。2．黒褐色土。若干黄色パミス含。非常に硬質。しまる。粘性。3．汚れたローム。



1．暗褐色土。汚れたローム主体。しまる。2．黒褐色土。若干白色軽石含。



1．暗褐色土。白色軽石、ローム塊含。2．黒褐色土。上部白色軽石含。3．暗褐色土。4．暗褐色土。赤色ハードローム塊φ1cm含。汚れたローム。



1．黒褐色土。ローム塊、YP 粒含、硬質。2．暗褐色土。ローム塊、YP 粒含。3．褐色土。下部粘土質。炭化物少量含。

0 2m

図－247　J P76～85号土坑

ＪＰ83号土坑　（図―247、図版―55）

Ｂ―17区―20・30、Ｂ―18区―11・21。不整長円形。方位はＮ―40°―Ｗ。規模は現状で212×156×142cm、底面は102×58cm。摺鉢形の断面で、底面は長円形で平坦。ＪＰ82、Ｋ76号掘立と重複する。

ＪＰ84号土坑　（図―247、図版―56）

Ｂ―15区―17。長方形。方位はＮ―26°―Ｗ。規模は現状で127×103×96cm、底面は124×69cm。円筒形に近い断面で底面は平坦である。Ｈ207号住と重複している。

ＪＰ85号土坑　（図―247、図版―56）

ロ―９区―73・83。長円形。方位はＮ―72°―Ｗ。規模は212×149×80cm、底面は174×123cm。Ｊ46号住の床面下より検出された。底面は平坦。

ＪＰ86号土坑　（図―248、図版―56）

ヲ―108区―85。円形。方位はＮ―１°―Ｗ。規模は140×136×110cm、底面は113×112cm。袋状の断面をもつ。底面は平坦。埋土中に炭化物を含む。

ＪＰ87号土坑　（図―248、図版―56）

ヨ―110区―33。長円形。方位はＮ―25°―Ｅ。規模は現状で144×104×40cm、底面は88×34cm。一部試掘による削平をうけている。

ＪＰ88号土坑　（図―248、図版―56）

ニ―22区―21。円形。方位はＮ―９°―Ｗ。規模は106×104×77cm、底面は82×71cm。やや椀形に近い円筒形の断面をもつ。埋土中に焼土粒を少し含む。

ＪＰ89号土坑　（図―248、図版―56）

ニ―22区―55・65。円形。方位はＮ―36°―Ｗ。規模は103×98×61cm、底面は85×77cm。袋状の断面をもつ。埋土中に焼土や炭化物を含んでいる。上面でＷ91と重複する。

ＪＰ90号土坑　（図―248）

タ―７区―47。円形。方位はＮ―13°―Ｗ。規模は114×112×96cm、底面は82×72cm。円筒形の断面をもち深い。Ｋ121P_3（推定）と重複している。埋土中に焼土、炭化物が入る。

ＪＰ91号土坑　（図―248・264、表―161・162、図版―56・146）

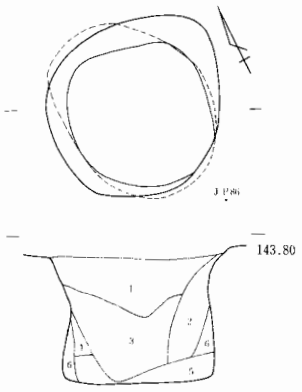
Ａ―10区―22・32。円形。方位はＮ―28°―Ｗ。規模は349×334×47cm、底面は332×304cm。埋土中に焼土、炭化物を含む。大形の形態で浅く、底部は平坦。住居に近い施設か。遺物は出土していない。（以下92・93・97・102・103号は大型で、規格的に疑問もあるが、ここでは土坑として扱う。）

ＪＰ92号土坑　（図―248・264、表―161・162、図版―146）

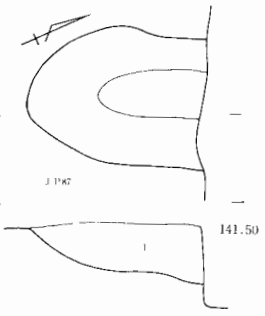
ロ―５・６区。円形。方位はＮ―40°―Ｅ。規模は570×560×68cm、底面は546×534cm。埋土土層に炭化物を含んでいる。大形で、底部は平坦。規模では住居跡に似るが、諸施設がない。円礫石器と敲き石が出土。

ＪＰ93号土坑　（図―248、図版―56）

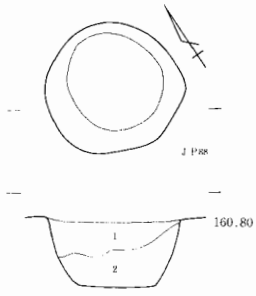
イ・ロ―５区。長円形。方位はＮ―４°―Ｅ。規模は844×530×111cm、底面は682×407cm。埋土中に焼土が少し混じる。規模では住居に似るが、遺物、諸施設がない。Ｈ343号住と重複している。



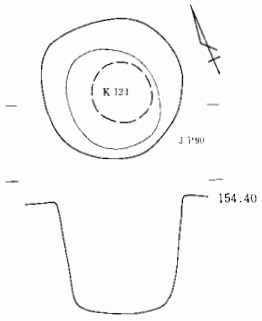
1．暗褐色土。炭化物散在。やや粘性。2．暗褐色土。炭化物、浮石含。1より硬くしまる。3．暗褐色土。ブロック状土。2より密。褐色味強。炭化物無。4．褐色土。粘質土。5．黒褐色土。炭化物含。6．暗褐色土。4より褐色味弱。ローム塊含。

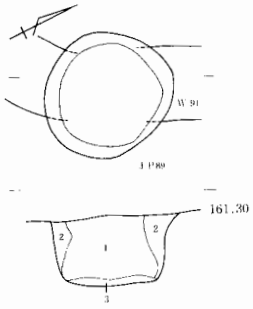


1．暗褐色土。ローム塊、白色粒含。

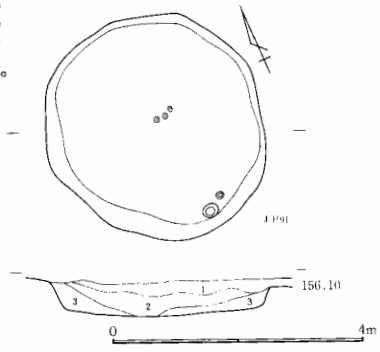


1．黒褐色土。白色軽石、焼土粒若干含。しまり強。2．黄褐色土。白色軽石含、粘性。

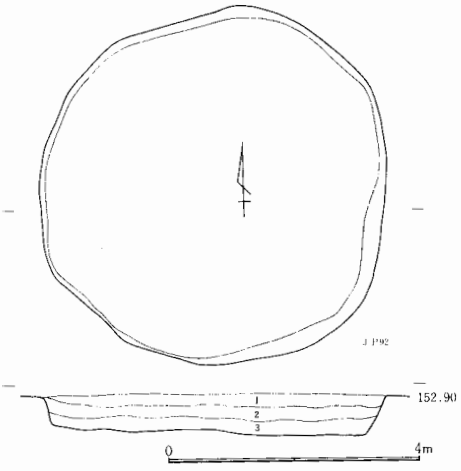




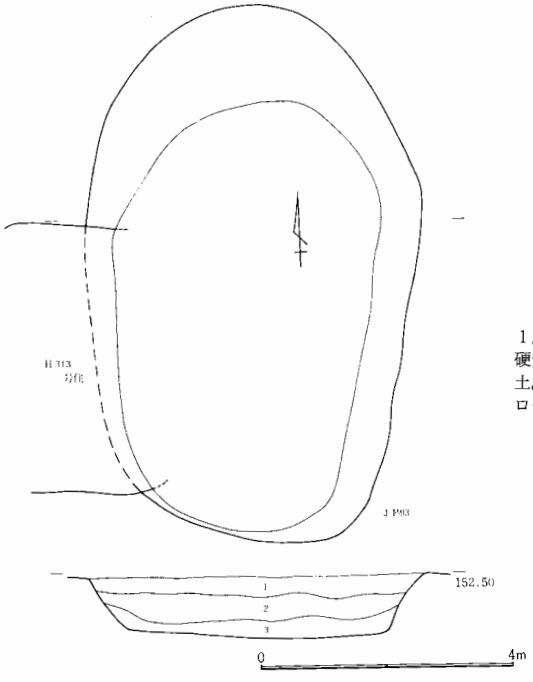
1．黒褐色土。上部褐色味強。白色軽石、焼土粒、炭化物含。しまる。2．黒褐色土。1より褐色味強。3．黄褐色土。粘性。



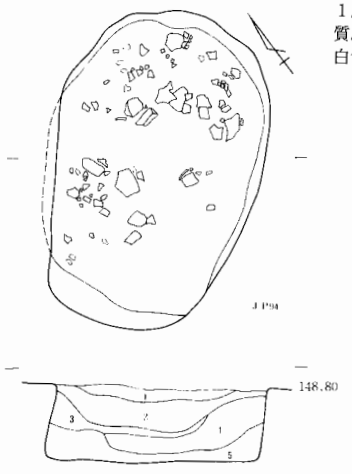
1．茶褐色土。FP、C 軽石含、軟質。2．黒褐色土。パミス、炭化物、焼土粒含。硬質。3．茶褐色土。パミス少、炭化物、焼土粒含。硬質。



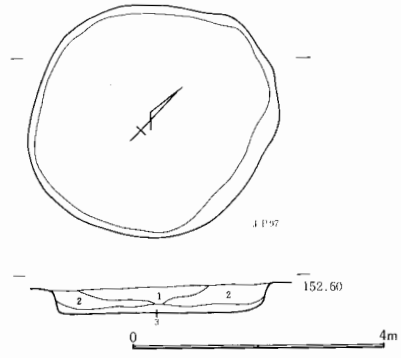
1．黒褐色土。白色粒、若干ローム塊φ1cm、炭化物含。硬質。2．褐色土。白色粒含。ややしまる。3．黄褐色土。白色粒含。しまり強。

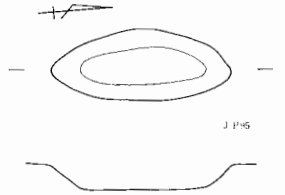


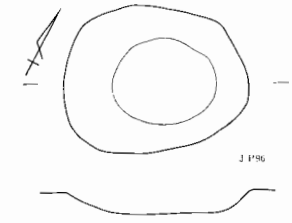
1．黒褐色土。下部若干焼土粒含。しまり弱。2．黒褐色土。焼土粒、白色粒含。硬質。しまる。3．黄褐色土。若干焼土粒、白色粒含。しまり強。

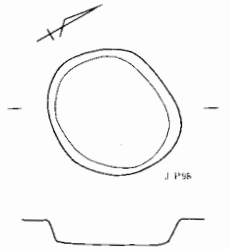


1．黒色土。2．黒褐色土。ローム粒、遺物多、硬質。3．暗褐色土。ローム塊粒含。4．茶褐色土。ローム粒、炭化物若干含。5．赤茶褐色土。ローム多量含。硬質。









1．黒茶褐色土。焼土粒、炭化物、パミス若干含。しまる。2．茶褐色土。焼土粒φ0.5cm、炭化物少量含。しまる。3．褐色土。パミス含。しまる。

0 2m

図－248　ＪＰ86～98号土坑

ＪＰ94号土坑　(図―248・259・260・261、表―160、図版―58・112・117・118・119)

ツ―101区―61・71・ツ―102区―80。長円形。方位はＮ―55°―Ｅ。規模は256×168×56cm、底面は334×226cm。円筒形に近い断面だが、一部は袋状を呈す。埋土に炭化物を少し含む。土器は堀之内２式を主とし、同１式、諸磯ｂ式がまじる。Ｊ54住の土器と接合。(堀之内１式)

ＪＰ95号土坑　(図―248)

ヲ―５区―51、ヲ―４区―60。長円形。方位はＮ―４°―Ｅ。規模は143×56×18cm、底面は100×30cm。浅い皿状の断面。

ＪＰ96号土坑　(図―248)

リ―４区―84・85。円形。方位はＮ―70°―Ｅ。規模は57×44×18cm、底面は34×28cm。浅い皿状の断面。

ＪＰ97号土坑　(図―248)

リ―５区―77・78。円形。方位はＮ―34°―Ｗ。規模は409×376×44cm。底面は390×331cm。円筒形に近い断面だが浅く広い。規模からみると住居跡に近い施設か。

ＪＰ98号土坑　(図―248)

ヲ―４区―64・65。円形。方位はＮ―15°―Ｗ。規模は87×84×19cm、底面は76×74cm。円筒形に近い断面だが、浅い。

ＪＰ99号土坑　(図―249、図版―57)

ワ―７区―６・７・16・17。不整円形。方位はＮ―62°―Ｗ。規模は271×198×71cm、底面は178×144cm。円形に近い底をもち広く舟底を呈す。埋土に炭化物を含む。自然のものか。

ＪＰ100号土坑　(図―249、図版―57)

カ―２区―11・12・21・22。不整形。規模は322×305×61cm。土層の状況により土坑とするが、底面は凹凸が多く、風倒木の可能性が大きい。

ＪＰ101号土坑　(図―249、図版―57)

カ―３区―１・２・11・12。ワ―３区―91・92。円形。方位はＮ―69°―Ｗ。規模は370×302×93cm、底面は178×139cm。断面は舟底で、特異な土層となっている。焼土粒のあつまる層がある。中央部はローム主体の土層。風倒木痕か。

ＪＰ102号土坑　(図―249)

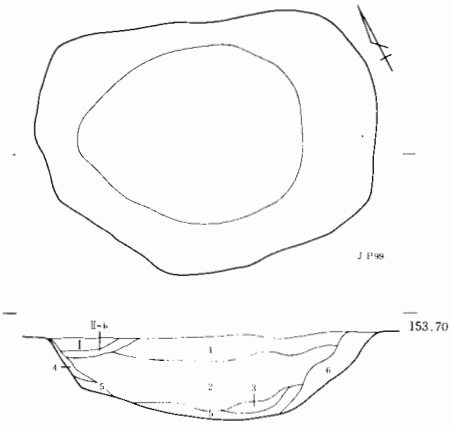
ワ―10区―30・40、ワ―11区―21・31。長円形。方位はＮ―11°―Ｗ。規模は368×292×35cm、底面は338×266cm。断面はやや円筒形に近い。住居跡に近い規模だが、遺物、諸施設はない。

ＪＰ103号土坑　(図―249)

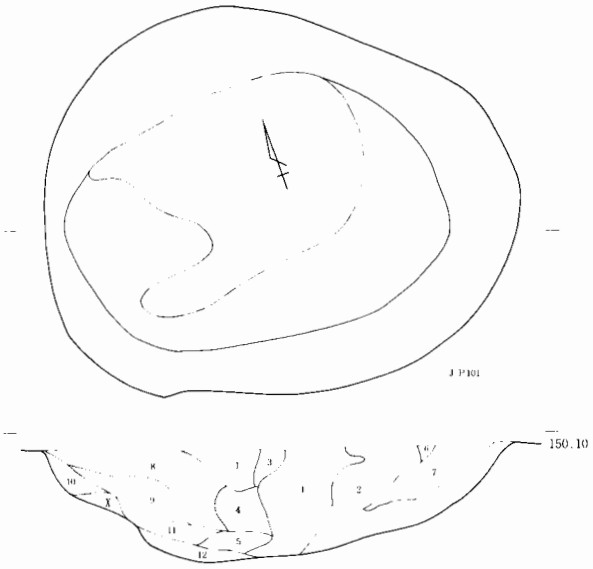
ワ―９区―27・28・37・38。方形。方位はＮ―80°―Ｅ。規模は268×182×30cm、底面は240×156cm。やや円筒形に近い断面をもつ。底は平坦。住居に近い施設か。Ｆ250と重複する。

ＪＰ104号土坑　(図―249、図版―53)

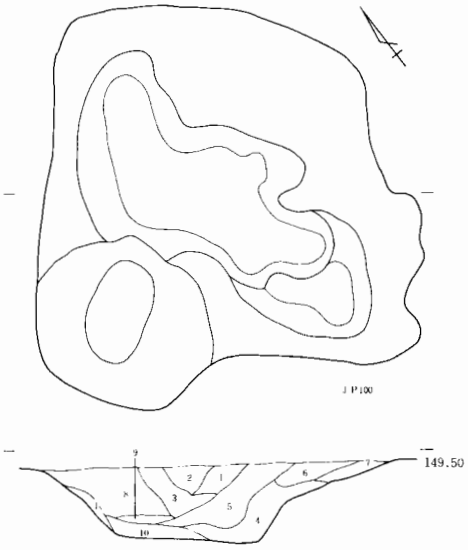
Ｈ―101区―23。不整形。方位はＮ―12°―Ｗ。規模は183×161×66cm、底面は160×142cm。断面は凹凸が激しい。底面にも凹凸があり、根跡か。埋土に炭化物を含む。ＪＰ105と重複し、新旧はＪＰ104→ＪＰ105の順である。また、上・下面にそれぞれＨ189号住、ＪＰ65がある。



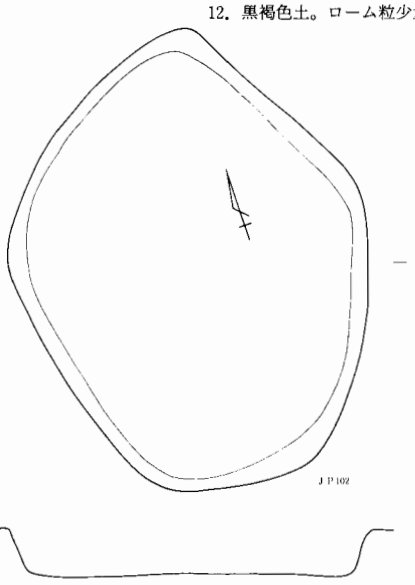
1．赤褐色土。ローム質土。C軽石少量、ローム粒含。硬質。2．茶褐色土。C軽石、ローム粒、炭化物少量含。硬質。3．黒褐色土。ローム粒、C軽石含。やや硬質。4．茶褐色土。C軽石少量含。やや硬質。5．茶褐色土。C軽石、炭化物少量含。6．茶褐色土。C軽石、炭化物含。やや硬質。

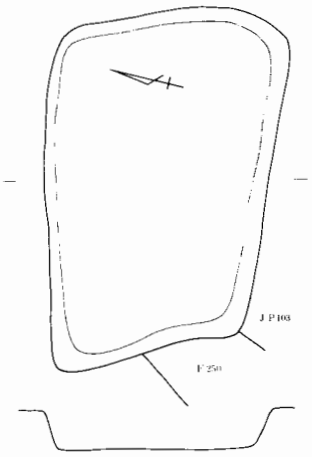


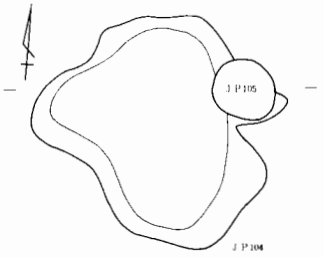
1．黄褐色土。ローム主体。硬質。2．黄褐色土。しまり無。3．暗褐色土。ローム主体。硬質。4．暗褐色土。ローム多量。非常に硬質。5．暗褐色土。ローム塊主体。6．暗褐色土。大ローム粒多量混。しまり無。7．黒褐色土。ローム塊、ローム粒少量混。軟質。8．黒褐色土。黒色土ブロック状混。軟質。9．黒褐色土。若干ローム粒、焼土粒混。軟質。10．暗褐色土。ローム粒多量混。軟質。11．黒褐色土。ローム粒、ローム塊若干混。12．黒褐色土。ローム粒少量含。



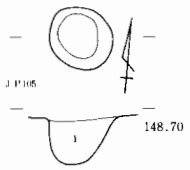
1．黄褐色土。ローム主体。2．暗褐色土。ローム粒多量混。3．暗褐色土。ローム粒多量混。4．暗褐色土。C軽石若干、ローム塊混。5．暗褐色土。ローム塊混。ローム粒多量含。6．黒褐色土。ローム粒少量含。7．黒褐色土。ローム粒散在。8．黒色土。含有物無。9．黒褐色土。大ローム粒少量混。10．暗褐色土。ローム主体。塊状土。



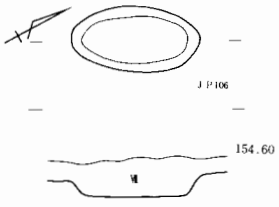


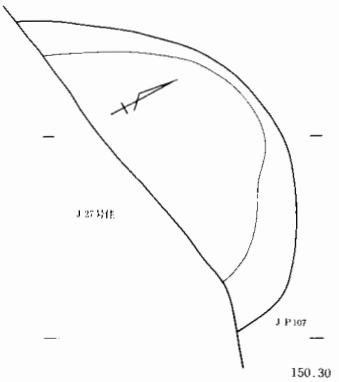


1．暗黒色土。炭化物、ローム粒少量含。非常に硬質。2．暗黒褐色土。ローム塊混。硬質。3．暗褐色土。炭化物、ローム粒、ローム塊混。非常に硬質。



1．暗褐色土。ローム質。一部炭化物含。硬質。





1．黒褐色土。ローム塊粒含。硬質。

0　2m

図－249　ＪＰ99～107号土坑

ＪＰ105号土坑　（図－249、図版－53）

Ｈ－101区－23。円形。方位はＮ－58°－Ｗ。規模は52×46×46cmで、底面は32×26cm。埋土中に炭化物を含む。ＪＰ65・104と重複する。

ＪＰ106号土坑　（図－249）

Ｐ－４区－９、Ｑ－４区－99。長円形。方位はＮ－34°－Ｅ。規模は98×52×22cmで、底面は73×36cm。埋土上層に礫を多く含む。

ＪＰ107号土坑　（図－249、図版－21）

Ｎ－102区－67・77。推定円形。現状の規模は298×114×28cm、底面は228×102cm。Ｊ27号住と重複しており、壁が削平され、現状は推定½と思われる。

ＪＰ108号土坑　（図－250、図版－48）

Ｓ－16区－40・50、Ｓ－17区－31・41。隅丸長方形。方位はＮ－62°－Ｗ。規模は224×124×32cm、底面は180×94cm。椀形に近い断面。ＪＰ18と重複するが、本跡が新しい。

ＪＰ109号土坑　（図－250、図版－50）

Ｎ－１区－８。円形。方位はＮ－20°－Ｗ。規模は38×24×64cm、底面は27×20cm。円筒形でやや深い。ＪＰ35と重複しており、ＪＰ109が新しい。

ＪＰ110号土坑　（図－250、図版－51）

Ｃ－８区－78。長方形。方位はＮ－１°－Ｅ。規模は179×130×152cm、底面は133×75cm。底部は長方形で平坦であり、直に近く、深く掘り込まれている。ＪＰ46と重複する。ＪＰ46が新しい。炭化物の粒子を埋土に多く含む。上面にＨ147住がある。

ＪＰ111号土坑　（図－250、図版－22）

Ｍ－102区－７・８。円形。方位はＮ－81°－Ｗ。規模は177×149×60cm、底面は160×132cm。Ｊ29・59号住の床面下にある。埋土がＪ29号住と同じであり、Ｊ29号住の施設とも考えられる。（図－34参照）

ＪＰ112号土坑　（図－250、図版－29）

Ｎ－102区－58。円形。方位はＮ－63°－Ｗ。規模は137×106×35cm、底面は120×91cm。Ｊ39号住床面下で、Ｊ61号住より新しい。埋土中に炭化物、焼土粒を含む。（図－42参照）上面にＨ127住がある。

ＪＰ113号土坑　（図－250、図版－57）

Ｂ－15区－32。円形。方位はＮ－72°－Ｗ。規模は211×189×51cm、底面は177×149cm。埋土の上面に多量の焼石を検出。配石遺構の可能性がある。

ＪＰ114号土坑　（図－250、図版－57）

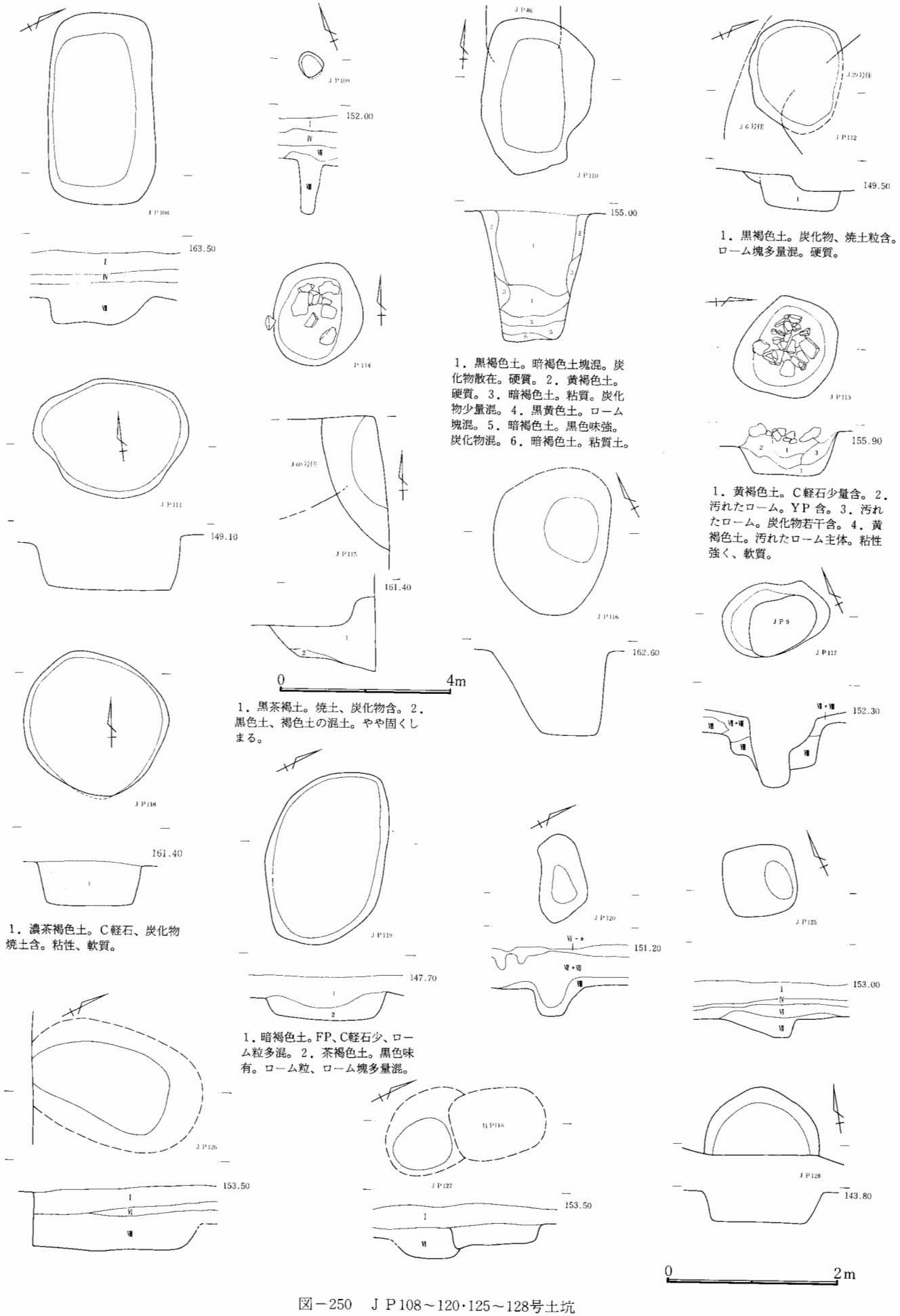
イ－１区－87。円形。方位はＮ－23°－Ｅ。規模は126×103×31cm、底面は100×68cm。埋土の上面より石を検出。配石遺構の可能性がある。

ＪＰ115号土坑　（図－250）

ホ－23区－48・49。推定円形。規模は現状で340×135×59cm、底面が240×72cm。Ｊ60号住と重複する。大半が未掘である。

ＪＰ116号土坑　（図－250）

Ｂ－17区－20。長円形。方位はＮ－45°－Ｅ。規模は175×138×106cm、底面は76×66cm。底面は上面にくらべ小さくて平坦。ＪＰ82・83と重複し、本跡が新しい。



図－250　ＪＰ108～120･125～128号土坑

ＪＰ117号土坑　（図―250、図版―47）
Ｒ－２区―63・64。長円形。方位はＮ―68°―Ｗ。規模は131×74×52cm、底面は105×74cm。ＪＰ９と重複するが、ＪＰ９が新しい。底面は二段の底をもつ。

ＪＰ118号土坑　（図―250、図版―24）
ホ―23区―38・39。円形。規模は176×170×52cm、底面は178×154cm。円筒形に近い断面だが、一部袋状を呈す。Ｊ33号住床面を切り、Ｊ60号住に切られている。埋土に焼土・炭化物を含む。上面でW11が走行する。（図―36参照）

ＪＰ119号土坑　（図―250・265、表―161・162、図版―150）
Ｈ―103区―67。長円形。方位はＮ―55°―Ｗ。規模は217×135×35cm、底面は202×123cm。浅く広く平坦。多凹石が出土している。

ＪＰ120号土坑　（図―250）
Ｓ－３区―31。長円形。方位はＮ―59°―Ｗ。規模は105×57×46cm、底面は44×21cm。Ｊ９号住の北に位置し、Ｊ９号住とほぼ同じ埋土をもつ。

ＪＰ122号土坑　（図－４、図版－３）
Ｆ－６区―21、Ｆ－５区―30。円形。方位はＮ－３°－Ｅ。規模は86×73×84cm、底面は61×47cm。Ｊ３号住と重複する。円筒形断面。

ＪＰ123号土坑　（図－４、図版－３）
Ｆ－５区―８・９。円形。方位はＮ―53°－Ｅ。規模は179×135×117cm、底面は164×121cm。Ｊ３号住・Ｆ279と重複する。袋状断面。

ＪＰ124号土坑　（図－４、図版－３）
Ｆ－５区―18・28。円形。方位はＮ―90°－Ｅ。規模は100×97×106cm、底面は117×99cm。Ｊ３号住と重複。袋状断面。

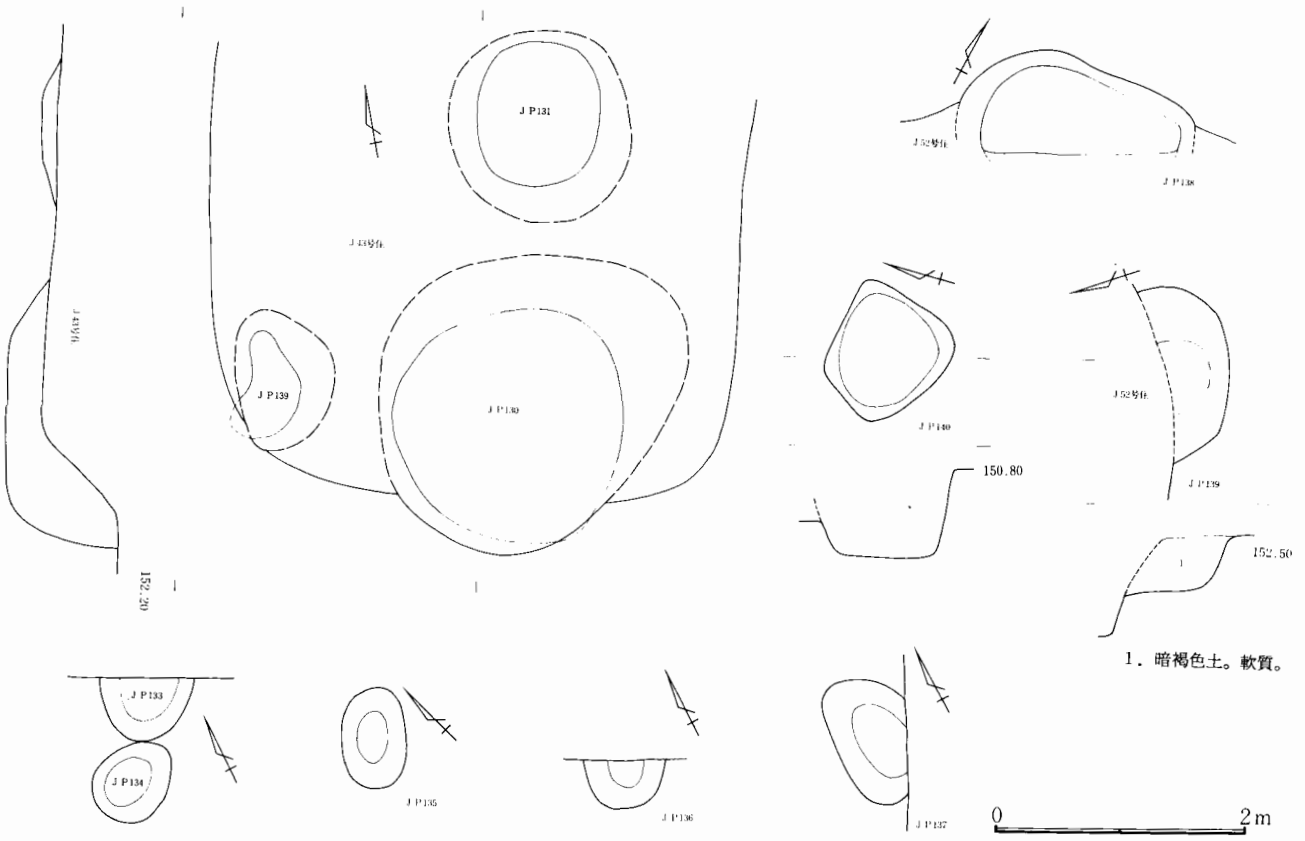
ＪＰ125号土坑　（図―250）
Ｓ－４区―25・26。方形。方位はＮ－９°―Ｗ。規模は86×84×90cm、底面は43×26cm。西側がなだらかな落ち込み。

ＪＰ126号土坑　（図―250）
Ｇ－４区―35・45。推定長円形。方位はＮ―45°－Ｅ。現状212×140×46cm、底面は135×35cm。皿形で浅く広い。

ＪＰ127号土坑　（図―250）
Ｇ―４区―25・35。推定円形。方位はＮ－２°―Ｅ。推定規模120×95×22cm、底面は70×60cm。ＨＰ116と重複する。

ＪＰ128号土坑　（図―250）
ヨ―111区－６。推定円形。方位はＮ－５°－Ｅ。現状140×136×36cm、底面は112×109cm。½未掘。

ＪＰ129号土坑　（図―251）
ハ―６区―15。不整形。方位はＮ―40°－Ｅ。規模は98×91×20cm、底面は73×69cm。一部袋状の断面。Ｊ43号住と重複する。



図－251　ＪＰ129～140号土坑

ＪＰ130号土坑　（図－251）
ハ－６区－15・25・26。円形。方位はＮ－48°－Ｅ。規模は266×232×28cm、底面は238×206cm。Ｊ43号住の床面下。

ＪＰ131号土坑　（図－251）
ハ－６区－16・26。円形。方位はＮ－９°－Ｅ。規模は151×138×12cm、底面は116×104cm。Ｊ43号住の床面下。

ＪＰ133号土坑　（図－251）
ワ－105区－45。円形。方位はＮ－６°－Ｅ。規模は－×79×－cm、底面は－×53cm。½未掘。

ＪＰ134号土坑　（図－251）
ワ－105区－45。円形。方位はＮ－36°－Ｅ。規模は72×60×－cm、底面は46×34cm。

ＪＰ135号土坑　（図－251）
ワ－105区－41。長円形。方位はＮ－22°－Ｅ。規模は76×52×－cm。床面は51×24cm。

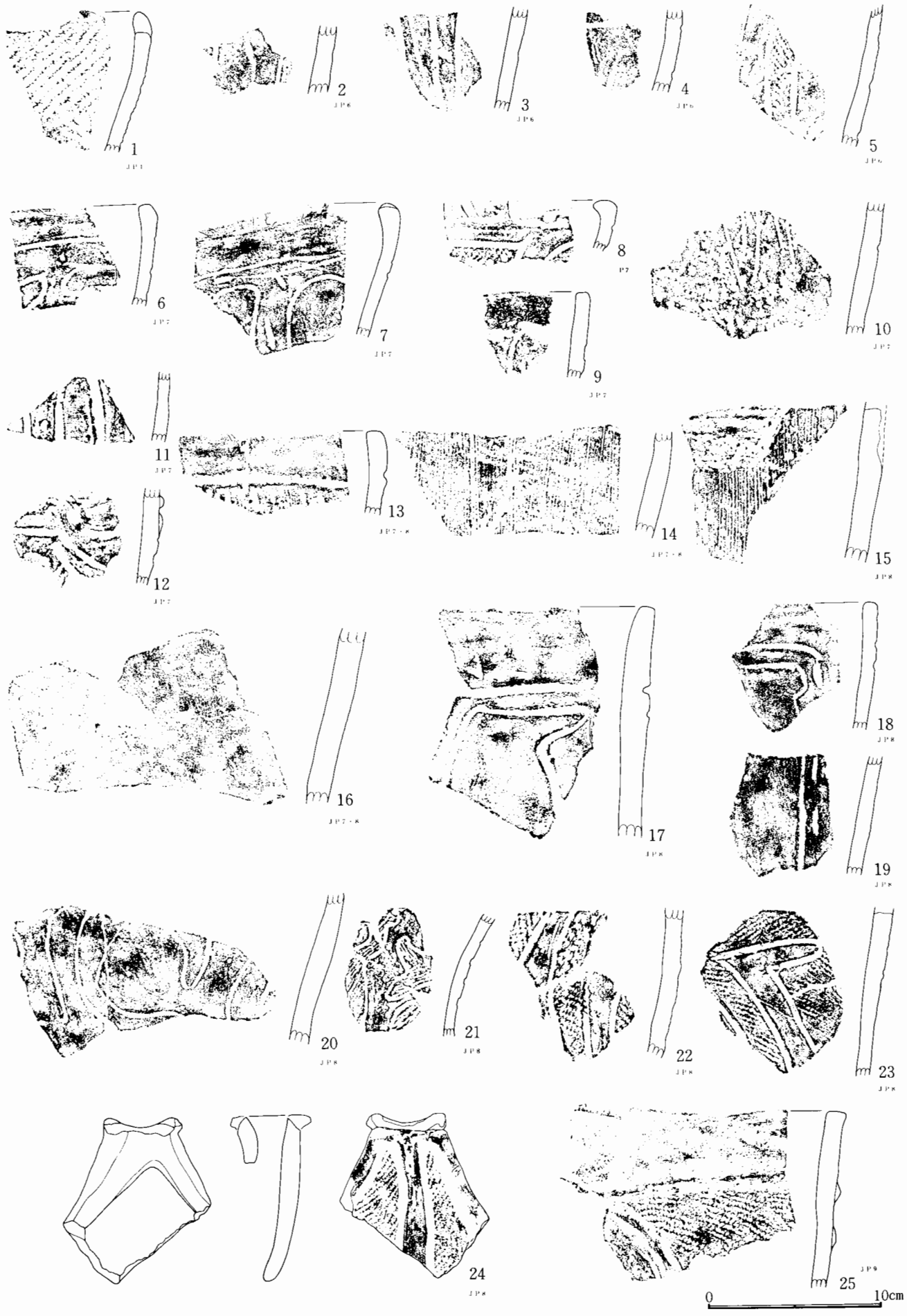
ＪＰ136号土坑　（図－251）
ワ－105区－81。長円形。方位はＮ－19°－Ｅ。規模は－×69×－cm、底面は－×34cm。一部未掘。

ＪＰ137号土坑　（図－251）
カ－106区－49。長円形。方位はＮ－12°－Ｅ。規模は103×78×－cm、底面は70×44cm。一部未掘。

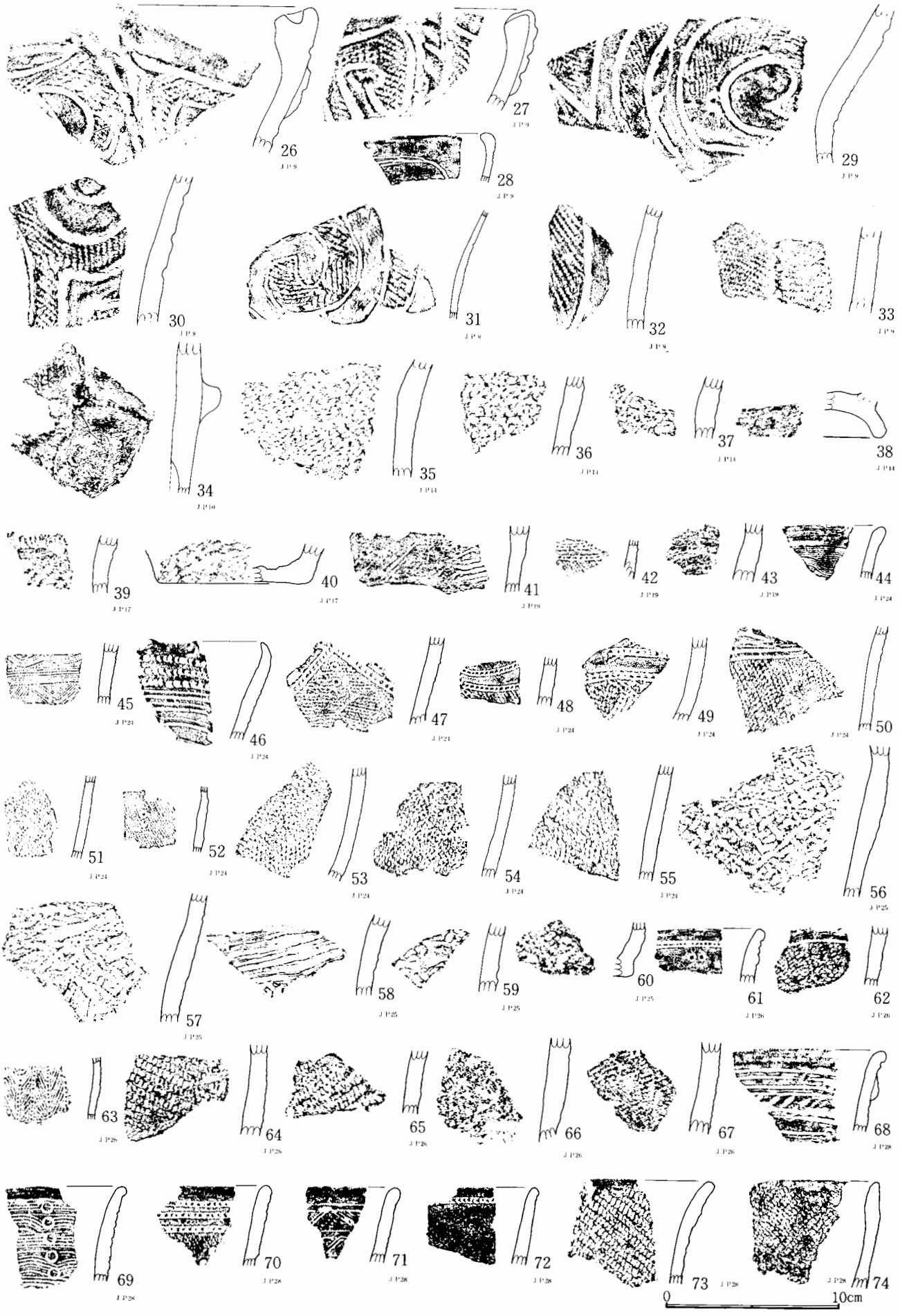
ＪＰ138号土坑　（図－251）
イ－５区－68。長円形。方位はＮ－84°－Ｅ。規模は187×－×91cm、底面は159×－cm。Ｊ52号住と重複、新旧不明。

ＪＰ139号土坑　（図－251・261・263、表－160～162、図版－117・146）
イ－５区－85。円形。方位はＮ－５°－Ｗ。規模は－×129×71cm、底面は－×63cm。Ｊ52号住と重複。本跡が旧い。凹刃削器、関山式の土器が出土。

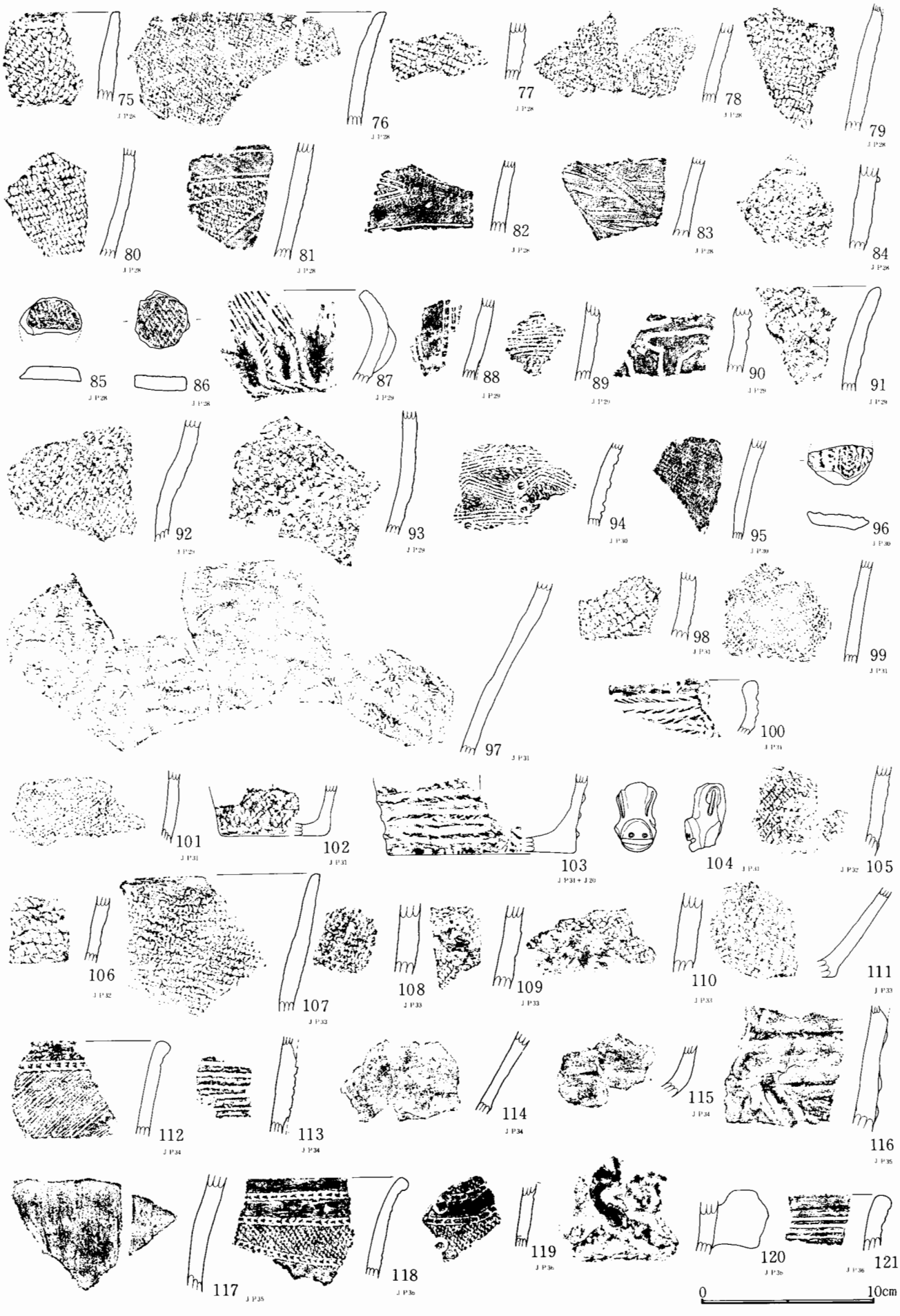
ＪＰ140号土坑　（図－251・263、表－161・162、図版－146）
Ｒ－101区－80。方形。方位はＮ－73°－Ｗ。規模は96×86×32cm、底面は84×74cm。交刃削器が出土。Ｊ20住と重複。



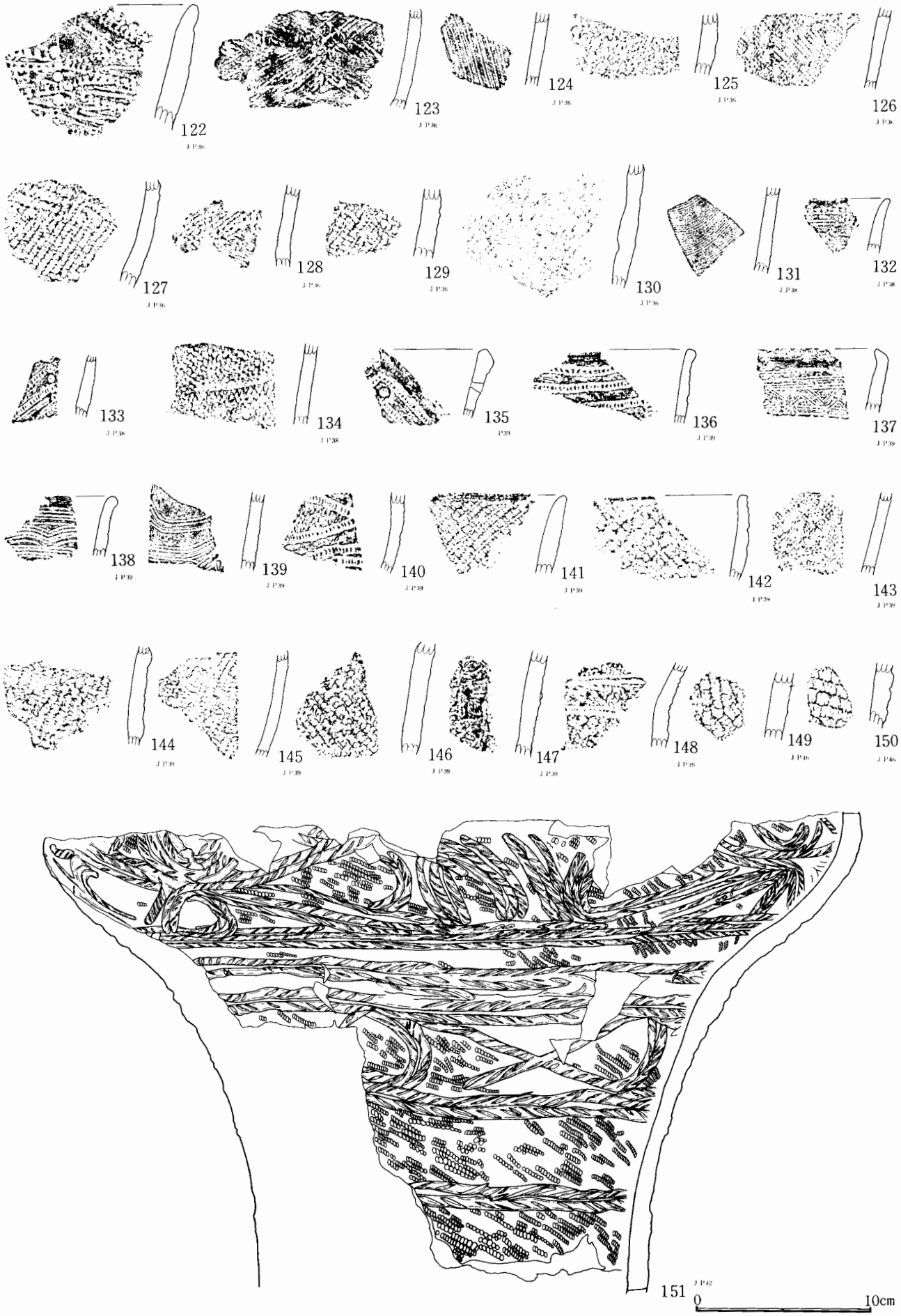
図－252　ＪＰ土坑出土土器（１）



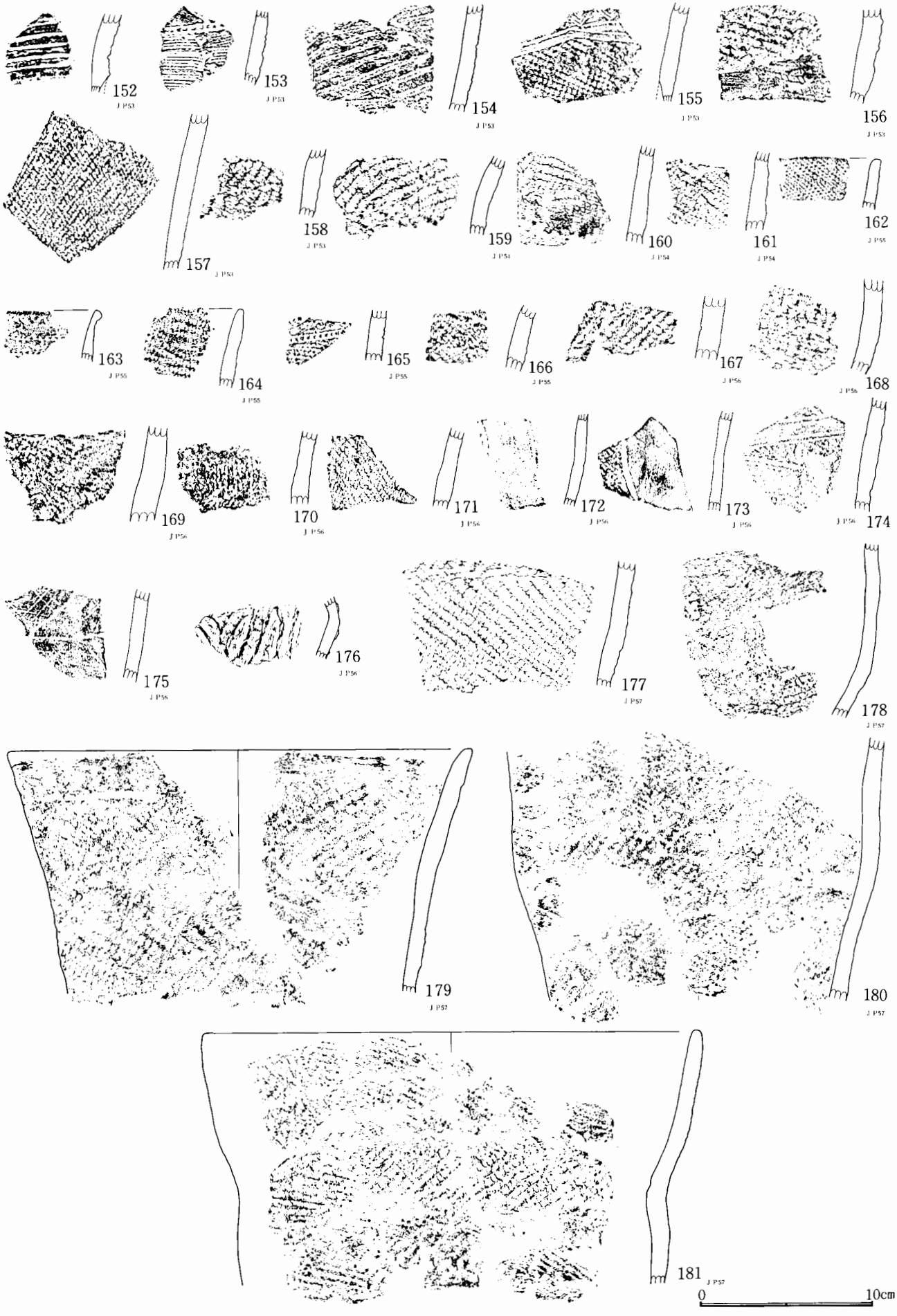
図－253　ＪＰ土坑出土土器（２）



図－254　ＪＰ土坑出土土器（３）

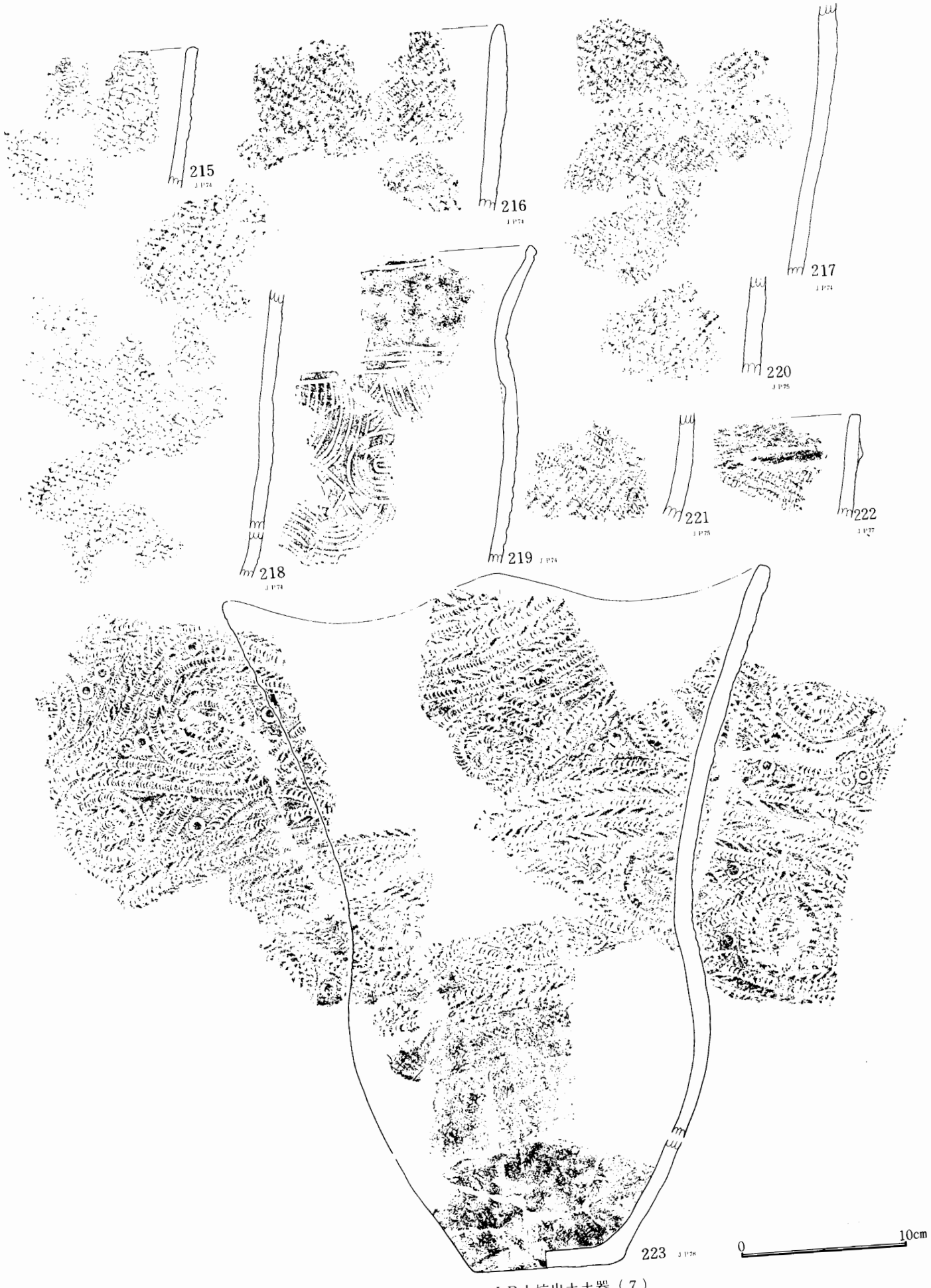


図－255　ＪＰ土坑出土土器（４）



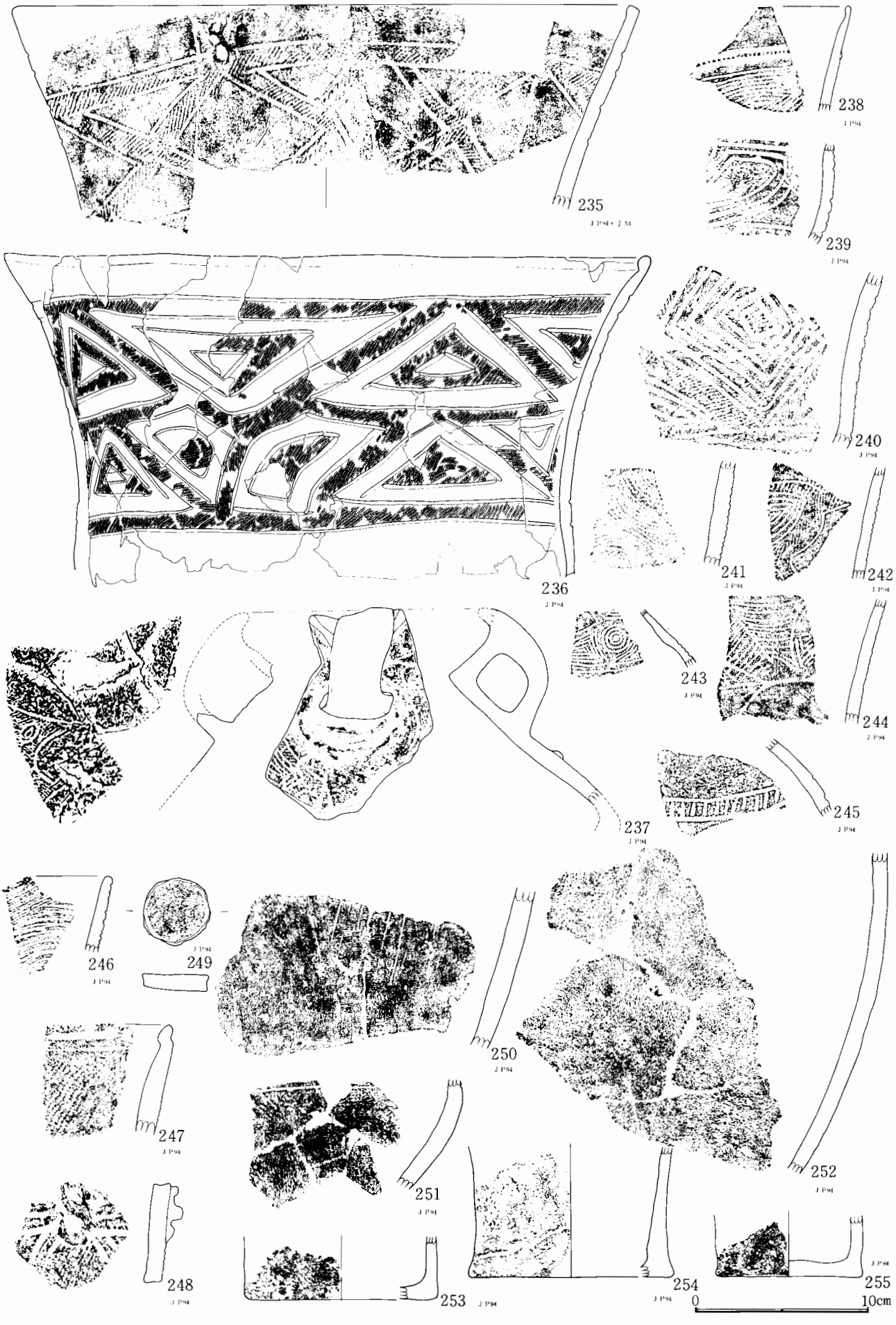
図－256　ＪＰ土坑出土土器（５）

図－257　ＪＰ土坑出土土器（６）



図－258　ＪＰ土坑出土土器（７）

図－259　ＪＰ土坑出土土器（８）



図－260　ＪＰ土坑出土土器（９）

図－261　ＪＰ土坑出土土器（10）

表－160　ＪＰ出土土器観察表（図－252～261　図版－112～118）

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土　②色調　③残存	時　期	出土位置	備　　考
1	ＪＰ4	O段多条ＲＬ・羽状構成。突起。	①繊維②にぶい橙③口縁部	黒浜	—	
2	ＪＰ6	沈線。	①中粒②にぶい橙③胴部	称名寺2	—	
3	ＪＰ6	太く浅い沈線。	①粗粒②淡黄色③胴部	称名寺1	—	
4	ＪＰ6	沈線、縄文ＬＲ。	①中粒②暗灰黄色③胴部	称名寺1	—	

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
5	ＪＰ6	沈線、縄文ＬＲを充填する。	①中粒②淡黄色③胴部	称名寺1	—	
6	ＪＰ7	沈線でＹ字文を構成する。	①中粒②暗灰黄色③口縁部	称名寺2	—	
7	ＪＰ7	小波状口縁。波頂部に刻み。沈線とやや長めの列点。	①細粒②黄褐色③口縁部	称名寺2	—	
8	ＪＰ7	口唇部に刺突と連結した沈線文。沈線と縄文ＬＲ。円形刺突。口唇内側に縁。	①細粒②にぶい黄色③口縁部	称名寺1	—	
9	ＪＰ7	沈線と短い列点。	①細粒②橙色③口縁部	称名寺2	—	
10	ＪＰ7	縦位の沈線。	①粗粒②橙色③胴部	称名寺2	—	
11	ＪＰ7	太く深い沈線。短い列点。	①中粒②浅黄色③胴部	称名寺2	—	
12	ＪＰ7	刺突円形貼付文。沈線。	①中粒②にぶい橙色③胴部	堀之内1	—	
13	ＪＰ7 ＪＰ8	口縁に平行した沈線。それ以下は2本1組の条線	①中粒②浅黄色③口縁部	中～後期	—	
14	ＪＰ7 ＪＰ8	縦位の条線。	①中粒②浅黄色③胴部	中～後期	—	
15	ＪＰ8	縦位の条線。	①中粒・白色鉱物②淡黄色③胴部	中～後期	—	
16	ＪＰ7 ＪＰ8	曲線風の細い条線。	①中粒②浅黄色③胴部	中～後期	—	
17	ＪＰ8	太く深い沈線。	①細粒②明黄褐色③口縁部	称名寺2	—	
18	ＪＰ8	沈線。列点。	①細粒②淡黄色③胴部	称名寺2	—	
19	ＪＰ8	沈線。列点。	①細粒②淡黄色③胴部	称名寺2	—	
20	ＪＰ8	稚拙な沈線。	①細粒②淡黄色③胴部	称名寺2	—	
21	ＪＰ8	沈線。縄文Ｒ。	①細粒②にぶい黄色③胴部	称名寺2？	—	
22	ＪＰ8	沈線。縄文ＬＲ。	①細粒②灰黄褐色③胴部	称名寺1	—	
23	ＪＰ8	沈線と列点によるＹ字文。	①中粒・白色鉱物②灰黄色③胴部	称名寺1	—	
24	ＪＰ8	突起。貫通孔。太く深い沈線。縄文ＲＬ。	①細粒②橙色③口縁部	称名寺1	—	
25	ＪＰ9	微隆起区画。口縁部無文帯。縄文ＬＲを貫入して弧線が描かれる。	①中粒②淡黄色③口縁部	加曽利Ｅ4	—	
26	ＪＰ9	突起。隆帯に刺突。縄文ＬＲ。	①中粒②黒色③口縁部	称名寺1	—	
27	ＪＰ9	刻み隆帯。上部に延びて突起。中央凹み。縄文ＬＲ。	①中粒・白色鉱物②黄灰色③口縁部	称名寺1	—	
28	ＪＰ9	細い沈線。縄文Ｌ。	①細粒②黄灰色③口縁部	称名寺1	—	
29	ＪＰ9	太く深い沈線。Ｓ字文。縄文ＬＲ。	①細粒②浅黄色③胴部	称名寺1	—	
30	ＪＰ9	太く深い沈線。Ｓ字文。縄文ＬＲ。	①粗粒②暗灰黄色③胴部	称名寺1	—	
31	ＪＰ9	細い沈線。Ｓ字文。縄文Ｌ。	①細粒②黄灰色③胴部	称名寺1	—	28と同一個体
32	ＪＰ9	太く深い沈線。縄文ＬＲ。	①中粒②淡黄色③胴部	称名寺1	—	
33	ＪＰ9	隆帯に刺突。縄文ＬＲ。	①中粒②淡黄色③胴部	称名寺1	—	
34	ＪＰ10	隆線区画、瘤。縄文ＬＲ。	①中粒・白色鉱物②淡黄色③胴部	加曽利Ｅ4	—	
35	ＪＰ14	Ｏ段多条の縄文ＲＬ。	①繊維多い②明黄褐色③胴部	黒浜？	—	
36	ＪＰ14	Ｏ段多条の縄文ＲＬ。	繊維多い②にぶい黄橙色③胴部	黒浜？	—	
37	ＪＰ14	Ｏ段多条の縄文ＲＬ。	①繊維多い②明黄褐色③胴部	黒浜？	—	

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
38	ＪＰ14	縄文ＲＬ。上げ底。	①繊維多い②橙色③底部	黒浜	—	
39	ＪＰ17・No.1	連続爪形文。縄文ＬＲ。	①繊維多い②にぶい黄橙色③胴部	黒浜	—	
40	ＪＰ17	O段多条の縄文ＲＬ。	①繊維②橙色③底部	黒浜	—	
41	ＪＰ19	縄文Ｌがまだらに施文。	①繊維多い②淡黄色③胴部	黒浜	—	
42	ＪＰ19No.1	連続爪形文。縄文ＲＬ。	①細粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯ａ	—	
43	ＪＰ19	浅い細かな２条の沈線。	①繊維②灰褐色③胴部	黒浜	—	
44	ＪＰ24	櫛歯状工具による集合沈線で直線と曲線で構成される。	①細粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯ａ	—	
45	ＪＰ24	櫛歯状工具による集合沈線で山形が構成される。	①細粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯ａ	—	44と同一個体
46	ＪＰ24	２個の突起。縦位の爪形文と平行線。	①中粒②橙色③口縁部	諸磯ａ	—	
47	ＪＰ24	半截竹管による連続爪形文による山形文。円管文。縄文ＲＬ。	①細粒②赤褐色③胴部	諸磯ａ	—	
48	ＪＰ24	半截竹管文による連続爪形文。縄文ＲＬ。	①細粒②淡黄色③胴部	諸磯ａ	—	
49	ＪＰ24	半截竹管文による連続爪形文の木葉文。縄文ＲＬ。	①細粒②赤褐色③胴部	諸磯ａ	—	
50	ＪＰ24	平行沈線。縄文ＲＬ。	①細粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯ａ	—	
51	ＪＰ24	縄文ＲＬ。	①細粒②暗赤灰色③胴部	諸磯	—	
52	ＪＰ24	縦位の円管文。縄文ＲＬ。	①細粒②明赤褐色③胴部	諸磯ａ	—	
53	ＪＰ24	縄文ＲＬ。	①中粒②橙色③胴部	諸磯	—	
54	ＪＰ24	縄文ＲＬ。	①細粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯	—	
55	ＪＰ24	縄文ＲＬ。	①中粒②橙色③胴部	諸磯	—	
56	ＪＰ25	付加条。ＬＲにＲを右巻き、左巻きにしている。	①繊維②褐灰色③胴部	黒浜	—	
57	ＪＰ25	緩い撚りの縄文ＲＬ。２本単位。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	—	
58	ＪＰ25・No.2	禾本科植物の繊維痕のある工具で横方向の平行線が密に施文される。	①繊維②褐灰色③胴部	黒浜	—	
59	ＪＰ25	縄文ＲＬ。	①中粒②黒褐色③胴部	諸磯	—	
60	ＪＰ25	縄文原体不明。	①繊維②黄橙色③底部	黒浜	—	
61	ＪＰ26	半截竹管文による連続爪形文と円管文。	①細粒②橙色③口縁部	諸磯ａ	—	
62	ＪＰ26・埋	半截竹管文による平行沈線と縄文ＲＬ。	①中粒・白色鉱物②淡黄色③胴部	諸磯ａ	—	
63	ＪＰ26	半截竹管文による連続爪形文と綾杉状の集合沈線。	①細粒②にぶい黄褐色③胴部	諸磯ａ	—	
64	ＪＰ26	縄文ＲＬ。	①繊維②黒褐色③胴部	黒浜	—	
65	ＪＰ26	縄文ＲＬ。	①繊維②にぶい赤褐色③胴部	黒浜	—	
66	ＪＰ26	縄文ＬＲ。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	—	
67	ＪＰ26	縄文ＲＬ。	①中粒・白色鉱物②黄灰色③胴部	諸磯	—	
68	ＪＰ28	半截竹管文による平行沈線と隆帯で構成される。隆帯には、斜めの刻みが入る。円形刺突が上下に施文。	①細粒・黒色鉱物②淡黄色③口縁部	諸磯ａ	—	
69	ＪＰ28	縦位の円形刺突と５本歯の櫛歯状工具による直線と波状文で構成される。	①中粒・白色鉱物②赤褐色③口縁部	諸磯ａ	—	
70	ＪＰ28	横方向３条の連続爪形文。胴部には縄文ＲＬ。	①細粒・白色鉱物②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯ａ	—	

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
71	J P28	横方向の平行沈線内に鋸歯文構成の平行沈線。	①中粒・白色鉱物 ②明黄褐色③口縁部	諸磯a	—	
72	J P28	横方向に1条の連続爪形文。それ以下は縄文RLが浅く施文される。	①細粒・黒色鉱物②橙色 ③口縁部	諸磯a	—	
73	J P28	縄文RLが全面に施文。	①細粒②橙色③口縁部	諸磯a	—	
74	J P28	縄文LR。	①繊維②暗赤褐色③口縁部	黒浜	—	
75	J P28	縦位施文による羽状縄文構成。縄文RL。	①繊維②にぶい橙色③口縁部	黒浜	—	
76	J P28	縄文RLが密接して施文される。	①細粒・褐色鉱物②浅黄橙色③口縁部	諸磯a	—	
77	J P28	縄文LR。	①繊維②黒褐色③胴部	黒浜	—	
78	J P28	縄文LR。	①細粒②橙色③胴部	諸磯	—	
79	J P28	縄文RL。	①繊維②黄橙色③胴部	黒浜	—	
80	J P28	縄文RL。	①細粒②橙色③胴部	諸磯	—	
81	J P28	半截竹管による平行沈線の文様区画。縄文RL。	①細粒②にぶい黄橙色③胴部	諸磯a	—	
82	J P28	半截竹管による平行沈線の木葉文。縄文RLが浅く施文される。	①細粒②にぶい黄橙色③胴部	諸磯a	—	
83	J P28	禾本科植物の平坦な圧痕。幅10㎜の圧痕が不規則にみられる。	①中粒・砂多い。②橙色③胴部	諸磯a	—	
84	J P28	やや太めの沈線が入る。縄文RL。	①粗粒②橙色③胴部	諸磯b	—	
85	J P28	土製円盤。縄文RL。半分欠損。研磨の後がみられる。	①中粒②にぶい橙色③½	諸磯	—	
86	J P28	土製円盤。縄文RL。打ち欠きの後に研磨を行っていない。	①細粒②にぶい橙色③ほぼ完形	諸磯	—	
87	J P29	集合沈線を施文の後、耳たぶ状の貼付。	①細粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯c	—	
88	J P29	連続爪形文が縦位に施文。	①中粒②にぶい橙色③胴部	諸磯a	—	
89	J P29	縄文LR施文後に半截竹管による横方向の平行沈線が施文される。	①中粒②にぶい橙色③胴部	諸磯b	—	
90	J P29	沈線区画によるY字文構成。	①中粒②にぶい橙色③胴部	称名寺2	—	
91	J P29	縄文RLとLRによる横位施文による羽状構成。	①繊維②橙色③口縁部	黒浜	—	
92	J P29	縄文RL。	①中粒・白色鉱物②にぶい橙色③胴部	諸磯	—	
93	J P29	縄文RLとLRの横位施文による羽状構成。	①繊維②橙色③口縁部	黒浜	—	91と同一個体
94	J P30	縄文RL施文の後に5本単位の櫛歯状工具による集合沈線が描出される。縦位の円管文が施文。	①細粒②にぶい橙色③胴部	諸磯a	—	
95	J P30	縄文RL。	①細粒②橙色③胴部	諸磯a	—	
96	J P30	土製円盤。大きめな半截竹管による平行の連続爪形文が入る。打ち欠きの後の研磨はあまり行われていない。	①中粒・白色鉱物②にぶい橙色③½	諸磯b	—	
97	J P31	半截竹管による疑似縄文風の刺突が不規則に入る。	①細粒②橙色③胴部	諸磯	—	
98	J P31	縄文LRとRLの横位施文による羽状構成。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	—	
99	J P31	縄文RL。	①中粒②橙色③胴部	諸磯a	—	
100	J P31	地文に縄文RL施文後、浮線を貼付。	①細粒②にぶい黄橙色③口縁部	諸磯b	—	
101	J P31	縄文LR。	①細粒・白色鉱物②にぶい橙色③胴部	諸磯a	—	
102	J P31	縄文LR。	①中粒②にぶい橙色③底部	諸磯	—	
103	J P31	矢羽状刻みが入る浮線	①砂粒②明赤褐色③底部	諸磯b	—	J 20・—25と接

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
104	ＪＰ31	獣面把手。猪。	①細粒②淡黄色③把手	諸磯ｂ	—	
105	ＪＰ32・№1	Ｏ段多条ＲＬ。	①繊維②にぶい赤褐色③胴部	黒浜？	—	
106	ＪＰ32・№4	縄文Ｒ。	①繊維②黒褐色③胴部	黒浜	—	
107	ＪＰ33	縄文ＲＬ。	①繊維②明黄褐色③口縁部	黒浜	—	
108	ＪＰ33	縄文ＲＬ。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	—	
109	ＪＰ33	縄文ＲＬ。	①繊維②黒色③胴部	黒浜	—	
110	ＪＰ33	縄文ＲＬとＬＲの縦位施文による羽状構成。	①繊維②浅黄橙色③胴部	黒浜	—	
111	ＪＰ33	縄文ＲＬ。	①中粒・白色鉱物②橙色③底部	諸磯	—	
112	ＪＰ34	条痕施文の後、口縁に平行して半截竹管による爪形。	①細粒②明赤褐色③口縁部	諸磯ａ	—	
113	ＪＰ34	半截竹管による太めの平行沈線。	①中粒②明黄褐色③胴部	諸磯	—	
114	ＪＰ34	無文部。横方向の丁寧な篦磨き。	①細粒②明赤褐色③胴部	諸磯	—	
115	ＪＰ34	無文部。横方向の丁寧な篦磨き。	①細粒②明赤褐色③胴部	諸磯	—	
116	ＪＰ35	微隆起区画による２段構成のＪ字文。縄文ＲＬ？。	①中粒・白色鉱物②浅黄色③胴部	称名寺１	—	
117	ＪＰ35	太い沈線区画。	①中粒②にぶい黄橙色③胴部	称名寺２	—	
118	ＪＰ36	口縁に平行する半截竹管による連続爪形文。縄文ＲＬ施文。	①細粒②にぶい橙色③口縁部	諸磯ａ	—	
119	ＪＰ36	半截竹管による連続爪形文によって弧線が描かれる。縄文ＲＬと円管文が入る。	①細粒②赤褐色③胴部	諸磯ａ	—	
120	ＪＰ36	隆帯と突起部分で構成。隆帯刻み。沈線は結節沈線。	①細粒・金雲母②にぶい赤褐色③口～頸部	阿玉台	—	
121	ＪＰ36	口縁に平行する半截竹管による平行線で構成される。	①細粒②橙色③口縁部	諸磯ｃ	—	
122	ＪＰ36	波状口縁。縦位に配された円孔を中心に菱形の文様が連続爪形によって構成される。	①中粒・繊維？②にぶい赤褐色③口縁部	黒浜	—	
123	ＪＰ36・№4	底部付近。縄文Ｒ。	①繊維②明赤褐色③胴部～底部	黒浜	—	
124	ＪＰ36	半截竹管による斜め方向の平行沈線。	①中粒②橙色③胴部	諸磯ａ	—	
125	ＪＰ36	半截竹管による平行沈線と縄文ＲＬ。	①中粒②橙色③胴部	諸磯ａ	—	
126	ＪＰ36	縄文ＲＬ。	①細粒②にぶい橙色③胴部	諸磯	—	
127	ＪＰ36	節の太さの違う縄文ＲＬとＬＲの横位施文による羽状構成。	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	—	
128	ＪＰ36	縄文ＬＲ。	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	—	
129	ＪＰ36・№4	付加条。親縄ＬＲ。子縄Ｒ。	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	—	
130	ＪＰ36・№4	縄文ＬＲによる羽状構成。	①繊維②浅黄橙色③胴部	黒浜	—	
131	ＪＰ38	７本単位の集合沈線。	①細粒②にぶい赤褐色③胴部	諸磯ａ	—	
132	ＪＰ38	半截竹管による平行沈線文と三角形の連続爪形。	①細粒②赤褐色③口縁部	諸磯ａ	—	
133	ＪＰ38	小さな円管文が縦位に配され、それから連続爪形文が展開される。	①細粒②にぶい橙色③胴部	諸磯ａ	—	
134	ＪＰ38	縄文ＲＬ。	①繊維②明赤褐色③胴部	諸磯	—	
135	ＪＰ39	大波状口縁。円孔を有し、連続爪形文が施文される。	①細粒②にぶい赤褐色③口縁部	諸磯ａ	—	
136	ＪＰ39	口縁に平行する連続爪形文が施文される。	①細粒②明赤褐色③口縁部	諸磯ａ	—	

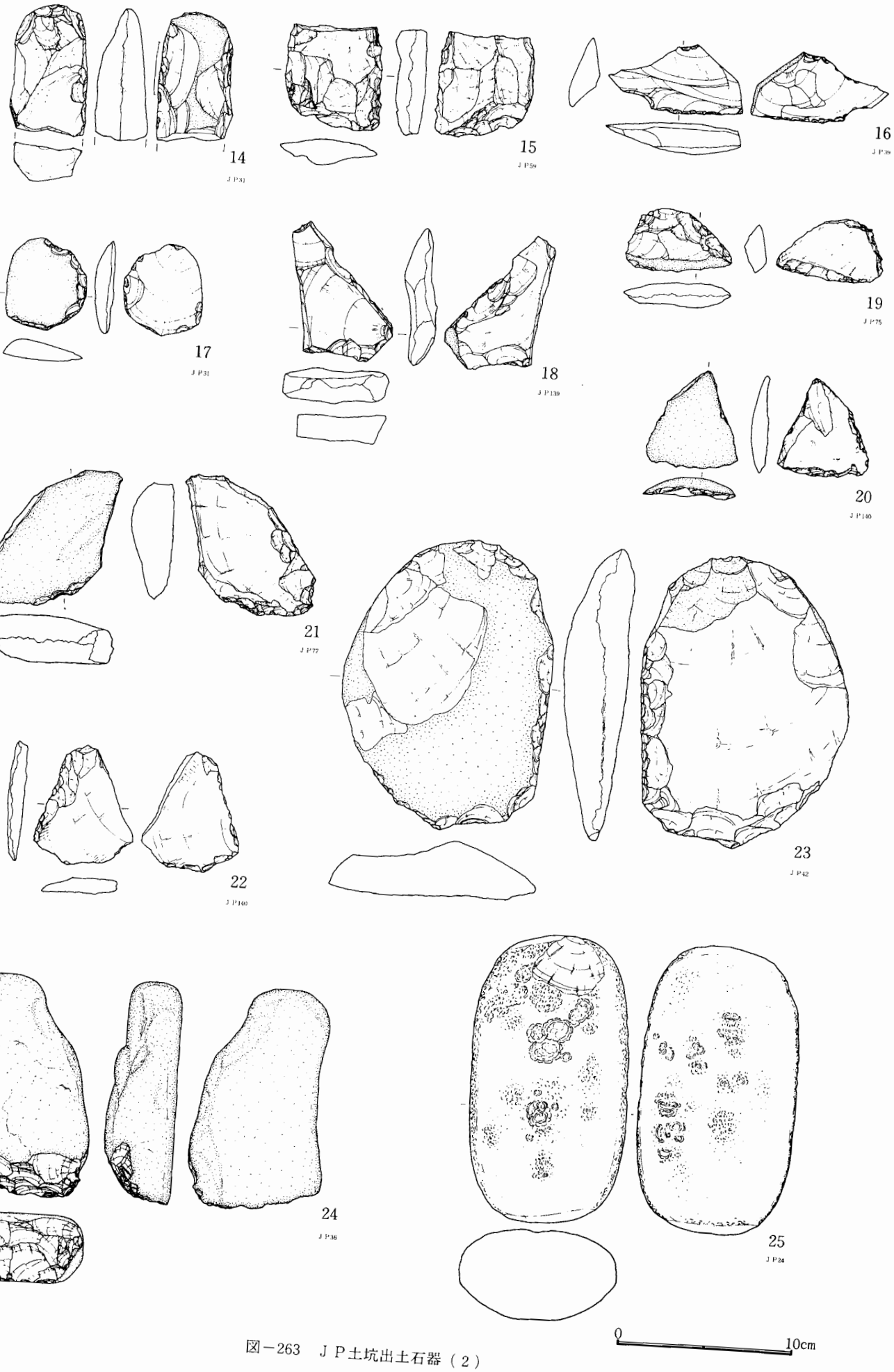
番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
137	J P39	4本1組の集合沈線で平行線と鋸歯文が描かれ、等間隔で刺突が入る。	①細粒②明赤褐色③口縁部	諸磯a	—	
138	J P39	5本単位の集合沈線で平行線と弧線が描かれる。	①細粒②明赤褐色③口縁部	諸磯a	—	
139	J P39	4本単位の集合沈線で弧線が描かれ、円管文が施文される。	①細粒②橙色③胴部	諸磯a	—	
140	J P39	半截竹管による連続爪形文で木葉文が描かれる。縄文RL。	①細粒②橙色③胴部	諸磯a	—	
141	J P39	付加条。LR+R。	①繊維②にぶい黄橙色③口縁部	黒浜	—	
142	J P39	縄文LR。	①繊維②にぶい橙色③口縁部	黒浜	—	
143	J P39	縄文RL。	①細粒・石英②橙色③胴部	諸磯	—	
144	J P39	縄文RL。	①繊維②褐灰色③胴部	黒浜	—	
145	J P39	縄文RL。	①細粒②灰褐色③胴部	諸磯	—	
146	J P39	縄文RL。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	—	
147	J P39	側面圧痕。縄文RとLの緊縛。	①繊維②黒褐色③胴部	花積下層	—	
148	J P39	平行沈線。縄文LR。	①中粒②にぶい橙色③胴部	諸磯a	—	
149	J P46	O段多条LR。	①繊維②灰黄色③胴部	黒浜	—	
150	J P46	O段多条RL。	①繊維②浅黄色③胴部	黒浜	—	
151	J P42	口縁部が大きく開き、胴部がすぼまる深鉢。地文に縄文RLを施文し、太めの浮線が貼付される。	①細粒②にぶい赤褐色③全体の⅓	諸磯b	—	
152	J P53	半截竹管文による平行沈線。	①繊維②明赤褐色③胴部	黒浜	—	
153	J P53	円形竹管文を中心に6本1組の集合沈線と連続爪形文で構成される。	①細粒②橙色③胴部	諸磯a	—	
154	J P53	側面圧痕。RとLの緊縛。	①繊維②黒色③胴部	花積下層	—	
155	J P53	半截竹管文による平行線と鋸歯文。縄文LR。	①中粒②にぶい橙色③胴部	諸磯a	—	
156	J P53	縄文R。	①繊維②灰黄褐色③胴部	黒浜	—	
157	J P53	縄文RL。	①細粒②にぶい橙色③胴部	諸磯	—	
158	J P53	O段多条LR。	①繊維②暗赤褐色③胴部	黒浜	—	
159	J P54	無節LとLRによる羽状構成。	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	—	
160	J P54	縄文RL。	①繊維僅か②黒色③胴部	黒浜	—	
161	J P54	縄文LR。	①繊維少ない②にぶい黄橙色③胴部	黒浜	—	
162	J P55	縄文RL。	①細粒②黒褐色③口縁部	諸磯	—	
163	J P55	連続爪形文が3条。	①中粒②にぶい橙色③口縁部	諸磯a	—	
164	J P55	縄文LR。	①繊維②褐灰色③口縁部	黒浜	—	
165	J P55	連続爪形文と円管文。縄文RL。	①細粒②明赤褐色③胴部	諸磯a	—	
166	J P55	縄文LR。	①繊維②黄橙色③胴部	黒浜	—	
167	J P56	縄文RL。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	—	
168	J P56	縄文LR。	①繊維②にぶい黄橙色③胴部	黒浜	—	
169	J P56	縄文RL。	①中粒②浅黄橙色③胴部	加曽利E4	—	

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
170	J P56	原体側面圧痕。縄文RとLの緊縛。	①繊維②橙色③胴部	花積下層	—	
171	J P56	縄文RL。	①細粒②橙色③胴部	諸磯	—	
172	J P56	細く浅い沈線で弧線が描かれる。	①中粒②浅黄橙色③胴部	称名寺2	—	
173	J P56	沈線区画と縄文LRが施文される。	①細粒②浅黄橙色③胴部	称名寺1	—	
174	J P56	半截竹管文による平行沈線と縄文RL。	①細粒②浅黄橙色③胴部	諸磯a	—	
175	J P56	半截竹管文による格子目風の沈線。	①中粒②浅黄橙色③胴部	諸磯	—	
176	J P56	地文に縄文を転がし、浮線文が貼付。浮線の刻みは人の爪と思われる。	①細粒②浅黄橙色③胴部	諸磯b	—	
177	J P57・No.3	縄文RLと縄文LRの横位施文による羽状構成。	①繊維②黒色③胴部	黒浜	—	
178	J P57	縄文LR。	①繊維②にぶい黄橙色③胴部	黒浜	—	
179	J P57・No.3	平口縁。縄文LRとRLの横位施文による羽状構成。	①繊維②黒褐色③口縁部	黒浜	—	
180	J P57・No.4・5	縄文RLとLRの横位施文による羽状構成。胴部に段を有する。	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	—	
181	J P57・No.5	平口縁で胴部にややくびれを有する。縄文RLとRで菱形文を構成。	①繊維②黒褐色③口縁部¼	黒浜	—	
182	J P57	地文に縄文が施され、篦状工具による沈線が斜位に3条施文される。	①繊維②にぶい黄橙色③胴部	黒浜	—	
183	J P57・No.5	付加条。LR+L。	①繊維②にぶい黄橙色③胴部	黒浜？	—	
184	J P57・No.3	縄文RL。	①細粒②灰黄褐色③胴部	諸磯a	—	
185	J P57・No.1	平底。縄文RL。	①繊維②浅黄色③底部	黒浜	—	
186	J P57・No.2	やや上げ底の底部。縄文RL。	①繊維②浅黄橙色③底部	黒浜	—	
187	J P57	平底。縄文RL。	①繊維②浅黄橙色③底部	黒浜	—	
188	J P57・No.5	平底。縄文R。	①繊維②にぶい黄橙色③底部	黒浜	—	
189	J P58	粗い縄文LR。	①繊維②褐灰色③胴部	黒浜	—	
190	J P58	縄文LR。	①中粒②にぶい橙色③胴部	諸磯	—	
191	J P58	粗い縄文LR。	①繊維②灰褐色③胴部	黒浜	—	
192	J P58	細縄文RL。	①細粒②褐灰色③胴部	諸磯	—	
193	J P58	半截竹管による連続爪形文とO段多条のRLと同じくLRによる羽状構成。	①繊維②黒褐色③胴部	黒浜	—	
194	J P58	連続爪形文と円形刺突。補修孔あり。	①細粒②褐灰色③胴部	諸磯a	—	
195	J P58	半截竹管文による平行沈線によって木葉文が描出される。縄文RL。	①細粒②にぶい黄橙色③胴部	諸磯a	—	
196	J P58	半截竹管文による連続爪形文と縄文RL。	①粗粒・大粒な砂粒②橙色③胴部	諸磯a	—	
197	J P58	半截竹管による連続爪形文が口縁に平行して1条施文される。それ以下は半截竹管による斜位の沈線。	①中粒・白色鉱物②浅黄橙色③口縁部	諸磯a	—	
198	J P59	不揃いな撚りの縄文RL。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	—	
199	J P59	縦位の条線文。無文部が間隔をおいて入る。	①中粒・白色鉱物②橙色③胴部	中～後期	—	
200	J P60	不揃いの縄文RL。	①繊維②褐灰色③胴部	黒浜	—	
201	J P60	撚りのあまい縄文RLとLRによる羽状構成。	①繊維多い②にぶい橙色③胴部	黒浜	—	
202	J P60	撚りのあまい縄文RL。	①繊維多い②黒褐色③胴部	黒浜	—	

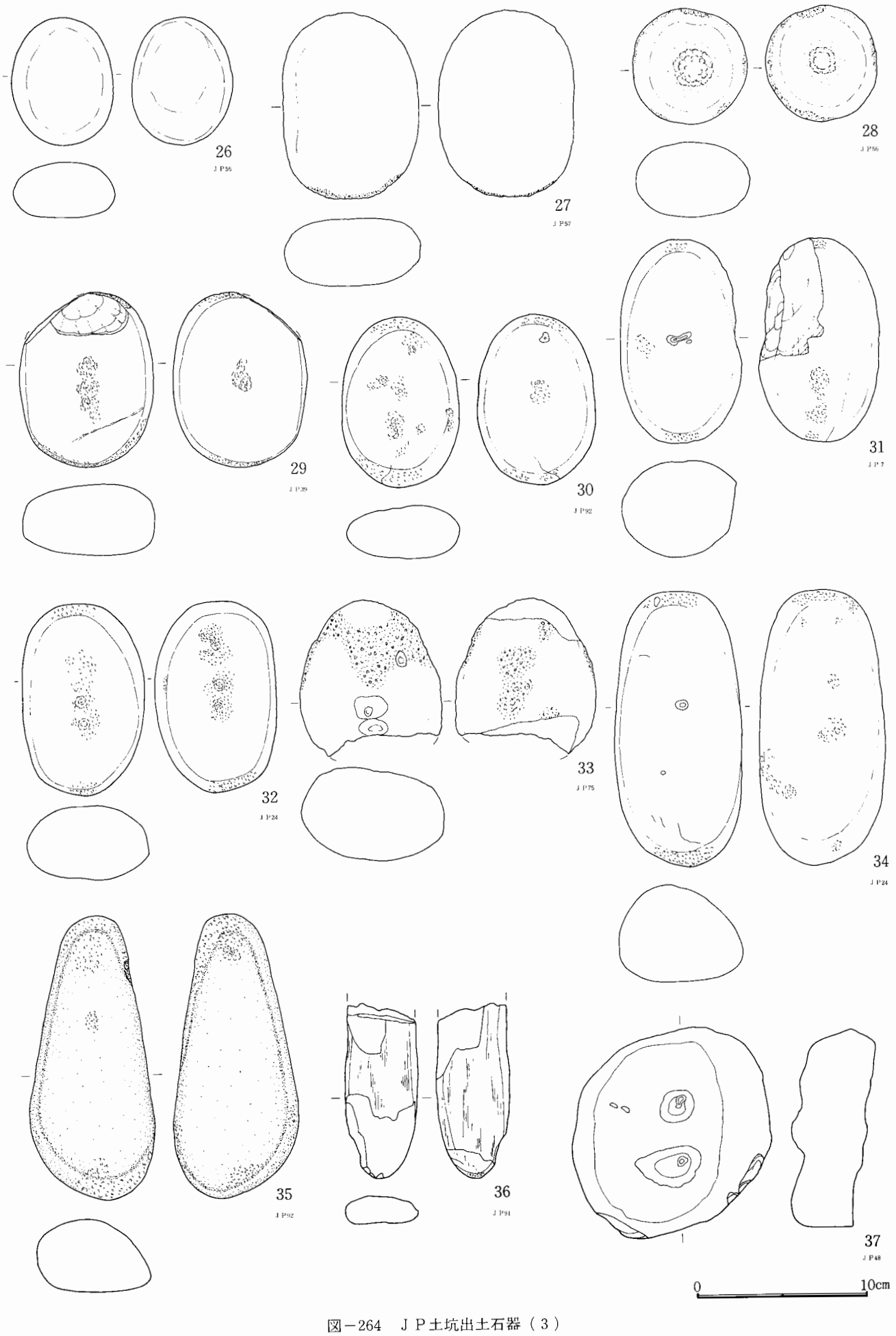
番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
203	J P60	撚りのあまい縄文RLとLRによる羽状構成。	①繊維②にぶい橙色③胴部	黒浜	—	
204	J P60	撚りのあまい縄文LR。	①繊維②にぶい橙色③底部	黒浜	—	
205	J P60	O段多条の縄文LRが施文される。底部は上げ底。	①繊維多い、大粒の砂粒②橙色③底部	黒浜	—	
206	J P60	土製円盤。周囲は打ち欠いたままで、研磨はなされない。縄文LR。	①繊維②灰赤色③土製円盤	黒浜	—	
207	J P61	半截竹管文による連続爪形文。浅い円形のくぼみ。縄文RL。	①繊維少量②明赤褐色③胴部	黒浜	—	
208	J P61	固い撚りの縄文RL。	①中粒・砂粒多い②にぶい橙色③胴部	諸磯a	—	
209	J P61	半截竹管による連続爪形文。細縄文RL。	①細粒②橙色③胴部	諸磯a	—	
210	J P61	半截竹管による木葉文。文様区画内には縄文RLが施文される。	①細粒②浅黄橙色③胴部	諸磯a	—	
211	J P67	沈線区画内に縄文LRが施文される。	①細粒②浅黄橙色③胴部	加曽利E4	—	
212	J P67	壺形土器。外面は縦位の撫で。	①中粒②橙色③½	堀之内	—	
213	J P70	向かい合うJ字文で2段構成となる。沈線区画外には縄文LRが施文される。	①中粒②にぶい橙色③胴部	称名寺1	—	214と同一個体
214	J P70	上半部を大きく欠損。胴部のくびれに刺突のある隆帯。浅い沈線でJ字を基調とした沈線区画。縄文LR充填。	①細粒②黄橙色③½	称名寺1	—	J35—3と接
215	J P74 (H217・No4)	平口縁。口縁に三角形の突起。口縁部にやや乱れたコンパス文。それ以下は異節斜縄文。	①繊維多い②淡黄色③口縁部	関山	—	
216	J P74 (H217・No4)	平口縁。O段多条LRとRLによる菱形文構成。	①繊維多い②にぶい橙色③口縁部	黒浜	—	217と同一個体
217	J P74 (H217・No3)	O段多条LRと縄文RLによって菱形文。	①繊維多い②にぶい橙色③胴部	黒浜	—	
218	J P74 (H217・No3)	LRL、LRの異条斜縄文とRLR、RLの異条斜縄文で羽状構成。それ以下は前々段合撚L $\begin{cases} R\begin{cases}L\\R\end{cases} \\ R\begin{cases}L\\R\end{cases}\end{cases}$ の縄文	①繊維②黄橙色③胴部	関山	—	
219	J P74・埋	口縁部に1条の沈線。胴部には弧線と直線で文様構成。口縁部と胴部は垂下する刻み隆帯で連結される。	①細粒・白色鉱物②にぶい褐色③口縁部	堀之内2	—	
220	J P75	縄文RL。	①繊維②浅黄橙色③胴部	黒浜	—	
221	J P75	縄文RLとLRで羽状構成。	①繊維②橙色③胴部	黒浜	—	
222	J P77・No5	小波状口縁。原体側面圧痕、LとRを口縁部に施文。その下部に水平に隆帯。胴部にはO段多条RLの縄文。	①繊維②明黄褐色③口縁部	花積下層	—	
223	J P78 No2・7・8・11	2単位の大波状口縁。波状は大きな舌状。口縁部は大きく開く。口唇部には太めの刻み。それ以下は隆帯と幅広の連続爪形文が交互に配される。文様は平行線（2種類）を配して上下2段に渦巻きで構成。渦巻きの空いた部分に円管文が2個を基調に施文される。胴部下半部には縄文RLが浅く施文される。①中粒・黒色鉱物②橙色③口縁部を欠くが⅓残存。 諸磯b。				
224	J P78・No5	4単位の2個1組の突起。連続爪形文と直線、上下に対向する弧線が配される。胴部には連続爪形文で山形。	①細粒②明黄褐色③⅓	諸磯b	—	
225	J P78・No5	横走する半截竹管による平行線と円管文。胴部には縄文RLが施文される。	①中粒②明黄褐色③胴部	諸磯b	—	
226	J P78	緩く口縁が開く浅鉢。現存高30cm。文様は半截竹管による平行線のあと連続爪形文が3条。さらに平行線と弧線。	①中粒・砂粒多い②橙色③口縁部を欠くが⅓残存	諸磯b	—	
227	J P78・No1	緩く開く平口縁の深鉢。口唇には3個1組の貼付が2個所に配置。口縁部には粗い連続爪形文。胴部は縄文RL。	①中粒・砂粒多い②浅黄橙色③½	諸磯b	—	
228	J P94 (5 P140)	開き気味な口縁部を持つ深鉢。文様は直線と三角形を重ねた沈線で、縄文LRが充填。8字状貼付もみられる。	①中粒②褐灰色③¼	堀之内2	—	J54・1と接
229	J P94No3・4・8(5 P140)	口縁部に横走する刻み隆帯。三角形の沈線重ね。縄文RLが充填される。	①細粒②黒褐色③口縁部	堀之内2	—	J54・2と接
230	J P94 (5 P140)	口縁に平行する帯状の文様構成。三角や菱形が沈線によって重ねられる。縄文RLが充填される。	①中粒②灰黄褐色③胴部	堀之内2	—	
231	J P94 (5 P140)	口縁に平行する帯状の文様構成。三角や菱形を基本とした沈線の重ね。縄文RLが充填される。	①細粒②にぶい黄橙色③口縁部	堀之内2	—	
232	J P94 (5 P140)	口縁に平行する帯状の文様構成。三角や菱形の沈線重ねが施文。縄文LRが充填される。8字状貼付文もあり。	①細粒②灰黄褐色③口縁部	堀之内2	—	
233	J P94 (5 P140)	口縁に平行する帯状の文様構成。三角や菱形の沈線重ねがややくずれる。縄文LRが充填される。	①細粒②にぶい黄褐色③胴部	堀之内2	—	

番号	遺物番号	文様構成・文様施文・器形の特徴	①胎土 ②色調 ③残存	時期	出土位置	備考
234	J P94 (5 P140)	口縁に平行する帯状の文様構成。三角形の沈線重ねが2段にわたって構成される。縄文LRが充填される。	①中粒・白色鉱物②暗灰黄色③⅙	堀之内2	—	
235	J P94 (5 P140)	沈線と充填縄文LRで文様構成。三角と菱形を基調とする沈線。8字状貼付文。	①中粒②灰黄褐色③口縁部	堀之内2	—	J54・3と接
236	J P94 (5 P140)	やや口縁が外反する深鉢。口縁に平行する帯状の文様構成。沈線の三角形の重ね、細縄文LRが充填される。	①粗粒・砂粒が多い②にぶい橙色③¼	堀之内2	—	
237	J P94 (5 P140)	把手2単位。沈線。円形。菱形文構成。縄文RLが充填される。	①細粒②淡黄色③口縁部	堀之内2	—	
238	J P94 (5 P140)	平口縁。隆帯と刻み。沈線の重ね。	①細粒②褐灰色③口縁部	堀之内2	—	
239	J P94 (5 P140)	沈線。弧線。平行線と刻み。	①中粒②にぶい黄色③胴部	堀之内1	—	
240	J P94 (5 P140)	太い沈線で三角形や菱形文が描出。縄文RLが充填される。	①粗粒②にぶい黄橙色③胴部	堀之内2	—	
241	J P94 (5 P140)	細く浅い沈線で、円形や三角形が描出。縄文RLが充填される。	①細粒・白色鉱物②黒褐色③胴部	堀之内2	—	注口土器？
242	J P54 (5 P140)	細い沈線の重ね。縄文RLが充填される。	①細粒②黒褐色③胴部	堀之内2	—	
243	J P94 (5 P140)	沈線により三角形や円形の重ね、細縄文RLが充填される。	①中粒・白色鉱物②にぶい黄色③胴部	堀之内2	—	注口土器
244	J P94 (5 P140)	細い沈線の重ね。縄文RLが充填される。	①中粒②にぶい黄橙色③胴部	堀之内2	—	
245	J P94 (5 P140)	平行沈線と刻み。	①中粒②にぶい黄色③胴部	堀之内1	—	239と同一個体か？
246	J P94 (5 P140)	波状口縁。半截竹管による集合沈線。	①細粒②橙色③口縁部	諸磯b	—	
247	J P94 (5 P140)	口縁に平行する2条の沈線。垂下する沈線。縄文LRが施文される。	①粗粒・白色鉱物②黒褐色③口縁部	堀之内1	—	
248	J P94 (5 P140)	土製円盤。3本単位の沈線。8字状貼付文。縄文LRが充填される。	①中粒・白色鉱物②暗灰黄色③土製円盤	堀之内1	—	
249	J P94 (5 P140)	土製円盤。無文部。	①粗粒②にぶい黄橙色③土製円盤	堀之内？	—	
250	J P94 (5 P140)	縦位の細い沈線。	①細粒②橙色③胴部	堀之内？	—	
251	J P94 (5 P140)	横走する1条沈線。	①細粒②にぶい黄橙色③胴部	堀之内？	—	
252	J P94 (5 P140)	無文部。	①粗粒②淡黄色③胴部	堀之内？	—	
253	J P94 (5 P140)	無文部。	①繊維②橙色③底部	黒浜	—	
254	J P94 (5 P140)	無文部。底部に網代。	①中粒②明黄褐色③底部	堀之内	—	
255	J P94 (5 P140)	無文部。	①粗粒②にぶい橙色③底部	堀之内	—	
256	J P94 (5 P140)	口縁部に沈線1条。胴部に横方向の3条の平行線。12単位と推定されるY字文が縦位に入る。	①細粒・砂粒多い②淡黄色③⅙	堀之内1	—	J54・6と接
257	J P94 (5 P140)	無文部。	①粗粒②浅黄橙色③底部	堀之内	—	
258	J P94 (5 P140)	底部。無文部。	①粗粒②淡黄色③底部	堀之内？	—	
259	J P94 (5 P140)	胴部に段を有する。撫でがみられるが、砂粒の浮きが著しい。	①粗粒・砂粒多い②にぶい橙色③¼	堀之内2	—	236の底部
260	J P94 (5 P140)	大きく開く底部。外面の研磨は丁寧に行っている。	①細粒②褐灰色③底部	堀之内2	—	
261	J P139	大波状口縁。口縁部には平たい工具で菱形文が構成される。また、円管文も施文。胴部にはLとR縄文の2本1組の格子目の絡条体による圧痕がみられる。①繊維②明黄褐色③口縁部　関山				

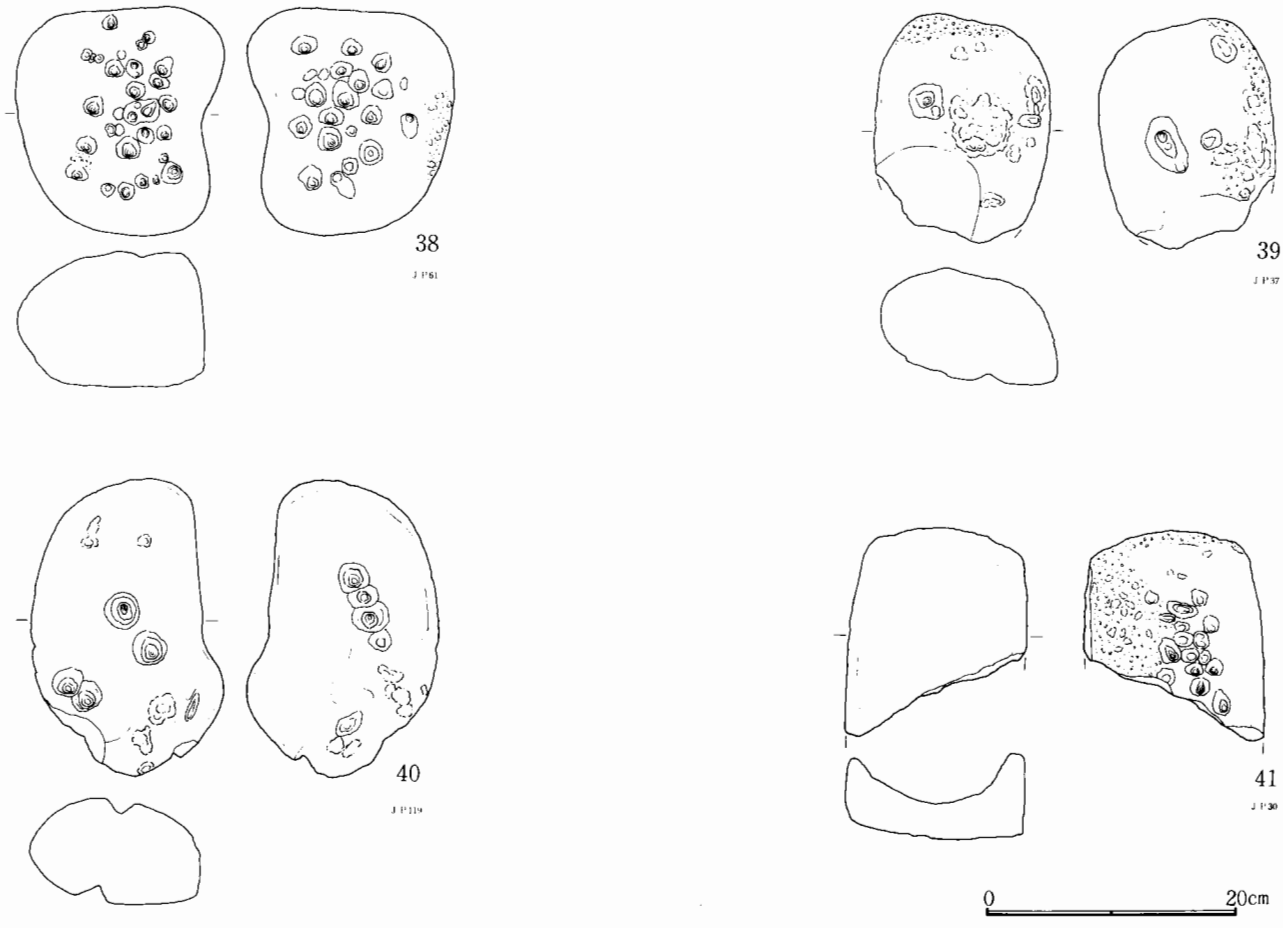
図－262　ＪＰ土坑出土石器（１）



図－263　ＪＰ土坑出土石器（２）



図－264　ＪＰ土坑出土石器（３）



図－265　ＪＰ土坑出土土石器（４）

表－161　ＪＰ土坑出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	遺構外	打製石斧	10.7	7.3	1.4	75	黒頁	30	—	—	—	滅1	—	—	ＪＰ－7
2	〃	〃	9.3	5.8	2.5	158	凝	55	—	—	—	—	—	—	ＪＰ－7
3	覆	〃	9.3	5.8	1.5	68	黒頁	40	—	—	—	—	潰1	潰1	ＪＰ－8
4	覆	〃	(7.7)	8.3	1.9	121	黒安	35	—	—	欠	滅1	—	—	ＪＰ－8
5	覆	〃	(7.9)	6.6	2.3	106	黒頁	50	—	—	欠	—	潰2	潰2	ＪＰ－8
6	覆	〃	12.7	8.2	2.8	246	〃	65	—	—	—	—	—	—	ＪＰ－28
7	1	〃	10.5	7.8	2.7	189	〃	35	—	—	—	—	潰1	潰1	ＪＰ－10
8	覆	〃	(11.0)	7.3	1.8	145	黒安	30	滅2	滅2	欠	滅2	—	—	ＪＰ－29
9	覆	〃	11.6	4.9	2.2	143	黒頁	35	—	—	—	—	—	潰1	ＪＰ－9
10	覆	摩製石斧	8.7	4.1	1.5	86	緑片	45	擦2	擦2→敲3	敲2	敲2	擦2→敲2	擦2→敲2	ＪＰ－55
11	覆	打製石斧	12.0	4.5	2.0	105	頁	60	—	—	—	—	—	—	ＪＰ－77
12	覆	〃	(4.8)	4.1	1.6	33	黒頁	25	—	—	欠	—	—	—	ＪＰ－19
13	覆	〃	(5.4)	6.8	2.1	75	頁	60	—	—	欠	滅3	—	—	ＪＰ－36
14	覆	〃	(7.5)	4.3	3.0	114	黒頁	—	—	—	—	—	—	—	ＪＰ－31
15	覆	鋸歯縁石器	6.0	5.4	1.8	60	〃	45	—	—	—	—	—	—	ＪＰ－59

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度 A	B	a	b	c	d	備考
16	覆	直刃削器	4.0	7.8	1.7	49	〃	60	—	—	—	—	—	—	JP—39
17	覆	凸刃削器	5.2	4.5	1.1	32	〃	60	—	—	—	—	—	—	JP—31
18	覆	凹刃削器	6.0	7.8	2.0	60	〃	50	—	—	—	—	—	—	JP—139
19	1	交刃削器	3.6	6.1	1.4	29	〃	70 60	—	—	—	—	—	—	JP—75
20	覆	〃	5.2	5.6	1.1	52	〃	45	—	—	—	—	—	—	JP—140
21	覆	〃	7.7	7.9	2.7	171	〃	55	—	—	—	—	—	—	JP—77
22	覆	複刃削器	6.8	5.1	0.9	55	黒安	40	—	—	—	—	—	—	JP—140
23	覆	〃	16.7	11.9	3.8	742	黒頁	45	—	—	—	—	—	—	JP—42
24	遺構外	礫器	12.8	7.6	4.0	585	〃	75	—	—	—	—	—	—	JP—36
25	覆	円礫石器	16.6	9.1	5.5	1,180	安	—	敲2→擦1	敲2→擦1	擦1	擦1	擦1	擦1	JP—24
26	覆	〃	7.4	5.9	3.3	220	〃	—	擦1	擦1	—	—	—	—	JP—56
27	覆	〃	10.7	7.8	4.0	545	斑	—	敲1	敲1	敲3	敲3	—	—	JP—57
28	覆	〃	6.7	6.6	4.3	255	〃	—	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2→擦1	JP—56
29	覆	〃	10.2	7.8	4.0	482	砂	—	擦2→敲2	擦2→敲1	敲3	敲1	擦1	擦1	JP—39
30	1	〃	9.8	6.8	3.2	277	安	—	敲2	敲2	敲1	敲1	敲1	敲1	JP—92
31	覆	〃	11.8	7.0	5.5	665	〃	—	凹1→擦1	敲1→擦1	—	敲1	—	—	JP—7
32	覆	〃	11.1	7.0	4.3	520	〃	—	敲2→擦1	敲2→擦1	敲2	敲2	—	—	JP—24
33	2	〃	(9.0)	8.2	5.5	470	〃	—	凹1	凹1	敲3	欠	敲3	敲3	JP—75
34	覆	敲き石	15.9	7.4	5.7	1,060	花	—	—	—	敲1	敲1	—	—	JP—24
35	2	敲き石	16.5	7.3	4.4	732	安	—	—	—	敲2	敲2	—	—	JP—92
36	覆	棒状石器	(10.2)	4.2	1.6	90	黒片	—	—	—	—	敲1	—	—	JP—91
37	覆	多凹石	11.6	12.3	5.8	775	安	—	凹2	—	—	—	—	—	JP—48
38	3	〃	18.3	16.3	10.9	4,530	〃	—	凹3	凹3	—	—	—	—	JP—61
39	1	〃	(18.5)	13.9	9.4	2,630	〃	—	凹3・敲2	凹3・敲2	—	欠	—	—	JP—37
40	12	〃	23.7	15.1	8.6	3,380	〃	—	凹3	凹3	—	—	—	—	JP—119
41	1	石皿＋多凹石	(16.5)	14.6	7.4	1,280	〃	—	擦1	凹3	—	欠	—	—	JP—30

表—162　JP土抗石器器種・石材別一覧表

石材＼器種	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
JP4号土抗																																
黒色頁岩																													1			1
計																													1			1
JP7号土抗																																
黒色頁岩		1																										1				2
安山岩																						1										1
その他		1																														1
計		2																				1						1				4

器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
ＪＰ８号土坑																																	
黒色頁岩		2																											6				8
黒色安山岩		1																															1
安山岩																															2		2
計		3																											6		2		11
ＪＰ９号土坑																																	
黒色頁岩		1																											2				3
安山岩																															3		3
計		1																											2		3		6
ＪＰ10号土坑																																	
黒色頁岩		1																															1
計		1																															1
ＪＰ12号土坑																																	
黒色頁岩																													1				1
計																													1				1
ＪＰ19号土坑																																	
黒色頁岩		1																											2				3
黒色片岩																													6				6
計		1																											8				9
ＪＰ24号土坑																																	
黒色頁岩																													3				3
安山岩																						2									1		3
花崗岩																					1												1
珪岩																													1				1
計																					1	2							4		1		8
ＪＰ25号土坑																																	
黒色頁岩																													8				8
安山岩																															4		4
珪岩																													2				2
計																													10		4		14
ＪＰ28号土坑																																	
黒色頁岩		1																											6				7
黒色安山岩																													1				1
計		1																											7				8
ＪＰ29号土坑																													2				2
黒色安山岩		1																															1
安山岩																															4		4
計		1																											2		4		7
ＪＰ30号土坑																																	
黒色頁岩																													4				4
安山岩																									1								1
計																									1				4				5
ＪＰ31号土坑																																	
黒色頁岩		1								1																			10				12
計		1								1																			10				12
ＪＰ32号土坑																																	
珪岩																													1				1
計																													1				1
ＪＰ33号土坑																																	
黒色頁岩																													1				1
安山岩																															1		1
計																													1		1		2
ＪＰ36号土坑																																	
黒色頁岩																	1												2				3
頁岩		1																															1
安山岩																															2		2
計		1															1												2		2		6
ＪＰ37号土坑																																	
安山岩																										1					1		2
計																										1					1		2

器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
ＪＰ38号土抗																																
頁岩																												1				1
黒色安山岩																												3				3
計																												4				4
ＪＰ39号土抗																																
黒色頁岩									1																							1
安山岩																												2		3		5
砂石																						1										1
計									1													1						2		3		7
ＪＰ40号土抗																																
安山岩																														1		1
計																														1		1
ＪＰ42号土抗																																
黒色頁岩													1																			1
計													1																			1
ＪＰ46号土抗																																
黒色頁岩																												1				1
安山岩																														2		2
計																												1		2		3
ＪＰ48号土抗																										1						1
計																										1						1
ＪＰ52号土抗																																
黒色頁岩																												1				1
計																												1				1
ＪＰ53号土抗																																
黒色頁岩																												1				1
計																												1				1
ＪＰ55号土抗																																
黒色頁岩																												2				2
緑泥片岩			1																													1
計			1																									2				3
ＪＰ56号土抗																																
安山岩																						1										1
斑岩																						1										1
計																						2										2
ＪＰ57号土抗																																
黒色頁岩																												5				5
安山岩																														3		3
斑岩																						1										1
珪岩																												1				1
その他																												1				1
計																						1						7		3		11
ＪＰ58号土抗																																
黒色安山岩																												2				2
安山岩																														1		1
計																												2		1		3
ＪＰ59号土抗																																
黒色頁岩														1																		1
計														1																		1
ＪＰ60号土抗																																
黒色頁岩																												2				2
安山岩																														5		5
珪岩																												3				3
計																												5		5		10
ＪＰ61号土抗																										1				18		19
安山岩																												1				1
黒曜石																												8				8
珪岩																										1		9		18		28
計																																

器種 / 石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
ＪＰ74号土抗																																
黒色頁岩																												3				3
計																												3				3
ＪＰ75号土抗																																
黒色頁岩												1																1				2
安山岩																						1								3		4
計												1										1						1		3		6
ＪＰ77号土抗																																
黒色頁岩												1																3				4
頁岩		1																														1
計		1										1																3				5
ＪＰ91号土抗																																
黒色片岩																								1								1
計																								1								1
ＪＰ92号土抗																					1	1										
安山岩																					1	1										2
計																					1	1										2
ＪＰ119号土抗																																
安山岩																										1						1
計																										1						1
ＪＰ139号土抗																																
黒色頁岩											1																	1				2
計											1																	1				2
ＪＰ140号土抗																																
黒色頁岩												1																3				4
黒色安山岩													1															1				2
黒曜石																												1				1
黒色片岩																												1				1
計												1	1															6				8

4．配石遺構

ＪＳ１号配石遺構　（図―266、図版―44）

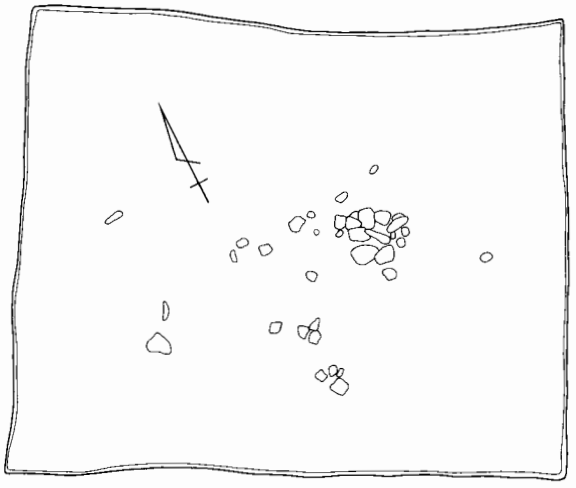
位置　西側台地南西部のＴ―５区に位置する。　**概要**　２ｍ×２ｍほどの範囲の内に、10×20cmの大小の石が約30個点在している。これらのうち概して東半に特に石の集中した地点がある。これらの石と南端の２石は焼石である。

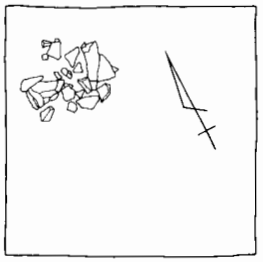
ＪＳ２号配石遺構　（図―266・267、表―163・164、図版―45・146）

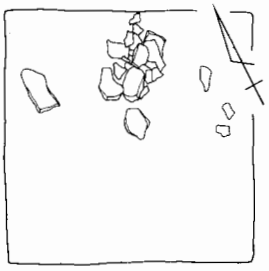
位置　西側台地南西端のＲ―３区に位置する。　**概要**　３ｍ×３ｍほどの範囲の内に大小の石が点在している。30～40cm程度のやや大きい石が北西に３個と中央に１個あり、径５cm程度の小礫が東側で南北の列状にあり、また、西南部にややまとまってある。約３ｍの方形を意図するとほぼその内におさまる。

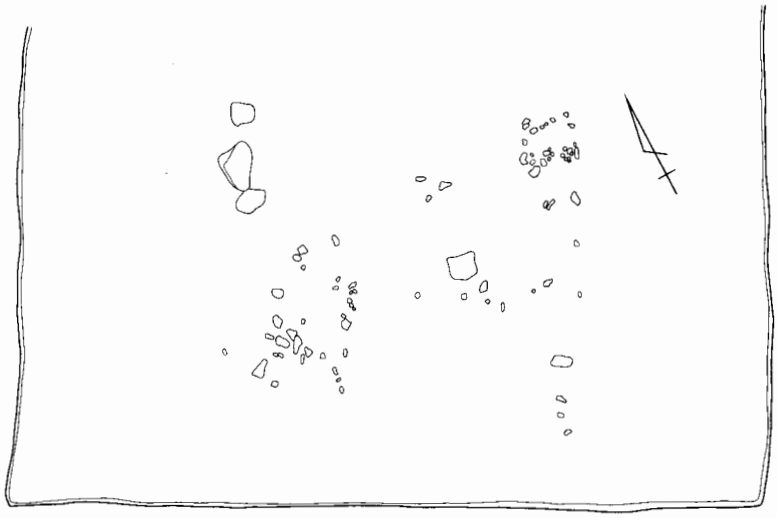
ＪＳ３号配石遺構　（図―266、図版―45）

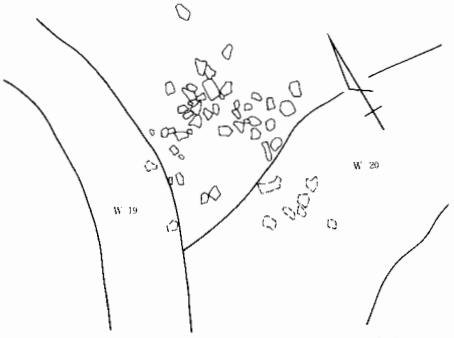
位置　西側台地南西端のＱ―101・102区に位置する。　**概要**　６ｍ×４ｍほどの内に自然石、石皿等の石器や土器片が出土している。近辺には若干の土坑が検出されたほかには遺構は確認されなかった。土器は井草式の小破片である。
重複　ＨＰ２と重複する。ＪＳ３より新しい。

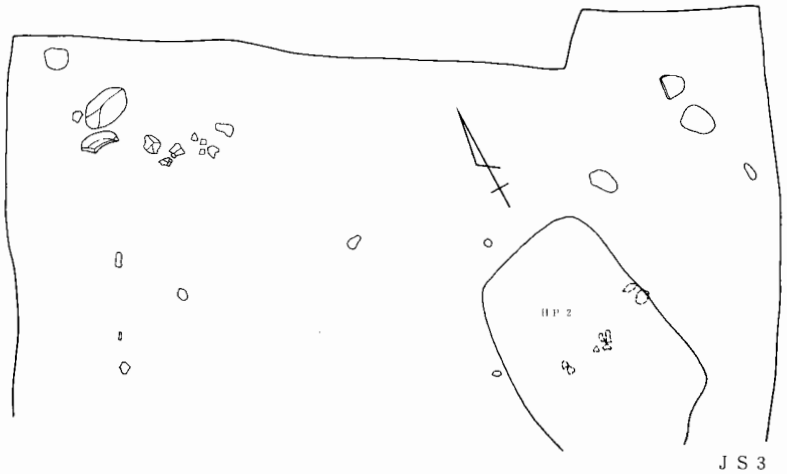












図－226　ＪＳ配石遺構

ＪＳ４号配石遺構　（図―266・267、表―163・164、図版―146）

位置　西側台地東端のチ―７―85区に位置する。　**概要**　検出面は地表面下30cmで、上部よりの掘り込みの跡はみられない。縄文の検出面に同じ。1.5m×1.5mほどの範囲に直径10～80cmの石が約25個ある。遺物の検出はなかった。

ＪＳ５号配石遺構　（図―266）

位置　ハ―７区。Ｊ40・41号住の東に位置する。　**概要**　Ｊ40・41号住と同じ検出面より約20個が検出された。西側に40×15cmの一石と中央に15～20cmほどの山石に似た石が15個ほどまとまっている。東側には小さめの石が３石ある。遺物の検出はなかった。

ＪＳ６号配石遺構　（図―266）

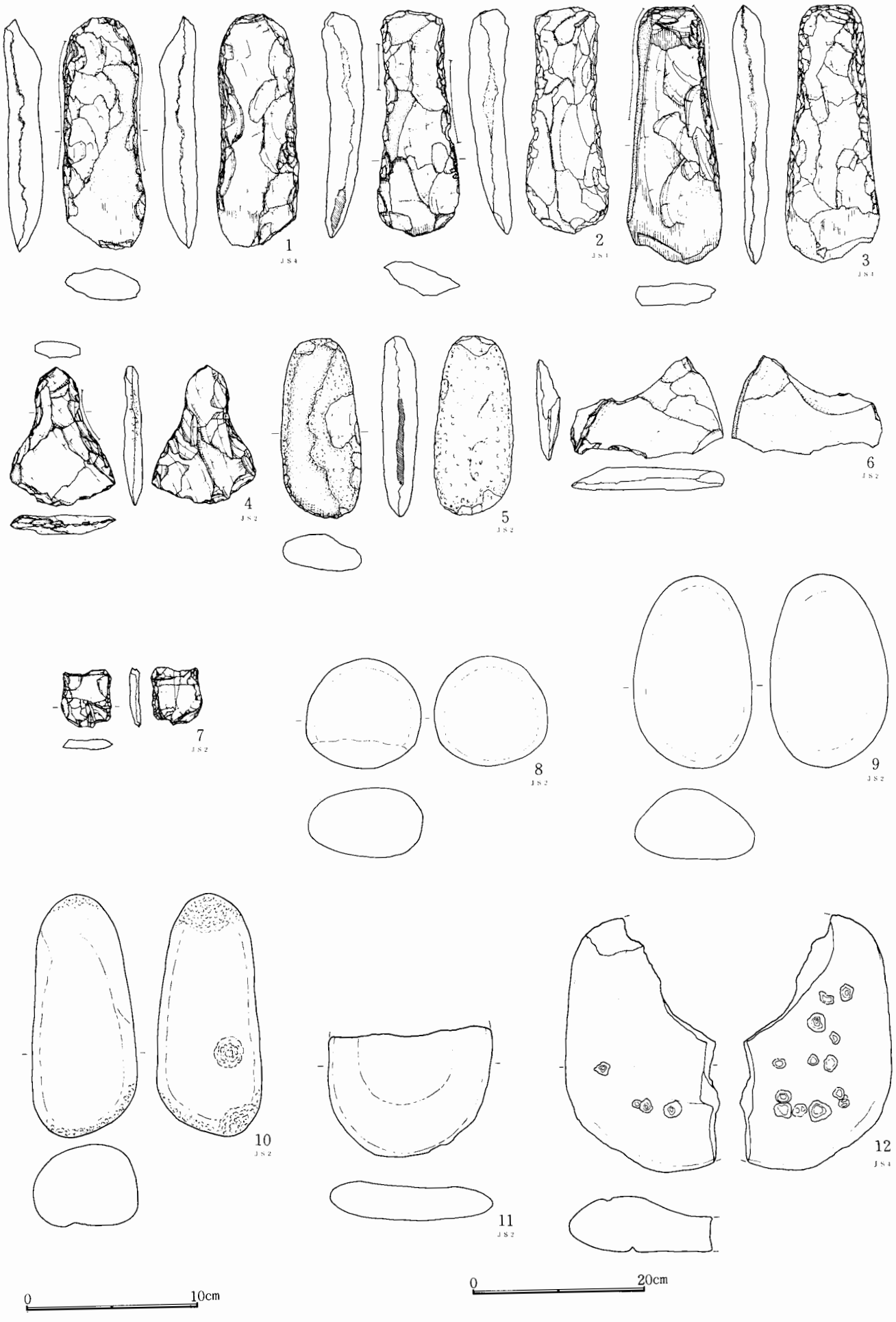
位置　西側台地南のＨ―101区。　**概要**　H188号住北のW19・20号溝に重複して検出されている。２m×1.5mの範囲の内に５～20cmの石が約50個検出された。土器片が１点検出されている。　**重複**　W19・20と重複するが、ＪＳ６が旧い。

ＪＳ７号配石遺構　（図―266、図版―45）

位置　西側台地東側のイ―８区。　**概要**　Ｊ42号住の南西。1.5m×0.5mの範囲に列状に石がある。石には火を受けたと思われる跡がみられる。石の間より土器片が検出されている。

表―163　ＪＳ配石遺構出土石器属性表

No.	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	刃角	使用痕・装着痕の位置・程度						備考
									A	B	a	b	c	d	
1	ＪＳ８	打製石斧	13.5	4.8	2.1	180	黒安	45	滅１	滅１	―	滅１	潰２	潰２	ＪＳ－４
2	ＪＳ８	〃	13.0	4.7	2.3	144	黒頁	35	滅２	滅１	―	滅２	潰２	潰２	ＪＳ－４
3	ＪＳ８	〃	14.9	5.5	2.0	176	黒安	―	滅２	滅２	―	滅２	潰２	潰２	ＪＳ－４
4	ＪＳ４	〃	8.0	6.1	1.1	44	黒頁	30	―	―	―	―	―	―	ＪＳ－２
5	ＪＳ４	磨製石斧	10.4	4.6	2.1	155	点片	55	擦２→敲２	擦２→敲２	擦１	擦２	敲２	擦２	ＪＳ－２
6	ＪＳ４	凹刃削器	5.6	8.8	1.3	52	黒頁	25	―	―	―	―	―	―	ＪＳ－２
7	ＪＳ４	楔形石器	3.3	2.9	0.6	10	珪	35	―	―	―	―	―	―	ＪＳ－２
8	ＪＳ４	磨石	6.3	6.5	4.0	240	安	―	擦１	擦１	―	―	―	―	ＪＳ－２
9	ＪＳ４	〃	11.1	6.9	4.1	425	〃	―	擦１	擦２	―	―	―	―	B面赤化 ＪＳ－２
10	ＪＳ４	敲き石	14.0	6.0	4.7	590	〃	―	―	凹１	敲１	敲１	―	―	ＪＳ－２
11	ＪＳ４	石皿	(19.0)	15.1	4.5	1,610	〃	―	擦１	擦１	欠	―	―	―	ＪＳ－２
12	ＪＳ４	〃	(29.7)	(17.2)	6.4	3,620	〃	―	擦１	凹３	―	―	―	欠	ＪＳ－２



図－267　ＪＳ配石遺構出土石器

表—164　ＪＳ配石遺構出土石器・石材別一覧表

器種／石材	石鏃	打斧	磨斧	石錐	尖頭器	石匙	掻器	背付	直刃	凸刃	凹刃	交刃	複刃	鋸歯	抉入	楔形	礫器	RF	UF	磨石	敲石	円礫	石棒	棒状	石皿	多凹	凹石	砥石	剝片	石核	礫	その他	計
ＪＳ１号配石遺構																																
黒色頁岩																												3				3
計																												3				3
ＪＳ２号配石遺構																																
黒色頁岩		1									1																	10		1		13
黒色安山岩																												1				1
安山岩																				2	1				2					3		8
珪岩																1												3				4
黒色片岩																														1		1
点紋緑色片岩			1																													1
計		1	1								1					1				2	1				2			14		5		28
ＪＳ７号配石遺構																																
黒色頁岩		1																										1				2
黒色安山岩		2																														2
計		3																										1				4

—— 中・近　世 ——

5．遺構と遺物

芳賀東部団地遺跡は縄文～中・近世までの複合遺跡であるが、１～２巻で古墳時代～平安時代を、３巻で縄文時代と中・近世を扱う。

中・近世の遺構は大きく分けて４種類になる。土坑・地下式土坑・溝・井戸その他である。(以下中近世)

土坑は、芳賀東部団地遺跡で検出された土坑のうちで、土層・遺物により中世以降と考えられるものを扱っている。295基検出された土坑のうち、形態により４種類に分類を行なった。(Ⅰ)土坑内より骨が検出され、墓壙と考えられるもの。(Ⅱ)骨は検出されていないが副葬品と考えられる中近世の古銭を出土する。また、これと似た形態をもつもの。(Ⅲ)土層と形態より根跡と考えられるもの。(Ⅳ)性格不明のもの。

墓壙と考えられるものは、ほとんどが平面形が長方形で、壁も直に切ってあった。骨の出土した土坑の例から考えると、屈葬で横にして埋葬したものか。古銭以外に副葬品とみられるものは出土していない。骨のみで副葬品を伴わないものもあり、この点人骨に土器と古銭を伴う他遺跡での調査例と多少異なる。

土坑を分布の状況でみると、(Ⅰ)にあたるものは、西側台地の東縁部に４基と２基の２つのグループで位置している。西側台地は土坑全体での検出状況は、調査方法とも係わるがほとんどが東縁部である。(Ⅱ)にあたるもののほとんどが中央台地上から検出されている。くわしくは考察の土坑の項にあるが、近世の墓壙群と考えられる。今では忘れさられてしまった近世前期のものか。この中央台地では墓壙群以前に「居館跡」と考えられる環濠跡や、それ以前の地下式土坑もあり、特異な地帯となっている。特異な点は遺物の面にもあり、中国陶磁の出土、灯明皿が多く出土する点からも「居館」の存在の可能性が強いと考えられる。

地下式土坑は４基検出されている。市内での調査例の多くは長方形主室に入口部が付設される形になっているが、本遺跡では円形の主室に入口部が付設される形である。調査の時期としては本遺跡が芳賀西部団地遺跡と並んで市内では古いものであるが、その後に調査された多くの遺跡で「墓壙」もしくは「墓壙であろう」とされており、本遺跡においても同様に扱っている。

溝は本遺跡からは101条の溝が検出されているが、そのうちで中近世と考えられるものは70条になる。中央台地で環濠跡を作る溝群が中心であるが、２巻でも表中で扱っているものがある。区分けについては、天仁元年(1108)降下のＢ軽石が下層までまじっているものを中近世の溝として扱い、上層にあるものと、含まれていないものを古代の溝とした。それぞれの考察は２巻と３巻を参照。溝の性格や占地について時代により異なる面がみられた。

環濠跡は中近世の溝跡のうち特に中央台地北半で、方形の区画を形作っているものを指す。中央台地は南半には縄文時代からの住居跡が作られているが、北半より検出された遺構・遺物は中世以降のもののみである。

環濠跡は遺物の面からみると居館跡と考えられるもので、13世紀の中国龍泉窯系の磁器が出土している。これは県内の

他の調査例では、寺もしくは居館跡よりの遺物である。調査時には建物跡は検出されていないが、これは後に墓壙として削平が多かったためとも思われる。また周辺の掘立柱建物跡についても中世のものが入っている可能性がある。(大西雅広氏御教示による) 遺物については後文と観察表の項を参照されたい。

井戸その他については、井戸が24基検出されているが、そのうち2基が古代のもので、他が中近世のものとして扱っている。中近世の井戸跡22基のうち約半分の11基が中央台地の北半より検出されている。環濠と重複している井戸もあるため全てが環濠跡「居館跡」とかかわるものではないが、その集中度からみると「居館跡」の存在の可能性を高めるものである。

芳賀東部団地遺跡の三つの台地での中近世の遺構をみると、西側台地では東縁に墓壙がみられる他には主として東～南にかけて溝が多く走っている。それに対して東側台地ではほぼ全域に溝が走っていたと考えられ、この地域は耕作地として全面的な開発を受けた可能性がある。本調査実施前においても桑畑、牧草地として利用がなされており、人家は存在しなかった。耕作もあまり深くなかったようで遺構の保存の良いものが多かった。西側台地の中央部では竪穴住居跡の部分のみ牧草の成長が良く、遺構確認できるほどであった。

近世と考えられる遺構は墓壙と井戸跡程度であり、古代の集落として利用されていた台地一帯は耕作地、一部は墓地として利用されたと考えられる。

(井野)

6．中近世遺物について

はじめに

芳賀東部団地は、小さい谷地を挟んで東西と北の三つの台地からなっている。今回編集者より陶磁器の観察と傾向について依頼があった。この依頼に基づき、出土陶磁器の観察表を作成し、傾向は本文に記した。しかし、筆者は調査担当でないため、出土状態については知り得ないため、出土状態については本稿では触れない。報告書作成にあたり、出土陶磁器類は、中世と近世以降では異なる基準で選択した。本遺跡においては、中世遺構に伴う遺物は非常に少なく、遺物総量も少ない状況があるため、中世に属すると判断した遺物は、輸入陶磁器については総て、国内産陶磁器については細片であっても選択した。近世以降については、17世紀代の遺物については総てを、それ以降については遺存率の高い遺物を中心とし、若干希少性を加味した。以上の選択基準により、除外した遺物総量は488点である。図版作成に当っては、各台地毎に時期や数量に差異が認められたため、台地毎に版組みを行うことを原則とした。なお観察表作成にあたり、注1～4の文献を参考とした。

中央台地（9区）

中央台地は、芳賀東部団地遺跡調査区の北に位置し、標高は160～167mである。面積は最も狭いが、中世を中心とした遺物が多く、掲載量も最も多い。中央台地最古の輸入陶磁器は、13世紀代の内面に櫛状工具とヘラによる文様を有する龍泉窯系青磁碗(1)と同鎬蓮弁文碗（2・3）の3点である。国産陶器では、12～13世紀の渥美焼（50）と13世紀前半の常滑片口鉢（51）各1点があり希少性が高い。本県ではこの時期の在地製軟質陶器や土器は不明確であり、本遺跡においても検出されていない。しかし、中国陶磁と国産陶器の組み合わせが得られることから、13世紀に居住が開始されたと推定される。

14～16世紀になるとニ―23区、ホ・ヘ―26区、ヘ―27区、ト―28区、チ―27・28区、リ―28・29区（W11・76・77・79号溝？）を中心に、内耳鍋・擂鉢が多く出土している。このうち、軟質陶器擂鉢は14世紀代から、内耳鍋は14世紀後半から認められ、いずれも15世紀を中心として16世紀までのこる。一方、土師質土器皿は、リ―28区（W77号溝？）からまとまって出土している。時期は15世紀を中心とし、僅かに16世紀まで下るものが見受けられ、燈明皿として使用されている。国産陶器は、不明確であるが、おろし皿（8）や碗（42）にその可能性がある。輸入磁器は、明代の龍泉窯系腰折れ青磁皿（4）・青花皿（5）の2点がある。前者はニ―25区（W75号溝？）、後者はホ―26区（W75溝北側土坑群付近）から出土している。県内に於いて明代の青花磁器は、尾島町歌舞伎遺跡[5]（1点）、太田市浜町屋敷内遺跡C地点[6]（9点）、月夜野町薮田遺跡[7]（5点）、同後田遺跡[8]（2点）、同名胡桃城跡[9]（1点）、大胡町大胡城跡[10]（1点）、群馬町国分僧・尼寺中間地域[11]（1点）、前橋市・群馬町下東西遺跡[12]（1点）、高崎市下佐野遺跡[13]（1点）などからの出土が報告されている。これらは、いずれも城跡や寺院関連遺跡、館跡などを中心とした遺跡であることから、本県では非常に限られた上級階層のみが入手し得た染付である。

石製器には石鉢、石臼などがあり、石臼は本区出土が主体である。石臼には上臼の挽き手穴に装飾を施すもの、下臼に「はんぎり」を造り出し石質の細かいものと、これらを有さない石質の粗い二つのタイプがある。石臼は中世遺物を多く出土したト・チ―28区（W76・79号溝？）出土が6点あり、石臼の多くは中世（15・16世紀）の所産と推測される。

西側台地

西側台地は、中央台地の遺物が減少する17世紀から増加傾向が認められ、18世紀が中心となっている。出土遺構は、竪穴式住居跡が最も多く、他にW66・68号溝跡、Ⅰ3号井戸跡からの出土の他、A—13・14・16区、B—16区、C—24区、D—103区、E—21・23区、M—1区からの出土が認められる程度である。このうち竪穴式住居跡は、土坑などの重複があったためであろうか。18世紀代の陶磁器のうち碗類は、波佐見系の安価な大量生産品、肥前系陶胎染付や瀬戸・美濃系陶器碗が主体であり、高級品は認められない。皿類は、大皿がなくて小皿が少量存在する程度である。肥前系の小皿は染付皿（124）と京焼風陶器皿（125）のみであり、他は瀬戸・美濃系陶器皿である。調理用具の擂鉢は、堺系と瀬戸・美濃系があるが量は少ない。また、在地製焙烙は、小片であるが僅かに出土しているものの、鉢形鍋は認められない。

19世紀の陶磁器は、量的に少なく傾向は把握できない。しかし144の鉄釉土瓶は、釉の「あだ光り」の具合や胎土の粗さ、夾雑物、色調などから前橋藩窯（皆沢[14]・高浜焼[15]）と判断されるものである。前橋藩窯の製品は、現在までに月夜野町大友館跡[16]や同後田遺跡[8]などで報告されているが、いずれも磁器製品であり、陶器の消費地出土例は本遺跡が初例となる。また本遺跡で陶器が確認されたことにより、陶器製品が流通していたことが明らかになった事は重要である。

石製品では石臼2点(193・195)、五輪塔の空風輪8点が出土している。五輪塔の空風輪は、B—20区、C—19区及び竪穴式住居跡からの出土で、比較的近接した位置から出土しているようである。

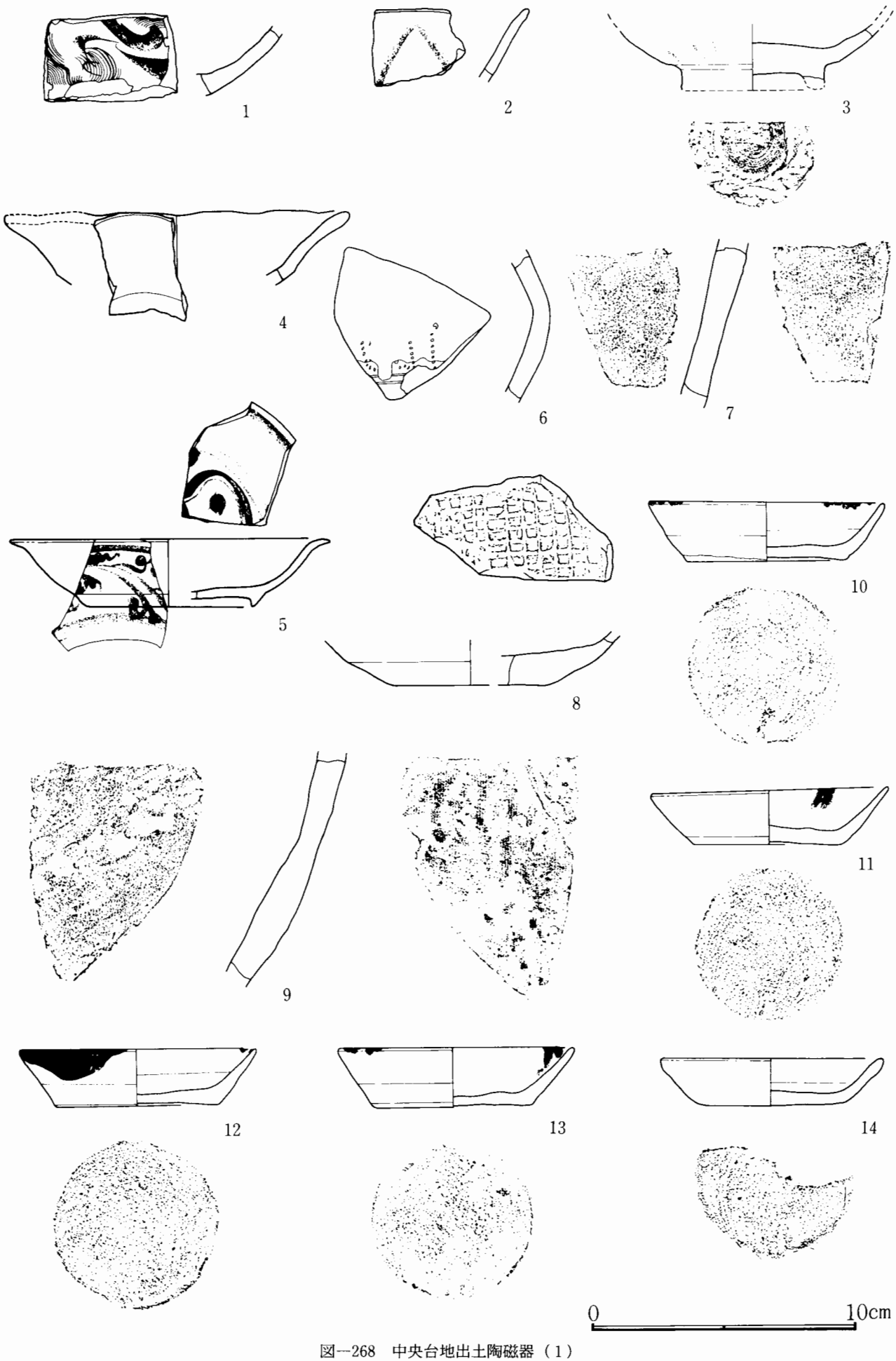
東側台地

東側台地は、実見した遺物が出土遺物のすべてではないようであり、傾向は不明である。

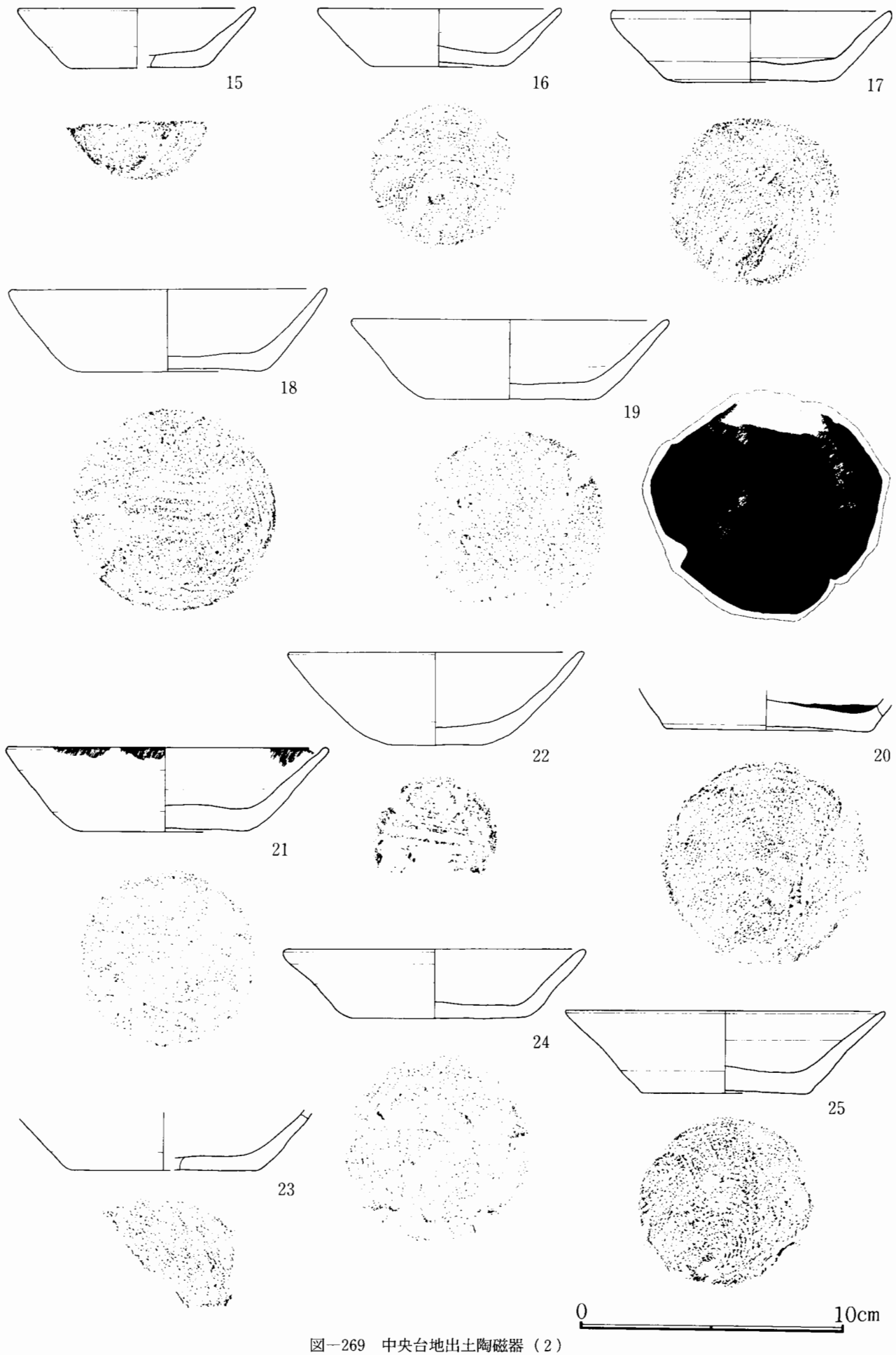
（大西）

注

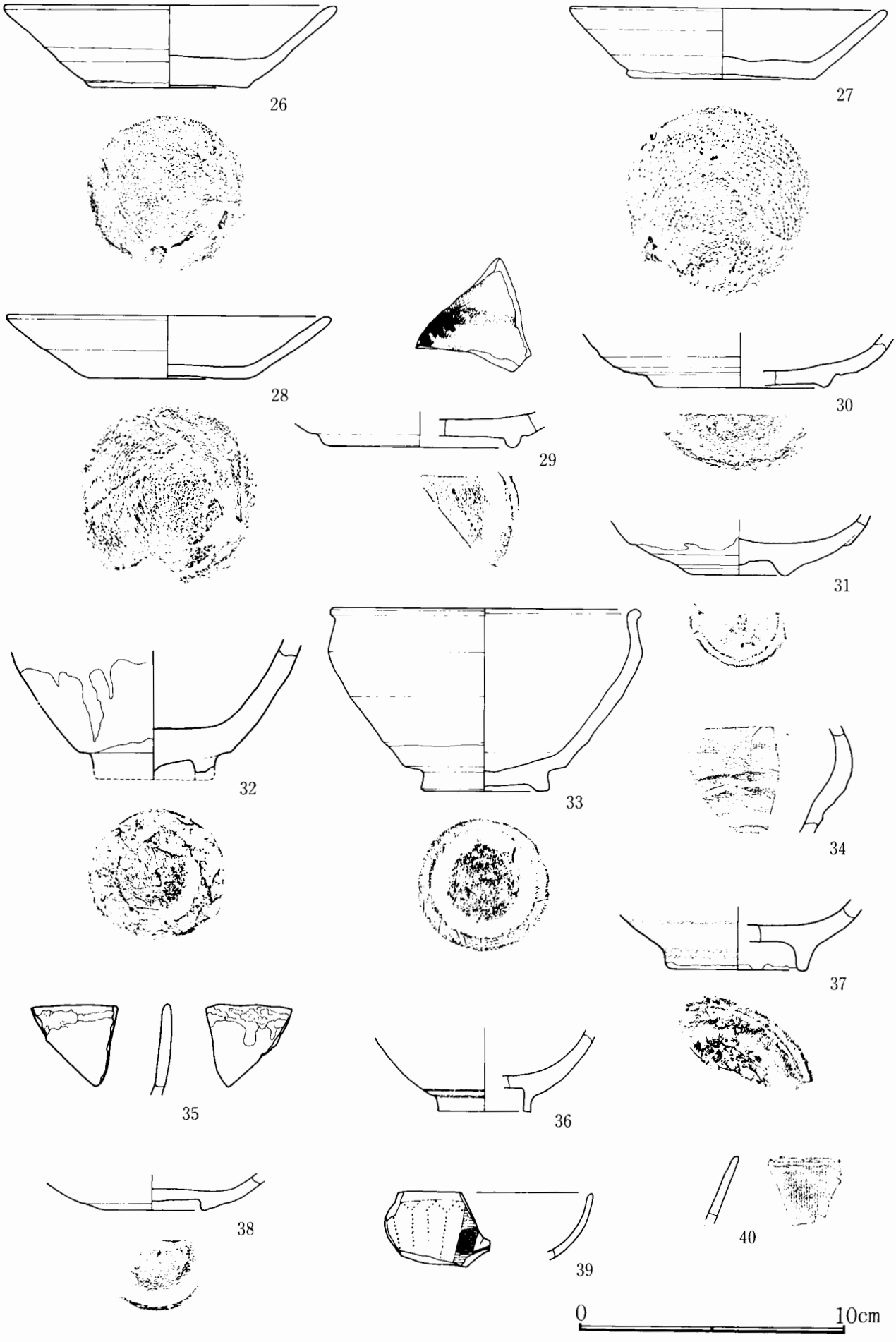
1 大橋康二 「波佐見焼の変遷」 『長崎の陶磁—昭和63年度特別企画展図録—』 佐賀県立九州陶磁交化館 1988
2 大橋康二 「肥前陶磁の変遷と出土分布」 『国内出土の肥前陶磁—昭和59年度特別企画展図録—』 佐賀県立九州陶磁文化館 1984
3 藤沢良祐 「本業焼の変遷（1～3）」 『瀬戸市歴史民俗資料館Ⅵ～Ⅷ』 1987～1989
4 赤羽一郎 『常滑焼—考古学ライブラリー23—』 ニューサイエンス社
5 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 『歌舞伎遺跡』 1982
6 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 『浜町屋敷内遺跡C地点』 1985
7 群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか 『薮田遺跡』 1985
8 群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 『後田遺跡』 1988
9 群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 『城平遺跡・諏訪遺跡』 1984
10 群馬県立歴史博物館 『関東の中国陶磁—第13回企画展図録—』 1982
11 群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 『上野国分僧・尼寺中間地域』 1986
12 群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 『下東西遺跡』 1987
13 群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか 『下佐野遺跡—Ⅰ地区・寺前地区—』 1989
14 大西雅広 『「皆沢焼物場所」出土の遺物について』 『群馬の考古学』 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988
15 加部二生 「前橋高浜窯について」 『群馬文化217』 群馬県地域文化研究協議会 1989
16 月夜野町教育委員会・群馬県教育委員会ほか 『大友館址遺跡』 1986



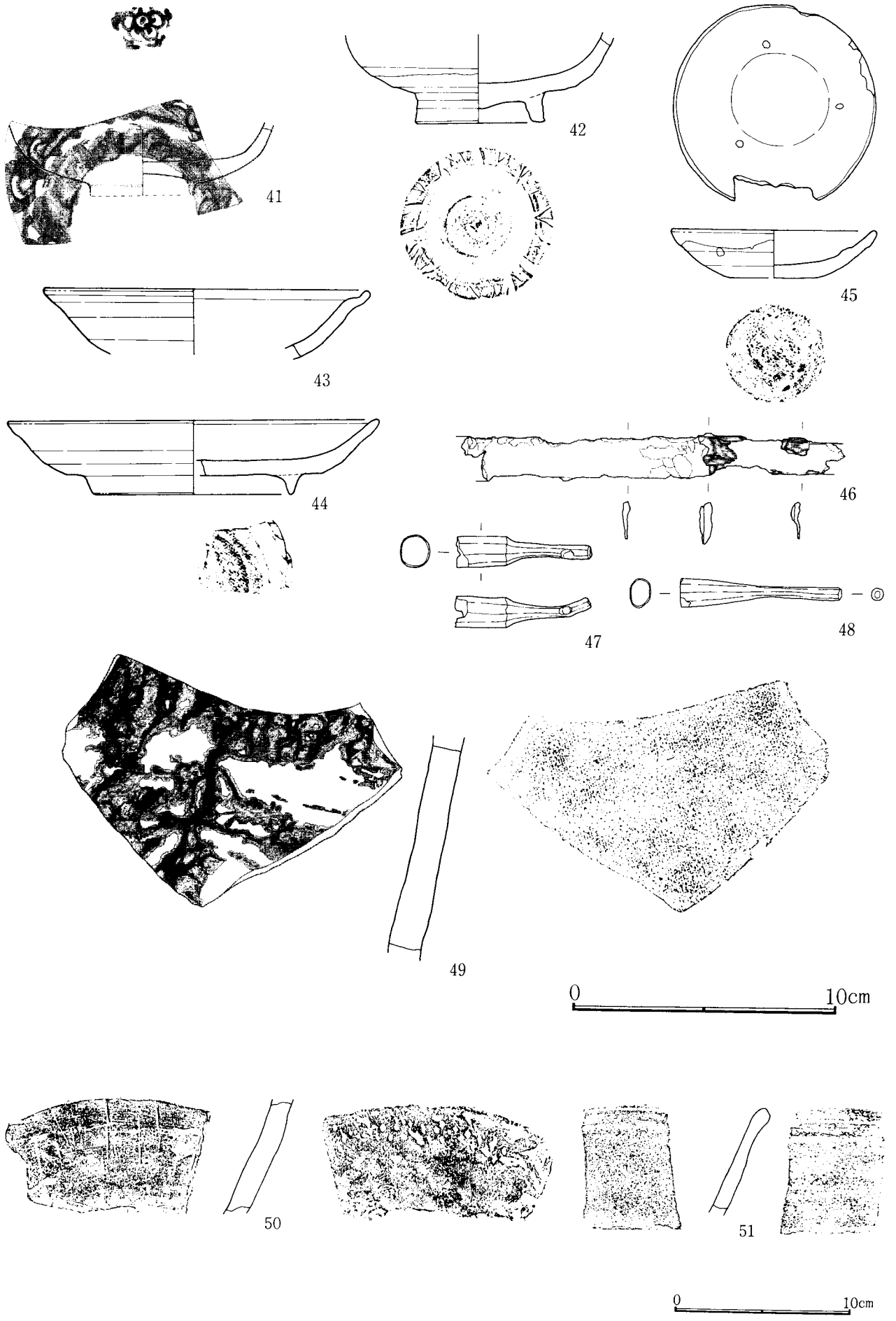
図―268　中央台地出土陶磁器（1）



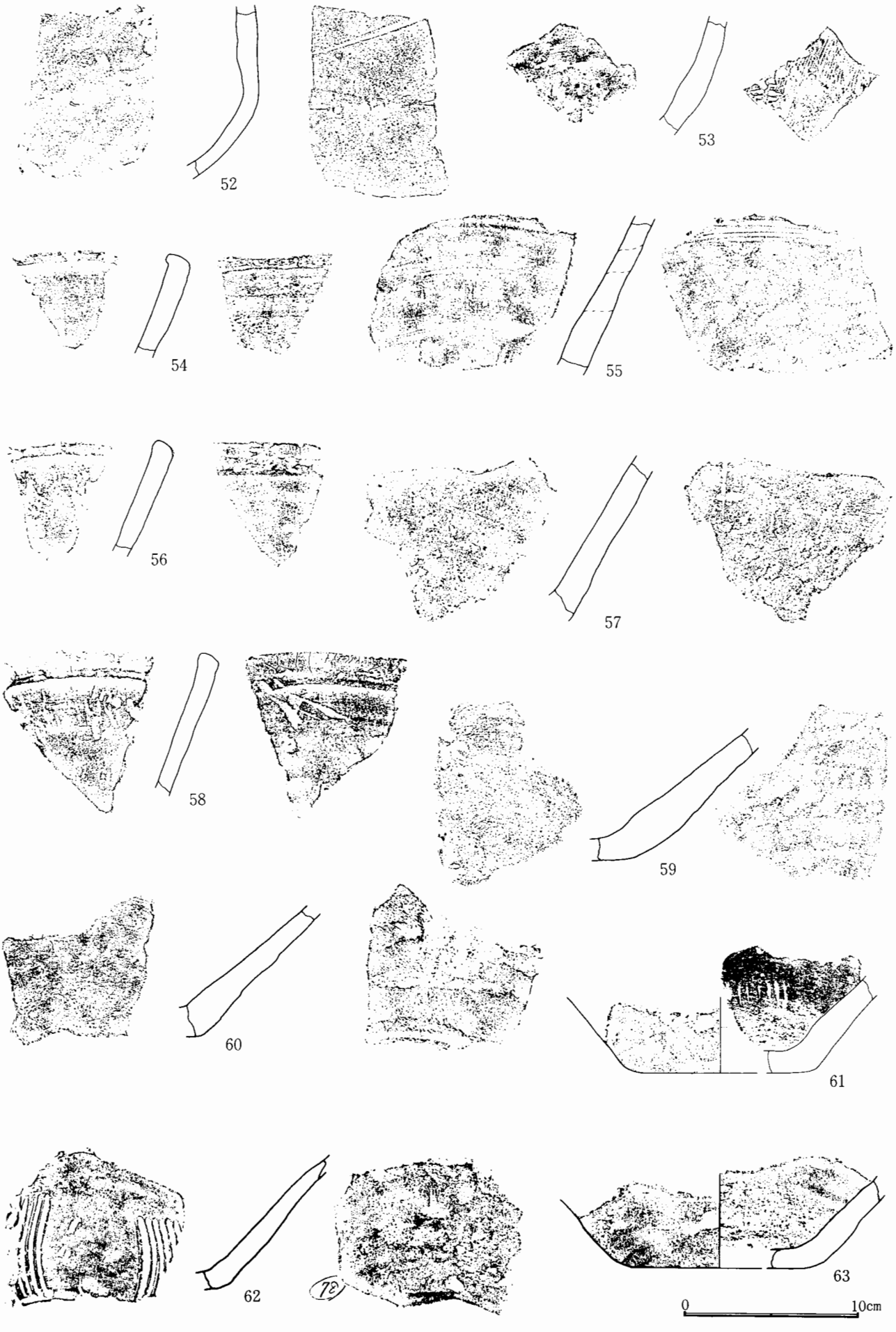
図一269　中央台地出土陶磁器（２）



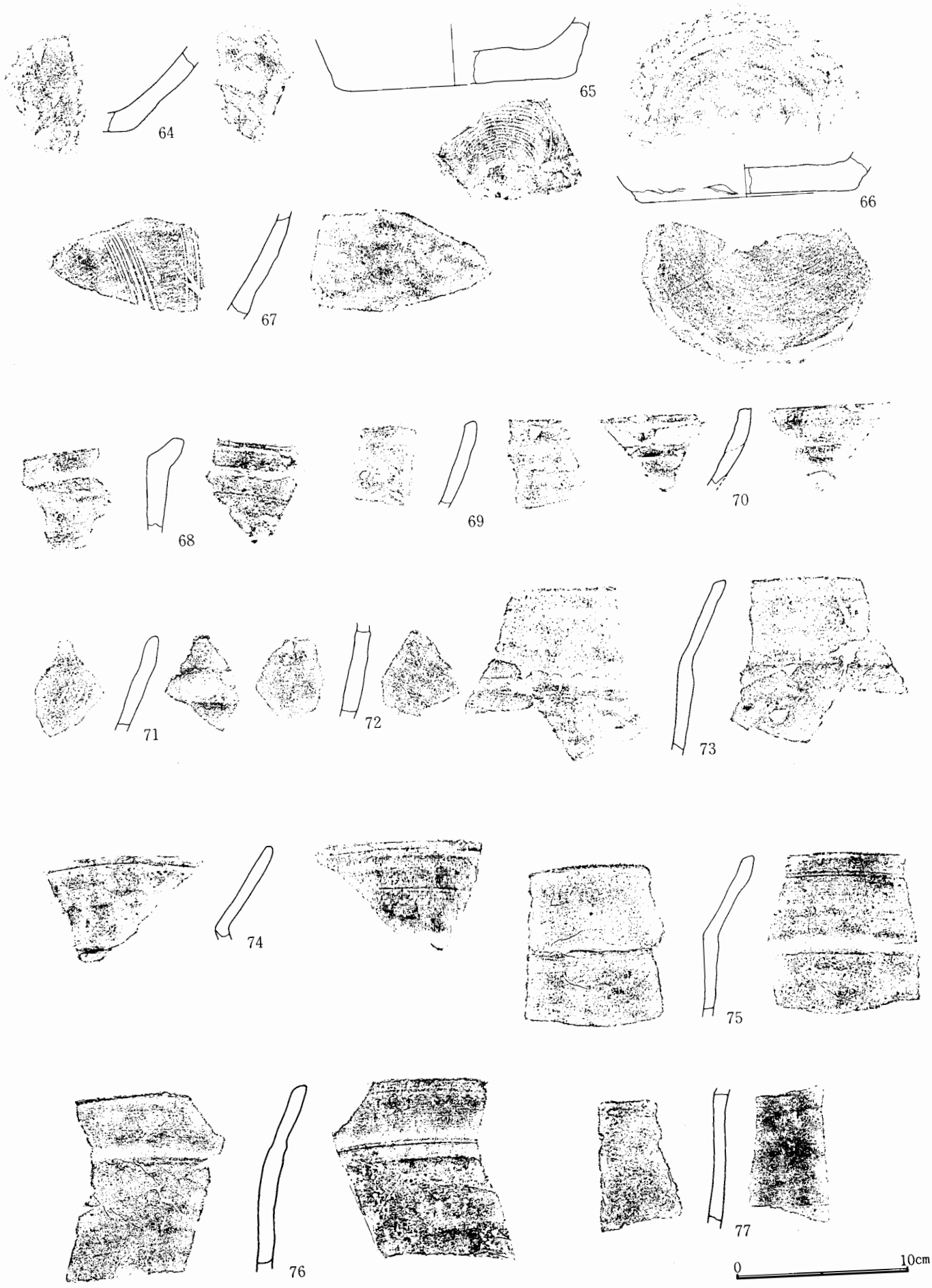
図―270　中央台地出土陶磁器（3）



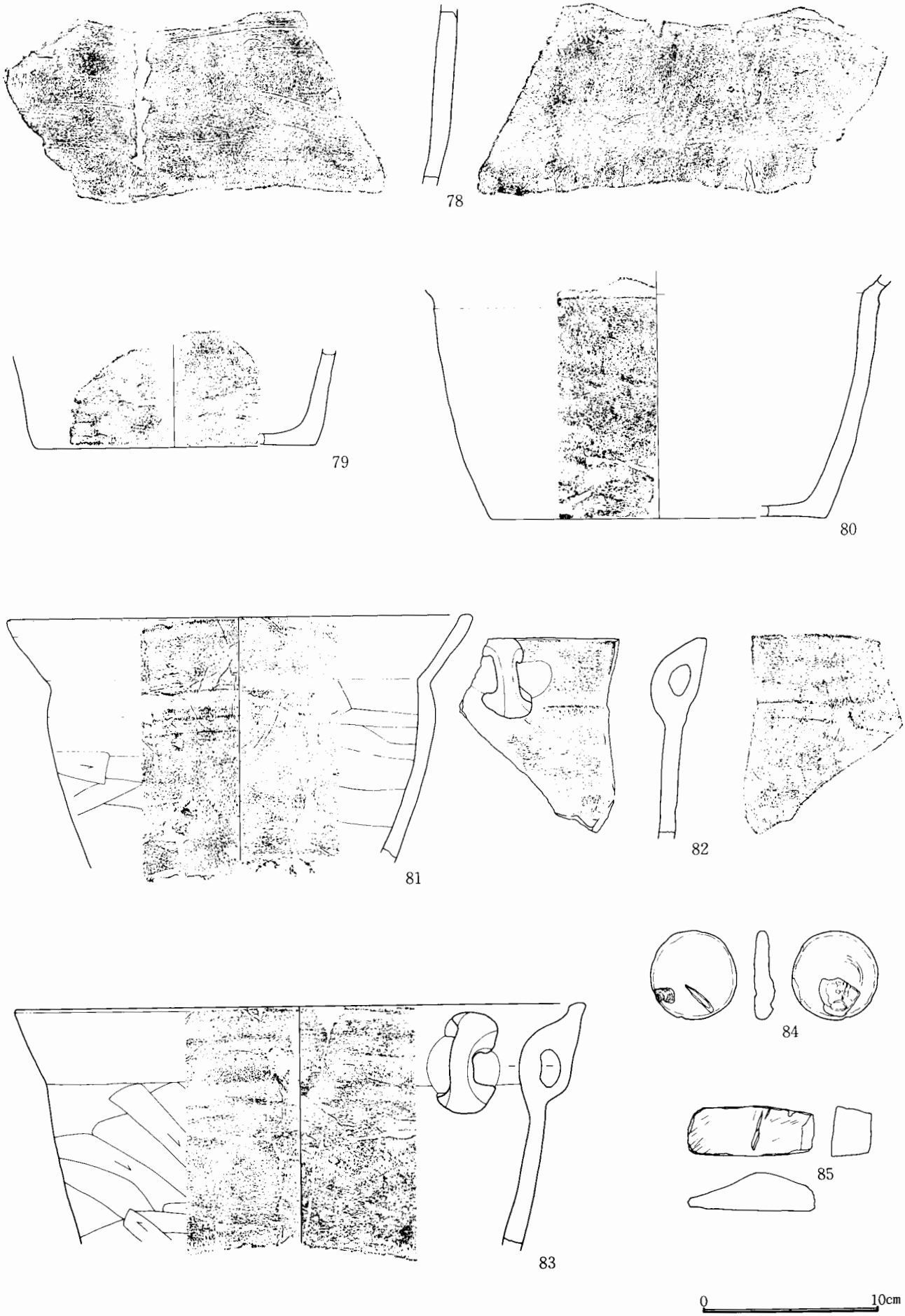
図—271　中央台地出土陶磁器（4）



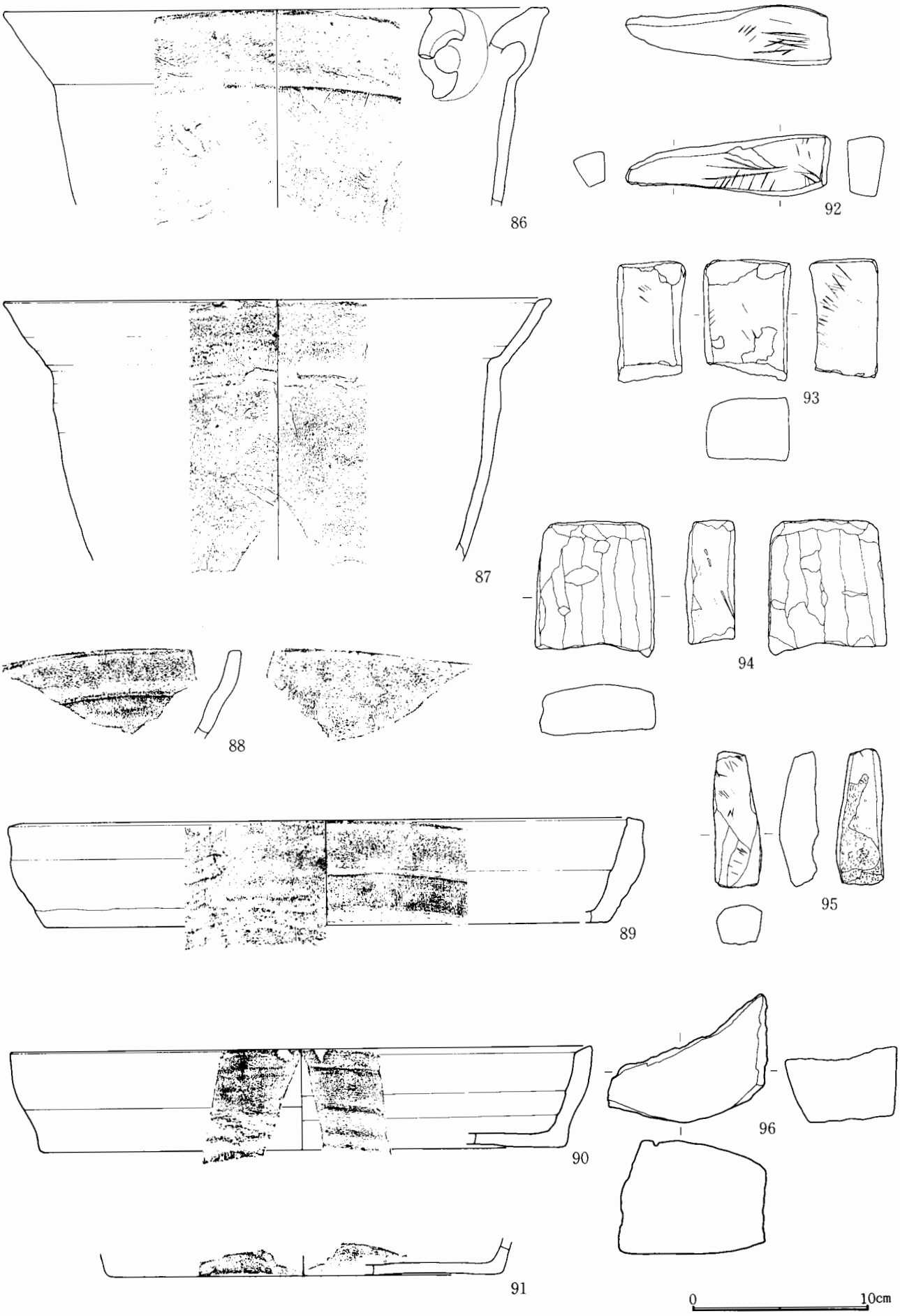
図—272　中央台地出土陶磁器（5）



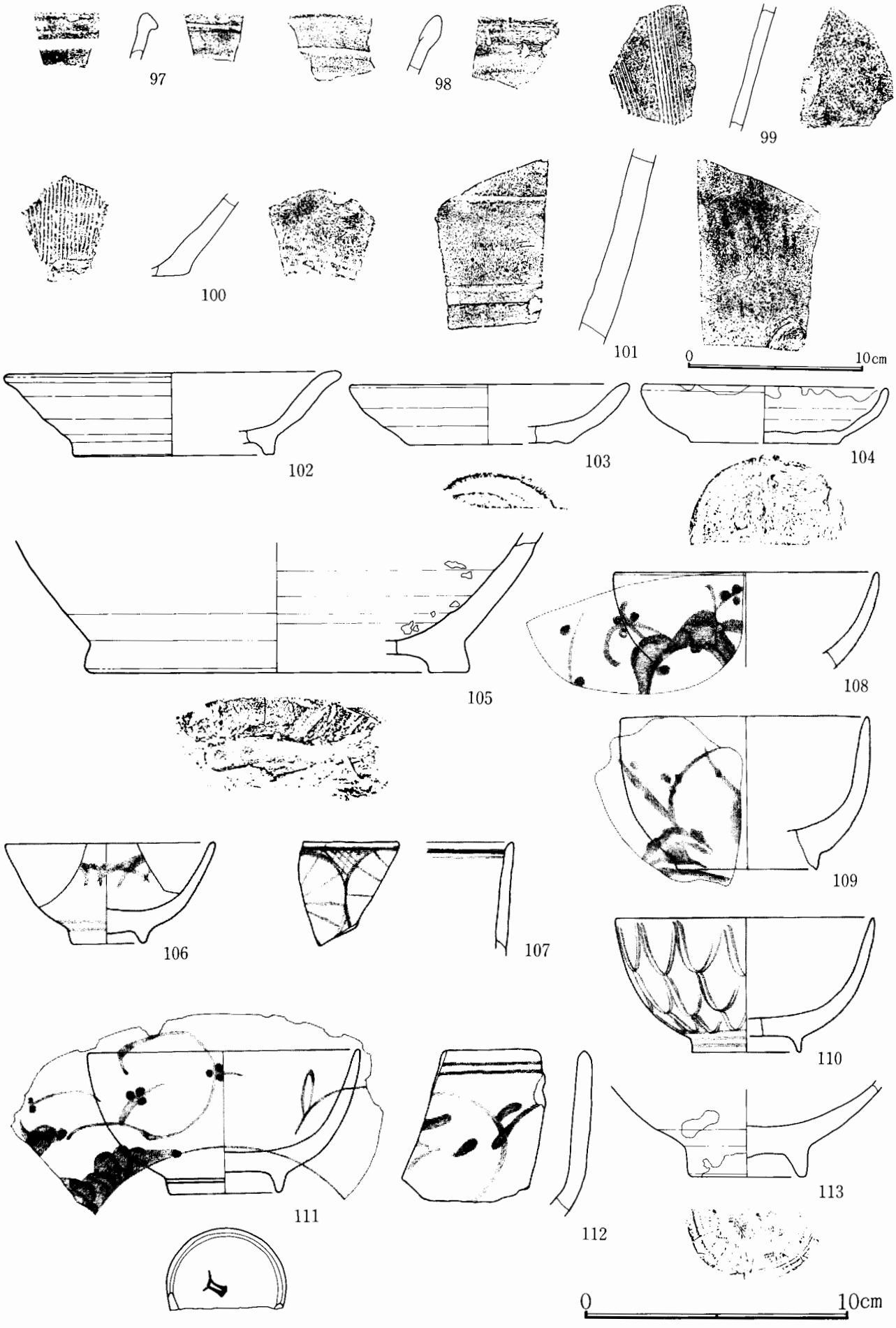
図—273　中央台地出土陶磁器（6）



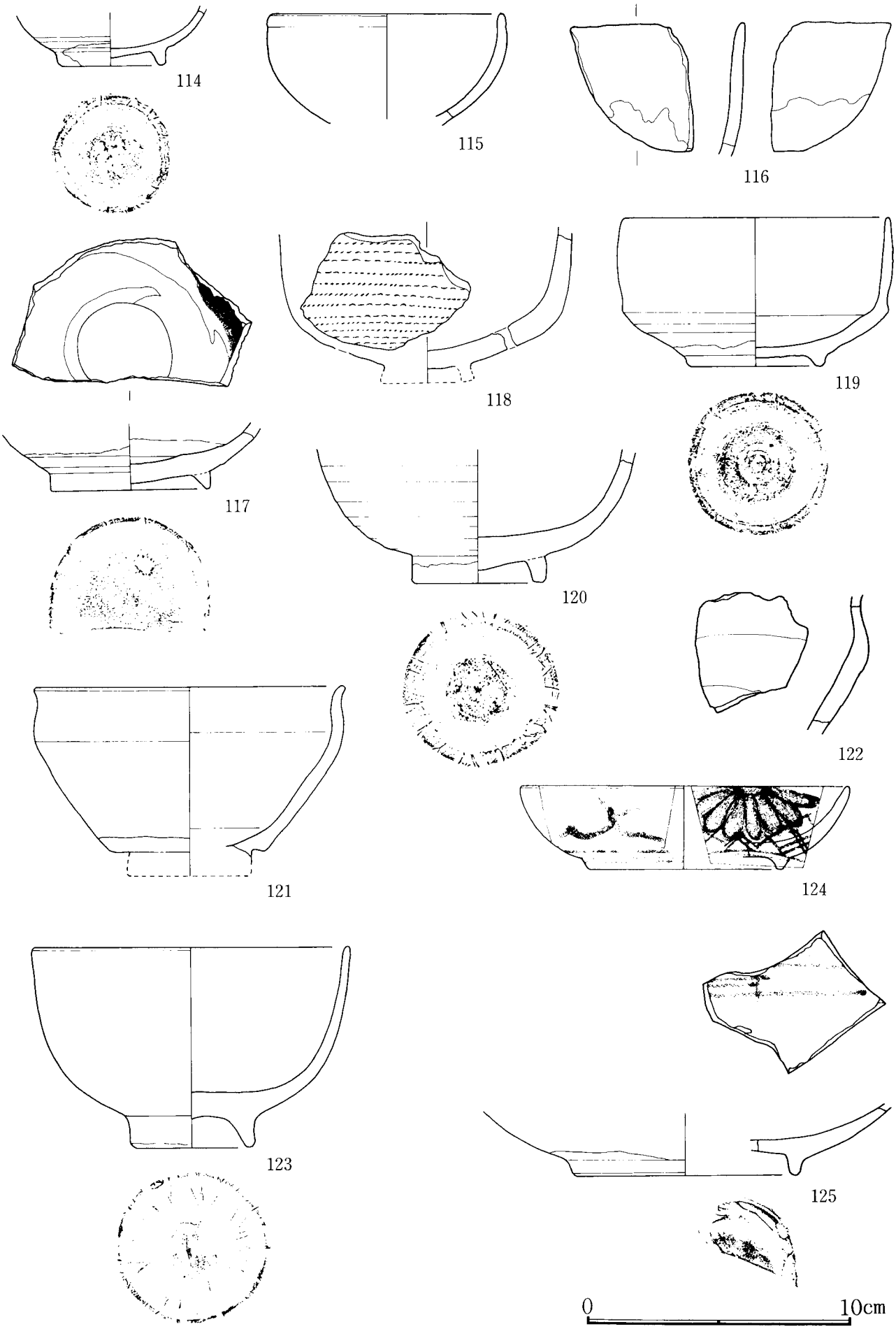
図—274　中央台地出土陶磁器（7）



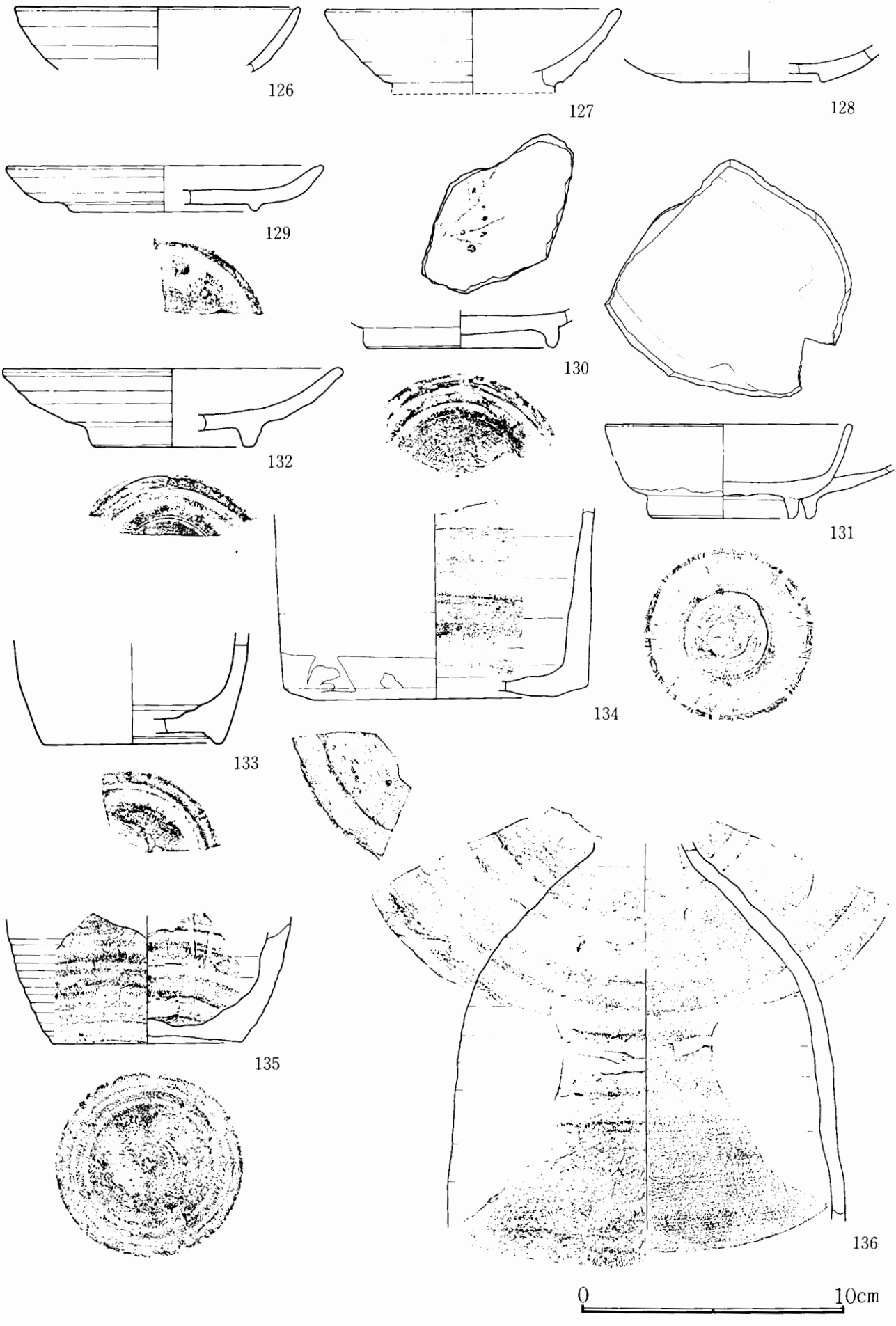
図—275　中央台地出土陶磁器（8）



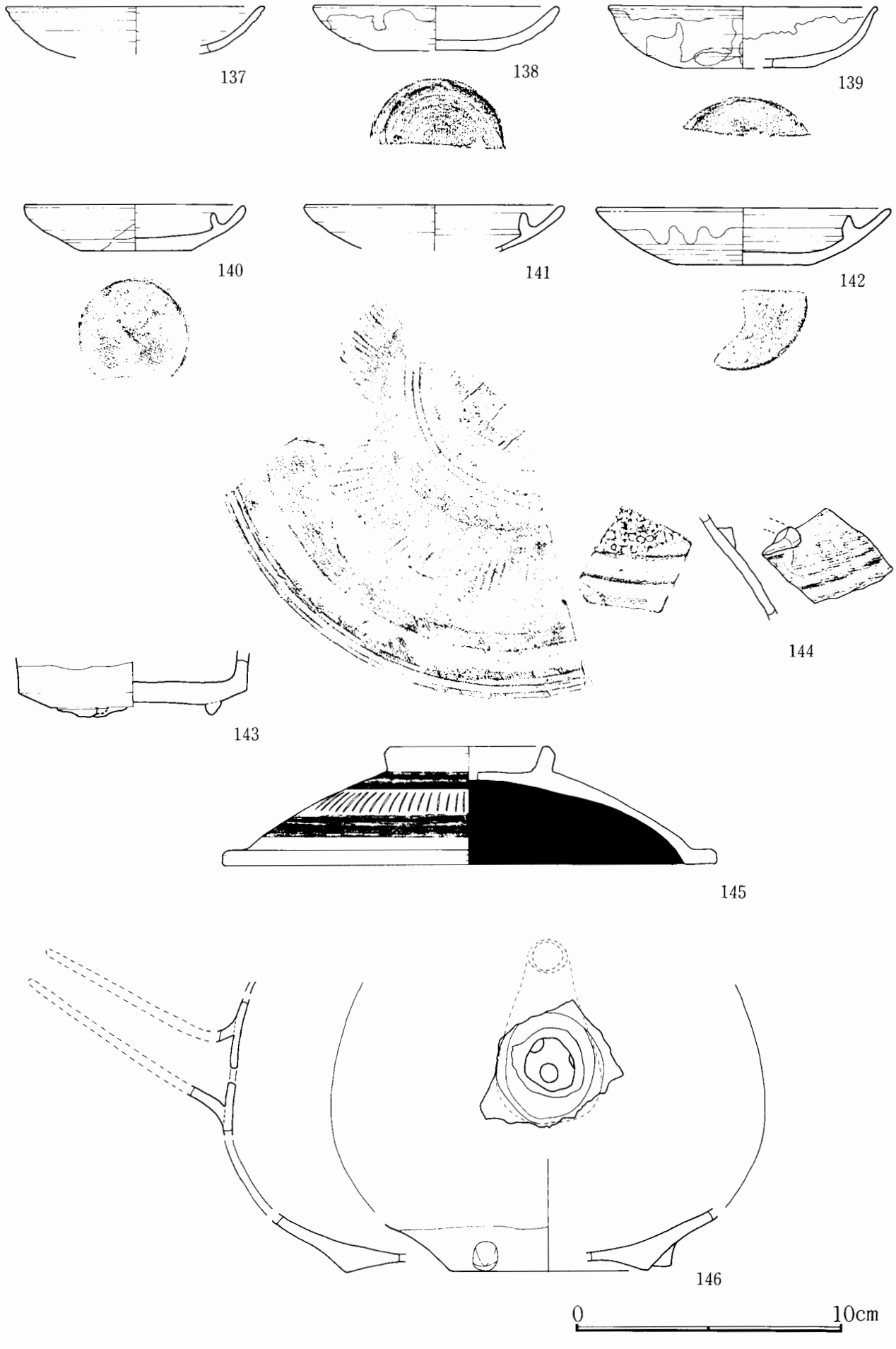
図—276　中央台地・西側台地出土陶磁器（9）



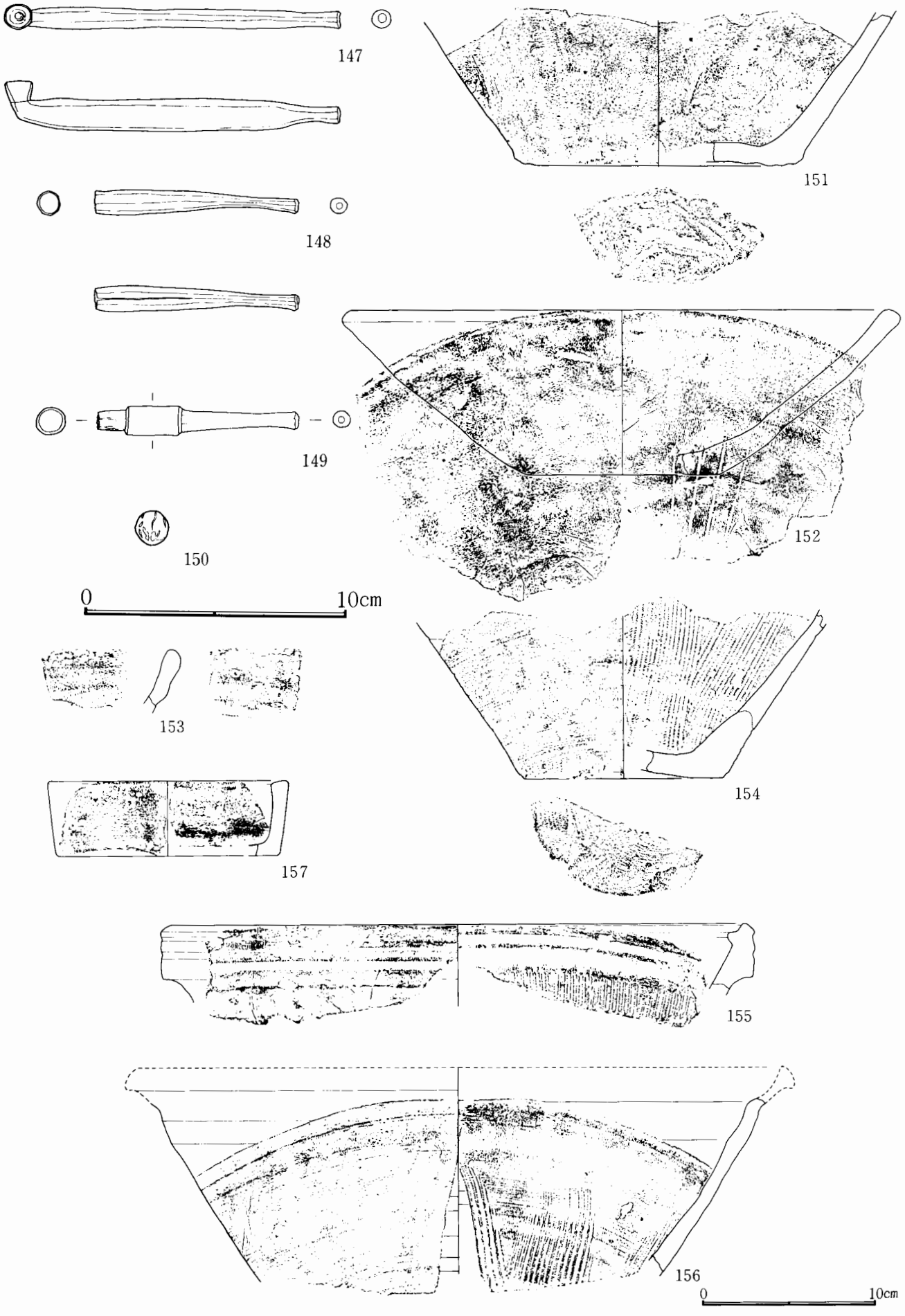
図—277　西側台地出土陶磁器（10）



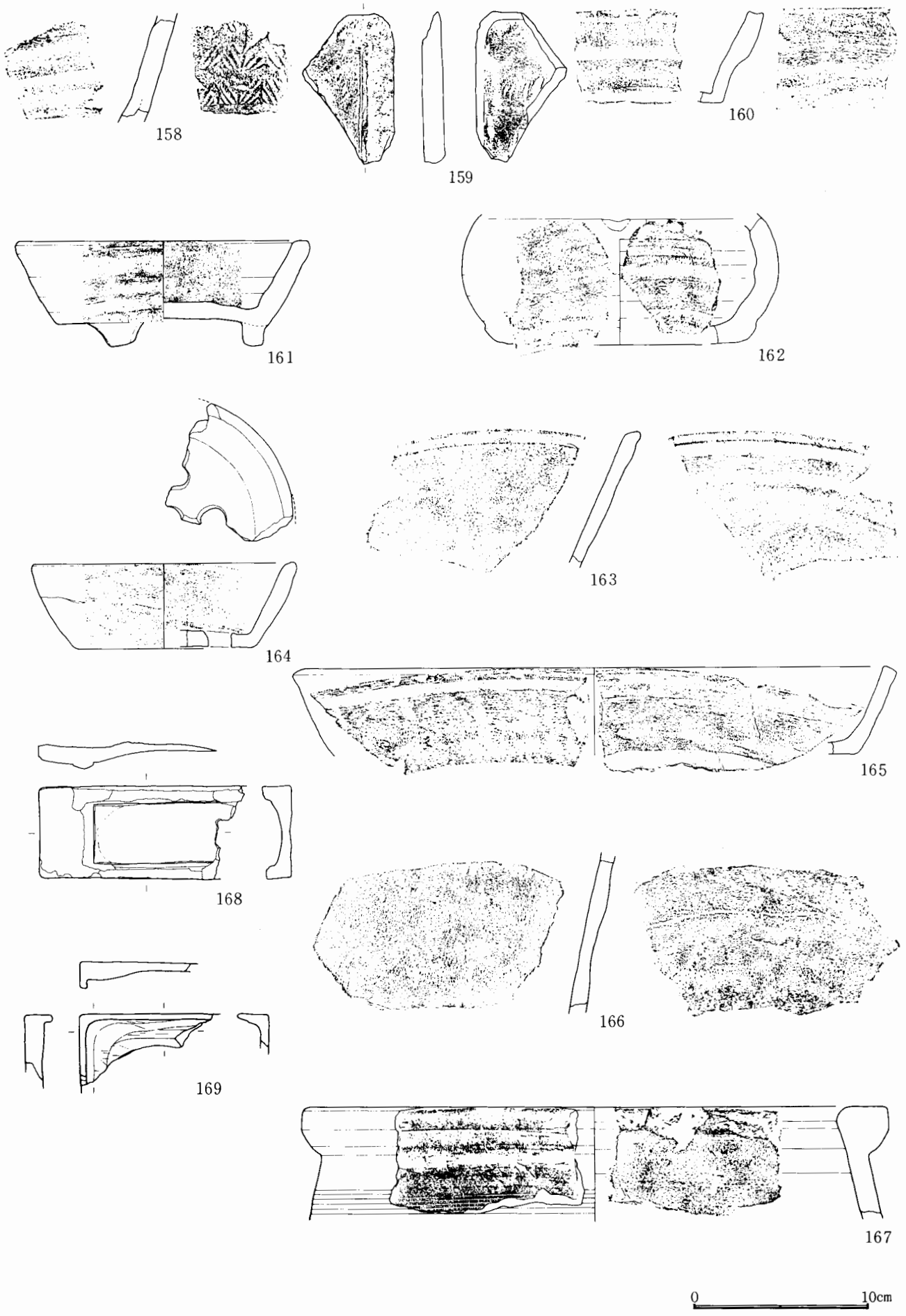
図—278　西側台地出土陶磁器（11）



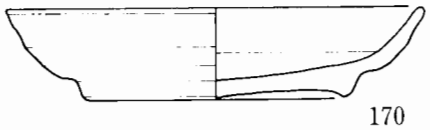
図—279　西側台地出土陶磁器（12）



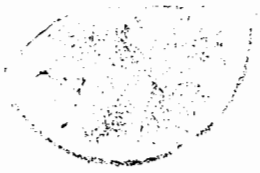
図—280　西側台地出土陶磁器（13）



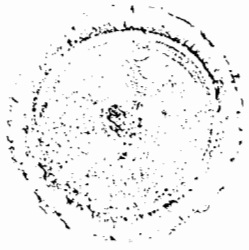
図—281　西側台地出土陶磁器（14）

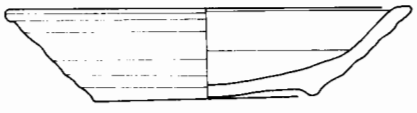


170



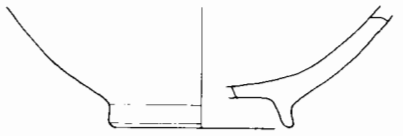
171



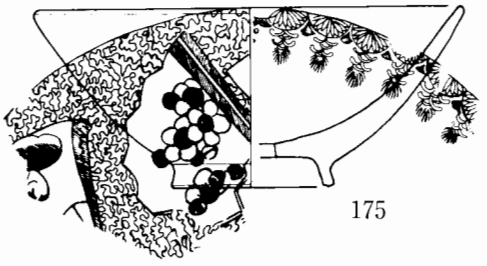


172

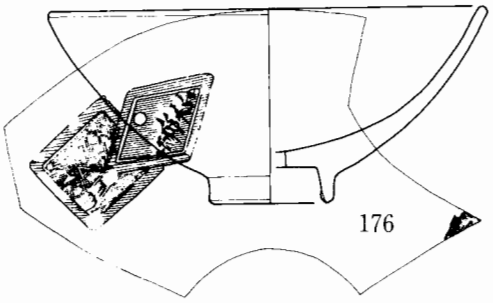
173



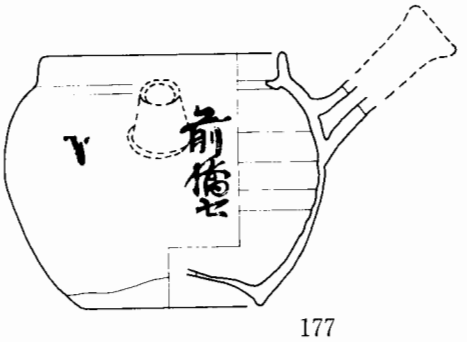
174



175

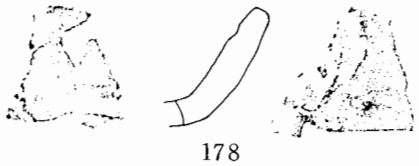


176

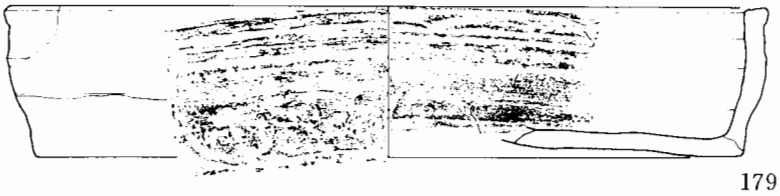


177

0 10cm



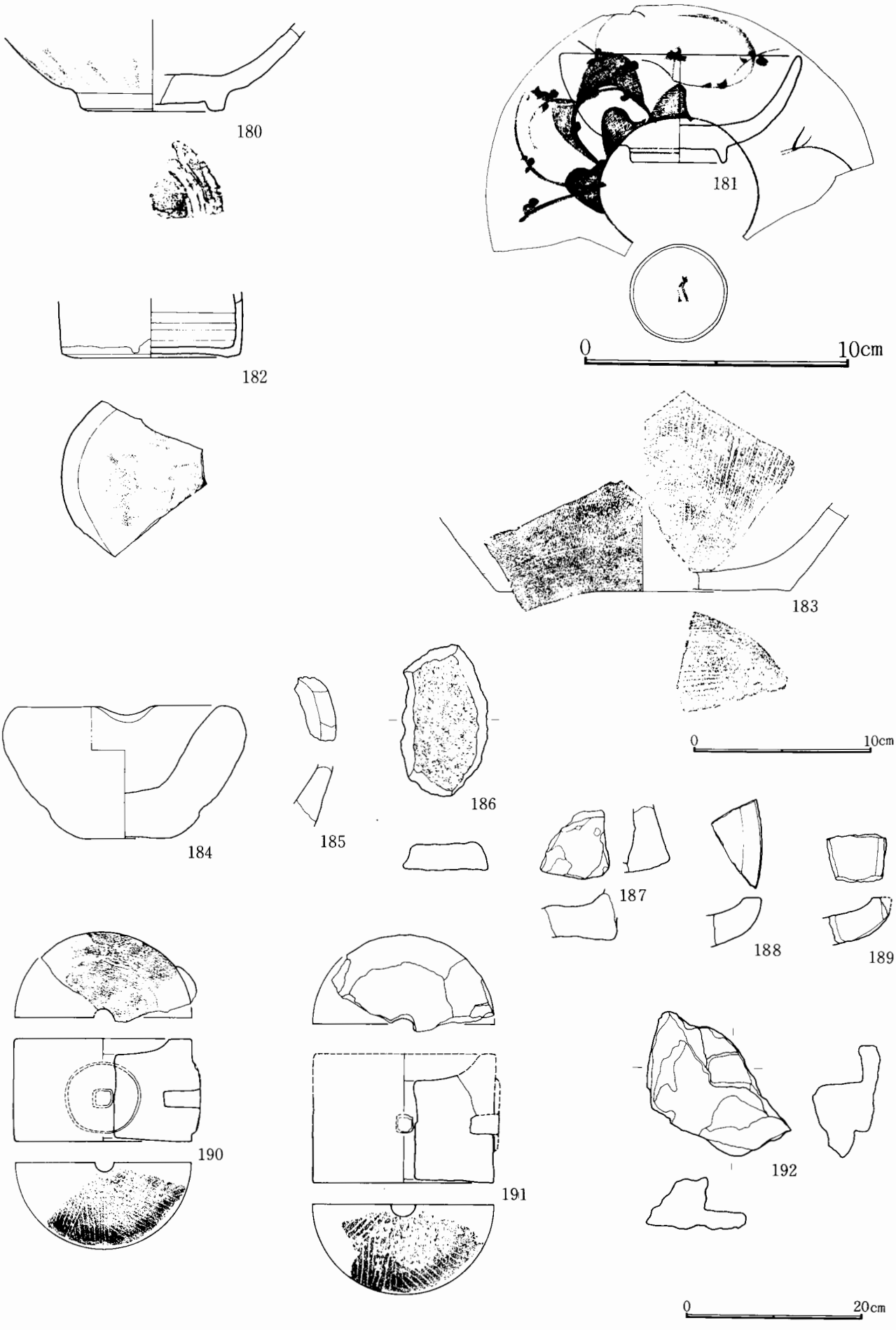
178



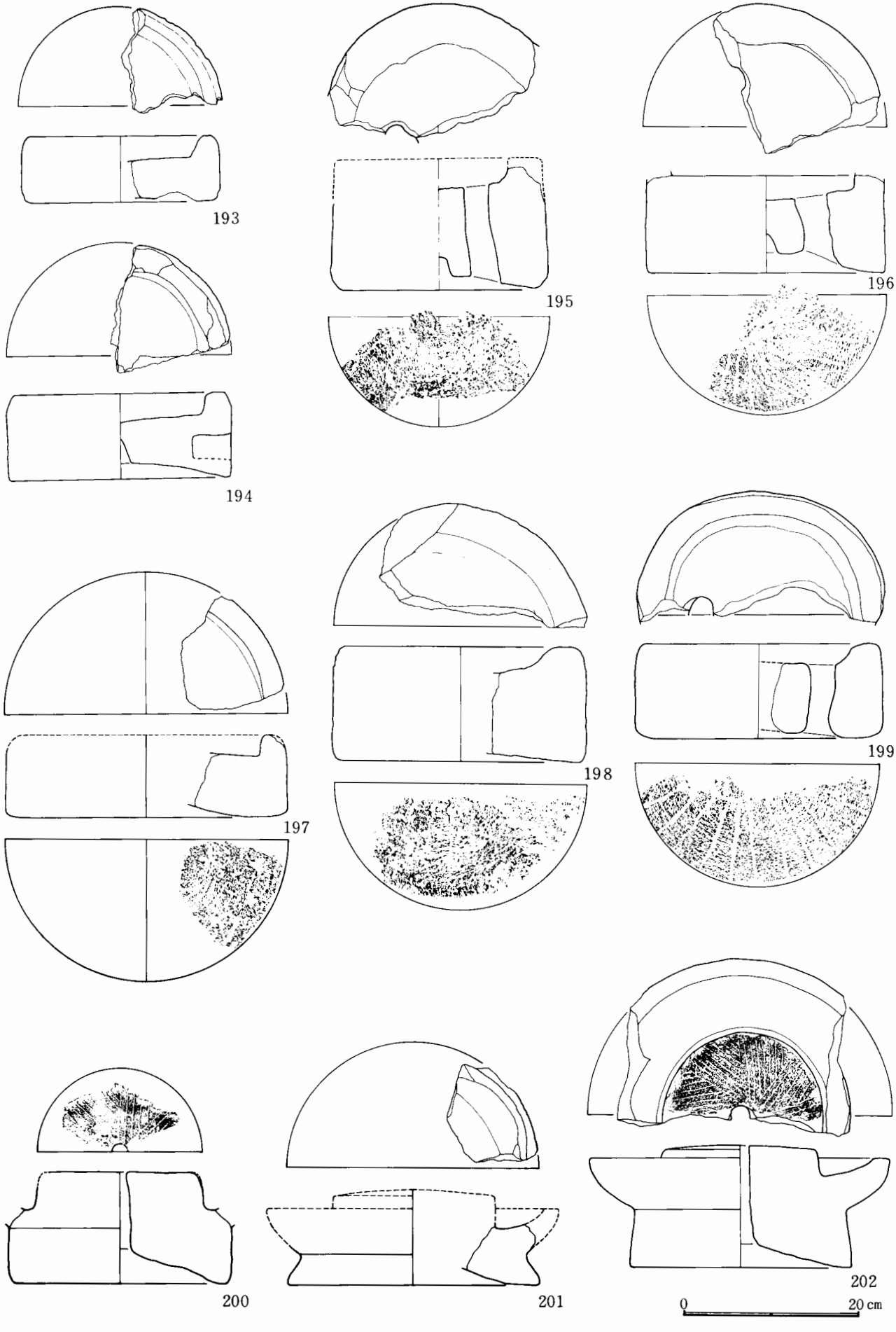
179

0 10cm

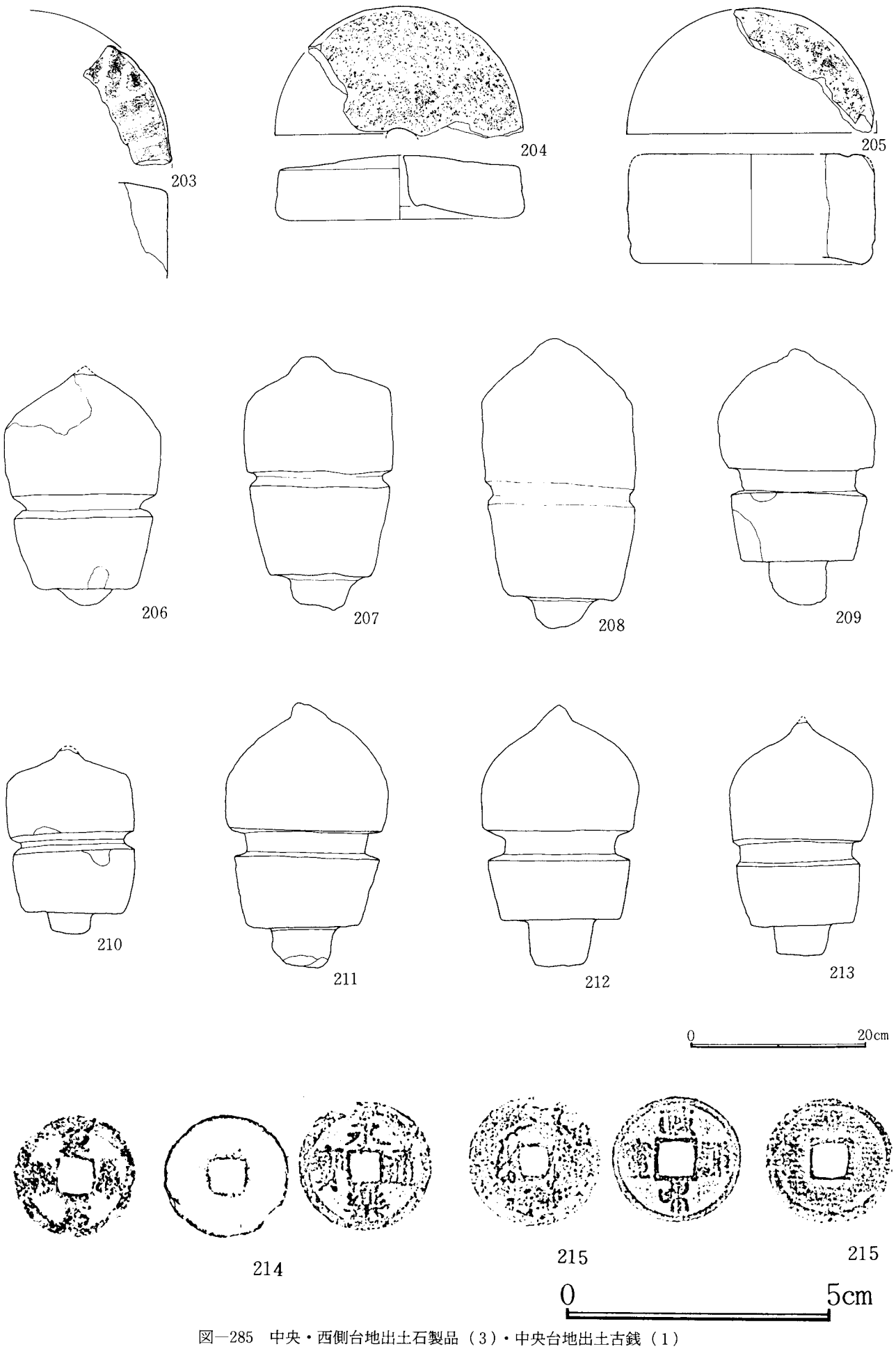
図—282　東側台地出土陶磁器（15）



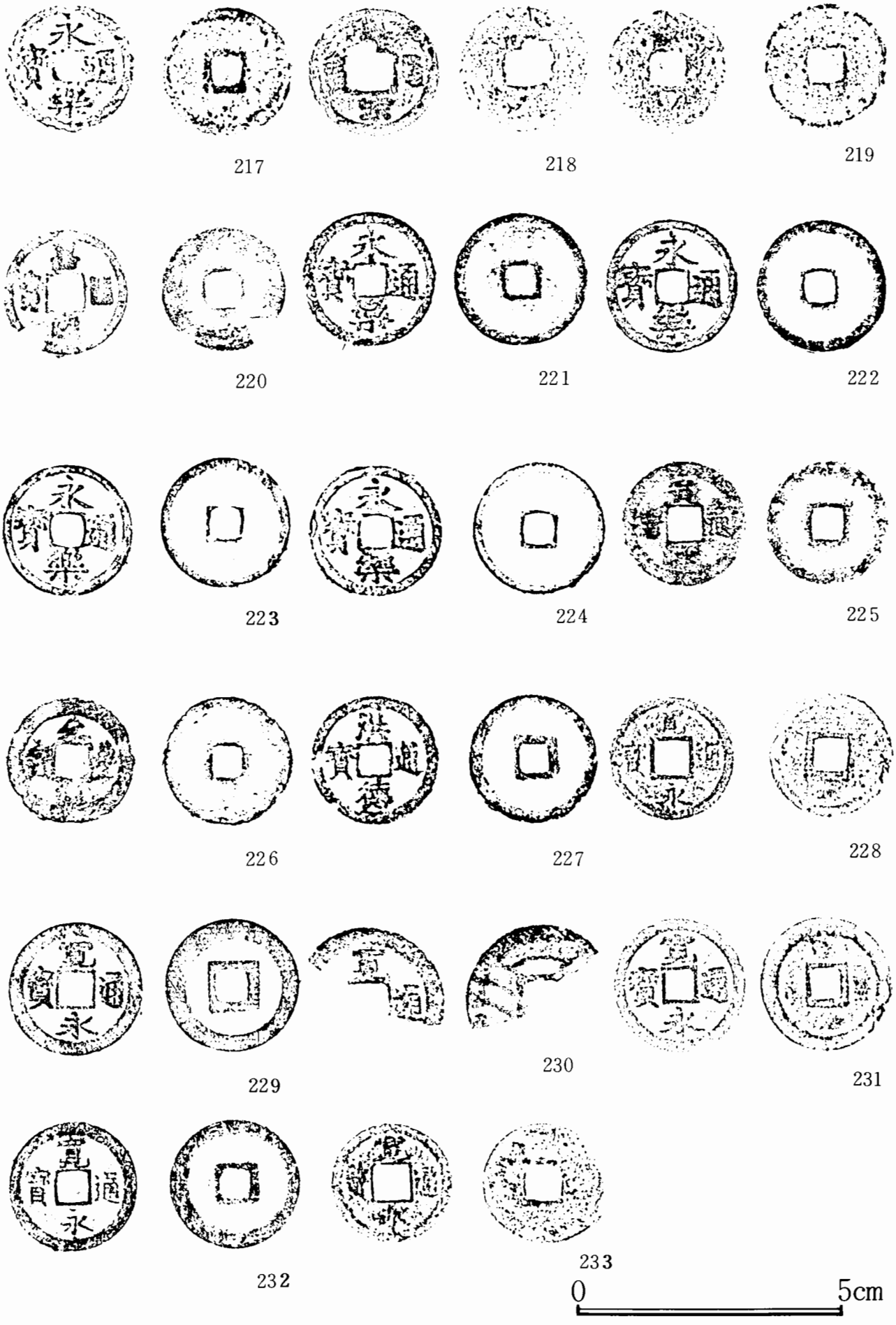
図一283　東側台地出土・表採陶磁器（16）・中央台地出土石製品（1）



図—284　中央・西側台地出土石製品（2）



図—285　中央・西側台地出土石製品（3）・中央台地出土古銭（1）



図—286　中央・西側台地出土古銭（2）

表一165　中近世遺物観察表

番号	整理番号	器種・種別・法量	出土位置	胎　土	器形・徴釉調・文様などの特徴	備　考
1	152	青磁碗　磁器　胴部片	リ―28―1	灰白色。	碗の体部下位片。内面にヘラと櫛状工具による花文。内外面に青磁釉。太宰府分類Ⅰ―3類。	龍泉窯系 13C
2	150	青磁碗　磁器　口縁片	ヘ―23―9	灰白色。	鎬蓮弁文碗の口縁部細片。青磁釉に貫入。太宰府分類Ⅰ―5b類。	龍泉窯系 13C
3	156	青磁碗　磁器　体部上～高台部欠	ト―26―43	青灰色。	鎬蓮弁文碗の底部。底部内面周縁にヘラによる段差。太宰府分類Ⅰ―5b類。底部外面露胎。粗い貫入。	龍泉窯系 13C
4	145	青磁皿　磁器　口～胴部片	ニ―25―93	青灰色。	中国明代、腰折れ稜花皿の口縁部。釉は不透明。粗い貫入。釉は厚い。	龍泉窯系 16C
5	146	染付皿　磁器　全形の約⅙	ホ―26―65	灰白色。	中国明代の青花皿。口縁部は外反し、高台は内傾。高台端部のみ露胎。透明釉中に細かい気泡多い。底部外面の釉は薄い。底部内面の文様は玉取り獅子か。外面は唐草文。	景徳鎮系？ 16C後半
6	234	古瀬戸瓶？　陶器　胴部片	ホ・ヘ―26 ヘ―27	灰白色。	外面に灰釉。内面は無釉。	瀬戸 13～14C？
7	32	甕　焼締陶器　胴部片	ヘ―28―7	青灰色。白色鉱物粒がやや溶ける。	器表はにぶい褐色。技法的には常滑系陶器。	製作地不詳 中世
8	157	灰釉おろし皿　陶器 底径（5.9）	ト―24―63	灰白色。やや緻密。	底部内面におろし目。内面の一部に灰釉。口縁部には施釉されていたと考えられる。底部外面回転糸切り無調整	瀬戸・美濃系 15～16C
9	67	甕　焼締陶器　胴部片	ト―28―81 ト―27―69・70・77～80 87～90	灰白色。白色鉱物粒少量含む。胎土が部分的に縞状を呈する。	内面はにぶい褐色。外面は自然釉が流れる。内面に指頭圧痕。	常滑系 中世
10	211	土師質土器　皿　口縁一部欠　口8.9 底6.0 高2.2	リ―28―49	橙色。細砂～粗砂含む。	底部左回転糸切り無調整。内面に螺旋状の線条痕。口縁端部の5ケ所に油煙付着。	在地製 15C
11	214	土師質土器　皿　口縁一部欠　口9.0 底5.5 高2.0	リ―28―49	橙色。細砂～粗砂含む。	底部左回転糸切り無調整。内面の指撫ではない。口縁端部の1ケ所に油煙付着。	在地製 15C
12	215	土師質土器　皿　口縁一部欠　口8.9 底6.2 高2.1	リ―28―39	にぶい橙色。細砂～粗砂含む。	底部左回転糸切り無調整。内面に螺旋状の線条痕。口縁部に広く油煙付着。	在地製 15C
13	216	土師質土器　皿　口縁一部欠　口8.8 底5.9 高2.2	リ―28―39	にぶい橙色。細砂～粗砂含む。	底部左回転糸切り無調整。底部内面に指撫で。口縁部の3ケ所に油煙付着。	在地製 15C
14	206	土師質土器　皿 口8.3　底5.8　高1.8	リ―28―39	橙色。細砂～粗砂含む。	底部左回転糸切り無調整。底部内面の指撫ではない。	在地製 16C
15	207	土師質土器　皿 口8.9　底（5.0）　高2.3	リ―28―39	にぶい橙色～橙色。細砂～粗い砂含む。	底部左回転糸切り無調整。底部内面の指撫ではない。	在地製 15C
16	205	土師質土器　皿 口9.1　底5.1　高2.2	リ―28―29・38・39・48・49・59	にぶい橙色。黒色鉱物粒含む。	底部左回転糸切り無調整。底部内面の指撫ではない。	在地製 15C
17	238	土師質土器　皿 口10.5　底6.0　高2.6	ト―28―49・56・57・66・67	にぶい橙色。黒色鉱物粒含む。	底部左回転糸切り無調整。底部内面の指撫ではない。	在地製 15C
18	209	土師質土器　皿 口11.9　底7.0　高3.1	リ―28―29・38・39・48・49	橙色。黒色・金色鉱物粒含む。	底部左回転糸切り無調整。底部外面に板状圧痕。底部内面指撫で。	在地製 15C
19	210	土師質土器　皿 口11.9　底6.8　高3.0	リ―28―49	橙色。黒色鉱物粒含む。	底部左回転糸切り無調整。底部内面の指撫ではなく、螺旋状の轆轤目残る。	在地製 15C
20	208	土師質土器　皿 底7.8	リ―28―38	黄橙色。黒色鉱物粒含む。	底部左回転糸切り無調整。底部内面の指撫ではなく、螺旋状の轆轤目残る。内面に油煙多量に付着。	在地製 15C
21	217	土師質土器　皿　完形 口12.2　底6.4　高3.2	リ―28―39	橙色。黒色鉱物粒含む。	底部回転糸切り無調整、圧痕あり。轆轤回転方向不明。底部内面指撫で。口縁部の半分に油煙付着。	在地製 15C
22	212	土師質土器　皿 口11.2　底3.5　高3.5	チ―28―61	浅黄橙色。黒色鉱物粒多く含む。	底部切り離し技方不明。底部外面に直線状の圧痕。底径は小さい。	在地製 15C
23	204	土師質土器　皿 底7.2	リ―28―49	浅黄橙色。黒色鉱物粒少量含む。	底部回転糸切り無調整。轆轤回転方向不明。底部外面に直線状の圧痕。	在地製 15C
24	242	土師質土器　皿 口11.5　底6.2　高2.6	ト―28―47・56・57	橙色。金色鉱物含む。	底部左回転糸切り無調整。遺存が悪く、内面調整は不明。	在地製 15C
25	213	土師質土器　皿 口12.0　底6.4　高3.1	リ―28―49	橙色。黒色鉱物粒含む。	底部左回転糸切り無調整。底部外面に直線状の圧痕。底部内面の指撫ではない。	在地製 15C
26	237	土師質土器　皿 口12.4　底6.0　高3.1	ト―28―47・56・57・66・67	橙色。黒色鉱物粒含む。	底部左回転糸切り無調整。底部内面の指撫ではない。	在地製 15C
27	240	土師質土器　皿 口11.9　底7.1　高2.6	ト―28―47・56・57・66・67	黄橙色。黒色鉱物粒僅かに含む。	底部左回転糸切り無調整。底部内面の指撫ではない。	在地製 15C
28	241	土師質土器　皿 口12.1　底5.9　高2.4	ト―28―47・56・57・66・67	にぶい赤褐色。黒色鉱物粒僅かに含む。	底部左回転糸切り無調整。底部内面の器表は摩滅している。	在地製 16C？
29	23	鉄絵皿　陶器 底7.2	Ⅰ―24号井戸跡 ニ―23―9	淡黄色。やや緻密。	削り出し高台。底部内面に鉄絵。内面のみ長石釉。高台端部に重ね焼き痕。	瀬戸・美濃系 16～17C

番号	整理番号	器種・種別・法量	出土位置	胎　土	器形・徴釉調・文様などの特徴	備　考
30	66	志野丸皿　陶器 底6.6	ト―28―81 ト―27	淡黄色。やや粗い。	削り出し高台。全面に長石釉。高台内一部露胎。内面に貫入	瀬戸・美濃系 17C
31	24	灰釉皿　陶器 底3.6	Ⅰ―24号井戸跡 ニ―23、ホ―27	灰白色。露胎部は暗赤褐色	高台は碁笥底状に削り出す。高台脇以下を除き灰釉。貫入あり。高台端部に胎土目。	肥前陶器　波佐見系？17C後半
32	44	天目茶碗　陶器　体部上半・高台部欠	チ―27― 9	青灰色。黒色粒子少量含む。	器壁は厚い。削り出し輪高台。高台脇まで天目釉を薄く施釉。釉は若干結晶状態で、僅かに禾目となる。	瀬戸・美濃系？ 17C中頃
33	70	天目茶碗　陶器 口11.6　底4.8　高6.8	ト―27―77	灰白色。やや緻密。	器壁は全体に薄い。削り出し輪高台。鉄釉を厚く施釉後、高台脇の釉を削り取る。高台脇以下無釉。口縁部はやや内傾し、短く立ち上がる。口縁端部は外反する。	瀬戸・美濃系 17C末～18C初頭
34	28	青磁瓶？　磁器　胴部片	へ―27―89	白色。	外面上半ヘラケズリ。外面のみ青磁釉。	肥前磁器？ 17～19C
35	25	飴釉碗　陶器　口縁片	ホ―26― 1	淡黄色。	内外面飴釉。口縁端部内外面に白濁した灰釉。いわゆる「尾呂茶碗」	瀬戸・美濃系 18C
36	184	上絵碗　磁器 底4.0	ホ・へ―26 へ―27	白色。	高台脇に赤色の上絵界線。高台端部のみ無釉。	瀬戸・美濃系 大正～昭和
37	147	陶胎染付碗　陶器 底5.2	ホ―26―49	灰色。	高台端部を除き、厚い透明釉。粗い貫入。呉須の発色は悪い。	肥前陶器 18C前半
38	33	飴釉皿　陶器 底4.0	へ―28― 7	灰白色。	底部を削り込み、碁笥底状にする。内面のみ飴釉。目痕一つあり。	瀬戸・美濃系 17～19C
39	22	銅版皿　磁器　口縁片	Ⅰ―24号井戸跡 ニ―23― 9	白色。	銅版プリントによる緑色の下絵	瀬戸・美濃系？ 大正
40	185	碗　陶器　口縁片	ホ・へ―26 へ―27	にぶい黄色。緻密。	内外面に細かい貫入のある透明釉。	製作地不詳 18～19C
41	75	染付丸碗　磁器　体部上半・高台部欠	ホ・へ―26 へ―27	白色。	底部内面に五弁花。外面に不明文様。呉須の発色は良い。高台端部欠損。	肥前磁器 18C後半
42	235	灰釉碗　陶器 底4.9	ホ・へ―26 へ―27	灰白色。	付け高台。高台脇以下を除き、細かい貫入のある灰釉。釉厚にはむらがある。	瀬戸・美濃系 16C後半？
43	53	灰釉折り縁皿　陶器 口12.3	ト―27―89 ト―28―67	灰白色。	口縁部は外反し、端部を上に折り曲げる。内外面に貫入のある灰釉。	瀬戸・美濃系 16C前半
44	65	灰釉皿　陶器 口14.0　底7.6　高2.8	ト―28―81 ト―27	灰白色。緻密。	外面は口縁部下までヘラケズリ。高台端部を除き、細かい貫入のある灰釉。底部内面に輪状の重ね焼き痕。	製作地不詳 18C前半
45	107	燈明皿　陶器 口7.7　底3.6　高1.8	ホ―23― 8・9 17～19・27～29	浅黄色。緻密。	底部回転糸切り後撫で。内面から口縁部外面に透明釉。細かい貫入。内面に3ケ所目痕あり。口縁端部に油煙付着。	製作地不詳 18～19C
46	229	刀子　　錆がひどく形態は不明瞭。柄部分に木質が遺存。ホ―26区出土。 現存長14.4　背厚0.5　幅1.4				
47	141	キセル　　吸い口部分に段差があるが、面取りはない。ニ―23―45区出土。 現存長5.1　吸い口幅0.5　肩幅1.2　肩厚0.25				
48	228	キセル　　吸い口部分は長く、段差はない。ホ―26―67区出土。 現存長6.1　吸い口幅0.4　肩幅1.1　肩厚0.25				
49	31	甕　焼締陶器　胴部片	へ―28― 7	極暗赤褐色。	器表は光沢のある暗赤褐色。内面に自然釉が流れる。	製作地不詳 江戸時代以降
50	176	鉢か甕　焼締陶器 胴部片	ホ・へ―26 へ―27	灰白色。灰白鉱物粒僅かに含む	内面はヘラナデ。外面はナデ。外面に圧痕あり。	渥美系 12～13C？
51	158	片口鉢　焼締陶器 口縁片	ト―25―43	灰色。灰白鉱物粒多く含む。	口縁部は僅かに外反し、端部は肥厚する。	常滑系 13C前半
52	76	甕　焼締陶器　胴部片	ホ・へ―26 へ―27	黄灰色～黒灰色白色鉱物粒含む	外面器表は暗赤褐色。外面肩部下位の一部に自然釉。	常滑系？ 13～15C
53	154	甕か壺　焼締陶器 胴部片	チ―28― 7	灰白色。白色鉱物粒含む。	外面器表は暗赤褐色。外面に2種類の叩目。内面はにぶい橙色。内面に紐造り痕。	常滑系 中世
54	81	擂鉢　軟質陶器　口縁片	ホ・へ―26 へ―27	灰色。細砂多く含む。	口縁端部は内面に小さく折り曲げる。	在地製14C後半～15C初頭
55	45	擂鉢　軟質陶器　胴部片	チ―28―61	灰色。白色鉱物粒多く含む。黒色粒子含む。	体部下位に擂目。体部下半は使用により摩滅。外面口縁部下に沈線状の条線。	在地製 15～16C
56	148	擂鉢　軟質陶器　口縁片	ホ―22―89	灰色。白色鉱物粒多く含む。黒色粒子含む。	口縁端部は小さく内面に折り曲げる。口縁端部内外面摩滅する。	在地製 14C後半～15C初頭
57	49	擂鉢　軟質陶器　胴部片	へ―27―51	灰色。白色鉱物粒多く含む。黒色粒子含む。	体部下位は使用により若干摩滅。	在地製 14～15C
58	155	擂鉢　軟質陶器　口縁片	ト―25―21	灰色。白色鉱物粒多く含む。黒色粒子含む。	口縁端部は小さく内面に折り曲げる。	在地製 14C後半～15C初頭

番号	整理番号	器種・種別・法量	出土位置	胎　土	器形・徴釉調・文様などの特徴	備　考
59	80	擂鉢　軟質陶器　胴～底部片	ホ・へ―26 へ―27	灰色～極暗赤褐色。白色鉱物粒多く含む。礫少量含む。	器壁は厚い。体部内面下半は使用により、著しく摩滅。	在地製 15～16C
60	74	擂鉢　軟質陶器　胴～底部片	ホ―22―88	にぶい橙色。白色鉱物粒多く含む。黒色粒子含	器壁は厚い。体部内面下位は使用により摩滅。外面は2次的な過熱を受ける？	在地製 15～16C
61	144	擂鉢　軟質陶器 底9.2　厚1.7	へ―27―85	灰白色。白色鉱物粒多く含む。	内面に擂目。底部内面と体部の摩滅は著しく、擂目は一部残存。体部外面に2条の火襷。	在地製 15～16C
62	78	擂体　軟質陶器　胴～底部片	ホ・へ―26 へ―27	明赤褐色。白色鉱物粒多く含む。赤色粒子含む。	内面に深い曲線の擂目。内面体部下位は使用により若干摩滅。	在地製 15～16C
63	48	擂鉢　軟質陶器 底9.8　厚1.4	へ―27―51	灰色。白色鉱物粒多く含む。黒色粒子含む。	体部内面下位は使用により著しく摩滅。	在地製 14～15C
64	20	擂鉢　軟質陶器　胴～底部片	Ⅰ―24号井戸跡 ニ―23― 9	灰色。白色鉱物粒多く含む。黒色粒子含む。	内面は使用により摩滅。	在地製 14～15C
65	151	擂鉢　軟質陶器 底12.3　底厚1.9	へ―26―43	灰色。白色鉱物粒多く含む。黒色粒子含む。	底部内面は中央を除き、使用により著しく摩滅。底部左回転糸切り無調整。	在地製 14～15C
66	77	擂鉢　軟質陶器 底12.5　厚1.5	ホ・へ―26 へ―27	灰白色。白色鉱物粒多く含む。黒色粒子含む。	器表は青灰色。底部周縁は使用により摩滅。底部左回転糸切り無調整。底部外面周縁は摩滅。	在地製 14～15C
67	35	擂鉢　軟質陶器　胴部片	チ―27―45	灰白色。中央のみ黒灰色	器表は黒灰色。7本一単位の長い擂目	在地製 16C
68	178	内耳鍋　軟質陶器 口縁片	ホ・へ―26 へ―27	にぶい黄橙色。白・黒色鉱物粒多く含む。	口縁部は短く、外反。器壁は厚い。	在地製 14C後半～15C前半
69	179	内耳鍋　軟質陶器 口縁片	ホ・へ―26 へ―27	灰白色。白色鉱物粒多く含む。	口縁部は外反し、端部は僅かに内湾。	在地製 15C
70	50	内耳焙烙　軟質陶器 口縁片	リ―29―21	中央は黒灰色。表面付近はにぶい橙色。	口縁部に一条の沈線。内面口縁部下に、幅広の取っ手の貼り付け痕。	在地製 17～18C
71	52	内耳鍋　軟質陶器 口縁片	ト―28―63	灰色。白色鉱物粒多く含む。黒色粒子含む。	器表は黒灰色。口縁端部は丸い。	在地製 15C
72	51	内耳鍋　軟質陶器 胴部片	リ―28―27	中央はにぶい赤褐色。器表付近は黄灰色。	取っ手付近の細片。	在地製 14C後半～16C
73	34	内耳鍋　軟質陶器 口縁片	チ―27―45	灰色。白色鉱物粒多く含む。	外面の器表は黒灰色。口縁部は外反。口縁部下はくびれる。	在地製 15C後半
74	72	内耳鍋　軟質陶器 口縁片	ホ―22―88	橙色。白色鉱物粒多く含む。赤色粒子含む。	器表は黒灰色。外面は煤付着。口縁部はくびれる。	在地製 15C後半
75	46	内耳鍋　軟質陶器 口縁片	ト―27― 3	にぶい橙色。白色鉱物粒多く含む。赤色粒子含む。	器表は黒灰色。外面は煤付着。口縁部は外反し、くびれる。	在地製 15C後半
76	79	内耳鍋　軟質陶器 口～胴部片	ホ・へ―26 へ―27	にぶい橙色。白色鉱物粒含む。	口縁部は緩く外反。外面に煤付着。82と同一個体か？	在地製 15C前半
77	26	内耳鍋　軟質陶器 胴部片	ト―27―21	にぶい赤褐色。白色鉱物粒多く含む。赤色粒子含む。	器表は黒灰色。外面に煤付着。	在地製 15～16C
78	43	内耳鍋　軟質陶器 胴部片	リ―28―41	にぶい橙色。白色鉱物粒多く含む。赤色粒子含む。	器表は黒灰色。外面に煤付着。	在地製 14C後半～15C
79	3	内耳鍋　軟質陶器 底（15.8）	へ―26―69	にぶい橙色。白色鉱物粒多く含む。赤色粒子含む。	外面は体部下端を除いて煤付着。	在地製 15C
80	42	内耳鍋　軟質陶器 底（18.9）　現高15.1	リ―29―43	にぶい橙色。白色鉱物粒含む。礫含む。	器表は黒灰色。口縁部下はくびれる。外面は体部下端を除き煤付着。底部砂底撫で消す。	在地製 15C

番号	整理番号	器種・種別・法量	出土位置	胎　土	器形・徴釉調・文様などの特徴	備　考
81	203	内耳鍋　軟質陶器 口26.3　現高13.8	ト―27・28	橙色～灰白色 白色鉱物粒多く含む。礫含む。	器表は灰白色～灰黒色。外面に煤付着。体部外面はヘラケズリ後撫で。	在地製 15C前半
82	236	内耳鍋　軟質陶器 口～胴部片	ホ・へ―26 へ―27	にぶい橙色。白色鉱物粒含む。	口縁部は緩く外反。外面に煤付着。取っ手一つ残存。73と接合。	在地製 15C後半
83	289	内耳鍋　軟質陶器 口32.1　現高13.6	ト―28―47・ 56・57・66・67	にぶい赤褐色。白色鉱物粒多く含む。	外面は黒灰色。取っ手一つ残存。取っ手中央に煤付着。体部外面はヘラケズリ。体部内面の器表は剝離している。	在地製 15C前半
84	149	不明石製品　円盤状を呈するが片面の調整は雑。ホ―26区出土。 幅4.9×5.0　厚0.7～1.2				
85	4	砥石　一面のみ多用する。裏面も若干使用する。一方の小口は欠損。ホ―28―1区出土。 長7.2　幅2.8　厚2.3				
86	69	内耳鍋　軟質陶器 口30.9　現高11.0	ト―27・28	にぶい橙色。白色鉱物粒含む。	器壁は薄い。器表は黒灰色。取っ手一つ残存。口縁端部は平担。内面の口縁部下に段差。	在地製 16C
87	68	内耳鍋　軟質陶器 口31.0　現高14.7	ト―27・28	にぶい橙色。白色鉱物粒含む。	器壁は薄い。器表は黒灰色。口縁端部は平担。内面の口縁部下に段差。	在地製 16C
88	27	内耳鍋か　軟質陶器 口縁片	ホ―27―69	にぶい橙色。白・黒色鉱物粒含	口縁部は一旦外反し、上方に立ち上がる。口縁端部はややくぼむ。	在地製 17C？
89	30	内耳焙烙　軟質陶器 口(35.9)底(31.9)高6.0	へ―28―7	にぶい橙色。黒色鉱物粒多く含む。赤色粒子含む。	体部の器壁は厚い。口縁端部は平担。内面に段差。	在地製 16～17C？
90	7	内耳焙烙　軟質陶器 口(32.9)底(30.0)高5.8	へ―28―87	中心付近は黒灰色。表面付近は灰白色。	器表は黒色。口縁端部は内傾。内面の段差はない。	在地製 17～18C
91	5	内耳焙烙？　軟質陶器 底（22.4）	ホ―28―1	にぶい橙色。	底部外面は砂底。体部外面に煤付着。	在地製 16～18C
92	29	砥石　3面を多用し、潰れているように見える。2面に刃物傷。ト―27―7区出土。 長11.6　幅1.9～3.4　厚1.7～2.0				
93	38	砥石　3面を使用。刃物傷あり。下方は欠損。へ―27―41出土。 長6.8　幅4.5　厚3.6				
94	169	不明石製品　側面は擦られているが上下面・小口は削られている。へ―26―20区出土。 長7.7　幅6.6　厚2.9				
95	171	砥石　1面のみ多用する。裏面は自然面を残す。ホ・へ―26、へ―27区出土。 長7.7　幅2.5　厚2.2				
96	172	不明石製品？　表・裏面に研磨痕　ホ・へ―26、へ―27区出土。 長7.4　幅8.3　厚6.4				
97	36	鉄釉壺　陶器　口縁片	チ―27―89	にぶい橙色。発泡した黒色粒子多く含む。	口縁部は外方に折り返す。内外面に錆色の鉄釉。	益子・笠間系 19C中頃～後半
98	21	錆釉擂鉢　陶器　口縁片	Ⅰ―24号井戸跡 ニ―23―9	淡黄色。黒色鉱物粒少量含む。	口縁部は内側に折り返す。内外面に錆釉。	瀬戸・美濃系 18C前半？
99	37	擂鉢　焼締陶器　胴部片	チ―27―89	にぶい橙色～灰色。石英含む。	外面器表はにぶい橙色。7本一単位の擂目。	信楽系？ 17～18C
100	47	擂鉢　焼締陶器　胴～底部片	リ―28―23	灰色。白色礫多く含む。石英少量含む。	器表は赤褐色。10本＋αの擂目。底部は砂底。	信楽系？ 17～18C
101	183	鉄釉甕　陶器　胴部片	ホ・へ―26 へ―27	にぶい赤褐色。灰白色の縞あり。緻密。	内外面に光沢のある錆色の鉄釉	製定地不詳 19C
102	39	長石釉皿　陶器 口12.7　底7.6　高3.15	C―2―65	淡黄色。	体部は斜めに立ち上がり、口縁部は外反する。高台端部を除き長石釉。釉厚にムラ。	瀬戸・美濃系 17C末～18C 初頭？
103	127	灰釉皿　陶器 口10.6　底6.2　高2.3	A―16	淡黄色。やや緻密。	底部内面の釉を掻き取る。底部内面を除き、貫入の入る灰釉。底部内外面輪トチ痕。高台碁笥底状に削り出す。	瀬戸・美濃系 16C中頃
104	105	土師質土器　皿 口9.4　底5.7　高2.2	C―19・20 H227雑	にぶい橙色。白色鉱物粒含む。	口縁部は内湾。底部外面糸切り痕不明瞭。直線状の圧痕残る。口縁端部に油煙付着。	在地製
105	101	瓶　焼締陶器 底14.5　厚0.9	D―102 H226雑	褐灰色。白色鉱物粒多く含む。	貼り付け高台。内面調整は雑。	製作地不詳 年代不詳。
106	61	染付碗　磁器 口（7.9）底2.8 高3.8	C―24―3(拡)	灰白色	口縁部は直線的に立ち上がる。体部外面に笹を下絵付け。高台端部を除き透明釉。釉厚にはムラがある。	肥前磁器 18C
107	97	染付筒形碗　磁器 口縁片	A―14―3～5 13～15、24	白色。	口縁部は直立し、筒形を呈する。外面にやや簡略化した菊花文	肥前磁器 18C後半～19C 初頭

番号	整理番号	器種・種別・法量	出土位置	胎　土	器形・徴釉調・文様などの特徴	備　考
108	96	染付碗　磁器　小破片	A—14—3～5 13～15、24	灰白色。	器壁は厚い。外面に雪輪文と草花文。呉須の発色は悪い。	肥前磁器 波佐見系 18C
109	125	染付碗　磁器　小破片	口—13区 H136雑	灰白色。	口縁部は直線的に緩く開く。外面に草花文。透明釉は白濁する。呉須の発色は悪い。	肥前磁器 波佐見系 18C
110	55	染付碗　磁器 口9.8　底4.2　高5.1	C—24—3(拡)	灰白色。	口縁部は緩く外反する。外面は2重網目文。高台端部を除き透明釉。釉はやや白濁。	肥前磁器 波佐見系？ 18C
111	54	染付碗　磁器 口10.3　底4.3　高5.4	C—24—3(拡)	灰白色。	口縁部は緩く外反する。外面は草花文。高台内に不明染付銘。	肥前磁器 波佐見系 18C
112	138	陶胎染付碗　陶器 口—胴部片	M—1—9	オリーブ黒色。	口縁部は僅かに外反する。外面に植物文か。貫入の入る透明釉。胎土が灰白色に焼き上がっていないため、文様はほとんど見えない。	肥前陶器 18C前半
113	85	灰釉碗　陶器？ 底4.5	B・C—12 H480雑	灰白色～淡黄色	高台はやや高い。高台外面中位から高台内は無釉。明緑灰色の灰釉。外面には釉垂れ。胎土は灰白色の部分が波佐見系磁器と同様。	肥前陶器？ 波佐見系 17C後半
114	104	飴釉小碗　陶器 底4.1	C—20—13 H221№10	淡黄色。	高台脇以下は無釉。	瀬戸・美濃系 17C後半～18C
115	113	灰釉碗　陶器 口9.0	M・L—4 H83雑	灰色。	口縁部は内湾し、僅かに内傾。体部下位まで回転ヘラケズリ。貫入あり。	瀬戸・美濃系 18～19C前半
116	124	飴釉碗　陶器　口—胴部片	E—103 H216雑	淡黄色	口縁部は直立する。口縁部には白濁した灰釉を僅かに流す。いわゆる「尾呂茶碗」	瀬戸・美濃系 18C中頃～後半
117	222	灰釉輪禿皿　陶器 底6.0	C—24—3(拡)	灰白色。緻密。	高台は断面三角形。付け高台。底部内面中央はコテによりくぼむ。底部の釉を輪状に拭い取る。細かい貫入のある灰釉。内面に銅緑釉を流す。高台脇以下は無釉。	瀬戸・美濃系 18C前半
118	40 41	鎧茶碗 陶器 胴部・底部	W68号溝跡 ロ・ハ—10	灰白色。やや緻密。	外面は灰釉。内面は銅緑釉。外面には回転施文具による刺突文。緑釉には粗い貫入。高台端部のみ無釉。40・41は同一個体の可能性が高い。	瀬戸・美濃系 18C後半～19C前半
119	64	灰釉筒形碗　陶器 口10.2　底5.0　高5.6	C—24—3(拡)	灰白色。	体部下位は稜をなして屈曲。高台脇以下は無釉。細かい貫入のある灰釉。腰部は回転ヘラケズリ。	瀬戸・美濃系 18C前半？
120	221	灰釉丸碗　陶器 底5.1	C—24—3(拡)	淡黄色	やや高い貼り付け高台。高台脇以下は無釉。灰釉には貫入。	瀬戸・美濃系 18C前半
121	106	天目茶碗　陶器　高台部欠　口11.7　現高6.4	A—16 H204№19	灰白色。緻密。	高台脇まで厚い鉄釉。口縁部はやや内傾し、端部は小さく外反。	瀬戸・美濃系 17C末～18C初頭
122	122	天目茶碗　陶器　胴部片	D—101 H235雑	淡黄色。	器壁はやや厚く、口縁部は内傾する。体部下位まで厚い鉄釉	瀬戸・美濃系 16C後半～17C
123	223	碗　陶器 口12.0　底4.7　高7.6	E—21—81	淡黄色。	高台は高い。高台端部を除き、細かい貫入の入る透明釉口縁部は直線的。	肥前陶器 18C前半
124	1	染付皿　磁器 口(12.4)底(7.4)高3.1	I—3号井戸跡 A—10—78・88	白色。	体部内面は菊花文。外面は簡略化した唐草文。口錆。体部と底部器壁厚い。	肥前磁器 18C
125	93	京焼風陶器　皿 底8.3	M・L—8 H85雑	灰白色。	高台はシャープ。端部外面は面取り。炻器質に焼き締まる。内面に鉄絵具による簡略化した桜閣山水文。1ケ所目痕残る。高台脇以下を除き、細かい貫入のある透明釉	肥前陶器 18C
126	114	灰釉丸皿　陶器 口10.8	M・L—4 H83雑	青灰色。やや緻密。	口縁部外面は回転ヘラケズリ。オリーブ灰色の灰釉。	瀬戸・美濃系 18C
127	109	灰釉丸皿　陶器 口11.2	K—8 H72№10	灰白色。やや緻密。	外面口縁部以下は幅の広い回転ヘラケズリ。高台脇以下を除き灰釉。高台境はヘラにより削り込まれる。	瀬戸・美濃系 17C後半
128	120	飴釉皿　陶器 底5.5	W66号溝中 イ—13	淡黄色。	底部は碁笥底状に削り出す。内面のみ飴釉。燈明皿か。	瀬戸・美濃系 18～19C
129	126	志野丸皿　陶器 口12.0　底7.1　高1.7	A—16 H204雑	淡黄色。やや緻密。	体部以下は回転ヘラケズリ。全面に志野釉。内面に粗い貫入。高台内に窯道具熔着。	瀬戸・美濃系 16C中頃？
130	129	灰釉摺絵皿　陶器 底7.2	ハ—13区 H142雑	灰白色。	底部内面に型紙による樹木の摺絵。底部内面に目痕2か所。高台脇以下は無釉。	瀬戸・美濃系 18C
131	220	御深井打型皿　陶器 口9.4　底5.4　高3.1	C—24—3(拡)	青灰色。	打型により木瓜型に成型。内面に布目残る。貼り付け高台。高台脇以下は無釉。	瀬戸・美濃系17C末～18C前半
132	123	灰釉丸皿　陶器 口12.9　底6.2　高3.0	E—102 H203雑	灰白色。やや緻密	外面口縁部以下より高台側にかけて回転ヘラケズリ。内面～外面上半に灰釉。内面重ね焼き痕。	瀬戸・美濃系 17C後半
133	112	灰釉徳利　陶器 底6.8	N—1・101 H156雑	灰色。	体部下位以下は釉を拭い取る。内面は無釉。いわゆる高田徳利	瀬戸・美濃系 19C前半
134	94	鉄釉徳利　陶器 底9.3	W66号溝中 イ—13	灰白色。	体部下端以下の釉を拭い取る。内面は無釉。	瀬戸・美濃系 18C
135	63	鉄釉徳利　陶器 底7.2	C—24—3(拡)	淡黄色。	体部外面は回転による条線。底部外面の釉を拭い取る。内面は無釉。底部外面は回転ヘラケズリ。	瀬戸・美濃系 18～19C

番号	整理番号	器種・種別・法量	出土位置	胎　土	器形・徴釉調・文様などの特徴	備　考
136	57	鉄釉徳利　陶器 現高13.8　厚0.7	C－24－3(拡)	灰白色。	外面は鉄釉。内面は薄い鉄釉。	瀬戸・美濃系 18C
137	116	鉄釉燈明皿　陶器 口9.6	ロ－9区 H262雑	灰色。	外面口縁部以下は釉を拭い取る。	瀬戸・美濃系 18C
138	132	錆釉燈明皿　陶器 口9.2　底3.4　高1.6	ハ－13区 H142雑	灰色。	口縁部外面以下は釉を拭い取る。外面口縁端部以下は回転ヘラケズリ	瀬戸・美濃系 18C
139	102	錆釉燈明皿　陶器 口10.0　底5.0　高2.3	E－102 H203雑	橙色。	外面口縁部以下は無釉。外面体部下位以下は回転ヘラケズリ。口縁端部に油煙付着。	製作地不詳 18～19C
140	88	燈明皿受け皿　陶器 口8.2　底4.2　高1.7	A－14－3	灰白色。	口縁部～体部外面の釉は拭い取る。体部外面下位と受け部端部に重ね焼き痕。外面口縁部以下は回転ヘラケズリ	瀬戸・美濃系？ 18C後半～19C
141	115	燈明皿受け皿　陶器 口9.8	ロ－9 H262雑	灰白色。	口縁部は直線的。内外面に錆釉。体部外面と受け皿端部に重ね焼き痕。	瀬戸・美濃系？ 18～19C
142	95	燈明皿受け皿　陶器 口11.0　底5.1　高2.1	A－14 H144雑	灰白色。	口縁部外面以下は錆釉を拭い取る。体部外面と受け皿端部に重ね焼き痕。口縁部外面以下は回転ヘラケズリ。	瀬戸・美濃系 18C後半
143	130	筒形香炉　陶器 底6.1	ハ－13 H142雑	淡黄色。	体部下端面取り。底部に脚を貼り付ける。体部外面のみ施釉。	瀬戸・美濃系 17～18C
144	99	鉄釉土瓶　陶器　肩部片	A－14区 H144雑	黒灰色～にぶい橙色。黒色粒子含む。	土瓶の肩部小片。外面に浅い沈線。外面に光沢のある鉄釉。内面は鉄釉が流れる。	前橋藩窯（皆沢・高浜焼） 19C初頭～中頃
145	86	行平蓋　陶器 摘径6.0　口18.5　高4.4	A－13－85	淡黄色	上面には飛び鉋。飛び鉋の両面には極めて薄い錆釉。内面は光沢のある黒色の鉄釉。	益子・笠間系 明治～大正
146	98	灰釉土瓶　陶器　注口～底部　底7.4	A－14区 H144雑	黒色。白色鉱物粒を多く含む。	器表は暗赤褐色。底部は碁笥状。粒状の脚を貼り付ける。体部下位以下は無釉。内面は無釉。	製作地不詳 幕末～明治
147	118	キセル　　雁首・羅宇・吸い口ともに銅製。羅宇は楕円形。19C。A－10区（H333雑） 長12.7　吸口幅0.6　火皿幅1.1　肩幅0.6				
148	119	キセル　　銅製。羅宇が遺存している。らうの挿入部と吸い口に段差がある。A－10区（H333雑）出土。 長7.8　吸口幅0.5　肩幅0.9				
149	134	キセル　　真鍮製。19C。K－5・6区（H77雑）出土。 長7.7　吸口幅0.6　肩幅1.1　羅宇幅0.7				
150	90	鉄砲玉　　鉛製。A・B－17区（H202雑）出土。 幅1.2×1.3　重量41g				
151	218	甕　焼締陶器 底16.5	D－103区	灰白色～青灰色。粘土が縞状	器表は暗赤褐色。内面の一部に自然釉。	常滑系 中世
152	110	擂鉢　軟質陶器 口31.9　底11.0　高9.4	B・C－21 H135雑	灰白色。白色鉱物粒・礫含む。	器表は黒灰色。擂目はヘラによる4本一単位。内面体部下端は使用により摩滅する。外面体部下位はヘラケズリ。	在地製 16C？
153	131	錆釉擂鉢　陶器　口縁片	ハ－13区 H142雑	淡黄色。	口縁部は肥厚する。	瀬戸・美濃系 18～19C
154	8	錆釉擂鉢　陶器 底11.4	B－16－81	淡黄色。	体部外面は回転ヘラケズリ。底部は回転糸切り無調整。体部下位以下の錆釉を雑に拭い取る。16本1単位の擂目。	瀬戸・美濃系 18C
155	137	擂鉢　焼締陶器 口（33.9）	H－2 K63号掘立	赤褐色。白色鉱物粒・礫含む。	口縁部内面に突帯を巡らす。9本1単位のやや幅広の擂目。	堺系18C後半 ～19C前半
156	87	錆釉擂鉢　陶器 上幅34.9　現高10.0	A－13－5	淡黄色	外面は口縁部以下回転ヘラケズリ。16本1単位の擂目。	瀬戸・美濃系 18～19C前半
157	103	不明　軟質陶器 口(13.8)底(12.5)高4.3	P－102・103 H107雑	赤褐色。白物鉱物粒含む。	やや焼き締まる。用途不明。	在地製 時期不詳
158	108	火鉢？　軟質陶器	G－101 H192雑	灰黒色。白色鉱物粒・白色礫含む。	外面には綾杉文。	在地製 時期不詳
159	121	不明土製品　軟質陶器 幅8.6×5.1　厚1.2	J・K－10 H59雑	にぶい赤褐色。	表は丁寧なナデ。裏面の調整は雑。表には丸ノミで彫った痕が残る。裏面には接合痕がある。	在地製 時期不詳
160	2	内耳焙烙　軟質陶器 小破片	I－3号井戸跡 A－10－78・79	灰白色。	体部内面に緩やかな段差。体部外面煤付着。口縁端部はくぼむ。	在地製 16～18C
161	56	香炉　軟質陶器 口16.7　底10.1　高6.0	C－24－3(拡)	黒灰色。器表付近は灰白色。	体部は直線的に延びる。体部外面は丁寧な回転ヨコナデ。短い脚を貼り付ける。	在地製 17～18C
162	58	不明土製品　軟質陶器 底14.2　現高7.1	C－24－3(拡)	黒灰色。	体部は内湾し、上端に穿孔が1カ所残る。底部には低い脚が貼り付けられていた可能性がある。	在地製 時期不詳
163	62	鉢形鍋　軟質陶器 口～胴部片	C－24－3(拡)	にぶい橙色。	にぶい赤褐色の火襷がある。煤の付着はなく未使用か。外面に比して内面調整が非常に丁寧。器壁やや厚い。	在地製 17C
164	59	火起こし・せいろ？ 口(15.1)底(10.0)高4.9	C－24－3(拡)	にぶい橙色。	外面接合痕以下はヘラケズリ。底部に円形の穿孔。煤の付着や被熱痕は認められず、器高が低いが、せいろの可能性もある。	18C～明治
165	92	内耳焙烙　軟質陶器 口(34.3)底(29.8)高5.0	E－23－23	中央は黒灰色。器表付近はにぶい橙色。	外面に煤付着。体部上半はヨコナデ。	在地製 17～18C
166	84	内耳鍋　軟質陶器 胴部片	I－3号井戸跡 A－10区	灰白色。	外面のみ煤付着。	在地製 15～16C

番号	整理番号	器種・種別・法量	出土位置	胎　土	器形・徴釉調・文様などの特徴	備　考
167	111	用途不明　軟質陶器 口（33.3）	N－1・101 H156雑	にぶい赤褐色。	外面に煤付着。内面は被熱により変色。	在地製 時期不詳
168	219	石製硯　　下面と海は欠損。陸は使用により中央が大きくくぼむ。周囲の調整は雑。C－24－3（拡）出土。 長11.6　幅5.3　厚1.6～0.4				
169	60	石製硯　　陸の一部のみ残存。陸は使用により深くくぼむ。周囲の調整は丁寧。C－24－3（拡）出土。 長7.5　幅4.0～1.8　厚1.7～0.4				
170	19	灰釉丸皿　陶器 口11.0　底7.1　高2.4	I－18号井戸跡 ヲ－9・10	灰白色。	削り出し高台。体部下半は回転ヘラケズリ。高台内に2カ所円錐ピン痕。底部内面に1カ所円錐ピン痕残る。高台内の一部を除き、粗い貫入の入る灰釉。	瀬戸・美濃系 16C
171	18	志野丸皿　陶器 口10.8　底6.4　高2.0	I－18号井戸跡 ヲ－9・10	灰白色。	高台は碁笥底状に削り出す。外面口縁部下は回転ヘラケズリ。底部内面の3カ所に目痕。高台内は無釉。	瀬戸・美濃系 16C
172	16	志野丸皿　陶器 口10.7　底5.9　高2.4	I－18号井戸跡 ヲ－9・10	灰白色。	高台は碁笥底状に削り出す。外面口縁部下は回転ヘラケズリ。口縁端部は外反。高台内は無釉。	瀬戸・美濃系 16C
173	17	志野丸皿　陶器 口10.7　底5.6　高2.0	I－18号井戸跡 ヲ－9・10	灰白色。	高台は碁笥底状に削り出す。外面口縁部下は回転ヘラケズリ。高台内は無釉。口縁端部は外反。	瀬戸・美濃系 16C
174	11	飯茶碗　　磁器 底4.8	I－13号井戸跡 ワ－13・14	白色。	高台は下端で外傾。	瀬戸・美濃系 大正～昭和中期
175	12	型紙摺飯茶碗　磁器 口11.4　底4.3　高4.7	I－13号井戸跡 ワ－13・14	白色。	外面に型紙で梅などの文様を摺る。口縁部内面には瓔珞文。	瀬戸・美濃系 明治
176	10	銅版飯茶碗　磁器 口11.6　底3.3　高5.1	I－13号井戸跡 ワ－13・14	白色。	外面に松林を呉須、家屋の夜景を緑で銅版プリント。	瀬戸・美濃系 大正
177	9	急須　陶器 口6.4　底4.8　高6.6	I－13号井戸跡 ワ－13・14	灰白色。	外面にコバルトで「前橋セ」「？根園」の文字。やや白色を帯びた透明釉。細かい貫入。体部下位以下と内面は無釉。	益子・笠間系 明治～大正
178	15	内耳焙烙？　軟質陶器 小破片	I－18号井戸跡 ヲ－9・10	暗赤褐色	口縁部は外傾か。	在地製 時期不詳
179	14	内耳焙烙　軟質陶器 口30.3　底27.9　高6.1	I－18号井戸跡 ヲ－9・10	灰白色。	器表は黒色。体部外面のみ煤付着。	在地製 18C
180	142	青磁碗 底5.4	表採	青灰色。	底部の器壁は厚い。外面に鎬連弁文。高台端部・高台内は無釉	龍泉窯系 13C
181	136	染付碗　磁器 口9.1　底3.6　高4.0	不明	灰白色。	やや小型の碗。外面に草花文、高台内に不明染付銘。	肥前磁器（波佐見系）18C
182	135	灰釉徳利　陶器 底6.7	表採	にぶい橙色。	体部下端以上に灰釉。底部外面に墨書。	益子・笠間系 幕末～明治
183	83	擂鉢　焼締陶器 底16.7	タ・レー3 H368雑	赤褐色。	体部外面は回転ヘラケズリ。底部外面に直線上の圧痕。内面は使用により摩滅。	堺系 18C後半～19C

番号	整理番号	器種・法量・出土位置	石材	器形の特徴
184	165 192	石鉢　口径26.5　底径12.0　高15.0　片口幅6.0 ホ―22―88区出土。	安山岩	口縁部丸い。器肉ほぼ一定、片口がつく。
185	143	石臼　へ―27―85区出土。	安山岩	はんぎりの破片。
186	168	不明　径17.4×9.7　厚さ3.0　へ―26区出土	安出岩	
187	175	不明　径7.5×8.0　厚さ2.6～4.9 ホ・へ―26、へ―27区出土。	安山岩	
188	170	石臼　上縁高さ1.8　上縁幅2.0　へ―26区出土。	安山岩	はんぎりの破片。凹みは皿状をなし、上縁は平担。
189	174	石臼　上縁高（2.0）　ホ・へ―26、へ―27区出土。	安山岩	はんぎりの破片。凹みは皿状、上縁は平担。
190	173 189	石臼　直径20.0　高さ11.8　上縁高さ1.7　上縁幅2.5　芯穴径2.3　挽き手穴径2.2　分画×溝数　8×5以上 ホ・へ―26、へ―27区出土	安山岩	凹みは皿状をなし、上縁は平担。側面に矩形の飾りがつくと考えられ、ややふくらむ。芯穴は2度以上に分けて貫通か。
191	194	石臼　直径20.3　現高12.0　上縁高さ―　芯穴径2.3 挽き手穴径(2.3)　分画×溝数　6×5以上　へ―26―28区出土。	安山岩	凹みは皿状。上縁は平担。芯穴は2度以上に分けて貫通か。すり合わせ面一部剝落している。
192	167	不明　径16.5×16.5　へ―26区出土。	安山岩	表面端部ほぼ90°をなして凹面を形成する。
193	133	石臼　直径22.5　高さ7.6　上縁高さ2.6　上縁幅1.5 C－8区（J34雑）出土。	安山岩	上縁の内縁の傾きがやや著しい。すり合わせ面は磨滅のためか副溝確認できない。
194	190	石臼　直径25.4　高さ9.8　上縁高さ2.8　上縁幅2.3 挽き手穴径(3.1)　芯穴径(2.8)　ホ・へ―26、へ―27区出土。	安山岩	上縁の内縁の傾きがやや著しい。ふくみは緩く彎曲する。すり合わせ面の副溝は確認できない。
195	162	石臼　直径25.0　現高13.7　供給口径3～3.4　芯穴径3.0 ト―28―63区出土。	安山岩	上縁の内縁の傾きは残存からみて著しい。供給口は上下方向から貫通か。すり合わせ面の副溝は磨耗している。
196	161	石臼　直径27.8　高さ11.0　供給口径3.8　芯穴径3.0 分画×溝数4×4以上　ト―28―63区出土。	安山岩	上縁上半欠損。内縁は中心部に向って傾斜する。ふくみは中心部で平担となる。供給口は傾斜して貫通する。

番号	整理番号	器種・法量・出土位置	石材	器形の特徴
197	191	石臼　直径（32.5）　高さ9.3　上縁高さ2.5　上縁幅（1.8） ホ・へ—26、へ—27区出土。	安山岩	上縁の内縁の傾き著しい。すり合わせ面は磨滅している。
198	160	石臼　直径28.2　高さ13.0　上縁高2.4　上縁幅3.7 ト—28—63区出土。	安山岩	凹みは皿状をなす。すり合わせ面は磨滅している。
199	163	石臼　直径28.0　高さ10.7　上縁高0.6　上縁幅4.0 供給口径４～3.5　分画×溝数６×２以上　ト—28—67区出土。	安山岩	凹み皿状。供給口はやや中細りする。副溝の間隔は1.0～1.5cm
200	193	石臼　現幅25.8　高さ12.7　芯穴径2.8　分画×溝数8×4以上 ホ・へ—26、へ—27区出土。	安山岩	下面は中央に向って大きく凹む。ふくみはほぼ平担。
201	164	石臼　現幅29.1　現高6.8　ト—27—87区出土。	安山岩	下面は端部で平担。全形の約¼残存。
202	166	石臼　はんぎり径34.6　高さ14.0　芯穴径4.0　ふくみ径0.4 分画×溝数８×５以上　ト—28—85区出土。	安山岩	下面は中央に向って凹む。すり合わせ面は副溝明瞭。
203	187	石臼　直径4.5　高さ10.1　ホ・へ—26、へ—27区出土	安山岩	小破片。副溝の幅は４㎜、間隔は1.0cmを計る。
204	159	石臼　直径28.9　高さ7.2　ふくみ径1.5　芯穴径3.6 チ—28—61区出土。	安山岩	下面は端部平担、中央に向って緩く凹む。すり合わせ面は磨耗する。副溝の幅大きい。
205	188	石臼　直径（28.2）高さ12.3　ホ・へ—26、へ—27区出土	安山岩	すり合わせ面磨耗し、溝数等不明瞭。副溝の幅は大きい。上面は平担。
206	195	五輪塔　空風輪部　空輪幅17.7　風輪幅15.7　高さ（27.6） 柄の長さ1.9　幅6.2　B—20—41区出土。	安山岩	空輪部先端、側縁部を欠損する。下端部に短い柄をつける。
207	196	五輪塔　空風輪部　空輪幅17.0　風輪幅15.9　高さ29.3 柄の長さ3.4　幅7.5　B—20—41区出土。	安山岩	空輪部方形で先端わずかに鋭る。風輪部への移行点括れ小さい。
208	197	五輪塔　空風輪部　空輪幅17.4　風輪幅16.7　高さ33.6 柄の長さ3.3　幅7.1　C—19—58区出土。	安山岩	方形状をなし、空輪部先端で弱く鋭る。移行点の括れ小さい。
209	198	五輪塔　空風輪部　空輪幅18.0　風輪幅15.4　高さ29.6 柄の長さ5.0　幅6.5　B—20—41区出土。	安山岩	空輪部丸み強い。移行点の括れ大きくU字状をなす。
210	199	五輪塔　空風輪部　空輪幅14.5　風輪幅13.8　高さ21.8 柄の長さ2.5　幅5.1　B—20—41区出土。	安山岩	全体的に小さい形状。空風輪部ともに同じような形状。
211	200	五輪塔　空風輪部　空輪幅18.5　風輪幅16.4　高さ30.7 柄の長さ4.5　幅7.7　C—20区（H221雑）出土。	安山岩	空輪部丸味強い。移行点の括れU字状。
212	201	五輪塔　空風輪部　空輪幅17.9　風輪幅16.1　高さ30.4 柄の長さ5.5　幅8.0　C—20区（H221雑）出土。	安山岩	比較的整った形状。柄部やや長い。
213	202	五輪塔　空風輪部　空輪幅16.2　風輪幅14.0　高さ27.8 柄の長さ3.5　幅6.5　C—20区（H221雑）出土。	安山岩	形状若干いびつ。空輪部先端わずかに欠損する。

番号	整理番号	銭名	出土位置	初鋳年号（西暦）	鋳造地名	備考
214	71	永楽通寶	ト—28			腐食がすすみ不明瞭
215	224	永楽通寶	ホ—26—27	永楽６年　(1408)	明	腐食すすむ。
216	225	政和通寶	ホ—26—27	政和元年　(1111)	北宋	
217	226	永楽通寶	ホ—26—27	永楽６年　(1408)	明	
218	227	永楽通寶	ホ—26—27	永楽６年　(1408)	明	腐食がすすむ。
219	233		ト—26—９			腐食し判読できない。
220	153	嘉定通寶	チ—27—69	嘉定元年　(1208)	南宋	
221	82	永楽通寶	ニ—26	永楽６年　(1408)	明	かなり腐食がすすむ。
222	100	永楽通寶	C—10（H221№2）	永楽６年　(1408)	明	222～224　３枚一緒に出土。
223	100	永楽通寶	C—10（H221№2）	永楽６年　(1408)	明	
224	100	永楽通寶	C—10（H221№2）	永楽６年　(1408)	明	
225	128	寛永通寶	A—９区（H336雑）	寛永13年　(1636)	日本	腐食している
226	91	元豊通寶	C—20—43	万治２年　(1659)	宋	
227	91	洪徳通寶	C—20—43	(1470)	安南	
228	232	寛永通寶	A—14—３	寛永14年　(1637)	日本	
229	139	寛永通寶	N—８—３	寛永13年　(1636)	日本	
230	117	寛永通寶	A—14（H144№13）	寛永14年　(1637)	日本	背側青海波文
231	230	寛永通寶	ヲ—９	寛永13年　(1636)	日本	
232	140	寛永通寶	７—３区表採	寛永14年　(1637)	日本	
233	231	寛永通寶	表採	寛永14年　(1637)	日本	

Ⅳ 遺 構 一 覧

古墳一覧表
Ｈ竪穴住居跡一覧表
鍛冶跡・鍛冶関連遺構一覧表
掘立柱建物跡一覧表
竪穴遺構一覧表
ＨＰ土坑・大ＨＰ土坑一覧表
Ｊ竪穴住居跡一覧表
ＪＰ土坑一覧表
ＪＳ配石遺構・ＪＮ遺構一覧表
Ｆ土坑一覧表
Ｉ井戸跡一覧表
Ｗ溝跡一覧表
Ａ地下式土坑一覧表
Ｎ性格不明遺構一覧表

表—167　古墳一覧表

遺構名	位置	規模(m) 南北 東西	周濠(cm) 幅	周濠(cm) 深さ	石室 全長m	玄室(cm) 長さ 幅	羨道(cm) 長さ 幅	主体部方位	重複	備考
M1	ヌ・ル・ヲ—1・2	35.5×35.0	180～700	57～127	5.36	339×150～185	197×77～95	N—0°	H382、J56 W57、HP76 N19	1巻P26
M2	ラ・ム—107	14.9×16.0	80～240	10～46	3.25	270×90～95	54×30	N—62.5°—W	H427・429	〃P33
M3	ツ・ネ—108	19.0×21.0	100～450	14～89						〃P36
M4	ム—108 ナ・ラ—108・109	15.0×31.5	200～430	30～58					H431	〃P39

表—168　H竪穴住居跡一覧表( )推定　方位は長軸方向（残存長軸含）で示す。面積は現状数値。

遺構名	位置	規模(m) 南北×東西	面積(㎡)	壁高(cm)	周溝	カマド位置・炉	柱穴	重複	挿図	方位 時期
H1	E—2	4.4×3.7	16.2	65～92	有	東壁南寄り	P_1～P_2		2巻P4	N—17.5°—E VII
H2	B—4	3.9×3.7	11.0	43～72	〃	〃			〃P5	N—10°—W VI
H3	B・C—6	4.7×3.8	17.8	55～65	〃	〃	P_1		〃P6	N—3.5°—E V
H4	G—3.4	3.2×2.7	7.9	20～39	〃	〃	P_1～P_6		〃	N—4°—E XIII
H5	H—3	4.5×3.2	13.9	46～56	〃	〃	P_1		〃P7	N—3°—W X
H6	H—3・4	3.8×3.4	12.2	47～57	〃	東壁南寄り 西壁中央	P_1		〃P8	N—16°—W IX
H7	H—4	3.0×2.5	7.6	48～62	〃	東壁中央南寄り			〃	N—5.5°—W IX
H8	G—5	3.8×3.2	12.4	35～40	〃	東壁南寄り	P_1～P_4		〃P9	N—12°—W IX
H9	F—5	3.6×2.6	9.2	5～22	無	〃			〃P10	N—1.5°—E X
H10	G—4	4.0×3.4	12.9	23～43	有	〃			〃	N—10.5°—W X
H11	H・G—5	4.0×3.2	12.4	33～52	無	東壁中央南寄り			〃P11	N—2°—E X
H12	F—6	3.4×2.9	9.8	15～45	〃	東壁南寄り	P_1～P_3		〃P12	N—3°—W IX
H13	G—6	3.7×2.8	10.6	18～54	有	〃			〃	N—2.5°—W IX
H14	G—7	4.4×4.4	17.8	35～64	〃	東壁中央南寄り	P_1～P9		〃P13	N—9°—E VIII
H15	J—8	5.6×4.6	24.1	55～95	〃	東壁南寄り	P_1～P_9		〃P14	N—3°—W IX
H16	J—9	4.3×3.2	14.2	40～64	〃	〃	P_1～P_4		〃P15	N—2°—W IX
H17	H—9	3.2×2.8	9.2	25～45	無	〃		南北に攪乱	〃P16	N—2.5°—W IX
H18	G—9	3.9×2.7	11.0	25～40	有	〃	P_1～P_4		〃	N—12.5°—W X
H19	J—9	4.4×3.1	13.8	8～17	無	東壁中央南寄り	P_1～P_{10}		2巻P17	N—22°—E X
H20	D—9・10	4.2×3.7	15.3	30～65	有	東壁南寄り	P_1～P_2		〃P18	N—16.5°—E IX
H21	D—9	3.8×3.3	11.4	42～95	無	〃	P_1～P_5		〃	N—6°—E IX

遺構名	位置	規模(m) 南北×東西	面積(㎡)	壁高(cm)	周溝	カマド位置・炉	柱穴	重複	挿図	方位 時期
H22	C－9	3.3×2.8	9.0	13～23	無	東壁南寄り			2巻P19	N－28.5°－E X
H23	〃	6.1×4.1	23.5	20～74	有	〃	P_1～P_4		〃P20	N－20°－E X
H24	D－10	3.1×3.2	10.9	24～49	無	東壁中央	P_1		〃P21	N－50°－W IX
H25	C－10	3.9×—	11.0	64	〃	無			〃	N－28.5°－E VI
H27	C－10・11	5.7×6.2	34.7	34～66	有	東壁南寄り	P_1～P_5		〃P22	N－72.5°－W VI
H28	C－9	4.0×3.4	12.9	12～50	〃	〃			〃P23	N－31°－E IX
H29	J－10	3.2×2.3	7.3	32～45	無	東壁中央？			〃	N－3°－E Ⅷ
H30	G－10	2.8×3.4	9.5	45～72	有	東壁南寄り	P_1～P_2	W3	〃P24	N－67°－E V
H31	H・G－10	3.7×2.8	10.5	28～42	無	〃	P_1～P_2		〃	N－8°－W IX
H32	F・G－11	3.1×4.5	14.3	45～66	有	〃			〃P25	N－78.5°－W Ⅷ
H33	G・H－12	4.0×—	8.8	27～44	無	〃	P_1		〃P26	N－4°－E IX
H34	G－12	3.7×3.3	12.0	50～70	〃	〃			〃P27	N－6°－E Ⅷ
H35	F－12	3.8×3.8	14.6	22～48	有	〃	P_1		〃	N－35°－E Ⅷ
H36	F－12	2.8×3.3	9.1	29～38	〃	〃	P_1～P_6		〃P28	N－67°－E Ⅻ
H37	E－13	—×2.7	5.2	17～42	無	〃			〃	N－27°－W Ⅻ
H38	F－13	3.9×3.2	12.3	62～91	有	〃		H39	〃P29	N－21°－W X
H39	F－13	2.9×4.4	13.1	27～41	無	〃	P_1～P_6	H38	〃	N－79.5°－E Ⅻ
H40	G－13	2.4×2.1	4.9	2～42	有	〃	P_1		〃P30	N－27°－E X
H41	F－14	4.6×4.0	17.9	22～37	〃	〃	P_1～P_9		〃P31	N－19.5°－E X
H42	F－14	4.2×3.4	13.7	29～54	〃	〃	P_1		〃P32	N－6.5°－E Ⅷ
H43	F－14	3.8×3.0	11.2	23～42	〃	〃	P_1		〃P32	N－15°－W IX
H44	F－14	4.5×3.9	15.5	55～84	有	〃	P_1～P3		〃P33	N－19°－E X
H45	F・G－14	4.1×—	6.1	32～56	無	無			〃P34	N－1.5°－W IX
H46	H－14	—×3.4	14.2	31～52	有	東壁南寄り	P_1		〃	N－4.5°－E IX
H47	H－15	5.2×4.2	19.8	32～63	〃	〃	P_1～P_8		〃P35	N－6°－E IX
H48	H－15	4.5×4.1	18.3	55～77	〃	〃	P_1～P_6		〃P36	N－12°－W V
H49	J－14	3.9×3.7	14.0	20～30	〃	東壁中央南寄り	P_1～P_7		〃P37	N－18.5°－E VI
H50	G－15	5.4×4.2	13.3	27～47	〃	東壁南寄り	P_1～P_6		〃P38	N－10°－E Ⅷ

遺構名	位置	規模(m) 南北×東西	面積(㎡)	壁高(cm)	周溝	カマド位置・炉	柱穴	重複	挿図	方位 時期
H51	H—15	3.4×3.8	13.1	42～56	〃	東壁南寄り	P_1	H52	2巻39	N—77°—W XI
H52	H—15	4.2×3.9	15.4	49～69	〃	東壁中央	P_1	H51	〃 P40	N—0° VIII
H53	H—15	4.8×3.6	16.6	42～54	〃	東壁南寄り			〃	N—23°—E VIII
H54	H—15・16	2,8×2.8	7.8	22	〃	東壁中央南寄り	P_1		〃 P41	N—8.5°—W XI
H55	J—15・16	3.1×2.3	7.3	33～42	無	東壁南寄り			〃 P42	N—28°—E IX
H56	G—17	2.9×3.0	8.2	33～54	有	東壁中央南寄り		H57	〃	N—23°—W VI
H57	G・H・17	3.4×3.0	9.8	41～51	〃	東壁南寄り		H56	〃 P43	N—4.5°—W VIII
H59	J・K—10	5.1×4.1	20.9	28～49	〃	東壁中央南寄り	P_1		〃	N—13°—E VIII
H60	J—8	4.5×3.0	12.8	26～65	〃	〃	P_1		〃 P44	N—8.5°—E XI
H61	K—8	2.5×3.0	7.2	40～47	〃	東壁南寄り	P_1～P_2	H81	〃 P45	N—83°—W XI
H62	K—8	2.9×3.7	7.2	19～35	無	東壁中央南寄り 西壁中央		H72	〃 P46	N—77°—W X
H63	K—7・8	4.7×3.8	17.4	13～56	有	東壁中央南寄り	P_1～P_{15}	H64・66・80	〃 P47	N—0° X
H64	K—8	4.2×—	12.8	11～34	無	東壁南寄り		H63・80	〃 P48	N—4°—W XI
H65	K—7	4.7×3.4	16.1	14～54	有	〃		JP5・W66	〃 P49	N—0° X
H66	K—7・8	3.3×—	6.5	11～40	無			H63・80	〃 P47	N—8°—E —
H67	K—7	5.5×—	15.3	23～40	有	東壁南寄り	P_1	H68	〃 P50	N—3°—W X
H68	K—7	—×4.1	23.1	26	〃	東壁中央	P_1	H67・69	〃 P51	N—13.5°—E X
H69	K—7	4.3×3.8	4.4	16～30	有	東壁南寄り		H68	〃 P51	N—17°—E X
H70	K—7	3.2×2.7	8.5	30～55	〃	〃			〃 P52	N—9°—E X
H71	K—6・7	4.2×3.3	13.0	22～45	〃	東壁中央	P_1～P_2		〃	N—9°—E X
H72	K—8	4.2×—	9.8	9～27	無	東壁南寄り	P_1～P_3	H62	〃 P53	N—3.5°—E X
H73	J—6	4.0×2.9	8.7	13～60	〃	〃	P_1～P_4		〃 P53	N—10°—E IX
H74	K—6	4.1×3.1	9.6	10～55	有		P_1～P_4	H75・76	〃 P54	N—19°—E X
H75	K—5・6	3.7×2.7	8.0	12～40	〃	東壁南寄り		H74・76	〃	N—16°—E X
H76	J・K—5・6	4.3×3.1	13.6	9～70	〃	〃		H74・75・79	〃	N—12°—E XI
H77	K—5・6	4.2×3.1	12.3	8～40	〃	〃		JP4	〃 P56	N—19.5°—E IX
H78	K—5	4.1×2.7	10.7	16～41	〃	〃	P_1		〃	N—1°—E XI
H79	J・K—5	—×2.7	5.4	24～60	無	〃		H76	〃 P54	N—14°—E IX

遺構名	位置	規模(m) 南北×東西	面積(㎡)	壁高(cm)	周溝	カマド位置・炉	柱穴	重複	挿図	方位 時期
H80	K－7	—×3.4	4.0	9～10	有			H63・65・66	2巻P47	N－0° IX
H81	K－8	4.8×3.3	15.7	39～47	〃	東壁中央南寄り	P_1～P_3	H61	〃P45	N－9°－E X
H82	H・J－4	2.5×2.7	6.9	20～57	〃	東壁南寄り	P_1		〃P57	N－87°－E X
H83	M・L－4	3.3×3.2	10.7	55～76	〃	〃			〃P58	N－24°－W V
H84	N・P－5	2.9×2.7	7.9	52～65	〃	東壁中央南寄り			〃	N－20－W IV
H85	L－8	3.7×3.4	11.8	42～59	〃	東壁南寄り	P_1		〃P59	N－10.5°－E XI
H86	N－7	3.2×5.0	15.7	30～55	〃	〃	P_1		〃P60	N－86°－W X
H88	N・P－7	4.4×3.7	16.0	48～72	〃	〃	P_1		〃	N－0° XI
H89	U－6	3.1×2.5	7.2	26～70	無	〃	P_1～P_3		〃P61	N－8.5°－W III
H90	N・P－6	3.7×3.0	10.4	33～49	有	東壁中央南寄り	P_1～P_8		〃P62	N－7°－E X
H91	M－7	4.1×3.1	12.5	34～58	〃	〃	P_1～P_2		〃	N－14°－W X
H92	T－16	4.0×3.2	12.5	42～53	〃	東壁北寄り 東壁南寄り			〃P63	N－16.5°－E XII
H93	T－16	3.5×2.9	10.1	9～64	無	東壁中央	P_1		〃P65	N－21°－E X
H94	S－14・15	2.3×2.2	5.8	46～63	無	北壁中央東寄り	P_1～P_4		〃P65	N－27°－E VIII
H95	S－14・15	3.6×2.5	9.8	32～50	〃	東壁南寄り	P_1～P_8		〃P66	N－10°－E X
H96	R－16	3.8×3.8	15.1	40～81	有	東壁中央南寄り	P_1～P_2		〃P67	N－15°－E VIII
H97	R－16	4.3×3.1	12.7	32～63	〃	東壁南寄り	P_1～P_2		〃P68	N－15.5°－E IX
H98	R－17	4.3×3.0	12.7	47～80	無	東壁中央南寄り	P_1～P_2		〃	N－34°－E VIII
H99	K－1	3.4×2.7	8.5	29～47	有	東壁南寄り	P_1～P_3		〃P69	N－0° XV
H100	J・K－101	4.1×3.0	12.1	47～66	無	〃	P_1～P_{21}	土坑A・B・C	〃P70	N－6°－E IX
H101	J－101	3.7×3.1	11.6	23～65	有	〃	P_1～P_2	H102	〃	N－0° X
H102	J－101	5.4×4.4	23.8	40～77	〃	東壁中央南寄り	P_1～P_5	H101 K22	〃P71	N－6°－E IX
H103	Q－14	4.2×3.3	14.8	70～90	有	東壁中央			〃P72	N－19.5°－E IX
H104	R－1	3.5×3.6	13.0	54～70	〃	東壁中央南寄り	P_1～P_3		〃P73	N－85°－E IV
H105	Q－101	2.4×2.7	6.5	22～76	無	東壁南寄り	P_1		〃P74	N－77°－W XV
H106	Q－101	4.5×4.2	18.7	37～74	有	〃	P_1～P_8		〃P75	N－13.5°－W V
H107	P－102・103	3.7×3.5	12.9	42～82	無	東壁中央南寄り			〃P76	N－19.5°－W III
H108	P－103	3.8×2.9	10.9	39～65	〃	南壁西寄り	P_1		〃	N－38°－W III

遺構名	位置	規模(m) 南北×東西	面積(㎡)	壁高(cm)	周溝	カマド位置・炉	柱穴	重複	挿図	方位 時期
H109	Q—102	3.8×2.8	10.9	11～35	無	東壁中央	P_1	H110	2巻P77	N—20°—E XIII
H110	P・Q—102	3.3×3.5	9.9	4～20	〃	北壁東寄り	P_1～P_4	H109	〃	N—70°—W III
H111	P・Q—102	4.7×5.0	21.9	60～90	〃	南壁東寄り		H112・116	〃P78	N—60°—E IV
H112	P・Q—102		1.0	40～50	〃			H111・116	〃	N—0° IV
H113	P—2・3	4.5×5.4	23.0	61～88	有	北壁西寄り	P_1～P_6		〃P80	N—88.5°—E IV
H114	N—2	4.1×4.1	16.8	56～95	〃	東壁南寄り			〃P81	N—1°—E V
H115	N—2	3.5×2.5	8.6	44～67	〃	〃	P_1～P_6		〃	N—3°—W IX
H116	P・Q—102					(東壁)		H111・112	〃P78	 IV
H117	M—1	5.6×5.5	29.9	26～60	有	東壁南寄り	P_1～P_8		〃P82	N—3°—W III
H118	M—2	3.9×3.1	12.7	30～54	〃	〃	P_1		〃P83	N—13°—E IX
H119	N—1	4.3×4.1	16.9	55～102	〃	〃	P_1～P_3		〃	N—11°—E V
H120	L—2	—×3.9	9.5	60～80	〃		P_1～P_3		〃P84	N—60°—E IV
H121	L—101・102	3.6×2.5	9.3	10～29	無	東壁南寄り	P_1		〃P85	N—11°—E X
H122	M—101・102	4.0×3.8	14.0	42～90	有	東壁中央			〃	N—8.5°—E III
H123	L—102	3.7×2.8	10.1	26～48	〃	東壁南寄り	P_1～P_2	H128 HP6	〃P86	N—0.5°—E IX
H124	L—103	3.6×3.1	11.0	26～59	有	〃			〃	N—1°—E IX
H125	L—103	3.3×3.8	12.7	17～29	無	〃		H129 HP8	〃P87	N—80°—E X
H126	N—102	3.9×3.9	15.4	40～67	〃	〃	P_1～P_7		〃P88	N—16°—W IV
H127	N—102	2.3×3.2	7.8	17～52	〃	〃	P_1～P_2		〃	N—90°—E XIV
H128	L—102	3.5×3.8	12.5	30～48	有		P_1	H123・HP6 K5—B	〃P89	N—72°—W XIV
H129	L—103	2.8×2.4	6.2	17～29	無	東壁南寄り	P_1	H125 HP8	〃P87	N—0° XV
H130	L—101	2.6×2.3	5.6	14～30	有	〃	P_1～P_2		〃P90	N—8°—E XII
H132	C—20・21	5.4×3.5	18.3	52～62	〃	〃	P_1～P_{22}		〃	N—7°—E VIII
H133	C—21	4.2×2.9	12.1	20～34	〃	〃			〃P91	N—1.5°—W IX
H135	B・C—21	4.4×3.5	15.1	30～55	〃	〃			〃P92	N—2°—W IX
H136	ロ—13	3.1×2.7	8.3	31～52	無	〃	P_1～P_5		〃	N—5.5°—E VI
H137	ロ・ハ—14	5.2×3.1	(15.9)	9～44	〃	〃	P_1		〃P93	N—3.5°—E XII
H138	イ—13	4.1×3.5	14.9	40～70	有	〃	P_1～P_4		〃	N—15°—E VII

遺構名	位置	規模(m) 南北×東西	面積(㎡)	壁高(cm)	周溝	カマド位置・炉	柱穴	重複	挿図	方位 / 時期
H139	ロ—13	2.4×2.0	4.6	35～52	有	東壁南寄り	P_1		2巻P95	N—7°—E / X
H140	ロ—13	3.4×3.9	12.4	28～48	〃	〃			〃	N—85°—W / V
H141	ロ—13	4.4×3.8	17.1	23～56	〃	東壁中央	P_1	H140 W66	〃	N—10°—E / V
H142	ハ—12・13	3.7×3.1	11.3	21～45	無	東壁南寄り		大HP4	〃P96	N—46.5°—E / XII
H143	A—15	3.5×2.9	10.0	32～50	有	〃			〃P97	N—6°—W / VI
H144	A—14	3.2×2.9	9.9	8～24	有	〃	P_1～P_2	W15	〃P97	N—8°—W / VIII
H145	B—14・15	2.9×2.9	9.2	50～66	無	北壁東寄り 東・西壁中央	P_1～P_{12}		〃P98	N—13.5°—E / VII
H147	C—8・9	5.5×3.8	21.5	20～38	有	東壁南寄り	P_1～P_3		〃P99	N—6°—W / XI
H148	B・C—8	4.7×—	12.7	53～82	〃		P_1～P_2		〃P100	N—4°—E / X
H149	B—7	6.3×—	21.4	56～110	〃		P_1～P_6		〃P101	N—16.5°—E / IX
H150	A—15	2.8×2.7	7.7	44	無	東壁南寄り			〃	N—12°—E / VII
H151	C—8	2.2×2.2	4.9	29～35	〃	〃	P_1	K10	〃P102	N—9.5°—W /
H152	ホ—23	4.5×—	14.4	17～60	有			J31, W11	〃	N—8.5°—E / IX
H153	E—12	4.4×2.9	11.8	10～36	無	東壁南寄り	P_1～P_5		〃P103	N—5.5°—W / XII
H154	C—12	4.7×3.1	14.9	29～50	有	〃	P_1～P_6		〃	N—0° / XIII
H155	P—1	3.7×3.0	11.4	33～40	無	〃	P_1		〃P104	N—15°—E / XIII
H156	N—101	4.0×3.9	15.1	60～80	有	〃	P_1～P_2		〃P105	N—5°—E / V
H157	P・N—101・102	3.5×3.4	12.4	34～78	有	〃			〃	N—23°—E / III
H158	P—102	3.7×3.7	12.9	42～88	〃	〃			〃P107	N—2°—W / IV
H159	P・N—102	4.0×4.0	14.6	44～77	〃	〃	P_1		〃P108	N—0° / III
H160	P—102・103	3.9×3.3	12.2	19～34	〃	〃			〃P109	N—1.5°—E / III
H161	N・P—103	3.2×3.3	10.4	77～90	〃	〃			〃	N—72°—E / IV
H162	N・P—103	2.8×3.5	9.1	55～63	〃	〃			〃P110	N—77°—E / III
H163	N—101	4.0×4.0	14.4	49～85	〃	〃	P_1～P_4		〃P111	N—3°—E / IV
H164	P—102	3.3×2.6	8.2	11～30	無	〃	P_1～P_2		〃	N—10.5°—E / XII
H165	K—101	3.2×2.2	7.4	8～36	〃	〃			〃P112	N—0° / XV
H166	K—101	4.0×3.7	14.2	42～75	有	〃	P_1～P_6	H167	〃P113	N—6°—E / IX
H167	K—101	3.9×3.0	11.7	21～50	〃	〃		H166 K26	〃	N—4°—E / IX

遺構名	位置	規模(m) 南北×東西	面積(㎡)	壁高(cm)	周溝	カマド位置・炉	柱穴	重複	挿図	方位 時期
H168	K—102	5.1×3.6	16.6	50～58	有	東壁南寄り		K—25・26	2巻P114	N—2°—W X
H169	K—102	5.1×—	8.4	39～50	〃	〃			〃P115	N—9.5°—E IX
H170	K—103	3.6×—	4.9	7～28	無	〃		H173	〃	N—20°—E IX
H171	K—103	4.9×4.9	23.8	43～76	有	〃		H174	〃P116	N—21°—W I
H172	K—102	2.2×2.5	5.7	18～24	無	〃			〃P117	N—61°—W XI
H173	K—103	3.0×—	2.5	19～39	〃	〃		H170	〃	N—10.5°—W IX
H174	K—103	4.3×3.5	13.8	7～23	〃	〃	P_1	H171	〃	N—0° VIII
H175	K—101	3.3×2.7	8.8	13～26	〃	北壁東寄り	P_1		〃P118	N—21°—E XIII
H176	N・P—103	3.7×3.0	10.7	10～34	〃	東壁南寄り	P_1		〃	N—23°—W IV
H177	K・L—102	4.3×—	5.6	19～30	有	〃		K25	〃P119	N—4.5°—W IX
H178	P—2	3.5×3.1	10.4	35～75	〃	〃	P_1		〃	N—8°—W IV
H179	J—103	3.5×2.5	9.0	10～30	無	〃		K23・24	〃P120	N—0° XIV
H180	J・K—102	7.7×6.9	53.6	46～91	〃	〃	P_1～P_{19}		〃P121	N—1°—W VIII
H181	J—103	2.1×3.1	6.5	9～24	有	北壁東寄り	P_1		〃P122	N—87°—E XIV
H182	H—2	4.2×3.6	14.4	42～62	〃	東壁南寄り		H183	〃	N—4.5°—W X
H183	H—2	3.7×3.4	11.5	18～70	〃	〃	P_1～P2	H182	〃P123	N—2°—W X
H184	H—2	3.7×2.8	10.1	28～38	無	〃		K103	〃P124	N—4.5°—E X
H185	G—2	3.4×2.6	8.2	28～50	無			W18・74	〃	N—13°—W XI
H186	G—2	5.2×3.5	18.2	34～74	有	東壁南寄り	P_1～P_2	W18・74	〃P125	N—6°—W VIII
H187	A—101	4.3×3.4	13.7	34～56	〃	〃		W25	〃P125	N—5°—E IX
H188	H—101	3.2×2.8	8.5	9～20	無	〃	P_1	W19・20	〃P126	N—0° IX
H189	H—101	4.2×3.1	13.0	13～30	有	〃			〃	N—2.5°—W VIII
H190	H—103	3.5×2.7	9.5	31～50	無	〃			〃P127	N—8°—W X
H191	G—1・101	6.6×5.9	37.0	52～75	有	〃	P_1～P_9		〃	N—25°—E VIII
H192	G—101	3.7×3.0	11.1	27～54	無	〃	P_1～P_2		〃P128	N—30.5°—W X
H194	B—17	4.9×3.6	17.3	40～60	有	東壁中央	P_1～P_3	W23	〃P129	N—4.5°—W VII
H195	E・F—103	3.8×3.3	12.0	26～54	〃	東壁中央 東壁南寄り	P_1	K45	〃P130	N—4.5°—W IX
H196	A—17	4.3×3.7	17.3	34～56	〃	東壁中央	P_1～P_2		〃	N—2°—W IX

遺構名	位置	規模(m) 南北×東西	面積(㎡)	壁高(cm)	周溝	カマド位置・炉	柱穴	重複	挿図	方位 時期
H197	A－17・18 イ－17	6.0×3.7	23.5	53～80	有	東壁南寄り	P_1～P_4		2巻P130	N－0° X
H199	D－20	4.0×3.7	14.2	56～64	〃	〃			〃 P132	N－34.5°－E VI
H200	E・F－103	5.4×4.0	21.6	26～55	〃	〃			〃	N－9°－E Ⅶ
H201	D－19・20	2.6×2.6	6.7	22～60	〃	〃			〃 P133	N－27.5°－E IX
H202	B－17	3.6×3.0	10.5	20～46	〃	〃	P_1～P_2	K54・55・62	〃 P134	N－0.5°－W IX
H203	E－102	3.4×3.0	10.1	46～67	〃	〃	P_1～P_2		〃	N－7.0°－E X
H204	A－16	6.4×6.8	41.4	39～65	〃	〃	P_1～P_6		〃 P135	N－84°－W Ⅷ
H205	A－15	2.8×3.3	8.8	48～65	〃	〃	P_1		〃 P136	N－65°－W VI
H206	B－15	5.1×3.6	17.3	33～62	無	〃	P_1	K50	〃 P137	N－20.5°－E IX
H207	B－15	3.1×3.9	11.7	43～62	有	〃	P_1	J P84	〃 P138	N－79°－E Ⅶ
H208	G・F－1・2	2.9×2.4	6.6	19～40	無	〃	P_1～P_4	W74	〃	N－9°－W Ⅷ
H209	B－16	3.9×2.9	11.6	32～43	有	〃	P_1		〃 P139	N－2.5°－W Ⅷ
H210	E－103	3.6×3.3	11.8	39～57	〃	〃	P_1～P_3		〃	N－10°－W IX
H211	E－103	5.2×3.5	18.2	41～61	〃			H215	〃 P140	N－12°－E IX
H212	E－103	4.7×3.4	16.1	14～37	〃	東壁南寄り		K90 W27	〃 P141	N－1.5°－E X
H213	D・E－102	5.0×3.3	16.3	39～66	〃	〃	P_1～P_3	W27・74	〃 P142	N－9°－E IX
H214	D－102	4.2×3.0	13.4	36～56	〃	〃			〃	N－9.5°－E Ⅷ
H215	E－103	3.8×3.0	11.2	37～48	〃	〃	P_1	H211	〃 P140	N－0° IX
H217	A－18	4.5×3.3	14.6	32～65	〃	〃	P_1	J P74	〃 P143	N－5.5°－W Ⅷ
H218	C－19	4.3×3.5	13.7	19～52	〃	〃			〃	N－12.5°－E X
H219	C－18・19	3.8×3.1	11.8	33～60	〃	〃	P_1～P_5	W23	〃 P144	N－22°－E IX
H220	B－19・20	4.4×3.2	13.9	22～30	有	〃			〃 P145	N－5°－W IX
H221	C－20	3.8×2.9	10.5	24～53	無	〃		W29	〃	N－21.5°－E XI
H222	E－14	3.8×2.9	10.6	39～60	有	〃	P_1～P_3		〃	N－0° IX
H223	E－14	3.0×2.6	7.8	29～58	〃	〃			〃 P146	N－12.5°－E Ⅷ
H224	D－102	4.5×3.0	13.3	29～46	〃	東壁中央	P_1～P_4	K70	〃 P147	N－6°－W IX
H225	D－102	3.6×3.3	11.6	28～47	〃	東壁南寄り	P_1～P_8	K92	〃	N－4.5°－E IX
H226	D－102	5.4×4.4	22.6	36～55	〃	東壁中央	P_1～P_8	W27	〃 P148	N－10.5°－E IX

遺構名	位置	規模(m) 南北×東西	面積(㎡)	壁高(cm)	周溝	カマド位置・炉	柱穴	重複	挿図	方位 時期
H227	C—19・20	4.3×3.0	13.0	38～48	無	東壁南寄り		W29・30	2券P149	N—15°—E X
H228	H—19・20	4.3×3.0	12.6	40～60	有	〃			〃P150	N—2°—W Ⅷ
H229	A—6	4.3×3.4	14.6	40～62	無		P_1～P_5	H230	〃	N—22.5°—E Ⅲ
H230	A—6	2.6×2.5	6.4	45～50	〃			H229	〃	N—6°—E Ⅲ
H231	イ—6	3.4×3.1	9.9	12～32	〃	東壁南寄り		F295	〃P152	N—20°—E Ⅻ
H232	イ—6	4.6×4.2	17.6	60～62	有	〃			〃P153	N—2°—W Ⅵ
H233	ロ—6・7	4.3×3.6	15.1	58～67	〃	〃			〃	N—1.5°—W Ⅴ
H234	A—6	4.5×3.6	16.2	24～65	〃	〃	P_1～P_3		〃P154	N—5.5°—E Ⅸ
H235	D—101	4.1×3.2	13.2	31～51	〃	〃	P_1～P_4		〃	N—13°—W Ⅹ
H236	D—102	3.9×3.2	12.1	20～41	〃	〃	P_1	W32	〃P155	N—14°—E Ⅷ
H237	イ—8	5.8×4.0	22.8	50～80	〃	〃	P_1～P_{14}	J42	〃P156	N—26°—E Ⅸ
H238	A—7	3.9×3.0	11.8	25～55	〃	〃			〃P157	N—7.5°—E Ⅸ
H239	イ・ロ—9	3.9×2.9	11.7	50～62	無	〃			〃	N—9.5°—E Ⅸ
H240	イ—9	4.3×3.5	14.8	46～58	有	〃	P_1		〃P158	N—27.5°—E Ⅷ
H241	イ—7・8	4.1×3.5	14.2	28～40	〃	〃	P_1～P_2	W42	〃P159	N—20.5°—E Ⅹ
H242	G・F—2・3	4.1×3.5	13.4	22～47	無	〃	P_1	W18・33・74	〃	N—5.5°—W Ⅸ
H243	F—3	2.7×2,3	5.8	10～30	〃	〃			〃	N—0° Ⅷ
H244	イ・A—8	3.5×5.0	17.6	24～60	有	東壁南寄り	P_1～P_5		〃P160	N—82°—W Ⅷ
H245	ロ—9	5.0×3.4	16.9	23～54	〃	〃	P_1～P_3	J46 F261	〃P161	N—10°—E ⅩⅣ
H246	ロ—9	3.4×3.1	10.1	39～73	〃	東壁中央	P_1	J48	〃P162	N—18.5°—E Ⅵ
H247	ロ—8	3.5×2.7	9.5	23～31	無	東壁南寄り		K107	〃P163	N—23.5°—E Ⅸ
H248	ハ—9	3.5×2.5	9.3	14～22	〃	〃	P_1～P_2		〃	N—23.5°—E ⅩⅢ
H249	B—7	5.9×—	10.9	60	〃	〃	P_1～P_2		〃P164	N—0° Ⅶ
H250	B—7・8	7.5×—	16.2	85～95	〃	〃		K108	〃	N—11°—E Ⅺ
H251	ロ—1	3.4×2.9	10.0	54～85	有	〃	P_1	H252	〃P165	N—21.5°—E Ⅺ
H252	ロ—1	3.3×3.1	10.1	55～62	〃	〃	P_1～P_5	H251	〃P166	N—0.5°—E Ⅸ
H253	ロ—1	5.3×3.9	19.6	36～53	〃	〃	P_1～P_7	K110	〃P167	N—19°—E Ⅸ
H254	ロ—101・1	—×3.8	8.2	21～46	〃		P_1	W35	〃P168	N—73°—W Ⅹ

遺構名	位置	規模(m) 南北×東西	面積(㎡)	壁高(cm)	周溝	カマド位置・炉	柱穴	重複	挿図	方位 時期
H255	ハ—101・1	3.7×2.7	10.8	39～50	有	東壁南寄り	P_1～P_2		2巻P168	N—17°—E XI
H256	ハ—101・1	—×3.6	11.2	36～104	〃			W35	〃P169	N—12°—E IX
H257	ハ—1	3.3×2.7	9.4	43～70	〃	東壁南寄り	P_1	H258・259	〃P170	N—13°—E X
H258	ロ・ハ—1	(3.2)×4.2	12.4	26～36	無	東壁北寄り	P_1	H257・259	〃	N—75°—W X
H259	ロ・ハ—1	3.2×4.0	14.1	22～27	有		P_1	H257・258	〃P171	N—74°—W
H260	ニ—102	3.0×4.0	12.0	53～72	〃	東壁南寄り	P_1～P_5		〃P172	N—82°—W II
H261	ロ—9	3.4×2.5	8.7	22～50	無	〃		J48	〃	N—17°—E X
H262	ロ—9	3.5×2.8	10.3	52～92	有	〃	P_1～P_2		〃P173	N—3°—W VIII
H263	ホ—105・106	4.1×3.0	12.9	43～50	〃	〃	P_1～P_5	H264	〃	N—6.5°—E
H264	ホ—105・106	3.3×(2.6)	8.6	18～20	無	〃	P_1～P_3	H263	〃P174	N—0° IX
H265	ホ—106	4.4×3.3	14.6	50～63	有	〃	P_1～P_7		〃	N—9.5°—E X
H266	ロ—9	3.6×2.6	9.8	21～42	〃	〃	P_1～P_2		〃P175	N—13°—E IX
H267	ヨ—109	2.9×3.2	9.3	37～60	有	〃			1巻P42	N—77°—W X
H268	ヨ・タ—109	2,7×2.4	6.3	15～29	有	東壁南寄り	P_1～P_8		〃P43	N—0°
H269	ヌ—6	2.7×3.4	8.1	36～68	無	炉 中央南寄り	P_1～P_{11}		〃	N—87°—W 中世？
H270	タ—110	4.0×3.1	10.8	18～50	有	東壁南寄り	P_1～P_{10}		〃P44	N—2°—E X
H271	タ—109	2,8×1.9	5.1	47～72	無	〃	P_1～P_2	大HP7	〃P45	N—12°—E X
H272	ヲ—13・14	3.9×2,7	10.1	62～69	有	〃	P_1～P_4		〃P46	N—24°—E XII
H273	ヲ—13	4.2×3.3	12.6	69～84	〃	〃	P_1～P_5		〃P47	N—38.5°—E XI
H274	ヲ—13	2.9×2.0	5.6	54～66	無	〃			〃P48	N—14°—E X
H275	ヲ—13	3.7×3.2	11.3	62～63	有	〃			〃P49	N—8°—E VII
H276	ヲ・ワ—13	3.6×3.2	10.2	69～90	〃	〃			〃P50	N—10°—E VIII
H277	ワ—13	3.6×3.0	10.8	44～60	〃	〃	P_1		〃P51	N—21°—E X
H278	カ—13	3.4×2,8	9.5	38～48	〃	〃	P_1		〃P52	N—0° VIII
H279	カ—13・14	4.6×4.0	16.3	44～80	〃	〃	P_1～P_2	J51	〃P53	N—7°—E VIII
H280	ヨ—13	4.1×3.1	11.8	38～56	〃	〃	P_1		〃P54	N—25°—E XI
H281	ヨ—12	3.3×2.5	8.3	56～71	無	〃	P_1～P_2		〃P54	N—13°—E
H282	カ・ヨ—11	4.0×4.0	15.6	69～83	有	〃	P_1～P_3		〃P56	N—13°—E IX

遺構名	位置	規模(m) 南北×東西	面積(㎡)	壁高(cm)	周溝	カマド位置・炉	柱穴	重複	挿図	方位 時期
H283	タ—12・13	4.2×5.0	20.6	68～102	有	東壁南寄り	P_1～P_3		1巻P57	N—82°—W V
H284	ヲ—11	5.2×3.8	18.6	25～64	〃	〃	P_1～P_{15}		〃P58	N—25°—E X
H285	ヲ—11	4.3×3.4	13.7	33～76	〃	〃	P_1～P_8	H298	〃P59	N—18°—E XI
H286	ヲ・ワ—11	3.4×3.2	11.3	41～53	〃	〃	P_1～P_7	H287	〃P60	N—12.5°—E XI
H287	ヲ・ワ—11	4.2×3.3	13.0	44～58	有		P_1～P_9	H286・288	〃P62	N—27°—E XI
H288	ワ—11	4.0×3.9	14.0	52～60	〃	〃	P_1～P_{15}	H287	〃P63	N—19°—E XI
H289	ヲ—11	5.0×4.0	17.4	88～95	〃	〃	P_1～P_6	H297	〃P64	N—12°—E VIII
H290	ヌ・ル—9	2.9×2.3	6.8	42～58	無	〃	P_1～P_6		〃P65	N—30°—E XII
H291	ヲ—13・14	3.9×2.8	10.8	43～55	有	〃	P_1～P_3		〃P66	N—41°—E XI
H292	カ—9	3.6×3.4	11.7	40～60	有	東壁南寄り			〃P67	N—41°—E XI
H293	ヨ—13	3.8×3.4	12.3	66～86	〃	〃			〃P68	N—12°—E X
H294	カ・ヨ—9	3.1×4.7	13.7	50～60	〃	〃		W51	〃P69	N—80°—E VI
H295	ヲ・ワ—8・9	5.6×4.4	23.0	79～93	〃	東壁中央 東壁南寄り	P_1～P_5	HP85 K174	〃P70	N—13°—E IX
H296	タ—10・11	3.8×3.7	13.9	58～101	〃	東壁南寄り	P_1～P_3	F140	〃P72	N—8°—W V
H297	ヲ・ワ—11	3.7×3.6	13.7	60～75	無	〃	P_1	H289	〃P73	N—27.5°—E IX
H298	ヲ—11	3.3×3.1	9.9	60～67	有	〃	P_1	H285・F289	〃P74	N—25°—E VII
H299	タ—11	3.1×4.3	13.2	29～75	〃	〃	P_1～P_2		〃P75	N—64°—W V
H300	レ—10	3.0×2.8	8.0	39～66	〃	〃		N5	〃P76	N—21°—E VI
H301	レ—10	4.0×3.4	13.4	40～68	〃	〃	P_1	H302・311	〃P77	N—23°—E X
H302	レ—10	3.0×2.9	11.3	37～67	〃		P_1	H301・311 K123	〃	N—70°—E VI
H303	レ—9・10	4.2×3.5	15.3	34～50	有	東壁南寄り			〃P79	N—17°—E VII
H304	カ・ヨ—13	4.8×3.6	17.7	60～78	〃	〃		W52	〃P80	N—0° VII
H305	タ—12・13	2.7×—	3.7	68～82	〃			W51	〃P82	N—25.5°—E XI
H306	ヨ—9・10	—×2.8	8.0	41～68	〃	東壁南寄り		H307 W52	〃P83	N—20°—E VII
H307	ヨ—9・10	4.5×3.0	14.4	36～67	〃	〃	P_1～P_2	H306	〃	N—27°—E VIII
H308	タ—9・10	4.4×3.5	14.6	50～66	〃	〃		H309	〃P85	N—1°—W X
H309	タ—9・10	3.5×4.0	13.5	46～68	〃	〃	P_1	H308	〃	N—62°—W IX
H310	タ・レ—9・10	3.8×3.6	13.7	59～90	〃	〃		F290	〃P88	N—39°—W

遺構名	位置	規模(m) 南北×東西	面積(㎡)	壁高(cm)	周溝	カマド位置・炉	柱穴	重複	挿図	方位 時期
H311	レ—10	—×3.2	5.9	39～46	有	東壁南寄り		H301・302 K123	1巻P77	N—17°—E
H312	タ—10	3.8×2.8	10.2	40～70	〃	〃	P_1		〃P88	N—4°—W X
H313	レ—9	3.4×2.4	7.9	40～70	〃	〃			〃P90	N—16°—E V
H314	レ—8	3.9×3.6	13.5	35～88	〃	北壁東寄り	P_1～P_4		〃P91	N—41°—E V
H315	タ—9	4.9×3.6	16.8	66～106	〃	東壁南寄り		H309	〃P92	N—2°—W IX
H316	タ—8	4.8×3.5	16.7	25～57	〃	〃	P_1～P_2		〃P94	N—29°—E V
H317	タ—8	3.1×3.3	10.3	30～70	〃	〃	P_1～P_2			N—35°—E VIII
H318	ヨ—9	2.3×2.9	6.7	40～50	〃	〃			〃P96	N—74°—W VIII
H319	ヨ—7	3.6×3.2	10.8	52～67	〃	〃	P_1～P_2		〃P97	N—17°—E VIII
H320	ヨ—7	2.7×3.2	8.0	70～80	〃	〃			〃P96	N—87°—W
H321	ロ・ハ—10	3.7×2.6	9.4	15～40	〃	〃	P_1～P_6		2巻P175	N—12.5°—E XIV
H322	ヨ—8	3.0×3.2	9.5	44～58	〃	〃			1巻P98	N—60°—E VI
H323	ハ—10	2.9×5.0	14.3	13～33	〃	北壁中央	P_1～P_2	W68	2巻P176	N—73°—W XIII
H324	ハ—10	—×2.6	5.0	16～75	〃	東壁南寄り			〃	N—23°—E XIII
H325	ロ—10	6.6×6.8	44.8	7～50	〃	〃	P_1～P_4		〃P177	N—82°—E V
H326	ロ—10	3.5×2.4	8.4	40～67	無	〃	P_1	F117	〃P178	N—13°—E IX
H327	ロ—10	3.7×5.1	18.9	44～53	有	〃	P_1～P_6	W68	〃P179	N—82°—E VI
H328	A—9	3.6×3.4	11.9	16～48	〃	〃	P_1	J55	〃	N—22°—E X
H329	イ—10	2.9×2.4	7.2	43～54	〃		P_1～P_2		〃P180	N—2°—E VII
H330	イ—10	3.8×3.1	11.4	14～30	〃	東壁南寄り	P_1～P_8	K134	〃	N—13°—E X
H331	イ—10	4.1×2.6	11.3	29～39	〃	〃			〃P181	N—9°—E VII
H332	イ—10 A—10	4.1×2.9	10.4	24～62	無	〃		J53	〃	N—13°—E XI
H333	A—10	3.3×3.3	10.0	24～41	有	〃			〃P182	N—15.5°—E X
H334	B—10	3.2×3.9	12.7	37～47	〃	〃	P_1		〃	N—68°—W IX
H335	B—9	2.9×—	5.3	24～35	無	東壁中央			〃P183	N—11°—E XI
H336	A—9	4.3×3.3	18.3	22～35	有	東壁南寄り	P_1	H337・346	〃	N—23°—E X
H337	A—9	4.1×2.7	11.0	22～31	〃	〃	P_1～P_2	H336・346	〃P184	N—13.5°—E XI
H338	A—9	4.1×3.1	12.6	29～36	〃	〃			〃	N—23°—E X

遺構名	位置	規模(m) 南北×東西	面積(㎡)	壁高(cm)	周溝	カマド位置・炉	柱穴	重複	挿図	方位 時期
H339	A－9	4.7×3.6	15.5	30～40	無	東壁南寄り	P_1		2巻P185	N－15°－E X
H340	A－5	5.5×5.1	24.1	26～50	有	東壁中央	P_1～P_4		〃 P186	N－16.5°－W V
H341	A－5・6	4.6×3.7	15.6	47～62	〃	東壁南寄り			〃	N－10°－E Ⅶ
H342	イ－5	3.9×3.1	12.1	30～50	〃	〃	P_1～P_5		〃 P187	N－3.5°－E Ⅶ
H343	イ・ロ－5	4.0×3.5	13.5	26～38	無	〃		J 52 J P93	〃	N－3°－E Ⅸ
H344	ロ－5	2.9×2.4	6.2	26～34	〃	〃			〃 P188	N－2.5°－W X
H345	ロ－4・5	5.0×3.8	17.9	24～52	有	〃	P_1		〃 P189	N－20°－W IX
H346	A－9	0.5×2.7	1.3	25～36				H336・337	〃 P183	N－20°－W
H347	イ－4・5	3,8×2.9	10.4	71－79	有	東壁南寄り	P_1～P_2	H348	〃 P189	N－6.5°－E IX
H348	イ－4	－×2.8	9.0	39～53	〃	〃		H347	〃	N－16.5°－E IX
H349	イ－4・5	4.0×3.3	12.7	45～57	〃	〃	P_1～P_6	H P26	〃 P190	N－4°－E V
H350	A－5	2.5×3.7	9.3	26～42	〃	〃	P_1～P_2	W37	〃 P191	N－87.5°－W Ⅶ
H351	イ－4	2.6×2.4	5.9	31～50	〃	〃	P_1～P_3		〃 P192	N－14°－E Ⅵ
H352	イ・A－4	3.9×5.2	20.1	31～46	〃	〃	P_1～P_{10}	W65	〃	N－90°－E Ⅶ
H353	イ－10	2.7×2.6	7.3	19～44	無	東壁中央	P_1～P_4		〃 P193	N－27°－E IX
H354	レ－3	4.0×2.5	10.6	17～36	有	東壁南寄り		H366	1巻P100	N－3°－E Ⅶ
H355	レ－6	4.3×－	12.0	0～45	〃				〃 P102	N－11°－E
H356	タ・レ－6	4.4×3.6	15.6	31～83	〃	東壁南寄り	P_1		〃 P103	N－10°－E IX
H357	タ・レ－6	4.5×3.9	16.8	24～50	〃	〃	P_1～P_{13}		〃 P104	N－28°－E Ⅵ
H358	タ・レ－5	4.5×4.5	19.5	13～109	〃	〃			〃 P106	N－18°－E Ⅵ
H359	タ・レ－5	8.0×7.8	57.1	20～68	〃	〃	P_1～P_{22}	H395・396	〃 P107	N－1°－W V
H360	タ－4 レ－3・4	4.0×3.1	12.6	60～83	〃	〃	P_1～P_3	H361	〃 P110	N－2°－E X
H361	レ－3・4	4.8×3.8	18.0	18～57	〃	〃	P_1	H360	〃	N－6°－W
H362	レ－3・4	5.6×3.9	20.9	24～66	〃	〃	P_1～P_5	F190	〃 P112	N－5°－E IX
H363	ソ・レ－4	4.4×3.1	13.1	6～26	〃	〃	P_1～P_{11}		〃 P113	N－10°－E Ⅵ
H364	レ－3	5.7×5.4	28.6	30～60	有	東壁南寄り	P_1～P_9		〃 P114	N－1°－W Ⅶ
H365	レ－3	3.7×2.8	10.9	11～40	〃	〃	P_1～P_2	H366	〃 P100	N－7°－E Ⅵ
H366	レ－3	4.8×4.9	23.6	23～57	〃	〃	P_1～P_{10}	H354・365	〃	N－81°－W Ⅵ

遺構名	位置	規模(m) 南北×東西	面積(㎡)	壁高(cm)	周溝	カマド位置・炉	柱穴	重複	挿図	方位 時期
H367	レ－3	3.0×2.8	9.0	0～16	無	東壁南寄り	P_1～P_3	K146・149	1巻P116	N－5°－E VI
H368	タ・レ－3	5.1×4.0	20.9	6～30	有	〃	P_1～P_{19}	K149	〃P117	N－11°－E VI
H369	カ－5・6	3.9×3.9	15.2	29～46	〃	〃	P_1		〃P118	N－32°－E V
H370	ヨ－6	2.9×4.0	12.2	39～56	無	〃	P_1		〃P119	N－81°－W VIII
H371	ヨ－5	3.0×3.7	10.7	24～43	有	北壁東寄り	P_1～P_2		〃	N－85°－W V
H372	ヨ－4	3.4×3.0	10.3	34～50	〃	東壁南寄り	P_1～P_6		〃P121	N－15°－W VI
H373	カ－5	3.2×2.3	7.6	25～44	〃	〃	P_1		〃P122	N－25°－E XI
H374	カ－4	2.7×2.5	6.5	33～41	〃	〃	P_1～P_4	W49・50・51	〃P123	N－19°－E V
H375	カ－5	4.4×3.7	16.7	23～41	〃	〃		H383 W49・50・51・61	〃P124	N－15°－E XI
H376	カ－4	2.4×2.9	6.8	64～71	〃	〃			〃P126	N－70°－W VIII
H377	カ－4	3.7×3.0	11.3	37～56	〃	〃	P_1		〃P128	N－11°－E VI
H378	ヨ－3・4	4.5×4.2	18.3	50～70	〃	〃	P_1～P_7		〃P129	N－9°－E V
H379	ヨ－3	4.2×5.9	24.2	13～34	〃	炉 中央北西寄り	P_1～P_2	F292	〃P131	N－76°－E 古墳
H380	タ－2	3.4×3.8	12.5	33～52	無	東壁南寄り	P_1	W58	〃P132	N－75°－W XIV
H381	タ－1・2	3.4×2.2	7.5	17～34	有	〃	P_1～P_4		〃P133	N－15°－E XI
H382	ル－2・3	2.9×4.0	11.4	20～44	無			M1	〃P134	N－72°－E 古墳
H383	カ－5	4.7×4.0	15.4	23～41	有			H375	〃P124	N－10°－E XI
H384	タ－1	5.4×5.8	30.7	21～38	無		P_1～P_{15}		〃P136	N－88°－E 古墳
H385	ソ－1・101	4.0×4.8	18.9	5～11	〃		P_1～P_6		〃P137	N－83°－E 古墳
H386	ソ－101	3.2×3.6	10.8	2～37	〃	炉 中央北西寄り	P_1～P_3		〃P138	N－86°－E 古墳
H387	ツ－101	3.0×3.2	9.5	35～45	〃	東壁南寄り			〃	N－87°－E V
H388	レ－101・102	6.4×4.8	31.1	44～50	無		P_1		〃P140	N－9°－W 古墳
H389	ヨ－101	3.5×3.9	13.2	8～24	〃	炉 中央西寄り	P_1		〃P139	N－60°－W 古墳
H390	カ・ヨ－101	6.3×6.0	37.2	38～42	有		P_1～P_4	I17	〃P141	N－15°－W 古墳
H391	ワ－101	4.5×4.6	20.3	21～41	無		P_1～P_7		〃P143	N－88°－E 古墳
H392	タ・レ－1	3.9×6.0	23.0	4～14	〃	炉 中央西寄り			〃P144	N－88°－E 古墳
H393	レ－1	3.9×4.3	16.9	15～26	〃	炉 中央北寄り	P_1～P_2		〃P145	N－83°－E 古墳
H394	ヨ・タ－3・4	2.8×3.1	8.2	38～48	有	東壁南寄り			〃P146	N－65°－W

遺構名	位置	規模(m) 南北×東西	面積(㎡)	壁高(cm)	周溝	カマド位置・炉	柱穴	重複	挿図	方位 時期
H395 396	レ・ター5・6	(7.3×8.0)		18～20	有		P_1～P_9	H357・359	1巻P104 P107	
H397	ワ・カ－5	3.6×2.8	9.8	32～53	〃	東壁南寄り	P_1～P_3		〃P146	N－10°－E IX
H398	ヌ－3・4	3.1×3.6	10.9	20～42	無	炉 中央西寄り	P_1～P_5		〃P148	N－65°－E 古墳
H399	ワ－5	3.6×2.8	9.8	21～35	〃	東壁南寄り	P_1～P_3		〃P149	N－12°－E XI
H400	ヲ・ワ－5	4.2×3.3	14.3	33～42	有	〃			〃P150	N－15°－E IX
H401	ワ－4・5	3.4×2.9	9.4	16～34	〃	〃		F196	〃P151	N－5°－E IX
H402	ヲ－4	2.7×2.0	5.2	4～14	無		P_1～P_2		〃	N－28°－E 古墳
H403	リ－4・5	5.0×2.8	14.2	9～39	〃	東壁南寄り	P_1～P_3		〃P152	N－23°－E IX
H404	リ－5	4.2×3.2	13.4	38～50	有	〃	P_1～P_3		〃P153	N－17°－E X
H405	チ・リ－4	3.1×3.5	10.2	38～42	〃	炉 西壁際			〃P154	N－68°－W 古墳
H406	ル－101	3.2×4.0	12.3	5～15	無	炉 中央北寄り			〃P156	N－68°－W 古墳
H407	ヲ－101	2.9×3.3	9.5	2～8	〃	炉 中央西寄り			〃	N－61°－W 古墳
H408	ル－101	2.8×3.8	10.4	11～23	〃	炉 中央北寄り			〃P157	N－63°－W 古墳
H409	ヌ－101・102	3.6×2.8	9.8	2～14	〃		P_1～P_4		〃	N－4°－E 古墳
H410	ヌ－102	5.3×4.5	24.0	7～22	有	炉 中央東寄り	P_1～P_6		〃P158	N－30°－E 古墳
H411	リ－101・102	4.9×3.6	18.3	20～38	無			F293	〃P159	N－2°－E 古墳
H412	リ－101	5.1×4.1	20.5	6～20	〃	炉 中央西寄り			〃P160	N－6°－E 古墳
H413	リ－102	2.8×2.9	7.8	12～21	無	炉 中央北寄り			〃P161	N－67°－W 古墳
H414	ヲ－5・6	5.0×4.1	21.2	68～98	有	東壁中央	P_1～P_6		〃P162	N－18°－E IX
H415	ヌ－102	－×3.0	5.8	8～14	無				〃P164	N－2°－E 古墳
H416	ヌ・ル－101・1	7.6×7.4	57.2	43～80	有				〃P165	N－29°－E 古墳
H417	リ－101・1	3.3×3.1	10.2	12～30	無				〃P167	N－30°－E 古墳
H418	ヨ－1・2	5.5×6.4	35.4	24～50	〃	炉 中央北寄り	P_1～P_5	W58	〃P168	N－74°－E 古墳
H419	ネ－106	4.0×4.0	15.7	6～17	〃	炉 中央北寄り			〃P171	N－30°－W 古墳
H420	ラ－105・106	2.4×3.2	7.9	10～40	〃		P_1～P_4		〃P172	N－90°－E 古墳
H421	ラ－106	3.3×3.6	11.3	4～18	〃	炉 中央西寄り	P_1～P_4		〃P173	N－73°－E 古墳
H422	ラ－106	3.0×3.0	8.9	1～27	〃	〃	P_1～P_4		〃P174	N－4°－E 古墳
H423	ナ－106 ラ－106・107	4.1×3.6	15.2	4～10	〃	炉 中央東寄り	P_1		〃P176	N－4°－W 古墳

遺構名	位置	規模(m) 南北×東西	面積(㎡)	壁高(cm)	周溝	カマド位置・炉	柱穴	重複	挿図	方位 時期
H424	ナ－107	4.9×5.6	26.4	5～21	有	炉　中央北寄り	P_1		1巻P177	N－57°－E 古墳
H425	ナ－107	3.1×3.2	10.3	6～12	〃		P_1～P_7	F242	〃P176	N－64°－W
H426	ラ－107	6.0×6.0	34.9	18～38	有	炉　中央西寄り	P_1～P_7		〃P178	N－5°－W 古墳
H427	ラ－106・107	4.2×4.4	18.5	22～45	無	炉　中央北寄り	P_1～P_3	M2	〃P180	N－79°－E 古墳
H428	ム－106・107	3.7×3.2	12.0	11～24	〃	炉　中央西・北寄り	P_1～P_3		〃P181	N－30°－E 古墳
H429	ラ・ム－107	4.5×4.9	21.8	6～20	有	炉　中央南・東寄り		M2	〃P183	N－78°－E 古墳
H430	ラ・ム－107 108	4.3×5.0	21.5	6～18	無	炉　中央北・東寄り	P_1～P_2		〃P184	N－90°－E 古墳
H431	ラ・ム－108	5.2×5.0	19.6	24～34	有	炉　中央西寄り	P_1～P_4	M4	〃P185	N－33°－E 古墳
H432	ナ－108	4.2×4.2	17.2	50～69	無	炉　東側北寄り	P_1～P_8		〃P188	N－2°－E 古墳
H433 建替え	ナ－108	前5.1×5.9 後6.5×6.1	前30.4 後40.4	40～50	有	炉　中央西寄り	P_1～P_{10}		〃P189	N－8°－W 古墳
H434	ナ－109	4.4×4.6	19.4	10～40	無	炉　中央北寄り	P_1～P_4		〃P192	N－70°－W 古墳
H435	ナ－110	3.6×3.9	13.4	20～30	〃	〃	P_1～P_4		〃P193	N－80°－W 古墳
H436	ネ－110	2.2×2.2	4.6	5～10	〃		P_1～P_4		〃P194	N－9°－E
H437	ナ－106	－×3.9	9.2	3～6	無		P_1～P_5		〃P194	N－90°－E 古墳
H438	ル・ヲ－7	3.8×3.8	14.2	14～17	有	東壁南寄り		W1	〃P195	N－40°－E Ⅶ
H439	ヲ－8	4.2×3.1	14.2	28～56	〃	〃		W53	〃P196	N－48°－E Ⅶ
H440	ヲ－8	5.2×5.6	28.1	45～69	〃	〃	P_1～P_5		〃P198	N－70°－W Ⅵ
H441	ワ－3	2.1×2.4	5.1	7～13	無	炉 北西寄り	P_1		〃P200	N－60°－W
H442	ワ－9	5.7×4.6	25.0	35～84	有	東壁南寄り	P_1～P_6	W54	〃P201	N－13°－E Ⅷ
H443	ワ－9	3.3×2.2	7.0	16～36	〃	〃	P_1～P_5	H454 W49・50	〃P203	N－16°－E Ⅺ
H444	ヲ－9	5.3×3.6	18.5	63～79	〃	〃	P_1	K171 W54	〃P204	N－37°－E X
H445	ヲ－9	3.2×2.7	9.4	6～27	〃	〃	P_1～P_5	K171	〃P205	N－27°－E X
H446	ヲ－9	4.1×2.8	11.4	1～17	無	〃	P_1～P_5	I18	〃P206	N－10°－E X
H447	ワ－10	2.2×2.5	5.5	21～38	〃	〃	P_1～P_4		〃P207	N－79°－W V
H448	リ－3	3.9×3.0	11.7	17～28	〃	〃	P_1～P_4		〃P208	N－14°－E Ⅸ
H449	リ－3	3.4×4.1	12.9	56～70	〃	炉　中央北寄り			〃P209	N－57°－W 古墳
H450	リ・ヌ－2	3.1×3.7	11.3	11～27	〃	炉 北西寄り			〃P210	N－50°－W 古墳
H451	ム－107	3.4×3.6	11.9	18～43	有		P_1～P_3		〃P211	N－64°－E 古墳

遺構名	位置	規模(m) 南北×東西	面積(㎡)	壁高(cm)	周溝	カマド位置・炉	柱穴	重複	挿図	方位 時期
H452	ム—108	—×4.0	15.0	8～13	有		P_1～P_3		1巻P212	N—39°—E 古墳
H453	ヲ—8	2.8×2.4	6.7	9～24	無	東壁南寄り	P_1		〃	N—30°—E XI
H454	ワ—9	—	5.3	10～38	〃	東壁南寄り？		HP79・H443 W49・50	〃P213	N—7°—W
H455	チ—3・4	2.4×2.4	5.7	12～20	〃	炉 中央西寄り		W56	〃P214	N—10°—W 古墳
H456	チ—3	3.1×3.3	9.6	39～50	〃	炉 北西寄り			〃P216	N—61°—E 古墳
H457	チ—3	4.4×3.7	11.4	19～36	〃			W56・59	〃P215	N—6°—W
H458	リ—2	2.7×3.1	8.6	4～13	〃	炉 中央			〃P217	N—67°—W 古墳
H459	リ—2	3.2×3.0	9.5	4～8	〃	炉 中央北西寄り			〃P218	N—36°—W 古墳
H460	チ・リ—1	2.8×3.6	10.2	26～40	〃	炉 中央北寄り	P_1～P_4	W56	〃	N—86°—W 古墳
H461	ヌ—1	2.4×2.8	6.5	16～47	無	炉 北東寄り			〃P219	N—42°—W 古墳
H462	チ・リ—101・1	3.9×3.4	12.8	12～30	〃	炉 中央南寄り			〃P220	N—50°—E 古墳
H463	リ—1	3.8×—	11.6	14～45	〃	炉 中央西寄り		H473 W56	〃P221	N—44°—E 古墳
H464	カ・ヨ—3	3.0×2.6	7.7	17～51	〃	炉中央 西寄り		W49・50・51	〃P222	N—40°—E 古墳
H465	リ—1	3.9×5.7	22.3	18～35	〃	炉 中央部			〃P223	N—56°—W 古墳
H466	リ・ヌ—101・1	4.3×7.2	30.7	12～29	〃		P_1～P_3		〃P224	N—82°—W 古墳
H467	ヌ—101・1	2.7×—	6.6	10～25	〃		P_1～P_2	H468	〃P225	N—85°—E 古墳
H468	ヌ—101・1	4.0×3.4	14.5	22～40	〃		P_1～P_2	H467	〃P225	N—44°—E 古墳
H469	チ・リ—101	3.4×2.8	8.9	14～50	〃	炉 中央北寄り	P_1～P_2		〃P227	N—23°—E 古墳
H470	ヲ—1	2.4×3.1	7.7	12～28	〃		P_1～P_2	F297	〃P228	N—47°—W 古墳
H471	カ—1・2	3.1×4.1	12.6	42～60	有	炉 中央北西寄り	P_1～P_2		〃P229	N—86°—E 古墳
H472	ヲ・ワ—102	2.2×1.8	4.0	4～14	無	炉 南西寄り		F244	〃P230	N—45°—E 古墳
H473	リ—101・1	3.0×3.7	11.4	22～50	〃	炉 中央部	P_1～P_3	W56	〃P231	N—42°—W 古墳
H474	カ—6	3.7×—	5.7	7～30	有		P_1～P_7	W40・50・51	〃P232	N—33°—E XI
H475	ワ—4・5	3.4×—	4.9	88～95	〃				〃P233	N—13°—E
H476	ワ—3	—×3.4	7.3	55～70	無		P_1		〃P234	N—70°—E 古墳
H477	ヲ—1	—×2.8	3.7	22～30	〃	炉 中央部	P_1		〃P235	N—78°—E 古墳
H478	カ—6	—×2.1	3.0	30～40	〃	東壁	P_1～P_3	W49・50・51	〃	N—74°—W XI
H479	ヲ—102	4.0×—	5.4	20～25	〃				〃P236	N—38°—E 古墳

遺構名	位置	規模(m) 南北×東西	面積(㎡)	壁高(cm)	周溝	カマド位置・炉	柱穴	重複	挿図	方位 時期
H480	B・C－12	—	2.3	18～31	無	南東隅	P_1		2巻P193	N－5°－W XIII
H481	B・C－11・12	3.5×2.9	10.1	8～25	有	東壁南寄り	P_1	W3	〃 P194	N－2°－W VI
H482	B－12	3.8×3.5	13.5	32～46	〃	〃	P_1		〃	N－4°－W VI
H483	A－11	3.8×3.6	13.6	38～50	〃	〃	P_1～P_2	W14・21・62	〃 P195	N－0° VII
H484	A－10	3.2×2.2	7.5	33～46	〃	〃	P_1	I3	〃 P196	N－39°－E IX
H485	イ－11	3.2×2.2	7.5	24～39	有	東壁南寄り			〃 P196	N－10°－W IX
H486	ロ－12	4.4×3.0	13.5	64～79	〃	〃			〃 P197	N－3°－W IX
H487	ロ－12	5.5×3.9	21.7	30～47	〃	〃	P_1～P_2		〃 P198	N－26°－E VIII
H488	ロ－11	4.1×3.6	14.1	44～57	〃	〃	P_1	K193 W14	〃	N－13°－E VIII
H489	ロ・ハ－12	5.3×4.6	24.3	41～63	〃	〃	P_1	K185	〃 P199	N－3°－E IX
H490	ロ－11	5.1×5.3	28.1	25～43	〃	〃	P_1～P_6	H491 W14	〃 P200	N－88°－E VI
H491	ロ－11	4.0×3.6	14.2	30～37	〃	〃	P_1～P_2	H490	〃	N－14°－E VI
H492	ロ－9	3.7×3.0	11.3	21～26	〃	〃	P_1～P_5		〃 P201	N－26°－E X
H493	A・イ－13	4.3×3.6	15.8	7～36	無	〃	P_1～P_2	W21・22	〃	N－15°－E XIV
H494	ロ－12・13	3.4×2.9	9.4	14～15	〃		P_1		〃 P202	N－0° X
H495	ル－4	2.8×2.8	8.2	4～12	〃	炉 中央東寄り	P_1		1巻P237	N－10°－E

表－169　鍛冶跡・鍛冶関連遺構一覧表

遺構名	位置	規模(m)	面積(㎡)	壁高(cm)	炉・その他	柱穴	重複	挿図	方位
T1	P－4	1.23×0.83	0.57	15～30	長楕円形状 炭化物・鉄滓出土			2巻P211	N－69.5°－E
T2	Q－4・5	6.5×3.25 張り出し 2.85×1.88	17.38	42～54	鍛冶炉 西壁際	P_1～P_{29}		〃	N－81°－E
T3	A・B－14・15	5.0×3.0	15.0	10～42	遺構内施設有	P_1～P_{14}	H150	〃 P215	N－17°－E
T4	ワ－6	5.2×4.2	15.34	24～35	精錬炉1 中央西 鍛冶炉2 〃	P_1～P_{27}		1巻P323	N－70°－W
T5	ヲ－7	4.2×3.8	10.19	20～40	鍛冶炉 中央西	P_1～P_{24}		〃 P328	N－20°－W
H58	H・G－17	4.2×3.9	15.6	25～58	鉄滓多量出土 周溝有	P_1～P_7		2巻P205	N－9.5°－E
H87	N－7・8	4.1×3.24	13.2	33～40	石組み施設 鉄滓・羽口・坩堝出土	P_1～P_2		〃 P206	N－4°－E
H198	A－16・17	4.5×3.2	13.9	22～61	住居外南焼土 南壁際鉄滓多量	P_1～P_8		〃 P208	N－9°－E
H216	E－103	7.0×5.9	39.1	47～83	鉄滓・鎌・紡錘車 鈸具・刀子出土	P_1～P_6	W27	〃 P209	N－13°－E

表—170　掘立柱建物跡一覧表

遺構名	位　置	規模(間)	方　位	桁行(m)	桁　間(m)	梁行(m)	梁　間(m)	重　複	挿　図	備　考
K 1	C—6・7	3×2	N—4°—W	6.3	P_3～P_4～P_5～P_6 2.1　2.4　1.8	4.5	P_1～P_2～P_3 2.4　2.1		2巻P217	建て替え重複？
K 2	H—16	4×2	N—17°—E	6.9	P_2～P_4～P_5 1.2　2.4 P_5～P_7～P_8 1.5　1.8	3.9	P_9～P_{10}～P_{11} 1.8　2.1		〃	建て替え
K 3	H—15・16	3×3	N—81°—E	6.0	P_1～P_2～P_3 2.1　1.8 P_3～P_4 2.1	5.4	P_4～P_5～P_6 1.8　1.8 P_6～P_7 1.8	H54	〃	
K 5—A	L—101・102	3×2	N—13.5°—W	6.6	P_3～P_4～P_5～P_6 2.4　1.8　2.4	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1	HP 7	〃 P218	
K 5—B	L—102	2×2	N—12°—W	6.6	P_6～P_7～P_1 3.3　3.3	4.5	P_4～P_5～P_6 2.4　2.1	HP6 H123・128	〃	
K 5—C	L—102・103	3×2	N—18.5°—W	6.3	P_7～P_8～P_9～P_{10} 1.8　2.4　2.1	3.9	P_1～P_2～P_3 1.8　2.1		〃 P219	
K 5—D	L—102	3×2	N—25.5°—W	5.7	P_3～P_4～P_5～P_6 1.8　2.1　1.8	3.9	P_1～P_2～P_3 2.1　1.8		〃	
K 6	C—8・9	3×—	N—8°—E	7.2	P_1～P_2～P_3～P_4 2.4　2.4　2.4				〃	
K 7	C—7・8	3×2	N—12°—E	6.6	P_5～P_6～P_7～P_8 2.1　2.1　2.4	4.8	P_8～P_9～P_{10} 2.4　2.4	J 35 K 8・12	〃 P220	北辺は4間
K 8	C—7	2×2	N—9°—E	4.5	P_4～P_5～P_6 2.4　2.1	4.2	P_6～P_7～P_8 2.1　2.1	K 7・12	〃	北辺は3間
K 9	C—7・8	2×2	N—5°—W	4.5	P_7～P_8～P_9 2.1　2.4	3.6	P_5～P_6～P_7 1.8　1.8	K17	〃 P221	総柱建て替え
K10	C—8	3×2	N—9°—E	6.6	P_3～P_4～P_5～P_6 2.1　2.1　2.4	3.6	P_1～P_2～P_3 1.8　1.8	K11 H51	〃	建て替え
K11	C—8	3×2	N—88°—W	6.6	P_6～P_7～P_8～P_9 2.1　2.4　2.1	4.5	P_4～P_5～P_6 2.4　2.1	K10	〃 P222	
K12	C—7	3×2 (身舎)	N—2°—E	6.3	P_{12}～P_{13}～P_{14}～P_1 2.1　2.1　2.1	3.9	P_1～P_2～P_3 2.1　1.8	K 7・8 13	〃	西・南1.8mに廂
K13	C—7	3×2	N—4°—E	6.3	P_8～P_9～P_{10}～P_1 2.1　2.1　2.1	4.5	P_1～P_2～P_3 2.4　2.1	K12・15	〃 P223	
K14—A 新	D—8	2×2	N—22.5°—E	4.5	P_3～P_4～P_5 2.4　2.1	3.6	P_1～P_2～P_3 1.8　1.8	K14B	〃 P224	
K14—A 旧	〃	2×2	〃	3.6	P_3～P_4～P_5 1.8　1.8	3.6	P_1～P_2～P_3 1.8　1.8	K14A	〃	
K14—B	D—7・8	2×1	N—17°—E	3.6	P_2～P_3～P_4 1.8　1.8	3.0	P_1～P_2 3.0	K18	〃	
K15	C—7	3×2 (身舎)	N—9.5°—E	7.2	P_8～P_9～P_{10}～P_1 2.4　2.4　2.4	4.2	P_1～P_2～P_3 2.4　1.8	K13・16	〃 P225	梁西1.8mに廂
K16	C—7	2×2	N—72°—W	3.9	P_6～P_7～P_8 2.1　1.8	3.6	P_4～P_5～P_6 1.5　2.1	K15	〃	北辺は3間
K17	C—7	1×2	N—20°—E	2.7	P_3～P_4 2.7	2.4	P_1～P_2～P_3 1.2　1.2	K 9	〃	
K18	D—7	2×2	N—19°—E	3.9	P_3～P_4～P_5 2.1　1.8	3.6	P_1～P_2～P_3 1.8　1.8	K14—B	〃 P226	総柱
K19	K—101	3×2	N—86°—E	5.1	P_1～P_2～P_3～P_4 1.8　1.5　1.8	4.5	P_9～P_{10}～P_1 2.1　2.4		〃 P226	束柱有
K20	K—101	3×2	N—10°—W	6.6	P_3～P_4～P_5～P_6 2.1　2.4　2.1	4.5	P_1～P_2～P_3 2.4　2.1	K26	〃 P227	束柱有
K21	K—102・103	3×2	N—12°—W	6.6	P_3～P_4～P_5～P_6 2.1　2.4　2.1	4.5	P_1～P_2～P_3 2.1　2.4		〃	束柱有

遺構名	位　置	規模(間)	方　位	桁行(m)	桁　間(m)	梁行(m)	梁　間(m)	重　複	挿　図	備　考
K22	J－101	3×3	N－6°－W	7.8	P_8～P_9～P_{10}～P_1 2.7　2.4　2.7	5.4	P_1～P_2～P_3～P_4 1.8　1.8　1.8	H102	2巻P228	総柱
K23	J・K－103	3×2	N－25°－W	6.6	P_3～P_4～P_5～P_6 2.1　2.4　2.1	4.5	P_1～P_2～P_3 2.1　2.4	H179 K24	〃	建て替え？
K24	J・K－103	3×2	N－23°－W	6.3	P_8～P_9～P_{10}～P_1 2.4　1.5　2.4	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1	H179 K23	〃P229	建て替え？
K25	K・L－101 102	3×3	N－2°－W	7.8	P_7～P_8～P_9～P_1 2.4　2.7　2.7	5.4？	P_4～P_5～P_6～P_7 1.8　1.8　1.8	H168・177 K26	〃	
K26	K－101・102	3×2	N－4°－E	6.9	P_3～P_4～P_5～P_6 2.4　1.8　2.7	4.8	P_1～P_2～P_3 2.4　2.4	H167・168 K20	〃P230	
K27	K－101	2×2	N－86°－W	3.9	P_1～P_2～P_3 1.8　2.1	3.6	P_3～P_4～P_5 1.5　2.1	K28	〃	
K28	K－101	2×2	N－8°－E	4.5	P_3～P_4～P_5 2.4　2.1	3.9	P_1～P_2～P_3 2.1　1.8	K27	〃	
K31	H・J－101	2×2	N－4°－E	4.2	P_3～P_4～P_5 2.1　2.1	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1	K49	〃P231	総柱
K32	J・K－101 102	2×2	N－2°－W	5.4	P_3～P_4～P_5 2.7　2.7	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1	HP9	〃P232	西辺に廂痕？
K33	H－1・2	2×2	N－6°－E	4.5	P_1～P_2～P_3 2.1　2.4	4.5	P_3～P_4～P_5 2.4　2.1	K103	〃	
K34	H－1	3×2	N－10°－E	6.0	P_3～P_4～P_5～P_6 2.1　2.1　1.8	4.5	P_1～P_2～P_3 2.1　2.4	K36 W17	〃P233	
K35	H－1	3×3	N－87°－E	6.6	P_1～P_2～P_3～P_4 2.1　2.4　2.1	6.0	P_4～P_5～P_6～P_7 1.8　2.4　1.8	K42	〃	総柱 建て替え
K36	H－1・101	3×2	N－8°－E	6.0	P_3～P_4～P_5～P_6 2.1　2.1　1.8	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1	K34 W17	〃P234	
K37	H・G－1 101	3×2	N－13.5°－W	6.0	P_3～P_4～P_5～P_6 2.1　2.1　1.8	4.5	P_1～P_2～P_3 2.4　2.1	W17・18・20 K39HP10	〃	建て替え
K38	J－1	3×2	N－1°－W	6.9	P_8～P_9～P_{10}～P_1 2.1　2.4　2.4	4.8	P_1～P_2～P_3 2.4　2.4	W19	〃P235	南辺は3間 束柱有
K39	H・G－1 101	3×2	N－11°－W	6.0	P_3～P_4～P_5～P_6 2.1　2.1　1.8	4.5	P_1～P_2～P_3 2.1　2.4	HP10W17・ 18・20K37 JP67	〃	建て替え
K40	G－1・2	3×2	N－5°－W	6.3	P_3～P_4～P_5～P_6 2.1　2.1　2.1	4.5	P_1～P_2～P_3 2.1　2.4	K41 W18	〃P236	南辺に廂
K41	G－1・2	3×2	N－3.5°－W	6.0	P_3～P_4～P_5～P_6 2.1　1.8　2.1	4.5	P_1～P_2～P_3 2.4　2.1	K40 W18	〃	南辺に廂
K42	H・G－1	3×2	N－12°－W	6.6	P_3～P_4～P_5～P_6 2.4　2.4　1.8	4.5	P_1～P_2～P_3 2.1　2.4	K35	〃P237	建て替え
K43	G－2	3×2	N－4°－E	5.7	P_2～P_3～P_4～P_5 1.8　1.8　2.1	4.2	P_5～P_6～P_7 2.1　2.1	H186 K18	〃	
K44	E・F－102	3×2	N－8.5°－W	6.0	P_3～P_4～P_5～P_6 2.1　1.8　2.1	4.8	P_1～P_2～P_3 2.4　2.4	K45 W16・26	〃P238	南辺は3間
K45	E・F－102 103	3×2	N－3°－W	6.0	P_8～P_9～P_{10}～P_1 2.1　1.8　2.1	4.8	P_1～P_2～P_3 2.4　2.4	K44 H195	〃P238	
K46	F－103	2×2	N－3.5°－W	4.8	P_3～P_4～P_5 2.7　2.1	3.6	P_1～P_2～P_3 1.8　1.8	W16	〃P239	
K47	C・D－20	2×2	N－12°－E	5.1	P_3～P_4～P_5 2.7　2.4	5.1	P_1～P_2～P_3 2.4　2.7	W23	〃	
K48	F－103	4×3	N－82°－W	7.2	P_1～P_2～P_3 1.8　1.8 P_3～P_4～P_5 1.8　1.8	5.4	P_8～P_9～P_{10} 1.8　1.8 P_{10}～P_1 1.8		〃P240	西辺は廂？
K49	H・J－101	3×2	N－1°－E	6.3	P_3～P_4～P_5～P_6 2.1　1.8　2.4	4.5	P_1～P_2～P_3 2.4　2.1	K31	〃	建て替え
K50	B－15・16	3×2	N－1°－E	6.0	P_6～P_7～P_8～P_1 1.8　2.1　2.1	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1	H206	〃P241	

遺構名	位　　置	規模(間)	方　　位	桁行(m)	桁　　間(m)	梁行(m)	梁　　間(m)	重　　複	挿　　図	備　　考
K51	B—16	3×2	N—3°—W	6.0	P_3～P_4～P_5～P_6 1.8　2.1　2.1	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1	K52	2巻P241	
K52	B—16	3×2	N—4°—W	4.8	P_2～P_3～P_4～P_5 1.8　1.2　1.8	3.6	P_5～P_6～P_7 1.8　1.8	K51	〃	西辺に廂 東辺は2間 北辺は1間
K53	B—16・17	3×2	N—2°—E	6.0	P_7～P_8～P_9～P_1 2.1　1.8　2.1	4.5	P_5～P_6～P_7 2.4　2.1	HP13	〃P242	
K54	B—16・17	2×1	N—5°—E	3.9	P_1～P_2～P_3 2.1　1.8	4.5	P_6～P_1 4.5	K55・61 H202	〃	
K55	B—16・17	2×2	N—18°—W	4.8	P_3～P_4～P_5 2.4　2.4	3.6	P_1～P_2～P_3 1.8　1.8	K54・61 H202	〃P243	
K56	A・B—17	3×2	N—82°—E	4.8	P_1～P_2～P_3～P_4 1.5　1.8　1.5	4.2	P_9～P_{10}～P_1 2.1　2.1	K58・59	〃	
K57	A—17	2×2	N—2°—W	3.9	P_3～P_4～P_5 1.8　2.1	3.3	P_1～P_2～P_3 1.5　1.8		〃P244	
K58	A～17	3×2	N—3°—W	6.0	P_3～P_4～P_5～P_6 2.1　1.8　2.1	4.5	P_1～P_2～P_3 2.4　2.1	K56・59 60・82	〃	南辺は3間
K59	A—17	2×2	N—10°—W	5.7	P_2～P_3～P_4 2.0　3.7	2.7	P_4～P_5～P_6 1.5　1.2	K56・58	〃	
K60	A—17・18	3×2	N—3°—E	5.1	P_3～P_4～P_5～P_6 1.8　1.5　1.8	3.6	P_6～P_7～P_8 1.8　1.8	K58・82	〃	南辺に廂
K61	B—17	3×2	N—6°—E	4.2	P_3～P_4～P_5～P_6 1.2　4.2　4.2	3.6	P_1～P_2～P_3 1.8　1.8	K54・55	〃P245	南辺は3間
K62	A・B—17	3×2	N—4°—E	6.6	P_3～P_4～P_5～P_6 2.4　2.1　2.1	4.8	P_1～P_2～P_3 2.4　2.4	H202 W23	〃P246	南辺は3間
K63	H—2	2×2	N—8°—E	4.8	P_1～P_2～P_3 2.4　2.4	4.8	P_3～P_4～P_5 2.4　2.4	H184	〃	東辺は3間
K64	E—102	3×2	N—5°—W	6.6	P_8～P_9～P_{10}～P_1 2.1　2.1　2.4	4.8	P_1～P_2～— 2.4　2.4	K72 H203	〃P247	南辺は3間
K65	D・E—101 104	3×2	N—4.5°—W	6.0	P_3～P_4～P_5～P_6 2.1　1.8　2.1	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1	K70	〃	
K66	G—2	3×2	N—4°—E	4.2	P_3～P_4～P_5～P_6 1.2　1.2　1.8	3.6	P_6～P_7～P_8 1.8　1.8	W74	〃P248	北辺に廂
K67	F—2	3×2	N—5°—W	4.8	P_3～P_4～P_5～P_6 1.5　1.5　1.8	3.3	P_1～P_2～P_3 1.5　1.8	K68	〃	
K68	F—2	3×2	N—7°—W	4.8	P_8～P_9～P_{10}～P_1 1.8　1.5　1.5	3.6	P_1～P_2～P_3 1.8　1.8	K67	〃P249	
K69	E・F—14 15	2×2	N—6.5°—E	4.8	P_3～P_4～P_5 2.7　2.1	4.8	P_1～P_2～P_3 2.4　2.4		〃	南辺は3間
K70	D—102	2×2	N—3.5°—W	4.5	P_3～P_4～P_5 2.4　2.1	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1	K65 H224	〃P250	南辺は3間
K71 I	E・F—2	2×2	N—3°—W	4.5	P_3～P_4～P_5 1.8　2.7	3.9	P_1～P_2～P_3 2.1　1.8	K71B	〃	
K71 II	E・F—2	2×2	N—3°—W	4.2	P_3'～P_4'～P_5 2.4　1.8	3.9	P_1'～P_2'～P_3' 2.1　1.8	K71B	〃	
K71B	E・F—2	2×2	N—0°	4.2	P_3～P_4～P_5 2.1　2.1	3.6	P_1～P_2～P_3 1.5　2.1	K71 I・II	〃	
K72	E—102	3×2	N—86°—E	4.8	P_5～P_6～P_7～P_8 1.5　1.5　1.8	3.9	P_8～P_9～P_1 1.8　2.1	K64 H203	〃P251	
K73	B—17	2×2	N—5°—W	5.4	P_3～P_4～P_5 2.7　2.7	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1	HP16 W23 JP68	〃	
K74	B・C—17	2×2	N—6°—E	3.0	P_3～P_4～P_5 1.5　1.5	3.0	P_1～P_2～P_3 1.5　1.5	K75	〃P252	
K75	B・C—17	1×1	N—5°—E	3.3	P_2～P_3 3.3	3.3	P_1～P_2 3.3	K74	〃	

遺構名	位　置	規模(間)	方　位	桁行(m)	桁　間(m)	梁行(m)	梁　間(m)	重　複	挿　図	備　考
K76	B－18	3×2	N－78°－E	6.0	P_1～P_2～P_3～P_4 2.1　1.8　2.1	4.2	P_4～P_5～P_6 2.1　2.1	J P83	2巻P252	
K77	C－19	2×2	N－8°－E	4.8	P_3～P_4～P_5 2.4　2.4	4.8	P_1～P_2～P_3 2.7　2.1		〃 P253	
K78	A・B－18	2×2	N－1.5°－E	4.2	P_3～P_4～P_5 2.1　2.1	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1		〃	
K79	A－18・19	2×2	N－11°－W	3.6	P_5～P_6～P_1 1.8　1.8	3.6	P_1～P_2～P_3 1.8　1.8		〃	
K80	D・E－101	2×2	N－14°－W	4.8	P_3～P_4～P_5 2.4　2.4	4.8	P_1～P_2～P_3 2.4　2.4	W16	〃 P254	南辺は3間
K81	A・B－18	1×1	N－4°－W	3.3	P_2～P_3 3.3	2.4	P_1～P_2 2.4	J P76	〃	
K82	A－17・18	2×2	N－19°－W	4.5	P_3～P_4～P_5 2.1　2.4	3.0	P_1～P_2～P_3 1.5　1.5	K58・60	〃 P255	
K83	A－19	2×2	N－6°－W	4.5	P_7～P_8～P_1 2.4　2.1	3.0	P_1～P_2～P_3 1.5　1.5		〃	
K84	E－101・102	2×2	N－3°－W	3.6	P_5～P_6～P_1 1.8　1.8	3.3	P_3～P_4～P_5 1.5　1.8	W16	〃	
K85	F・G－103	2×2	N－20°－E	3.6	P_3～P_4～P_5 1.8　1.8	3.3	P_1～P_2～P_3 1.8　1.5	W17・18	〃	
K86	F・G－103	3×2？	N－4°－E	4.5	P_5～P_6～P_7～P_1 1.2　1.5　1.8	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1	W17・72 K89	〃 P256	
K87	H・G－2	2×2	N－17°－W	6.3	P_3～P_4～P_5 2.4　3.9	3.6	P_1～P_2～P_3 1.8　1.8	K98・104	〃	
K88	E－101 102	2×2	N－13°－W	5.1	P_3～P_4～P_5 2.4　2.7	3.6	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1	W16・74	〃 P257	不整形
K89	F・G－103	3×2？	N－7°－E	4.2	P_4～P_5～P_6～P_1 1.5　1.2　1.5	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1	W17・72 K86	〃	
K90	D－102 103	2×2	N－4°－E	4.2	P_7～P_8～P_1 2.1　2.1	3.6	P_1～P_2～P_3 1.8　1.8	H212	〃 P258	
K91	D－102	2×2	N－6°－W	3.9	P_7～P_8～P_1 2.1　1.8	3.6	P_1～P_2～P_3 2.1　1.5		〃	
K92	D－102	2×2	N－82°－W	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1	3.9	P_7～P_8～P_1 2.1　1.8	H225 W27	〃	
K93	D－101 102	2×2	N－7.5°－W	4.8	P_3～P_4～P_5 2.4　2.4	4.8	P_1～P_2～P_3 2.4　2.4		〃	
K94	F－1	2×2	N－8°－E	4.2	P_3～P_4～P_5 2.4　1.8	3.3	P_1～P_2～P_3 1.6　1.7	W71	〃 P259	
K95	E－2	2×2	N－30.5°－E	3.3	P_1～P_2～P_3 1.8　1.5	3.3	P_3～P_4～P_5 1.5　1.8		〃	
K96	E－2	2×2	N－83°－W	4.5	P_1～P_2～P_3 2.1　2.4	3.9	P_9～P_{10}～P_1 2.1　1.8		〃 P260	西辺は4間
K97	G－2・3	2×2	N－12.5°－W	3.9	P_1～P_2～P_3 2.1　1.8	3.9	P_6～P_7～P_1 1.8　2.1	K106	〃	
K98	G－2	3×2	N－8.5°－E	6.6	P_3～P_4～P_5～P_6 2.4　2.1　2.1	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1	K87・104 W33	〃 P261	南辺は3間
K99	E・F－2	2×2	N－0°	5.4	P_6～P_7～P_1 2.4　3.0	3.7	P_1～P_2～P_3 1.8　1.9		〃 P262	不整形 総柱
K100	E－3	2×1	N－80°－W	3.3	P_4～P_5～P_6 1.8　1.5	2.1	P_3～P_4 2.1		〃	不整形
K101	C・D－102	2×1	N－77°－W	3.3	P_1～P_2～P_3 1.5　1.8	2.7	P_3～P_4 2.7	W32	〃	
K102	H－2	2×2	N－5°－E	3.0	P_1～P_2～P_3 1.5　1.5	3.0	P_3～P_4～P_5 1.5　1.5		〃	総柱
K103	H－2	2×1	N－92°－E	3.6	P_1～P_2～P_3 1.8　1.8	3.3	P_3～P_4 3.3	H182・184 K33	〃 P263	

遺構名	位　置	規模(間)	方　位	桁行(m)	桁　間(m)	梁行(m)	梁　間(m)	重　複	挿　図	備　考
K104	G－2	3×2	N－8.5°－E	5.7	P_3～P_4～P_5～P_6 1.8　1.8　2.1	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1	K98・87 W33	2巻P261	南辺は3間 K98建て替えか
K105A	G－101	3×2	N－77°－E	4.8	P_5～P_6～P_7～P_8 1.5　1.5　1.8	3.6	P_3～P_4～P_5 1.8　1.8	K105B	〃P263	不規則
K105B	G－101	2×2	N－10°－W	4.2	P_3～P_4～P_5 2.1　2.1	3.3	P_1～P_2～P_3 2.1　1.2	K105A	〃	
K106	G－2・3	3×2？	N－16°－W	6.6	P_1～P_2～P_3～P_4 2.1　2.4　2.1	4.5	P_4～P_5～P_6 2.4　2.1	K97	〃P264	
K107	ロ－8	3×2	N－22°－E	5.7	P_3～P_4～P_5～P_6 1.8　1.8　2.1	3.6	P_1～P_2～P_3 1.8　1.8	H247 J47	〃	不規則 東辺は6.0m
K108	B－8	3×2？	N－10°－E	6.6	P_5～P_6～P_7～P_1 2.4　2.1　2.1	4.0	P_1～P_2～P_3 2.1　1.8	H250	〃P265	
K109	B－8	2×2	N－13°－E	4.8	P_7～P_8～P_1 2.4　2.4	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1		〃	不規則
K110	ロ－1	2×2	N－5°－E	4.5	P_3～P_4～P_5 2.1　2.4	4.2	P_1～P_2～P_3 2.4　1.8	K111 H253・256	〃	
K111	ロ－1	2×2	N－24°－E	5.4	P_3～P_4～P_5 2.7　2.7	3.6	P_1～P_2～P_3 1.8　1.8	K110	〃P266	
K112	ロ－1・2	2×2	N－17°－E	3.6	P_3～P_4～P_5 1.5　2.1	3.3	P_1～P_2～P_3 1.5　1.8	K113	〃	不規則
K113	ロ－1・2	2×2	N－1°－E	3.6	P_3～P_4～P_6 1.8　1.8	3.6	P_1～P_2～P_3 1.8　1.8	K112	〃P266	
K114	ロ・ハ－1・2	2×2	N－8°－E	3.9	P_3～P_4～P_5 2.1　1.8	3.0	P_1～P_2～P_3 1.5　1.5	K115	〃P267	西辺に廂
K115	ロ・ハ－1・2	3×2	N－83°－W	5.1	P_5～P_6～P_7～P_8 1.5　1.8　1.8	3.9	P_3～P_4～P_5 2.1　1.8	K114	〃	
K116	ヨ－110	2×2	N－8°－W	3.9	P_3～P_4～P_5 1.8　2.1	3.9	P_1～P_2～P_3 1.8　2.1		1巻P260	南辺に廂
K117	カ・ヨ－111	2×2	N－84°－W	4.8	P_1～P_2～P_3 2.4　2.4	4.5	P_3～P_4～P_5 2.1　2.4	K119 I・II	〃P261	建て替え
K118	ヨ－111	2×2	N－16°－E	3.6	P_7～P_8～P_1 1.8　1.8	3.3	P_1～P_2～P_3 1.8　1.5		〃P262	建て替え 北辺に廂
K119 I	カ・ヨ－111	2×2	N－4°－E	4.5	P_1～P_2～P_3 2.4　2.1	4.5	P_7～P_8～P_1 2.4　2.1	K117・119 II	〃P263	
K119II	カ・ヨ－111	2×2	N－88°－W	4.8	P_1'～P_2'～P_3' 2.7　2.1	4.5	P_3'～P_4～P_5 2.1　2.4	K117・119 I	〃	
K120	タ－7	2×2	N－72°－W	3.3	P_1～P_2～P_3 1.5　1.8	3.0	P_3～P_{12}～P_7 1.5　1.5	N39 F88	〃P264	総柱
K121	タ－7	2×2	N－27°－E	3.3	P_3～P_4～P_5 1.5　1.8	3.0	P_1～P_2～P_3 1.5　1.5	J P90 F90	〃P267	総柱 建て替え
K122	タ・レ－10	2×2	N－7.5°－E	4.8	P_1～P_2～P_3 2.4　2.4	4.8	P_7～P_8～P_1 2.4　2.4	K123 F138	〃P268	建て替え
K123	レ－10	2×2	N－21.5°－E	3.3	P_2～P_3～P_4 2.1　1.2	3.0	P_4～P_5～P_6 1.5　1.5	K122 H301・302 311	〃P269	
K124	タ－10・11	2×2	N－89°－E	4.8	P_1～P_2～P_3 2.4　2.4	3.9	P_3～P_4'～P_5 2.1　1.8	N8	〃P270	建て替え
K125	タ－9	2×2	N－42°－W	4.5	P_1～P_2～P_3 2.1　2.4	3.9	P_6～P_7～P_1 1.8　2.1	F126 N11	〃P271	2×1間？
K126	イ－9・10	3×2	N－6.5°－E	5.1	P_3～P_4～P_5～P_6 1.8　1.8　1.5	5.1	P_1～P_2～P_3 2.4　2.7		2巻P268	建て替え
K127	ロ－9・10	2×2	N－84°－W	3.6	P_1～P_2～P_3 1.8　1.8	3.0	P_3～P_4～P_5 1.5　1.5		〃	建て替え
K128	A・イ－9	2×2	N－85°－W	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1	3.0	P_3～P_4～P_5 1.5　1.5		〃P269	建て替え

遺構名	位　置	規模(間)	方　位	桁行(m)	桁　間(m)	梁行(m)	梁　間(m)	重　複	挿　図	備　考
K129	B－9・10	2×2	N－30°－E	3.6	P_3～P_4～P_5 1.8　1.8	3.6	P_5～P_6～P_7 2.1　1.5	K179・180	2巻P269	
K130	イ・ロ－5	3×2	N－1°－W	6.0	P_3～P_4～P_5～P_6 2.4　1.8　1.8	3.6	P_1～P_2～P_3 1.8　1.8		〃	間仕切り
K131	A－10	2×2	N－72°－W	3.6	P_1～P_2～P_3 1.8　1.8	3.3	P_3～P_4～P_5 2.1　1.2	F145	〃P270	建て替え
K132	A・イ－4・5	2×2	N－1°－W	5.4	P_3～P_4～P_5 2.7　2.7	3.6	P_1～P_2～P_3 1.8　1.8	W64	〃	
K133	A－5・6	2×2	N－80°－W	3.3	P_1～P_2～P_3 1.8　1.5	3.0	P_3～P_4～P_5 1.5　1.5		〃	
K134	イ－10	2×2	N－12°－E	3.3	P_3～P_4～P_5 1.5　1.8	3.3	P_1～P_2～P_3 1.5　1.8	H330	〃	
K135	ヨ・タ－4	2×2	N－11°－E	5.1	P_3～P_4～P_5 2.4　2.7	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1	H394 F172	1巻P272	建て替え
K136	ヨ－5	1×1	N－5.5°－E	3.9	P_2～P_3 3.9	3.9	P_1～P_2 3.9		〃P273	
K137	タ－5	2×2	N－16°－E	5.4	P_3～P_4～P_5 2.7　2.7	5.4	P_1～P_2～P_3 2.7　2.7	K138	〃P274	南辺は3間 K138と建て替え関係
K138	タ－5	3×2	N－15.5°－E	8.1	P_{11}～P_{12}～P_{13} ～P_1 2.4　3.3　2.4	5.7	P_1～P_2～P_3 2.7　3.0	K137	〃P275	西辺は6間 K137と建て替え関係
K139	タ－4	3×2	N－8.5°－E	7.8	P_8～P_9～P_{10}～P_1 2.7　2.4 2.7	5.1	P_1～P_2～P_3 2.7　2.4		〃P276	
K140 I	タ・レ－4	3×3	N－3°－E	6.6	P_4～P_5～P_6～P_7 2.1　2.4　2.1	4.2	P_1～P_2～P_3～P_4 1.2　1.8　1.2	K140II	〃P277	総柱
K140II	タ・レ－4	3×2	N－4°－E	5.4	P_2～P_3 2.4　2.1　0.9	4.5	P_3～P_4～P_5 2.4　2.1	K140 I	〃P278	北辺は3間
K141	レ－4	2×2	N－3.5°－E	4.8	P_3～P_4～P_5 2.4　2.4	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1	K143	〃	
K142	レ－4	2×2	N－3°－E	4.5	P_5～P_6～P_1 2.1　2.4	3.3	P_1～P_2～P_3 1.2　1.2	K143	〃P279	西辺は1間
K143	レ－4	2×1	N－79°－W	4.8	P_1～P_2～P_3 2.4　2.4	2.4	P_3～P_4 2.4	K141・142	〃P280	南辺は1間
K144	レ・ソ－4	2×2	N－7°－E	4.5	P_3～P_4～P_5 2.4　2.1	4.5	P_1～P_2～P_3 2.4　2.1		〃P281	東辺は1間
K145	ヨ－4	3×2	N－3°－E	4.8	P_2～P_3～P_4～P_5 1.8　1.2　1.8	3.6	P_5～P_9～P_6 2.4　1.2		〃P282	北辺は1間
K146	タ・レ－3	2×2	N－7°－E	4.8	P_3～P_4～P_5 2.4　2.4	3.9	P_5～P_6～P_7 1.8　2.1	K149 H367		
K147	タ－3 レ－2・3	2×2	N－5°－E	4.2	P_3～P_4～P_5 2.1　2.1	3.9	P_1～P_2～P_3 1.8　2.1	K148	〃P284	建て替え
K148	レ－2・3	2×2	N－14°－E	4.5	P_3～P_4～P_5 1.8　2.7	3.9	P_1～P_2～P_3 1.8　2.1	K147	〃P285	不規則
K149	タ・レ－3	3×3	N－9°－E	7.8	P_4～P_5～P_6～P_7 2.7　2.4　2.7	5.1	P_1～P_2～P_3'～P_4' 1.8　1.5　1.8	K146 H367	〃P286	
K150	レ－2	2×1	N－89°－W	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1	3.9	P_6～P_1 3.9	W58	〃P287	
K151	タ－6	3×2	N－21°－E	5.4	P_3～P_4～P_5～P_6 1.8　1.8　1.8	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1	K152	〃P288	建て替え
K152	タ－6	2×2	N－11°－E	4.8	P_6～P_7～P_1 2.4　2.4	4.8	P_1～P_2～P_3 2.4　2.4	K151	〃P289	西辺は1間
K153	レ－6・7	2×2	N－28°－E	5.4	P_3～P_4～P_5 3.0　2.4	5.4	P_1～P_2～P_3 2.4　3.0	N－9・10	〃P290	建て替え
K154	ヨ・タ－7	2×2	N－11°－E	4.2	P_3～P_4～P_5 2.1　2.1	3.9	P_1～P_2～P_3 1.8　2.1		〃P291	

遺構名	位　置	規模(間)	方　位	桁行(m)	桁　間(m)	梁行(m)	梁　間(m)	重　複	挿　図	備　考
K155	タ－6・7	4×2	N－33°－E	9.0	P_4～P_5～P_6 2.4 2.1 P_6～P_7～P_8 2.4 2.1	5.7	P_1～P_2～P_4 3.0 2.7	F151・152	1巻P292	
K156	リ－4	2×2	N－85°－W	4.5	P_5～P_6～P_7 2.1 2.4	4.2	P_3～P_4～P_5 2.1 2.1		〃 P293	不規則
K157	イ・ロ－11	3×2	N－89°－W	6.9	P_1～P_2～P_3～P_4 2.1 2.7 2.1	4.8	P_9～P_{10}～P_1 2.4 2.4		2巻P271	南辺に廂
K158	ル・ヲ－5	3×2	N－3.5°－E	6.0	P_7～P_8～P_9～P_1 1.8 1.8 2.4	4.8	P_1～P_2～P_3 2.4 2.4		1巻P2494	西辺は2間建て替え
K159	リ・ヌ－101	3×2	N－89°－E	5.4	P_1～P_2～P_3～P_4 1.8 1.8 1.8	3.6	P_4～P_5～P_6 1.8 1.8		〃 P295	
K160	ワ－101	3×1	N－83°－W	7.2	P_1～P_2～P_3～P_4 2.4 2.4 2.4	3.9	P_4～P_5 3.9		〃 P296	
K161	ワ－101	2×2	N－3°－E	5.1	P_3～P_4''～P_5 2.4 2.7	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1 2.1	W48	〃 P297	建て替え
K162	ワ－101	2×2	N－85°－W	4.5	P_1～P_2～P_3 2.25 2.25	3.0	P_3～P_4～P_5 1.5 1.5		〃 P298	建て替え
K163	ワ－102	3×1	N－85°－W	5,7	P_1～P_2～P_3～P_4 2.1 1.8 1.8	3.3	P_5～P_1 3.3	W48	〃	
K164	ヲ－8	3×2？	N－8.5°－W	5.4	P_7～P_8～P_9～P_1 1.8 2.1 1.5	4.2	P_5～P_6～P_7 2.1 2.1	W53	〃 P301	不規則建て替え？
K165	ル－9・10	2×2	N－23°－E	3.3	P_3～P_4～P_5 1.65 1.65	3.3	P_1～P_2～P_3 1.65 1.61		〃 P302	総柱建て替え
K166	ル－9・10	1×1	N－29°－E	3.9	P_3～P_5 3.9	3.9	P_1～P 3 3.9		〃	東辺は1間
K167	ル－10	3×2	N－29°－E	6.0	P_3～P_4～P_5～P_6 2.1 1.8 2.1	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1 2.1		〃 P303	建て替え
K168 I	ヲ－10	2×2	N－15°－E	4.5	P_3～P_4～P_5 2.25 2.25	4.5	P_1～P_2～P_3 2.25 2.25	W53	〃 P304	
K168 II	ヲ－10	2×2	N－74°－W	3.9	P_3'～P_4～P_5'' 1.5 2.1	3.6	P_1'～P_2'～P_3' 1.95 1.95	W53	〃	建て替え
K169 I	ヲ－10	3×2	N－79°－W	5.7	P_1～P_2～P_3～P_4 2.1 1.5 2.1	4.2	P_9～P_{10}～P_1 2.1 2.1	K169 II	〃 P305	I・IIは建て替え
K169 II	ヲ－10	1×1	N－27°－E	3.9	P_2～P_3 3.9	3.9	P_1～P_2 3.9	K169 I	〃	
K170	ヲ・ワ－9	3×2	N－15°－E	6.0	P_3～P_4～P_5～P_6 2.4 1.5 2.1	3.6	P_1～P_2～P_3 1.8 1.8		〃 P306	建て替え台形状
K171	ヲ－9	3×2	N－12.5°－E	6.9	P_7～P_8～P_9～P_1 2.1 2.1 2.7	4.8	P_1～P_2～P_3 2.4 2.4	H444 W54	〃 P307	西辺は2間
K172 I	ル－9	2×2	N－11.5°－E	3.6	P_3～P_4～P_5 1.8 1.8	3.6	P_1～P_2～P_3 1.8 1.8	W54	〃 P308	K172 I・IIは建て替え
K172 II	ル－9	2×1	N－18°－E	3.6	P_7'～P_8'～P_1 1.8 1.8	3.0	P_5～P_7' 3.0	W54	〃	
K173	A－10・11	2×2	N－2°－E	3.3	P_3～P_4～P_5 1.5 1.8	3.0	P_1～P_2～P_3 1.5 1.5		2巻P271	東辺は1間
K174	ワ－8	3×2	N－75°－W	4.5	P_6～P_7～P_8～P_9 1.35 1.8 1.35	3.3	P_4～P_5～P_6 1.8 1.5		1巻P308	建て替え
K175	ヲ・ワ－8	2×2	N－86.5°－E	5.7	P_1～P_2～P_3 2.7 3.0	4.2	P_5～P_6～P_1 2.1 2.1	F296	〃 P309	台形状西辺は1間
K176	ヲ－6・7	2×1	N－14.5°－E	3.6	P_2～P_3～P_4 2.8 2.8	3.3	P_1～P_2 3.3	H P99 K183・184	〃 P310	建て替え
K177 I	ル－6	2×2	N－2°－E	5.7	P_7～P_8'～P_1 2.7 3.0	3.9	P_1～P_2'～P_3 1.8 2.1	K177 II	〃 P311	K177 I・IIは建て替え
K177 II	ル－6	2×2	N－4°－E	5.7	P_7'～P_8～P_1' 2.4 3.3	4.2	P_1'～P_2～P_3' 1.8 2.4	K177 I	〃	台形状

遺構名	位　置	規模(間)	方　位	桁行(m)	桁　間(m)	梁行(m)	梁　間(m)	重　複	挿　図	備　考
K178 I	ル－6	2×2	N－7°－W	6.3	P_7～P_8～P_1 3.0　3.3	4.2	P_5～P_6～P_7 2.1　2.1	K178II	1巻P312	K178 I・IIは建て替え間仕切り
K178II	ル－6	2×2	N－7.5°－W	6.3	P_7'～P_8'～P_1' 2.4　3.9	4.5	P_1'～P_2'～P_3' 2.25　2.25	K178 I	〃	間仕切り
K179	B－9・10	2×2	N－16°－E	3.9	P_3～P_4～P_5 2.1　1.8	3.0	P_5～P_6～－ 1.5　1.5	K129	2巻P271	不規則
K180	B－9	3×2	N－12°－E	3.6	P_6～P_7～P_8～P_9 1.2　1.2　1.2	3.3	P_4～P_5～P_6 1.5　1.8	K129	〃P272	
K181	A・イ－5	3×2	N－5°－W	5.1	P_6～P_7～P_8～P_1 1.5　2.1　1.5	3.3	P_1～P_2～P_3 1.5　1.8	W37	〃	西辺は1間
K182	カ・ヨ－2・3	2×1	N－11°－W	4.2	P_2～P_3～P_4 2.1　2.1	3.3	P_1～P_2 3.3		1巻P313	
K183	ヲ－6	2×1	N－8°－E	4.8	P_2～P_3～P_4 2.4　2.4	2.7	P_1～P_2 2.7	K176・184	〃	
K184	ヲ－6	2×2	N－14°－E	5.7	P_8～P_9～P_1 2.7　3.0	5.5	P_6～P_7～P_8 2.7　2.7	K176・183	〃P314	総柱 建て替え
K185	ロ・ハ－12	3×2	N－5°－E	6.3	P_3～P_4～P_5～P_6 1.8　3.0　1.5	4.8	P_1～P_2～P_3 2.4　2.4	H489	2巻273	
K186	イ－4	2×2	N－3°－E	4.2	P_3～P_4～P_5 2.1　2.1	3.0	P_1～P_2～P_3 1.5　1.5		〃	
K187	ロ－12	1×1	N－2°－E	3.6	P_2～P_3 3.6	3.6	P_1～P_2 3.6	K194	〃	東辺は2間
K188	イ・ロ－12	2×2	N－0°	5.4	P_1～P_2～P_3 2.8　2.7	5.4	P_3～P_4～P_5 2.8　2.7		〃P274	
K189	イ－12	2×2	N－1.5°－W	3.9	P_1～P_2～P_3 1.8　1.2	3.9	P_3～P_4～P_5 1.8　2.1		〃	総柱
K190	A・イ－11・12	2×1	N－2°－W	3.6	P_2～P_3～P_4 1.8　1.8	3.6	P_1～P_2 3.6		〃	
K191	B－12	2×2	N－88°－W	4.8	P_1～P_2～P_3 2.1　2.7	3.9	P_6～P_7～P_1 1.8　2.1		〃	西辺は1間
K192	B－10	2×2	N－3°－W	3.6	P_3～P_4～P_5 1.5　2.1	3.3	P_1～P_2～P_3 1.5　1.8		〃P275	内側に1×1間の建物跡
K193	ロ－11	2×2	N－0°	4.5	P_3～P_4～P_5 2.4　2.1	4.2	P_1～P_2～P_3 2.1　2.1	W14 H488	〃P276	
K194	ロ・ハ－12	2×2	N－8°－E	4.8	P_8～P_9～P_1 2.4　2.4	4.8	P_1～P_2～P_3 2.1　2.7	K187	〃	南辺は3間
K195	ル－8・9	3×2	N－85°－W	4.5	P_5～P_6～P_7～P_8 1.9　1.2　1.4	3.0	P_8～一～P_1 1.5　1.5	W53	1巻P315	西辺は1間

表－171　竪穴遺構一覧表

遺構名	位　置	規　模(m) 長径×短径	面積(㎡)	壁高(cm)	周溝	柱　穴	重　複	挿　図	方　位	備　考
H 1 竪穴	J－101	3.7×2.5	7.4	8～18		P_1～P_2	J P64	2巻P202	N－40°－W	楕円形
H 2 竪穴	イ－7	3.8×2.5	8.9	38～43		周辺にピット2		〃	N－77°－W	長方形
H 3 竪穴	ヲ－12	2.65×2.1	4.9	30～46		P_1		1巻P257	N－75°－W	隅丸長方形
H 4 竪穴	タ－9	3.7×3.7	12.4	10～40	有	中央にピット		1巻P258	N－10°－E	隅丸方形
H 5 竪穴	タ－10	4.07×3.9	15.2	65～92	有		F260	〃	N－64°－W	隅丸方形張り出し有
H 6 竪穴	C－10	3.3×2.2	6.9	35～43		P_1～P_2	J 5	2巻P203	N－21°－E	長方形

遺構名	位　置	規　模(m) 長径×短径	面積(㎡)	壁高(cm)	周溝	柱　穴	重　複	挿　図	方　位	備　考
H7竪穴	C・D−21	4.1×3.1	12.4	22〜31		P_1〜P_8		2巻P203	N−73°−W	長方形
H8竪穴	B−15	3.0×2.6	4.8	10〜62		P_1〜P_2		〃 P204	N−9°−E	
H9竪穴	ハ−7・8	3.4×2.4	7.9	16〜25		P_1	F81・83	〃	N−17.5°−W	長方形
H10竪穴	S−5	3.0×2.8	8.4	7〜12			HP31 J12	3巻P19	N−70°−E	方形

表−172　ＨＰ土坑・大ＨＰ土坑一覧表

遺構名	位　置	形　状	方　位	規　模 長径×短径×深・下端径	遺　物	重　複	挿　図	備　考
HP1	Q−17−23	長方形	N−21°−E	110×88×13 103×78	須恵器片		2巻P283	
HP2	Q−102−90 Q−101−81	長方形	N−15°−W	217×140×52 182×103		JS3	〃	底面近くに木炭片
HP3	M−1−74・75	楕円形	N−27°−E	140×88×49 112×68		J24	〃	多量の炭化物含
HP4	M−1−54	楕円形	N−72°−W	160×94×49 134×80		J24	3巻P35 2巻P283	
HP5	M−1−61・71	不整円形	N−15°−W	86×77×35 28×25			2巻P283	ピット状
HP6	L−102−29/39	隅丸方形	N−2°−W	120×116×21 94×84		H123・128	〃	焼土・炭化物含
HP7	L−102−40	楕円形	N−15°−W	157×119×37 146×109		K5−A	〃	炭化物含
HP8	L−103−57/58	長方形	N−80°−W	150×116×30 117×89		H25・129	〃	
HP9	K−102−100	楕円形	N−14°−W	53×42×28 33×28		K32	〃	K32に付随？
HP10	G−101−19/20	長方形	N−85°−E	163×60×18 151×43		K37・39	〃	多量の炭化物
HP11	C−15−14/15	長円形	N−12°−E	163×76×46 128×62			〃 P284	多量の炭化物
HP12	B−16−77	隅丸長方形	N−13°−E	169×98×46 143×73			〃	多量の炭化物・焼土
HP13	B−16−21	長方形	N−6°−E	140×87×28 116×63		K53	〃	中央に炭化物 一部焼土
HP14	B−15−28	隅丸長方形	N−65°−E	147×69×18 128×47			〃	炭化物含
HP15	E−14−49	長円形	N−6°−W	135×65×18 127×58			〃	炭化物多く、底部焼土化
HP16	B−17−14	長円形	N−82°−W	131×92×20 105×72		K73	〃 P284	多量の炭化物、焼土含
HP17	A−18−19	不整円形	N−25°−W	143×102×18 131×97			〃	焼土、多量の炭化物含
HP18	E−102−34/44	円形	N−16°−E	138×120×36 123×110			〃	旧HP29
HP19	E−101−83	円形	N−47.5°−E	130×112×22 117×93			〃	旧HP30 埋土HP18に似る
HP20a	E−1−33/34	不整円形	N−2.5°−W	128×100×23 112×82		HP20−b	〃 P285	炭化物、焼土含
HP20b	〃	長円形	N−17.5°−W	128×89×42 102×78		HP20−a	〃	〃

遺構名	位置	形状	方位	規模 長径×短径×深・下端径	遺物	重複	挿図	備考
HP20c	E－1－33/34	不整円形	N－16°－W	152×119×20 134×102			2巻P285	炭火物、焼土含
HP21	ハ－101－17/27	長円形	N－18°－E	144×105×17 113×76			〃	炭化物含
HP22	イ－6－71/61	長円形	N－11°－E	155×90×44 123×62			〃	旧5P－88 炭化物若干含
HP23	イ－5－49/59	長円形	N－80°－W	125×62×28 87×24			〃	旧5P－86 炭化物若干含
HP24	ロ－5－28/29	長円形	N－83°－W	141×104×28 123×70			〃	旧5P－87 炭化物含
HP25	イ－3－70 イ－4－51・61	菱形	N－20°－W	193×105×67 72×58			〃	旧5P－88
HP26	イ－5－22	隅丸方形	N－10°－E	132×131×22 108×106		H349	〃	旧5P－89
HP27	A－12－64/65	不整形	N－80°－W	149×104×22 121×88			〃	旧5P－282 部分的に深い
HP28	A－12－72/73	長円形	N－13°－E	93×58×18 76×41			〃	中央ピット状 旧5P－282
HP29	A－11－4 B－11－94	隅丸長方形	N－63.5°－W	203×77×13 193×66			〃	旧5P－284 炭化物・炭化粒含
HP30	イ－11－70	不整方形	N－78°－W	157×82×22 132×80			〃	旧5P－288 凹凸有　多量の炭化物含
HP31	S－5－26	長円形	N－88°－E	130×76×21 118×58		J12 H10竪穴	全体図	
HP32	L－105－21/31	不整円形	N－12°－W	154×148×77 70×40　98×53			〃	底面横穴状
HP33	レ－106－9	長方形	N－28°－E	111×84×59 83×38　76×28			1巻P345	〃
HP34	タ－105－65	長方形	N－0°	153×130×109 98×85			〃	〃
HP35	タ－105－4	円形	N－29°－W	115×84×34 80×71			全体図	〃
HP36	レ－106－25	長方形	N－16°－W	141×105×57 123×86			〃	〃
HP37	V－9－18・19 28・29	長円形	N－28°－E	120×100×70 126×106		J15A・B	3巻P24	断面袋状
HP38	ヲ－106－37	円形	N－69°－E	101×83×25 45×31			全体図	底面中央円筒状
HP39	ル－106－31・32 41・42	長円形	N－70°－E	190×124×28 158×107			〃	円筒形断面 中央部窪む
HP40	ヲ－105－65・66 75・76	隅丸方形	N－82°－E	151×147×33 55×43			〃	炭化物・焼土含
HP41	ワ－110－1 ワ－111－10	長円形	N－5°－W	240×95×67 195×65		HP42	〃	多量のC軽石・FP含
HP42	ワ－110－99	長円形	N－79°－E	157×132×67 124×90		HP41	〃	C軽石・ローム粒含
HP43	ヨ－110－51・52 61・62	長円形	N－19°－W	103×71×15 196×70			〃	全形の½残存
HP44	ヲ－12－94	長円形	N－71°－W	195×112×42 167×74			〃	旧5P－2 C軽石・FP含
HP45	カ－13－62	長円形	—	122×55×28 77×25			〃	旧5P－6
HP46	カ－11－20	不整円形	N－29°－E	138×117×26 111×105			〃	旧5P－8 FP・C軽石・炭化物含

遺構名	位置	形状	方位	規模 長径×短径×深・下端径	遺物	重複	挿図	備考
HP47	タ－9－24	長方形	N－5°－W	77×49×－ －			全体図	旧5 P－59
HP48	レ－11－24	不整方形	－	70×45×18 －	鉄滓		〃	旧5 P－66
HP49	レ－10－48	円形	－	45×35×22 －			〃	旧5 P－67
HP51	U－16－93	円形	N－60°－W	134×118×115 171×157		J17	3巻P26	断面袋状
HP53	Q－1－36/37	方形	N－1°－W	120×103×34 80×80		J21	〃 P32	
HP55	イ－8－94/95	長円形	N－23°－E	187×111×102 126×70		J42	〃 P52	
HP56	ヨ－5－90・100 ヨ－6－81・91	長方形	N－22°－E	252×186×13 229×170			全体図	旧5 P－110
HP57	レ－1－50・60 レ－2－41・51	長方形	N－48°－E	120×90×21 95×62			1巻P345	旧5 P－122 焼土粒含。焼けている
HP58	レ－1－96	長方形	N－5°－E	100×65×11 －			全体図	旧5 P－124
HP59	ソ－2－20	長円形	N－43°－E	70×50×2 －			〃	旧5 P－126
HP60	ソ－101－64/65	長方形	N－23°－W	203×112×17 189×87	平安期の土師器 須恵器片		1巻P344	旧5 P－141 底面に小ピット
HP61	ソ－101－54/55	長方形	N－28°－W	195×132×26 170×100			全体図	旧5 P－142
HP62	ソ－101－46/47	不整長方形	N－2°－E	280×158×33 270×80			1巻P348	旧5 P143
HP63	ワ－6－63	長円形	N－55°－W	140×85×28 91×57	鉄滓		〃 P346	旧5 P－148 T4遺構に近い
HP64	ワ－5－88	長円形	N－30°－E	112×58×15 97×38			全体図	旧5 P－149 炭化物含
HP65	ワ－5－88	長円形	N－33°－E	106×62×14 98×52			〃	旧5 P～150 炭化物含
HP66	ワ－5－78	長円形	N－4°－W	150×85×20 80×62			〃	旧5 P－151 炭化物多い
HP67	ワ－5－58/68	長円形	N－18°－E	102×54×16 94×44	須恵器坏 (回転ヘラ切り)		1巻P346	旧5 P－152 炭化物多い
HP68	ワ－5－57	長円形	N－43°－E	149×83×17 140×72	〃		全体図	旧5 P～153 焼土・炭化物含
HP69	ル－4－63/64	長円形	N－16°－E	112×56×9 81×36			〃	旧5 P－173
HP70	リ－101－18/28	長方形	N－88°－E	222×167×31 204×152			〃	旧5 P－193
HP71	リ－101－92	不整形	－	130×105×60 112×61			〃	旧5 P－199
HP72	リ－101－84	長円形	N－81°－E	105×82×26 92×59			〃	旧5 P－200
HP73	リ－101－75	長円形	N－80°－W	95×57×53 62×28			〃	旧5 P－201
HP74	ヌ－101－33/43	不整形	N－79°－E	171×136×34 156×124			〃	旧5 P－203
HP75	リ－101－76	隅丸方形	N－71°－W	89×77×53 60×49			〃	旧5 P－204
HP76	ル－1－26	長方形	N－33°－W	708×358×53 580×230	土師器壺	M1	1巻P342	旧5 P－219 石田川期

遺構名	位置	形状	方位	規模 長径×短径×深・下端径	遺物	重複	挿図	備考
HP77	ワ－6－54・55 64・65	方形	N－1°－E	289×234×28 226×177	土師器・須恵器 ・鉄滓		〃P344	旧5P－220 平安期
HP78	ナ－107－71・81 108－80・90	長方形	N－88°－W	396×136×35 308×77	台付甕		〃P343	旧5P－225 石田川期
HP79	ワ－9－76	長方形	N－24°－E	235×172×87 220×150		H454 W49・50	〃P348	旧5P－227 平安期か
HP80	ワ－8－55 56	長方形	N－10°－E	270×107×40 231×91			全体図	旧5P－228
HP81	ヲ－9－74	長方形	N－18°－E	202×91×24 184×80			1巻P344	旧5P－229 平安期か
HP82	ヲ－9－32 33	長方形	N－7°－E	162×88×25 131×74			全体図	旧5P－230
HP83	ム－107－50	方形	N－23°－E	87×73×82 80×22			1巻P343	旧5P－232 FA降下以前か
HP84	ム－107－50	円形	N－43°－E	58×52×45 41×38			〃	旧5P－233 FA降下以前か
HP85	ヲ－9－92・93 ワ－9－2・3	長方形	N－23°－E	230×120×57 187×105		H295	全体図	旧5P－237
HP86	ワ－7－5	方形	N－62°－W	123×75×31 109×70			1巻P346	旧5P－238
HP87	ワ－7－36	長円形	N－72°－W	76×59×53 40×33			全体図	旧5P－239
HP88	ヲ－10－98 99	長方形	N－23°－W	184×106×33 120×72			全体図	旧5P－240
HP89	ル－10－88	長円形	N－42°－E	105×80×28 95×44			〃	旧5P－241
HP90	ル－9－14・15 24・25	長円形	N－15°－W	184×122×43 140×82			〃	旧5P－242 底部凹凸
HP91A	ル－9－46	長円形	N－60°－W	177×71×43 62×53		HP91B	〃	旧5P－243
HP91B	ル－9－46	長円形	N－19°－W	160×115×111 151×108		HP91A	〃	〃
HP92	ル－9－66	長方形	N－21°－E	270×60×15 255×45			1巻P348	旧5P－244 平安期か
HP93	ル－9－76	長方形	N－13°－E	139×79×14 129×65			全体図	旧5P－245
HP94	ル－9－65	長円形	N－32°－W	108×101×18 85×76			〃	旧5P－246
HP95	ル－8－86	不整形	—	204×150×56 120×98			1巻P348	旧5P－247 平安期か。底面凹凸
HP96	ワ－7－38・39 48・49	不整円形	N－20°－E	137×119×30 84×80	炭化材・クルミ		〃P347	旧5P－248 底面凹凸
HP97	ヲ－8－65	長円形	N－82°－E	132×103×20 85×79			全体図	旧5P－249 一部上端は二段
HP98	ヲ－10－8 9	長円形	N－84°－W	115×65×42 80×48　32×18			〃	旧5P－251 中央が円形に落ち込む
HP99	ヲ－6－50・60 ヲ－7－51	楕円形	N－7°－E	142×120×32 122×108		K176	1巻P347	旧5P－252 小ピット有　平安期か
HP100	ヲ－6－50・60 ヲ－7－51	長円形	N－70°－W	114×90×100 83×54			〃P346	旧5P－253 平安期か
HP101	ヲ－6－60 70	隅丸方形	N－28°－E	84×78×26 72×62			〃P347	旧5P－254 小ピット有　平安期か
HP102	ム－106－31	円形	—	82×80×94 65×58　29×27			〃P343	旧5P－256 底部先細り
HP103	ヌ－3－17	不整方形	—	130×120×76 110×53			〃P349	旧5P－260 底面凹凸　FA降下後

遺構名	位置	形状	方位	規模 長径×短径×深・下端径	遺物	重複	挿図	備考
HP104 A	ヌ－3－24	長円形	N－60°－W	127×109×42 100×76		W60 HP104B	全体図	旧5P－263
HP104 B	ヌ－3－24	長円形	N－25°－E	(150)×110×50 50×50		HP104A	〃	〃
HP105	ヌ－2－19	不整形	—	122×84×74 44×34　23×13			〃	旧5P－264 木の根跡？
HP107	D－9－86	長円形	N－76°－W	107×72×27 77×44		J4	3巻P7	
HP108	R－4－73	楕円形	N－68°－E	76×65×27 50×36		J10	〃P15	
HP109	R－4－73	不整方形	N－1°－E	62×49×16 53×22		J10	〃	
HP112	R－101－49	楕円形	N－31°－E	50×41×26 28×21		JP27	〃P296	ピット状
HP113	C－23－9/10	長円形	N－62°－W	98×58×73 84×52		JP41	3巻P300	
HP116	G－4－36・37/46・47	長円形	N－17°－E	110×80×72 —		JP127	全体図	
HP119	N－1－31	長円形	N－27°－E	226×95×31 164×90		H156	全体図	HP119→H156か
HP120	U－15－90/100	円形	N－1°－W	126×114×60 113×110		J17	3巻P26	
HP121	B－19－92	長円形	N－76°－E	94×79×— 45×27		JP77	〃P306	
HP122	H－103－57	長円形	N－64°－W	158×99×100 120×73		H190	〃	H190→HP122か
HP123	S－1－49/59	長円形	N－62°－W	65×45×25 —		JP8	〃P292	
HP124	S－2－40	不整形	N－15°－W	125×61×25 64×38　20×18		J9	〃P14	J9の床下
HP125	R－4－74/75	不整方形	N－3°－W	72×68×— 63×58		J10	〃P15	
HP126	U－16－92	不整形	N－61°－W	100×76×27 92×54		J17	〃P26	
HP127	T－16－11	円形	N－1°－W	54×53×93 50×36		J17	〃	
HP128	U－16－82	円形	N－52°－W	46×29×37 22×10		J17	〃	
HP129	N－102－40	円形	—	122×90×62 33×—		J39・61	〃P49	
HP130	カ－106－48	長円形	N－27°－E	70×50×— —			全体図	
HP131	ワ－105－67	長円形	N－10°－E	70×45×— —			全体図	
大HP1	G－4－33	楕円形	N－74°－E	315×273×159 31×24×34	須恵器片 石		2巻P281	漏斗状断面
大HP2	Q－101－76・77/86・86	楕円形	N－34°－E	320×312×191 62×51×47		JP29	〃	〃B純層含 縁辺に小ピット
大HP3	R－3－82/83	不整円形	N－25°－E	229×212×134 —			〃	断面不規則な袋状 木の根跡か
大HP4	ハ－12－60・70/80 ハ－13－51・61/71	円形	N－70°－W	398×364×170 78×55	須恵器甕片	H142	〃	すり鉢状。縁辺に小ピット
大HP5	ロ－8－77/87	不整円形	N－12°－W	364×360×163 120×120×—	須恵器坏、埦。 鉄鏃	J47	2巻P282	井戸跡か

遺構名	位置	形状	方位	規模 長径×短径×深・下端径	遺物	重複	挿図	備考
大HP6	ハ－9－2/12	不整円形	N－32°－E	280×278×130 73×65×80	須恵器甕、坏 土師器甕、坏		2巻P282	井戸跡か
大HP7	タ－109－26/27	不整円形	N－13°－W	321×280×130 244×200	土師器甕、坏 炭化材、クルミ	H271	1巻P347	大HP7→H271の順
大HP8	C－20－63・64/73・74	円形	N－41°－E	270×260×147 103×93	須恵器片 土師器甕・坏		2巻P282	すり鉢状断面
大HP9	H－18－100 H－19－91 G－18－10 G－19－1	不整形	N－23°－W	338×248×139 207×74			〃	木の根跡か

表－173　J竪穴住居跡一覧表

遺構名	位置	規模(m) 南北　東西	面積(㎡)	壁高(cm)	周溝	カマド位置・炉	柱穴	重複	挿図	方位 時期
J1	C－4	6.3×6.26	34.6	56～99		南西寄り	P_1～P_8	W1・96	3巻P4	N－24°－W 諸磯b
J2	E・F－4	3.3×5.0	16.2	40～76			P_1～P_4		〃P5	N－88°－W 諸磯b
J3	F－5・6	5.0×4.5	19.6	88～106		南西寄り	P_1～P_3	F279 JP122・123 124	〃P6	N－3°－E 諸磯b
J4	D－9	5.1×5.5	25.3	9～41				HP107	〃P7	N－53°－W 前期初頭
J5	C－10	7.7×8.2	57.5	64～84		南東・南西寄り	P_1～P_5	H25 H6竪穴	〃P8	N－77°－E 諸磯b＋c
J6	P－4	6.5×3.5	16.1	13～23		ほぼ中央	P_1～P_{28}		〃P9	N－25°－E 加曽利E4
J7	P－8	6.1×6.4	32.9	52～84			P_1～P_{15}		〃P11	N－53°－W 諸磯b
J8	R－2・3	3.75×5.5	12.8	13～22		ほぼ中央	P_1～P_8		〃P12	N－77°－W 称名寺2
J9	S－2・3	5.0×5.2	20.3	15～33		中央やや南西	P_1～P_{22}	HP124	〃P14	N－64°－W 称名寺2
J10	R－4	7.0×3.6	20.6	24～43		中央やや南寄り	P_1～P_{15}	HP108・109 125	〃P15	N－18°－E 称名寺2
J11	S－4	4.26×4.4	20.6	22		ほぼ中央	P_1～P_{18}	F280	〃P17	N－67°－E 加曽利E4
J12	S－5	4.4×5.4	21.6	20～63	有	北東寄り	P_1～P_{15}	HP31 H10竪穴	〃P19	N－68°－E 黒浜
J13	U・V－8	5.7×4.7	20.3	57		中央南寄り	P_1～P_{26}		〃P20	N－32°－E 加曽利E4
J14	U－9	5.0×4.9	24.3	55～70	有	北壁下中央	P_1～P_8		〃P23	N－2.5°－W 黒浜
J15A	V－9	2.5×2.3	5.6	8～42		北西寄り 埋甕付近？	P_1～P_7	J15B HP37 W5	〃P24	N－30°－E 黒浜
J15B	V－9	3.54×3.5	10.0	12～24			P_1～P_2	J15A・HP37 W5・N40	〃	N－55°－W 黒浜
J16	R－11・12	6.75×5.8	37.5	23～48			P_1～P_8		〃P25	N－3°－W 黒浜
J17	T・U－16	5.2×4.3	21.5	19～50	有		P_1－P_{10}	HP51・120 126～128 F284・285	〃P26	N－22.5°－W 黒浜
J18	T－16	3.7×3.3	10.8	33～49	有	中央北壁寄り	P_1～P_4	H92 F286	〃P29	N－7°－E 黒浜
J19	R－1	3.6×3.7	11.3	13～25	有	中央南寄りに焼土分布	P_1～P_6	J23 W88	〃P30	N－88°－E 黒浜

遺構名	位置	規模(m) 南北 東西	面積(㎡)	壁高(cm)	周溝	カマド位置・炉	柱穴	重複	挿図	方位 時期
J 20	R－1・101	4.6×3.8	16.4	13～40	有	中央2ケ所に焼土分布	P_1～P_3	J P140 F287・288	3巻P31	N－12.5°－W 黒浜
J 21	Q－1	4.0×4.0	15.4	46～68	有		P_1～P_4	H P53	〃 P32	N－20°－E 諸磯a
J 22	Q－101・102	5.2×4.7	22.4	1～54		北壁寄り	P_1～P_6		〃 P34	N－0° 諸磯a
J 23	R－1	4.5×4.8	19.3	25～52			P_1～P_{16}	J 19 W88	3巻P30	N－2°－E 黒浜
J 24	L・M－1	7.2×8.0	53.0	18～62			P_1～P_7	H P 3・4	〃 P35	N－78°－E 諸磯a
J 25	R－102	4.8×3.7	14.8	18～60		中央北寄りに焼土分布	P_1～P_4	J P39 W88	〃 P36	N－12°－E 黒浜
J 26	Q－102	5.0×4.5	19.0					H109・110	〃 P37	N－3°－W 黒浜
J 27	N－102	5.5×5.6	26.4	17～43			P_1～P_7	J 30 J P107	〃 P38	N－83°－E 諸磯a
J 29	M－102	3.9×3.8	14.0	14～52				J 59 J P111	〃 P40	N－10°－W 諸磯a
J 30	N－102	3.8×4.1	14.1	14～31		北壁下南寄り	P_8～P_{18}	J 27	〃 P38	N－81°－E 不明
J 31	ニ・ホ－23	6.9×6.1	34.9	23～55		南西隅に焼土分布		J 32 H152 W10	〃 P41	N－2°－W 諸磯b＋c
J 32	〃	5.2×4.8	23.5	6～22		南西隅	P_1	J 31 H152 W10	〃	N－7°－W 黒浜
J 33	ホ－23	3.3×2.8	7.5	23～32		中央南東寄りに焼土分布		J 60 J P118 H152 W11	〃 P42	N－5°－W 諸磯a＋b
J 34	B・C－8 C－9	7.1×1.0	5.7	87～96			P_1～P_{19}	K 6	〃 P43	N－18°－E 黒浜
J 35	B・C－7・8	4.74×3.8	17.5	45～79	有	中央北寄り	P_1～P_{31}	K 7 H148	〃 P44	N－8.5°－E 関山
J 36 拡前	N－102	4.3×4.7	19.0	20～49	有	東壁際	P_1～P_9	H126	〃 P46	N－76°－E 黒浜
J 36 拡後	〃	4.8×5.7	23.7	28～32	有		周溝内に2本のピット	H159	〃	— 黒浜
J 37	P・N－1・2	5.1×5.2	23.4	24～45			P_1～P_5		〃 P47	N－30°－W 称名寺II
J 38	N－101	4.2×4.3	18.5	20～48			P_1～P_5	H156	〃 P48	N－69°－E 諸磯a
J 39	N－101・102	5.1×4.6	22.3	37～48			$P_{1.3.7.8.10.11}$ $_{14.15}$	J 61 J P112 H129	〃 P49	N－13°－W 諸磯a
J 40	ロ・ハ－7	4.5×4.8	17.2	34～52		南西寄り	P_1～P_7	J 41	〃 P51	N－83°－W 諸磯b＋c
J 41	ロ・ハ－6・7	4.3×3.3	14.1	28～38		中央北寄り		J 40	〃	N－29°－E 花積下層
J 42	イ－8	4.6×4.8	20.4	73～92		中央部ピット	P_1～P_4	H237 H P55	〃 P52	N－84°－E 諸磯c
J 43	ハ－6	5.1×4.1	19.5	43×76		北西寄りに焼土分布	P_1	J P129～131	〃 P53	N－11°－E 黒浜
J 44	A－8	5.3×4.1	21.8	46～56		中央西寄り			〃 P54	N－41°－W 黒浜
J 46	ロ－9	6.1×5.1	24.3	60～66			P_1～P_8	H245 J P85	〃 P55	N－20°－E 諸磯c
J 47	ロ－8	5.4×3.8	19.0	17～40		中央北寄り	P_1～P_6	H247 大H P 5 K107	〃 P56	N－11°－W 黒浜
J 48	ロ－9	5.3×4.4	21.6	35～62	有	中央北寄り	P_1～P_{17}	H246・261	〃 P57	N－17°－E 関山

遺構名	位置	規模(m) 南北 東西	面積(㎡)	壁高(cm)	周溝	カマド位置・炉	柱穴	重複	挿図	方位 時期
J 49	ワ・カ—110・111	6.2×7.1	37.9	40～85		1 北壁寄り 2 南壁寄り	P_1～P_{13}		3巻P58	N—62°—E 諸磯 c
J 50	ハ—22	6.1×4.2	21.8	19～46			P_1～P_5	W99・100	〃 P59	N—20°—E 諸磯 c
J 51	カ—13・14	4.8×2.65	12.7	86～96		中央北寄り		H279	〃 P60	N—17°—W 関山
J 52	イ—5	6.8×7.4	43.3	57～132			P_1～P_2	H343 J P138・139	〃 P61	N—55°—E 諸磯 b
J 53	A・イ—10	5.4×3.5	16.8	85～90		中央北寄り	P_1～P_{18}	H332	〃 P62	N—16°—E 関山
J 54	ツ—101	4.0×3.5	12.1	38～63		中央部			〃 P63	N—33°—W 堀之内 2
J 55	A—9	4.7×3.05	13.0	41～65		中央北寄り	P_1～P_{13}	H328	〃 P64	N—12°—E 関山
J 56	ル・ヲ—2	3.85×2.7	8.2	20～22			P_1～P_5	M 1	〃 P65	N—25°—W 不明
J 57	ワ—7	3.5×3.3	9.5	15～33			P_1		〃	N—22°—E 関山
J 58	ト・チ—4	3.6×3.4	9.6	22～52		中央北寄りに焼土分布	P_1～P_6	W56	〃 P66	N—11°—E 諸磯 b
J 59	M—102	5.0×6.8	28.4	22～27				J 29 J P111	〃 P40	N—69°—W 黒浜
J 60	ホ—23・24	5.9×5.2	21.2	21～44		中央東に焼土分布		J 33 W11 J P115・118 H152	〃 P42	N—3°—E 諸磯 a＋b
J 61	N—101・102	4.8×4.0	5.2	9～29		P_{13}の位置か	$P_{2,4,5,6,9,12}$	J 39 J P60・112 H127 H P129	〃 P49	N—13°—W 不明

表—174 ＪＰ土坑一覧表

遺構名	位置	形状	方位	規模(cm) 長径×短径×深・下端径	遺物	重複	挿図	備考
JP群I (J 28)	P—3			P_1 43×32×49 P_2 53×43×89 P_3 99×78×49 P_4 102×78×66 P_5 94×76×39 P_6 100×69×53 P_7 109×100×64 P_8 31×24×66 P_9 63×61×73 P_{10} 113×95×39 P_{11} 138×120×53	大半が称名寺1 その他 堀之内1 加曽利E 4 石器は、石錐 打・磨製石斧 円礫石器 石皿十多凹石		3巻P285	竪穴住居の可能性あり
J P 1	B—3—3・13 4・14	円形	N—17°—E	150×126×110 98×72			〃 P292	焼土・炭化物含
J P 2	F—4—3・13	隅丸方形	N—94°—E	212×122×124 90×90 90×70			〃	底面は2つに分かれる
J P 3	F—6—38・39 48・49	円形	N—67°—E	216×200×150 174×50			〃 P292	周縁に小ピット 焼土・炭化物含
J P 4	K—6—42 52	不整円形	N—15°—W	284×118×86 147×35 77×27	土器 黒浜	H77	〃	横穴状
J P 5	K—7—58・59 69	長円形	N—29°—W	358×224×116 51×47		W92	〃	摺鉢状
J P 6	N—3—9 P—3—99	隅丸方形	N—28°—E	135×118×94 115×101	土器 称名寺1		〃	円筒状
J P 7	R—2—63	長円形	N—38°—W	186×135×131 112×44	土器称名寺1・2 中～後期 石器 打斧他		〃	底面は段をなす

遺構名	位　置	形　状	方　位	規　模(cm) 長径×短径×深・下端径	遺　物	重　複	挿　図	備　考
ＪＰ８	S－１－49	長円形	N－59°－W	127×86×37 87×50	土器称名寺１・２ 中～後期 石器　打斧	ＨＰ123	3巻P292	
ＪＰ９	R－2－63 64	方形	N－82°－W	76×66×68 54×30	土器加曽利Ｅ４ 称名寺１ 石器　打斧	ＪＰ117	〃	ＪＰ117→ＪＰ９ 円筒形
ＪＰ10	R－７－62	円形	N－36°－W	118×104×102 63×57	土器加曽利Ｅ４ 石器　打斧		〃	円筒状
ＪＰ11	R－７－52	円形	N－44°－W	120×120×57 108×86			〃 P294	円筒状
ＪＰ12	R－８－33 34	半円形	N－３°－W	376×176×139 214×174			〃	
ＪＰ13	R－８－74 75	不整形	N－32°－W	224×198×36 —			〃	底面凹凸、小ピット有
ＪＰ14	U－11－88 89	円形	N－12°－W	104×96×54 91×85	土器　黒浜		〃	円筒状 木炭含
ＪＰ15	S－11－41	円形？	N－28°－E				〃	
ＪＰ16①	U－11－27 28	円形	N－59°－E	127×100×46 112×84			〃	袋状　炭化物含
ＪＰ16②	T－15－21	円形	N－２°－W	129×117×50 80×62			〃	炭化物含
ＪＰ17	S－16－49	円形	N－52°－W	171×145×61 127×112	土器　黒浜		〃	
ＪＰ18	S－16－50 S－17－41	円形	N－69°－W	124×108×35 78×72		ＪＰ108	〃	浅い皿状
ＪＰ19	R－17－72 82	円形	N－68°－W	112×98×32 94×78	土器　黒浜 諸磯ａ 石器　打斧	H98	〃	浅い皿状
ＪＰ20	Q－19－76	円形	N－67°－E	144×129×64 104×97			〃	炭化物含
ＪＰ21	R－15－59・68 69	長円形	N－31°－W	264×114×39 203×56			〃 P296	
ＪＰ22	U－17－85	長円形	N－74°－W	155×116×35 144×110			〃	炭化物含
ＪＰ23	Q－16－99 P－16－８・９	長円形	N－23°－W	240×166×63 136×113　125×108			〃	炭化物含
ＪＰ24	R－101－67	円形	N－22°－E	120×106×86 84×61	土器諸磯ａ 石器　円礫		〃	炭化物、浮石含
ＪＰ25	Q－101－７	円形	N－31°－W	131×118×71 107×106	土器　黒浜 諸磯		〃	炭化物、焼土含 円筒状
ＪＰ26	Q－１－63 64	円形	N－21°－W	204×172×114 166×159	土器　黒浜 諸磯		〃	袋状
ＪＰ27	R－101－49	長円形	N－69°－W	140×110×44 135×91		ＨＰ112 W88	〃	円筒状
ＪＰ28	Q－101－25	円形	N－41°－E	153×148×41 86×78	土器　黒浜 諸磯ａ 石器　打斧		〃	皿状
ＪＰ29	Q－101－76 77	方形	N－42°－W	141×126×68 115×113	土器　黒浜 諸磯 石器　打斧	大ＨＰ２	〃	多量の礫含
ＪＰ30	R－１－52	円形	N－61°－W	158×145×89 134×133	土器諸磯ａ・ｂ 石器石皿		〃	円筒状 炭化物含
ＪＰ31	R－１－12 22	円形	N－33°－W	141×137×87 124×113	土器諸磯ａ・ｂ 石器打斧・削器		〃 P298	円筒状 炭化物含
ＪＰ32	Q－101－67	円形	N－３°－W	115×112×75 128×125	土器　黒浜		〃	袋状 炭化物多量

遺構名	位置	形状	方位	規模(cm) 長径×短径×深・下端径	遺物	重複	挿図	備考
J P33	N－1－89	円形	N－41°－W	170×159×93 154×131	土器 黒浜 諸磯		3巻P298	円筒状
J P34	N－1－9 P－1－99	円形	N－88°－W	134×121×68 101×98	土器 諸磯		〃	円筒状 炭化物含
J P35	N－1－8	不整形	N－0°	148×137×40 73×69	土器 称名寺1・2	J P109	〃	浅い皿状
J P36	N－1－1	円形	N－27°－E	208×162×90 128×123	土器 黒浜 諸磯 石器打斧・礫器		〃	円筒状 炭化物・浮石含
J P37	L－2－14/24	円形	N－53°－E	132×125×83 106×98	石器 多凹石		〃	円筒状 焼石多い
J P38	L－101－24/25	半円形	N－6°－E	266×154×102 73×27	土器諸礎a		〃	底部二方向にひろがる 炭化物、焼土含
J P39	R－102－68	長円形	N－71°－W	204×154×158 152×70	土器 黒浜 諸磯a 石器 削器他	J 25 W88	〃	炭化物若干含
J P40	L－103－7	円形	N－68°－W	135×128×70 101×84			〃	
J P41	C－23－9/10	半円形	N－29°－E	262×142×98 174×102		H P113 W89	〃 P300	
J P42	ハ－14－61/71	円形	N－57°－E	123×104×64 109×91	土器 諸磯b 石器 削器	W66	〃	円筒状 炭化物多量
J P43	D－23－36	円形	N－61°－W	95×71×61 68×16			〃	一部未掘
J P44	C－8－39	長円形	N－77°－W	264×168×72 174×91			〃	摺鉢状
J P45	D－8－89・90/99・100	円形	N－13°－E	218×196×138 114×53			〃	摺鉢状
J P46	C－8－79	長方形	N－2°－E	169×87×36 137×67	土器 黒浜	H147 J P110	〃	上端はH147床面
J P47	ニ－24－21	円形	N－65°－W	122×117×44 103×97			〃	円筒状
J P48	M－20－57	円形	N－55°－W	104×93×54 54×47	石器 多凹石		〃	
J P49	M－20－75/85	円形	N－2°－E	140×135×75 58×32			〃	摺鉢状 炭化物、焼土含
J P50	M－20－67	長方形	N－27°－E	126×58×53 116×42			〃	底面凹凸
J P51	K－21－2・3 L－21－92	円形	N－10°－E	176×158×80 92×60			〃	底面中央凹む 炭化物含
J P52	P－102－64	円形	N－6°－W	136×133×46 116×112			〃	円筒状 炭化物多量
J P53	P－103－73	円形	N－21－E	208×159×61 189×148	土器 黒浜 花積下・諸磯a		〃 P302	円筒状 炭化物含
J P54	P－102－53	円形	N－27°－E	120×114×49 100×94	土器 黒浜		〃	
J P55	P－101－67	円形	N－16°－W	133×113×104 111×83	土器 黒浜 諸磯a 石器 磨斧		〃	焼石含
J P56	P－1－62・72	円形	N－27°－W	158×158×69 82×80	土器 黒浜 諸磯他 石器・円礫		〃	円筒状 炭化物、焼土多量
J P57	N－103－29	円形	N－52°－W	119×115×55 106×104	土器 黒浜 石器 円礫		〃	円筒状 上層に炭化物
J P58	P－101－44/45	円形	N－25°－E	188×150×37 162×125	土器 黒浜 諸磯a	J P62	〃	円筒状 炭化物若干含

遺構名	位置	形状	方位	規模(cm) 長径×短径×深・下端径	遺物	重複	挿図	備考
ＪP59	P－1－3	円形	N－20°－E	96×94×37 79×70	土器　中～後期 黒浜 石器　鋸歯縁		3巻P302	円筒状 炭化物含
ＪP60	N－102－48	円形	N－20°－W	131×113×35 119×105	土器　黒浜	Ｊ39・61 H127	〃	円筒状 炭化物多量、焼土含
ＪP61	N－101－20	円形	N－89°－W	135×130×114 96×86	土器　黒浜 諸磯a 石器　多凹石	H156	〃	円筒状 多量の礫、炭化物含
ＪP62	P－101－44	円形	N－47°－W	130×115×33 112×93		ＪP58	〃	
ＪP63	N－1－32/42	長円形	N－37°－W	205×116×81 156×82			〃	
ＪP64	Ｊ－101－13	円形	N－23°－W	108×98×74 56×34		H1竪穴	〃	摺鉢状
ＪP65	H－101－23	円形	N－6°－E	86×79×98 61×48		H189 ＪP104・105	〃P304	ＪP65→104→105の順。ピット状
ＪP66	F－1－99 E－1－9	円形	N－31°－W	290×280×152 211×192　136×118			〃	焼土粒含 摺鉢状
ＪP67	A－17－49/50	円形	N－6°－E	214×188×108 210×200	土器加曽利E4 堀之内	K60	〃	円筒状 炭化物、焼土含
ＪP68	B－17－43	円形	N－0°	288×236×136 192×80　182×63			〃	摺鉢状 炭化物含
ＪP69	G－101－7 H－101－97	円形	N－25°－W	126×91×60 115×70		K39 W18	〃	炭化物、焼土含
ＪP70	G－101－14/15	不整円形	N－48°－E	130×124×70 99×58		W17・18	〃	円筒状 炭化物、焼土、浮石含
ＪP71	G－24－51	長円形	N－30°－W	146×79×84 153×66			〃	一部横穴状 炭化物、焼土含
ＪP72	G－23－80 G－24－71	円形	N－85°－W	98×88×74 78×48			〃	一部横穴状にＪP73へつながる
ＪP73	G－24－83	円形	N－5°－W	65×56×82 50×48			〃	一部横穴状にＪP72へつながる
ＪP74	A－18－26	円形	N－85°－E	150×144×93 154×151	土器　関山 黒浜	H217	〃P304	円筒状 炭化物、焼土粒含
ＪP75	B－18－66	長円形	N－30°－W	200×136×127 140×51	土器　黒浜 石器円礫・削器		〃	円筒状 炭化物、焼土含
ＪP76	B－18－99 A－18－9	長円形	N－1°－W	262×161×138 158×24	石器　削器 円礫	K81	〃P306	炭化物、焼土粒含
ＪP77	B－19－92	円形	N－63°－E	182×132×58 69×35	土器　花積下 石器打斧・削器	ＪN1 HP121	〃	摺鉢状 炭化物、焼土含
ＪP78	G－103－85	円形	N－14°－W	156×154×62 124×124	土器　諸磯b	W72	〃	円筒状 炭化物多量
ＪP79	E－1－17/27	長円形	N－28°－W	204×157×142 140×60			〃	炭化物、焼土含
ＪP80	F－1－75/85	長円形	N－6°－W	201×162×152 123×50			〃	円筒状
ＪP81	F－1－8・9	円形	N－2°－E	256×256×49 230×220			〃	浅く広い
ＪP82	B－17－20 B－18－11	方円形	N－62°－W	146×76×98 60×34		ＪP83・116	〃	ＪP83→82→116の順
ＪP83	B－17－20・30 B－18－11・21	長円形	N－40°－W	212×156×142 102×58		ＪP82 K76	〃	摺鉢状
ＪP84	B－15－17	長円形	N－26°－W	127×103×96 124×69		H207	〃	円筒状
ＪP85	ロ－9－73/83	長円形	N－72°－W	212×149×80 174×123		Ｊ46	〃	Ｊ46床面下 円筒状

遺構名	位置	形状	方位	規模(cm) 長径×短径×深・下端径	遺物	重複	挿図	備考
J P86	ヲ—108—85	円形	N—1°—W	140×136×110 113×112			3巻P308	わずか袋状 炭化物含
J P87	ヨ—110—33	長円形	N—25°—E	144×104×40 88×34			〃	北半は削平されている
J P88	ニ—22—21	円形	N—9°—W	106×104×77 82×71			〃	円筒状 焼土若干含
J P89	ニ—22—55/65	円形	N—36°—W	103×98×61 85×77		W91	〃	円筒状 炭化物、焼土含
J P90	タ—7—47	円形	N—13°—W	114×112×96 82×72		K121	1巻P267 3巻P308	旧5 P—74 円筒状 炭化物 焼土含
J P91	A—10—22/32	円形	N—28°—W	349×334×47 332×304	石器 棒状		3巻P308	旧5 P—82 大型浅い 炭化物、焼土含
J P92	ロ—5・6	円形	N—40°—E	570×560×68 546×534	石器 円礫・ 敲石		〃	旧5 P—83 大型 炭化物含
J P93	イ・ロ—5	長円形	N—4°—E	844×530×111 682×407		H343	〃	旧5 P—84 大型
J P94	ツ—101—61・71 ツ—102—80	長円形	N—55°—E	256×168×56 334×226	土器 堀之内1・2他		〃	旧5 P—140 円筒状 炭化物若干含
J P95	ヲ—4—60 ヲ—5—51	長円形	N—4°—E	143×56×18 100×30			〃	旧5 P—156 浅い皿状
J P96	リ—4—84/85	円形	N—70°—E	57×44×18 34×28			〃	旧5 P—179 浅い皿状
J P97	リ—5—77/78	円形	N—34°—W	409×376×44 390×331			〃	旧5 P—192 浅い
J P98	ヲ—4—64/65	円形	N—15°—W	87×84×19 76×74			〃	やや円筒状 旧5 P—218
J P99	ワ—7—6・7/16・17	不整円形	N—62°—W	271×198×71 178×144			〃 P310	旧5 P—231 舟底状 炭化物含
J P100	カ—2—11・12/21・22	木整形	—	322×305×61 —			〃	旧5 P—259 底面凹凸
J P101	カ—3—1・2/11・12 ワ—3—91・92	円形	N—69°—W	370×302×93 178×139			〃	旧5 P—266 舟底状 焼土粒含
J P102	ワ—10—30・40 ワ—11—21・31	長円形	N—11°—W	368×292×35 338×266			〃	旧5 P—271 大型
J P103	ワ—9—27・28/37・38	長方形	N—80°—E	268×82×30 240×156		F250	〃	旧5 P—273
J P104	H—101—23	不整形	N—12°—W	183×161×66 160×142		H189 J P65・105	〃	炭化物含
J P105	H—101—23	円形	N—58°—W	52×46×46 32×26		J P65・104	〃	炭化物含
J P106	P—4—9 Q—4—99	長円形	N—34°—E	98×52×22 73×36			〃	上面に礫多い
J P107	N—102—67/77	円形	—	298×114×28 228×102		J 27	〃	約½残存
J P108	S—16—40・50 S—17—31・41	隅丸長方形	N—62°—W	224×124×32 180×94		J P18	〃 P312	
J P109	N—1—8	円形	N—20°—W	38×24×64 27×20		J P35	〃	ピット状
J P110	C—8—78	長方形	N—1°—E	179×130×152 133×75		H147 J P46	〃	円筒状 深い 木炭粒子点在
J P111	M—102—7・8	円形	N—81°—W	177×149×60 160×132	P40参照	J 29・59	〃	住居内施設の可能性あり
J P112	N—102—58	円形	N—63°—W	137×106×35 120×91		J 39・61 H127	〃	炭化物、焼土粒含

遺構名	位置	形状	方位	規模(cm) 長径×短径×深・下端径	遺物	重複	挿図	備考
J P113	B－15－32	円形	N－72°－W	211×189×51 177×149			3巻P312	旧J S－1 上面に焼石含
J P114	イ－1－87	円形	N－23°－E	126×103×31 100×68			〃	旧J S－6 礫多い
J P115	ホ－23－48/49	円形	—	340×135×59 240×72		J 60	〃	
J P116	B－17－20	長円形	N－45°－E	175×138×106 76×66		J P82・83	〃	
J P117	R－2－63/64	長円形	N－68°－W	131×74×52 105×74		J P 9	〃	底面段差あり
J P118	ホ－23－38/39	円形	N－87°－W	176×170×52 178×154		J 33・60 W11	〃	円筒状 J 33参照
J P119	H－103－67	長円形	N－55°－W	217×135×35 202×123	石器 多凹石		〃	
J P120	S－3－31	長円形	N－59°－W	105×57×46 44×21			〃	
J P122	F－5－30 F－6－21	円形	N－3°－E	86×73×84 61×47		J 3	〃 P 6	
J P123	F－5－8・9	円形	N－53°－E	179×135×117 164×121		J 3 F279	〃 P 6	袋状断面
J P124	F－5－18・28	円形	N－90°－E	100×97×106 117×99		J 3	〃	〃
J P125	S－4－25/26	方形	N－9°－W	86×84×90 43×26			〃 P312	浅い摺鉢状
J P126	G－4－35/45	長円形	N－45°－E	212×140×46 135×35			〃	
J P127	G－4－25/35	円形	N－2°－E	120×95×22 70×60		H P116	〃	
J P128	ハ－111－6	円形	N－5°－E	140×136×36 112×109			〃	
J P129	ハ－6－15	不整形	N－40°－E	98×91×20 73×69		J 43	〃 P314	一部袋状 J 43床面下
J P130	ハ－6－15・25/16	円形	N－48°－E	266×232×28 238×206		J 43	〃	J 43床面下
J P131	ハ－6－16/26	円形	N－9°－E	151×138×12 116×104		J 43	〃	J 43床面下
J P133	ワ－105－45	円形	N－6°－E	—×79×— —×53			〃	
J P134	ワ－105－45	円形	N－36°－E	72×60×— 46×34			〃	
J P135	ワ－105－41	長円形	N－22°－E	76×52×— 51×24			〃	
J P136	ワ－105－81	長円形か	N－19°－E	—×69×— —×34			〃	
J P137	カ－106－49	長円形	N－12°－E	103×78×— 70×44			〃	
J P138	イ－5－68	長円形	N－84°－E	187×—×91 159×—		J 52	〃	
J P139	イ－5－85	円形か	—	—×129×71 —×63	土器 関山 石器 削器	J 52	〃	
J P140	R－101－80	方形	N－73°－W	96×86×32 84×74	石器 削器	J 20	〃	

表－175　ＪＳ配石遺構・ＪＮ遺構一覧表

遺構名	位　置	形　状	方　位	規　模	遺　物	重　複	挿　図	備　考
ＪＳ１	Ｔ－５			２×２Ｍの範囲			３巻Ｐ341	約30個の礫点在
ＪＳ２	Ｒ－３			３×３Ｍの範囲	打斧・磨斧 削器・楔形 敲石・石皿他		〃	若干の大礫と多数の小礫点在　石器多い
ＪＳ３	Ｑ－101・102			６×４Ｍの範囲	土器　井草式	ＨＰ２	〃	礫はばらつき、散布する
ＪＳ４	チ－７			1.5×1.5Ｍの範囲	打斧3点		〃	約25個の礫集中
ＪＳ５	ハ－７			２×１Ｍの範囲			〃	約20個の礫集中
ＪＳ６	Ｈ－101			２×1.5Ｍの範囲		Ｗ19・20	〃	約50個の礫集中
ＪＳ７	イ－８			1.5×0.5Ｍの範囲			〃	列状に礫集中
ＪＮ１	Ｂ－18・19					ＪＰ77	全体図	
ＪＮ２	ロ・ハ－２・３						〃	旧ＪＳ５ 石が散布．包含層か

表－176　Ｆ土坑一覧表（部分調査の為、規模等は遺存数値を示す）

遺構名	位　置	形　状	方　位	規　模 長径×短径×深・下端径	遺　物	重　複	挿　図	備　考
Ｆ１	ト－25－29	方形	Ｎ－27.5°－Ｅ	100×100×55 95×95			付図－４	約¾残存
Ｆ２	ホ－26－１	長方形？	－	100×83×40 86×78			〃	
Ｆ３	ホ－26－１	－	－	82×36×40 70×30			〃	
Ｆ４	ホ－26－５	長方形？	Ｎ－77°－Ｗ	74×42×30～80 54×36			〃	
Ｆ５	ホ－26－５	－	－	74×58×25 54×46			〃	
Ｆ６	ホ－26－27	－	－	85×40×60 80×34			〃	
Ｆ７	ホ－26－27	－	－	60×22×35 50×16		Ｆ9	〃	
Ｆ８	ホ－26－27	－	－	65×40×－ 60×28		Ｆ６・９・10	〃	
Ｆ９	ホ－26－27	長方形	Ｎ－８°－Ｅ	160×65×70 155×55		Ｆ７・８・10	〃	
Ｆ10	ホ－26－27	－	－	105×－×55 －		Ｆ８・９	〃	
Ｆ11	ホ－26－23	方形？	Ｎ－27°－Ｅ	126×92×50 102×84			〃	
Ｆ12	ホ－26－23	－	－	55×40×40 50×30			〃	
Ｆ13	ホ－26－66/67	長方形	Ｎ－24°－Ｅ	130×92×60 112×72	寛永通宝３枚		〃	土壙墓か
Ｆ14	ホ－26－66・76/77	長方形	Ｎ－88°－Ｗ	126×88×40 100×64		Ｆ13	〃	ほぼ完掘
Ｆ15	ホ－26－65・66/75・76	長方形	Ｎ－67°－Ｗ	98×72×40 80×66			〃	約¾残存
Ｆ16	ホ－26－65	方形	Ｎ－28°－Ｅ	120×110×20 100×98			〃	ほぼ完掘

遺構名	位置	形状	方位	規模 長径×短径×深・下端径	遺物	重複	挿図	備考
F17	ホ—26—65 66	長方形	N—11°—E	110×70×40 98×56		F16	付図—4	ほぼ完掘
F18	ホ—26—89	—	—	90×42×25 76×32		F19	〃	
F19	ホ—26—89	長方形	N—78°—W	162×92×35 150×78		F18	〃	
F20	ホ—26—85	長方形	N—24°—E	158×78×40 150×70			〃	
F21	ヘ—26—21	方形？	N—0°	136×80×40 100×70		F22	〃	
F22	ヘ—26—21	—	—	100×36×45 78×34			〃	
F23	ヘ—26—7	方形？	—	138×136×75 124×126			〃	
F24	ヘ—26—7	—	—	150×35×55 125×28			〃	
F25	ホ—26—99	長方形？	—	150×32×40 140×24			〃	
F26	ホ—26—99	—	—	58×14×13 48×10			〃	
F27	ヘ—26—30	—	—	98×58×35 80×46		W76	〃	
F28	ヘ—26—87	—	—	62×57×45 57×50			〃	
F29	ヘ—26—87	—	—	68×60×45 56×50			〃	
F30	ト—26—9	長方形	N—80°—W	130×74×30 106×50		F31	〃	
F31	ト—26—9	—	—	60×40×70 28×20		F30	〃	
F32	ト—26—9	長方形？	N—80°—E	104×49×40 96×45			〃	
F33	ヘ—27—81	長方形	N—87°—E	182×90×55 94×52		F36・37	〃	
F34	ヘ—27—81	長方形？	N—90°—E	118×44×20 108×32		F37	〃	底面に焼土
F35	ヘ—27—81	—	—	50×40×20 40×32			〃	
F36	ヘ—27—81	—	—	100×55×40 88×46		F33・37	〃	
F37	ヘ—27—81	長方形	N—82°—E	164×70×45 —		F33・34・36	〃	
F38	ト—27—21	—	—	66×60×70 58×54				
F39	ト—27—61	—	—	104×68×50 —		F73		
F40	ト—27—43	—	—	142×78×95 126×66				
F41	ト—27—43	—	—	100×35×13 40×20				
F42	ホ—27—69	—	—	142×108×50 128×96				
F43	ヘ—27—9	—	—	112×90×10 106×80		W82	付図—4	
F44	ヘ—27—49	—	—	90×58×15 82×52			〃	

遺構名	位置	形状	方位	規模 長径×短径×深・下端径	遺物	重複	挿図	備考
F45	へ—28—61	—	—	108×30×38 —			付図—4	
F46	へ—28—65	方形？	—	102×75×55 75×75			〃	
F47	へ—29—1	—	—	112×48×40 102×52			〃	
F48	へ—29—23	—	—	50×48×80 42×42			〃	井戸跡の可能性あり やや円形ぎみか
F49	へ—28—83	長方形	N—20°—E	126×62×43 —		F50	〃	
F50	へ—28—83	—	—	100×98×50		F49	〃	
F51	へ—27—89	—	—	100×64×20 92×52			〃	
F52	へ—27—89	—	—	80×35×30 60×28			〃	
F53	ト—27—7	長方形	N—85°—W	98×78×35 80×62			〃	
F54	へ—27—41	長方形	N—78°—W	104×84×50 90×80		F55・56 W76	〃	
F55	へ—27—41	—	—	60×48×40		F54・56 W76	〃	
F56	へ—27—41	—	—	130×52×40 104×28		F54・55 W76	〃	
F57	へ—28—7	—	—	50×45×30 38×38		F58	〃	
F58	へ—28—7	—	—	74×48×70 56×38		F57	〃	
F59	へ—28—7	—	—	60×40×25 50×30			〃	
F60	ト—28—5	長方形	N—13°—E	124×98×25 124×80			〃	
F61	ト—28—$\frac{2}{3}$	長方形	N—14°—E	140×130×55 122×110			〃	
F62	ト—28—$\frac{1}{2}$	方形	N—29°—E	126×108×47 108×100			〃	
F63	ト—28—$\frac{22}{32}$	—	—	110×100×30 95×82			〃	
F64	ト—28—23	方形	N—81°—W	108×90×52 84×76			〃	
F65	ト—28—56	—	—	120×80×65 82×46			〃	井戸跡の可能性あり
F66	ト—28—66	長方形？	—	70×62×75 66×58		W79	〃	
F67	チ—28—47	長方形	N—17°—E	194×70×37 180×65			〃	埋土に焼土塊混
F68	チ—28—29	長方形	N—20°—E	88×72×22 76×50			〃	
F69	チ—28—29	長方形	N—17°—E	94×86×40 74×68			〃	
F70	チ—27—45	—	—	48×40×40 28×25			〃	
F71	チ—27—89	長方形	N—87°—W	82×68×60 72×45			〃	
F72	リ—27—7	—	—	86×48×50 64×40			〃	

遺構名	位置	形状	方位	規模 長径×短径×深・下端径	遺物	重複	挿図	備考
F73	ト－27－61	—	—	100×44×53 —		F39	付図－4	
F74	ト－28－41	—	—	58×44×— 36×24		F274	〃	
F75	B－101－46・47 56・57	長方形	N－27°－E	184×60×24 —			〃	石組遺構 列状をなす
F76	C－20－22 23	長方形	N－25°－E	98×68×25 92×55	人骨片		〃	土壙墓
F77	C－20－52 62	長方形	N－25°－E	108×80×— 84×72	人骨片 永楽銭3枚		〃	土壙墓
F79	D－18－63	長方形	N－11°－E	120×60×37 114×50			〃	
F80	B－19－35 45	長方形	N－18°－E	120×60×37 114×50	骨片出土		〃	土壙墓か
F81	ハ－8－12	長方形	N－20°－E	120×72×130 —	骨片出土	H9竪穴	〃	土壙墓か
F82	ハ－8－21 22	方形	N－22°－E	68×66×— —			〃	
F83	ハ－8－21	方形	N－20－W	56×56×— —	人骨出土	H9竪穴	〃	屈葬、石をだく
F84	ニ－22－7	円形	N－85°－E	120×100×— 76×40			〃	
F85	ニ－22－6 16	長方形	N－62°－W	154×90×— 116×58			〃	
F86	ヌ－9－90	円形	N－86.5°－E	105×102×19 92×90			全体図	旧5P－1
F87	ワ－12・13	方形	N－30°－E	323×173×69 307×158　74×79			〃	南・北に張り出し 2基以上の重複か. 旧5P－4
F88	タ－7－7	長円形	N－5°－E	72×66×23 64×54		K120	〃	旧5P－11
F89	ヨ－9－92	長方形	N－3°－W	88×56×— —		W52－1	〃	旧5P－13
F90	タ－7－47・56 57	長方形	N－40°－E	130×85×— —		K121	〃	旧5P－14
F91	タ－7－57 67	円形	N－52°－E	120×118×— —			〃	旧5P－15
F92	タ－7－69 70	長方形	N－52°－E	148×80×— —			全体図	旧5P－16
F93	タ－7－96 レ－7－6	長円形	N－51°－W	117×95×37 82×54			〃	旧5P－17 底面凹凸　根跡？
F94	レ－7－7	円形	N－30°－W	101×99×26 66×59		F95	〃	旧5P－18 根跡？
F95	タ－7－97 レ－7－7	円形	N－11°－W	102×76×28 51×44		F94	〃	旧5P－19 〃
F96	レ－7－7	円形	N－75°－E	70×65×26 37×35			〃	旧5P－20 〃
F97	レ－7－8	長円形	N－32°－W	94×61×15 76×38			〃	旧5P－21 〃
F98	レ－7－8・9	円形	N－32°－W	90×87×26 52×37			〃	旧5P－22 〃
F99	レ－7－18	不整円形	—	95×88×— —			〃	旧5P－23
F100	レ－7－30	方形	N－33°－E	96×70×— 84×57			〃	旧5P－24

遺構名	位置	形状	方位	規模 長径×短径×深・下端径	遺物	重複	挿図	備考
F101	タ－8－52 62	長方形	N－43°－E	145×100×21 128×82			全体図	旧5P－25
F102	タ－8－72 73	長方形	N－43°－E	160×98×28 135×75			〃	旧5P－26
F103	タ－8－92	円形	N－20°－E	107×93×29 84×58		F104	〃	旧5P－27
F104	タ－8－92 93	円形	N－20°－E	133×131×27 104×104		F103	〃	旧5P－28
F105	タ－8－64・65 74・75	長方形	N－38°－E	179×124×24 156×102			〃	旧5P－29
F106	タ－8－34	円形	—	187×187×29 160×—			〃	旧5P－30 根跡？
F107	タ－8－58 68	円形	N－25°－W	114×107×21 —			〃	旧5P－31 〃
F108	タ－8－60	長円形	N－54°－W	156×75×24 123×—			〃	旧5P－32
F109	タ－8－40 50	円形	—	101×101×43 93×93			〃	旧5P－33
F110	タ－8－78 88	円形	N－53°－W	115×106×28 85×70			〃	旧5P－34
F111	タ－8－76・77 86・87	長方形	N－50°－E	152×80×24 125×79			〃	旧5P－35
F112	タ－8－86・87 96・97	長方形	N－54°－E	182×95×26 159×73			〃	旧5P－36
F113	レ－8－7・8	長方形	N－45°－E	164×90×46 80×72			〃	旧5P－37
F114	レ－8－6・7 16	円形	—	111×111×29 88×87			〃	旧5P－38
F115	タ－8－95・96 レ－8－5・6	長方形	N－29°－E	167×54×— —		H317	〃	旧5P－39
F116	レ－8－17・18 27・28	長方形	N－35°－E	191×76×42 160×63			〃	旧5P－40
F117	レ－8－15・16 25・26	長円形	N－25°－W	194×151×78 129×100			〃	旧5P－41 根脈？
F118	レ－8－14・15 25	円形	N－25°－W	147×137×31 125×118			〃	旧5P－42
F119	タ－8－90	円形	N－84°－W	112×93×18 78×56			〃	旧5P－43 中央に石
F120	タ－8－27	円形	N－32°－E	66×65×— —			〃	旧5P－44
F121	タ－8－6	長円形	N－61°－E	116×84×8 91×49			〃	旧5P－45 根跡？
F122	ヨ－8－97・98 タ－8－7・8	円形	—	100×100×28 —			〃	旧5P－46
F123	ヨ－8－98 99	長円形	N－26°－W	158×113×36 140×79			〃	旧5P－47
F124	タ－8－9 10	長円形	N－45°－E	130×101×30 —			〃	旧5P－48
F125	ヨ－9－91 タ－9－1	円形	N－60°－W	158×129×34 —			〃	旧5P－49
F126	タ－9－27 28	長方形	N－68°－E	100×78×44 —		K125	〃	旧5P－50
F127	タ－9－38・39 48・49	長円形	—	100×97×17 —			〃	旧5P－51
F128	タ－9－50	円形	—	94×90×35 —			〃	旧5P－52

遺構名	位　置	形　状	方　位	規　模 長径×短径×深・下端径	遺　物	重　複	挿　図	備　考
F129	ヨ－9－52	円形	—	54×54×20 —			全体図	旧5 P－53
F130	タ－9－83 84	長円形	N－22°－W	176×98×29 —			〃	旧5 P－55
F131	レ－9－13 23	円形	—	116×106×33 —			〃	旧5 P－56
F132	レ－9－26 27	円形	—	94×90×33 —			〃	旧5 P－57
F133	レ－9－37	長円形	N－18°－E	85×56×18 —			〃	旧5 P－58
F134	タ－10－57 58	不整円形	N－78°－W	110×80×79 24×22			〃	旧5 P－65
F135	タ－10－50	長円形	N－34°－W	116×60×77 45×18				旧5 P－61 F135・137・140で柱穴列か
F136	タ－10－75・76 85・86	円形	N－30°－E	53×41×82 23×18				旧5 P－62 下部横穴状
F137	タ－10－60	隅丸方形	N－6°－W	96×70×66 36×30				旧5 P－63
F138	タ－10－86・87 96・97	円形	—	82×78×26 —		K122		旧5 P－64
F140	タ－10－39	長円形	—	101×81×71 93×62		H296		旧5 P－69
F141	タ－10－48・49 58・59	不整長方形	N－83°－E	156×117×15 151×99			〃	旧5 P－70 根跡？
F142	ヨ－9－96 97	円形	N－0°	133×113×20 116×91			〃	旧5 P－71
F143	ヨ－9－95 96	円形	N－32°－E	92×89×20 66×63		W52－1	〃	旧5 P－72 根跡？
F144	ヨ－9－93 タ－9－3	円形	N－48°－W	133×123×52 103×91			〃	旧5 P－73
F146	A－10－52・53 62・63	不整形	N－59°－W	149×49×12 141×37		K131	〃	旧5 P－80 根跡？
F147	B－10－73 83	方形	N－79°－E	97×83×26 89×67			〃	旧5 P－81
F148	イ－10－65・66 76	長円形	N－81°－W	213×173×50 115×97　92×55			〃	旧5 P－90
F149	イ－10－95 ロ－10－5	長方形	N－63°－W	154×65×47 135×45		H326	〃	旧5 P－91
F150	イ－10－50・60 イ－11－41・51	長方形	N－4°－W	172×68×33 130×51　55×19			〃	旧5 P－92
F151	タ－6－39・40 49・50	長方形	N－30°－E	187×90×21 —		K155	〃	旧5 P－93
F152	タ－6－38 48	長方形	N－40°－E	146×82×29 134×70		K155	〃	旧5 P－94
F153	ヨ－6－99・100 タ－6－9・10	円形	—	85×85×20 —			〃	旧5 P－95
F154	タ－6－2・12	円形	—	160×90×12 —			〃	旧5 P－96
F155	タ－5－24 25	円形	—	106×93×10 88×74			〃	旧5 P－97
F156	タ－5－42 43	円形	—	107×105×22 —			〃	旧5 P－98
F157	タ－5－33	円形	—	103×100×27 106×104			〃	旧5 P－99

遺構名	位置	形状	方位	規模 長径×短径×深・下端径	遺物	重複	挿図	備考
F158	タ－5－32・33	円形	—	103×98×11 —			全体図	旧5 P－100
F159	タ－5－24・34	円形	—	93×92×22 —			〃	旧5 P－101
F160	タ－5－24・25・34・35	円形	—	95×85×12 —			〃	旧5 P－102
F161	タ－5－15・16	円形	—	99×99×10 —			〃	旧5 P－103 根跡？
F162	タ－5－14・15	円形	N－90°－E	100×87×— —		F163	〃	旧5 P－104
F163	タ－5－4・14・5・15	円形	—	149×107×23 117×111		F162	〃	旧5 P－105
F164	タ－5－13・14	円形	—	110×106×17 —			〃	旧5 P－106
F165	ヨ－5－88・89・98・99	不整形	—	152×95×52 —			〃	旧5 P－107
F166	ヨ－5－67・68・69	不整形	—	170×140×55 —			〃	旧5 P－108
F167	タ－5－1・2・11・12	円形	—	130×110×55 —			〃	旧5 P－109
F168	ヨ－4－100 ヨ－5－91	長方形	N－15°－E	152×97×23 136×86			〃	旧5 P－111
F169	ヨ－4－99・100 タ－4－9・10	長方形	N－72°－W	180×85×7 —			〃	旧5 P－112
F170	ヨ－4－88・89・98・99	長方形	N－75°－W	110×60×6 —			〃	旧5 P－113
F171	ヨ－4－70	円形	—	80×75×5 —			〃	旧5 P－114
F172	タ－4－3 ヨ－4－93	長方形	N－81°－W	155×65×12 —		K135	〃	旧5 P－115
F173	レ－4－40・50 レ－5－31・41	長方形	N－87°－W	125×67×3 —			〃	旧5 P－116
F174	タ－3－90	長円形	N－39°－W	110×80×20 —			〃	旧5 P－117
F175	タ－3－80	長円形	N－64°－W	103×75×20 —			〃	旧5 P－118
F176	レ－4－19・29	円形	—	90×85×5 —			〃	旧5 P－119
F177	ヨ－3－73	円形	—	100×100×30 —			〃	旧5 P－120
F178	レ－3－23・33	長方形	N－74°－W	130×85×8 —			〃	旧5 P－121
F180	ソ－2－19・29	円形	N－44°－E	110×80×5 —			〃	旧5 P－125
F181	ソ－2－40	円形	N－27°－E	90×75×8 —			〃	旧5 P－127
F182	ソ－3－51・52・61・62	長方形	N－10°－E	250×98×49 238×71	灰釉埦 須恵器坏・埦		1巻P349	旧5 P－128 平安期
F183	レ－5－74・75・84	長方形	N－16°－E	100×60×12 —			全体図	旧5 P－130
F184	タ－3－10・20	長方形	N－53°－W	115×105×10 —			〃	旧5 P－132
F185	タ－3－18・19	長円形	N－25°－W	180×100×55 —			〃	旧5 P－133
F186	タ－3－17・18	長円形	N－42°－W	130×95×10 —			〃	旧5 P－134

遺構名	位置	形状	方位	規模 長径×短径×深・下端径	遺物	重複	挿図	備考
F187	ヨ－3－97	円形	—	87×85×21 65×62			全体図	旧5 P－135
F188	タ－3－4/5	長円形	N－78°－W	125×90×14 —			〃	旧5 P－136
F189	ヨ－3－86/87	円形	—	112×102×10 —			〃	旧5 P－137
F190	レ－3－59	方形	N－16°－E	93×87×12 —		H362	〃	旧5 P－138
F191	ヨ－3－96	長円形	N－14°－E	130×80×25 —			〃	旧5 P－139
F192	レ－1－83	円形	—	140×130×16 —			〃	旧5 P－144
F193	ワ－102－18・19/28・29	長円形	N－56°－E	112×75×12 —			〃	旧5 P－145
F194	ワ－102－28/29	円形	—	110×109×4 —			〃	旧5 P－146
F195	ワ－5－51/52	円形	—	104×100×11 92×91			〃	旧5 P－154
F196	ワ－4－30 ワ－5－21	円形	—	100×100×14 —		H401	〃	旧5 P－155
F197	ヲ－4－48/58	円形	—	125×125×10 —			〃	旧5 P－157
F198	ヲ－4－57・58/67・68	円形	—	113×110×16 —			〃	旧5 P－158
F199	ヲ－4－27/37	円形	—	100×100×10 —			〃	旧5 P－159
F200	ヲ－4－26/27	円形	N－25°－E	144×110×20 122×105		F201	〃	旧5 P－160
F201	ヲ－4－17/27	円形	—	98×96×11 75×71		F200	〃	旧5 P－161
F203	リ－5－65	円形	—	80×75×5 —			〃	旧5 P－163
F204	リ－5－66	円形	—	100×100×11 —			〃	旧5 P－164
F205	ル－5－33/34	円形	—	123×115×28 78×75			〃	旧5 P－165
F206	ル－5－23	円形	—	100×95×8 —			〃	旧5 P－166
F207	ル－5－32	円形	—	100×100×7 —			〃	旧5 P－167
F208	ル－5－12/22	円形	—	128×120×27 82×68			〃	旧5 P－168
F209	ル－5－21/31	円形	—	100×95×6 —			〃	旧5 P－169
F210	ル－4－39・40/49・50	円形	—	95×91×6 —			〃	旧5 P－170
F211	ル－4－30/40	円形	—	75×70×5 —			〃	旧5 P－171
F212	ル－4－48/49	円形	—	118×115×10 —			〃	旧5 P－172
F213	ル－4－55/65	円形	—	112×111×7 —			〃	旧5 P－174
F214	ル－4－66	円形	—	96×92×3 —			〃	旧5 P－175
F215	ル－4－43・44/53・54	方形	N－22°－E	83×67×14 83×67			〃	旧5 P－176

遺構名	位置	形状	方位	規模 長径×短径×深・下端径	遺物	重複	挿図	備考
F216	リ－5－58/68	円形	—	105×98×5 —			全体図	旧5P－177
F217	リ－5－97 ヌ－5－7	長円形	N－43°－W	165×85×20 —			〃	旧5P－178
F218	ヌ－4－12/13	円形	—	110×100×15 —			〃	旧5P－180
F219	リ－4－77/78	円形	—	100×100×13 —			〃	旧5P－181
F220	ヌ－5－87/97	長円形	—	140×95×18 —			〃	旧5P－182
F221	ヌ－5－85/95	長円形	—	200×100×17 —			〃	旧5P－183
F222	ヌ－5－95 ル－5－5	円形	—	109×102×25 98×95			〃	旧5P－184
F223	ヌ－5－54/55	円形	—	120×110×22 —			〃	旧5P－185
F224	ヌ－5－53・54/63・64	円形	—	135×125×29 110×104		F225	〃	旧5P－186
F225	ヌ－5－53・54/63・64	円形	—	90×87×14 73×72		F224	〃	旧5P－187
F226	ヌ－5－63・64/73・74	長円形	N－2°－E	154×109×22 137×81			〃	旧5P－186
F227	ヌ－5－71/72	円形	—	130×120×23 —			〃	旧5P－189
F228	ヌ－4－94/95	円形	—	125×120×20 —			〃	旧5P－190
F229	リ－101－62/72	不整形	—	114×95×22 —			〃	旧5P－194
F230	リ－102－79/89	長方形	N－85°－E	210×108×25 157×73		W59	〃	旧5P－195
F231	リ－101－82/92	長円形	N－30°－E	105×92×21 —			〃	旧5P－198 根跡？
F232	ヌ－102－38・39/48・49	方形	N－7°－E	210×177×15 —			〃	旧5P－202
F233	ヌ－101－68	円形	N－36°－E	75×67×29 45×34			〃	旧5P－205 根跡？
F234	ヌ－101－72/73	長円形	N－28°－E	113×98×38 —			〃	旧5P－206 根跡？
F235	ル－101－22・23/32・33	長方形	N－84°－E	270×145×30 190×112			〃	旧5P－208
F236	ル－101－63	長円形	N－37°－E	113×82×5 102×73			〃	旧5P－209
F237	ル－101－54・55/64・65	方形	N－15°－W	132×121×15 125×109		F238	〃	旧5P－210
F238	ル－101－54・55/65	円形？	—	115×—×19 —		F237	〃	旧5P－211
F239	ル－101－65・66/75・76	長方形	N－68°－E	179×116×26 160×95			〃	旧5P－212
F240	ル－101－85	円形	—	116×110×10 —			〃	旧5P－213
F241	ヲ－5－55	長方形	N－67°－W	146×93×59 146×93			〃	旧5P－217
F242	ナ－107－14	長方形	N－85°－E	102×68×35 89×53		H425	〃	旧5P－234
F243	ヲ－7－93/94	円形	N－78°－E	163×129×25 146×119		W46	〃	旧5P－235 根跡？

遺構名	位置	形状	方位	規模 長径×短径×深・下端径	遺物	重複	挿図	備考
F244	ヲ—102—88・89 98・99	長円形	N—27°—W	150×60×15 80×30		H472	全体図	旧5P—250 根跡？
F245	ネ—108—71・72 81・82	長方形	N—48°—E	245×162×98 191×102			〃	旧5P—255
F246	ヌ—3—6・15 16	円形	N—41°—E	114×83×39 83×62		F247	〃	旧5P—261
F247	ヌ—3—15 16	方形	N—33°—E	120×102×42 99×82		F246	〃	旧5P—262
F248	リ—1—81・91 99・100	方形	N—54°—W	143×125×30 118×102			〃	旧5P—265
F249	ソ—2—98 99	円形	N—86°—E	149×127×26 —		W58	〃	旧5P—267
F250	ワ—9—26 27	長方形	N—26°—E	180×75×9 —		JP103	〃	旧5P—274
F251	イ—12—3・4 13・14	長方形	N—70°—W	196×87×24 182×74			〃	旧5P—285
F252	ロ—12—26・27 36・37	円形	N—41°—E	184×176×40 157×133　79×70			〃	旧5P—287
F253	ロ—11—1・2 11・12	長方形	N—20°—E	211×67×48 199×57			〃	旧5P—289
F254	イ—12—12・13 22・23	長方形	N—17°—E	246×73×47 229×57		F255・257 W67	〃	旧5P—290 室？
F255	イ—12—3 13	長方形	N—75°—W	240×82×61 223×61		F254・257	〃	旧5P—291 〃
F256	A—11—83 84	長方形	N—15°—E	342×95×61 332×83			〃	旧5P—292 〃
F257	イ—12—2・3 12・13	長方形	N—72°—W	166×76×20 159×66		F254・255 W67	〃	旧5P—293
F258	ロ—12—37・38 47・48	円形	—	123×108×43 88×81			〃	旧5P—295
F259	ロ—12—47	円形	N—64°—E	111×107×33 95×94　71×58			〃	旧5P—296
F260	タ—10—55・56 65・66	不整方形	N—16°—W	104×64×44 95×93		H5竪穴	〃	旧5P—68
F261	ロ—9—63	方形	N—17°—E	141×102×85 102×100	鉄製品	H245 J46	〃	
F262	ト—28—85	—	—	120×60×— —	石臼		〃	
F263	B—21—4 C—21—94	円形	N—31°—E	125×100×— 105×90	人骨		〃	土壙墓
F264	ヘ—24—24・25 35	円形	N—25°—W	99×88×36 105×96			〃	旧HP—11
F265	C—17—40・50 C—18—31・41	円形	N—73°—E	110×107×26 101×97			〃	旧HP—25
F266	B—18—46 56	円形	N—32°—W	103×76×17 85×78			〃	旧HP—26
F267	ニ—26—56・57 66・67	長方形	N—75°—W	170×155×— 155×95		A3・4 W78・84・85 I21	付図—4	
F268	ニ—26—66	長方形？	N—70°—W	160×90×— 138×80		W78・85 A3	〃	
F269	ニ—26—65・76 77	長方形	N—29°—E	155×110×36 —		W78・85 A3	〃	
F270	ニ—26—55 65	長方形	N—72°—W	150×125×70 —		W84・85 A3	〃	

遺構名	位置	形状	方位	規模 長径×短径×深・下端径	遺物	重複	挿図	備考
F271	ニ—28—61	—	—	220×187×35 186×178			付図—4	焼土ブロック、炭化物含
F272	ニ—26—63 73	長方形	N—89°—W	110×105×— —		W78・85	〃	
F273	ニ—26—67・68 77・78	長方形？	N—49°—W	170×120×30 130×90		W78・83・84・85 A 4	〃	
F274	ト—28—41	長方形？	—	112×103×48 102×92		F74・275 277	〃	旧F54
F275	ト—28—41	長方形？	—	122×98×31 106×86		F274	〃	旧F55
F276	ト—28—41	—	—	42×40×22 30×20		F277	〃	旧F56
F277	ト—27—41	—	—	62×50×45 53×40		F274・276	〃	旧F57
F279	G—5—98・99 F—5—8	不整円形	N—31°—E	161×133×57 124×100		J 3 J P123	全体図	
F280	S—4—48 58	不整形	—	130×110×70 106×104		J 11	3巻P17	
F281	C—21—86 96	円形	—	105×100×— —			全体図	旧HP—10
F282	S—17—85	長方形	N—88°—E	195×84×116 152×72		N31	〃	
F283	S—3—2・3 12・13 22	長方形	N—44°—W	356×234×45 336×56			〃	旧炭P—1 炭化物含
F284	T—16—10 T—17—1	長円形	N—86°—W	144×67×20 118×41		J 17	3巻P26	
F285	U—16—81 82	長円形	N—45°—E	94×55×31 74×37		J 17	〃	
F286	T—16—65	長方形	N—65°—W	93×59×19 74×40		J 18	3巻P29	
F287	R—1—51 52	長方形	N—72°—E	68×50×10 57×40		J 20	〃P31	
F288	R—1—61 71	長方形	N—20°—E	90×70×44 80×60		J 20	〃	
F289	ヲ—11—78 88	長方形	N—62°—W	90×52×— —		H298	全体図	
F290	レ—10—11	長方形	N—74°—W	84×62×— —		H310	〃	
F291	タ—6—83 93	長方形	N—76°—W	122×80×— —		H357	〃	
F292	ヨ—3—56	長方形	N—3°—W	120×88×29 —		H379	〃	
F293	リ—101—63	長方形	N—78°—E	120×98×25 —×79		H411	〃	
F294	ホ—26—85	—	—	62×54×50 —			付図—4	
F295	イ—6—26 36	長方形	N—23°—E	108×80×36 72×54		H231	全体図	
F296	ワ—8—2・3	長円形	N—42°—E	156×102×— 100×81		K175	〃	
F297	ヲ—1—54 64	長円形	N—8°—W	72×51×— 48×32		H470	〃	
F298	C—24—2 3	長円形	N—22°—E	250×40×50 —		W89	付図—4	

表—177　I井戸跡一覧表

遺構名	位　置	形　状	方　位	規　模(cm) 長径×短径×深・下端径	遺　物	重　複	挿　図	備　考
I 1	A－9	隅丸方形	N－87°－W	170×148×168			2巻P287	旧5 P－78　平安 西側台地
I 2	イ－13	円形	N－71°－W	80×75×300			〃	旧5 P－286　平安 西側台地
I 3	A－10	長円形	N－29°－W	190×150×445			〃	旧5 P－294 西側台地
I 4	ヘ－26	円形？	—	—			付図－4	深さ150cm以上か 中央台地
I 5	ト－27	—	—	—			〃	〃 中央台地
I 6	ホ－28	円形	N－38°－W	150×130×150			〃	中央台地
I 7	ヘ－28	—	—	—			〃	中央台地
I 8	ト－27	—	—	—			〃	深さ60cm以上 中央台地
I 9	ト－28	円形？	—	—			〃	深さ120cm以上 中央台地
I 10	ヘ－28	円形	N－62°－W	170×140×300			〃	中央台地
I 11	ト－27	円形	N－49°－W	200×150×200			〃	中央台地
I 12	B－16	円形	N－61°－W	150×130×260			全体図	中央台地
I 13	ワ－13・14	長円形	N－18°－E	185×100×250			〃	旧5 P－5 東側台地
I 14	ソ－5	長円形	N－86°－E	270×160×283			〃	旧5 P－129 東側台地
I 16	ル－4	円形	N－24°－E	160×130×4.3			〃	旧5 P 東側台地
I 17	カ－101	円形	N－64°－E	97×88×140		H390	1巻P141	旧5 P－224 東側台地
I 18	ヲ－9	円形	N－44°－W	175×160×5.7		H446	〃 P206	旧5 P－226 東側台地
I 19	ル－7	方形	N－61°－W	185×170×105			全体図	旧5 P－236 東側台地
I 20	ヲ－101	円形	N－39°－E	240×—×100			〃	旧5 P－268 東側台地
I 21	ニ－26	円形	N－64°－W	180×—×140		A 4　F267 W78・83・84・85	〃	中央台地
I 22	ヘ－26	円形	N－59°－W	240×220×150		W76	付図－4	旧I 2 中央台地
I 23	ヘ－26	円形？	—	—			〃	旧I 3 中央台地 深さ150cm以上
I 24	ニ－23	円形	N－60°－W	—			全体図	旧I 1 中央台地 深さ130cm以上

表－178　W溝跡一覧表

遺構名	位置	深さ (cm)	幅 (cm)	長さ(m)	重複	新旧関係	備考
W1	西側台地 B－2・3　C－1～5 D－5・6・12・13 E－6・7・10～12 F－8～10	14～95	60～400	271	J1 W2・3・7 25・96	・J1→W1 ・W1→W2 ・W1→W3 ・W1→W7 ・W25→W1	旧W－1 旧→新 W4に繋がるか
W2	西側台地 A－1・2　B－2・3 C－3・4　D－4・5 E－3・4　F－3	30～80	30～300	152	W1	・W1→W2	旧W－2
W3	西側台地 B－11～13　C－11・12 D－11　E－10　F・G－10 H－9・10　J～N－9 P－9	18～60	30～180	281	H－30・480 481 W－1・5	・W5→W3 ・W1→W3 ・H30→W3 ・H481→W3 ・H480→W3	旧5W－24 〃53W－3
W4	西側台地 D－20～22 E－20～24	33～48	80～270	97.5			W1に繋がるか 旧W－5
W5	西側台地 M・N－9 P～V－9	20～47	70～120	172	HP37 W3 J15A・B	・W5→W3 ・J15→HP37→ W5	旧N－9－85拡 旧53W－5
W6	西側台地 イ－11・12 ロ－13	—	70～90	24			旧W－6
W7	西側台地 B－12・13 C～E－12	30～60	40～140	63	W1	・W1→W7	旧W－7
W8	西側台地 E・F－1	33～65	140～200	10			旧W－8
W9	西側台地 K－1	39～104	30～60	7・0	H99 W13	・H99→W9 ・W9・13不明	旧W－9
W10	中央台地 ニ－23　ホ－22・23	60	70～90	26.5	J31・32	・J32→J31 →W10	旧W－10
W11	中央台地 ホ－22～24	45～57	90～170	63.5	H152 J33・60 JP118	・J33→JP118 →J60→H152 →W11	旧W－11
W12	中央台地 K－1	35～60	30～40	2.5	H99	・H99→W12	旧W－12
W13	中央台地 K－1	不明	30～50	5.0	W9	・不明	旧W－13
W14	西側台地 イ・ロ・ハ－11　ハ－12 A・B－11	18～40	40～110	73.5	H483・488・490 K193 W21・62・69	・H483・488 490・K193 →W14 ・W14→W21 ・W14→W62 ・W14→W69	旧5W－28
W15	西側台地　A・B－14 A－15　B・C－13	45～52	80～100	50	H144	・H144→W15	旧W－15
W16	西側台地 D－1・101　E－101・102 F－102・103	20～53	80～180	143	K44・80・84 88 W18・26・74	W18 ・W16→W26 W74 ・K44・80 84・88→W16	旧W－16
W17	西側台地 F－103　G－101・102・103 H－1・101	8～20	30～70	124	K34・36・37 39・85・86 89・105A・B W－18・20・22 38 JP70	・K・JP→W17 ・W22→W18→W 17 ・W17→W38 ・W17→W20	旧W－17

遺構名	位置	深さ (cm)	幅 (cm)	長さ(m)	重複	新旧関係	備考
W18	西側台地 F－2・3・103 G－1・2・101・102・103 H－1・101	18～80	50～180	172	K37・39・40・41 43・85・86・89 W16・20・33・34 38・74 H185・186・242 JP69・70	・K・H・JP→W18 ・W18→W20・33・34・38 ・W16・W74→W18	旧W－18
W19	西側台地 J－1・101 H－101	10～35	40～100	37	K38 H188 W20	・K38→W19 ・H188→W19 ・W20→W19	旧W－19
W20	西側台地 G－1・101 H－101	18～35	70～150	435	K37・39 H188 JS6 W17・18・19	・JS・H・K→W20 ・W17・18→W20 ・W20→W19 ・W20→W24	
W21	西側台地 A－11～13 B・C・D－11 イ－11・12・13	25～80	50～110	105.5	H27・483 493 W14・62・67	・H→W21・W14 ・W62→W21・W67	旧5W－25
W22	西側台地 G－102・103	5～80	22～60	25.5	W17・18	W22→W18 →W17	旧W－22 W17の下面
W23	西側台地 A・B－17 C－17～20	10～18	60～150	105	K47・59・62 73 H194・219 W30	・K・H→W23 ・W23→W30	旧W－23
W24	西側台地 H－101	—	40～50	3.0	W20	・W20→W24	旧W－24
W25	西側台地 A－1・101 イ－101 B－1.2 C－2	45	45～200	79	H187 W1	・H187→W25 ・W25→W1	旧W－25 W28に繋がるか
W26	西側台地 F－102・103	4～31	50～100	39	K44・45・46 W16	・K44・45→W26・46 ・W16→W26	旧W－26
W27	西側台地 C－102 D－102・103 E－103	35～45	50～200	57	K92 H200・212・213 216・226 W32	・K・H→W27 ・W27→W32	旧W－27
W28	西側台地 J－14～16 K－16・17	25	80～120	69			旧W－J－14
W29	西側台地 C－19・20	30～35	40～80	33.5	H221・227 W30	・H221→W29・227 ・W29→W30	旧W－30
W30	西側台地 C－19	36～55	90～120	13.0	H227 W23・29	・H227→W30 ・W23→W30 ・W29→W30	旧W29
W31	西側台地 S・R－19	22	80～120	33.5			旧W－S－19
W32	西側台地 C－102 D－102・103	22～50	70～210	31.5	H236 K101 W27	・K236・101→W32 ・W27→W32	旧5W－32
W33	西側台地 E－3 F－2・3 G－2	8～18	30～100	50	H242 K104 W18・74	・H242・K104→W33 ・W18・74→W33	旧W－33
W34	西側台地 E－3 F－3 G－2・3	8～15	40～70	61.5	W18.74	・W18・74→W34	旧W－34
W35	西側台地 イ－101 ロ－1・101 ハ－1 A－102・103 B－103	70～150	170～280	94	H254・256 W36	・H254・256→W35 ・W36→W35	旧W－35

遺構名	位置	深さ (cm)	幅 (cm)	長さ(m)	重複	新旧関係	備考
W36	西側台地 イ－1・101 ロ－101～103	27	80～180	68	W35	・W36→W37	旧W－36
W37	西側台地 A－5 イ－5	23～27	40～80	16	H350 K181	・H350→W37 ・K181→W37	旧5W－10
W38	西側台地 F－103 G－103	—	70～110	10	W17・18・20 72	・W17 18 20 72 →W38	旧W－38
W39－1	東側台地 ヨ－105・106 タ－106	40～62	270	43	W98	・W98→W39－1	旧5W－19 W48に繋がるか
W39－2	東側台地 タ－107 ツ－110 レ－107・108 ソ－108～110	5～20	40～70	88			旧5W－19
W40－1	東側台地 レ－105	30	30～60	17			旧5W－18 W52－2に繋がるか
W40－2	東側台地 レ－106・107 ソ－107～109	6～27	30～70	64			旧5W－18
W41	東側台地 カ－105 ヨ－105・106	30	70～120	28			旧5W－41
W42	西側台地 A・イ－8	60	140～220	21	H241	・H241→W42	旧W－42
W43	中央台地 ニ－22	55	70～100	14	W91	・不明	旧W－43
W44	西側台地 ハ－105・106 ニ－106	30	230～250	13.5			旧W－44
W45	東側台地 リ－10 ヌ－7～12 ル－7・11～14	25～68	50～490	185	W46・50・54	・W45→W46 ・W45→W50 ・W45→W54	旧5W－1
W46	東側台地 チ・リ－6 ヌ－6・7 ル・ヲ・ワ－7	70～100	80～190	107	F243 W45	・W46→F243 ・W45→W46	旧5W－16
W47	東側台地 ヌ－4～6 ル－3・4	45～56	70～110	62			旧5W－13
W48	東側台地 ル－4～6 ヲ－1～4 ワ－1・101・102	22～64	80～230	134	H391 K161・163	H391→W48 Kとの関係不明	旧5W－1－1
W49	東側台地 ワ－7～11 カ－3～7 ヨ－1～3・101 タ－101・102	12～40	40～110	227.5	H374・375・383 418・443・454 464・474・478 HP79W溝状2 W50・51・61・ 97	・W97・50・51→ W49 ・W49→W61 ・HP79→W49 ・W溝状→W49 ・H→W49	旧5W－2
W50	東側台地 リ・ヌ・ル・ヲ－10 ヲ－11 ワ－7～11 カ－3～7 ヨ－1～3・101 タ－101	15—80	50～150	296.5	H374・375・383 418・443・454 464・474・478 HP79W溝状2 W45・49・51・ 61	・W45・51→W50 ・W50→W49・61 ・HP79→W50 ・W溝状→W50 ・H→W50	旧5W－3
W51	東側台地 カ－3～9 ヨ－1～3・8～11・101 タ－11～13・101・102	70～110	40～300	270.5	H294・305・374 375・383・474 478 W49・50・52・61	・W52→W51 ・W51→W49・50 61	旧5W－4
W52－1	東側台地 ヨ－7～13	13～49	50～190	141	H304・306・307 K154 W51 F143・89	・H→W52－1 ・W52-1→W51 ・K154→W52-1 ・Fとの関係不明	旧5W－5
W52－2	東側台地 タ－101 レ－101・102	31	60～80	24			旧5W－5

遺構名	位置	深さ (cm)	幅 (cm)	長さ(m)	重複	新旧関係	備考
W53	東側台地 ヲ－7～10	17～43	30～70	69	H439 K164・168・195 W54 W溝状1	・H・K→W53 ・W54→W53 ・W溝状1→W53	旧5W－6
W54	東側台地 リ・ヌ・ル・ヲ・ワ－9	16～27	50～140	80	H442・444 K171・172 W45・53	・H・K→W54 ・W45→W54 ・W54→W53	旧5W－7
W55	東側台地　タ－11 レ－10・11	14～16	80～140	22			
W56	東側台地 ト－4・5 チ－3・4	35～50	80～140	55	H455・457 J58	・H455・457 →W56 ・J58→W56	旧5W－14
W57	東側台地 ヲ－2	8～12	50～60	5.0	M1	・M1→W57	旧5W－15
W58	東側台地 ヨ・タ・レ・ソ・ツ－2	70	80～160	75	H380・418 K150 F249	・H380・418 →W58 ・K150→W58 ・F249→W58	旧5W－17
W59	東側台地 ト－2・3　チ－1・2・3 リ－1・101・102	26～45	70～170	97	H457・460 463・473 F230	・H→W59 ・W59→F230	旧5W－14 5W－20
W60	東側台地 ヌ・ル－3	6～24	70～130	30.2	HP104A・B	・HP104A・B →W60	旧5W－21
W61	東側台地 カ－4・5・6	20～26	60～120	28.5	H369・375 383 W49・50・51	・H→W61 ・W49・50・51 →W61	旧5W－21
W62	西側台地 A－11～13 イ－11～13	27	50～80	28	H483・493 W14・21・67	・H→W62 ・W62→W14・21 ・W67→W62	旧5W－27・28
W63	西側台地 イ－10・11	18	40～110	20.5			旧5W－30
W64	西側台地 A・イ－4	12	50～100	13.5	K132	・K132→W64	旧W－64
W65	西側台地 A・イ・ロ－4	11	70～150	32	H352	・H352→W65	旧5W－11
W66	西側台地 A－13　イ－13 ロ－13・14　ハ－13・14	50	100～200	62	H137・138 141 JP42	・H→W66 ・JP42→W66	旧5W－1
W67	西側台地 A－11・12　B－11 イ－12	25～43	80～120	34	F254・257 W21・61	・W67→F254 257 ・W67→W21・62	旧5W－26
W68	西側台地 ロ・ハ－10	43	160～210	23	H323	・H323→W68	旧5W－9
W69	西側台地 イ－11・12	40	70～110	145	W14	・W14→W69	旧5W－31
W70	西側台地 A－13・14　B－13	—	80～100	10			旧W－A－13
W71	西側台地 E・F－1	10	50	25	K94 W74	・K94→W71 ・W74との関係不明	旧W－20東
W72	西側台地 G－103	6～13	40～50	11	K86・89 JP78　W38	・K・J→W72 ・W72→W38	旧W－31
W73	西側台地 イ－2・3　ロ－3	—	70～150	43			旧W－37
W74	西側台地 D－102　E－101・102 F－1～3・101　G－2	22～80	40～200	106	H185・186・208 213・242 K66・88 W16・18・33・ 34・71	・H・K→W74 ・W74→W18・ 33・34 ・W16→W74 ・W71との関係不明	旧W－14・21

遺構名	位置	深さ (cm)	幅 (cm)	長さ(m)	重複	新旧関係	備考
W75	中央台地 ニ—25 ホ—25 ヘ—25・26 ト—26 チ—26・27 リ—26～30	35～105	200～320	155.5	W77・101	・W75→W77 ・W75→W101	旧W—12東 旧W— 8
W76	中央台地 ヘ—26・27 ト—27 チ—27・28 リ—28	37～100	150～350	136.3	F27・54・55・56 I 22 I 5	・F・I 5との関係不明 ・W76→I 22	旧W— 9
W77	中央台地 リ—28・29	26～90	100～140	23.5	W75	・W75→W77	旧W—12
W78	中央台地 ニ—25～27	15～38	200～360	28.5	W83・85・84 F267～270・272 I 21 A II～IV	・F→W78 ・W78→W85 ・W83・84→W78 ・F273→W78 ・W78→F268 ・W78→F267	旧W—13 F269との関係不明
W79	中央台地 ト—28	42～45	180～200	14.5	W80 F66	・W80→W79 ・W79→F66	旧W—15
W80	中央台地 ヘ・ト—28	—	80～200	11.5	W79 I 7	・W80→W79 ・I 7との関係は不明	旧W—80
W81	中央台地 ト—27	28～47	150～220	10			旧W— 9北
W82	中央台地 ヘ—27	—	190～230	7	F43	・不明	旧W—82
W83	中央台地 ニ—26 ホ—26・27	75	70～120	23	W78・84・85 F273 AIV I 21	・W84→W83 ・W83→W78・85 ・F273→W83 ・AIV→W83→I 21	旧W—13
W84	中央台地 ニ—25・26	12～30	60～100	22.5	W78・83・85 86 A II～IV F270・I 21 F267	・W84→W78・85 ・W84→I —21 ・その他の関係は不明	旧W—84
W85	中央台地 ニ—25～27	53～64	120～310	13	W78・83・84 86 A II～IV F267・268 270・272 I 21	・W78・83・84→W85 ・A II～IV→W85 ・F270・267→W85 ・W85→I 21	旧W—13西 ・F273→F85 ・F269W86との関係は不明
W86	中央台地 ニ—25・26	20～34	45～70	11.5	W84	・不明	旧W—86
W87	中央台地 ニ・ホ—25	36～61	70～90	12.5	A I	・不明	旧W—13
W88	西側台地 R—1・101・102	19～40	40～80	46	J 19・23・27 J P27・39	・J 19・23・27→W88 ・J P27・39→W88	旧W— 8 8
W89	中央台地 C—23・24 D—24	—	40～120	22.5	F298 J P41	・W89→F298 ・J P41→W89	旧W—89
W90	西側台地 M・N— 1	18～40	50～90	23	H117・119	・H117・119→W90	旧W—90
W91	中央台地 ニ—21・22	—	50～70	14.5	W43 J P89	・W43→W91 ・J P89→W91	旧W—43南
W92	西側台地 H— 8 J— 7・8 K・L・M— 7	—	50～70	76	H15・65～68 J P 5	・H→W92 ・J P 5→W92	旧W—92
W93	西側台地 J・K— 6	13～26	40～70	21	H74	・H74→W93	旧W—93

遺構名	位置	深さ (cm)	幅 (cm)	長さ(m)	重複	新旧関係	備考
W94	中央台地 ニ—24	—	50～100	15			旧W—94
W95	中央台地 ニ—28・29　ホ—28・29 ヘ—29	—	150～250	43			旧W—95
W96	西側台地 C—4	—	300～500	7.5	W1 J1	・J1→W96→W1	旧W—96
W97	東側台地 ワ—11	8	80	4.5	W49	・W97→W49	旧W—97
W98	東側台地 タ—106	—	50～80	12	W39—1	・W98→W39—1	旧W—98
W99	中央台地 ハ—22	55	150	7	J50	・J50→W99	旧W—103
W100	中央台地 ロ・ハ—22	50～58	350～450	9.5	J50	・J50→W100	旧W—102
W101	中央台地 ト—26　チ—26・27 リ—27	40	90～160	51	W75	・W75→W101	旧W—104
W溝状1	東側台地 ル・ヲ—7	14	50～100	8	H438 W53	・H438→溝状1 ・溝状1→W53	
W溝状2	東側台地 ワ—7	43	60～100	7	W49・50	・溝状1→W49・50	

表—179　A地下式土坑一覧表

遺構名	位置	形状	方位	規模 (外径) (cm)	遺物	重複	挿図	備考
AI	中央台地 ニ・ホ—25	室部 円形	N—85°—E	600×450×90	礫	W87	付図—4	東側に入口部
AII	中央台地 ニ—26	室部 円形	—	410×255×118	礫	W78・84・85	〃	室部円筒状断面 東側に入口部か
AIII	中央台地 ニ—26	室部 円形	N—71°—W	400×270×158		W78・84・85 F267～270 I21	〃	東側に入口部 緩い階段状 径140×80cm
AIV	中央台地 ニ—26	室部 円形	—	400×250×100		W78・83・84・85 F273・267 I21	〃	未掘・断面からの推定

表—180　N性格不明遺構一覧表

遺構名	位置	形状	方位	規模 長径×短径×深・下端径	遺物	重複	挿図	備考
N1	ヨ—13—46 47	長円形	N—27°—E	148×107×23 127×90			全体図	旧5P—3
N2	カ—10—73 83	長方形	N—6°—W	130×70×15 —			〃	旧5P—7
N3	ワ—10—88・89 98・99	方形	N—69°—W	130×110×43 —			〃	旧5P—9
N4	ヨ—12—63・72 73・74	長円形	N—9°—E	325×185×145 —			〃	旧5P—10
N5	レ—10—27 28	長円形	N—4°—E	160×90×— —		H300	〃	旧5P—12
N6	ヨ—9—84	長円形	N—4°—E	80×70×— 60×55			〃	旧5P—54
N7	タ—10—57 67	円形	N—20°—E	110×100×— —			〃	旧5P—60

遺構名	位置	形状	方位	規模 長径×短径×深・下端径	遺物	重複	挿図	備考
N 8	タ—10—90	長円形？	N—77°—W	100×40×— —		K124	全体図	旧5 P—68
N 9	レ—7—22/23	方形？	—	72×60×27 —		N10 K153	〃	旧5 P—75
N10	レ—7—32	円形	N—9.5°—E	93×87×34 —		N 9 K153	〃	旧5 P—76
N11	タ—9—18	不整方形	N—0°	80×70×— —		K125	〃	旧5 P—79
N12	リ—102—68・69/78・79	方形？	N—43°—W	90×85×— —			〃	旧5 P—196
N13	リ—102—9 ヌ—102—19	方形	N—2°—E	120×115×— —			〃	旧5 P—197
N14	ヌ—102—98・99 ル—102—8・9	方形	N—20°—E	100×100×— —			〃	旧5 P—207
N15	ヲ—5—41	円形	—	110×110×— —			〃	旧5 P—214
N16	ヲ—5—33・34 43・44	円形	N—0°	115×105×— —			〃	旧5 P—215
N17	ヲ—5—53/54	長円形	N—6°—E	95×55×— —			〃	旧5 P—216
N18	ワ—6—14/24	長円形	N—20°—E	158×110×24 —			〃	旧5 P—221
N19	ル—1—24・25/35・36	円形	N—27°—W	100×90×— —		M 1	〃	旧5 P—222
N20	ル—1—33/34	長円形	N—8°—W	130×80×75 —			〃	旧5 P—223
N21	ル—10—98 ヲ—10—8	長方形	N—46°—E	120×80×— —			〃	旧5 P—269
N22	ヲ—10—77/78	長方形	N—60°—W	210×110×— —			〃	旧5 P—270
N23	ワ—10—23	不整円形	N—34°—E	100×90×— —			〃	旧5 P—272
N24	ワ—8—21・31 ワ—7—30・40	円形	N—78°—E	120×110×— —			〃	旧5 P—275
N25	ワ—7—31・41 ワ—6—40・50	楕円形	N—16°—E	150×120×— —		N26	〃	旧5 P—276
N26	ワ—7—40・50	楕円形	N—61°—W	170×110×— —		N25	〃	旧5 P—277
N27	ワ—7—25	長方形	N—30°—E	180×130×— —			〃	旧5 P—278
N28	ワ—7—32・42	楕円形	N—11°—E	120×100×— —			〃	旧5 P—279
N29	ワ—7—71・81 ワ—6—80・90	長方形	N—69°—W	220×80×— —			〃	旧5 P—280
N30	ヲ—7—71 ヲ—6—80	長円形	N—68°—W	160×130×— —			〃	旧5 P—281
N31	S—17—73～75/83～86/94～96	ピット群	—	—			〃	旧S—17—85拡
N32	E—7—79・80/89・90	長円形	N—23°—W	250×150×— —			〃	風倒木状P
N33	タ—3—64・73/74・83	不整形	N—6°—E	400×320×— —			〃	旧焼土P—1
N34	ワ—11—29/39	円形	—	100×100×— —			〃	旧焼土P—2

遺構名	位置	形状	方位	規模 長径×短径×深・下端径	遺物	重複	挿図	備考
N35	イ—11—51 イ—10—59・67 他	ピット群	—	深さ28～76			全体図	
N39	タ—7—28 29	長円形	N—78°—W	78×30×— —		K120	〃	
N40	V—9—20	不整長円形	N—56°—W	172×48×60 119×19		J15—B	〃	

結　語

芳賀団地遺跡群発掘調査報告書　第３巻　―芳賀東部団地遺跡III（縄文・中近世編）―　を刊行することができた。

本報告書は、芳賀東部団地遺跡「Ｉ」「II」（古墳～平安時代編　その１、その２）と合せて３巻となり、芳賀東部団地遺跡の報告書として完結するものである。

芳賀東部団地遺跡は、昭和51～55年までの５ケ年間で約40haの地の発掘調査を実施したのである。本地域は、前橋市小坂子町の畑、水田地帯であり、小さい谷地を狭んで東、西と中央の三つの台地となっている。ここに前橋工業団地造成組合が工業・住宅団地造成を計画した。そこで開発に先だち埋蔵文化財の事前発掘調査を実施したものである。

本報告書刊行するにあたり幾多の困難に遭遇している。本市にとって最初の大規模発掘調査であり、丘陵（台地）の全面の発掘を実施したため遺構・遺物が膨大であった。それに伴い、３巻を刊行するまで整理期間10年間を要した。

本報告書第３巻において解明できた主なものとして次の事項がある。

○　群馬県内外においても調査事例の少ない縄文時代前期を中心とする60軒におよぶ住居跡・100基以上の土坑・配石遺構の調査ができた。今後における縄文時代の住居跡、住居形態の変遷、占地住居の配置、遺物、住居と遺物との関連等々の研究するにあたって好資料が得られた。そのために土器・石器、住居跡等の図版資料、写真等を多く収録した。

○　縄文の住居跡については、時期別にまとまりがみられ、「集落」の存在が考えられる。また、時期別に住居跡を詳細に分析・検討した結果、住居の形態、住居の面積、周溝、柱穴、炉の位置等についても時期別、時代別に特徴が見られ住居変遷の資料が得られた。

○　土坑は、土坑内の出土遺物からみると住居跡と土坑との関係、占地についても関連があることが認められた。

○　赤城南麓の解析台地上における縄文時代前期を中心とした住居跡の変遷を把むことができた。

○　中近世の遺構の中で「城館跡」とみられる堀跡が発見され城館跡の資料を得ることができた。堀の中より明代の青花磁器が出土している。県内の出土例をみると城跡や寺院関連遺跡、館跡などを中心とした遺跡から出土しており非常に限られた上級階層のみが入手しえた遺物を出土している。

○　数多くの墓壙とみられる土坑が発見されている。

○　芳賀東部団地遺跡での平安時代以降の占地の利用状況を示す資料が得られ、前橋における赤城南麓の文化の傾向を窺い知れるものと考えられる。

等々の成果をあげることができる。

発掘担当者は発掘調査を実施するだけでなく、調査資料の整理、検討、分析、統合、深化をくり返し調査成果をまとめ公表することで発掘調査担当者の一応の責務が完結するものと考えられる。報告書を刊行することで遺跡調査を実施した遺跡に恩返しができるものと考える。遺跡調査を実施するためには多くの関係者、費用負担した機関、調査を支えてくださった機関や作業員等々協力なしでなし得なかったものであり、その感を深く感ずるものである。

本報告書が今後刊行される芳賀西部、芳賀北部団地遺跡の報告書と合せて、芳賀地区の歴史、前橋の歴史の解明の一助になるものと期待する。また前の２巻と合わせて芳賀東部団地遺跡の報告が斯学の学問的研究の一助になるものと期待する。

報告書が刊行できたことに対して数多くの関係者に深く感謝申し上げます。

（福田）

写　真　図　版

Ｊ１号住居跡（南より）

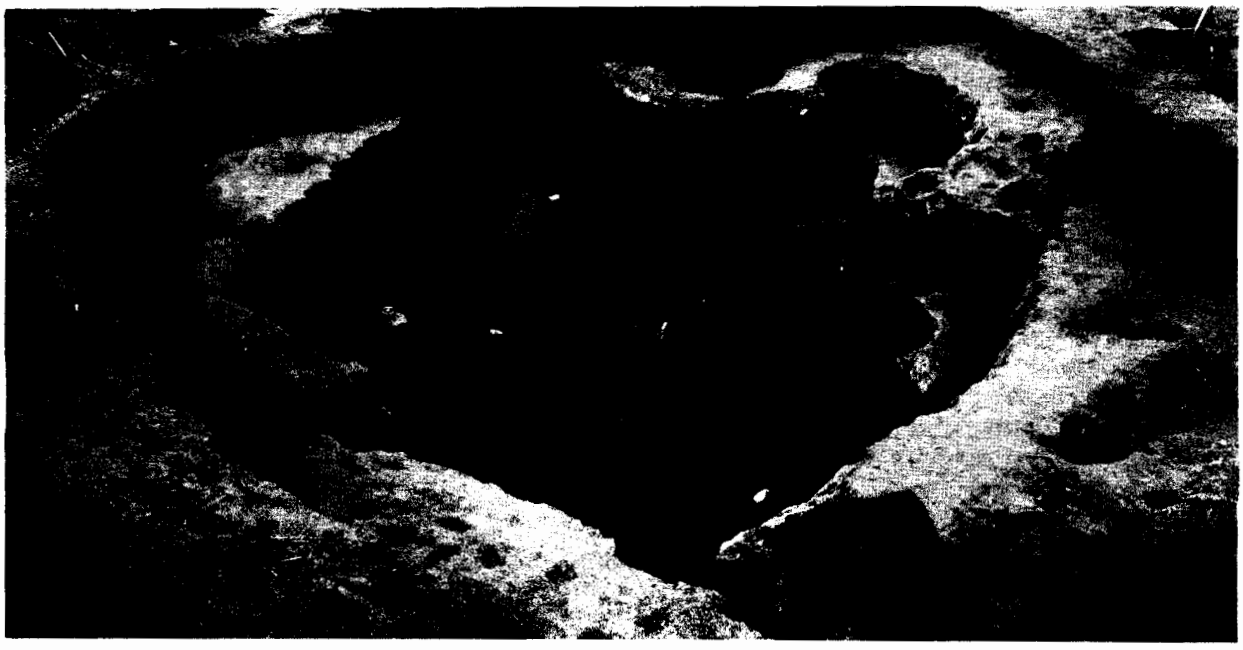
同遺物出土状態（北西より）

同炉跡

図版２

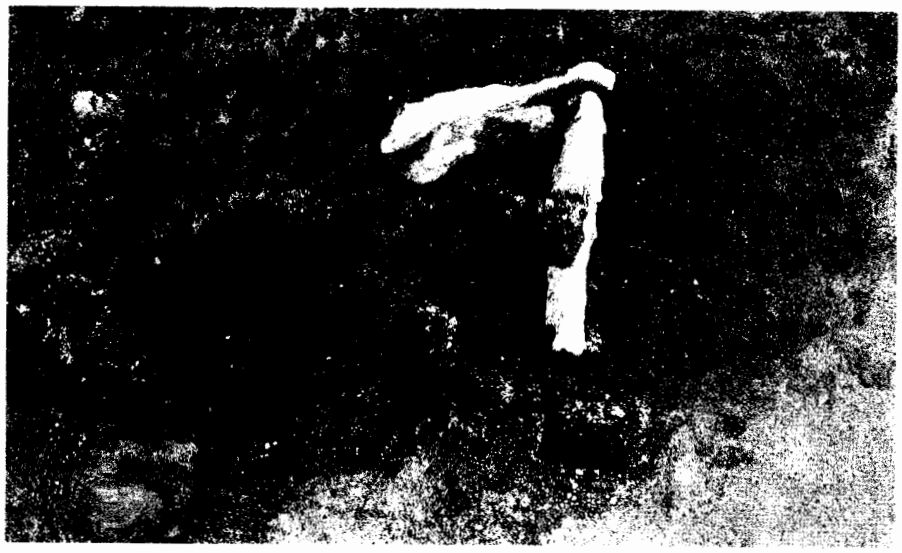
Ｊ２号住居跡（東より）

同遺物出土状態（南より）



Ｊ３号住居跡・ＪＰ122～124・Ｆ279号土坑（北東より）

南西隅出土炭化材



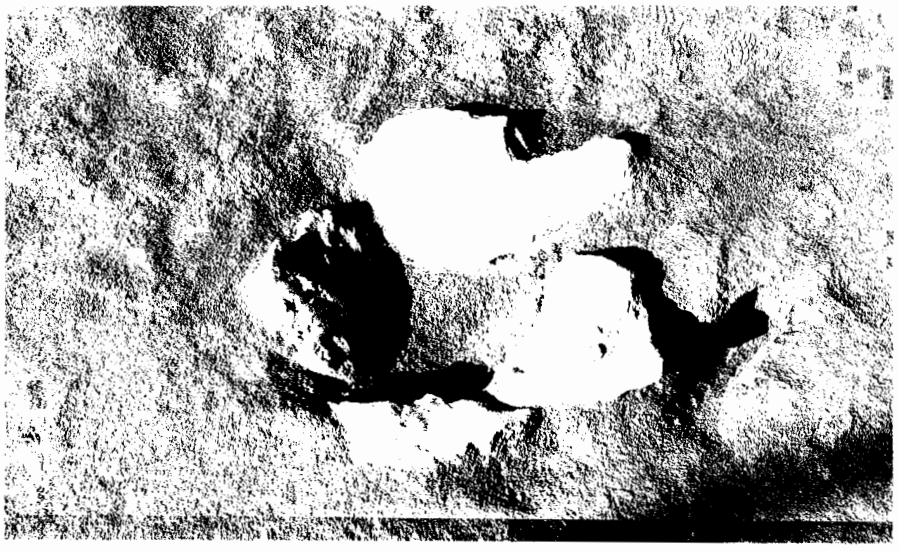
同炉跡

図版 4

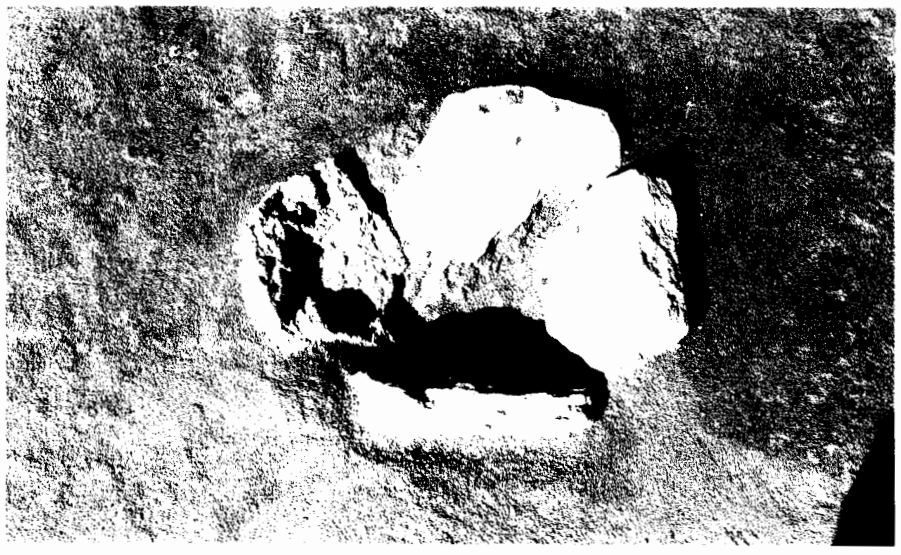
Ｊ 4 号住居跡（北東より）

同遺物出土状態

Ｊ５住居跡（南西より）



同炉跡１（東側）



同炉跡２（西側）

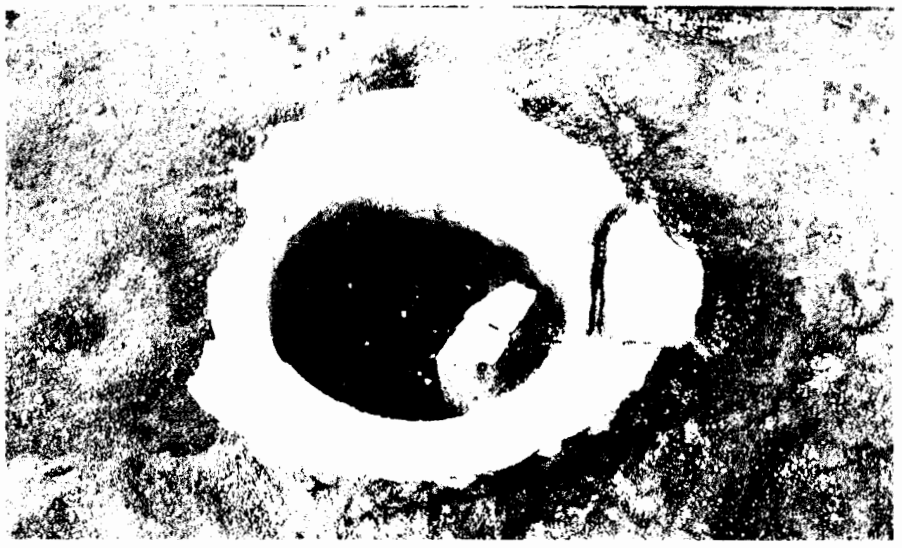
図版 6

Ｊ６号住居跡（西より）

同炉跡

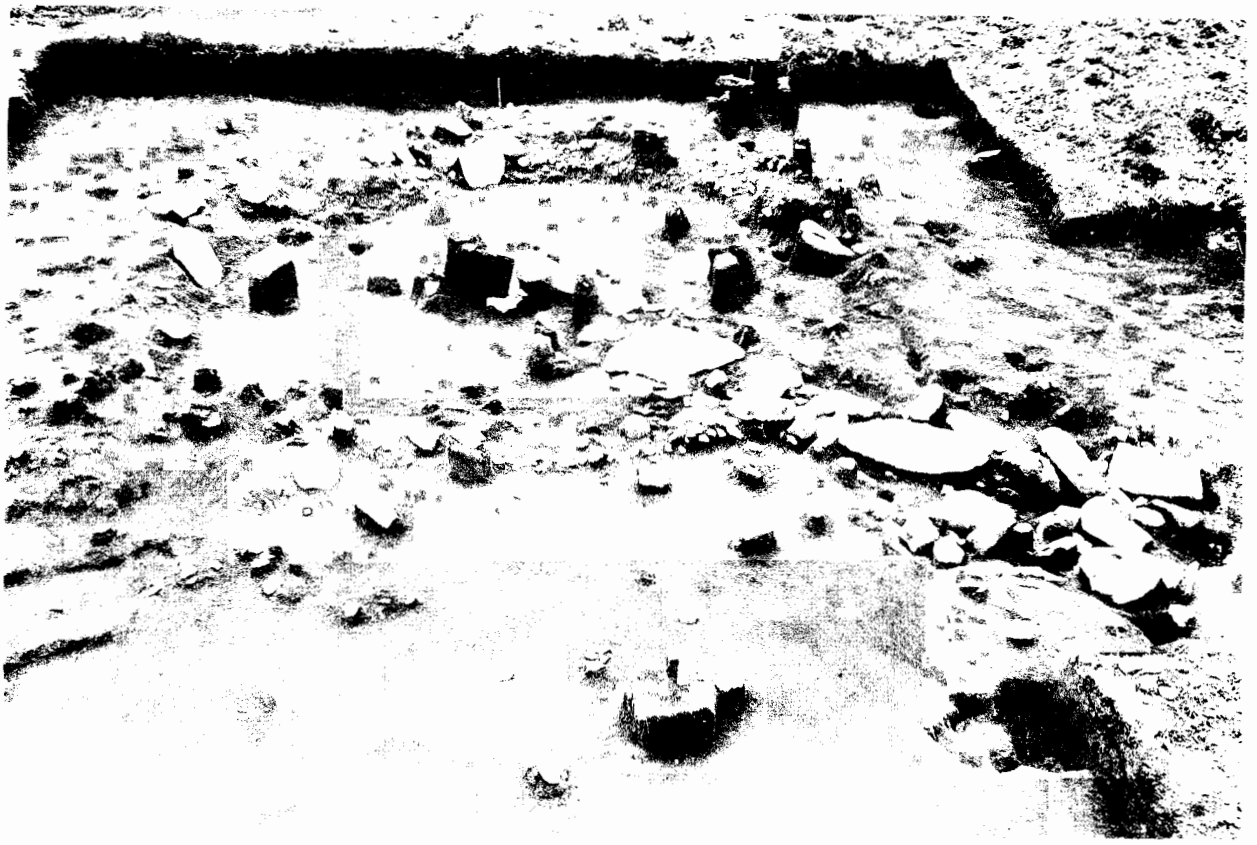
Ｊ７号住居跡（北東より）

同遺物出土状態



同出土埋設土器

図版８



Ｊ８号住居跡（北西より）

同出土埋設土器

Ｊ９号住居跡（北東より）

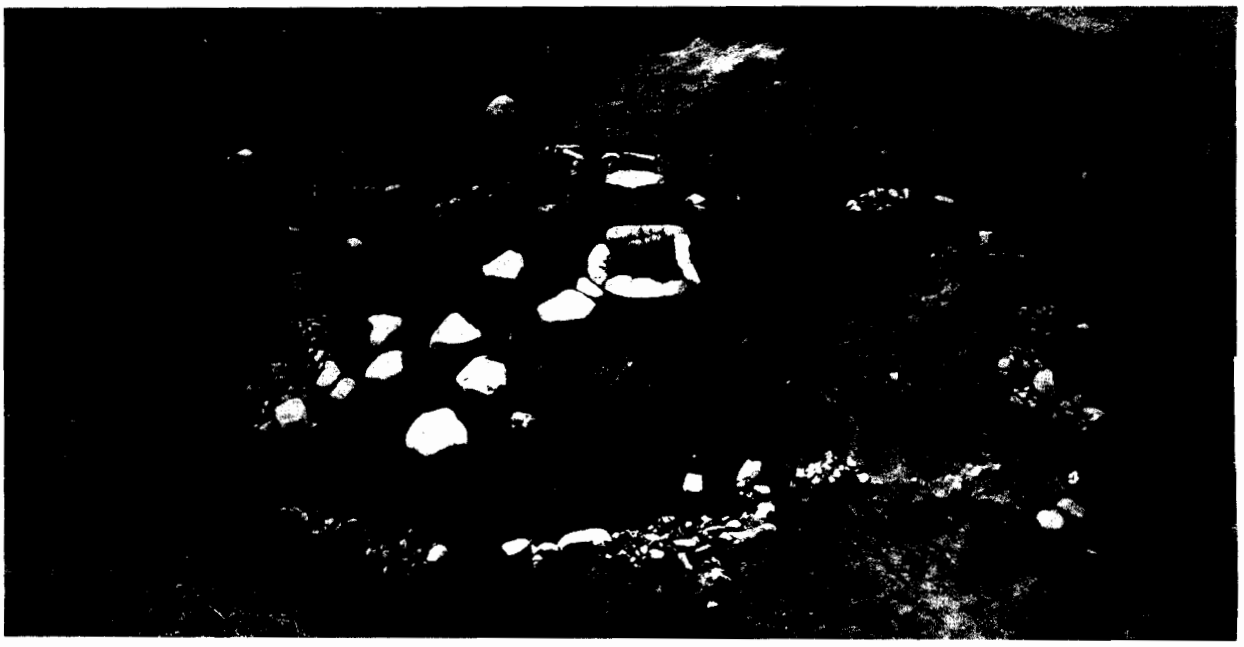
同炉跡

図版10

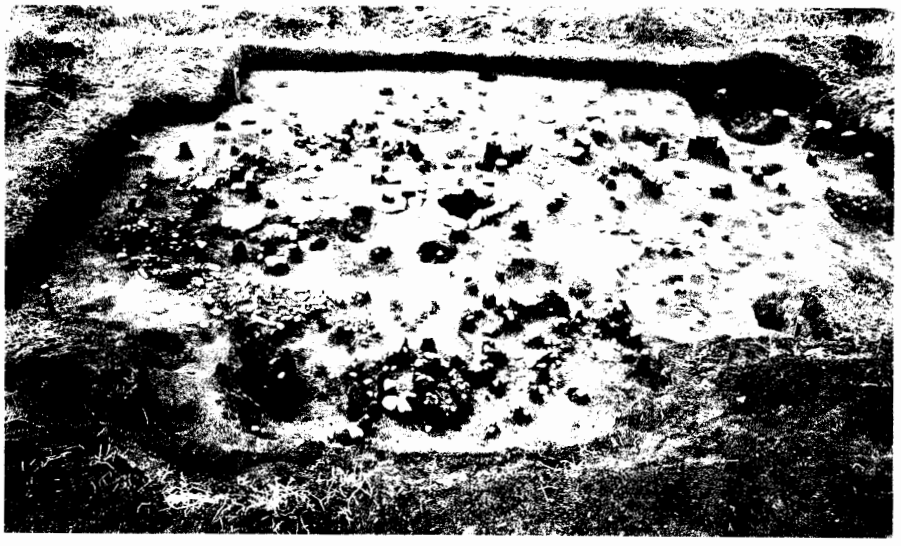
J 10号住居跡（南西より）

同炉跡・土坑

同炉跡



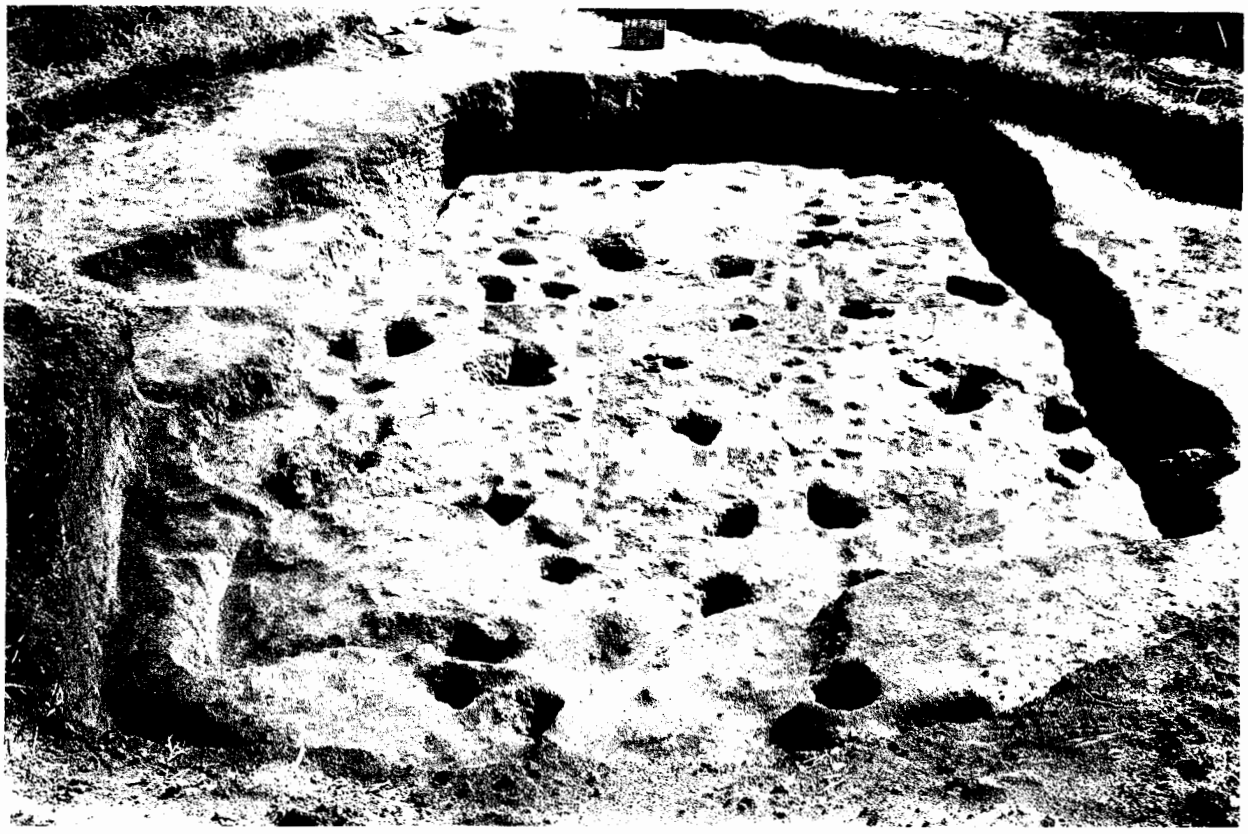
J 11号住居跡（北東より）



同遺物出土状態

同炉跡

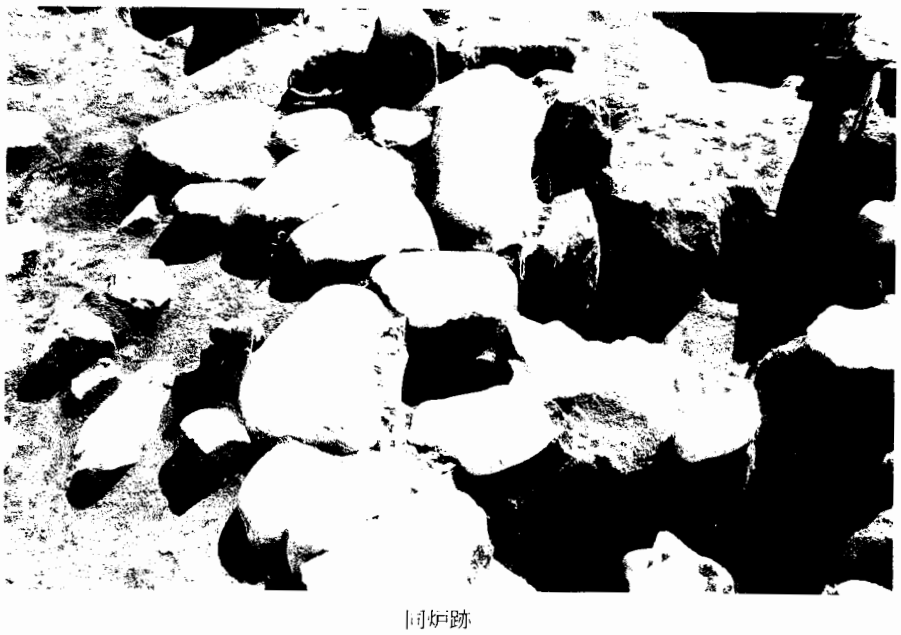
図版12



J 12号住居跡（西より）

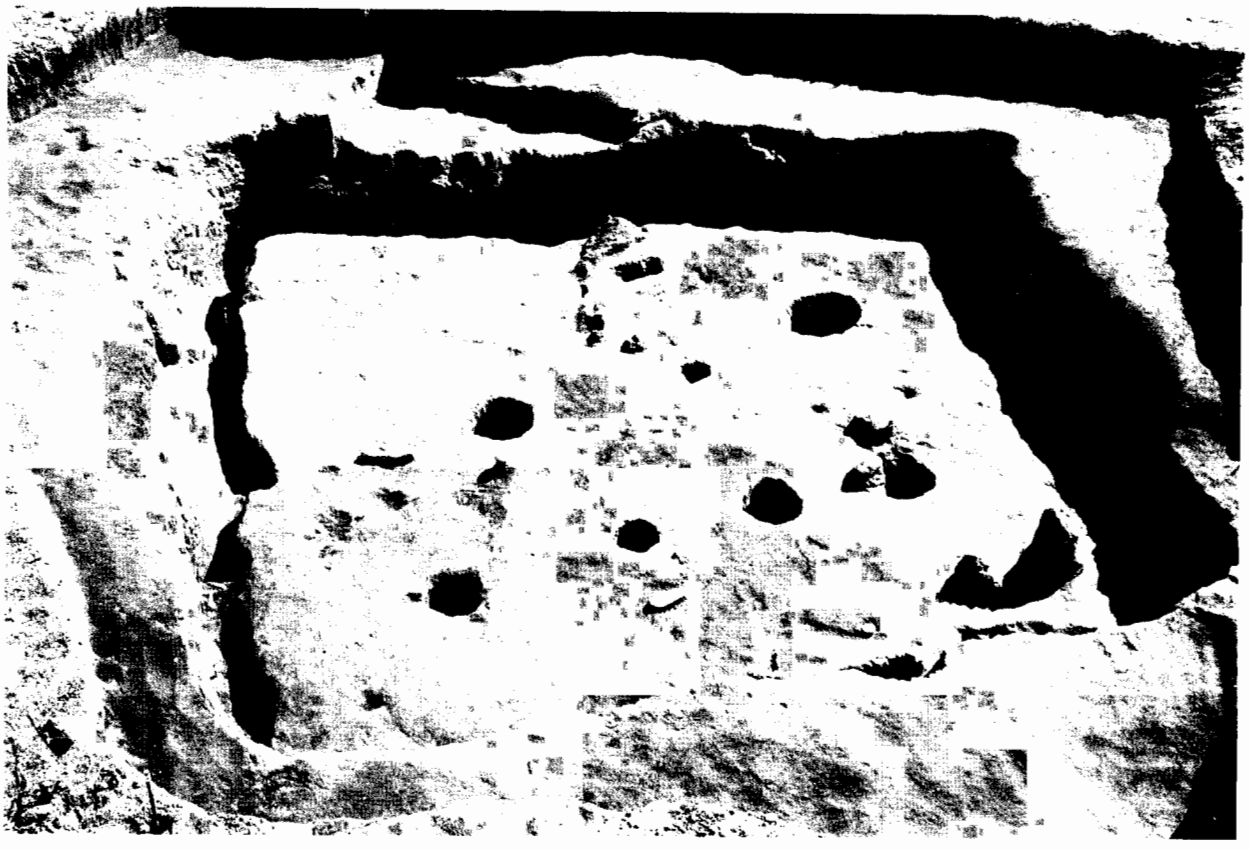
同遺物出土状態

J13号住居跡（北西より）



同炉跡

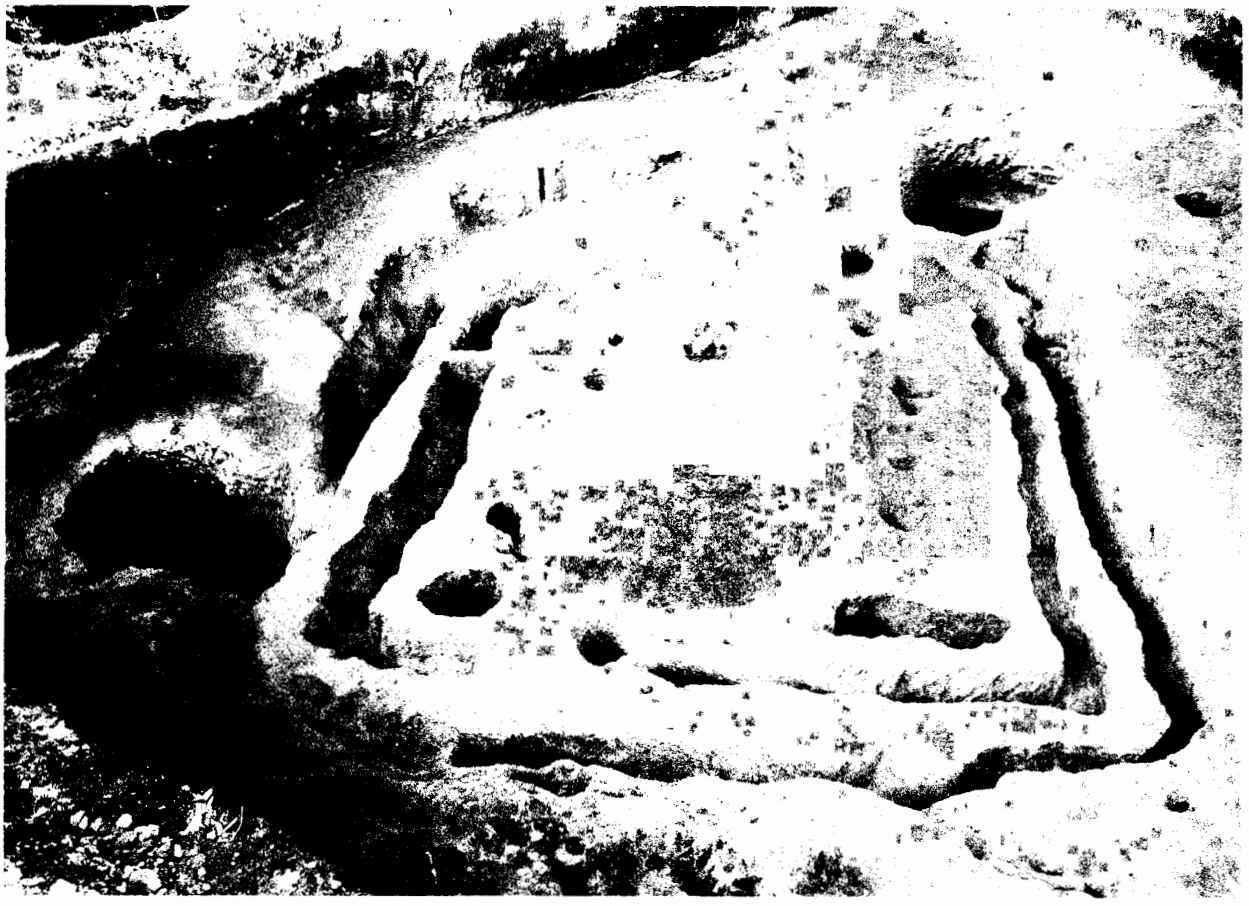
図版14



J 14号住居跡（西より）

J 15号住居跡（北より）

J 16号住居跡（北西より）



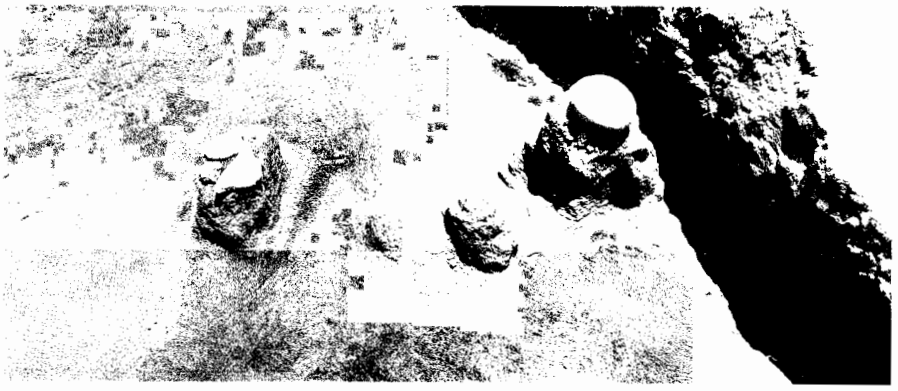
J 17号住居跡（南より）

図版16

J 18号住居跡（西より）

J 19号住居跡（内側）　　（北より）

J 20号住居跡（北より）



同遺物出土状態

J 21号住居跡（北より）

図版18

J 22号住居跡（東より）

J 23号住居跡（外側）　　（北より）

J 24号住居跡（北より）

J 25号住居跡（北より）

同遺物出土状態

同炉跡

図版20

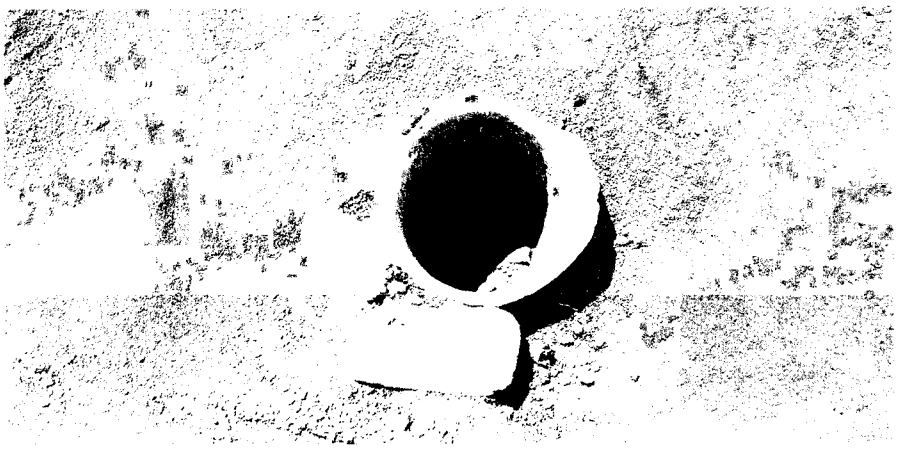
J 26号住居跡（南より）

住居土層断面（東西面）

住居土層断面（南北面）

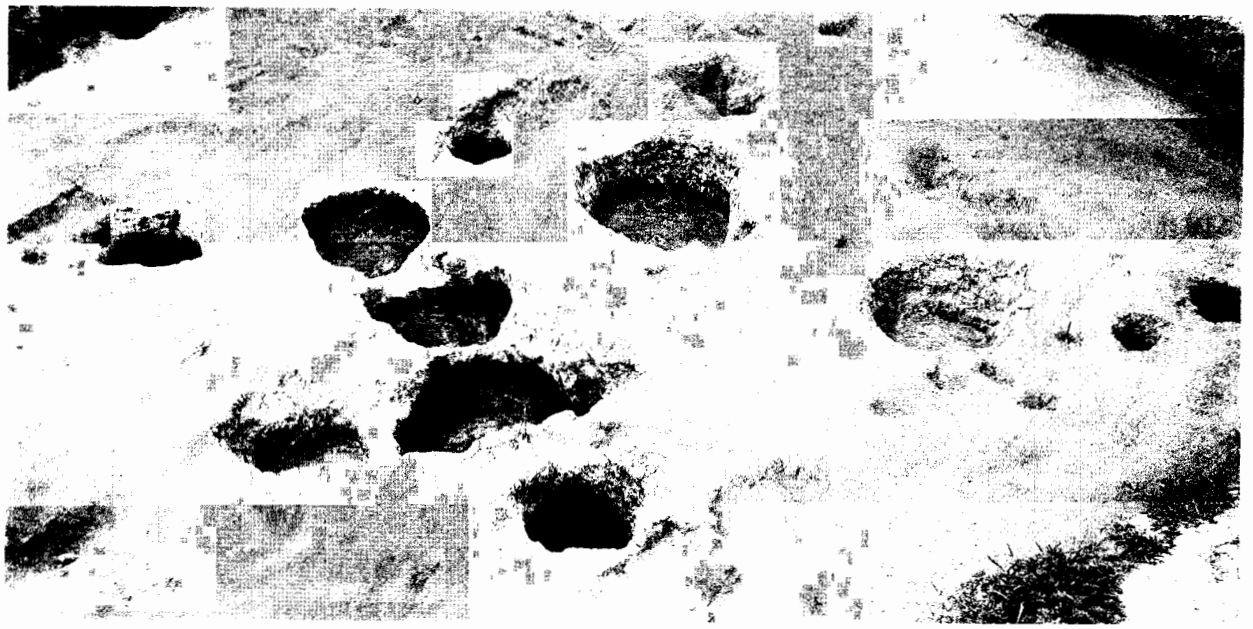
J 27(外)・30(内)号住居跡・J P107号土坑（東より）

同遺物出土状態

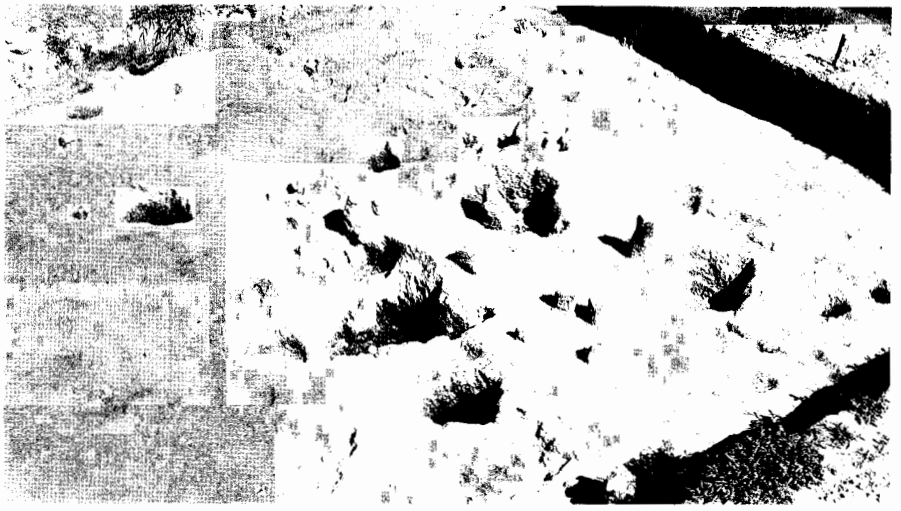


J 27号住居跡

図版22



ＪＰ群-Ⅰ（Ｊ28号住）（東より）



同遺物出土状態

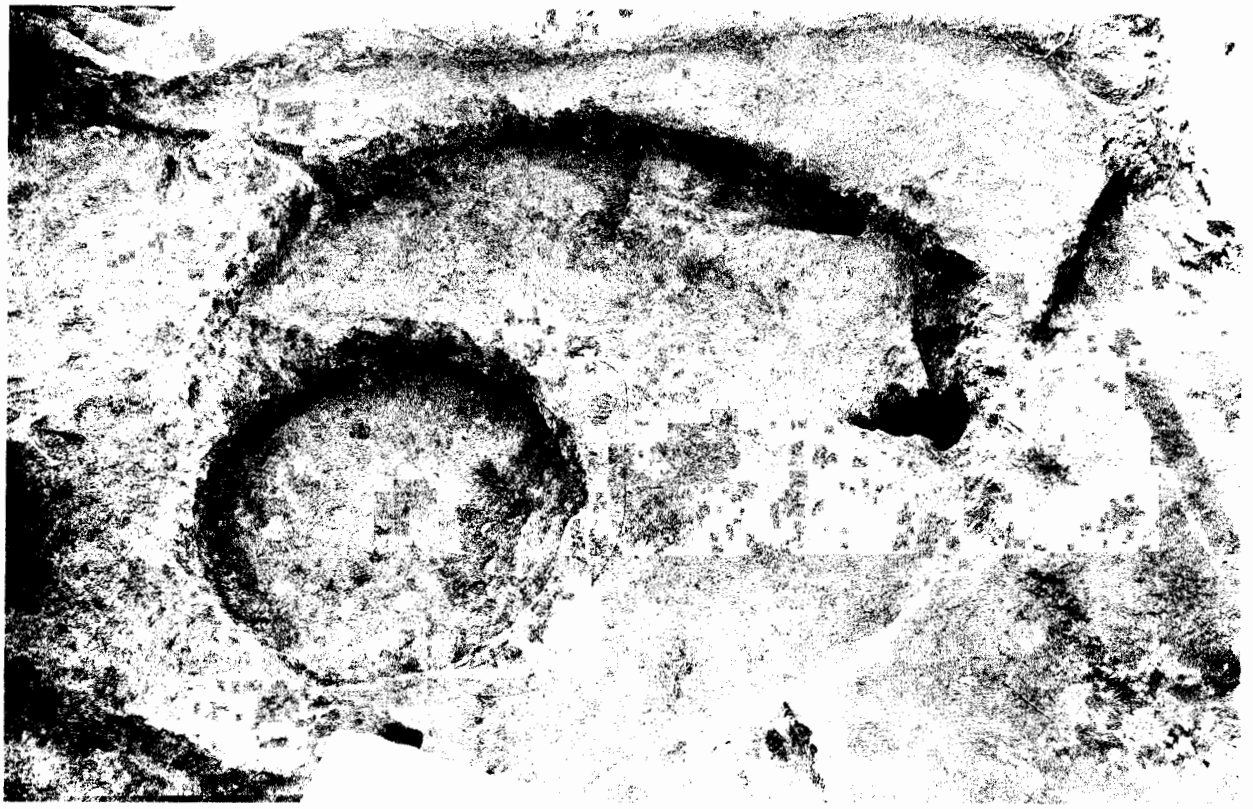
Ｊ29･59号住居跡（南東より）･ＪＰ111号土坑（左上）

J 31・32号住居跡（北より）

同遺物出土状態

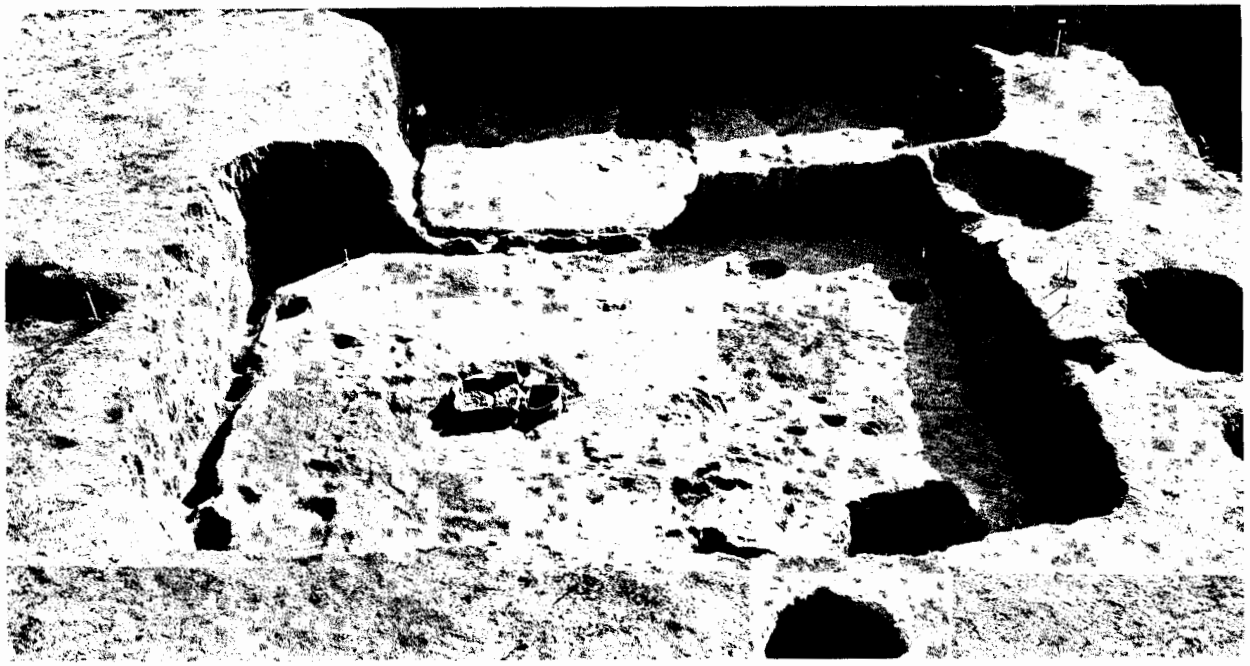
同炉跡

図版24



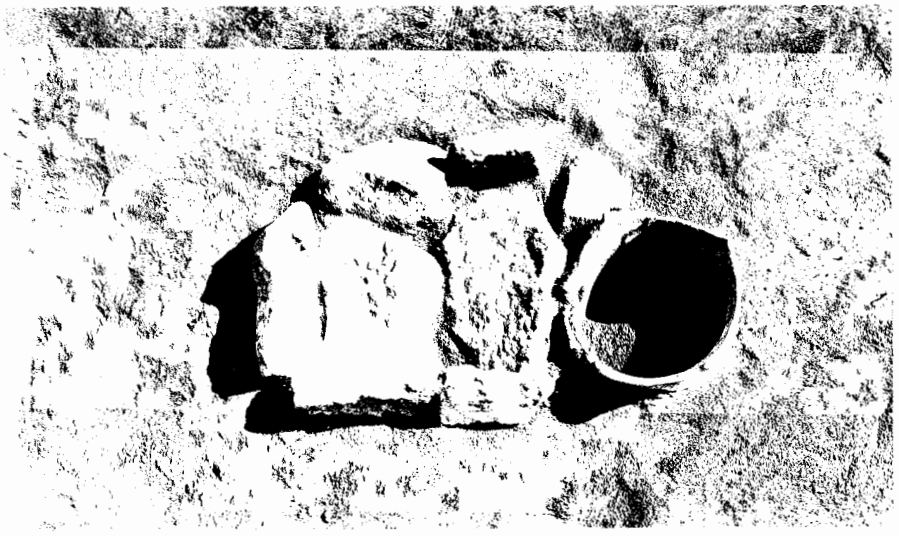
J33(中央)・60(外)号住居跡・JP118号土坑(左下)(東北より)

J34号住居跡（北より）



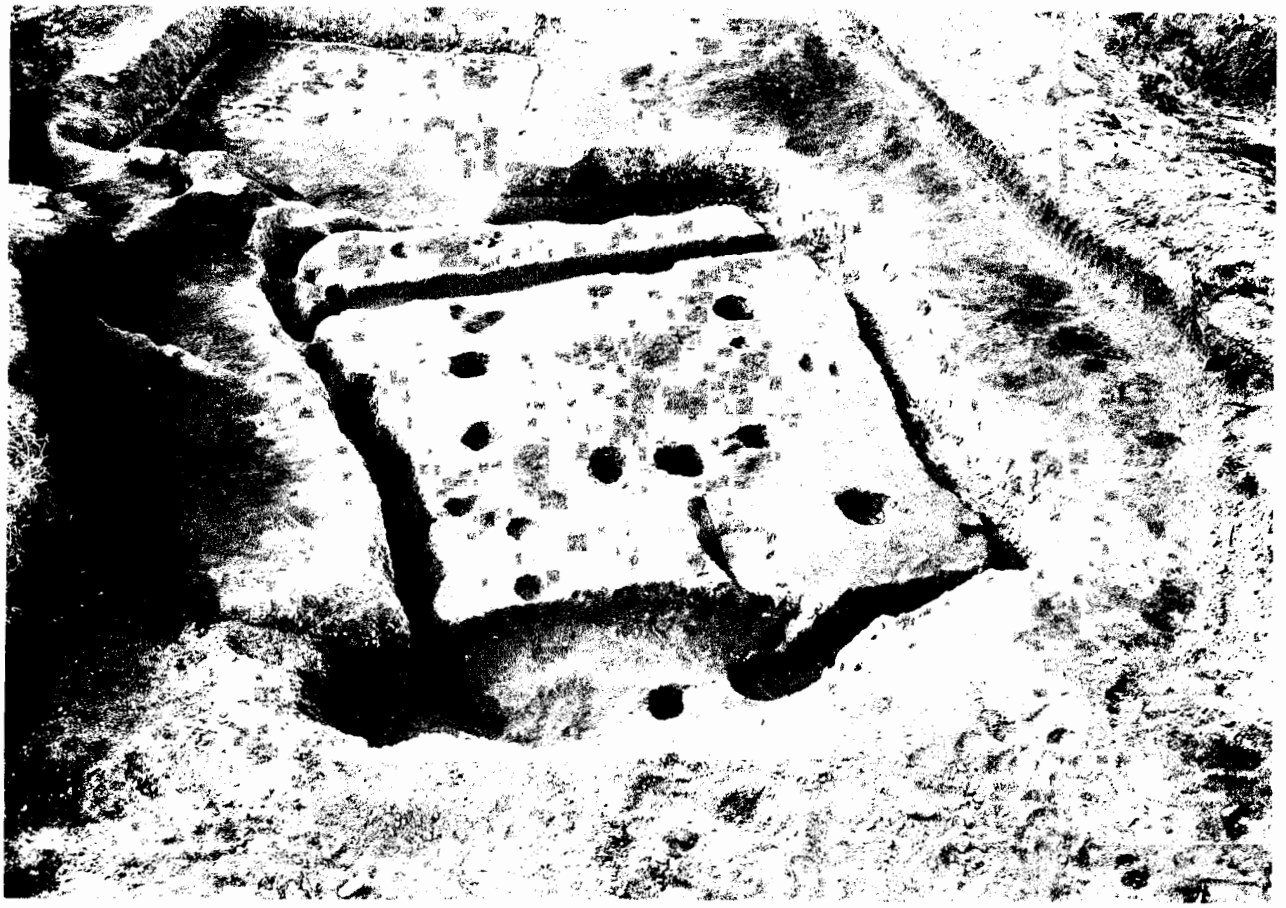
J 35号住居跡（西より）

住居東側遺物出土状態



炉跡

図版26



Ｊ36号住居跡（東より）

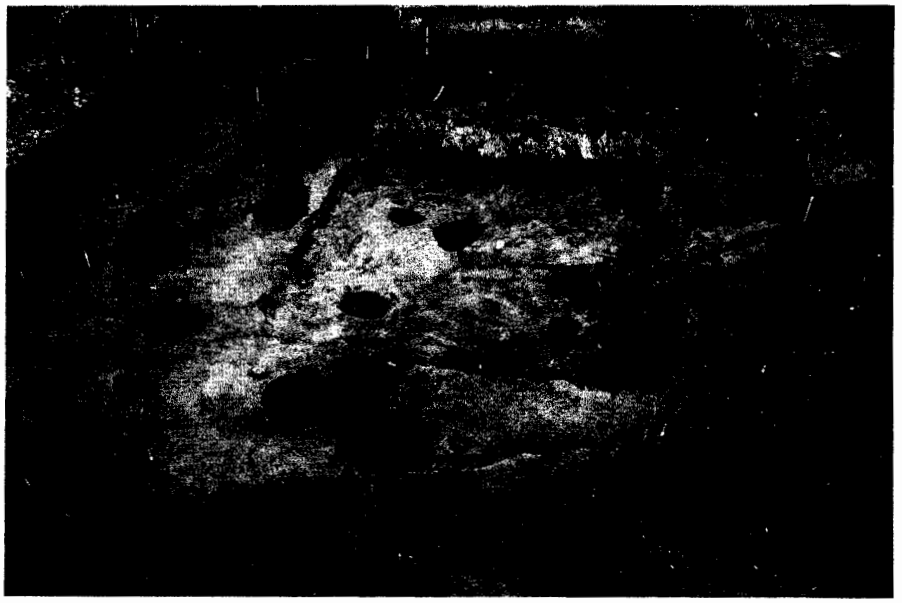
同遺物出土状態

J 37号住居跡（西南より）

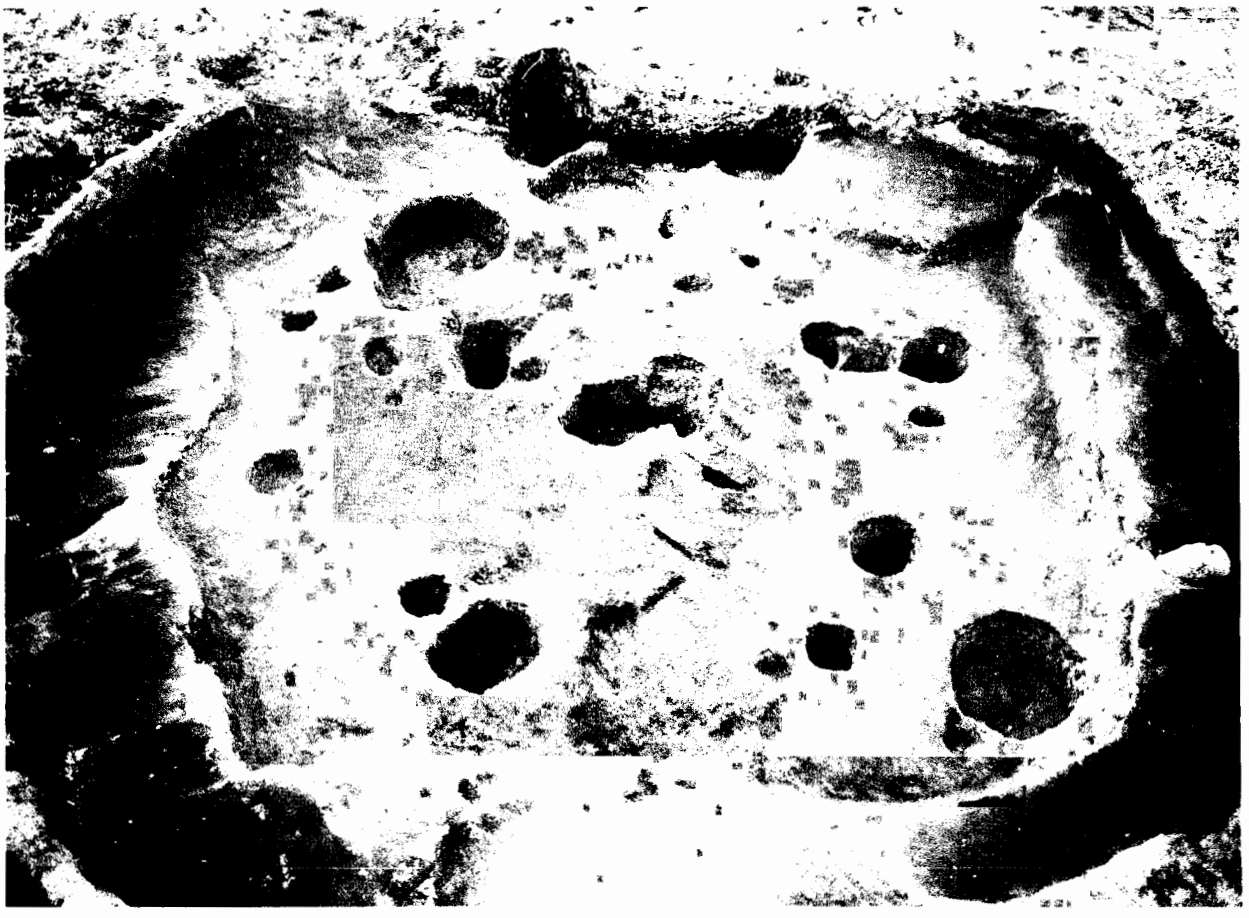
同遺物出土状態

図版28

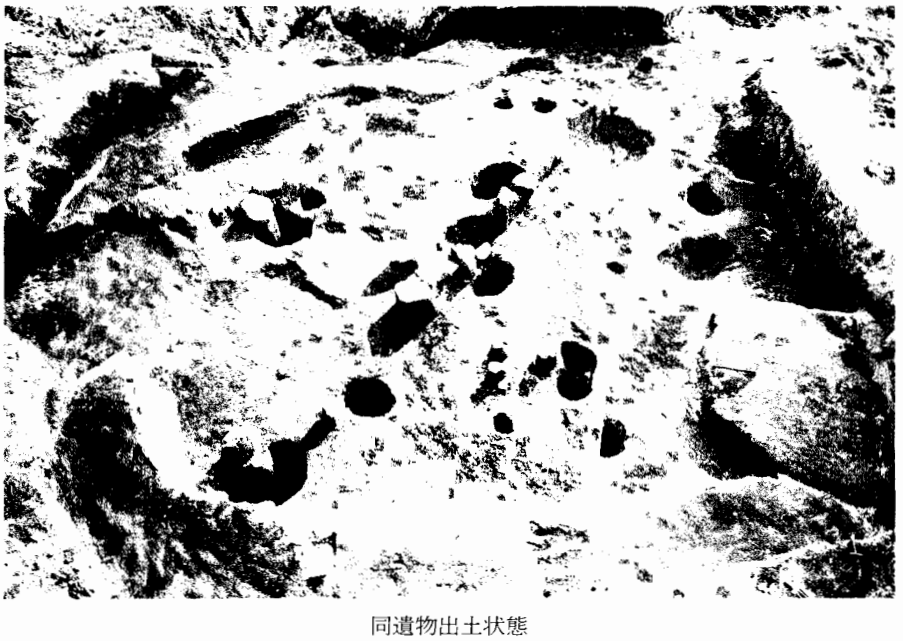
J 38号住居跡（南東より）



同遺物出土状態



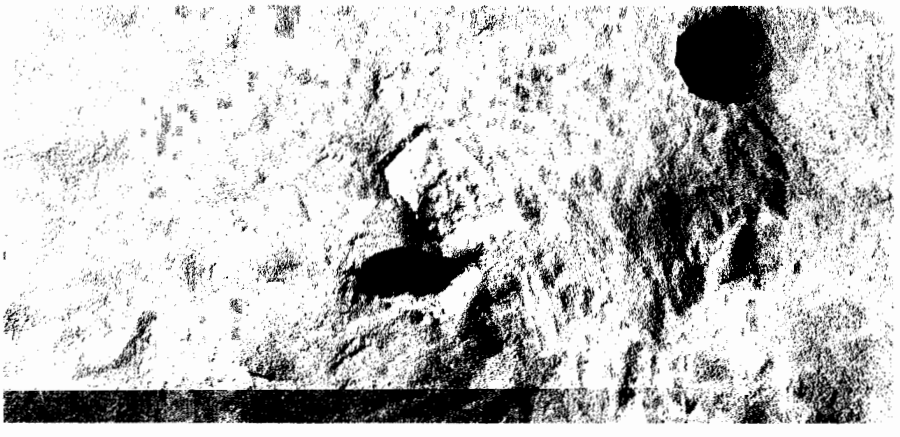
J 39･61号住居跡・J P60･112号土坑(東より)



同遺物出土状態

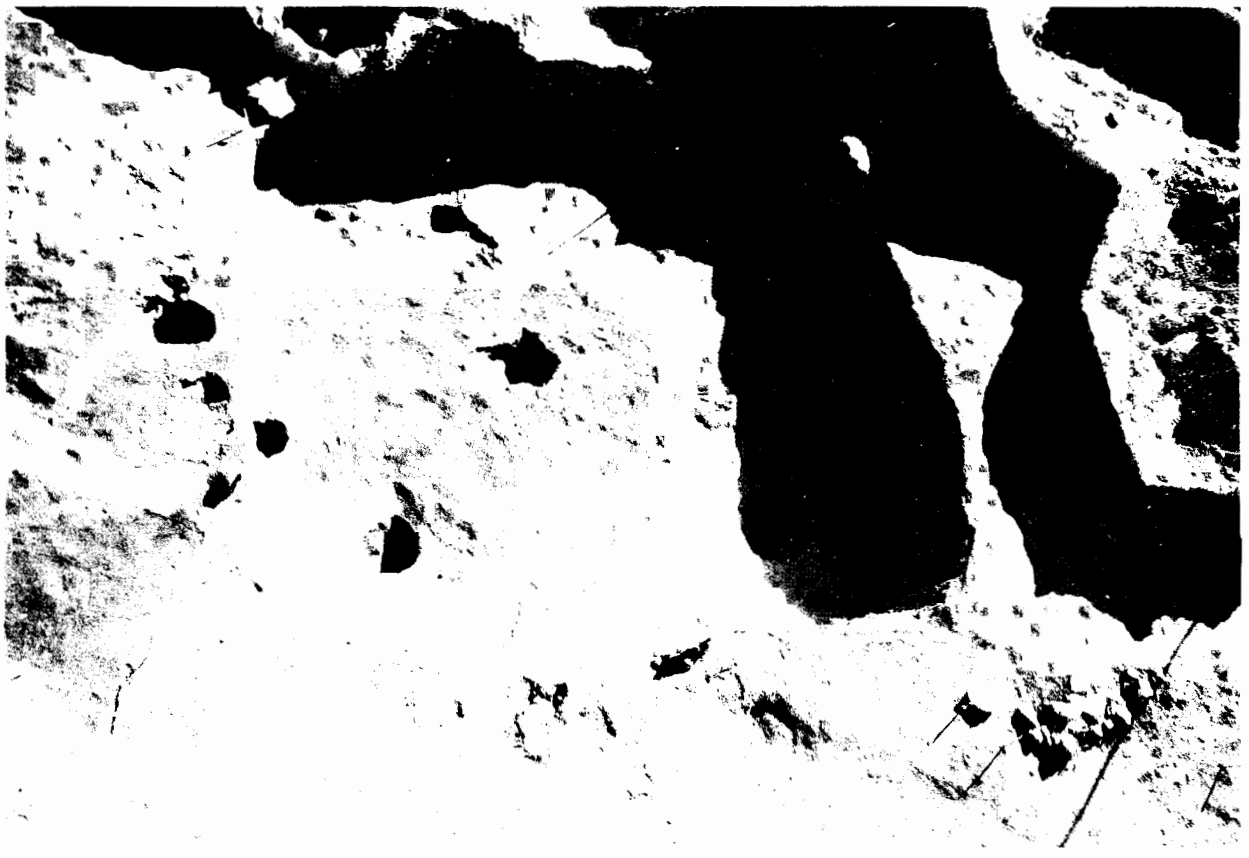
図版30

J 40(手前)・41(奥)号住居跡（北より）



J 40号住居炉跡

J 41号住居炉跡

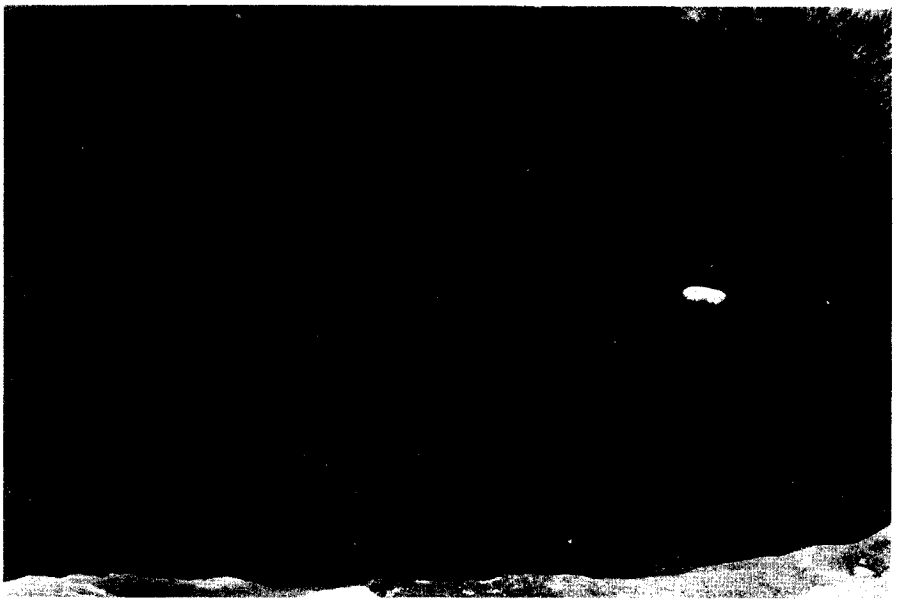


J 42号住居跡(南より)

同遺物出土状態

図版32

J 43号住居跡（東より）



同焼土分布状態

J 44号号住居跡（西より）

J 46号住居跡（西より）

図版34

J 47号住居跡（北より）

同遺物出土状態

同炉跡

J 48号住居跡（西より）

同出土種子

同炉跡

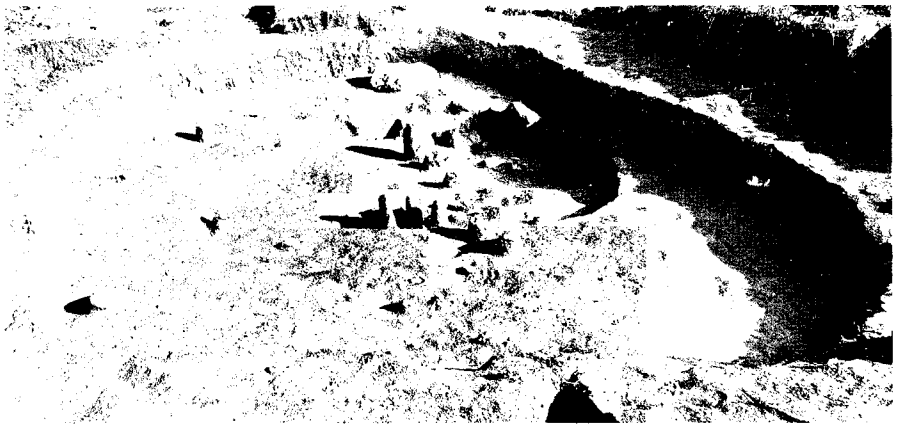
図版36

J 49号住居跡（東より）

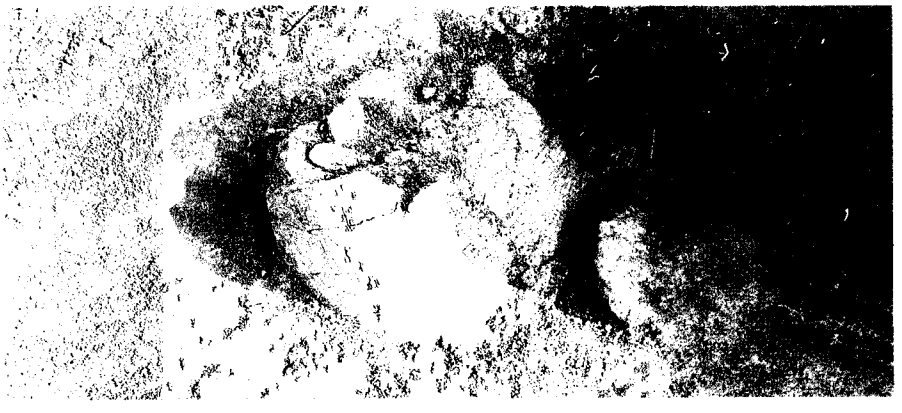
同炉跡 1 （奥側）

同炉跡 2 （手前側）

J 50号住居跡（西より）

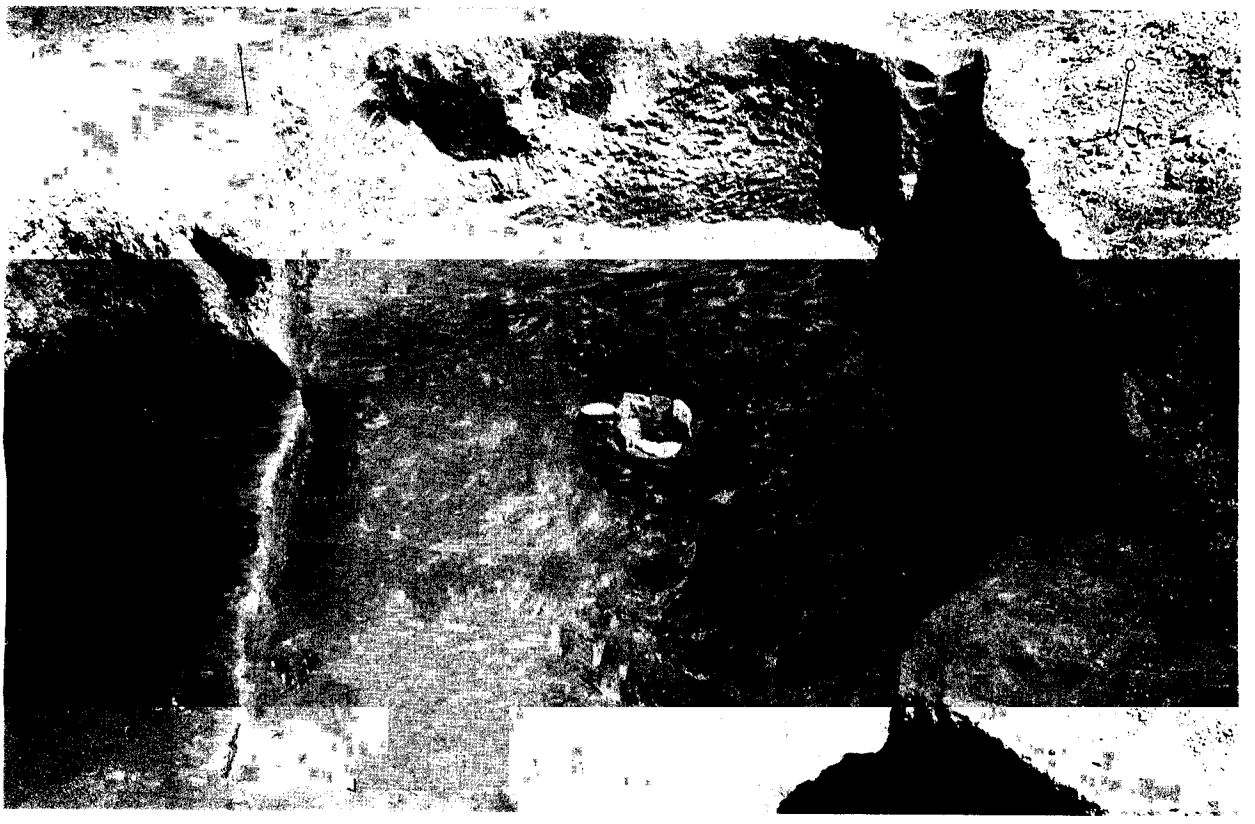


同遺物出土状態

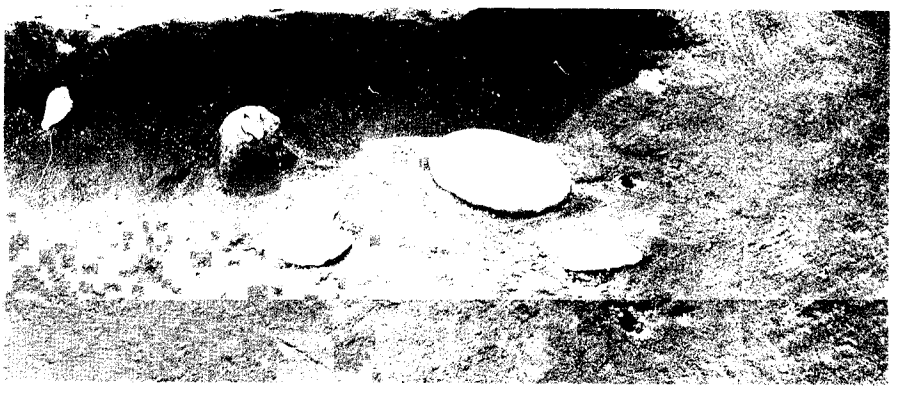


同土器出土状態

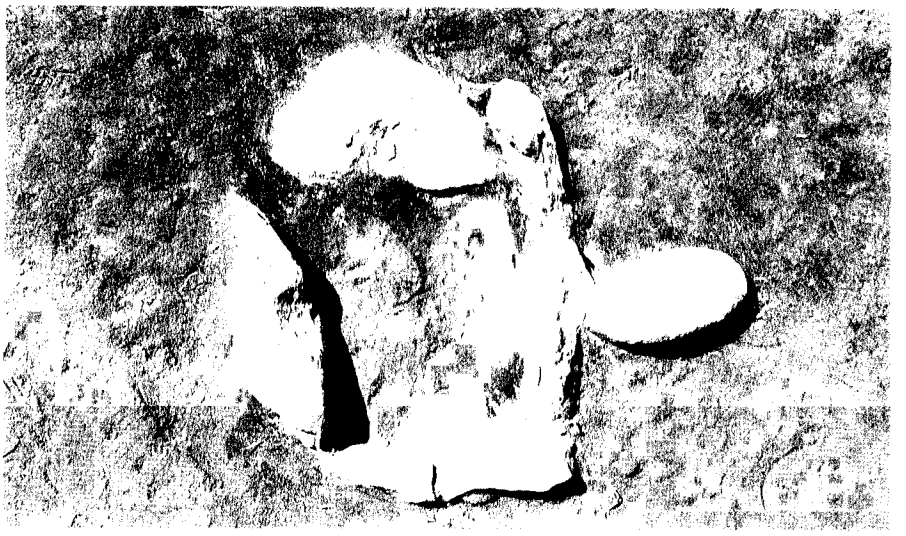
図版38



J 51号住居跡（南より）



同遺物出土状態



同炉跡

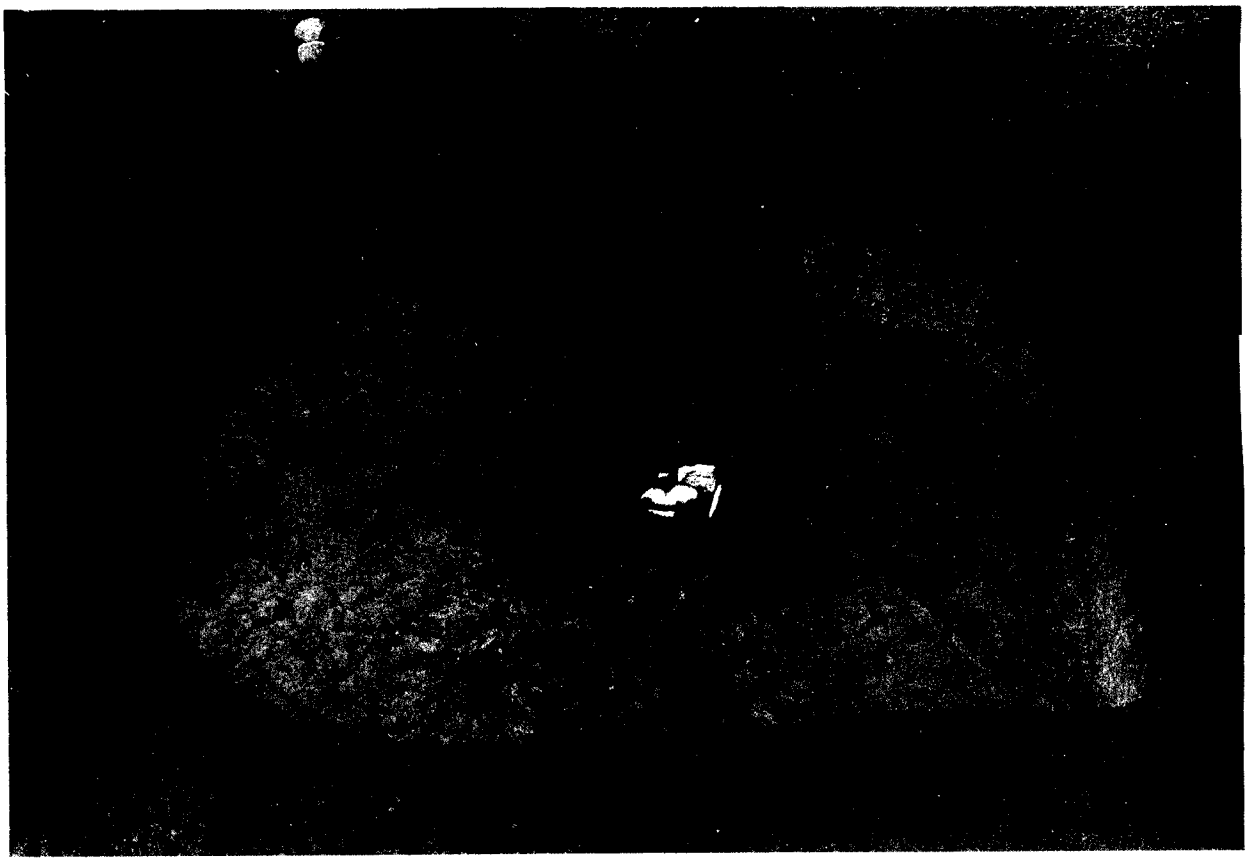
J 52号住居跡・J P138・139号土坑（北西より）

同遺物出土状態

図版40

J 53号住居跡（北より）

同炉跡



J 54号住居跡（東より）

同炉跡

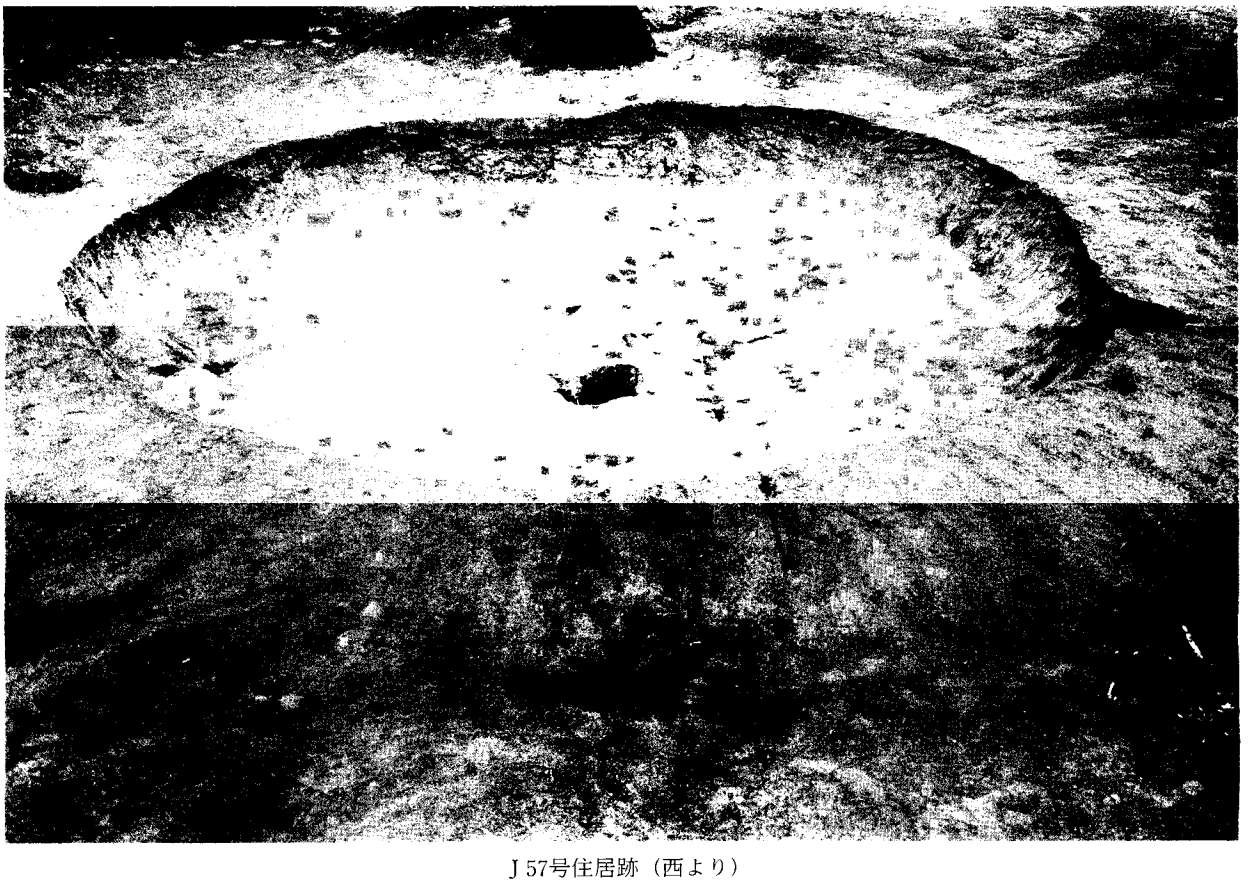
図版42

J 55号住居跡（西より）

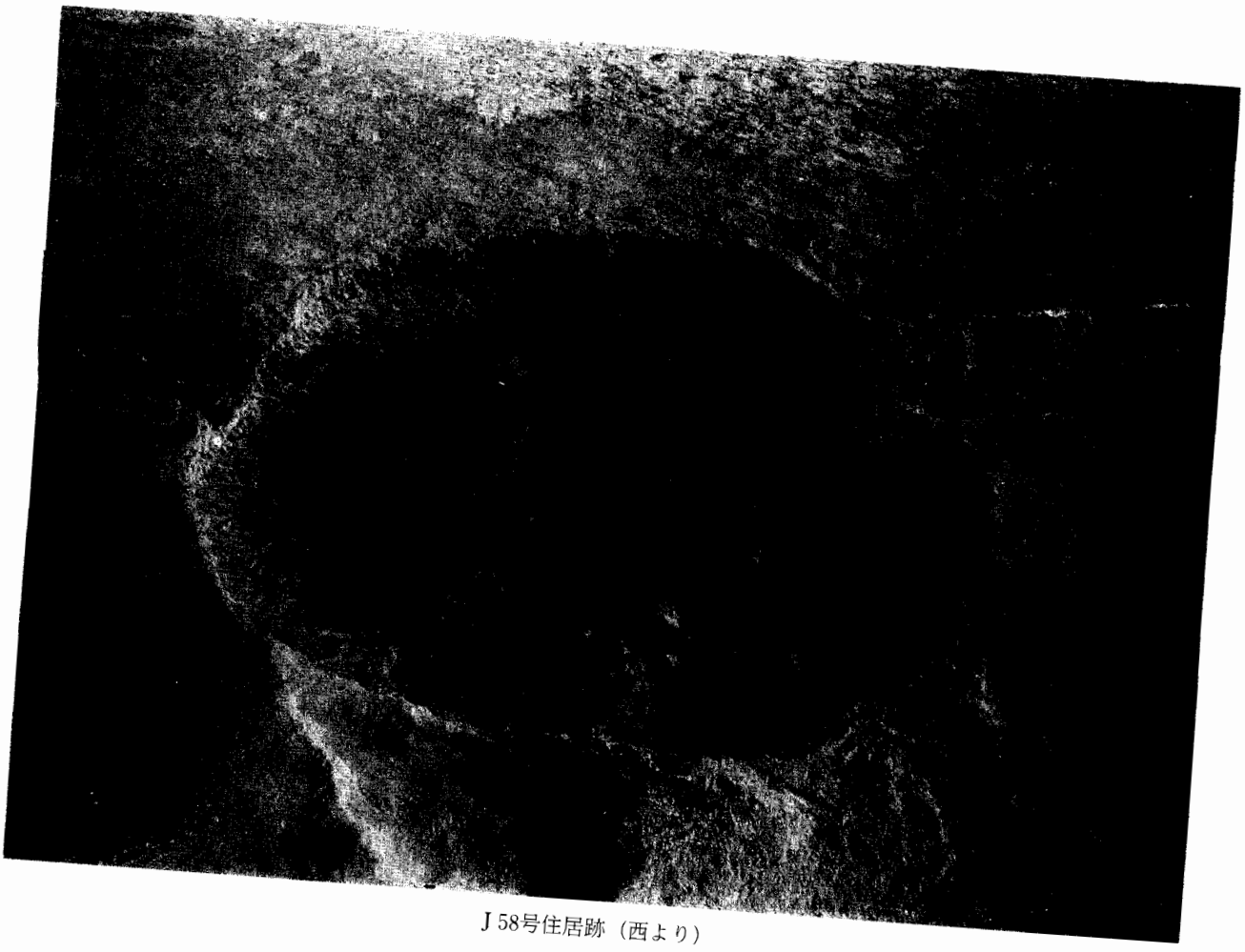
同遺物出土状態

同炉跡

J 56号住居跡（西北より）



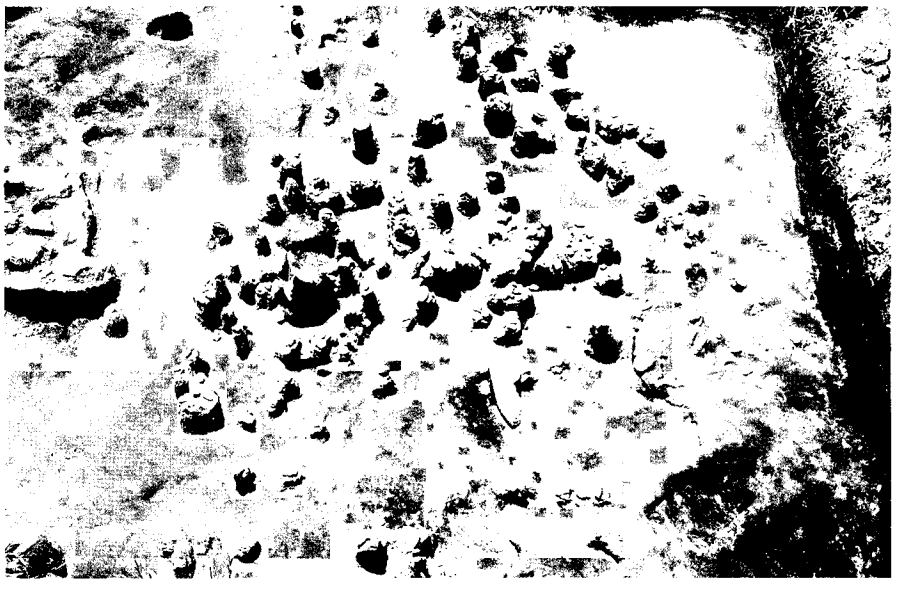
J 57号住居跡（西より）



J58号住居跡（西より）

ＪＳ１号配石遺構（北より）

ＪＳ２号配石遺構（北より）



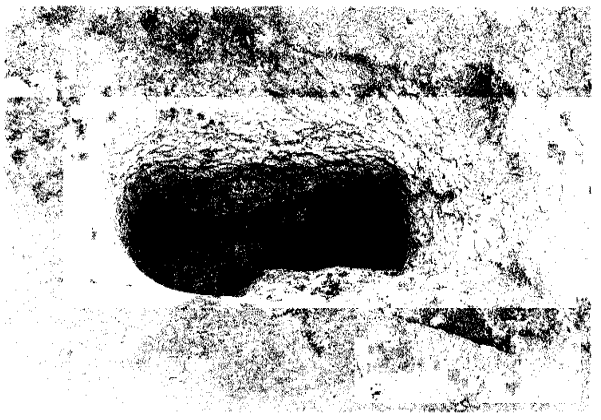
ＪＳ３号配石遺構（東より）

ＪＳ７号配石遺構（南東より）

図版46

ＪＰ１号土坑

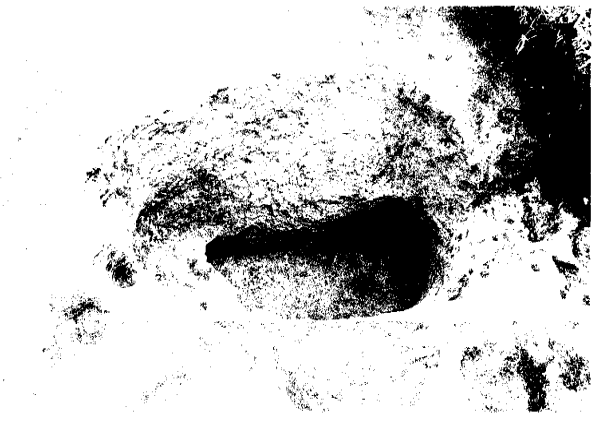
ＪＰ５号土坑



ＪＰ２号土坑

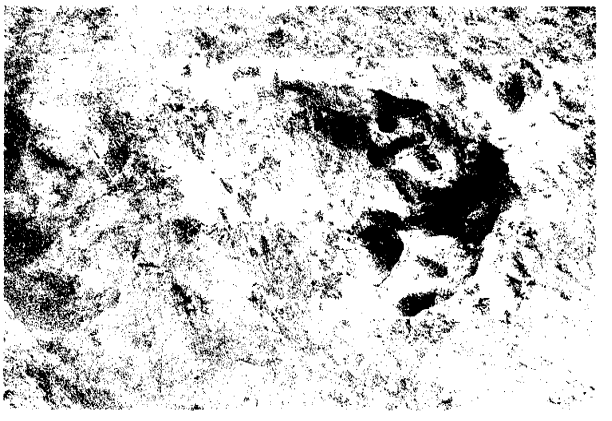
ＪＰ６号土坑

ＪＰ３号土坑

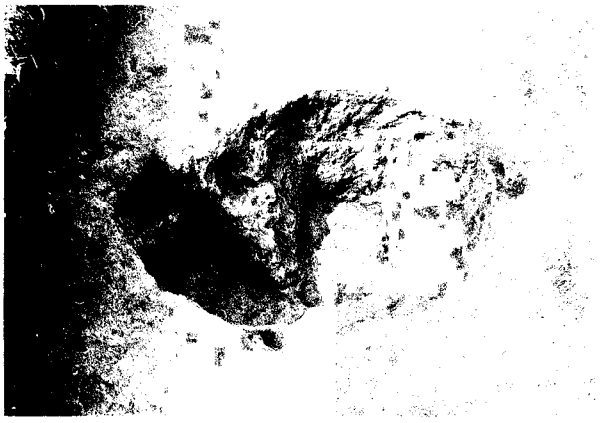


ＪＰ７号土坑

ＪＰ４号土坑



ＪＰ８号土坑

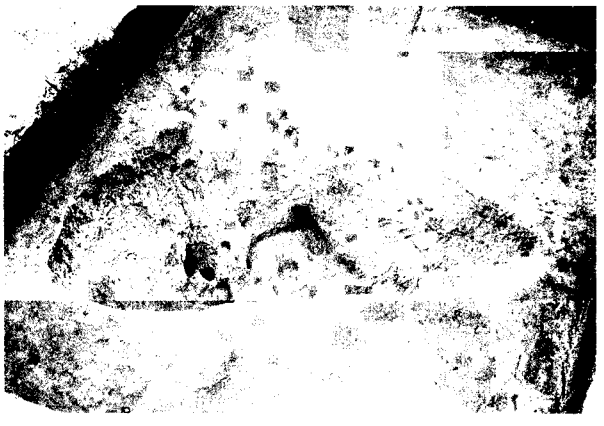


ＪＰ９(左)・117(右)号土坑

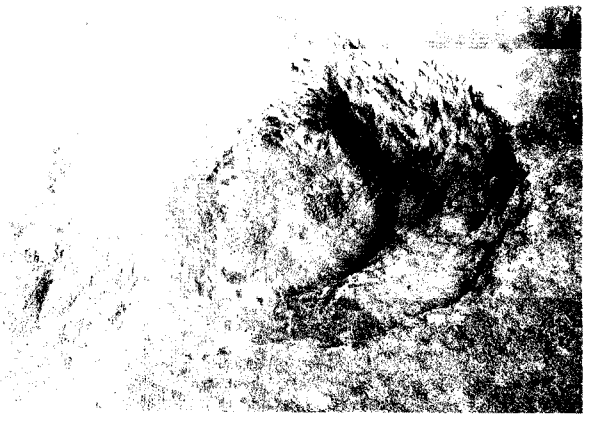
ＪＰ14号土坑

ＪＰ10(左)・11(右)号土坑

ＪＰ15号土坑

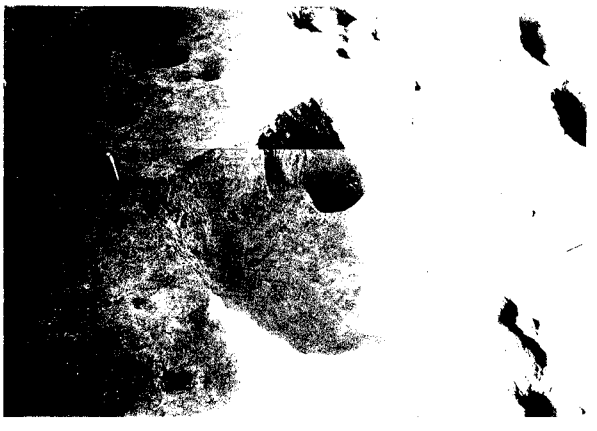


ＪＰ12号土坑



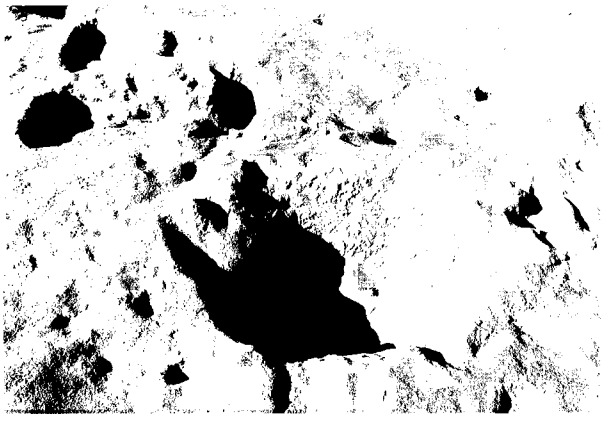
ＪＰ16－１号土坑

ＪＰ13号土坑



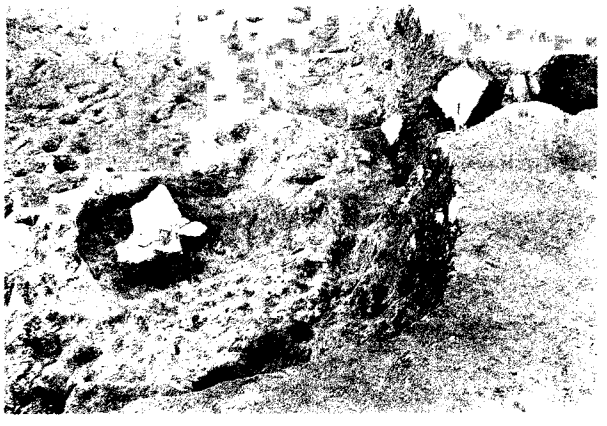
ＪＰ17号土坑

図版48



ＪＰ18(下)・108(上)号土坑

ＪＰ22号土坑

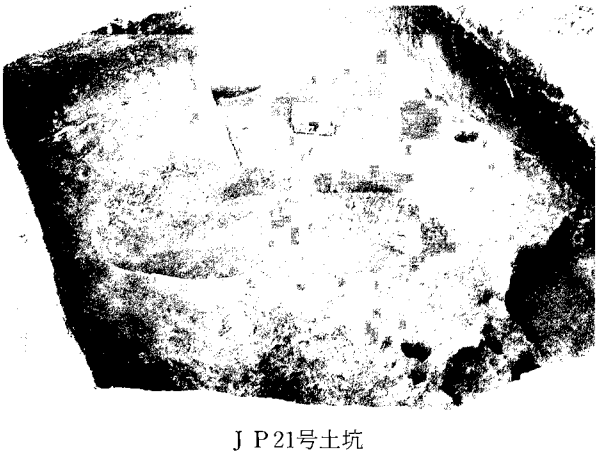


ＪＰ19号土坑

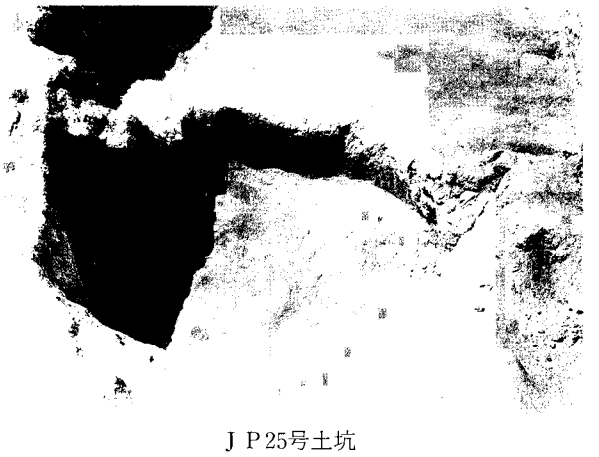
ＪＰ23号土坑

ＪＰ20号土坑

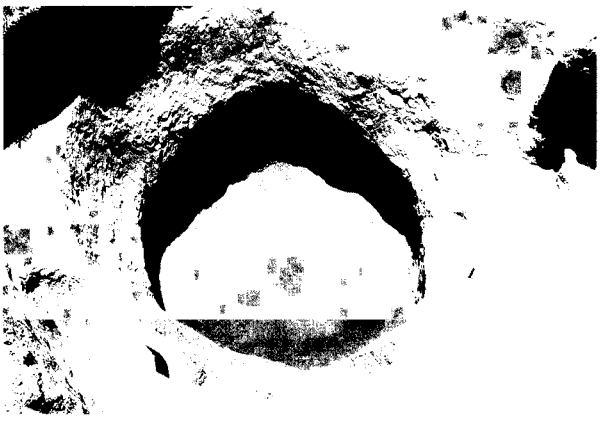
ＪＰ24号土坑



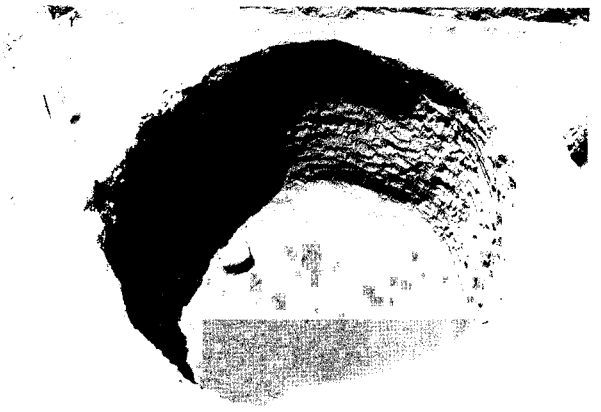
ＪＰ21号土坑



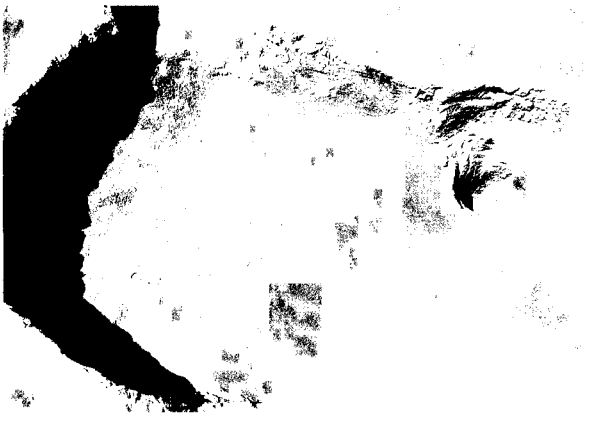
ＪＰ25号土坑



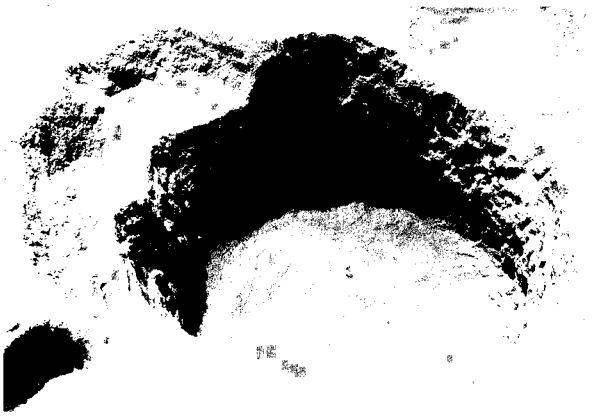
ＪＰ26号土坑



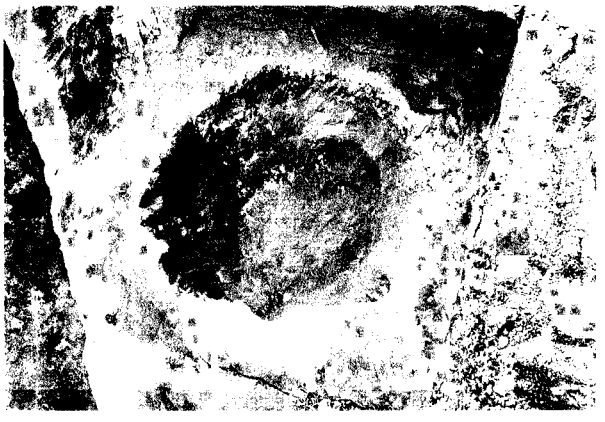
ＪＰ30号土坑



ＪＰ27号土坑

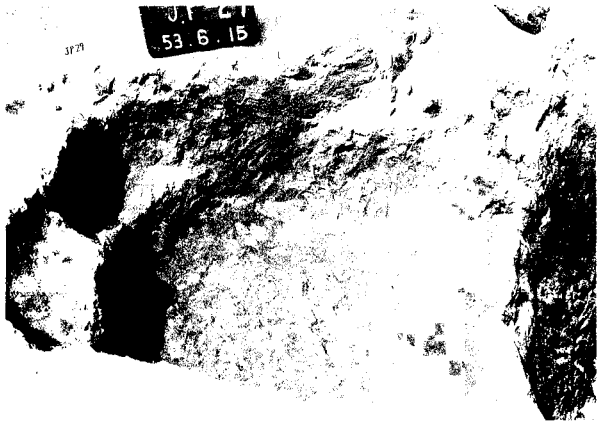


ＪＰ31号土坑



ＪＰ28号土坑

ＪＰ32号土坑

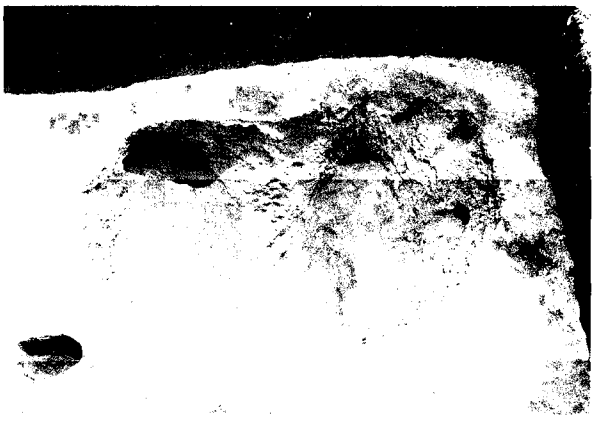


ＪＰ29号土坑

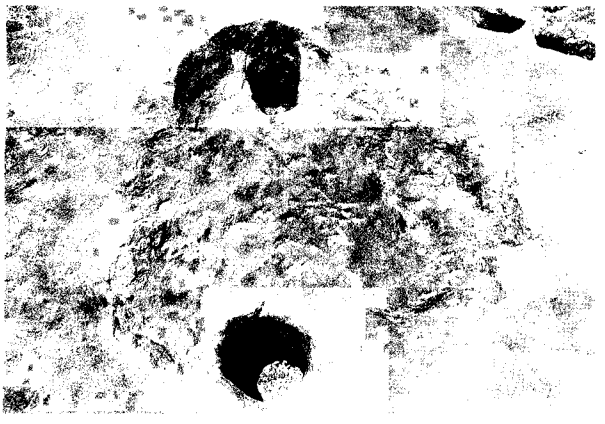
ＪＰ33号土坑

図版50

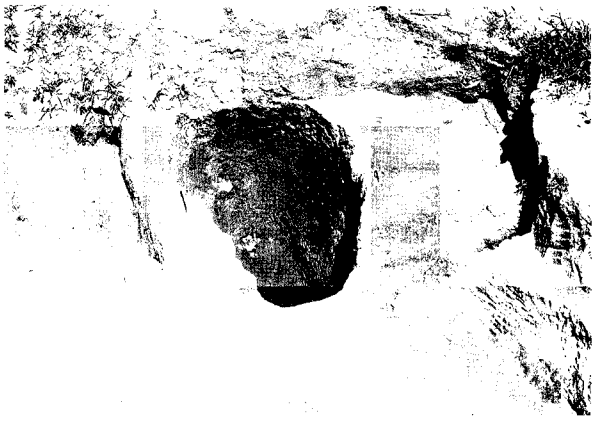
ＪＰ34号土坑



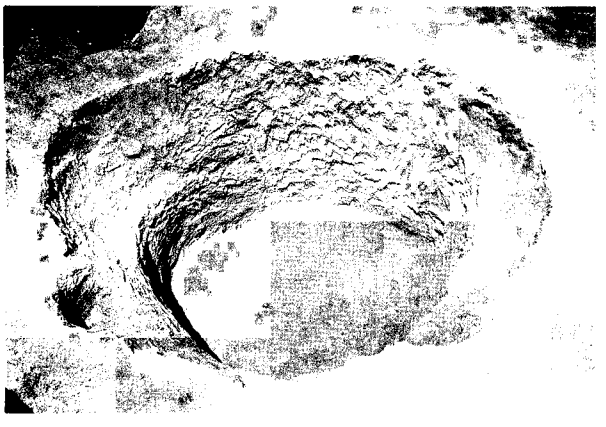
ＪＰ38号土坑



ＪＰ35(中央)・109(下)号土坑



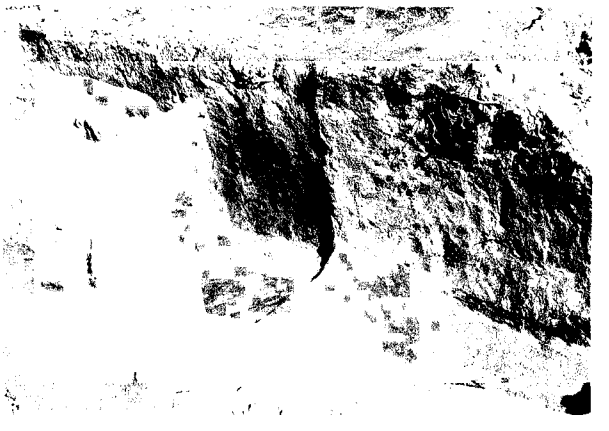
ＪＰ39号土坑



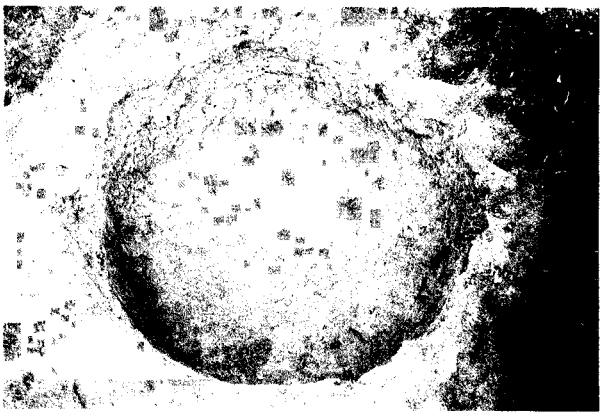
ＪＰ36号土坑

ＪＰ40号土坑

ＪＰ37号土坑



ＪＰ41号土坑

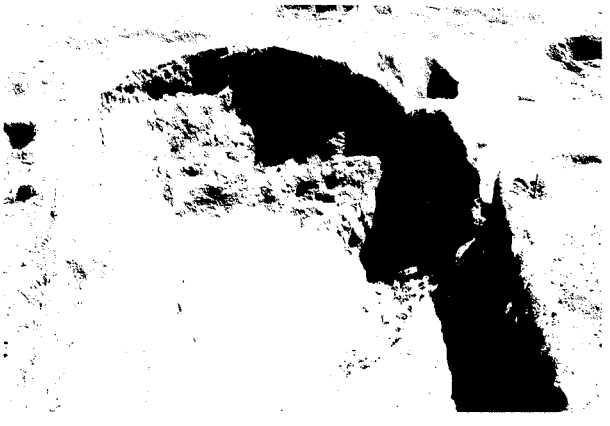


ＪＰ42号土坑

ＪＰ46(上)・110(下)号土坑

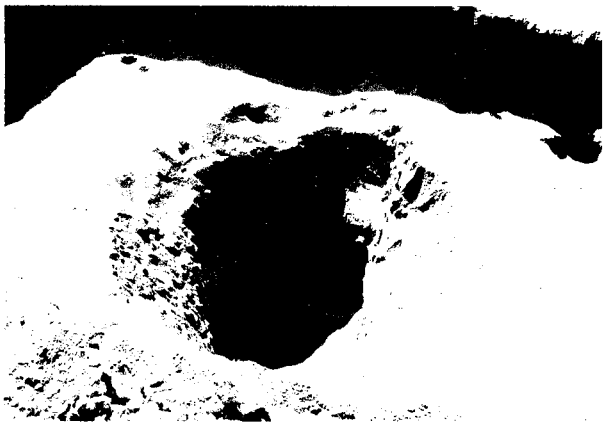
ＪＰ43号土坑

ＪＰ47号土坑



ＪＰ44号土坑

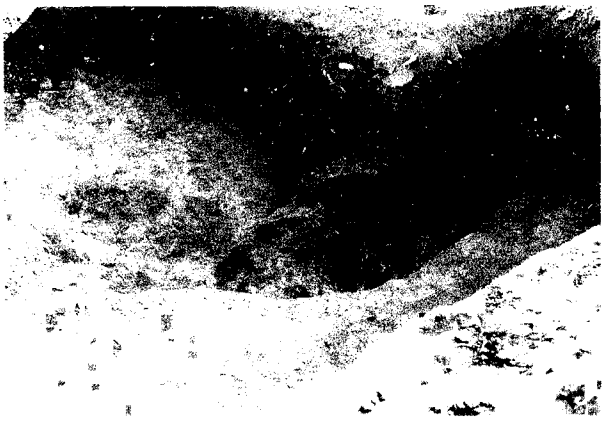
ＪＰ48号土坑



ＪＰ45号土坑

ＪＰ49号土坑

図版52



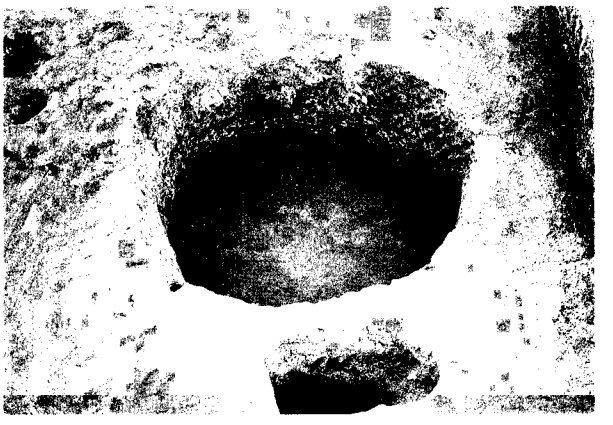
ＪＰ50号土坑

ＪＰ54号土坑

ＪＰ51号土坑

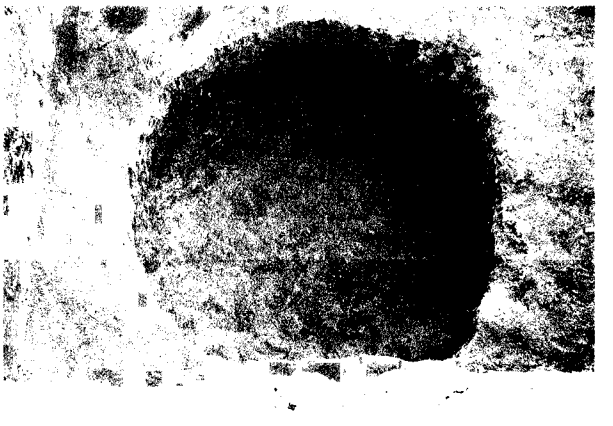
ＪＰ55号土坑

ＪＰ52号土坑

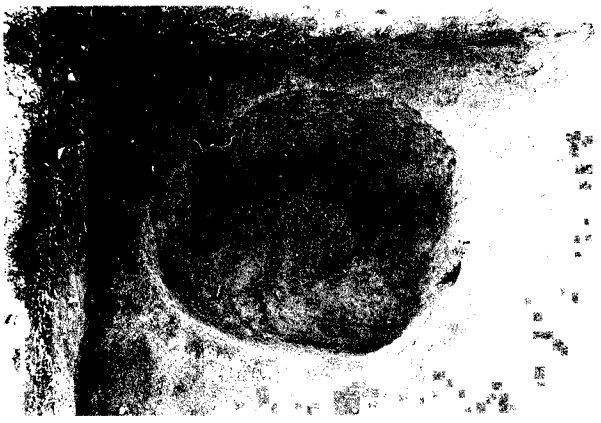


ＪＰ56号土坑

ＪＰ53号土坑

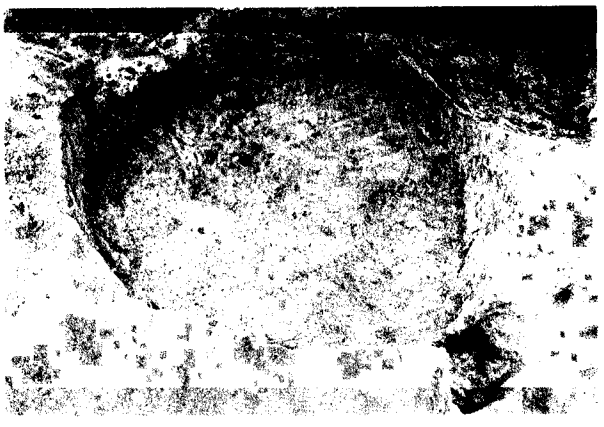


ＪＰ57号土坑



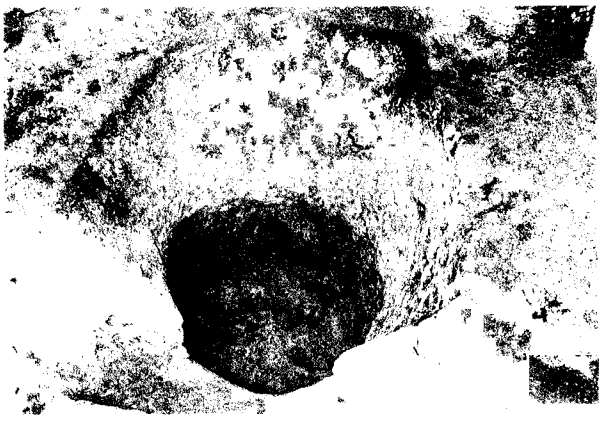
J P59号土坑

J P63号土坑

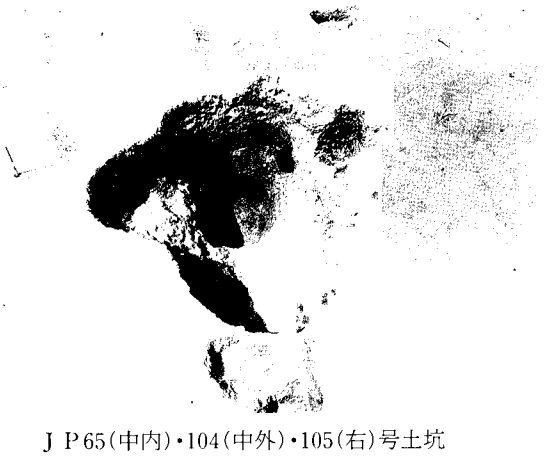


J P60号土坑

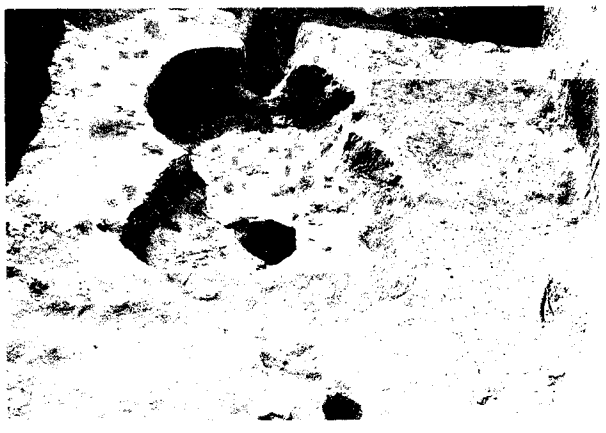
J P64号土坑



J P61号土坑



J P65(中内)・104(中外)・105(右)号土坑

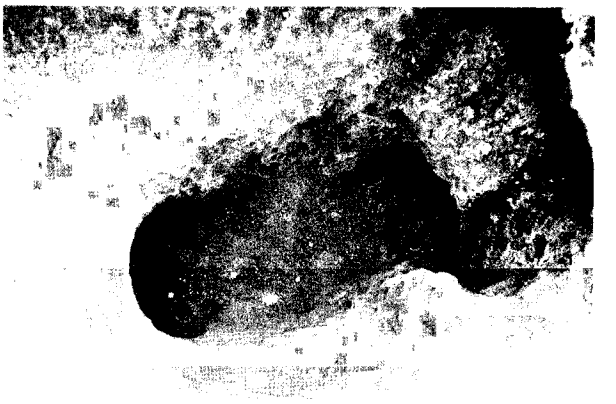


J P58(下)・62(上)号土坑

J P66号土坑

図版54

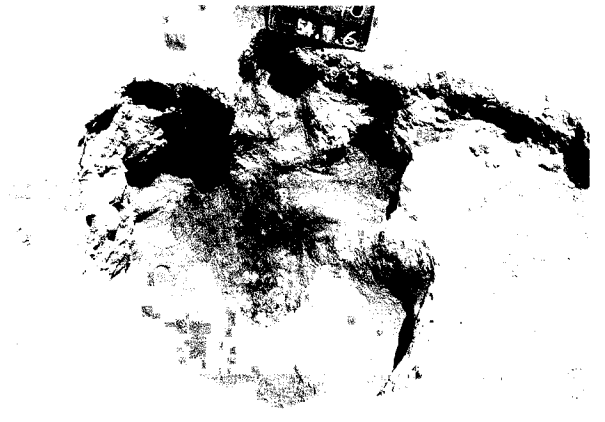
ＪＰ67号土坑



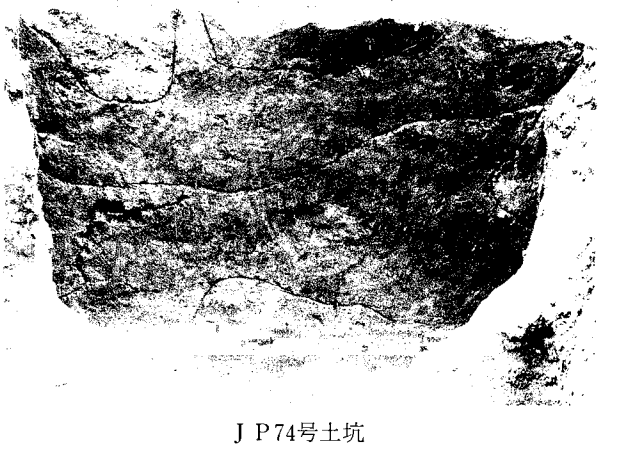
ＪＰ72号土坑

ＪＰ69号土坑

ＪＰ73号土坑

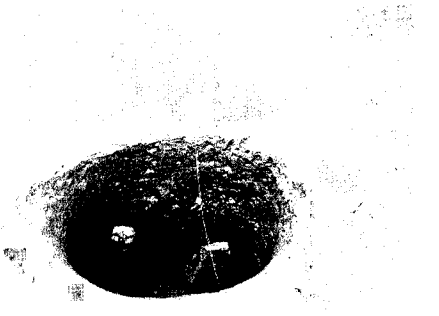


ＪＰ70号土坑



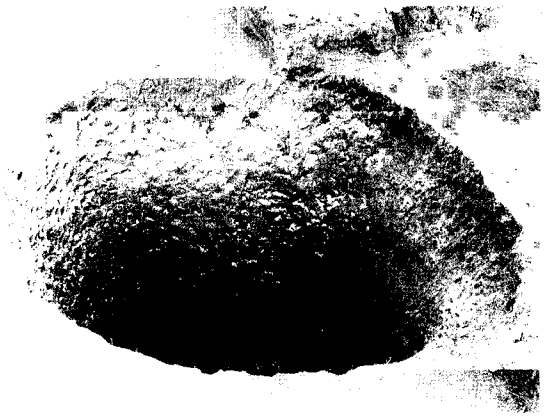
ＪＰ74号土坑

ＪＰ71号土坑



ＪＰ75号土坑

ＪＰ76号土坑



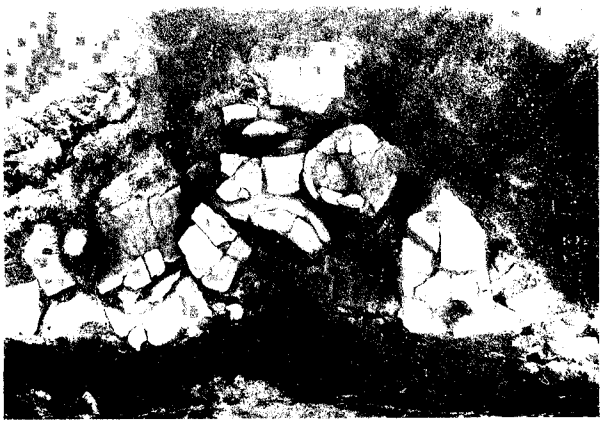
ＪＰ79号土坑

ＪＰ77号土坑

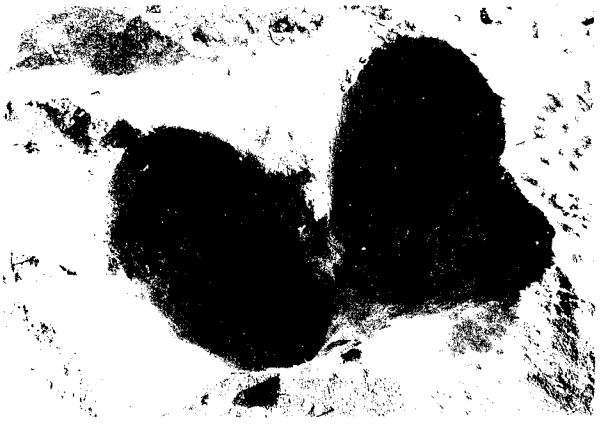
ＪＰ80号土坑

ＪＰ78号土坑

ＪＰ81号土坑



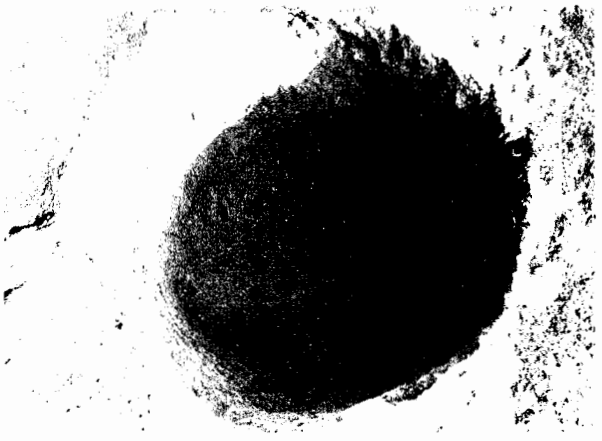
同遺物出土状態



ＪＰ82(右)・83(左)号土坑

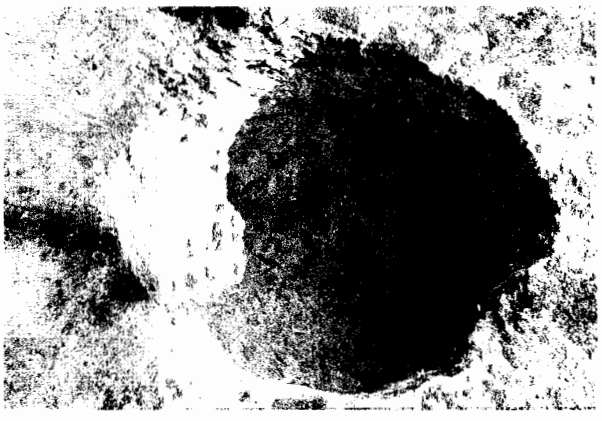
図版56

ＪＰ84号土坑



ＪＰ88号土坑

ＪＰ85号土坑



ＪＰ89号土坑

ＪＰ86号土坑

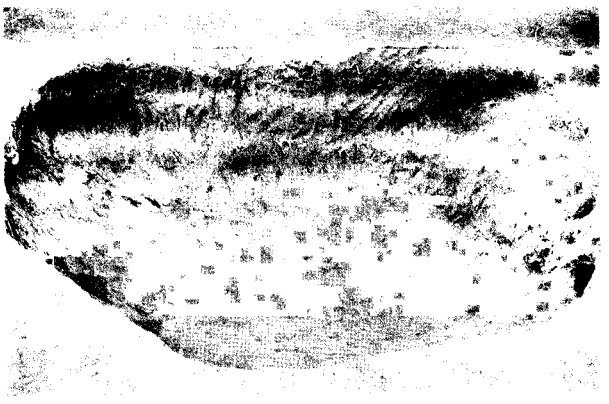
ＪＰ91号土坑

ＪＰ87号土坑

ＪＰ93号土坑

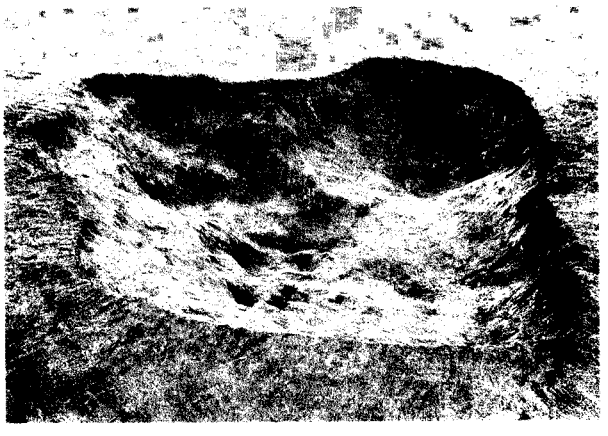
ＪＰ94号土坑

ＪＰ113号土坑



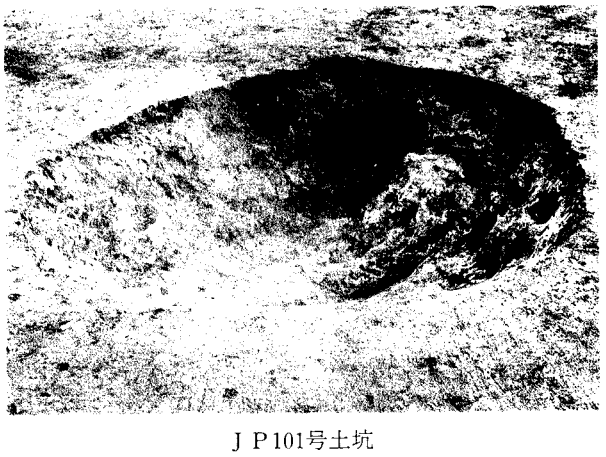
ＪＰ99号土坑

ＪＰ114号土坑

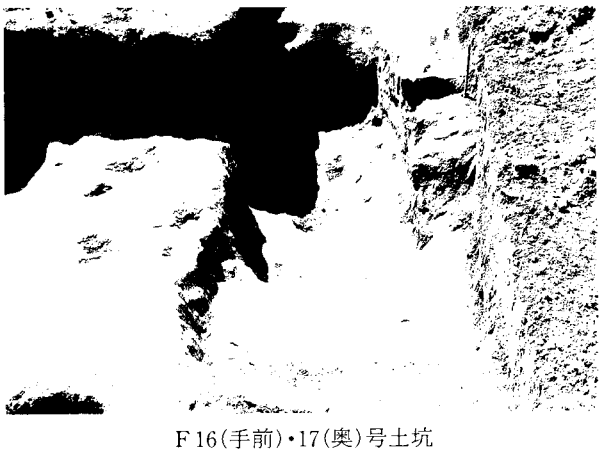


ＪＰ100号土坑

Ｆ13(中央)・14(左)号土坑



ＪＰ101号土坑

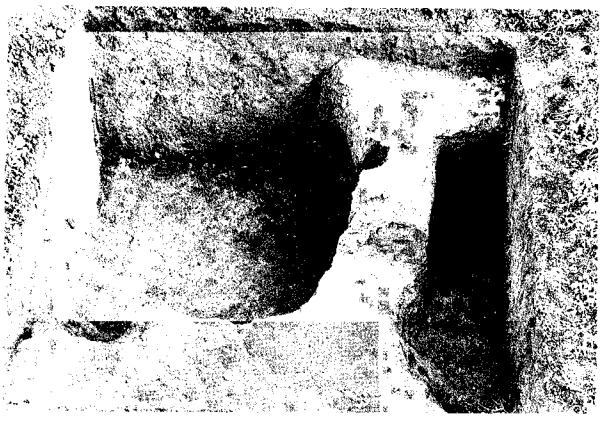


Ｆ16(手前)・17(奥)号土坑

図版58

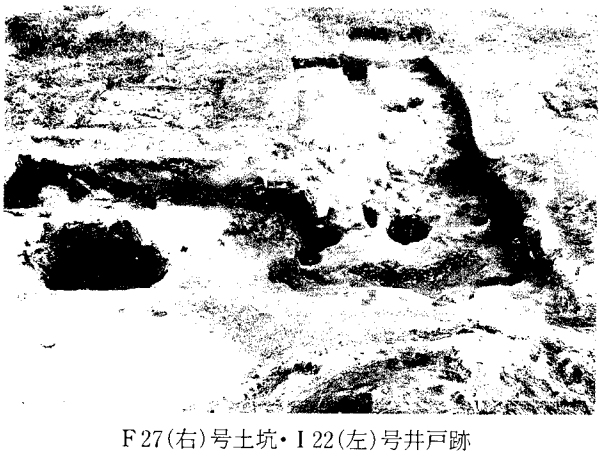
F21(右)・22(左)号土坑

F30(右手前)・31(右奥)・32(左奥)号土坑



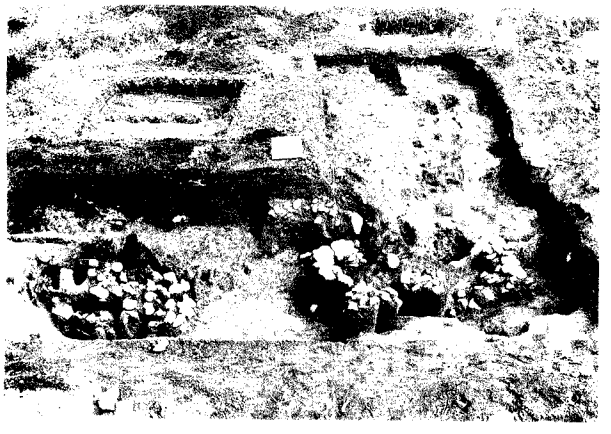
F23(左)・24(右)号土坑

F33(左)・37(右奥)号土坑



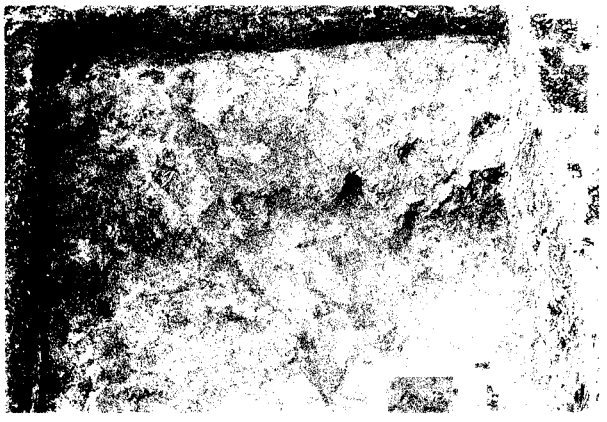
F27(右)号土坑・I22(左)号井戸跡

F40(右奥)・41(左手前)号土坑



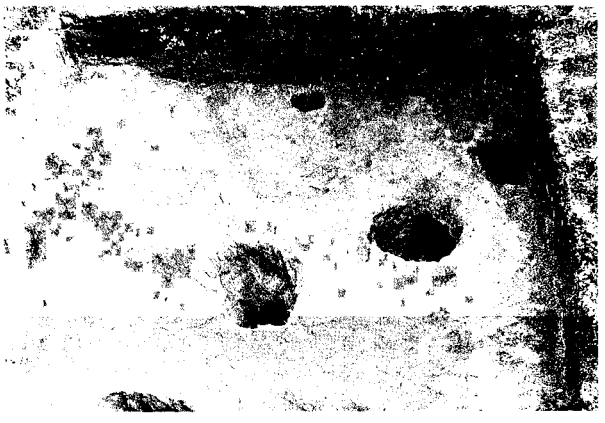
同遺物出土状態

F42号土坑



F 43号土坑

F 47号土坑



F 44(奥)号土坑

F 48号土坑

F 45(奥断面)号土坑

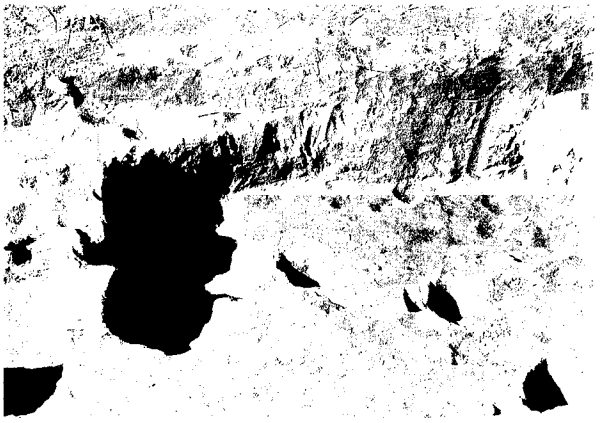
F 49(中央)・50(左)号土坑

F 46号土坑

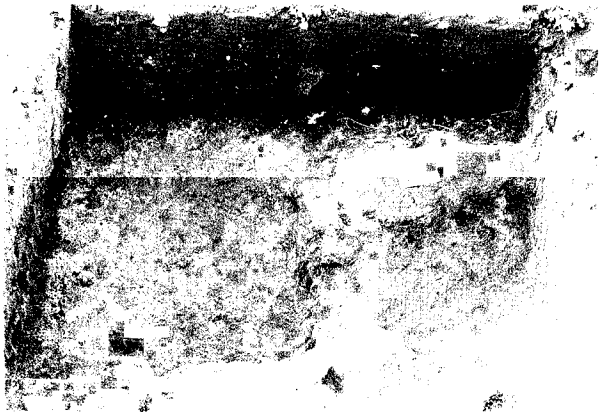
F 51(左奥)・52(右手前)号土坑

図版60

F53号土坑



F61号土坑

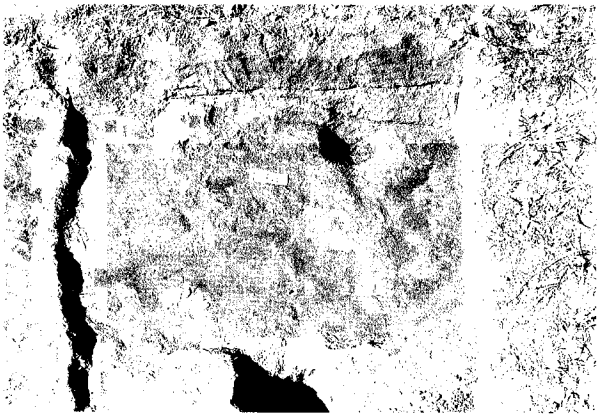


F54(左)・55(中央)・56(右)号土坑

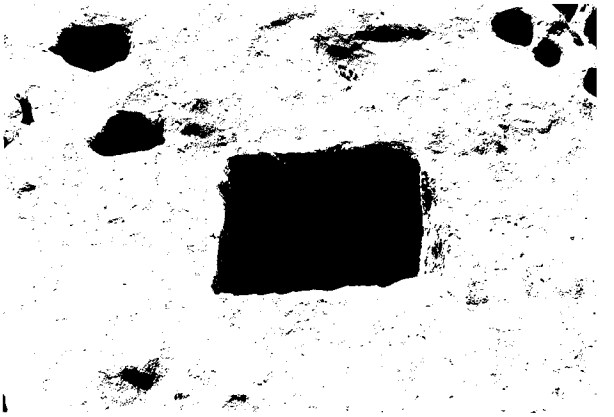
F62号土坑

F57(左手前)・58(左奥)・59(右)号土坑

F63号土坑



F60号土坑

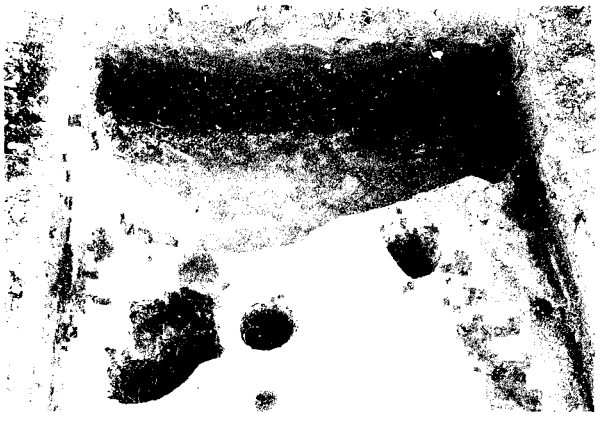


F64号土坑

F 60(左)・61・62(左奥)63・64号(右)土坑

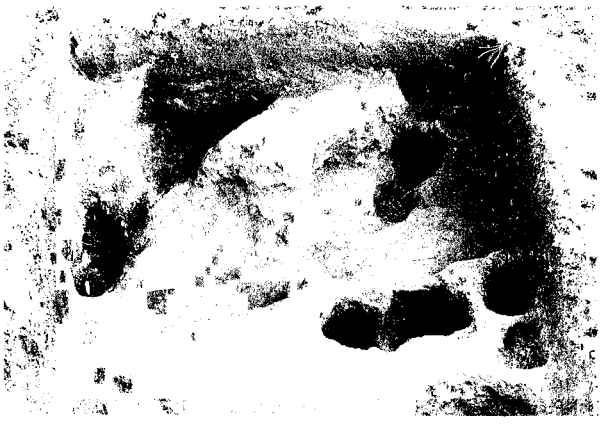
F 66号土坑

F 65号土坑



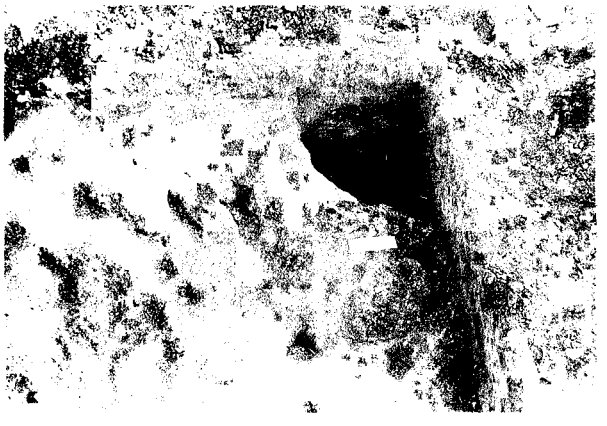
F 67号土坑

F 65(中央左)・66号(右手前)号土坑・W15(中央)号溝跡



F 68(右)・69(左)号土坑

同遺物出土状態

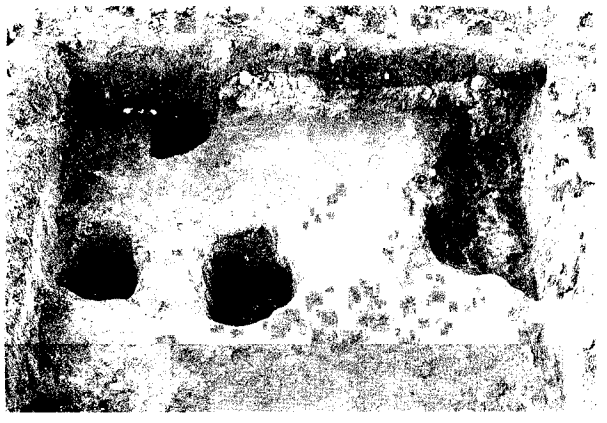


F 70号土坑

図版62

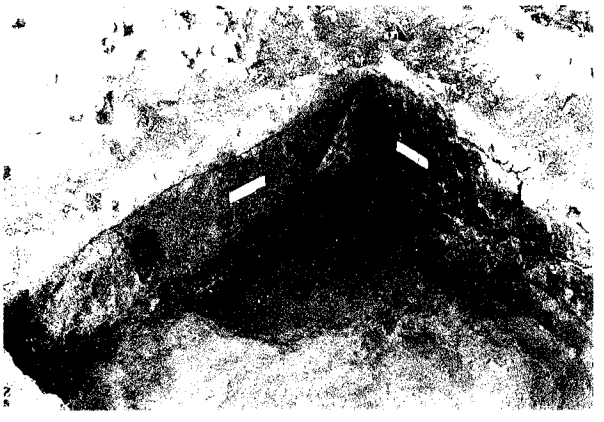
F71号土坑

F76号土壙（人骨出土）

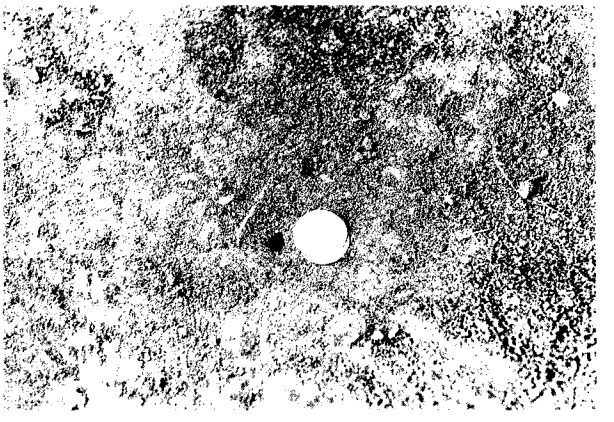


F72号土坑

F77号土壙（人骨出土）

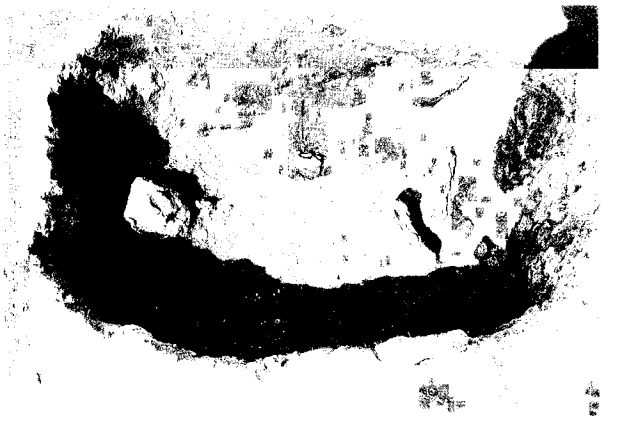


F39(左)・73(右)号土坑



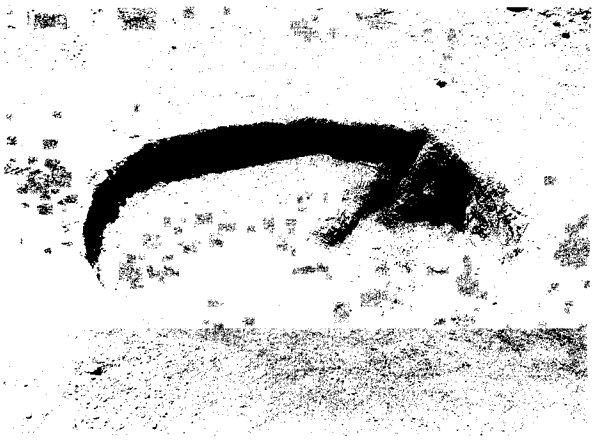
同出土古銭

F75号土坑



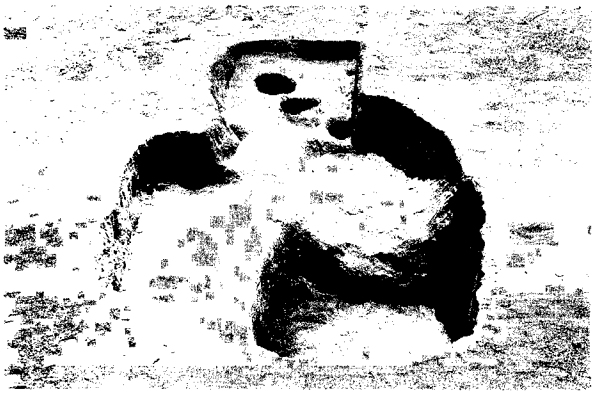
F80号土坑

F81号土坑



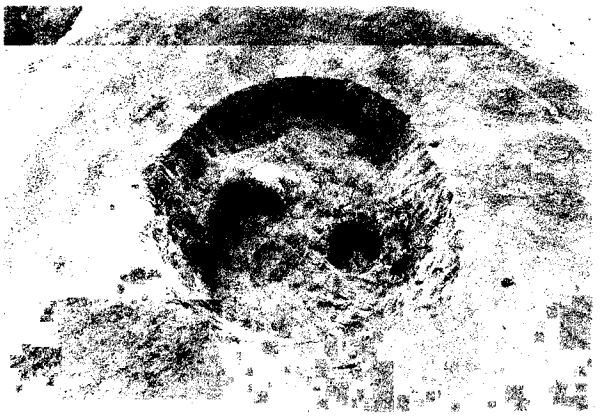
F86号土坑

F81号土坑土層断面

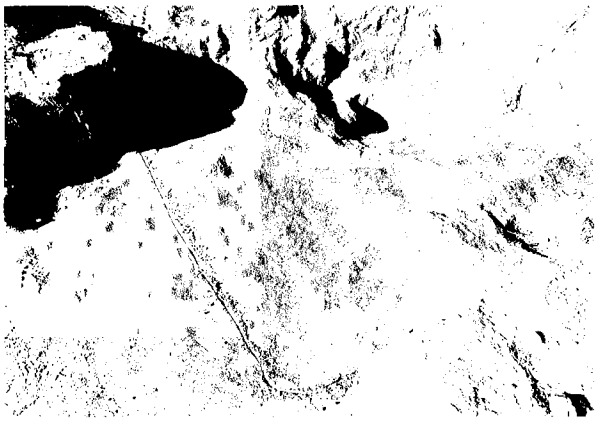


F87号土坑

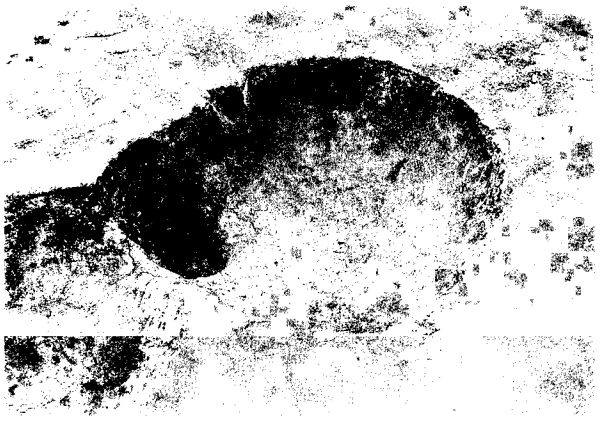
F83号土壙



F93号土坑



F85号土坑



F94号土坑

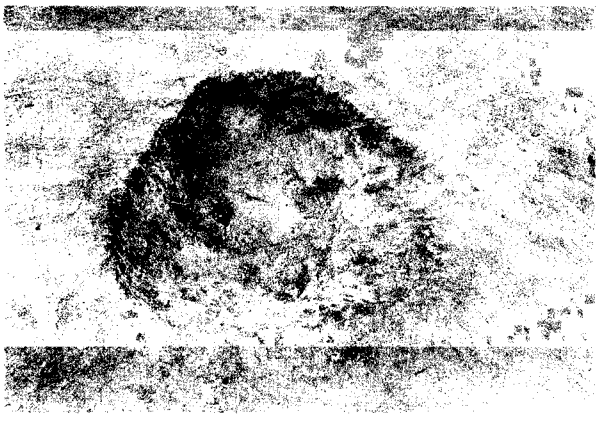
図版64

F95号土坑

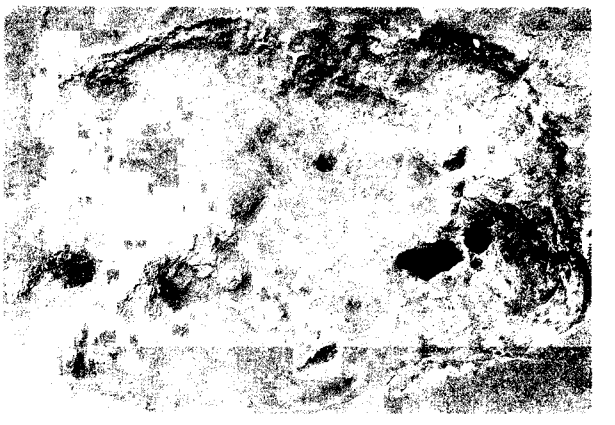
F112号土坑

F96(右)・97(左)号土坑

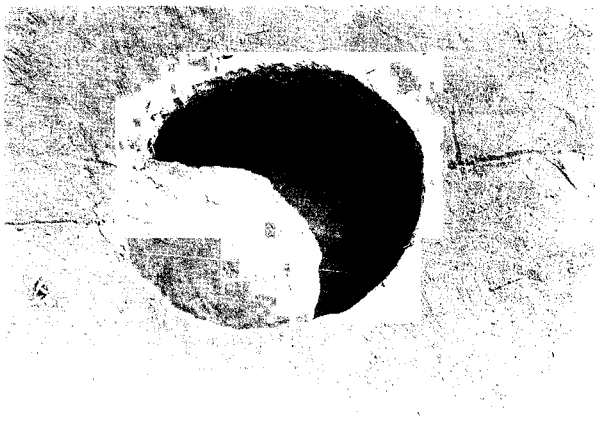
F116号土坑



F98号土坑

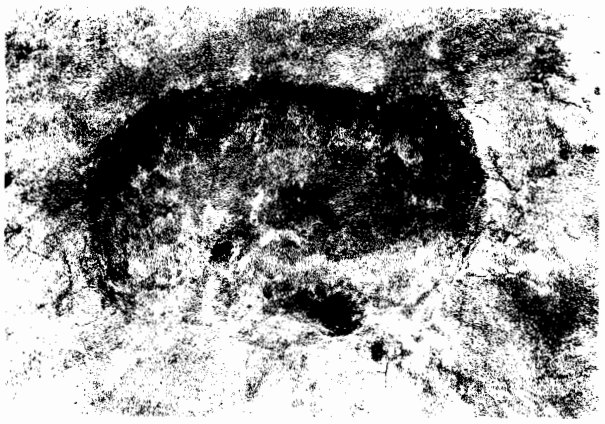


F117号土坑

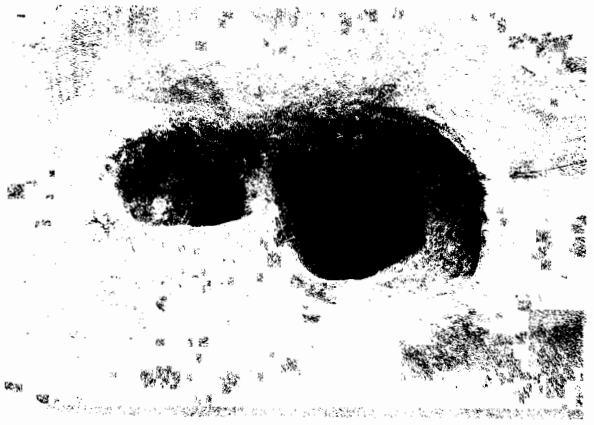


F109号土坑

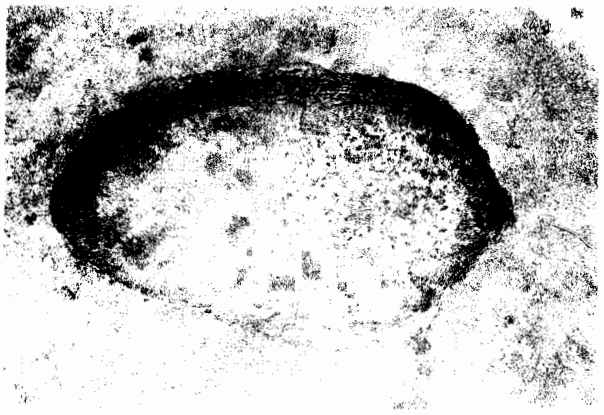
F118号土坑



F121号土坑



F137号土坑



F123号土坑

F140号土坑

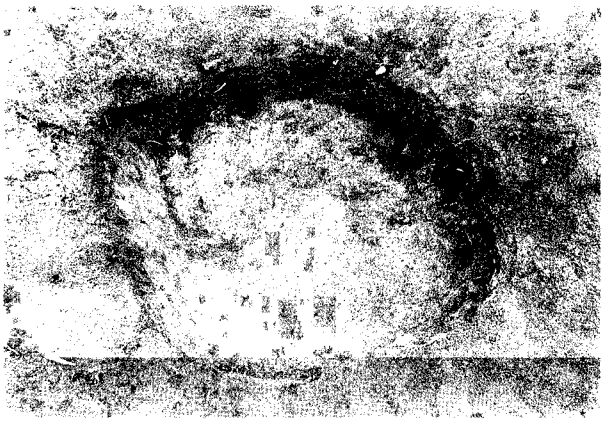
F134号土坑

F141号土坑

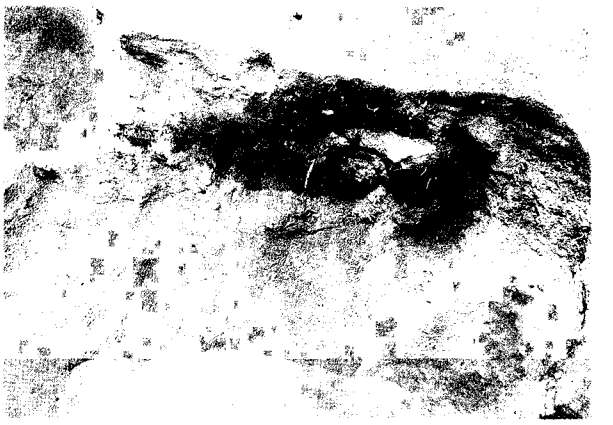
F135号土坑

F142号土坑

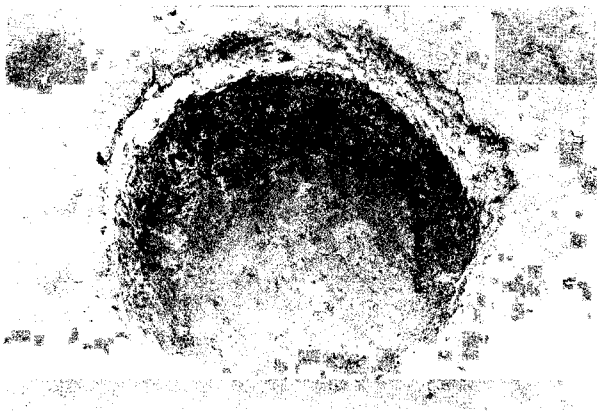
図版66



F143号土坑

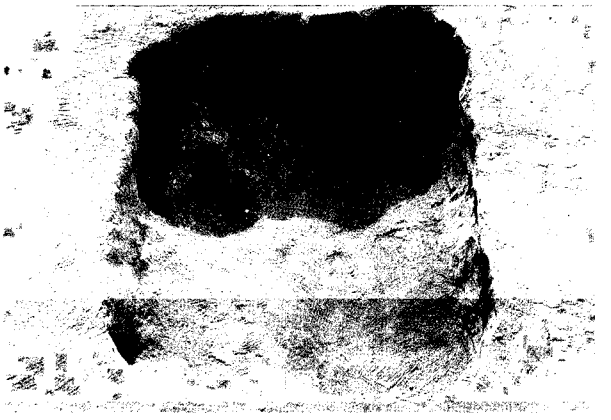


F149号土坑



F144号土坑

F150号土坑

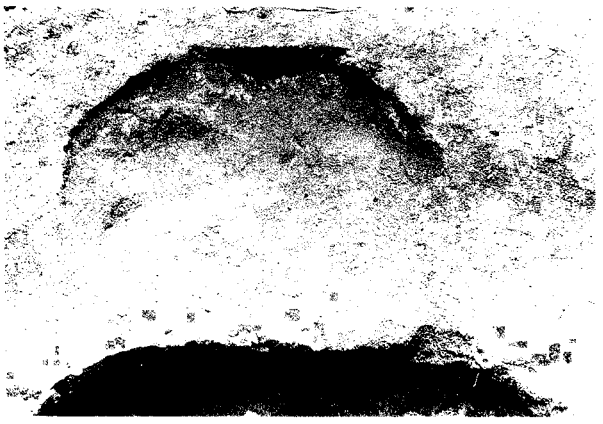


F147号土坑

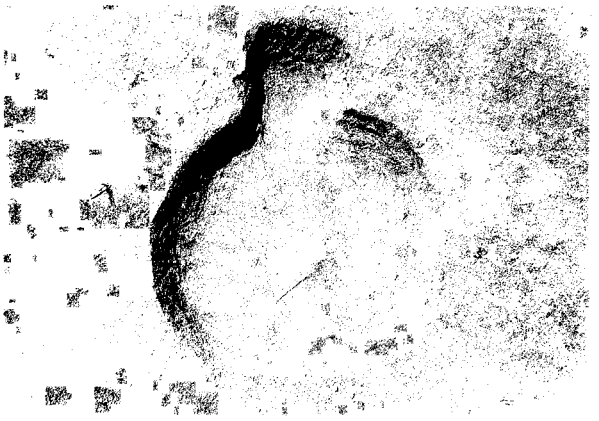
F152号土坑

F148号土坑

F157号土坑

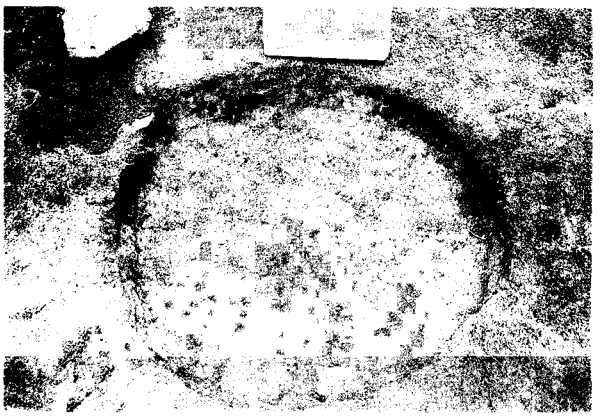


F 162号土坑



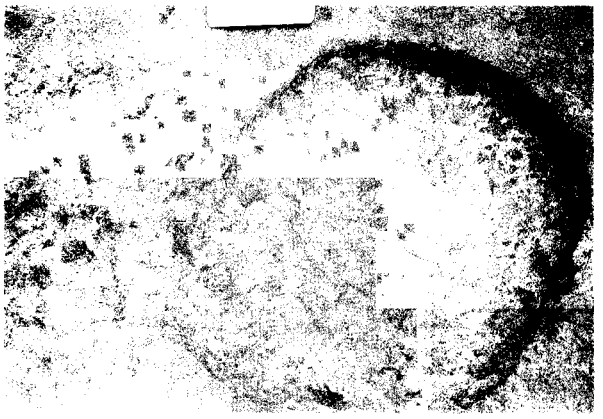
F 187号土坑

F 163号土坑

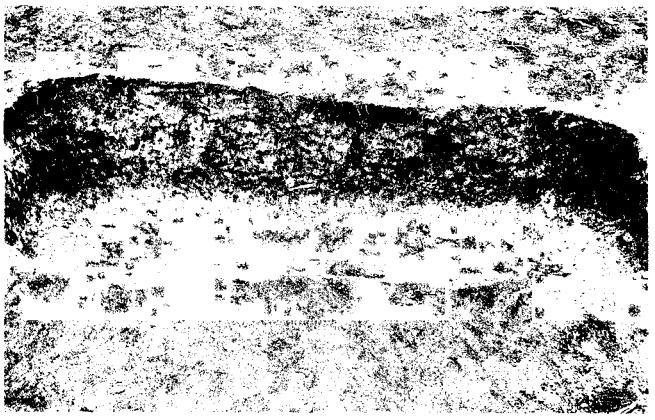


F 195号土坑

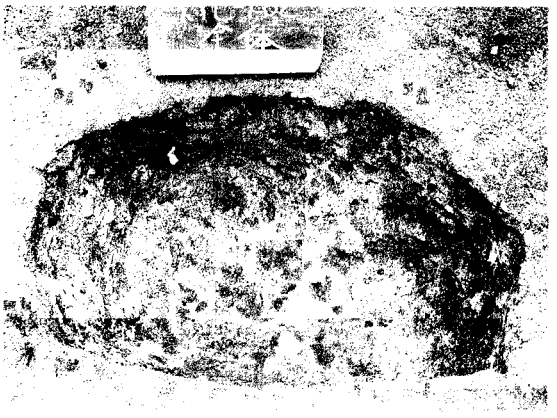
F 168号土坑



F 200(右)・201(左)号土坑

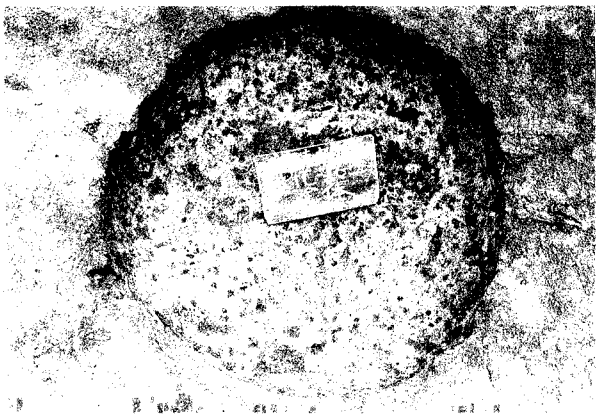


F 185号土坑

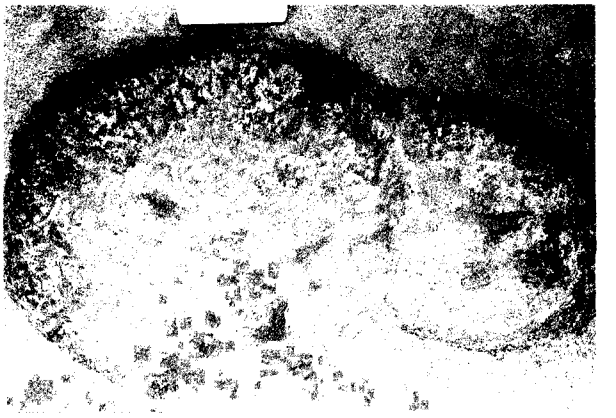


F 202土坑

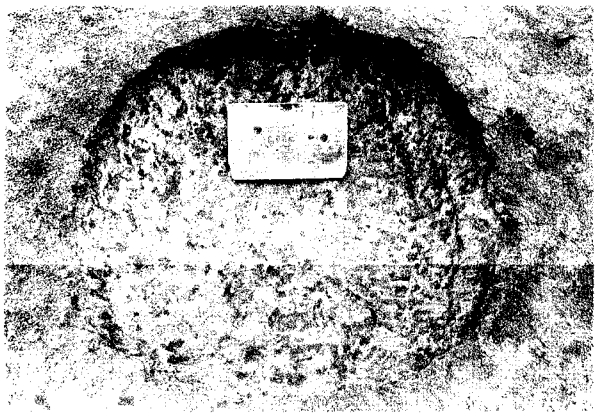
図版68



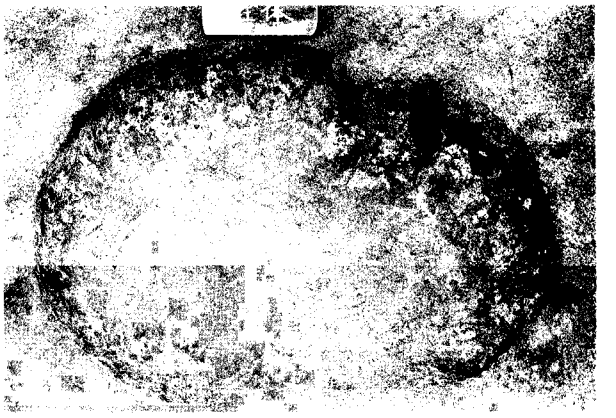
F 205号土坑



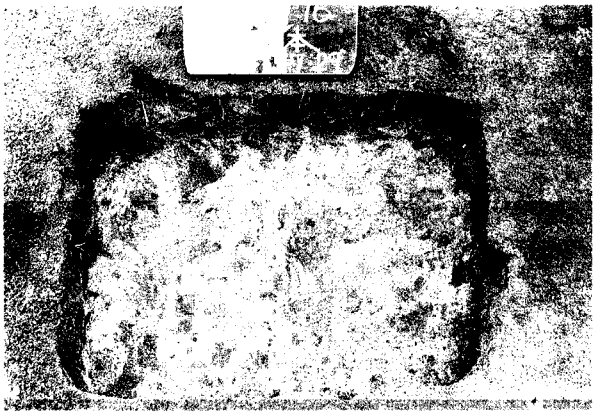
F 224(左)・225(右)号土坑



F 208号土坑

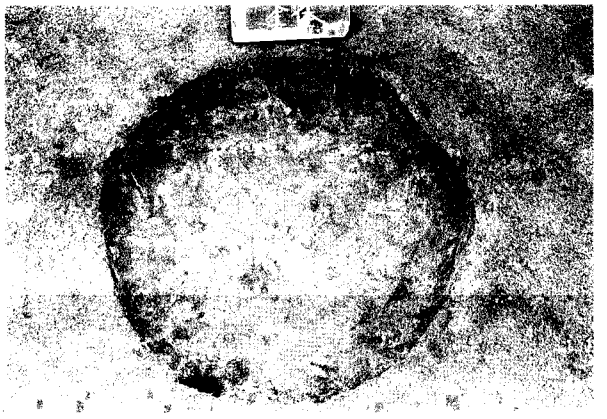


F 226号土坑

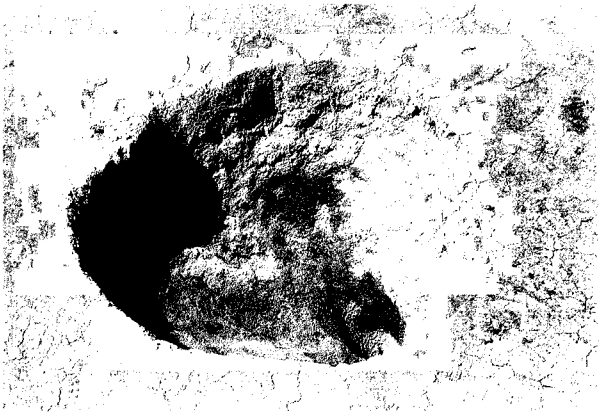


F 215号土坑

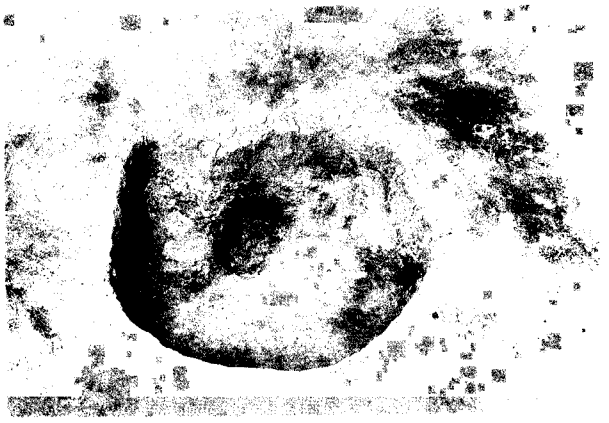
F 231号土坑



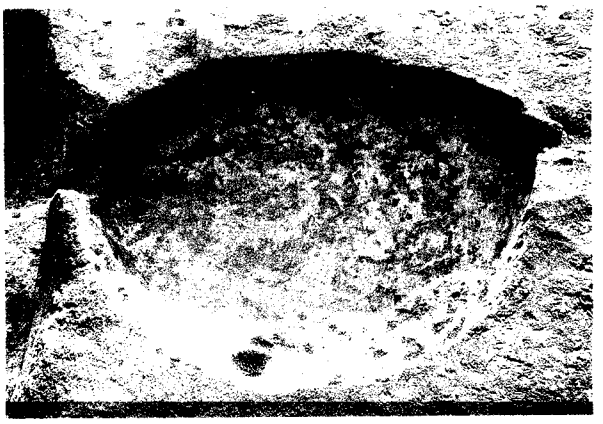
F 222号土坑



F 233号土坑

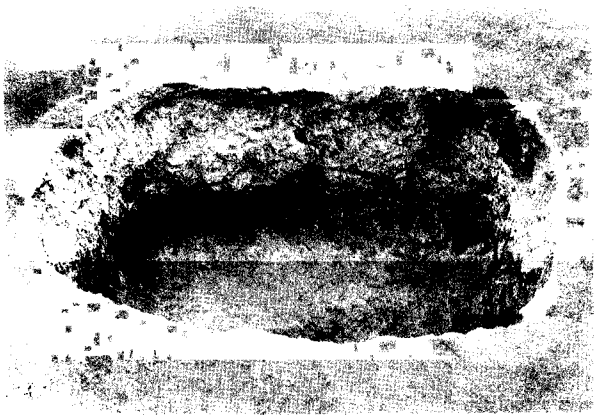


F 234号土坑



F 244号土坑

F 235号土坑



F 245号土坑

F 236号土坑

F 246号土坑

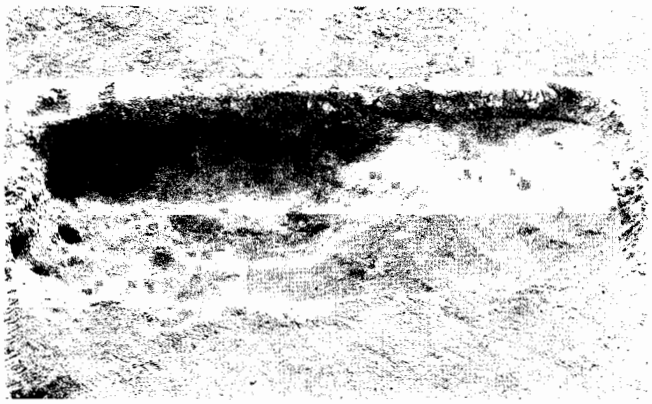
F 241号土坑

F 247号土坑

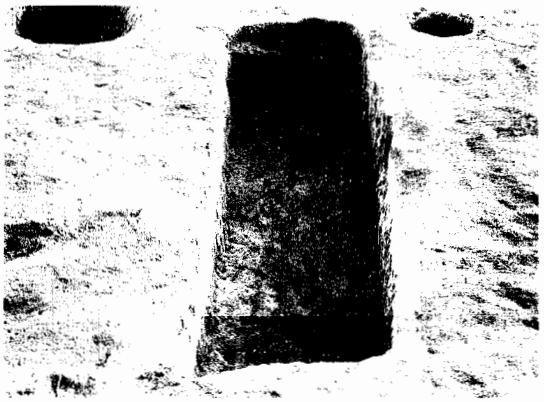
図版70

F 248号土坑

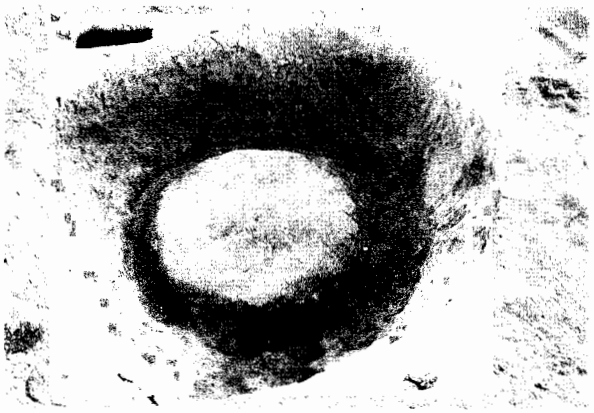
F 254(上)・255(左)号土坑



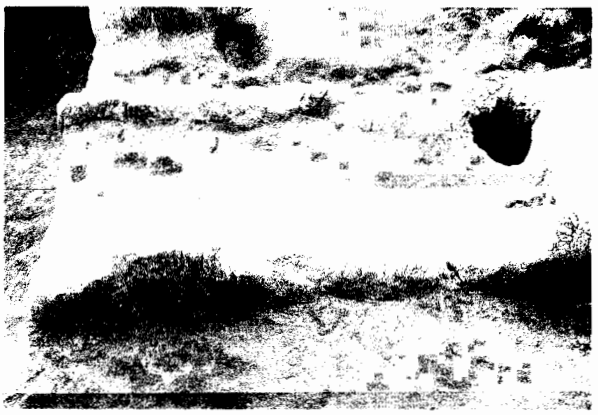
F 251号土坑



F 256号土坑



F 252号土坑

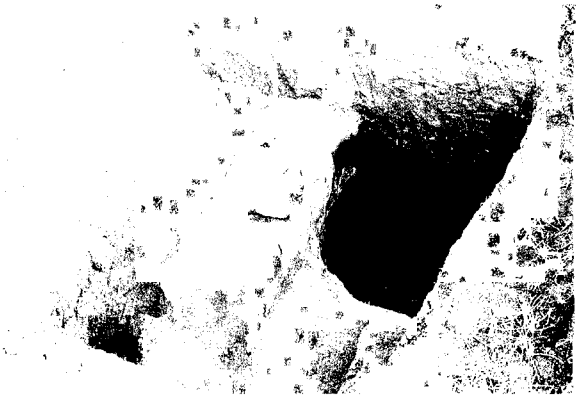


F 257号土坑

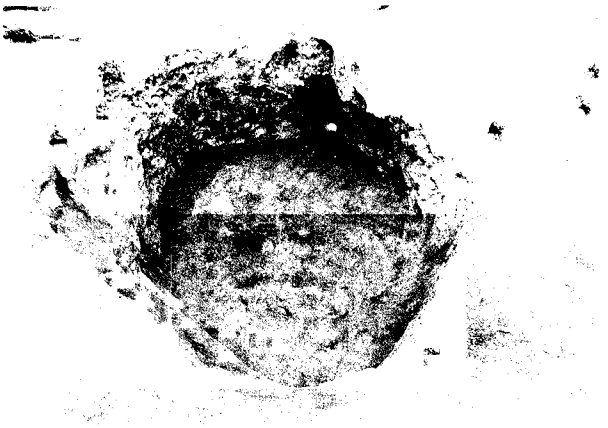
F 253号土坑

F 258号土坑

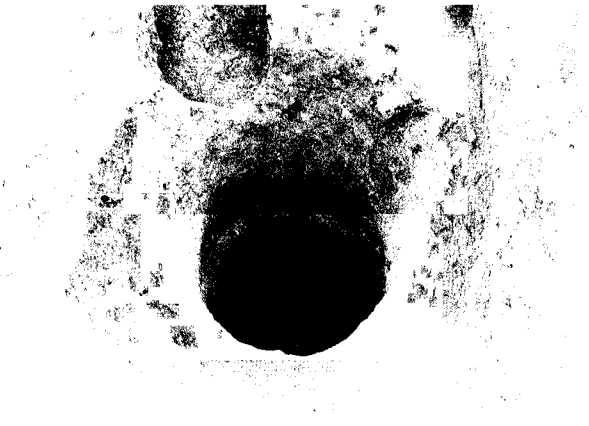
F259号土坑



I 7号井戸跡



I 22号井戸跡



I 10号井戸跡

I 5(奥)・11(手前)号井戸跡

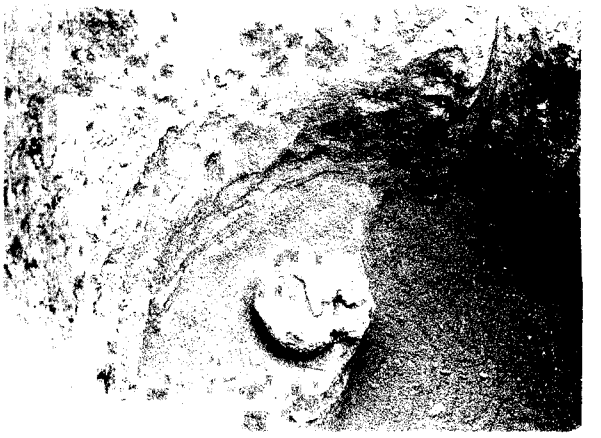
I 11号井戸跡

I 6号井戸跡

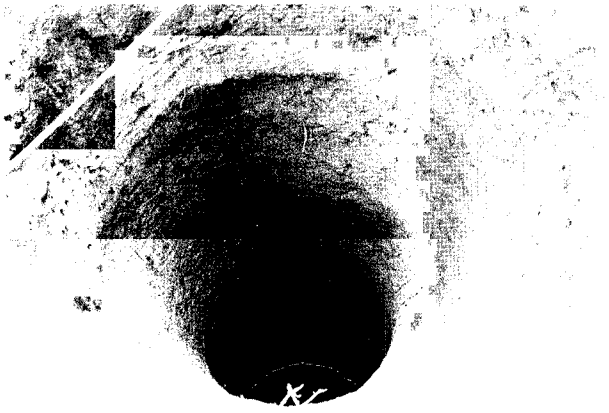
I 13号井戸跡

図版72

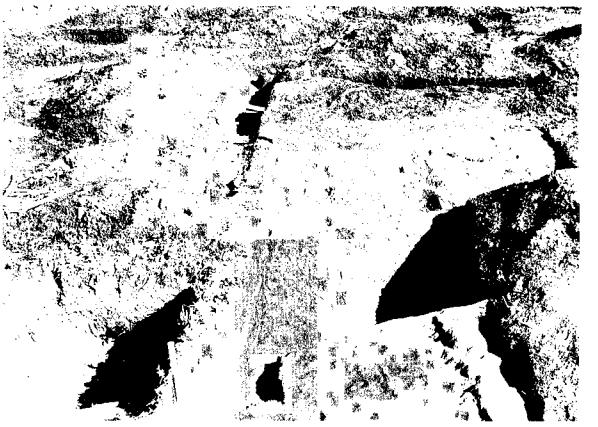
I 14号井戸跡



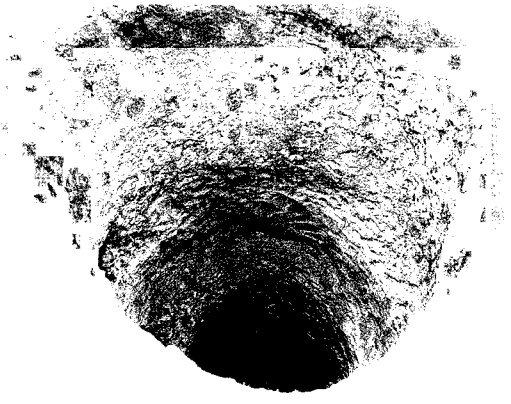
I 19号井戸跡遺物出土状態



I 16号井戸跡



W75号溝跡(犬走り)(ト－26区)



I 18号井戸跡

W75号溝跡(ト－26区南より)

I 19号井戸跡

同土層断面

W75号溝跡遺物出土状態

W76号溝跡・ＡＩ号地下式土坑（ニ－25区南より）

W76号溝跡（へ－26区東より）

W75号溝跡（ホ－25区東より）

W77号溝跡（リ－29区南より）

ＡII号地下式土坑

ＡIII号地下式土坑

図版74

7 － 3 区北半部（東より）

7 － 3 区北半部（東より）

7 － 3 区南半部（東より）

7 － 3 区北半部（東より）

7 － 3 区南半部（西より）

13区（北より）

7 － 3 区北半部（北より）

14－ 2 区（北より）

14－3区（南より）

19区　調査風景

14－4区（西より）

19区W2・3・4号溝跡（南より）

14－5区（西より）

20－1区M1号墳周濠（北より）

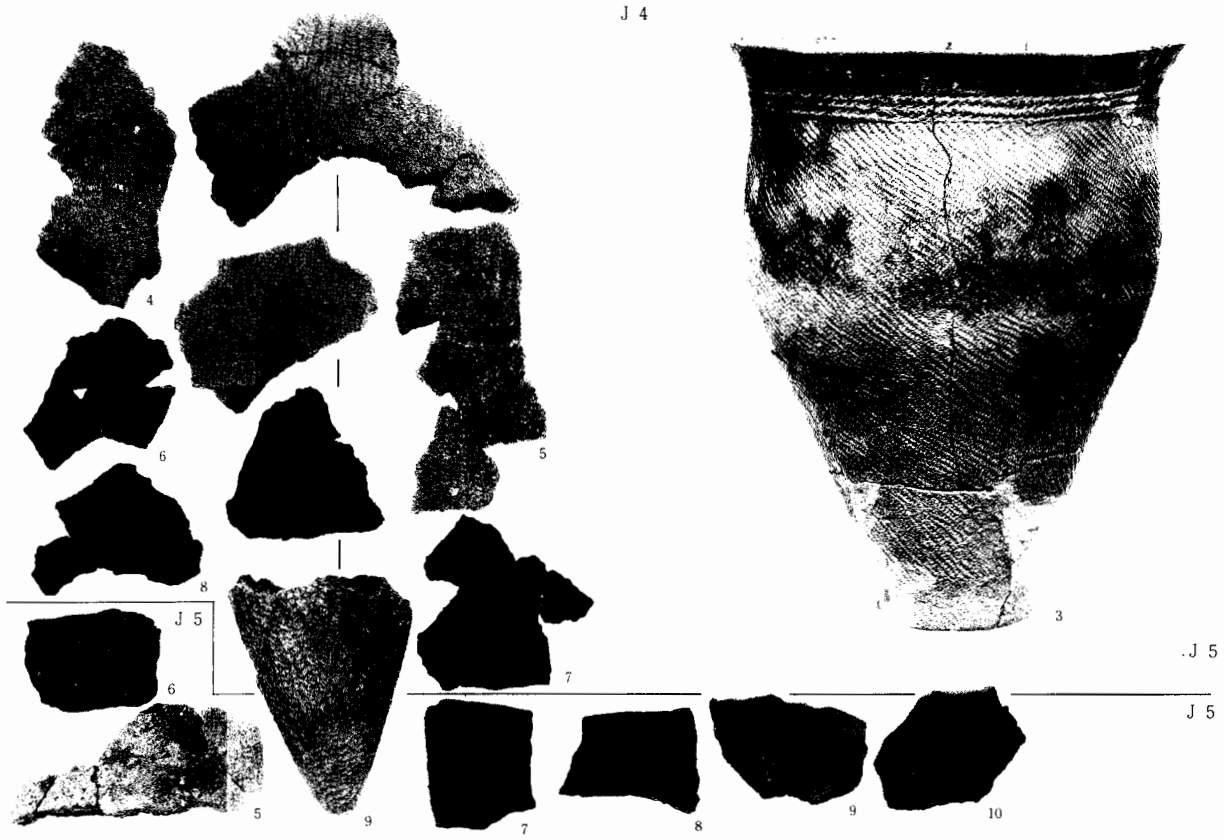
14－5区（南東より）

調査風景

図版76

J 1・2・3 号住居跡出土土器

J 2・3・4 号住居跡出土土器



J 4・5 号住居跡出土土器

J 5・6 号住居跡出土土器

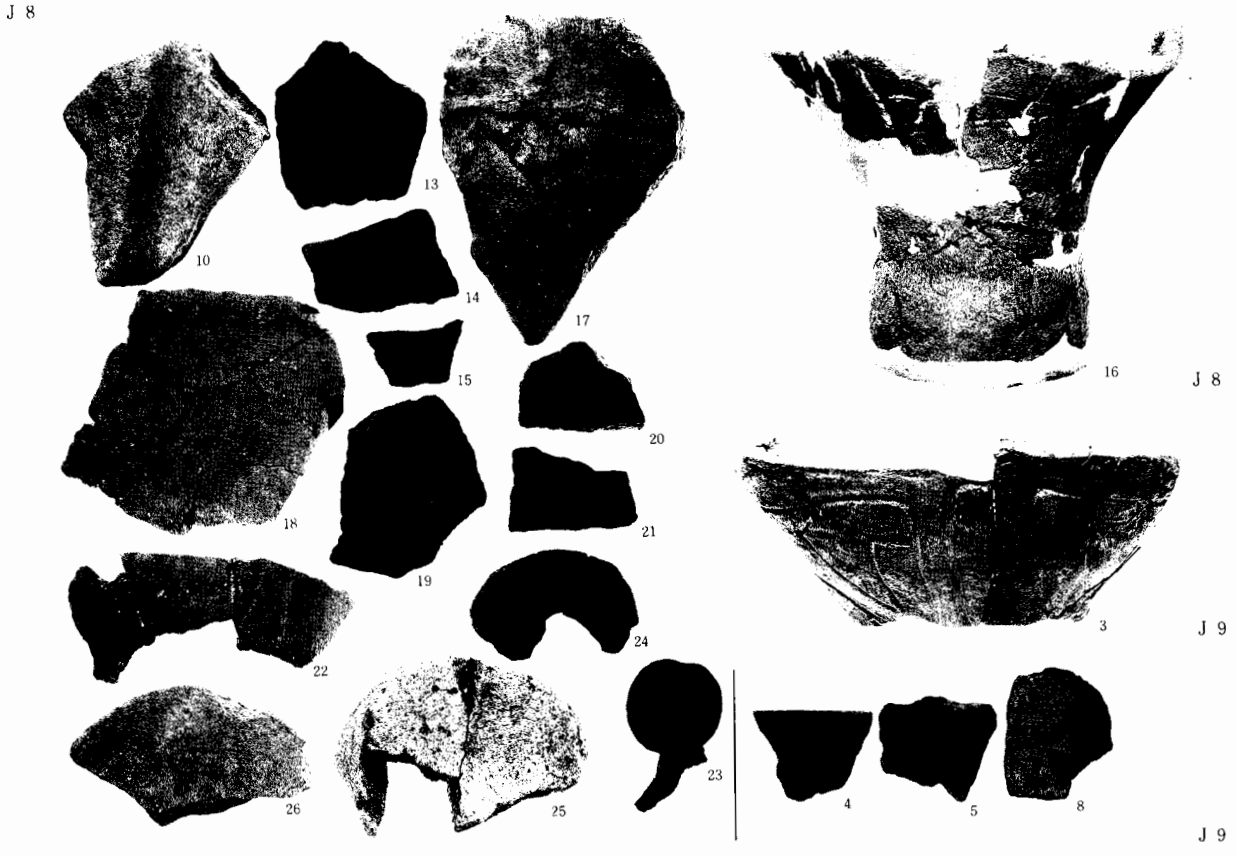
J 6 号住居跡出土土器

J 6

J 7

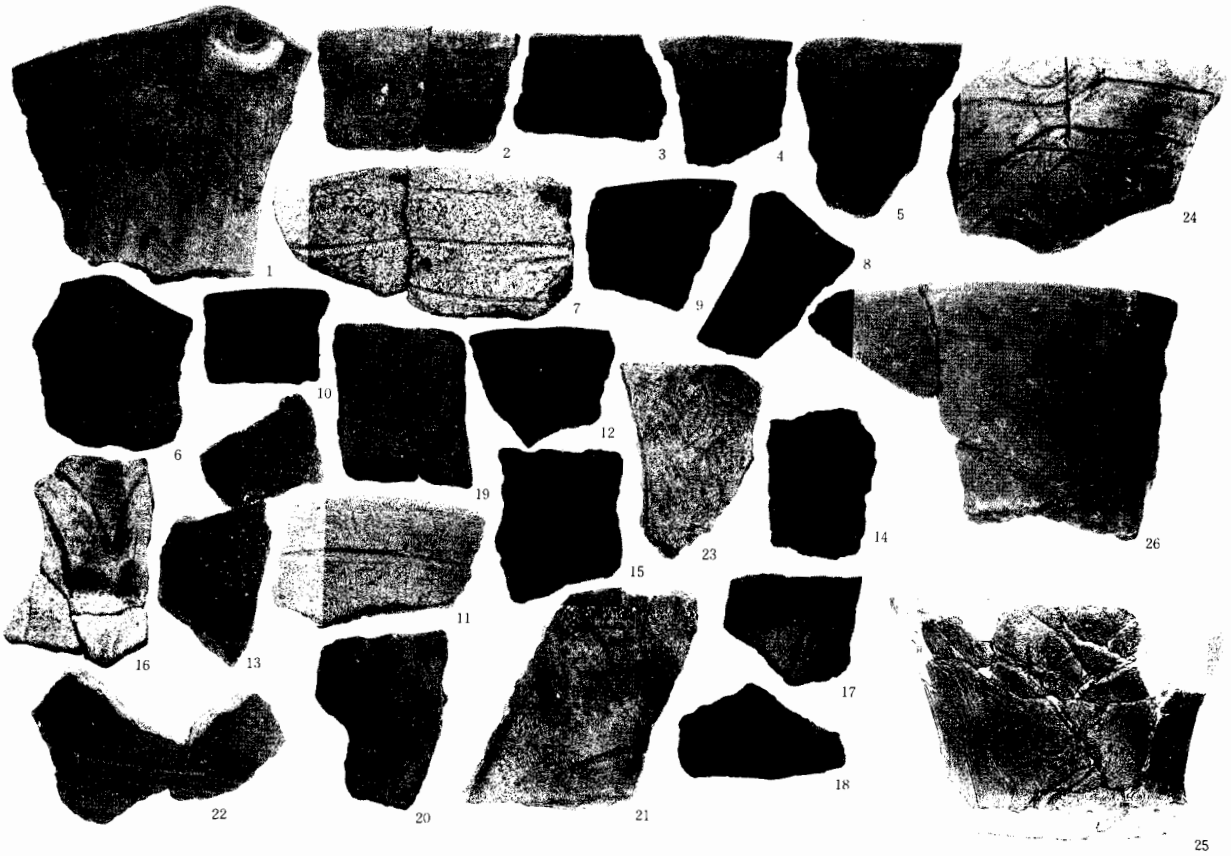
J 6・7 号住居跡出土土器

J 7・8 号住居跡出土土器

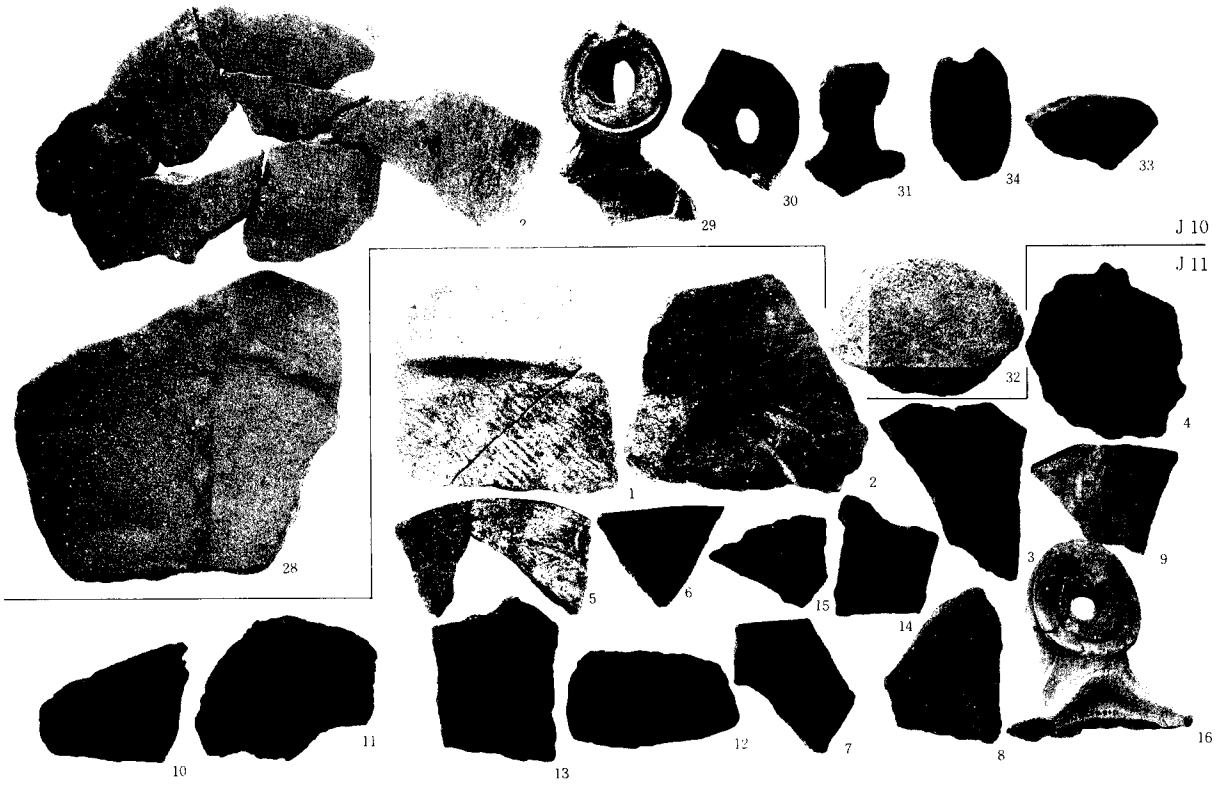


J 8・9 号住居跡出土土器

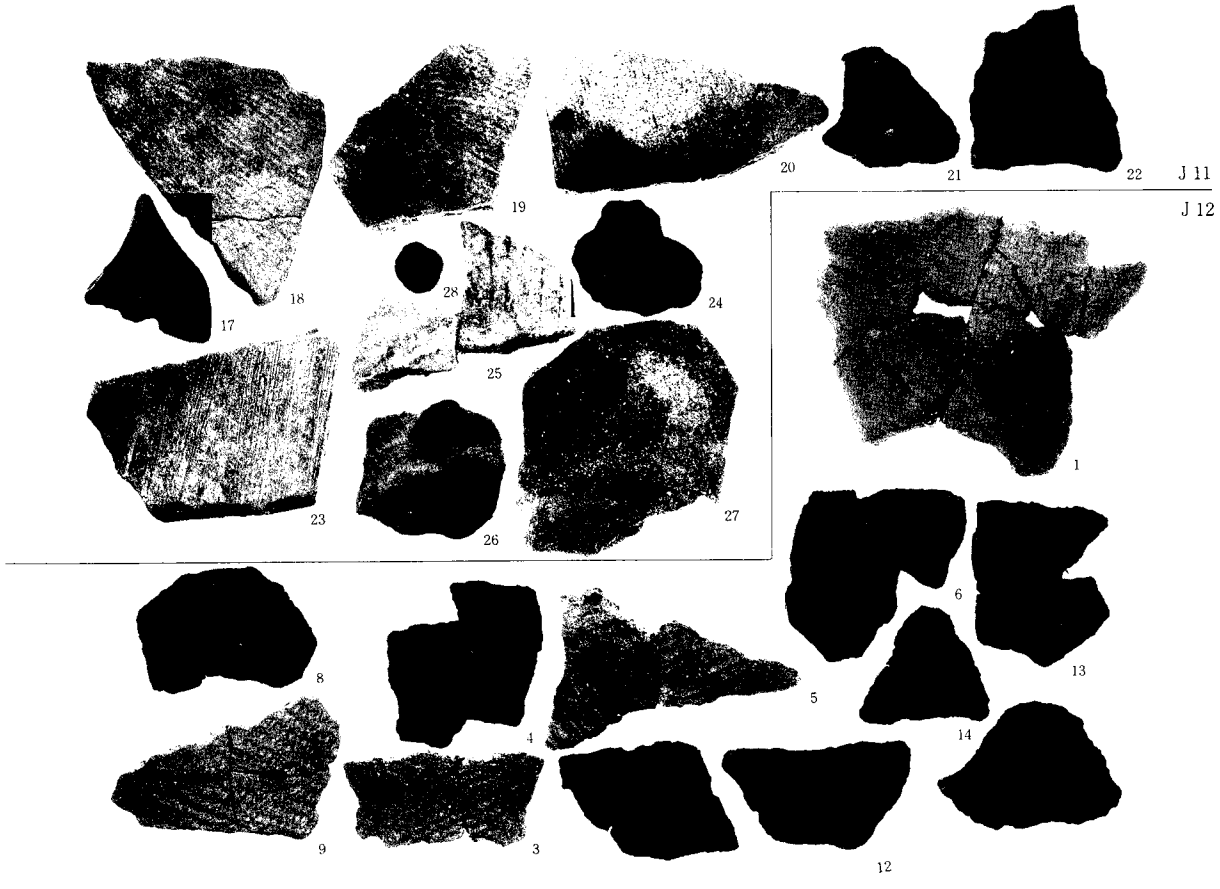
Ｊ９号住居跡出土土器



Ｊ10号住居跡出土土器

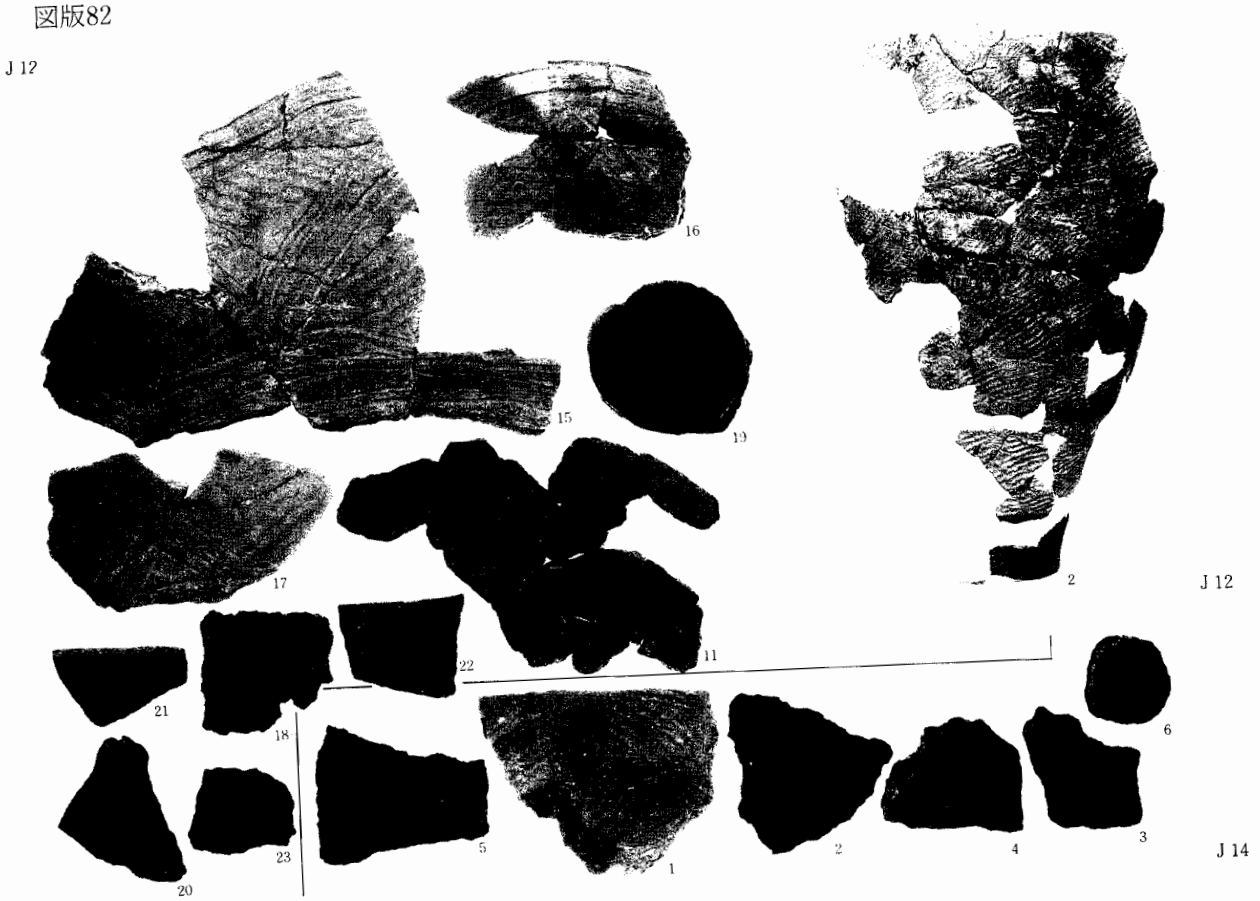


J 10・11号住居跡出土土器



J 11・12号住居跡出土土器

図版82



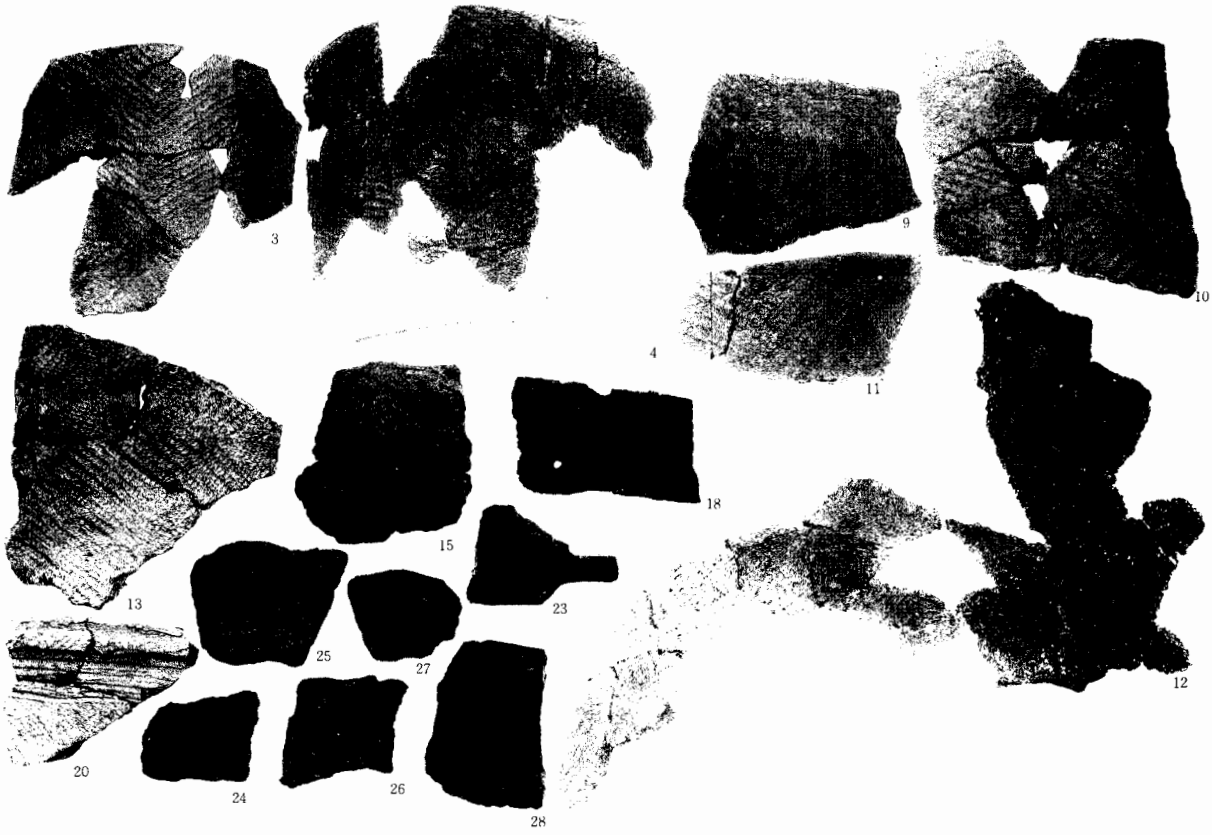
J 12・14号住居跡出土土器

J 13・15号住居跡出土土器

J 13・15号住居跡出土土器

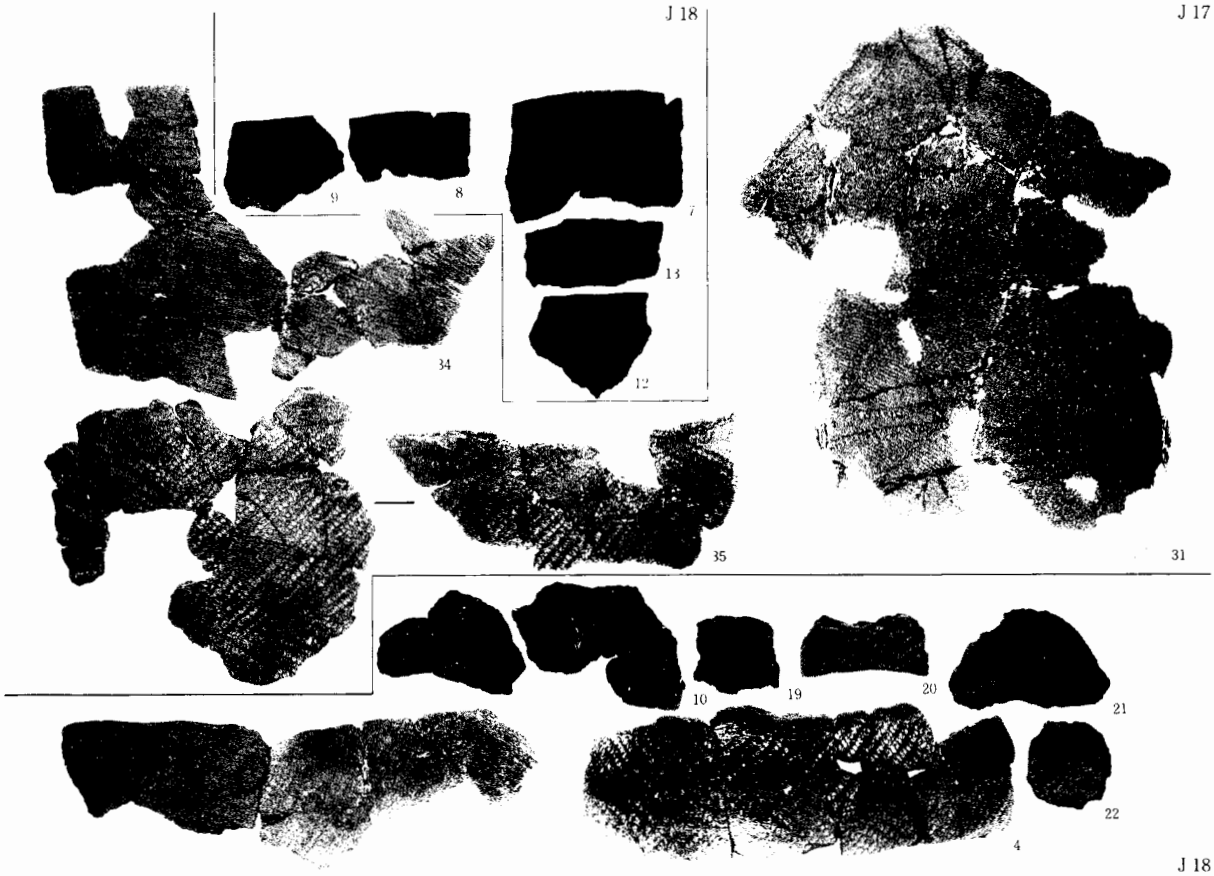
J 13・16・17号住居跡出土土器

図版84

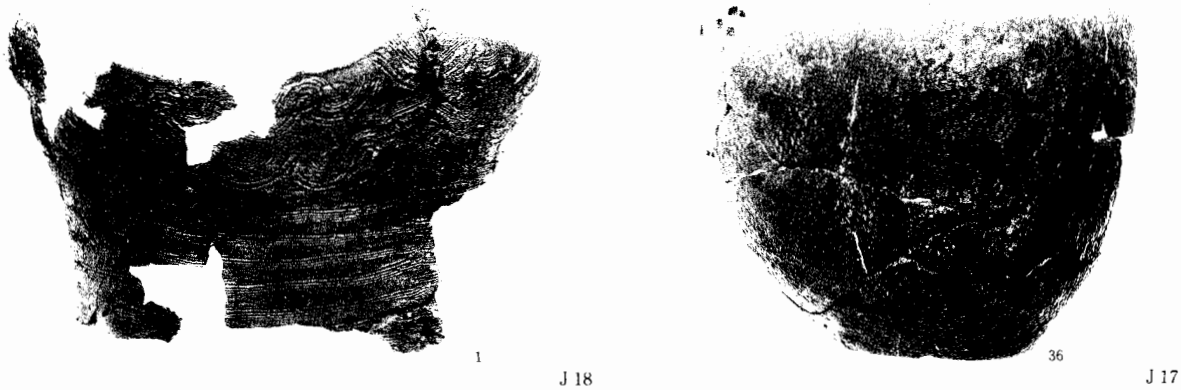


J 17号住居跡出土土器

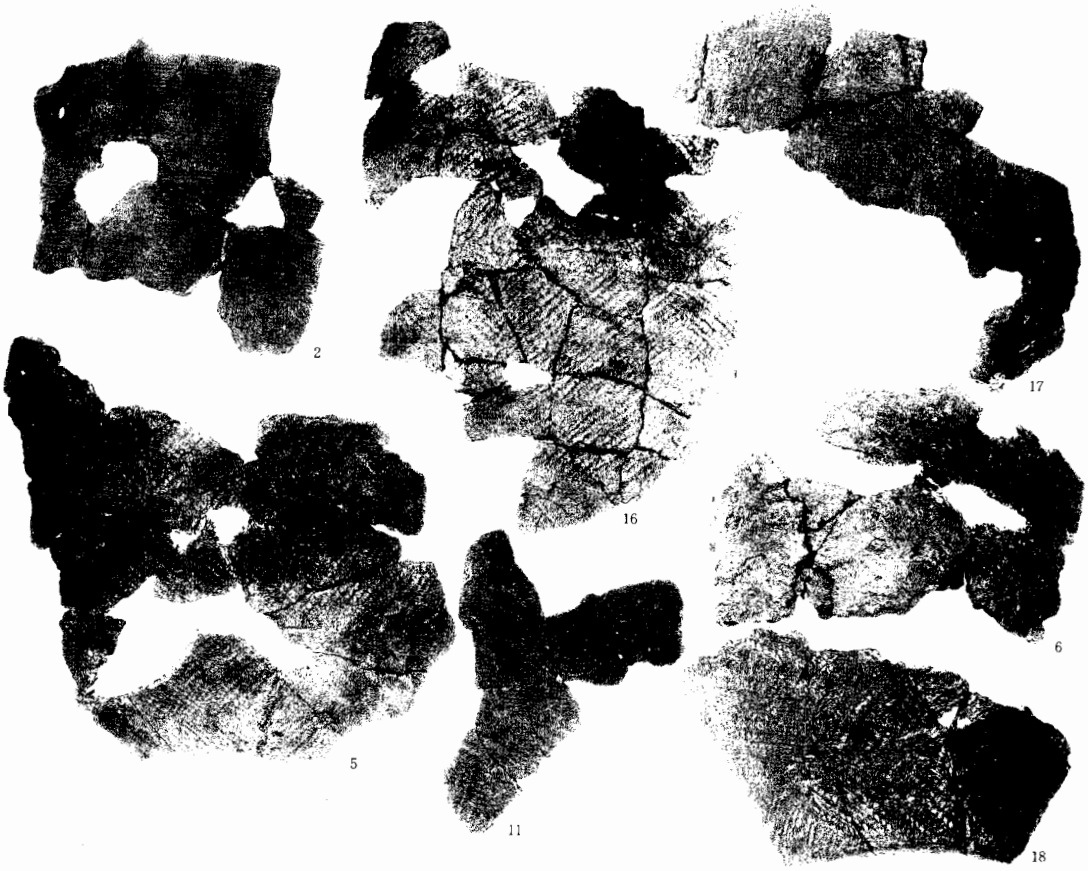
J 17号住居跡出土土器



J 17・18号住居跡出土土器



J 17・18号住居跡出土土器



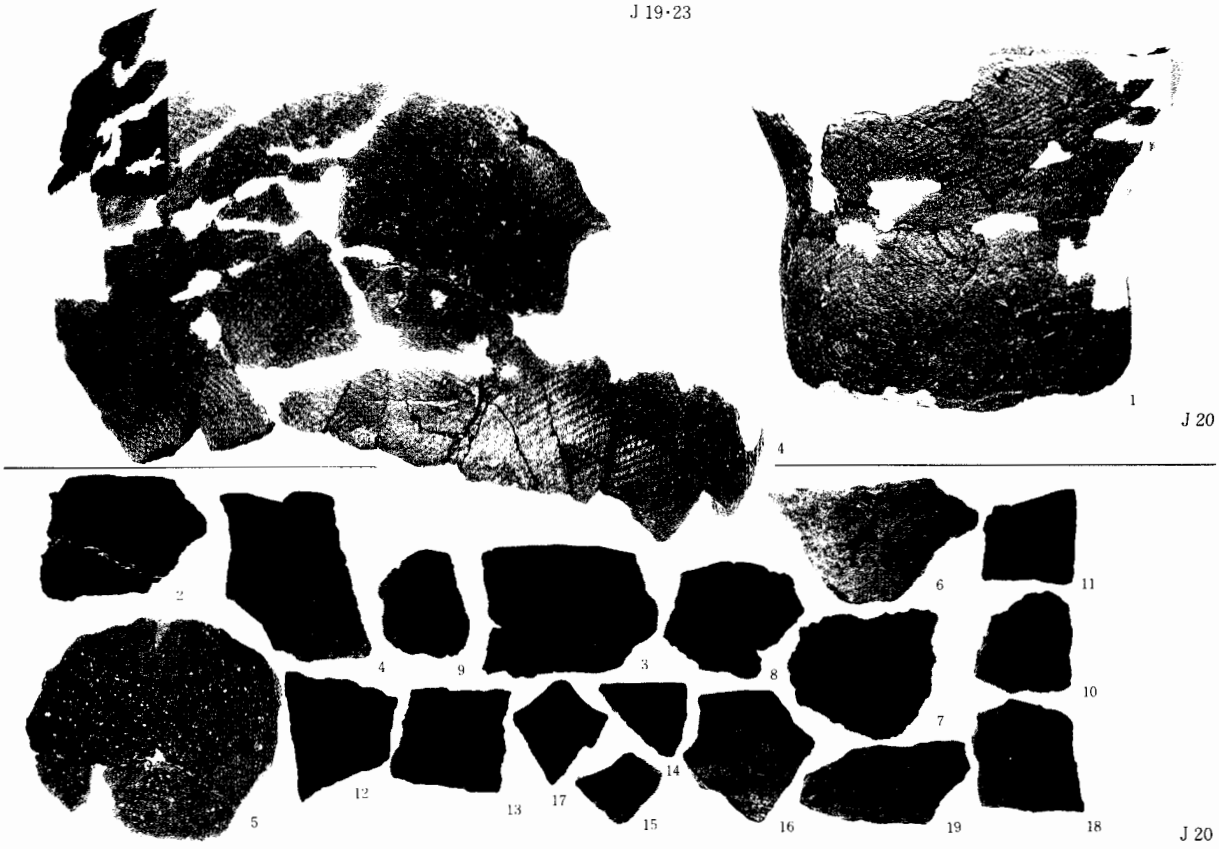
J 18号住居跡出土土器

J 18·19·23号住居跡出土土器

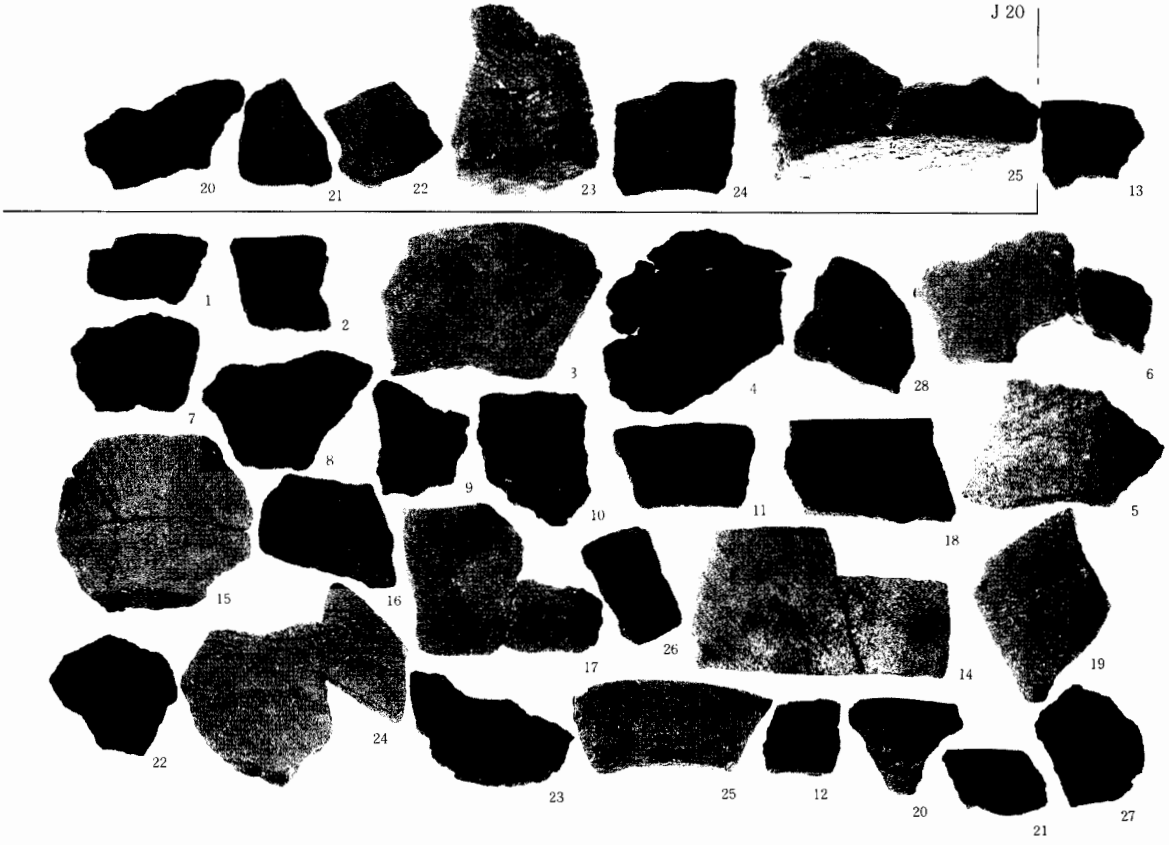
J 19・23号住居跡出土土器

J 19・23号住居跡出土土器

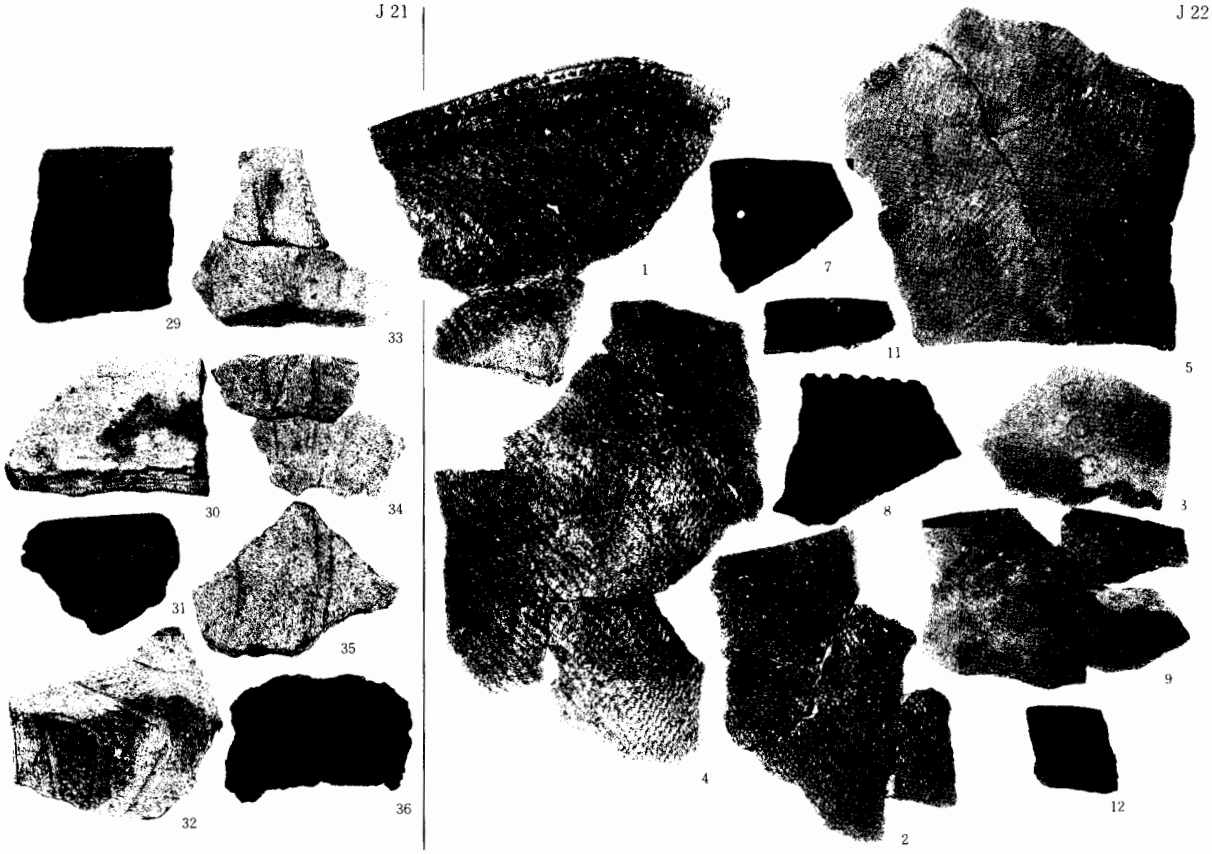
図版88



J 19・20・23号住居跡出土土器



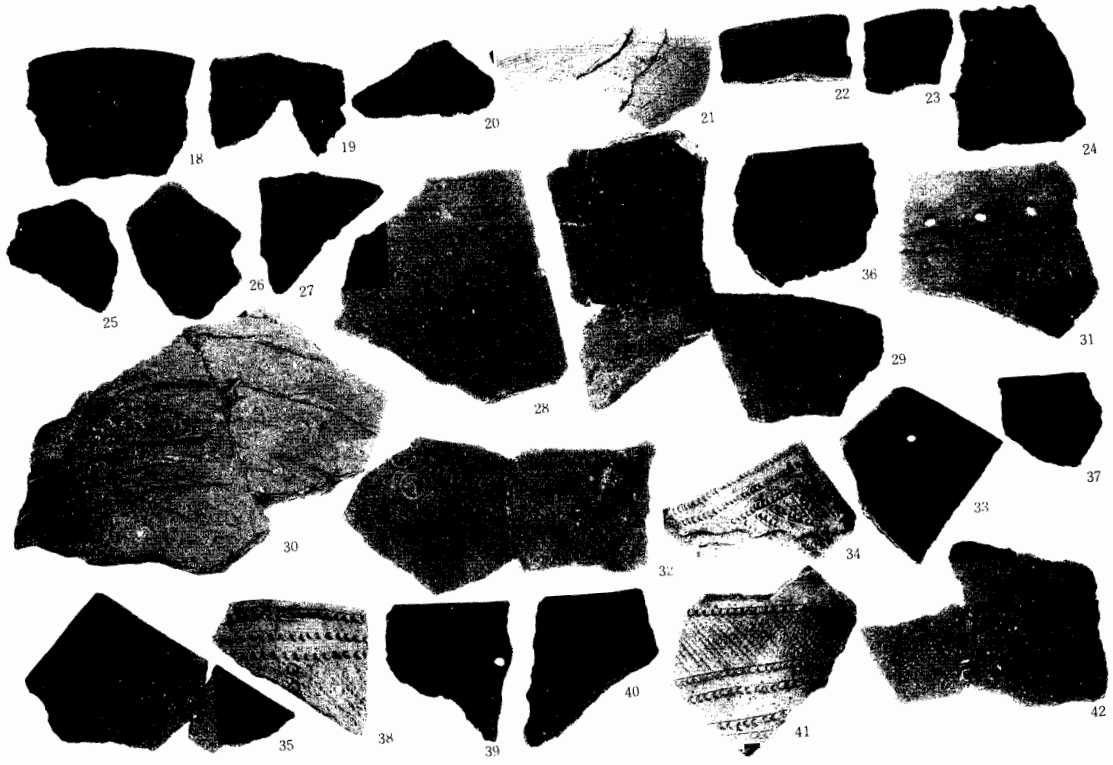
J 20・21号住居跡出土土器



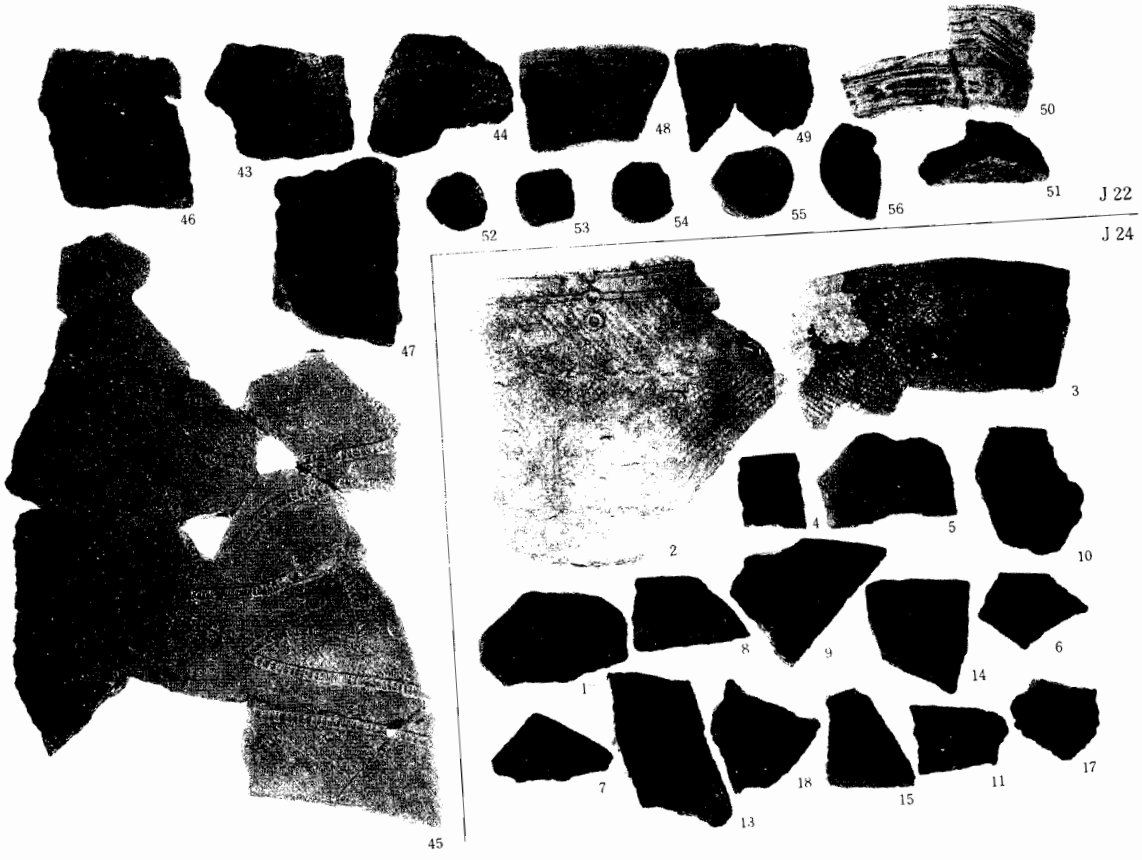
J 21・22号住居跡出土土器

J 22号住居跡出土土器

図版90

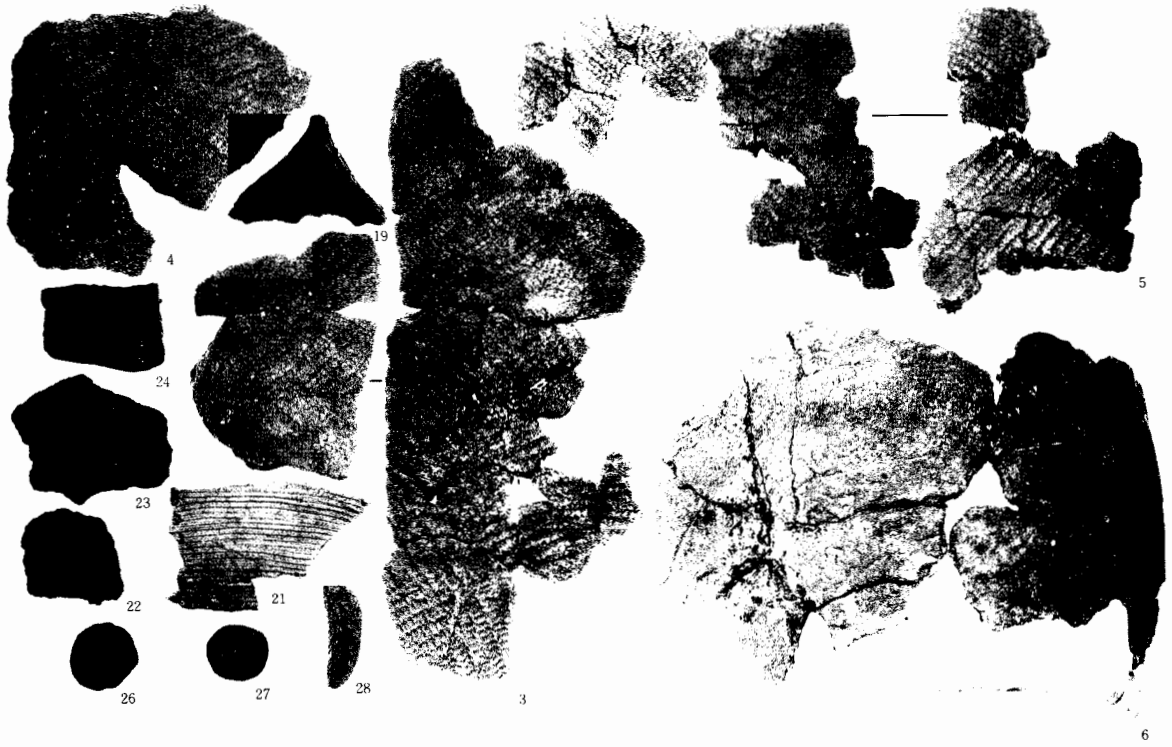


J 22号住居跡出土土器



J 22・24号住居跡出土土器

J 24・25号住居跡出土土器

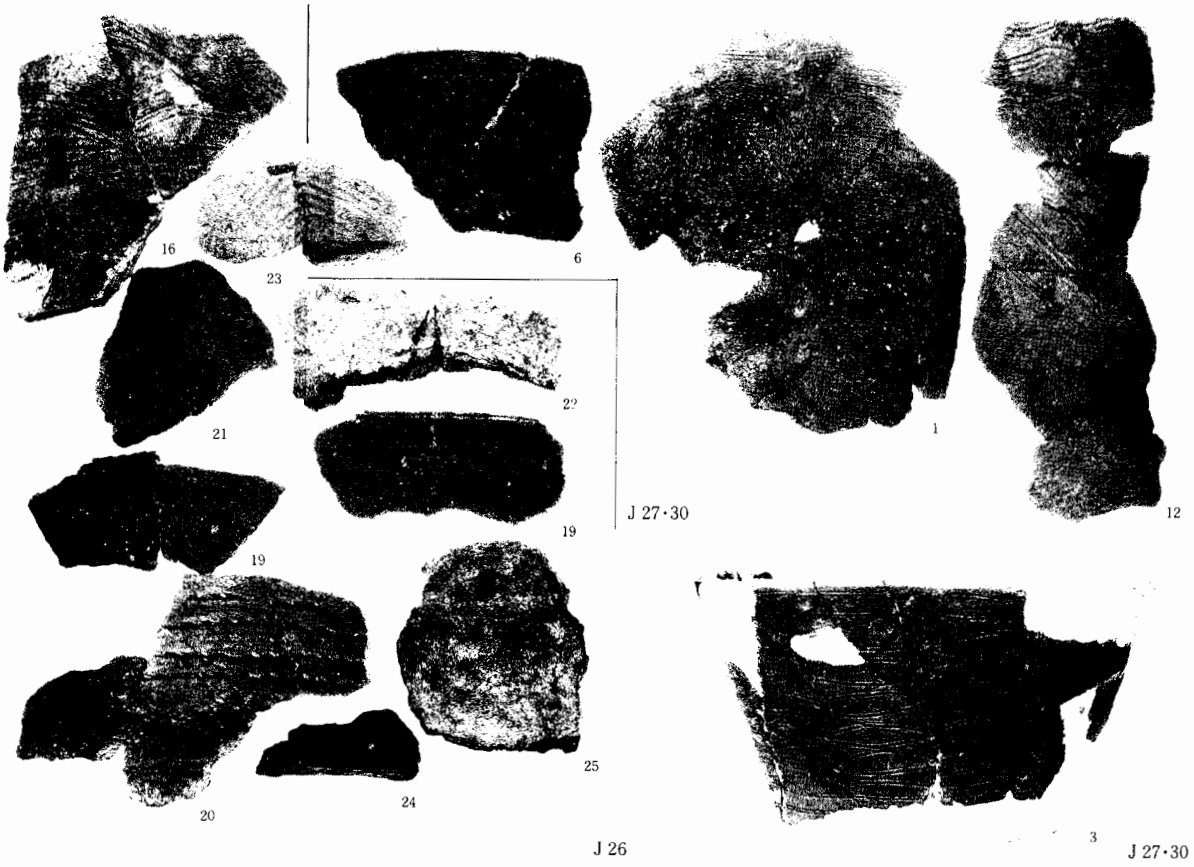


J 25号住居跡出土土器

J 25号住居跡出土土器

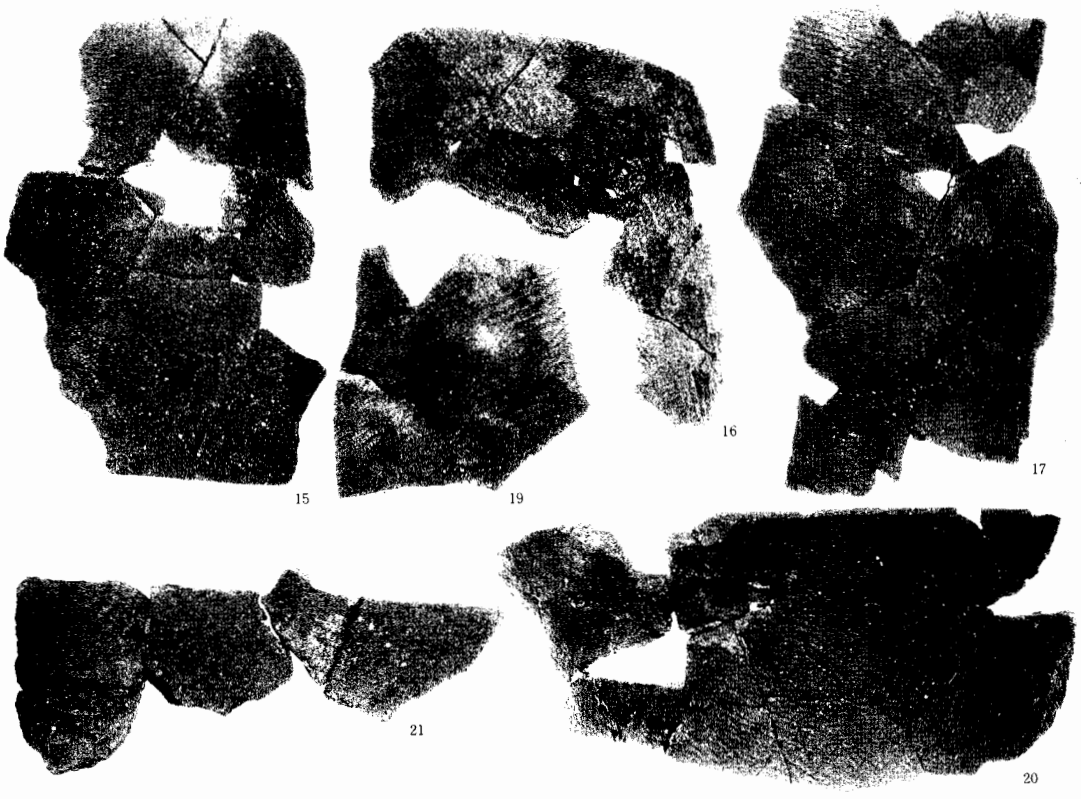
J 25号住居跡出土土器

J 25・26号住居跡出土土器



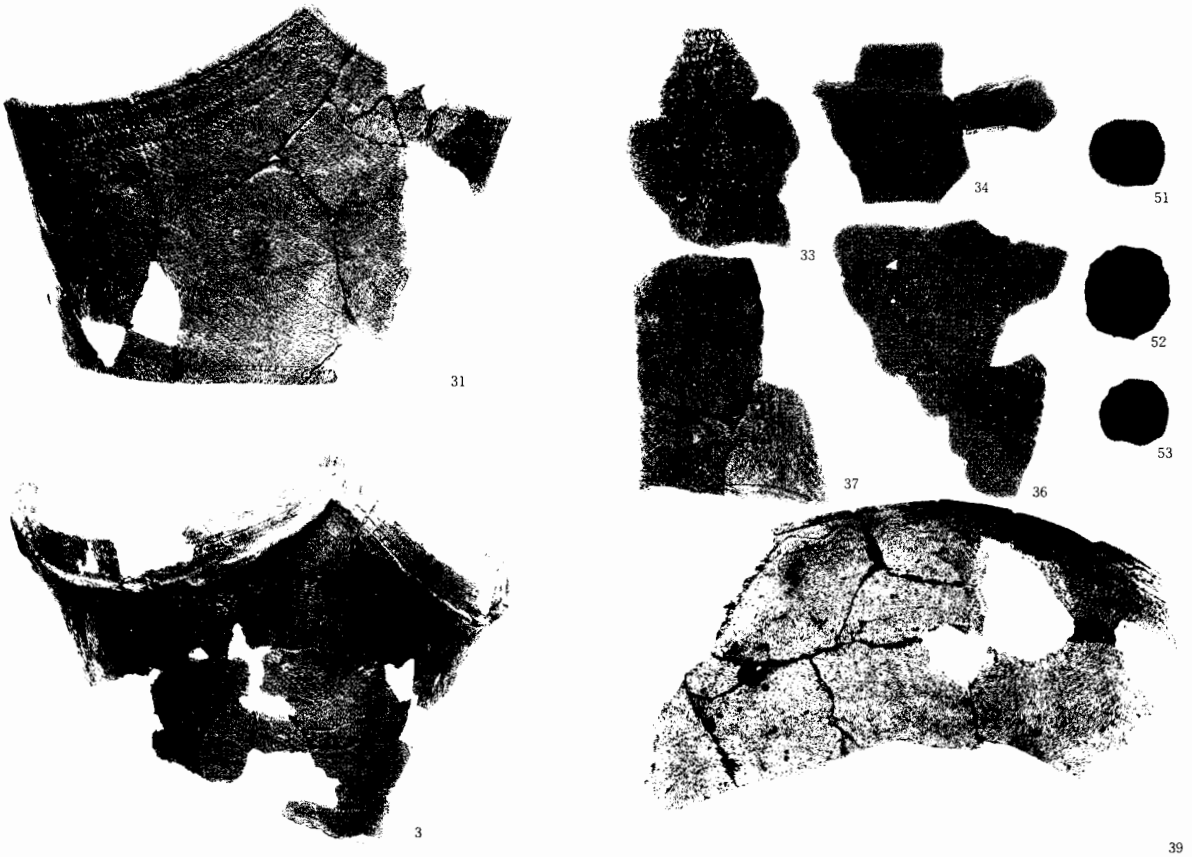
J 26・27・30号住居跡出土土器

J 27・30号住居跡出土土器



J 27・30号住居跡出土土器

J 27・30号住居跡出土土器



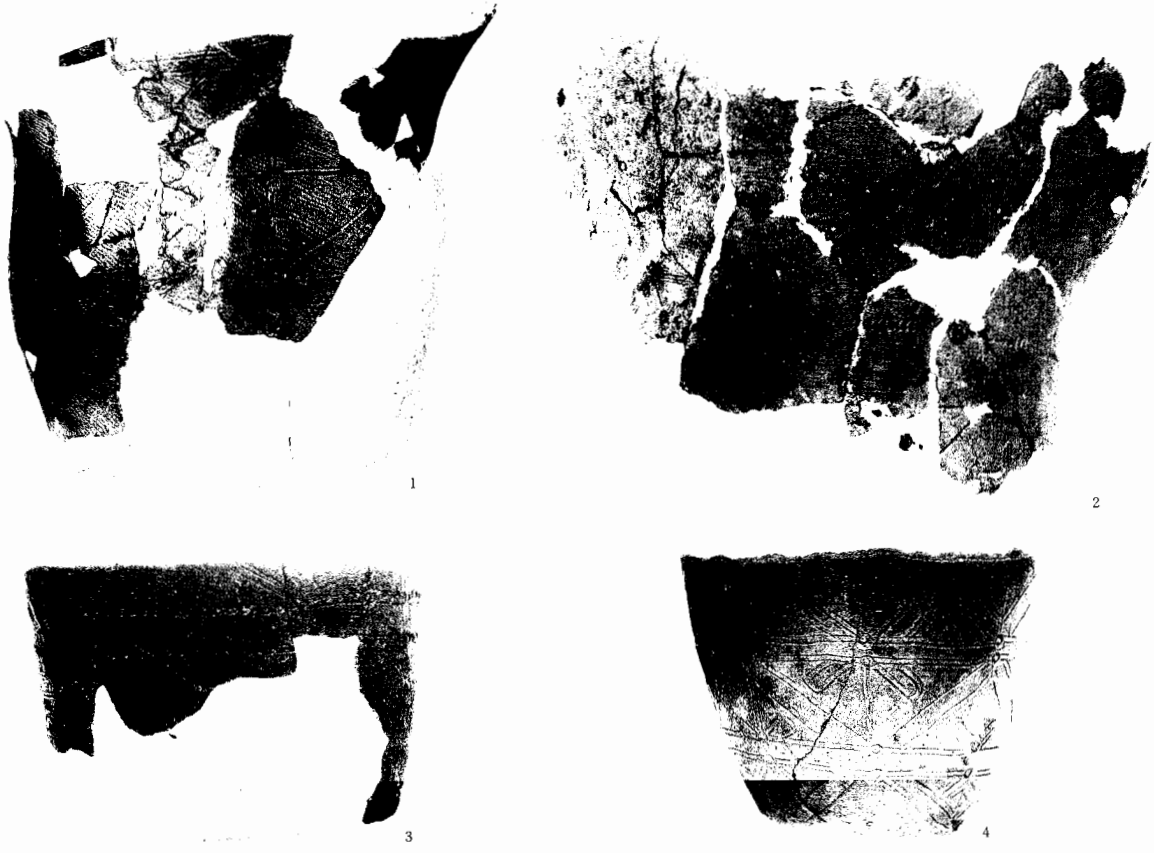
J 27・30号住居跡出土土器

図版96

J 27・30号住居跡出土土器

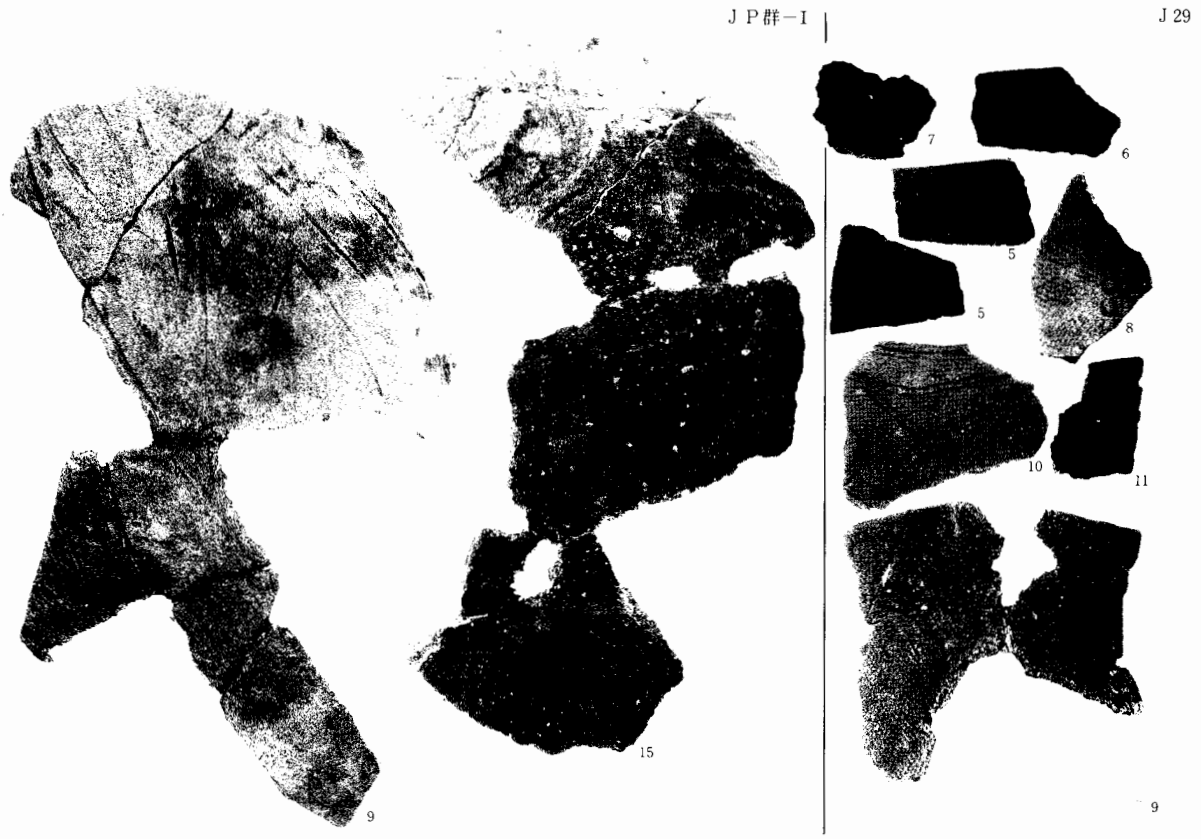
J P群－ I (J 28)出土土器

ＪＰ群－Ⅰ(Ｊ28)出土土器

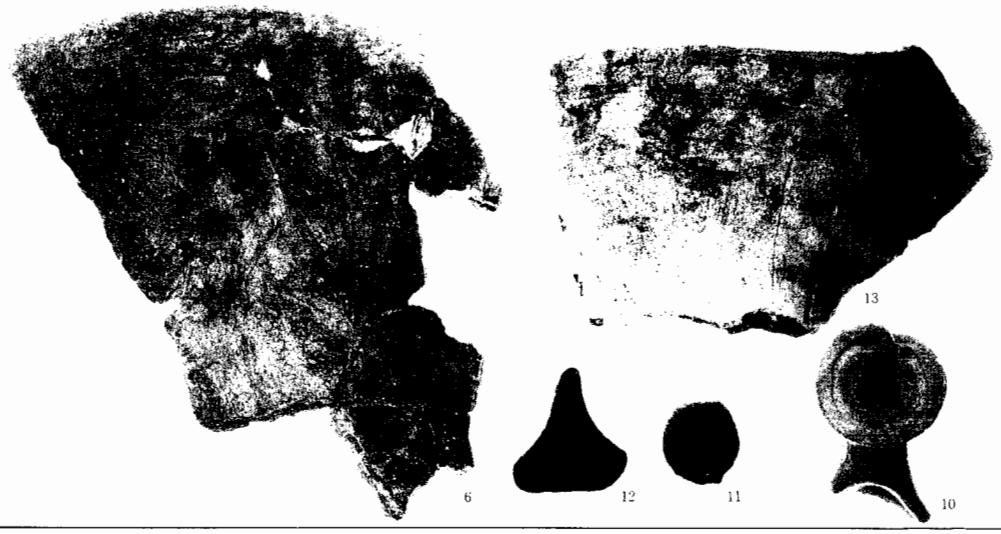


Ｊ29号住居跡出土土器

J 29号住居跡出土土器



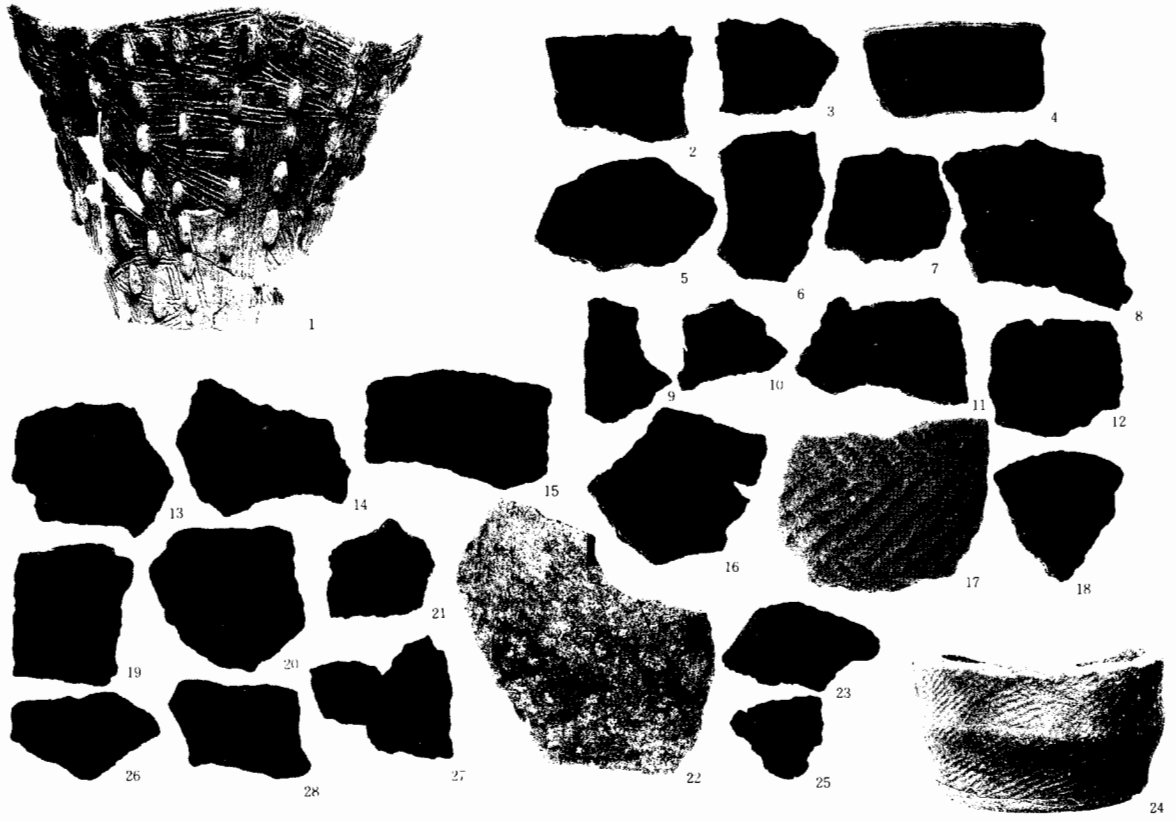
J P群－I・J 29号住居跡出土土器



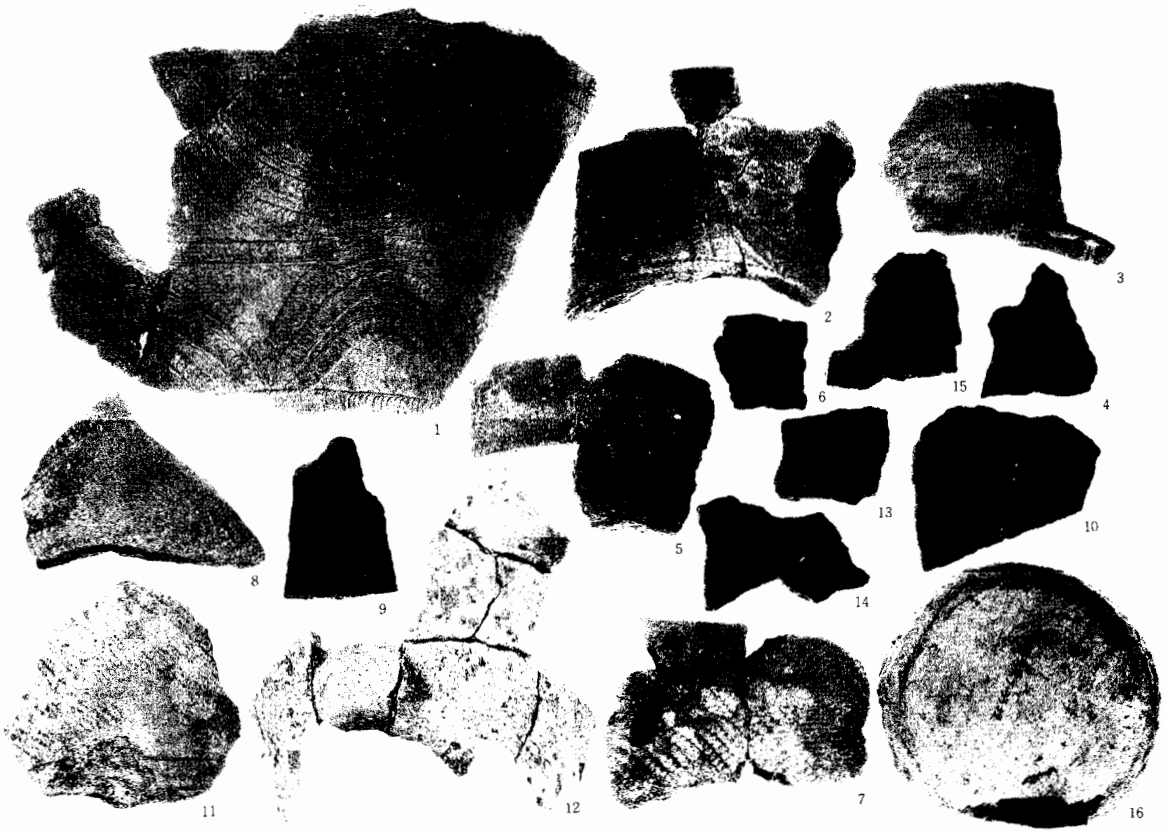
J P群－I

J 29

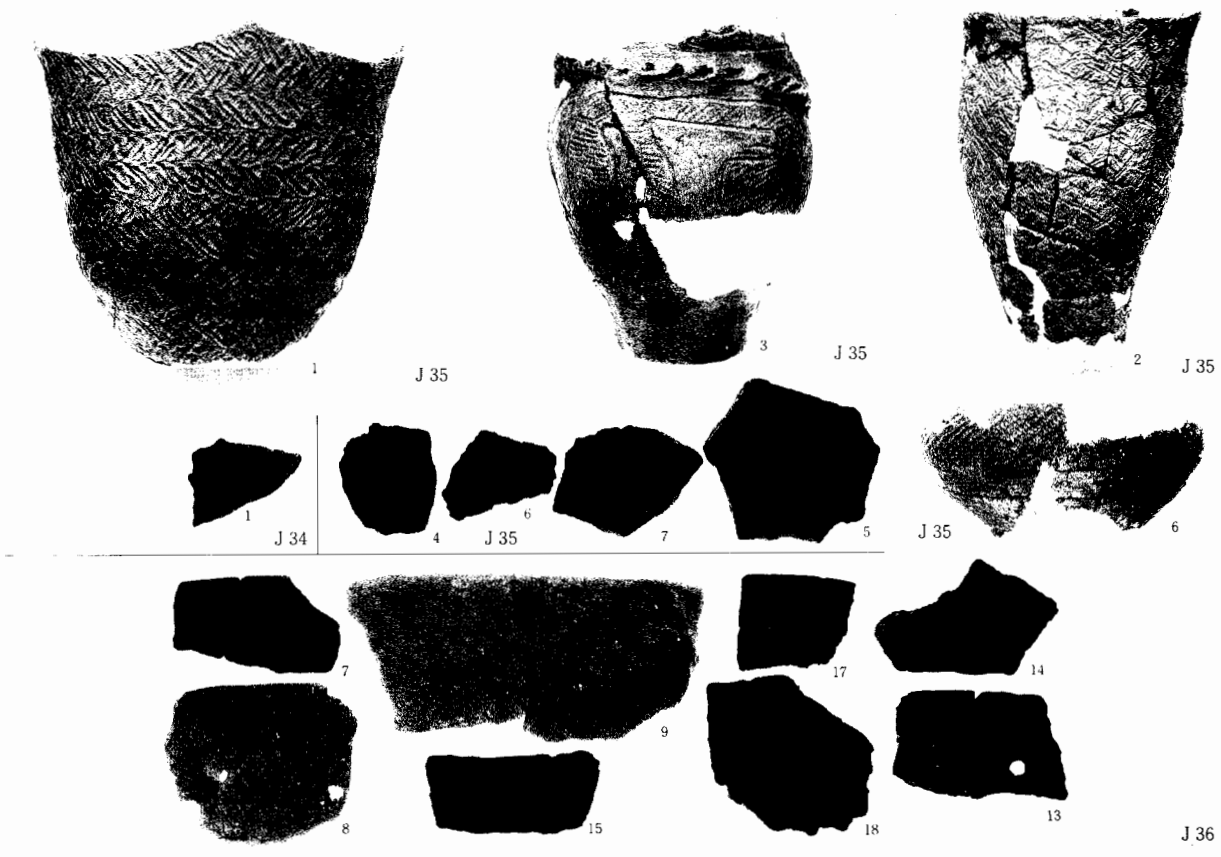
J P群－I・J 29号住居跡出土土器



J 31号住居跡出土土器



J 33号住居跡出土土器



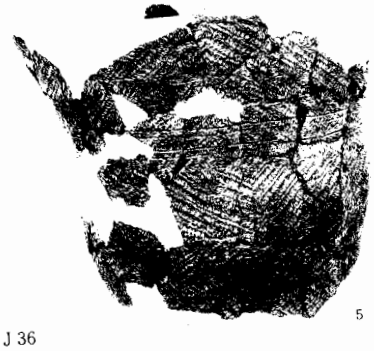
J 34・35・36号住居跡出土土器

J 36号住居跡出土土器

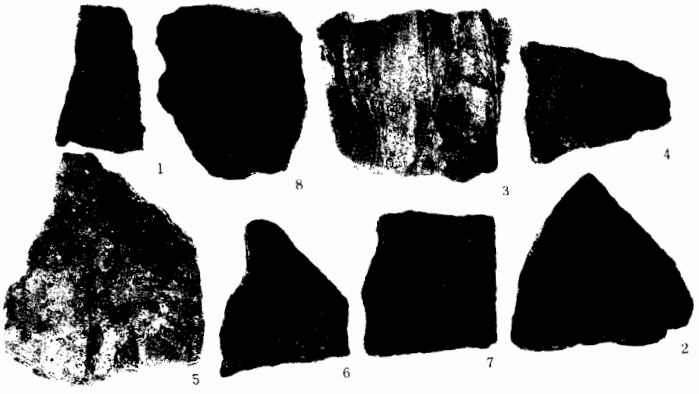
J 36

J 36

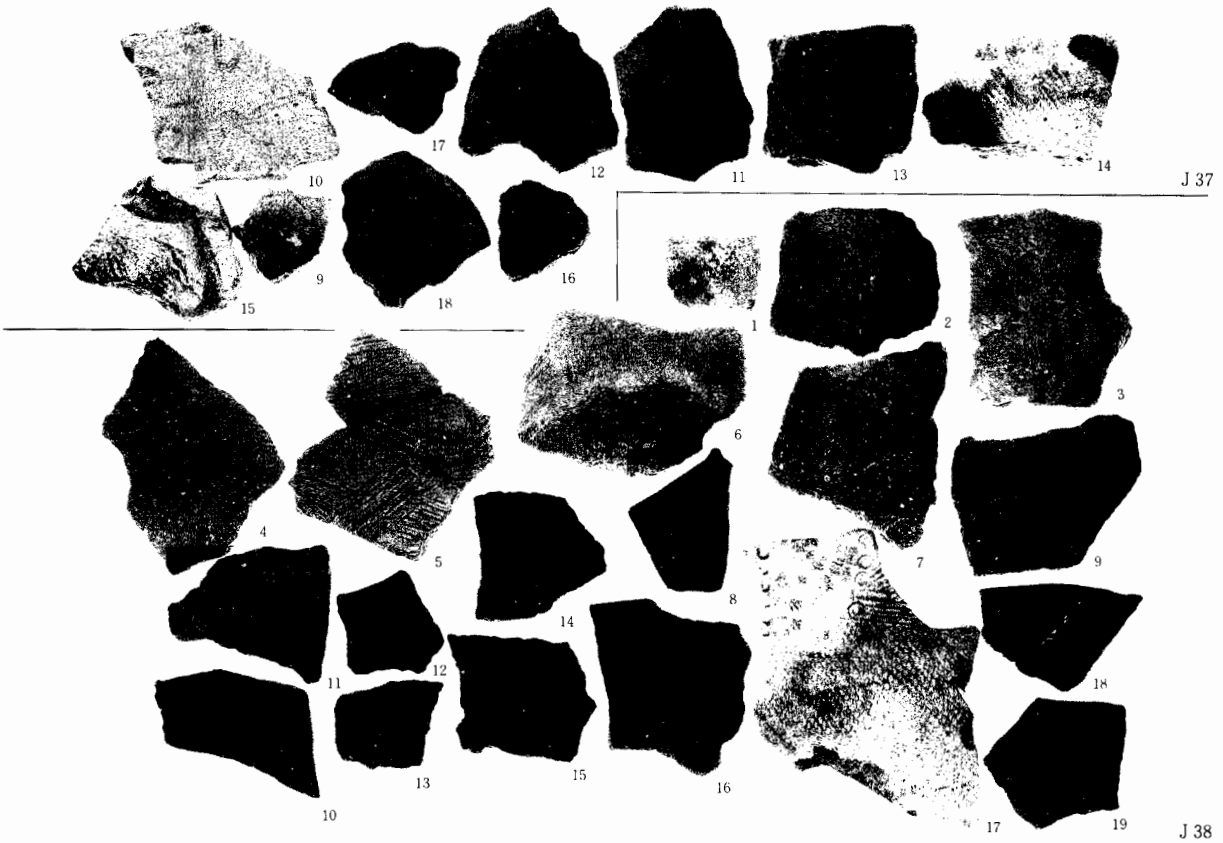
J 37



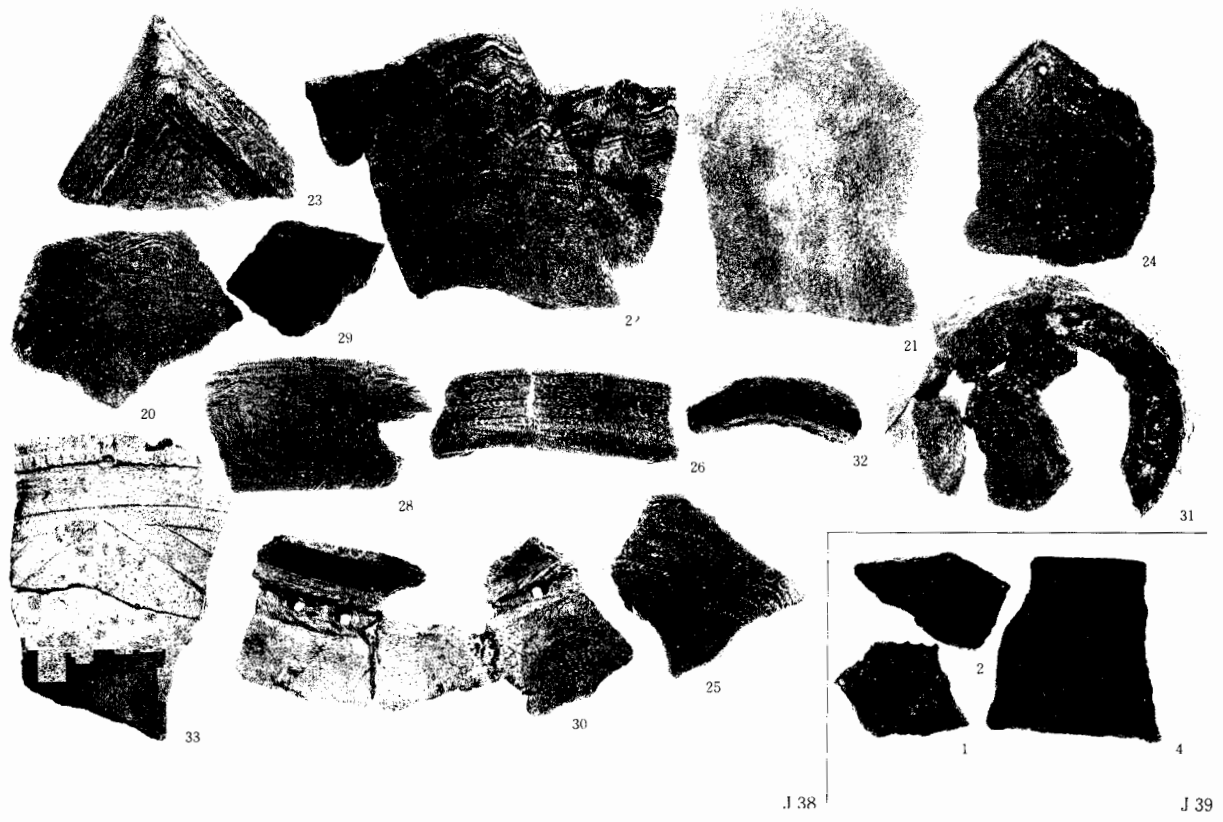
J 36



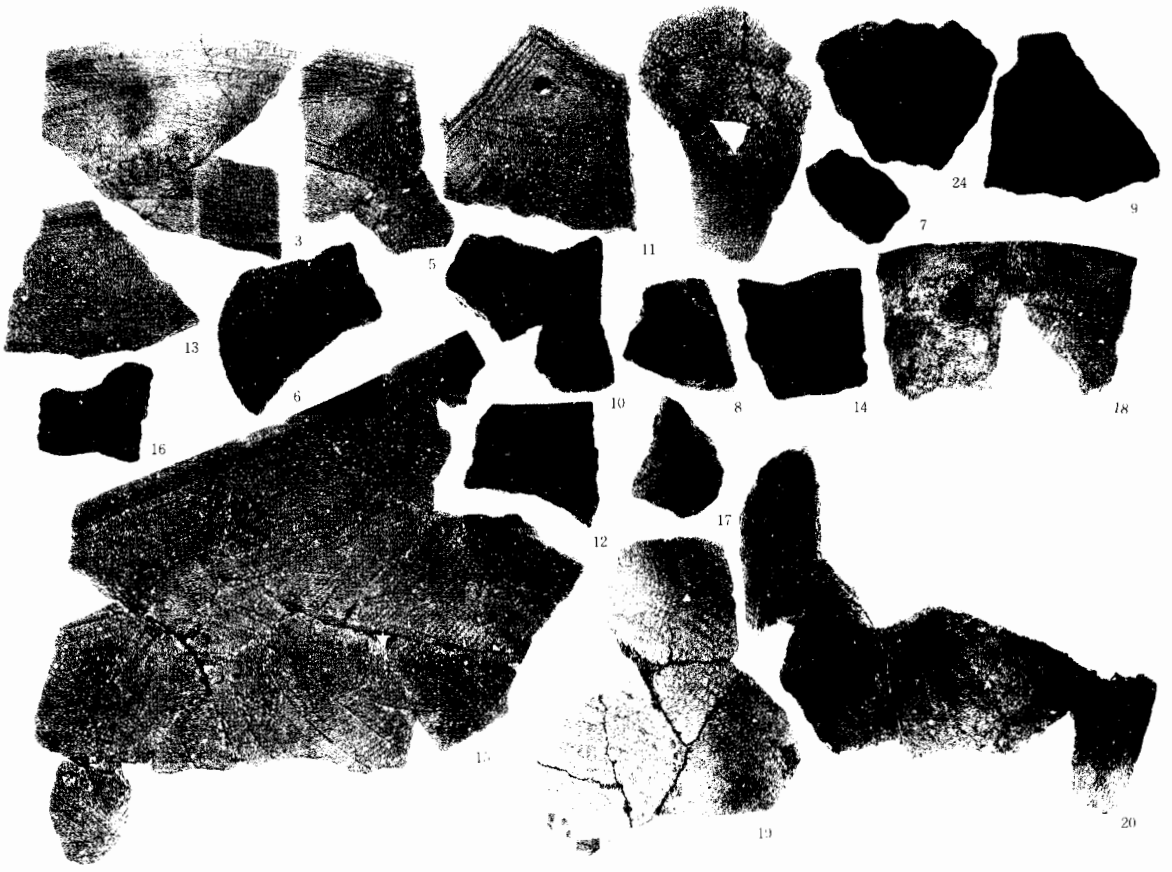
J 36・37号住居跡出土土器



J 37・38号住居跡出土土器



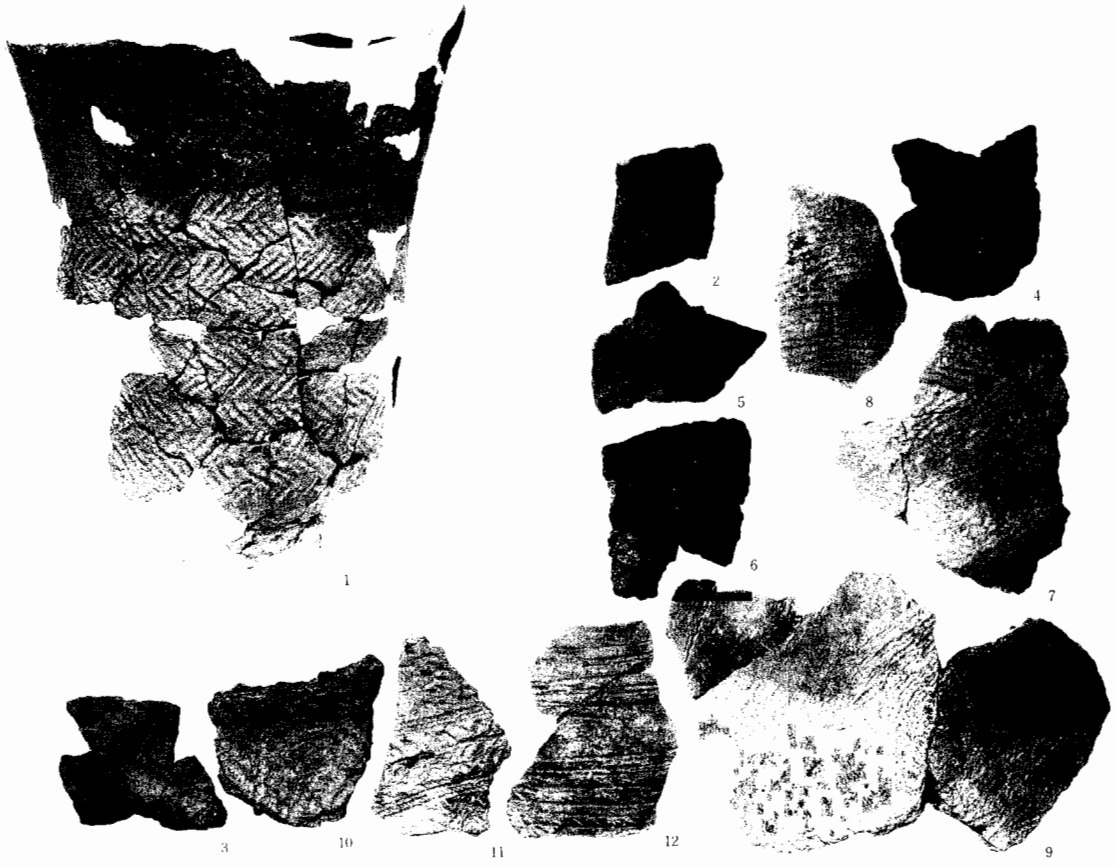
J 38・39号住居跡出土土器



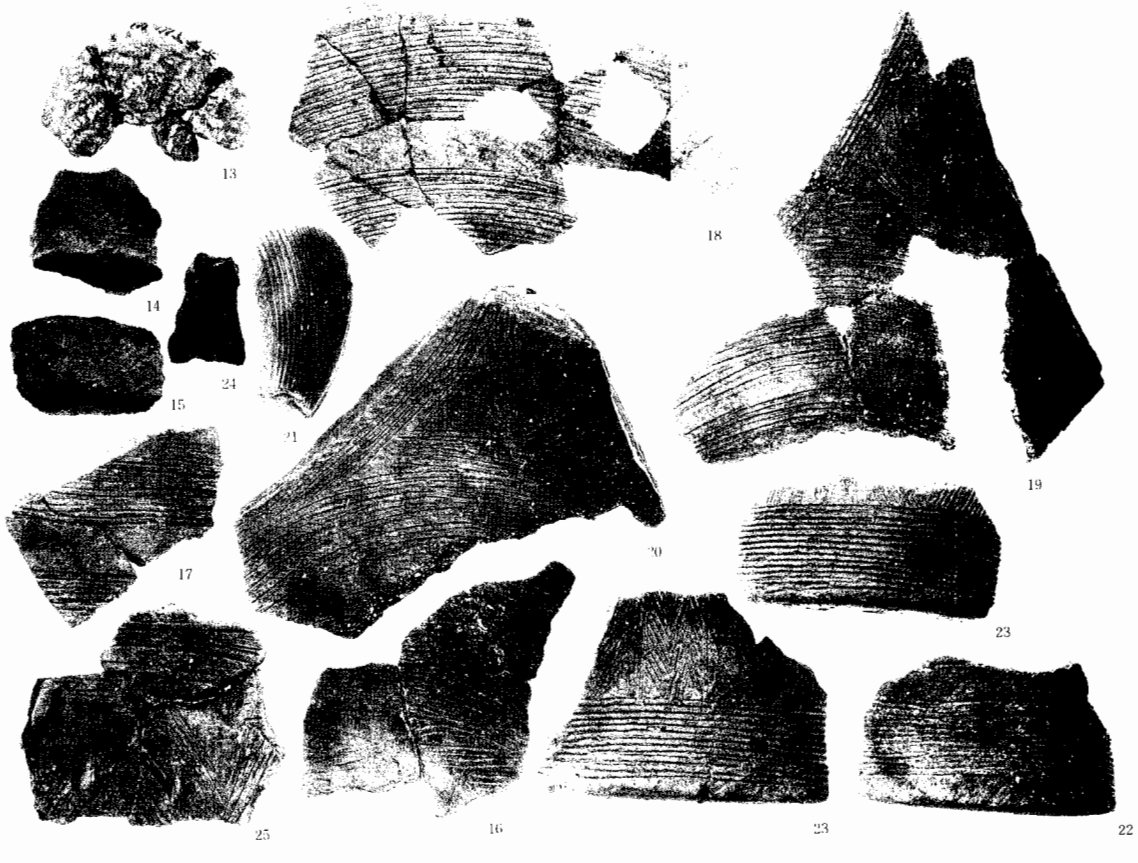
J 39号住居跡出土土器

J 39号住居跡出土土器

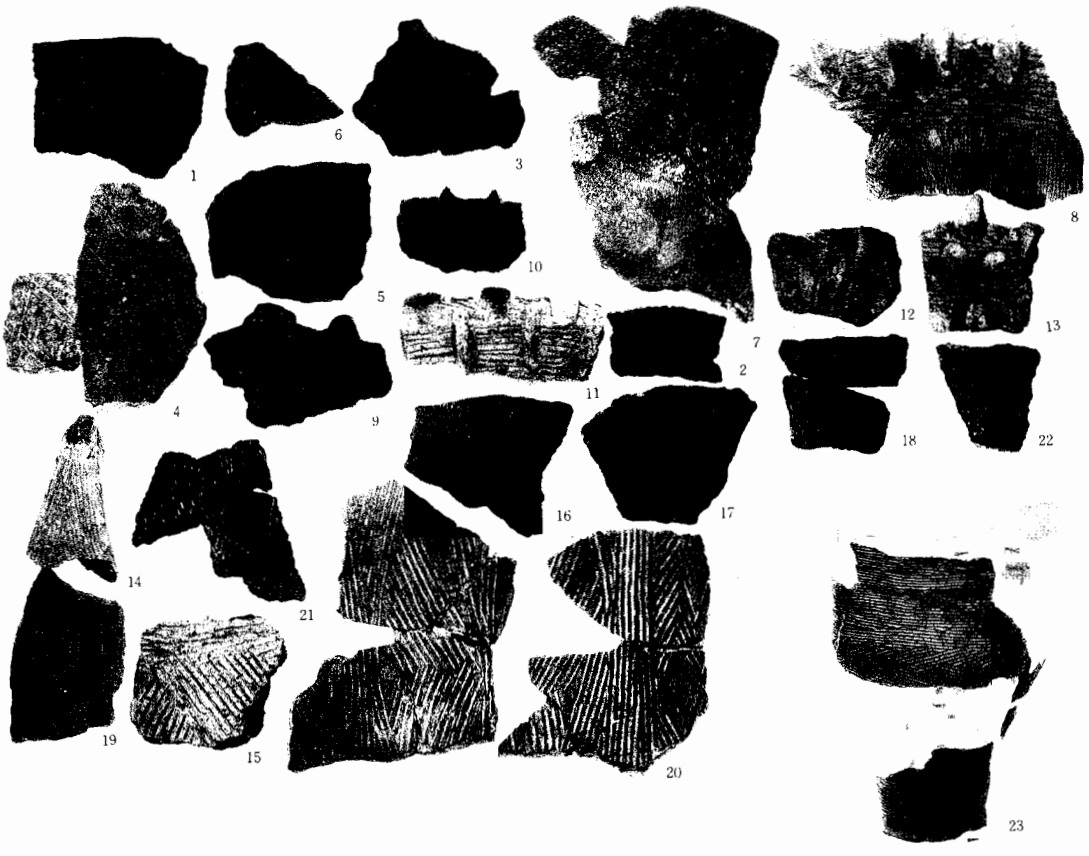
図版104



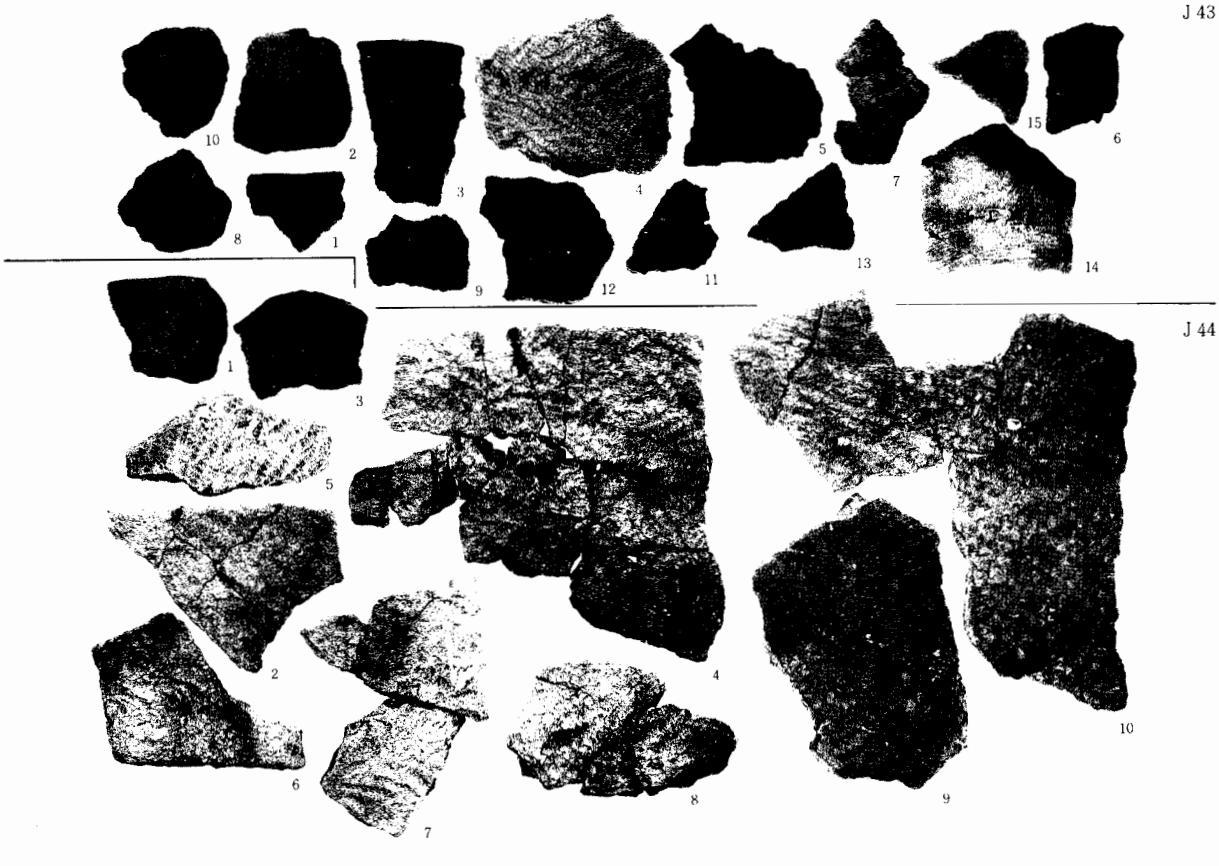
J 40・41号住居跡出土土器



J 40・41号住居跡出土土器



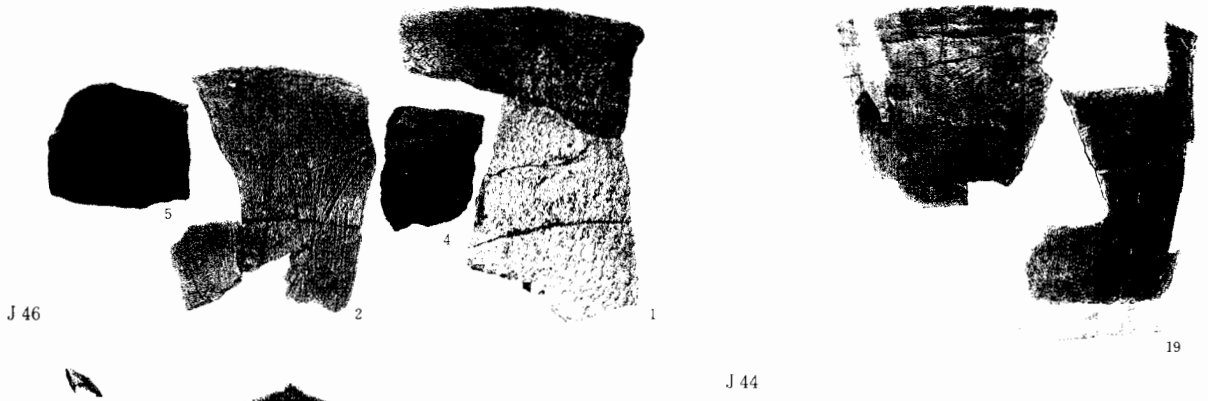
J 42号住居跡出土土器



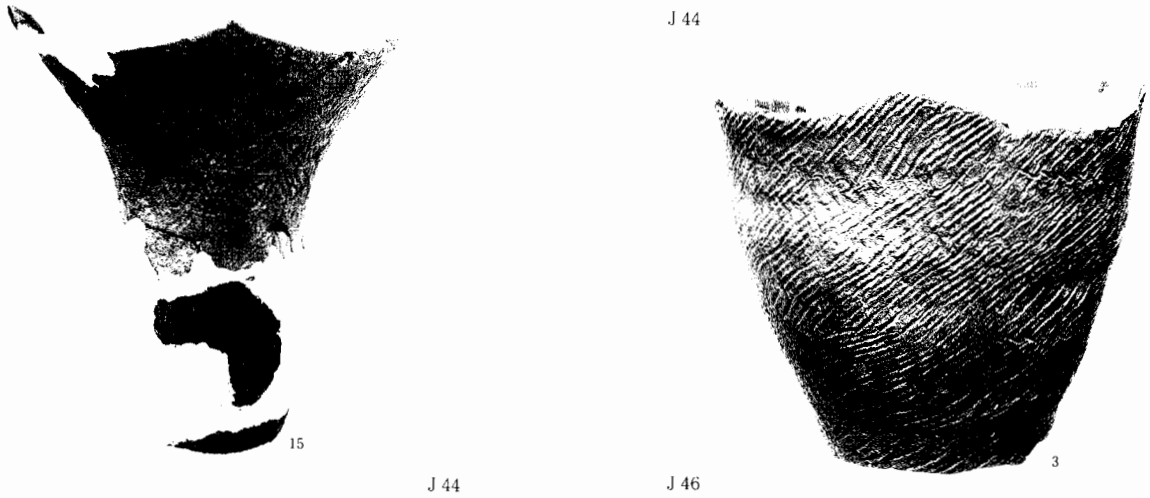
J 43・44号住居跡出土土器

図版106

J 44号住居跡出土土器



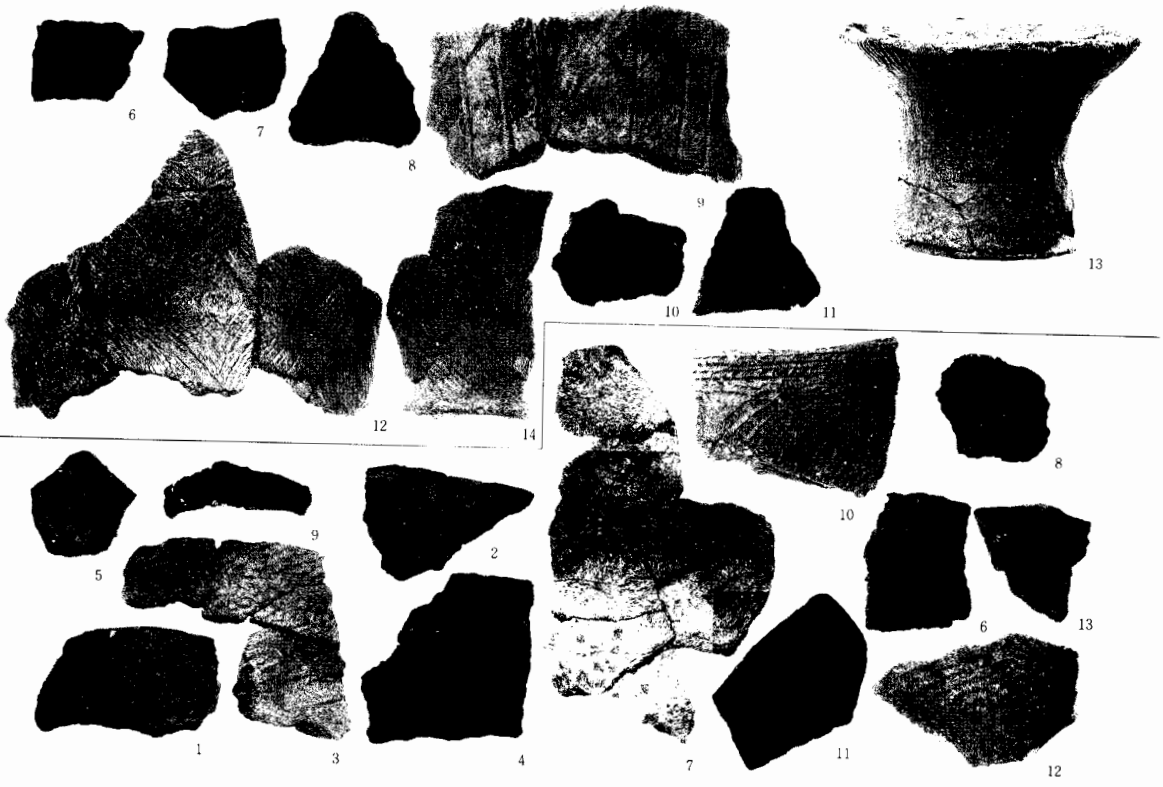
J 44



J 44　　J 46

J 44・46号住居跡出土土器

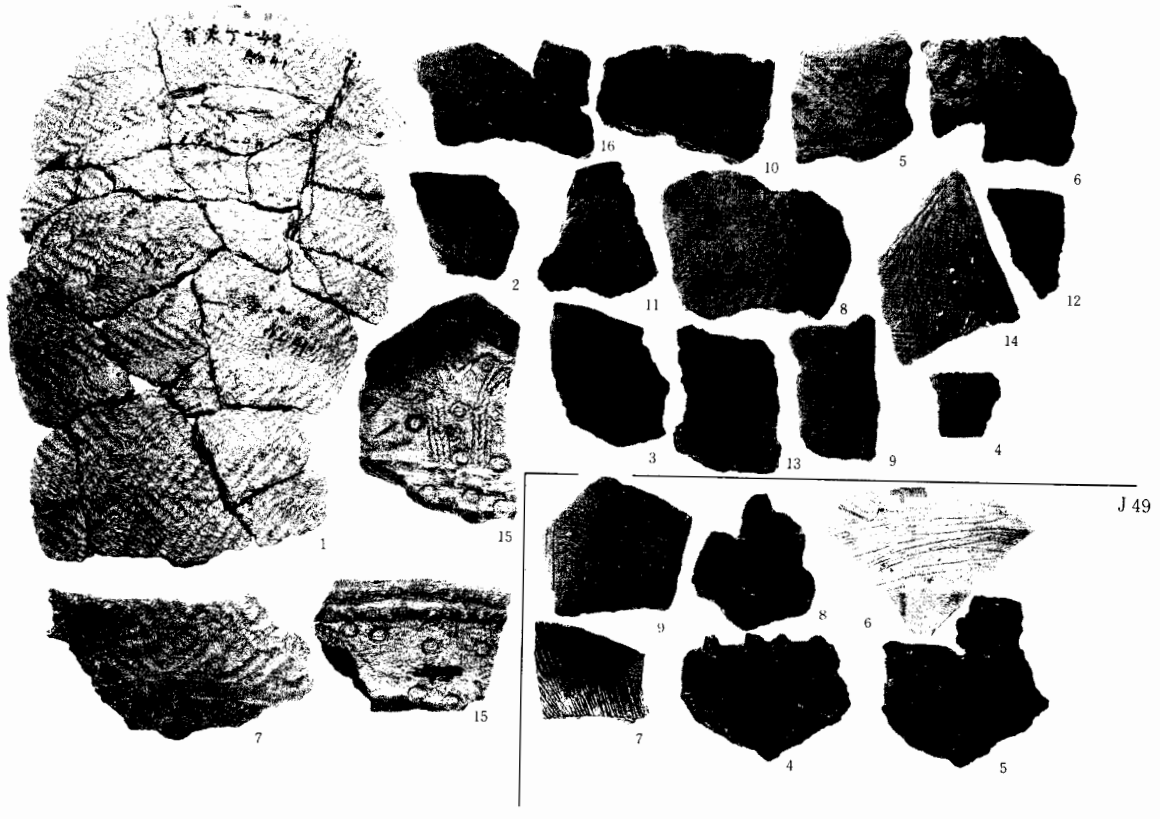
J 46



J 47

J 46・47号住居跡出土土器

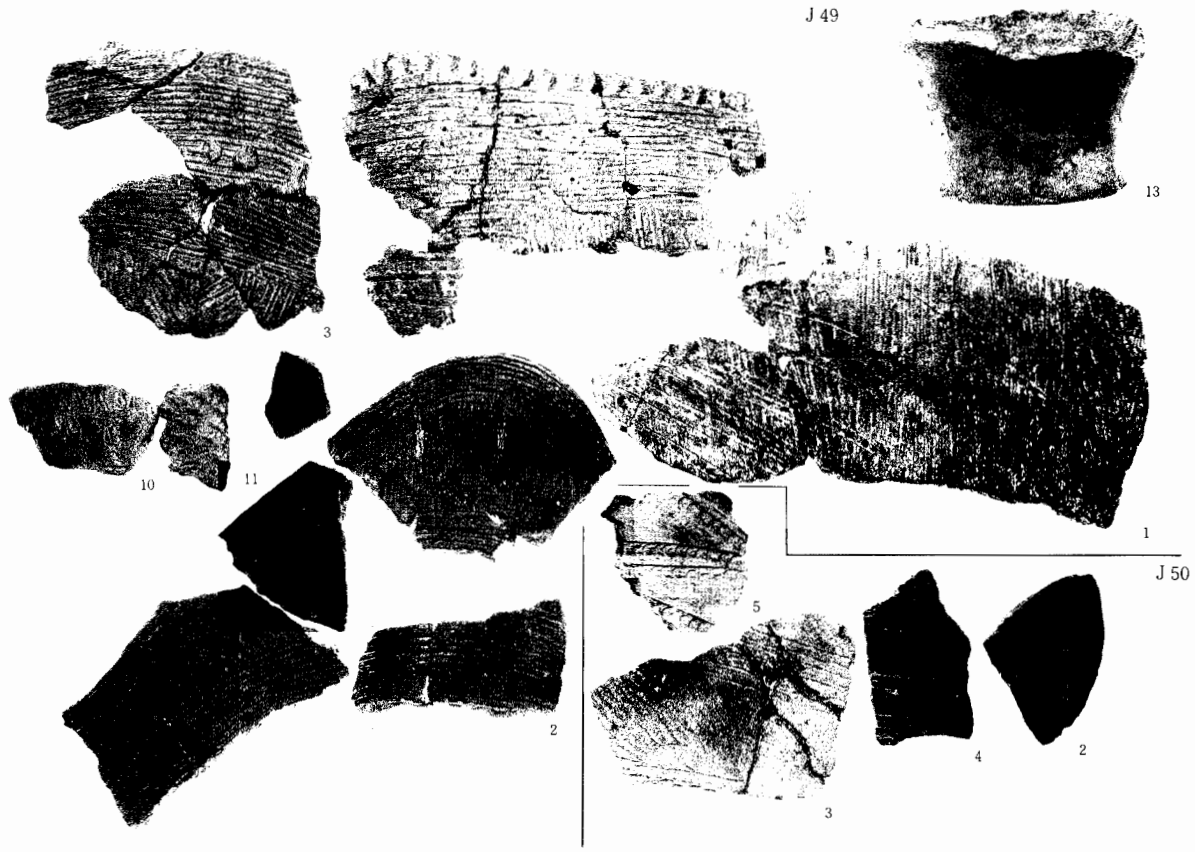
J 48



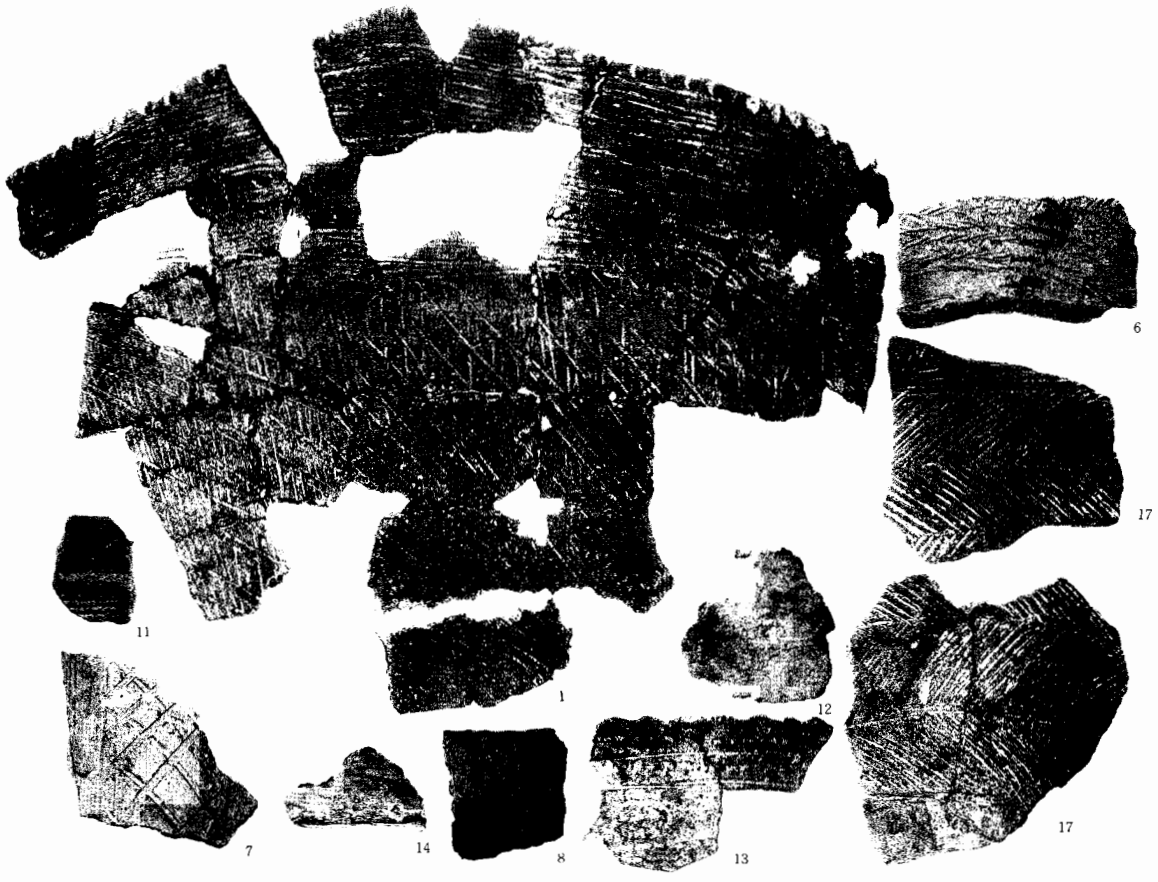
J 49

J 48・49号住居跡出土土器

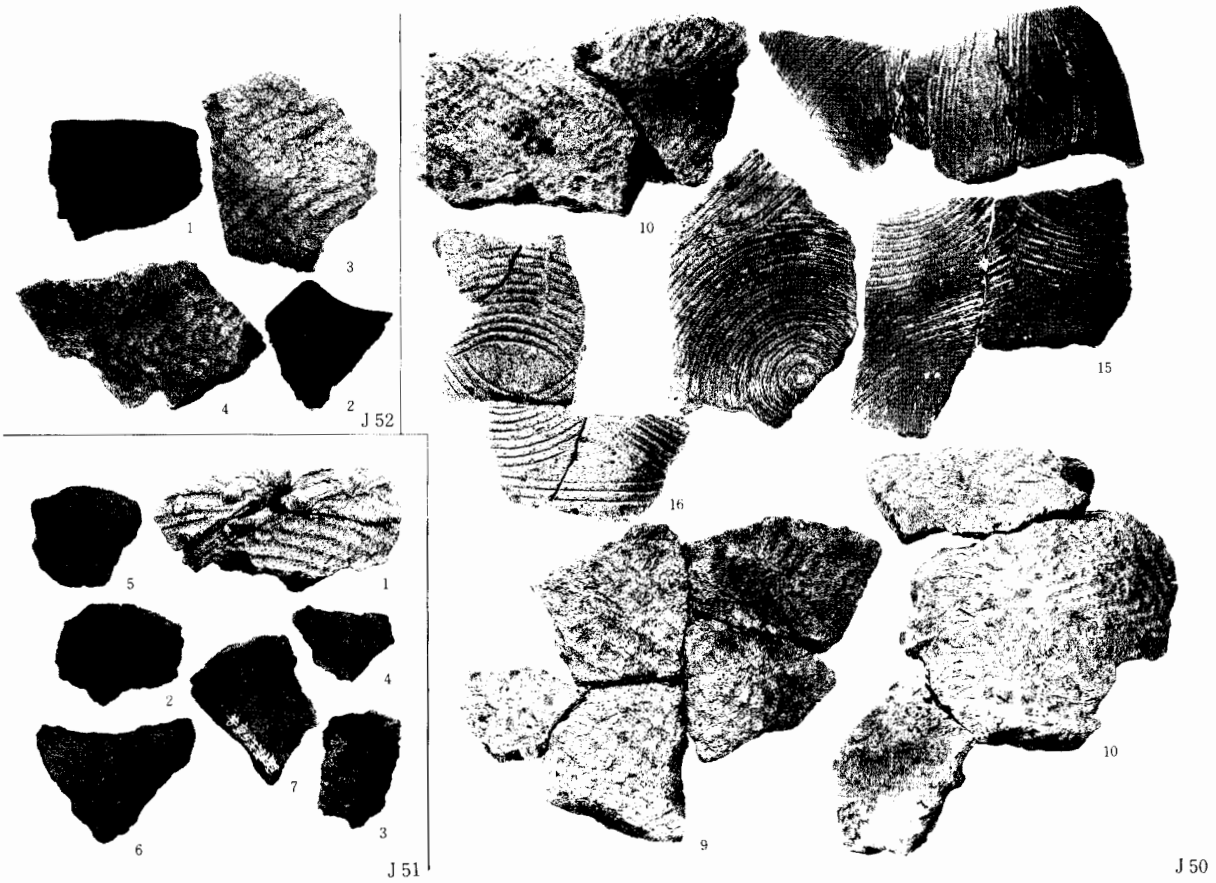
図版108



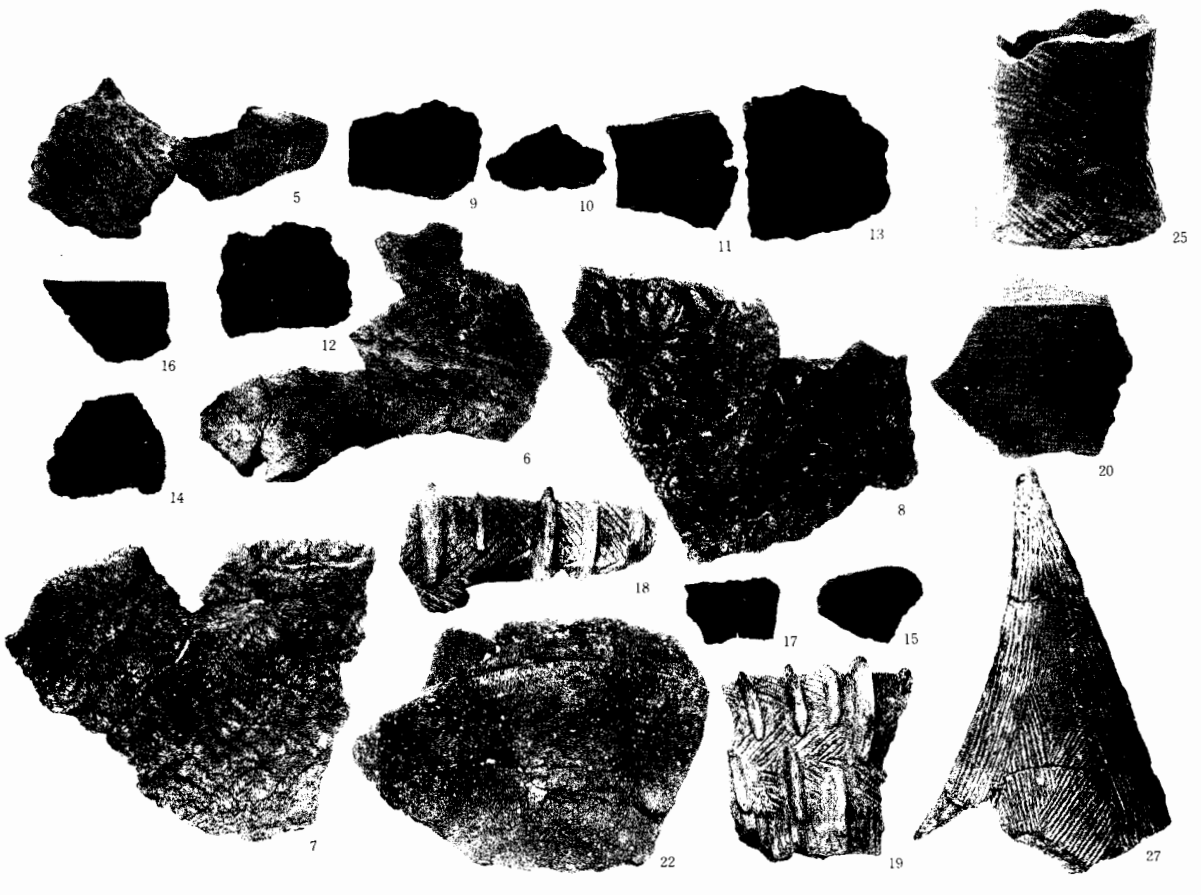
J 49・50号住居跡出土土器



J 50号住居跡出土土器



J 50・51・52号住居跡出土土器



J 52号住居跡出土土器

図版110

23

21

24

J 52号住居跡出土土器

1

1

J 54

J 53

J 54

J 53・54号住居跡出土土器

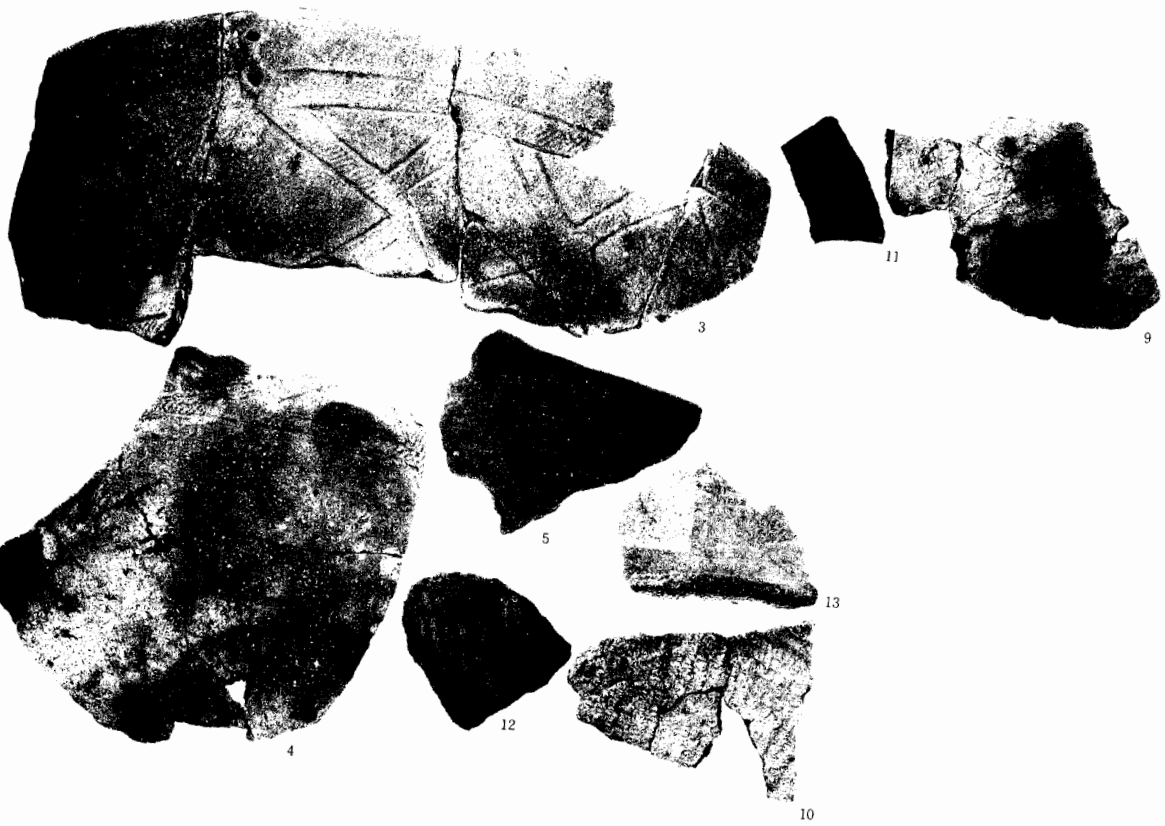
11

J 53

J 54

6

J 53・54号住居跡出土土器



3

11

9

5

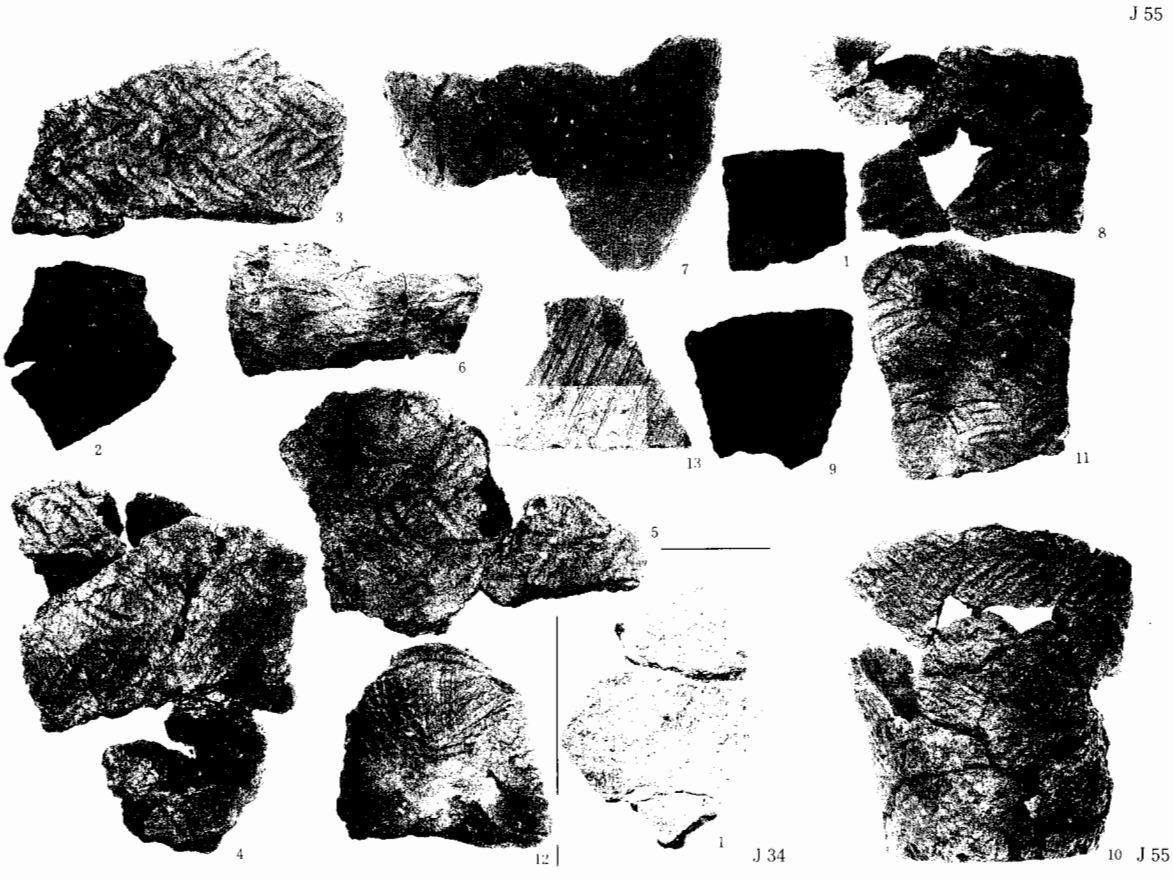
13

12

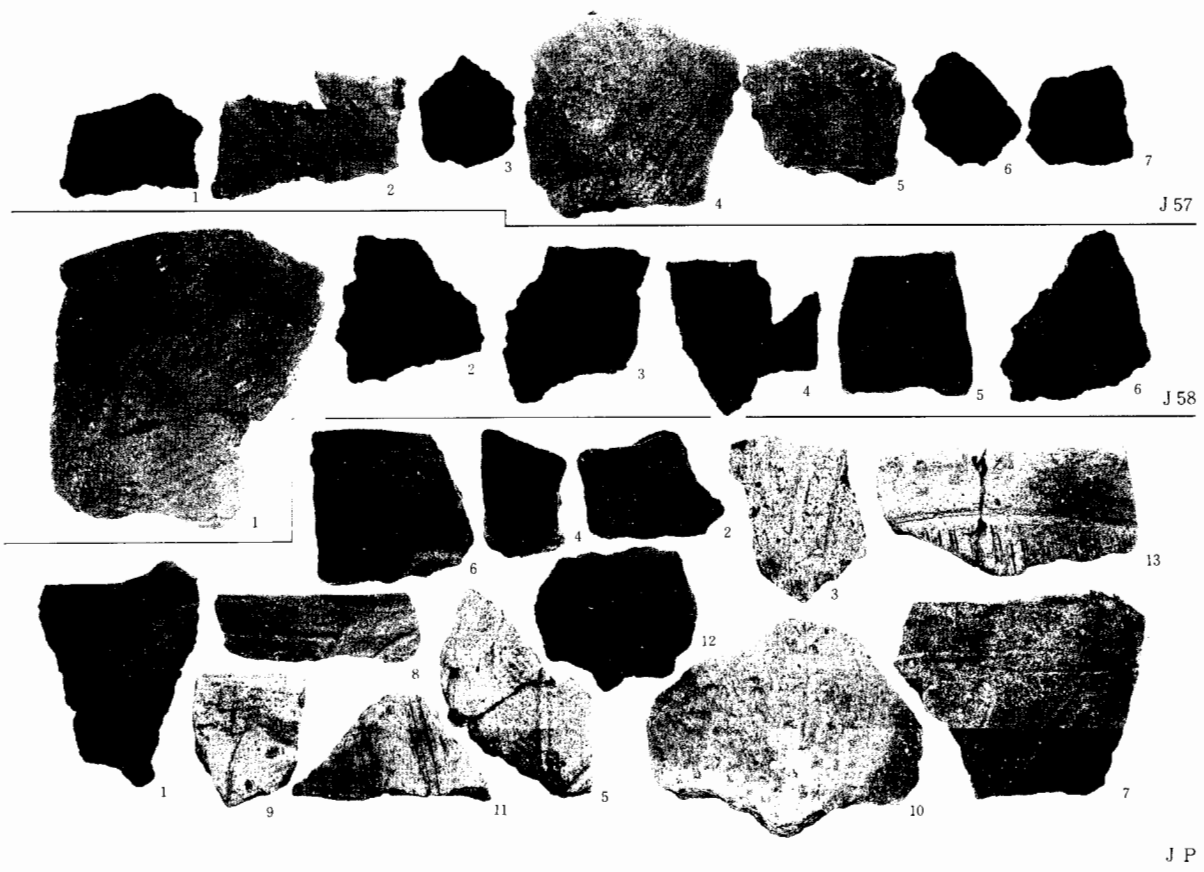
4

10

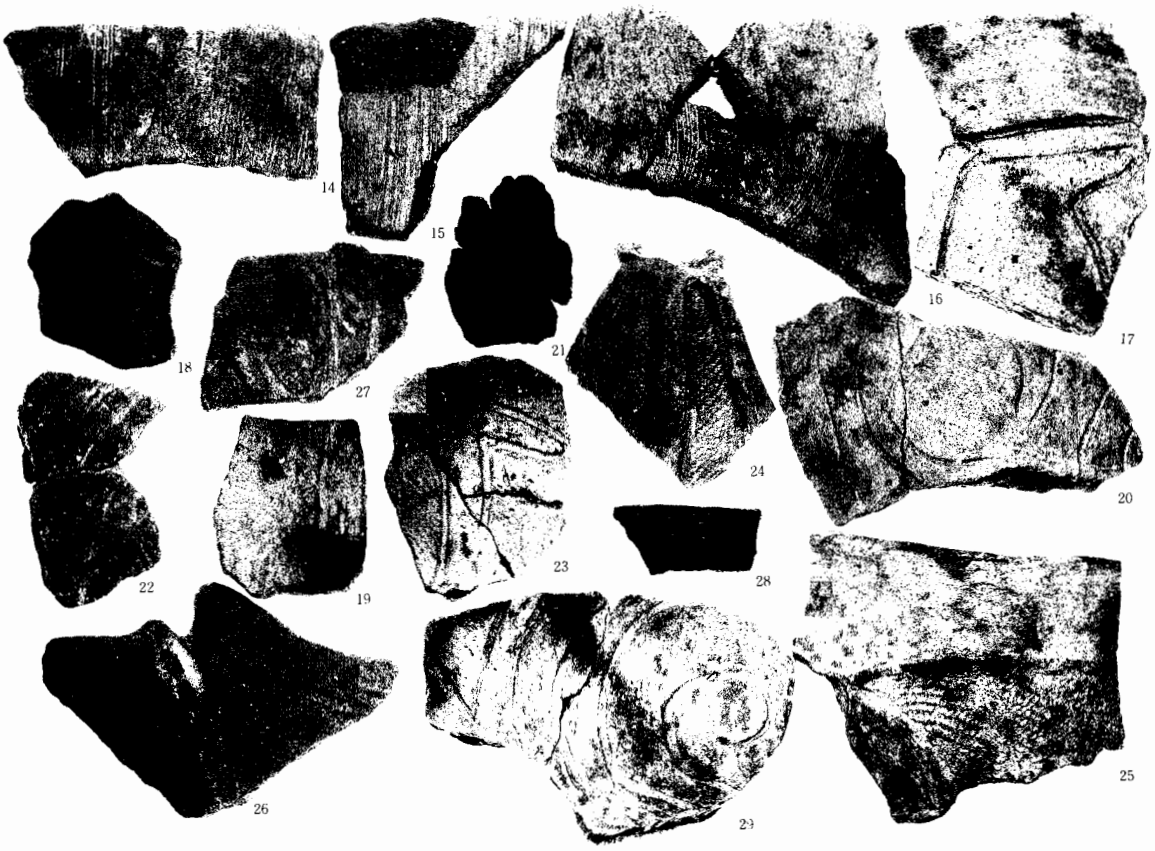
J 54号住居跡出土土器



J 34・55号住居跡出土土器



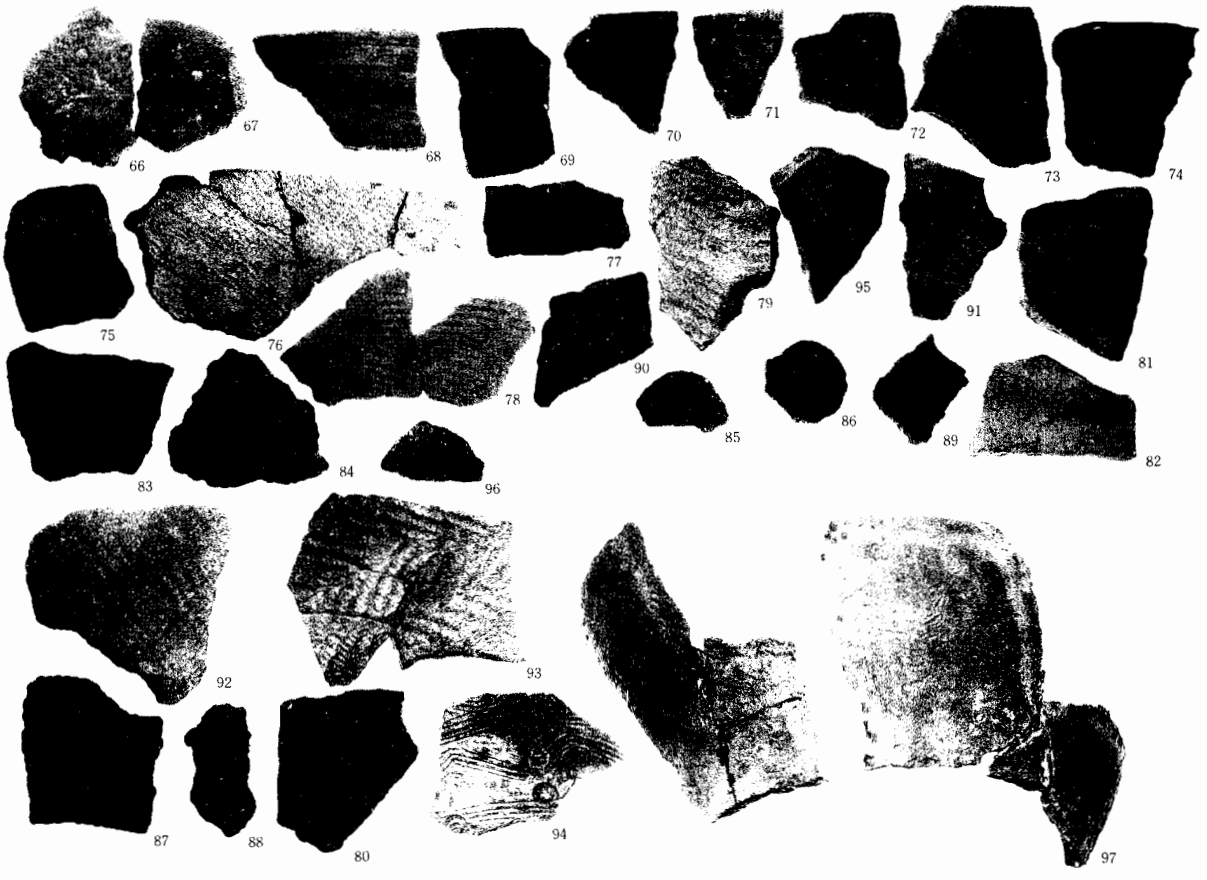
J 57・58号住居跡・J P土坑出土土器



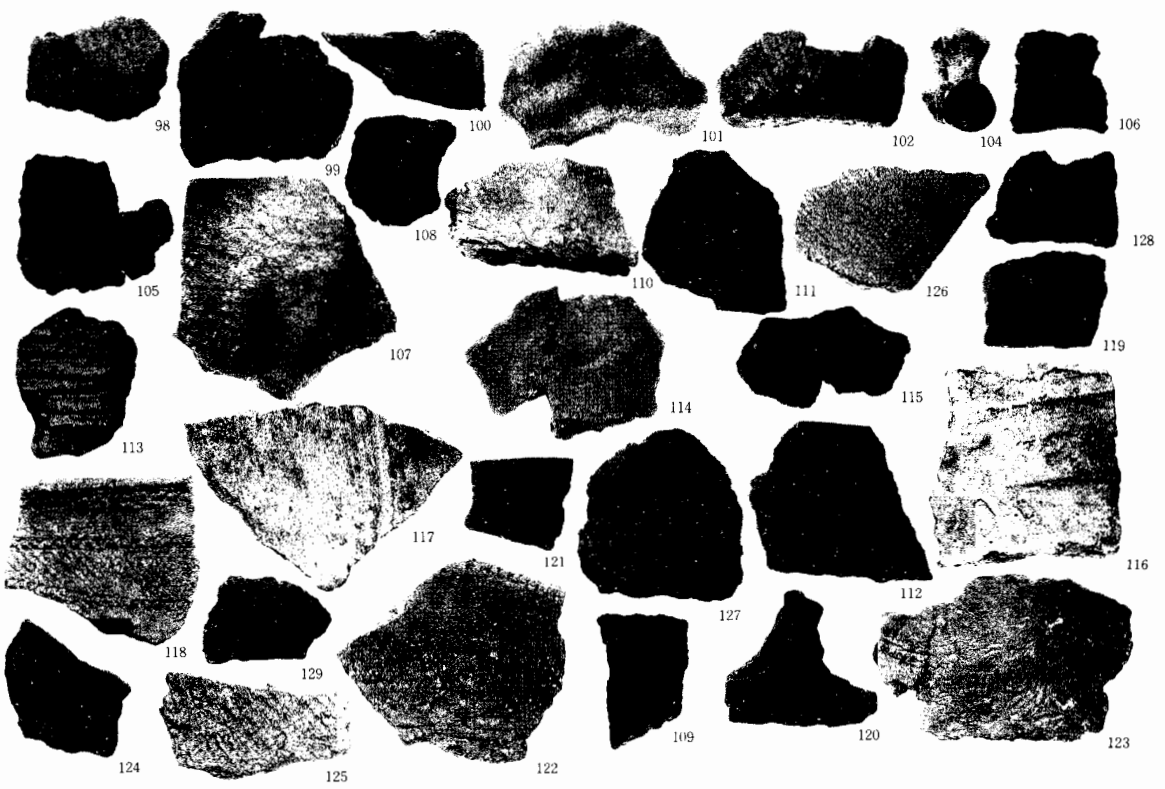
ＪＰ土坑出土土器

ＪＰ土坑出土土器

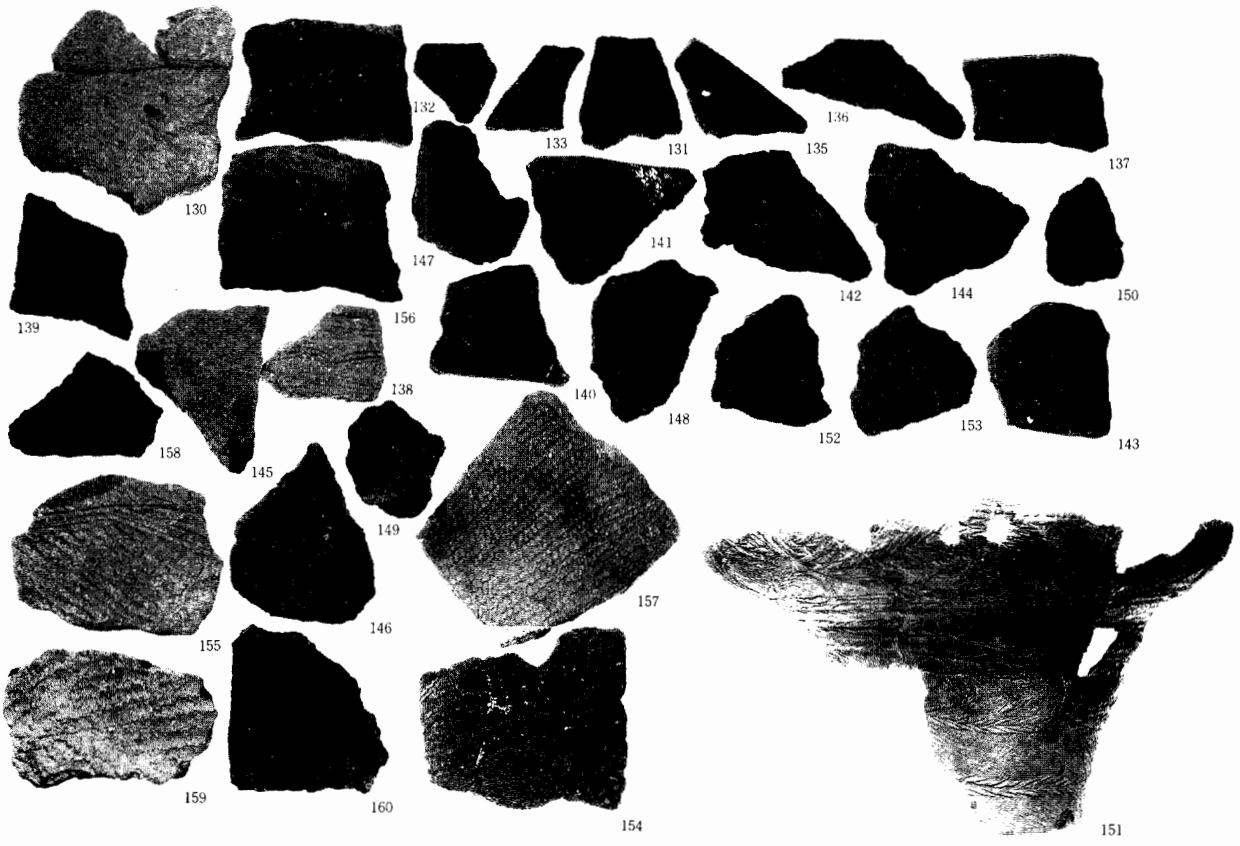
図版114



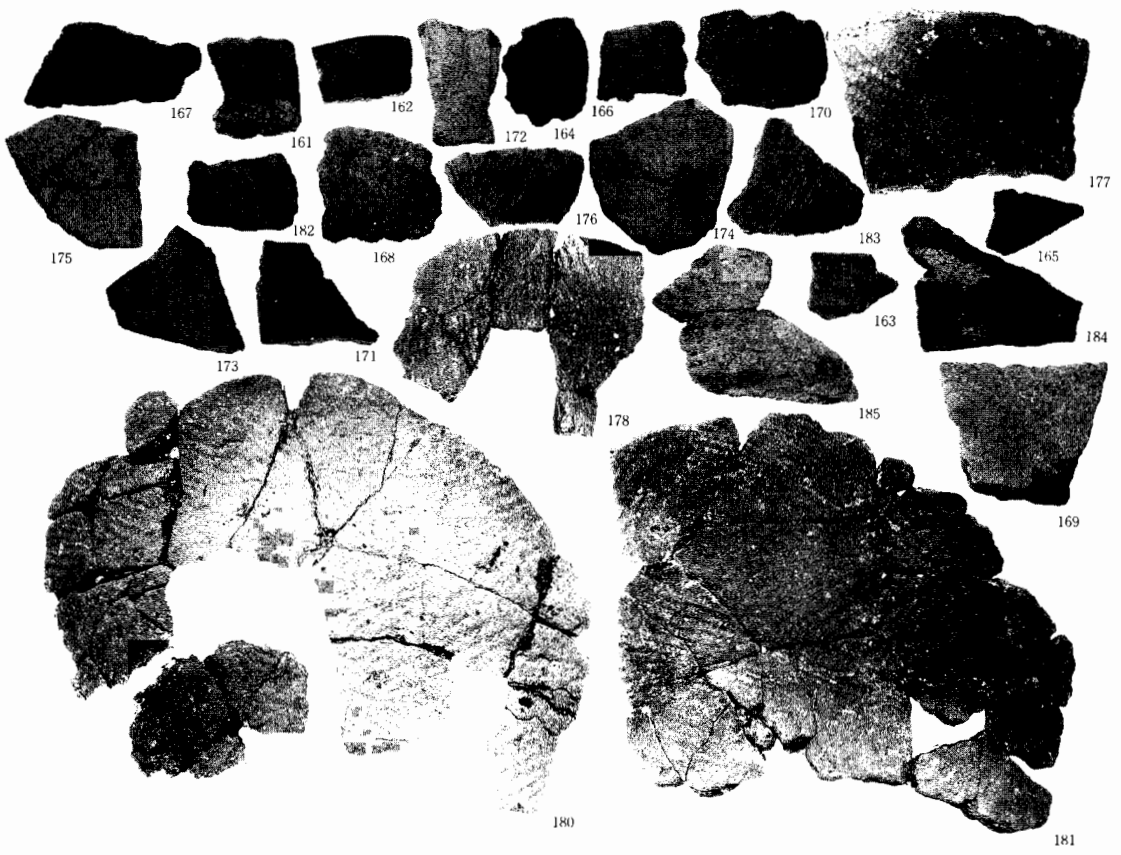
ＪＰ土坑出土土器



ＪＰ土坑出土土器

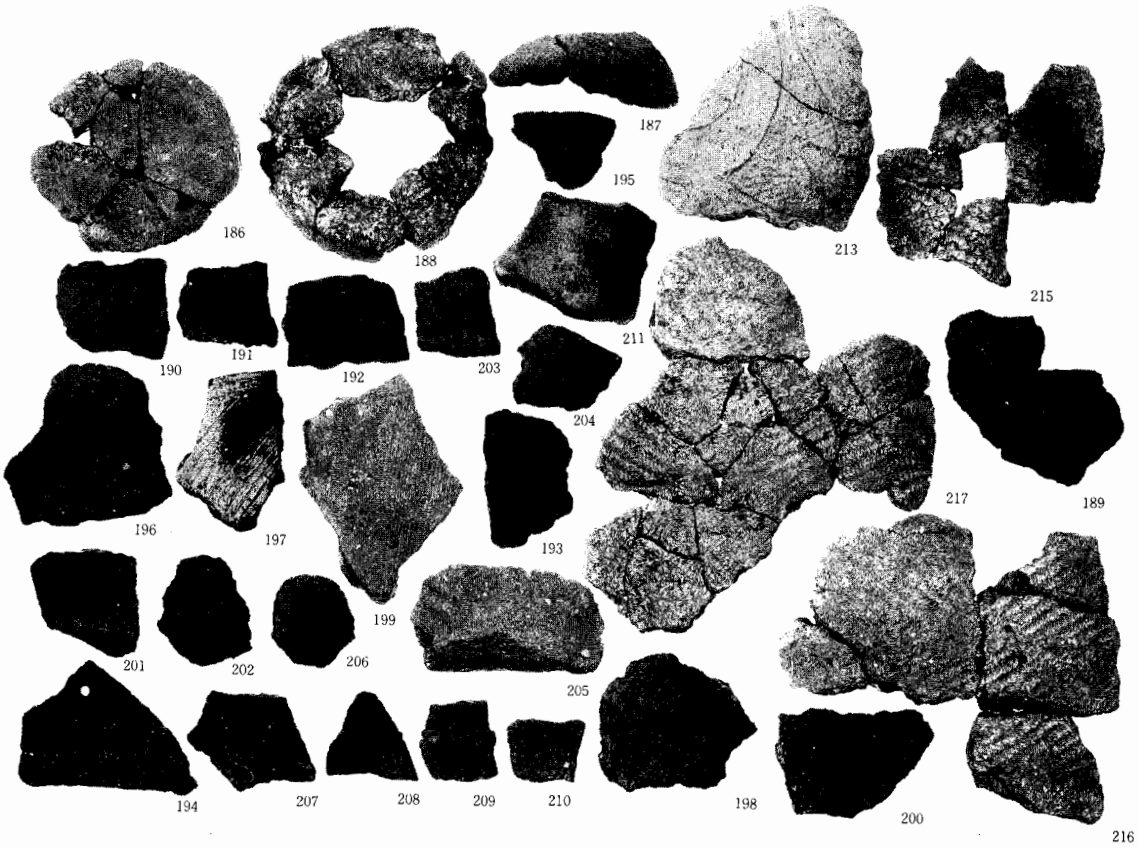


ＪＰ土坑出土土器

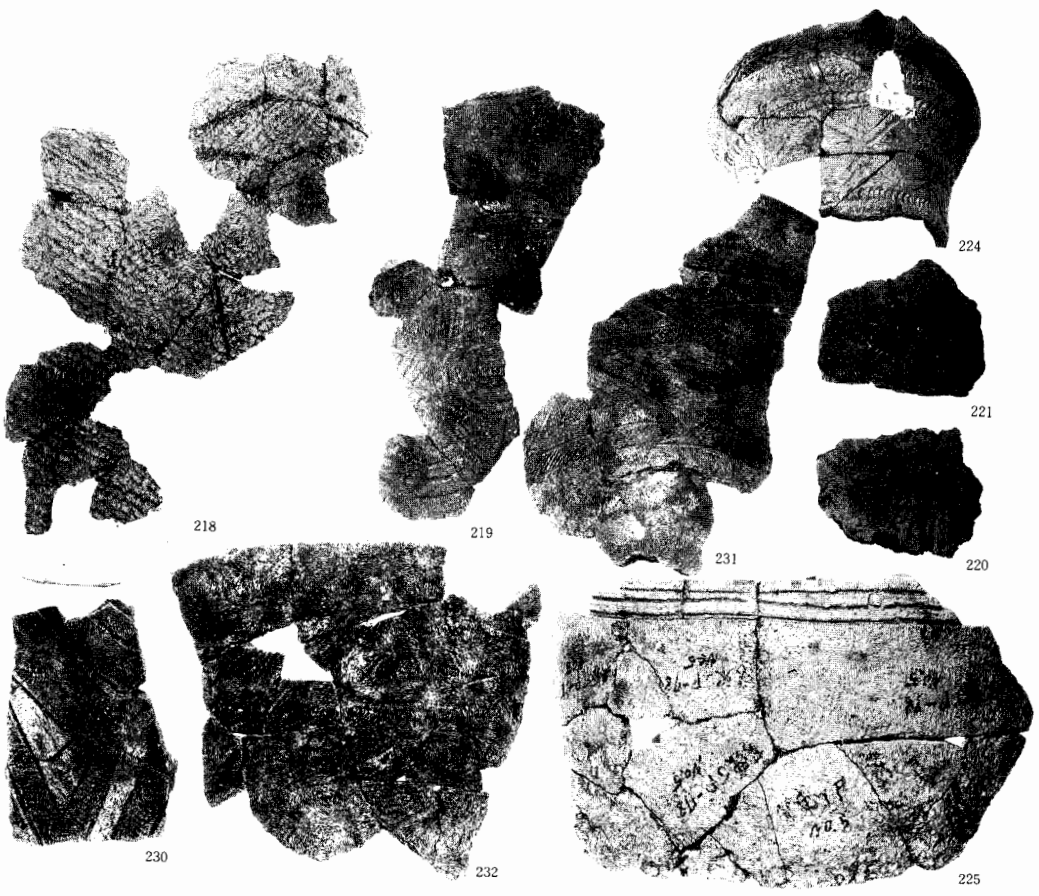


ＪＰ土坑出土土器

図版116



ＪＰ土坑出土土器



ＪＰ土坑出土土器

ＪＰ土坑出土土器

ＪＰ土坑出土土器

図版118

223

226

179

ＪＰ土坑出土土器

236

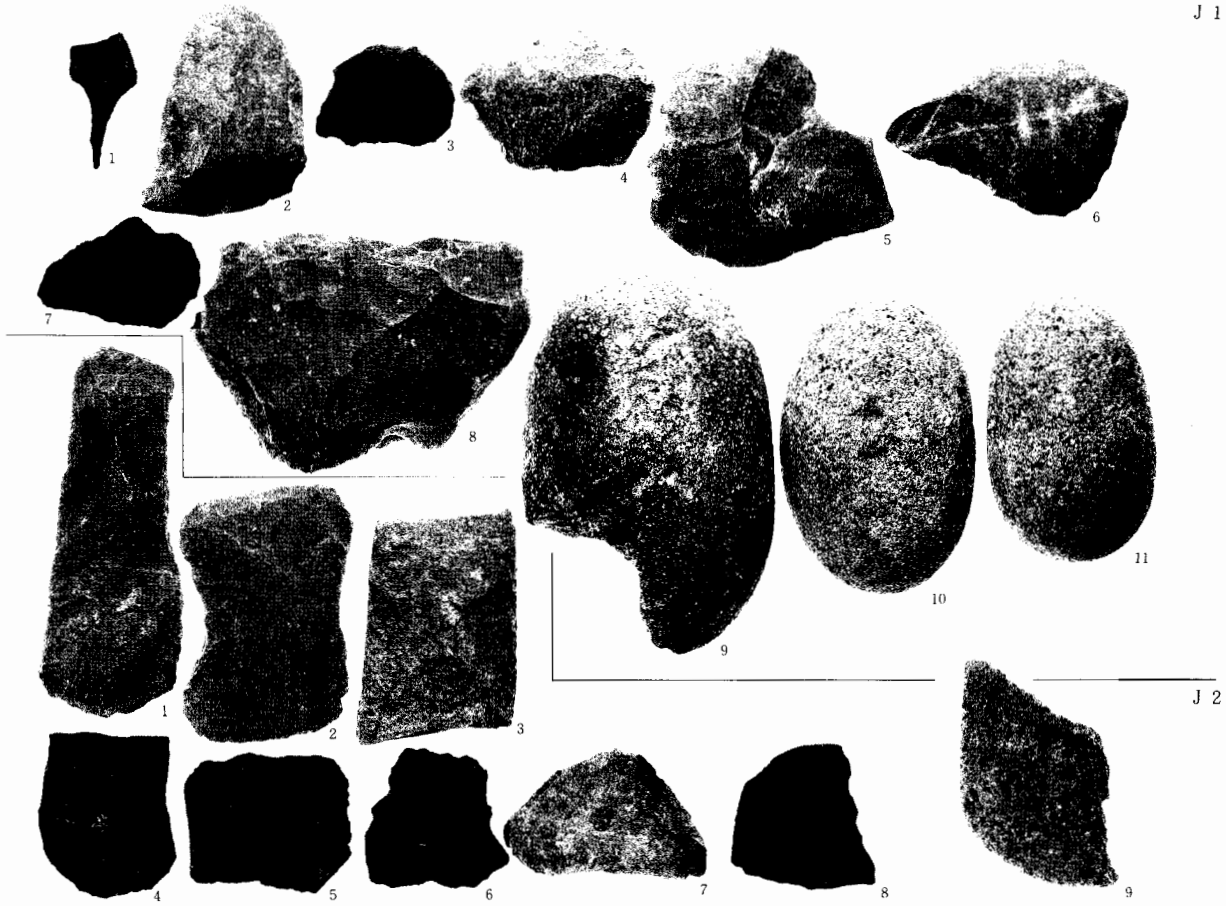
227

259

260

ＪＰ土坑出土土器

J 1



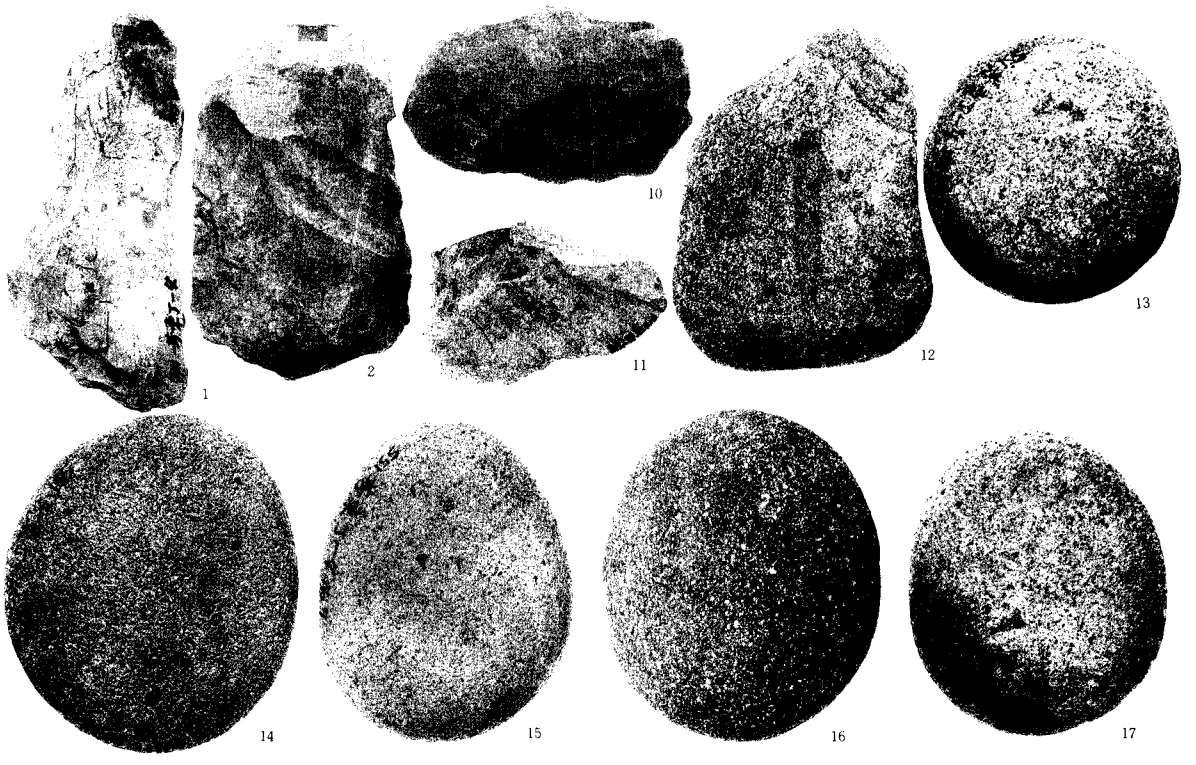
J 2

J 1・2 号住居跡出土石器

J 3

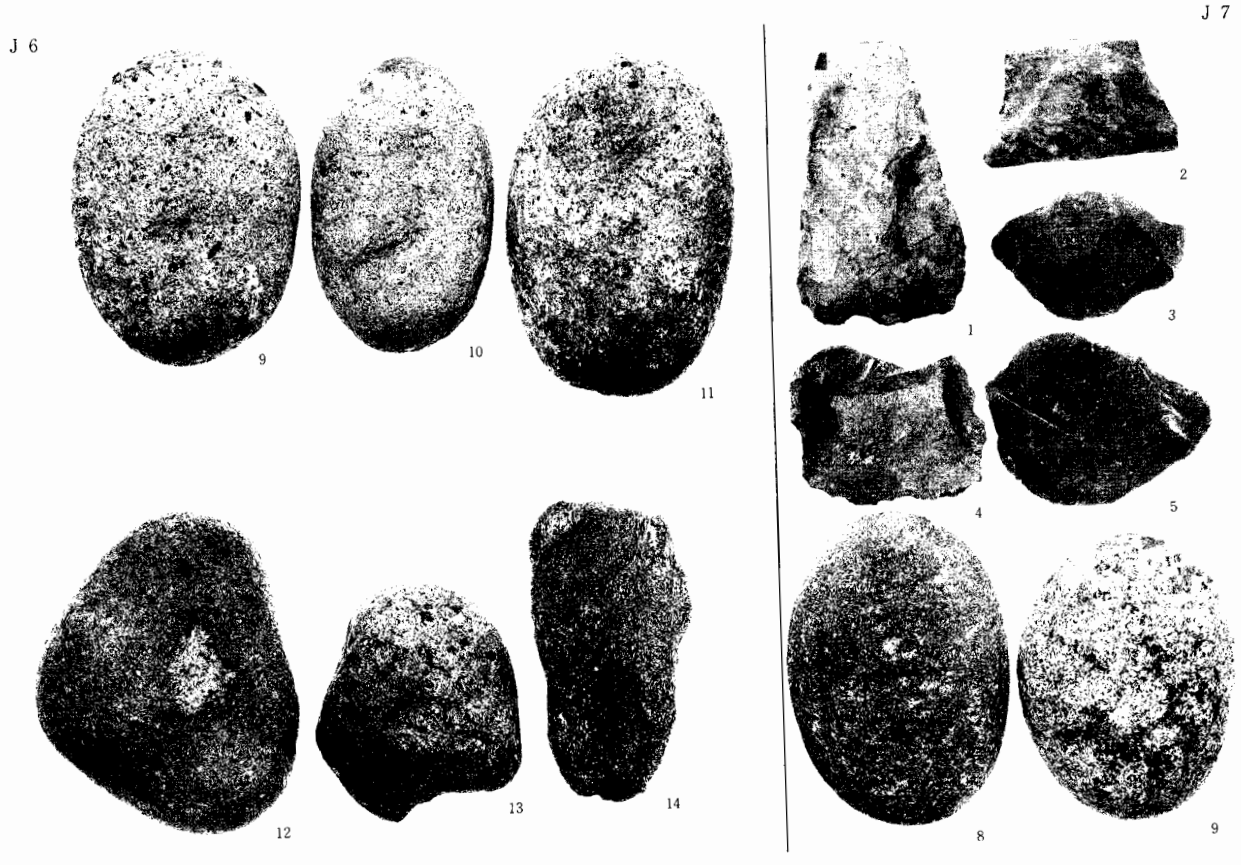
J 4

J 3・4 号住居跡出土石器

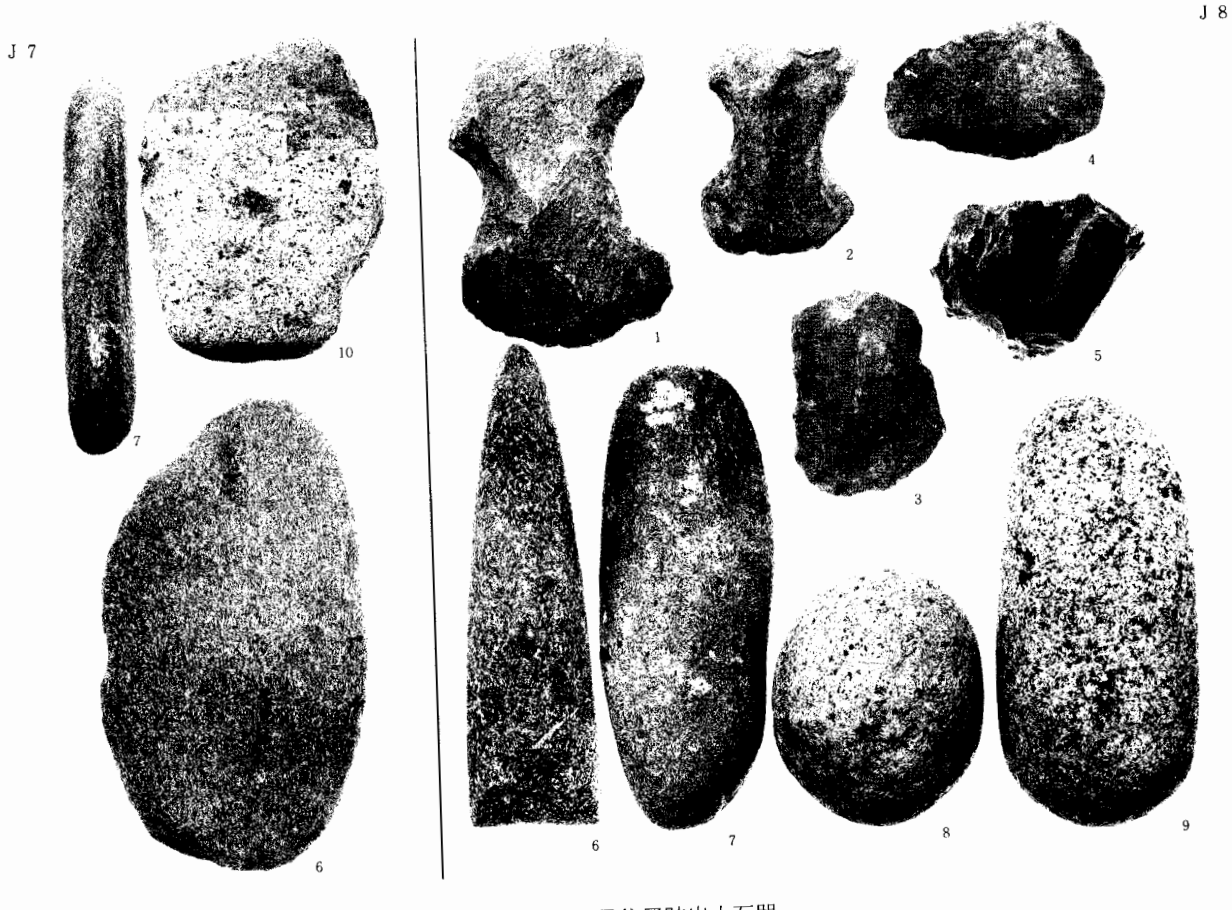


J 4 号住居跡出土石器

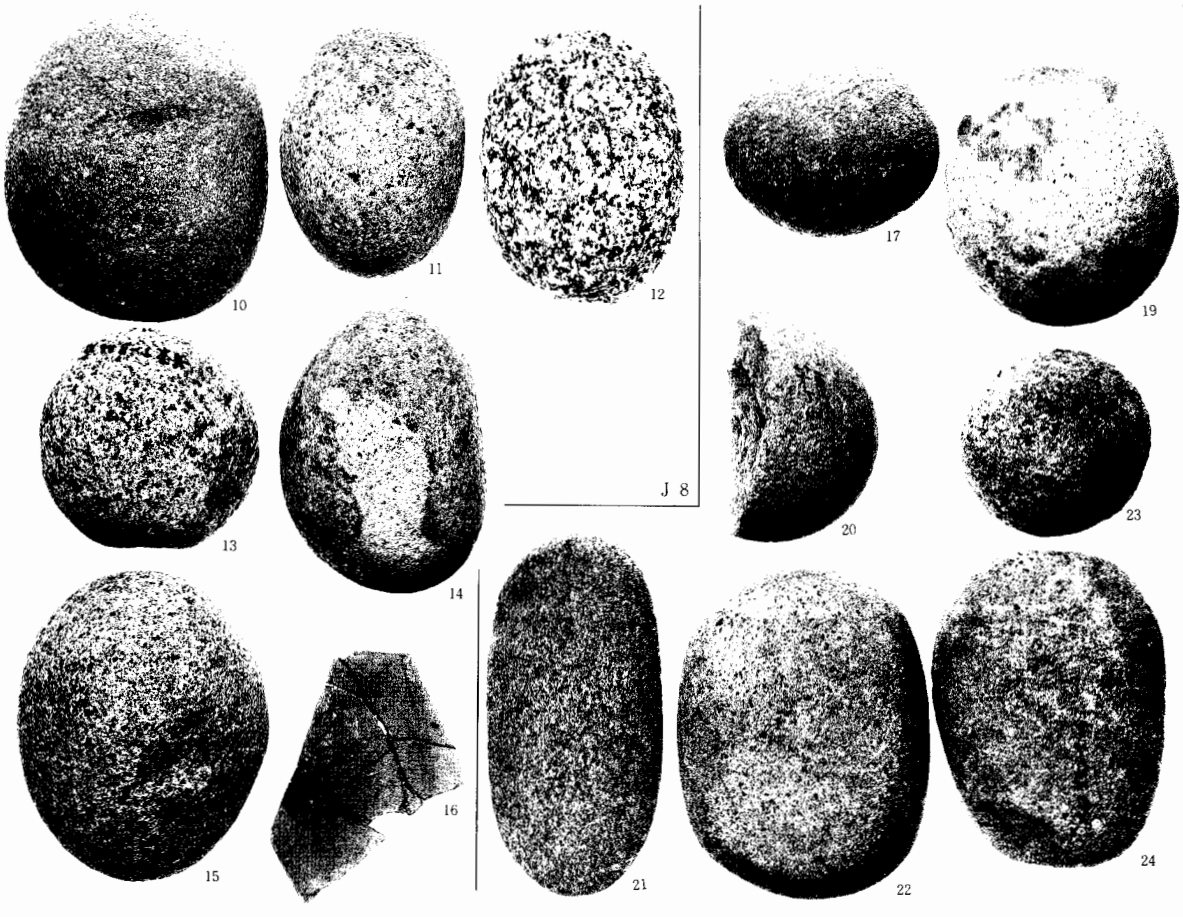
J 5・6 号住居跡出土石器



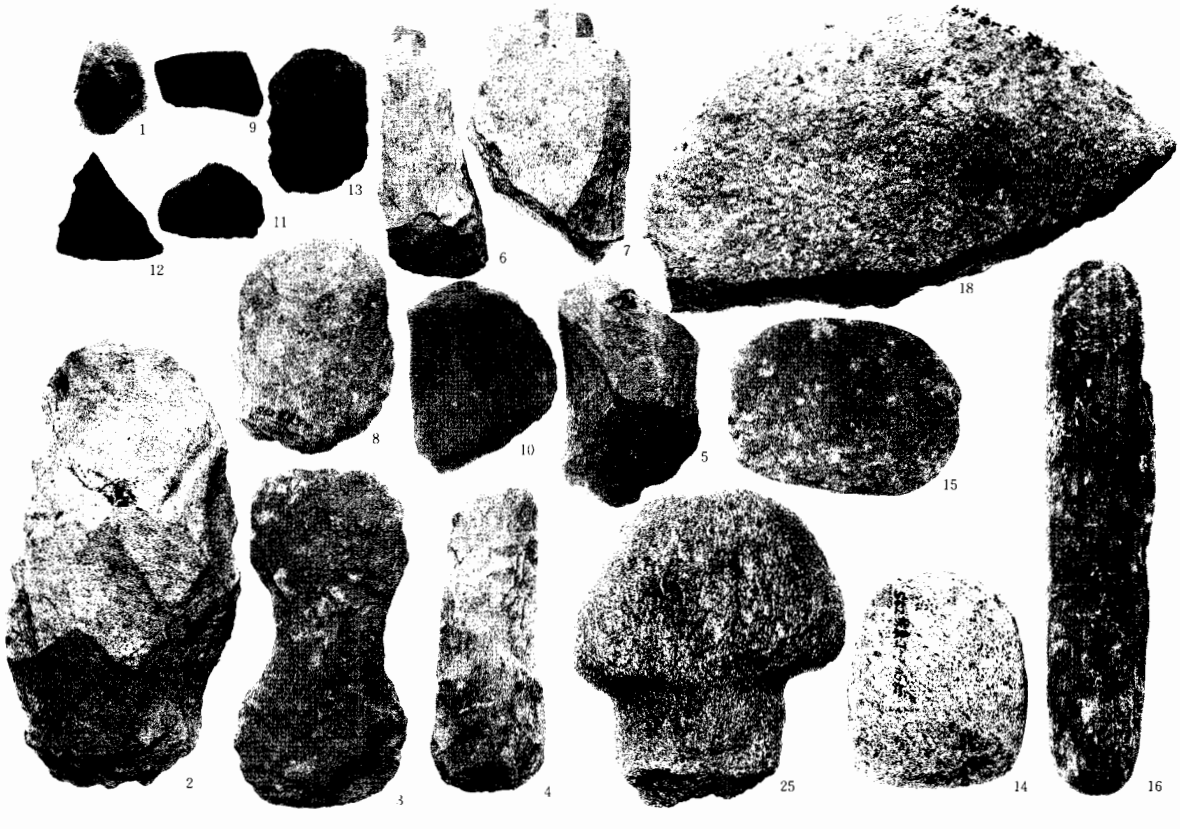
J 6・7 号住居跡出土石器



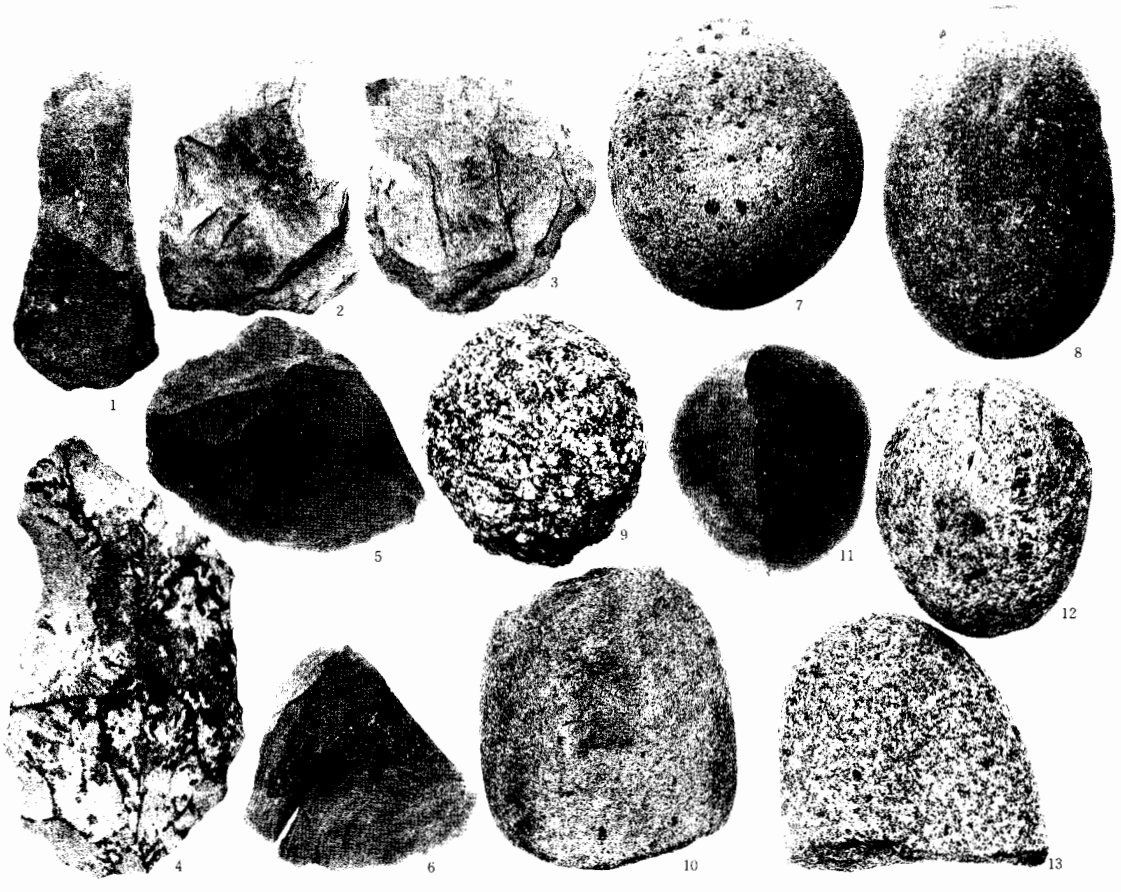
J 7・8 号住居跡出土石器



J 8・9号住居跡出土石器



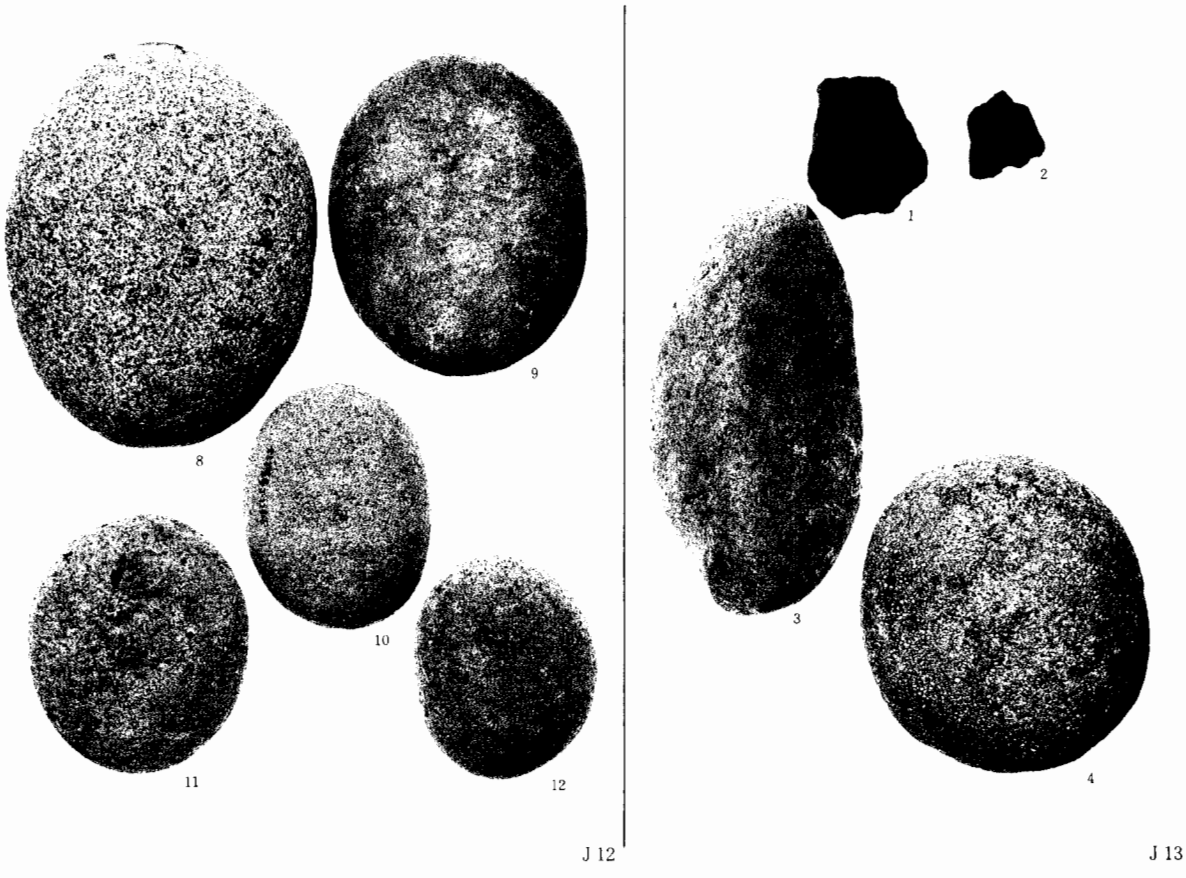
J 9号住居跡出土石器



J 10号住居跡出土石器

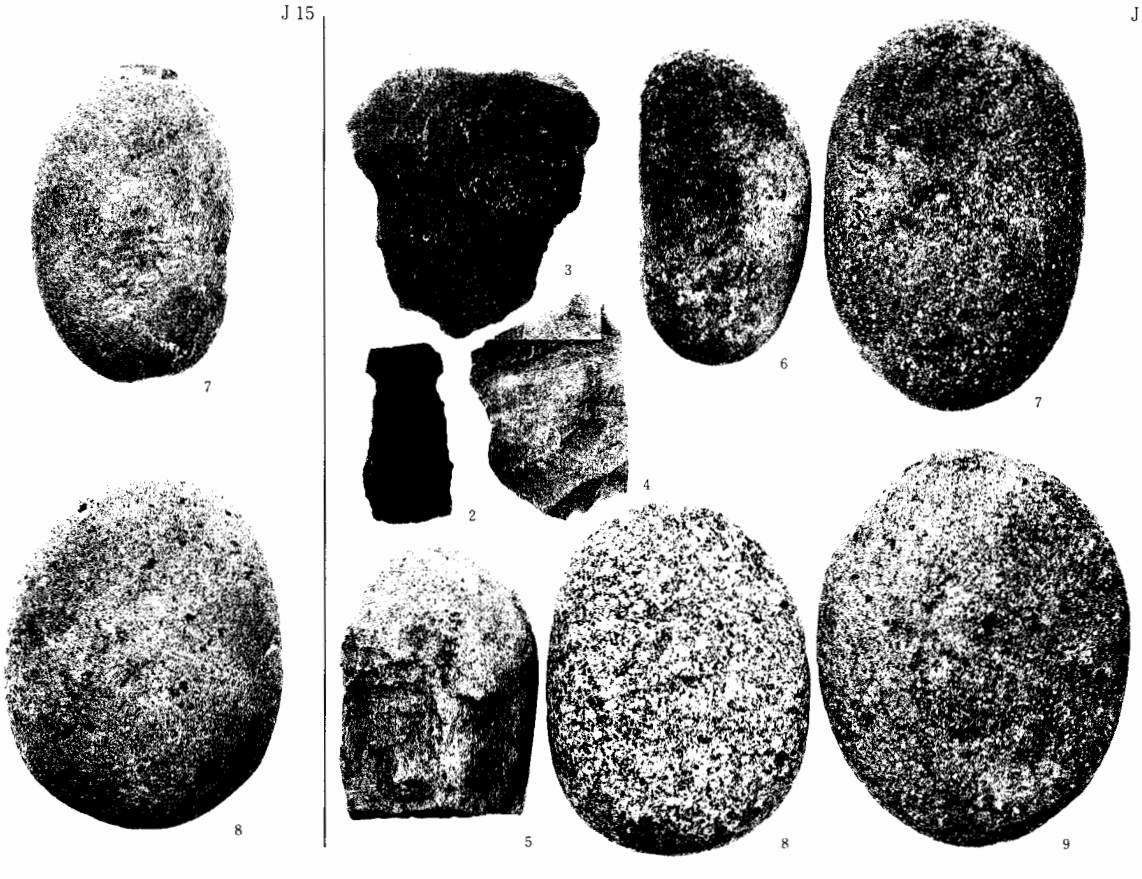
J 10号住居跡出土石器

J 11・12 住居跡出土石器



J 12・13号住居跡出土石器

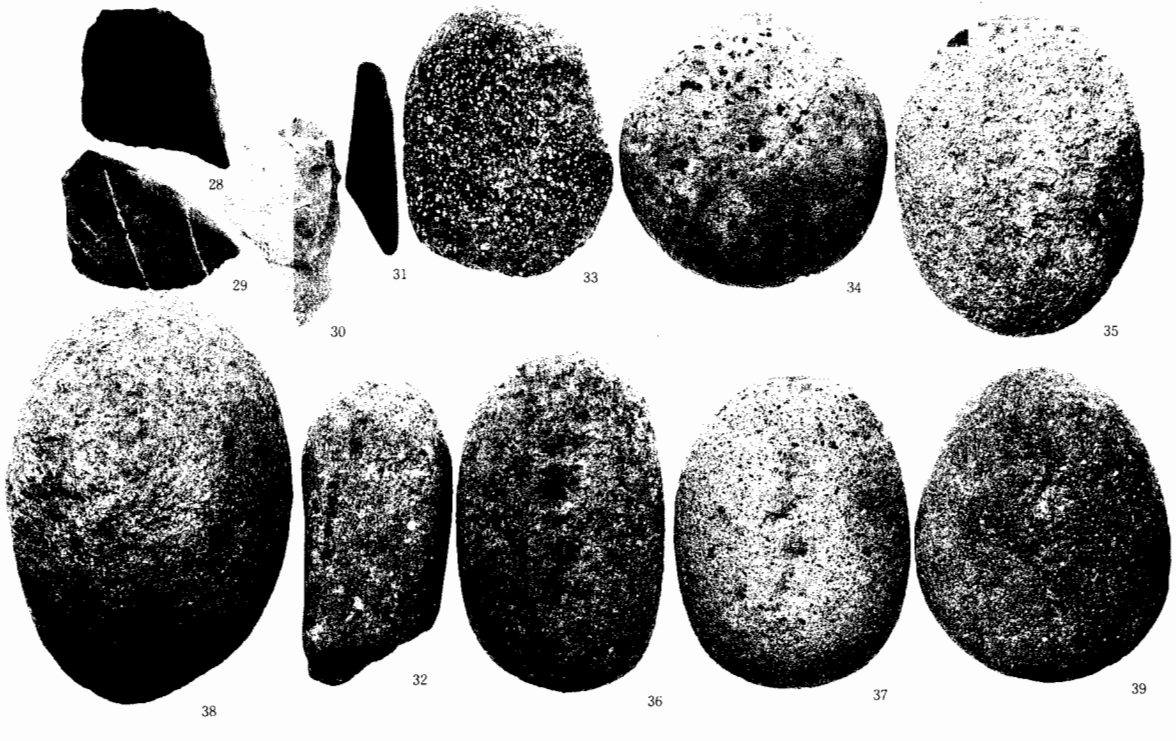
J 14•15号住居跡出土石器



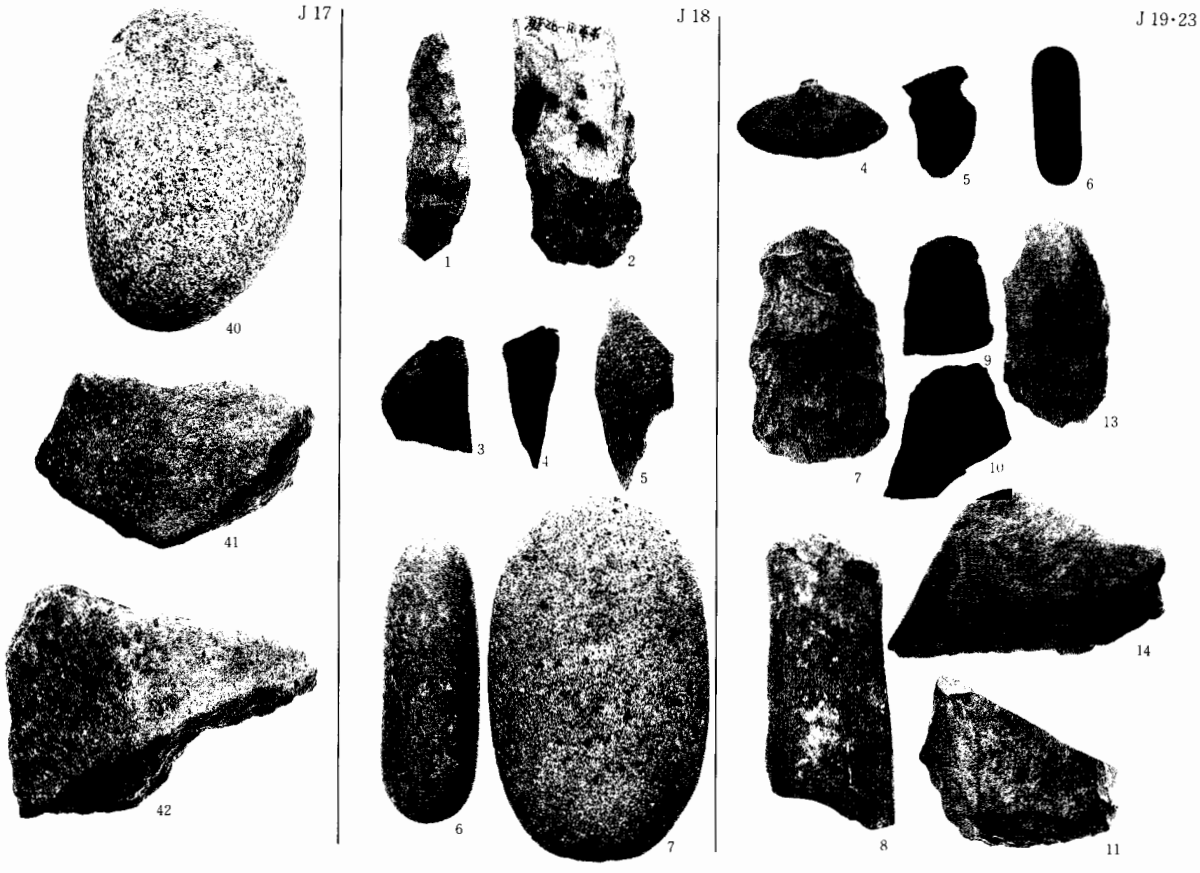
J 15•16号住居跡出土石器

図版126

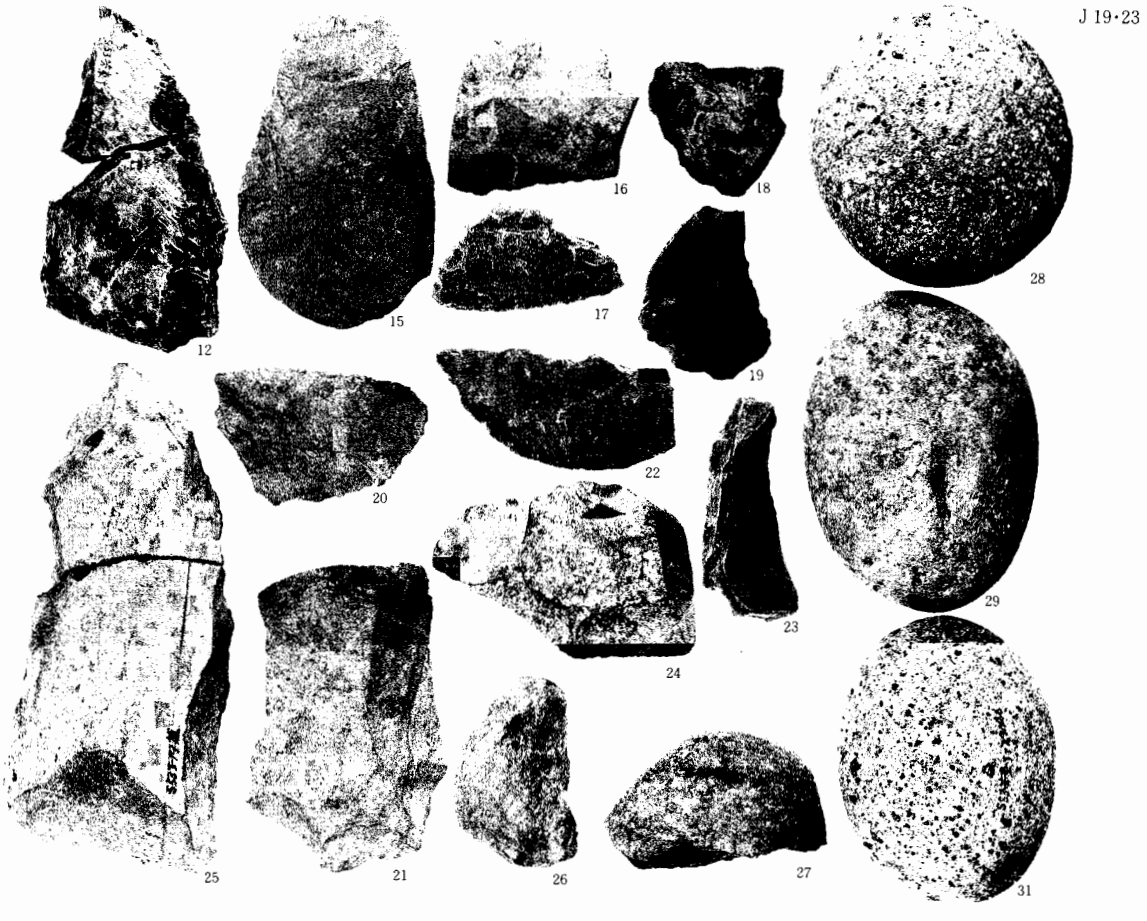
J 17号住居跡出土石器



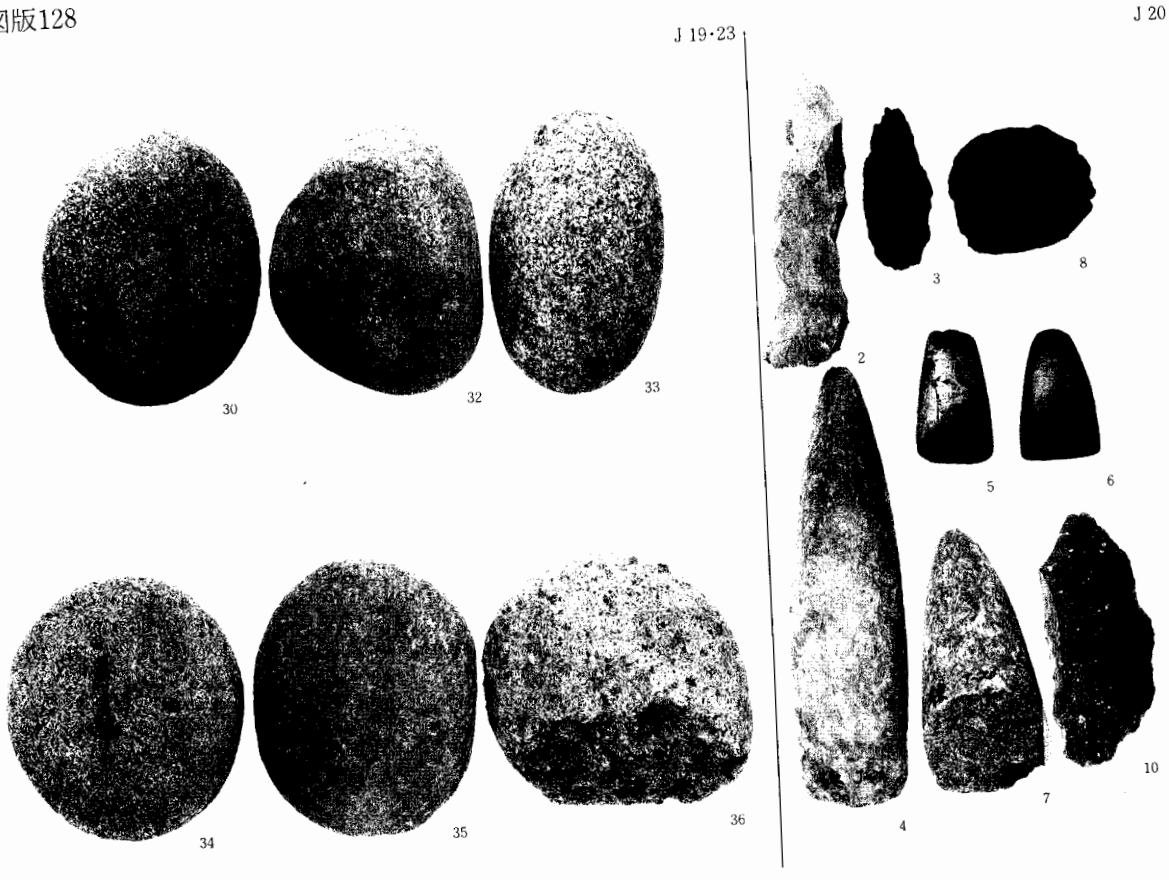
J 17号住居跡出土石器



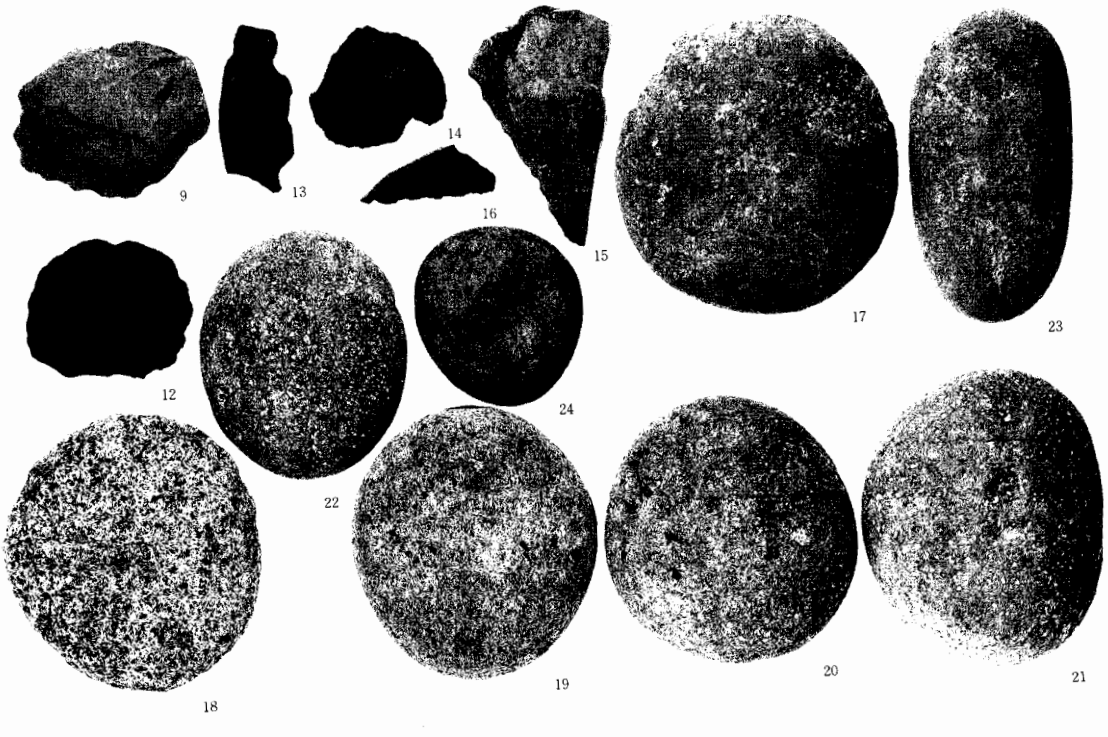
J 17・18・19・23号住居跡出土石器



J 19・23号住居跡出土石器

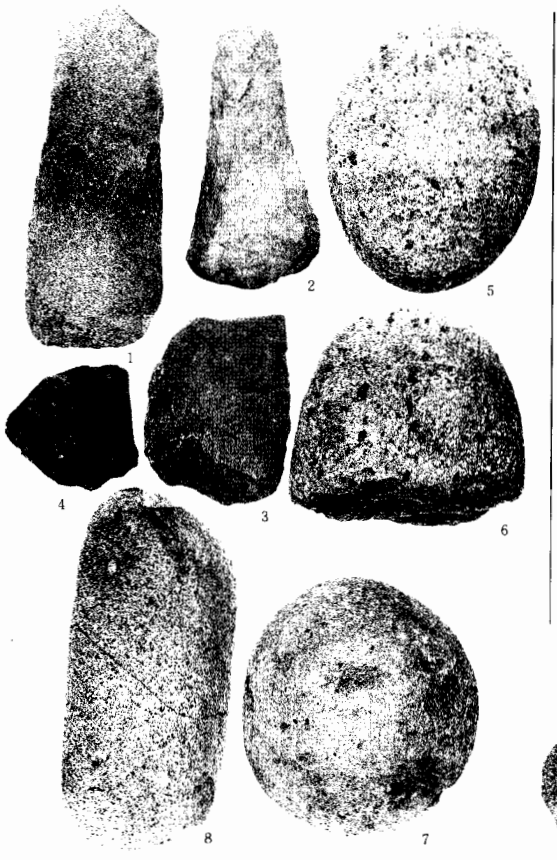


J 19・23・20号住居跡出土石器

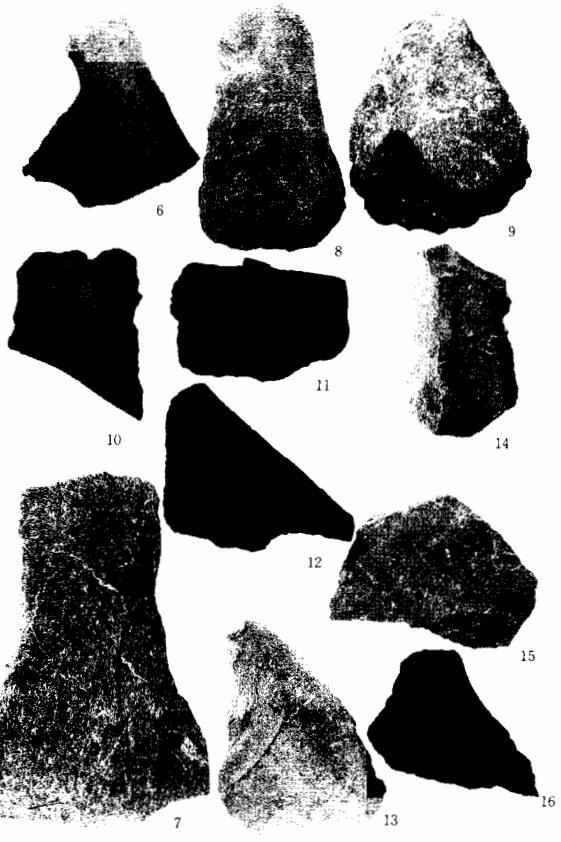


J 20号住居跡出土石器

J 21

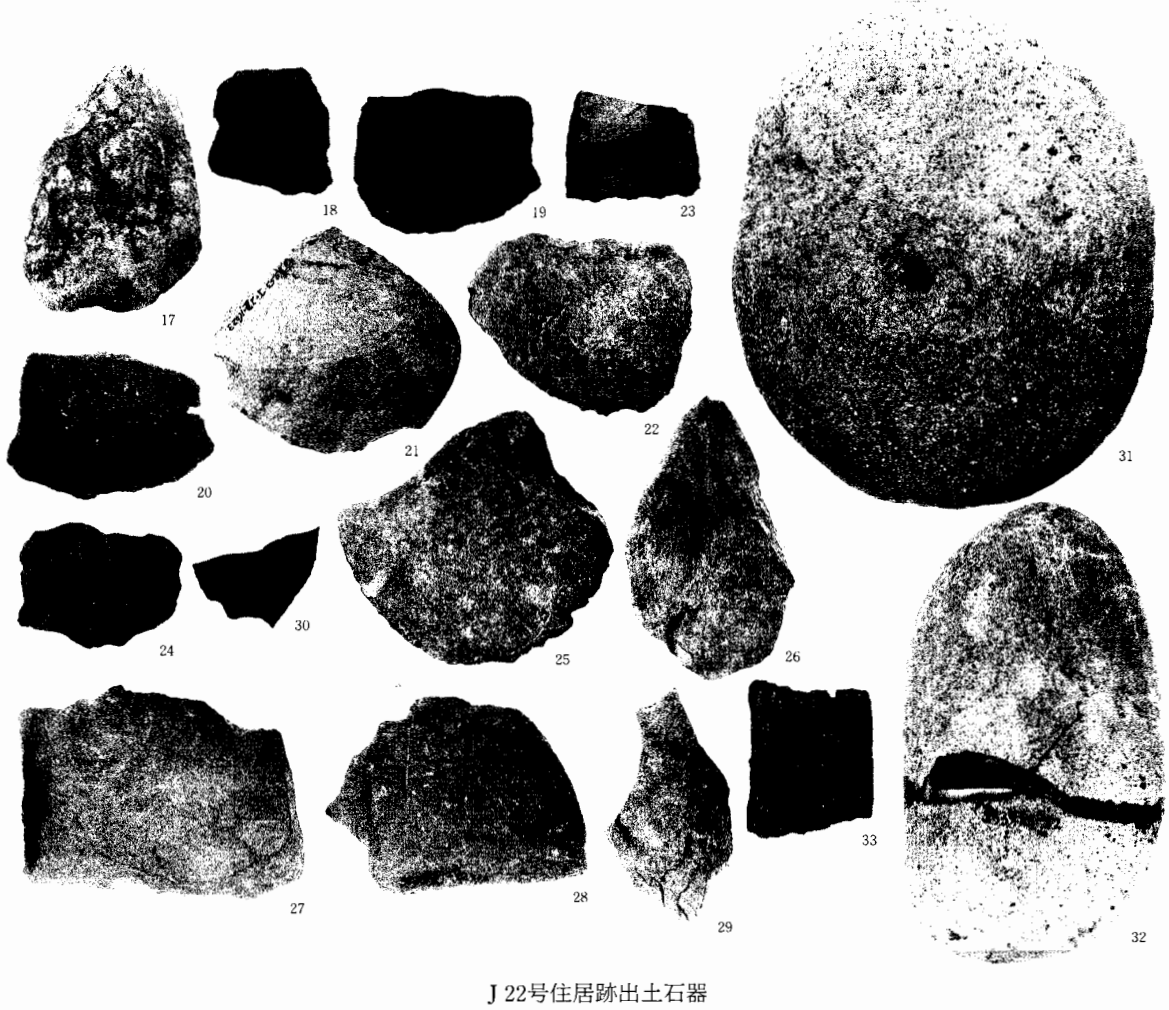


J 22



J 21・22号住居跡出土石器

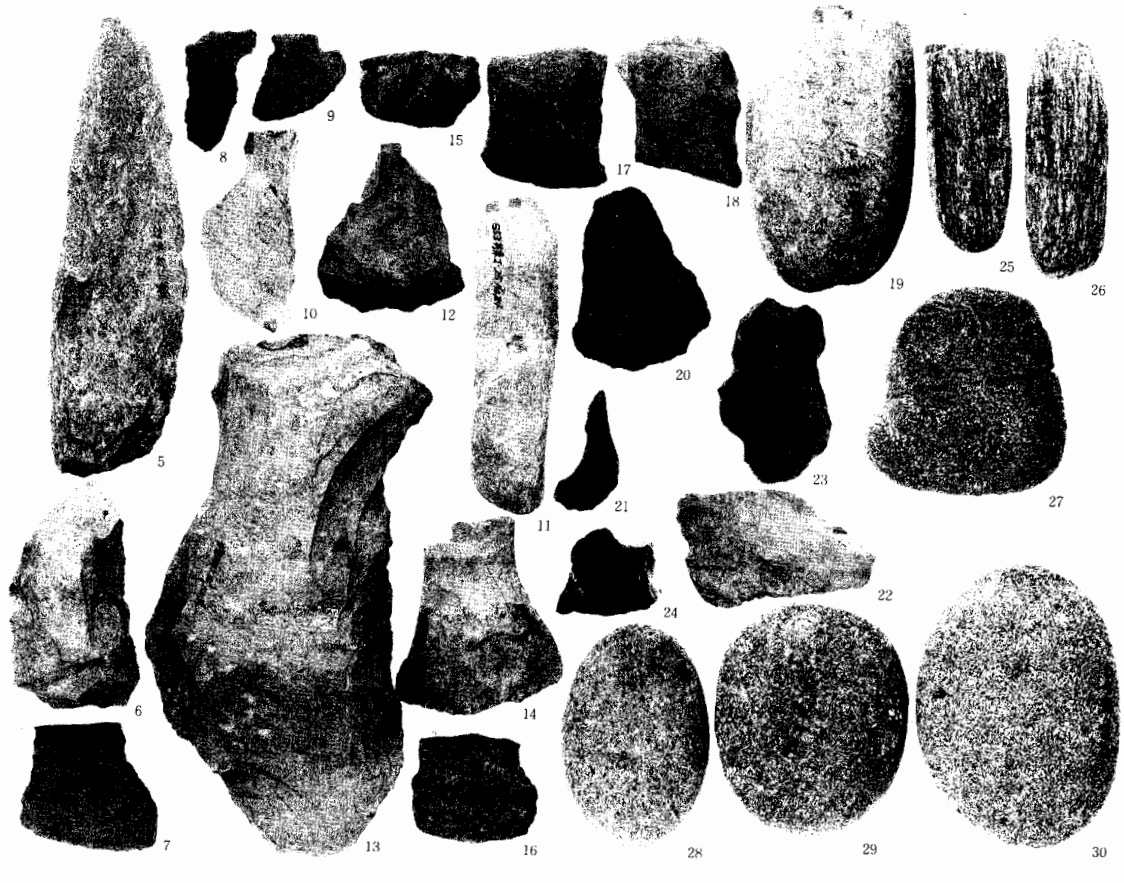
J 22



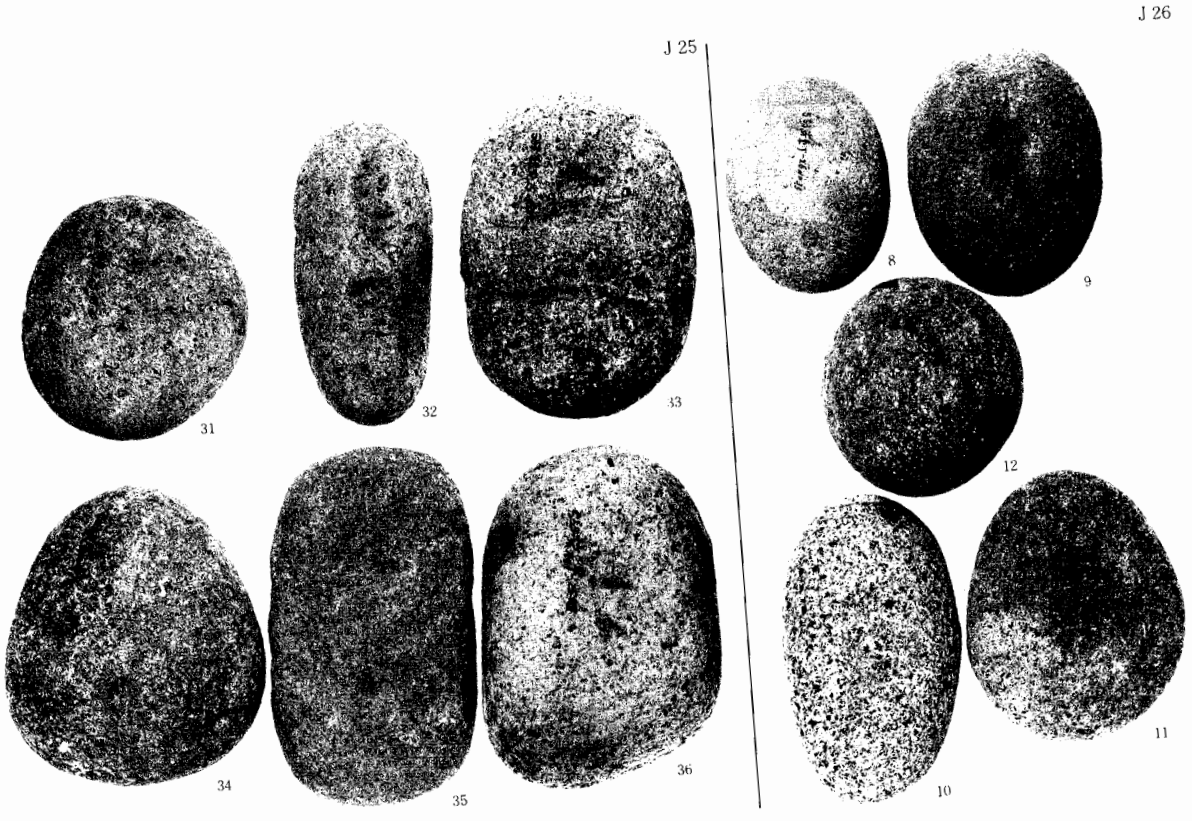
J 22号住居跡出土石器

図版130

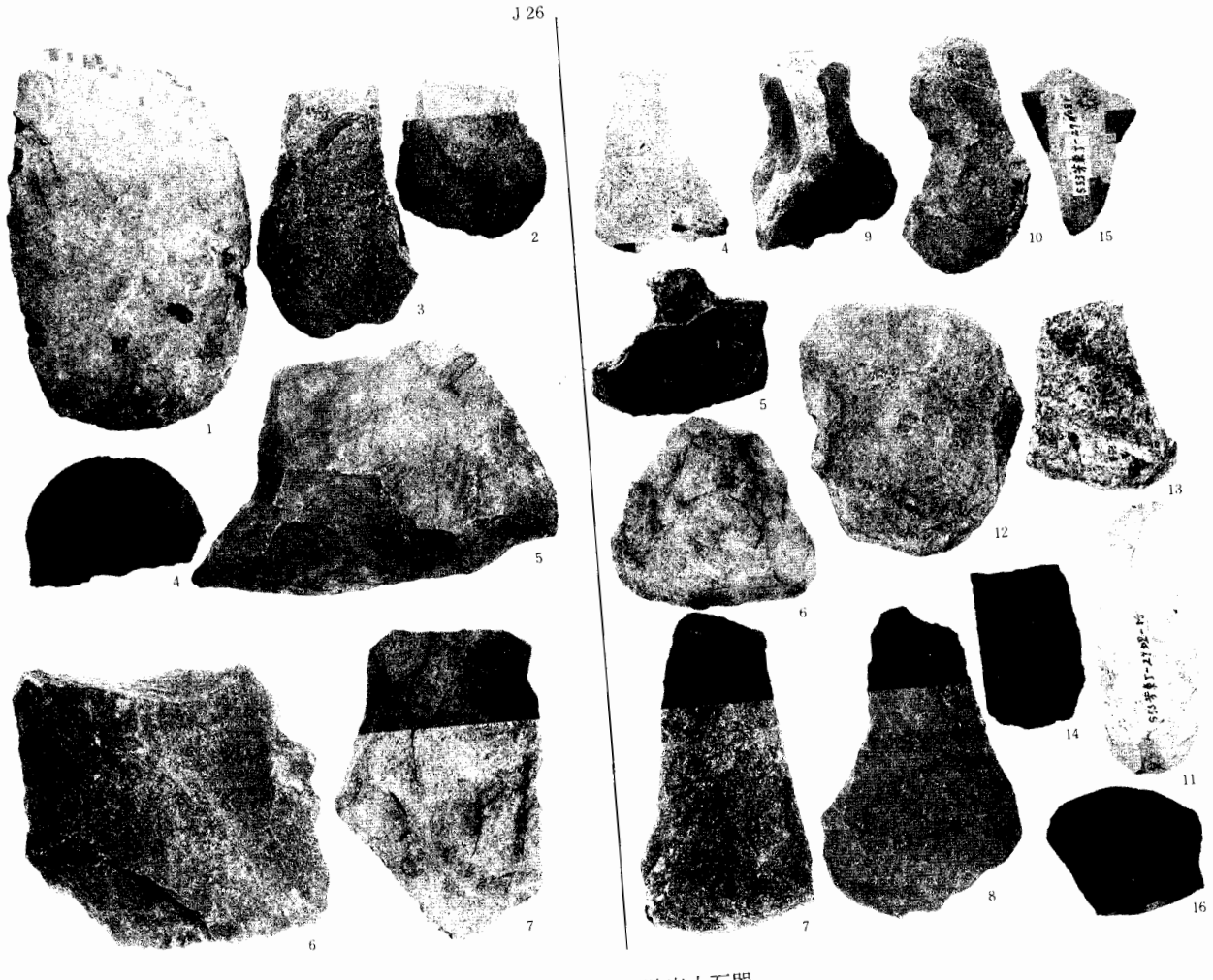
J 24号住居跡出土石器



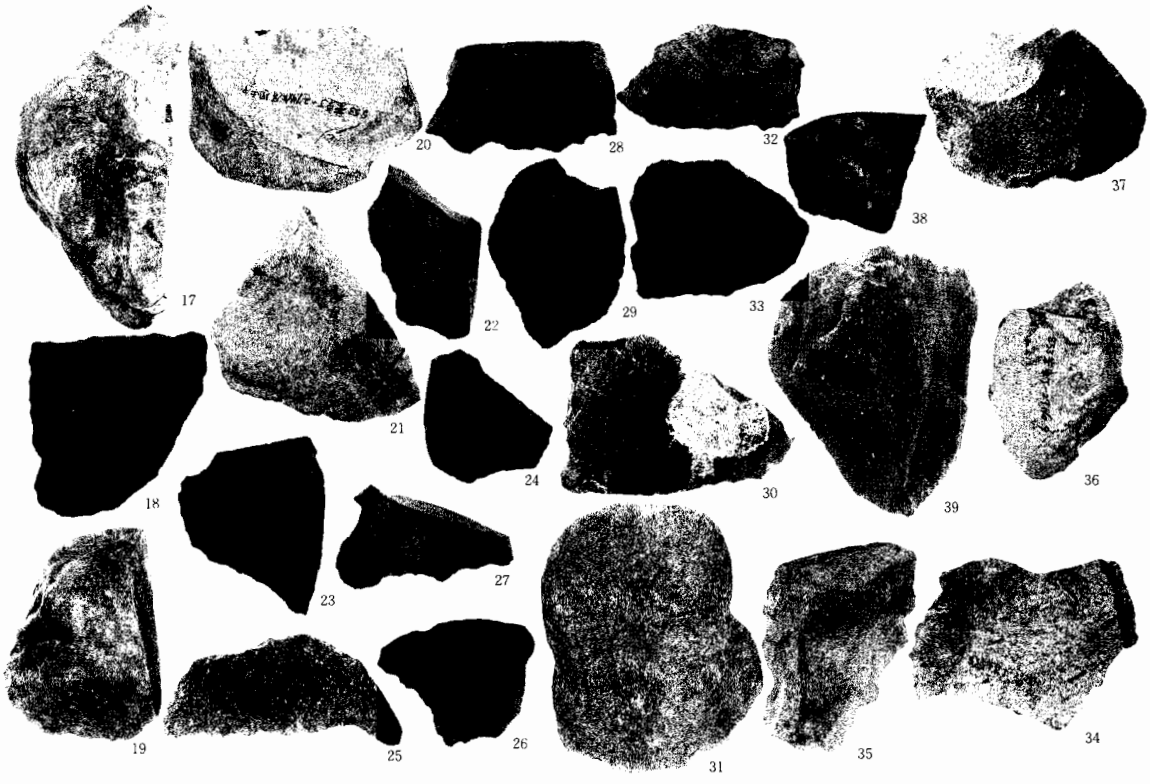
J 25号住居跡出土石器



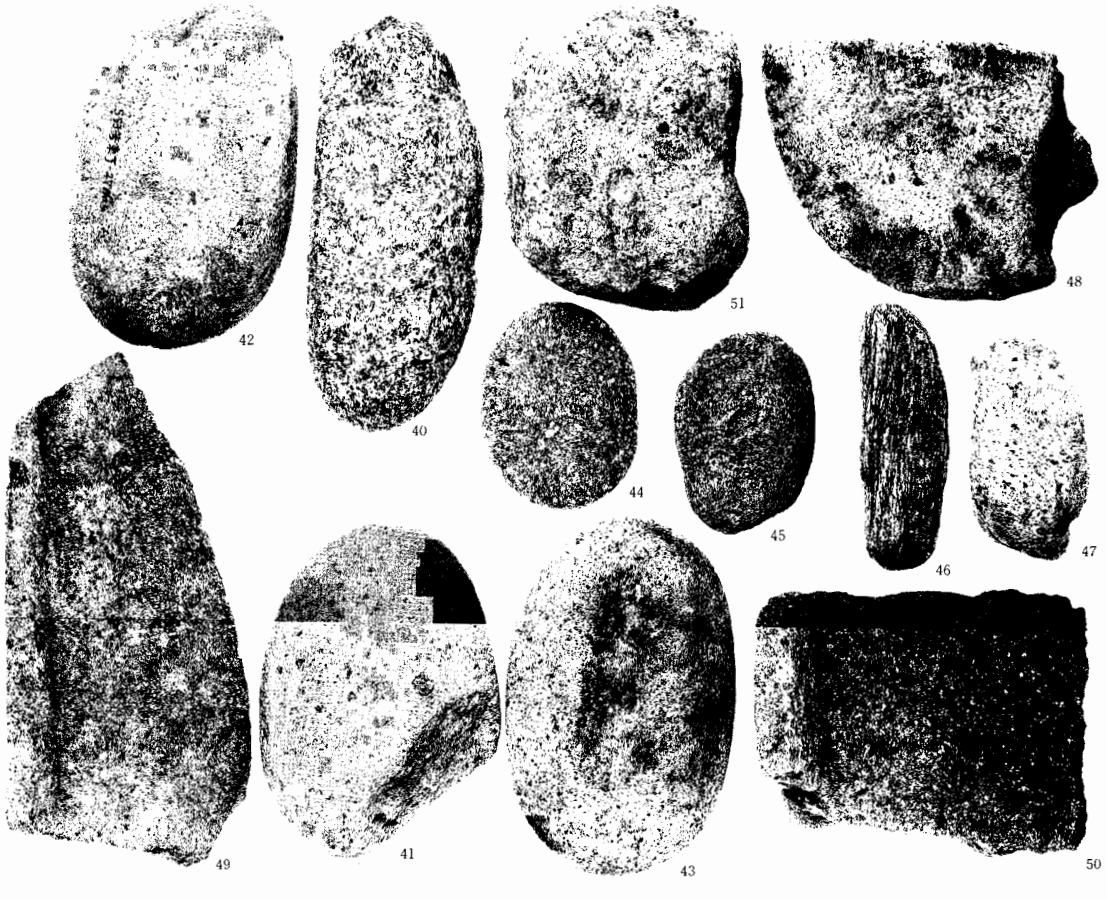
J 25・26号住居跡出土石器



J 26・27号住居跡出土石器



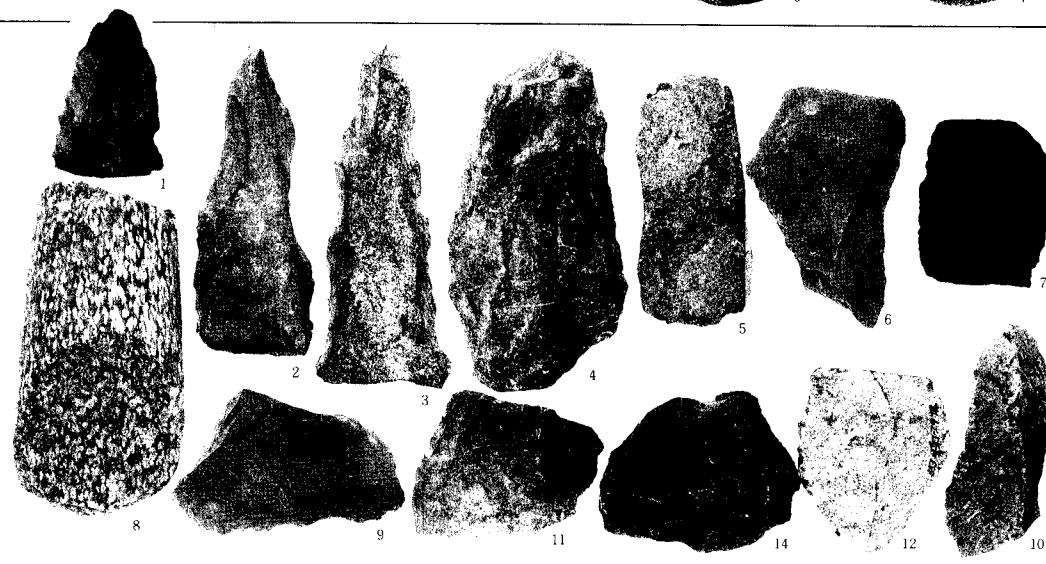
J 27号住居跡出土石器



J 27号住居跡出土石器

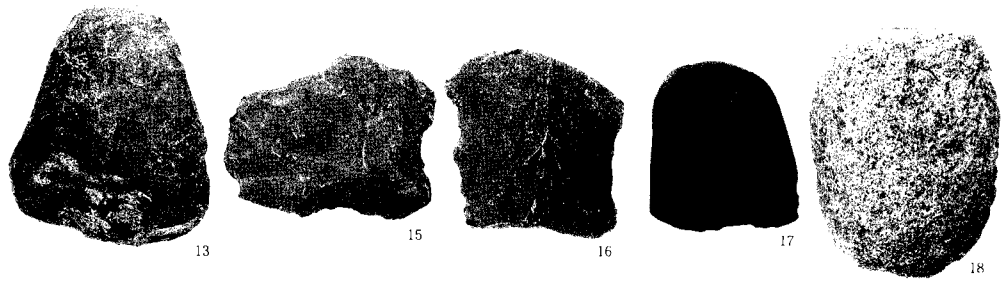
ＪＰ群－Ⅰ

Ｊ29･59

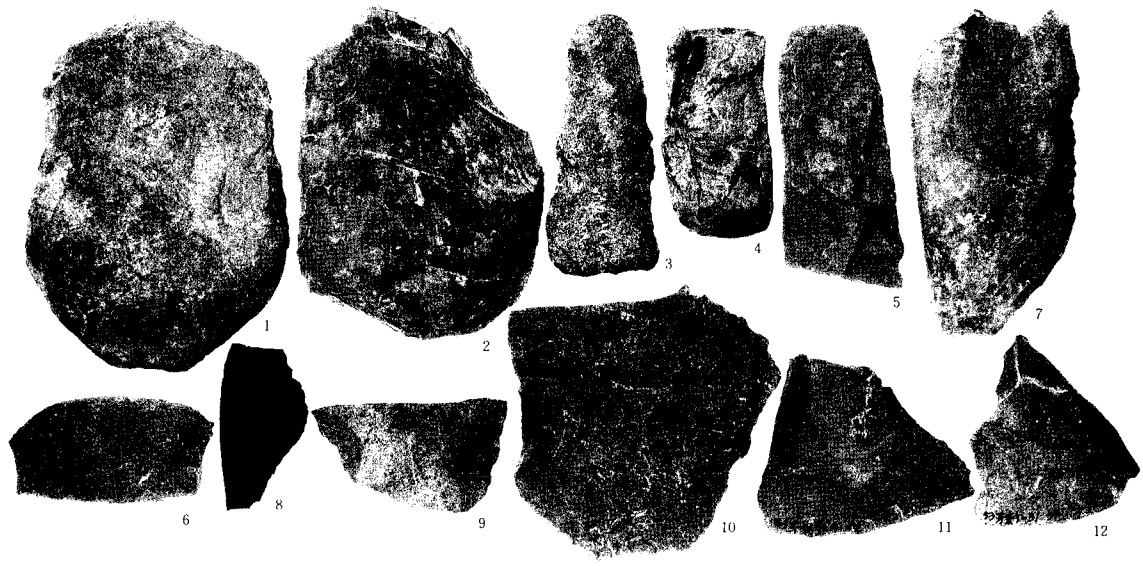


ＪＰ群－Ⅰ(Ｊ28)･Ｊ29･59号住居跡出土石器

Ｊ29･59

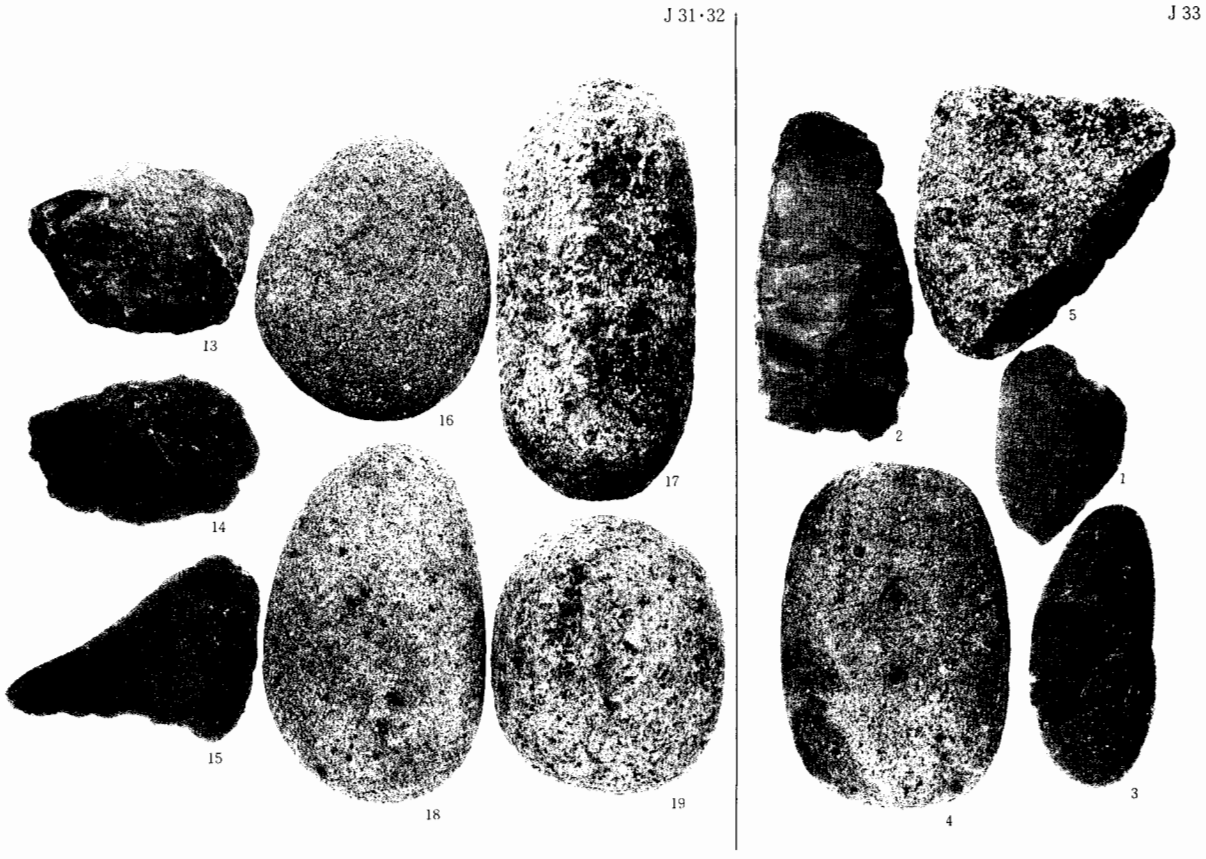


Ｊ31･32

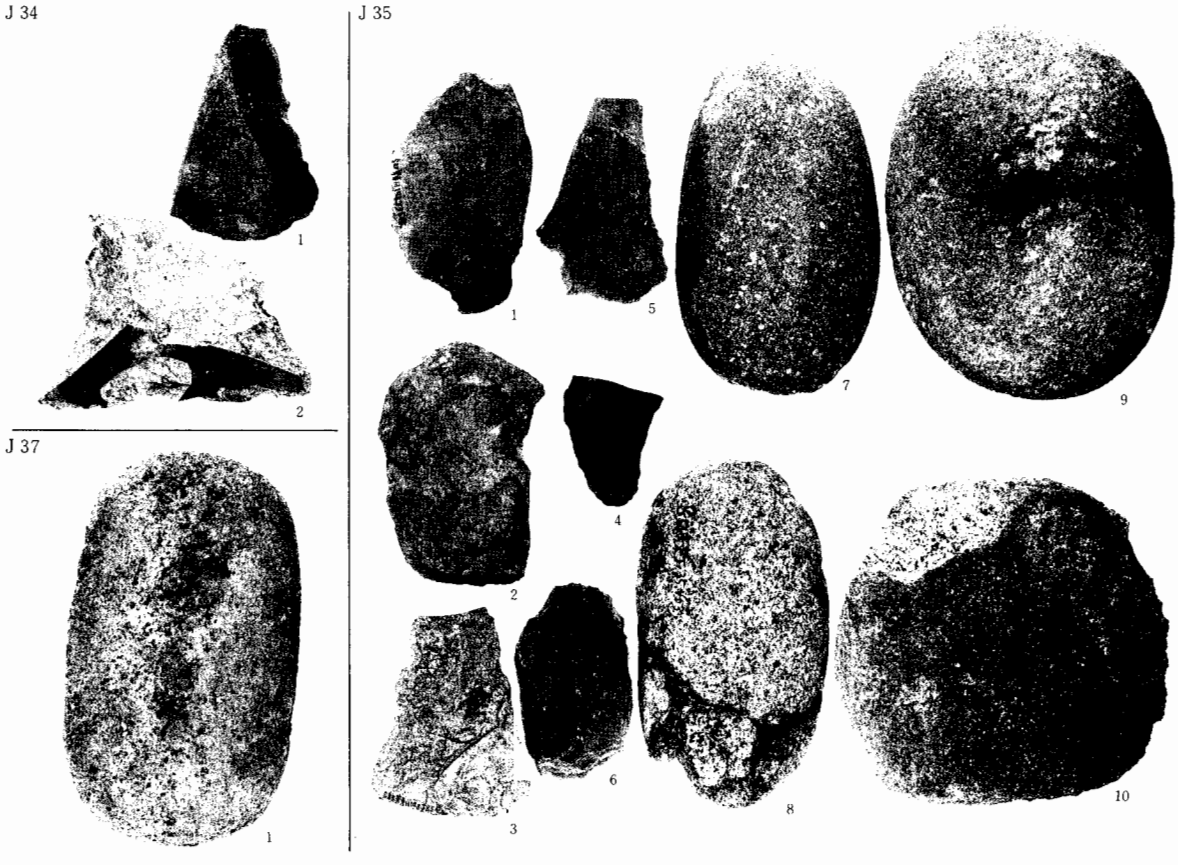


Ｊ29･59･31･32号住居跡出土石器

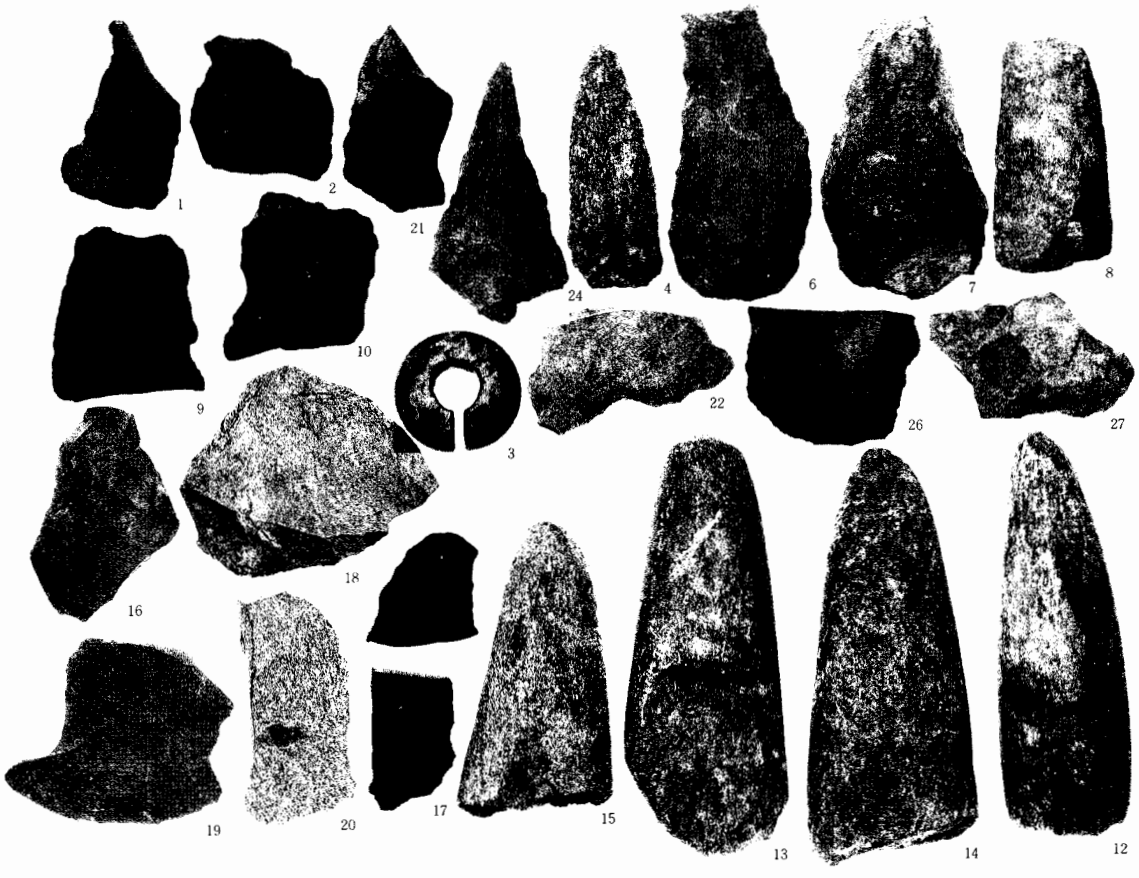
図版134



J 31・32・33号住居跡出土石器



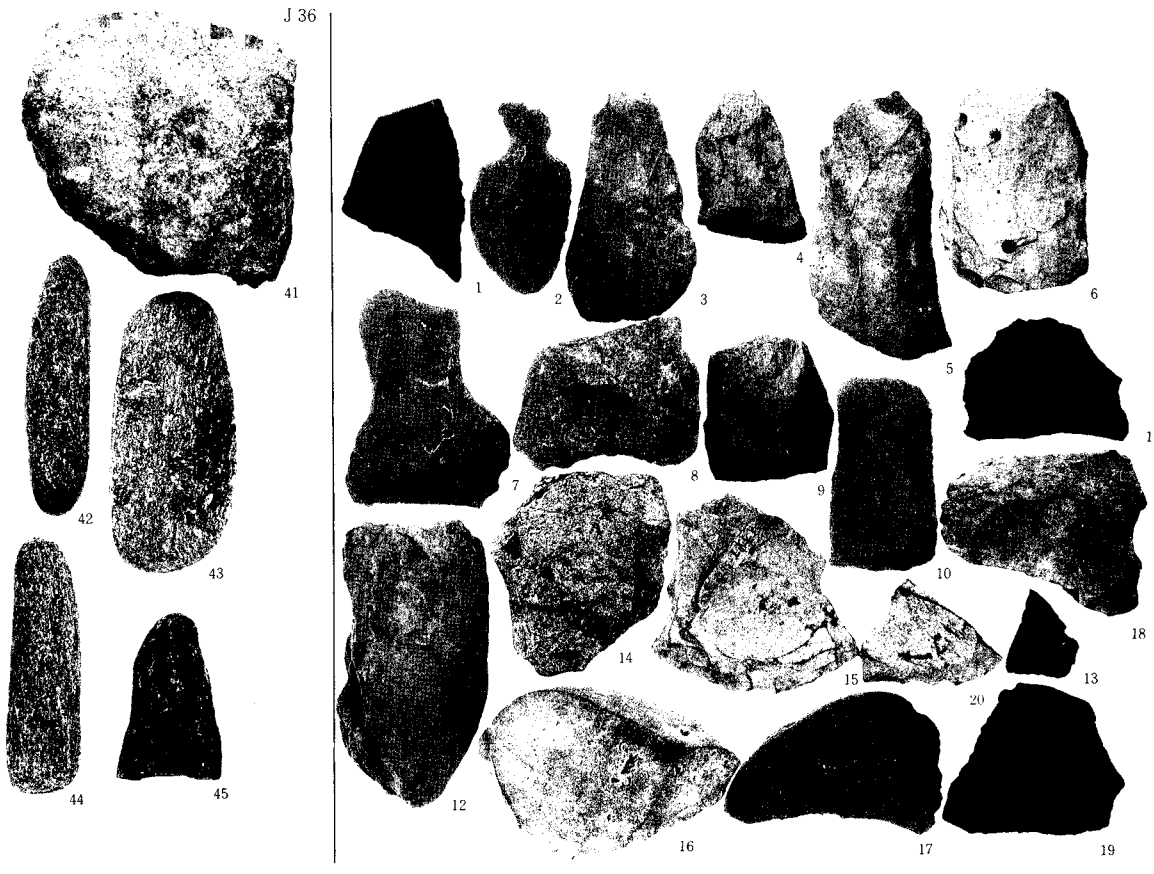
J 34・35・37号住居跡出土石器



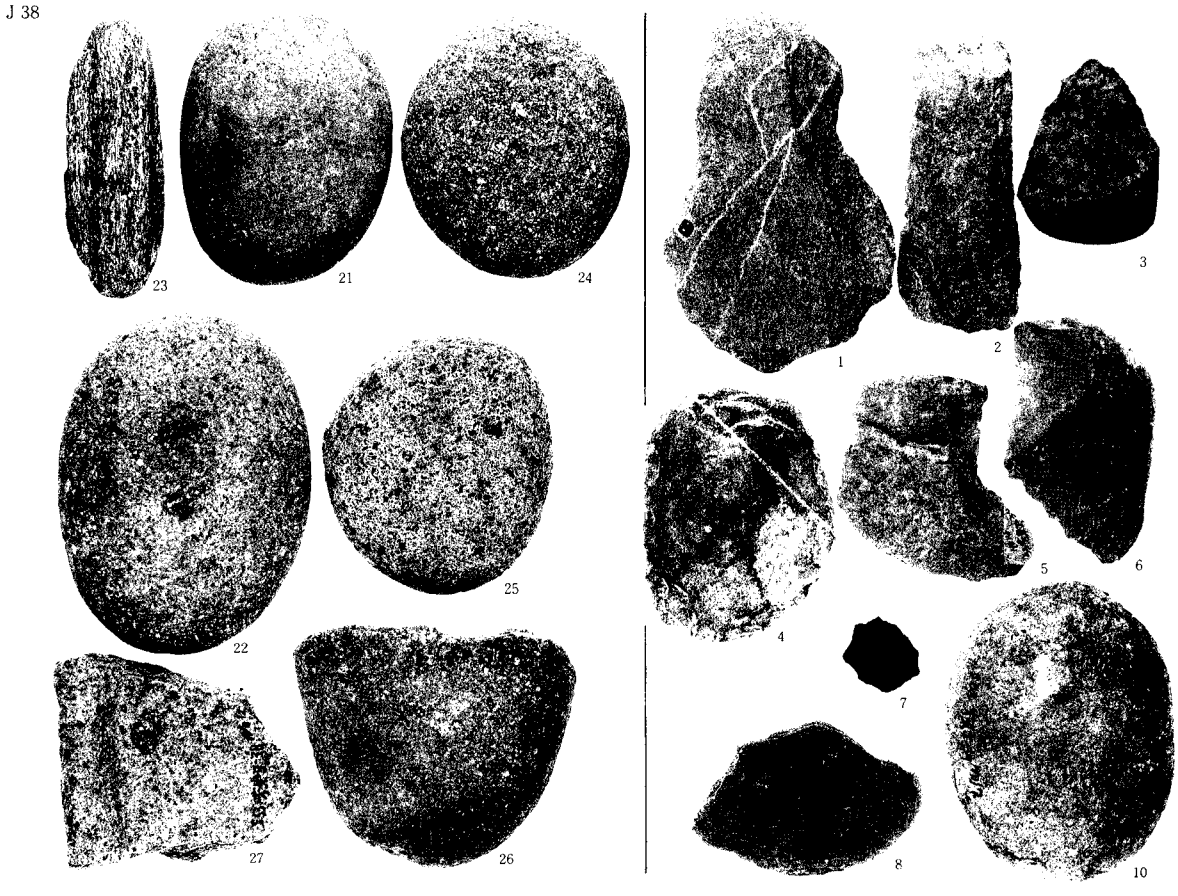
J 36号住居跡出土石器

J 36号住居跡出土石器

図版136

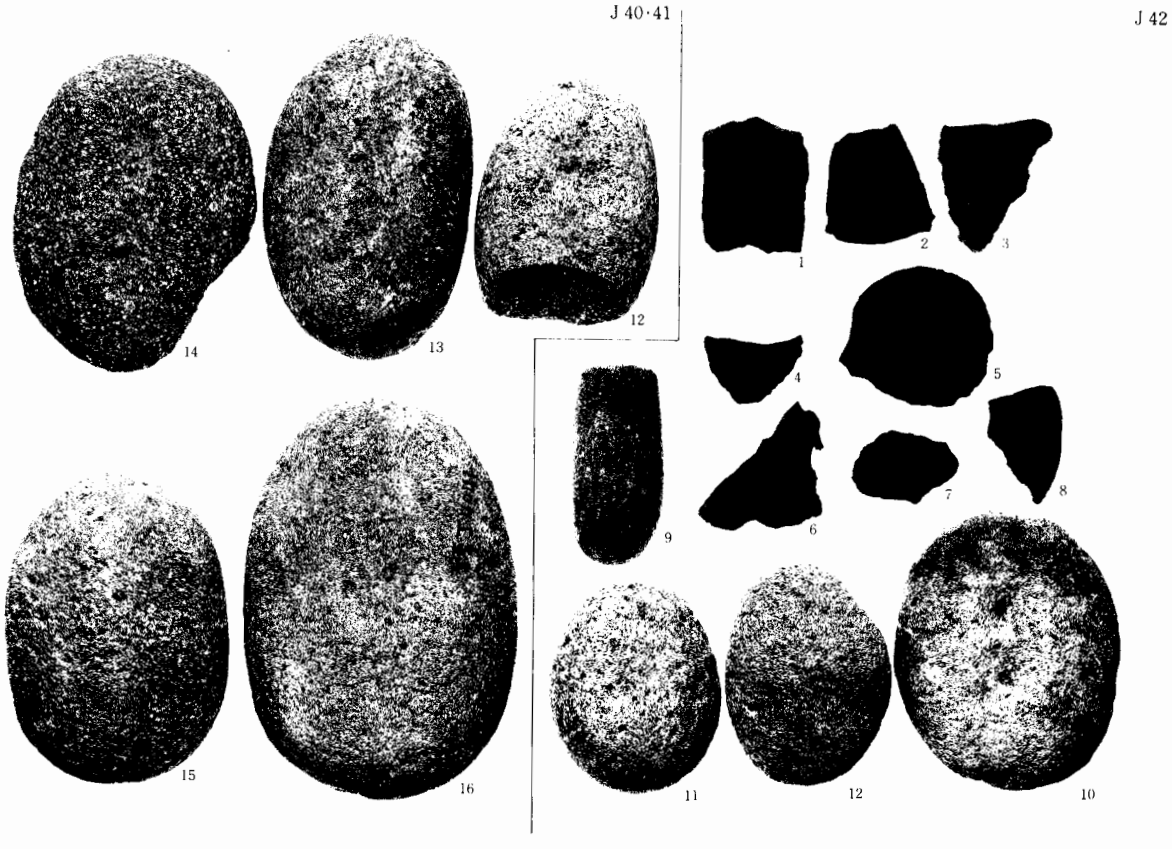


J 36・38号住居跡出土石器



J 38・39号住居跡出土石器

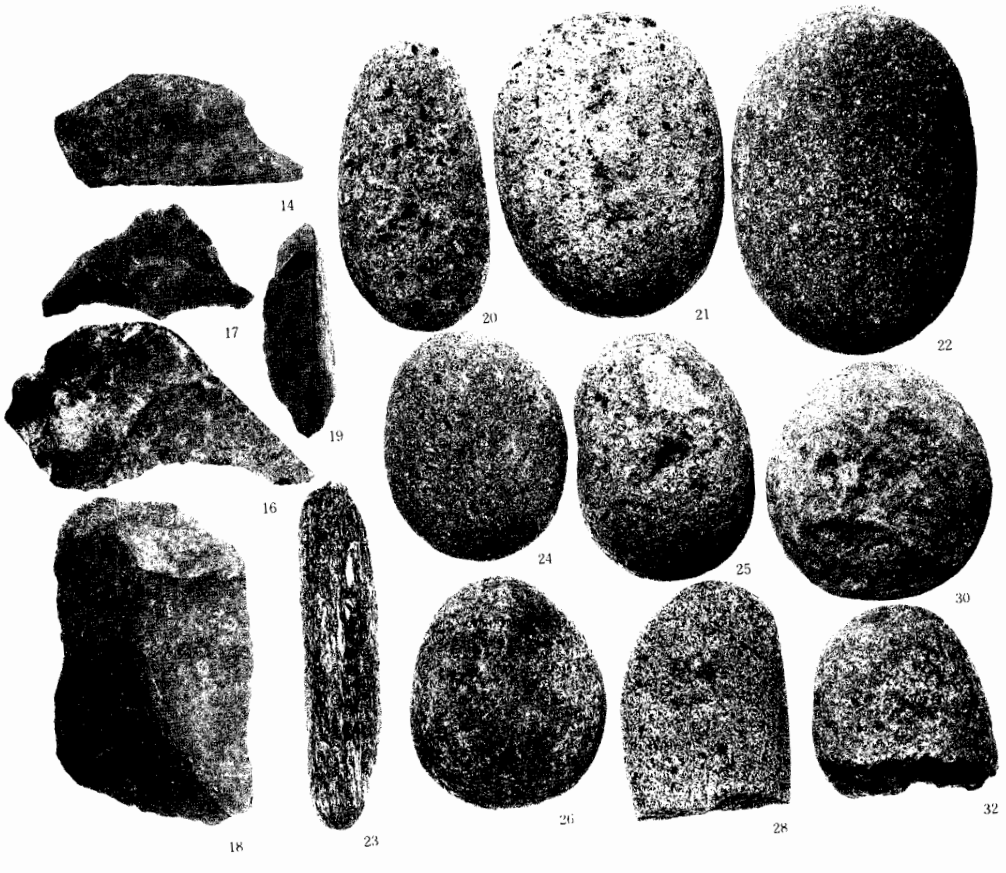
J 39・40・41号住居跡出土石器



J 40・41・42号住居跡出土石器

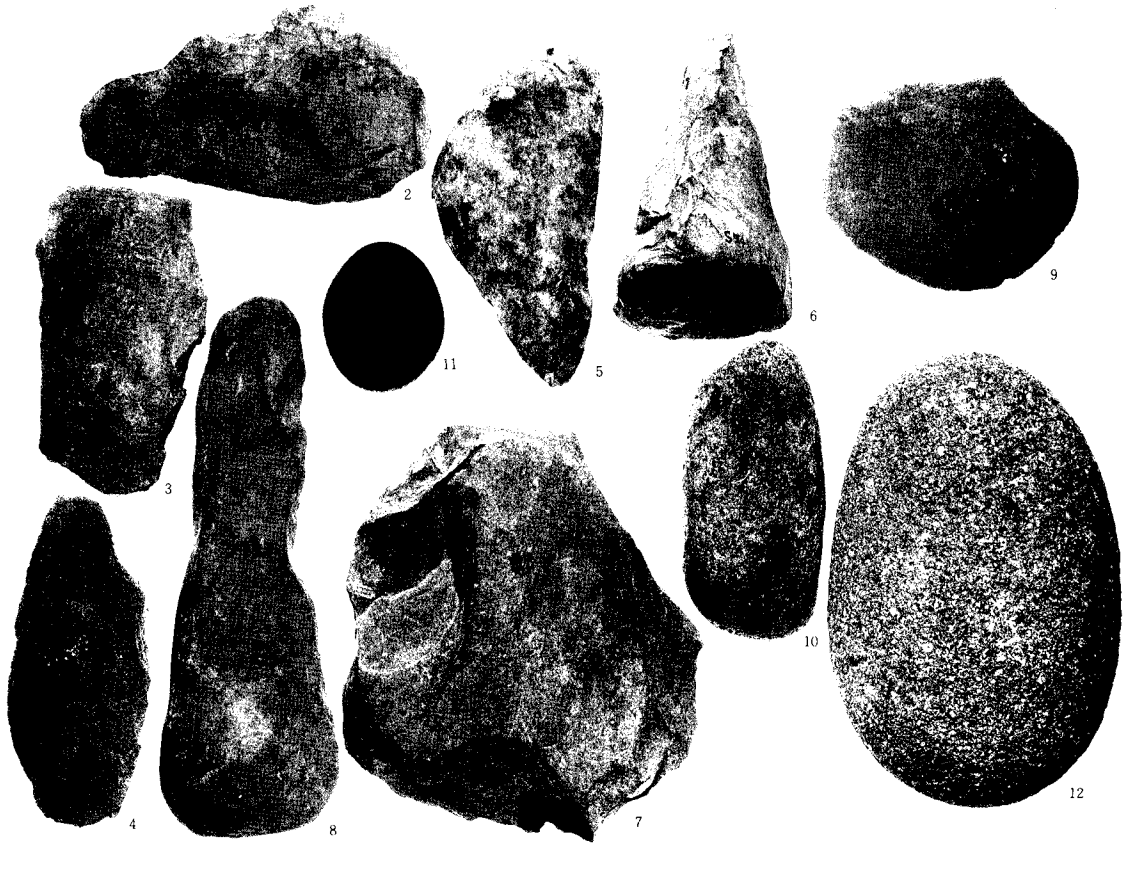
J 43

J 43・44号住居跡出土石器



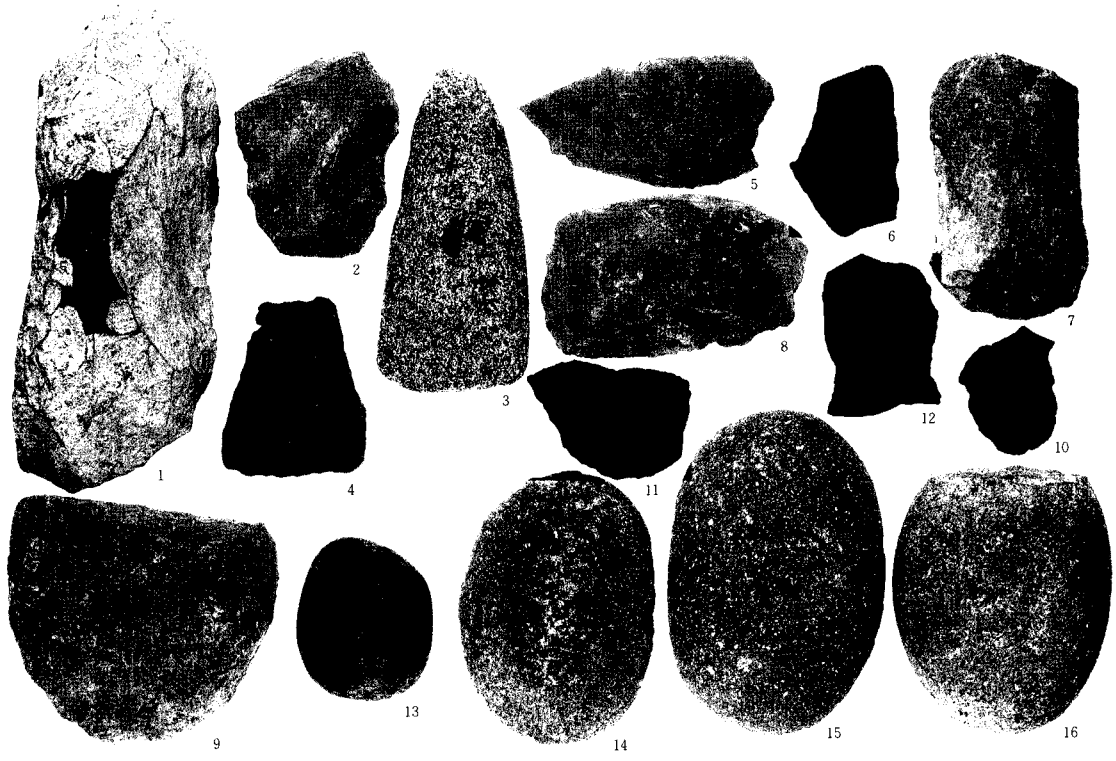
J 44号住居跡出土石器

J 44号住居跡出土石器

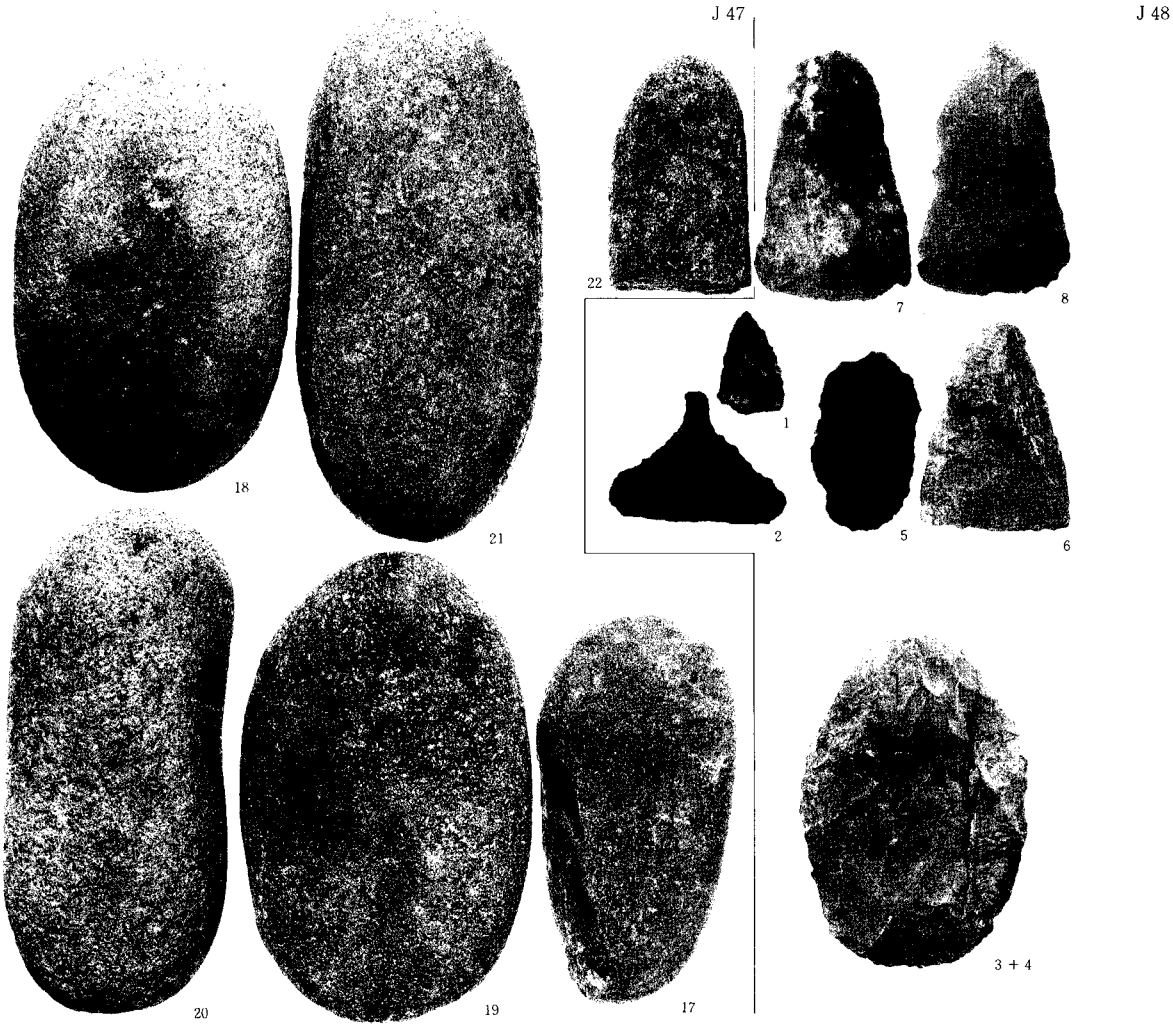


J 46号住居跡出土石器

図版140



J 47号住居跡出土石器

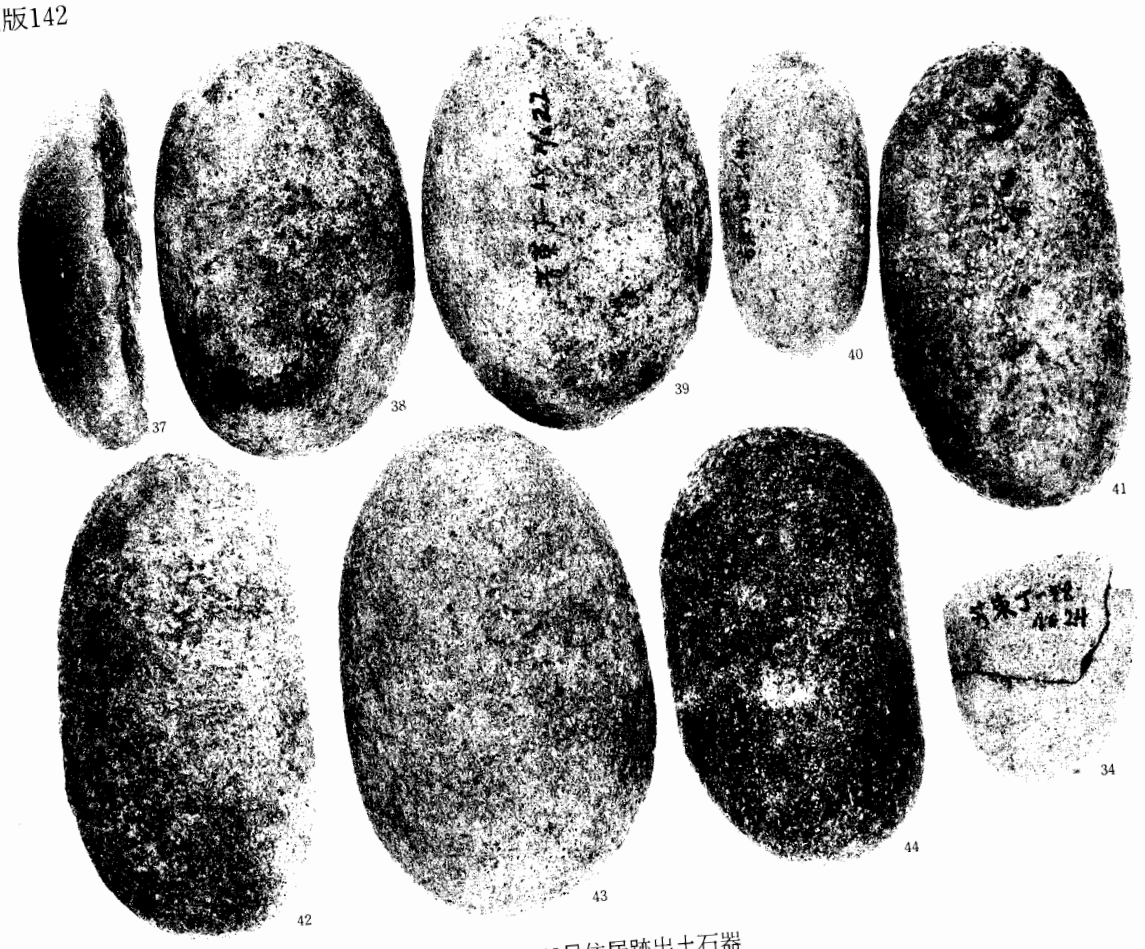


J 47・48号住居跡出土石器

J 48号住居跡出土石器

J 48号住居跡出土石器

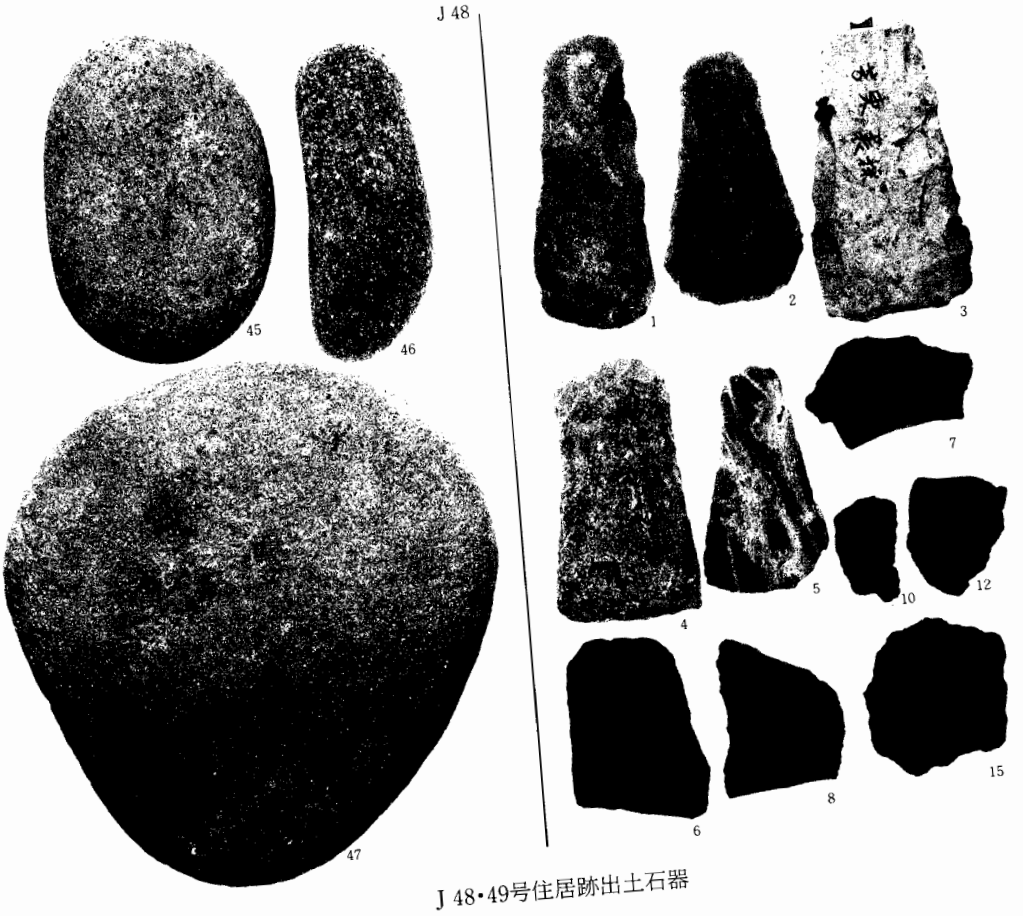
図版142



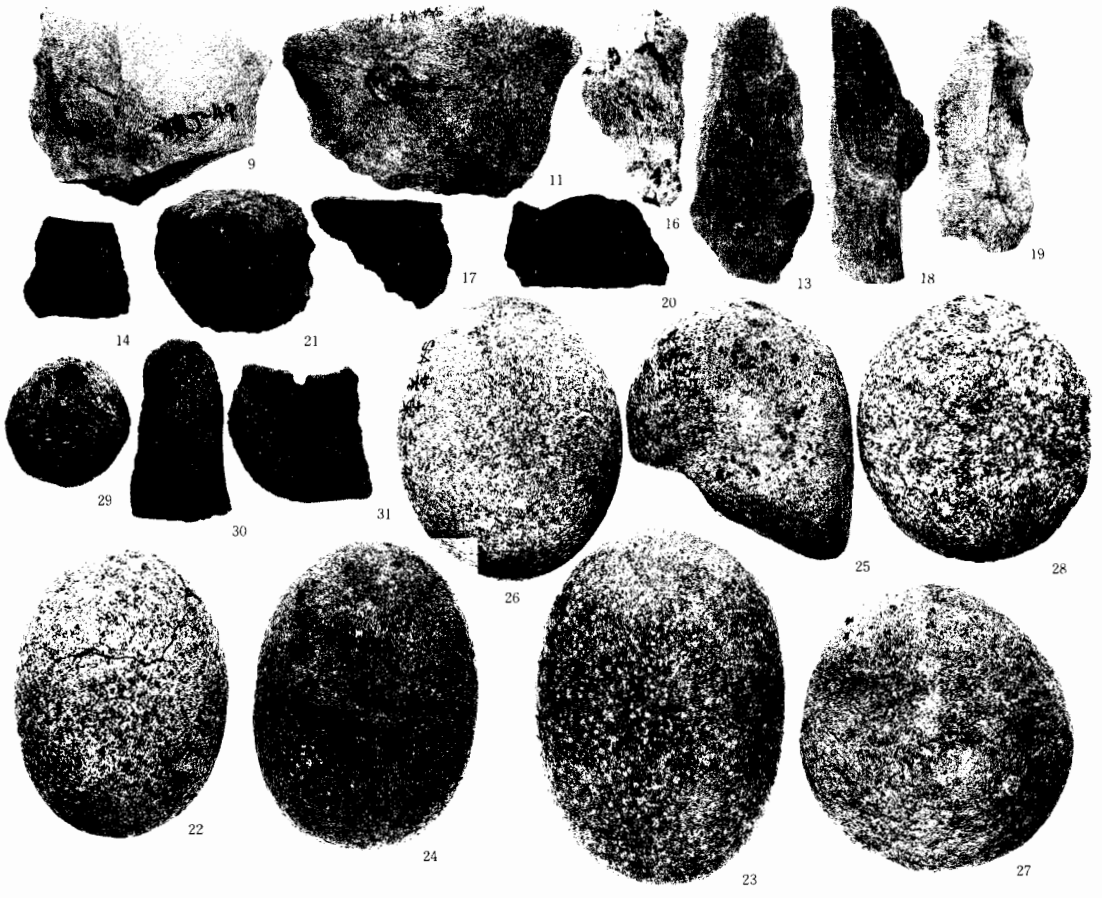
J 48号住居跡出土石器

J 49

J 48

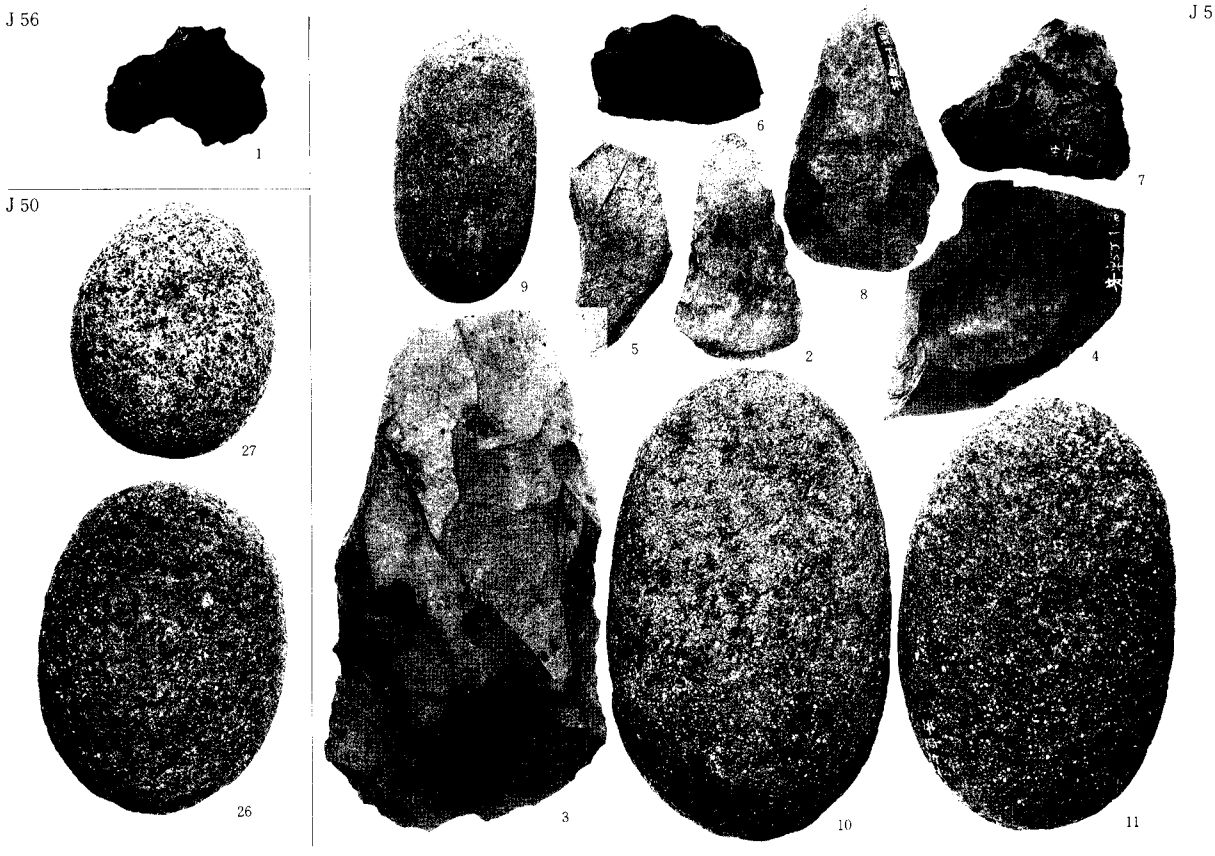


J 48・49号住居跡出土石器

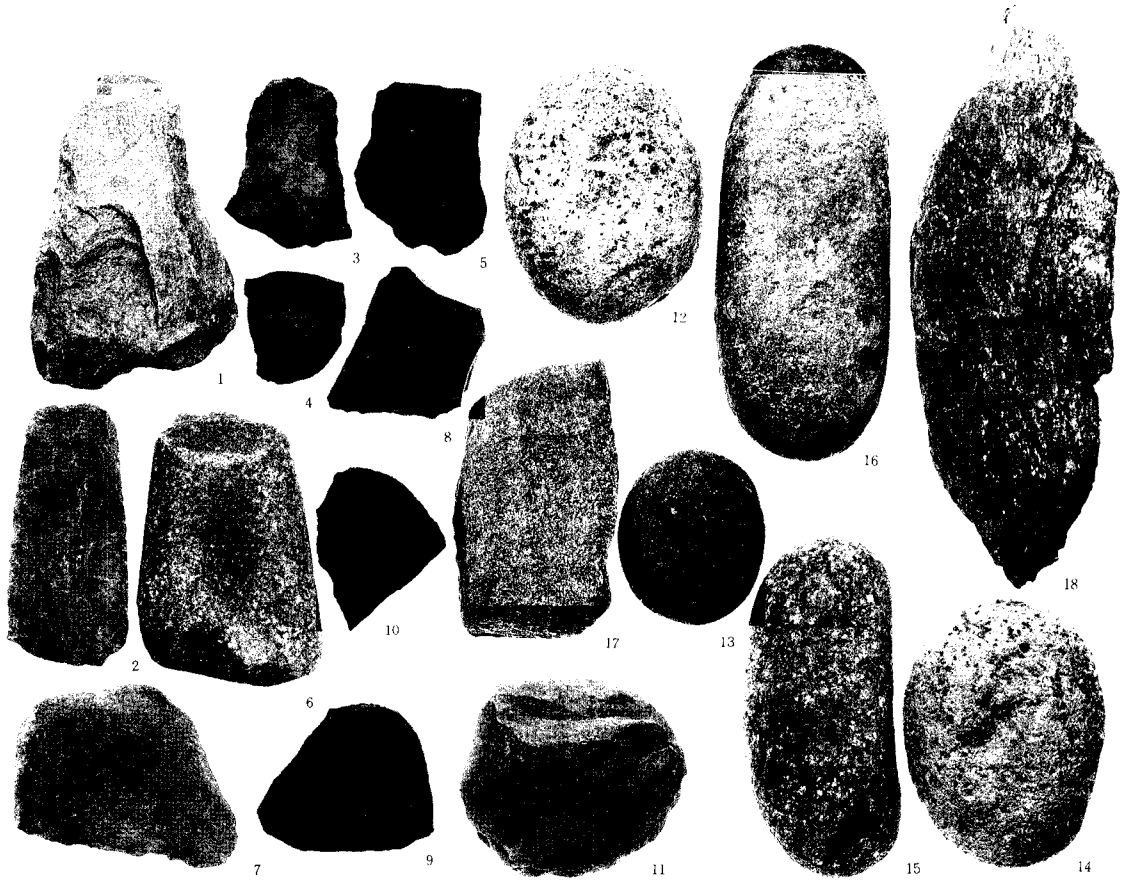


J 49号住居跡出土石器

J 50号住居跡出土石器

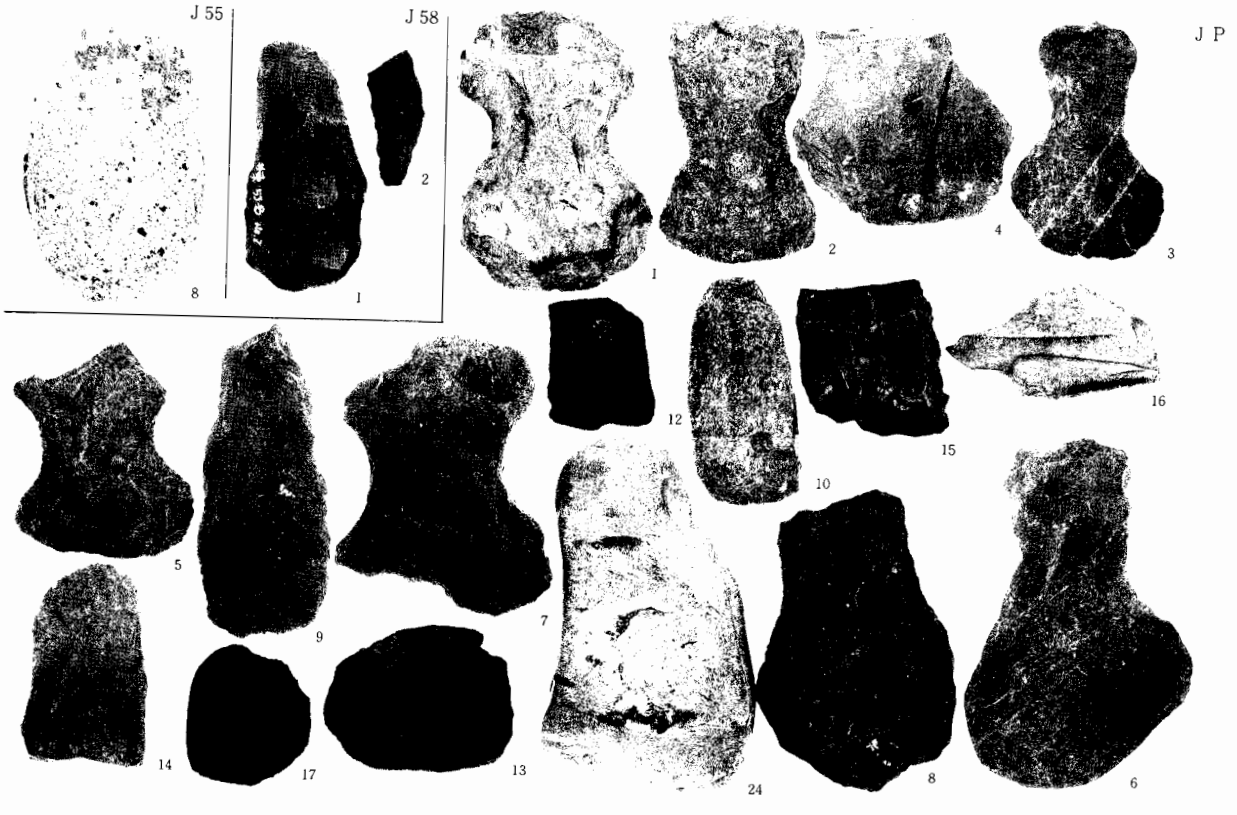


J 50・51・56号住居跡出土石器

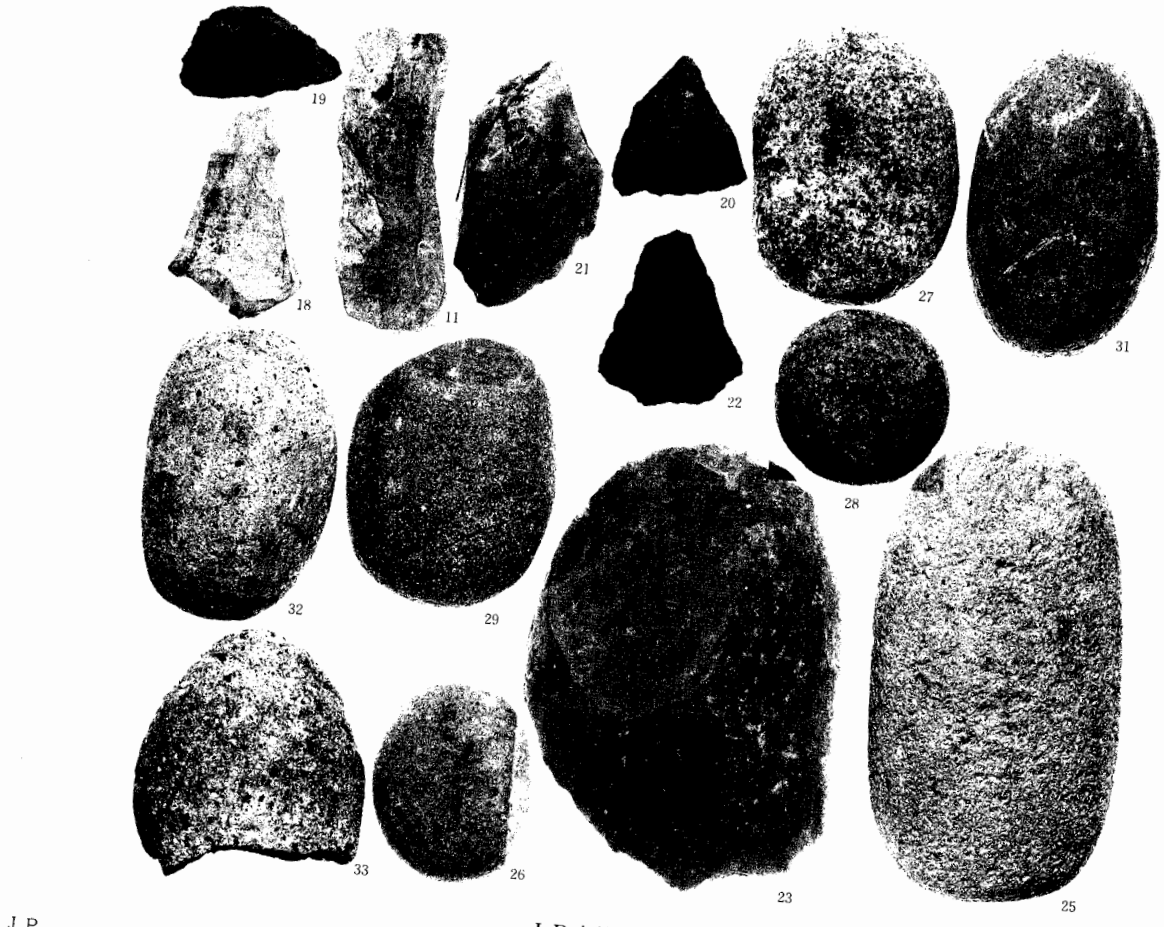


J 52号住居跡出土石器

J 53・54・55号住居跡出土石器

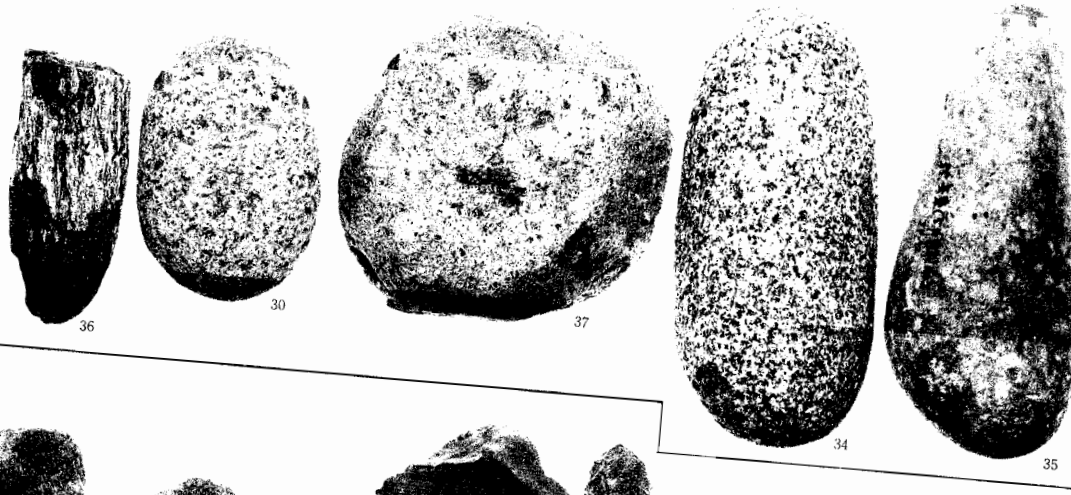


J 55・58号住居跡・J P 土坑出土石器



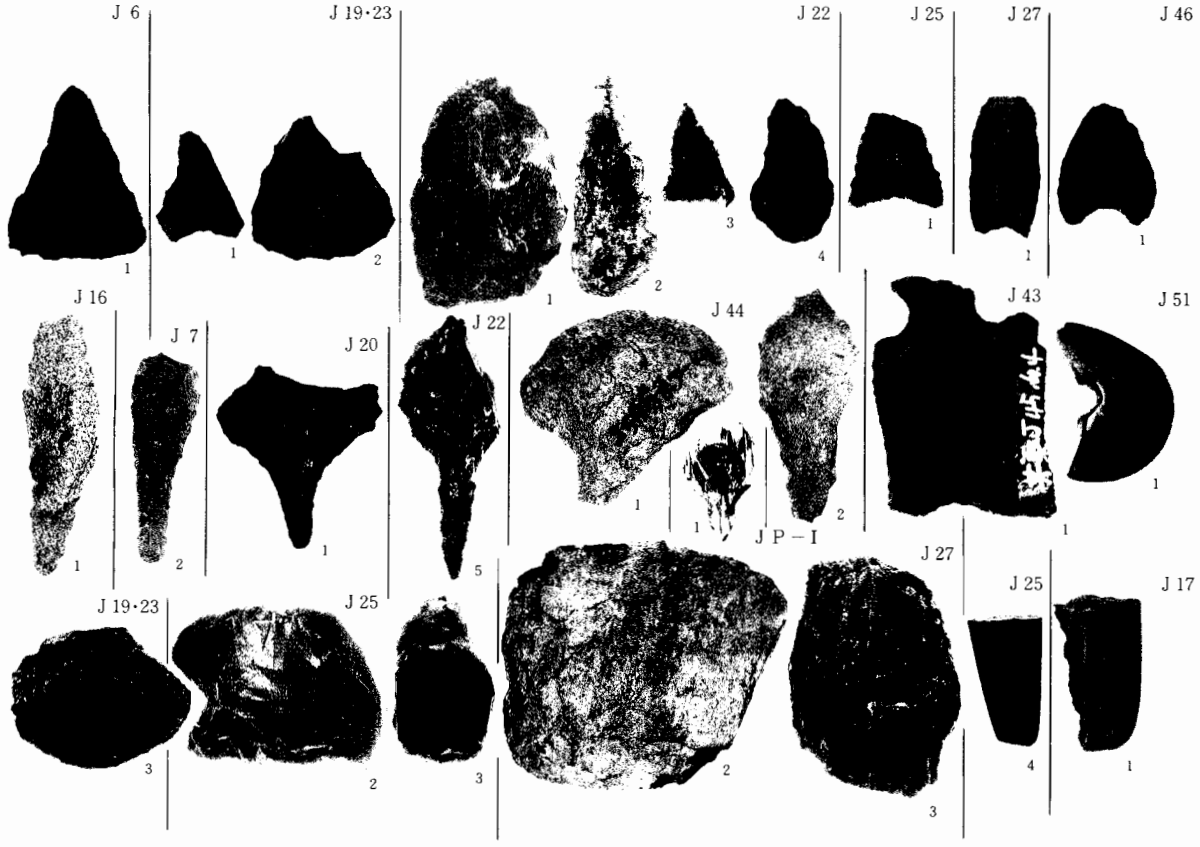
ＪＰ

ＪＰ土坑出土石器

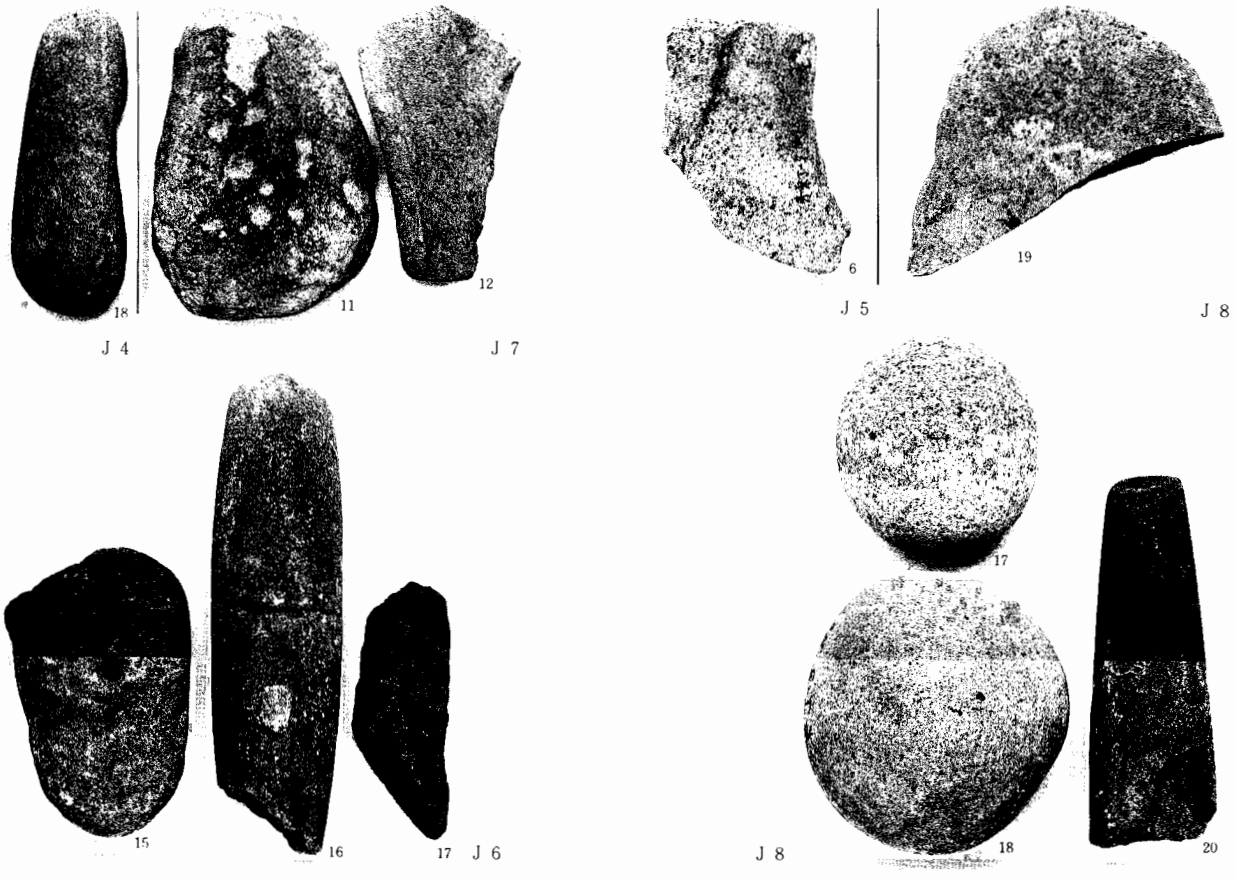


ＪＳ

ＪＰ土坑・ＪＳ配石遺構出土石器

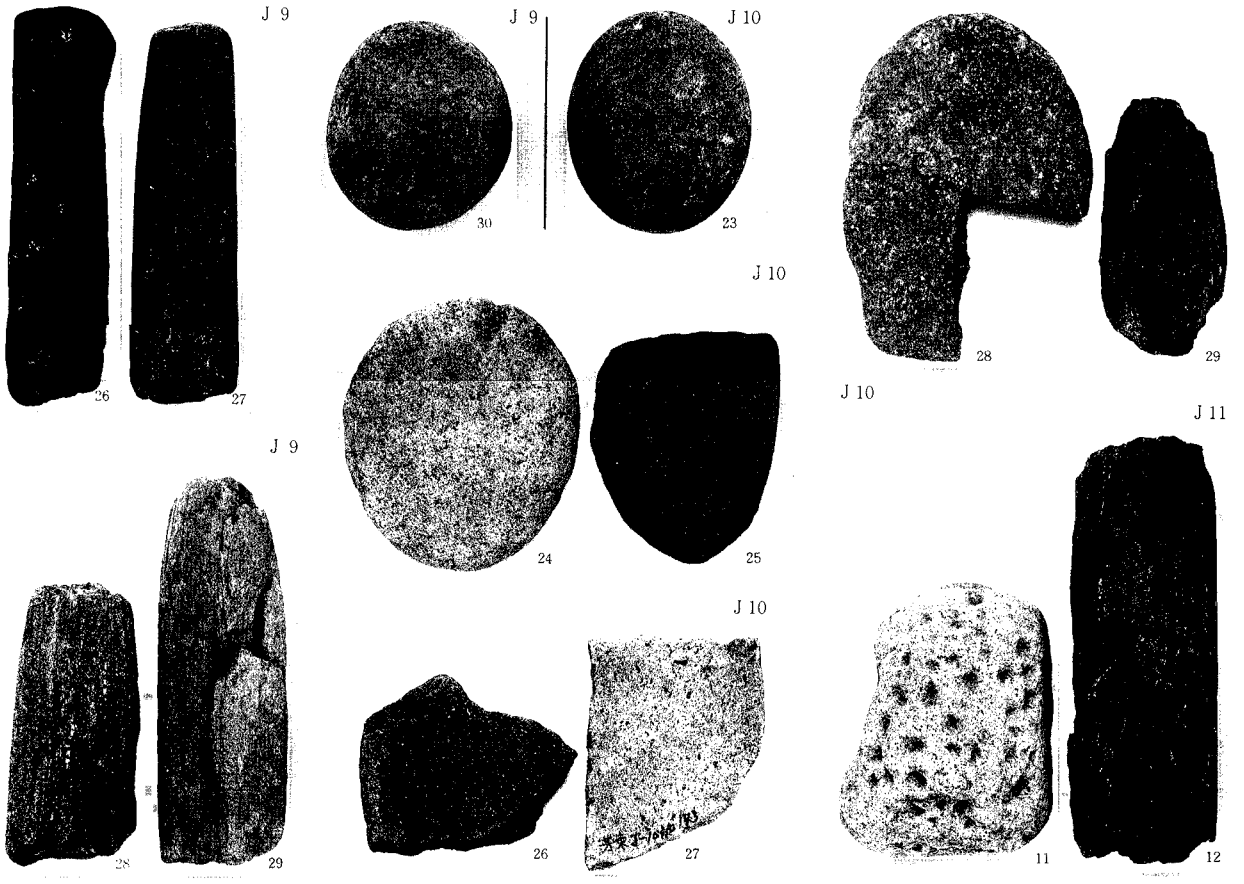


住居跡・土坑出土石鏃・石錐・石匙・削器・楔形石器・棒状石器
垂飾品・玦状耳飾り

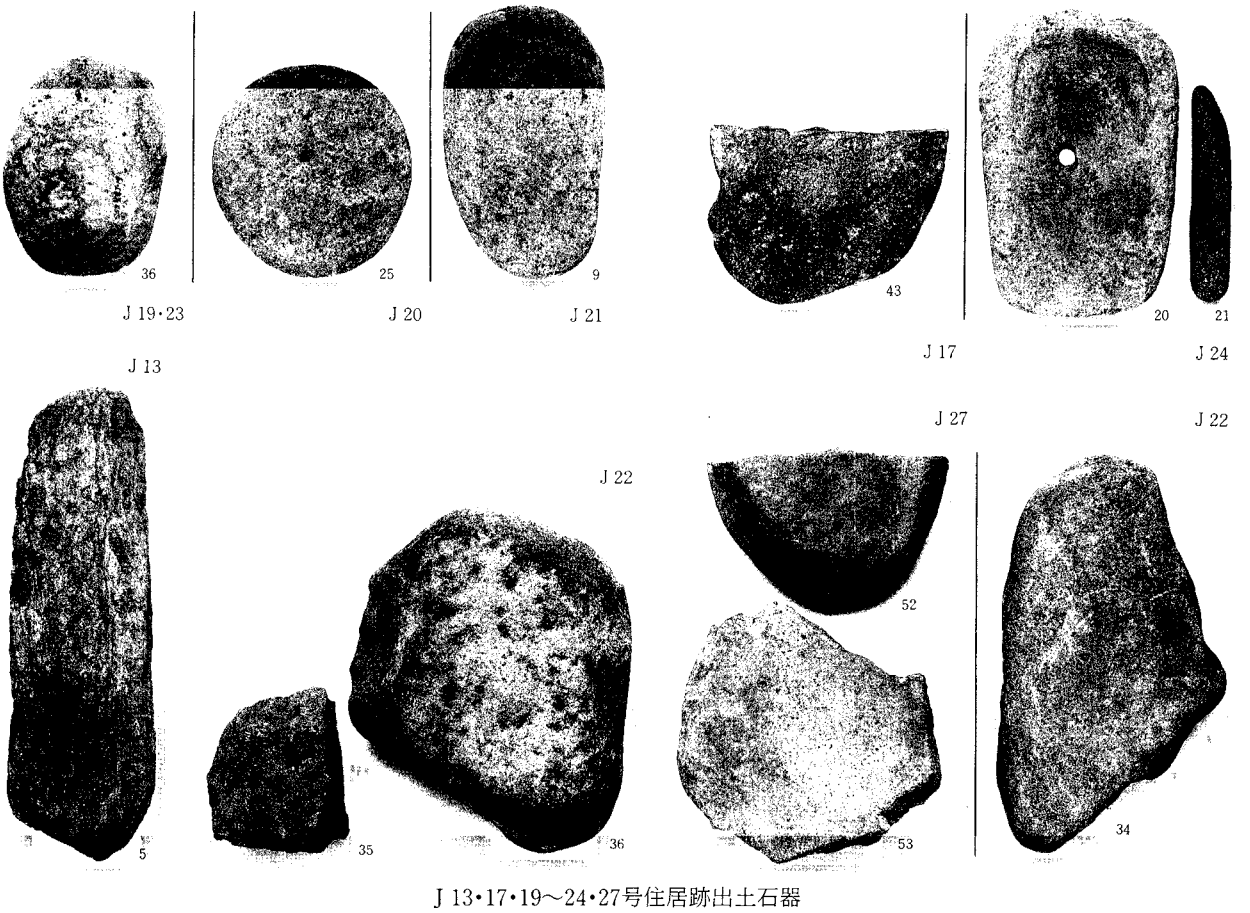


J 4～8号住居跡出土石器

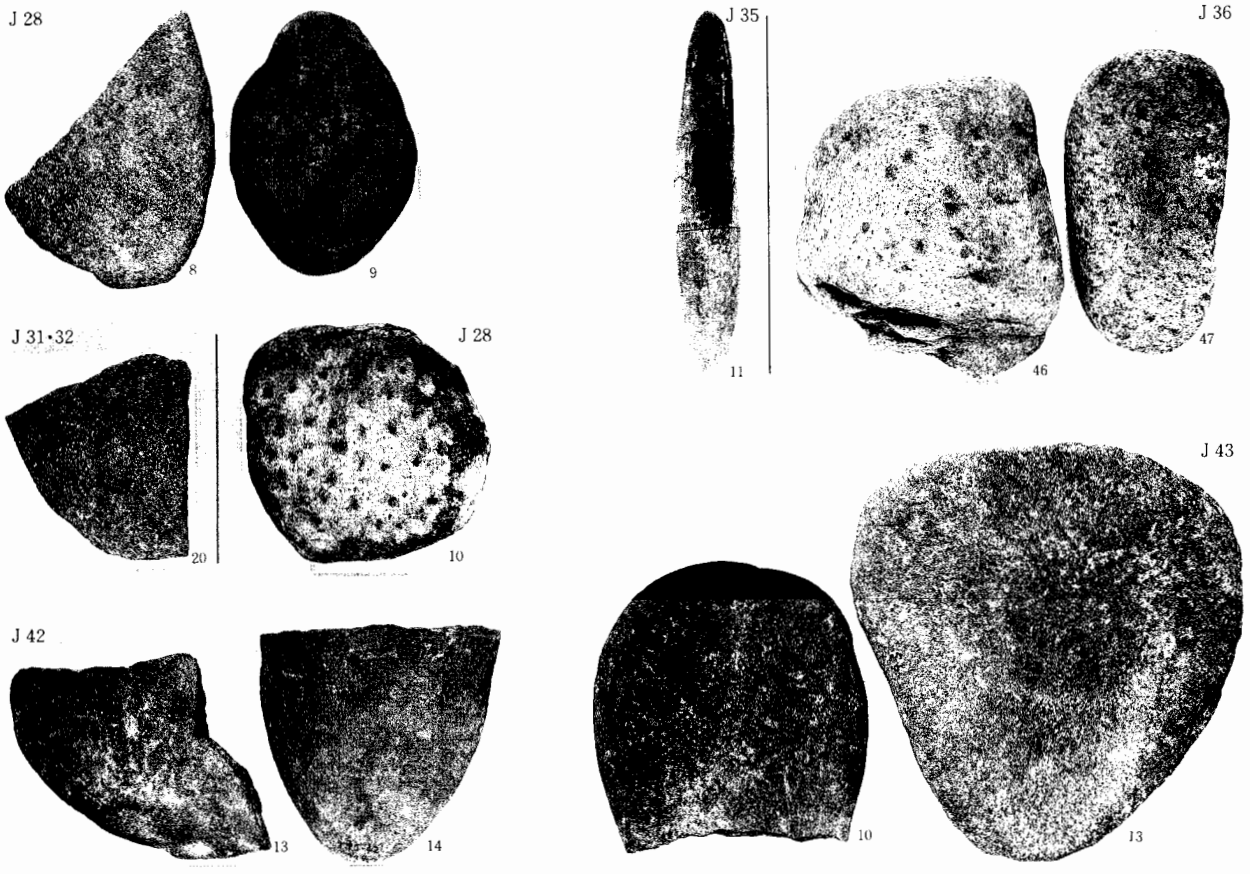
図版148



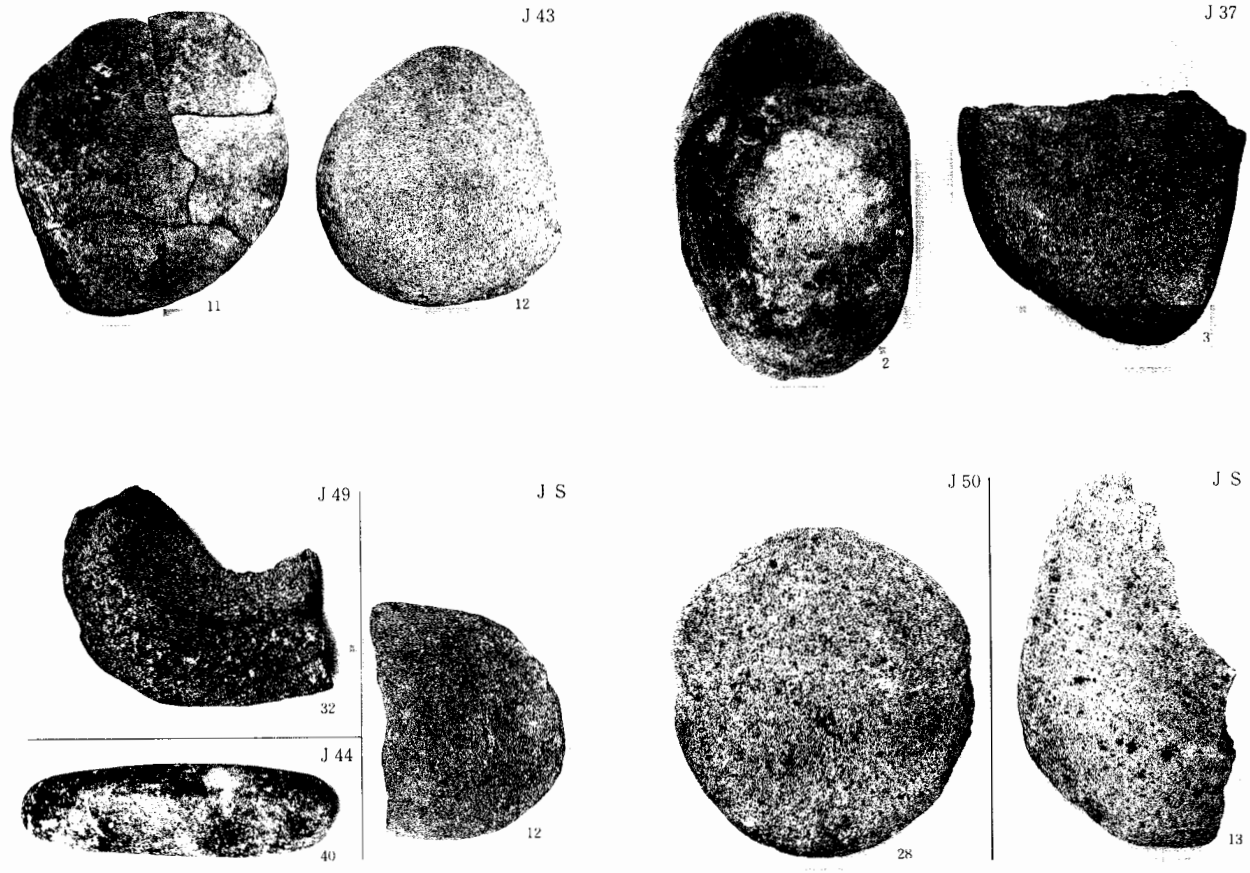
J 9～11号住居跡出土石器



J 13・17・19～24・27号住居跡出土石器

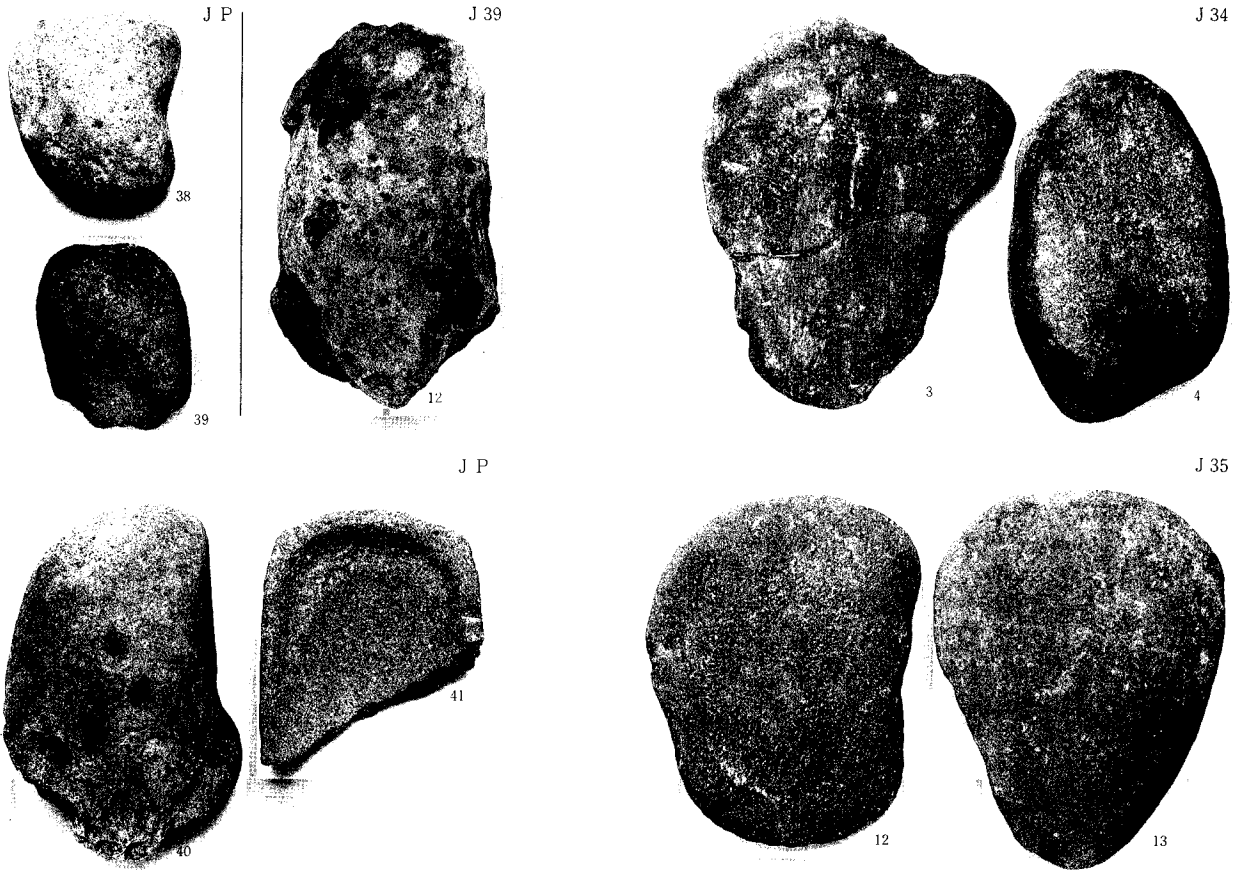


J P群－Ⅰ・J 31・32・35・36・42・43号住居跡出土石器

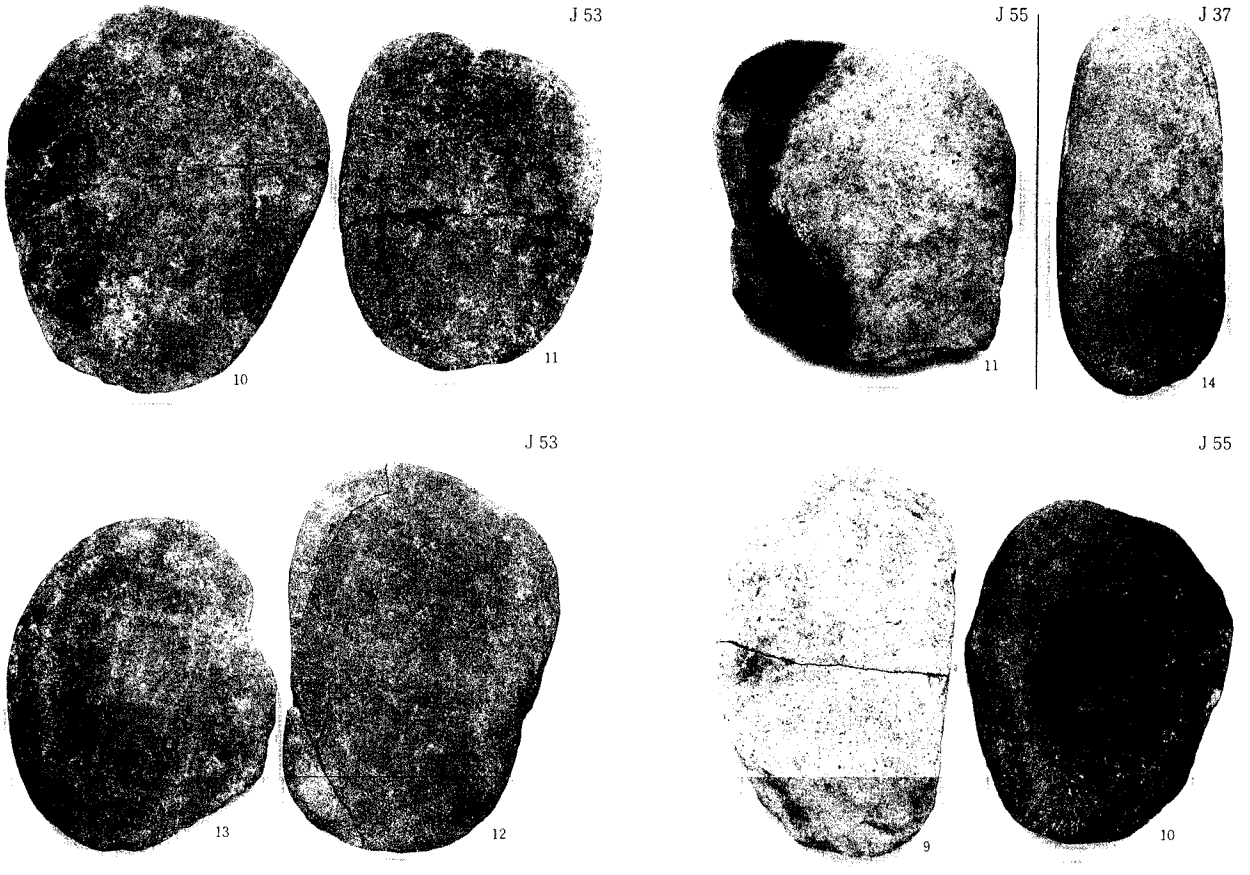


J 37・43・44・49・50号住居跡・J S配石遺構出土石器

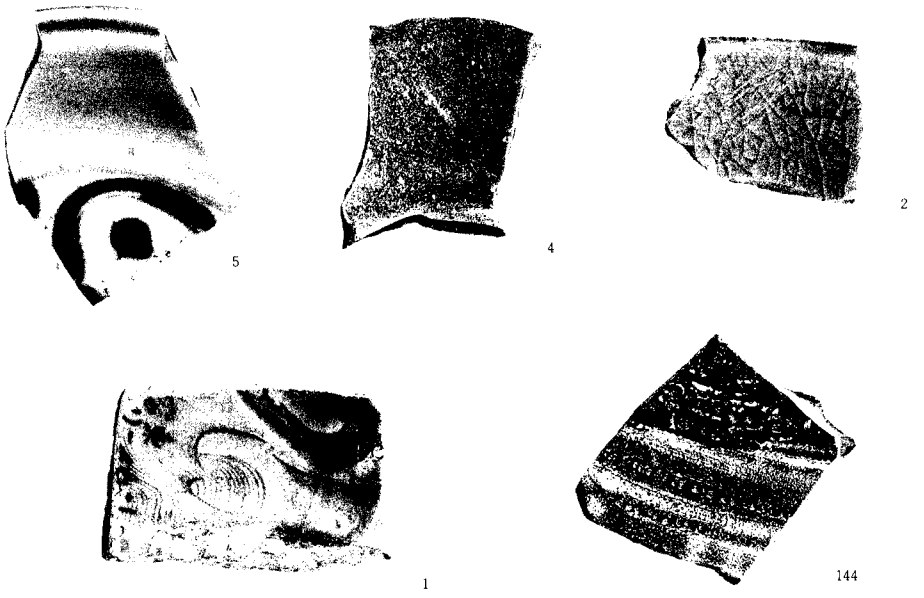
図版150



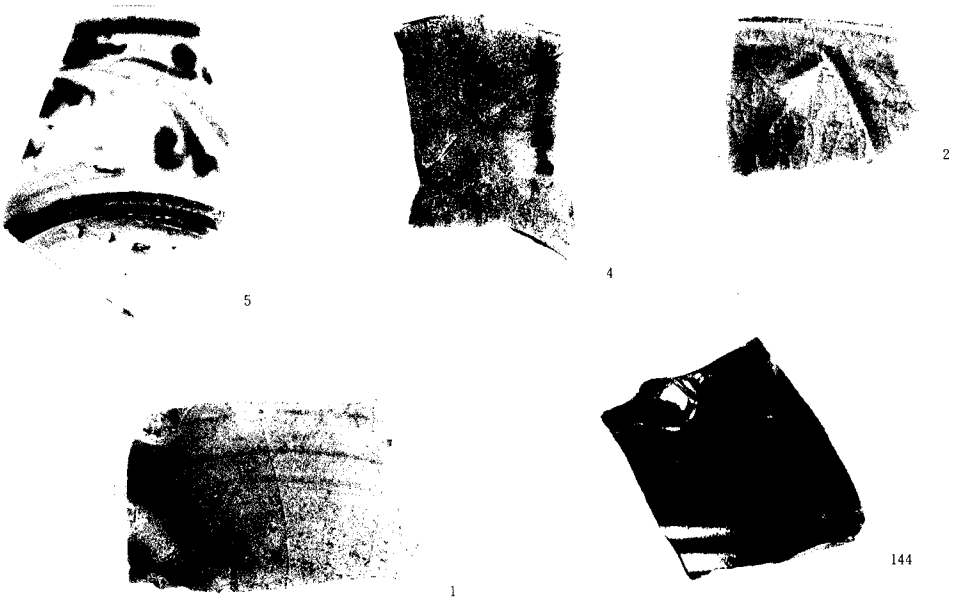
J 34・35・39号住居跡・J P土坑出土石器



J 37・53・55号住居跡出土石器

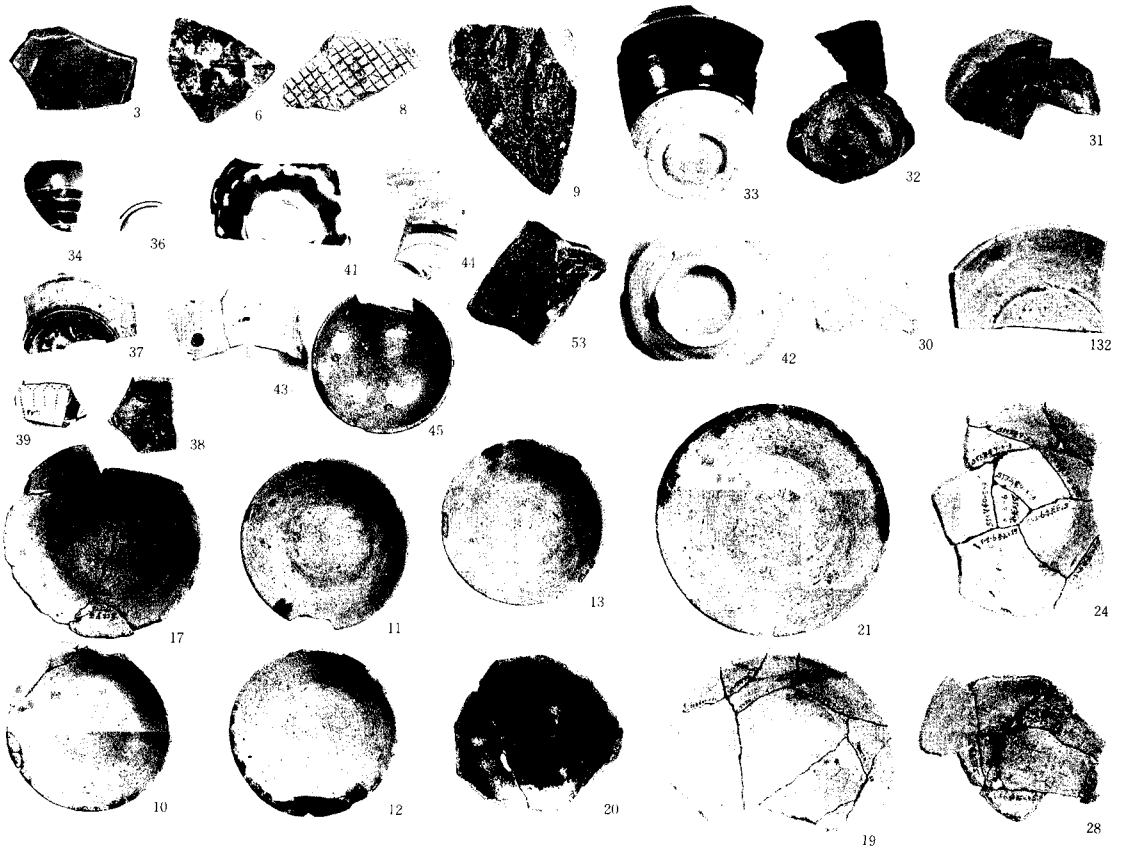


陶磁器(1)　内面



陶磁器(1)　外面

図版152



陶磁器(2)

陶磁器(3)

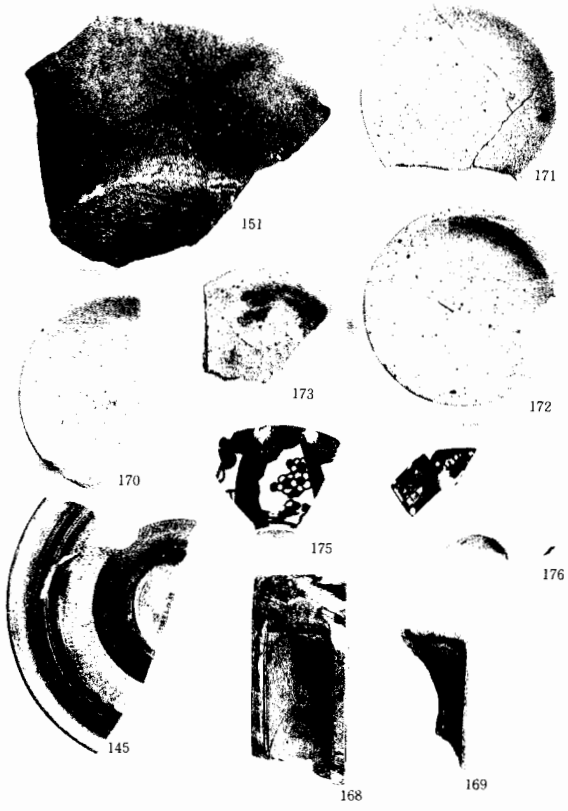
83
87
76
89
107
115
103
98
99
118
101
100
117
102
110
127
112
106
121
126
108
109
111
129
113
114
120
119
92
95
93

陶磁器(4)

150
124
133
116
105
123
131
147
130
125
143
148
149
104
139
135
156
134
142
138
140
158
157
167
163
155
165
152

陶磁器(5)

図版154



陶磁器(6)

芳賀団地遺跡群第３巻
芳賀東部団地遺跡Ⅲ（縄文・中近世編）

印刷　平成２年３月26日
発行　平成２年３月31日

発行　前橋市教育委員会
前橋市大手町二丁目12番１号

印刷　朝日印刷工業株式会社
前橋市元総社町67